

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	専門職大学の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジンアイノダイガク 学校法人藍野大学							
フリガナ大学の名称	ビワコリハビリテーションセンモンシヨクダイガク びわこリハビリテーション専門職大学 (Biwako Professional University of Rehabilitation)							
大学本部の位置	滋賀県東近江市北坂町967番地							
大学の目的	教育基本法及び学校教育法の定めるところに従うとともに教育理念に則り、リハビリテーションに関する実践的かつ応用的な能力を展開するための教育研究により、高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付けた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を育成する。 ②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地 滋賀県東近江市北坂町967
	リハビリテーション学部 (Faculty of Rehabilitation) 理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	年	人	年次 人	人	理学療法学士 (専門職) (Bachelor of Physical Therapy)	年 月 第 年次	
	作業療法学科 (Department of Occupational Therapy)	4	80	—	320		令和2年4月 第1年次	
	計	4	40	—	160	作業療法学士 (専門職) (Bachelor of Occupational Therapy)	令和2年4月 第1年次	
		120	—	480				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	藍野大学医療保健学部看護学科(定員増) (25)(令和2年4月)(平成31年3月認可申請) 理学療法学科(定員増) (20)(令和2年4月)(平成31年3月認可申請) 滋賀医療技術専門学校 平成31年度生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	リハビリテーション学部 理学療法学科	87 科目	5 科目	31 科目	123 科目	131 単位		
	リハビリテーション学部 作業療法学科	73 科目	0 科目	38 科目	111 科目	130 単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	リハビリテーション学部 理学療法学科	人	人	人	人	人	人	人	
		7 (5)	6 (4)	10 (6)	1 (1)	24 (16)	1 (1)	50 (15)	
	作業療法学科	7 (6)	2 (2)	3 (3)	4 (3)	16 (14)	4 (0)	42 (15)	
		計	14 (11)	8 (6)	13 (9)	5 (4)	40 (30)	5 (1)	— (—)
既設	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	計	—	—	—	—	—	—	—	
合計		14 (11)	8 (6)	13 (9)	5 (4)	40 (30)	5 (1)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		19 (8)		— (—)		19 (8)		
	技術職員		— (—)		— (—)		— (—)		
	図書館専門職員		1 (1)		— (—)		1 (1)		
	その他の職員		— (—)		— (—)		— (—)		
	計		20 (9)		— (—)		20 (9)		
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		その他は駐車場	
	校舎敷地	0.00 m <sup>2</sup>	13,632.29 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>		13,632.29 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>		0.00 m <sup>2</sup>			
	小計	0.00 m <sup>2</sup>	13,632.29 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>		13,632.29 m <sup>2</sup>			
	その他	0.00 m <sup>2</sup>	4,007.00 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>		4,007.00 m <sup>2</sup>			
	合計	0.00 m <sup>2</sup>	17,639.29 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>		17,639.29 m <sup>2</sup>			
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		共用する学校は滋賀医療技術専門学校（令和2年度閉校予定）で基準面積は 令和元年度860.00m <sup>2</sup> 令和2年度500.00m <sup>2</sup> 記載の校舎延床面積は実測		
	6,102.41 m <sup>2</sup> ( 3,224.59 m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> ( 2,877.82 m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> ( 0.00 m <sup>2</sup> )		6,102.41 m <sup>2</sup> ( 6,102.41 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	10 室	1 室	12 室	1 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数					
	リハビリテーション学部			30 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナルは藍野大学中央図書館において、メディカルオンライン利用契約を結んでおり、本学も利用できる	
	リハビリテーション学部	12,884 [669] (11,184 [649])	48 [ 7 ] (44 [3])	3 [ 0 ] (3 [0])	206 (206)	2,195 (2,098)	46 (28)		
	計	12,884 [669] (11,184 [649])	48 [ 7 ] (44 [3])	3 [ 0 ] (3 [0])	206 (206)	2,195 (2,098)	46 (28)		
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数			体育館は近隣の総合スポーツ施設おくの運動公園(体育館含む)を賃借する。(現地まで、本学のバスで送迎)	
	311.66 m <sup>2</sup>		82		25,000				
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	0.00 m <sup>2</sup>		該当なし						

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		253千円	253千円	253千円	253千円			
		共同研究費等		—	—	—	—			
		図書購入費		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円			
		設備購入費		1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,600千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、補助金等							
既設大学等の状況	大学の名称		藍野大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	大学院 看護学研究科 看護学専攻	2	6	—	12	修士(看護学)	1.00	平成27年度	大阪府茨木市東太田4丁目5番4号	令和2年度 藍野大学 医療保健学部 看護学科 入学定員90→115 理学療法学科 入学定員80→100 (平成31年3月認可申請)
	医療保健学部 看護学科	4	90	3年次	330	学士(看護学)	1.19	平成16年度		
		2		2	7			平成16年度		
	理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法)	1.17	平成16年度		
	作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法)	1.12	平成16年度		
	臨床工学科	4	40	—	160	学士(臨床工学)	1.05	平成22年度		
	計	4	250	—	977		1.14			
大学の名称		藍野大学短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
第一看護学科	2	100	—	200	短期大学士(看護学)	1.14	昭和60年度	大阪府茨木市太田3丁目9番25号		
第二看護学科	3	80	—	240	短期大学士(看護学)	1.14	平成19年度	大阪府富田林市青葉丘11番1号		
大学の名称		滋賀医療技術専門学校								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	滋賀医療技術専門学校 平成31年度募集停止	
	年	人	年次人	人		倍				
理学療法学科	3	80	—	240	専門士	0.71	平成8年度	滋賀県東近江市北坂町 967番地		
作業療法学科	3	40	—	120	専門士	0.74	平成8年度	滋賀県東近江市北坂町 967番地		
附属施設の概要										

教 育 課 程 等 の 概 要															
(リハビリテーション学部 理学療法学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
① 基礎科目	初年次 教育科目	学びの基盤	1			○				1					兼1
		コミュニケーション論	1			○									兼1
		音楽	1	1		○									兼1
		キャリア発達論	2			○									兼1
		教育学	1			○									兼1
		倫理学入門	1			○									兼1
		哲学入門	1		1	○					1				兼1
		心理学	1			○									兼1
		経営学入門	2		1	○									兼1
		社会学	1		1	○									兼1
		日本の伝統文化	1		1	○									兼1
		日本の近代史	1		1	○									兼1
		体育	1		1			○				1			兼1
		自然科学系科目	生物学	1			○			1					兼1
			物理学Ⅰ	1			○								兼1
			物理学Ⅱ	1	1		○								兼1
			統計学	2			○								兼1
			数学	1	1		○								兼1
		語学教育科目	英語Ⅰ	1			○								兼1
			英語Ⅱ	1	1		○								兼1
			韓国語	2	1		○								兼1
			中国語	2	1		○								兼1
	小計（22科目）	—	10	12	0	—	—	—	1	1	1	1	0	兼13	
② 職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1			○			1						
		解剖学Ⅱ	1			○			1						
		解剖学Ⅲ	1			○			1						
		生理学Ⅰ	1	2		○									兼1
		生理学Ⅱ	1	2		○									兼1
		運動学Ⅰ	1			○			1						
		運動学Ⅱ	2			○				1	2				オムニバス ※講義
		運動学実習	2					○		1	1				オムニバス ※講義
		運動生理学実習	2					○				1			
		人間発達学	1			○									兼1
		救急援助論	2			○			1						※実習
		内科学Ⅰ	2			○			1						
		内科学Ⅱ	2			○			1						
		神経内科学Ⅰ	2			○									兼1
		神経内科学Ⅱ	2			○									兼1
		整形外科Ⅰ	2			○			1						
		整形外科Ⅱ	2			○			1						
		精神医学	1			○									兼1
		小児科学	2			○									兼1
		老年医学	2			○									兼1
		薬理学概論	1			○									兼1
		予防医学	3			○			1	1	1				オムニバス
		画像診断学	2			○									兼1
		栄養学	2			○				1					
		社会福祉学	2			○									兼1
		地域包括ケア論	3			○						2			オムニバス ※演習
		リハビリテーション概論	1			○				1					※演習

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
職業実践科目群	基礎理学療法学Ⅰ	1前	1			○						1				
	基礎理学療法学Ⅱ	1前	1			○						1				
	基礎理学療法学実習Ⅰ	1後	1					○				1				※講義
	基礎理学療法研究法	3前	1			○						1				※演習
	基礎理学療法学実習Ⅱ	1後	1					○			1					※講義
	臨床技能論実習	3前	1					○				1				※講義
	理学療法管理学	4後	1				○			1						
	保健医療福祉関連制度論	4後	1				○									兼1
	理学療法評価学	1後	1				○						1			※演習
	理学療法評価学実習	2前	2						○			2				オムニバス ※講義
	理学療法評価学演習	3前	1					○		1		2				オムニバス ※講義
	画像評価学	2後	1				○			2						オムニバス
	運動療法学	2前	1				○				1					
	運動療法学実習	2後	1						○				1			
	徒手理学療法学	3前	1				○			1						※演習
	徒手理学療法学実習	3後	1						○		1					※講義
	物理療法学	2前	1				○									※演習
	日常生活活動学	2前	1				○						1			オムニバス ※演習
	義肢装具学Ⅰ	2前	1				○									
	義肢装具学Ⅱ	2後	1				○									
	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1						○							※講義
	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1						○				1			
	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	2後	1						○				1			※講義
	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1						○			2				兼1 オムニバス ※講義
	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1						○	1						兼1 オムニバス ※講義
	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1						○	1		1				兼1 オムニバス ※講義
	小児期理学療法演習	2後	1						○				1			兼1 オムニバス ※講義
	老年期理学療法演習	2後	1						○							兼1 ※講義
	スポーツ障害系理学療法実習	2後	1						○			1				兼1 ※講義
	神経筋骨格障害応用論実習	4後		2					○	1	2	1				オムニバス ※講義
	内部障害応用論実習	4後		2					○	1		1				オムニバス ※講義
	スポーツ障害応用論実習	4後		2					○		2	2				オムニバス ※講義
	地域理学療法学	2後	1				○						2			オムニバス ※演習
	地域理学療法実習	3前	1						○				3			※演習 一部共同 ※
	理学療法見学実習Ⅰ	1前	1						臨	1	4	9				共同
	理学療法見学実習Ⅱ	1後	1						臨	1	4	9				共同
	理学療法見学実習Ⅲ	2前	1						臨	1	4	9				共同
	理学療法評価実習	3前	4						臨	1	5	10				共同
	理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6						臨	1	5	10				共同
	理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6						臨	1	5	10				共同
	理学療法地域実習	4前	1						臨	1	2	10				共同
小計 (68科目)		—	83	6	0	—	—	—	7	6	10	1			兼14	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
③ 展開科目	マーケティング論	3後	1			○									兼1	※演習 オムニバス ※実習 オムニバス ※講義 兼3 オムニバス ※演習 オムニバス ※講義 オムニバス ※講義 ※演習 オムニバス ※演習 ※演習 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼2 兼1 兼2
	施設起業運営論	3後	1			○									兼1	
	ボランティア論	1後	1			○									兼1	
	生涯スポーツ論	1前	1			○						1				
	労働衛生論	1後	1			○									兼1	
	子育て支援論	2前	1			○									兼1	
	災害支援論	2前	1			○									兼1	
	教育支援論	2前	1			○									兼2	
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1		○									兼1	
	地域共生論	3前	2			○									兼3	
	障がい者スポーツ論	3後	1			○				1						
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○		1	1					
	スポーツリズムトレーニング論	3後		1		○									兼3	
	体力測定論	3後		1		○				1	2					
	健康増進実践演習	3後		1				○		1	2					
	健康増進実践実習	3後		1					○	1	2					
	パフォーマンス向上論	3後		1		○				1					※演習	
	フィットネス論	3後		2		○				2		1				
	ランニングトレーニング論	3後		2		○				1					※演習	
	ゴルフトレーニング論	3後		2		○				2					兼1	
	ビジョントレーニング論	3後		2		○									兼1	
	遊びとレクリエーション	3後		1		○				1						
	生きがい創造	3後		2		○									兼1	
	伝承遊び	3後		2		○									兼1	
	シューフィッティング論	3後		1		○									兼1	
	福祉工学地域活用論	3後		1		○									兼1	
	ロボット工学地域活用論基礎	3後		1		○									兼2	
	ロボット工学地域活用論応用	3後		2		○				1					兼2	
	身体障がい者就労環境論	3後		2		○									兼1	
	組織運営論	3後		2		○									兼2	
小計 (30科目)		—	12	28	0	—			0	6	2	0	0	兼25		
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2					○		1	1			兼2	共同	
	理学療法総合実習	4後	1					○	2	5	9				共同	
	リハビリテーション総合演習	3後	1				○		1	4	8				共同 ※講義	
	小計 (3科目)	—	4	0	0	—			3	5	9	0	0	兼2		
合計 (123科目)		—	109	46	0	—			8	6	10	1	0	兼52		

学位又は称号	理学療法学士 (専門職)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
<b>【卒業要件】</b> 次により、必修科目109単位、選択科目22単位以上を修得すること。 1. 基礎科目20単位以上 (1) 必修科目10単位 (2) 選択科目10単位以上 ・人間と社会系科目の内から6単位以上、自然科学系科目と 語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計10単位以上を 修得すること。 2. 職業専門科目87単位以上 (1) 必修科目83単位 (2) 選択科目4単位 3. 展開科目20単位以上 (1) 必修科目12単位 (2) 選択科目8単位以上 4. 総合科目4単位 (1) 必修科目4単位			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																
(リハビリテーション学部 作業療法学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
① 基礎科目	初年次 教育科目	学びの基盤	1			○					1					
		コミュニケーション論	1			○									兼1	
	人間と 社会系科目	音楽	1後		1		○									兼1
		キャリア発達論	2後	1			○									兼1
		教育学	1前	1			○									兼1
		倫理学入門	1前	1			○									兼1
		哲学入門	1前		1		○									兼1
		心理学	1後	1			○									兼1
		経営学入門	2前		1		○									兼1
		社会学	1前	1			○									兼1
		日本の伝統文化	1前		1		○									兼3
		日本の近代史	1前		1		○									兼1
	体育	1後		1				○							兼1	
	自然科学 系科目	生物学	1前	1			○									兼1
		物理学Ⅰ	1前	1			○			1						
		物理学Ⅱ	1後		1		○			1						
		統計学	2後	1			○			1						
		数学	1前		1		○			1						
	語学 教育科目	英語Ⅰ	1前	1			○					1				
		英語Ⅱ	1後		1		○					1				
		韓国語	2後		1		○									兼1
		中国語	2後		1		○									兼1
	小計（22科目）	—	11	11	0	—			1	1	1				兼14	
② 職業 専門科目	作業療法 理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			○				1					
		解剖学Ⅱ	1後	2			○				1					
		解剖学Ⅲ	1後	1			○				1					
		生理学Ⅰ	1前	2			○				1					
		生理学Ⅱ	1後	2			○				1					
		運動学Ⅰ	1前	1			○					1				
		運動学Ⅱ	1後	1			○					1				
		運動学実習	2前	1					○				1			※講義
		人間発達学	1後	1			○									兼1
		救急援助論	2後	1			○									※実習
		内科学Ⅰ	2前	1			○									兼1
		内科学Ⅱ	2後	1			○									兼1
		神経内科学Ⅰ	2前	1			○									兼1
		神経内科学Ⅱ	2後	1			○									兼1
		整形外科Ⅰ	2前	1			○									兼1
		整形外科Ⅱ	2後	1			○									兼1
		精神医学	2前	1			○									兼1
		小児科学	2前	1			○									兼1
		老年医学	2前	1			○									兼1
		薬理学概論	1後	1			○				1					
		予防医学	3前	1			○									兼3
		画像診断学	2前	1			○									オムニバス
		栄養学	2前	1			○									兼1
社会福祉学	2後	1			○									兼1		
地域包括ケア論	2後	1			○											
リハビリテーション概論	1前	1			○					1					※演習	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
職業実践科目群	作業療法学総論	1前	1			○				1						
	基礎作業学	1前	1			○						1				
	基礎作業学実習Ⅰ	1前	1					○				1				※講義
	基礎作業学実習Ⅱ	1後	1					○					1			※講義
	作業療法研究法	3前	1			○			1							
	作業療法管理・制度論	1後	1			○				1						
	作業療法と倫理	1後	1			○				1						
	作業療法評価学総論	1後	1			○						1				※演習
	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1					○				1				※講義
	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2前	1					○				1				※講義
	精神障害作業療法評価学実習	2前	1					○					1			※講義
	発達障害作業療法評価学実習	2前	1					○			1					※講義
	身体障害作業療法基礎技術論	2後	1			○						1				
	運動器疾患作業療法学実習	2後	1					○				1				※講義
	中枢神経疾患作業療法学実習	2後	1					○					1			※講義
	高次脳機能障害作業療法学実習	3前	1					○					1			※講義
	精神障害作業療法学	2後	1			○							1			
	精神障害作業療法学実習	3前	1					○					1			※講義
	発達障害作業療法学実習Ⅰ	2後	1					○		1						※講義
	発達障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1					○		1						※講義
	老年期障害作業療法学	2後	1			○							1			※講義
	老年期障害作業療法学実習	3前	1					○				1				※講義
	日常生活活動論実習	2前	1					○					1			※講義
	社会生活行為論実習	2前	1					○					1			※講義
	作業分析活用論	2後	1				○			1						
	作業分析活用論実習	2後	1					○					1			※講義
	家族援助論	3前	1				○			1						
	住環境支援論	3前	1				○									
	作業療法義肢装具実習	2後	1						○				1			※講義
	生活行為向上マネジメント論実習	3前	1						○				1			※講義
	地域生活作業療法学総論	2前	1				○			1						※演習
	地域生活作業療法学実習Ⅰ	2後	1						○					1		※講義
	地域生活作業療法学実習Ⅱ	2後	1						○					1		※講義
地域生活作業療法学実習Ⅲ	3前	1						○					1		※講義	
作業療法見学実習Ⅰ	1後	1									3	4			共同	
作業療法見学実習Ⅱ	2前	1									3	4			共同	
作業療法評価実習	3前	5							1	1	3	4			共同	
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7							1	1	3	4			共同	
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7							1	1	3	4			共同	
作業療法地域実習	4前	1							1	1	3	4			共同	
小計(66科目)	—	86	0	0	—				5	1	3	4			兼12	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
③ 展開科目	マーケティング論	2後	1			○									兼1	※演習              オムニバス ※講義
	施設起業運営論	3前	1			○									兼1	
	ボランティア論	1前	1			○									兼1	
	子育て支援論	2前	1			○				1					兼1	
	災害支援論	1後	1			○									兼1	
	教育支援論	2後	1			○									兼2	
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1			○									兼1	
	障がい者スポーツ論	3後	1			○									兼1	
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○		1					兼2	
	地域社会共生論	1前	2			○									兼1	
	地域社会共生論実習	1後	1					○							兼1	
	精神障がい者就労環境論	3後	2			○									兼1	
	身体障がい者就労環境論	3後	2			○				1					兼1	
	就労環境論実習	4前	1					○							兼1	
	老年期地域生活適応論	3後		2		○									兼1	
	老年期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1	
	成人期地域生活適応論	3後		2		○									兼1	
	成人期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1	
	児童期地域生活適応論	3後		2		○									兼1	
	児童期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1	
小計（20科目）		—	17	9	0			—		1	1				兼16	
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2					○			1	1			兼2	共同
	作業療法総合実習Ⅰ	4後	1					○			1	1	3			共同
	作業療法総合実習Ⅱ	4後	1					○			1	1	3			共同
	小計（3科目）		—	4	0	0		—			1	3	4			兼2
合計（111科目）		—	118	11	0		—		7	2	3	4			兼42	
学位又は称号	作業療法学士 (専門職)	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）													
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
【卒業要件】 次により、必修科目118単位、選択科目12単位以上を修得すること。 1. 基礎科目20単位以上 (1) 必修科目11単位 (2) 選択科目9単位以上 ・人間と社会系科目の内から5単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計9単位以上を修得すること。 2. 職業専門科目86単位 (1) 必修科目86単位 3. 展開科目20単位 (1) 必修科目17単位 (2) 選択科目3単位 4. 総合科目4単位 (1) 必修科目4単位								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部 理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	初年次教育科目 学びの基盤	専門職大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得することを目的とする。各学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことの大切さ、その方法を学ぶ中で、4年間の学習過程に見通しをつけ、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」を踏まえ、どのように予習復習していくのかを学習する。到達目標としては、①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学ぶ道筋を立てることができる。②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。③情報や文献を読解して内容を要約することができる。④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。	
基礎科目	初年次教育科目 コミュニケーション論	コミュニケーションの基本概念と構造、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、社会的相互作用等コミュニケーションについて深く理解するとともに、自己のコミュニケーション能力について洞察を深める。加えて、社会的役割と役割行動、コミュニケーション能力の自己評価を踏まえ、臨床の場における活用や意味について理解を深めていく。社会人に求められるより良いコミュニケーション、より良い人間関係を自ら作り上げることができるとを目標とする。	
基礎科目	人間と社会系科目 音楽	近年、音楽はストレスを解消し、免疫力を高める音楽の幅広い効能が心と体のセラピーとして注目を集めている。ミュージックセラピー（音楽療法）は、ストレスなどで病んだ心や体の症状を改善したり、痛みを緩和し生活の質の向上を図る目的で音楽を用いる療法である。この授業は、受講者自身が医療現場などで求められている音楽の効能に関心を持ち、音楽的な教養と豊かな感性を身につけ、リラクゼーションの手段として音楽を活用できることを目的とする。	
基礎科目	人間と社会系科目 キャリア発達論	高度化する医療技術や、日々新たな発見がなされる知見など高度化が予想される今後の医療業界の中で、生涯にわたるキャリア発達とその支援に関する理論と実践について解説する。人間形成についての理解、リーダーシップ、また専門職、研究職としてキャリア発達への理解を深め、受講生自身のキャリア発達に繋がるよう授業を展開する。キャリア発達とその支援についての理論と実践について学習し、自身のキャリア発達「働くこと」「生きること」について将来への展望を持ち、「キャリア設計」を考え、実践していく力を身に付けることを目的とする。個人ワーク・グループワークを行うことで諸理論への理解を深めるとともに、実践力を高めていく。到達目標として、①キャリア発達の諸理論を理解し、広い視点で自身のキャリアを考えられるようになる。②社会的・職業的自立に必要な能力を理解し、自身のキャリア開発課題を明確化できるようになる。	
基礎科目	人間と社会系科目 教育学	日本の教育や歴史的背景による社会における子供の位置づけを、文化や経済などと関連づけながら幅広い視点から理解することを目標とする。現代の教育が抱えている諸課題を歴史的視点にたって考察していく能力を養う。近代日本における教育の形成とその問題点を考察する。近代日本の教育を検討し、そのことを通して、現代の教育が抱えている諸問題を追究する。また、子どもたちが健やかに成長するにはどう導いていくべきなのか、過去の事例・事象なども検証する。さらに、学校だけでなく、家庭内での教育や社会人の人材教育などにも触れる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人間と社会系科目	倫理学入門	倫理学の基本的な考え方を、講義、課題演習および思考実験を通して学ぶ。人間のあり方、生き方、社会のあり方を、学生のときに学習し、思想史の知識をさらに深めながら考えていく。さらに倫理思想の様々な倫理的問題と、それに対する多様なアプローチの特徴を理解し、その現代的意義を学習する。現代文明が抱える様々な倫理的課題を理解した上で、それについて思考するために伝統的倫理思想の理解と吟味が不可欠であることを確認する。	
基礎科目	人間と社会系科目	哲学入門	哲学の本質を初級者向けに解説しながら、哲学史の流れに沿って哲学の概論を講義する。西洋哲学以外の学問分野との関連づけはわかりながら古代ギリシア以来の哲学思想を西洋哲学史の流れに沿って近代の入り口まで紹介し、自分が既に習得しているさまざまな知識とうまく関係づけながら、哲学の歴史と基本用語を習得することを目標とする。それにより、最終的に、履修者自らが自分自身の世界観、人生観を構築する手掛かりを得られるようになることを目指す。	
基礎科目	人間と社会系科目	心理学	心理学は人の心の動きやそこから生じる行動について探求しようとする領域である。その領域は多岐にわたり、発達心理学、認知心理学、知覚心理学、臨床心理学、異常心理学、社会心理学など幅広い。本講義では、心理学の中でも人の理解につながる領域の基礎を学ぶ。知能の構造、知能の発達、性格の形成、人の欲求、適応と不適応行動、行動の展開、感情、記憶等人の理解につながる基礎を学び、人間の行動を科学的に観察する視点を養う。	
基礎科目	人間と社会系科目	経営学入門	国内外における経営学の基本的な論点と専門用語、また主要な概念を学び、現実の経営における現象・問題について考える能力を身につけることを目標とする。経営学の対象は営利企業に限定されず、医療機関等の非営利組織を包含する。本講義では、営利・非営利組織に共通して求められる、組織や人材マネジメント、経営戦略、事業戦略、新規事業開発におけるマーケティングなどについて理解する。特に保健・医療・福祉に関する経営について関心をもち、今後、医療・看護の対象となる人々を理解するための一つの視点として、経営学的視点を持てるようになることを目的とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	社会学	社会学の基本概念的いくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを考える。社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して、社会的な視点を身につけることを目的とする。社会的な視点を通して私たちは当たり前前に考えてきた社会を少し疑問をもって考えることができ、その疑問を通して得た考察から新たな支援や行動が生まれてくるのである。地域で生活を支援する職種にとってはなくてはならない視点である。この授業では、差別や偏見、ひきこもりなど様々な社会での出来事を社会学視点を通して学び、議論を行う。そして、医療従事者としてより深く社会を理解し、行動できる視点を身につけることを目標とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	日本の伝統文化	<p>【授業概要】</p> <p>日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをともなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江（滋賀県）とゆかりの深い、木地屋（木地師）と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をとおして、できるだけビジュアルに進めます。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本の職人の特質について理解する。</li> <li>(2) 日本の職人のイメージと実態について理解する。</li> <li>(3) 日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。</li> </ol>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人間と社会系科目	日本の近代史	この授業では、明治維新から現代に至るまで、日本の近代史・現代史の基本的な流れを、国家と地域社会の関係から概観する。私たちが生活する現代の日本と諸外国について正しく理解するためには、現状分析とともに歴史的な考察が必要不可欠である。特に、明治維新以降の近代史と、それに続く現代史は重要である。この授業では、中央集権化が指摘されることの多い日本において、国家と地域社会がいかなる関係にあったのか、特に地域社会の実態とそこからの視点を重視して考え、歴史を参考にして現代の国家、地域社会について深く考えられる力を身につけることを目標とする。	
基礎科目	人間と社会系科目	体育	この授業では、体育活動（身体運動）を通じて学生の健康的な生活実現のために必要な最大限の身体的、精神的、かつ社会的発達を助成、涵養することを目標とする。また、医療人として、また理学療法士、作業療法士としての教育を受ける中で、人間の運動の仕組みや身体の運動耐用能などを体育活動を通して学ぶ機会とする。様々なスポーツについて実践する機会を与えることにより、将来のリハビリテーション職の基礎となる、身体を動かすとは何か、運動の限界とは何かを体感する時間を提供する。また、この授業では、体育活動を通じたチームワークの形成から、コミュニケーション能力を身につけてもらうことも目標とする。	
基礎科目	自然科学系科目	生物学	生物学は私達の生活と社会に密接に関わってくるサイエンスである。そのため、生物学の基本的な概念について学び、理解することは、私達の生活と社会をより良くしていくためには必要不可欠な事柄である。この授業では、生物の動物性機能について理解し、説明できるようになることが主要な目標である。また、生物の高次機能や医学に関連した話題も取り上げて、生物学を学ぶ社会的な意義を考えるきっかけとなることを付随的な目標とする。	
基礎科目	自然科学系科目	物理学Ⅰ	物理学の基礎的なもの見方や理解の方法を身につけることを目的とする。身体運動に関与する力は、重力、外力、筋収縮にて発生する張力、摩擦力等である。筋と関節の構造は機械系のテコ構造に類似し、関わる力は力学的分析で説明される。生体の姿勢や運動を理解するためにニュートン力学を学ぶ。また、治療に用いられる温熱療法、電気療法、水治療法等を理解するための基礎となる熱の作用、流体力学、電気と磁気等の基礎を学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	物理学Ⅱ	物理学Ⅰで学んだ、物理学の基礎的なもの見方や理解の方法をもとに、熱力学、電磁気学、波・波動などのより広い物理現象を対象として、医療の技術や医学を学ぶための物理的基礎のより広い習得を目指す。その中で、電子機器の発展に深くかかわってきた、物質の状態や、熱や光とのかかわりに関する理解を深める上で必要となる、物理・化学の基礎を学習する。さらに物理学の研究成果を工学技術等に応用された事例なども学び、より実用的な物理学を学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	統計学	いままで確率や統計を詳しく習うことのなかった学生も多いため、確率・統計の基礎から推定・検定の考え方を、実例を交えながら講義し、研究結果を解釈するために必要な統計学知識を持つことを目標とする。確率や初等統計の基礎から学び、統計データを適確に処理できること、また得られた結果を正確に理解、解釈するために必要な知識を学ぶ。また、実際に行われた研究を題材に、統計学的な具体的手法についても代表的なものを学ぶ。	
基礎科目	自然科学系科目	数学	基礎的な数学の内容の理解が目標であるが、具体的には式の計算、三角関数、指数関数、微分、微分の応用として関数のグラフの描画、積分の意味、ベクトル、統計のための確率の基礎を学習し、応用できるようになる事を目標とする。高校で学んだ数学を基礎に、微積分、ベクトル、離散数学（順列、組合せ、確率）についても講義する。これらをもとに、数学を応用し経済学や、数理統計学、人文科学といった応用数学にも触れ、自らが主体的に数学に触れ学ぶことを重視する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	語学教育科目 英語 I	大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを今の自分たちの生活と将来の生活（仕事を含め）中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら基礎的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。語学の授業は、聞いているだけでは理解できないし、上達しない。大学での英語教育の到達目標はインプットしたものをどうアウトプットするかを学ぶためグループワークやクラスへのフィードバックを通してインプットとアウトプットの大切さを知る。	
基礎科目	語学教育科目 英語 II	グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。 語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。	
基礎科目	語学教育科目 韓国語	授業では、ハンガルの読み書き、発音変化、文章構成、辞書の使い方など、韓国語学習のための基礎を学ぶ。学生が日本語や英語等すでに習得している言語と比較しながら、可能な限り韓国語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。韓国語の基本的な構造を踏まえながら、日常会話を学習する。また、韓国の歴史、社会、文化などを理解することを目標とする。韓国語の特徴を理解するとともに、言語普遍性の観点から日本語との比較し、韓国語の基本構造と韓国文化を学習することで、外国語、外国文化への理解を深める。	
基礎科目	語学教育科目 中国語	発音の基本、人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、動詞の文、助動詞、形容詞の文など、問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。授業では、中国語であいさつと簡単な日常生活ができるようになり、かつ、中国語の基礎文法を身につけ、簡単な中国語の文章が読めるようになることを目標とする。標準的な中国語の発音をしっかり身につけると同時に、中国語基礎文法を学ぶ。また、実用性の高い日常会話を発音練習と文法習得の中に取り入れ、中国語の応用能力を高める。	
職業専門科目	理学療法理論科目群 解剖学 I	解剖学 I では、人体を構成する細胞、組織、器官が階層性を持っていることを理解した上で、骨学、関節学、筋学についての基礎的な知識を習得する。そしてそれらの知識を統合し、身体の運動を説明できることが目標となる。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨学各論、関節学総論から各関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位・起始・停止・支配神経・作用について学習する。さらに応用として、日常生活の基本的動作を解剖用語で説明できることが望ましい。また人体解剖実習を通して実習の倫理的側面を理解する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群 解剖学 II	解剖学 II の授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅲ	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	生理学Ⅰ	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、血液、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎機能などの生理機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、医療に関わる者に必要とされる人体機能についての専門的基礎知識を習得し、チーム医療の一員として必要な素養を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	生理学Ⅱ	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、ニューロン機能、感覚機能（平衡感覚、聴覚、体性感覚、視覚、味覚、嗅覚）、運動機能（筋収縮、脊髄、大脳皮質運動野、伝導路、脳幹、大脳基底核、小脳）、自律神経機能、高次脳機能などの生理学的仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	運動学Ⅰ	理学療法にとっての運動学は、「人間の運動の科学」であり、身体構造を学ぶ解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについてまず理解する。授業目標は四肢・体幹の解剖学を基本として、身体各部の構造と機能に応じた運動について理解することである。内容としては、脊柱・股関節・膝関節・足関節・肩関節・肘関節・手関節と手部の構造と動き及び筋活動と動き、胸郭運動と呼吸、股関節について学習する。	
職業専門科目	理学療法理論科目群	運動学Ⅱ	授業目標は、人の身体運動の力（モーメント）といったバイオメカニクスに関する知識、正常運動発達、並びに姿勢制御について学び、身体運動の理解を深める知識と思考力を獲得することである。 （オムニバス方式／全15回） ⑱ 安田孝志／7回 バイオメカニクスの基礎知識として、ベクトル、関節モーメント、重心、仕事、立ち上がり動作とモーメント、正常歩行の基礎知識、歩行時の床反力と関節モーメントなどについて学習する。 ⑳ 里中 綾子／4回 運動発達では、新生児の特徴、その発達時の特徴を理想的な発達と、異常な発達に分けて理解していく。また、生まれながらに持っている、反射や反応、その誘発方法と特徴を学習する。 ㉑ 藤谷 亮／4回 姿勢制御概念の成り立ち、理学療法評価における姿勢制御機能の意義について学習する。バランス障害への理解を含め評価・治療に繋がる基盤を作る。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 理学療法理論科目群	運動学実習	授業目標は、運動学で学んだことを基盤として、正常な姿勢や運動を臨床的手法としての観察・分析だけでなく、動作解析装置を使用してバイオメカニクスの視点から分析能力を養い、評価から治療に至る仮説検証過程を理解することである。 (オムニバス方式/全15回) (⑱ 安田 孝志/8回) 三次元動作解析装置、床反力計などを用いて、運動時における関節運動とモーメントを計測し分析するという一連の流れをグループワークにて計測を行う。それらのデータをもとに分析、考察を行うことでバイオメカニクスにおける基礎を養っていく。 (⑳ 藤谷 亮/7回) 特殊な機器を使用しない臨床的姿勢観察と分析、姿勢の評価、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
職業専門科目 理学療法理論科目群	運動生理学実習	運動方法と筋骨格系機能の変化について講義と演習を交えて教授する。そして、どのような運動を行うかによって、呼吸、循環、代謝機能がどのように変化するかについても理解できるように講義と演習を交えて教授していく。運動の種類によって、筋機能にどのような影響を及ぼすかについて習得する。筋電図、超音波装置、等速性運動装置などを用いて、筋収縮時の生理学的反応を解析し、そのデータの解釈と運動指導に応用できる知識と技術を習得してもらうことも目的とする。また、運動負荷試験などを体験し、そのデータの分析・解釈を学び、運動指導に応用できる知識と技術を習得することも目的とする。この授業の目標は、運動における身体機能の変化や、測定方法やトレーニング効果について運動生理学的な視点から理解することである。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 理学療法理論科目群	人間発達学	ライフステージに合わせたリハビリテーションを行うために、人の成長や発達の視点は重要である。本講義は誕生から老年までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのか理解することを目的とする。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を、胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージにそって、形態・機能的側面、さらには認知的および情緒・社会的側面から学習し総合的に人間の発達に対する理解を深める。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	救急援助論	医療職にとって、救急患者への対応、特に救急の初期対応は必ず身につけておくべき知識・技術である。この講義では、救急対応が必要な患者の徴候、原因疾患、救急初期対応に関する知識・技術を習得することを目標とする。特に医療職にとって必須の知識・技術である一次救命救急処置が実践できることを目標とする。	講義13時間 実習2時間
職業専門科目 理学療法理論科目群	内科学 I	内科疾患の基本知識は医療に携わるにあたっては必要なことであり、授業目標は内科の診断法、検査、循環器・呼吸器・消火器といった主要な疾患について知識を修得することである。内容としては、診断法、身体診察、バイタルサインなどの診断学、循環器・呼吸器・消化器などの主要症候とその検査、遺伝子異常・染色体異常・老化・腫瘍などの病態、呼吸器疾患の症候と診断、循環器疾患の症候と診断、消化器疾患の症候と診断などについて学習する。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	内科学 II	授業目標は、医療現場で常に注意が必要な感染症、基礎疾患として多くの人が罹患している代謝疾患、内分泌疾患、血液造血器疾患、腎泌尿器系疾患、免疫疾患、生活習慣病など内科疾患について知識を修得することである。内容としては、感染症の病原体と感染経路、感染対策と予防策、細菌感染症やウイルス感染症など感染症、糖尿病や脂質異常症などの代謝疾患、下垂体・甲状腺疾患などの内分泌疾患、各種血液疾患、腎不全などの泌尿器系疾患、免疫不全や自己免疫疾患などの免疫疾患といった各疾患の原因、病態、診断と治療と予後について学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 理学療法理論科目群	神経内科学Ⅰ	授業目標は、神経内科疾患の中でも神経難病を中心に、その病態と治療などについて理解することである。内容としては、神経症候学の概要や主要な神経疾患であるパーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患などリハビリテーションの対象となることの多い神経難病について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。これらの病態と治療を理解することで各疾患の予後を視野に入れたリハビリテーションにおける知識の基盤を作ることを目的としている。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	神経内科学Ⅱ	授業目標は、脳神経疾患とその治療について理解することである。具体的には、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、中枢神経系の奇形、水頭症、脊髄疾患、脊髄腫瘍などのリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、診断と治療法の概要やその経過について学習する。各中枢神経系疾患の病態から内科的・外科的治療に至るまでの内容を理解することで、リハビリテーションの実施に必要な基礎知識を固めていくことを目的としている。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	整形外科Ⅰ	授業目標は、リハビリテーションの対象となる整形外科疾患の病態、診断と治療について理解することである。整形外科Ⅰの内容としては、整形外科の対象疾患と診断と治療法などの総論、各論として関節リウマチ、慢性関節炎、循環障害、骨粗鬆症などの代謝性骨疾患、骨腫瘍、整形外科的神経疾患などの病態と診断・治療について学習する。また治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	整形外科Ⅱ	授業目標は、整形外科Ⅰで修得した整形外科の基礎知識と考えたかをもとに、部位別疾患と外傷学について理解を深め、その病態理解に必要な解剖やバイオメカニクス、診断と治療について理解することである。内容としては、手と手関節、頸椎と胸椎・腰椎、股関節、膝関節、足関節など各部の機能解剖と病態、その診断と治療について学習する。また外傷や軟部組織損傷、骨折や脱臼などの病態と診断・治療について学習する。また治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	精神医学	本授業は臨床に必要な精神医学の基礎知識を理解することを目標とする。総論では、精神医学の歴史から治療と処遇の変遷、精神発達と医学心理学、精神症候学概論について解説する。各論では、気分障害や統合失調症、不安障害、認知症、ストレス関連障害などそれぞれの精神疾患の概念、疫学・病因・分類と症状・診断・経過と予後・治療について学習する。最後に精神疾患の重要な治療法である薬物療法の学習を通して、向精神薬の種類や作用機序について理解を深める。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	小児科学	授業目標は、成長や発達過程にある小児の特徴を踏まえて、主にリハビリテーションの対象となる新生児、小児疾患について理解することである。内容としては、新生児と未熟児の理解、遺伝子疾患や先天異常、内分泌疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、中枢神経疾患、てんかんなどの原因や病態。また発達遅滞を伴う疾患として脳性麻痺や知的能力障害、注意欠陥多動性障害や自閉症スペクトラム障害などの発達障害、脊髄小脳変性症などの脊髄性疾患、筋ジストロフィーなどの筋系疾患、先天性股関節症などの骨・関節疾患などの原因、病態、症状、予後について学習する。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	老年医学	授業目標は、老化の機序、高齢者に多い疾患とその特殊性、高齢者に見られる生活機能障害について理解し、疾患の治療だけでなく全人的包括医療の視点に立ってQOLの向上にむけた医療やケアの基礎知識を修得することである。内容としては、細胞老化や機能老化・寿命因子など老化のメカニズム、基礎的身体機能や認知機能など高齢者評価、摂食障害・排尿障害・歩行障害や精神障害などの老年症候群、循環器系疾患・呼吸器系疾患・内分泌系疾患・神経疾患など高齢者に見られる疾患の症状や治療と支援について学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 理学療法理論科目群	薬理学概論	薬理学は、医療の現場で益々重要性が増している薬物療法における薬剤の作用メカニズム、薬理作用及び動態について生化学や生理学などの知見に基づいて理解しようとする学問領域である。本講義では、医学・医療における基礎科学の重要な分野の一つとして、医療従事者に必須な薬理学的知識及び創薬について修得し、薬物療法に関する科学的な基盤作りを目標とする。更に、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	予防医学	現在の日本では、ライフスタイルの変化、高齢化、ストレス過剰、環境汚染などを背景として生活習慣病や心の病が増加している。予防医学は、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について理解を深めることを授業目標とする。内容としては、健康増進と予防医学の概念、健康問題と施策、高齢化社会と介護予防、生活習慣と予防、運動と予防、ストレスとメンタルヘルスなどについて学習する。 (オムニバス方式/全8回) ① 山川 正信/6回 予防医学の概念と、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について学習する。 ⑤ 分木 ひとみ/1回 生活習慣病予防について学習する。 ⑭ 鈴木 美香/1回 介護予防について学習する。	オムニバス方式
職業専門科目 理学療法理論科目群	画像診断学	授業目標は、基本的な医学的情報（特に画像）の知識の獲得とする。授業は、カルテ情報の読み方、血液・生化学データの基礎知識、レントゲンの基礎知識、MRI、CTの画像の読み方の基礎を経験し学習する。さらに、各種画像検査の原理、検査方法について理解を深める。また、代表的な疾患の特徴や病態、重症度と関連付け、正常画像解剖学とあわせて学ぶ。実践の場でどのような情報交換をしていくかを、さらに具体例を通して講義する。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	栄養学	栄養は、健康の保持・増進に密接に関わり、その過不足やバランスの偏りは疾病を引き起こす要因となる。高齢者や疾病者および障害者においても、治療やリハビリテーションの効果を最大限に発揮するためには個々人の状態に合わせた栄養療法が不可欠である。栄養学では、医療従事者として医療現場での栄養療法を理解するために必要な栄養学の基礎知識を修得することを授業目標とする。内容としては、栄養状態の評価と判定、糖質・脂質・タンパク質の三大栄養素と代謝、栄養素の消化と吸収、栄養素の体内代謝、栄養ケア・マネジメント、ライフサイクルと栄養、健康づくりと食品・食事・食生活などについて学習する。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	社会福祉学	社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に付けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。	
職業専門科目 理学療法理論科目群	地域包括ケア論	現在、日本は人口の減少と少子高齢化が進むなかで、“住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築”が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め、実践のあり方について理解することを授業目標とする。 (オムニバス方式/全15回) ⑬ 弘部重信/3回 地域包括ケアシステムの概要について学び、地域包括ケアシステムを支える専門職の役割について知ることを目標とする。 ⑭ 鈴木美香/12回 地域包括ケアシステムを取り巻く政策と動向、現状とその課題を知り、事例検討を通して地域包括ケアシステム構築に向けた社会の在り方について学ぶ。	オムニバス方式 講義18時間 演習12時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	理学療法理論科目群	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論では、障害を様々な観点から理解し、リハビリテーションの目標である「最高の人生の質 (Quality of life) の獲得」のために、リハビリテーションの概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種 of 役割の理解とどのようなアプローチが必要かを考え、その手段の概要を理解することを目標とする。リハビリテーションの理念と定義、歴史と思想の背景について学習する。また、リハビリテーションにおけるチーム医療と各専門職種の役割を知り、リハビリテーションの手段・進め方自立支援、就労支援から車いす介助、リフト体験等の実践を行い、さまざまな疾患について学習する。	講義18時間 演習12時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	基礎理学療法学 I	理学療法とは何か、理学療法士とは何かを学ぶために、理学療法士を取り巻く法律や制度について学習するとともに、その需要と供給の在り方や将来像についても学ぶ。また、理学療法士の役割とその職域についても学び、自身の将来の理学療法士像を明確にしていく一助とする。さらに、国際障害分類から国際生活機能分類(ICF)への移行の歴史を学び、実際にグループワークで議論した想定患者のICFによる項目と、その根拠となる考え方を発表することにより、具体的なICFの使い方に精通する授業科目とする。その他、科学的根拠に基づく医療や世界の理学療法士と日本の理学療法士の違いについても講義する。実際に医療機関で働くにあたり必要となる、人の管理、感染管理、経済的な管理についても触れることにより、組織社会の概要をつかむ。	講義12時間 演習3時間
職業専門科目 職業実践科目群	基礎理学療法学 II	理学療法の全体像を把握し、理学療法の仕事について理解する。医療専門職種として求められる基本的素養を身につけ、理学療法士を目指して学習していく上で、必須となる基本姿勢・学習態度・目的意識を明確にすることを目的とする。講義の概要としては、①理学療法の対象と障がい構造、理学療法の分類(運動療法、物理療法)について理解する。②各機能障害に対する理学療法について理解する。③理学療法における学問体系と研究について理解する。④理学療法における卒後教育について理解する。	
職業専門科目 職業実践科目群	基礎理学療法学実習 I	物理学を基礎とした身体運動、つまりボディメカニクスについて理解することにより、介助者、被介助者の双方に安全で快適な動作介助の基本的知識について学習する。 本講の目的としては、ボディメカニクスを用いた各基本動作(ベッド上の移動や寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗動作、歩行介助など)の動作介助法を習得することとする。 授業形式は、実技を中心とする。実技においては介助者、被介助者役を交互に経験することにより、介助方法の違いにより実際に非介助者がどのように感じるのかについて学ぶことにより、よりよい介助のあり方を理解する。	実習24時間 講義6時間
職業専門科目 職業実践科目群	基礎理学療法研究法	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。	講義12時間 演習3時間
職業専門科目 職業実践科目群	基礎理学療法学実習 II	授業目標は、触診技術論で学習した内容をもとに、骨・関節・筋の触診技術習得と触診を通して、認識できた組織に対して、それが皮膚下において形、大きさ、硬さ、位置、走行、運動性について理解する。また、解剖学的位置でのみなく、さまざまな関節の肢位や姿勢の変化による組織変化についても理解する。内容としては、演習を通して上肢帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節・手部・下肢帯・股関節・膝関節・下腿・足関節・足部・脊柱・骨盤の各身体部位の触診法と四肢・体幹の機能解剖について学習する。	実習24時間 講義6時間
職業専門科目 職業実践科目群	臨床技能論実習	リハビリテーション医学・医療は「学習の医学・医療」であり、臨床において患者に適切な治療ができ、有効な経験が積み、その中で生涯伸び続けることが重要である。そのため、実践能力の高い理学療法士となるため、社会人としてのマナーや技術力、判断力など臨床現場で必要とされる理学療法のスタンダードを学び、目的、適応、方法など一連の過程が実践できる臨床能力養う。 授業では、患者役・学生役・評価者の3名1組となり、患者役・学生役は、模擬患者を設定した様々な課題に取り組み、評価者は、手技の関する評価用紙を用いて客観的に評価し、フィードバックを行う。これにより、自分自身の問題のみならず他の学生が陥りやすい問題を共有し、修正するための練習を行うことで理学療法士としての実践的なスキルアップを図る。 理学療法士に必要な標準予防策、リスク管理、コミュニケーション技法・面接を学び、整形外科や脳血管障害の代表疾患を想定した模擬患者に対して、理学療法評価、理学療法治療技術及び介助技術を行い、グループでフィードバックを行い、改善に向け練習し、スキルアップを図る。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	理学療法管理学	理学療法士として医療機関、その他の施設に勤務する上での管理の概念とその方法についての思考力を身につけることを目標とする。例えば人の管理においては、自分自身の管理を含めた人的管理や、ストレス評価やその対応、さらに各個人の性格などから人的管理の概念や手法を学ぶ。また、組織としての管理では、医療機関という特殊性における感染対策の具体的な例と、病院内での感染対策の方法論についても学ぶ。特に、インシデントの考え方とその価値について事例検討を学習する中で具体的なイメージを獲得してもらおう。そのほか、経済面や法律面についても本授業において触れる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	保健医療福祉関連制度論	日本における医療と福祉の制度について学ぶ。日本の特殊性、すなわち国民皆保険制度について世界の保険制度との比較から、そのメリットとデメリットを考えることにより、これからの日本の医療制度の在り方について考察する。また、世界が注目する日本の少子高齢化と、その対処法としての介護保険制度についても学ぶ。介護保険の歴史から、その未来を人口比率の変動と日本の経済の未来に照らし合わせて概観する。本授業の目標として福祉制度について現在の制度とその問題点を、議論することから認識し、今後日本の医療福祉を担う人材としての考え方を獲得することである。	
職業専門科目 職業実践科目群	理学療法評価学	理学療法士の役割は、対象者が社会復帰し継続できるように、情報収集や評価を行い、身体機能・能力を分析し、効果的な介入をすることである。この授業では、理学療法における評価の意義を理解し、各評価手技を身につけ、結果を適切に記録し、分析できることを目標とする。情報収集、医療面接の方法と活用の仕方まで、理学療法士が行う各検査の意義を知り、適切に検査測定する方法を教授する。授業形式は、講義で検査の意義を学び、その後、学生同士で検査手技を練習する形で行う。検査者・患者役を交互に経験することで、患者の状態に配慮した検査が実践できるように授業をすすめる。	講義20時間 演習10時間
職業専門科目 職業実践科目群	理学療法評価学実習	理学療法評価における検査・測定の目的を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。 (オムニバス方式/全30回) (⑩ 宇於崎 孝/26回) 関節可動域検査といった基本的理学療法評価を学びます。基本となる肢位、姿勢、また注意点を必ず押さえるとともに、教科書を見ることなく実施できるようになることを目標に進めていきます。また、道具を必要としない筋力評価、徒手筋力評価について学習する。肢位、段階付け、代償など注意点を抑えながら実技を習得していく。また痛みや高次脳機能検査などについても学ぶ。 (⑪ 大西 均/4回) 解剖学、運動学を整理しているからこそ理解して、実施できるテストが整形外科的テスト、筋緊張検査になる。各検査の目的・意義が理解できることが目標となる。	オムニバス方式 実習40時間 講義20時間
職業専門科目 職業実践科目群	理学療法評価学演習	臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。この授業では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技を行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (⑫ 山内 正雄/5回) 整形外科領域に対する評価について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法を学習する。 (⑬ 弘部 重信/5回) 内部障害領域に対する評価について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法を学習する。 (⑭ 藤谷 亮/5回) 中枢神経領域に対する評価について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法を学習する。	オムニバス方式 演習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	画像評価学	理学療法に必要な運動器および内臓の画像評価について学習する。画像評価を学ぶことにより、患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定の計画を立てる際の補助とすることができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全8回) (⑮ 金沢伸彦/6回) 理学療法士に必要な画像読影に関して、運動器の正常レントゲン・MRI・超音波画像評価、および代表的な外傷の超音波画像評価について学習する。 (⑯ 篠田恵一/2回) 胸・腹部の疾患に関する各画像の読影・評価に関して学習理解し、画像所見をリハビリテーションの方針決定に利用できることを目標とする。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	運動療法学	本授業では、解剖学、生理学、運動学を基盤にして、運動を行うことが身体にどのような影響を及ぼすのかを十分に理解した上で、エビデンスに基づいた運動療法について学習してもらう。姿勢・運動制御、筋力、協調性、関節可動域、持久力を改善させるための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法についても教授し、これらの運動療法を実施したことによる身体の反応やその効果について理解してもらうことを授業目標とする。また、これらの運動療法の適応とリスクについても理解してもらい、臨床において安全かつ効果的な運動療法が処方、実施できる知識を身につけることもこの授業の目標とする。	
職業専門科目 職業実践科目群	運動療法学実習	本授業では、運動療法学で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に実習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。	
職業専門科目 職業実践科目群	徒手理学療法学	多くの徒手理学療法概念の中から、北欧発祥のコンセプトであるカルテンボルンイベントが提唱している概念について理解することを目的とする。本講義では、関節運動学に基づく評価および治療の基本原則から、各種整形外科的検査の手法やその有効性について学修する。また、治療的徒手ストレッチングや関節および軟部組織モビライゼーションの治療効果のエビデンスを示し、徒手理学療法の評価から治療流れについて論理的過程を概説する。さらに、クリニカルリーディングの方法と、症例における実例を紹介し理学療法士としての基本的な思考過程について示す。	講義20時間 演習10時間
職業専門科目 職業実践科目群	徒手理学療法学実習	本講義では、四肢関節の運動機能障害に対して、関節運動学に基づく具体的な評価方法、および徒手理学療法の基礎について理解し実施することを目的とする。実技では、上下肢の各関節に対しての基礎的な評価方法および関節モビライゼーションを実施する。また、代表的な筋に対してのストレッチングおよび軟部組織モビライゼーションについても実施する。さらに四肢関節の代表的な疾患について、脊椎機能障害との関連も考慮した徒手理学療法やスポーツにおける運動機能障害に対する評価および治療方法が理解できるよう学修する。	実習24時間 講義6時間
職業専門科目 職業実践科目群	物理療法学	本授業では、生理学を基盤にして、電気刺激、寒冷刺激、温熱刺激などの物理的エネルギーを身体に加えることにより、身体にどのような影響を及ぼすのかを十分に理解した上で、エビデンスに基づいた物理療法について学習してもらう。電気療法、寒冷療法、温熱療法、光線療法、水治療法、そして、電気診断について教授し、これらの物理療法を実施したことによる身体の反応やその効果について理解してもらうことを授業目標とする。また、これらの物理療法の適応とリスクについても理解してもらい、臨床において安全かつ効果的な物理療法が処方、実施できる知識を身につけることもこの授業の目標とする。さらに、物理療法は運動療法と併用することにより効果的な理学療法を展開できるようになる。例えば、選択的冷却法（寒冷刺激）などの物理的エネルギーにより、筋活動や筋力がどのように変化するかなどを学んだ上で、物理的エネルギーを利用することで効果的な選択的筋収縮トレーニングが実現可能となるため、物理療法を運動療法に応用することの重要性について理解してもらうこともこの授業の目標とする。	講義10時間 演習5時間
職業専門科目 職業実践科目群	日常生活活動学	ADL(Activities of Daily Living)の概念・範囲を理解し、リハビリテーション医療における位置づけを理解する。その上で、ADLとQOLの関係を理解し、対象者の「生活」や「人生」によりよい支援が行えるようリハビリテーション専門職としての基盤を形成する。本講義の目標は、代表的なADL評価およびQOL評価を学び、適切に実施できること、身のまわり動作の特性を理解でき生活を支援する様々な福祉用具について理解すること、障害に合わせた福祉用具の選定ができ、適切な使用方法を指導できること、・疾患別に障害の特性を考慮したADL指導ができることとする。 (オムニバス方式/全15回) (⑥ 植田 昌治/7回) ADLの概念を理解し、ADLの対象と範囲を理解できる。その上で、ADLとQOLの理解を深める。ICFの構造の中でADLの位置づけを理解し、理学療法士の過程におけるADLを理解できる。続いて、代表的なQOLおよびADL評価の概要を学び、Barthel IndexとFIMは特に詳細に解説し、適切に実施できるレベルになることを目指す。福祉用具の種類とその役割と入手の際に利用できる社会保障制度について理解する。 (⑩ 川崎 浩子/8回) 身のまわり動作の特性を理解でき、ADLを支援する様々な福祉用具について理解すること、障害に合わせた福祉用具の選定ができ、適切な使用方法を指導できること、・疾患別に障害の特性を考慮したADL指導ができることを目標とする。	オムニバス方式 講義24時間 演習6時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	義肢装具学Ⅰ	理学療法士の業務の中で、装具や義足は様々な障害の治療手段の1つとして重要である。四肢・体幹の各部位に使用する装具や義肢の種類、様々な装具や義肢の種類や名称を学習する。理学療法士がかかわる頻度の高い各装具の扱い方や調整技術も学ぶ。疾患別の装具を紹介し、腰痛に対する体幹装具の考え方や効果と副作用、脊髄損傷に対する代表的な装具とその適応範囲、末梢神経障害に対する装具、体幹装具について学ぶ。 腰痛に対するコルセットが及ぼす効果やその副作用について、最新の筋電図学的研究を基に概説する。さらに、他の疾患に対する装具・義肢の使用法、その名称について概説する。本科目の到達目標は義肢や装具の種類と名称が述べられ、そのメカニズムの説明ができることを目標とする。	
職業専門科目 職業実践科目群	義肢装具学Ⅱ	理学療法士の業務の中で、装具や義足は様々な障害の治療手段の1つとして重要である。また、日進月歩で開発・発展し続けており、新しい情報も学生に提供する。 実物を用いて、その種類・名称と構造・機能を確認する。義肢・装具の適応とチェックアウトを学ぶ。また、義肢装具を用いたリハビリテーションの評価・治療プログラム、生活指導の実際についても講義する。 スポーツ障害に対する装具では、足関節装具を最新の研究とともに紹介し、その応用方法についても解説する。また、下肢装具については、足関節をどのような手法でコントロールするのか。そして足関節のコントロールが、膝関節や股関節にどのように影響するのかを考えながら、深い考察を求める。膨大な数の装具の種類も網羅するが、運動学の知識とリンクした装具の基礎的な考え方を獲得してもらう。本科目の到達目標は義肢や装具が手元に到着した際のチェックアウトができること。最新の義肢装具の特徴について述べるができること。各種疾患（特に脳卒中とスポーツ障害）に対する装具療法について述べられることである。	
職業専門科目 職業実践科目群	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	地域での生活を継続するための支援を目的としたアプローチは障害を治すのではなく動作能力を改善したり持続するための活動の学習であると捉え、学習の具体的支援の方法を学ぶことが狙いである。目標は1、学習の障害因子を知ることができる。2、情動・報酬系の機能を理解することができる。3、過剰な自己保存の反応について知ることができる。4、不安を軽減し能動的な発動を促すためのアプローチができるようになることである。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	中枢神経系疾患の中でもパーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などを中心に、各疾患の治療、評価、運動療法について理解し、実践できるようになることを目的とする。内容に関しては、理学療法における神経障害の評価・治療について学習する。各疾患特有の理学療法評価、および運動療法についてその理論的背景を学習するだけでなく、実習を通して実践できるよう学習を進める。神経難病においては、ターミナルケアを含めた理解が重要となるため、福祉用具、環境調整、チームアプローチや行政サービスなどの社会資源の利用についても理解する。 到達目標としては、基礎的な知識を習得した上で、必要な理学療法評価、治療に展開できる知識、技術を実践・説明できることを目標とする。	
職業専門科目 職業実践科目群	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。	実習20時間 講義10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群 運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷などの理学療法について講義を交え多くの実技をする。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (18 安田 孝志/5回) 末梢神経損傷、脊髄損傷などの術後の理学療法について講義を交え、基本的な評価法や理学療法を実践する。 (44 前川 昭次/5回) 前十字靭帯損傷・腱板断裂・THA・TKAに関する各術後の理学療法を学び、実際の手技を実践する。 (19 大西 均/5回) 末梢神経障害では上肢と下肢の末梢神経絞扼部位の詳細を学び、実際にそれを開放する手技について実践する。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群 内部障害系理学療法学実習Ⅰ	内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (3 千住 秀明/11回) 内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療の考え方について学習する。また、呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。 (45 平岩 康之/4回) 内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群 内部障害系理学療法学実習Ⅱ	内部障害系疾患と生活習慣病の関係性について学習し、慢性的な内部障害を持ちながら高いQOLを維持した生活のための理学療法治療及び介入について学習する。また、糖尿病の合併症についても理解し、その予防ならびに理学療法にも理解を深める。さらに内部障害の症例を提示し、治療から生活に対する理学療法士の介入について、QOLも視野に入れたプログラム作成と他職種との連携についても学習する。その方法は、アクティブラーニングの視点からグループワークを行い実践的な学びを進める。 (オムニバス方式/全15回) (3 千住 秀明/5回) 内部障害系疾患と生活習慣病の関係性について学習し、慢性的な内部障害を持ちながら高いQOLを維持した生活のための理学療法治療及び介入について学習し、症例を通して理学療法プログラムの作成を実践する。 (13 弘部 重信/10回) 内部障害の症例を提示し理学療法介入について、発表やディスカッションを通して学習し、糖尿病患者の理学療法評価及び治療技術についても学習する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群 小児期理学療法学演習	小児期から成人までの発達について、基礎知識の理解を踏まえたうえで、発達を基盤にした理学療法の考え方を学び、理学療法評価と治療技術を習得することを目標とする。脳性麻痺を中心に正常発達のサポートと異常発達の抑制について、治療手技を学ぶ。さらに、幼児期、学童期、成人期と発達段階に応じた社会における理学療法士の関わりかたについて学習する。環境調整やADL指導について、症例を提示しグループワークを通して理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (46 白星 伸一/14回) 小児期から成人までの発達について、発達を基盤にした理学療法の考え方を学び、理学療法評価と治療について学習する。脳性麻痺を中心に正常発達のサポートと異常発達の抑制について、治療手技を学生同士で実習し学習する。 (8 里中 綾子/1回) 環境調整やADL指導を含めた理学療法について、小児に特有な症例を提示しグループワークを通して理解を深める。	オムニバス方式 演習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群 老年期理学療法学演習	老年期の身体機能の変化や社会生活の特性について理解し、老年期症候群や廃用症候群など高齢者に発症しやすい症状や疾患に対する理学療法評価と治療についての技術を習得することを目標とする。また加齢に伴う心身機能の低下予防、機能維持に対する理学療法士の介入についても学習する。症例を提示し、施設利用者や在宅高齢者の介護ならびに介護予防も含めたアプローチについて、グループワークを通して議論しプログラム作成にいたるようアクティブラーニングを促す。	演習20時間 講義10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	スポーツ障害系理学療法学実習	本授業では、スポーツ場面で発生しやすい鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鵞足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	神経筋骨格障害応用論実習	神経筋骨格障害のうち理学療法対象に対して、病院および診療所での最新の徒手理学療法について、それぞれの臨床の場において学習する。複数の施設において、経験豊富な実践力が高い理学療法士による実践的な実習を行う。具体的には、クリニカルクラークシップによる臨床実習を用い、患者の評価から治療までの一連の流れを経験し、さらに治療前後での変化について病態を踏まえた考察ができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全45回) (⑭ 池谷 雅江/10回) 実習前のクリニカルリーズニングと臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。 (⑯ 山内 正雄/10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に下肢を担当。 (⑰ 宇於崎 孝/10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に脊柱を担当。 (⑱ 大西 均/10回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に下肢と腰部を担当。 (④ /5回) 臨床における評価と治療の一連の流れを指導する。主に神経疾患を担当。	オムニバス方式 実習80時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	内部障害応用論実習	近年増加している、内部障害系の理学療法対象に対して、チームによる支援と最新の理学療法について、それぞれの臨床の場を中心に学習する。施設実習と、実習前後にアクティブラーニングによる学習を入れることで、理学療法士の内部障害の実践的なリスク管理、および環境やQOLに考慮した理学療法について理解を深めることを目標とする。実習は、呼吸循環器疾患、ICU、CCU、高齢者を含む終末期医療の施設および地域のいずれかで、クリニカルクラークシップにて行い、グループワークにて互いの情報を共有し理解の幅を広げる。 (オムニバス方式/45回) (⑳ 千住 秀明/5回) 内部障害系の理学療法対象に対して、チームによる支援と最新の理学療法について、実践的なリスク管理や環境やQOLに考慮した理学療法を学習する。 (㉑ 弘部 重信/40回) 学内での内部障害を有する患者を対象に、グループワークとロールプレイにより臨床に近い理学療法を体感した上で、施設実習での経験を加えて実習後のセミナーで発表やディスカッションを通して広くかつ深く内部障害の理学療法について学習する。	オムニバス方式 実習80時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	スポーツ障害応用論実習	本科目は最終学年時に行われる実習であり、学生が1～3年次に学習した態度・知識・技術を総動員して、将来スポーツ領域に関わる理学療法士としての資質を養う科目である。この科目で学んだ態度・知識・技術を融合して、アスリートのサポートだけではなく、子供から高齢者など全ての人を対象に、スポーツを活かして全ての人たちの健康増進に関わる理学療法士としての資質を養うことを目標とする。 (オムニバス方式/全45回) (㉒ 治郎丸 卓三/12回) 陸上競技を中心に、高校、大学、スポーツ団体でのスポーツ現場での実習を行う。 (㉓ 宇於崎 孝/11回) 水球、ハンドボール、ゴルフを中心に、国民体育大会の競技サポート場面での実習、また、滋賀県競技力向上対策本部の事業である選手サポート事業において実習を行う。 (㉔ 野口 真一/11回) サッカー、バスケットボールを中心に、高校やスポーツ団体でのスポーツ現場、また、滋賀県競技力向上対策本部の事業である選手サポート事業において実習を行う。 (㉕ 和智 道生/11回) 水泳やライフキネティックトレーニング、リズムトレーニングを中心に、企業やスポーツ団体において子供から高齢者までの各世代を対象にしたスポーツ現場での実習を行う。	オムニバス方式 実習80時間 講義10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群 地域理学療法学	生活環境とADLとQOLは密接な関係にあり、障がい者が社会復帰を目指すためには、環境が生活に及ぼす影響を理解する必要がある。本講では、環境について、地域環境と住環境の2つの視点から学ぶ。地域環境では、社会制度、地域環境と公共交通を通して人にやさしい街づくりについて理解する。その上で、生活環境の実態調査を行い、現状を理解する。生活環境（住環境）整備では、個人の生活環境の整備の在り方について取り上げ、社会モデルで障害を捉え、問題解決できる能力を養うことを目的とする。 （オムニバス方式／全8回） ⑥ 植田 昌治／4回 地域環境では、街づくりの在り方、社会資源について学び、その上で、障がい者や高齢者が外出する際に生じている課題を正しく理解し、在宅復帰支援を行うために支援の在り方を学ぶ。 ⑫ 川崎 浩子／4回 生活（住環境）整備では、自宅の評価のポイント、間取り図の書き方、住宅改修、福祉機器の導入を通して、身体機能面だけでなく、環境面も含めた評価を行い、障害や疾病を有する人が、健やかで円滑な生活ができるように、生活環境から生じる要因を多角的に捉え、当事者が最善の選択ができるように考え方の基礎を学ぶ。	オムニバス方式 講義13時間 演習2時間
職業専門科目	職業実践科目群 地域理学療法学実習	地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる座位・臥位姿勢を取り上げ、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かし、多職種と協働した取り組みができるようになることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） ⑭ 鈴木 美香／3回 サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。 ⑬ 弘部 重信、⑮ 鈴木 美香 共同／5回 バリアフリー展見学実習および実習報告会 ⑬ 弘部 重信／2回 福祉用具の選定と使い方について、実技を通して教授する。 ⑥ 植田 昌治／5回 座位・臥位姿勢の評価と適合技術について教授する。	オムニバス方式 一部共同 実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群 理学療法見学実習Ⅰ	滋賀県を中心とした介護老人保健施設において、理学療法業務の見学および管理指導の下、対象者の方とコミュニケーションをとる。また、理学療法業務における周辺領域の補助、対象者の生活支援の一部の補助を行う。対象者や職員の方とコミュニケーションをとり、専門職としての適切な行動や言動を理解する。理学療法士の仕事を知り、施設の役割、施設における理学療法士の役割を理解する。理学療法士は地域で活躍の場が広がっているということを1年次に認識し、今後の学習意欲のさらなる向上を目標とする。	共同 実習40時間 講義5時間
職業専門科目	職業実践科目群 理学療法見学実習Ⅱ	滋賀県を中心とした医療機関において、理学療法業務の見学および管理指導の下、対象者と医療面接を行う。また、理学療法業務における周辺領域の補助を行う。理学療法士が行う評価と治療を見学し、評価方法の進め方と評価技術の重要性について理解する。医療機関における理学療法士の具体的な仕事内容を理解し、自己の目標を明確にし、医療従事者としてのコミュニケーションや基本的態度について認識することを目標とする。	共同 実習40時間 講義5時間
職業専門科目	職業実践科目群 理学療法見学実習Ⅲ	1年次の見学実習Ⅰでの自らの学び、指導者からの指導、学内での振り返りや再学習を踏まえ、再度見学実習Ⅰと同様の施設で実習を行う。滋賀県を中心とした介護老人保健施設において、理学療法士の業務の見学および管理指導の下、対象者の方とコミュニケーションをとる。また、理学療法業務における周辺領域を一部拡大し、補助の範囲を増やして行う。また、対象者の方の食事や入浴といった日常生活には欠かせない行為の生活支援の一部の補助を行う。適切な介助、援助をするために、必要な知識が何であるのかを自ら気づくことができる。また、1年次の学びを基盤に、理学療法士として役割を理解し、適切なコミュニケーションや行動がとれることを目標とする。	共同 実習40時間 講義5時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	理学療法評価実習	対象者の評価場面すべてにおいて指導者が見本を示したうえで、理学療法士が行う検査・測定を指導者の監視の下に一部実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。診療参加型実習を行い、理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとることができる。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、患者の状態に関する評価を理学療法士の管理指導の下、リスク管理技術の水準Ⅰ（スタンダードプリコーション、バイタルサインの測定等）、理学療法評価技術の水準Ⅰ（情報収集、検査・測定、姿勢評価、日常生活活動等）の内容を実践することを目標とする。	共同 実習160時間 講義20時間
職業専門科目 職業実践科目群	理学療法総合臨床実習Ⅰ	評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、学生自身がその一部を理学療法士が行う検査・測定や治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案までの一連の思考過程を理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰ（関節可動域運動、筋力増強運動、バランス練習、基本動作練習、歩行練習、移動動作練習等）の一部を実践することを目標とする。	共同 実習240時間 講義30時間
職業専門科目 職業実践科目群	理学療法総合臨床実習Ⅱ	評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、学生自身がおおよそすべての理学療法士が行う検査・測定・治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定までの一連の理学療法プロセスを理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践することを目標とする。	共同 実習240時間 講義30時間
職業専門科目 職業実践科目群	理学療法地域実習	滋賀県を中心とした訪問リハビリテーション、および通所リハビリテーション施設において、理学療法士の介護保険分野における業務を見学し一部補助を行う。地域で生活を送る障がい者の現状を知り、介護保険分野における理学療法士の仕事についてだけでなく多職種との連携方法や多職種の業務についても理解を深めることを目標とする。	共同 実習40時間 講義5時間
展開科目	マーケティング論	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶだけでなく、商品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目指す。伝統的なマーケティングの概念に加え、ソーシャルネットワークを用いたマーケティング、コンテンツマーケティングなどのトピックについても取り上げる。この授業の目的として、マーケティングの理論と実務について理解する。ケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ、生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養うこととする。	
展開科目	施設起業運営論	安定的な施設、企業の成長は、社員の仕事の幅を広げたり、働きがいを高めたりすることはもちろん、取引先との良好な関係を通じた新しい価値の提供、さらに地域社会への貢献と幅広い成果をもたらす。しかし、世間一般に、施設、企業運営は簡単ではないとされる。なぜなら、人間関係を構築していくことが難しいからである。人間関係は、些細なことですぐに壊れてしまう。それでは、安定的な施設、企業の成長のためには日々、どんな事を考えて、実践し、良好な人間関係を構築していけばよいのだろうか。この授業では、施設や企業運営における基本原則について学び、良好な人間関係を構築し、安定的な施設、企業へと成長させるのに重要な条件を学ぶことを目標とする。本授業は、講義形式で進めるが、できるだけアクティブ・ラーニングになるように進める。	
展開科目	ボランティア論	Volunteerとは「自発的な人」を意味し、自発的な意思に基づいて社会活動を行う者を指す。ボランティア活動は、社会的連帯感に基づく公共活動、市民活動であり、医療の中で行う支援とは異なる側面がある。外来講師には具体的なボランティア活動の実例とそこでの連携の諸問題（ボランティアと医療職）を取り上げてもらう。その実例を基に今後、医療人となる学生にはボランティアとの協業の課題、自分はどうに関わることが出来るのか、その対策について考察することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	生涯スポーツ論	現代においてスポーツは、健康増進・余暇時間の活用・高齢者等の生きがいづくりといった、多様なニーズを持ってきている。現在、急激な自動化、高度情報化、高速化が進み、子どもから高齢者まで身体の不活動による生活習慣病や体力低下など、身体に様々な悪影響が生じてきている。スポーツを楽しみ、これらの生活習慣病を克服し、健康でいきいきとした生活を送るために生涯健康と生涯スポーツの獲得の重要性について概説し、これに加え、障がい者や高齢者のスポーツの効果と可能性からスポーツの価値や意味についても深めていくことを目的とする。	
展開科目	労働衛生論	腰痛や肩こりに代表される作業関連性筋骨格系障害は、国民生活基礎調査結果や労働災害統計で示されているように最も発生頻度が高い疾患であり、その予防対策は、罹患者の苦痛だけでなく、労働力の確保や医療費抑制の観点から社会的に重要な課題となっている。理学療法士や作業療法士が備える専門性は、労働現場おいての作業関連性運動器障害の予防に力を発揮することができる。本教科では、法制度など労働衛生学の基本事項を理解するとともに、災害や作業関連性筋骨格系障害の予防のため展開されている産業保健活動の実際を学ぶことを通じて、理学療法士や作業療法士が職場の安全衛生活動に参加するために必要な知識やマネジメント手法の獲得を目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	子育て支援論	どのような子どもであっても（障害の有無に関係なく）子どもとの向き合い方には共通点がある。子育てに於いて子ども側からの視点で前向きに育むペアレンティングの支援方法を紹介する。特に期待値・褒めて育てる・予防的に教える・問題が生じた際の対応、落ち着く方法等具体的事例をもとに理解する。この授業の目標は、障害の有無に関係なく、子育てに対する基本的なペアレンティングの支援方法を理解することである。具体的なほめ方、予防的な教え方、問題が生じた際の対応方法、感情の落ち着かせ方ができるようになることを目指す。	
展開科目	災害支援論	災害時要援護者を中心とした被災者の生活支援を行う方法を学ぶ。救出・避難期における初期対応の技術や避難所の立ち上げから自立して生活を形作るまで段階に応じた支援について理解を深め、災害が生じた時のリハビリテーション職種としての支援について考えることを目標とする。内容としては、災害と災害支援、地域における災害支援、災害時要援護者支援、救出・避難期の緊急対応、避難所の立ち上げ・運営の方法、避難所生活期の支援方法、仮設住宅生活期の支援などを講義と演習を通して理解を深める。	講義10時間 演習5時間
展開科目	教育支援論	社会の中で学校教育や学校教員の仕事や役割、また障害をもつ子どもに対して学校で取り込まれている教育支援や課題について理解を深め、リハビリテーション職種として学校教育支援を考えることを目的とする。 内容は、学校教育に関する制度・政策、教育の理念と思想、社会の中での学校教育の位置づけ、学校教員の仕事や役割、障害をもつ子どもへの教育支援の歴史、障害を持つ子どもへの通級学級・特別支援学級・特別支援学校での教育的取り組みと課題について学ぶ。	
展開科目	メンタルヘルスマネジメント論	自らのストレスの状況や状態を適切に把握し、不調に早期に気づき、必要があれば他人に助けを求めることの重要性を理解する。また、管理監督者向けの内容も予定しており、部下への配慮の仕方、部下が不調に陥らないような安全配慮義務に則った対応を詳述する。 目標は、心の健康管理（メンタルヘルス・マネジメント）への取り組みの重要性を理解し、ストレスやその原因となる問題に対処する方法を理解する。また働く人のメンタルヘルス不調の未然防止に関する知識や対処方法を習得する。	
展開科目	地域共生論	人が生涯を地域社会でつながりを持ち、住み慣れた地域で暮らしていくために、どのような環境やシステムが必要かについて理解することを目的とする。授業は、子どもや高齢者や障がい者など、世代や背景の異なる人々が社会の中で、どのように地域社会で暮らしているか現状について学習し、孤立せず地域の中でつながりを持つための課題について講義する。これらの理論をもとに、さらに学習を進めるために地域共生を実践している施設を見学し、障がいを持った子どもや高齢者の現状について見聞を広めるとともに、今後の課題を検討し対策についてグループワークを行い議論する。 (オムニバス方式/15回) (53 山本高行・54 山本ひろみ/8回) 障がいのある子どもが、集団でのコミュニティを形成し、住み慣れた地域社会の中で生きていく力を育むための具体的な支援について概説する。また、学校の授業終了後や学校休業日に通う療育機能・居場所機能を備えたホースセラピーを導入している放課後等デイサービス施設にて、馬に乗ることや触れ合うこと、世話をすること、豊かな自然環境の中で自由に遊ぶこと等、屋外活動を見学し、地域共生社会に貢献するための必要な能力を自ら考えることを目的とする。 (27 渡邊和湖/7回) 障がいのある子どもが、生まれ育った町で、家族とともに育ち、学び、暮らすための実践方法を学ぶ。保育所等訪問支援事業、居宅訪問型児童発達支援事業における実践事例を通して、地域での生活場面への支援について自ら考えることを目的とする。	オムニバス方式 講義20時間 実習10時間
展開科目	障がい者スポーツ論	障がい者のスポーツ活動に関する、歴史的な背景や文化を含め、障がいの理解、障がい者の理解を深めるために、歴史・思想、社会的・制度的観点、指導方法についての知識を習得することを目標とする。全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育てていくためのスポーツと社会の在り方について理論を学ぶ。また、実際に障がい者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について講義を行う。そして、地域の障がい者スポーツ指導者として活動できる知識を得る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	障がい者スポーツ論実習	<p>健康の維持増進に寄与する障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。障がい者スポーツは、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、より高度な想像力、実践力を育むことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (18) 安田 孝志/7回  全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者を交えて演習を行う。  (14) 池谷 雅江/7回  全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分について解説。また、競技の指導法と規則について障がい者を交えて演習を行う。  (19) 大西 満/1回  全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
展開科目	スポーツリズムトレーニング論	<p>この授業は、現代スポーツにおけるトレーニングの役割について理解を深めることを目標とする。具体的内容として、トレーニングの必要性、トレーニングの原則、トレーニングの種類と効果、トレーニング処方、トレーニング計画等、トレーニングの基礎理論について解説する。また、目標を実現するための実践的技法を確立することを目指す。中学校保健体育において、武道とダンスが必修科目となった。特にダンスは、参加意欲も高く、スポーツとして楽しみながら運動機能向上を達成できる現代的な運動種目である。ダンスの基本はリズム感であり、そのリズム感はずべてのスポーツの基本である。スポーツにおける、リズム感を自らも習得し、子どもから大人まで幅広い年代に指導できる能力を習得する。</p>	講義10時間 演習5時間
展開科目	体力測定論	<p>健康的な心身機能を維持することは、小児期、青壮年期、高齢期を通して重要である。本授業では、人生の各ステージにおける身体機能の評価として、体力測定の意義について学び、測定方法や手順と、データ処理やデータの解析方法を身につけることを目標とする。項目は、形態計測や形態指数、身体機能と機能指数などである。これらについて、小児期、青壮年期、高齢期に相応した測定方法とその意義について学習し、年齢による違いについても学ぶ。また、グループワークによって各自が相互に測定を体験することで、測定技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)  (5) 分木 ひとみ/2回  体力測定の意義とその種類について学び、測定データの処理や解析方法を学ぶ。また、年齢層に応じた測定方法の相違についても学習する。</p> <p>(14) 鈴木 美香/3回  体力測定項目の測定方法について学び、実際の測定を体験する。  (14) 池谷 雅江/3回  グループワークを通して、他者に体力測定を実施し測定技術を習得する。</p>	オムニバス方式 講義10時間 演習5時間
展開科目	健康増進実践演習	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (5) 分木 ひとみ/6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通じた健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。  (14) 鈴木 美香/5回)  健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。  (14) 池谷 雅江/4回)  二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>	オムニバス方式 講義10時間 演習20時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	健康増進実践実習	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習で学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学ぶ。演習を通じ地域住民の方にプログラムを企画、実践、運営することで実践力を養うことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 分木 ひとみ/5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。</p> <p>小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。</p> <p>(⑭ 鈴木 美香/4回)</p> <p>仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。</p> <p>(⑮ 池谷 雅江/6回)</p> <p>地域住民を対象にしたプログラムについて報告する。</p>	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
展開科目	パフォーマンス向上論	<p>スポーツパフォーマンスを向上させるためには、スポーツパフォーマンスの構造を理解した上で、どのような事を、どのようなタイミングで実施するかが非常に重要になってくる。そして、現状の状態を評価した後に、必要なトレーニングを実践し、トレーニング後には再評価して、トレーニング効果の検討を行うといった、一連のプロセスを経ながらスポーツパフォーマンスを向上させていく必要がある。この授業での目標は、スポーツパフォーマンスの構造を理解した上で、スポーツパフォーマンスを向上させるための、運動能力の評価方法、およびトレーニング、ウォーミングアップとクーリングダウン、リカバリーの理論と方法を理解することである。</p>	講義10時間 演習5時間
展開科目	フィットネス論	<p>この授業では、障害者や高齢者だけを対象とするのではなく、健康な子どもから高齢者も対象とし、すべての人の健康と体力の維持、増進のためのトレーニングについて学ぶ。この授業の到達目標は、学生自身が実際に各種運動機器を使って、機器の使用法や特性を知り、自らが体感しながら、正しい運動指導ができるようになることである。また、正しいトレーニング方法や姿勢、動作指導により姿勢、動作の改善を図ることができ、すべての人に対して安全で効果的なトレーニングを指導できるようになることである。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(⑨ 佐藤 隆彦/5回)</p> <p>メディカルトレーニングセラピーの理論に基づき、対象者が自身の生活を快適に過ごすためや、健康維持・増進、体力増進、肥満改善、姿勢の改善のために行う行動や安全で効果的な運動を指導する方法論を学ぶ。さらに、スポーツ選手がトレーニング機器を使用し心肺機能や運動機能を強化する具体的方法論についても学ぶ。</p> <p>(⑯ 治郎丸 卓三/5回)</p> <p>姿勢、肢位や運動方法の違いにより活動する筋が変化するため、姿勢や動作を改善するためのトレーニングを行うためには、姿勢、肢位や運動方法を意識してトレーニングすることが非常に重要である。この授業では、姿勢、動作を改善するためには、どの筋をどのような姿勢、肢位や運動方法でトレーニングを行うべきか、また、どのような姿勢、動作指導を行うべきかを習得してもらう。</p> <p>(⑰ 大西 均/5回)</p> <p>整形外科的なスポーツ障害を予防する観点からは、トレーニング方法や予防的装具の使用法、捻挫や腰痛を起こさないための対策についても学習する。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
展開科目	ランニングトレーニング論	<p>アスリートがランニングパフォーマンスレベルを向上させるためや、子供から高齢者までの幅広い世代の人たちがランニングを楽しむためには、怪我をしにくいランニングフォームで走る必要がある。この授業での目標は、怪我をしにくいランニングフォームをバイオメカニクスの観点から理解し、どのようなトレーニングをすれば、そのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することを目標とする。また、短距離走、長距離走いずれにおいても、どのようなランニングフォームで走れば、速く走れるようになるのかについて学び、どのようなトレーニングを行えばそのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することもこの授業の目標とする。さらに、この授業では、ランニングパフォーマンス向上のためのトレーニングメニューの組み立て方についても学ぶ。講義だけではなく、実技も行い、走りの違いを実感してもらいながら進める。</p>	講義20時間 演習10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	ゴルフトレーニング論	<p>ゴルフは数あるスポーツの中でも高齢になっても行うことができる数少ないスポーツだが、怪我をすることも少なくない。ゴルフスイングをバイオメカニクスの的に分析し、障害の予防ができるスイング指導ができるようになることが目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 宇於 崎孝/5回)</p> <p>ゴルフスイングの歴史的变化から、なぜ障害が発生するのかを解説する。さらに、バイオメカニクスの、機能解剖学的に効率の良いゴルフスイングとはどのようなスイングなのかを動画や演習にて理解させる。</p> <p>(② 安田 孝志/5回)</p> <p>ゴルフスイングをバイオメカニクスの的に分析するための、ゴルフスイング理論を解説。ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。</p> <p>(58 奥村 竜也/5回)</p> <p>ゴルフスイングを含むゴルフに関する基本を学習する。また、ビデオ分析からゴルフスイングの修正方法を理解する。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
展開科目	ビジョントレーニング論	<p>運動技能は、運動器（骨、筋肉）のみで構成されるものではなく、外界からの感覚入力により調節され、脳（神経）と運動器の協調したものである。特に眼からの感覚入力は、人の全感覚の80%を占める。本講義では、スポーツ分野、精神障害の分野で実践されている、視覚と身体運動の協調したトレーニング法の理論と実践について学習し、その理論背景を理解することを目的としている。このトレーニングは、運動経験が少ない者でも実施可能で、精神的、身体的負担が少ない。軽度の運動であるにもかかわらず、感覚を刺激し、運動の調節と制御にまつわる脳内の情報処理速度を飛躍的に高めるトレーニングである。理学療法士にとって様々な対象にアプローチするための、応用的な技術となる科目である。</p>	講義20時間 演習10時間
展開科目	遊びとレクリエーション	<p>人生において余暇活動は、高いQOLを維持する要因の一つであり非常に重要である。余暇活動の内容や価値観は多様性が高く、子どもから高齢者まで年齢層によっても変化する。本授業では余暇活動の人生における意義や、障がい者を含めたQOLと社会参加との関係性について、主に小児から高齢者までを通じた遊びとレクリエーションの種類や内容を中心とした知識を身につけることを目標とする。この授業では、各人生のステージにおける遊びやレクリエーションの意義と、その現状について学ぶとともに、実践し経験することで自身の気持ちや体の変化を体験する。さらに、高齢者や障がい者の余暇活動の現状と、その支援の社会的な現状についても学習する。</p>	
展開科目	生きがい創造	<p>超高齢化が進む中、一人ひとりが生きがいのある豊かな人生を過ごすためには、生涯にわたり学び続けることが求められている。高齢期のうつ病予防を目的に、ポジティブ心理学の立場から人生後半の生きがいづくりを支援する手法を学ぶことを目標とする。また、本授業では、演習として高齢者等に関わり、心理・身体的サポートを通じて、高齢者の抑うつ気分の低下、幸福感の向上等とともに、スタッフとして参加する学生のキャリア意識の形成も目的とする。</p>	講義20時間 演習10時間
展開科目	伝承遊び	<p>昔ながらの遊びの中には、年齢、体力レベルに関わらず、すべての人が簡単に、楽しく笑いながら実践できるものがある。からだを動かし楽しく遊び、できなかったことができるようになる体験をすることで、脳内血流量が増加し、神経伝達物質の放出量が増え、脳機能の向上と神経伝達物質機能の強化を促すことができる。したがって、このような遊びを行うことは、子供の創造力や集中力の向上、アスリートのパフォーマンス向上、勤労者のストレス解消やメンタルケア、そして、中高齢者の注意力、理解力の向上などの効果が期待できることがわかってきている。そこで、本授業では、昔ながらの遊びについて再注目し、これらの遊びが脳に与える影響について学び、あらゆる世代の人たちに昔ながらの遊びを提供できるようになることを目標とする。講義だけではなく、実技も行い、脳の変化を実感してもらいながら進める。</p>	講義20時間 演習10時間
展開科目	シューフィッティング論	<p>現在の日本におけるウォーキング、ランニング人口は右肩上がりの上昇を見せており、それに伴って様々なメーカーから選びきれないほどの種類のシューズが展開されている。ウォーキングやランニングというと、シューズさえあれば始められる手軽なスポーツと思われがちであるが、足の形やウォーキング、ランニングスタイルやフォームに合わせて、適切なシューズを選ばなければ思わぬトラブルや怪我につながってしまう。したがって、正しいシューズの選び方を理解して、適切なシューズを見つけることが重要となる。本授業では、ウォーキング、ランニングの基礎について学び、足の形やウォーキング、ランニングスタイルやフォームの違いから、シューズの正しい選び方を学ぶことを目標とする。講義だけではなく、実技も行い、シューズの違いがウォーキングやランニングを変化させることを実感してもらおう。</p>	講義10時間 演習5時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	福祉工学地域活用論	高齢化社会の中で福祉工学分野に期待される要望も大きく変化してきた。「やりがい」や「生活の質」が求められる中、福祉の分野において機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。本授業の目標として、1：福祉工学の基本理念を理解する、2：様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する、3：将来、様々な障害に対応できる福祉工学に関する知識を身につける。福祉工学を学ぶ上で必要な社会状況の把握と、基本的な生理学、それに基づいた生体計測、関連する画像信号処理、治療工学などに関して講義を中心に行っていく。	
展開科目	ロボット工学地域活用論基礎	ロボット工学は幅広い分野に応用されている。本授業では産業用ロボットに焦点を当て、ロボット工学分野における運動学、ロボットにおける運動解析とその制御の基本的な知識について講義する。本授業の目標として、マニピュレータの運動機能を理解し、関節の運動と手先の運動を関連付けることができる。 (オムニバス方式/8回) (62 谷田 惣亮/4回) ロボットに関する基本的用語を理解する。動作解析方法を理解し、各種センサやその原理について理解する。 (63 小澤 拓也/4回) ロボット制御に必要なマニピュレータ、アクチュエータとセンサの原理を理解し、制御系の構成を理解、表現できることを目標とする。	オムニバス方式
展開科目	ロボット工学地域活用論応用	本授業では、グループワーク演習、学外研修を通じて医療・福祉分野における機器・ロボット技術の活用について学ぶ。本授業の目標は、医療・福祉分野におけるロボット技術を応用する際に重要なポイントを理解すること。医療・福祉分野における問題とロボット技術との関係を学び、今後必要とされる福祉機器へのロボット技術の応用について考えることである。 (オムニバス方式/全15回) (62 谷田 惣亮・⑩ 安田 孝志/7回) (共同) 下肢機能の代用、運動支援、リハビリテーション、移動支援に関連するロボット技術について学習する。二足歩行、電動車いすなど最新の医療・福祉分野におけるロボット技術の応用について学習する。 (63 小澤 拓也/8回) 上肢機能の代用、リハビリテーション、生活行為支援、環境制御を含めたロボット技術の応用について学習する。運動訓練装置から上肢支援ロボットの最先端技術とその応用について学習する。	オムニバス方式・共同 講義20時間 演習10時間
展開科目	身体障がい者就労環境論	人は一生を通じて、様々な段階で心身の機能に障害をきたす。治療等により機能を回復する場合もあれば、身心の機能障害が持続したり進行する場合もある。加齢も心身の機能低下の原因となる。2001年にWHOが採択した「国際生活機能分類 (ICF:International Classification Functioning, Disability and Health)」では、身心の機能に障害があったとしても、環境の改善や社会制度の整備を通じて、活動の制限や社会参加に関する制約を最小化する概念を提示した。我が国でも、以後、「障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現」が追求され、企業での障害者雇用が義務付けられたり、新たな法制度の制定により様々な社会場面での障害者差別の解消が図られている。本教科では、①身体障害を中心に障害特性を理解する。②成人障害者の二次障害の発生実態とその発生要因を理解する。③良好な成果が得られた障害者の就労環境改善事例から、障害者の就労環境の改善に至るアプローチを学び、模擬改善計画が作成できる。ことを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	組織運営論	<p>企業や学校、身近なところではサークルや部活など、私たちは常に組織に関わり、また、組織のなかで生活をしている。授業では、組織について、組織と個人について、組織運営についての基本的な考え方を学習し、概念的な理解と同時に、実践的な思考を習得することを目的とする。また、社会福祉施設における福祉サービスの事業主体である社会福祉法人など、組織と運営の理念や使命、内容等について学習するとともに、組織のあるべき姿について理解する。さらに、組織における人材確保と育成の意義や必要性、情報の管理や開示についても学習する。</p> <p>さまざまな組織の体系を理解し、その上で組織の運営方法について、理論をさらに深めるために実際の施設運営を見学し、その体験をもとに自ら考え、そしてその考えをグループで検討し共有することで、組織で働くことの意味や、自分に合った働き方を自ら考えられるようになること、また自身が組織のリーダーになった際、どのようにメンバーとの関係を構築し、維持・発展させれば良いのかが分かるようになることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (25) 家村薫 / 8回  組織運営についての基本的な考え方を示し、多職種と連携し、利用者の方が家庭的な雰囲気でも運動や机上での活動を過ごす地域密着型通所介護における組織運営の実践例を通して、その方法を学び自ら考え行動できるよう学修する。  (26) 柴田恵子 / 7回  地域包括ケアステーションにおいて、さまざまな職種が医療的ケアの必要な子どもから大人までが、ゆっくり穏やかに過ごせる場所を提供するための組織作りから管理運営までの実践例を通して、その方法を学び自ら考え行動できるよう学修する。</p>	オムニバス方式
総合科目	協働連携論総合実習	<p>リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。</p>	<p>共同</p> <p>同時に授業を行う  学生数：120人  教育上必要な理由は、3年間で学んだ多職種連携をシミュレーションするため両学科混合で行うことで、教育効果が期待できる。なお、授業には4名の教員が入り指導するため、教育上支障はない。</p>
総合科目	理学療法総合実習	<p>本科目では、展開科目で学んだことと、職業専門科目や各実習などから得た知識や経験に基づいて、地域共生社会の実現に向けて、地域社会が抱える課題にはどのようなものがあるのかを検討し、その課題に対してどのようなアプローチがなされ、どのような効果を得ているのかについて情報を整理する。そして、整理した情報に基づき、地域が抱える固有の課題を発見し、地域共生社会の実現のために、どのようなことを調査・研究していく必要があるのかについて、ディスカッションを通して、調査・研究計画を立案していく。さらに、調査・研究結果を発表するとともに、得られた結果から、展開科目や職業専門科目で学んだことを応用・展開させ、地域課題を解決するためのプロジェクトについても企画する。</p>	共同
総合科目	リハビリテーション総合演習	<p>本科目は、展開科目、職業専門科目で履修した内容を交えて、学生自身が自ら疑問を解決できるよう研究手法について学び、その過程が理解できることを目的とする。授業は、少人数のゼミ形式で行い、講義では研究の手法や研究計画の立案について学修する。さらに、実際に実験を行い、得られたデータを分析し、その結果からどのように考察するかを考えていく研究プロセスを学ぶ。実際に行った研究は、発表会を通じてさらに考察を深める。この授業では、理学療法総合演習で行う地域課題への課題発見と解決方法を学ぶ素地として論理的思考能力を向上させることを目標とする。</p>	<p>共同  演習20時間  講義10時間</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部 作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	初年次教育科目 学びの基盤	専門職大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得することを目的とする。各学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことの大切さ、その方法を学ぶ中で、4年間の学習過程に見通しをつけ、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」を踏まえ、どのように予習復習していくかを学習する。到達目標としては、①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学ぶ道筋を立てることができる。②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。③情報や文献を読解して内容を要約することができる。④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。	
基礎科目	初年次教育科目 コミュニケーション論	コミュニケーションの基本概念と構造、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、社会的相互作用等コミュニケーションについて深く理解するとともに、自己のコミュニケーション能力について洞察を深める。加えて、社会的役割と役割行動、コミュニケーション能力の自己評価を踏まえ、臨床の場における活用や意味について理解を深めていく。社会人に求められるより良いコミュニケーション、より良い人間関係を自ら作り上げることができることを目標とする。	
基礎科目	人間と社会系科目 音楽	作業療法の治療を実施するためには、作業療法評価が重要であることを学び、疾患の分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深める。また、作業療法評価を治療計画に関連付けるだけでなく、作業療法実施の効果判定やリスク管理としての使い方なども理解することを目標とする。講義内容としては、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、評価各分野で必要となる面接・観察、形態測定、意識の評価、バイタルサインの測定の基本的知識を学習する。	
基礎科目	人間と社会系科目 キャリア発達論	高度化する医療技術や、日々新たな発見がなされる知見など高度化が予想される今後の医療業界の中で、生涯にわたるキャリア発達とその支援に関する理論と実践について解説する。人間形成についての理解、リーダーシップとは、また専門職、研究職としてキャリア発達への理解を深め、受講生自身のキャリア発達に繋がるよう授業を展開する。キャリア発達とその支援についての理論と実践について学習し、自身のキャリア発達「働くこと」「生きること」について将来への展望を持ち、「キャリア設計」を考え、実践していく力を身に付けることを目的とする。個人ワーク・グループワークを行うことで諸理論への理解を深めるとともに、実践力を高めていく。到達目標として、①キャリア発達の諸理論を理解し、広い視点で自身のキャリアを考えられるようになる。②社会的・職業的自立に必要な能力を理解し、自身のキャリア開発課題を明確化できるようになる。	
基礎科目	人間と社会系科目 教育学	日本の教育や歴史的背景による社会における子供の位置づけを、文化や経済などと関連づけながら幅広い視点から理解することを目標とする。現代の教育が抱えている諸課題を歴史的視点にたって考察していく能力を養う。近代日本における教育の形成とその問題点を考察する。近代日本の教育を検討し、そのことを通して、現代の教育が抱えている諸問題を追究する。また、子どもたちが健やかに成長するにはどう導いていくべきなのか、過去の事例・事象なども検証する。さらに、学校だけでなく、家庭内での教育や社会人の人材教育などにも触れる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 人間と社会系科目	倫理学入門	倫理学の基本的な考え方を、講義、課題演習および思考実験を通して学ぶ。人間のあり方、生き方、社会のあり方を、学生のとときに学習し、思想史の知識をさらに深めながら考えていく。さらに倫理思想の様々な倫理的問題と、それに対する多様なアプローチの特徴を理解し、その現代的意義を学習する。現代文明が抱える様々な倫理的課題を理解した上で、それについて思考するために伝統的倫理思想の理解と吟味が不可欠であることを確認する。	
基礎科目 人間と社会系科目	哲学入門	哲学の本質を初級者向けに解説しながら、哲学史の流れに沿って哲学の概論を講義する。西洋哲学以外の学問分野との関連づけもはかりながら古代ギリシア以来の哲学思想を西洋哲学史の流れに沿って近代の入り口まで紹介し、自分が既に習得しているさまざまな知識とうまく関係づけながら、哲学の歴史と基本用語を習得することを目標とする。それにより、最終的に、履修者自らが自分自身の世界観、人生観を構築する手掛かりを得られるようになることを目指す。	
基礎科目 人間と社会系科目	心理学	心理学は人の心の動きやそこから生じる行動について探求しようとする領域である。その領域は多岐にわたり、発達心理学、認知心理学、知覚心理学、臨床心理学、異常心理学、社会心理学など幅広い。本講義では、心理学の中でも人の理解につながる領域の基礎を学ぶ。知能の構造、知能の発達、性格の形成、人の欲求、適応と不適応行動、行動の展開、感情、記憶等人の理解につながる基礎を学び、人間の行動を科学的に観察する視点を養う。	
基礎科目 人間と社会系科目	経営学入門	国内外における経営学の基本的な論点と専門用語、また主要な概念を学び、現実の経営における現象・問題について考える能力を身につけることを目標とする。経営学の対象は営利企業に限定されず、医療機関等の非営利組織を包含する。本講義では、営利・非営利組織に共通して求められる、組織や人材マネジメント、経営戦略、事業戦略、新規事業開発におけるマーケティングなどについて理解する。特に保健・医療・福祉に関する経営について関心をもち、今後、医療・看護の対象となる人々を理解するための一つの視点として、経営学的視点を持つようになることを目的とする。	
基礎科目 人間と社会系科目	社会学	社会学の基本概念的いくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを考える。社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して、社会的な視点を身につけることを目的とする。社会的な視点を通して私たちは当たり前に来てきた社会を少し疑問をもって考えることができ、その疑問を通して得た考察から新たな支援や行動が生まれてくるのである。地域で生活を支援する職種にとってはなくてはならない視点である。この講義では、差別や偏見、ひきこもりなど様々な社会での出来事を社会学視点を通して学び、議論を行う。そして、医療従事者としてより深く社会を理解し、行動できる視点を身につけることを目標とする。	
基礎科目 人間と社会系科目	日本の伝統文化	<p><b>【授業概要】</b> 日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをもとに存在する。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江（滋賀県）とゆかりの深い、木地屋（木地師）と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をとおして、できるだけビジュアルに進めます。</p> <p><b>【到達目標】</b>  (1) 日本の職人の特質について理解する。  (2) 日本の職人のイメージと実態について理解する。  (3) 日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 人間と社会系科目	日本の近代史	この授業では、明治維新から現代に至るまで、日本の近代史・現代史の基本的な流れを、国家と地域社会の関係から概観する。私たちが生活する現代の日本と諸外国について正しく理解するためには、現状分析とともに歴史的な考察が必要不可欠である。特に、明治維新以降の近代史と、それに続く現代史は重要である。この講義では、中央集権化が指摘されることの多い日本において、国家と地域社会がいかなる関係にあったのか、特に地域社会の実態とそこからの視点を重視して考え、歴史を参考にして現代の国家、地域社会について深く考えられる力を身につけることを目標とする。	
基礎科目 人間と社会系科目	体育	この授業では、体育活動（身体運動）を通じて学生の健康的な生活実現のために必要な最大限の身体的、精神的、かつ社会的発達を助成、涵養することを目標とする。また、医療人として、また理学療法士、作業療法士としての教育を受ける中で、人間の運動の仕組みや身体の運動耐用能などを体育活動を通して学ぶ機会とする。様々なスポーツについて実践する機会を与えることにより、将来のリハビリテーション職の基礎となる、身体を動かすとは何か、運動の限界とは何かを体感する時間を提供する。また、この授業では、体育活動を通してチームワークの形成から、コミュニケーション能力を身につけてもらうことも目標とする。	
基礎科目 自然科学系科目	生物学	生物学は私達の生活と社会に密接に関わってくるサイエンスである。そのため、生物学の基本的な概念について学び、理解することは、私達の生活と社会をより良くしていくためには必要不可欠な事柄である。この授業では、生物の動物性機能について理解し、説明できるようになることが主要な目標である。また、生物の高次機能や医学に関連した話題も取り上げて、生物学を学ぶ社会的な意義を考えるきっかけとなることを付随的な目標とする。	
基礎科目 自然科学系科目	物理学 I	物理学の基礎的なものの方や理解の方法を身につけることを目的とする。身体運動に関与する力は、重力、外力、筋収縮にて発生する張力、摩擦力等である。筋と関節の構造は機械系のテコ構造に類似し、関わる力は力学的分析で説明される。生体の姿勢や運動を理解するためにニュートン力学を学ぶ。また、治療に用いられる温熱療法、電気療法、水治療法等を理解するための基礎となる熱の作用、流体力学、電気と磁気等の基礎を学ぶ。	
基礎科目 自然科学系科目	物理学 II	物理学 I で学んだ、物理学の基礎的なものの方や理解の方法をもとに、熱力学、電磁気学、波・波動などのより広い物理現象を対象として、医療の技術や医学を学ぶための物理的基礎のより広い習得を目指す。その中で、電子機器の発展に深くかかわってきた、物質の状態や、熱や光とのかかわりに関する理解を深める上で必要となる、物理・化学の基礎を学習する。さらに物理学の研究成果を工学技術等に应用された事例なども学び、より実用的な物理学を学ぶ。	
基礎科目 自然科学系科目	統計学	いままで確率や統計を詳しく習うことのなかった学生も多いため、確率・統計の基礎から推定・検定の考え方を、実例を交えながら講義し、研究結果を解釈するために必要な統計学知識を持つことを目標とする。確率や初等統計の基礎から学び、統計データを適確に処理できること、また得られた結果を正確に理解、解釈するために必要な知識を学ぶ。また、実際に行われた研究を題材に、統計学的な具体的手法についても代表的なものを学ぶ。	
基礎科目 自然科学系科目	数学	基礎的な数学の内容の理解が目標であるが、具体的には式の計算、三角関数、指数関数、微分、微分の応用として関数のグラフの描画、積分の意味、ベクトル、統計のための確率の基礎を学習し、応用できるようになる事を目標とする。高校で学んだ数学を基礎に、微積分、ベクトル、離散数学（順列、組合せ、確率）についても講義する。これらをもとに、数学を応用し経済学や、数理統計学、人文科学といった応用数学にも触れ、自らが主体的に数学に触れ学ぶことを重視する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	語学教育科目	英語 I	大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを今の自分たちの生活と将来の生活（仕事を含め）中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら基礎的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。語学の授業は、聞いているだけでは理解できないし、上達しない。大学での英語教育の到達目標はインプットしたものをどうアウトプットするかを学ぶためグループワークやクラスへのフィードバックを通してインプットとアウトプットの大切さを知る。	
基礎科目	語学教育科目	英語 II	グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために、また、基礎的な英語4技能の向上と幅広い知識の習得のために、テキストを利用しながら様々なケースについて知識を得るとともに、臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら、実践的に学ぶ機会を提供する。 日常的に接する「読み、書き、リスニング、スピーキング」に気づかせる教材を利用し、基礎的文法、構文、語彙、慣用表現を復習・認識させながら、「読み、書き、リスニング、スピーキング」を職場を含む社会生活で実践できるようになるための基礎的な英語力を修得する。	
基礎科目	語学教育科目	韓国語	授業では、ハンガルの読み書き、発音変化、文章構成、辞書の使い方など、韓国語学習のための基礎を学ぶ。学生が日本語や英語等すでに習得している言語と比較しながら、可能なかぎり韓国語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。韓国語の基本的な構造を踏まえながら、日常会話を学習する。また、韓国の歴史、社会、文化などを理解することを目標とする。韓国語の特徴を理解するとともに、言語普遍性の観点から日本語との比較し、韓国語の基本構造と韓国文化を学習することで、外国語、外国文化への理解を深める。	
基礎科目	語学教育科目	中国語	発音の基本、人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、動詞の文、助数詞、形容詞の文など、問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。授業では、中国語であいさつと簡単な日常生活ができるようになり、かつ、中国語の基礎文法を身につけ、簡単な中国語の文章が読めるようになることを目標とする。標準的な中国語の発音をしっかりと身につけると同時に、中国語基礎文法を学ぶ。また、実用性の高い日常会話を発音練習と文法習得の中に取り入れ、中国語の応用能力を高める。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学 I	解剖学 I では、人体を構成する細胞、組織、器官が階層性を持っていることを理解した上で、骨学、関節学、筋学についての基礎的な知識を習得する。そしてそれらの知識を統合し、身体の運動を説明できることが目標となる。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨学各論、関節学総論から各関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位・起始・停止・支配神経・作用について学習する。さらに応用として、日常生活の基本的動作を解剖用語で説明できることが望ましい。また人体解剖実習を通して実習の倫理的側面を理解する。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学 II	解剖学 II の授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるか説明できるようになること。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅲ	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	生理学Ⅰ	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、血液、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎機能などの生理機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な素養を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	生理学Ⅱ	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、ニューロン機能、感覚機能（平衡感覚、聴覚、体性感覚、視覚、味覚、嗅覚）、運動機能（筋収縮、脊髄、大脳皮質運動野、伝導路、脳幹、大脳基底核、小脳）、自律神経機能、高次脳機能などの生理学的仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	運動学Ⅰ	作業療法士が生活行為遂行の困難さをその運動のしくみから把握することは重要なことである。本科目は、正常な人の動きについて各関節や体の動きから理解することを目的として、主に上肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学習する。第1～7回で身体各部の名称や面と軸、運動方向、重心、関節の形状分類や筋収縮について学び、第8回以降は、上肢を構成する肩複合体や肘、前腕、手関節、手指について構造と運動について学習し上肢の運動の理解を深めることを目標とする。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	運動学Ⅱ	作業療法士が生活行為遂行の困難さをその運動のしくみから把握することは重要なことである。本科目は、正常な人の動きについて各関節や体の動きから理解することを目的として、主に体幹と下肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学習する。第1～8回で下肢を構成する骨盤と股関節、膝関節、足部について構造と運動について学び、9回以降は頭部、頸部、脊柱の構造と運動について学習し理解を深めることを目標とする。授業では、教員や学生がモデルになり、実際の動きを見て、確認して、理解を深めるようにする。	
職業専門科目	作業療法理論科目群	運動学実習	授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動を観察し、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲骨・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。	実習20時間 講義10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 作業療法理論科目群	人間発達学	ライフステージに合わせたリハビリテーションを行うために、人の成長や発達の視点は重要である。本講義は誕生から老年までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのかを理解することを目的とする。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を、胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージにそって、形態・機能的側面、さらには認知的および情緒・社会的側面から学習し総合的に人間の発達に対する理解を深める。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	救急援助論	医療職にとって、救急患者への対応、特に救急の初期対応は必ず身につけておくべき知識・技術である。この講義では、救急対応が必要な患者の徴候、原因疾患、救急初期対応に関する知識・技術を習得することを目標とする。特に医療職にとって必須の知識・技術である一次救命救急処置が実践できることを目標とする。	講義13時間 実習2時間
職業専門科目 作業療法理論科目群	内科学 I	内科疾患の基本知識は医療に携わるにあたっては必要なことであり、授業目標は内科の診断法、検査、循環器・呼吸器・消化器といった主要な疾患について知識を修得することである。内容としては、診断法、身体診察、バイタルサインなどの診断学、循環器・呼吸器・消化器などの主要症候とその検査、遺伝子異常・染色体異常・老化・腫瘍などの病態、呼吸器疾患の症候と診断、循環器疾患の症候と診断、消化器疾患の症候と診断などについて学習する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	内科学 II	授業目標は、医療現場で常に注意が必要な感染症、基礎疾患として多くの人が罹患している代謝疾患、内分泌疾患、血液造血器疾患、腎泌尿器系疾患、免疫疾患、生活習慣病など内科疾患について知識を修得することである。内容としては、感染症の病原体と感染経路、感染対策と予防策、細菌感染症やウイルス感染症など感染症、糖尿病や脂質異常症などの代謝疾患、下垂体・甲状腺疾患などの内分泌疾患、各種血液疾患、腎不全などの泌尿器系疾患、免疫不全や自己免疫疾患などの免疫疾患といった各疾患の原因、病態、診断と治療と予後について学習する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	神経内科学 I	授業目標は、神経内科疾患の中でも神経難病を中心に、その病態と治療などについて理解することである。内容としては、神経症候学の概要や主要な神経疾患であるパーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患などリハビリテーションの対象となることの多い神経難病について、病態、病理、症状、治療、予後等について学習する。これらの病態と治療を理解することで各疾患の予後を視野に入れたリハビリテーションにおける知識の基盤を作ることとを目的としている。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	神経内科学 II	授業目標は、脳神経疾患とその治療について理解することである。具体的には、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、中枢神経系の奇形、水頭症、脊髄疾患、脊椎腫瘍などのリハビリテーションの対象となることの多い疾患について、診断と治療法の概要やその経過について学習する。各中枢神経系疾患の病態から内科的・外科的治療に至るまでの内容を理解することで、リハビリテーションの実施に必要な基礎知識を固めていくことを目的としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 作業療法理論科目群	整形外科学Ⅰ	授業目標は、リハビリテーションの対象となる整形外科疾患の、病態、診断と治療について理解することである。整形外科学Ⅰの内容としては、整形外科の対象疾患と診断と治療法などの総論、各論として関節リウマチ、慢性関節疾患、循環障害、骨粗鬆症などの代謝性骨疾患、骨腫瘍、整形外科の神経疾患などの病態と診断・治療について学習する。また治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	整形外科学Ⅱ	授業目標は、整形外科学Ⅰで修得した整形外科の基礎知識と考えたかをもとに、部位別疾患と外傷学について理解を深め、その病態理解に必要な解剖やバイオメカニクス、診断と治療について理解することである。内容としては、手と手関節、頸椎と胸椎・腰椎、股関節、膝関節、足関節など各部の機能解剖と病態、その診断と治療について学習する。また外傷や軟部組織損傷、骨折や脱臼などの病態と診断・治療について学習する。また治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	精神医学	本授業は臨床に必要となる精神医学の基礎知識を理解することを目標とする。総論では、精神医学の歴史から治療と処遇の変遷、精神発達と医学心理学、精神症候学概論について解説する。各論では、気分障害や統合失調症、不安障害、認知症、ストレス関連障害などそれぞれの精神疾患の概念、疫学・病因・分類と症状・診断・経過と予後・治療について学習する。最後に精神疾患の重要な治療法である薬物療法の学習を通して、向精神薬の種類や作用機序について理解を深める。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	小児科学	授業目標は、成長や発達過程にある小児の特徴を踏まえて、主にリハビリテーションの対象となる新生児、小児疾患について理解することである。内容としては、新生児と未熟児の理解、遺伝子疾患や先天異常、内分泌疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、中枢神経疾患、てんかんなどの原因や病態。また発達遅滞を伴う疾患として脳性麻痺や知的能力障害、注意欠陥多動性障害や自閉症スペクトラム障害などの発達障害、脊髄小脳変性症などの脊髄性疾患、筋ジストロフィーなどの筋系疾患、先天性股関節症などの骨・関節疾患などの原因、病態、症状、予後について学習する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	老年医学	授業目標は、老化の機序、老年者に多い疾患とその特殊性、老年者に見られる生活機能障害について理解し、疾患の治療だけでなく全人的包括医療の視点に立ってQOLの向上にむけた医療やケアの基礎知識を修得することである。内容としては、細胞老化や機能老化・寿命因子など老化のメカニズム、基礎的身体機能や認知機能など老年者評価、摂食障害・排尿障害・歩行障害や精神障害などの老年症候群、循環器系疾患・呼吸器系疾患・内分泌系疾患・神経疾患など高齢者に見られる疾患の症状や治療と支援について学習する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	薬理学概論	薬理学は、医療の現場で益々重要性が増している薬物療法における薬剤の作用メカニズム、薬理作用及び動態について生化学や生理学などの知見に基づいて理解しようとする学問領域である。本講義では、医学・医療における基礎科学の重要な分野の一つとして、医療従事者に必須な薬理学的知識及び創薬について修得し、薬物療法に関する科学的な基盤作りを目標とする。更に、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 作業療法理論科目群	予防医学	現在の日本では、ライフスタイルの変化、高齢化、ストレス過剰、環境汚染などを背景として生活習慣病や心の病が増加している。予防医学は、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について理解を深めることを授業目標とする。内容としては、健康増進と予防医学の概念、健康問題と施策、高齢化社会と介護予防、生活習慣と予防、運動と予防、ストレスとメンタルヘルスなどについて学習する。 (オムニバス方式／全8回) (I) 山川 正信／6回 予防医学の概念と、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について学習する。 (II) 分木 ひとみ／1回 生活習慣病予防について学習する。 (21) 鈴木 美香／1回 介護予防について学習する。	オムニバス方式
職業専門科目 作業療法理論科目群	画像診断学	授業目標は、基本的な医学的情報（特に画像）の知識の獲得とする。授業は、カルテ情報の読み方、血液・生化学データの基礎知識、レントゲンの基礎知識、MRI、CTの画像の読み方の基礎を経験し学習する。さらに、各種画像検査の原理、検査方法について理解を深める。また、代表的な疾患の特徴や病態、重症度と関連付け、正常画像解剖学とあわせて学ぶ。実践の場でどのような情報交換をしていくかを、さらに具体例を通して講義する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	栄養学	栄養は、健康の保持・増進に密接に関わり、その過不足やバランスの偏りは疾病を引き起こす要因となる。高齢者や疾病者および障害者においても、治療やリハビリテーションの効果を最大限に発揮するためには個々人の状態に合わせた栄養療法が不可欠である。栄養学では、医療従事者として医療現場での栄養療法を理解するために必要な栄養学の基礎知識を修得することを授業目標とする。内容としては、栄養状態の評価と判定、糖質・脂質・タンパク質の三大栄養素と代謝、栄養素の消化と吸収、栄養素の体内代謝、栄養ケア・マネジメント、ライフサイクルと栄養、健康づくりと食品・食事・食生活などについて学習する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	社会福祉学	社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に付けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	地域包括ケア論	現在、日本は人口の減少と高齢化が進むなかで、住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度と個々人の健康と幸福の満足度に焦点をあて、地域の現状と課題の理解、実践のあり方を理解することを授業目標とする。内容としては、現在の日本や地域社会の現状、地域包括ケアシステムの概念と制度、地域包括ケアシステムを支える専門職と地域住民の役割、地域包括支援センターの機能と役割、各地の地域包括ケアシステムの現状と課題を講義する。また、高齢者が楽しんで地域の中で生活をしていくこと、その支援のあり方を紹介し、今後の地域での作業療法士の役割を検討する。	
職業専門科目 作業療法理論科目群	リハビリテーション概論	授業目標として、リハビリテーション概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種との役割の理解とする。授業内容はリハビリテーションの概念を基に健康と障害について教示し、特にICIDHやICFといった障害モデルについての理解を深める。また医療チームとしての関連職種について知ることでリハビリテーションの全体像を把握していく内容とする。小グループで「障害」や「社会復帰」といったテーマの話し合いの機会を設け、自身の今までの体験からの理解と作業療法士として必要になるリハビリテーションの概念との相違点、繋がりを持つようにしていく。	講義20時間 演習10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法学総論	作業療法は医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。本講義では、作業療法の歴史的経過や機能と役割を学び、作業療法の捉えている意味ある作業とは何か、作業療法の実施過程、各領域の作業療法、人の健康の捉え方（ICF）、社会状況や法・制度、多職種連携について講義やグループワークにて学習する。作業療法の概略を学習し、今後の専門科目への関心を高め、その関連性を把握する。	
職業専門科目	職業実践科目群	基礎作業学	日本作業療法士協会の作業療法の定義に「人は作業を通して健康や幸福になる」と述べられている。本講義では、作業療法士の捉える作業について学び、作業の必要性や、作業活動における基礎的な構成要素を理解できることを目標とする。また、人が作業を行うことによる、環境からの影響、身体機能や精神機能からの影響や関係性について理解を深めていくことを授業内容とする。各領域の作業療法介入、作業を中心にした介入例を用いて、作業療法介入のイメージを養う。	
職業専門科目	職業実践科目群	基礎作業学実習Ⅰ	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法の手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。授業目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。	実習18時間 講義12時間
職業専門科目	職業実践科目群	基礎作業学実習Ⅱ	手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ることが目標とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。 到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。	実習28時間 講義2時間
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法研究法	作業療法士は専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していく事が重要となる。そのために、作業療法研究が出来る為の研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことを目標とする。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の作成の手続きを講義で学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行う。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行い、学生間のディスカッションを促しながら講義を進めていく。	
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法管理・制度論	対象者に作業療法を効率的に提供していくためには、組織の管理や運営といった基盤が必要といえる。講義を通して、作業療法の提供基盤となる関連法規や制度やリハビリテーション部門及び、作業療法部門の組織体系や部門運営のための組織の在り方について学び、医療・福祉・介護領域（病院・施設等）での役割について理解する。また、日本作業療法士協会の白書やガイドラインを用いて、データを通して作業療法士の働く領域や、対象疾患などデータの理解を行い、職場環境や臨床像がイメージできるように講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	作業療法と倫理	作業療法は急性期の病院医療から地域での生活、子どもから高齢者、身体障害から精神障害まで非常に幅が広く、対象者は個人の状況、取り囲む人的・物的環境と様々である。その様々な状況を考慮しながら作業療法士は判断し行動をとらなければならない。倫理の原則を理解しそれに基づいて作業療法士として判断し行動できるようになるために、医療や作業療法の倫理について倫理の原則から理解し、対象者の権利擁護、情報管理、人の尊厳や生と死などから学ぶ。授業目標は①倫理の原則について理解することができる、②倫理の原則に基づいた判断ができる、③倫理の原則に基づいた行動がとれることとする。	
職業専門科目 職業実践科目群	作業療法評価学総論	作業療法の治療を実施するためには、作業療法評価が重要であることを学び、疾患の分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深める。また、作業療法評価を治療計画に関連付けるだけでなく、作業療法実施の効果判定やリスク管理としての使い方なども理解することを目標とする。講義内容としては、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、評価各分野で必要となる面接・観察、形態測定、意識の評価、バイタルサインの測定の基本的知識を学習する。	講義24時間 演習6時間
職業専門科目 職業実践科目群	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	身体障害領域における検査測定の基礎知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明できるように学習をすすめ、作業療法評価の一部で関節可動域測定、反射検査、平衡機能検査、感覚検査を中心として基礎知識を深めていく。特に、これらの基本評価は実施手順を座学で把握させ、実技を通して基本的な技法を学んでいく。また知識の確認として小テストや学生同士の確認作業を通して確実に知識が身につくことを確認しながら進めていくこととする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまずは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	精神障害作業療法評価学実習	目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例(映像)とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物(レポート)をもって評価する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	発達障害作業療法評価学実習	発達障害児(者)に対する作業療法の理念や役割と評価に必要な典型的発達理解、発達障害領域の作業療法評価の基本的な視点を学び理解を深める。内容としては、発達障害の概念と対象疾患、作業療法の目的と役割、粗大運動・微細運動の発達、認知機能とコミュニケーションの発達、発達障害領域の作業療法評価、情報収集や面接と観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて講義と演習を組み合わせ学習する。学生の子供のイメージを養う為に視覚教材を用いる。	実習20時間 講義10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	身体障害作業療法基礎技術論	身体障害作業療法分野における作業療法に至るまでを理解するために、身体障害評価学で学んだことから治療的介入への展開を図る科目である。作業療法に関連する基本的介入技術を説明できる事を目標としている。講義形式はパワーポイントでの講義形式に加えて、一部演習室での技術の習得と症例を提示し評価・治療プログラムを検討する内容となっている。全体の流れとして、治療原理やリーズニングを学び、可動域訓練や筋力訓練・知覚訓練などの基礎的な学習から運動学習についてなど、身体分野における基礎を学習する。	
職業専門科目 職業実践科目群	運動器疾患作業療法学実習	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも運動器疾患に焦点を当てて、障害像、ハンドセラピーなどの作業療法アプローチを理解し、説明・実施できることが授業目標となる。特に日本作業療法士協会が作業療法士の専門性の一つとして確立している手外科領域についてその内容を深めて、症例紹介を行いながら臨床像をイメージ出来るようにする。講義の内容は、骨折や末梢神経損傷、腱損傷、熱傷やリウマチの疾患概要と評価、治療の進め方などを説明する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	中枢神経疾患作業療法学実習	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目 職業実践科目群	高次脳機能障害作業療法学実習	授業目標は、中枢神経疾患作業療法学や神経内科学と関連させながら、高次脳機能障害におけるメカニズムの理解、そして基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。内容として、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について授業を進めていく。特に臨床場面で見学体験することができない状態での授業が予想されるために動画媒体を用いながら実施する。また、動画観察後のディスカッションならびに評価のデモンストレーションのため週に2コマの編成で実施していくこととする。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目 職業実践科目群	精神障害作業療法学	目標は、精神科の作業療法を行う上での基礎概念を理解することである。具体的には、精神科領域の治療は対象者との人間関係の構築が必要不可欠である。その意味を理解する為には、作業療法の文献だけでなく、教育学、心理学、社会学、看護学、当事者の手記などの資料を用いて作業療法を批判的に捉え直す必要がある。また、精神疾患がどのように人々に認識されていったか、その歴史的変遷を講義を通して学ぶ。学生の理解度は、精神科における支援を具体的に文章化（論述）させることで確認する。	
職業専門科目 職業実践科目群	精神障害作業療法学実習	目標は、精神科領域で関わることが多い統合失調症や気分障害、神経症性障害、人格障害、依存症、認知症などの各疾患ごとの作業療法の介入手法を理解することである。また、認知行動療法やSST、家族療法の技法の演習も取り入れ、理解することである。各疾患は事例を通して学び、各種技法は実技演習を取り入れ、理解を深める。その為、その疾患でよく使われる治療技法をセットにして授業を行う。具体的には、統合失調症の事例を学んだ週にSSTを学ぶという形で週に2回の頻度で授業を展開する。学生の理解度は、医学的診断とリハビリテーションの流れに基づいた基本的な事例の理解、各種手技についても基本的な技法（概要とその理論背景）の理解とする。	実習20時間 講義10時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	発達障害作業療法学実習Ⅰ	発達障害作業療法は、障害の特性を把握するために、生活環境、成育歴などのライフステージが大きく影響する。そのため、脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解することを目標に授業を行う。内容としては、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺・痙直型両麻痺・痙直型片麻痺・アテトーゼ型の特徴と評価と治療支援、重症心身障害児(者)の概要とその評価と治療支援などについて学習する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	発達障害作業療法学実習Ⅱ	発達障害領域の知的障害や自閉症スペクトラムなどの障害特性、発達特性を理解し、発達障害領域特有の作業療法評価と治療・支援について理解・説明できるように学習を進める。講義内容としては、知的障害・自閉症スペクトラム・注意欠陥多動性障害・学習障害などの特徴を学習し、生活行為との関連について理解を深める。またライフステージに合わせた子供の能力や生活行為の評価とその治療支援について講義とVTR、遊びの体験とディスカッションなどを組み合わせ実施していく。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群	老年期障害作業療法学	目標は、①老年期にある対象者に対する作業療法の理念と役割を説明することができる。②作業療法プロセスを理解することができる。③老年期障害における作業療法の介入方法を理解することができる。④認知症に対する作業療法治療計画の立案ができる。である。老年期障害にある対象者の作業療法の理念と目的、作業療法士の役割及び形態、作業療法プロセス(評価・統合と解釈・目標設定・目的とアプローチ・実施方法)、作業療法治療理論、作業療法のプロセス、家族や多職種との連携についての説明を行う。また、認知症についての基礎知識、作業療法評価、治療について、講義と事例検討にて行っていく。	
職業専門科目	職業実践科目群	老年期障害作業療法学実習	目標は、①老年期の複雑性や高齢者に対しての作業療法の評価、支援について理解する。②高齢者の全体像(生活歴、家族状況、地域との関わり方、他職種)を把握し、支援計画を立案することができる。③高齢者に合併しやすい疾患について作業療法評価と支援について理解することができる。虚弱高齢者、寝たきり閉じこもり、廃用症候群に対しての作業療法評価、治療、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、腰痛、心疾患、呼吸器疾患、がんに対しての作業療法評価、治療について、講義や事例検討、グループワークを交えながら行っていく。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群	日常生活活動論実習	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として演習を進め分析させていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群	社会生活行為論実習	授業目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。	実習16時間 講義14時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群 作業分析活用論	作業療法において「作業」は治療手段の1つである。「作業」のもつ治療的な意味と対象者の個人的な意味を統合して、治療効果が上がるように工夫して適応する必要がある。まず、いくつかの作業を実施し、作業療法独自の作業分析を行い、その作業がどのような特性をもっているかを捉え、その特性がどのような治療的意味を持ちうるかを明らかにする。さらに、治療的活用として、事例の治療目標と作業を適用させ、治療効果が期待できるかをグループワークで検討していく。作業分析の視点を知り、治療へ活用していくうえでの注意点を学ぶことを本講義の目標とする。	
職業専門科目	職業実践科目群 作業分析活用論実習	作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、精神科領域で用いられることが多い「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群 家族援助論	対象者の作業療法介入には個人因子、環境因子が非常に重要である。対象者を取り巻く環境として家族の介助量は重要な要因の一つであるが、家族の介護負担についても専門職として配慮すべき点となっていく。講義では、家族援助の考え方を座学にて学習し、家族援助の意義を説明できる。家族援助に関する評価項目を挙げる事が出来ることを授業目標とし、グループワークにて、臨床実習で実際に経験した対象者をもとに家族支援に着目したケースカンファレンスを実施することで学生間のディスカッションを行いながら学習につなげていく。	
職業専門科目	職業実践科目群 住環境支援論	授業目標は、①住宅改修・福祉用具に関わる社会制度を知る。②住宅改修・福祉用具選定についての作業療法士の役割を理解する。③各福祉用具の特徴を理解する。④住宅改修の提案に必要な作業療法視点の理解する。⑤障害に合わせた住宅改修・福祉用具の選定と活用までを検討することができる。 内容は、住宅改修や福祉用具提供についての制度、作業療法士の役割、各日常生活活動、境制御装置、家事動作、余暇活動等についての福祉用具の特徴や適応までの過程について講義する。そして、実際に福祉用具を使用し、特徴を理解する。障害に合わせたケース検討を行い、対象者や家族、介護者への福祉用具の選定から活用までを意識した授業を行う。演習を含むため、週に2回実施することもある。	
職業専門科目	職業実践科目群 作業療法義肢装具実習	義肢装具は対象者の身体障害を補完するために重要な知識である。作業療法士が義肢装具を提供する、もしくは提案する対象は運動器疾患、中枢神経疾患と目的によって多岐にわたる。講義では、義肢、装具について理解し、それらが必要とする疾患の理解、評価技法と治療的介入について理解する。作業療法士の専門性である手外科領域で使用頻度の高い装具作成演習を取り入れ対象者に合った装具を作成できること、様々なスプリント作成を見学し多種多様なスプリントについて理解するように演習を取り入れて講義・演習をすすめる。	実習16時間 講義14時間
職業専門科目	職業実践科目群 生活行為向上マネジメント論実習	「生活行為向上マネジメント」は、日本作業療法士協会が2008年から取り組んでいる事業である。この事業の背景は、対象者を作業を通して捉えることの意味を作業療法士自身が再認識することであり、作業を通して対象者を理解することを具体的な形で実施できることである。その為、授業の目標は、この事業の概念の理解、実施された経緯、これらを踏まえた上で対象者を作業を通して理解できることが目標となる。また、作業を通して対象者を理解する諸理論（人間作業モデルなど）も概観していく。	実習16時間 講義14時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	職業実践科目群	地域生活作業療法学総論	対象者の地域での生活を考えて作業療法を展開するためには、人の暮らしを広い視野で捉えることが大切となる。本講義では①何らかの障害があっても住み慣れた環境で、心の通いあった人々とともに自分らしく生活し続けることの意義や困難さを理解する②地域で生活するケースを通し、支援内容や作業療法士の役割を考えることを授業目標とする。授業内容は座学と地域での学外活動体験を通して、地域の理解と地域で暮らす方々の障害像を学び、地域作業療法の理念と目的を学習する。	講義22時間 演習8時間
職業専門科目	職業実践科目群	地域生活作業療法学実習 I	目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関りを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	地域生活作業療法学実習 II	目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義やビデオ教材を用いた講義と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	地域生活作業療法学実習 III	目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。	実習20時間 講義10時間
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法見学実習 I	実習目標は、医療人としての接遇・態度を身につけること、作業療法士の仕事を知り、施設の役割、施設における作業療法士の役割を理解すること。そして作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすることで、作業療法における施設特性を理解することとしていく。内容として、臨床指導者の指導の下で見学を中心として、実務状況を体感し、作業療法士の専門性について作業療法場面を通して説明を受ける。またその経験内容は日々のレポートとして蓄積していくように進める。	共同
職業専門科目	職業実践科目群	作業療法見学実習 II	実習目標は、医療人としての接遇・態度を身に着けること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関りを説明できること、作業療法が展開される施設特性や空間を理解できること、とする。内容としては臨床指導者の指導の下で見学と評価の一部を体験及び治療場面を見学し説明を受けることを通して、実務状況を体感・体験し一部考察を進めていくこととする。またその経験内容は日々のレポートとして蓄積していくように進める。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 職業実践科目群	作業療法評価実習	実習目標は、医療人としての接遇・態度を身に着けること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関りを説明できること、作業療法が展開される施設特性や空間を理解できることとする。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、作業療法士の指導管理の下、作業療法評価の一部を実践し、プログラム立案までのプロセスを理解することを目標とする。特に、作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては考察が困難な点であるために、臨床指導者の指導を基にして思考を進める。内容として、臨床指導者の指導の下で体験学習を中心として、作業療法対象者への評価の実施方法や考え方を学んでいくこととする。また形態として実習半ばには中間評価を設け、学生と指導者共に振り返りと以降の課題を共有できるようにする。	共同
職業専門科目 職業実践科目群	作業療法総合臨床実習Ⅰ	実習目標は、作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶこととする。内容として、臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への評価介入の一連の実施方法や考え方を学んでいくこととする。また形態として実習半ばには中間評価を設け、学生と指導者共に振り返りと以降の課題を共有できるようにする。最終的な評価方法は実習指導者と学内実習の総合判定から行う。	共同
職業専門科目 職業実践科目群	作業療法総合臨床実習Ⅱ	実習目標は、作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶこととする。内容として、作業療法総合臨床実習Ⅰとは異なった分野・領域となる臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への作業療法介入の一連の実施と経過のまとめ及び再評価を通して作業療法の効果判定の考え方を学んでいくこととする。また形態として実習半ばには中間評価を設け、学生と指導者共に振り返りと以降の課題を共有できるようにする。最終的な評価方法は実習指導者と学内実習の総合判定から行う。	共同
職業専門科目 職業実践科目群	作業療法地域実習	実習目標は、地域で作業療法を行っている施設での実習を通じて、障がい者が地域で生活することの意味や困難を知り、地域医療福祉の理念やその中の作業療法の役割を理解することである。内容は地域作業療法を実施している施設にて指導者の指導のもと実習を行う。また現場で学習した内容を学校にて整理し深める。本実習が作業療法の理念に近いことを学べる内容となる為、今までの病院での実習で学んだこととの相違点を知る機会となる。その為、今後、学生自身になりたいと思う作業療法士像を明確にし、それが実現できる環境は何かを理解できることを最終到達目標とする。	共同
展開科目	マーケティング論	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶだけでなく、商品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目指す。伝統的なマーケティングの概念に加え、ソーシャルネットワークを用いたマーケティング、コンテンツマーケティングなどのトピックについても取り上げる。この授業の目的として、マーケティングの理論と実務について理解する。ケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ、生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養うこととする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	施設起業運営論	安定的な施設、企業の成長は、社員の仕事の幅を広げたり、働きがい高めたりすることはもちろん、取引先との良好な関係を通じた新しい価値の提供、さらに地域社会への貢献と幅広い成果をもたらす。しかし、世間一般に、施設、企業運営は簡単ではないとされる。なぜなら、人間関係を構築していくことが難しいからである。人間関係は、些細なことですぐに壊れてしまう。それでは、安定的な施設、企業の成長のためには日々、どんな事を考えて、実践し、良好な人間関係を構築していけばよいのだろうか。この授業では、施設や企業運営における基本原則について学び、良好な人間関係を構築し、安定的な施設、企業へと成長させるのに重要な条件を学ぶことを目標とする。本授業は、講義形式で進めるが、できるだけアクティブ・ラーニングになるように進める。	
展開科目	ボランティア論	Volunteerとは「自発的な人」を意味し、自発的な意思に基づいて社会活動を行う者を指す。ボランティア活動は、社会的連帯感に基づく公共活動、市民活動であり、医療の中で行う支援とは異なる側面がある。外来講師には具体的なボランティア活動の実例とそこでの連携の諸問題（ボランティアと医療職）を取り上げてもらう。その実例を基に今後、医療人となる学生にはボランティアとの協業の課題、自分はどのように関わることが出来るのか、その対策について考察することを目標とする。	
展開科目	子育て支援論	どのような子どもであっても（障害の有無に関係なく）子どもとの向き合い方には共通点がある。子育てに於いて子ども側からの視点で前向きに育むペアレンティングの支援方法を紹介する。特に期待値・褒めて育てる・予防的に教える・問題が生じた際の対応、落ち着く方法等具体的事例をもとに理解する 授業目標は、障害の有無に関係なく、子育てに対する基本的なペアレンティングの支援方法を理解する。具体的なほめ方、予防的な教え方、問題が生じた際の対応方法、感情の落ち着かせ方ができることを目指す。	
展開科目	災害支援論	災害時要援護者を中心とした被災者の生活支援を行う方法を学ぶ。救出・避難期における初期対応の技術や避難所の立ち上げから自立して生活を形作るまで段階に応じた支援について理解を深め、災害が生じた時のリハビリテーション職種としての支援について考えることを目標とする。内容は、災害と災害支援、地域における災害支援、災害時要援護者支援、救出・避難期の緊急対応、避難所の立ち上げ・運営の方法、避難所生活期の支援方法、仮設住宅生活期の支援などを講義と演習を通して理解を深める。	講義8時間 演習7時間
展開科目	教育支援論	社会の中で学校教育や学校教員の仕事や役割、また障害をもつ子どもに対して学校で取り組まれている教育支援や課題について理解を深め、リハビリテーション職種として学校教育支援を考えることを目的とする。 内容は、学校教育に関する制度・政策、教育の理念と思想、社会の中での学校教育の位置づけ、学校教員の仕事や役割、障害をもつ子どもへの教育支援の歴史、障害を持つ子どもへの通級学級・特別支援学級・特別支援学校での教育的取り組みと課題について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	メンタルヘルスマネジメント論	自らのストレスの状況や状態を適切に把握し、不調に早期に気づき、必要があれば他人に助けを求めることの重要性を理解する。また、管理監督者向けの内容も予定しており、部下への配慮の仕方、部下が不調に陥らないような安全配慮義務に則った対応を詳述する。 目標は、心の健康管理（メンタルヘルス・マネジメント）への取り組みの重要性を理解し、ストレスやその原因となる問題に対処する方法を理解する。また働く人のメンタルヘルス不調の未然防止に関する知識や対処方法を習得する。	
展開科目	障がい者スポーツ論	障がい者のスポーツ活動に関する、歴史的な背景や文化を含め、障がいの理解、障がい者の理解を深めるために、歴史・思想、社会的・制度的観点、指導方法についての知識を習得することを目標とする。全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育んでいくためのスポーツと社会の在り方について理論を学ぶ。また、実際に障がい者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について講義を行う。そして、地域の障がい者スポーツ指導者として活動できる知識を得る。	
展開科目	障がい者スポーツ論実習	健康の維持増進に寄与する障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。障がい者スポーツは、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、より高度な想像力、実践力を育むことを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (19 安田 孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者を交えて演習を行う。 (20 池谷 雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分について解説。また、競技の指導法と規則について障がい者を交えて演習を行う。 (⑧ 大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。	オムニバス方式 実習20時間 講義10時間
展開科目	地域社会共生論	目標は、地域共生の基本的概念の理解を深める。授業は、各学生が住んでいる地域の人口動態、出生率、転居率、高齢者率、障害者手帳の受給率、生活状況、医療施設数、障害者の社会復帰施設数などの基本的情報などを調べ、データから地域課題を把握する。外来講師として、民生委員、こども食堂、家族会、スポーツ活動の推進者といった医療福祉領域外の人を招くことで、地域共生に向けた多視点的な視野を学ぶことにより、基本的概念の習得をはかる。	
展開科目	地域社会共生論実習	実際の地域社会共生を目指した事業への参加体験を通して、地域共生社会への理解を深めることが目標である。具体的には、実際の事業（障害者の社会参加を目指した行事など）に参加する前に、地域の障害者（児）の現状や地域での暮らしについて考え、地域をともに作り出す地域共生に向けたプランを小グループで作成し発表を行う。そして実際に事業に参加した後、提案した案の加筆修正を行い、より実現可能なプランへとブラッシュアップしていく。最終的に小グループで発表を行わせることで、他者と協業する技術も身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	精神障がい者就労環境論	<p>目標は、心理精神に障害のある方への就労の基本的知識の理解である。内容は、障害者就労支援制度と障害者雇用施策、実際に滋賀の就労支援事業といった諸政策の概要、就労支援に係る組織・団体の役割と実際、就労支援に係る専門職の役割と実際、就労支援分野と企業業務の実際と求められる人材について講義を中心に学ぶ。就労支援が円滑に運ぶ為には当事者、企業、就労支援者をもつ信念の対立構造をいかに回避できるかにかかっている。この後の実習で具体的な事例を学ぶ前に就労支援に関する構造理解の為の基礎知識を学ぶ。</p>	
展開科目	身体障がい者就労環境論	<p>人は一生を通じて、様々な段階で心身の機能に障害をきたす。治療等により機能を回復する場合もあれば、身心の機能障害が持続したり進行する場合もある。加齢も心身の機能低下の原因となる。2001年にWHOが採択した「国際生活機能分類(ICF:International Classification Functioning, Disability and Health)」では、身心の機能に障害があったとしても、環境の改善や社会制度の整備を通じて、活動の制限や社会参加に関する制約を最小化する概念を提示した。我が国でも、以後、「障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現」が追求され、企業での障害者雇用が義務付けられたり、新たな法制度の制定により様々な社会場面での障害者差別の解消が図られている。本教科では、①身体障害を中心に障害特性を理解する。②成人障害者の二次障害の発生実態とその発生要因を理解する。③良好な成果が得られた障害者の就労環境改善事例から、障害者の就労環境の改善に至るアプローチを学び、模擬改善計画が作成できる。ことを目標とする。</p>	
展開科目	就労環境論実習	<p>目標は、実際の就労支援現場の視察を通して、滋賀県の現在の就労支援にまつわる課題への理解を深めることである。滋賀県の心理精神の障害のある方の就労支援に作業療法士が関わっている事例が少ない為、その問題の背景を調査、分析することが当面の課題になる。就労支援事業所へのフィールドワークや障害者雇用に関心のある事業所での講義(例えば、精神障害者の生活障害について)やアンケート調査(例えば、障害者就労に関して障壁となること)を実施することで、滋賀県の心理精神の障害のある方の就労に関する現状を理解する。成果物は関連学会で発表をすることを目指す。</p>	
展開科目	老年期地域生活適応論	<p>滋賀県またはその地域における人口減少と高齢化の現状から地域特性について理解を深め、地域の抱える課題を知り、その解決にむけた思考を議論を通じて学ぶことを目標とする。内容は、滋賀県やその地域特性、人口と高齢化の現状、地域でくらす高齢期の特徴と課題、認知症高齢者のケアの現状、安全で健康的な高齢者の社会生活、また地域で行われている高齢者支援等について学び、他府県の地域事例、グループワークにて地域課題と解決案、その有効性や実現可能性について議論し解決策をまとめて発表を行う。</p>	
展開科目	老年期地域生活適応論実習	<p>人口減少と高齢化が進む滋賀県やその地域の抱える課題を知り、その解決にむけた思考を議論を通じて学ぶことを目標とする。学内の事前学習にて高齢者支援事業の役割や内容を学び、地域で生活する高齢者支援課題等を整理する。地域のフィールドワークでは、事業所等の社会資源を利用して暮らす高齢者の現状、または安全で健康的な高齢者の社会生活をささえる高齢者支援について学習する。学内にてフィールドワークで得た情報をグループワークにて現状のまとめを行い、議論を通して課題の発見と解決にむけて思考し発表を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	成人期地域生活適応論	地域の施設で暮らす成人期から老年期を迎えた障害者の現状やその生活と困難さや、また支援者の抱える課題を理解することを目標とする。内容としては、地域で生活する成人期障害者の現状、理念、制度、地域障害者施設の歴史と現在、成人期を迎えた家族の想い、福祉支援職の役割、現状の生活と困難、支援者の抱える課題について講義とグループディスカッションを通して学習する。本授業で取り上げる対象者は施設生活の方なので、施設の中でのパターン化した生活を滞りなく行えることに学生の視点は向いてしまう。その為、対象者の生活を支援することは、その生活を組み立てる対象者にとっての意味ある行為を支援していくことを学び理解を深める。	
展開科目	成人期地域生活適応論実習	地域の施設で暮らす成人期から老年期を迎えた障害者の現状やその生活と困難さ、また支援者の抱える課題とその解決にむけた思考を議論を通じて学ぶことを目標とする。地域の施設にてフィールドワークやアンケート調査を行い、施設で暮らす成人期の障害を持たれた方の生活状況や施設で働く支援職員の役割や施設での暮らしについて学習し、学内にて施設で得た情報の整理を行い、支援職員の抱える課題やその解決策について小グループに分かれて議論しその内容を発表する。	
展開科目	児童地域生活適応論	近年、保育所など地域施設での発達障害がある子ども・「気になる子」の受け入れや「早期の気づきと対応」の充実が求められる。しかし、滋賀県では保育所などで子どもの発達支援や育児支援に携わる作業療法士が少ないのが現状である。今後、保育の現場で保育士や支援員と共同で子どもの発達支援にあたるように職種理解から作業療法士の専門性の活用について考える必要がある。本講義では、保育所や学童保育の制度的な位置づけや役割を知り、保育士や支援員の専門性と支援内容や方法から職種の理解を深めることを目的とする。	
展開科目	児童地域生活適応論実習	現場の保育所等事業所における役割や保育の流れを理解し、子どもの育ちとその子どもに応じた保育士等の児童支援職の援助や役割について理解を深める。また発達障害をもつ子どもや気になる子どもに対する事業所での支援の現状について学ぶ。フィールドワークやアンケート調査を通して事業所の現状や児童支援職の役割や専門性のまとめを行い、小グループに分かれて地域での児童の生活とその支援について、また児童支援の中で「作業」（多くは遊びとされている）はどのように意味をもって活用されているかを議論しその内容を発表する。	
総合科目	協働連携論総合実習	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。	共同 同時に授業を行う 学生数：120人 教育上必要な理由は、3年間で学んだ多職種連携をシミュレーションするため両学科混合で行うことで、教育効果が期待できる。なお、授業には4名の教員が入り指導するため、教育上支障はない。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	作業療法総合実習Ⅰ	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することを目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるかを発見するために、作業療法評価を応用・活用する方法について学修する。これまでの展開科目や実習で得た情報、事例を基にグループワークを通じて、作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学修する。	共同
総合科目	作業療法総合実習Ⅱ	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談（事例）から、地域障害者の課題をグループごとに発見し、分析することで応用力を育成する。	共同

## 学校法人藍野大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和元年度  
 入学 編入学 収容  
 定員 定員 定員

令和2年度  
 入学 編入学 収容  
 定員 定員 定員 変更の事由

藍野大学			
医療保健学部	3年次		
看護学科	90	2	364
理学療法学科	80		320
作業療法学科	40		160
臨床工学科	40		160
計	250	2	1004
藍野大学大学院			
看護学研究科			
看護学専攻	6		12
計	6		12
藍野大学短期大学部			
第一看護学科(2年制)	100		200
専攻科 地域看護学専攻(1年制)	40		40
第二看護学科(3年制)	80		240
計	220		480
滋賀医療技術専門学校			
理学療法学科	80		160
作業療法学科	40		80
計	120		240

→

<u>びわこリハビリテーション専門職大学</u>				大学新設
<u>リハビリテーション学部</u>				
理学療法学科	80		320	
作業療法学科	40		160	
			120	480
藍野大学				
医療保健学部	3年次			
看護学科	115	2	464	定員変更(25)
理学療法学科	100		400	定員変更(20)
作業療法学科	40		160	
臨床工学科	40		160	
計	215	2	1184	
※平成31年3月収容定員変更認可申請				
藍野大学大学院				
看護学研究科				
看護学専攻	6		12	
計	6		12	
藍野大学短期大学部				
第一看護学科(2年制)	100		200	
専攻科 地域看護学専攻(1年制)	40		40	
第二看護学科(3年制)	80		240	
計	220		480	
滋賀医療技術専門学校				※平成33年3月閉校予定
理学療法学科	80		80	
作業療法学科	40		40	
計	120		120	

令和2年度 私立学校等の位置及び校地の状況を明らかにする図面  
(びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部)





メモ



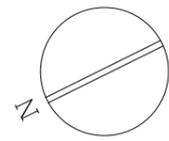
能登川駅（東海道本線）



滋賀医療技術専門学校  
びわこリハビリテーション専門職大学

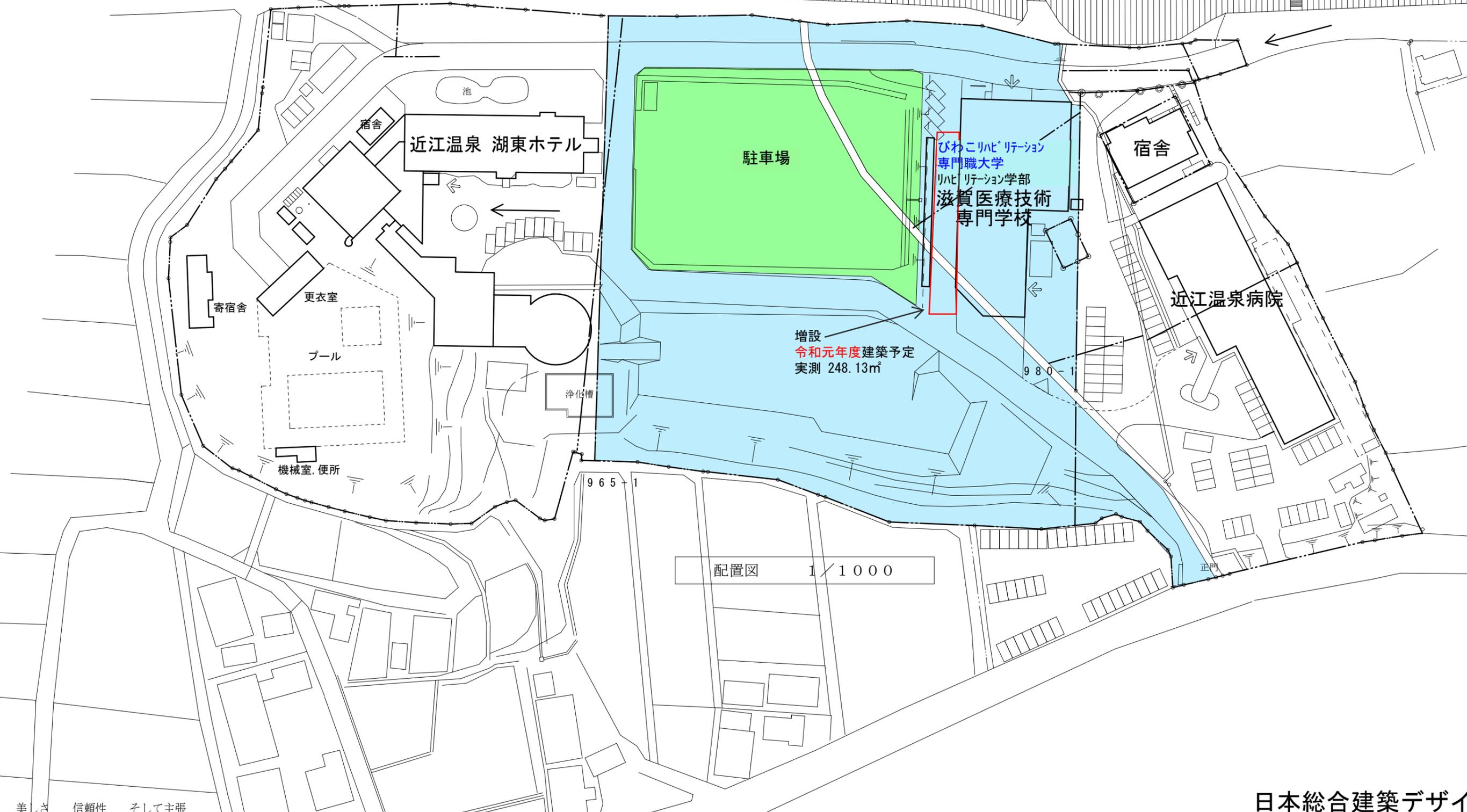
総距離	13.3km
所要時間	27分
	10/19 16:20 出発→10/19 16:47頃 到着
ETC料金	0円（普通車）
一般料金	0円

JR能登川駅付近の駐車場  
と大学（専門学校含む）間は  
本学の専用バスで送迎を行う。

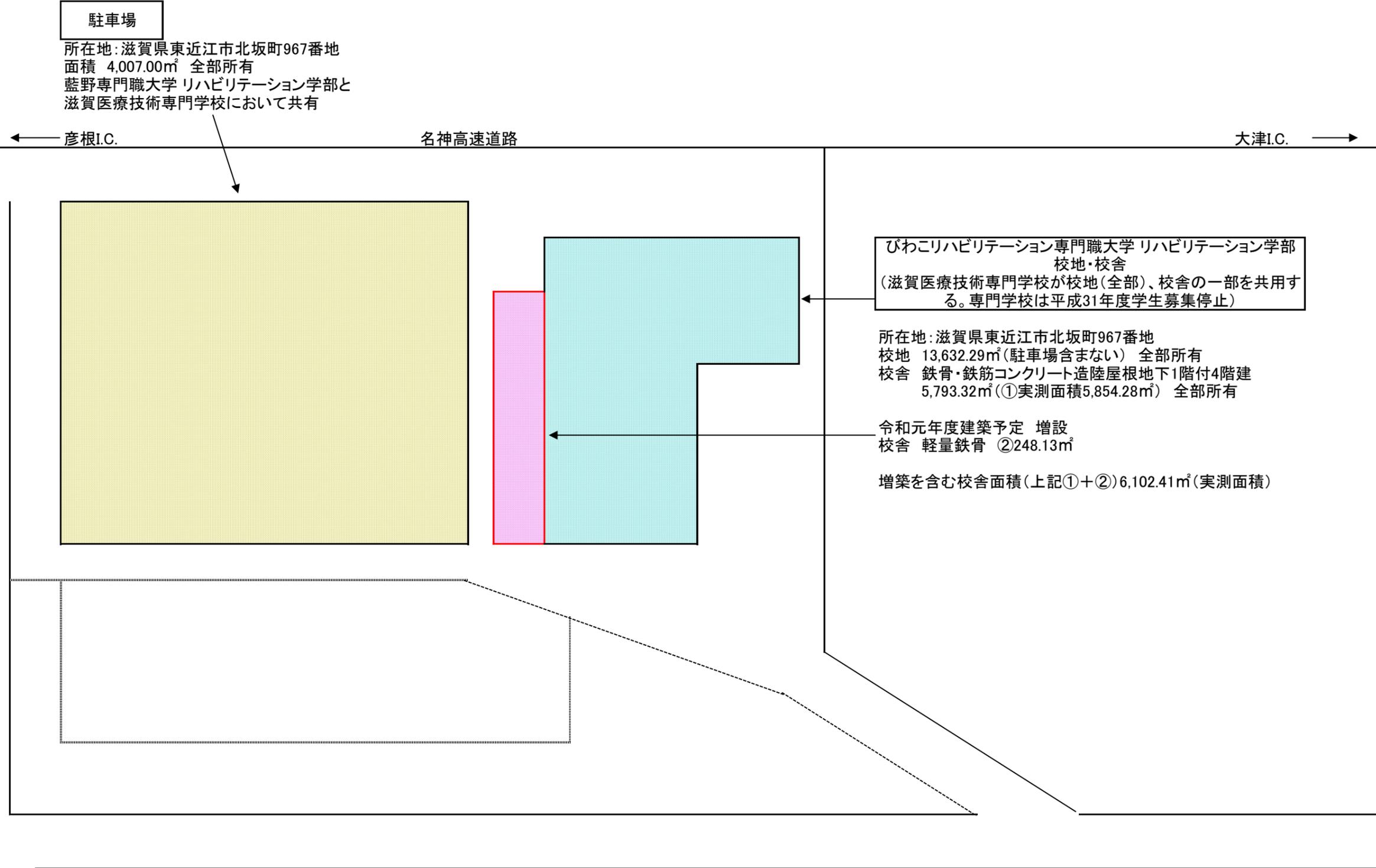


令和2年度 私立学校等の位置及び校地の状況を明らかにする図面  
 (びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部)  
名神高速道路

3



令和2年度 私立大学等の位置及び校地の状況を明らかにする図面(びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部)



# びわこリハビリテーション専門職大学学則

## 第 1 章 総 則

(目的)

第 1 条 びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学」という。）は、リハビリテーションに関する実践的かつ応用的な能力を展開するための教育研究により、高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付けた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献することを目的とする。

(自己点検及び自己評価)

第 2 条 本学は、教育・研究の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価に必要な細部については、別に定める。

## 第 2 章 構 成

(学部及び学科)

第 3 条 本学に次の学部及び学科を置く。

リハビリテーション学部 理学療法学科  
作業療法学科

(学部及び学科の教育研究上の目的)

第 4 条 リハビリテーション学部の目的は、次の 2 点となる。

- (1) 高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。
- (2) 地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。

2 理学療法学科の目的は、次の 2 点となる。

- (1) 理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。
- (2) 理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸と QOL 維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を養成する。

3 作業療法学科の目的は、次の 2 点となる。

- (1) 子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。
- (2) 地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の

実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。

(事務局)

第5条 本学に事務部を置く。

2 事務組織及び事務分掌に関する規程は、別に定める。

### 第3章 学生定員及び修業年限

(学生定員)

第6条 入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
リハビリテーション学部 理学療法学科	80名	320名
作業療法学科	40名	160名

(修業年限及び在学期間)

第7条 修業年限は4年とする。

2 学生は、休学の期間を除き8年を超えて在学することができない。

### 第4章 学年・学期及び休業日

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第9条 学期を分けて次の2期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(授業日数)

第10条 年間の授業日数は定期試験等の期間を含め、原則として35週とする。

(休業日)

第11条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 開学記念日 5月1日

(4) 春期休業 3月14日から3月31日まで

(5) 夏期休業 8月10日から9月20日まで

(6) 冬期休業 12月27日から1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

## 第 5 章 教育課程及び履修方法等

### (授業科目の区分)

第 12 条 授業科目を分けて、基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目とする。

2 授業科目の種類、単位数、開講年次及び必修、選択科目、自由科目の別等は、別表 1 のとおりとする。

### (単位の計算方法)

第 13 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 演習については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 実験、実習及び実技等については、30～45 時間をもって 1 単位とする。

(4) 1 の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して教授会の定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(5) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、単位数を定めることができる。

### (他の大学等における授業科目の履修等)

第 14 条 教授会が教育上有益と認めるときは、他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは外国の短期大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60 単位を超えない範囲で本学における卒業に必要な単位として認めることができる。

### (大学以外の教育施設等における学修)

第 15 条 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 2 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えてはならない。

### (入学前の既修得単位等の認定)

第 16 条 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生制度により修得した単位を含む。）を本学において修得したものとして認定することができる。

2 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が本学の入学前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力（本学において修得させることとしているものに限る。）を修得している場合において、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学における授業科目の履修とみなし、30 単位を超えない範囲で単位を与えることができる。

4 前 3 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、再入学の場合を除き、第 14 条第 1 項及び前条第 1 項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせ

て 60 単位を超えてはならない。

5 本学に入学した者の既修得単位の認定等に関する事項は、別に定める。

(単位の授与)

第 17 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(追試験)

第 18 条 病気その他本学が認めたやむをえない事由のため、定期試験に欠席した者は、追試験によって単位の修得の認定を受けることができる。

(再試験)

第 19 条 試験の成績が不合格のため、単位の修得認定を受けることができない授業科目については、再試験を行うことがある。

(成績の評価)

第 20 条 授業科目の成績の評価は、A、B、C、D をもって表し、A、B、C を合格とし D を不合格とする。

2 前項の評価は、100 点をもって満点とし、A(80 点以上)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満)とする。

3 第 1 項の規定にかかわらず、他大学等において修得した単位を認定する場合は、N(認定)とする。

4 授与又は認定した単位の取消しは、これを認めない。

(委任)

第 21 条 この章に規定するものの他、教育課程及び履修方法等に関し必要な事項は、別に定める。

## 第 6 章 卒業の要件及び学位

(卒業の要件)

第 22 条 休学期間を除き、本学に 4 年以上在学し、次表の単位数を修得した者には教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

学 部	学 科	各科目合計で修得すべき単位数
リハビリテーション学部	理学療法学科 (2020 年度入学生) 作業療法学科 (2020 年度入学生)	131 単位以上 130 単位以上

2 卒業に必要な単位の修得に関する詳細は、別表 1 に定める。

(学士)

第 23 条 学長は、卒業を認定した者に対して、学士の学位を授与する。

2 学士の学位は、次の区分によるものとし、学位の授与等に関する規定は、びわこリハビリテーション専門職大学学位規程に定める。

リハビリテーション学部 理学療法学士（専門職）、作業療法学士（専門職）

## 第 7 章 入学・休学及び退学

(入学の時期)

第 24 条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学の資格)

第 25 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第一号）により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18 歳に達した者

(入学の出願)

第 26 条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 前項の書類の提出時期、方法及び提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第 27 条 前条の規定により入学を志願した者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び許可)

第 28 条 前条の規定による選考に合格した者は、所定の期日までに本学所定の書類を提出すると共に、別に定める納付金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の規定による手続を完了した者に入学を許可する。

(再入学)

第 29 条 第 30 条（退学）の規定により、退学を許可された者で再入学を志願する者があるときは、

別に定めるところにより選考の上、教授会の議を経て、学長は相当年次に入学を許可することができる。

(退学)

第 30 条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第 31 条 疾病その他やむを得ない事情により 2 ヶ月以上就学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 学長は疾病のため就学することが適当でない認められる者については、休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第 32 条 休学の期間は、1 年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続きさらに 1 年まで延長することができる。

2 休学期間は、通算して 3 年を超えることができない。

3 休学期間は、第 7 条第 2 項の在学期間に算入しない。

(復学)

第 33 条 休学の期間が満了したとき又はその期間中に当該休学の事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学するものとする。

(除籍)

第 34 条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

(1) 第 7 条第 2 項の規定による在学年限を超えた者

(2) 休学の期間が満了し、復学を願い出ない者

(3) 第 32 条第 2 項の規定する休学の期間を超えた者

(4) 授業料その他学費の納付を怠り、所定の期日までに授業料等の学納金を納入しない者

(5) 死亡又は行方不明の届出のあった者

## 第 8 章 学 費

(学費)

第 35 条 入学検定料、入学金、授業料、実験実習費、施設設備費の金額、納入方法及び納入期日については、別表 2 に定める。

2 休学した学生については、休学した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。ただし、休学期間が当該期間全域にわたる場合はその期の授業料及び実習実験費は免除する。納入期の単位は、前期と後期の 2 期とし、月割り等の計算はしない。

3 復学した学生については、復学した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。納入期の単位は、前期と後期の 2 期とし、月割り等の計算はしない。

4 退学し、又は除籍されたとき、若しくは退学の処分を受けた学生については、退学又は除籍した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。納入期の単位は、前期と後期の 2 期とし、月割り等の計算はしない。

(納付金の返還)

第 36 条 既に納付した入学検定料、学費及びその他の納付金は返還しない。ただし、年初に年間学費を納付し、後期全域にわたる休学が認められた場合又は前期中に退学した場合若しくは除籍となった場合は、その限りでない。

(学費の未納)

第 37 条 授業料その他の納付を怠った者は、別に定めるところにより定期試験等の受験を停止し、又は除籍することがある。

## 第 9 章 職員組織

(職員)

第 38 条 本学に教授、准教授、講師、助教、助手並びに事務職員及びその他の職員を置く。

(役職)

- 2 本学に学長、学部長を置く。
- 3 学長は必要に応じて副学長及び第 1 項のほか必要な職員を置くことができる。

## 第 10 章 教授会、運営会議

(教授会)

第 39 条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。

- 2 前項にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、その他必要な職員を加えることができる。
- 3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。学部長に事故ある時は、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。
- 4 教授会の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。

(運営会議)

第 40 条 本学に運営会議を置き、全学的な教学の方針、企画及び執行等の教学運営を司る。

- 2 運営会議の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。

## 第 11 章 教育課程連携協議会

(教育課程連携協議会)

第 41 条 本学に、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するため、教育課程連携協議会を置く。

- 2 教育課程連携協議会に関する事項は別に定める。

## 第 12 章 科目等履修生、聴講生及び外国人学生

(科目等履修生、聴講生)

第 42 条 本学の又一又は複数の授業科目の履修を志願するものについては、授業及び研究に支障をきたさない限りにおいて、選考の上、聴講生又は科目等履修生としてこれを許可することがある。

- 2 科目等履修生及び聴講生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人学生)

第 43 条 外国人で入学を志願する者については、選考の上、入学を許可することがある。

2 外国人学生に関して必要な事項は、別に定める。

## 第 13 章 賞 罰

(表彰)

第 44 条 品行方正、かつ、学術優秀な者又は学生として模範的行為があった者については、学長は、教授会の議を経て、これを表彰することができる。

(罰則)

第 45 条 本学の規則に反し、又は学生としての本分に反した者については、学長は、教授会の議を経て、懲戒することができる。

(1) 学業成績不良で成業の見込がないと認められた者

(2) 性行不良で改善の見込がないと認められた者

(3) 正当な理由なくして出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

2 懲戒の種類は、譴責、戒告、停学及び退学とする。

3 前項の停学期間は、在学年限に算入する。

4 学生の主催する学内団体で本学の精神にもとるもの及び、著しく学内の秩序を乱したものに対しては、解散、その他必要措置を命ずることができる。

## 第 14 章 公開講座

(公開講座)

第 46 条 地域住民の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する事項は別に定める。

附 則

1 この学則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

学則第12条 別表1

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部 理学療法学科

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1									【卒業要件】 次により、必修科目109単位、選択科目22単位以上を修得すること。
	コミュニケーション論	15	1			1									
①基礎科目	人間と社会系科目	音楽	15		1			1							1. 基礎科目20単位以上 (1) 必修科目10単位 (2) 選択科目10単位以上  ・人間と社会系科目の内から6単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計10単位以上を修得すること。  2. 職業専門科目87単位以上  (1) 必修科目83単位 (2) 選択科目4単位  3. 展開科目20単位以上  (1) 必修科目12単位 (2) 選択科目8単位以上  4. 総合科目4単位 (1) 必修科目4単位
		キャリア発達論	15	1					1						
		教育学	15	1			1								
		倫理学入門	15	1			1								
		哲学入門	15		1		1								
		心理学	15	1				1							
		経営学入門	15		1				1						
		社会学	15		1		1								
		日本の伝統文化	15		1		1								
		日本の近代史	15		1		1								
体育	15		1			1									
自然科学系科目	生物学	15	1			1									
	物理学Ⅰ	15	1			1									
	物理学Ⅱ	15		1			1								
	統計学	15	1					1							
	数学	15		1		1									
語学教育科目	英語Ⅰ	15	1			1									
	英語Ⅱ	15		1			1								
	韓国語	15		1				1							
	中国語	15		1				1							
理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	60	2			2									
	解剖学Ⅱ	60	2				2								
	解剖学Ⅲ	30	1				1								
	生理学Ⅰ	60	2			2									
	生理学Ⅱ	60	2				2								
	運動学Ⅰ	30	1				1								
	運動学Ⅱ	30	1					1							
	運動学実習	30	1						1						
	運動生理学実習	30	1						1						
	人間発達学	15	1				1								
	救急援助論	15	1					1							
	内科学Ⅰ	30	1					1							
	内科学Ⅱ	30	1						1						
	神経内科学Ⅰ	30	1					1							
	神経内科学Ⅱ	30	1						1						
	整形外科Ⅰ	30	1					1							
	整形外科Ⅱ	30	1						1						
	精神医学	15	1				1								
	小児科学	30	1					1							
	老年医学	30	1					1							
	薬理学概論	15	1				1								
	予防医学	15	1						1						
	画像診断学	15	1					1							
	栄養学	15	1					1							
	社会福祉学	15	1						1						
	地域包括ケア論	30	1							1					
	リハビリテーション概論	30	1				1								
	②職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	15	1			1							
基礎理学療法Ⅱ			15	1			1								
基礎理学療法実習Ⅰ			30	1				1							
基礎理学療法研究法			15	1						1					
基礎理学療法実習			30	1				1							
臨床技能論実習			30	1						1					
理学療法管理学			15	1									1		
保健医療福祉関連制度論			15	1									1		
理学療法評価学			30	1				1							
理学療法評価学実習			60	2					2						
理学療法評価学演習			30	1							1				
画像評価学			15	1						1					
運動療法学			30	1					1						
運動療法学実習			30	1						1					
徒手理学療法学			15	1							1				
徒手理学療法実習			30	1								1			
物理療法学			15	1					1						
日常生活活動学			30	1					1						

	義肢装具学Ⅰ	30	1				1								
	義肢装具学Ⅱ	30	1					1							
	神経障害系理学療法実習Ⅰ	30	1						1						
	神経障害系理学療法実習Ⅱ	30	1							1					
	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	30	1						1						
	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	30	1								1				
	内部障害系理学療法実習Ⅰ	30	1									1			
	内部障害系理学療法実習Ⅱ	30	1										1		
	小児期理学療法演習	30	1							1					
	老年期理学療法演習	30	1								1				
	スポーツ障害系理学療法実習	30	1							1					
	神経筋骨格障害応用論実習	90		2										2	
	内部障害応用論実習	90		2										2	
	スポーツ障害応用論実習	90		2										2	
	地域理学療法学	15	1							1					
	地域理学療法学実習	30	1								1				
	理学療法見学実習Ⅰ	45	1			1									
	理学療法見学実習Ⅱ	45	1				1								
	理学療法見学実習Ⅲ	45	1					1							
	理学療法評価実習	180	4								4				
	理学療法総合臨床実習Ⅰ	270	6									6			
	理学療法総合臨床実習Ⅱ	270	6										6		
	理学療法地域実習	45	1											1	
③ 展 開 科 目	マーケティング論	15	1										1		
	施設起業運営論	15	1											1	
	ボランティア論	15	1				1								
	生涯スポーツ論	15	1			1									
	労働衛生論	15	1				1								
	子育て支援論	15	1					1							
	災害支援論	15	1						1						
	教育支援論	15	1							1					
	メンタルヘルスマネジメント論	15		1										1	
	地域共生論	30	2									2			
	障がい者スポーツ論	15	1											1	
	障がい者スポーツ論実習	30	1											1	
	スポーツリズムトレーニング論	15		1										1	
	体力測定論	15		1										1	
	健康増進実践演習	30		1										1	
	健康増進実践実習	30		1										1	
	パフォーマンス向上論	15		1										1	
	フィットネス論	30		2										2	
	ランニングトレーニング論	30		2										2	
	ゴルフトレーニング論	30		2										2	
	ビジョントレーニング論	30		2										2	
	遊びとレクリエーション	15		1										1	
	生きがい創造	30		2										2	
	伝承遊び	30		2										2	
	シューフィッティング論	15		1										1	
	福祉工学地域活用論	15		1										1	
	ロボット工学地域活用論基礎	15		1										1	
	ロボット工学地域活用論応用	30		2										2	
	身体障がい者就労環境論	30		2										2	
	組織運営論	30		2										2	
	総 目 合 科	協働連携論総合実習	60	2											2
		理学療法総合実習	30	1											1
		リハビリテーション総合演習	30	1										1	

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部 作業療法学科

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
①基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								卒業要件 次により、必修科目118単位、選択科目12単位以上を修得すること。  基礎科目（20単位以上）  必修科目 11単位 選択科目 9単位以上  ・人間と社会系科目の内から5単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計9単位以上を修得すること。  職業専門科目（86単位） 必修科目 86単位  展開科目（20単位以上）  必修科目 17単位 選択科目 3単位  総合科目（4単位） 必修科目 4単位	
	科目	コミュニケーション論	15	1			1									
	人間と社会系科目	音楽	15		1			1								
		キャリア発達論	15	1					1							
		教育学	15	1			1									
		倫理学入門	15	1			1									
		哲学入門	15		1		1									
		心理学	15	1				1								
		経営学入門	15		1				1							
		社会学	15	1			1									
		日本の伝統文化	15		1		1									
		日本の近代史	15		1		1									
	体育	15		1			1									
	自然科学系科目	生物学	15	1			1									
		物理学Ⅰ	15	1			1									
		物理学Ⅱ	15		1			1								
		統計学	15	1					1							
		数学	15		1		1									
	語学教育科目	英語Ⅰ	15	1			1									
		英語Ⅱ	15		1			1								
韓国語		15		1				1								
中国語		15		1					1							
②職業専門科目	職業実践科目群	解剖学Ⅰ	60	2			2									
		解剖学Ⅱ	60	2				2								
		解剖学Ⅲ	30	1				1								
		生理学Ⅰ	60	2			2									
		生理学Ⅱ	60	2			2									
		運動学Ⅰ	30	1			1									
		運動学Ⅱ	30	1				1								
		運動学実習	30	1					1							
		人間発達学	30	1				1								
		救急援助論	15	1				1								
		内科学Ⅰ	30	1					1							
		内科学Ⅱ	30	1						1						
		神経内科学Ⅰ	30	1						1						
		神経内科学Ⅱ	30	1							1					
		整形外科Ⅰ	30	1						1						
		整形外科Ⅱ	30	1							1					
		精神医学	30	1							1					
		小児科学	30	1						1						
		老年医学	30	1						1						
		薬理学概論	15	1				1								
		予防医学	15	1							1					
		画像診断学	15	1						1						
		栄養学	15	1						1						
		社会福祉学	15	1							1					
		地域包括ケア論	30	1							1					
リハビリテーション概論	30	1				1										
作業療法学総論	30	1				1										
基礎作業学	15	1				1										
基礎作業学実習Ⅱ	30	1					1									
基礎作業学実習Ⅰ	30	1				1										
作業療法研究法	15	1								1						
作業療法管理・制度論	15	1					1									
作業療法と倫理	15	1					1									
作業療法評価学総論	30	1					1									
身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	30	1						1								
身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	30	1						1								
精神障害作業療法評価学実習	30	1						1								
発達障害作業療法評価学実習	30	1						1								
身体障害作業療法基礎技術論	30	1							1							
運動器疾患作業療法学実習	30	1							1							
中枢神経疾患作業療法学実習	30	1							1							
高次脳機能障害作業療法学実習	30	1								1						
精神障害作業療法学	30	1								1						
精神障害作業療法学実習	30	1								1						
発達障害作業療法実習Ⅰ	30	1								1						
発達障害作業療法実習Ⅱ	30	1								1						

	老年期障害作業療法学	30	1					1										
	老年期障害作業療法学実習	30	1						1									
	日常生活活動論実習	30	1					1										
	社会生活行為論実習	30	1					1										
	作業分析活用論	30	1						1									
	作業分析活用論実習	30	1						1									
	家族援助論	15	1						1									
	住環境支援論	30	1							1								
	作業療法義肢装具実習	30	1						1									
	生活行為向上マネジメント論実習	30	1							1								
	地域生活作業療法総論	30	1					1										
	地域生活作業療法学実習Ⅰ	30	1						1									
	地域生活作業療法実習Ⅱ	30	1						1									
	地域生活作業療法実習Ⅲ	30	1							1								
	作業療法見学実習Ⅰ	45	1			1												
	作業療法見学実習Ⅱ	45	1				1											
	作業療法評価実習	225	5							5								
	作業療法臨床総合実習Ⅰ	315	7								7							
	作業療法臨床総合実習Ⅱ	315	7									7						
	地域作業療法実習	45	1									1						
③ 展開科目	マーケティング論	15	1						1									
	施設起業運営論	15	1							1								
	ボランティア論	15	1		1													
	子育て支援論	15	1			1												
	災害支援論	15	1			1												
	教育支援論	15	1				1											
	メンタルヘルスマネジメント論	15	1				1											
	障がい者スポーツ論	15	1									1						
	障がい者スポーツ論実習	30	1										1					
	地域社会共生論	30	2		2													
	地域社会共生論実習	45	1			1												
	精神障がい者就労環境論	30	2									2						
	身体障がい者就労環境論	30	2									2						
	就労環境論実習	30	1										1					
	老年期地域生活適応論	30		2								2						
	老年期地域生活適応論実習	45		1									1					
	成人期地域生活適応論	30		2								2						
	成人期地域生活適応論実習	45		1									1					
	児童期地域生活適応論	30		2								2						
児童期地域生活適応論実習	45		1									1						
総合科目	協働連携論総合実習	60	2														2	
	作業療法総合実習Ⅰ	30	1														1	
	作業療法総合実習Ⅱ	30	1														1	

学則第 35 条 別表 2

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

1. 入学検定料

(単位：円)

	入学検定料
理学療法学科	30,000
作業療法学科	30,000

2. 入学金、授業料等

年額 (単位：円)

	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費
理学療法学科	400,000	900,000 (各期 1/2)	100,000	200,000
作業療法学科	400,000	900,000 (各期 1/2)	100,000	200,000

3. 納入期日

	前期	後期
理学療法学科	8月25日	3月31日
作業療法学科		

※新入学生の入学時における学費は、別に定める期日までに納入しなければならない。

# びわこリハビリテーション専門職大学教授会規程

## (目的)

第1条 この規程は、びわこリハビリテーション専門職大学学則第39条第4項の規定に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学教授会（以下「教授会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (構成)

第2条 教授会は、教授及び准教授（以下、「構成員」という。）をもって組織する。

2 教授会は、学部長が議長となる。

3 学部長に事故あるときは、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。

## (開催)

第3条 教授会は、原則として毎月（8月を除く。）1回定例に開催する。ただし、緊急に開催する場合は、この限りでない。

2 学部長は、構成員の4分の1以上から開催要求があったときは、教授会を招集しなければならない。

## (開催通知)

第4条 教授会を招集するに当たっては、予め審議事項等を記載した書面をもって学部長がこれを招集する。

## (定足数)

第5条 教授会は、教授（休職中及び外国出張中の者を除く。）の3分2以上の出席がなければこれを開くことができない。ただし、別段の定めがあるときはこの限りでない。

## (審議事項)

第6条 教授会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

一 学生の入学、卒業及び除籍

二 学位の授与

三 教育課程、試験及び単位認定

四 教員の資格審査

五 学生の賞罰

六 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3 第1項第4号の事項の審議は、教授をもって行う。

(議事及び議決)

第7条 教授会の議事は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第8条 議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させて説明又は意見を聴くことができる。

(議事録の作成)

第9条 教授会の議事については、議事録を作成し、次回の教授会（やむを得ない事情があるときは、その次の教授会）において確認するものとする。

(庶務)

第10条 教授会に関する庶務は、事務部総務課において処理する。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃については、学長が発議し、理事会の議を経て行う。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、教授会に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学長が別に定める。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

## 目次

<b>1.</b>	<b>設置の趣旨及び必要性</b> .....	<b>p.1</b>
1)	学校法人藍野大学の歩みと専門職大学設置の趣旨 .....	p.1
2)	社会的背景 .....	p.4
3)	今後求められる人材として必要な能力 .....	p.6
4)	教育研究上の目的 .....	p.7
5)	専門職大学で養成する必要性と既設大学・既設専門学校との違い .....	p.9
6)	産業界等とのかかわり .....	p.18
<b>2.</b>	<b>学科・専攻の特色</b> .....	<b>p.19</b>
1)	特色 .....	p.19
2)	定員 .....	p.22
<b>3.</b>	<b>学部・学科等の名称及び学位の名称</b> .....	<b>p.23</b>
1)	大学・学部・学科等の名称 .....	p.23
2)	学位の名称 .....	p.24
<b>4.</b>	<b>教育課程の編成の考え方及び特色</b> .....	<b>p.25</b>
1)	教育課程の編成及び実施の方針 .....	p.25
2)	必要な授業科目の開設と不断の見直し体制 .....	p.32
3)	授業科目の開設 .....	p.33
4)	教育課程における実習等の配当 .....	p.44
5)	実習先の有効性 .....	p.45
<b>5.</b>	<b>教員組織等の編成の考え方及び特色</b> .....	<b>p.47</b>
1)	教員組織の編成 .....	p.47
2)	教育課程を見直す体制 .....	p.48
3)	主要科目の担当 .....	p.49
4)	実務家教員の編成 .....	p.52
5)	研究業績を有した実務家教員 .....	p.56
6)	みなし専任教員 .....	p.60
<b>6.</b>	<b>教育方法、履修指導方法及び卒業（修了）要件</b> .....	<b>p.61</b>
1)	卒業要件の考え方 .....	p.61
2)	学則に基づく単位及び時間数の考え方 .....	p.65
3)	資格の位置づけ .....	p.65
4)	同時に授業を行う学生数 .....	p.65
5)	履修モデル .....	p.66
6)	実務経験の単位換算の考え方 .....	p.66
7)	単位以外の卒業要件 .....	p.66
8)	履修指導方法 .....	p.66
9)	その他 .....	p.67

<b>7.</b>	<b>教育課程連携協議会について</b> .....	<b>p.68</b>
1)	教育課程連携協議会の概要 .....	p.68
2)	構成員 .....	p.69
3)	教育課程連携協議会の機能性 .....	p.70
4)	審議の実質性 .....	p.71
<b>8.</b>	<b>施設・設備等の整備計画</b> .....	<b>p.72</b>
1)	施設・設備に係る設置基準の充足状況 .....	p.72
2)	図書館の整備状況 .....	p.78
3)	体育館等 .....	p.79
4)	施設の共用 .....	p.81
5)	校地面積基準の減算 .....	p.81
6)	校舎面積基準の減算 .....	p.81
<b>9.</b>	<b>入学者選抜の概要</b> .....	<b>p.82</b>
1)	入学者選抜の概要 .....	p.82
2)	入学者の多様性の確保への配慮 .....	p.85
3)	入学者選抜に関する具体的な方法 .....	p.85
<b>10.</b>	<b>取得可能な資格</b> .....	<b>p.89</b>
1)	リハビリテーション学部 理学療法学科 .....	p.89
2)	リハビリテーション学部 作業療法学科 .....	p.90
<b>11.</b>	<b>実習の具体的計画</b> .....	<b>p.92</b>
1)	実習の目的 .....	p.92
2)	実習先の確保の状況 .....	p.94
3)	実習先との契約内容 .....	p.94
4)	実習水準の確保の方策 .....	p.94
5)	実習先との連携体制 .....	p.98
6)	実習前の準備状況 .....	p.99
7)	事前・事後における指導計画 .....	p.100
8)	教員及び助手の配置並びに巡回指導計画 .....	p.107
9)	実習施設における指導者の配置計画 .....	p.109
10)	成績評価体制及び単位の認定方法 .....	p.109
11)	その他 .....	p.112
<b>12.</b>	<b>その他</b> .....	<b>p.113</b>
1)	管理運営 .....	p.113
2)	自己点検・評価 .....	p.114
3)	情報の公表 .....	p.116
4)	研修 .....	p.117

5)	指導體制 .....	p.118
----	------------	-------

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### 1) 学校法人藍野大学の歩みと専門職大学設置の趣旨

#### (1) 設置校における校地・校舎の位置

学校法人藍野大学の設置校は、現在、大きく3つのキャンパスに分かれている。

##### ①茨木キャンパス

藍野大学、藍野大学短期大学部（第一看護学科）、藍野高等学校の校地・校舎がある「茨木キャンパス」（大阪府茨木市：住民基本台帳人口 282,232 人[平成 30 年 8 月 31 日現在]）は、淀川北の大阪府北部に位置し、北は京都府亀岡市に、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能郡豊能町に接している。北半分は丹波高原の老ノ坂山地の麓で、老ノ坂とは、山陰道（京街道）が大枝（おおえ）山を山城から丹波へ越える国境の峠の坂をいい、大枝山は万葉集をはじめとして大江山とも記され、古歌や説話などでは老ノ坂を指すことが多い。南半分には大阪平野の一部をなす三島平野が広がる場所に位置し、キャンパス隣接地には太田茶臼山古墳（継体天皇陵）が鎮座し、歴史と文化の香りが漂う街並みに位置する。

##### ②青葉丘キャンパス

藍野大学短期大学部（第二看護学科）の校地・校舎がある「青葉丘キャンパス」（大阪府富田林市：住民基本台帳人口 112,230 人[平成 30 年 8 月 31 日現在]）は、大阪府の東南部に位置し、市の北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、古くから町が開けたところで、特に寺内町には歴史的に貴重な町並みが残されている。市の南部は、雄大な金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、自然景観にあふれる場所に位置する。

##### ③びわ湖キャンパス

滋賀医療技術専門学校の校地・校舎がある「びわ湖キャンパス」（滋賀県東近江市：住民基本台帳人口 114,575 人[平成 30 年 7 月 1 日現在]）は、滋賀県の南東部に位置し、北は彦根市、愛荘町、多賀町、南は竜王町、日野町、甲賀市、西は近江八幡市と接しており、東は三重県との県境となる。地形は東西に長く、東に鈴鹿山系、西に琵琶湖があり、愛知川が市域の中央を流れており、市の南西部には日野川が流れている。この両川の流域には平地や丘陵地が広がり、緑豊かな田園地帯を形成している。さらに地域内には箕作山（みつくりやま）や織山（きぬがさやま）などが点在し、豊かな自然に恵まれている場所に位置する。総面積は、約 388 平方キロメートル（滋賀県総面積の約 9.7%）で、高島市・長浜市・甲賀市・大津市に次いで滋賀県内で 5 番目に大きな市である。

#### (2) 社会的な背景と教育理念の継承

##### ①日本の高等教育の歴史

日本の高等教育の歴史が、ヨーロッパの大学の歴史と異なって、中世興りかけた例えば足利学校にしても明治 5 年まで続いたものの近代大学へのメタモルフォーシスが出

来なかったのは、明治維新という西欧輸入の政治体制の結果であったのだろう。それ以降、官制体制下の高等教育の発展は西欧教育に追いつくことを目途にしてきた。しかし、医療教育に限っても「医師」優先の専門高等教育、しかも医師に対しても戦前までは7帝国大学5医科大学の国立系高等教育組織で、他は専門学校として臨床医師の教育を行い、彼等が国民の医療体制維持を行っていたのである。戦後、昭和24年の学制改革以来、これまでの看護教育は病院附属の専門学校として教育されてきたが、看護高等教育は、昭和27年高知女子大学（現：高知県立大学）家政学部に入学定員20名の四年制看護学科が出来たのを嚆矢として発足した。これをみても日本の高等教育の保守性又は自由性の欠如は明らかである。

## ②学校法人藍野大学の歴史と教育理念

本学も例に漏れず病院の附属機関として昭和43年4月に、医療法人恒昭会藍野病院附属准看護学院として発足し、病院の発展とともに、医療従事者の業務が医師専従のものではなくなり、臨床そのものが医師の範疇を超える多様性と専門性が必須となる中で、昭和50年4月に、正看護師養成課程として高等看護学院の指定を受け、昭和54年9月に、学校法人藍野学院（現：学校法人藍野大学）を設立、藍野看護専門学校の設置が認可された。

その後、学校法人を母体として、昭和58年4月に、理学療法学科、作業療法学科、医療秘書・病院管理学科の併設により、藍野看護専門学校の学校名称を藍野医療技術専門学校と改称し、昭和60年4月に、藍野学院短期大学（看護学科3年課程）開学、平成5年4月に藍野学院短期大学専攻科（保健師養成1年課程）開設、平成8年4月に、滋賀県東近江市に滋賀医療技術専門学校（看護学科2年課程、理学療法学科4年課程、作業療法学科4年課程）開学、同年、藍野医療技術専門学校の学校名を藍野医療福祉専門学校と改称し、介護福祉学科、医療福祉ビジネス学科を併設、そして、平成16年4月に、藍野学院短期大学（看護学科3年課程、現：藍野大学短期大学部）と藍野医療福祉専門学校（理学療法学科3年課程、作業療法学科3年課程）を改組転換し、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科を擁する医療系大学として藍野大学を開学し、平成19年4月に藍野学院短期大学附属藍野高等学校（現：藍野高等学校）衛生看護科開校、平成22年4月に、藍野大学医療保健学部臨床工学科を併設、平成27年4月に藍野大学大学院看護学研究科設置と教育理念を継承してきた。

学校法人藍野大学の教育理念である「*Saluti et Solatio Aegrorum*（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」は、病気を医学的に治療すると同時に患者の心に慰めを与えることが医療人の理想であるという考えに立ち、医学的な治療という意味で「医やす」という表現を用い、医療人が心がけなければならない目標であり医療の基本を示す精神の涵養を掲げている。学校法人藍野大学では、高度な専門的技量の獲得と実践的かつ応用的な能力を展開させることと同時に、この教育理念に裏打ちされた人間性豊かな医療人の育成を教育目標に掲げ、昭和43年以来、50年に渡り医療福祉専門職の人材養成を担い、社会に有益な人材を輩出してきた。

### (3) 専門職大学を設置する理由・必要性

#### ①設置する理由

この度、本法人の設置校の一つである滋賀医療技術専門学校を改組転換して、びわこリハビリテーション専門職大学として設置する理由を、専門学校教育と社会の要請の変化から以下に述べる。滋賀医療技術専門学校は開学した平成8年4月から起算すると概ね22年が経過し、その間、滋賀県内で唯一の理学療法士・作業療法士の養成校としてその使命を果たしてきた。しかし、その間に日本の高齢化は世界でも類を見ない速度で進行し、国民皆保険制度を脅かす時代となった。この対策として介護保険制度が設立され運用されているが、医療・介護の両保険制度の財政に余裕はない。この時代の流れの根源は高齢化と、生産人口の減少であると考えられ、回避することは簡単ではない。そんな中、医療機関では在院日数短縮の促進、高齢者・障がい者の施設生活から在宅生活への移行の促進が進む。すなわち、医療の「病院完結型」から「地域完結型」への移行である。この潮流は止まることはなく、病気や障害を抱えながら地域で生活する住民が増加することは想像に難くない。しかし、地域生活を営む地域住民の支援策の整備は充実したものとは言えず、この地域支援に携わるリハビリテーション専門職が求められている。このような社会変化に対応するためには、理学療法士・作業療法士の教育の見直しが必要となる。

平成32年4月施行の改正理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則により、高齢化の進展に伴う医療需要の増大や、地域包括ケアシステムなど、理学療法士、作業療法士を取り巻く環境の変化への対応や、臨床実習の拡充などによる質の高い理学療法士、作業療法士を育成するため、総単位数が93単位以上から101単位以上へと引き上げられた。また、現在、最低履修時間数が設定されていないことで、各養成施設において履修時間数に差があるとの理由から、新たに最低履修時間数を理学療法士3,120時間以上、作業療法士3,150時間以上と設定された。これらの改正により、理学療法士、作業療法士の人材養成は、これまでの3年制の教育では、教育の質保証の観点からも充実した教育を行うことは困難であるとの結論に至った。

また、「地域完結型」の医療を想定すると、この改正理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の教育内容をさらに超えた発想が必要であると考えている。本学は「地域完結型」の医療の構築に、理学療法士・作業療法士の養成をもって貢献することが可能であるとの考えに至った。

よって、滋賀医療技術専門学校を4年制の専門職大学に改組転換し、教育の質保証を担保し、未来の地域共生社会に貢献する人材養成プロセスを再考することが適正であると判断した。また、滋賀医療技術専門学校からの改組転換を前提とした場合に、開学以来22年間に及ぶ専門学校としての高度な実践力を強みとした教育に加え、同一法人内の藍野大学が開学以来14年間取り組んで来た幅広い教養や、学術研究の成果に基づく知識・理論とその応用の教育経験を基に、その両方を併せ持った実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関である専門職大学への改組転換がもっとも望ましいとの見解に到達したことが専門職大学設置の理由である。

## ②設置の必要性

滋賀医療技術専門学校が校地・校舎を置く滋賀県では、2025年を見据えた医療福祉の推進という観点から、平成27年12月の定例会議において、医療福祉機能の調査・検討が行われ、今後、滋賀県においても後期高齢者人口の増加が見込まれる中で、地域包括ケアシステムを支える医療福祉専門職の養成確保が重要な課題であり、先の調査・検討結果とあわせて今後必要となる機能が、リハビリテーション専門職の人材養成機能であると三日月大造滋賀県知事が議会答弁された。(平成27年12月2日定例会議)

その中で、三日月大造滋賀県知事は、今後、家庭や地域で自立した生活を送るためには、地域リハビリテーションの強化が重要な課題となっている。しかしながら、こうした支援を行うリハビリテーション専門職は、本県内において、2025年には約3,000人が必要と推計されているが、現状の1,200人と比較して、1,800人が不足することとなっている。従って、リハビリテーション専門職を中心とした医療福祉専門職を養成するための高等教育機関の設置が必要であり、滋賀県としてはリハビリテーション専門職の養成機能を備え医療介護サービスの提供体制を整えてまいりたいと考えていると締めくくった。

これまでの滋賀県におけるリハビリテーション専門職の人材養成のための取り組みは次のとおりである。平成26年3月に策定された「滋賀県地域リハビリテーションを担う人材養成基本計画」では2025年に向けて、地域リハビリテーションに携わる人材を計画的に養成することとしており、滋賀県内には、現在リハビリテーションの専門職養成機関は、東近江市にある滋賀医療技術専門学校(学校法人藍野大学)の1校のみで、理学療法士(入学定員80名・3年課程)、作業療法士(入学定員40名・3年課程)の養成を行っている。平成8年4月開学に際し、滋賀県は「平成7年度滋賀県理学療法士等養成所施設整備補助金」を交付していることから「滋賀県地域リハビリテーションを担う人材養成基本計画」におけるリハビリテーション専門職の養成機能を、滋賀県として、滋賀医療技術専門学校を4年制の専門職大学として改組転換する計画によることを要望しており、専門職大学設置の必要性は十分に証明されていると考える。

以上を踏まえた上で、次節以降では、地域包括ケアシステムの必要性が叫ばれるようになった社会的背景を踏まえつつ、養成すべき人材とそれを専門職大学において養成する理由に焦点を絞りつつ説明を行う。

【資料1】平成27年12月2日滋賀県議会定例会議三日月大造知事発言録

## 2) 社会的背景

### (1) 人口推移

内閣府によると、現在日本の人口は、長期の減少過程に入っており、2029年に1億2,000万人を下回った後も減少を続け、2053年には1億人を割り、2065年には8,808万人になると推計されている。その過程で、高齢者人口は増加し、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年には3,677万人、2042年には3,935万人とピークを迎え、その後は減少に転ずると推計されている。総人口に占める高齢者の割合は、2065年には

38.4%に達し、国民の 2.6 人に 1 人が 65 歳以上、4 人に 1 人が 75 歳以上の高齢者となる。反面、15～64 歳の現役世代の割合は低下し、2065 年には 1 人の高齢者を 1.3 人の現役世代で支える状況となる。

この度、設置を構想しているびわこリハビリテーション専門職大学が位置する滋賀県においても、2015 年には 141 万人であった総人口は、2025 年には 139 万人、2045 年には 126 万人に減少する一方、65 歳以上の高齢者は 2015 年の 34 万人から増加をつづけ 2045 年には 43 万人になると予測され、高齢者の割合は、2025 年には 27.5%、2045 年には 34.3%に上昇するとされている。また、年少人口（14 歳以下）、生産年齢人口（15～64 歳）共に、直近 3 年は連続で減少している。

## （2）医療の在り方の変化

このような高齢社会の進展は、当然ながら医療の在り方にも大きな影響を与えている。平成 25 年 8 月に社会保障制度改革国民会議がまとめた「社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～」では、青壮年期の患者を対象とした医療は、救命・延命、治癒、社会復帰を前提とした「病院完結型」のものであるが、高齢化社会においては、慢性疾患による受療が多くなり、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える「地域完結型」のものに変わらざるを得ないという認識が示された。別言すれば、今後、重要となる医療の目標は、地域社会全体での健康寿命の延伸、すなわち、要介護人口の抑制であり、生涯を通じたヘルスプロモーションと、住み慣れた地域で自立して暮らすための地域包括ケアシステムの構築ということとなる。ここに於いて、医療の対象は、高齢者や患者だけでなく「地域住民」全体となる。

このことを傍証するように、厚生労働省は、平成 28 年 3 月に「地域の実情に合った総合的な福祉サービスの提供に向けたガイドライン」の中で、以上の理念を包含する形で、「高齢者、障がい者、児童等が集い、誰もが分け隔てなく支え合い、その人のニーズに応じた支援が受けられるという「共生型社会」の構築の必要性を謳っている。さらに、平成 28 年 6 月に「ニッポン 1 億総活躍プラン」が閣議決定されたことを受け、この議論は、「地域共生社会（地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会）」という理念に引き継がれた。

三日月大造滋賀県知事の発言は、以上の社会の変化とそれに伴う医療の在り方の変化を背景としたものである。そして、このような地域包括ケアシステム及び地域共生社会（以下では、地域包括ケアシステムという用語を使用する必要のある場合を除き、両者を包含する用語として「地域共生社会」という。）を実現する上で、要となるのが、人々が自立した日常生活を送ることができるよう支援するリハビリテーションの専門職であり、本学では、そのうち理学療法士と作業療法士の養成を行う。

【資料 2】日本の人口推移

【資料 3】滋賀県の人口推移

【資料 4】社会保障制度改革国民会議「社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会

保障を将来世代に伝えるための道筋～」(平成 25 年 8 月 6 日)(抜粋)

【資料 5】「地域共生社会」の実現に向けて(当面の改革工程)

### 3) 今後求められる人材として必要な能力

#### (1) 高度な実践力

前項で述べたような地域共生社会において理学療法士及び作業療法士がその役割を果たすためには、どのような能力が必要であろうか。それは、リハビリテーションの専門家としての確かな知識とそれに基づく高度な治療技術である。これは、「病院完結型」の医療であっても「地域完結型」の医療であっても関係ない。理学療法士としての、作業療法士としての専門的な知識と高度な治療技術を具備していることは、最低条件であると同時に、リハビリテーションの専門家としての根幹である。

#### (2) コミュニケーション能力

学校法人藍野大学では、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士等の医療従事者が、チームとして連携することで、「患者」中心の医療を展開できる人材の育成を「シン・メディカルの理念」として掲げている。もちろん、医療従事者との連携は、今後も引き続き重要な論点であるが、「地域完結型」の医療においては、医療の対象がもはや「患者」に限定され得ず、地域社会における健康増進・予防医学の観点から「住民」全体となる。

そのため、地域における医療・介護・その他の関係機関が連携をし、包括的かつ継続的な在宅医療・介護さらには予防医学の実践を対象者に提供することが必要である。そのためには、上記関係機関で働く多様な職種の方々及び産業界等の方々と連携することが必要となる。この時に重要となるのは、様々な人々との意思疎通を円滑に行うための能力、すなわちコミュニケーション能力である。よって今後は、高度なコミュニケーション能力を修得した人材が求められる。

#### (3) 問題発見能力・問題解決能力

病院内での理学療法士、作業療法士の役割・職務はおおよそ定まっているため、「病院完結型」の医療においては、その役割の範囲内で業務を行っていただければよかった。しかし、「地域完結型」の医療においては、地域が抱える課題がその地域ごとに異なるため、それを把握し、解決するための方策を考え、実行できなければならない。例えば、滋賀県の人口密度は、草津市や守山市、栗東市など湖南が比較的高く、それ以外の湖西、湖北、湖東は比較的低いという地域格差が特徴として挙げられる。高齢化率も湖西、湖北、湖東が高く、湖南は低く、求める理学療法士、作業療法士の役割に相違が生じている。すなわち、湖南では、ヘルスプロモーションを基盤とした健康寿命の延伸の取り組みが求められる。他方、湖西、湖北、湖東では高齢者を主とした在宅支援の取り組みが求められる。このように地域が抱える固有の課題を発見し(問題発見能力)、それを解決するために適切に対処できる能力(問題解決能力)が求められる。

#### (4) 応用力・刷新力

現在、医療・福祉の分野では、治療や在宅支援に、ロボットや AI、インターネットを利用したシステムが活用されており、今後も、テクノロジーの発展とその医療・介護・保健・福祉・スポーツ・就労などの分野への応用・展開は、確実に進展するであろう。それは、病院だけに留まらず、家庭内や地域社会の各種施設にも及ぶ。また、例えば、人生 100 年と言われる時代において、生活の質 (QOL) の維持・向上のため、スポーツや趣味などの余暇活動の推進にも、理学療法士及び作業療法士の運動機能や認知精神機能への支援は有用であり、健常者にもこのような支援能力が求められつつある。これらの動向を踏まえた上で、理学療法士としての社会との関わり方、作業療法士としての社会との関わり方を応用・刷新していける能力が今後は求められる。

#### 4) 教育研究上の目的

前章で述べた社会の要請等を受け、びわこリハビリテーション専門職大学の目的、リハビリテーション学部の目的、3つのポリシーは次のとおりとする。

##### (1) びわこリハビリテーション専門職大学の目的

教育基本法及び学校教育法の定めるところに従うとともに教育理念に則り、リハビリテーションに関する実践的かつ応用的な能力を展開するための教育研究により、高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付けた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献することを目的とする。

##### (2) リハビリテーション学部の目的

- ①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。
- ②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。

##### (3) リハビリテーション学部の DP (ディプロマ・ポリシー)

本学において所定の期間在学し、学科ごとに定める単位を取得し、次のとおりの能力を身に付けた者に学位を授与する。

- DP1：生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP2：地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる。
- DP3：理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる。
- DP4：地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論

理的に考案することができる。

DP5：専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる。

#### (4) リハビリテーション学部の CP (カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション学部の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

CP1：倫理観に基づき人を尊重し、生涯にわたり自己研鑽し、地域住民の社会生活を支援できるようになるための科目を配置する。

CP2：専門職に必要なコミュニケーション能力を有し、対象者や多職種と良好な対人関係を築くことができるようになるための科目を配置する。

CP3：専門職として必要な専門的知識や技術を修得し、論理的思考に基づいた問題解決策を考案できるようになるための科目を配置する。

CP4：自らの専門性を基盤とし、地域住民と地域社会の課題発掘と問題解決を実践できるようになるための科目を配置する。

CP5：専門領域に関連する専門分野の知識を修得し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携して支援できるようになるための科目を配置する。

#### <成績評価>

すべての科目において GPA による評価を行う。また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。

講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び技術試験などにより評価を行う。

臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。

さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。

#### (5) リハビリテーション学部のアドミッション・ポリシー

リハビリテーション学部では、「①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。

そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。

(知識・技能)

AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

(主体性・多様性・協調性)

AP2：人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人。

AP3：良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる人。

(思考力・判断力・表現力)

AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる人。

AP5：多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる人。

## 5) 専門職大学で養成する必要性と既設大学・既設専門学校との違い

### (1) 大学・短期大学及び専門学校での理学療法士・作業療法士養成

現在、日本における理学療法士・作業療法士の養成は、大学、短期大学及び専門学校等において実施されており、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が定める内容を学生に教授するという点においては、大学、専門学校に違いはない。だが、大学においては、教養教育と専門教育、併せて理学療法学、作業療法学の理論の研究を学ぶため、学問的色彩の強い教育研究活動が行われている。しかしながら、専門教育としてのすそ野がやや広く社会ニーズを満たせていない側面を持っている。一方、専門学校は、それぞれの学校の工夫により、より質の高い実務家を養成しているものの、教員組織や施設・設備に関する基準が柔軟であるために、教育の質が制度上担保しきれない側面も持っている。これら双方の弱点を補う意味でも専門職大学という新しい大学制度が期待されているところである。

専門職大学では、大学としての学問レベルを保ちながらも、より実学的な研究が重視され、理論に裏付けられた実践力をもつ人材を養成する。さらに、社会のニーズに即した新しい概念のプロフェッショナリズムを身に着けさせることを重視している。教員組織については実務家教員を積極的に登用し、カリキュラムについては教養教育に加えて、専攻に係る特定の職業の分野に関連する分野の展開科目を設定する。また、社会の人材ニーズに即応した職業専門人を養成するにあたり、社会の要請等を学内へと不断に取り入れることは非常に重要で、教育課程連携協議会を通じて、そのような情報を入手し、教育課程に組み込むことが可能となっている。これらの専門職大学制度は本学においても当然遵守するものである。

### (2) 本学における地域実情の背景

本学が養成する人材像については、地域の実情を踏まえたものであり、まずその説明を行う。

地域包括ケアシステムは、入院患者の在院日数の短縮や施設生活から在宅生活への移行の推進により、病気や障害を抱えながら地域で生活する高齢者を対象として構築された。青壮年期の患者を対象とした医療は、救命・延命、治癒、社会復帰を前提とした「病院完結型」のものである。一方、高齢化社会においては、慢性疾患による受療が多くなり、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、つまり、地域全体で治し、支える「地

域完結型」への早期転換が必要となる。

特に滋賀県では、県南部の人口増加地域を除けば、深刻な高齢化社会が到来していることや、病院が散在していて公共交通機関が不便なこともあり、地域完結型のリハビリテーション医療が求められている。今後、重要となる医療の目標は、地域社会全体での健康寿命の延伸、すなわち、要介護人口の抑制であり、生涯を通じたヘルスプロモーションと、住み慣れた地域で自立して暮らすための地域包括ケアシステムの構築となる。

一方、日本理学療法士協会による会員分布調査（2018）では、理学療法士は約 78.7%が医療・介護分野に集中し、滋賀県の就労状況も同様である。日本作業療法士協会の会員の就労状況調査（作業療法白書 2015）でも、作業療法士の 65.4%が医療法関連施設に就職しており、滋賀県の就労状況も同様である。滋賀県保健医療計画 2018 では、今後、充実してほしい対策として、リハビリテーション専門職の福祉領域や教育、就労、地域づくりへの参入が期待されている。

このような課題を解決するために、滋賀県知事は、「健康」をキーワードとした政策を実施している。例えば、「健康しが」共創会議では、「健康」をキーワードに集まった企業がお互いに意見交換をし、新たなビジネスモデルを提案し合い、実践（地域の薬局と乳飲料の会社が協同で行う子供向けの健康教室など）している。このような中、リハビリテーション職への期待は大きく、2017 年度から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を対象に「地域共生社会」の実現に向けた人材育成研修会を行っている。

本学の特徴的な要素として、滋賀県唯一の理学療法士・作業療法士の養成教育機関として、県や県民からの要請を受けており、自治体の施策や社会の要請に応えるために、次のとおりの「養成する人材像」を設定した。

### （3）既設大学・既設専門学校との養成する人材像の違い

人材養成の目的についてみると、大学においては、学校教育法第 83 条第 1 項に規定される大学の目的である「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」を踏まえ、学問的色彩が強いという機関としての強みを活かし、「医療の高度化・専門化」に対応し、専門分化した医療現場において、高度な実践力を持ってチーム医療に貢献できる人材の養成を行っている。

また、専門学校においては、学校教育法第 124 条第 1 項に規定された「職業若しくは実際生活に必要な能力を養成し、又は教養の向上を図ること」を踏まえ、理学療法士・作業療法士としての高度な実践力を有し、地域医療に貢献できる人材の養成を行う。

一方、本学は、学校教育法第 83 条の 2 第 1 項に規定される「深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させること」という専門職大学の目的を踏まえ、「地域共生社会の実現に向けたリハビリテーション専門家の養成」という社会の要請等に応えることを人材養成の主眼に置いており、そのために必要となる能力・資質を備えた人材を養成することを目指す。

養成する人材像の違いをまとめると次の表のとおりとなる。

## 設置校ごとの養成する人材像

	大学	専門学校	びわこリハビリテーション 専門職大学
人材養成 の目的 (社会の 要請等)	学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること。	職業若しくは实际生活に必要な能力を養成し、又は教養の向上を図ること。	深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させること
養成する 人材像	学問的色彩が強いという機関としての強みを活かし、「医療の高度化・専門化」に対応し、専門分化した医療現場において、高度な実践力を持ってチーム医療に貢献できる人材の養成。	理学療法士・作業療法士としての高度な実践力を有し、地域医療に貢献できる人材の養成。	①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。 ②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。

### (4) 卒業後の進路の違い

藍野大学及び滋賀医療技術専門学校の卒業後の進路は、基本的には病院である。次の表は、理学療法士又は作業療法士の国家試験に合格し卒業した者のうち病院（クリニック含む）に就職した者の人数と割合を示したものである。年度と学科ごとにばらつきはあるが、低くとも76%以上の学生が病院に就職していることが分かる。

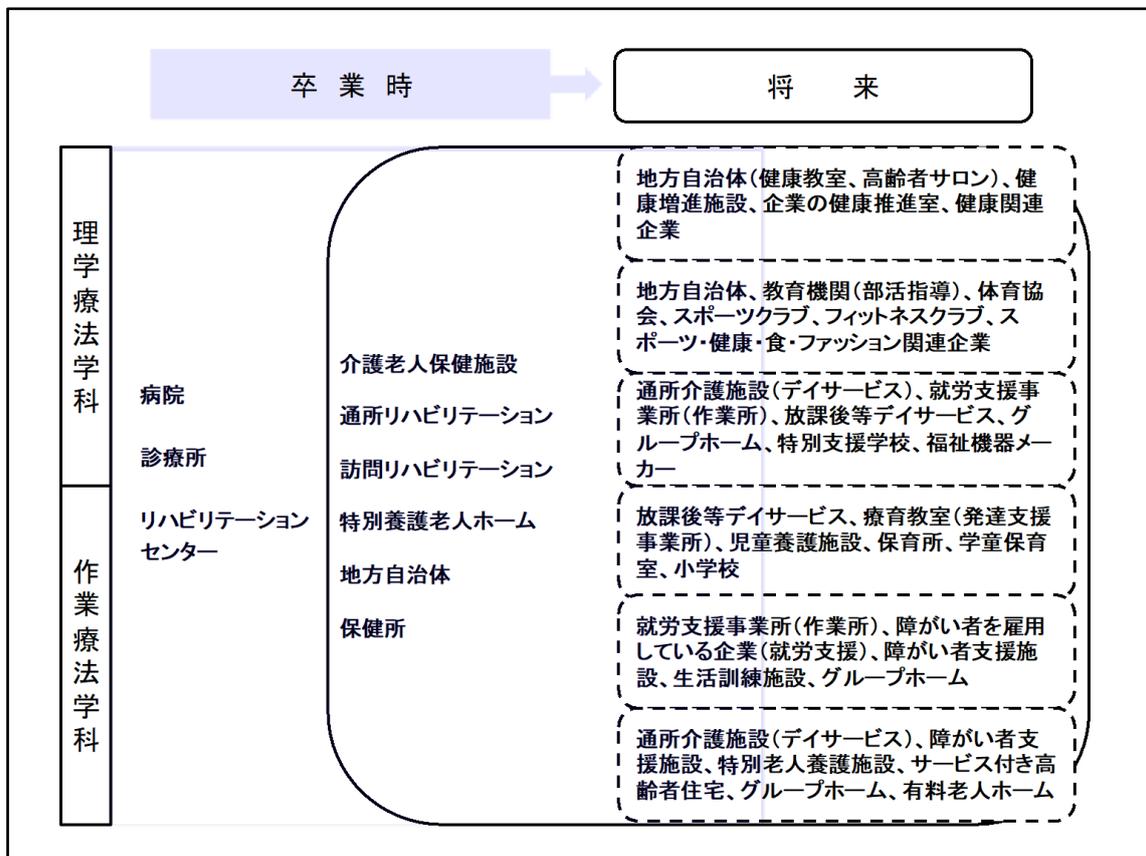
### 国家試験に合格し卒業した者のうち病院就職者数とその割合（実績）

	平成 27 年度 病院等就職者割合	平成 28 年度 病院等就職者割合	平成 29 年度 病院等就職者割合
藍野大学医療保健学部 理学療法学科	99% 76名／77名	97% 76名／78名	92% 83名／90名
藍野大学医療保健学部 作業療法学科	86% 25名／29名	85% 23名／27名	81% 29名／36名
滋賀医療技術専門学校 理学療法学科	98% 51名／52名	76% 26名／34名	96% 43名／45名

滋賀医療技術専門学校 作業療法学科	95% 21名／22名	89% 16名／18名	92% 12名／13名
----------------------	----------------	----------------	----------------

一方、本学は、リハビリテーション学部の目的に「地域住民に適切なリハビリテーションを提供する」とあるように、卒業後の進路は、地域包括ケアシステムを中心とした地域のリハビリテーションに関連する施設を想定している。また、地域共生社会の実現に向け、理学療法や作業療法の専門性を応用できることも人材養成の目的としており、卒業後一定期間キャリアを積んだ後、各自が学修した履修モデルの分野に就職することも想定している。しかし、卒業時に履修した分野を進路として選択する可能性も想定されるため、就職先として広く考えている。次の図で、卒業後の進路と履修モデルの関係を示す。

### 卒業後の進路（想定）



### (5) 教育課程及び授業科目の到達目標の違い

教育課程と授業科目の違いを説明するために、大学の例として藍野大学、専門学校の例として滋賀医療技術専門学校の教育課程、授業科目との違いから説明を行う。

#### ①教育課程の概要

##### A. 藍野大学

藍野大学は、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分構成とし、その中に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則上の科目を含めて教育課程を編成し

ている。基礎科目では、中区分として教養教育科目、語学教育科目、理系基礎科目、初年次教育科目に分け、基盤知識と教養を身に付けるための科目を配置している。職業専門科目においては、保健・医療・福祉に関連する科目及び専門分野に必要な医学の基礎知識を学ぶとともにシン・メディカル論などチーム医療を実践できる素地を形成するための科目を配置している。専門科目においては、理学療法士・作業療法士としての基礎と応用を学ぶ科目を配置している。

特に、藍野大学医療保健学部の教育目標において、「豊かな教養を身につけた人材」と「国際的な視野を持つ人材」を挙げているため、教養教育科目や語学教育科目等の充実を図っている。また、「保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材」の養成を同じく教育目標に掲げているため看護学科や臨床工学科の学生とチーム医療の実践について学ぶ「シン・メディカル論」という科目を用意している。その他、専門科目において、理学療法学科では、「がんの理学療法学」、作業療法学科においては、「特定・内部疾患作業療法学」及び「高次脳機能特論」など医療分野においてその必要性が高まっている科目を用意している。

## B. 滋賀医療技術専門学校

滋賀医療技術専門学校では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を、教育課程の根幹としており、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大別し、教育課程を編成している。そのうえで、理学療法学科では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則必要単位数 93 単位のところ、卒業要件を 104 単位と 11 単位増、作業療法学科では、必要単位数 93 単位のところ卒業要件を 105 単位と 12 単位増としている。3 年制を採用しており、時間的制約がある中で、取得単位数を多くしているのは、実践力を高め、現場で即戦力となる人材を養成するためである。理学療法学科において単位数を増やしている科目は、「臨床能力技術演習Ⅰ・Ⅱ」及び「徒手療法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などであり、臨床能力や徒手療法技術を高めることを企図している。作業療法学科において単位数を増やしている科目は、「作業分析学Ⅰ・Ⅱ」や臨床実習関連の科目などで、身体と精神・認知機能の分析力を高めることを通じて臨床能力を高めることや、臨床実習及び実習後の振り返りの科目を多くし、実践力を高めることを企図している。

## C. びわこリハビリテーション専門職大学

本学は、教育課程を基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目の 4 区分構成とし、その中に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則上の科目を含めて教育課程を編成している。

基礎科目では、中区分として初年次教育科目、人間と社会系科目、自然科学系科目、語学教育科目に分け、基盤知識と教養を身に付けるための科目を配置している。ここでは、理学療法、作業療法の専門職として必要で重要性の高い科目は必修科目とし、広く教養を身につけることを意図した科目は、選択科目とした。

職業専門科目は、理論科目群と職業実践科目群に二分しており、理学療法士・作業療法士の国家資格取得に必要な中心的科目を配置している。理学療法・作業療法理論科目群のなかで、医学的な基礎となる「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学

I」は、身体の構造と機能を学ぶ科目となるため、1年次に配置し、理学療法、作業療法の治療分野となる疾病と障害の成り立ち及びその回復過程の促進を学ぶ「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「精神医学」などは、2年次を中心に配当した。チームアプローチにおける役割を知るために必要となる基本的な概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配当し、2年次に「社会福祉学」、2年次に「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、理学療法、作業療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付けて学ぶことができるよう配置している。

臨地実務実習については、1・2年次に理学療法士・作業療法士の仕事の見学を中心とした実習を行い、医療職としての倫理観と自覚を形成し、その後の学修の動機づけとなるように設定している。そして、「理学療法／作業療法評価実習」から「理学療法／作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」へと進み、一連の治療のプロセスを学んだ後、「理学療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問理学療法について実習することで、医療と介護の連携についても学修できるように配置している。以上の職業専門科目は、理学療法士・作業療法士国家資格を取得するために重要であり、そのほとんどを必修科目としている。

展開科目は、地域共生社会の実現に向け、リハビリテーション領域に隣接する分野での地域の理解と課題を知る科目に、「地域共生論」、「生涯スポーツ論」、「労働衛生論」、「災害支援論」、「ボランティア論」、「子育て支援論」及び「教育支援論」を配置している。これらの科目を学び、地域共生社会の実現に向け支援できる方策を学ぶ科目として「マーケティング論」、「施設起業運営論」、「障がい者スポーツ論」及び「障がい者スポーツ論実習」を配置している。これらは全て必修科目である。そのうえで、卒業後の進路に応じて、理学療法学科では「ヘルスプロモーション」、「生涯スポーツ」及び「生活工学」、作業療法学科では「児童期」、「成人期」及び「老年期」、各々3つの履修モデルを用意した。

総合科目は、学科のディプロマ・ポリシーを達成するための集大成の科目となり、職業専門科目で修得した理学療法、作業療法に関する知識と技術と展開科目で学んだ知識を踏まえ、地域住民への支援の在り方を自ら考える科目となる。

以上の教育課程をもって、リハビリテーション高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、地域共生社会の実現に貢献できる人材を養成する。

## ②授業科目の到達目標の違い

藍野大学、滋賀医療技術専門学校及び本学の3校は、理学療法士・作業療法士養成施設としての役割は共通している。よって、国家試験受験資格を与えるための教育水準は、国家試験合格に求められる水準と同等になることから、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定められた授業科目の到達目標も、3校に差が生じることはない。しかし、3校の養成する人材像や目的は異なるため、目的に応じた教育課程と授業科目がそれぞれの学校の特徴として生じ、授業科目の到達目標にも違いが認められる。

## (6) 成績評価の違い

### ①藍野大学

藍野大学では、各科目の担当教員が、筆記試験、口述試験、レポート、論文、実技、出席状況などを学生に課すことによって各科目の成績評価を行っている。その上で、AA、A、B、C、D（不可）の5段階による Grade Point Average 制度（以下、「GPA」と呼ぶ。）を導入している。それによって、学生それぞれが履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを促進している。併せて、各学期の GPA と累積の GPA により、学修レベルの進捗度合い、修得科目全体の成績水準が明らかとなるため、それを教員による学生指導に活用している。

### ②滋賀医療技術専門学校

滋賀医療技術専門学校では、理学療法学科、作業療法学科ともに開設授業科目の全科目を必修科目かつ卒業要件としている。成績評価の方法については、担当教員に委ねており、レポートや授業態度、出席状況、試験、実技試験などを学生に課している。それらの評価方法を一つもしくは複数を組み合わせ、優（80点以上）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）の4段階で評価を行っており、優、良、可を合格（単位認定）、不可を不合格としている。GPA を導入しているが、成績通知には載せておらず、表彰等で活用しているのみに留まっている。

### ③びわこリハビリテーション専門職大学

本学においては、各科目の成績評価の方法について、講義については、主として筆記試験により評価を行い、実習科目においては、実技試験を主としつつ、筆記試験、レポート及びプレゼンテーションなどにより評価を行う。また、臨地実務実習においては、OSCE（客観的臨床能力試験）、実習評価表及びルーブリックに基づき、評価を行う。以上のとおり、それぞれの授業形態に即した試験等を学生に課すことによって、科目ごとの目標到達度を適切に評価できる体制とする。さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについて評価をするとともに、既設学校と同様、すべての科目を GPA によって点数化する。これらによって、学生それぞれが履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを促進する。併せて、各学期の GPA と累積の GPA により、学修レベルの進捗度合い、修得科目全体の成績水準が明らかとなるため、それを教員による学生指導に活用する。

## (7) 実習の違い

藍野大学と滋賀医療技術専門学校の実習は、理学療法士・作業療法士の養成課程に必要な臨床現場で学ぶ見学実習、評価実習、臨床実習が主となるが、本学は、専門職大学であるため、大学よりも多くの実習単位を設け、臨地実務実習及び職業専門科目や展開科目の実習に充てている点が大きく異なる。

本学の実習の特性、支援・指導体制を臨地実務実習、学内での実習科目、展開科目での実習の3点について述べる。

臨地実務実習は、両学科共に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改定に則って、実習の全体を構成した。両学科共に学生が主体的に体験を通して学修ができるような実習の手引きを作成した。具体的な学修支援は、実習前に養成校で課題（実習前テスト、レポート、OSCE）、実習後に学生の到達度を確認するための課題（OSCE、レポート課題・発表）を設定した。実習中は、実務家教員が一回以上、巡回指導する。また、クラウド型学修支援サービス（個別指導、レポートの相互閲覧等）としての「manaba」を導入し、学生の家庭での学修をサポートできるようにした。既設専門学校、藍野大学、専門職大学における臨地実務実習の指導体制の比較を次の表に示す。

	滋賀医療技術専門学校	藍野大学	びわこリハビリテーション専門職大学
指導要領	2学科が、それぞれに作成し実施	2学科が、それぞれに作成し実施	2学科が、1つ枠組みとして、統一したものを作成し実施
学修	担当症例を通した、臨床思考過程を中心とした学修	担当症例を通した、臨床思考過程を中心とした学修	「臨床参加型」の学生の体験を中心とした学修
実習前後の課題設定	未実施	実習前（実技や臨床思考過程の演習）のみ実施	実習前（実習前テスト、レポート、OSCE）、実習後（OSCE、レポート課題・発表）を実施

学内での実習科目（展開科目での実習除く）は、理学療法学科では23科目、作業療法学科では25科目とした。職業専門科目における実習は、実務家教員が学生にデモンストレーションを行い、学生同士で技術を実施し、確認し合うことを多く設けるといふ特色がある。総合科目の「協働連携論総合実習」は、地域在住の障がい者を授業に招聘し、当事者のインタビューから両学科合同でグループワークを実践することで、多職種との連携についても経験を通して自らの専門性に基づいた支援を考えることを意図している。このような授業形態も、本学の特色であるとともに、専門職展開という点で創造的な取り組みと考えている。

展開科目での実習は、地域共生社会を理解するための実習として、「障がい者スポーツ論実習」、「健康増進実践実習」、「児童期地域社会適応論実習」、「成人期地域社会適応論実習」、「老年期地域社会適応論実習」を配当した。これらの実習は、理学療法士、作業療法士が未だ介入できていない領域での実習を経験することで、そこで専門性を展開する際の具体的なイメージを学修することを目的としている。理学療法士、作業療法士の指導者がいない領域での実習を取り入れていることが特色となっている。

以上、3つの特色のある実習を経験することで、地域共生社会で活躍できる創造的なリハビリテーション人材を養成することが特色となっている。

### (8) 教員組織の違い

藍野大学では、専任教員を採用する際の基準として、「人格識見ともに優れ、かつ、その職務に応じた教育研究上の能力があると認められる者」としており、特に、教授、准教授、講師、助教に見合う研究業績の有無を非常に重視している。また、医学、理学療法学、作業療法学を専門とする教員のほかに、心理学、統計学、言語学等を専門とする教員を採用しており、教養教育を担当する専任教員の充実も図っている。一方、滋賀医療技術専門学校では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき、理学療法士又は作業療法士の各免許を受けた後、5年以上理学療法又は作業療法に関する業務に従事した者であることを採用する際の基本としている。

本学においては、専門職大学設置基準に基づき、当該分野の研究業績を有する者はもちろん、専攻分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者と、そのうち研究業績を併せて有する者で教員組織の構成を行った。理学療法学科の専任教員25名のうち博士号取得者は14名、修士号取得者は7名であり、作業療法学科の専任教員16名のうち博士号取得者は9名、修士号取得者は5名である。現状、理学療法士又は作業療法士の資格を有した専任教員の多くは、実務家教員に偏っており、大学と比較した際に、研究業績を有した者が少ないことが課題であると認識している。大学として、就任予定の専任教員について修士号、博士号の取得を促進するとともに、今後、研究業績を有した専攻分野に係る専任教員の採用を進めることで、大学教育としての学修の質が担保されるよう努める。なお、専任教員の学位保有状況は次のとおりである。

### 学位等取得状況

	学科	収容 定員	博士号 取得者	修士号 取得者	学士号 取得者	短期大 学士号	その他	合計
藍野大学	理学療法 学科	320	15	6	3	0	0	24
滋賀医療技術 専門学校		240	3	5	0	0	1	9
びわこリハビリテーシ ョン専門職大学		320	14	7	2	1	1	25
藍野大学	作業療法 学科	160	5	8	0	0	0	13
滋賀医療技術 専門学校		120	0	1	2	0	3	6

びわこリハビリテーション専門職大学		160	9	5	1	0	1	16
-------------------	--	-----	---	---	---	---	---	----

## 6) 産業界等とのかかわり

### (1) 滋賀県と地域包括ケアシステム

既述のとおり、滋賀県は、地域包括ケアシステムの構築と医療・介護の提供体制の充実に向けて、2025年までにリハビリテーションの専門職を3,000人とすることを目標に掲げている。しかし、2018年4月時点のリハビリテーション専門職の人数は合わせて1,500名程度であり、遠く及ばないのが実情である。一方、滋賀県において理学療法士及び作業療法士を養成している学校は、これまで前身の滋賀医療技術専門学校1校のみであり、入学定員は理学療法学科と作業療法学科を合わせて120名であったことから、需要に対して供給が追いついていないことは明らかである。そのため、びわこリハビリテーション専門職大学は、滋賀県より、地域共生社会の実現に資するリハビリテーションの専門家の輩出を求められている。

### (2) 教育研究上の目的の共有化

合わせて、地域包括ケアシステムは、おおよそ平成18年頃から行政の主導で提唱され始めた概念であるが、まだまだ市井の認知度は低く、システムの在り方自体も検討中の状態である。そのため、教育課程の中で、学生と教員と産業界等の関係者が連携をしながら、地域包括ケアシステムへの人材の輩出と合わせて地域共生社会の実現に向けて取り組んでいくことが求められるであろう。専任教員が取り組む研究領域についても、地域と連携し貢献できる研究の推進が必要となる。本学では、基礎研究から臨床研究、フィールドワーク、調査研究など教員の研究テーマは幅広く研究を実施することになる。特に理学療法学科では身体活動の分析を中心に研究をし、作業療法学科では身体と精神の両面から生活活動の分析や調査を中心として地域住民の生活を支援できるよう研究を行う。このような取り組みを通して、びわこリハビリテーション専門職大学は、地域社会に資する人材の養成を行うこと、合わせて、その人材の輩出を通して、地域共生社会の実現を目指すことを、産業界等の関係者と共有できると考えている。また、教育課程連携協議会において、産業界等の関係者から意見をいただくだけでなく、その取り組みを理解していただくことで、その共有化が可能となると考えている。

## 2. 学科・専攻の特色

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部は、リハビリテーションの専門職である理学療法士と作業療法士を養成するために、それぞれ理学療法学科と作業療法学科を置く。

### 1) 特色

#### (1) 理学療法学科

理学療法の対象は、子どもから高齢者までのすべての年齢層の人々を含み、障害を持つ人、持たない人、入院・入所している人、在宅生活をしている人、それら全ての人々である。しかし、現在の理学療法士の就労状況をみると、日本理学療法士協会による会員分布調査（2018）では、医療・介護分野が約 78.7%と最多であり、健康分野はわずかに 0.07%しか存在しない。

今後の高齢化率の上昇と人口減少の予測を見据えると、地域包括ケアシステムのみならず、広く高齢期に差し掛かる前に、健康で自立した生活を維持するための取り組みが重要となる。

滋賀県の 2015 年の平均寿命は男性が 81.78 歳、女性が 87.57 歳である。2016 年の健康寿命（日常生活に制限のない期間）の平均は男性が 72.30 歳、女性が 74.07 歳であった。健康寿命と平均寿命の差は日常生活に制限を持ちながら生活する期間の存在を示し、その期間は男性で 9 年間、女性で 13 年間と長期にわたる。この日常生活に不自由な期間を短縮することは、高い QOL を維持し、その人が望む人生を送るために重要である。また、この期間は介護を必要とすることが想定され、社会資源の浪費を伴うことも大きな問題である。

これらの問題を受け、「健康日本 21（第二次）」が 2013 年に全部改正された。その中では、住民自身の自助による健康維持が求められている。さらに、共助として支援する専門職が必要であり、疾病や傷害を予防し、リスク管理のもと運動処方のできる理学療法士は適任である。理学療法の身体活動の知識・技術を活用することにより、健康寿命延伸が可能であろう。しかし、前述の調査から理学療法士は約 78.7%が医療・介護分野に集中し、健康分野は 0.07%と非常に僅かである。この現状を踏まえ、健康分野での理学療法士の必要性を理解し、その現状と対策を学修し、理学療法士として健康分野へ職域を展開できる人材を養成することが本学科の特色である。

健康を促進するために、スポーツを生活の中に取り入れることが推奨されている。また、スポーツを通して地域を活性化することも可能とされている。スポーツは健康に直結するが、その方法を誤るとケガによる不健康を招く。この逆効果を防止するために、スポーツによるケガを予防できる指導者が必要となる。また、疾患や障害を持つ人に対してもスポーツを推奨する必要がある。疾患や障害を持ちながらもスポーツができるように提案・支援できるのは、医療専門職である理学療法士である。そこで、本学科では障害の有無に関わらず、全ての人にスポーツの継続を通して健康を維持し、質の高い生活を送ることを支援できる人材を養成することも特色である。

また、このような身体活動を維持できれば、生活に重要な経済活動をできるだけ長く

継続できる。しかし、前掲の国民生活基礎調査（2016）によると、50代の有訴率は30%を超え、「腰痛」、「肩こり」、「手足の関節が痛む」の運動器障害が上位を占めている。これらの症状を持ちながら就労を継続するためには、就労環境や方法の検討が有用であり、運動器障害に対する知識のある理学療法士が支援できる分野である。さらに、障害を持ちながら就労する人への支援も、理学療法士の専門性が活用できる分野である。

障がい児・者への身体活動に関する支援としては、就労だけでなく住み慣れた地域で日常生活を自分らしく送るためにも理学療法技術の応用が有益である。このような地域や福祉の分野を支援できる人材を養成することも本学科の特色である。

いずれにせよ、本学の理学療法士教育は、医療保険や介護保険の枠から一步踏み出し、自ら需要を見つけて理学療法士の職域を拡大していく人材養成である。様々な地域社会や医療・介護以外の業界で専門職として活動するために、多くの職種、地域の人々との連携が必要不可欠となる。多職種との連携は、医療の中ではチーム医療としてその概念の定着をみるが、その必要性は地域社会でははるかに上回ると考えられる。このため、本学科では多職種と連携や協働した活動にも重点を置いていることも特色の一つである。

以上のような理学療法技術を活用した健康寿命の延伸と生活の支援は、地域共生社会の実現に向けた改革の一助となる。よって、本学科では将来のキャリア形成の中で、地域共生社会における健康、スポーツ、福祉の分野で活躍できる理学療法士を養成することを特色とした。

#### <理学療法学科の目的>

- ①理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。
- ②理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸とQOL維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を養成する。

## （2）作業療法学科

日本作業療法士協会は「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療・保健・福祉・教育・職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す」と定義している。また、その具体的な対象者は、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への不適応により日々の作業に困難が生じている、またはそれが予測される人や集団である。彼らの生活に対して、作業を用い、環境に手を入れ、外部からの干渉をコントロールすることにより生活の困難を軽減させる。そのために、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して、環境面にも働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材が必要となる。そのような作業療法士は地域共生社会の必需となると考えられる。

近年、我が国は国民の約 3 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となる超高齢社会を迎え、滋賀県においても高齢化率は 2045 年には 34.3%に上昇するとされている。高齢化による機能低下や、様々な疾患や障害の影響により、生活の活動や社会への参加の難しさを持つ地域住民が多くなることが予想される。その中で、年齢を重ねても可能な限りこれまでと同じような生活を送ることができるような支援が求められている。また、児童期では特別支援学校や特別支援学級に通う児童数が 1.8 倍に増加しており、その支援も求められている。さらに、成人期においては、能力に応じた障がい者雇用のむつかしさ、また就労者の離職率の高さといった課題があげられている。このようにすべての年齢層の地域住民が、その能力を生活や就労に活かすための支援は少ない。そのため、地域共生社会の実現を目指した支援体制の構築が求められており、作業療法士もその一翼を担う必要がある。

上記に述べたような社会状況と作業療法士の需要ではあるが、滋賀県の作業療法士数は 463 名（2019 年 3 月滋賀県作業療法士会の調査）、人口 10 万人あたりにすると 24.6 人である。これは全国平均の 34.6 人に比べて極めて低い値である。また、その少ない作業療法士の所属先のほとんどは医療機関に集中している。つまり、滋賀県の現状は、医療機関に所属する作業療法士すら少ないという状況にある（「滋賀県保健医療計画」、平成 28 年のリハ職の従事状況の調査より）。この状況では、医療機関以外の地域社会で活躍する余裕はない。

そのため、滋賀県の養成校に求められるのは、1 つは、医療現場の作業療法士を増やすこと、もう一つは、地域共生社会の創造の一助となる作業療法士を新たに輩出することの 2 点となる。

また、作業療法で言う「作業」とは、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など、人が営む生活をしていく上で必要な活動（生活活動）そのものと、それを行うのに必要な心身の活動が含まれる。生活をしていく上での活動は、その人ができるようになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個別的な目的や価値が含まれるものである。そのため、生活活動に焦点をあてた実践には、心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する手段としての生活活動の利用と、その生活活動自体を練習し、できるようにしていくという目的としての生活活動の利用、及びこれらを達成するための、障害を持った人と物的・人的環境とを調整することが含まれるのである。対象者のもてる能力を活かすために、環境を調整することが重要であり、これは地域の生活環境の中で活かすことのできる作業療法士の専門性である。しかし、現在の作業療法士の就労先は病院中心であり、病院から地域支援へと移行が求められているが、その絶対数の不足からほとんど応じられていないのが現状である。よって、地域生活者の暮らす生活環境の中で、対象者の能力を活かして生活を営めるように、環境の調整を含めた支援ができる専門職として作業療法士を養成することは意義があると考える。

地域の住民は幅広い年齢層であり、また、疾患や障害を抱える場合も多い。彼らは自身の能力では目の前にある環境への適応が難しく、生活に困難を生じている。また、その困難さはライフステージにおいて流動的である。児童期、成人期、老年期といったライフステージと、その生活の経過や個人の抱える身体的または精神的な障害によって、

生活における課題は様々である。このような多様な課題の解決に向けて、その年齢層と障害や生活環境を構成する要素から、生活の状態を把握し、作業や物的環境を調整するだけでなく、人的環境因子である地域住民や多職種を理解し、協働して支援内容や、役割の調整ができる作業療法士を養成することは、今後の地域での生活支援にむけて意義のあることであると考えられる。そして、その先には地域共生社会の実現が見えてくる。

よって、本学科では地域住民のために作業療法士の専門性を活かした支援ができるとともに、地域の児童期、成人期、老年期分野において、地域住民や多職種と連携して生活支援を実践できる作業療法士を養成することを特色とした。

#### <作業療法学科の目的>

- ①子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。
- ②地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。

## 2) 定員

本学のリハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科の入学定員の設定の考え方であるが、今後ますます加速化する社会の高齢化に対応するため、病院だけでなく、在宅でのリハビリテーションの需要はますます高まることは間違いなく、また、要介護人口の抑制と健康増進の取組みの必要性から理学療法士及び作業療法士の社会において果たすべき役割は徐々に拡大を遂げている。本学が位置する滋賀県、その近隣の県（岐阜県、三重県、京都府）においても、状況は同じであることから、今後その需要は増加することが予測され、他大学の入学定員の状況及び本学への入学意向調査に基づく入学希望者（見込み）をもとにして、個々の学生に専門職大学の教育効果が十分発揮され、高度な実践力と豊かな創造力を育むためには、理学療法学科においては 80 名、作業療法学科においては 40 名が妥当であると判断した。

### 3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

#### 1) 大学・学部・学科等の名称

この度、設置を構想している専門職大学の名称は「びわこリハビリテーション専門職大学」、英語名は「Biwako Professional University of Rehabilitation」とする。このびわこリハビリテーション専門職大学には、1 学部を置き、その名称は「リハビリテーション学部」、英語名は「Faculty of Rehabilitation」とする。このリハビリテーション学部には2 学科を置き、その名称は「理学療法学科」及び「作業療法学科」とし、それぞれ英語名は「Department of Physical Therapy」及び「Department of Occupational Therapy」とする。

##### (1) 専門職大学の名称について

本学は、本州東西軸のほぼ真ん中の滋賀県東近江市に位置し、その中央に県土の約6分の1を占める日本最大の湖・琵琶湖を抱え、周囲には緑豊かな山々や田園地帯が広がる自然環境の中にびわ湖キャンパスを有している。

琵琶湖は、滋賀県庁のホームページでも示しているとおり滋賀県民の心のよりどころとして大きな存在であり、悠久の歴史とともに琵琶湖と人は共生する社会を継承してきた。滋賀県において琵琶湖は、「地域共生社会」の象徴的な存在であり多様な知的価値を持っていると言える。

また、リハビリテーション学部の目的では「(抜粋) 子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を育成する」としており、対象者の広い年齢層にも支持されるように、ひらがな表記「びわこ」とすることは、教育研究上の目的にふさわしい言葉であり、大学名称に用いることとした。

また、「リハビリテーション」という言葉を用いるのは、1981年にWHO（世界保健機関）が、「(抜粋) リハビリテーションは障害者が環境に適応するための訓練を行うばかりでなく、障害者の社会的統合を促す全体として環境や社会に手を加えることも目的とする。そして、障害者自身・家族・そして彼らの住んでいる地域社会が、リハビリテーションに関するサービスの計画と実行に関わり合わなければならない。」と定義しており、本学の教育研究上の目的である「地域共生社会」の実現を促す内容を熟考し、「リハビリテーション」という言葉がふさわしいとの結論に至り、大学名称に用いることとした。

##### (2) 学部名称について

続いて、学部名称「リハビリテーション学部」、英語名「Faculty of Rehabilitation」についてであるが、上述の設置の趣旨に照らした際、リハビリテーションの専門職として共生型社会の実現に貢献し得る人材を養成することが最大のミッションとなるため、「地域リハビリテーション学部」英語名は「Faculty of Community Rehabilitation」とすることも検討をした。しかし、国際的な通用性の観点から見たときに、「Faculty of Rehabilitation」の方が一般性を有している。なお、「Community Rehabilitation」という名称が存在しないわけではないが、ごく一部に限られている。そのため、特段、「地

域」という限定を付すことなく、「リハビリテーション学部」、英語名「Faculty of Rehabilitation」とすることにした。

### (3) 学科名称について

#### ①理学療法学科

本学科の名称「理学療法学科」、英語名「Department of Physical Therapy」であるが、第一に、国家資格である「理学療法士」を養成する学科であることから本名称とした。設置の趣旨を踏まえると、学部と同様、「地域理学療法学科」などと限定を付すことも検討したが、通用性の観点から、理学療法学科とした。理学療法士は、日本だけでなく、各国で活動しており、世界理学療法連盟（World Confederation for Physical Therapy: WCPT）には117ヶ国（2018年現在）が加盟しており、「Physical Therapy」は国際的にも通用する名称である。

#### ②作業療法学科

本学科の名称「作業療法学科」、英語名「Department of Occupational Therapy」であるが、第一に、国家資格である「作業療法士」を養成する学科であることから本名称とした。設置の趣旨を踏まえると、学部と同様、「地域作業療法学科」などと限定を付すことも検討したが、通用性の観点から、作業療法学科とした。作業療法士は、日本だけでなく、各国で活動しており、世界作業療法連盟（World Federation of Occupational Therapists: WFOT）には73ヶ国（2012年現在）が加盟しており、「Occupational Therapy」は国際的にも通用する名称である。

## 2) 学位の名称

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部理学療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「理学療法学士（専門職）」とし、英語名称は「Bachelor of Physical Therapy」とする。また、びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「作業療法学士（専門職）」とし、英語名称は「Bachelor of Occupational Therapy」とする。

理学療法学科では「理学療法士」、作業療法学科では「作業療法士」という国家資格を持ち、リハビリテーションの専門家として地域社会に貢献する人材を養成することを目指すため本名称とした。よって、国家資格の名称から学位の名称をとっているため、極めて一般的であり、職業・産業分野を適切に表した名称と言える。なお、上述したように、英語名称「Physical Therapy」と「Occupational Therapy」についても、世界的に通用している資格名称であり、学位名称としても同様に通用している。

## 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

### 1) 教育課程の編成及び実施の方針

リハビリテーション学部並びに理学療法学科及び作業療法学科の教育課程の編成及び実施の方針（以下、「カリキュラム・ポリシー」という。）は次のとおりである。

#### (1) リハビリテーション学部の CP (カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシーを達成し、学位授与に求められる能力を修得するために、以下の方針で学部のカリキュラム・ポリシーを策定した。

- CP1：倫理観に基づき人を尊重し、生涯にわたり自己研鑽し、地域住民の社会生活を支援できるようになるための科目を配置する。
- CP2：専門職に必要なコミュニケーション能力を有し、対象者や多職種と良好な対人関係を築くことができるようになるための科目を配置する。
- CP3：専門職として必要な専門的知識や技術を修得し、論理的思考に基づいた問題解決策を考案できるようになるための科目を配置する。
- CP4：自らの専門性を基盤とし、地域住民と地域社会の課題発掘と問題解決を実践できるようになるための科目を配置する。
- CP5：専門領域に関連する専門分野の知識を修得し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携して支援できるようになるための科目を配置する。

#### <成績評価>

すべての科目において GPA による評価を行う。また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。

講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び実技試験などにより評価を行う。

臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。

さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。

#### (2) 理学療法学科の CP (カリキュラム・ポリシー) とその体系性

理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の 5 つの方針で編成する。

- CP1：倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。
- CP2：理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。

- CP3：理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。
- CP4：理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。
- CP5：理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

#### <成績評価>

すべての科目において GPA による評価を行う。また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。

講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び実技試験などにより評価を行う。

臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。

さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。

#### ①理学療法学科の CP (カリキュラム・ポリシー) と教育課程の対応関係

理学療法学科が掲げる5つの CP (カリキュラム・ポリシー) を踏まえ、次のように授業科目を配置している。

- CP1：倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。

倫理観に基づき生命を尊重する態度を涵養するために、基盤となる授業科目として「倫理学入門」、「キャリア発達論」、「心理学」、「教育学」、「生物学」及び「統計学」などを配置する。さらに職業専門科目の「人間発達学」、「リハビリテーション概論」及び「社会福祉学」などの授業科目から、理学療法士に必要な資質を理解するとともに、責任をもって生涯にわたり理学療法士として働く上で必要となる態度を学修する。

また、以上の資質・態度を会得するために、臨地実務実習である「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法地域実習」を学年進行に合わせ配置する。

展開科目では、「地域共生論」、「ボランティア論」及び「災害支援論」を配置することで、理学療法技術を用いて、地域住民の社会生活を支援する能力の獲得につながるように構成する。

- CP2：理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。

理学療法士に必要なコミュニケーション能力を養う上で基礎となる科目として「コミ

コミュニケーション論」を配置し、「英語Ⅰ・Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」の語学教育科目で、外国語でのコミュニケーションに必要となる能力を養う。さらに、理学療法士に必要な関係構築を学修する授業科目として「臨床技能論実習」や「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法地域実習」を配置し、机上の学修を実習での実践を通して、他者と関係を構築する能力を身につける。また、「地域共生論」及び「協働連携論総合実習」では、対象者や作業療法学科の学生と交わり授業を進めることで、多職種との関わり方を体験として学び、地域住民との関係性を構築する能力の獲得につながるように構成する。

CP3：理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

理学療法に必要な専門知識と技術を養うために、職業専門科目の理学療法理論科目群である「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学実習」、「整形外科Ⅰ・Ⅱ」、「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「老年医学」、「リハビリテーション概論」及び「地域包括ケア論」によって、その知識の学修を行う。

併せて、職業専門科目の職業実践科目群である「基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ」、「基礎理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「基礎理学療法研究法」、「理学療法評価学」、「理学療法評価学実習」、「理学療法評価学演習」、「臨床技能論実習」、「運動療法学」、「運動療法学実習」、「日常生活活動学」、「神経系障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「運動器障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「内部障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「地域理学療法学」及び「地域理学療法学実習」などの授業科目により、科学的かつ論理的思考を身に付け、根拠に基づいた理学療法を実践できるように学修を進める。

そして、机上の学修を実践につなげるために、臨地実務実習である「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法地域実習」を行うとともに、理学療法のより専門的な実習として「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」及び「スポーツ障害応用論実習」を行う。また、総合科目の「協働連携論総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」を学修することで、学んだ知識や技術を活かし、それを実践できるように構成する。

CP4：理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。

地域住民の支援に必要な知識と能力の基盤となる授業科目として、「地域包括ケア論」、「地域共生論」、「地域理学療法学」、「地域理学療法学実習」及び「保健医療福祉関連制度論」を配置する。また、地域の支援の在り方の基礎を学ぶ授業科目として、「ボランティア論」、「労働衛生論」、「子育て支援論」、「災害支援論」、及び「教育支援論」を配置する。

次に、地域住民の支援につながる課題の発見から、理学療法を応用し、解決策を導く

上で必要となる能力を涵養するために、展開科目の「生涯スポーツ論」、「メンタルヘルスマネジメント論」、「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「健康増進実践演習」、「健康増進実践実習」及び「身体障がい者就労環境論」などを配置する。支援を展開するための基盤となる事業や組織の構造を学修する授業科目として「マーケティング論」及び「施設起業運営論」を配置する。

これらの授業科目での学修を基盤に、総合科目で「協働連携論総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」を学修することで、学んだ知識や技術を活かし、広い視野を持ち、地域の課題の発見と問題解決を実践するための能力の獲得につながるように構成する。

**CP5**：理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、創造的に活用して、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持を目的に支援できるように理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

まず、地域共生社会の理解を深める科目として、「地域共生論」、「地域包括ケア論」、「ボランティア論」、「労働衛生論」、「子育て支援論」、「災害支援論」、及び「教育支援論」を配置する。

さらに、理学療法士としての知識・技術を学修した学生が、関連する他分野について学ぶことで、柔軟な思考を持ち、様々な問題を解決できる理学療法士を養成する。そのための授業科目として、展開科目で「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「体力測定論」、「健康増進実践実習」、「パフォーマンス向上論」、「フィットネス論」、「ランニングトレーニング論」、「生きがい創造」、「シューフィッティング論」、「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」及び「身体障がい者就労環境論」など様々な分野の科目を配置し選択できるようにしている。また、支援を展開するための基盤として、事業や組織の構造を学修する「マーケティング論」、「施設起業運営論」及び「組織運営論」などを配置する。

4年次後期には、臨地実務実習を終え、展開科目で関連する他分野についても学んだ学生が、より専門性を高める科目として「神経筋骨格障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」及び「内部障害応用論実習」を配置し、理学療法士として応用力・実践力を高める。

これらの授業科目での学修を基盤に、総合科目の「協働連携論総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」には、多職種と協働して地域住民を支援するために、理学療法士としての専門性と展開科目で得た知識・技術を活用し、課題の解決につなげられるように構成する。

### **(3) 作業療法学科のCP（カリキュラム・ポリシー）とその体系性**

作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針

で編成する。

CP1：人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。

CP2：多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。

CP3：作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP4：人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP5：地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。

#### <成績評価>

すべての科目において GPA による評価を行う。また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。

講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び実技試験などにより評価を行う。

臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。

さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。

#### ①作業療法学科の CP (カリキュラム・ポリシー) と教育課程の対応関係

作業療法学科が掲げる5つの CP (カリキュラム・ポリシー) を踏まえ、次のように授業科目を配置している。

CP1：人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。

倫理観に基づき生命を尊重する態度を涵養するために基盤となる授業科目として「倫理学入門」、「キャリア発達論」、「心理学」、「教育学」、「社会学」、「生物学」及び「統計学」などを配置する。また、人の暮らす地域社会の理解を深めるために、展開科目の「地域社会共生論」、「ボランティア論」及び「災害支援論」などを配置する。これらを基盤として職業専門科目では「人間発達学」、「社会福祉学」及び「リハビリテーション概論」などの授業科目から作業療法士に必要な資質を理解するとともに、責任をもって生涯にわたり作業療法士として働く上で必要となる態度を学修する。また、以上の資質・態度を会得するために、臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を学年進行に合わせ配

置する。

CP2：多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。

作業療法士として必要なコミュニケーション能力を養う上で、基礎となる科目として「コミュニケーション論」を配置し、コミュニケーションに必要となる語学の能力を高めるため「英語Ⅰ・Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」などを配置する。さらに、対象者や多職種との信頼関係の構築にむけて、実際の体験を通して対人関係能力を養うため、臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を配置する。また、学内に対象者を招いて学修する機会として「地域生活作業療法学実習Ⅱ・Ⅲ」等を配置する。展開科目では、関連領域の職種や地域住民との関わりを通して対人関係能力を高めるため「地域社会共生論実習」、「就労環境論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「児童期地域生活適応論実習」などの授業科目を配置する。また、総合科目では「協働連携論総合実習」において、対象者や理学療法学科の学生と交わり授業を進めることで、多職種との関わり方を体験として学び、地域住民との関係性を構築する能力の獲得につながるよう構成している。

CP3：作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

作業療法士として必要な専門知識と技術を養うために、職業専門科目の作業療法理論科目群では、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学」、「画像診断学」、「リハビリテーション概論」及び「地域包括ケア論」などの授業科目を配置する。

また、職業専門科目の職業実践科目群である「作業療法学総論」、「作業療法と倫理」、「基礎作業学」、「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業分析活用論」、「日常生活活動論実習」、「作業療法評価学総論」、「身体障害作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神障害作業療法評価学実習」、「発達障害作業療法評価学実習」、「身体障害作業療法基礎技術論」、「運動器疾患作業療法学実習」、「中枢神経疾患作業療法学実習」、「精神障害作業療法学」、「発達障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「老年期障害作業療法学」、「地域生活作業療法学総論」及び「域生活作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ」などにより、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付ける。

そして、各年次に学修した知識と技術を活かし、具体的な実践例から体験を通して学ぶ臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を各年次に配置する。さらに、4年後期には、総合科目として「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」及び「協働連携論総合実習」を配置し、生活課題の解決に向けた作業療法の実践力の獲得につながるよう構成している。

CP4：人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。

地域の生活課題の解決に向けて、作業療法の特徴を活かして地域生活を構造的に捉え、生活課題を発見する能力を養うために、「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」を配置する。

また、地域共生社会の基本的概念を理解し、それを基盤として地域の作業療法関連領域を理解するための授業科目を配置する。地域の支援構造を理解するための授業科目が「地域包括ケア論」、「子育て支援論」及び「教育支援論」であり、組織や行われている事業の構造を学修する授業科目が「マーケティング論」及び「施設起業運営論」などである。また、地域の作業療法関連領域での課題の発見に向けて、人が生涯にわたり取り組む作業である仕事と余暇について学ぶための授業科目として「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「障がい者スポーツ論」を配置する。

さらに、児童期、成人期、老年期の年齢層に分けた3つの区分に関する現状理解と職種理解を深める授業科目として「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置し、実際の体験を通して学ぶ授業科目として「就労環境論実習」、「障がい者スポーツ論実習」、「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置する。総合科目では「作業療法総合実習Ⅰ」、「作業療法総合実習Ⅱ」及び「協働連携論総合実習」を学修することで、学んだ知識や技術を活用し、地域課題の発見と問題解決を実践できる能力の獲得につながるように授業科目を構成する。

CP5：地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。

作業療法に関連する他分野の専門的知識を習得し、地域での支援展開にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための授業科目を配置する。

初年次に「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」から地域共生社会に関する基本概念を理解し、その上で、「ボランティア論」、「災害支援論」、「地域包括ケア論」、「子育て支援論」、「教育支援論」から地域の支援構造を理解する。また、「マーケティング論」、「施設起業運営論」から組織や行われている事業の構造を学修する。さらに、地域の関連分野の各領域の専門家から現状と課題を学ぶ授業科目として「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「障がい者スポーツ論」を配置する。また、児童分野、成人分野、老年期分野の年齢層に分けた3つの領域について現状を理解し職種理解を深める授業科目として「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置した。さらに体験を通じてこれまでの学修で培った作業療法士としての専門性を活用しながら、現状と課題を構造的にとらえる機会として「就労環境論実習」、「障がい者スポーツ論実習」、「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置する。

最後に、総合科目として、「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」、「協働連携論総合実習」を配

置し、多職種と協働して地域住民の支援に作業療法士としての専門性を活用し応用できる能力の獲得につながるように構成する。

【資料 6】 教育課程等の概要（理学療法学科）

【資料 7】 カリキュラムマップ（理学療法学科）

【資料 8】 教育課程等の概要（作業療法学科）

【資料 9】 カリキュラムマップ（作業療法学科）

【資料 19】 履修モデル（理学療法学科・作業療法学科）

【資料 10】 カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

【資料 11】 カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

## 2) 必要な授業科目の開設と不断の見直し体制

### (1) 必要な授業科目の開設

理学療法学科及び作業療法学科ともに、専門職大学設置基準第 10 条に準拠し、次のとおり教育目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設している。なお、厚生労働省指定の授業科目についても自ら開設をしている。

#### ①理学療法学科 科目数

科目数	講義	演習	実験実習 (うち臨地)	計
基礎科目	21	0	1	22
職業専門科目	39	3	26 (7)	68
展開科目	27	1	2	30
総合科目	0	1	2	3
計	87	5	31 (7)	123

#### ②理学療法学科 単位数

単位数	講義	演習	実験実習 (うち臨地)	計
基礎科目	21	0	1	22
職業専門科目	43	3	43 (20)	89
展開科目	37	1	2	40
総合科目	0	1	3	4
計	101	5	49 (20)	155

### ③作業療法学科 科目数

科目数	講義	演習	実験実習 (うち臨地)	計
基礎科目	21	0	1	22
職業専門科目	38	0	28 (6)	66
展開科目	14	0	6	20
総合科目	0	0	3	3
計	73	0	38 (6)	111

### ④作業療法学科 単位数

単位数	講義	演習	実験実習 (うち臨地)	計
基礎科目	21	0	1	22
職業専門科目	42	0	44 (22)	86
展開科目	20	0	6	26
総合科目	0	0	4	4
計	83	0	55 (22)	138

## (2) 不断の見直し体制

教育課程の不断の見直しを図るために、教育課程連携協議会においては、その冒頭で、各構成員より、自身の職務を遂行するにあたり感じている理学療法士及び作業療法士の課題、あるいは医療や福祉の分野に係る社会の変化について話していただき、そこで出た意見を、教育課程を見直す材料にすることを想定している。

また、教育課程連携協議会は、最低1年に2回開催することとしている。2回と設定した理由は半期の授業等の終了後に、その半期の振り返りとして成果と反省点を教育課程連携協議会の構成員と共有するためである。その際、学生からの授業評価アンケート及び実習施設へのアンケートも参考資料とする。それらの資料を並べた上で、産業界等の学外の構成員より意見を伺うという形を取ることで、次の半期以降の授業等をどうしていくべきかについて学外の構成員も意見が言い易くなると考えている。

以上の方法により、地域社会を含む産業界等の人材ニーズに即応した人材を輩出するために、教育課程の不断の見直しを図る。

## 3) 授業科目の開設

以下に基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目それぞれについて、その開設科目の配置は次のとおりとする。

## (1) 基礎科目

基礎科目として、社会で幅広く豊かな人間関係を形成していくための教養を培い、理学療法・作業療法の専門職として地域住民を支援するために必要な資質を身に付け、理学療法士・作業療法士としてキャリア形成を進める基盤となるような科目を配置した。

初年次教養科目は、1年次前期に必修科目として配置し、大学での学修の意義と方法について学ぶ科目として「学びの基盤」を、対人援助職である理学療法士・作業療法士の基礎となるコミュニケーション能力の養成に繋がる科目として「コミュニケーション論」を配置した。

人間と社会系科目では、必修科目で「教育学」、「哲学入門」及び「心理学」を1年次に配置し、理学療法士・作業療法士に必要な専門職としての人間形成につながる基礎科目とする。また、2年次に「キャリア発達論」を配置することでキャリアを形成する上で、生涯学び続けることが重要であることを理解するとともに、理学療法士・作業療法士としての自覚と責任を涵養するための科目と位置付けている。選択科目には1年次では教養を高める科目として「音楽」、「哲学入門」及び、「社会学」などを配置しており、2年次には、将来のキャリア形成として起業について学ぶ科目として「経営学入門」を配置している。

自然科学系科目は、理学療法・作業療法を学ぶ上で基礎となる「生物学」及び、「物理学Ⅰ」を1年次に必修科目として配置し、2年次には「統計学」を必修科目として配置した。また、「物理学Ⅱ」及び「数学」を選択科目とし、より深く学べる配置としている。

語学教育科目は、「英語Ⅰ」を必修科目とし、理学療法士・作業療法士に必要な基本的な語学を学ぶとともに、選択科目に「英語Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」を配置することで教養を深めるとともに、グローバル社会に応じたコミュニケーション能力を高める科目となるよう1年次と2年次に配置している。

## (2) 職業専門科目

### ①理学療法学科

職業専門科目は、理学療法に関する専門知識と技術を学び、学内で学修したことを臨地実務実習において、チームアプローチの中で理学療法士の役割を経験しながら学修する科目として配置している。理学療法理論科目群を基盤とし、職業実践科目群を学ぶことで、理学療法の意義と実践方法を理解し、適切な理学療法を科学的な根拠に基づき理論的に実施できるよう科目を配置している。

理学療法理論科目群のなかで、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ」は理学療法の医学的な基礎となり、人体の構造と機能を学ぶ科目となるため、1年次に配置し、学ぶ範囲が広い解剖学と生理学については単位数を多く設定した。これらの科目を学修し、人体の機能及び心身の発達について知識を深める科目として、1年次に「人間発達学」及び「運動学Ⅱ」を配置し、「運動学実習」及び「運動生理学実習」を2年次に配置している。

理学療法の治療分野となる疾病と障害の成り立ち及びその回復過程の促進について、

人体の構造と機能を学修したことを基盤とし、学ぶことができるよう2年次を中心に配置した。科目は「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「精神医学」などである。

理学療法の意義及び理学療法士のチームアプローチにおける役割を知るために必要となる基本的な概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配置し、2年次に「社会福祉学」、3年次に「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。これらの科目の目的は、保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念を学修することであり、特に「地域包括ケア論」は、理学療法学科の人材養成の基盤となる科目として位置付けている。

職業実践科目群では、理学療法理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、理学療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付けて学ぶことができるよう配置している。法的制度下の理学療法士の位置付けや職域及び研究など、理学療法の基礎となる内容を中心に学ぶ科目として1年次に「基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ」、3年次に「臨床技能論実習」及び「基礎理学療法研究」を配置している。また、理学療法の基本となる身体動作について実習により学ぶ科目として「基礎理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」を1年次に配置している。

理学療法の評価について学ぶ科目は、理学療法治療に不可欠な科目であり、広く評価の概念を理解するため、1年次に配置し、評価技術を修得する「理学療法評価学実習」を2年次に配置した。この科目は学修範囲が広いため、2単位に設定している。そして、評価の知識と技術を活かし、疾患に対応した評価が可能となるよう2年次に「画像評価学」を、3年次に「理学療法評価学演習」を配置し、理解を深めることができるよう設定している。

理学療法治療を学ぶ科目についても階層性を重視して配置しており、治療技術の基礎として「運動療法学」、「日常生活活動学」、「義肢装具学Ⅰ」及び「物理療法学」を2年次前期に、2年次後期から3年次にかけて、理学療法治療技術の基礎と理論科目群の疾患学とを関連づけ、理学療法治療技術を学修する科目を配置している。対応させている科目は、「神経障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「運動器障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「義肢装具学Ⅱ」、「内部障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「小児理学療法学演習」、「老年期理学療法学演習」及び「スポーツ障害系理学療法学実習」である。これらに加え、地域における理学療法について、基礎を学ぶ科目として「地域理学療法学」を2年次に配置し、その実践方法を学ぶ科目として「地域理学療法学実習」を3年次に配置している。また、本学科の特色として理学療法治療技術の一つである「徒手理学療法学」と、その手技を学ぶ「徒手理学療法学実習」を3年次に配置し、実践的な技術の学びができるよう配置している。

臨地実務実習については、リハビリテーションと理学療法の概念と、理学療法に必要な倫理やコミュニケーションを、基礎科目及び職業専門科目で学修した1年次前期の最終時期に「理学療法見学実習Ⅰ」を配置している。理学療法士の仕事を見学することで、職業人としての自覚が形成され、学修の目的が明確になるように設定している。また、1年次後期の最終時期に「理学療法見学実習Ⅱ」を配置することで、理学療法士の自覚とキャリア形成を促し、2年次の職業専門科目を学修する動機付けにつながることを意

図している。2年次前期の最終時期に配置している「理学療法見学実習Ⅲ」は、「理学療法見学実習Ⅰ」と同じ施設で実習を行う。そうすることで、同じ施設で実習中に関わる様々な人とのコミュニケーションを深め、関係作りを形成しやすい環境を設定し、理学療法士に必要な資質形成を促す。理学療法理論科目群と理学療法評価について学修した後、3年次前期に「理学療法評価実習」を配置し、臨床場面で理学療法評価を体験し、理学療法の治療につながる意義について症例を通して学修する。その後、評価実習で学修したことを反映し、「理学療法総合臨床実習Ⅰ（3年次後期）・Ⅱ（4年次前期）」で理学療法の一連のプロセスについて学ぶ実習を実施する。この2つの実習は実習内容の到達目標を変え、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」から「理学療法総合臨床実習Ⅱ」へと目標を上げ、理学療法の治療体験を積み上げていけるよう設定している。これらの実習が終了した後「理学療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問理学療法について実習することで、医療と介護の連携についても学修する。

以上の職業専門科目は、理学療法士資格を取得するために重要であり全て必修科目としている。これらの科目以外に、選択科目を職業実践科目群で「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」の3科目を設定し、その中で2科目を選択するよう4年次後期に配置している。

## ②作業療法学科

職業専門科目は、作業療法に関する専門知識と技術を学び、学内で学修したことを臨地実務実習においてチームアプローチの中で作業療法士の役割を経験しながら学修する科目として配置している。作業療法理論科目群が基盤となった上に職業実践科目群を学ぶことで、作業療法の意義と実践方法を理解し、適切な作業療法を根拠に基づき、理論的に実施できるよう科目を配置している。

作業療法理論科目群は、「解剖学Ⅰ・Ⅱ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ・Ⅱ」で作業療法の医学的な基礎となる人体の構造と機能を学ぶ科目になるため、1年次前期から順次配置し、学ぶ範囲が広い「解剖学Ⅰ・Ⅱ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」は単位数を多く設定した。これらの科目を学修し、人体の機能及び心身の発達についての知識を深める科目として「人間発達学」及び「解剖学Ⅲ」を1年次後期に、「運動学実習」を2年次前期に配置している。

また、作業療法の対象者の疾病と障害の成り立ち及びその回復過程を学ぶため、2年次に配置した。具体的な科目は「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「精神医学」などである。

次に、作業療法の意義及び作業療法士のチームアプローチでの役割を知る基本的なリハビリテーションの概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配置し、2年次に「社会福祉学」及び「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。これらの科目の目的は、保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念を学修することであり、特に「地域包括ケア論」は、作業療法学科の養成する人材像の基盤となる科目として位置づけている。

職業実践科目群は、作業療法理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、作業療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付

けて学ぶことができるよう配置している。

作業療法の基礎となる内容を中心に学ぶ科目として、1年次より作業療法の基本的理念や歴史的経緯、作業について学ぶ「作業療法学総論」、「基礎作業学」及び「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置している。また、作業療法の管理に関する科目として、1年次後期に法的制度下の作業療法士の位置づけや職域、管理や倫理を学ぶ「作業療法管理・制度論」及び「作業療法と倫理」を配置している。

作業療法評価学は、作業療法治療に不可欠な科目であり、広く評価の概念を理解するため、1年次後期に「作業療法評価学総論」を配置した。これは、2年次の本格的な各領域での作業療法評価の基礎的知識を学ぶ科目として位置づけている。2年次前期に各領域での作業療法評価（たとえば、「身体障害作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神障害作業療法評価学実習」など）を配置し、作業療法の評価技術の知識と技能を学修する。

作業療法治療学では、2年次前期に各領域の対象者に共通する日常生活と社会生活行為について学ぶ「日常生活活動論実習」及び「社会生活行為論実習」を配置した。これらを基に、2年次後期から3年次前期にかけて各領域の治療学の科目と実習を順次配置している。

地域における作業療法については、2年次よりその基礎となる「地域生活作業療法学総論」を配置し、2年次後期から3年次前期にかけて各領域での対象者の地域生活支援を学ぶ「地域生活作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置した。

臨地実務実習においては、リハビリテーションと作業療法の概念、作業療法に必要な倫理やコミュニケーションを、基礎科目及び職業専門科目で学修した1年次後期に「作業療法見学実習Ⅰ」を配置している。作業療法士の仕事を見学することで、職業人としての自覚が形成され学修の目的が明確になるように設定している。2年次前期の「作業療法見学実習Ⅱ」は、作業療法評価学で学んだ評価技術の一部を実際に体験することを目的の一つにしている。3年次前期には「作業療法評価実習」を配置し、臨床場面で作業療法評価を体験し、作業療法の治療につながる意義について症例を通して学修する。3年次後期には評価実習で学修したことを踏まえ、「作業療法総合臨床実習Ⅰ」で作業療法の治療的介入についての実習を配置する。「作業療法総合臨床実習Ⅱ」は4年次前期に配置する。この2つの実習は、異なる領域の対象者への作業療法介入を学修するように設定している。また、4年次には「作業療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問作業療法について学修する。

以上の職業専門科目は、作業療法士資格を取得するために重要であり、全て必修科目としている。

### （3）展開科目

#### ①理学療法学科

##### 【展開科目を通じて養成する能力とその意義】

理学療法学科では、我が国の健康寿命延伸、障害・疾病予防、健康増進の支援を通じて、「地域共生社会の実現に向けて地域住民を支援できる人材」を育成することを目的とした。そのため、展開科目を通じて、地域住民の身体活動に新たな支援展開（ヘルスポロモーション、生涯スポーツ、生活工学等）を創造できる能力を養成する。少子高齢

化を迎えている我が国において、健康増進や障害・疾病予防は大きな意義がある。そのため、運動に係る専門職である理学療法士が早期から健康増進・予防を含めた広い視点、知識と技術を持つことは、将来の専門職としてのキャリア形成だけでなく、将来の日本の健康寿命延伸、健康増進に与える意義は大きい。

展開科目を通じ、上記の能力を養成するため、各年次で段階的な学修配置を行った。1・2年次では「地域共生社会の理解・地域展開」、3年次では「地域共生実現へのキャリア形成」、3・4年次では「地域共生実現のための方策と展開方法」を目的に科目の配置を行った。

### A.1 年次

1年次では、地域共生社会の実現に向けて、理学療法士が持ち合わせて置くべき資質・能力の一部を養う。その1つは、地域共生社会の実現に貢献することへの興味・関心であり、もう1つは、理学療法士の活躍の場が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域に存在するということを認識することである。この根幹を養うことで、多職種と連携して、地域住民を支援できる人材の基盤を築くことができる。

これらの内容を学修する科目として1年次前期に「生涯スポーツ論」を、1年次後期に「ボランティア論」及び「労働衛生論」を配置する。スポーツの継続、ボランティア活動への参加による健康寿命延伸、QOLの維持・向上への効果を学修することで、身体活動やボランティア活動が、地域社会への貢献につながることを理解する。また、同時に学生に地域社会に貢献することへの興味、関心を持たせることが可能となる。また、労働環境や労働者に生じる課題を学び、その環境の的確な変更が業務効率を改善し、ひいては地域経済の発展につながることを理解する。そして、その取組みに、理学療法士が関わることで職域の拡大につながることを理解する。これらの科目は、医学に関する知識がなくとも理解できるため、1年次に担当した。

### B.2 年次

2年次では、現代社会が抱える課題に焦点を当て、どのような場面や状況で地域住民は支援を必要としているのかを学び、理学療法士がこれらの課題に対してどのように関わるのかを想像する能力を涵養する。この能力が養われることで、地域社会で理学療法士が必要とされていることを認識し、理学療法士が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域で活動できることを強く実感できるようになるという意義を持つ。

これらを学修する科目として2年前期に「子育て支援論」、「教育支援論」及び「災害支援論」を配置する。地域社会が子育て、教育、そして、災害問題においてどのような課題を抱え、どのような支援を必要としているのかを学ぶことで、この課題に対して理学療法士はどのような支援を行うことができるのかを思考できるようになる。また、理学療法士が様々な角度から地域住民のQOLの維持・向上に貢献できることを理解する。理学療法理論科目群や職業実践科目群と並行して学修することで、「理学療法に関する知識と技術の地域における活用」という視点を持ちながら、それらを学修することができるよう配慮した。

### C.3 年次前期

3年次前期では、地域共生とは何かを具体的に実感してもらい、地域共生社会の実現に向けて、主体的に物事を考え・行動する能力を涵養する。この能力を養うことで、地域共生社会の実現に向けて、理学療法士としての知識や技術をどのように応用すれば、自分自身が地域社会のために役立つことができるかを考え・行動できるようになる。

そのために、3年次前期に「地域共生論」を配置する。地域共生社会の実現に向けて、地域で取組みを実践している理学療法士・作業療法士から、地域の現状の課題と対策方法を学ぶとともに、実際に施設を見学することで、現状の課題に対して理学療法士がどのように考え・行動すればよいかを思考できるようになり、理学療法士が健康寿命の延伸、QOLの維持・向上に貢献できることを理解する。

### D.3 年次後期～4年次

3年次後期から4年次にかけては、医療分野や介護分野で理学療法士として働き続けるだけでなく、将来的には自らが主体となって、保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、地域住民の健康寿命延伸、QOLの維持・向上に貢献できるようになるための能力を涵養する。それによって、これらの分野で実際に何を提供できるかに関する知識と技術を身に付けることができる。

また、医療・介護分野で働き続けるだけでなく、将来的には自らが主体となって、保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、地域住民の健康寿命の延伸、QOLの維持・向上に貢献できるようになるためには、地域社会の現状をリサーチする能力や施設を起業し運営する能力が必要となる。したがって、これらの内容を教授する科目として、3年次後期に「マーケティング論」及び「施設起業運営論」を配置した。

障がい者の支援の一つに障がい者スポーツがある。スポーツは障害の有無に関わらず、人生の生きがいとなり健康寿命の延伸とQOLの維持・向上に大きく貢献する。特に障がい者に対する生きがいづくりの一つの選択肢としてその価値は大きく、彼らの身近にいる理学療法士が、スポーツを紹介できる意義は大きい。本学では、障害者スポーツについての理論と実際を学修することにより、必要に応じてスポーツを紹介できるようになるための科目を用意する。これらの内容を教授する科目として、3年次後期に「障がい者スポーツ論」を、4年次前期に「障がい者スポーツ論実習」を配置した。特に「障がい者スポーツ論実習」では、障がい者スポーツの楽しさを体感し、障がい者スポーツが健康寿命延伸やQOL維持・向上に役立つ手段の一つであることを、体験を通して理解する。

### E.履修モデル

地方自治体（健康教室・高齢者サロン）、健康増進施設、企業の健康推進室、健康関連企業等で活躍する理学療法士を目指す学生は、「体力測定論」、「健康増進実践演習」、「健康増進実践実習」、「遊びとレクリエーション」、「生きがい創造」、「伝承遊び」及び「メンタルヘルスマネジメント論」を選択する。学修を通して、生活習慣病、呼吸器疾患、循環器疾患、がんなどの予防、子供から高齢者までの幅広い対象と良好な関係を形成する力を学修する。

教育機関（部活指導）、体育協会、スポーツクラブ、フィットネスクラブ、スポーツ・健康・食・ファッション関連企業等で活躍する理学療法士を目指す学生は、「スポーツリズムトレーニング論」、「フィットネス論」、「ランニングトレーニング論」、「ゴルフトレーニング論」、「ビジョントレーニング論」、「シューフィッティング論」及び「パフォーマンス向上論」を選択する。様々なスポーツのトレーニング理論を学ぶことで、生涯を通して健康的にスポーツを実践するための知識・技術を学修する。

就労支援事業所（作業所）、放課後等デイサービス、グループホーム、特別支援学校、リハビリ機器開発企業、福祉機器メーカー等で活躍する理学療法士を目指す学生は、「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」、「ロボット工学地域活用論応用」及び「身体障がい者就労環境論」を選択する。障害予防に対する生活工学の利用だけでなく、神経・運動障害の有無にかかわらず、安全・安心な生活・就労の支援に関する生活工学の知識と技術をいかにして生活・就労環境に活用するかを学修する。

## ②作業療法学科

### 【展開科目を通じて育成する能力とその意義】

作業療法学科では、「地域共生社会の実現に貢献する人材」を育成することを目的とし、展開科目を通じて、地域住民（児童期、成人期、老年期）の生活課題に関する新たな支援展開を創造できる能力を養成する。人にとって、就労や余暇活動は、活動量の増加にさせるだけでなく、「生活の質」を向上させることに大きな意義を持ち、それは健康増進や障害・疾病予防に大きく貢献する。そのため、行為・活動に係る専門職である作業療法士が早期から就労と余暇活動を含めた広い視点、知識と技術を持つことは、将来の専門職としてのキャリア形成だけでなく、将来の日本の健康寿命延伸、健康増進に与える意義は大きい。

展開科目を通じ、上記の能力を養成するため、各年次で段階的な学修配置を行った。1年次では「地域共生社会の基本概念と現状の理解」、2年次では「地域展開に向けた共通理解」、3・4年次では「地域の課題発見・解決」を目的に科目の新設、再配置を行った。

### A.1年次

1年次では、地域共生社会の実現に向けて、作業療法士が持ち合わせておくべき資質・能力の一部を養う。その1つは、地域共生社会の実現に貢献することへの興味・関心であり、もう1つは、作業療法士の活躍の場が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域に存在するということを認識することである。それによって、多職種と連携して、地域住民を支援できる人材の基盤を築くことができる。

これらの内容を学修する科目として1年次前期に「地域社会共生論」及び「ボランティア論」を配置し、1年次後期に「地域社会共生論実習」及び「災害支援論」を配置する。「地域社会共生論」では、地域共生とは何かを学び、後期の「地域社会共生論実習」でその実際を体験する。これにより、地域社会が必要とする支援を理解する能力を修得する。また、「ボランティア論」では地域への貢献とは何か、どのような活動が地域社

会への貢献につながるかを理解する。また、同時に学生に地域社会に貢献することへの興味、関心を持たせる意義がある。また、「災害支援論」緊急時の支援の基礎的な概念を学び、非日常的环境の中で人がどのような支援を求めるのかを理解する。1年次にこれらを学修することにより、作業療法士としての専門的知識を学修する目的を、明確にできると考える。これらの科目は、医学に関する知識がなくとも理解できるため、1年次に配当した。

## B.2 年次

2年次では、地域社会が抱える課題に焦点を当て、どのような場面や状況で地域住民が支援を必要としているのかを学び、作業療法士がこれらの課題に対してどのように関わられるのか、何を支援できるのかを想起する能力を涵養する。この能力が養われることで、地域社会で作業療法士が必要とされていることを認識し、作業療法士が、医療・介護分野だけではなく、地域社会の広い領域で活動できることを実感できるようになるという意義を持つ。

これらを学修する科目として2年前期に「子育て支援論」及び「メンタルヘルスマネジメント論」を、2年後期に「教育支援論」及び「マーケティング論」を配置した。ここでは、子育てについての概要を学修し、子どもとのかかわり方、子どもの力を引き出すためのかかわり方を学び、子どもに対するかかわり方と作業を用いた支援の在り方を結びつける基礎知識とする。また、後期の「教育支援論」で学ぶ、学校とはそもそも何か、学校内での支援の在り方、現状の課題を学ぶ。これにより、作業療法士が支援できる課題を見極める能力を修得させる意義がある。「メンタルヘルスマネジメント論」では個人のストレス耐性について学び、企業組織の中の従業員として働く中でのストレスとストレスナーについて学ぶ。これにより、作業療法士が現状の企業組織の中での課題に対して、支援できることを理解する。「マーケティング論」では組織に所属する多くの人々、地域の人々の支援の需要をどのように把握するかを学ぶ。作業療法士として、地域の需要を自ら発見する能力の基礎となる。

また、作業療法士が様々な角度から地域住民のQOLの維持・向上に貢献できることを理解する。作業療法理論科目群や職業実践科目群と並行して学修することで、「作業療法に関する知識と技術の地域における活用」という視点を持ちながら、それらを学修することができるよう配慮した。

## C.3 年次前期

3年次前期では、安定して組織運営を行うための方法論や課題について学修する。「施設起業運営論」において、組織運営の持続可能な要素について学び、そこから課題を発見する能力を養う。そして、その課題に対する解決策を思考する能力を養う。また、将来自身が起業する場合の基礎知識とすることで、施設運営などに行かせる能力を養う。これにより、作業療法士が組織という環境に着目して支援する基盤とするために配置した。これにより地域住民のQOLの維持・向上につなげる。

## D.3 年次後期～4年次

3年次後期から4年次にかけては、医療・介護分野で作業療法士として働き続けるだけでなく、将すべての年代に共通する活動として、就労と余暇活動に焦点を当てる。就労に対して、「精神障がい者就労環境論」及び「身体障がい者就労環境論」の2科目で、障害を持った方の就労環境とはどのようなものかを知り、課題を解決する理論を学修する。障がい者の就労環境とその改善理論を学修したのちに、「就労環境論実習」において、実際の現場で課題を発見し、その課題を解決する能力を養う。

余暇活動に対して、「障がい者スポーツ論」「障がい者スポーツ論実習」を学修する。スポーツは障害の有無に関わらず、人生の生きがいとなり健康寿命の延伸とQOLの維持・向上に大きく貢献する。特に障がい者の社会参加の選択肢としてその価値は大きく、彼らの身近にいる作業療法士が、スポーツを提案する必要がある。また、スポーツをとおして余暇活動、すなわち自分らしい時間の使い方を見つけるきっかけを作る能力の基礎とするために配置した。

#### E.履修モデル

保育園、小学校、特別支援学校、学童保育、放課後等デイサービス等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「児童期地域生活適応論」及び「児童期地域生活適応論実習」を選択する。これらの科目では、作業療法士がまだ介入していない保育園や放課後等デイサービスの現状を学び、実習を行う。その過程を通して、児童期における作業療法の多様な支援についての学修を深める。

就労移行支援事業所、特例子会社、生活訓練施設、グループホーム等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「成人期地域生活適応論」及び「成人期地域生活適応論実習」を選択する。これらの科目では、作業療法士が介入していない施設での成人期の方のQOLの向上に向けた関わりを学び、実習を行う。その過程を通して、成人期の方の生活支援の多様性について学修を深める。

通所介護施設、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「老年期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論実習」を選択する。これらの科目では、作業療法士が介入していない老年期の方の通所や施設での関わり方を学び、実習を行う。その過程を通して、老年期の方が自分らしく生活することについて学修を深める。

#### (4) 総合科目

理学療法学科の総合科目は「協働連携論総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」の3科目であり、作業療法学科の総合科目は「協働連携論総合実習」、「作業療法総合実習Ⅰ」及び「作業療法総合実習Ⅱ」の3科目であり、それぞれ次のとおり、習得した知識を総合し、実践的かつ応用的な能力を総合的に高めることを企図している。

##### 「協働連携論総合実習」

リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、

職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障がい者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。

### 「理学療法総合実習」

展開科目で学んだことと、職業専門科目や各実習などから得た知識や経験に基づいて、地域共生社会の実現に向けて、地域社会が抱える課題にはどのようなものがあるのかを検討し、その課題に対してどのようなアプローチがなされ、どのような効果を得ているのかについて情報を整理する。

そして、整理した情報に基づき、地域が抱える固有の課題を発見し、地域共生社会の実現のために、どのようなことを調査・研究していく必要があるのかについて、ディスカッションを通して、調査・研究計画を立案していく。グループで問題解決の方法を考案し、解決策を検討・提案できることを目標としている。グループにおいて情報を整理し、問題点を抽出し、調査・研究計画の検討、立案を行うとともに、プロジェクトの企画までを行う。

### 「リハビリテーション総合演習」

職業専門科目や展開科目で履修した内容を基盤に、学生自身が自ら疑問を解決できるよう研究手法について学び、その過程が理解できるようになることを目的とする。授業は、少人数のゼミ形式で行い、講義では研究の手法や研究計画の立案について学修する。さらに、実際に実験を行い、得られたデータを分析し、その結果からどのように考察するかを考えていく研究プロセスを学ぶ。実際に行った研究は、発表会を通じてさらに考察を深める。この授業では、理学療法総合演習で行う地域課題への課題発見と解決方法を学ぶ素地として論理的思考能力を向上させることを目標とする。

### 「作業療法総合実習Ⅰ」

これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することを目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるかを発見するために、作業療法評価を応用・活用する方法について学修する。これまでの展開科目や実習で得た情報、事例を基にグループワークを通じて、作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学修する。

### 「作業療法総合実習Ⅱ」

本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談（事例）から、地域

障害者の課題をグループごとに発見し、分析することで応用力を育成する。

#### 4) 教育課程における実習等の配当

##### (1) 理学療法学科

実習に関しては、専門職大学設置基準で求められている 40 単位（臨地実務実習 20 単位含む）を確保しており、その中には、厚生労働省の理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則において求められている 20 単位も含み、合計 42 単位の実習を配当している。学内では、理学療法の手技や手法について、体験を通して学ぶ実習科目を多く配当し、高度な実践力の学修につなげることを意図している。学内と学外での実習を行い、理学療法士に必要な高度な実践力の習得を目的とした実習科目を配当した。

学年進行に合わせた臨地実務実習の形態については次のとおりである。

臨地実務実習は、1 年次前期に「理学療法見学実習Ⅰ」を介護老人保健施設で行い、介護分野での理学療法士の役割について知るとともに、対象者とコミュニケーションを取る経験を通して医療従事者としての適切な言動を理解する。後期には 1 年の集大成として「理学療法見学実習Ⅱ」を行う。病院での見学実習を行うことで、医療従事者としての理学療法士の仕事を理解し、自身の将来像を明確にする機会とし、主体性の向上につなげる。

2 年次前期には、「理学療法見学実習Ⅲ」を「理学療法見学実習Ⅰ」と同様の施設で行う。そうすることで、理学療法士として対象者と適切なコミュニケーションを取れるようになること、合わせて、生活面の援助と介助ができるようになることを目指す。理学療法見学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して、理学療法士の仕事と、理学療法士に求められる資質を理解できるように構成している。

3 年次前期には、2 年次までに習得した疾患学及び理学療法評価学をもとに、対象者の症状を評価する方法を実践・理解することを目的として、「理学療法評価実習」を行う。3 年次後期にはその「理学療法評価実習」を踏まえ、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」を行う。この実習では、対象者の症状の評価を踏まえ、治療目標及び治療計画を立案し、それを一部実施することで、理学療法における一連のプロセスの理解を深める。

4 年次前期には、「理学療法総合臨床実習Ⅱ」を行う。治療計画の一部実践を行う「理学療法総合臨床実習Ⅰ」から、すべての実施・効果判定を行うことで、理学療法の実践を体系的に学習できるよう配慮している。また、「理学療法総合臨床実習Ⅱ」までの実習において、病院、クリニック、介護老人保健施設、通所リハビリテーション（デイケア）、訪問リハビリテーション施設など特性の異なる施設のうち 3 箇所にて実習を行うことで、それぞれの施設での理学療法士の役割の違いについても理解を深めることを目指す。さらに、4 年次前期の「理学療法地域実習」では、地域で生活する対象者を援助する方法について学ぶ。その中で、これまでの講義、演習及び実習等での学習を振り返り、地域社会において理学療法士に求められる技術及び能力を理解するとともに、卒業後のキャリア形成につなげられるようにしている。キャリアパスのための選択性を高め、より多くの専門性の高い技術を学び、視野の広い理学療法士を養成するという観点から、

職業専門科目の3つの応用論実習「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」のうち4単位以上を学生が自由に選択できるようにしている。

## (2) 作業療法学科

実習においては、専門職大学設置基準で求められている40単位（臨地実務実習20単位を含む）を確保しており、その中には、厚生労働省の理学療法士作業療法士学校要請施設指定規則に求められている22単位も含み、合計55単位の实習を配当している。

学内では、作業療法の手技や手法を学ぶ実践科目を多く配当し、それら実践科目の基礎となる授業科目を通して、高度な実践力に繋がる学修に繋げることを意図している。学内と学外での実習を行い、作業療法士に必要な高度な実践力の習得を目的とした実習科目を配当した。

学年進行に合わせた臨地実務実習の形態については次のとおりである。

臨地実務実習は、1年次の全配置科目終了後に、「作業療法見学実習Ⅰ」を実施し、病院、介護保険関連施設において早期体験実習（Early Exposure）を実施し、医療人としての接遇・態度を身につけ、作業療法における施設特性を理解することで1年間の集大成とする。2年次前期には、「作業療法見学実習Ⅰ」と同様、病院、介護保険関連施設において「作業療法見学実習Ⅱ」を行う。この実習では、作業療法における専門性が高まった中で、現場での実習と本学内での講義・演習を並行して行うことで、学習効果をあげていく。3年次前期には、「作業療法評価実習」を行い、対象者の病状・生活像の把握を行う実習を行う。その上で、3年次後期に「作業療法総合臨床実習Ⅰ」を、4年次前期に「作業療法総合臨床実習Ⅱ」を行い、治療プログラムの立案を体系的に学ぶことの出来る実習を配置している。さらに、4年次前期の「作業療法地域実習」で、地域で生活する対象者を援助する方法について学ぶ。また、展開科目での実習は、大学構内での講義で全体像を把握した後に実習を行い、地域社会の現状を自身の目で確かめるとともに、地域が抱える課題を解決するための学習を行う。そして、これまでの講義、演習及び実習等での学習を振り返り、地域社会において作業療法士に求められる技術及び能力を理解するとともに、卒業後のキャリア形成につなげられるように「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」を配当した。

## 5) 実習先の有効性

### (1) 理学療法学科

教育研究上の目的を達成するためには、第一に、高度な専門性と実践力を有した理学療法士を養成する必要がある。そのためには、病院だけでなく、様々な形態の施設において臨地実務実習が実施できることが理想である。そのため、病院、クリニック、介護老人保健施設、通所リハビリテーション（デイケア）、訪問リハビリテーション施設など様々な形態の施設において臨地実務実習ができるようその選定を行った。また、理学療法学科においては、地域共生社会の実現に向け、病院だけでなく、地域社会の中でその創造力及び応用力を発揮できる理学療法士の養成を目指している。そのため、特に、

通所リハビリテーション（デイケア）、訪問リハビリテーション施設など、在宅を前提としたサービスを提供している施設での実習先の確保に努めた。

また、応用、実践的な技術の習得を目的とした「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」及び「スポーツ障害応用論実習」では、科目の目的に応じた病院やクリニック、介護系施設、メディカルフィットネス、滋賀県理学療法士会、高等学校の部活動、大学のクラブチーム、企業のクラブチーム及び地域のクラブチーム等で、実習を行うことについて承諾を得ている。

## （２）作業療法学科

教育研究上の目的を達成するためには、第一に、高度な専門性と実践力を有した作業療法士を養成する必要がある。そのためには、発達領域、精神領域、老年期領域、身体障害領域のうち複数の領域において実習ができることが望ましい。そのため、そのような観点から臨地実務実習の選定を行った。また、理学療法学科と同じく、共生型社会の実現に向け、病院だけではなく、地域社会の中でその創造力及び応用力を発揮できる作業療法士の養成を目指している。そのため、特に、通所リハビリテーション（デイケア）、訪問リハビリテーション施設など、在宅を前提としたサービスを提供している施設での実習先の確保にも努めた。

【資料 12】臨地実務実習施設一覧表及び臨地実務実習施設使用承諾書（理学療法学科）

【資料 13】臨地実務実習施設一覧表及び臨地実務実習施設使用承諾書（作業療法学科）

## 5. 教員組織等の編成の考え方及び特色

### 1) 教員組織の編成

本学リハビリテーション学部は、豊かな人間性や幅広い教養、医療専門職としてふさわしい専門的知識と技術、職業倫理、他の職種との協調性・連携意識を身に付けるとともに、専攻分野に関連する他の分野に関することを学び、応用能力を高め、課題解決や専攻分野の新たな展開の創造に向けて、主体的に考え実践し、医療・保健・福祉に貢献できる人材を育成することを目的としている。また、特に、地域共生社会の実現に向けて、病院内で勤務するだけでなく、病院の外に広がる地域社会において、自身の能力を創造的に応用・展開できる人材の育成を目指している。

このような人材育成を行うにあたり、基礎科目においては、医療専門職として職業的自立を図るために必要となる基礎的な知識を学生に習得させるため、それに相応しい教員の配置を行った。続いて、専門職業科目においては、医学及びリハビリテーション学に関する理論的な知識を習得させるために、それに相応しい教員を配置するとともに、医療専門職としての実践力を高めるために、実務経験を有した教員の配置を行った。展開科目では、学生が卒業をした後のキャリアにおいて、病院内で勤務をするだけでなく、病院の外に広がる地域社会で、理学療法士及び作業療法士としての応用的な能力を発揮することができるようになるため、その実務経験を有した者の配置を行った。最後に、総合科目においては、学生がこれまでに習得した知識・能力を総合的に高められるよう実務経験と教育・研究業績を積んだ教員を主として配置した。理学療法学科及び作業療法学科の教員組織の編成方針は次のとおりである。

なお、専任教員のうち完成年度を迎えるまでに本学の定年である 65 歳を超える者は、16 名いるが、健康上労務の提供に問題が生じない限り、就業規則に定める継続雇用制度を適用する。

#### (1) 理学療法学科

リハビリテーション学部の教員編成方針を踏まえた上で、理学療法学科では、その教員を編成するにあたり、第一に、理学療法士としての高度な実践力を養成するため、長く理学療法士としての実務経験を有し、かつ大学及び専門学校において長く教鞭を取ってきた者を教員として配置を行った。第二に、医療専門職として、人間の身体に関する理論的な知識を習得させるため、解剖学、生化学及び内科学等について長く大学で教鞭を取ってきた教員を配置した。第三に、展開科目において理学療法士としての創造力及び応用力を養成するために、理学療法の関連領域の専門家教員、病院以外の施設等で理学療法士としての役割を広げてきた者であることも重視し、教員組織の編成を行った。

#### (2) 作業療法学科

リハビリテーション学部の教員編成方針を踏まえた上で、作業療法学科では、その教員を編成するにあたり、第一に、作業療法士としての高度な実践力を養成するため、長く作業療法士としての実務経験を有し、かつ大学及び専門学校において長く教鞭を取ってきた教員を配置した。第二に、医療専門職として、人間の身体に関する理論的な知識

を習得させるために、解剖学、生化学及び内科学等について長く大学で教鞭を取ってきた教員を配置した。第三に、展開科目において作業療法士としての創造力及び応用力を養成するために、作業療法の関連領域において、その専門的な知識を有し、地域共生社会に向けて実践的な取り組みを行ってきた者であることも重視し、教員組織の編成を行った。

## 2) 教育課程を見直す体制

教育課程の見直しを図る体制として、教務委員会及び教育課程連携協議会を置く。なお、次のとおり教育内容・方法の開発等に経験・実績のある者を専任教員として配置している。

所属・職位	名前	経験
理学療法学科 准教授	分木ひとみ	滋賀医療技術専門学校理学療法学科の学科長として 9 年以上にわたり、その教育課程の見直しを行ってきた。
理学療法学科 准教授	宇於崎孝	滋賀医療技術専門学校において教務委員会に所属し、その教育課程の見直しを行ってきた。
作業療法学科 准教授	大西満	藍野大学医療保健学部の教務委員会の委員として 3 度の教育課程の変更及び開発に携わった。
作業療法学科 講師	安部征哉	藍野大学医療保健学部作業療法学科の教務委員会の委員として教育課程の変更及び開発に携わった。
作業療法学科 助教	木岡和実	滋賀医療技術専門学校作業療法学科の学科長として 9 年以上にわたり、その教育課程の見直しを行ってきた。

### (1) 教務委員会

びわこリハビリテーション専門職大学組織規程第 9 条第 2 項に基づき、教務委員会を設置する。教務委員会は、学部長、各学科長、各学科から選出された者、事務長、教務課長、その他学長が必要と認めた者でもって構成し、教育課程の編成の見直しについて審議を行う。教務委員会の構成員には、教育内容・方法の開発等に経験・実績のある者を加えることで、審議の実質性を高める。また、教務委員会において、審議した教育内容・教育方法の変更案について、次項で述べる教育課程連携協議会の審議にかける。

### (2) 教育課程連携協議会

びわこリハビリテーション専門職大学教育課程連携協議会規程に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学教育課程連携協議会を設置し、産業界等の方々を交えて、教育課程の見直しを図る。本協議会においては、その冒頭で、各構成員より、自身の職務を遂行するにあたり感じている理学療法士及び作業療法士の課題、あるいは医療や福祉の分野に係る社会の変化について話していただき、そこで出た意見を、教育課程を見直す材料にすることを想定している。

また、教育課程連携協議会は、最低 1 年に 2 回開催することとしている。2 回と設定

した理由は半期の授業等の終了後に、その半期の振り返りとして成果と反省点を教育課程連携協議会の構成員と共有するためである。その際、学生からの授業評価アンケート及び実習施設へのアンケートも参考資料とする。それらの資料を並べた上で、産業界等の学外の構成員より意見を伺うという形を取ることで、次の半期以降の授業等をどうしていくべきかについて学外の構成員も意見が言い易くなると考えている。以上の方法により、地域社会を含む産業界等の人材ニーズに即応した人材を輩出するために、教育課程の不断の見直しを図る。

【資料 14】 びわこリハビリテーション専門職大学組織規程

【資料 15】 びわこリハビリテーション専門職大学教務委員会規程

【資料 16】 びわこリハビリテーション専門職大学教育課程連携協議会規程

### 3) 主要科目の担当

#### (1) 理学療法学科

理学療法士資格取得に特に必要であり、それゆえ主要な科目とその担当者は次のとおりとし、教授、准教授を中心に配置した。講師の配置については、担当科目の内容に関する実務経験及び業績があることを条件に決定した。開設年度のみ区分「兼任」の教員を配置しているが、校地・校舎を共有する滋賀医療技術専門学校が主たる勤務地となるため、教育上支障が生じることはない。なお、以下の表において、名前の末尾に（兼任）と記載のある者は、開設年度の翌年度より専任教員として勤務する。

科目名	職位	名前
解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教授	山田久夫
生理学Ⅰ、Ⅱ	教授	三谷章
運動学Ⅰ	教授	山内正雄
運動学Ⅱ	講師	里中綾子
	講師	藤谷亮
	准教授	安田孝志
運動学実習	講師	藤谷亮
	准教授	安田孝志
内科学Ⅰ、Ⅱ	教授	篠田恵一
整形外科学Ⅰ、Ⅱ	教授	金沢伸彦
基礎理学療法Ⅰ	講師	植田昌治
基礎理学療法Ⅱ	講師	堀寛史
基礎理学療法実習Ⅰ	講師	里中綾子
基礎理学療法実習Ⅱ	准教授	宇於崎孝
理学療法評価学	講師	川崎浩子（兼任）
理学療法評価学実習	准教授	宇於崎孝

	准教授	大西均
理学療法評価学演習	教授	山内正雄
	講師	弘部重信
	講師	藤谷亮
運動療法学	准教授	治郎丸卓三
運動療法学実習	講師	池谷雅江
物理療法学		
日常生活活動学	講師	植田昌治
	講師	川崎浩子
神経障害系理学療法学実習Ⅰ		
神経障害系理学療法学実習Ⅱ	講師	藤谷亮
運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	准教授	大西均
運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	准教授	安田孝志
	准教授	大西均
内部障害系理学療法学実習Ⅰ	教授	千住秀明
内部障害系理学療法学実習Ⅱ	教授	千住秀明
	講師	弘部重信
地域包括ケア論	講師	弘部重信
	講師	鈴木美香
地域理学療法学	講師	植田昌治
	講師	川崎浩子
地域理学療法学実習	講師	弘部重信
	講師	鈴木美香
	講師	植田昌治

展開科目のうち教育上の目的を達成するために、特に主要な科目とその担当者は次のとおりである。講師が担当する科目については、准教授とのオムニバスでの講義としており、主担当として准教授が、授業科目の組み立てを行うため、教育上支障が生じないよう配慮を行っている。

科目名	職位	名前
福祉工学地域活用論	教授	外池光雄
ロボット工学地域活用論応用	准教授	安田孝志
体力測定論	准教授	分木ひとみ
	講師	池谷雅江
	講師	鈴木美香
健康推進実践演習	准教授	分木ひとみ
	講師	池谷雅江
	講師	鈴木美香

健康推進実践実習	准教授	分木ひとみ
	講師	池谷雅江
	講師	鈴木美香
障がい者スポーツ論	准教授	安田孝志
障がい者スポーツ論実習	准教授	安田孝志
	講師	池谷雅江
パフォーマンス向上論	准教授	治郎丸卓三
フィットネス論	准教授	治郎丸卓三
	准教授	大西均
	助教	佐藤隆彦

## (2) 作業療法学科

作業療法士資格取得に特に必要であり、それゆえ主要な科目とその担当者は次のとおりとし、教授、准教授を中心に配置した。講師、助教の配置については、担当科目の内容に関する実務経験及び業績があることを条件に決定した。

科目名	職位	担当者名
内科学Ⅰ、Ⅱ	教授	篠田恵一
整形外科Ⅰ、Ⅱ	教授	金沢伸彦
解剖学Ⅰ	教授	野田亨
解剖学Ⅱ	教授	井出千束
解剖学Ⅲ	教授	野田亨
生理学Ⅰ、Ⅱ	教授	三谷章
運動学Ⅰ、Ⅱ	講師	安部征哉
作業療法学総論	准教授	大西満
基礎作業学	助教	嶋川昌典
作業療法研究法	教授	辛島千恵子
作業療法評価学総論	講師	園田悠馬
身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	講師	安部征哉
精神障害作業療法評価学実習	助教	嶋川昌典
発達障害作業療法評価学実習	准教授	大西満
運動器疾患作業療法学実習	講師	安部征哉
精神障害作業療法学	助教	嶋川昌典
精神障害作業療法学実習	助教	嶋川昌典
発達障害作業療法学実習Ⅰ	教授	辛島千恵子
発達障害作業療法学実習Ⅱ	教授	辛島千恵子
地域生活作業療法学総論	教授	辛島千恵子
地域生活作業療法学実習Ⅱ	助教	嶋川昌典
作業分析活用論実習	助教	嶋川昌典

展開科目のうち教育上の目的を達成するために、特に主要な科目とその担当者は次のとおりである。専攻する特定の職業の分野に関連する分野（他分野）における応用的な能力を習得させることが展開科目の位置付けとなるため、医学又は作業療法学を専門とする専任教員に担当させるのではなく、敢えて、実務家である兼任教員を配置した。その兼任教員とは、学科長が密に打ち合わせを行うことで、CP（カリキュラム・ポリシー）及び科目の趣旨に沿った講義及び実習となるよう配慮するとともに、実習については、専任教員がサポートをするため、教育上支障はない。

科目名	所属・職位・氏名
地域社会共生論	立命館大学 産業社会学部 現代社会学科 教授 田村和宏
地域社会共生論実習	特定非営利活動法人アイ・コラボレーション 理事長 山本英嗣
精神障がい者就労環境論 就労環境論実習	非営利活動法人 滋賀県社会就労事業振興センター 理事長 城高志
老年期地域生活適応論 老年期地域生活適応論実習	株式会社ジッセントシップ 代表取締役 坂梨仁勇
成人期施設生活適応論 成人期施設生活適応論実習	株式会社 THEMSY 放課後等デイサービス 代表取締役 笹井久嗣
児童期地域生活適応論 児童期地域生活適応論実習	あいの南千里保育園 施設長 重見将治

#### 4) 実務家教員の編成

##### (1) 理学療法学科

地域社会において理学療法士として活躍できる多様な場を示すため、実務家教員の実務経験（5年以上）は、病院、診療所、介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、また急性期から維持期など多岐にわたる分野になるよう編成している。専任教員のうち兼担を除く実務家教員は11名であり、氏名と略歴は次のとおりである。

教員名	略歴
山内正雄 (H32.4 就任) 職位：教授	1988.4～2016.3 済生会西条病院勤務（急性期病院） 2000.4～2016.3 愛媛県介護支援専門員指導者 2000.4～2016.3 愛媛県西条市介護認定審査会委員 2004.4～2016.3 愛媛県西条市ケアプラン指導研修チーム委員 2004.6～2016.3 愛媛県理学療法士会理事 2010.11～2016.3 日本理学療法士協会代議員
宇於崎孝	1997.3～2001.3 近江温泉病院勤務（回復期、生活期病院）

(H32.4 就任) 職位：准教授	1998.4～2001.3 彦根中央病院非常勤勤務（急性期、生活期病院） 2001.6～2010.3 ヴォーリズ老健センター非常勤勤務 2015.4～現在 今津病院非常勤（急性期、回復期） 2010.11～2014.5 日本理学療法士協会 代議員
治郎丸卓三 (H32.4 就任) 職位：准教授	2005.4～2011.3 金沢整形外科クリニック勤務 2011.4～現在 金沢整形外科クリニック非常勤勤務 2010.2～2013.3 佛教大学陸上競技部 非常勤トレーナー
安田孝志 (H33.4 就任) 職位：准教授	2000.4～2004.3 近江温泉病院勤務（生活期病院） 2001.4～現在 レイク滋賀バスケットボールクラブ（車いすバスケットボールチーム）非常勤トレーナー 2016.6～現在 ゴルフフィジオトレーナー認定講習会アシスタント
大西均 (H33.4 就任) 職位：准教授	2004.3～2012.3 彦根中央病院勤務（急性期・生活期病院） 2013.4～現在 医療法人緑泉会 通所リハビリテーション施設非常勤勤務 2014.4～現在 社会福祉法人夢翔会 デイセンター楓 非常勤勤務 2018.4～現在 社会福祉法人青い鳥会 障害者支援施設彦根学園 非常勤勤務
川崎浩子 (H33.4 就任) 職位：講師	1989.4～1991.8 藤田保健衛生大学病院勤務（急性期病院） 1991.9～1994.9 海津郡医師会病院勤務（一般病院） 1994.11～2005.3 友仁山崎病院勤務（一般病院、在職中に介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにも携わる。） 2005.4～現在 介護老人保健施設アロフェンテ彦根非常勤勤務 2008.4～現在 福祉用具プランナー講師 2008.5～2009.3 大津市通所型介護予防事業（運動器の機能向上プログラム）実施 2014.4～現在 滋賀県理学療法士会 理事
藤谷亮 (H33.4 就任) 職位：講師	2005.4～2014.3 梁山会診療所勤務（クリニック、神経難病患者対象の通所リハビリテーション） 2014.5～現在 かなえるリハビリ訪問看護ステーション都 非常勤勤務（訪問リハビリテーション） 2015.5～現在 NPO 法人 暖 放課後等デイサービス 理学療法・介護アドバイザー 2017.11～現在 かけはしデイサービスふなおか 理学療法・介護アドバイザー
池谷雅江 (H32.4 就任) 職位：講師	2003.4～2004.3 草津総合病院勤務（一般病院、回復期病院） 2004.4～2006.3 矢橋中央病院勤務（生活期病院） 2006.4～2007.3 草津総合病院勤務（一般病院、回復期病院） 2008.5～2009.3 大津市通所型介護予防事業（運動器の機能向上プログラム）実施 2017.2～現在 日本身体障がい者水泳連盟 指導員 2018.3～現在 日本障がい者アーティスティックスイミング（旧シンクロナイズドスイミング）協会 理事
鈴木美香 (H33.4 就任)	2003.4～2006.3 市立長浜病院（急性期・生活期病院） 2008.6～2009.3 大津市長寿政策課委託業務 通所型介護予防

<p>職位：講師</p>	<p>事業（運動器の機能向上プログラム）実施</p> <p>2009.4～2011.9 医療法人周行会 介護老人保健施設 寿々ほうす (介護老人保健施設) 非常勤勤務</p> <p>2013.4～2015.3 長寿社会文化協会団体委託常務 草津市介護予防推進公布事業実施</p> <p>2017.4～現在 滋賀県地域リハビリテーション人材育成協議会委員</p>
<p>弘部重信 (H34.4 就任) 職位：講師</p>	<p>2003.4～2005.3 滋賀県草津保健所健康増進課（県庁兼務） 地域リハビリテーション普及及び介護保険におけるリハビリテーションの確立に向けた企画立案・事業開催の実施、地域リハビリテーション広域支援センター設立および運営支援</p> <p>2005.4～2006.3 滋賀県庁健康推進課 県立リハビリテーションセンター開設準備及び県リハビリテーション施策の主担当、県保健医療計画・障害者プラン・介護保険計画のリハビリテーション分野の策定に従事</p> <p>2006.4～2008.3 滋賀県立リハビリテーションセンター（県庁健康推進課兼務） 地域リハビリテーション普及啓発・地域リハビリテーション基盤形成・各種関連事業展開、県保健医療計画・障害者プラン・介護保険計画のリハビリテーション部分の策定に従事</p> <p>2008.4～現在 滋賀県立成人病センター（現滋賀県立総合病院）（県立リハビリテーションセンター兼務）主任技師長（脳卒中・人工関節全置換術後・呼吸器疾患・廃用症候群・がん・心臓リハビリ・糖尿病・緩和ケア・ICU・HCU などでの理学療法に従事） 電子カルテ導入準備、院内感染管理対策チームおよび呼吸ケアチームメンバー歴任 平成 24 年 4 月よりリハビリテーション科技師長、現在：病院執行部会議、病院運営会議、医療安全委員会、緩和ケア推進委員会、臨床倫理専門部会、メディカルスタッフ連絡会議、地域包括ケア病棟運営推進会議の各委員就任中</p> <p>2010.5～2013.4 滋賀県理学療法士会 理事</p> <p>2014.5～現在 滋賀県理学療法士会 執行理事、日本理学療法士協会 代議員</p>
<p>野口真一 (H32.4 就任) 職位：講師</p>	<p>2013.6～2014.3 医療法人悠悠会いそクリニック通所リハビリテーション 非常勤</p> <p>2014.2～現在 ヤマダ電機陸上競技部 非常勤トレーナー（陸上部長距離選手を対象にランニング障害全般の理学療法を実施、陸上部女子長距離選手を対象にトレーニング、ランニング指導）</p> <p>2014.3～2016.12 レイジェンド滋賀 FC 非常勤トレーナー（サッカー部員に対し試合中や練習中の応急処置、障害全般に対するアスレティックリハビリテーション、障害予防トレーニング指導、競技力向上トレーニング指導）</p> <p>2014.3～2016.12 滋賀県国体サッカー成年男子チーム 非常勤トレーナー（試合中や練習中の応急処置、障害全般に対するアスレティックリハビリテーション、障害予防トレーニング指導、競技力向上トレーニング指導）</p>

	グ指導)
2014.4～2016.12	京都光華高等学校陸上競技部 非常勤トレーナー (陸上部長距離選手を対象にランニング障害全般の理学療法、女子長距離選手を対象にトレーニング、ランニング指導)
2014.8～現在	全国都道府県対抗男子駅伝競走大会京都チーム 非常勤トレーナー (ランニング障害全般の理学療法、トレーニング、ランニング指導)
2015.3～現在	医療法人金沢整形外科クリニックリハビリテーション科在宅リハビリテーション課 (通所リハビリテーション)
2017.6～現在	びわこ学院大学教育福祉学部 非常勤講師 (応急処置の講義)
2018.4～現在	関西外国語大学女子駅伝部 非常勤トレーナー (ランニング障害全般の理学療法、トレーニング、ランニング指導)

## (2) 作業療法学科

地域社会において作業療法士として活躍できる多様な場を示すため、実務家教員の実務経験(5年以上)は、児童領域、成人領域、老年期領域全てを網羅するよう編制している。専任教員のうち兼担を除く実務家教員は6名であり、氏名と略歴は次のとおりである。

教員名	実務経験略歴
大西満 (H32.4 就任) 職位：准教授	1989.4～1993.3 京都府立舞鶴子ども療育センター (児童) 1993.4～現在 社会福祉法人藍野福祉会藍野療育園非常勤勤務 (児童)
安部征哉 (H32.4 就任) 職位：講師	1995.4～1999.3 医療法人甲風会有馬温泉病院 (成人～老人) 1999.4～2002.3 姫路赤十字病院 (成人～老人) 2011.9～2017.3 社会福祉法人藍野福祉会介護老人保健施設あいの苑 非常勤勤務 (老人) 2018.4～現在 医療法人恒昭会 藍野病院 非常勤職員 (成人～老人)
木岡和実 (H33.4 就任) 職位：助教	2000.4～2001.3 一般社団法人水口病院 (成人) 2001.4～2004.1 びわこ学園医療福祉センター野洲 (児童～成人) 2007.4～2013.2 介護老人保健施設ここの郷入所及び通所事業 非常勤勤務 (老人) 2013.4～現在 近江八幡市子ども発達支援センター児童発達支援 事業・訪問支援事業 非常勤勤務 (児童)
嶋川昌典 (H32.4 就任) 職位：助教	1998.4～2002.3 三幸会第二北山病 (成人～老人) 2002.4～2002.9 栗山会飯田病院 (成人～老人) 2003.2～2013.3 明和会琵琶湖病院 (成人～老人)
河津拓 (H32.4 就任)	2002.3～現在 近江温泉病院総合リハビリテーションセンター勤務 (成人～老人) 2003.10～2010.3 弓削メディカルクリニック (成人～老人)

職位：助教	2013.9～現在	犬上ハートフルセンター非常勤勤務（老人）
杉本久美子 (H32.4 就任) 職位：助教	2004.4～2011.3	近江温泉病院総合リハビリテーションセンター勤務（成人～老人）
	2015.4～現在	医療法人恒仁会近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター 非常勤勤務（成人～老人）
	2018.4～現在	社会福祉法人真寿会リハビリセンター あゆみ非常勤勤務（成人～老人）
	2018.4～現在	社会福祉法人真寿会 グループホームのとなり 非常勤勤務（成人～老人）

## 5) 研究業績を有した実務家教員

### (1) 理学療法学科

研究業績を有した実務家教員（専門職大学設置基準第 36 条第 2 項 1 号、2 号、3 号等のいずれかに該当する専任教員）は、5 名であり、氏名と主な研究業績は次のとおりである。なお、教授、准教授、講師は、すべて大学での教育経験あるいは大学での非常勤講師の経験を有する。また、教授、准教授は、博士課程もしくは修士課程を修了しており、研究業績がある。

教員名	職位	主な研究業績
山内正雄 (H32.4 就任)	教授	<p><b>2B-CHS を用いた大腿骨頸部骨折の骨接合術に対する後療法・リハビリテーションの検討（査読付/共著（筆頭）/2009.10）</b> 大腿骨頸部骨折に対して 2B-CHS 術と、それまでの手術の術後経過を筋力や歩行能力で比較し、2B-CHS の成績が良好であると報告した。</p> <p><b>「愛媛県における平成 24 年度小中学校運動器検診事業報告」（査読付/共著 /2013.7）</b> 愛媛県下で行われた運動器検診の結果、運動器に問題を抱えている生徒が多いことを報告した。</p> <p><b>「西条市内の中学 2 年生の運動器の疼痛とスポーツの有無および開始時期との関係について」（査読付/共著（筆頭）/2016.6）</b> スポーツ活動期間の長い生徒や成長期にスポーツ活動を開始した生徒は、運動器に疼痛が生じやすく、スポーツ外傷や障害が発生しやすいことを文献的考察を加えて報告した。</p> <p><b>「これからの徒手理学療法における大学院教育」（査読付/共著（筆頭）/2018.1）</b> 世界の大学院で行われている、徒手理学療法教育方法のうち、技術の伝達方法について概説した。</p>

<p>治郎丸卓三 (H32.4 就任)</p>	<p>准 教 授</p>	<p>「<b>Measurement of muscle length-related electromyography activity of the hip flexor muscles to determine individual muscle contributions to the hip flexion torque</b> (股関節屈曲トルクに対する個々の筋肉の寄与を決定するための股関節屈筋群の筋長-筋電図活動関係の測定)」(査読付/共著 (筆頭) /2014.10)</p> <p>股関節屈曲トルクにおける、腸腰筋および他の股関節屈筋の股関節角度-筋電図関係と筋長-筋電図関係を調査することを目的とした。表面筋電図は、腸腰筋、大腿直筋、縫工筋、大腿筋膜張筋から記録した。右股関節屈曲-10°, 0°, 30°, 60°にて、最大随意等尺性股関節屈曲運動を行った。その結果、大腿筋膜張筋、縫工筋活動は股関節屈曲角度が増大すると有意に減少することが明らかとなった。この活動減少は筋長が短くなることが関与していることが示唆された。</p> <p>「<b>走行速度の違いによる腰椎-骨盤運動パターン変化</b>」(査読付/共著 (筆頭) /2018.3)</p> <p>走行速度の変化が腰椎-骨盤の運動に及ぼす影響を明らかとすることを目的とした。走行速度条件を 2.5, 4.5, 6.5m/s と最高速度の 4 種類とし、腰椎-骨盤運動を三次元動作解析装置を用いて検討した。その結果、最高速度以外(最高速度以下の速度)は接地直後に腰椎-骨盤運動が屈曲運動するのに対して、最高速度では接地後直ぐに伸展運動することが明らかとなった。最高速度と最高速度以下の速度では、腰椎-骨盤運動は異なる運動パターンであった。</p> <p>「<b>股関節屈曲運動速度の違いによる股関節屈筋群の筋活動パターン変化</b>」(査読付/共著 (筆頭) /2018.10)</p> <p>股関節屈曲運動速度の違いによる、股関節屈筋群の筋活動パターンが変化するか否かについて検討した。対象は健康成人男性 12 名とした。等速性運動装置による最大随意での等速性股関節屈曲運動中の股関節屈筋群の筋活動を、表面筋電図計を用いて測定した。その結果、大腿筋膜張筋、腸腰筋は、速度優位の運動で活動が増大した。以上の結果から、股関節屈曲運動速度の違いにより股関節屈筋群の筋活動パターンは変化することが示唆された。</p>
<p>藤谷亮 (H33.4 就任)</p>	<p>講 師</p>	<p><b>Whole Body Vibration トレーニングが歩行能力に与える影響-疾患別比較検討-</b> (査読付き/共著 (筆頭) /2014.3)</p> <p>物理療法の一つである全身振動トレーニング (WBV) がパーキンソン病 (PD)、脳血管障害 (CVA)、運動器疾患 (MD) の歩行能力に与える影響を検討した。WBV の改善効果は PD&gt;CVA&gt;MD の順で改善効果を示した。WBV において疾患により歩行改善にもたらす効果が異なることを報告した。</p> <p><b>Effect of standing postural deviations on trunk and hip muscle activity. (異なる立位姿勢が体幹・股関節筋に与える影響)</b> (査読付/共著 (筆頭) /2017.7)</p> <p>腰痛と関連が指摘されているスウェイバック、過前弯の不良姿勢をとることにより、体幹・股関節筋の筋制御がどのように変化するのかについて検討した。不良姿勢をとることで腰部骨盤領域における姿勢安定化筋の筋制御が低下することを報告した。</p>

		<p><b>異なる姿勢が歩行に及ぼす影響（査読付/共著（筆頭）/2017.9）</b></p> <p>不良姿勢（スウェイバック、過前弯）が歩行動作に与える影響を検討した。不良姿勢は歩行時の踵接地時の衝撃吸収作用を減少させることで骨盤動揺増加に繋がり、また直立姿勢は骨盤動揺を減少させることを報告した。</p> <p><b>脳卒中片麻痺の歩行能力は体幹伸展可動域と関連する（査読付/共著（筆頭）/2018.12）</b></p> <p>脳血管障害の体幹伸展可動域と歩行能力との関連について検討した。体幹伸展の他動・自動可動域は、麻痺の程度よりも CVA の歩行能力と関連することを報告した。</p>
安田孝志 (H33.4 就任)	准教授	<p><b>「腰痛患者の呼吸機能と姿勢の関係」（査読付/共著/2002.3）</b></p> <p>腰痛患者は端座位において、日常的に骨盤後傾位をとっており、また横隔膜の収縮が弱いことを示唆した。このことから、腰痛患者に骨盤を前傾位に保持するために腹式呼吸を指導することが重要であると述べた。</p> <p><b>「車いすバスケットボール選手の加速能力に関する動作学的研究」（査読付/共著/2008.3）</b></p> <p>本研究では、加速能力に関する動作学的研究を行い、効率よく加速するメカニズムを明らかにしようとした。スタートダッシュにおいてはハンドリムをプッシュする前に、いかに素早く体幹を前傾させられるかが重要であると考えられる。</p>
大西均 (H33.4 就任)	准教授	<p><b>「滋賀県における理学療法士の需給状況調査」（査読付/共著/2013.3）</b></p> <p>平成 14 年に行った滋賀県内の保健・医療・福祉施設に対するリハビリテーション関連職種の需要状況と、10 年後の状況について対比して検討した。10 年前とは介護分野の需要が急速に増大し、理学療法士の増加に伴い、て理学療法士の職域が拡大していることを示した。</p> <p><b>「足関節内反捻挫後の不安定性に対するテーピングの効果-足関節内反角度と腓骨筋反応時間による分析-」（査読付/共著/2017.3）</b></p> <p>本研究は反復横飛び切り返し動作時の足関節内反角度および、腓骨筋反応時間を測定し、内反捻挫症例の内反角度と腓骨筋反応時間がテーピングにより改善することを明らかにした。特に本研究ではテーピングによる内反角度の減少が、腓骨筋反応時間までも改善することが確認され、筋活動の速さという面においてもテーピングの有効性が明らかにされた。</p>

## (2) 作業療法学科

研究業績を有した実務家教員（専門職大学設置基準第 36 条第 2 項 1 号、2 号、3 号等のいずれかに該当する専任教員）は、3 名であり、氏名と主な研究業績は次のとおりである。

教員名	職位	主な研究業績
大西満 (H32.4 就任)	准教授	<b>「Relation between behavioral characteristics and motor coordination skills in early childhood. (幼児期の行動特性と運動的側面の関係)」（査読付/共著</b>

	授	<p><b>/2017.3)</b></p> <p>4～6 歳児の気になる子に対して行動特性の背景を協調運動能力から分析した。結果として、多動・不注意、仲間関係、向社会性に困難さを示す子どもは、正常群に比べ協調運動能力のスコアに有意な差があることが明らかになった。子どもの示す行動の困難さの背景を協調運動能力から捉えていくことは、行動特性の理解につながり、幼児期の子どもへの支援内容も大きく変わることが予測された。</p> <p>「作業療法教育における臨床実習教育のあり方」(査読付/共著/2016.7)</p> <p>臨床実習における現状や学生像を事例を交えて分析した。特に学生が変化しうる指導方法や考え方を提示した。</p> <p>「就学前自閉症スペクトラム児の不器用さに関する考察」(査読付/共著/2013.3)</p> <p>ASD 児に対して MABC を実施した結果、発達性協調運動障害が 62.5%に疑われた。お手玉、つま先立ち、片足立ちの項目で高い値となった。眼球運動や目と手の協応、バランス反応の問題などが ASD 児の不器用さを示す要因の一つになる可能性が示唆された。</p>
安部征哉 (H32.4 就任)	講師	<p>「Effects of Intrathecal Injection of the Conditioned Medium from Bone Marrow Stromal Cells on Spinal Cord Injury in Rats (脊髄損傷モデルラットに対する骨髄間質細胞培養上清の髄腔内投与の効果)」(査読付/共著/2018.2)</p> <p>We studied the effects of the transplantation of bone marrow stromal cells (BMSCs) on spinal cord injury (SCI) in rats. BMSC transplantation promoted distinct locomotor improvements of rats with SCI. However, contrary to expectations, BMSCs disappeared within 2-3 weeks after transplantation. They were not integrated into the host spinal cord tissue. This finding indicated that BMSCs instead of physically supporting axonal outgrowth, secreted some trophic factors/molecules effective for tissue repair, including the growth of regenerating axons, in SCI.</p> <p>「作業療法学生の臨床実習における社会スキルについての検討 Kiss-18 を活用して」(単著/2008.3)</p> <p>臨床実習を通じて作業療法学生の社会スキルが変化するかを Kiss-18 を用いて調査をした。結果、社会スキルの変化は認められなかった。一般的な社会での対人スキルと医療現場で求められる対人スキルには違いがあると考えられる。</p>
嶋川昌典 (H32.4 就任)	助教	<p>「作業療法臨床実習における指導者の教育的視点について」(共著/2016.3)</p> <p>臨床実習における指導者の学生の教育的視点を明らかにした。</p> <p>「作業療法臨床実習における学生の学びに関する状況論・文化心理学的分析—「クライアント中心の作業療法」実践施設における臨床実習を例として—」(共著/2017.10)</p> <p>臨床実習での学生の学びの過程を状況的学習論と複線径路等至性モデルを用いた明らかにした。</p>

6) みなし専任教員

開設にあたりみなし専任教員は置かない。

## 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業（修了）要件

### 1) 卒業要件の考え方

リハビリテーション学部並びに理学療法学科及び作業療法学科の卒業（修了）要件（以下、「DP（ディプロマ・ポリシー）」という。）は次のとおりである。

#### （1）リハビリテーション学部

本学において所定の期間在学し、学科ごとに定める単位を取得し、次のとおりの能力を身に付けた者に学位を授与する。

- DP1：生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP2：地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる。
- DP3：理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる。
- DP4：地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる。
- DP5：専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる。

#### （2）理学療法学科

理学療法学科では、所定の規則に基づき 129 単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に理学療法学士（専門職）の学位を授与する。

- DP1：人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP2：地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。
- DP3：理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。
- DP4：地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。
- DP5：理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。

理学療法学科においては、以上の DP（ディプロマ・ポリシー）を満たし、次の要件を満たした者に卒業（修了）を認める。なお、各授業科目と DP（ディプロマポリシー）

との対応は、【資料 15】のとおりである。

**【卒業要件】**

次により、必修科目 109 単位、選択科目 22 単位以上を修得すること。

1. 基礎科目 20 単位以上

(1) 必修科目 10 単位

(2) 選択科目 10 単位以上

- ・人間と社会系科目の内から 6 単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 10 単位以上を修得すること。

2. 職業専門科目 87 単位以上

(1) 必修科目 83 単位

(2) 選択科目 4 単位以上

3. 展開科目 20 単位以上

(1) 必修科目 12 単位

(2) 選択科目 8 単位以上

4. 総合科目 4 単位

(1) 必修科目 4 単位

① 専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 1 号

4 年間以上専門職大学に在学することとの規定については、4 年次後期に必修科目を配当しているため、4 年以上在学しないと卒業できない制度にしている。

② 専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 2 号

取得単位数について、必修科目 109 単位、選択科目 22 単位、合わせて 131 単位以上の取得を義務付けているため、124 単位以上の要件を満たしている。また、基礎科目 20 単位以上、職業専門科目 87 単位以上、展開科目 20 単位以上、総合科目 4 単位の取得を卒業要件に定めており、全て基準を満たしている。

③ 専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 3 号

職業専門科目において、演習科目 3 単位（必修）、実験・実習科目 17 単位（必修）、実験・実習科目 4 単位（選択）、臨地実務実習科目 20 単位（必修）を卒業要件としている。また、展開科目において、実験・実習科目 1 単位（必修）が卒業要件に含まれている。総合科目において、演習科目 2 単位（必修）、実験・実習科目 2 単位（必修）を卒業要件としている。そのため、演習、実験、実習又は実技による授業科目については 42 単位取得することが卒業要件に含まれており、基準を満たしている。

④ 専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 4 号

臨地実務実習については、「理学療法見学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」各 1 単位、「理学療法評価実習」4 単位、「理学療法総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ」各 6 単位、「理学療法地域実習」1 単位の計 20 単位は必修科目なため、基準を満たしている。

(3) 作業療法学科

作業療法学科では、所定の規則に基づき 130 単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法学士（専門職）の学位を授与する。

DP1：作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。

DP2：多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。

DP3：作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。

DP4：変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。

DP5：作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。

作業療法学科においては、以上の DP（ディプロマ・ポリシー）を満たし、次の要件を満たした者に卒業（修了）を認める。なお、各授業科目と DP（ディプロマポリシー）との対応は、【資料 16】のとおりである。

#### 【卒業要件】

次により、必修科目 118 単位、選択科目 12 単位以上を修得すること。

#### 1. 基礎科目 20 単位以上

(1) 必修科目 11 単位

(2) 選択科目 9 単位以上

- ・人間と社会系科目の内から 5 単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 9 単位以上を修得すること。

#### 2. 職業専門科目 86 単位

(1) 必修科目 86 単位

#### 3. 展開科目 20 単位

(1) 必修科目 17 単位

(2) 選択科目 3 単位

#### 4. 総合科目 4 単位

(1) 必修科目 4 単位

#### ① 専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 1 号

4 年間以上専門職大学に在学することとの規定については、4 年後期に必修科目を配当しているため、4 年以上在学しないと卒業できない制度にしている。

#### ② 専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 2 号

取得単位数について、必修科目 118 単位、選択科目 12 単位、合わせて 130 単位以上の取得を義務付けているため、124 単位以上の要件を満たしている。また、基礎科目 20 単位以上、職業専門科目 86 単位以上、展開科目 20 単位以上、総合科目 4 単位の取得を卒業要件に定めており、全て基準を満たしている。

#### ③ 専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 3 号

職業専門科目において、実験・実習科目 22 単位（必修）、臨地実務実習科目 22 単位（必修）を卒業要件としている。また、展開科目において、実験・実習科目 4 単位（必修 3 単位、選択 1 単位）が卒業要件に含まれている。そのため、演習、実験、実習又は実技による授業科目については 46 単位取得することが卒業要件に含まれており、基準を満たしている。

#### ④ 専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 4 号

臨地実務実習については、「作業療法見学実習Ⅰ、Ⅱ」各 1 単位、「作業療法評価実習」5 単位、「作業療法総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ」各 7 単位、「作業療法地域実習」1 単位の計 22

単位は必修科目なため、基準を満たしている。

【資料 17】 授業科目と DP（ディプロマ・ポリシー）の対応表（理学療法学科）

【資料 18】 授業科目と DP（ディプロマ・ポリシー）の対応表（作業療法学科）

## 2) 学則に基づく単位及び時間数の考え方

本学の単位及び時間に関しては、学則第 13 条で次のとおり定めている。

（単位の計算方法）

第 13 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

（1）講義については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。

（2）演習については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。

（3）実験、実習及び実技等については、30～45 時間をもって 1 単位とする。

（4）1 の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して教授会の定める時間の授業をもって 1 単位とする。

（5）前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、単位数を定めることができる。

## 3) 資格の位置づけ

理学療法士・作業療法士というリハビリテーションの専門家を養成することが、本学の根幹となるため、理学療法学科の学生は、理学療法士の国家資格を取得することが、また、作業療法学科の学生は、作業療法士の国家資格を取得することが、主要な目標となる。

## 4) 同時に授業を行う学生数

理学療法学科及び作業療法学科共に 40 人以下で授業を行うことを原則としている。「協働連携論総合実習」は、理学療法学科、作業療法学科の学生が一緒になり、リハビリテーションチームとして、障がい者が抱える生活課題の発見と解決のために思考することで、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目的にした科目である。本科目は、理学療法学科及び作業療法学科が合同で行うため、最大人数は、入学定員の 120 名となるが、本授業の学生数は 30 名（30 名×4 教室、合計 120 名）を 1 教室当たりの最大学生数としており、120 名を 1 教室で授業を行うことはない。

## 5) 履修モデル

履修モデルについては、参考資料のとおりである。理学療法学科においては、①ヘルスプロモーション、②生涯スポーツ、③生活工学ごとに作成しており、作業療法学科においては、①児童期、②成人期、③老年期ごとに作成している。

【資料 19】履修モデル（理学療法学科・作業療法学科）

## 6) 実務経験の単位換算の考え方

「社会人の経験に対する単位」の認定については、学則第 5 章「教育課程及び履修方法」第 16 条に定めるとともに、資料 20 のとおり、びわこリハビリテーション専門職大学既修得単位の認定に関する内規において定める。

社会人の「専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力」は、職業資格や技能検定に基づいて、展開科目の中で、読み替えに該当する授業科目がある場合に行う。入学時に「資格を証明する証書の写し」及び「認定を受けようとする授業科目を記載した書類」を提出する。単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

例) 障がい者スポーツ指導員（中級・上級）の資格の場合

障がい者スポーツ論 1 単位・障がい者スポーツ論実習 1 単位、合計 2 単位を認定する。

【資料 20】びわこリハビリテーション専門職大学既修得単位の認定に関する内規

## 7) 単位以外の卒業要件

単位以外の卒業要件は課さない。また、卒業要件の単位のうち必修科目が多く、卒業するために必要な総単位数も 124 単位を超えるため、卒業論文の提出を課すことはしない。ただし、理学療法学科においては、授業科目の中で、論文を書くための演習を行う。

## 8) 履修指導方法

### (1) 履修指導

学生が、本学の授業を通じて、必要な能力を習得できるように、本学の教職員は、様々な方法で、その履修指導を行う。まず、入学時に行うオリエンテーションにおいて、事務職員より履修の方法及び卒業要件等についての説明を行う。また、学生が履修上の不明な点等について聞けるように、授業の開講期間は、事務室の窓口にて、その対応を行う。理学療法学科及び作業療法学科ともに、担任制をひくため、担当教員が、適宜それらについて指導を行うとともに、オフィス・アワーを用意し、その指導時間としても活用する。

## (2) 国家試験資格取得指導

全学生が、国家資格を取得できるように、学習に取り掛かるまでの過程やモチベーション等、学習環境を学生とともに分析し、解決方法を提示する形での学習支援を行う。まずは、1年次前期の必修基礎科目「学びの基盤」によって、自律的に学ぶための姿勢と方法について教える。また、上述のとおり担任制をひくため、担任教員が、定期的に学生と個別面談の機会を設けるとともに、必要に応じて、保護者との面談の機会を設けることで、資格取得対策の進捗状況のフォローを行う。

具体的な方策としては、1年次から2年次にかけて国家試験に向けての意識を高めるため、国家試験の概要を説明するとともに、卒業生の国家試験受験時の写真や動画を見せることで、その状況と雰囲気や学生に伝える。また業者が実施している外部模試を行うことで、問題の解答方法や知識の確認を行っていく。3年次からは国家試験過去問題を中心に共通項目である基礎医学や臨床医学の学習を進めていく。4年次には計5回程度の外部模試に取り組み、個別にその振り返りを行わせる。

## 9) その他

全ての年次において必修科目が中心となり、選択科目に限りがあるため、次の2点を除き、特段制限を設けない。

- (1) 履修登録科目の上限は、各学年前期と後期を合わせて50単位までとする。
- (2) 高学年配当科目の履修は認めない。

## 7. 教育課程連携協議会について

### 1) 教育課程連携協議会の概要

#### (1) 位置づけ

教育課程連携協議会は、びわこリハビリテーション専門職大学と産業界及び地域社会とが本協議会を通じて連携を図ることで、本学の教育課程の再編を図ること、合わせて、円滑かつ効果的に教育課程を実施することを目的とする。

#### (2) 審議事項

教育課程連携協議会においては、専門職大学設置基準第 11 条第 3 項に基づき、次の 2 点について審議を行い、学長に意見を述べる。

- ① 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設、その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- ② 産業界及び地域社会との連携による授業の実施、その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

#### (3) 構成員及びその任期

教育課程連携協議会の構成員は、専門職大学設置基準第 11 条第 2 項に基づき、次の各号に掲げる者とする。また、任期は、2 年とし、補欠の構成員の任期は、前任者の残任期間とする。なお、再任は妨げないものとする。

- ① 学長が指名する教員、その他の職員（1 名以上）
- ② 本学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域の事業者による団体の関係者であり、当該職業の実務に関し、豊富な経験を有するもので、学長が認めたもの（1 名以上）
- ③ 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者で、学長が認めたもの（1 名以上）
- ④ 臨地実務実習（専門職大学設置基準第 29 条第 1 項第 4 号に規定する臨地実務実習をいう。）その他の授業科目の開設又は授業の実施において本学と協力する事業者又はその事業所に所属し、責任のある職位のもので、学長が認めたもの（1 名以上）
- ⑤ 本学の教員、その他の職員以外の者であって学長が必要と認めるもの（1 名以上）

#### (4) 年間の開催日数

教育課程連携協議会は、少なくとも年 2 回開催するほか、議長が必要と認めた場合に開催する。

#### (5) 役割・権限

構成員の中から、議長と副議長を互選により選出を行う。議長の役割は、教育課程連携協議会の業務を掌理することであり、副議長の役割は、議長を補佐し、議長に事故があった場合に、その職務を代行することである。

【資料 14】びわこリハビリテーション専門職大学教育課程連携協議会規程

## 2) 構成員

### (1) 構成員一覧

教育課程連携協議会の構成員として現在予定している者は、次のとおりである。

- ①山田 久夫 :びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 学部長
- ②山内 正雄 :びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 学科長
- ③井出 千束 :びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 学科長
- ④平岩 康之 :公益社団法人 滋賀県理学療法士会 会長
- ⑤宮内 吉則 :一般社団法人 滋賀県作業療法士会 会長
- ⑥角野 文彦 :滋賀県健康医療福祉部 理事
- ⑦西村 圭二 :市立長浜病院 理学療法士
- ⑧杉原 治 :医療法人マキノ病院 作業療法士
- ⑨越智 眞一 :滋賀県医師会長
- ⑩河島 克彦 :東近江市福祉総合支援課 主幹
- ⑪乙川 亮 :滋賀県立リハビリテーションセンター 主査

### (2) 構成員と専門職大学設置基準との整合

①、②、③の3者については、専門職大学設置基準第11条第2項第1号に該当する者である。①は学部長、②、③は両学科の学科長と、教育課程の開設・変更の実質的な執行権を有する者を置くことで、教育課程連携協議会での審議結果が、確実に教育課程に反映されるよう配慮した。

④、⑤の2者については、専門職大学設置基準第11条第2項第2号に該当する者である。公益社団法人滋賀県理学療法士会及び一般社団法人滋賀県作業療法士会は、県民に対して質の高い理学療法、作業療法を提供するために、教育活動や研究活動他を行っている団体であり、その会長である④、⑤は当該職業の実務に関し豊富な経験を有する者である。そのため、滋賀県の実情と、今後の理学療法士の在り方、作業療法士の在り方を踏まえた上での意見をいただけるものと想定している。

⑥の者については、専門職大学設置基準第11条第2項第3号に該当する者である。既述のとおり、滋賀県は、現在、共生型社会の構築に向けて、取り組んでいるところであり、本学は、それに資する人材の輩出を目的としている。⑥は滋賀県健康医療福祉部の要職を歴任し、県内の医療政策や福祉政策、医療福祉や健康寿命延伸の推進など、現在に至るまで県民の保健・医療・福祉に多く携わるとともに、県内の幅広い意見を集約している者である。そのため、現在、そしてこれからの保健・医療・福祉分野の課題や動向、地域共生社会の実現に向けたリハビリテーション専門職の在り方について意見をいただけるものと想定している。

⑦、⑧の2者については、専門職大学設置基準第11条第2項第4号に該当する者で

あり、それぞれ理学療法学科、作業療法学科の臨地実務実習において協力いただくことを予定している者である。特に臨地実務実習の今後の在り方について、貴重な意見をいただけるものと想定をしている。

⑨については、専門職大学設置基準第 11 条第 2 項第 5 号に該当する者である。理学療法学科及び作業療法学科は、医学から派生した学問分野・産業分野のため、最新の医学の動向は、理学療法士及び作業療法士にとっても非常に重要である。その医学の知見を踏まえた上で、教育課程に関して有益な意見をいただけるものと想定をしている。

⑩については、専門職大学設置基準第 11 条第 2 項第 5 号に該当する者である。本学が位置する東近江市の福祉総合支援課に在籍する理学療法士であり、地域包括支援センターの運営（高齢者対象）・要援護高齢者、障がい者、生活困窮者の総合相談、高齢者、障がい者及び生活困窮者の総合相談、地域包括支援センターの運営、高齢者及び障がい者の権利擁護、認知症に対する相談及び行政の窓口等、幅広い業務に携わっている。そのため、地域共生社会の構築に向けた取り組みに関して、現実に即した意見をいただけるものと想定している。

⑪については、専門職大学設置基準第 11 条第 2 項第 5 号に該当する者である。滋賀県立リハビリテーションセンターに在籍する作業療法士であり、地域リハビリテーションを推進し、地域と県全域をつなぐ支援のネットワークづくり、利用者本位の一貫したサービスを総合的に提供できる体制の整備、関係機関・施設・各種団体との協働により教育・研修、情報の収集・提供、交流等、様々な事業を行っている。そのため、滋賀県のリハビリテーションの中核としての機能（最先端のリハビリテーションに関する知識や技術、地域連携等）に関する有益な意見をいただけるものと想定している。

### 3) 教育課程連携協議会の機能性

既述のとおり、本学は、地域共生社会の実現に貢献できる人材を養成し、社会に輩出することを 1 つの大きな目標として掲げており、特に、滋賀県のそれに資することを目的としているため、④～⑪に記載の学外構成員については、全員を滋賀県の医療・保健・福祉等に業務上係わる者としている。そのため、全員が、教育課程についての的確な意見を述べる事が可能であると考えている。

④の公益社団法人滋賀県理学療法士会及び⑤の一般社団法人滋賀県作業療法士会は、滋賀県における理学療法士及び作業療法士の質の保証と向上を目的とした組織であるがゆえに、本学と方向性が一致している。⑥と⑩は、行政の立場から、保健・医療・福祉分野の課題や動向、地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士は有用であるとしており、本学が輩出する人材に期待しており、協力関係にある。⑦、⑧及び⑨の臨地実務実習先の指導者と滋賀県医師会に関しては、本学が優れたリハビリテーション人材を輩出することが病院の発展に繋がるため、協力関係にある。以上のとおり、教育課程連携協議会の構成員と本学とは、多くの点で、軌を一にしているため、連携することが可能であり、本会が十分に機能すると想定している。

#### 4) 審議の実質性

なお、理学療法と作業療法は、共にリハビリテーションの下位カテゴリーに位置づく関連領域となるため、主に理学療法学科に係る構成員②、④、⑦、⑩は、全員が理学療法士であり、理学療法学の教育課程に関して実質的な審議を行うことが可能であるし、主に作業療法学科に係る構成員⑤、⑧、⑪は、全員が作業療法士であり、作業療法学の教育課程に関して実施的な審議を行うことが可能である。⑥の「地域」の分野の委員については、滋賀県における地域共生社会の構築のための「リハビリテーション人材」の育成に業務上の関心があり、両学科に跨った実質的な審議を行うことが可能である。⑨については、前節にて述べたとおり、リハビリテーション学は、医学から派生した分野であるため、理学療法学、作業療法学の両方について知見を有しており、実質的な審議を行うことが可能である。⑩、⑪は、滋賀県及び東近江市で地域リハビリテーションの実務につく理学療法士、作業療法士であるため、地域の現状に即した審議を行うことが可能である。

## 8. 施設・設備等の整備計画

### 1) 施設・設備に係る設置基準の充足状況

本学のキャンパスが位置する東近江市は、滋賀県の南東部に位置し、北は彦根市、愛荘町、多賀町、南は竜王町、日野町、甲賀市、西は近江八幡市と接しており、東は三重県との県境になっている。地形は東西に長く、東に鈴鹿山系、西に琵琶湖があり、愛知川が市域の中央を流れており、南西部には日野川が流れている。この両川の流域には平地や丘陵地が広がり、緑豊かな田園地帯を形成している。さらに地域内には箕作山や織山などが点在し、豊かな自然に恵まれている。東近江市の総面積は、約 388 km<sup>2</sup>で滋賀県総面積の約 9.7%にあたり、高島市・長浜市・甲賀市・大津市に次いで県内で 5 番目に大きな市である。

キャンパスの位置は、鈴鹿山系の山麓に位置し、琵琶湖と比良山脈の遠景が眺望できる風光明媚な環境に恵まれ、周囲は緑豊かな自然に囲まれている。また交通は、滋賀県の県庁所在地である大津市からも JR 大津駅・JR 能登川駅を結ぶ新快速電車が所要時間 33 分、約 15 分間隔で運行している他、高速道路の八日市 IC が近くにあり、大津 IC までは 26 分と短時間で移動できる他、JR 彦根駅からも JR 能登川駅まで 8 分など、近郊都市に居住する学生にとっても通学が可能である。最寄り駅である JR 能登川駅から本学へのアクセスは、車で約 30 分であり、スクールバスの運行を行う予定をしている。以上のとおり、キャンパスは大自然に囲まれた自然豊かな大地にあり、学生が勉学に励むには非常に適当な環境である。

校地等は以下のとおりであり、一体的に活用できる要件を満たしている。

校舎の種別	面積 (m <sup>2</sup> )	備考	
校舎敷地	13,632.29	教室等	本学の所有地
運動場用地	0.00		本学の所有地
小計	13,632.29		本学の所有地
その他 (駐車場)	4,007.00	キャンパスに隣接	
合計	17,639.29		

なお、校舎敷地内の学生ホールには、自動販売機や机と椅子を配置し、学生の交流の場や休息の場として憩える空間を確保している。

#### (1) 校舎

びわこリハビリテーション専門職大学の「校舎は、鉄筋コンクリート地下 1 階付 4 階建てであり、校舎各室等の状況は、次の通りである。

延べ面積合計：6102.41 m<sup>2</sup>

階	室名	面積 (m <sup>2</sup> )	使用形態	用途等
地下 1 階	学生食堂・学生ホール	207.42	食堂	食堂・学生控室
	男子更衣室	65.78		
	女子更衣室	82.88		
	書庫	33.43		閉架書庫
	その他	249.995		パントリー、廊下、 倉庫、防火水槽、消 火ポンプ室
	トイレ	—		
	廊下	—		
	小計	705.44		
1 階	キャリアサポート室	12.32		
	学長室	28.40		
	非常勤講師控室	9.96		
	学生サポートセンター (1)	57.20		
	学生サポートセンター (2)	38.00		
	研究室 28	22.03		
	面接室 1	6.78625		
	面接室 2	6.78625		
	保健室 (医務室)	35.39		
	日常動作訓練室	76.00		
	機能訓練室	76.00		
	走行スペース	248.13		
	研究室 29	24.58		
	教材室	5.49		
	印刷室	5.01		
	実習室	210.90		
	演習室	106.116		
	研究室 17	38.00		
	研究室 18	38.00		
	研究室 19	38.00		
	研究室 20	38.00		
	研究室 21	38.00		
	研究室 22	19.00		
	研究室 23	16.15		
トイレ	—			

	廊下	—		
	小計	1571.38		
2階	基礎医学実習	133.00		
	補装具室	57.00		
	水浴室	35.2		
	情報処理室	93.8		学生自習室
	教材室	14.60		
	教員研究室 23	52.00		
	教員研究室 24	16.00		
	倉庫	5.15		
	普通教室 1	76.00		
	普通教室 2	76.00		
	普通教室 3	76.00		
	普通教室 4	76.00		
	評価実習室	152.57		
	治療室	149.63		
	トイレ	—		
	廊下	—		
		小計	1295.31	
3階	基礎作業実習室 1	76.00		
	基礎作業実習室 2	76.00		
	基礎作業実習室 3	76.00		
	教材室	24.56		
	保健室	5.49		
	倉庫	5.15		
	普通教室 1	76.00		
	普通教室 2	76.00		
	普通教室 3	76.00		
	普通教室 4	76.00		
	レクリエーション室	76.00		
	大教室 1	152.57		講義・学生控室
	大教室 2	149.625		講義・学生控室
	教員研究室 26	52.00		
	教員研究室 27	16.00		
	トイレ	—		
	廊下	—		
	小計	1295.31		
4階	教員研究室 1	22.91		
	教員研究室 2	22.91		

	教員研究室 3	22.91		
	教員研究室 4	22.91		
	教員研究室 5	22.91		
	教員研究室 6	21.74		
	教員研究室 7	21.74		
	教員研究室 8	20.85		
	教員研究室 9	34.10		
	教員研究室 10	30.25		
	教員研究室 11	30.07		
	教員研究室 12	30.07		
	教員研究室 13	30.07		
	教員研究室 14	32.37		
	教員研究室 15	35.54		
	教員研究室 16	35.57		
	倉庫	21.10		
	図書館	311.66		図書・学生自習室
	印刷室	13.63		
	会議室	64.68		
	給湯室	11.11		
	トイレ	18.93		
	トイレ	24.44		
	廊下	—		
	小計	1198.49		
	合計	4747.186		

以上の通り、設置基準上求められる学長室、会議室、事務室、研究室、教室（講義室、演習室、実験・実習室等）、図書館、医務室、学生自習室、学生控室を用意している。

## （２）講義室等

講義室は、既設転用及び一部改修し、学科単位での授業に対応する大小の講義室及びゼミナール等に使用する講義室は下表のとおり 9 室、40 名定員の 4 学年がそれぞれの学習スペースを確保している。また、演習室及び情報処理学習施設も併設しており、十分な学習環境を確保できている。

種別	名称	階	面積 (㎡)	使用形態	収容人数	備考
講義室	普通教室 1	2 階	76.00	学級別授業に対応	40 名収容	
	普通教室 2	2 階	76.00	学級別授業に対応	40 名収容	
	普通教室 3	2 階	76.00	学級別授業に対応	40 名収容	
	普通教室 4	2 階	76.00	学級別授業に対応	40 名収容	

	普通教室 1	3 階	76.00	学級別授業に対応	40 名収容	
	普通教室 2	3 階	76.00	学級別授業に対応	40 名収容	
	普通教室 3	3 階	76.00	学級別授業に対応	40 名収容	
	普通教室 4	3 階	76.00	学級別授業に対応	40 名収容	
演習室	演習室	1 階	106.116	学級別授業に対応	40 名収容	

### (3) 実習室

実習室は、下表のとおり、理学療法士作業療法士養成指導要領に記載されている教育上必要な機械器具を中心に、設備等を整備する。

種別	名称	階	面積 (㎡)	設備機械	目的・用途
実験実習室	日常動作訓練室	1 階	76.00	日常家具各種、自助具各種、車椅子各種、電動車椅子、杖、歩行器、トランスファーボード、リフター、電動式ベッド、腕可動支持器、環境制御装置、意思伝達装置等	日常生活活動、作業分析等、ADL 訓練の実習
	機能訓練室	1 階	76.00	心電計、スパイロメーター、トレッドミル、重心動揺分析装置一式、運動解析装置（三次元動作解析装置）、床反力計一式、吸引装置一式、筋電図計測装置一式、起立訓練ベッド、姿勢鏡、平行棒、プラットフォームホームマット等	運動生理学、運動学、日常生活活動学等での実習
	実習室	1 階	210.90	治療台 20 台、マット 20 枚、肋木、高さの異なる台等	実習、運動療法学、評価学等での実習
	基礎医学実習室	2 階	133.00	顕微鏡、解剖用具一式、人体解剖用視聴覚教材一式、ヘモグロビン酸素飽和度測定装置等	解剖学、生理学の講義、実習
	補装具室	2 階	57.00	ギプス用具一式、四肢の断端モデル、義足及び各部品、義手及び各部品、下肢用装具、上肢用装具・スプリント及び各部品等	義肢装具学での実習
	水浴室	2 階	35.2	部分浴槽、全身浴槽、渦流浴装置、気泡浴装置等	水治療での実習
	評価実習室	2 階	152.57	診察用ベッド、人体計測器セット、血圧計、ゴニオメーター、握力計、ピンチメーター、ディスクリメーター、痛覚計等	検査・測定の講義、実習
	治療室	2 階	149.63	治療用ベッド、重スイバンド、砂袋、バイオフィードバック機器、ホットパック、	運動療法学、評価学、物理療法

				パラフィン加温器、極超短波治療器、超短波治療費、頰椎けん引装置、腰椎けん引装置、ポータブルスプリングバランスー、サンディング用具、ペグ各種、姿勢鏡、昇降テーブル等	学等での実習
	基礎作業実習室 1	3階	76.00	作業台、革細工用具一式、七宝焼き用具一式、卓上織物用具一式、タイルモザイク用具一式等	織物・手工芸等作業実習、作業分析実習、作業治療学等
	基礎作業実習室 2	3階	76.00	作業台、陶工用道具一式、陶工絵付け用具一式、絵画一式等	陶芸・絵画等作業実習、作業分析実習、作業治療学等
	基礎作業実習室 3	3階	76.00	作業台、木工台、電動ボール盤、手動式木工用具一式、電動式木工用具、園芸用具一式等	木工・金工等作業実習、作業分析実習、作業治療学等
	レクリエーション室	3階	76.00	運動遊具各種（滑り台、はしご、跳び箱等）、玩具各種、ホワイトボード、鍵盤楽器、娯楽ゲーム、スポーツ運動用具各種等	集団レクリエーション実習、発達障害治療実習

#### （４）研究室等

教員研究室は、1階に学長室、1階から4階に個別研究室16室、共同研究室13室に加えて書庫を確保し、机、椅子、電話機、ノート型パソコン、プリンター、機密情報を保管するための鍵付きキャビネット及び本棚等を配置する。

種別	名称	室数	階	面積 (㎡)	目的・用途
研究室	学長室	1室	1階	28.40	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 1～5	5室	4階	22.91	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 6・7	2室	4階	21.74	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 8	1室	4階	20.85	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 9	1室	4階	34.10	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 10	1室	4階	30.25	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 11～13	3室	4階	30.07	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 14	1室	4階	32.37	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 15	1室	4階	35.54	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 16	1室	4階	35.57	研究、授業準備、学生指導
	共同研究室 24	1室	2階	52.00	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 25	1室	2階	16.00	研究、授業準備、学生指導

	教員研究室 27	1 室	3 階	16.00	研究、授業準備、学生指導
	共同研究室 26	1 室	3 階	52.00	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 22	1 室	1 階	19.00	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 23	1 室	1 階	16.15	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 17～21	5 室	1 階	38.00	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 28	1 室	1 階	22.03	研究、授業準備、学生指導
	教員研究室 29	1 室	1 階	24.58	研究、授業準備、学生指導

## (5) その他の施設

上記施設の他に、情報教育の為の情報処理室、図書、雑誌、学術資料などの収集・保管、提供を行う図書館兼学生自室を整備する。また、談話や昼食等の学生生活に安らぎを享受できるよう、下表のとおり整備する。

種別	名称	階	面積 (㎡)	目的・用途
学生	学生ホール (学生控室)	地下 1 階	207.42	食堂・休憩場
	保健室 (医務室)	1 階	35.39	薬剤等保管庫・ベッド
	情報処理室	2 階	75.57	パソコン 41 台・自習室
	大教室 1	3 階	152.57	講義・休憩場
	大教室 2	3 階	149.625	講義・休憩場
	図書館 (兼学生自習室)	4 階	311.66	図書、自習室

## 2) 図書館の整備状況

### (1) 図書館施設

図書館は、校舎 4 階の現中教室を改修し、図書等を計画的に整備する。

- ① 図書館 (面積 311.66 ㎡)
- ② 閲覧席 82 席
- ③ 収納可能蔵書数 25,000 冊
- ④ 図書の管理については、図書職員が配架・整理・貸出の管理を行う。
- ⑤ 平日は、8:30～20:00 の間、開館をする予定である。

### (2) 図書等の資料整備計画

図書館資料は、理学療法学及び作業療法学に係る書籍並びに教養を高めるために有用な書籍を合わせて 1,700 冊 (うち外国書 20 冊) を購入する予定であり、滋賀医療技術専門学校において有している書籍を合わせると、12,884 冊 (うち外国書 669 冊) となる。現在ある蔵書とともに、それぞれの分野を今後さらに充実させていく計画である。そのほか、学術雑誌は 39 種揃えており、外国書の学術雑誌 7 種を経常経費で経年整備する。電子ジャーナルは、取り扱っている配信ジャーナル数 1,405 ジャーナル、配信文献数 308 万文献あるメディカルオンラインの利用が可能であり、視聴覚資料は、滋賀医療技術専門学校から引き継ぐものを合わせて 250 点を用意する。

株式会社朝日ネットが提供している教育支援ツール「manaba」を経由して、電子書籍「Maruzen eBook Library」を閲覧・利用できる環境を整備することで、スペースの制限を受けずに、教育研究活動の充実を図れる体制とした。

なお、電子書籍については、理学療法学科・作業療法学科の科目や各教員の研究環境を配慮し、計 116 冊購入する計画である。

また、インターネット環境を整え、他校の図書館へのアクセスや学术论文の検索が可能な体制とする予定をしている。その他、学校法人藍野大学の設置校の一つである藍野大学（理学療法士、作業療法士の養成を行っている。）が所持している書籍の利用希望があった場合、取り寄せることのできる体制をとる。

### 3) 体育館等

近隣に体育館等のスポーツ施設を設けるための土地を有しておらず、また、そのような施設の建設が可能で、売却に出されている土地も現状ない。しかし、近隣（バス約 10 分）に、体育館、グラウンド、野球場、テニスコート、フットサルコート及び多目的広場と多様な施設が揃っているため、学生のクラブ活動など授業以外でも活動することが可能な東近江市営のおくの運動公園がある。当該施設を管理する東近江市とは、一般の施設利用者が 3 ヶ月前から予約可能など、本学は利用しようとする前年度 1 月から予約を可能とする取り決めを行っている（資料 28-1）。クラブ活動などによって学生が当該施設を利用する場合は、学生サポートセンターの窓口にて申し出ることとし、予約の手続きは、事務部学生課が代行する。

おくの運動公園の賃借料及び施設までのバスの費用については、本学が全額負担とし、学生に経済的負担をかけることはない。

#### (1) おくの運動公園の概要

##### おくの運動公園

名 称	おくの運動公園
所 在 地	東近江市青山町 70 番地
施 設	体育館、野球場、グラウンド、テニスコート
開園時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育館・グラウンド 通年 午前 8 時 30 分～22 時 00 分</li> <li>・ 野球場・テニスコート・フットサルコート 4 月～10 月 午前 8 時 30 分～22 時 00 分 11 月～3 月 午前 8 時 30 分～日没</li> <li>・ 多目的広場 通年 午前 8 時 30 分～日没</li> </ul>
休 園	年末年始（12 月 28 日～翌年 1 月 3 日）

## (2) バスの運行計画

スクールバスの状況及び運行時刻は次のとおりであり、学生の授業時間割等に配慮したバスの運行計画とする。

### ① 体育授業で使用する場合

1 単位 30 時間の体育（選択科目）は、理学療法学科 2 クラス水曜日の 3・4 限目（2 コマ）、作業療法学科 1 クラス月曜日の 3・4 限目（2 コマ）で開講し、時間は 13 時 00 分～16 時 10 分となる。

時間割上 2 限目終了が 12:10 であり、着替え及び昼食は大学構内で済ませてからスクールバスにて移動を行う。本学出発後は通常 5 分でおくの運動公園へ到着するが、乗車時間は余裕をみて 10 分見込んでいる。また、体育終了後はバスで帰校し、大学で着替えることとなるが、体育の開催日 5 限目には授業を入れないよう配慮した。

なお、以下は基本的な運行時間であり、授業開始・終了時間変更などの事態が生じた場合は、運行時間を随時変更する。

おくの運動公園 行き

本学 発	おくの運動公園 着
12:45	12:55

本学 行き

おくの運動公園 発	本学 着
16:30	16:40

### ② クラブ・サークル活動で使用する場合

以下が基本的な運行時間であり、予約状況や活動時間により、運行時刻・バス本数は増減する。

月曜日～金曜日

おくの運動公園 行き

本学 発	おくの運動公園 着
16:30	16:40
18:30	18:40

本学 行き

おくの運動公園 発	本学 着
19:00	19:10
20:00	20:10
21:00	21:10

土曜日・日曜日・祝日（年末年始除く）

おくのの運動公園 行き

本学 発	おくのの運動公園 着
9 : 30	9 : 40
12 : 30	12 : 40

本学 行き

おくのの運動公園 発	本学 着
13 : 00	13 : 10
14 : 00	14 : 10
15 : 00	15 : 10
16 : 00	16 : 10

#### 4) 施設の共用

現在、本学の施設・設備を使用している滋賀医療技術専門学校を移設するため、施設・設備の共用はなく、施設・設備の全てを本学で使用する。

#### 5) 校地面積基準の減算

校地面積について基準面積を満たしている。

#### 6) 校舎面積基準の減算

完成年度に基準上求められる校舎面積は、6413.00 平方メートルであるが、本学の校舎面積は、5793.32 平方メートルであり、不足している 619.68 平方メートル基準校舎面積を減ずる。学生が実習のために使用する臨地実務実習施設である「リハビリテーション室」（総計 90, 989.78 平方メートル）の確保ができており、当該施設を、学生が学習する場としてみなすことができる。なお、基準上最大減算可能面積は 961.95 平方メートルであり、不足分はその範囲内に収まっている。

## 9. 入学者選抜の概要

### 1) 入学者選抜の概要

#### (1) 学生受入れの方針 AP (アドミッション・ポリシー)

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部の学生受入れの方針(以下、「AP (アドミッション・ポリシー)」という。)は、本学部の教育の目的等を踏まえた上で、次のとおりとする。

なお、入学資格は、学校教育法第90条の規定により、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

#### ①リハビリテーション学部の AP (アドミッション・ポリシー)

リハビリテーション学部では、「①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を育成する。②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。

そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。

(知識・技能)

AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

(主体性・多様性・協調性)

AP2：人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人。

AP3：良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる人。

(思考力・判断力・表現力)

AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる人。

AP5：多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる人。

次に、各学科のアドミッション・ポリシーを示す。

#### ②理学療法学科の AP (アドミッション・ポリシー)

理学療法学科では、「①理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、地域住民の思いに共感し、且つ多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。②理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸と QOL 維持・向上のために、身体活

動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて地域住民の支援ができる人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。

そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。

(知識・技能)

AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

(主体性・多様性・協調性)

AP2：人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、理学療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人

AP3：協調性をもち他者と良好な関係を築き、協働して自己の役割を責任を持って果たすことができる人。

(思考力・判断力・表現力)

AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、自主的に物事に取り組み継続できる人

AP5：論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人

### ③作業療法学科の AP (アドミッション・ポリシー)

作業療法学科では、「①子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。②地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。

そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。

(知識・技能)

AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

(主体性・多様性・協調性)

AP2：人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、作業療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人

AP3：協調性に富み他者と良好な関係を築き、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる人

(思考力・判断力・表現力)

AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、継続性をもって自ら考えて積極的に取り組むことができる人

AP5：論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人

## (2) 入学試験と募集区分

入学者選抜は、本学のアドミッション・ポリシーに見合う、医療専門職業人としての目的意識が明確で、学習意欲の高い、大学教育を受けるにふさわしい能力をもった人材を選考するために、多面的・総合的に適性或能力を評価できる方法で公正に実施する。

入学試験は、「アドミッション・オフィス（AO）入試」、「指定校推薦入試」、「公募制推薦入試」、「社会人推薦入試」、「一般入試」の 5 つの区分で実施する。複数の入試区分を設けているため、評価尺度が異なることによる不合理が生じないように、可否の判定は、多面的かつ合理的な根拠をもって公正に行われるように配慮する。

また、募集定員については、リハビリテーション学部理学療法学科は 80 人、リハビリテーション学部作業療法学科は 40 人とする。募集定員の内訳は下表のとおりである。

	理学療法学科	作業療法学科
AO 入試	8 人	4 人
推薦入試	32 人	16 人
一般入試	40 人	20 人

※推薦入試の募集定員には指定校推薦入試・公募制推薦入試・社会人推薦入試を含む

次に、募集区分の入試の概要を説明する。

### AO 入試

調査書とエントリーシート、グループディスカッションを通して、学力試験では測ることができない学生の意欲・適性をもとに判定する。部活動などの活動業績やボランティア活動、検定資格なども評価し、選考する。このグループディスカッションは、与えられたテーマをもとにディスカッションさせて AP2 から AP4 の項目ごとに採点する。

### 指定校推薦入試

本学が指定する高等学校の卒業見込者で、学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康であると出身学校長が責任を持って推薦できる者について、高校長からの推薦書、調査書、志願理由書、個人面接を行い、選考する。AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。

### 公募制推薦入試

高等学校の卒業見込の者、または、前年 3 月に卒業した者で、学業成績・人物面における優等性について高校長の推薦のもとに、調査書、志願理由書、グループディスカッション、個別面接を行い、選考する。AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。

### 社会人推薦入試

入学時において社会人経験を 1 年以上有する者（パートタイム・アルバイトの実務経験を含む）で、社会人としての豊かな経験と学び直しの意欲・適性を自己推薦書、個別面接、小論文をもとに選考する。

## 一般入試

志願理由書と学力試験をもとに選考する。学力試験は、文系科目（国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題）と理系科目（数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題）に分ける。文系科目は、コミュニケーション能力や理解力・表現力を見極めるためのもので、理系科目はリハビリテーション専門職にとって重要な理系の基礎知識を問うものである。いずれも出題全問を提示し、問題ごとに選択できる方式とし（選択数は1科目分）、得意な科目が単科目突出型か、まんべんなく複数科目得意型か、多様な人材を確保する。

### 2) 入学者の多様性の確保への配慮

本学は、多様な人材確保のため、入学者選抜において、推薦入試の中に社会人推薦入試を用意しており、高等学校卒業見込の者又は既卒者以外に、学び直しの機会を求める社会人にも門戸を開いている。

社会人推薦入試の出願資格には、「入学時において社会人経験としての実務経験を1年以上有する者」とし、その実務経験は、パートタイム、アルバイト等も実務経験を含むこととしている。また、入学者選抜においても、机上の学修から離れ、時間が経っていても、社会人としての経験を選考の判断材料の1つとして重視し、学び直したいという強い意志を持った者に機会が与えられるように配慮している。

### 3) 入学者選抜に関する具体的な方法

#### (1) 出願資格

出願資格を有する者は、次の①～⑧のいずれかの要件を満たしている者とする。

- ①高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）を卒業した者及び2020年3月卒業見込の者
- ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2020年3月修了見込の者
- ③外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び2020年3月末日までに修了見込の者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ④外国において、中等教育の課程の修了まで12年を要しない国については、文部科学大臣が指定した大学に入学するための準備教育を行う課程を修了し、かつ、2020年4月1日までに満18歳に達する者
- ⑤文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び2020年3月末日までに修了見込の者
- ⑥文部科学大臣の指定した者（専修学校の高等課程の修業年限3年以上の課程で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者など）、韓国高等学校または朝鮮高級学校を修了した者及び2020年3月修了見込

の者

⑦文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）及び2020年3月末日までに合格見込の者で2020年4月1日までに満18歳に達する者

⑧本学において、個別の出願資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2020年4月1日までに満18歳に達する者

## ②入試区分別出願資格

入試区分別の出願資格は下表のとおりである。

### 入試区分別【出願資格】（両学科共通）

入試区分別出願資格	
AO入試	前記の【基礎資格】を有し、次の要件を満たしている者 I. 合格した場合、必ず入学する者
推薦入試	<b>【指定校推薦入試】</b> 上記の【基礎資格】を有し、次の要件を満たしている者 I. 本学が指定する高等学校の卒業見込者で、評定値の基準を満たす者 II. 学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康で、出身学校長が責任を持って推薦できる者 III. 高等学校を2020年3月に卒業見込の者 IV. 合格した場合、必ず入学する者
	<b>【公募制推薦入試】</b> 上記の【基礎資格】を有し、次の要件を満たしている者 ①専願 I. 学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康で、出身学校長が責任を持って推薦できる者 II. 高等学校を2020年3月に卒業見込の者、または2019年3月に卒業した者 III. 合格した場合、必ず入学する者 ②併願 I. 学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康で、出身学校長が責任を持って推薦できる者 II. 高等学校を2020年3月に卒業見込の者、または2019年3月に卒業した者
	<b>【社会人推薦入試】</b> 上記の【基礎資格】を有し、次の要件をすべて満たしている者 I. 入学時において社会人としての実務経験を1年以上有する者 （パートタイム・アルバイト等も実務経験に含む） II. 合格した場合、必ず入学する者 ※ 受験時に1年以上の実務経験が無い場合でも受験可

一般選抜 入試	上記の【基礎資格】を有する者
------------	----------------

## (2) 入学者選抜について

入学者選抜に関する具体的な方法は次のとおりとする。

### 理学療法学科

入試区分	AO入試	推薦入試			一般入試
		指定校 推薦入試	公募制 推薦入試	社会人 推薦入試	
募集人数	8名	32名			40名
専願/併願	専願	専願	専願/併願	専願	併願
選抜方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④個人面接	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④グループディスカッション ⑤個人面接	①自己推薦書 ③個人面接 ④小論文	①志願理由書 ②学力試験 文系科目(国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題) 理系科目(数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題) ※両科目とも出題から、選択して回答

作業療法学科

入試区分	AO 入試	推薦入試			一般入試
		指定校 推薦入試	公募制 推薦入試	社会人 推薦入試	
募集人数	4名	16名			20名
専願/併願	専願	専願	専願/併願	専願	併願
選抜方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④個人面接	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④グループディスカッション ⑤個人面接	①自己推薦書 ②個人面接 ③小論文	①志願理由書 ②学力試験 文系科目(国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題) 理系科目(数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題) ※両科目とも出題から、選択して回答

なお、この入学者選抜方法は、高大接続改革の一環としての大学入学共通テストが導入されるまでを想定しており、その後は試験実施方法等については見直しを行う予定である。

## 10. 取得可能な資格

### 1) リハビリテーション学部 理学療法学科

リハビリテーション学部理学療法学科において、所定の授業科目を修得することで取得できる資格は、理学療法士国家試験受験資格である。

次の(1)、(2)、(3)の資格は、本学の授業に関連した資格を挙げており、単位取得の条件とはしていない。また、当該科目を受講すれば資格が取れるというものでもない。学生が授業を通して、これらの資格に興味を持った場合、その後、自身のキャリアアップのため、自らの意思で資格を取得するものである。そのため、資格取得のための情報を提供することが、本学の学生に対する指導内容となる。資格に関する情報提供は、授業内や学内情報の掲示版にて行い、資格取得にあたっての費用は、学生負担とする。

- (1) 中級障がい者スポーツ指導員
- (2) スポーツリズムトレーニング (DIFFUSER)
- (3) ゴルフフィジोटレーナー

#### (1) 中級障がい者スポーツ指導員

「中級障がい者スポーツ指導員」(認定団体：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会)とは、地域における障がい者スポーツのリーダーとしてその役割を果たし、指導現場において十分な知識・技術と経験に基づいた指導ができる者のことである。スポーツは、障害、年齢、性別などによって制限されるものではなく、オリンピックや各種大会での成績だけで評価されるものでもない。理学療法士とは、障害を持つ者に対して、基本的な動作能力を向上させることを目的とする専門職であり、障がい者との関わりが多いことから、生活の一部であるスポーツの支援も可能である。本資格を取得することで、理学療法士として活躍する場を増やすことができる。

#### (2) スポーツリズムトレーニング (DIFFUSER)

「スポーツリズムトレーニング」(認定団体：一般社団法人スポーツリズムトレーニング協会)とは、リズム感を高めることで運動能力を向上させる新しいトレーニングである。このトレーニングにより、子どもの運動能力だけでなく、社会性や自己肯定感を高めることが可能である。また、怪我をしない身体作りと集中力を養い、競技力の向上だけでなく、子どもたちの基礎体力の向上、高齢者の健康増進及び脳機能の活性化、そして子どもから高齢者までの地域コミュニティの活性化につながる。理学療法士が関わることで、身体特性の理解と分析ができ、より効率よくこれらの機能向上を図ることができ、理学療法士としての専門性を高めることができる。

#### (3) ゴルフフィジोटレーナー

ゴルフは外傷の多いスポーツであるが、スイングのバイオメカニズムを学ぶことで、その予防をすることができ、長くゴルフを続けることができようになる。「ゴルフフィジोटレーナー」(認定団体：European Association GPT&GMT e.V)とは、その能力

を保証する資格である。健康寿命を延ばすことは、理学療法士の使命であり、ゴルフを通して、健康寿命を延ばすことで、脳機能の活性化、人とのつながりや生きがいを持つことも可能となる。そういった支援まで出来るようになるのが本資格である。本資格を取得することで、理学療法士としての支援の幅を広げることが可能となる。

## 2) リハビリテーション学部 作業療法学科

リハビリテーション学部作業療法学科において、所定の授業科目を修得することで取得できる資格は、作業療法士国家試験受験資格である。

次の(1)、(2)、(3)の資格は、本学の授業に関連した資格を挙げており、単位取得の条件とはしていない。また、当該科目を受講すれば資格が取れるというものでもない。学生が授業を通して、これらの資格に興味を持った場合、その後、自身のキャリアアップのため、自らの意思で資格を取得するものである。そのため、資格取得のための情報を提供することが、本学の学生に対する指導内容となる。資格に関する情報提供は、授業内や学内情報の掲示版にて行い、資格取得にあたっての費用は、学生負担とする。

- (1) 福祉住環境コーディネーター2級
- (2) 中級障がい者スポーツ指導員
- (3) メンタルヘルス・マネジメント2種

### (1) 福祉住環境コーディネーター2級

福祉住環境コーディネーター2級（認定団体：東京商工会議所）とは、高齢者や障がい者等に対して住みやすい住環境を整備するために、例えば、建設業者や家族等との調整ができる能力を有することを保証する資格である。高齢者の割合が高まる中で、在宅支援へのニーズが高まることは間違いないが、住宅等の設計の段階から、高齢者や障がい者等の視点から物理的環境である住環境を整備することができるようになることで、作業療法士としての幅を広げることが可能となる。

### (2) 中級障がい者スポーツ指導員

理学療法士の項で記載の通りである。本資格を取得することで、作業療法士として活躍する場を増やすことができる。

### (3) メンタルヘルス・マネジメント2種

メンタルヘルス・マネジメント2種（認定団体：大阪商工会議所）とは、職場におけるストレスにより精神に失調をきたす人が増えている現状を踏まえた上で、心の不調の未然防止と活力ある職場づくりを目指して、職場内での役割に応じたメンタルヘルスケアに関する知識や対処方法に関する知識を有していることを保証する資格である。作業療法士とは、作業活動を通して、身体だけでなく心のリハビリテーションまで行う専門家であるため、本資格を取得することで、治療対象者の幅を広げることができるとも

に、自身が労働者あるいは経営者として働く場合にも役立てることが可能となる。

## 1 1. 実習の具体的計画

### 1) 実習の目的

臨地実務実習の目的は次のとおりである。

#### (1) 理学療法学科

##### 「理学療法見学実習Ⅰ」

対象者や職員の方とコミュニケーションをとり、専門職としての適切な行動や言動を理解する。理学療法士の仕事を知り、施設の役割、施設における理学療法士の役割を理解する。理学療法士は地域で活躍の場が広がっているということを1年次に認識し、今後の学習意欲のさらなる向上を目的とする。

##### 「理学療法見学実習Ⅱ」

理学療法士が行う評価と治療を見学し、評価方法の進め方と評価技術の重要性について理解する。医療機関における理学療法士の具体的な仕事内容を理解し、自己の目標を明確にして、医療従事者としてのコミュニケーションや基本的態度について認識することを目的とする。

##### 「理学療法見学実習Ⅲ」

適切な介助、援助をするために、必要な知識が何であるのかを自ら気づくことができる。また、1年次の学びを基盤に、理学療法士として役割を理解し、適切なコミュニケーションや行動がとれることを目的とする。

##### 「理学療法評価実習」

診療参加型実習を行い、理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとることができる。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、患者の状態に関する評価を理学療法士の管理指導の下、リスク管理技術の水準Ⅰ（スタンダードプリコーション、バイタルサインの測定等）、理学療法評価技術の水準Ⅰ（情報収集、検査・測定、姿勢評価、日常生活活動等）の内容を実践することを目的とする。

##### 「理学療法総合臨床実習Ⅰ」

診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案までの一連の思考過程を理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰ（関節可動域運動、筋力増強運動、バランス練習、基本動作練習、歩行練習、移動動作練習等）の一部を実践することを目的とする。

##### 「理学療法総合臨床実習Ⅱ」

診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定までの一連の理学療法プロセスを理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践すること

を目的とする。

#### 「理学療法地域実習」

地域で生活を送る障がい者の現状を知り、介護保険分野における理学療法士の仕事についてだけでなく多職種との連携方法や多職種の業務についても理解を深めることを目的とする。

### (2) 作業療法学科

#### 「作業療法見学実習Ⅰ」

医療人としての接遇・態度を身につけること、作業療法士の仕事を知り、施設の役割、施設における作業療法士の役割を理解すること。そして作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすることで、作業療法における施設特性を理解することを目的とする。

#### 「作業療法見学実習Ⅱ」

医療人としての接遇・態度を身に着けること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関りを説明できること、作業療法が展開される施設特性や空間を理解できることを目的とする。

#### 「作業療法評価実習」

医療人としての接遇・態度を身に着けること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関りを説明できること、作業療法が展開される施設特性や空間を理解することとする。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、作業療法士の指導管理の下、作業療法評価の一部を実践し、プログラム立案までのプロセスを理解することを目的とする。(作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては考察が困難な点であるために、臨床指導者の指導を基にして思考を進める。)

#### 「作業療法総合臨床実習Ⅰ」

作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶことを目的とする。

#### 「作業療法総合臨床実習Ⅱ」

作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶことを目的とする。

#### 「作業療法地域実習」

地域で作業療法を行っている施設での実習を通じて、障がい者が地域で生活することの意味や困難を知り、地域医療福祉の理念やその中での作業療法の役割を理解することを目的とする。

## 2) 実習先の確保の状況

### (1) 実習先の確保状況

理学療法及び作業療法の対象は、子どもから成人、高齢者まで幅広い年齢層となり、その領域は医療分野から介護、福祉分野まで多岐にわたる。本学の臨地実務実習では、これら幅広い対象者への理学療法及び作業療法を経験させるため、滋賀県を中心とした病院、診療所、介護老人保健施設、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等、急性期から生活期までの様々な領域の実習施設を確保している。実習先の確保状況は、臨地実務実習受入承諾書のとおりであり、理学療法学科は 107 施設、作業療法学科は 56 施設からその承諾を得ている。

【資料 10】臨地実務実習施設一覧表及び臨地実務実習施設使用承諾書(理学療法学科)

【資料 11】臨地実務実習施設一覧表及び臨地実務実習施設使用承諾書(作業療法学科)

### (2) 実習先が遠隔地である場合の配慮

実習先への学生の配置は、「学生の居住地から公共交通機関を利用し、1 時間半を越えない範囲」とし、遠隔地の実習先とならないよう実習調整者がその調整を行うこととする。

遠隔地の定義を「学生の居住地から公共交通機関を利用し、1 時間半を越える範囲」とする。一人の学生に複数回遠隔地の実習先が配置されないよう、実習調整者がその調整を行うが、実習先の受入れ状況等、遠隔地の実習先に配置せざるを得ない状況になった場合は、実習先の宿舍またはアパートを借り上げ、家賃については本学が負担する。

## 3) 実習先との契約内容

実習開始にあたっては、本学と病院・施設との間で実習計画、実習期間、実習費用、個人情報保護、機密情報の保護、実習中の事故及びその損害賠償、予防接種等について取り決めを行い、契約を結ぶ。その際、学生は実習施設に個人情報保護に関する誓約書を提出する。また、求めに応じて、抗体価検査の結果及び予防接種の接種歴の提出を行う。特に、危機管理に関しては、実習中の交通事故、医療事故感染症罹患、個人情報の漏えい、ハラスメント等について、その防止及び発生時の連絡経路等を記載した「実習のてびき」を作成し、実習施設と実習担当教員、学生に配布し、周知することを徹底する。

特に、実習中における各種傷害（感染事故を含む）や各種賠償（個人情報漏えい、器物損壊を含む）については、全学生が適用対象となる保険契約を保険会社と締結し、想定されるあらゆる事故等への予防策を講じる。

## 4) 実習水準の確保の方策

実習水準が確保できるように次の取り組みを行っている。

## (1) 臨床実習指導者会議の開催

本学と実習施設が協力して、臨地実務実習で質の高い学生教育を行うため、本学教員と実習指導者が実習の目的・目標・実習内容などの臨地実務実習全般について協議する場として、臨床実習指導者会議を開催する。会議の内容は次のとおりである。

- ① 当該年度に実施した臨床実習の結果報告
- ② 次年度の臨床実習の目的・目標・実習方法（診療参加型実習についての研修）・評価方法について
- ③ 実習指導者と学生の面談
- ④ 学生指導で困ったこと、効果的な実習方法に関する意見交換など

## (2) 学生への実習参加基準・要件

実習の水準を確保する方策として、次のとおり実習への参加に際して基準を設ける。各実習参加要件は以下のとおりである。

### ① 理学療法学科

理学療法見学実習Ⅰ：必要履修科目は定めない。実習前の筆記試験と実習前レポートで一定水準に到達していること。

理学療法見学実習Ⅱ：必要履修科目は定めない。実習前の筆記試験と実習前レポートで一定水準に到達していること。

理学療法見学実習Ⅲ：必要履修科目は定めない。実習前の筆記試験と実習前レポートで一定水準に到達していること。

理学療法評価実習：理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を修得していること。実習前の筆記試験と客観的臨床能力試験（OSCE）で、一定の水準に到達していること。

理学療法総合臨床実習Ⅰ：理学療法評価実習の単位を修得していること。実習前の筆記試験と客観的臨床能力試験（OSCE）で、一定の水準に到達していること。

理学療法総合臨床実習Ⅱ：理学療法総合臨床実習Ⅰの単位を修得していること。実習前の筆記試験と客観的臨床能力試験（OSCE）で、一定の水準に到達していること。

理学療法地域実習：理学療法総合臨床実習Ⅰの単位を取得していること。実習前の筆記試験と実習前レポートで一定水準に到達していること。

### ② 作業療法学科

作業療法見学実習Ⅰ：必要履修科目は定めない。実習前レポートで一定水準に到達していること。

作業療法見学実習Ⅱ：必要履修科目は定めない。実習前レポートで一定水準に到達していること。

作業療法評価実習：作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。実習前の筆記試験と客観的臨床能力試験（OSCE）で、一定の水準に到達し

ていること。

作業療法総合臨床実習Ⅰ：作業療法評価実習の単位を修得していること。実習前の筆記試験と客観的臨床能力試験（OSCE）で、一定の水準に到達していること。

作業療法総合臨床実習Ⅱ：作業療法総合臨床実習Ⅰの単位を修得していること。実習前の筆記試験と客観的臨床能力試験（OSCE）で、一定の水準に到達していること。

作業療法地域実習：作業療法総合臨床実習Ⅰの単位を修得していること。

### （3）実習単位、主な内容、実習施設、時期、学生の配置など

臨地実習の主な実習内容を具体的に提示し、実習指導者に対する学生の配置人数を適正に保つことで、指導者の目が行き届いた実習となるようにしている。実習単位と主な内容、時期は以下のとおりである。各実習の目的達成のための教育目標・行動目標も、資料として添付する。

#### ① 理学療法学科

理学療法見学実習Ⅰ：1単位、1年前期（8月頃）、1施設5名程度の学生を配置

滋賀県を中心とした介護老人保健施設において、理学療法士の業務の見学および管理指導の下、対象者の方とコミュニケーションをとる。また、理学療法業務における周辺領域の補助を行うことや、利用者の方の生活支援の一部の補助を行う。

理学療法見学実習Ⅱ：1単位、1年後期（2月頃）、1施設2名程度の学生を配置

滋賀県を中心とした医療機関において、理学療法士の業務の見学および管理指導の下、対象者と医療面接を行う。また、理学療法業務における周辺領域の補助を行う。

理学療法見学実習Ⅲ：1単位、2年前期（8月頃）、1施設5名程度の学生を配置

1年次の見学実習Ⅰにおける自ら学び、指導者からの指導、学内での内観後の再学習を踏まえ、再度同様の施設で実習を行う。滋賀県を中心とした介護老人保健施設において、理学療法士の業務の見学および管理指導の下、対象者の方とコミュニケーションをとる。また、理学療法業務における周辺領域を一部拡大し、その補助の範囲を増やして行う。さらに、対象者の方の食事や入浴といった日常生活には欠かせない行為の生活支援の一部の補助を行う。

理学療法評価実習：4単位、3年前期（6月頃）、1施設1名程度の学生を配置

診療参加型実習において、患者評価場面のすべてにおいて指導者が見本を示した上で、理学療法士が行う検査・測定を指導者の監視の下に一部実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導の中から自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

理学療法総合臨床実習Ⅰ：6単位、3年後期（1月頃）、1施設1名程度の学生を配置

診療参加型実習において、評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示した上で、学生自身で理学療法士が行う検査・測定や治療の一部を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導の中から自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

理学療法総合臨床実習Ⅱ：6単位、4年前期（4月頃）、1施設1名程度の学生を配置

診療参加型実習において、評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示した上で、学生自身は理学療法士が行うおおよそすべての検査・測定や治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導の中から自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

理学療法地域実習：1単位、4年前期（6月頃）、1施設2名程度の学生を配置

滋賀県を中心とした訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーション施設において、理学療法士の介護保険分野における業務を見学し一部補助を行う。

## ② 作業療法学科

作業療法見学実習Ⅰ：1単位、1年後期（3月頃）、1施設2名程度の学生を配置

滋賀県を中心とした医療機関、介護保険関連施設において、臨床指導者の指導の下で見学を中心として、実務状況を体感していく。またその経験内容は日々のレポートとして蓄積していくように進める。

作業療法見学実習Ⅱ：1単位、2年前期（8月頃）、1施設2名程度の学生を配置

滋賀県を中心とした医療機関、介護保険施設において、臨床指導者の指導の下で見学と評価の一部を体験及び治療場面を見学し説明を受けることを通して、実務状況を体感・体験し一部考察を進めていくこととする。またその経験内容は日々のレポートとして蓄積していくように進める。

作業療法評価実習：5単位、3年前期（7月頃）、1施設1名程度の学生を配置

対象者の評価場面において指導者が見本を示した上で、作業療法士が行う検査・測定を指導者の監視の下に一部実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導の中から自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

作業療法総合臨床実習Ⅰ：7単位、3年後期（1月頃）、1施設1名程度の学生を配置

評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示した上で、学生自身はその一部を作業療法士が行う検査・測定や治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への評価介入の一連の実施方法や考え方を学んでいくこととする。

作業療法総合臨床実習Ⅱ：7単位、4年前期（4月頃）、1施設1名程度の学生を配置

評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、学生自身その一部を作業療法士が行う検査・測定や治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

また、作業療法臨床総合実習Ⅰとは異なった分野・領域となる臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への作業療法介入の一連の実施と経過のまとめ及び再評価を通して作業療法の効果判定の考え方を学んでいくこととする。

作業療法地域実習：1単位、4年前期（6月頃）、1施設2名もしくは4名程度の学生を配置

滋賀県を中心とした訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーション施設において、地域作業療法を実施している施設にて指導者の指導のもと介護保険における業務を見学し一部補助を行う。

### （3）実習施設で行う施設内研修会への講師派遣

実習施設の要望に応じ、本学教員を講師として派遣し、実習指導者の臨床能力向上に努める。また、臨床実習指導法をテーマにした研修会を企画・開催し、実習指導者に参加を求め、学生指導能力の向上に努める。

### （4）研究活動の支援

要請に応じて、本学教員が実習施設で取り組んでいる研究活動に協力し、学術レベルの向上に努める。

## 5) 実習先との連携体制

### （1）実習前、実習中、実習後等における調整・連携の具体的方法

あらかじめ実習委託機関と協議の上、本学実習施設として承諾を得る。

#### ① 実習前の連携体制

総合臨床実習Ⅰ前には、指導者を一同に会して臨床実習指導者会議を開催する。ここでは、実習の目的や目標、目標達成のための方法、学生の実習成果物の作成方法、地震・台風など非常時の対策方法、ハラスメントに対する意識の向上とその対策などの必要事項について、実習施設と共有するとともに協議できる場とする。また、実習に出向く学生とも事前に面談し、お互いの自己紹介を行い、実習内容を確認することで、実習への円滑な導入と学生の精神的緊張を緩和する。

さらに、実習開始1週間程前に、実習指導者と適宜電話にて連絡を取り、学生の詳細を伝え情報を共有することで、各学生の個性に即した実習がスムーズに進むようサポートする。

## ② 実習中の連携体制

各実習施設に最低1名の専任教員（実習担当教員）を配置する。実習中は、各実習施設の担当となっている実習担当教員が、各学生の個性に即した実習指導が進行するようにサポートする。全ての実習において、実習開始後1週間程で再度電話連絡を行い、学生の実習がスムーズに進行していることの確認を行う。

評価実習および総合臨床実習Ⅰ・Ⅱでは、実習期間中に必ず1回以上の巡回指導を行い、実習指導者との面談を行うことにより、実習の進捗状況や学生の問題点の把握、ならびにその他健康・生活上の様子を確認する。また、実習に問題が生じた場合は、必要に応じて再度巡回指導を行い、実習担当教員が実習施設側の要請に応じて協同して指導を行う。

休日、夜間の本学が閉門している時間帯で、いかなる場合にも随時対応できるよう、実習専用の携帯電話を準備し対応する。

## ③ 実習後の連携体制

実習後、当該学生の実習の成績の結果を実習指導者へ伝え、その後の指導の方向性について意見交換する。実習指導者の評価は、形成的評価として捉え、見学実習、評価実習、総合臨床実習、地域実習を通して、段階的に成長していけるよう学生の教育に活用する。

### （2）問題対応、きめ細かな指導のための実習相談窓口の設置

本学では実習相談窓口を設置し、学外で行うすべての実習において生じる問題に対して、いち早く対応できるような体制を整備する。実習にかかわる内容の窓口として、学生の実習に関する質問や不安、ハラスメントなど、相談が行いやすい環境を整えるとともに、実習施設からの相談や要望も受け付ける。本学の臨地実習がより良い環境で行えるようコーディネーターとしての役割を持つ。

## 6) 実習前の準備状況

### （1）感染予防対策

入学時の健康診断において全学生を対象に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、B型肝炎の抗体価検査を実施し、抗体価が基準値に満たない項目について、各学生に順次ワクチン接種を行うよう指導する。また、冬季に流行するインフルエンザについても、予防的観点から、毎年ワクチン接種を行うよう指導する。これらの抗体価検査とワクチン接種歴については、実習施設から提出の申し出があった場合、速やかに提出できるよう対応するため、接種歴の把握と接種証明の保存を学生個人と学校の双方で管理する。その他、実習地から申し出のあった検査項目については、その都度対応する。

### （2）損害賠償責任保険、傷害保険への加入

入学時に全学生に対して、医療系学生の総合補償制度である総合生活保険（障害補償）

への加入を行う。この保険は、実習中を含めた学校管理下（敷地外可）の傷害事故を補償するものであり、この保険への加入により、実習期間中に学生自身が怪我等の障害をおった場合、ならびに実習中に起こった患者の身体または財物への損壊に対して補償を行う体制を整える。

### （3）学生へのオリエンテーションの内容、方法

学生オリエンテーションは、実習開始前に実施する。オリエンテーションの内容は、添付の「実習のてびき」を用いて、実習の目標と心構えを指導し、自らの学習の目標を設定させる。また、医療人としての適切な行動、守秘義務および個人情報保護の意義と方法を理解させ、適切な行動がとれるよう指導する。また、ストレス対応、各種ハラスメントに対する対応方法についても指導する。

## 7) 事前・事後における指導計画

### （1）実習前の指導計画

#### ①「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「理学療法地域実習」について

実習前の学内の取り組みの具体的な実施計画を以下に示す。

実習までに以下の実習指導を実施する。

#### A.オリエンテーション

実習を前に、「実習のてびき」に則り、オリエンテーションを行う。

- 目標の明確化
- 実習に臨む姿勢と社会人としてのマナーの指導
- 実習前の持ち物チェックリストの作成
- 実習先への事前電話連絡
- 医療倫理に関する指導（守秘義務・個人情報保護・対象者の尊厳など）
- 感染予防策の指導
- リスク管理

#### B.筆記試験

各実習前に、関連する領域の知識について筆記試験を行い、一定の水準に到達していることの確認を行う。

#### 実習セミナー

- ポートフォリオの書き方
- 実習前レポートの書き方指導

課題) 実習する施設がどのような環境にあるのか、どのような対象者がいる

のか、理学療法士が用いる介入方法、理学療法士の組織図上の位置、実習地

の地域の中での役割など、

- 動作介助の練習

## ②「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」について

実習前の学内の取り組みの具体的な実施計画を以下に示す。

実習までに5日間の実習指導を実施する。

### (ア) 実習オリエンテーション

実習を前に、「実習のてびき」に則り、オリエンテーションを行う。

- 目標の明確化
- 実習に臨む姿勢と社会人としてのマナーの指導
- 実習前の持ち物チェックリストの作成
- 実習先への事前電話連絡
- 医療倫理に関する指導（守秘義務・個人情報保護・対象者の尊厳など）
- 感染予防策の指導
- リスク管理

### (イ) 筆記試験

筆記試験は、当該実習までに履修した科目から、実習に関連する領域の基礎的な知識が一定の水準に到達していることを確認するものである。

### (ウ) 客観的臨床能力試験（OSCE）

OSCEは、学生に理学療法士として必要な技能、態度の基本能力を身につけたかを確認するものである。実習が進むにつれ、求められる基本的臨床能力の深さが段階的に増すように課題を設定する

#### 【OSCEの実施方法】

OSCEの具体的な実施方法は、才藤ら（2015）が推奨する方法を参照し、以下のよう

#### OSCEの試験環境の設定

試験会場は、1階実習室とする。実習室を可動式パーテーションで部屋を仕切り、3つのステーションと学生待機スペースを設定する。タイムキーパーはすべてのステーションが見渡せる位置とする。1つのステーションに配置される人員は、評価者1名、模擬患者1名、受験する学生の3名とする。学生待機ステーションには7名の学生が待機する。評価者と模擬患者、タイムキーパーは教員が行う。

## OSCE の実施方法

1つのステーションでの試験時間は5分で、試験終了2分間のフィードバックを受け、次のステーションへの移動時間を1分間設ける。つまり、学生の1課題の受験に必要な時間は8分間となる。

理学療法学科の80名の学生を10名ずつの8グループに分け、1グループずつ試験室に入る。タイムキーパーの指示に従って、各ステーションに学生を1名ずつ配置し、3ステーション同時に試験を行う。課題が終わるごとに、タイムキーパーの指示に従ってローテーションする(図2)。10名が、すべての課題を終了するために必要な時間は80分となるが、余裕をもって、1グループ1限(90分)ずつ割り当てる。つまり、8グループに対してOSCEを行うために8時限必要となり、2日間かけて行う計画である。



## OSCE の課題 (例) 股関節の関節可動域の測定

設問) 変形性股関節症の患者です。この患者の股関節の屈曲の関節可動域(他動)を測定して、結果を報告してください。測定の前に、評価者に基本軸、移動軸を伝えてください。測定後は、患者は端坐位にしてください。制限時間は5分です。

準備物) 治療用ベッド、枕、角度計

患者設定)

疾患・障害	右変形性股関節症	疼痛	右股関節の荷重痛
年齢・性別	不問	ROM 制限	右股屈曲 100° 伸展 -10°
受傷・発症後	1年前	筋力低下	右股屈曲・伸展 MMT3
主訴	歩くとき股関節が痛い	起居動作	自立
理解・表出	正常	歩行	自立

採点基準) ルーブリック評価の採点基準に基づき、評価をする。

### (エ) 実習セミナー

- 実習ポートフォリオの書き方
- OSCE オリエンテーション
- 理学療法評価技術・治療技術の実技練習・動作介助の練習
- OSCE フィードバック

### ① 「作業療法見学実習 I・II」 及び 「作業療法地域実習」 について

実習前の学内の取り組みの具体的な実施計画を以下に示す。

実習までに以下の実習指導を実施する。

(ア) オリエンテーション

実習を前に、「実習のてびき」に則り、オリエンテーションを行う。

- 目標の明確化
- 実習に臨む姿勢と社会人としてのマナーの指導
- 実習前の持ち物チェックリストの作成
- 実習先への事前電話連絡
- 医療倫理に関する指導（守秘義務・個人情報保護・対象者の尊厳など）
- 感染予防策の指導
- リスク管理

(イ) 実習セミナー

- 実習ポートフォリオの書き方
- 実習前レポートの書き方指導

課題) 実習する施設がどのような環境にあるのか、どのような対象者がいるのか、作業療法士が用いる介入方法、作業療法室の組織図上の位置、設置にいたる歴史的経緯、実習地の地域の中での役割など

- 動作介助の練習

②「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」について

実習前の学内の取り組みの具体的な実施計画を以下に示す。

実習までに以下の実習指導を実施する。

(ア) オリエンテーション

実習を前に、「実習のてびき」に則り、オリエンテーションを行う。

- 目標の明確化
- 実習に臨む姿勢と社会人としてのマナーの指導
- 実習前の持ち物チェックリストの作成
- 実習先への事前電話連絡
- 医療倫理に関する指導（守秘義務・個人情報保護・対象者の尊厳など）
- 感染予防策の指導
- リスク管理

(イ) 筆記試験

筆記試験は、当該実習までに履修した科目から、実習に関連する領域の基礎的な知識が一定の水準に到達していることを確認するものである。

(ウ) 客観的臨床能力試験（OSCE）

OSCE は、学生に作業療法士として必要な技能、態度の基本能力を身につけたかを確認するものである。実習が進むにつれ、求められる基本的臨床能力の深さが段階的に増すように設定する。

### 【OSCE の実施方法】

OSCE の具体的な実施方法は、才藤ら（2015）が推奨する方法を参照し、以下のよう設定する。

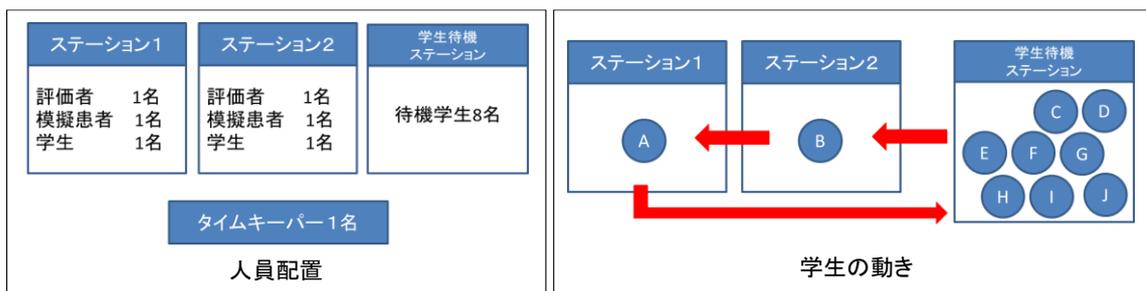
#### OSCE の試験環境の設定

試験会場は、2階評価実習室とする。実習室を可動式パーテーションで部屋を仕切り、2つのステーションと学生待機スペースを設定する。タイムキーパーはすべてのステーションが見渡せる位置とする。1つのステーションに配置される人員は、評価者1名、模擬患者1名、受験する学生の3名とする。学生待機ステーションには8名の学生が待機する。評価者と模擬患者、タイムキーパーは教員が行う。

#### OSCE の実施方法

1つのステーションでの試験時間は5分で、試験終了2分間のフィードバックを受け、次のステーションへの移動時間を1分間設ける。つまり、学生が1課題の受験に必要な時間は8分間となる。

作業療法学科の40名の学生を10名ずつの4グループに分け、1グループずつ試験室に入る。タイムキーパーの指示に従って、各ステーションに学生を1名ずつ配置し、2ステーション同時に試験を行う。課題が終わるごとに、タイムキーパーの指示に従ってローテーションする。10名が、すべての課題を終了するために必要な時間は80分となるが、余裕をもって、1グループ1限（90分）ずつ割り当てる。つまり、4グループに対してOSCEを行うために4時限必要となり、1日間かけて行う計画である。



OSCE の課題（例 1）肩・肘関節可動域の検査測定（肩・肘関節動作の機能の評価の技術）

設問) 脳梗塞により左片麻痺を呈した患者です。この患者の肩関節が移転の角度を測定してください。測定の際は基本軸、移動軸を口頭で採点者に説明しながら計測してください。制限時間は5分です。では、始めてください。

準備物) 治療用ベッド、枕、角度計

患者設定)

疾患・障害	脳梗塞・左片麻痺	座位	自立
年齢・性別	不問	立位	自立
受傷・発症後	1ヶ月	起居動作	自立
疼痛	左肩	理解・表出	良好
表在覚	軽度鈍麻		

採点基準) 本学が作成した採点基準 (ルーブリック評価) に基づき、評価をする。

OSCE の課題 (例 2) 興味関心チェックシートを用いた面接 (対象者の「作業」を調査する質問紙法、面接の技術)

設問) 脳梗塞により左片麻痺を呈した患者です。この方の「作業」に着眼したアプローチを考えたあなたは、興味関心チェックシート (様々な作業活動が記載されており、それぞれの経験の有無、関心の有無を問う質問紙) を用いた面接を実施することになりました。制限時間は 5 分です。では、始めてください。

準備物) 鉛筆、消しゴム、興味関心チェックシート (制限時間の問題から設問項目を 5 問とする)、机

疾患・障害	脳梗塞・左片麻痺	座位	自立
年齢・性別	不問	立位	自立
受傷・発症後	1ヶ月	起居動作	自立
疼痛	左肩	理解・表出	良好
表在覚	軽度鈍麻		

採点基準) 本学が作成した採点基準 (ルーブリック評価) に基づき、評価をする。

(エ) 実習セミナー

- 実習ポートフォリオの書き方
- OSCE オリエンテーション
- 作業療法評価技術・治療技術の実技練習、動作介助の練習
- OSCE フィードバック

(2) 実習後の指導計画

①「理学療法見学実習 I・II・III」及び「理学療法地域実習」について

実習後の学内の取り組みの具体的な実施計画を以下に示す。

実習の翌週に、2 日間 学内での実習指導を実施する。

実習セミナー

- 実習課題の提出（実習ポートフォリオ、成長報告書）
- 諸書類の提出（出席表、遅刻・早退・欠席届、事故発生報告書等）
- 凝縮ポートフォリオの作成指導

## ②「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」について

実習後の学内の取り組みの具体的な実施計画を以下に示す。

実習の翌週に、5日間の学内での実習指導を実施する。

### (ア) 実習セミナー

- 実習課題の提出（実習ポートフォリオ、凝縮ポートフォリオ、体験チェックリスト、成長報告書）
- 諸書類の提出（出席表、遅刻・早退・欠席届、事故発生報告書等）
- 実習の振り返り（評価表を用いた自己評価）と実習担当教員からフィードバック

実習後は、客観的な指標で自らの実習を振り返る目的で、実習指導者と同じ評価表を用いて、学生が自己評価を行う。評価が低かった項目と自己評価と指導者の評価に差が大きい項目に着目して、フィードバックを行う。

### (イ) 実習報告会と口頭試問

### (ウ) 客観的臨床能力試験（OSCE）

実習で経験した疾患・障害領域に合わせて患者設定して OSCE を行い、実習目的の到達度を確認する。

## ①「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」について

実習後の学内の取り組みの具体的な実施計画を以下に示す。

実習後に、1日間の学内での実習指導を実施する。

### 実習セミナー

- 実習課題の提出（実習ポートフォリオ、体験チェックリスト、成長報告書）
- 諸書類（出席表、遅刻・早退・欠席届、事故発生報告書等）
- 実習ポートフォリオの発表

## ②「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」について

実習後の学内の取り組みの具体的な実施計画を以下に示す。

実習後に、5日間の学内での実習指導を実施する。

### (ア) 実習セミナー

- 実習課題の提出（実習ポートフォリオ、体験チェックリスト、成長報告書）
- 諸書類（出席表、遅刻・早退・欠席届、事故発生報告書等）

- 凝縮ポートフォリオの作成指導

#### (イ) 凝縮ポートフォリオ発表

学生が実習指導者と一緒に受け持った対象者の作業療法介入の流れを、担当教員と凝縮ポートフォリオを作成し、発表を行う。

#### (ウ) 客観的臨床能力試験 (OSCE)

実習の領域別に課題を設定し、実習前の客観的臨床能力試験 (OSCE) と比較する事で成長を評価する。

### (3) 各段階における学生へのフィードバック、アドバイスの方法

評価実習および総合臨床実習 I・II では、学生は毎日実習記録を作成し、1週間ごとにふりかえりシートを用いて、実習の成果を自己評価する。これを活用し実習指導者は、適宜口頭での指導を行う。また、検査及び治療の経験をした対象者についてまとめ、指導者からの助言をまとめて実習ポートフォリオ、ならびに体験チェックリストを作成する。これらに対して、実習指導者および本学の実習担当教員により、病態及び治療の理論的背景を指導する。

指導方法は、実習担当教員が実習巡回時に面談を行い直接指導する。また、必要に応じて電話やメールなどを通してアドバイスを与える。

## 8) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

### (1) 担当専任教員の配置と指導計画

#### ① 理学療法学科

各実習施設に最低 1 名の専任教員を配置する。理学療法評価実習および理学療法総合臨床実習 I・II では、実習期間中に必ず 1 回以上の巡回指導を行い、実習施設の指導者と実習の進捗状況や問題点の把握を実施する。実習に支障をきたしている場合は、必要に応じて 2 回目以降の巡回指導を行い、実習指導者とともに学生指導にあたる。また、必ず学生との二者面談の時間を設け、ハラスメントの発生等の問題発見に努める。

全 4 週間の理学療法評価実習は、第 2 週を巡回指導日とし、第 4 週を予備日とする。また、全 6 週間の理学療法総合臨床実習 I・II は、第 3 週を巡回指導日とし、第 6 週を予備日とする。なお 2 回目以降の巡回指導は、予備日もしくは状況に応じて必要回数必要時に巡回するものとする。巡回指導の時期については、全ての学生において一定となるように配慮し、評価時期が平等となるよう調整する。

#### ② 作業療法学科

各実習施設に最低 1 名の専任教員を配置する。作業療法評価実習および作業療法総合臨床実習 I・II では、実習期間中に必ず 1 回以上の巡回指導を行い、実習施設の指導者と実習の進捗状況や問題点の把握を実施する。実習に支障をきたしている場合は、必要に応じて 2 回目以降の巡回指導を行い、実習指導者とともに学生指導にあたる。また、必ず学生との二者面談の時間を設け、ハラスメントの発生等の問題発見に努める。

全 5 週の作業療法評価実習 (最終週は学内実習) は、第 2 週を巡回指導日とし、第 4

週を予備日とする。また、全7週間の作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ（最終週は学内実習）は、第3週を巡回指導日とし、第6週を予備日とする。なお2回目以降の巡回指導は、予備日もしくは状況に応じて必要回数必要時に巡回するものとする。巡回指導の時期については、全ての学生において一定となるように配慮し、評価時期が平等となるよう調整する。

## （2）助手及び非常勤助手等を配置する場合は、採用基準、実習指導における役割、専任教員との連携体制等

助手は、各種事務手続きや実習施設と実習日についてその調整を行う。また、実習前のオリエンテーションやセミナーの際も専任教員と一緒に指導にあたる。実習における学生との指導に関しては、専任教員と一緒にいき、助手のみで指導することはない。

## （3）教員の負担及び巡回上の配慮

専任教員（実習担当教員）一人あたりの担当施設数は、理学療法評価実習で3施設程度、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱで5施設程度としている。また、作業療法評価実習で5施設程度、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱで5施設程度とし、担当教員の過度な負担を避け、巡回指導日に実習担当教員の担当科目を入れないよう、担当科目の授業に支障がでないように調整する。

下表に実習地と本学または実習担当教員の居住地までの距離ならびに所要時間における条件区分を示す。

### 実習巡回条件

区分	巡回日程	施設数	施設までの条件
近距離施設	1日以内	1~3	本学もしくは教員の居住地から半径50km以内もしくは、移動時間が片道1時間半程度
中距離施設	1日以内	1~2	本学もしくは教員の居住地から移動時間が片道1時間半以上、半日以内
遠距離施設	1泊2日	1~3	本学もしくは教員の居住地から移動時間が半日以上

表の区分より、本学もしくは教員の居住地から実習地までの距離及び所要時間に応じて1度に巡回可能な施設数を調整する。1人の担当教員が担当する実習地は、1実習期間中に複数の遠距離施設を担当しないよう、実習調整者が組み合わせの調整を行い、巡回の際の移動に無理が生じないように配慮し、担当教員への過度な負担による教育の質の低下が起こらないよう調整する。

なお、巡回指導における移動手段は、本学から向かう場合はその利便性の配慮から公用車もしくは自家用車とし、担当教員の居住地から向かう場合は、自家用車もしくは公共交通機関を使用する。

## 9) 実習施設における指導者の配置計画

### (1) 実習指導者の資質とその配置

各施設での指導者は、理学療法士あるいは作業療法士としての実務経験を5年以上有し、かつ厚生労働省が定めている実習指導者の基準を満たした者とする。合わせて、当該者が、指導者として十分な資質・知識・技術を備えていると本学が認めた者とする。実習指導者としての免許を有しているか否かについて確認を行い、可能であれば複写し、その保管をする。

また、1名の指導者に対して、本学学生1名を基本とし、それが難しい場合や2名の方が実習の目的を達成しやすい場合は2名とする。また、他大学の学生が同時期に実習を行っている場合も学生数は2名とし、少人数を原則とする。各施設の指導者とは、臨床実習指導者会議を1年に1回必ず開催し、学生教育について意見交換を行うこととする。

### (2) 実習指導者に対する研修

厚生労働省が定める実習指導者となるために、受講すべき講習会を本学で行うことで、実習指導が可能な理学療法士及び作業療法士を養成するとともに、実習の質を担保する方策とすることを検討している。

## 10) 成績評価体制及び単位の認定方法

### (1) 各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携

評価方法に関する基準は、臨床実習指導者会議において評価基準を指導者と共有する。

実習中の評価については、実習指導者と実習担当教員が行う。実習担当教員は、訪問あるいは電話連絡時に、実習指導者とともに学生の状況を評価表に沿って中間評価を行う。実習指導者の評価は、形成的評価として捉え、段階的に成長していけるよう学生の教育に活用する。その際、本学の定める評価の基準と実習指導者の評価に差があるときは、評価をつける根拠を聞きとり、評価基準を説明し、評価が適正に行われるように働きかける。

### (2) 単位認定方法、基準成績評価体制

#### ① 単位認定の方法

見学実習ならびに地域実習は、実習指導者が行う実習指導者評価ならびに実習中に作成した実習ポートフォリオ、成長報告書、体験チェックリストの提出、実習後の報告会の結果を受けて、学科内にて総合的に判断し、学科長が成績評価および単位認定を行う。

評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱは、実習指導者が行う実習指導者評価ならびに実習中に作成した実習ポートフォリオ、成長報告書、体験チェックリストの提出、実習後の凝縮ポートフォリオを用いた報告会、客観的臨床能力試験（OSCE）、口頭試問（理学療

法学科)の結果を受けて、学科内にて総合的に判断し、学科長が成績評価および単位認定を行う。なお、単位認定は、60点以上を合格とする。

## ②実習指導者による成績評価

実習施設の実習指導者による評価は、本学の評価表を用いて行う。評価は、4段階(優、良、可、不可)とし、各評価項目について行う。評価基準は次のとおりである。

優：指導がなくてもできた

良：指導をして改善できた

可：常に多くの指導をすればできた

不可：指導してもできなかった

実習指導者の評価は、形成的評価として捉え、見学実習、評価実習、総合臨床実習を通して、段階的に成長していけるよう学生の教育に活用する。

各実習の成績評価の内訳は次のとおりである。

### ①理学療法学科

#### ○理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法地域実習の成績評価

実習前、関連する領域の筆記試験と実習施設の概要や役割をまとめ、実習前レポートとして提出することで、当該実習に必要な知識・技術の水準を満たしているかを確認し、実習に臨む体制を整える。

#### 実習中評価 60%

実習指導者評価：各実習施設において、本学の評価表を用いて実習指導者により評価を行う。

提出課題：実習中に作成した実習ポートフォリオと成長報告書、体験チェックリストを各実習終了後に提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点で学内教員が評価を行う。

#### 実習後評価 40%

提出課題：各実習終了後に学校にて凝縮ポートフォリオを作成して提出する。作成中の取り組みの状況、実習施設の概要や役割の理解の深まり等、実習施設で得た学びの観点で学内教員が評価を行う。

#### ○理学療法評価実習、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの成績評価

実習前、関連する領域の筆記試験と客観的臨床能力試験を行い、当該実習に必要な知識・技術の水準を満たしているかを確認するために行う。実習の成績評価には含めない。

#### 実習中評価 60%

実習指導者評価：各実習施設において、本学の評価表を用いて実習指導者により評価を行う。

提出課題：実習中に作成した実習ポートフォリオと凝縮ポートフォリオ、体験チ

チェックリスト、成長報告書を各実習終了後に提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点で学内教員が評価を行う。

実習後評価 40%

口頭試問：凝縮ポートフォリオを用いて報告会を行う。実習で経験した疾患の理解、検査・治療を実施する上で必要な解剖学・生理学・運動学の知識、予後の理解、評価の意義、評価結果の解釈、ICFを用いた障害の構造の理解、治療技術の選択と実施の方法等について、学内教員が評価を行う。

客観的臨床能力試験：各実習で経験した疾患・障害領域ごとの臨床能力技能試験(OSCE)を行い、学内教員が評価を行う。

## ②作業療法学科

### ○作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ、作業療法地域実習の成績評価

実習前、実習施設の概要や役割をまとめ、実習前レポートとして提出することで、当該実習に必要な知識・技術の水準を満たしているかを確認し、実習に臨む体制を整える。

実習中評価 60%

実習指導者評価：各実習施設において、本学の評価表を用いて実習指導者により評価を行う。

提出課題：実習中に作成した実習ポートフォリオと成長報告書、体験チェックリストを各実習終了後に提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点で学内教員が評価を行う。

実習後評価 40%

実習ポートフォリオ発表を通して、実習中の取り組みの状況、実習施設の概要や役割の理解の深まり等、実習施設で得た学びの観点で学内教員が評価を行う。

### ○作業療法評価実習、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの成績評価

実習前、関連する領域の筆記試験と客観的臨床能力試験を行い、当該実習に必要な知識・技術の水準を満たしているかを確認し、実習に臨む体制を整える。

実習中評価 50%

実習指導者評価：各実習施設において、本学の評価表を用いて実習指導者により評価を行う。

提出課題：実習中に作成した実習ポートフォリオと体験チェックリスト、成長報告書を各実習終了後に提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点で学内教員が評価を行う。

実習後評価 50%

提出課題：実習中に作成した実習ポートフォリオを基に凝縮ポートフォリオを作成し、各実習終了後に提出する。

発表：凝縮ポートフォリオを用いて報告会を行う。凝縮ポートフォリオは、学生

が実習指導者と一緒に受け持った対象者の作業療法介入の流れを担当教員とまとめ、発表を行い、学内教員が評価を行う。

客観的臨床能力試験：各実習で経験した疾患・障害領域ごとの臨床能力技能試験（OSCE）を行い、学内教員が評価を行う。

## 1 1) その他

### (1) 実習施設が専門学校の実習も受け入れている場合、実習目標や実習内容等、大学教育としての実習の質の確保に関する具体的な配慮方策

臨床実習指導者会議にて、本学の実習教育目的や内容を伝え、主たる臨床実習指導者は、本学学生と専門学校生が重複することのないよう、実習施設側と事前に調整する。

### (2) 緊急時の連絡体制等

実習期間中の緊急時連絡先は、平日は本学の代表電話、夜間及び休日は実習担当教員の携帯電話（大学が支給）とする。また、地震や台風災害時に電話が不通となった場合は、LINE や各種 SNS のアプリケーション等での通話にて対応する。さらに、災害時には全学生の安全確保を最優先し、災害時の対応を事前に訓練しておく。

### (3) 連携実務演習

連携実務演習は行わない。

【資料 21】 理学療法学科 実習の手引及び実習の具体的内容

【資料 22】 作業療法学科 実習の手引及び実習の具体的内容

【資料 12】 理学療法学科臨地実務実習施設一覧表及び臨地実務実習施設使用承諾書

【資料 13】 作業療法学科臨地実務実習施設一覧表及び臨地実務実習施設使用承諾書

## 12. その他

### 1) 管理運営

本学は、大学の重要事項について、学校教育法第93条第2項各号等に掲げる事項について、学長に意見を述べるため教授会を置き、また、全学的な教学の方針、企画及び執行等の教学運営を司るため、運営会議を置く。その他、学長の意思決定を支援するため、専門的事項の調査・実施を検討する各種委員会を置く。

#### (1) 教授会

本学は、学則第35条の規定に基づき、教授会を置く。教授会の組織及び運営について必要な事項は、「びわこリハビリテーション専門職大学教授会規程」に定める。教授会の役割、構成員、開催頻度の予定、審議事項は次のとおりとする。

##### ① 役割

教授会は、学長が教育研究に関する重要な事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。また、学長及び学部長が司る教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ意見を述べるができるものとする。

##### ② 構成員

教授及び准教授をもって教授会を構成し、学部長が議長となり、議事進行を行う。

##### ③ 開催頻度

教授会は、原則として月1回（8月を除く）開催する。ただし、緊急に開催する場合は、この限りではなく、また、構成員の4分の1以上から開催要求があったときは、議長はこれを招集する。

##### ④ 審議事項

教授会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

I 学生の入学、卒業及び除籍

II 学位の授与

III 教育課程、試験及び単位認定

IV 教員の資格審査

V 学生の賞罰

VI 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの

なお、I～VIに規定するもののほか、学長及び学部長が司る教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。

#### (2) 運営会議

本学は、全学的な教学の方針、企画及び執行等の教学運営を司るため、運営会議を置く。

### (3) 各種委員会

教授会のほか、学長の決定を支援する等、大学運営に必要な委員会として、自己点検・評価委員会、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会、研究倫理委員会、入学試験委員会、教務委員会、学生委員会を置くとともに必要に応じてその他の委員会を置く。それぞれの委員会の所掌事項は下表のとおりとし、運営に関する事項は、各委員会規程に定める。

	委員会名	所掌事項
①	自己点検・評価委員会	教育研究、組織運営等の自己点検・評価及び外部評価に関する事項
②	FD委員会	教員の資質向上等を図るためのファカルティ・ディベロップメント（以下、FDという。）に関する事項
③	研究倫理委員会	教員の学術研究活動の推進に関する事項
④	入学試験委員会	人を直接対象とする研究に関する倫理的審査及び公正な研究活動の推進や研究費の取り扱いに関する不正防止等に関する事項
⑤	教務委員会	教務に関する事項
⑥	学生委員会	学生の厚生補導に関する事項

【資料 24】 びわこリハビリテーション専門職大学学則

【資料 25】 びわこリハビリテーション専門職大学教授会規程

【資料 26】 びわこリハビリテーション専門職大学運営会議規程

【資料 27】 びわこリハビリテーション専門職大学自己点検・評価規程

【資料 28】 びわこリハビリテーション専門職大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程

【資料 29】 びわこリハビリテーション専門職大学研究倫理委員会規程

【資料 30】 びわこリハビリテーション専門職大学入学試験委員会規程

【資料 15】 びわこリハビリテーション専門職大学教務委員会規程

【資料 31】 びわこリハビリテーション専門職大学学生委員会規程

### (4) 事務部体制

本学には事務部を設置し、事務長を置き、教務課、学生課、入試課、総務課が、それぞれの事務を分掌する。

## 2) 自己点検・評価

本学の教育研究活動、地域連携活動等について、学則第 2 条の規定に基づき、自己点検・評価を実施する。自己点検・評価は、全教職員の共通理解のもとに、自己点検・評

価委員会が定めた点検・評価項目に従ってその実施状況等を自ら点検し、目標達成度について、毎年評価を行う。その結果は、本学の教育研究、地域貢献に反映させ、教育研究等水準の向上や適正な管理運営に活用する。

### (1) 実施体制と実施方法

本学は、びわこリハビリテーション専門職大学学則第2条に基づき、本学の教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価（以下、「自己点検・評価」という。）を行うため、「自己点検・評価委員会」を設置する。自己点検・評価委員会の構成員は、学長、副学長、学科長、事務長並びに学長が必要と認める者をもって構成する。各点検・評価項目については、定められた担当者が行い、委員会は全体的な点検・評価を行い、報告書に取りまとめる。

### (2) 点検・評価項目

- ① 建学の精神及び基本理念並びに教育理念
- ② 教育活動に関する事項
- ③ 研究活動に関する事項
- ④ 教員に関する事項
- ⑤ 学生に関する事項
- ⑥ 地域貢献に関する事項
- ⑦ 事務職員に関する事項
- ⑧ 教育研究環境に関する事項
- ⑨ 管理運営に関する事項
- ⑩ 財政に関する事項
- ⑪ その他

### (3) 結果の活用・公表

報告書としてまとめられた自己点検・評価の結果に関しては、自己点検・評価委員会が、理学療法学科及び作業療法学科並びに事務部の全教職員に対して報告を行う。各学科及び事務部は、その報告を受け、評価の低かった点について改善策を取りまとめ、自己点検・評価委員会に提出する。また、学長は、評価の結果を受け、該当する部署等に改善を求めることができる。

学長は、設置者である学校法人藍野大学が実施する「合同運営委員会」において、自己点検・評価結果の報告と改善策について報告を行う。

自己点検・評価の結果及び改善計画については、ホームページ、広報誌等で学外の諸機関等に公表することができる。

【資料 27】 びわこリハビリテーション専門職大学自己点検・評価委員会規程

### 3) 情報の公表

本学は、公的な教育機関としての責務を持ち、地域社会に対する説明責任を果たすとともに、本学の状況を多くの人々、特に、地域社会の人々や関連産業界等の人々が知り、興味や関心を持ってもらうことにより、教育研究等の質の向上が図られることを目的に、建学の精神、教育理念、本学の教育研究活動等に関する情報を公表する。これらの情報は、本学のホームページ、大学の刊行物（大学案内、入試案内等）、学校法人藍野大学が発行する広報誌等によって行う。特に以下の項目については、ホームページにおいて、次の内容を載せる。なお、ホームページについては現在、準備中である。

#### (1) 大学の教育研究上の目的に関すること

びわこリハビリテーション専門職大学の教育理念と教育目標、リハビリテーション学部の教育研究上の目的、理学療法学科の教育研究上の目的、作業療法学科の教育研究上の目的を掲載する。

#### (2) 教育研究上の基本組織に関すること

びわこリハビリテーション専門職大学の教学組織図を掲載する。

#### (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

学部、学科ごとの専任教員数とその職位ごとの内訳、合わせて、専任教員一人当たり換算の学生数を記載する。合わせて、各教員の個人調書（略歴、取得学位、取得資格、研究テーマ、研究業績、学会活動、担当科目等）に関する情報を掲載する。

#### (4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

AP（アドミッション・ポリシー）、入学者数及び入学者選抜の状況、収容定員及び在学する学生数等、退学者数及び除籍者数、社会人学生数、卒業者数及び国家試験の状況、就職者数及び就職率並びに就職先一覧などの情報を学科ごとにそれぞれ掲載する。

#### (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

CP（カリキュラム・ポリシー）、シラバス（授業科目、授業の方法及び内容）、年間の授業計画等について掲載する。

#### (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

DP（ディプロマ・ポリシー）、学修を評価する際の基準と仕組み（GPA制度）、試験の方法等について掲載を行う。

#### (7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎の概要（校地、運動場用地、校舎）、教室および施設における設備等、ア

メニティー等その他の施設等について掲載する。

#### (8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料その他の学費、学費以外に発生する費用等について掲載する。

#### (9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生の修学、進路選択に関する支援態勢（学習支援、国家試験受験支援、資格取得支援、就職支援等）、奨学金、授業料減免制度、学生の心身の健康等に関する支援態勢、ハラスメント防止に関する態勢等についてその概要を掲載する。

#### (10) その他

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果について掲載する。

### 4) 研修

#### (1) 教育内容等の改善のための組織的な研修等

本学は、専門職大学設置基準第 20 条に基づき、教育内容等の改善のための組織的な研修等を実施する。そのために、びわこリハビリテーション専門職大学組織規程第 9 条第 2 項に基づき、「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置する。FD 委員会は、学生に分かりやすい授業を行い、教育効果を高めるために、教員相互の授業参観・授業評価、学生による授業評価アンケート、外部講師による教育方法改善のための講演会などを通じて、教員の教育技能の向上、能力開発を図るものとする。その構成員は、学部長、各学科より選出された教員 1 名ずつ、事務長及び学部長が必要と認める者を持って構成する。具体的な取組みとしては、次のとおり 5 つを実施する予定であり、活動結果を隔年で学長にその取組みと効果に関する報告書を提出し、教員の資質向上に繋げることを目指す。

なお、学校法人藍野大学の設置校である藍野大学や藍野大学短期大学部あるいは法人事務局が実施する FD 研修にも参加を促すことで、その資質向上を図る。

- ① 新任教員のための研修：びわこリハビリテーション専門職大学の目的・教育理念、ポリシー等、合わせて、担当業務、学事、諸規程等についての説明
- ② 教育方法改善のための講演会：アクティブ・ラーニングや PBL (Problem Based Learning) に関する講演、有効な実習指導に関する講演等
- ③ 教員相互の授業参観、授業評価
- ④ 学生による授業評価アンケート調査と結果の報告
- ⑤ 実習施設へのアンケート調査

#### (2) SD 研修の実施

本学は、専門職大学設置基準第 58 条に基づき、当該専門職大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（以下、「SD 研修」という。）の機会を設けることその他必要な取組を行う。設置者である学校法人藍野大学は、法人事務局内に人事機能を有し、教職員全体の SD 研修の企画・実施を行っているため、その研修に参加することで、教職員の能力開発を図る。また、びわこリハビリテーション専門職大学に特化した内容については、事務部総務課において、研修を企画・実施する。

【資料 28】びわこリハビリテーション専門職大学ファカルティ・ディベロップメント  
(FD) 委員会規程

## 5) 指導体制

### (1) 教育課程内での取組

本学では、建学の精神、教育理念および大学の目的を踏まえ、①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成することを目的とする。

具体的には入学当初の「学びの基礎」及び、2 年次後期の「キャリア発達論」において専門職大学での「基本的な学び方」や「目指す職業についての目的理解」、「学生が入学時から自らの職業観、就労観を培い、社会人として必要な資質能力形成の基盤を形成」を目的として、専門分野への興味・関心を持たせ、自らの進路選択に対する意識の涵養を図る。「リハビリテーション概論」、「基礎理学療法学Ⅰ」、「作業療法学総論」により専門職業人を目指すものとしての目的意識をより深めるように指導する。

「地域包括ケア論」、「地域理学療法学実習」及び「作業療法地域実習」では学生が地域包括支援センター、デイケア施設、デイサービス施設、訪問看護ステーション、グループホームなどの現状を幅広く理解し、それぞれの施設における理学療法士や作業療法士の地域における役割と活動現状を把握し、自ら職域の開拓と職業意識を高める。

理学療法学科及び作業療法学科ともに学外の実習施設で実施する「見学実習」、「総合臨床実習」、において、患者、施設利用者、家族などの関わりを通して知識や技術の修得を高め確実なものにし理学療法士及び作業療法士としての自覚と態度を養うとともに、保健、医療、介護、福祉の現場における役割と責任について理解を深め、経験を通して自己研鑽する態度を身につける。また、その実習施設での評価が高い場合には、その実習施設に就職する割合が高いことを実習前のオリエンテーションで学生に周知し、学生が就職をも意識して実習するように指導する。

### (2) 教育課程外での取組

地域のボランティア活動への参加を通して、社会人としての素養形成を促す。3 年次

後期から就職支援を開始する。本学の取組としては、キャリア開発・研究センターの支援による「進路・就職ガイダンス」指導及び本法人の設置校である藍野大学及び滋賀医療技術専門学校の卒業生との「進路懇談会」を行うことを企画している。具体的内容は、以下のとおりである。

- ① 求人情報の提供（大学独自のシステムによる）
- ② エントリーシートの記入方法の指導及び添削
- ③ 個別に模擬面接を行い、面接に当たっての注意事項の指導
- ④ 卒業生による就職活動の体験談等交流及び講演会の実施
- ⑤ 個別就職相談及び指導

### （3）適切な体制の整備

びわこリハビリテーション専門職大学キャリア開発・研究センターを設置し、理学療法学科及び作業療法学科の学生の就職を支援するため、必要な担当教員及び事務職員を配置する。就職に関する情報はキャリア開発・研究センターに一元化し、学生の就職状況を常に把握する。また、学生に就職情報を提供するとともに、情報検索のためのパソコンを設置する。就職担当教員は、各学科の実習指導教員と連携・協同して、実習施設での就職活動や新たな就職先の開拓に努めるとともに、学生の就職指導や支援を行う。

以上

## 資料目次

- 【資料 1】平成 27 年 12 月 2 日滋賀県議会定例会議三日月大造知事発言録
- 【資料 2】日本の人口推移
- 【資料 3】滋賀県の人口推移
- 【資料 4】社会保障制度改革国民会議「社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～」(平成 25 年 8 月 6 日)(抜粋)
- 【資料 5】「地域共生社会」の実現に向けて(当面の改革工程)
- 【資料 6】教育課程等の概要(理学療法学科)
- 【資料 7】カリキュラムマップ(理学療法学科)
- 【資料 8】教育課程等の概要(作業療法学科)
- 【資料 9】カリキュラムマップ(作業療法学科)
- 【資料 10】カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表(理学療法学科)
- 【資料 11】カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表(作業療法学科)
- 【資料 12】臨地実務実習施設一覧表及び臨地実務実習施設使用承諾書(理学療法学科)
- 【資料 13】臨地実務実習施設一覧表及び臨地実務実習施設使用承諾書(作業療法学科)
- 【資料 14】びわこリハビリテーション専門職大学組織規程
- 【資料 15】びわこリハビリテーション専門職大学教務委員会規程
- 【資料 16】びわこリハビリテーション専門職大学教育課程連携協議会規程
- 【資料 17】授業科目と DP(ディプロマ・ポリシー)の対応表(理学療法学科)
- 【資料 18】授業科目と DP(ディプロマ・ポリシー)の対応表(作業療法学科)
- 【資料 19】履修モデル(理学療法学科・作業療法学科)
- 【資料 20】びわこリハビリテーション専門職大学 既修得単位の認定に関する内規
- 【資料 21】実習の手引及び実習の具体的内容(理学療法学科)
- 【資料 22】実習の手引及び実習の具体的内容(作業療法学科)
- 【資料 23】実習巡回表(理学療法学科・作業療法学科)
- 【資料 24】びわこリハビリテーション専門職大学学則
- 【資料 25】びわこリハビリテーション専門職大学教授会規程
- 【資料 26】びわこリハビリテーション専門職大学運営会議規程
- 【資料 27】びわこリハビリテーション専門職大学自己点検・評価規程
- 【資料 28】びわこリハビリテーション専門職大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会規程
- 【資料 29】びわこリハビリテーション専門職大学研究倫理委員会規程
- 【資料 30】びわこリハビリテーション専門職大学入学試験委員会規程
- 【資料 31】びわこリハビリテーション専門職大学学生委員会規程

平成 27 年 12 月 2 日 滋賀県議会定例会議 三日月大造知事発言録（抜粋）

平成 27 年 11 月定例会議（第 16 号～第 22 号）

平成 27 年 11 月定例会議会議録（第 17 号）

平成 27 年 12 月 2 日（水曜日）

---

議事日程 第 2 号

平成 27 年 12 月 2 日（水）

午 前 10 時 開 議

第 1 議第 149 号から議第 183 号まで（平成 27 年度滋賀県一般会計補正予算（第 3 号）ほか 34 件）の各議案に対する質疑ならびに質問

---

本日の会議に付した事件

第 1 日程第 1 の件

---

会議に出席した議員（43 名）

1 番	村 島 茂 男	2 番	加 藤 誠 一
3 番	竹 村 健	4 番	佐 藤 健 司
5 番	目 片 信 悟	6 番	海 東 英 和
7 番	田 中 松 太 郎	8 番	角 田 航 也
9 番	塚 本 茂 樹	10 番	下 村 勳
11 番	藤 井 三 恵 子	12 番	杉 本 敏 隆
13 番	節 木 三 千 代	14 番	駒 井 千 代
15 番	山 本 正	16 番	大 橋 通 伸
17 番	富 波 義 明	18 番	井 阪 尚 司
19 番	木 沢 成 人	20 番	中 村 才 次 郎
21 番	有 村 國 俊	22 番	大 野 和 三 郎
23 番	岩 佐 弘 明	24 番	山 本 進 一
25 番	富 田 博 明	26 番	細 江 正 人
27 番	高 木 健 三	28 番	生 田 邦 夫
29 番	川 島 隆 二	30 番	小 寺 裕 雄
31 番	奥 村 芳 正	32 番	野 田 藤 雄
33 番	西 村 久 子	34 番	佐 野 高 典
35 番	家 森 茂 樹	36 番	吉 田 清 一
37 番	粉 川 清 美	39 番	成 田 政 隆

40 番	九 里 学	41 番	清 水 鉄 次
43 番	柴 田 智 恵 美	44 番	今 江 政 彦
45 番	中 沢 啓 子		

---

会議に欠席した議員（なし）

---

会議に出席した説明員

知事	三 日 月	大 造
教育委員会委員長	藤 田	義 嗣
選挙管理委員会委員長	伊 藤	正 明
人事委員会委員長	益 川	教 雄
公安委員会委員長	小 林	徹 雄
代表監査委員	北 川	正 雄
副知事	西 嶋	栄 治
知事公室長	宮 川	正 和
総合政策部長	堺 井	拓 洋
総務部長	青 木	彦 彦
琵琶湖環境部長	拾 井	泰 武
健康医療福祉部長	藤 本	忠 克
商工観光労働部長	福 永	全 男
農政水産部長	安 田	勝 則
土木交通部長	桑 山	克 行
会計管理者	田 端	才 治
企業庁長	森 野	昌 孝
病院事業庁長	笹 田	原 恵
教育長	河 原	伸 一
警察本部長	笠 間	

---

議場に出席した事務局職員

事務局長	日 爪 泰 則
議事課長	太 田 喜 之
議事課課長補佐	吉 田 亮

午前10時 開議

○議長（西村久子） これより本日の会議を開きます。

---

～ 略 ～

◎知事（三日月大造） （登壇） 富田議員初め会派の皆様方、また議会議員の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

自由民主党滋賀県議会議員団の代表質問といたしまして、私には8項目いただきました。順次お答えをさせていただきます。

～ 省略 ～

1点目の医療福祉拠点の必要性と方針案についてでございますが、2025年を見据えた医療福祉の推進という観点から、昨年9月定例会議で補正予算を議決いただき、医療福祉拠点機能の調査検討を進めてまいりました。

今後、本県においても後期高齢者人口の急増が見込まれる中で、地域包括ケアシステムを支える医療福祉専門職の養成、確保も重要な課題でございます。さきの調査検討結果とあわせて、今後必要となる機能として大きく2点に整理し、利活用方針案としてまとめたところです。

その一つは、これからの在宅医療介護を推進するための医療福祉センター機能でございます。推進に当たりましては、医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の各専門職による多職種連携を円滑かつ効果的に行い、さらに災害時においても危機管理センターと連携し、迅速に対応できる県全域の推進拠点が必要であるというものです。

もう一つは、医療福祉関係の人材養成機能でございます。今後、家庭や地域で自立した生活を送るためには、地域リハビリテーションの強化が重要な課題となってまいります。しかしながら、こうした支援を担うリハビリテーション専門職は、2025年には約3,000人が必要と推計されておりますが、現状の1,200人と比較して1,800人が不足することとなっております。したがって、リハビリテーション専門職を中心とした医療福祉専門職を養成するための高等教育機関の設置が必要であると考えております。

こうした2つの機能を備えた医療福祉拠点の整備を進め、2025年を見据えた本県の医療介護サービスの提供体制を整えてまいりたいと考えております。

～ 省略 ～

出典：滋賀県議会会議録

※次のURLの内容を抜粋して作成

[http://www.shigaken-gikai.jp/voices/cgi/voiweb.exe?ACT=200&KENSAKU=1&SORT=0&KTYP=1,2,3,0&FBKEY1=%8EO%93%FA%8C%8E%91%E5%91%A2&FBMODE1=SYNONYM&FBMODE2=SYNONYM&FBKEY3=%92n%88%E6%95%EF%8A%87%83P%83A&FBMODE3=SYNONYM&FBMODE4=SYNONYM&FBCHK=AND&KGTP=1,2,3&TITL=%92%E8%97%E1%89%EF&TITL\\_SUBT=%95%BD%90%AC%82Q%82V%94N%82P%82P%8C%8E%92%E8%97%E1%89%EF%8Bc%81i%91%E616%8D%86%81`%91%E622%8D%86%81j%81%7C12%8C%8E02%93%FA-02%8D%86&KGNO=652&FINO=1618&HUID=116409&UNID=K\\_H271202000210](http://www.shigaken-gikai.jp/voices/cgi/voiweb.exe?ACT=200&KENSAKU=1&SORT=0&KTYP=1,2,3,0&FBKEY1=%8EO%93%FA%8C%8E%91%E5%91%A2&FBMODE1=SYNONYM&FBMODE2=SYNONYM&FBKEY3=%92n%88%E6%95%EF%8A%87%83P%83A&FBMODE3=SYNONYM&FBMODE4=SYNONYM&FBCHK=AND&KGTP=1,2,3&TITL=%92%E8%97%E1%89%EF&TITL_SUBT=%95%BD%90%AC%82Q%82V%94N%82P%82P%8C%8E%92%E8%97%E1%89%EF%8Bc%81i%91%E616%8D%86%81`%91%E622%8D%86%81j%81%7C12%8C%8E02%93%FA-02%8D%86&KGNO=652&FINO=1618&HUID=116409&UNID=K_H271202000210)

## 第1節 高齢化の状況

### 1 高齢化の現状と将来像

#### (1) 高齢化率は27.7%

我が国の総人口は、平成29（2017）年10月1日現在、1億2,671万人となっている。

65歳以上人口は、3,515万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も27.7%となった。

65歳以上人口を男女別にみると、男性は1,526万人、女性は1,989万人で、性比（女性人口100人に対する男性人口）は76.7であり、男性対女性の比は約3対4となっている。

また、65歳以上人口のうち、「65～74歳人口」は1,767万人（男性843万人、女性924万人、性比91.2）で総人口に占める割合は13.9%、「75

歳以上人口」は1,748万人（男性684万人、女性1,065万人、性比64.2）で、総人口に占める割合は13.8%である（表1-1-1）。

我が国の65歳以上人口は、昭和25（1950）年には総人口の5%に満たなかったが、45（1970）年に7%を超え、さらに、平成6（1994）年には14%を超えた。高齢化率はその後も上昇を続け、平成29（2017）年10月1日現在、27.7%に達している。

また、15～64歳人口は、平成7（1995）年に8,716万人でピークを迎え、その後減少に転じ、平成25（2013）年には7,901万人と昭和56（1981）年以来32年ぶりに8,000万人を下回った。

表1-1-1 高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（構成比）

		平成29年10月1日		
		総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,671	6,166	6,505
	65歳以上人口	3,515	1,526	1,989
	65～74歳人口	1,767	843	924
	75歳以上人口	1,748	684	1,065
	15～64歳人口	7,596	3,841	3,755
	15歳未満人口	1,559	798	761
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0
	65歳以上人口(高齢化率)	27.7	24.8	30.6
	65～74歳人口	13.9	13.7	14.2
	75歳以上人口	13.8	11.1	16.4
	15～64歳人口	60.0	62.3	57.7
	15歳未満人口	12.3	12.9	11.7

資料：総務省「人口推計」平成29年10月1日（確定値）  
 (注)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

## (2) 将来推計人口でみる平成77(2065)年の日本

次に、平成29(2017)年4月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」における出生中位・死亡中位推計結果(以下、本節においてはすべてこの仮定に基づく推計結果)を概観する。将来推計人口とは、全国の将来の出生、死亡及び国際人口移動について仮定を設け、これらに基づいて我が国の将来の人口規模並びに年齢構成等の人口構造の推移について推計したものである。

### ア 9,000万人を割り込む総人口

我が国の総人口は、長期の人口減少過程に入っており、平成41(2029)年に人口1億2,000万人を下回った後も減少を続け、平成65(2053)年には1億人を割って9,924万人となり、77(2065)年には8,808万人になると推計されている(図1-1-2)。

### イ 約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上

65歳以上人口は、「団塊の世代」が65歳以上となった平成27(2015)年に3,387万人となり、「団塊の世代」が75歳以上となる平成37(2025)年には3,677万人に達すると見込まれている。

その後も65歳以上人口は増加傾向が続き、平成54(2042)年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されている。

総人口が減少する中で65歳以上の者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、平成48(2036)年に33.3%で3人に1人となる。平成54(2042)年以降は65歳以上人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、平成77(2065)年には38.4%に達して、国民の約2.6人に1人が65歳以上の者となる社会が到来すると推計さ

れている。総人口に占める75歳以上人口の割合は、平成77(2065)年には25.5%となり、約3.9人に1人が75歳以上の者となると推計されている。

65歳以上人口のうち、65~74歳人口は「団塊の世代」が高齢期に入った後に平成28(2016)年の1,768万人でピークを迎える。その後は、平成40(2028)年まで減少傾向となるが再び増加に転じ、平成53(2041)年の1,715万人に至った後、減少に転じると推計されている。

一方、75歳以上人口は増加を続け、平成30(2018)年には65~74歳人口を上回り、その後も平成66(2054)年まで増加傾向が続くものと見込まれている(図1-1-2)。

なお、5年前(平成24年)の推計と比較すると、人口減少の速度(2060年推計人口について、今回推計では9,284万人、前回推計では8,674万人)や高齢化の進行度合い(2060年高齢化率の推計について、今回推計では38.1%、前回推計では39.9%)は緩和している<sup>1)</sup>。

(注1) 将来人口推計とは、基準時点までに得られた人口学的データに基づき、それまでの傾向、趨勢を将来に向けて投影するものである。基準時点以降の構造的な変化等により、推計以降に得られる実績や新たな将来推計との間には乖離が生じうるものであり、将来推計人口はこのような実績等を踏まえて定期的に見直すこととしている。

### ウ 現役世代1.3人で1人の65歳以上の者を支える社会の到来

65歳以上人口と15~64歳人口の比率をみると、昭和25(1950)年には1人の65歳以上の者に対して12.1人の現役世代(15~64歳の者)がいたのに対して、平成27(2015)年には65歳以上の者1人に対して現役世代2.3人になっている。今後、高齢化率は上昇し、現役世代の割合は低下し、平成77(2065)年には、

65歳以上の者1人に対して1.3人の現役世代という比率になる。

### エ 年少人口、出生数とも現在の半分程度に、生産年齢人口は4,529万人に

出生数は減少を続け、平成77（2065）年には、56万人になると推計されている。この減少により、年少人口（0～14歳）は平成68（2056）年に1,000万人を割り、平成77（2065）年には898万人と、現在の半分程度になると推計されている。

出生数の減少は、生産年齢人口にまで影響を

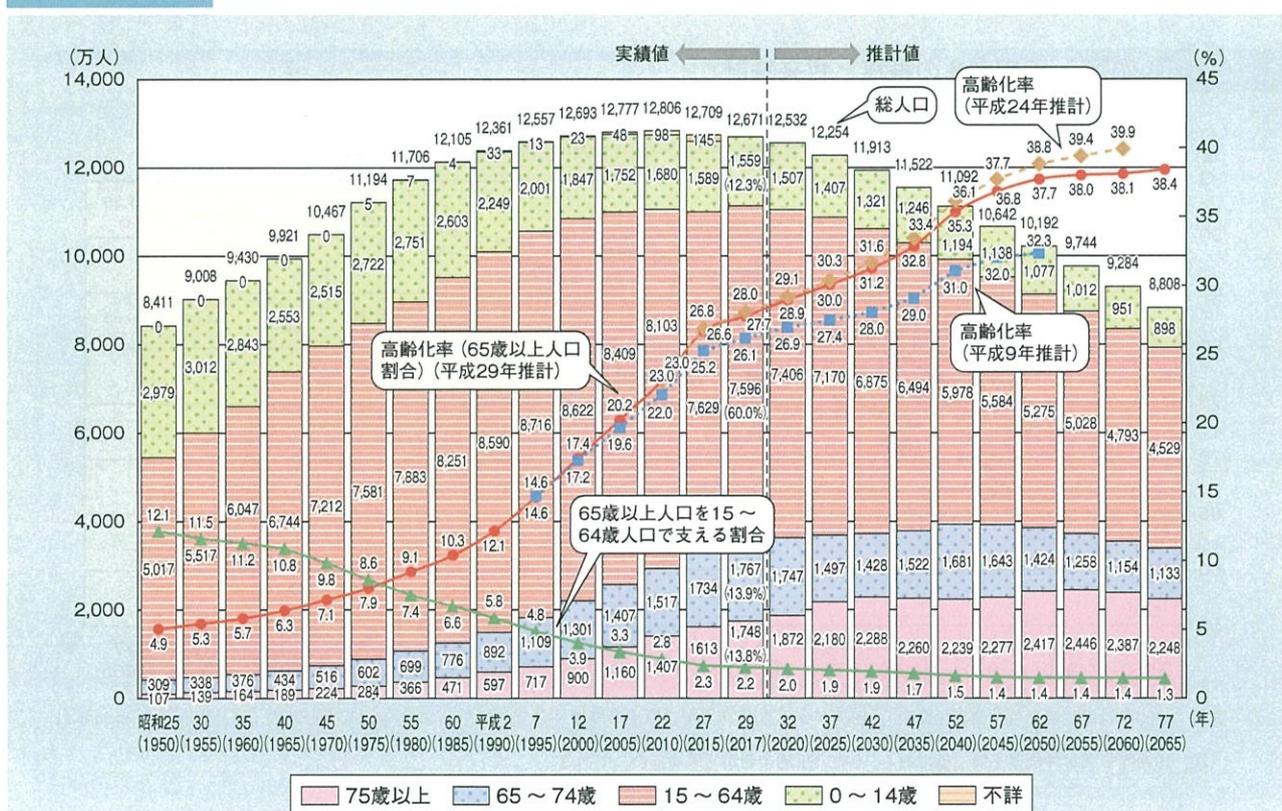
及ぼし、平成41（2029）年に6,951万人と7,000万人を割り、平成77（2065）年には4,529万人となると推計されている。

一方、65歳以上人口の増大により死亡数は増加、死亡率（人口1,000人当たりの死亡数）は上昇を続け、平成77（2065）年には、17.7になると推計されている（図1-1-3）。

### オ 将来の平均寿命は男性84.95歳、女性91.35歳

我が国の平均寿命は、平成28（2016）年現在、男性80.98年、女性87.14年と、前年に比べ

図1-1-2 高齢化の推移と将来推計



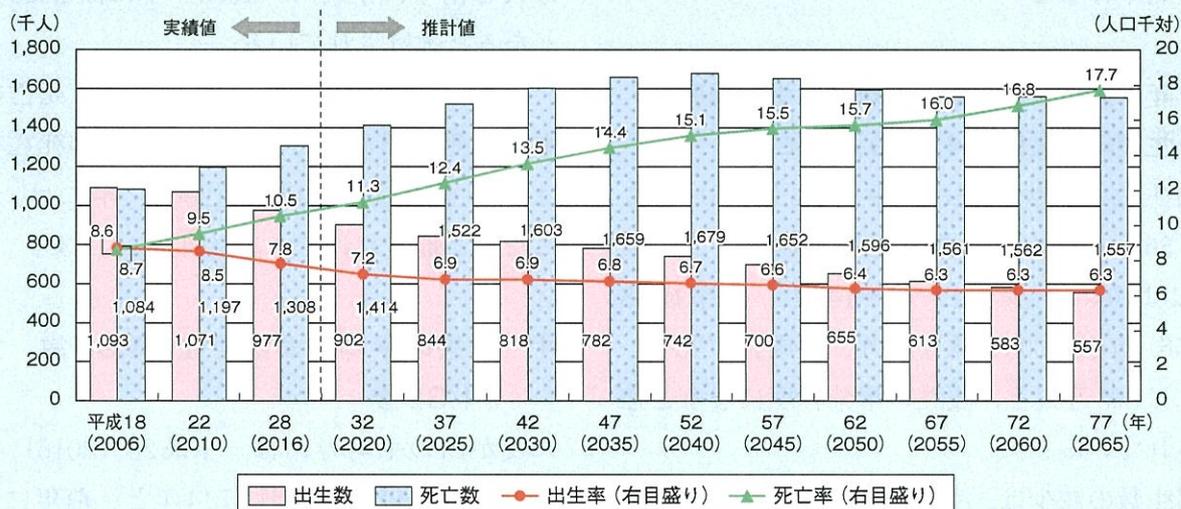
資料：棒グラフと実線の高齢化率については、2015年までは総務省「国勢調査」、2017年は総務省「人口推計」（平成29年10月1日確定値）、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。点線と破線の高齢化率については、それぞれ「日本の将来推計人口（平成9年推計）」の出生中位・死亡中位仮定、「日本の将来推計人口（平成24年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による、推計時点における将来推計結果である。

(注1) 2017年以降の年齢階級別人口は、総務省統計局「平成27年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950年～2015年の高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

(注2) 年齢別の結果からは、沖縄県の昭和25年70歳以上の外国人136人（男55人、女81人）及び昭和30年70歳以上23,328人（男8,090人、女15,238人）を除いている。

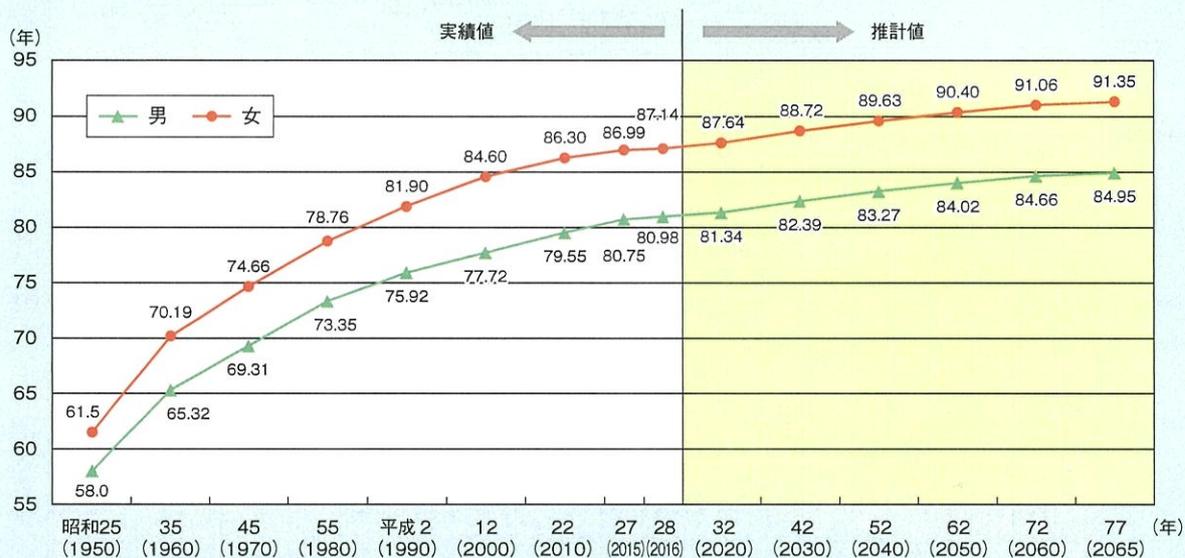
(注3) 将来人口推計とは、基準時点までに得られた人口学的データに基づき、それまでの傾向、趨勢を将来に向けて投影するものである。基準時点以降の構造的な変化等により、推計以降に得られる実績や新たな将来推計との間には乖離が生じるものであり、将来推計人口はこのような実績等を踏まえて定期的に見直すこととしている。

図1-1-3 出生数及び死亡数の将来推計



資料：2006年、2010年、2016年は厚生労働省「人口動態統計」による出生数及び死亡数（いずれも日本人）。2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果（日本における外国人を含む）

図1-1-4 平均寿命の推移と将来推計



資料：1950年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2015年までは厚生労働省「完全生命表」、2016年は厚生労働省「簡易生命表」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果  
 (注) 1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

て男性は0.23年、女性は0.15年上回った。今後、男女とも平均寿命は延びて、平成77（2065）年には、男性84.95年、女性91.35年となり、女性は90年を超えると見込まれている（図1-1-4）。

## 2 高齢化の国際的動向

### (1) 今後半世紀で世界の高齢化は急速に進展

平成27（2015）年の世界の総人口は73億8,301万人であり、平成72（2060）年には102億2,260万人になると見込まれている。

総人口に占める65歳以上の者の割合（高齢化率）は、昭和25（1950）年の5.1%から平成27（2015）年には8.3%に上昇しているが、さらに平成72（2060）年には17.8%にまで上昇するものと見込まれており、今後半世紀で高齢化が急速に進展することになる。地域別高齢化率の今後の推計をみると、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展すると見込まれている（表1-1-5）。

### (2) 我が国は世界で最も高い高齢化率である

先進諸国の高齢化率を比較してみると、我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位であったが、平成17（2005）年には最も高い水準となり、今後も高水準を維持していくことが見込まれている（図1-1-6）。

高齢化の速度について、高齢化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数（倍加年数）によって比較すると、フランスが115年、スウェーデンが85年、アメリカが72年、比較的短い英国が46年、ドイツが40年に対し、我が国は、昭和45（1970）年に7%を超えると、その24年後の平成6（1994）年には14%に達した。一方、アジア諸国に目を移すと、韓国が18年、シンガポールが20年など、今後、一部の国で、我が国を上回るスピードで高齢化が進むことが見込まれている（図1-1-7）。

表1-1-5 世界人口の動向等

	1950年（昭和25年）	2015年（平成27年）	2060年（平成72年）
総人口	2,536,275 千人	7,383,009 千人	10,222,598 千人
65歳以上人口	128,815 千人	611,897 千人	1,817,264 千人
先進地域	62,744 千人	220,572 千人	357,701 千人
開発途上地域	66,071 千人	391,325 千人	1,459,563 千人
65歳以上人口比率	5.1 %	8.3 %	17.8 %
先進地域	7.7 %	17.6 %	27.6 %
開発途上地域	3.8 %	6.4 %	16.3 %
平均寿命（男性）	45.51 年	68.55 年	76.72 年
同（女性）	48.50 年	73.11 年	81.09 年
合計特殊出生率	4.96	2.52	2.17

資料：UN, World Population Prospects : The 2017 Revision

（注1）合計特殊出生率は、1950-1955年、2010-2015年、2055-2060年。平均寿命は1950-1955年、2010-2015年、2060-2065年

（注2）先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。



## 第2章 リハビリテーションを取り巻く状況

### 1 人口の推移・高齢化の状況

日本の総人口は、総務省統計局の資料によると平成25年(2013年)9月の時点で1億2726万人となっており、日本の総人口は減少に転じています。

一方で、65歳以上の高齢者人口については今後も増加することが見込まれ、国立社会保障・人口問題研究所の推計(2012年9月推計)によると、65歳以上人口は今後も増加傾向が続き、団塊の世代が75歳以上となる平成37年(2025年)には、高齢者人口は約3,600万人を超えると見込まれており、高齢化率は30.3%まで上昇すると推計されています。(表2-1)。

表2-1 我が国の65歳以上人口の推移

年次	総人口 (万人)	高齢者人口 (万人)				総人口に占める割合 (%)			
		65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上
昭和25年(1950)	8320	411	234	106	37	4.9	2.8	1.3	0.4
30年(1955)	8928	475	278	139	51	5.3	3.1	1.6	0.6
35年(1960)	9342	535	319	163	67	5.7	3.4	1.7	0.7
40年(1965)	9827	618	362	187	78	6.3	3.7	1.9	0.8
45年(1970)	10372	733	435	221	95	7.1	4.2	2.1	0.9
50年(1975)	11194	887	542	284	120	7.9	4.8	2.5	1.1
55年(1980)	11706	1065	669	366	162	9.1	5.7	3.1	1.4
60年(1985)	12105	1247	828	471	222	10.3	6.8	3.9	1.8
平成2年(1990)	12361	1493	981	599	296	12.1	7.9	4.8	2.4
7年(1995)	12557	1828	1187	718	388	14.6	9.5	5.7	3.1
12年(2000)	12693	2204	1492	901	486	17.4	11.8	7.1	3.8
17年(2005)	12777	2576	1830	1164	636	20.2	14.3	9.1	5.0
22年(2010)	12806	2948	2121	1419	820	23.0	16.6	11.1	6.4
24年(2012)	12750	3074	2256	1517	892	24.1	17.7	11.9	7.0
25年(2013)	12726	3186	2317	1560	930	25.0	18.2	12.3	7.3
平成27年(2015)	12660	3395	2424	1646	1013	26.8	19.1	13.0	8.0
32年(2020)	12410	3612	2797	1879	1173	29.1	22.5	15.1	9.4
37年(2025)	12066	3657	2950	2179	1339	30.3	24.5	18.1	11.1
42年(2030)	11662	3685	2949	2278	1571	31.6	25.3	19.5	13.5
47年(2035)	11212	3741	2945	2245	1627	33.4	26.3	20.0	14.5

資料：昭和25年～平成22年は「国勢調査」、平成24年及び25年は「人口推計」

平成27年以降は「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」出生(中位)死亡(中位)推計(国立社会保障・人口問題研究所)から作成

注1) 平成24年及び25年は9月15日現在、その他の年は10月1日現在

2) 国勢調査による人口及び割合は、年齢不詳をあん分した結果

3) 昭和45年までは沖縄県を含まない。

### 2 滋賀県の人口の推移・高齢化の状況

本県の人口は、平成27年(2015年)をピークに減少に転じます。国立社会保障・人口問題研究所の調べでは、平成37年(2025年)の本県の人口は約139.8万人と推計されており、平成22年(2010年)の人口と比較し、約1.2万人(0.9%)減少することが見込まれています。

また、平成37年(2025年)の65歳以上の高齢者人口は、平成27年(2015年)よりも約11.9%増加し、38.5万人に達します。高齢化率は27.5%に達すると見込まれています。一方、生産年齢人口(15歳～64歳人口)は83.6万人まで減少し、平成22年(2010年)と比較しても約7万人減少することになります(表2-2、図2-1、表2-3、図2-2)。

表 2-2 滋賀県の年齢（3 区分）別人口の推移と将来推計

年		滋賀県						全国		
		0～14歳		15～64歳		65歳以上		0～14歳	15～64歳	65歳以上
		人口割合 (%)	順位	人口割合 (%)	順位	人口割合 (%)	順位	人口割合 (%)		
国勢調査結果	昭15 (1940)	34.9	36	58.8	13	6.3	10	36.1	59.2	4.7
	25 (1950)	33.2	42	60.5	7	6.3	5	35.4	59.6	4.9
	35 (1960)	28.8	37	63.7	13	7.6	4	30.2	64.1	5.7
	45 (1970)	23.1	36	68.0	20	8.9	18	24.0	68.9	7.1
	50 (1975)	24.2	18	66.5	31	9.3	23	24.3	67.7	7.9
	55 (1980)	24.6	5	65.4	40	10.0	29	23.5	67.3	9.1
	60 (1985)	23.4	3	65.8	32	10.8	31	21.5	68.2	10.3
	平2 (1990)	20.4	3	67.4	22	12.0	35	18.2	69.5	12.0
	7 (1995)	18.0	3	67.9	17	14.1	38	15.9	69.4	14.5
	12 (2000)	16.4	2	67.5	13	16.1	40	14.6	68.1	17.4
推計	17 (2005)	15.5	2	66.5	8	18.1	42	13.7	65.8	20.1
	22 (2010)	15.0	2	64.4	9	20.7	42	13.1	63.8	23.0
	27 (2015)	14.4	2	61.4	7	24.2	43	12.5	60.7	26.8
	32 (2020)	13.5	2	60.1	6	26.3	43	11.7	59.2	29.1
	37 (2025)	12.7	2	59.8	7	27.5	43	11.0	58.7	30.3
	42 (2030)	12.0	2	59.3	6	28.7	44	10.3	58.1	31.6
	47 (2035)	11.7	2	58.1	5	30.2	44	10.1	56.6	33.3
	52 (2040)	11.7	2	55.6	4	32.8	45	10.0	53.9	36.1

国勢調査結果：総務省「国勢調査」（平成 22 年（2010 年）まで）

推計：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 平成 25（2013）年 3 月推計」

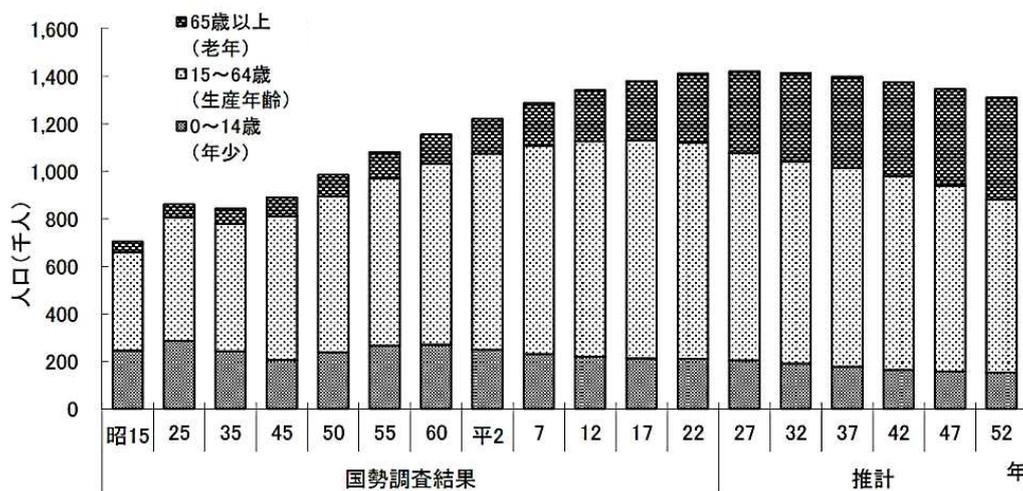


図 2-1 滋賀県の年齢（3 区分）別人口の推移と将来推計

国勢調査結果：総務省「国勢調査」（平成 22 年（2010 年）まで）

推計：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 平成 25（2013）年 3 月推計」

表 2-3 滋賀県の年齢（3 区分）別人口割合の推移と人口

年		滋賀県人口			
		0～14歳 (年少)	15～64歳 (生産年齢)	65歳以上 (老年)	計 (不詳含)
国勢調査結果	昭15 (1940)	245,407	413,971	44,151	703,679
	25 (1950)	286,042	521,093	54,027	861,180
	35 (1960)	242,327	536,713	63,655	842,695
	45 (1970)	205,440	605,063	79,265	889,768
	50 (1975)	238,315	655,159	91,937	985,621
	55 (1980)	265,737	705,815	108,245	1,079,898
	60 (1985)	270,330	760,695	124,657	1,155,844
	平2 (1990)	249,258	824,232	147,144	1,222,411
	7 (1995)	231,022	874,455	181,376	1,287,005
	12 (2000)	220,072	906,629	215,552	1,342,832
	17 (2005)	213,147	916,572	249,418	1,380,361
22 (2010)	211,045	907,918	291,814	1,410,777	
推計	27 (2015)	204,049	871,866	343,739	1,419,654
	32 (2020)	191,203	850,376	372,421	1,414,000
	37 (2025)	177,272	836,354	384,696	1,398,322
	42 (2030)	164,608	815,769	394,802	1,375,179
	47 (2035)	157,426	781,804	406,054	1,345,284
	52 (2040)	152,555	727,804	428,941	1,309,300

国勢調査結果：総務省「国勢調査」（平成 22 年（2010 年）まで）（政府統計の総合窓口 e-Stat）

推計：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 平成 25（2013）年 3 月推計」

<http://www.jpss.go.jp/>

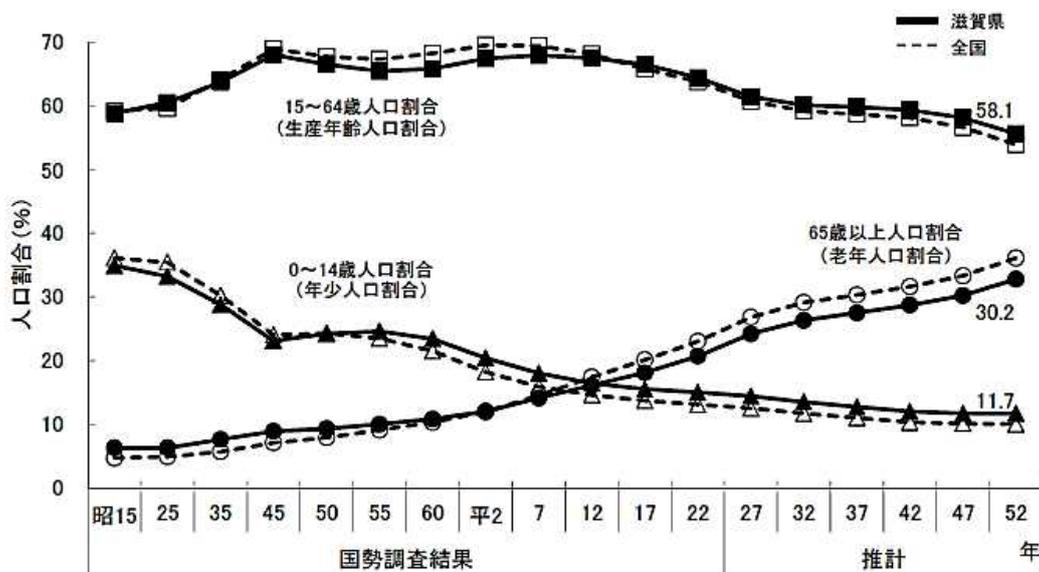


図 2-2 滋賀県の年齢（3 区分）別人口割合の推移と人口

国勢調査結果：総務省「国勢調査」（平成 22 年（2010 年）まで）（政府統計の総合窓口 e-Stat）

推計：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 平成 25（2013）年 3 月推計」

<http://www.jpss.go.jp/>

# 社会保障制度改革国民会議 報告書

～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～

平成25年8月6日

社会保障制度改革国民会議

社会保障制度改革国民会議 報告書  
目次

第1部 社会保障制度改革の全体像

- |   |                       |    |
|---|-----------------------|----|
| 1 | 社会保障制度改革国民会議の使命       | 1  |
| 2 | 社会保障制度改革推進法の基本的な考え方   | 2  |
| 3 | 社会保障制度改革の方向性          | 7  |
| 4 | 社会保障制度改革の道筋 ～時間軸で考える～ | 13 |

第2部 社会保障4分野の改革

I 少子化対策分野の改革

- |   |                                  |    |
|---|----------------------------------|----|
| 1 | 少子化対策の意義と推進の必要性                  | 15 |
| 2 | 子ども・子育て支援新制度等に基づいた施策の着実な実施と更なる課題 | 16 |
| 3 | 次世代育成支援を核とした新たな全世代での支え合いを        | 18 |

II 医療・介護分野の改革

- |   |                            |    |
|---|----------------------------|----|
| 1 | 改革が求められる背景と社会保障制度改革国民会議の使命 | 21 |
| 2 | 医療・介護サービスの提供体制改革           | 26 |
| 3 | 医療保険制度改革                   | 33 |
| 4 | 介護保険制度改革                   | 37 |

III 年金分野の改革

- |   |  |    |
|---|--|----|
| 1 | 社会保障・税一体改革までの道のりと到達点、残された課題                | 39 |
| 2 | 年金制度体系に関する議論の整理                            | 40 |
| 3 | 長期的な持続可能性を強固にし、セーフティネット機能（防貧機能）を強化する改革に向けて | 41 |
| 4 | 世代間の連帯に向けて                                 | 44 |

## II 医療・介護分野の改革

### 1 改革が求められる背景と社会保障制度改革国民会議の使命

#### (1) 改革が求められる背景

社会システムには慣性の力が働く。日本の医療システムも例外ではなく、四半世紀以上も改革が求められているにもかかわらず、20世紀半ば過ぎに完成した医療システムが、日本ではなお支配的なままである。

日本が直面している急速な高齢化の進展は、疾病構造の変化を通じて、必要とされる医療の内容に変化をもたらしてきた。平均寿命 60 歳代の社会で、主に青壮年期の患者を対象とした医療は、救命・延命、治癒、社会復帰を前提とした「病院完結型」の医療であった。しかしながら、平均寿命が男性でも 80 歳近くとなり、女性では 86 歳を超えている社会では、慢性疾患による受療が多い、複数の疾病を抱えるなどの特徴を持つ高齢期の患者が中心となる。そうした時代の医療は、病気と共存しながら QOL (Quality of Life) の維持・向上を目指す医療となる。すなわち、医療はかつての「病院完結型」から、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療、実のところ医療と介護、さらには住まいや自立した生活の支援までもが切れ目なくつながる医療に変わらざるを得ない。ところが、日本は、今や世界一の高齢国家であるにもかかわらず、医療システムはそうした姿に変わっていない。

1970 年代、1980 年代を迎えた欧州のいくつかの国では、主たる患者が高齢者になってもなお医療が「病院完結型」であったことから、医療ニーズと提供体制の間に大きなミスマッチのあることが認識されていた。そしてその後、病院病床数を削減する方向に向かい、医療と介護が QOL の維持改善という同じ目標を掲げた医療福祉システムの構築に進んでいった。

日本では、こうした流れの中で、1985 (昭和 60) 年に第 1 次医療法改正が行われ、病床数の上限を規制し、都道府県に 5 年ごとの医療計画の作成が義務づけられた。だが、第 1 次医療法改正で病床規制の前に駆け込み増床を誘発してしまい、他国に比した日本の病床数の多さは一層際だったものとなる。医療計画も病床過剰地域での病床の増加を抑えることはできても適正数まで減らすことはできない状況が続いている。

第 2 次以降の医療法改正において、2001 (平成 13) 年に一般病床と療養病床を区分するなどの見直しが行われたが、医療提供体制の改革の次の大きな動きとして注目すべきは、2008 (平成 20) 年の福田・麻生政権時の社会保障国民会議である。「社会保障の機能強化」と「サービスの効率化」を同時に実現していくことをうたった社会保障国民会議では、迎えるべき超高齢社会である 2025 (平成 37) 年度におけるあるべき医療・介護サービスの提供体制を確立する青写真が描かれた。そしてその時に描かれた改革の目的と政策の方向性は、野田政権時の「社会保障・税一体改革大綱」、そして第 2 次安倍政権における「経済財政運営と改革

の方針」と、政権の変遷にかかわらず引き継がれ、医療・介護分野の改革の優先課題として位置づけられ続けてきたのである。

具体的には、日本の医療・介護サービス提供体制が抱えている問題は、2008（平成 20）年 6 月に公表された「社会保障国民会議第二分科会（サービス保障（医療・介護・福祉））中間とりまとめ」で詳述されており、医療について言えば、人口当たりの病床数は諸外国と比べて多いものの、急性期・回復期・慢性期といった病床の機能分担は不明確であり、さらに、医療現場の人員配置は手薄であり、病床当たりの医師・看護職員数が国際標準よりも少なく過剰労働が常態化していること、この現実が、医療事故のリスクを高め、一人一人の患者への十分な対応を阻んでいることが指摘されていた。

救急医、専門医、かかりつけ医（診療所の医師）等々それぞれの努力にもかかわらず、結果として提供されている医療の総体が不十分・非効率なものになっているという典型的な合成の誤謬ともいえるべき問題が指摘されていたのであり、問題の根は個々のサービス提供者にあるのではない以上、ミクロの議論を積み上げるのでは対応できず、システムの変革そのもの、具体的には「選択と集中」による提供体制の「構造的な改革」が必要となる。要するに、今のシステムのままで当事者が皆で努力し続けても抱える問題を克服することは難しく、提供体制の構造的な改革を行うことによって初めて、努力しただけ皆が報われ幸福になれるシステムを構築することができるのである。

2008（平成 20）年の「社会保障国民会議 最終報告」で示された「あるべき医療・介護サービス」提供体制の背景にある哲学は、医療の機能分化を進めるとともに急性期医療を中心に人的・物的資源を集中投入し、後を引き継ぐ回復期等の医療や介護サービスの充実によって総体としての入院期間をできるだけ短くして早期の家庭復帰・社会復帰を実現し、同時に在宅医療・在宅介護を大幅に充実させ、地域での包括的なケアシステムを構築して、医療から介護までの提供体制間のネットワークを構築することにより、利用者・患者のQOLの向上を目指すというものであった。

# 「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）【概要】

## 「地域共生社会」とは

平成29年2月7日 厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定

- ◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

## 改革の背景と方向性

### 公的支援の『縦割り』から『丸ごと』への転換

### 『我が事』・『丸ごと』の地域づくりを育む仕組みへの転換

- 個人や世帯の抱える複合的課題などへの包括的な支援
- 人口減少に対応する、分野をまたがる総合的サービス提供の支援

- 住民の主体的な支え合いを育み、暮らしに安心感と生きがいを生み出す
- 地域の資源を活かし、暮らしと地域社会に豊かさを生み出す

## 改革の骨格

### 地域課題の解決力の強化

- 住民相互の支え合い機能を強化、公的支援と協働して、地域課題の解決を試みる体制を整備【29年制度改革】
- 複合課題に対応する包括的相談支援体制の構築【29年制度改革】
- 地域福祉計画の充実【29年制度改革】

### 地域を基盤とする包括的支援の強化

- 地域包括ケアの理念の普遍化：高齢者だけでなく、生活上の困難を抱える方への包括的支援体制の構築
- 共生型サービスの創設【29年制度改革・30年報酬改定】
- 市町村の地域保健の推進機能の強化、保健福祉横断的な包括的支援のあり方の検討

## 「地域共生社会」の実現

- 多様な担い手の育成・参画、民間資金活用の推進、多様な就労・社会参加の場の整備
- 社会保障の枠を超え、地域資源（耕作放棄地、環境保全など）と丸ごとつながることで地域に「循環」を生み出す、先進的取組を支援

- 対人支援を行う専門資格に共通の基礎課程創設の検討
- 福祉系国家資格を持つ場合の保育士養成課程・試験科目の一部免除の検討

### 地域丸ごとのつながりの強化

### 専門人材の機能強化・最大活用

## 実現に向けた工程

平成29(2017)年：介護保険法・社会福祉法等の改正

- ◆市町村による包括的支援体制の制度化
- ◆共生型サービスの創設 など

平成30(2018)年：

- ◆介護・障害報酬改定：共生型サービスの評価 など
- ◆生活困窮者自立支援制度の強化

平成31(2019)年以降：

更なる制度見直し

2020年代初頭：  
全面展開

### 【検討課題】

- ①地域課題の解決力強化のための体制の全国的な整備のための支援方策（制度のあり方を含む）
- ②保健福祉行政横断的な包括的支援のあり方
- ③共通基礎課程の創設 等

教 育 課 程 等 の 概 要															
(リハビリテーション学部 理学療法学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
① 基礎科目	初年次 教育科目	学びの基盤	1			○				1					兼1
		コミュニケーション論	1			○									兼1
		音楽	1	1		○									兼1
		キャリア発達論	2			○									兼1
		教育学	1			○									兼1
		倫理学入門	1			○						1			兼1
		哲学入門	1		1	○									兼1
		心理学	1		1	○									兼1
		経営学入門	2		1	○									兼1
		社会学	1		1	○									兼1
		日本の伝統文化	1		1	○									兼1
		日本の近代史	1		1	○									兼1
		体育	1		1			○				1			兼1
		自然科学系科目	生物学	1			○			1					兼1
			物理学Ⅰ	1			○								兼1
			物理学Ⅱ	1	1		○								兼1
			統計学	2			○								兼1
			数学	1	1		○								兼1
		語学教育科目	英語Ⅰ	1			○								兼1
			英語Ⅱ	1	1		○								兼1
		韓国語	2	1		○								兼1	
		中国語	2	1		○								兼1	
	小計（22科目）	—	10	12	0	—	—	—	1	1	1	1	0	兼13	
② 職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1			○			1						
		解剖学Ⅱ	1			○			1						
		解剖学Ⅲ	1			○			1						
		生理学Ⅰ	1	2		○									兼1
		生理学Ⅱ	1	2		○									兼1
		運動学Ⅰ	1			○			1						
		運動学Ⅱ	2			○				1	2				オムニバス ※講義
		運動学実習	2					○		1	1				オムニバス ※講義
		運動生理学実習	2					○				1			
		人間発達学	1			○									兼1
		救急援助論	2			○			1						※実習
		内科学Ⅰ	2			○			1						
		内科学Ⅱ	2			○			1						
		神経内科学Ⅰ	2			○									兼1
		神経内科学Ⅱ	2			○									兼1
		整形外科Ⅰ	2			○			1						
		整形外科Ⅱ	2			○			1						
		精神医学	1			○									兼1
		小児科学	2			○									兼1
		老年医学	2			○									兼1
		薬理学概論	1			○									兼1
		予防医学	3			○			1	1	1				オムニバス
		画像診断学	2			○									兼1
		栄養学	2			○				1					
		社会福祉学	2			○									兼1
		地域包括ケア論	3			○						2			オムニバス ※演習
	リハビリテーション概論	1			○				1					※演習	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
職業実践科目群	基礎理学療法学Ⅰ	1前	1			○													
	基礎理学療法学Ⅱ	1前	1			○													
	基礎理学療法学実習Ⅰ	1後	1					○										※講義	
	基礎理学療法研究法	3前	1			○													※演習
	基礎理学療法学実習Ⅱ	1後	1					○		1									※講義
	臨床技能論実習	3前	1					○											※講義
	理学療法管理学	4後	1				○			1									
	保健医療福祉関連制度論	4後	1				○												兼1
	理学療法評価学	1後	1				○												※演習
	理学療法評価学実習	2前	2						○		2								オムニバス ※講義
	理学療法評価学演習	3前	1					○		1		2							オムニバス ※講義
	画像評価学	2後	1				○			2									オムニバス
	運動療法学	2前	1				○				1								
	運動療法学実習	2後	1						○				1						
	徒手理学療法学	3前	1				○			1									※演習
	徒手理学療法学実習	3後	1						○		1								※講義
	物理療法学	2前	1				○												※演習
	日常生活活動学	2前	1				○						1						オムニバス ※演習
	義肢装具学Ⅰ	2前	1				○												
	義肢装具学Ⅱ	2後	1				○												
	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1						○										※講義
	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1						○				1						
	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	2後	1						○				1						※講義
	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1						○		2								兼1 オムニバス ※講義
	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1						○	1									兼1 オムニバス ※講義
	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1						○	1		1							兼1 オムニバス ※講義
	小児期理学療法学演習	2後	1						○				1						兼1 オムニバス ※講義
	老年期理学療法学演習	2後	1						○										兼1 ※講義
	スポーツ障害系理学療法学実習	2後	1						○		1								兼1 ※講義
	神経筋骨格障害応用論実習	4後			2				○	1	2	1							オムニバス ※講義
	内部障害応用論実習	4後			2				○	1		1							オムニバス ※講義
	スポーツ障害応用論実習	4後			2				○		2	2							オムニバス ※講義
	地域理学療法学	2後	1				○							2					オムニバス ※演習
	地域理学療法学実習	3前	1						○				3						オムニバス ※演習 一部共同 ※
	理学療法見学実習Ⅰ	1前	1						臨	1	4	9							共同
理学療法見学実習Ⅱ	1後	1						臨	1	4	9							共同	
理学療法見学実習Ⅲ	2前	1						臨	1	4	9							共同	
理学療法評価実習	3前	4						臨	1	5	10							共同	
理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6						臨	1	5	10							共同	
理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6						臨	1	5	10							共同	
理学療法地域実習	4前	1						臨	1	2	10							共同	
小計(68科目)		—	83	6	0			—	7	6	10	1						兼14	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
③ 展開科目	マーケティング論	3後	1			○									兼1	
	施設起業運営論	3後	1			○									兼1	
	ボランティア論	1後	1			○									兼1	
	生涯スポーツ論	1前	1			○						1				
	労働衛生論	1後	1			○									兼1	
	子育て支援論	2前	1			○									兼1	
	災害支援論	2前	1			○									兼1	※演習
	教育支援論	2前	1			○									兼2	
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1		○									兼1	
	地域共生論	3前	2			○									兼3	オムニバス ※実習
	障がい者スポーツ論	3後	1			○					1					
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○		1	1					オムニバス ※講義
	スポーツリズムトレーニング論	3後		1		○									兼3	
	体力測定論	3後		1		○				1	2					オムニバス ※演習
	健康増進実践演習	3後		1				○		1	2					オムニバス ※講義
	健康増進実践実習	3後		1					○	1	2					オムニバス ※講義
	パフォーマンス向上論	3後		1		○				1						※演習
	フィットネス論	3後		2		○				2		1				オムニバス ※演習
	ランニングトレーニング論	3後		2		○				1						※演習
	ゴルフトレーニング論	3後		2		○				2					兼1	オムニバス ※演習
	ビジョントレーニング論	3後		2		○									兼1	※演習
	遊びとレクリエーション	3後		1		○				1						
	生きがい創造	3後		2		○									兼1	※演習
	伝承遊び	3後		2		○									兼1	※演習
	シューフィッティング論	3後		1		○									兼1	※演習
	福祉工学地域活用論	3後		1		○									兼1	
	ロボット工学地域活用論基礎	3後		1		○									兼2	オムニバス
	ロボット工学地域活用論応用	3後		2		○				1					兼2	オムニバス 共同 ※演習
	身体障がい者就労環境論	3後		2		○									兼1	
	組織運営論	3後		2		○									兼2	
小計 (30科目)		—	12	28	0	—			0	6	2	0	0	兼25		
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2					○		1	1			兼2	共同	
	理学療法総合実習	4後	1					○	2	5	9				共同	
	リハビリテーション総合演習	3後	1				○		1	4	8				共同 ※講義	
	小計 (3科目)		—	4	0	0	—		3	5	9	0	0	兼2		
合計 (123科目)		—	109	46	0	—		8	6	10	1	0	兼52			

理学療法学科 カリキュラムマップ

養成する人材像	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	基礎科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期		
<p>(1) 理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を育成する。</p> <p>(2) 理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸とQOL維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通して地域が抱える課題を発見し解決することで、健康、スポーツ、福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を育成する。</p>	<p>(1) 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p> <p>(2) 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p> <p>(3) 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>(4) 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>(5) 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の健康で生活にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法士の知識や技術を養うための科目を配置する。</p>	<p>理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士作業療法士養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p> <p>(1) 倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(2) 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協働し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(3) 理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(4) 理学療法の知識・技術を基礎とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の問題を発見し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(5) 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の健康で生活にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法士の知識や技術を養うための科目を配置する。</p>	初年度教育科目	学びの基礎 コミュニケーション論									
			人間と社会系科目	教育学 倫理学入門 哲学入門 (選択) 社会学 (選択) 日本の伝統文化 (選択) 日本の近代史 (選択)	心理学 音楽 (選択) 体育 (選択)	経営学入門 (選択)	キャリア発達論						
			自然科学系科目	生物学 物理学 I 数学 (選択)	物理学 II (選択)		統計学						
			語学教育科目	英語 I	英語 II (選択)		韓国語 (選択) 中国語 (選択)						
			理学療法理論科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I 生理学 I	解剖学 II 生理学 II 運動学 I	解剖学 III	運動学 II	内科学 I 神経内科学 I 整形外科 I 小児科学 老年医学 栄養学 画像診断学	内科学 II 神経内科学 II 整形外科 II	予防医学		
理学療法実践科目群	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学 薬理学概論											
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論				社会福祉学	地域包括ケア論						
職業専門科目	基礎理学療法学	基礎理学療法学 I 基礎理学療法学 II	基礎理学療法学実習 I 基礎理学療法学実習 II					基礎理学療法学研究法 臨床技能論実習					
	理学療法管理学										理学療法管理学 保健医療福祉関連制度		
	理学療法評価学		理学療法評価学		理学療法評価学実習	画像評価学	理学療法評価学演習						
職業実践科目群	理学療法治療学				運動療法学 日常生活活動学 義肢装具学 I 物理療法学	運動療法学実習 義肢装具学 II 運動器障害系理学療法学実習 I 小児理学療法学演習 老年期理学療法学演習 スポーツ障害系理学療法学演習	徒手理学療法学 徒手理学療法学実習	内部障害系理学療法学実習 I 内部障害系理学療法学実習 II 神経障害系理学療法学実習 I 神経障害系理学療法学実習 II 運動器障害系理学療法学実習 II	内部障害応用論実習 (選択) 神経筋骨格障害応用論実習 (選択) スポーツ障害応用論実習 (選択)				
	地域理学療法学					地域理学療法学	地域理学療法学実習						
	臨床実務実習	理学療法見学実習 I	理学療法見学実習 II	理学療法見学実習 III				理学療法評価実習	理学療法総合臨床実習 I	理学療法総合臨床実習 II	理学療法地域実習		
他分野を学ぶための必修科目			生涯スポーツ論	ボランティア論 労働衛生論	災害支援論 子育て支援論 教育支援論			地域共生論	マーケティング論 施設起業運営論 障がい者スポーツ論	障がい者スポーツ論実習			
他分野を学ぶための選択科目								福祉工学地域活用論 (選択) ロボット工学地域活用論基礎 (選択) ロボット工学地域活用論応用 (選択) 身体障がい者就労環境論 (選択) 組織運営論 (選択) 体力測定論 (選択) 健康増進実践演習 (選択) 健康増進実践実習 (選択) 遊びとレクリエーション (選択) 生きがい創造 (選択) 伝承遊び (選択) メンタルヘルスマネジメント論 (選択) スポーツリズムトレーニング論 (選択) パフォーマンス向上論 (選択) フィットネス論 (選択) ランニングトレーニング論 (選択) ゴルフトレーニング論 (選択) ピジョントレーニング論 (選択) シューフィッティング論 (選択)					
総合科目									リハビリテーション総合演習		理学療法総合実習 協働連携総合実習		

マップの見方

- 同色の科目については科目間の関連が強い。
- 緑文字は選択科目
- 赤枠は実習科目

教 育 課 程 等 の 概 要															
(リハビリテーション学部 作業療法学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
① 基礎科目	初年次 教育科目	学びの基盤	1			○					1				
		コミュニケーション論	1			○								兼1	
	人間と社会系科目	音楽	1後		1		○								兼1
		キャリア発達論	2後	1			○								兼1
		教育学	1前	1			○								兼1
		倫理学入門	1前	1			○								兼1
		哲学入門	1前		1		○								兼1
		心理学	1後	1			○								兼1
		経営学入門	2前		1		○								兼1
		社会学	1前	1			○								兼1
		日本の伝統文化	1前		1		○								兼3
		日本の近代史	1前		1		○								兼1
	自然科学系科目	体育	1後		1				○						兼1
	語学教育科目	生物学	1前	1			○								兼1
		物理学Ⅰ	1前	1			○			1					
		物理学Ⅱ	1後		1		○			1					
		統計学	2後	1			○			1					
		数学	1前		1		○			1					
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1			○				1				
		英語Ⅱ	1後		1		○				1				
		韓国語	2後		1		○								兼1
		中国語	2後		1		○								兼1
	小計（22科目）	—	11	11	0	—	—	—	1	1	1			兼14	
② 職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			○			1					
		解剖学Ⅱ	1後	2			○			1					
		解剖学Ⅲ	1後	1			○			1					
		生理学Ⅰ	1前	2			○			1					
		生理学Ⅱ	1後	2			○			1					
		運動学Ⅰ	1前	1			○					1			
		運動学Ⅱ	1後	1			○					1			
		運動学実習	2前	1					○			1			※講義
		人間発達学	1後	1			○								兼1
		救急援助論	2後	1			○								※実習
		内科学Ⅰ	2前	1			○								兼1
		内科学Ⅱ	2後	1			○								兼1
		神経内科学Ⅰ	2前	1			○								兼1
		神経内科学Ⅱ	2後	1			○								兼1
		整形外科Ⅰ	2前	1			○								兼1
		整形外科Ⅱ	2後	1			○								兼1
		精神医学	2前	1			○								兼1
		小児科学	2前	1			○								兼1
		老年医学	2前	1			○								兼1
		薬理学概論	1後	1			○			1					
		予防医学	3前	1			○								兼3
		画像診断学	2前	1			○								兼1
		栄養学	2前	1			○								兼1
社会福祉学	2後	1			○								兼1		
地域包括ケア論	2後	1			○										
リハビリテーション概論	1前	1			○					1				※演習	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
職業実践科目群	作業療法学総論	1前	1			○				1								
	基礎作業学	1前	1			○							1					
	基礎作業学実習Ⅰ	1前	1					○				1				※講義		
	基礎作業学実習Ⅱ	1後	1					○						1			※講義	
	作業療法研究法	3前	1				○			1								
	作業療法管理・制度論	1後	1				○				1							
	作業療法と倫理	1後	1				○				1							
	作業療法評価学総論	1後	1				○					1					※演習	
	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1						○			1						※講義
	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2前	1						○			1						※講義
	精神障害作業療法評価学実習	2前	1						○					1				※講義
	発達障害作業療法評価学実習	2前	1						○			1						※講義
	身体障害作業療法基礎技術論	2後	1				○						1					※講義
	運動器疾患作業療法学実習	2後	1						○				1					※講義
	中枢神経疾患作業療法学実習	2後	1						○					1				※講義
	高次脳機能障害作業療法学実習	3前	1						○					1				※講義
	精神障害作業療法学	2後	1				○							1				※講義
	精神障害作業療法学実習	3前	1						○					1				※講義
	発達障害作業療法学実習Ⅰ	2後	1						○		1							※講義
	発達障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1						○		1							※講義
	老年期障害作業療法学	2後	1				○							1				※講義
	老年期障害作業療法学実習	3前	1						○				1					※講義
	日常生活活動論実習	2前	1						○					1				※講義
	社会生活行為論実習	2前	1						○					1				※講義
	作業分析活用論	2後	1				○			1								※講義
	作業分析活用論実習	2後	1						○					1				※講義
	家族援助論	3前	1				○			1								
	住環境支援論	3前	1				○											
	作業療法義肢装具実習	2後	1						○				1					※講義
	生活行為向上マネジメント論実習	3前	1						○					1				※講義
	地域生活作業療法学総論	2前	1				○			1								※演習
	地域生活作業療法学実習Ⅰ	2後	1						○									※講義
	地域生活作業療法学実習Ⅱ	2後	1						○					1				※講義
地域生活作業療法学実習Ⅲ	3前	1						○									※講義	
作業療法見学実習Ⅰ	1後	1										3	4				共同	
作業療法見学実習Ⅱ	2前	1										3	4				共同	
作業療法評価実習	3前	5							1	1	3	4					共同	
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7							1	1	3	4					共同	
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7							1	1	3	4					共同	
作業療法地域実習	4前	1							1	1	3	4					共同	
	小計 (66科目)	—	86	0	0	—			5	1	3	4					兼12	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
③ 展開科目	マーケティング論	2後	1			○									兼1	※演習	
	施設起業運営論	3前	1			○									兼1		
	ボランティア論	1前	1			○									兼1		
	子育て支援論	2前	1			○				1							
	災害支援論	1後	1			○									兼1		
	教育支援論	2後	1			○									兼2		
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1			○									兼1		
	障がい者スポーツ論	3後	1			○									兼1		
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○			1				兼2		オムニバス ※講義
	地域社会共生論	1前	2			○									兼1		
	地域社会共生論実習	1後	1					○							兼1		
	精神障がい者就労環境論	3後	2			○									兼1		
	身体障がい者就労環境論	3後	2			○				1							
	就労環境論実習	4前	1					○							兼1		
	老年期地域生活適応論	3後		2		○									兼1		
	老年期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1		
	成人期地域生活適応論	3後		2		○									兼1		
	成人期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1		
	児童期地域生活適応論	3後		2		○									兼1		
	児童期地域生活適応論実習	4前		1				○							兼1		
小計 (20科目)		—	17	9	0			—	1	1				兼16			
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2					○							兼2	共同	
	作業療法総合実習Ⅰ	4後	1					○		1	1		3		共同		
	作業療法総合実習Ⅱ	4後	1					○		1	1		3		共同		
	小計 (3科目)		—	4	0	0		—		1	3	4		兼2			
合計 (111科目)		—	118	11	0			—	7	2	3	4		兼42			
学位又は称号		作業療法学士 (専門職)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
<b>【卒業要件】</b> 次により、必修科目118単位、選択科目12単位以上を修得すること。 1. 基礎科目20単位以上 (1) 必修科目11単位 (2) 選択科目9単位以上 ・人間と社会系科目の内から5単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計9単位以上を修得すること。 2. 職業専門科目86単位 (1) 必修科目86単位 3. 展開科目20単位 (1) 必修科目17単位 (2) 選択科目3単位 4. 総合科目4単位 (1) 必修科目4単位						1学年の学期区分		2学期									
						1学期の授業期間		15週									
						1時限の授業時間		90分									

作業療法学科 カリキュラムマップ

養成する人材像		ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	基礎科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
<p>(1) 子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。</p> <p>(2) 地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。</p>	<p>作業療法学科では、所定の規則に基づき130単位の単位取得及び上記の要件を満たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人材に作業療法士(専門職)の学位を授与する。</p>	<p>作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>	<p>初等教育科目</p> <p>人間と社会系科目</p> <p>自然科学系科目</p> <p>語学教育系科目</p>	<p>学びの基礎 コミュニケーション論</p> <p>教育学 倫理学入門 社会学 哲学入門(選択) 日本の伝統文化(選択) 日本の近代史(選択)</p> <p>生物学 物理学 I 数学(選択)</p> <p>英語 I</p>		<p>心理学 音楽(選択) 体育(選択)</p> <p>経営学入門(選択)</p> <p>キャリア発達論</p>							
	<p>(1) 作業療法として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p>	<p>(1) 人の生命や価値観や人の暮らしを社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>人間の機能と構造及び心身の発達</p>	<p>解剖学 I 生理学 I 運動学 I</p>	<p>人間発達学 解剖学 II 生理学 II 運動学 II</p>	<p>運動学実習</p>							
	<p>(2) 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p>	<p>(2) 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p>	<p>薬理学概論</p>	<p>内科学 I 神経内科学 I 整形外科 I</p> <p>精神医学 小児科学 老年医学 栄養学 画像診断学</p>	<p>内科学 II 神経内科学 II 整形外科 II</p> <p>救急援助論</p> <p>予防医学</p>							
	<p>(3) 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>	<p>(3) 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動、参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p>	<p>リハビリテーション概論</p>		<p>地域包括ケア論 社会福祉学</p>							
	<p>(4) 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p>	<p>(4) 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>基礎作業療法学</p> <p>作業療法管理学</p> <p>作業療法評価学</p>	<p>作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業学実習 I</p> <p>作業療法管理・制度論 作業療法と倫理</p> <p>作業療法評価学総論</p>	<p>基礎作業学実習 II</p> <p>身体障害作業療法評価学実習 I 身体障害作業療法評価学実習 II 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習</p>								
<p>(5) 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。</p>	<p>(5) 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>作業療法治療学</p> <p>地域作業療法学</p> <p>臨床実務実習</p>	<p>作業療法治療学総論</p> <p>地域生活作業療法学総論</p> <p>作業療法見学実習 I 作業療法見学実習 II</p>	<p>日常生活活動論実習 社会生活行為論実習</p> <p>身体障害作業療法基礎技術論 精神障害作業療法学 老年期障害作業療法学 作業分析活用論 作業分析活用論実習 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 I 作業療法施設器具実習</p> <p>身体障害作業療法基礎技術論 家族援助論 住環境支援論 高次脳機能障害作業療法学実習 精神障害作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 II 老年期障害作業療法学実習 生活行為向上マネジメント論実習</p> <p>地域生活作業療法学実習 I 地域生活作業療法学実習 II</p> <p>地域生活作業療法学実習 III</p>									
<p>他分野を学ぶための必修科目</p>	<p>ボランティア論 地域社会共生論</p>	<p>作業療法見学実習 I 作業療法見学実習 II</p>	<p>災害支援論 地域社会共生論実習</p>	<p>子育て支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p>	<p>マーケティング論 教育支援論</p>	<p>施設起業運営論</p>	<p>障害者スポーツ論 精神障がい者就労環境論 身体障がい者就労環境論</p>	<p>障害者スポーツ論実習 就労環境論実習</p>					
<p>他分野を学ぶための選択科目</p>						<p>老年期地域生活適応論(選択) 成人期地域生活適応論(選択) 児童期地域生活適応論(選択)</p>	<p>老年期地域生活適応論実習(選択) 成人期地域生活適応論実習(選択) 児童期地域生活適応論実習(選択)</p>					<p>マップの見方 1. 緑文字は選択科目 2. 赤枠は実習科目</p>	
<p>総合科目</p>												<p>協働連携論総合実習 作業療法総合実習 I 作業療法総合実習 II</p>	

### カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

CP1：倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。

CP2：理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。

CP3：理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP4：理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP5：理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
基礎科目	初年次教育 学びの基盤	1前	1		◎					
	コミュニケーション論	1前	1			◎				
	人間と社会科学系科目	音楽	1後		1	◎				
		キャリア発達論	2後	1		◎				
		教育学	1前	1		◎				
		倫理学入門	1前	1		◎				
		哲学入門	1前		1	◎				
		心理学	1後	1		◎				
		経営学入門	2前		1	◎				
		社会学	1前		1	◎				
		日本の伝統文化	1前		1	◎				
		日本の近代史	1前		1	◎				
	体育	1後		1	◎					
	自然科学系科目	生物学	1前	1		◎				
		物理学Ⅰ	1前	1		◎				
		物理学Ⅱ	1後		1	◎				
		統計学	2後	1		◎				
		数学	1前		1	◎				
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1		◎	◎			
		英語Ⅱ	1後		1	◎	◎			
韓国語		2後		1	◎	◎				
中国語		2後		1	◎	◎				
②職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			◎			
		解剖学Ⅱ	1後	2			◎			
		解剖学Ⅲ	1後	1			◎			
		生理学Ⅰ	1前	2			◎			
		生理学Ⅱ	1後	2			◎			
		運動学Ⅰ	1後	1			◎			
		運動学Ⅱ	2前	1			◎			
		運動学実習	2後	1			◎			
		運動生理学実習	2後	1			◎			
		人間発達学	1後	1		◎				
		救急援助論	2後	1			◎			
		内科学Ⅰ	2前	1			◎			
		内科学Ⅱ	2後	1			◎			
		神経内科学Ⅰ	2前	1			◎			
		神経内科学Ⅱ	2後	1			◎			
		整形外科Ⅰ	2前	1			◎			
		整形外科Ⅱ	2後	1			◎			
		精神医学	1後	1			◎			
		小児科学	2前	1			◎			
		老年医学	2前	1			◎			
	薬理学概論	1後	1			◎				
	予防医学	3前	1			◎				
	画像診断学	2前	1			◎				
	栄養学	2前	1			◎				
	社会福祉学	2後	1		◎					
	地域包括ケア論	3前	1			◎	◎	◎		
	リハビリテーション概論	1前	1		◎	◎				
職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1前	1			◎				
	基礎理学療法Ⅱ	1前	1			◎				
	基礎理学療法実習Ⅰ	1後	1			◎				
	基礎理学療法研究法	3前	1			◎				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
② 職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法学実習Ⅱ	1後	1			◎			
		臨床技能論実習	3前	1		◎	◎			
		理学療法管理学	4後	1			◎			
		保健医療福祉関連制度論	4後	1				◎	◎	
		理学療法評価学	1後	1				◎		
		理学療法評価学実習	2前	2				◎		
		理学療法評価学演習	3前	1				◎		
		画像評価学	2後	1				◎		
		運動療法学	2前	1				◎		
		運動療法学実習	2後	1				◎		
		徒手理学療法学	3前	1				◎		
		徒手理学療法学実習	3後	1				◎		
		物理療法学	2前	1				◎		
		日常生活活動学	2前	1				◎		
		義肢装具学Ⅰ	2前	1				◎		
		義肢装具学Ⅱ	2後	1				◎		
		神経障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1				◎		
		神経障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1				◎		
		運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	2後	1				◎		
		運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1				◎		
		内部障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1				◎		
		内部障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1				◎		
		小児期理学療法学演習	2後	1				◎		
		老年期理学療法学演習	2後	1				◎		
		スポーツ障害系理学療法学実習	2後	1				◎		
		神経筋骨格障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		内部障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		スポーツ障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		地域理学療法学	2後	1				◎	◎	
		地域理学療法学実習	3前	1				◎	◎	
		理学療法見学実習Ⅰ	1前	1		◎	◎	◎	◎	
		理学療法見学実習Ⅱ	1後	1		◎	◎	◎		
理学療法見学実習Ⅲ	2前	1		◎	◎	◎	◎			
理学療法評価実習	3前	4		◎	◎	◎				
理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6		◎	◎	◎				
理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6		◎	◎	◎				
理学療法地域実習	4前	1		◎	◎	◎	◎			
③ 展開科目	マーケティング論	3後	1					◎	◎	
	施設起業運営論	3後	1					◎	◎	
	ボランティア論	1後	1		◎			◎	◎	
	生涯スポーツ論	1前	1					◎	◎	
	労働衛生論	1後	1					◎	◎	
	子育て支援論	2前	1					◎	◎	
	災害支援論	2前	1		◎			◎	◎	
	教育支援論	2前	1					◎	◎	
	メンタルヘルスマネジメント論	3後		1				◎	◎	
	地域共生論	3前	2		◎	◎		◎	◎	
	障がい者スポーツ論	3後	1					◎	◎	
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					◎	◎	
	スポーツリズムトレーニング論	3後		1					◎	
	体力測定論	3後		1					◎	
	健康増進実践演習	3後		1				◎	◎	
	健康増進実践実習	3後		1				◎	◎	
	パフォーマンス向上論	3後		1					◎	
	フィットネス論	3後		2					◎	
	ランニングトレーニング論	3後		2					◎	
	ゴルフトレーニング論	3後		2					◎	
	ビジョントレーニング論	3後		2					◎	
	遊びとレクリエーション	3後		1					◎	
	生きがい創造	3後		2					◎	
	伝承遊び	3後		2					◎	
	シューフィッティング論	3後		1					◎	
	福祉工学地域活用論	3後		1					◎	
	ロボット工学地域活用論基礎	3後		1					◎	
ロボット工学地域活用論応用	3後		2					◎		
身体障がい者就労環境論	3後		2				◎	◎		
組織運営論	3後		2				◎	◎		
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2			◎	◎	◎	◎	
	理学療法総合実習	4後	1				◎	◎	◎	
	リハビリテーション総合演習	3後	1				◎	◎	◎	

カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

カリキュラム・ポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマ・ポリシー
<p>理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>					<p>理学療法学科では、所定の規則に基づき131単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に理学療法士（専門職）の学位を授与する。</p>
<p><b>CP1</b> 倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 学びの基礎 音楽（選択） 教育学 倫理学入門 哲学入門（選択） 心理学 社会学（選択） 日本の伝統文化（選択） 日本の近代史（選択） 体育（選択） 生物学 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ（選択） 数学 英語Ⅰ 英語Ⅱ（選択） 【職業専門科目】 人間発達学 リハビリテーション概論 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 【展開科目】 ポランディア論</p>	<p>【基礎科目】 キャリア発達論 経営学入門（選択） 統計学 韓国語（選択） 中国語（選択） 【職業専門科目】 社会福祉学 理学療法見学実習Ⅲ 【展開科目】 災害支援論</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 【展開科目】 地域共生論</p>	<p>理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習</p>	<p><b>DP1</b> 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>
<p><b>CP2</b> 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 コミュニケーション論 英語Ⅰ※再掲 英語Ⅱ（選択）※再掲 【職業専門科目】 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 理学療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【基礎科目】 韓国語（選択）※再掲 中国語（選択）※再掲 【職業専門科目】 理学療法見学実習Ⅲ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 臨床技能論実習 理学療法評価実習※再掲 理学療法総合臨床実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 地域共生論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 理学療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習</p>	<p><b>DP2</b> 地域住民を取り巻き多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p>
<p><b>CP3</b> 理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅲ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 運動学Ⅰ 精神医学 薬理学概論 リハビリテーション概論※再掲 基礎理学療法Ⅰ 基礎理学療法Ⅱ 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価学 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 理学療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 運動学Ⅱ 運動学実習 運動生理学実習 救急救助論 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 小児科学 老年医学 画像診断学 栄養学 理学療法評価学実習 画像評価学 運動療法学 運動療法学実習 物理療法学 日常生活活動論 義肢装具学Ⅰ 義肢装具学Ⅱ 運動器障害系理学療法実習Ⅰ 小児理学療法学演習 老年期理学療法学演習 スポーツ障害系理学療法学演習 地域理学療法学 理学療法見学実習Ⅲ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 予防医学 地域包括ケア論 基礎理学療法研究法 臨床技能論実習※再掲 理学療法評価学演習 徒手理学療法学 徒手理学療法学実習 神経障害系理学療法学実習Ⅰ 神経障害系理学療法学実習Ⅱ 運動器障害系理学療法学実習Ⅰ 運動器障害系理学療法学実習Ⅱ 内部障害系理学療法学実習Ⅰ 内部障害系理学療法学実習Ⅱ 地域理学療法学実習 理学療法評価学実習※再掲 理学療法総合臨床実習Ⅰ※再掲 【総合科目】 リハビリテーション総合演習</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法管理学 保健医療福祉関連制度論 神経筋骨格障害応用論実習（選択） 内部障害応用論実習（選択） スポーツ障害応用論実習（選択） 理学療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 理学療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習</p>	<p><b>DP3</b> 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>
<p><b>CP4</b> 理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を究掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 リハビリテーション概論※再掲 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 ポランディア論※再掲 生涯スポーツ論 労働衛生論</p>	<p>【職業専門科目】 地域理学療法学※再掲 理学療法見学実習Ⅲ※再掲 【展開科目】 子育て支援論 災害支援論※再掲 教育支援論</p>	<p>【職業専門科目】 地域理学療法学実習※再掲 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 施設企業運営論 メンタルヘルスマネジメント論（選択） 地域共生論※再掲 障がい者スポーツ論 健康増進実践演習（選択） 健康増進実践演習（選択） 身体障がい者就業環境論（選択） 組織運営論（選択） 【総合科目】 リハビリテーション総合演習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 保健医療福祉関連制度※再掲 理学療法地域実習※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習※再掲</p>	<p><b>DP4</b> 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p>
<p><b>CP5</b> 理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 リハビリテーション概論※再掲 【展開科目】 ポランディア論※再掲 生涯スポーツ論※再掲 労働衛生論※再掲</p>	<p>【展開科目】 子育て支援論※再掲 災害支援論※再掲 教育支援論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論 【展開科目】 マーケティング論※再掲 施設企業運営論※再掲 メンタルヘルスマネジメント論（選択）※再掲 地域共生論※再掲 障がい者スポーツ論※再掲 スポーツリズムトレーニング論（選択） 体力測定論（選択） 健康増進実践演習（選択）※再掲 健康増進実践演習（選択）※再掲 パフォーマンス向上論（選択） フィットネス論（選択） ランニングトレーニング論（選択） ゴルフトレーニング論（選択） ビジョントレーニング論（選択） 遊びとレクリエーション（選択） 生きがい創造（選択） 伝承遊び（選択） シューフィッティング論（選択） 福祉工学地域活用論（選択） ロボット工学地域活用論基礎（選択） ロボット工学地域活用論応用（選択） 身体障がい者就業環境論（選択）※再掲 組織運営論（選択）※再掲 【総合科目】 リハビリテーション総合演習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 神経筋骨格障害応用論実習（選択）※再掲 内部障害応用論実習（選択）※再掲 スポーツ障害応用論実習（選択）※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習※再掲</p>	<p><b>DP5</b> 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>

凡例

基礎科目
職業専門科目
展開科目
総合科目

## カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

CP1：人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。

CP2：多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。

CP3：作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を实践できる能力を養うための科目を配置する。

CP4：人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP5：地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
① 基礎科目	初年次 目次 学びの基盤	1前	1		◎					
	コミュニケーション論	1前	1			◎				
	人間と社会系科目	音楽	1後		1	◎				
		キャリア発達論	2後	1		◎				
		教育学	1前	1		◎				
		倫理学入門	1前	1		◎				
		哲学入門	1前		1	◎				
		心理学	1後	1		◎				
		経営学入門	2前		1	◎				
		社会学	1前	1		◎				
		日本の伝統文化	1前		1	◎				
		日本の近代史	1前		1	◎				
		体育	1後		1	◎				
	自然科学系科目	生物学	1前	1		◎				
		物理学Ⅰ	1前	1		◎				
		物理学Ⅱ	1後		1	◎				
		統計学	2後	1		◎				
		数学	1前		1	◎				
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1		◎	◎			
		英語Ⅱ	1後		1	◎	◎			
		韓国語	2後		1	◎	◎			
		中国語	2後		1	◎	◎			
	② 職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			◎		
			解剖学Ⅱ	1後	2			◎		
			解剖学Ⅲ	1後	1			◎		
			生理学Ⅰ	1前	2			◎		
			生理学Ⅱ	1後	2			◎		
運動学Ⅰ			1前	1			◎			
運動学Ⅱ			1後	1			◎			
運動学実習			2前	1			◎			
人間発達学			1後	1		◎				
救急援助論			2後	1			◎			
内科学Ⅰ			2前	1			◎			
内科学Ⅱ			2後	1			◎			
神経内科学Ⅰ			2前	1			◎			
神経内科学Ⅱ			2後	1			◎			
整形外科Ⅰ			2前	1			◎			
整形外科Ⅱ			2後	1			◎			
精神医学			2前	1			◎			
小児科学			2前	1			◎			
老年医学			2前	1			◎			
薬理学概論			1後	1			◎			
予防医学			3前	1			◎			
画像診断学		2前	1			◎				
栄養学		2前	1			◎				
社会福祉学		2後	1		◎					
地域包括ケア論		2後	1			◎	◎	◎		
リハビリテーション概論		1前	1		◎		◎			
職業実践科目群		作業療法学総論	1前	1			◎			
		基礎作業学	1前	1			◎			
		基礎作業学実習Ⅰ	1前	1			◎			
		基礎作業学実習Ⅱ	1後	1			◎			
		作業療法研究法	3前	1			◎			
		作業療法管理・制度論	1後	1			◎			
		作業療法と倫理	1後	1			◎			
		作業療法評価学総論	1後	1			◎			
		身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1			◎			
		身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2前	1			◎			
		精神障害作業療法評価学実習	2前	1			◎			
		発達障害作業療法評価学実習	2前	1			◎			
身体障害作業療法基礎技術論		2後	1			◎				
運動器疾患作業療法学実習		2後	1			◎				
中枢神経疾患作業療法学実習		2後	1			◎				
高次脳機能障害作業療法学実習		3前	1			◎				
精神障害作業療法学		2後	1			◎				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5
			必修	選択					
② 職業専門科目	職業実践科目群	精神障害作業療法学実習	3前	1			◎		
		発達障害作業療法学実習Ⅰ	2後	1			◎		
		発達障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1			◎		
		老年期障害作業療法学	2後	1			◎		
		老年期障害作業療法学実習	3前	1			◎		
		日常生活活動論実習	2前	1			◎		
		社会生活行為論実習	2前	1			◎		
		作業分析活用論	2後	1			◎		
		作業分析活用論実習	2後	1			◎		
		家族援助論	3前	1			◎		
		住環境支援論	3前	1			◎		
		作業療法義肢装具実習	2後	1			◎		
		生活行為向上マネジメント論実習	3前	1			◎		
		地域生活作業療法学総論	2前	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅰ	2後	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅱ	2後	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅲ	3前	1			◎	◎	◎
		作業療法見学実習Ⅰ	1後	1		◎	◎	◎	
		作業療法見学実習Ⅱ	2前	1		◎	◎	◎	
		作業療法評価実習	3前	5		◎	◎	◎	
		作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7		◎	◎	◎	
		作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7		◎	◎	◎	
		作業療法地域実習	4前	1		◎	◎	◎	◎
③ 展開科目	マーケティング論	2後	1					◎	◎
	施設起業運営論	3前	1					◎	◎
	ボランティア論	1前	1		◎				◎
	子育て支援論	2前	1					◎	◎
	災害支援論	1後	1		◎				◎
	教育支援論	2後	1					◎	◎
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1					◎	◎
	障がい者スポーツ論	3後	1					◎	◎
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					◎	◎
	地域社会共生論	1前	2		◎			◎	◎
	地域社会共生論実習	1後	1			◎		◎	◎
	精神障がい者就労環境論	3後	2					◎	◎
	身体障がい者就労環境論	3後	2					◎	◎
	就労環境論実習	4前	1			◎		◎	◎
	老年期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	老年期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
	成人期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	成人期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
	児童期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	児童期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2			◎	◎	◎	◎
	作業療法総合実習Ⅰ	4後	1				◎	◎	◎
	作業療法総合実習Ⅱ	4後	1				◎	◎	◎

カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

カリキュラム・ポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマ・ポリシー
<p>作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>					<p>作業療法学科では、所定の規則に基づき130単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法士（専門職）の学位を授与する。</p>
<p><b>CP1</b> 人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 学びの基盤 音楽（選択） 教育学 倫理学入門 哲学入門（選択） 心理学 社会学（選択） 日本の伝統文化（選択） 日本の近代史（選択） 体育（選択） 生物学 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ（選択） 数学 英語Ⅰ 英語Ⅱ（選択） 【職業専門科目】 人間発達学 リハビリテーション概論 作業療法見学実習Ⅰ 【展開科目】 ボランティア論 災害支援論 地域社会共生論</p>	<p>【基礎科目】 キャリア発達論 経営学入門（選択） 統計学 韓国語（選択） 中国語（選択） 【職業専門科目】 社会福祉学 作業療法見学実習Ⅱ</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ</p>	<p>作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習</p>	<p><b>DP1</b> 作業療法として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊富な人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p>
<p><b>CP2</b> 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 コミュニケーション論 英語Ⅰ※再掲 英語Ⅱ（選択）※再掲 【職業専門科目】 作業療法見学実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 地域社会共生論実習</p>	<p>【基礎科目】 韓国語（選択）※再掲 中国語（選択）※再掲 【職業専門科目】 地域生活作業療法学総論 地域生活作業療法学実習Ⅰ 地域生活作業療法学実習Ⅱ 作業療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域生活作業療法学実習Ⅲ 作業療法評価実習※再掲 作業療法総合臨床実習Ⅰ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 作業療法地域実習※再掲 【展開科目】 就労環境論実習 老年期地域生活適応論実習 成人期地域生活適応論実習 児童期地域生活適応論実習 【総合科目】 協働連携論総合実習</p>	<p><b>DP2</b> 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p>
<p><b>CP3</b> 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 薬理学概論 リハビリテーション概論※再掲 作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業療法学実習Ⅰ 基礎作業療法学実習Ⅱ 作業療法管理・制度論 作業療法と倫理 作業療法評価学総論 作業療法見学実習Ⅰ</p>	<p>【職業専門科目】 運動学実習 救急救助論 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 精神医学 小児科学 老年医学 画像診断学 栄養学 地域包括ケア論 身体障害作業療法評価学実習Ⅰ 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習 身体障害作業療法基礎技術論 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 精神障害作業療法学 発達障害作業療法学実習Ⅰ 老年期障害作業療法学 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習 作業分析活用論 作業分析活用論実習 作業療法義肢装具実習 地域生活作業療法学総論※再掲 地域生活作業療法学実習Ⅰ※再掲 地域生活作業療法学実習Ⅱ※再掲 作業療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 予防医学 作業療法研究法 高次脳機能障害作業療法学実習 精神障害作業療法学実習 発達障害作業療法学実習Ⅱ 老年期障害作業療法学実習 家族援助論 住環境支援論 生活行為向上マネジメント論実習 地域生活作業療法学実習Ⅲ※再掲 作業療法評価実習※再掲 作業療法総合臨床実習Ⅰ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 作業療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ</p>	<p><b>DP3</b> 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>
<p><b>CP4</b> 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【展開科目】 地域社会共生論※再掲 地域社会共生論実習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 子育て支援論 教育支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p>	<p>【職業専門科目】 地域生活作業療法学実習Ⅲ※再掲 【展開科目】 施設企業運営論 障がい者スポーツ論 精神障がい者就労環境論 身体障がい者就労環境論 老年期地域生活適応論（選択） 成人期地域生活適応論（選択） 児童期地域生活適応論</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法地域実習※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習 就労環境論実習※再掲 老年期地域生活適応論実習※再掲 成人期地域生活適応論実習※再掲 児童期地域生活適応論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ※再掲 作業療法総合実習Ⅱ※再掲</p>	<p><b>DP4</b> 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p>
<p><b>CP5</b> 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【展開科目】 ボランティア論※再掲 災害支援論※再掲 地域社会共生論※再掲 地域社会共生論実習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 子育て支援論 教育支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p>	<p>【展開科目】 施設企業運営論※再掲 障がい者スポーツ論※再掲 精神障がい者就労環境論※再掲 身体障がい者就労環境論※再掲 老年期地域生活適応論（選択）※再掲 成人期地域生活適応論（選択）※再掲 児童期地域生活適応論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 障がい者スポーツ論実習※再掲 就労環境論実習※再掲 老年期地域生活適応論実習※再掲 成人期地域生活適応論実習※再掲 児童期地域生活適応論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ※再掲 作業療法総合実習Ⅱ※再掲</p>	<p><b>DP5</b> 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。</p>

凡例

基礎科目
職業専門科目
展開科目
総合科目

## 臨地実務実習施設一覧

（びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 理学療法学科）

施設番号	臨地実務実習施設の名称	所在地	履修させる授業科目						主な実習場所の面積	備考	
			授業科目の名称	必修・選択・自由の別	単位数	履修予定学生数	当該施設実習時間数	受入予定学生・時間数			
1	医療法人真生会 向日回生病院	京都府向日市物集女町 中海道92-12	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	178.83㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間			うち必修科目分 178.83㎡
					単位	人	時間	人・時間			うち選択科目分 ㎡
			計（2科目）		12単位	2人	540時間	540人・時間			うち自由科目分 ㎡
2	社会福祉法人養徳会 重症心身障害児施設 医療福祉センターきずな	兵庫県加西市若井町字 猪野83-31	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	307.50㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間			うち必修科目分 307.50㎡
					単位	人	時間	人・時間			うち選択科目分 ㎡
			計（2科目）		12単位	2人	540時間	540人・時間			うち自由科目分 ㎡
3	医療法人社団昂会 日野記念病院	滋賀県蒲生郡日野町上 野田200-1	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	156.11㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間			うち必修科目分 156.11㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間			うち選択科目分 ㎡
			計（2科目）		16単位	4人	720時間	900人・時間			うち自由科目分 ㎡
4	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	京都府京都市北区小山 下総町27番地	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	1,196.32㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間			うち必修科目分 1,196.32㎡
					単位	人	時間	人・時間			うち選択科目分 ㎡
			計（2科目）		12単位	2人	540時間	540人・時間			うち自由科目分 ㎡
5	医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	滋賀県東近江市八日市 東本町8-16	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	224.40㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間			うち必修科目分 224.40㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間			うち選択科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間			うち自由科目分 ㎡
			計（4科目）		17単位	6人	765時間	990人・時間			うち自由科目分 ㎡

6	日本赤十字社 舞鶴赤十字病院	京都府舞鶴市字倉谷427	理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	729.10㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち必修科目分 729.10㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (1科目)		6単位	のべ 1人	270時間	270人・時間	うち自由科目分 ㎡
7	社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設 ハートフル	大阪府大阪市淀川区十三東5-3-29	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	153.50㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	うち必修科目分 153.50㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (4科目)		7単位	のべ 14人	315時間	900人・時間	うち自由科目分 ㎡
8	米原市地域包括医療 福祉センター ふく しあ	滋賀県米原市新庄77-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	153.00㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち必修科目分 153.00㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (1科目)		1単位	のべ 2人	45時間	90人・時間	うち自由科目分 ㎡
9	社会福祉法人真寿会 老人保健施設 リハビリセンターあ ゆみ	滋賀県東近江市新宮町 558番地	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	160.00㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち必修科目分 160.00㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		3単位	のべ 12人	135時間	540人・時間	うち自由科目分 ㎡
10	医療法人 マキノ病院	滋賀県高島市マキノ町 新保1097	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	230.80㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 230.80㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (4科目)		17単位	のべ 6人	765時間	990人・時間	うち自由科目分 ㎡
11	医療法人社団 SEISEN 清泉クリ ニック整形外科 静 岡	静岡県駿東郡清水町柿 田191-1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	400.00㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち必修科目分 400.00㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (1科目)		6単位	のべ 1人	270時間	270人・時間	うち自由科目分 ㎡

12	医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	滋賀県彦根市竹ヶ鼻町 80	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	296.64㎡ うち必修科目分 296.64㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (4科目)		7単位	14人	315時間	900人・時間	
13	医療法人友仁会 友仁山崎病院	滋賀県彦根市竹ヶ鼻町 80	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	138.39㎡ うち必修科目分 138.39㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		16単位	4人	720時間	900人・時間	
14	医療法人清仁会 シミズ病院	京都府京都市西京区山 田中吉見町11-2	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	202.80㎡ うち必修科目分 202.80㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		16単位	4人	720時間	900人・時間	
15	介護老人保健施設 パストラールとよさ と	滋賀県犬上郡豊郷町石 畑212	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	102.92㎡ うち必修科目分 102.92㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (3科目)		3単位	12人	135時間	540人・時間	
16	一般財団法人競馬共 助会 栗東診療所	滋賀県栗東市御園1028 栗東トレーニング・セ ンター内	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	270.00㎡ うち必修科目分 270.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間	
17	社会医療法人誠光会 介護老人保健施設 草津ケアセンター	滋賀県草津市野村2-13- 13	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	102.10㎡ うち必修科目分 102.10㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (3科目)		3単位	12人	135時間	540人・時間	

18	社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここの郷	滋賀県東近江市五個荘 山本町466	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	233.50㎡ うち必修科目分 233.50㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (4科目)		7単位	14人	315時間	900人・時間	
19	医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	滋賀県東近江市垣見町 1598-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	69.60㎡ うち必修科目分 69.60㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間	
20	医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリク リニック	石川県加賀市直下町ヲ 91	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	387.00㎡ うち必修科目分 387.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
					単位	人		人・時間	
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間	
21	医療法人社団美松会 介護老人保健施設 ケアセンターこうせ い	滋賀県湖南市菩提寺 104-14	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	99.22㎡ うち必修科目分 99.22㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (3科目)		3単位	12人	135時間	540人・時間	
22	医療法人恭昭会 彦根中央病院	滋賀県彦根市西今町421	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	578.69㎡ うち必修科目分 578.69㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (4科目)		17単位	6人	765時間	990人・時間	
23	医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	滋賀県大津市御殿浜22- 33	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	700㎡ うち必修科目分 700㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (5科目)		18単位	8人	810時間	1,080人・時間	

24	市立長浜病院	滋賀県長浜市大戌亥町313	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	799.99㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 799.99㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		10単位	のべ 3人	450時間	630人・時間	うち自由科目分 ㎡
25	社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデン伏見	京都府京都市伏見区向島二ノ丸町151-81	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	272.30㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	うち必修科目分 272.30㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	うち選択科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち自由科目分 ㎡
			計 (4科目)		7単位	のべ 14人	315時間	900人・時間	
26	医療法人社団 さいき整形外科	滋賀県大津市一里山3丁目19-4	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	99.77㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 99.77㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		13単位	のべ 4人	585時間	630人・時間	うち自由科目分 ㎡
27	滋賀医科大学医学部 附属病院	滋賀県大津市瀬田月輪町	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	498.00㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	うち必修科目分 498.00㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		11単位	のべ 5人	495時間	720人・時間	うち自由科目分 ㎡
28	滋賀県立障害者総合診療所	滋賀県草津市笠山八丁目5-130	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	174.00㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 174.00㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		13単位	のべ 4人	585時間	630人・時間	うち自由科目分 ㎡
29	公益財団法人 丹後中央病院	京都府京丹後市峰山町 杉谷158番地の1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	419.01㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 419.01㎡
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間	うち自由科目分 ㎡

30	医療法人清仁会 洛西シミズ病院	京都市西京区大枝沓掛 町13-107	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	1,453.36㎡ うち必修科目分 1,453.36㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間	
31	医療法人啓信会 京都きづ川病院	京都府城陽市平川西六 反26-1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	452.63㎡ うち必修科目分 452.63㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間	
32	社会医療法人協和会 加納総合病院	大阪府大阪市北区天神 橋7-5-15	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	274.60㎡ うち必修科目分 274.60㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
					単位	人	時間	人・時間	
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間	
33	医療法人 吉川整形外科クリ ニック	滋賀県東近江市佐野町 195-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	120.00㎡ うち必修科目分 120.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (4科目)		17単位	6人	765時間	990人・時間	
34	医療法人社団誠広会 平野総合病院	岐阜県岐阜市黒野176-5	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	363.63㎡ うち必修科目分 363.63㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		16単位	4人	720時間	900人・時間	
35	社会福祉法人枚方療 育園 枚方総合発達 医療センター	大阪府枚方市津田東町 2-1-1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	353.00㎡ うち必修科目分 353.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
					単位	人	時間	人・時間	
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間	
36	公益社団法人 地域 医療振興協会 地域包括ケアセン ターいぶき	滋賀県米原市春照58-1	理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	2,000.00㎡ うち必修科目分 2,000.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
					単位	人	時間	人・時間	
					単位	人	時間	人・時間	
			計 (1科目)		1単位	2人	45時間	90人・時間	

37	医療法人 金沢整形外科クリ ニック	滋賀県栗東市小野881	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	124.54㎡ うち必修科目分 124.54㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (5科目)		18単位	のべ 8人	810時間	1,080人・時間	
38	医療法人社団仁生会 甲南病院	滋賀県甲賀市甲南町葛 木958	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	218.90㎡ うち必修科目分 218.90㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (5科目)		18単位	のべ 8人	765時間	1,080人・時間	
39	医療法人恭昭会 彦 根中央リハビリテー ションクリニック	滋賀県彦根市西今町 923-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	94.70㎡ うち必修科目分 94.70㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		8単位	のべ 5人	360時間	450人・時間	
40	医療法人 おした整形外科医院	滋賀県犬上郡豊郷町下 枝23-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	206.66㎡ うち必修科目分 206.66㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (4科目)		14単位	のべ 6人	630時間	720人・時間	
41	医療法人 徳洲会 宇治徳洲会病院	京都府宇治市槇島町石 橋145	理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	521.00㎡ うち必修科目分 521.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
					単位	人	時間	人・時間	
					単位	人	時間	人・時間	
			計 (1科目)		6単位	のべ 1人	270時間	270人・時間	
42	医療法人社団 村上整形外科クリ ニック	滋賀県甲賀市水口町虫 生野西浦1095-4	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	122.00㎡ うち必修科目分 122.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		13単位	のべ 4人	585時間	630人・時間	

43	医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	滋賀県湖南市夏見1168	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	576.00㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (5科目)		18単位	のべ 8人	810時間	1,080人・時間	
44	医療法人祥風会 山本整形外科医院	岡山県倉敷市林348	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	261.79㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
					単位	人	時間	人・時間	
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間	
45	社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	京都府京都市伏見区下 油掛町895	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	127.80㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (3科目)		13単位	のべ 4人	585時間	630人・時間	
46	医療法人社団緑水会 緑水会病院	大阪府高槻市成合南の 町3-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	142.95㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		13単位	のべ 4人	585時間	630人・時間	
47	医療法人社団 緑水会 介護老人保健施設 シルバーハウス高槻	大阪府高槻市成合南の 町3番1号	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	155.11㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
					単位	人	時間		
			計 (2科目)		2単位	のべ 10人	90時間	450人・時間	
48	甲賀市立 介護老人 保健施設 ケアセン ターささゆり	滋賀県甲賀市水口町貴 生川293-1	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	150.00㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
					単位	人	時間	人・時間	
			計 (2科目)		2単位	のべ 10人	90時間	450人・時間	
49	医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	滋賀県大津市真野5-1- 29	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	114.49㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (4科目)		17単位	のべ 6人	765時間	990人・時間	
							うち選択科目分 ㎡		
							うち自由科目分 ㎡		

50	医療法人浩和会 デイケアセンター ジーバ	滋賀県長浜市内保町1 033	理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	210.00㎡	
					単位	人	時間	人・時間	うち必修科目分 210.00㎡	
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計 (1科目)		1単位	2人	45時間	90人・時間	うち自由科目分 ㎡	
51	近江八幡市立総合医 療センター	滋賀県近江八幡市土田 町1379	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	291.34㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 291.34㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計 (3科目)		16単位	4人	720時間	900人・時間	うち自由科目分 ㎡	
52	医療法人恒昭会 藍野病院	大阪府茨木市高田町11- 18	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	746.89㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 746.89㎡	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計 (3科目)		11単位	5人	495時間	720人・時間	うち自由科目分 ㎡	
53	医療法人 堤整形外科	滋賀県長浜市八幡中山 町393-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	375.87㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 375.87㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (4科目)		14単位	6人	630時間	720人・時間		うち自由科目分 ㎡
54	公益財団法人 近江 兄弟社 介護老人保健施設 ヴォーリズ老健セン ター	滋賀県近江八幡市北之 庄町492	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	297.00㎡	
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	うち必修科目分 297.00㎡	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計 (3科目)		3単位	12人	135時間	540人・時間	うち自由科目分 ㎡	
55	滋賀県立総合病院	滋賀県守山市守山5丁目 4-30	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	139.1㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 139.1㎡	
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間	うち自由科目分 ㎡	
56	医療法人 仁勇会 三津整形外科	愛媛県松山市古三津3丁 目5-5	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	179.60㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	うち必修科目分 179.60㎡	
					単位	人	時間	人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間	うち自由科目分 ㎡	

57	JA徳島厚生連 阿南共栄病院	徳島県阿南市羽ノ浦町 中庄蔵ノホケ36番地	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	165.80㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	165.80㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分	㎡
58	こばやし整形外科	滋賀県草津市渋川1-2- 26 サ・草津7-202	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	64.5㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	64.5㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (3科目)		13単位	のべ 4人	585時間	630人・時間		うち自由科目分	㎡
59	社会医療法人 弘仁会 大島病院	京都府京都市伏見区桃 山町泰長老115	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	211.10㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	211.10㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分	㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち自由科目分	㎡
			計 (4科目)		17単位	のべ 6人	765時間	990人・時間			
60	京都大学医学部附属 病院	京都府京都市左京区聖 護院川原町54	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	542.00㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	542.00㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (3科目)		16単位	のべ 4人	720時間	900人・時間		うち自由科目分	㎡
61	日本赤十字社 大津赤十字病院	滋賀県大津市長等1丁目 1-35	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	462.27㎡		
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間		うち必修科目分	462.27㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分	㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち自由科目分	㎡
			計 (4科目)		17単位	のべ 6人	765時間	990人・時間			
62	医療法人 天翔会 第二上田リハビリ テーション診療所	京都府京都市南区唐橋 堂ノ前町49-2	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	116.28㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	116.28㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (3科目)		13単位	のべ 4人	585時間	630人・時間		うち自由科目分	㎡
63	医療法人 天翔会 上田リハビリテー ション診療所	京都府京都市左京区岡 崎徳成町20-6	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	56.01㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	56.01㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (3科目)		13単位	のべ 4人	585時間	630人・時間		うち自由科目分	㎡

64	医療法人 梁山会診療所	京都府京都市北区大将 軍西町163	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	153.49㎡ うち必修科目分 153.49㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間	
65	はたスポーツ整形ク リニック	滋賀県守山市下之郷1- 15-8	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	225.00㎡ うち必修科目分 225.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間	
66	公益財団法人近江兄 弟社 ヴォーリス記念病院	滋賀県近江八幡市北之 庄町492	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	810㎡ うち必修科目分 810㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (4科目)		17単位	6人	765時間	990人・時間	
67	社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉セン ター	京都府亀岡市大井町小 金岐北浦37-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	1,834.05㎡ うち必修科目分 1,834.05㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間	
68	一般財団法人近江愛 隣園 今津病院	滋賀県高島市今津町南 新保87-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	251.87㎡ うち必修科目分 251.87㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (4科目)		14単位	6人	630時間	720人・時間	
69	医療法人良善会 ひかり病院	滋賀県大津市際川三丁 目35番1号	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	178.20㎡ うち必修科目分 178.20㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間	
70	白石クリニック	大阪府高槻市芥川町1丁 目13-14	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	167.49㎡ うち必修科目分 167.49㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (2科目)		7単位	3人	315時間	360人・時間	

71	医療法人医誠会 神崎中央病院	滋賀県東近江市五個荘 清水鼻町95番地	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	229.18㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 229.18㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間		うち自由科目分 ㎡
72	社会福祉法人恩賜財 団 済生会滋賀県病院	滋賀県栗東市大橋2丁目 4-1	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	339.62㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 339.62㎡
					単位	1人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		10単位	4人	450時間	630人・時間		うち自由科目分 ㎡
73	医療法人社団 弓削メディカルクリ ニック	滋賀県蒲生郡竜王町弓 削1825	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	906.78㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 906.78㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計 (4科目)		14単位	6人	630時間	720人・時間		
74	医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	和歌山県和歌山市吉田 337	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	152.50㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 152.50㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分 ㎡
75	特定医療法人社団御 上会 野洲病院	滋賀県野洲市小篠原 1094	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	178.75㎡	
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間		うち必修科目分 178.75㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計 (4科目)		17単位	6人	765時間	990人・時間		
76	こまいざわ整形外科 クリニック	滋賀県草津市駒井沢町 397-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	75.96㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 75.96㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間		うち自由科目分 ㎡
77	社会福祉法人 恩賜 財団 済生会守山市民病院	滋賀県守山市守山4丁目 14-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	1,078.22㎡	
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間		うち必修科目分 1,078.22㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計 (4科目)		17単位	6人	765時間	990人・時間		

78	日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	大阪府大阪市天王寺区筆ヶ崎町5番30号東館1～3階	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	221.42㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	221.42㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分	㎡
79	医療法人医誠会 介護老人保健施設 エスペラル近江八幡	滋賀県近江八幡市大房町1002番地1	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	202.98㎡		
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間		うち必修科目分	202.98㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (3科目)		3単位	のべ 12人	135時間	540人・時間		うち自由科目分	㎡
80	いえだ整形外科リハビリクリニック	愛知県知多市新知西町10-11	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	109.98㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	109.98㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分	㎡
81	長浜市立湖北病院	滋賀県長浜市木之本町黒田1221	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	235.73㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	235.73㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分	㎡
82	市立敦賀病院	福井県敦賀市三島町1丁目6番60号	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	32,400㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	32,400㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分	㎡
83	公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	京都府京都市中京区西ノ京春日町16-1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	470.65㎡		
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間		うち必修科目分	470.65㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分	㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち自由科目分	㎡
			計 (4科目)		17単位	のべ 6人	765時間	990人・時間			
84	公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険 織田病院	福井県丹生郡越前町織田第106号44-1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	288.60㎡		
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分	288.60㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分	㎡
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分	㎡

85	社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	滋賀県野洲市北桜978-2	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	130.88㎡	
					単位	人	時間	人・時間		うち必修科目分 130.88㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (1科目)		6単位	1人	270時間	270人・時間		うち自由科目分 ㎡
86	医療法人かおり会 デイケアさくら	滋賀県高島市新旭町太田888-1	理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	262.00㎡	
					単位	人	時間	人・時間		うち必修科目分 262.00㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (1科目)		1単位	2人	45時間	90人・時間		うち自由科目分 ㎡
87	日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	滋賀県大津市和辻中298	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	153.23㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 153.23㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		13単位	4人	585時間	630人・時間		うち自由科目分 ㎡
88	地方独立行政法人市立大津市民病院	滋賀県大津市本宮2-9-9	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	186.48㎡	
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間		うち必修科目分 186.48㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計 (4科目)		17単位	6人	765時間	990人・時間		
89	社会医療法人 慈薫会 河崎病院	大阪府貝塚市水間244番地	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	424.69㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 424.69㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分 ㎡
90	医療法人芙蓉会 南草津病院	滋賀県草津市野路5-2-39	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	514.55㎡	
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間		うち必修科目分 514.55㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち自由科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		
			計 (5科目)		18単位	8人	810時間	1,080人・時間		
91	医療法人社団 昂会 介護老人保健施設 リスタあすなる	滋賀県蒲生郡日野町上野田246	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	101.40㎡	
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間		うち必修科目分 101.40㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		3単位	12人	135時間	540人・時間		うち自由科目分 ㎡

92	滋賀県立小児保健医療センター	滋賀県守山市守山5丁目7-30	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	293.00㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 293.00㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		10単位	のべ 3人	450時間	630人・時間		うち自由科目分 ㎡
93	公益財団法人豊郷病院	滋賀県犬上郡豊郷町八目12番地	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	408㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 408㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		16単位	のべ 4人	720時間	900人・時間		うち自由科目分 ㎡
94	医療法人湖青会青木医院	滋賀県大津市和邇高城260番1	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	70.00㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 70.00㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		7単位	のべ 3人	315時間	360人・時間		うち自由科目分 ㎡
95	医療法人東和会第一東和会病院	大阪府高槻市宮野町2-17	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	290.24㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 290.24㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		16単位	のべ 4人	720時間	900人・時間		うち自由科目分 ㎡
96	日本赤十字社長浜赤十字病院	滋賀県長浜市宮前町14-7	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	202.64㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 202.64㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計 (4科目)		17単位	のべ 6人	765時間	990人・時間		
97	一般社団法人愛生会山科病院	京都府京都市山科区竹鼻4丁野町19-4	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	260.13㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 260.13㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計 (4科目)		17単位	のべ 6人	765時間	990人・時間		
98	医療法人社団洛和会音羽病院	京都府京都市山科区音羽珍事町2	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	437.37㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 437.37㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		12単位	のべ 2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分 ㎡

99	医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	滋賀県大津市和邇高城 260-1	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	70.00㎡	
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間		
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間		うち必修科目分 70.00㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (4科目)		7単位	14人	315時間	900人・時間		うち自由科目分 ㎡
100	加賀市医療センター	石川県加賀市作見町リ 36番地	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	496.33㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 496.33㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分 ㎡
101	公立甲賀病院	滋賀県甲賀市水口町松 尾1256番地	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	411.67㎡	
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間		
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 411.67㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計 (5科目)		18単位	8人	810時間	1,080人・時間		
102	医療法人滋賀勤労者 保健会 介護老人保健施設 日和の里	滋賀県大津市坂本6丁目 25番3号	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	56.00㎡	
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間		うち必修科目分 56.00㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (3科目)		3単位	12人	135時間	540人・時間		うち自由科目分 ㎡
103	医療法人恒仁会 近江温泉病院	滋賀県東近江市北坂町 966	理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	1,157.96㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 1,157.96㎡
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち選択科目分 ㎡
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計 (4科目)		17単位	6人	765時間	990人・時間		
104	医療法人社団 順心会 順心淡路病 院	兵庫県淡路市大町下66- 1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	463.00㎡	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間		うち必修科目分 463.00㎡
					単位	人	時間	人・時間		うち選択科目分 ㎡
			計 (2科目)		12単位	2人	540時間	540人・時間		うち自由科目分 ㎡

105	医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	滋賀県草津市東矢倉3丁 目34-52	理学療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	417.00㎡ うち必修科目分 417.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法評価実習	必修	4単位	2人	180時間	360人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修	6単位	1人	270時間	270人・時間	
			計 (4科目)		17単位	6人	765時間	990人・時間	
106	医療法人清仁会 介護老人保健施設 シミズひまわりの里	京都府京都市西京区大 枝沓掛町13-362	理学療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	210.60㎡ うち必修科目分 210.60㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			理学療法見学実習Ⅲ	必修	1単位	5人	45時間	225人・時間	
			理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (3科目)		3単位	12人	135時間	540人・時間	
107	医療法人社団董会 介護老人保健施設 野洲すみれ苑	滋賀県野洲市小篠原 490-1	理学療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	87.80㎡ うち必修科目分 87.80㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
					単位	人	時間	人・時間	
					単位	人	時間	人・時間	
			計 (1科目)		1単位	2人	45時間	90人・時間	
受入予定学生・時間数の合計								72,000人・時間	主な実習場所の面積の合計
うち必修科目分								72,000人・時間	68,639.85㎡
うち選択科目分								人・時間	㎡
うち自由科目分								人・時間	㎡

### 臨地実務実習施設一覧

(びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科)

施設番号	臨地実務実習施設の名称	所在地	履修させる授業科目						主な実習場所の面積	備考	
			授業科目の名称	必修・選択・自由の別	単位数	履修予定学生数	当該施設実習時間数	受入予定学生・時間数			
1	高島市民病院	滋賀県高島市勝野1667	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	304.83㎡		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間			
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間			
			計 (3科目)		19単位	3人	855時間	855人・時間			
						うち必修科目分	304.83㎡				
								うち選択科目分	㎡		
								うち自由科目分	㎡		
2	社会福祉法人よつば会 特別養護老人ホーム風流里	滋賀県大津市相模町10番1号	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	11.17㎡		
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間			
			作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間			
			計 (3科目)		7単位	4人	315時間	405人・時間			
						うち必修科目分	11.17㎡				
								うち選択科目分	㎡		
								うち自由科目分	㎡		
3	医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	滋賀県東近江市八日市東本町8-16	作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	224.40㎡		
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間			
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間			
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間			
			計 (4科目)		20単位	5人	900時間	945人・時間			
						うち必修科目分	224.40㎡				
								うち選択科目分	㎡		
								うち自由科目分	㎡		
4	株式会社明尚 リハビリテーション守山 デイサービス	滋賀県守山市守山6丁目11-51	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	120㎡		
			作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間			
			計 (2科目)		2単位	4人	90時間	180人・時間			
						うち必修科目分	120㎡				
								うち選択科目分	㎡		
								うち自由科目分	㎡		

5	医療法人三幸会 第二北山病院	京都市左京区岩倉上蔵町 161番地	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	75.00㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	うち必修科目分 75.00㎡	
			計（2科目）		14単位	のべ 2人	630時間	630人・時間	うち選択科目分 ㎡	
									うち自由科目分 ㎡	
6	医療法人 金沢整形外科クリ ニック ダイケアしおん	滋賀県栗東市小野881	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	187.15㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	うち必修科目分 187.15㎡	
			作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計（3科目）		7単位	のべ 5人	315時間	405人・時間	うち自由科目分 ㎡	
7	社会福祉法人真寿会 老人保健施設 リハビリセンターあ ゆみ	滋賀県東近江市新宮町558 番地	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	160.00㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	うち必修科目分 160.00㎡	
			作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計（3科目）		7単位	のべ 5人	315時間	405人・時間	うち自由科目分 ㎡	
8	米原市地域包括医療 福祉センター 「ふくしあ」	滋賀県米原市新庄77-1	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	153.00㎡	
			作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち必修科目分 153.00㎡	
			計（2科目）		6単位	のべ 3人	270時間	315人・時間	うち選択科目分 ㎡	
									うち自由科目分 ㎡	
9	社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここの郷	滋賀県東近江市五個荘山 本町466	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	233.50㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	うち必修科目分 233.50㎡	
			作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	うち選択科目分 ㎡	
			計（3科目）		7単位	のべ 5人	315時間	405人・時間	うち自由科目分 ㎡	
10	医療法人明和会 琵琶湖病院	滋賀県大津市坂本1-8-5	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	228.7㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		うち必修科目分 228.7㎡
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		うち選択科目分 ㎡
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		うち自由科目分 ㎡
			計（4科目）		20単位	のべ 5人	900時間	945人・時間		

11	医療法人 恭昭会 彦根中央病院	滋賀県彦根市西今町421	作業療法見学実習 I	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	578.69㎡	
			作業療法見学実習 II	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 5科目)		21単位	のべ	7人	945時間		1035人・時間
				うち必修科目分	578.69㎡					
				うち選択科目分	㎡					
				うち自由科目分	㎡					
12	滋賀医科大学 医学部附属病院	滋賀県大津市瀬田月輪町	作業療法見学実習 II	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	498.00㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 4科目)		20単位	のべ	5人	900時間		945人・時間
				うち必修科目分	498.00㎡					
				うち選択科目分	㎡					
				うち自由科目分	㎡					
13	市立長浜病院	滋賀県長浜市大戌亥町313	作業療法見学実習 II	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	799.99㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 4科目)		20単位	のべ	5人	900時間		945人・時間
				うち必修科目分	799.99㎡					
				うち選択科目分	㎡					
				うち自由科目分	㎡					
14	医療法人清仁会 洛西シミズ病院	京都市西京区大枝沓掛町 13-107	作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	1,453.36㎡	
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 2科目)		14単位	のべ	2人	630時間		630人・時間
				うち必修科目分	1,453.36㎡					
				うち選択科目分	㎡					
				うち自由科目分	㎡					
15	社会福祉法人びわこ 学園 びわこ学園医療福祉 センター草津	滋賀県草津市笠山8-3-113	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	95.22㎡	
			作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 3科目)		19単位	のべ	3人	855時間		855人・時間
				うち必修科目分	95.22㎡					
				うち選択科目分	㎡					
				うち自由科目分	㎡					

16	医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大 路病院	京都府京都市左京区一乗 寺西水干町25-2	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	194.83㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	うち必修科目分 194.83㎡	
									うち選択科目分 ㎡	
			計 ( 2科目)		14単位	のべ 2人	630時間	630人・時間	うち自由科目分 ㎡	
17	医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	滋賀県湖南市夏見1168	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	202.75㎡	
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		うち必修科目分 202.75㎡
			計 ( 5科目)		21単位	のべ 7人	945時間	1035人・時間		うち選択科目分 ㎡
18	公益社団法人 地域医 療振興協会 地域包括ケアセン ターいぶき	滋賀県米原市春照58-1	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	2,000.00㎡	
			作業療法地域実習	必修	1単位	4人	45時間	180人・時間	うち必修科目分 2,000.00㎡	
									うち選択科目分 ㎡	
			計 ( 2科目)		6単位	のべ 5人	270時間	405人・時間	うち自由科目分 ㎡	
19	医療法人社団仁生会 甲南病院	滋賀県甲賀市甲南町葛木 958	作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	218.90㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		うち必修科目分 218.90㎡
			計 ( 4科目)		20単位	のべ 5人	900時間	945人・時間		うち選択科目分 ㎡
20	公益財団法人 豊郷病院	滋賀県犬上郡豊郷町八目 12番地	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	408.00㎡	
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		うち必修科目分 408.00㎡
			計 ( 5科目)		21単位	のべ 7人	945時間	1035人・時間		うち選択科目分 ㎡
21	医療法人恒昭会 藍野病院	大阪府茨木市高田町11-18	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	746.89㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	うち必修科目分 746.89㎡	
									うち選択科目分 ㎡	
			計 ( 2科目)		14単位	のべ 2人	630時間	630人・時間	うち自由科目分 ㎡	

22	滋賀県立総合病院	滋賀県守山市守山5丁目4-30	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	139.1㎡	
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 5科目)		21単位	のべ	7人	945時間		1035人・時間
23	一般財団法人近江愛隣園 今津病院	滋賀県高島市今津町南新保87番地1	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	251.87㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 3科目)		19単位	のべ	3人	855時間		855人・時間
24	公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	滋賀県近江八幡市鷹飼町744	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	474.53㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 4科目)		20単位	のべ	5人	900時間		945人・時間
25	日本赤十字社 大津赤十字病院	滋賀県大津市長等1-1-35	作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	462.27㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 4科目)		20単位	のべ	5人	900時間		945人・時間
26	医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	京都府京都市左京区岡崎徳成町20-6	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	389.8㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 2科目)		14単位	のべ	2人	630時間		630人・時間

27	医療法人 梁山会診療所	京都府京都市北区大將軍 西町163	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	502.57㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (2科目)		14単位	のべ	2人	630時間		630人・時間
28	医療法人 マキノ病院	滋賀県高島市マキノ町新 保1097	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	230.80㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (3科目)		19単位	のべ	3人	855時間		855人・時間
29	公益財団法人近江兄 弟社 ヴォーリズ記念病院	滋賀県近江八幡市北之庄 町492	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	810.00㎡	
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (5科目)		21単位	のべ	7人	945時間		1035人・時間
30	長浜市立湖北病院	滋賀県長浜市木之本町黒 田1221番地	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	235.73㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (3科目)		19単位	のべ	3人	855時間		855人・時間
31	一般社団法人 水口病院	滋賀県甲賀市水口町本町 2-2-43	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	792.45㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (4科目)		20単位	のべ	5人	900時間		945人・時間
32	和迩いきいきリハビ リセンター	滋賀県大津市和邇中浜476	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	311.52㎡	
			作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		
			計 (2科目)		6単位	のべ	3人	270時間		315人・時間

33	医療法人医誠会 神崎中央病院	滋賀県東近江市五個荘清 水鼻町95番地	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	229.18㎡ うち必修科目分 229.18㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			計 ( 5科目)		21単位	のべ 7人	945時間	1035人・時間	
34	彦根市立病院	滋賀県彦根市八坂町1882	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	581㎡ うち必修科目分 581㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			計 ( 5科目)		21単位	のべ 7人	945時間	1035人・時間	
35	社会福祉法人恩賜財 団 済生会滋賀県病院	滋賀県栗東市大橋2丁目4- 1	作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	339.62㎡ うち必修科目分 339.62㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			計 ( 4科目)		20単位	のべ 5人	900時間	945人・時間	
36	公益財団法人近江兄 弟社 介護老人保健施設 ヴォーリズ老健セン ター	滋賀県近江八幡市北之庄 町492	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	200.00㎡ うち必修科目分 200.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法地域実習	必修	1単位	4人	45時間	180人・時間	
			計 ( 2科目)		6単位	のべ 5人	270時間	405人・時間	
37	特定医療法人社団御 上会 野洲病院	滋賀県野洲市小篠原1094	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	178.75㎡ うち必修科目分 178.75㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			計 ( 5科目)		21単位	のべ 7人	945時間	1035人・時間	

38	公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	京都府京都市中京区西ノ京春日町16-1	作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	470.65㎡ うち必修科目分 470.65㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 2科目)		14単位	2人	630時間	630人・時間		
39	介護老人保健施設 ケアポート栗東	滋賀県栗東市大橋二丁目8番2号	作業療法見学実習 I	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	143.67㎡ うち必修科目分 143.67㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法地域実習	必修	1単位	4人	45時間	180人・時間		
			計 ( 3科目)		7単位	7人	315時間	495人・時間		
40	社会福祉法人正真会 就労移行支援事業所 きょうばし	大阪市都島区東野田町5-5-1 分野・正真会ビル 1・2階	作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	365.80㎡ うち必修科目分 365.80㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			計 ( 1科目)		1単位	2人	45時間	90人・時間		
41	社会福祉法人びわこ 学園 びわこ学園医療福祉 センター野洲	滋賀県野洲市北桜978-2	作業療法見学実習 I	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	81.34㎡ うち必修科目分 81.34㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法見学実習 II	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間		
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 5科目)		21単位	7人	945時間	1035人・時間		
42	地方独立行政法人 市立大津市民病院	滋賀県大津市本宮2-9-9	作業療法見学実習 II	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	186.48㎡ うち必修科目分 186.48㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 ( 4科目)		20単位	5人	900時間	945人・時間		

43	医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	滋賀県大津市大萱7丁目7 番2号	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	192.66㎡ うち必修科目分 192.66㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			計 (5科目)		21単位	のべ 7人	945時間	1035人・時間	
44	医療法人芙蓉会 南草津病院	滋賀県草津市野路5-2-39	作業療法見学実習Ⅰ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	514.55㎡ うち必修科目分 514.55㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			計 (5科目)		21単位	のべ 7人	945時間	1035人・時間	
45	医療法人社団 弓削メディカルクリ ニック	滋賀県蒲生郡竜王町弓削 1825	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	906.78㎡ うち必修科目分 906.78㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	
			計 (2科目)		6単位	のべ 3人	270時間	315人・時間	
46	近江八幡市立総合医 療センター	滋賀県近江八幡市土田町 1379	作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	291.34㎡ うち必修科目分 291.34㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	
			計 (4科目)		20単位	のべ 5人	900時間	945人・時間	
47	放課後等デイサービ ス 青い鳥	滋賀県草津市追分6-19-6	作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	40.00㎡ うち必修科目分 40.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡
			計 (1科目)		1単位	のべ 2人	45時間	90人・時間	

48	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	京都府京都市山科区音羽 珍事町2	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	437.37㎡ うち必修科目分 437.37㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (2科目)		14単位	のべ 2人	630時間	630人・時間		
49	公立甲賀病院	滋賀県甲賀市水口町松尾 1256番地	作業療法見学実習Ⅱ	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	411.67㎡ うち必修科目分 411.67㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (4科目)		20単位	のべ 5人	900時間	945人・時間		
50	医療法人滋賀勤労者 保健会 介護老人保健施設 日和の里	滋賀県大津市坂本6丁目25 番3号	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	56.00㎡ うち必修科目分 56.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法地域実習	必修	1単位	4人	45時間	180人・時間		
			計 (2科目)		6単位	のべ 5人	270時間	405人・時間		
51	医療法人恒仁会 近江温泉病院	滋賀県東近江市北坂町966	作業療法評価実習	必修	5単位	1人	225時間	225人・時間	1,157.96㎡ うち必修科目分 1,157.96㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (3科目)		19単位	のべ 3人	855時間	855人・時間		
52	社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハ ビリテーション病院	大阪府高槻市白梅町5-7	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	1,042.49㎡ うち必修科目分 1,042.49㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (2科目)		14単位	のべ 2人	630時間	630人・時間		
53	医療法人社団 行陵 会 京都大原記念病院	京都府京都市左京区大原 井出町164	作業療法総合臨床実習Ⅰ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	155.00㎡ うち必修科目分 155.00㎡ うち選択科目分 ㎡ うち自由科目分 ㎡	
			作業療法総合臨床実習Ⅱ	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間		
			計 (2科目)		14単位	のべ 2人	630時間	630人・時間		

54	株式会社ジッセン ト・シップ 発達支援ルームPo・ Te・To ひとくみ	滋賀県東近江市沖野5丁目 10-8	作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	73.00㎡
									うち必修科目分 73.00㎡
									うち選択科目分 ㎡
			計 ( 1科目)		1単位	2人	45時間	90人・時間	うち自由科目分 ㎡
55	株式会社ジッセン ト・シップ リーズナブルリハセ きすい	滋賀県東近江市沖野5丁目 10-8	作業療法地域実習	必修	1単位	2人	45時間	90人・時間	105.00㎡
									うち必修科目分 105.00㎡
									うち選択科目分 ㎡
			計 ( 1科目)		1単位	2人	45時間	90人・時間	うち自由科目分 ㎡
56	医療法人桜花会 醍醐病院	京都府京都市伏見区石田 大山町72	作業療法総合臨床実習 I	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	694.60㎡
			作業療法総合臨床実習 II	必修	7単位	1人	315時間	315人・時間	うち必修科目分 694.60㎡
									うち選択科目分 ㎡
			計 ( 2科目)		14単位	2人	630時間	630人・時間	うち自由科目分 ㎡
受入予定学生・時間数の合計									主な実習場所の面積の合計
								39,600人・時間	22,349.93㎡
							うち必修科目分 39,600人・時間	うち必修科目分 22,349.93㎡	
							うち選択科目分 人・時間	うち選択科目分 ㎡	
							うち自由科目分 人・時間	うち自由科目分 ㎡	

# びわこリハビリテーション専門職大学組織規程

## (趣旨)

第1条 この規程は、びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学」という。）の組織に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (学長)

第2条 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 学長の選考については、別に定める。

## (副学長)

第3条 副学長は、学長を補佐し、学長の命を受けて校務をつかさどる。

2 副学長の選考については、別に定める。

## (学部長)

第4条 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

2 学部長の選考については、別に定める。

## (学部・学科)

第5条 本学に次の学部並びに学科を置く。

リハビリテーション学部

理学療法学科

作業療法学科

2 学科に学科長（以下「学科長」という。）を置く。

3 学科長は、当該学科に関する校務の運営をつかさどる。

4 学科長の選考については、別に定める。

5 必要に応じ、学科長補佐を置くことができる。

6 学科長補佐は、学科長の任務を補佐する。

7 学科長補佐の選考については、学長が理事長に推薦し、理事長が任命する。

## (附置機関)

第6条 本学に次の機関を附置する。

1 びわこリハビリテーション専門職大学 キャリア開発・研究センター

2 びわこリハビリテーション専門職大学キャリア開発・研究センターにセンター長を置く。

3 センター長は、びわこリハビリテーション専門職大学キャリア開発・研究センターの業務をつかさどる。

4 センター長の選考については、別に定める。

## (運営会議)

第7条 本学に学則第37条第1項に定める運営会議を置く。

2 運営会議に関し必要な事項は、びわこリハビリテーション専門職大学運営会議規程の定めるところによる。

## (教授会)

第8条 本学に学校教育法第93条第1項に定める教授会を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、びわこリハビリテーション専門職大学教授会規程の定めるところによる。

(各種委員会等)

第9条 必要に応じ、各種委員会、審議会、調査機関等を置くことができる。

2 各種委員会等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

# びわこリハビリテーション専門職大学 教務委員会規程

## (設置)

第1条 びわこリハビリテーション専門職大学組織規程第9条第1項に基づき、教務に関する基本的事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）を設置し、同条第2項の規定に基づき、委員会に必要な事項を定めるものとする。

## (構成)

第2条 委員会は、次に掲げる職員をもって構成するものとする。

- 一 学部長
- 二 各学科長
- 三 各学科から選出された者 各1名
- 四 その他学長が必要と認めた者
- 五 事務長
- 六 教務課長

2 委員会に委員長を置き、前項第2号、第3号及び第4号委員のうち学長が指名する者をもって充てる。

3 委員会は、必要に応じ、委員長が指名する副委員長を置くことができる。

## (任期)

第3条 前条第1項第3号及び第4号委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げないものとする。

2 委員に欠員が生じた場合、補充される委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、任期が満了した場合においても新たに委員が選出されるまで第1項の規定にかかわらず引き続きその職務を行うものとする。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項について審議するものとする。

- 一 学事予定に関すること
- 二 学生（研究生、聴講生、外国人留学生を含む。以下同じ。）の入学、退学、休学等の身分変更に関すること
- 三 教育課程の編成、授業及び試験に関すること
- 四 学生の就学指導に関すること
- 五 単位及び課程の修了に関すること
- 六 生涯学習に関すること
- 七 その他教務に関すること

## (議事)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

3 委員会は、委員の2分の1以上の出席をもって成立することとし、議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は委員長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

(専門委員会)

第6条 委員会に特定の事項を審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、別に定める。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、事務部教務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、教務に関し必要な事項は、別に定めるものとする。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

# びわこリハビリテーション専門職大学 教育課程連携協議会規程

## (目的)

第1条 この規程は、専門職大学設置基準第11条及び学則第41条に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学という。」と産業界及び地域社会との連携により、本学の教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために設置する教育課程連携協議会（以下「連携協議会」という。）について必要な事項を定める。

## (構成)

第2条 連携協議会は、次の各号に掲げる協議員で組織する。

- (1) 学長が指名する教員、その他の職員 1名以上
- (2) 本学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であり、当該職業の実務に関し、豊富な経験を有するもので、学長が認めたもの 1名以上
- (3) 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者で、学長が認めたもの 1名以上
- (4) 臨地実務実習（専門職大学設置基準第29条第1項第4号に規定する臨地実務実習をいう。）その他の授業科目の開設又は授業の実施において本学と協力する事業者又はその事業所に所属し、責任のある職位のもので、学長が認めたもの 1名以上
- (5) 本学の教員、その他の職員以外の者であって学長が必要と認めるもの 1名以上

## (議長の職務、選任及び任期)

第3条 議長の職務、選任及び任期は、次のとおりとする。

- (1) 連携協議会に議長を置き、連携協議会の業務を掌理する。
- (3) 議長の任期は、2年とし、互選により選出する。

## (副議長の職務、選任及び任期)

第4条 副議長の職務、選任及び任期は、次のとおりとする。

- (1) 連携協議会に副議長を置き、副議長は、議長を補佐し、議長に事故があるときは、その職務を代行する。
- (2) 副議長の任期は、2年とし、互選により選出する。

## (協議員の任期)

第5条 第2条第1項に規定する各号の協議員任期は、2年とする。ただし、補欠の協議員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 協議員の再任は、妨げない。
- 3 協議員は、任期満了の後でも、後任の協議員が選任されるまでは、なお、その職務を行  
う。

(協議員の補充)

第6条 第2条第1項に規定する各号の協議員に欠員が出た場合は、1ヶ月以内に補充しなければならない。

(協議員の解任及び退任)

第7条 協議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、連携協議会において、出席者の4分の3以上の議決により、これを解任することができる。

- (1) 法令の規定に著しく違反したとき
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に堪えないとき
- (3) 職務上の義務に著しく違反したとき
- (4) 協議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき

2 協議員は、次の事由によって退任する。

- (1) 任期の満了
- (2) 辞任
- (3) 学校教育法第9条各号に掲げる事由に該当するに至ったとき

(職務に関する費用の弁償)

第8条 協議員には、その職務を執行するために、交通費等要した費用を弁償することができる。  
きる。

(連絡協議会)

第9条 連携協議会は、少なくとも年2回開催するほか、議長が必要と認めた場合に開催する。

- 2 連携協議会の招集は、議長が行う。
- 3 議長は、連携協議会を招集しようとするときは、7日前までに、日時・場所及び協議事項を各協議員に通知しなければならない。ただし、緊急止むを得ないときは、この限りではない。
- 4 連携協議会は、第2条に規定する各号の協議員1名以上の出席をもって成立する。
- 5 連携協議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決すところによる。

(協議事項)

第10条 連携協議会は、次に掲げる事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。

- (1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設、その他の教育課程の実施に関する基本的な事項
- (2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施、その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

(協議員以外の出席)

第11条 議長は、必要に応じ、協議員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。ただし、議決に加えることはできない。

(会議録の作成)

第12条 議長は、事務部総務課職員に会議録を作成させるものとする。

(会議の事務)

第13条 連携協議会に関する事務は、事務部総務課で行う。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、連携協議会の議事及び運営について必要な事項は、連携協議会が定める。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

理学療法学科 学位授与方針

理学療法学科の養成する人材像

- (1) 理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。
- (2) 理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸とQOL維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理学療法学科では、所定の規則に基づき131単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に理学療法士（専門職）の学位を授与する。

- DP1. 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP2. 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。
- DP3. 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。
- DP4. 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。
- DP5. 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP 1	DP 2	DP3	DP4	DP 5	
			必修	選択						
基礎科目	初年次教 育科目	学びの基盤	1前	1		◎				
		コミュニケーション論	1前	1			◎			
	人間と社会科学系科目	音楽	1後		1	◎				
		キャリア発達論	2後	1		◎				
		教育学	1前	1		◎				
		倫理学入門	1前	1		◎				
		哲学入門	1前		1	◎				
		心理学	1後	1		◎				
		経営学入門	2前		1	◎				
		社会学	1前		1	◎				
		日本の伝統文化	1前		1	◎				
		日本の近代史	1前		1	◎				
		体育	1後		1	◎				
	自然科学系科目	生物学	1前	1		◎				
		物理学Ⅰ	1前	1		◎				
		物理学Ⅱ	1後		1	◎				
		統計学	2後	1		◎				
		数学	1前		1	◎				
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1		◎	◎			
		英語Ⅱ	1後		1	◎	◎			
		韓国語	2後		1	◎	◎			
		中国語	2後		1	◎	◎			
	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2				◎		
解剖学Ⅱ		1後	2				◎			
解剖学Ⅲ		1後	1				◎			
生理学Ⅰ		1前	2				◎			
生理学Ⅱ		1後	2				◎			
運動学Ⅰ		1後	1				◎			
運動学Ⅱ		2前	1				◎			
運動学実習		2後	1				◎			
運動生理学実習		2後	1				◎			
人間発達学		1後	1		◎					
救急援助論		2後	1				◎			
内科学Ⅰ		2前	1				◎			
内科学Ⅱ		2後	1				◎			
神経内科学Ⅰ		2前	1				◎			
神経内科学Ⅱ		2後	1				◎			
整形外科Ⅰ		2前	1				◎			
整形外科Ⅱ		2後	1				◎			
精神医学		1後	1				◎			
小児科学	2前	1				◎				





作業療法学科 学位授与方針

作業療法学科の養成する人材像

(1) 子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。

(2) 地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の確立に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

作業療法学科では、所定の規則に基づき130単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法学士（専門職）の学位を授与する。

DP1. 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。

DP2. 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。

DP3. 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。

DP4. 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。

DP5. 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		DP 1	DP 2	DP3	DP4	DP 5
			必修	選択					
①基礎科目	初年次教育 科目	学びの基盤	1前	1		◎			
		コミュニケーション論	1前	1			◎		
	人間と社会系科目	音楽	1後		1	◎			
		キャリア発達論	2後	1		◎			
		教育学	1前	1		◎			
		倫理学入門	1前	1		◎			
		哲学入門	1前		1	◎			
		心理学	1後	1		◎			
		経営学入門	2前		1	◎			
		社会学	1前	1		◎			
		日本の伝統文化	1前		1	◎			
		日本の近代史	1前		1	◎			
		体育	1後		1	◎			
		自然科学系科目	生物学	1前	1		◎		
	物理学Ⅰ		1前	1		◎			
	物理学Ⅱ		1後		1	◎			
	統計学		2後	1		◎			
	数学		1前		1	◎			
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1		◎	◎		
		英語Ⅱ	1後		1	◎	◎		
韓国語		2後		1	◎	◎			
中国語		2後		1	◎	◎			
作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2				◎		
	解剖学Ⅱ	1後	2				◎		
	解剖学Ⅲ	1後	1				◎		
	生理学Ⅰ	1前	2				◎		
	生理学Ⅱ	1後	2				◎		
	運動学Ⅰ	1前	1				◎		
	運動学Ⅱ	1後	1				◎		
	運動学実習	2前	1				◎		
	人間発達学	1後	1		◎				
	救急援助論	2後	1				◎		
	内科学Ⅰ	2前	1				◎		
	内科学Ⅱ	2後	1				◎		
	神経内科学Ⅰ	2前	1				◎		
	神経内科学Ⅱ	2後	1				◎		
	整形外科Ⅰ	2前	1				◎		
	整形外科Ⅱ	2後	1				◎		
	精神医学	2前	1				◎		

② 職業専門科目

小児科学	2前	1				◎		
老年医学	2前	1				◎		
薬理学概論	1後	1				◎		
予防医学	3前	1				◎		
画像診断学	2前	1				◎		
栄養学	2前	1				◎		
社会福祉学	2後	1		◎				
地域包括ケア論	2後	1				◎	◎	◎
リハビリテーション概論	1前	1		◎		◎		
作業療法学総論	1前	1				◎		
基礎作業学	1前	1				◎		
基礎作業学実習 I	1前	1				◎		
基礎作業学実習 II	1後	1				◎		
作業療法研究法	3前	1				◎		
作業療法管理・制度論	1後	1				◎		
作業療法と倫理	1後	1				◎		
作業療法評価学総論	1後	1				◎		
身体障害作業療法評価学実習 I	2前	1				◎		
身体障害作業療法評価学実習 II	2前	1				◎		
精神障害作業療法評価学実習	2前	1				◎		
発達障害作業療法評価学実習	2前	1				◎		
身体障害作業療法基礎技術論	2後	1				◎		
運動器疾患作業療法学実習	2後	1				◎		
中枢神経疾患作業療法学実習	2後	1				◎		
高次脳機能障害作業療法学実習	3前	1				◎		
精神障害作業療法学	2後	1				◎		
精神障害作業療法学実習	3前	1				◎		
発達障害作業療法学実習 I	2後	1				◎		
発達障害作業療法学実習 II	3前	1				◎		
老年期障害作業療法学	2後	1				◎		
老年期障害作業療法学実習	3前	1				◎		
日常生活活動論実習	2前	1				◎		
社会生活行為論実習	2前	1				◎		
作業分析活用論	2後	1				◎		
作業分析活用論実習	2後	1				◎		
家族援助論	3前	1				◎		
住環境支援論	3前	1				◎		
作業療法義肢装具実習	2後	1				◎		
生活行為向上マネジメント論実習	3前	1				◎		
地域生活作業療法学総論	2前	1			◎	◎		
地域生活作業療法学実習 I	2後	1			◎	◎		
地域生活作業療法学実習 II	2後	1			◎	◎		
地域生活作業療法学実習 III	3前	1			◎	◎	◎	
作業療法見学実習 I	1後	1		◎	◎	◎		
作業療法見学実習 II	2前	1		◎	◎	◎		
作業療法評価実習	3前	5		◎	◎	◎		
作業療法総合臨床実習 I	3後	7		◎	◎	◎		
作業療法総合臨床実習 II	4前	7		◎	◎	◎		
作業療法地域実習	4前	1		◎	◎	◎	◎	

職業実践科目群



理学療法学科 履修モデル1 ヘルスプロモーションに関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					ヘルスプロモーションに関連する就職先 地方自治体（健康教室・高齢者サロン）、 健康増進施設、企業の健康推進室、 健康関連企業など				
		倫理学入門	1	音楽	1													
		哲学入門	1	体育	1													
		日本の伝統文化	1															
		日本の近代史	1															
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1			統計学	1									
		物理学Ⅰ	1															
		数学	1															
	語学教育科目	英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1			韓国語	1									
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1							
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1							
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1									
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1									
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1									
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1									
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1									
						栄養学	1											
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1	
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1	
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					内部障害応用論実習	2	
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					スポーツ障害応用論実習	2	
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1							
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								地域理学療法	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1							
										内部障害系理学療法実習Ⅱ	1							
										地域理学療法実習	1							
								理学療法評価実習	4									
展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1				
			労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1						
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1						
											体力測定論	1						
											健康増進実践演習	1						
											健康増進実践実習	1						
											遊びとレクリエーション	1						
											生きがい創造	2						
総合科目												リハビリテーション総合演習	1	協働連携論総合実習	2			
														理学療法総合実習	1			
各期合計単位	1年前期	20	1年後期	20	2年前期	19	2年後期	18	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9		
4年間合計単位		131																

卒業に必要な選択科目

理学療法学科 履修モデル2 生涯スポーツに関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1		キャリア発達論	1										生涯スポーツに関連する就職先 地方自治体・教育機関（部活指導）、 体育協会、スポーツクラブ、フィットネスクラブ、 スポーツ・健康・食・ファッション関連企業など
		倫理学入門	1	音楽	1													
		哲学入門	1	体育	1													
		社会学	1															
		日本の伝統文化	1															
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1		統計学	1										
		物理学Ⅰ	1	英語Ⅱ	1		中国語	1										
		数学	1															
語学教育科目	英語Ⅰ	1																
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1							
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1							
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1									
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1									
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1									
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1									
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1									
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1	
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1	
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					スポーツ障害応用論実習	2	
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					神経筋骨格障害応用論実習	2	
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1							
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								地域理学療法	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1							
展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1				
			労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1						
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1						
											フィットネス論	2						
											ランニングトレーニング論	2						
											ゴルフトレーニング論	2						
総合科目																		
各期合計単位	1年前期	21	1年後期	20	2年前期	18	2年後期	18	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9		
4年間合計単位		131																

     卒業に必要な選択科目

理学療法学科 履修モデル3 生活工学に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1																
		コミュニケーション論	1																
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					生活工学に関連する就職先 就労支援事業所（作業所）、放課後等デイサービス、 グループホーム、特別支援学校、 リハビリ機器開発企業、福祉機器メーカーなど					
		倫理学入門	1	音楽	1														
		哲学入門	1	体育	1														
		社会学	1																
		日本の伝統文化	1																
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1			統計学	1										
		物理学Ⅰ	1																
		数学	1																
語学教育科目	英語Ⅰ	1					韓国語	1											
							中国語	1											
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1								
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1								
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1										
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1										
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1										
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1										
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1										
						栄養学	1												
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1		
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1		
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					神経筋骨格障害応用論実習	2		
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					内部障害応用論実習	2		
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1								
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1								
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1								
								地域理学療法	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1								
										内部障害系理学療法実習Ⅱ	1								
										地域理学療法実習	1								
								理学療法評価実習	4										
展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1					
			労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1							
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1							
											福祉工学地域活用論	1							
											ロボット工学地域活用論基礎	1							
											ロボット工学地域活用論応用	2							
総合科目																			
各期合計単位	1年前期	20	1年後期	19	2年前期	19	2年後期	19	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9			
4年間合計単位		131																	

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル1 児童期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1																
		コミュニケーション論	1																
	人間と社会系科目	教育学	1	音楽	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					児童期に関連する就職先 保育園、小学校、特別支援学校、 学童保育、放課後等デイサービスなど					
		倫理学入門	1	心理学	1														
		哲学入門	1	体育	1														
		社会学	1																
		日本の伝統文化	1																
	自然科学系科目	生物学	1					統計学	1										
		物理学 I	1																
		数学	1																
	語学教育科目	英語 I	1	英語 II	1			韓国語	1										
								中国語	1										
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学 I	2	解剖学 II	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1								
		生理学 I	2	解剖学 III	1	内科学 I	1	内科学 II	1										
		運動学 I	1	生理学 II	2	神経内科学 I	1	神経内科学 II	1										
		リハビリテーション概論	1	運動学 II	1	整形外科 I	1	整形外科 II	1										
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1										
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1										
						老年医学	1												
						画像診断学	1												
						栄養学	1												
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習 II	1	身体障害作業療法評価学実習 I	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習 I	7	作業療法総合臨床実習 II	7				
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習 II	1	運動器疾患作業療法学実習	1	高次脳機能障害作業療法学実習	1			作業療法地域実習	1				
		基礎作業学実習 I	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法学実習	1	精神障害作業療法学実習	1								
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法学	1	発達障害作業療法学実習 II	1								
				作業療法見学実習 I	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法学実習 I	1	老年期障害作業療法学実習	1								
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法学	1	家族援助論	1								
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1								
						作業療法見学実習 II	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1								
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法学実習 III	1								
								地域生活作業療法学実習 I	1	作業療法評価実習	5								
								地域生活作業療法学実習 II	1										
		展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1			
地域社会共生論	2		地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1					
										身体障がい者就労環境論	2	児童期地域生活適応論実習	1						
											児童期地域生活適応論	2							
総合科目														作業療法総合実習 I	1				
														作業療法総合実習 II	1				
														協働連携論総合実習	2				
各期合計単位	1年前期	23	1年後期	19	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4			
4年間合計単位		130																	

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル2 成人期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1																
		コミュニケーション論	1																
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					成人期に関連する就職先 就労移行支援事業所、特例子会社、 生活訓練施設、グループホームなど					
		倫理学入門	1	体育	1														
		哲学入門	1																
		社会学	1																
		日本の伝統文化	1																
		日本の近代史	1																
	自然科学系科目	生物学	1				統計学	1											
		物理学Ⅰ	1																
		数学	1																
	語学教育科目	英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1		韓国語	1											
						中国語	1												
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1								
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1										
		運動学Ⅰ	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	神経内科学Ⅱ	1										
		リハビリテーション概論	1	運動学Ⅱ	1	整形外科Ⅰ	1	整形外科Ⅱ	1										
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1										
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1										
						老年医学	1												
						画像診断学	1												
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習Ⅱ	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習Ⅰ	7	作業療法総合臨床実習Ⅱ	7				
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	1	運動器疾患作業療法学実習	1	高次脳機能障害作業療法学実習	1			作業療法地域実習	1				
		基礎作業学実習Ⅰ	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法学実習	1	精神障害作業療法学実習	1								
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法学	1	発達障害作業療法学実習Ⅱ	1								
				作業療法見学実習Ⅰ	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法学実習Ⅰ	1	老年期障害作業療法学実習	1								
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法学	1	家族援助論	1								
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1								
						作業療法見学実習Ⅱ	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1								
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法学実習Ⅲ	1								
								地域生活作業療法学実習Ⅰ	1	作業療法評価実習	5								
								地域生活作業療法学実習Ⅱ	1										
		展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1			
			地域社会共生論	2	地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1			
										身体障がい者就労環境論	2	成人期地域生活適応論実習	1						
総合科目																	作業療法総合実習Ⅰ	1	
																	作業療法総合実習Ⅱ	1	
																	協働連携論総合実習	2	
各期合計単位	1年前期	24	1年後期	18	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4			
4年間合計単位		130																	

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル3 老年期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	音楽	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					老年期に関連する就職先 通所介護施設、特別養護老人ホーム、 サービス付き高齢者住宅、 有料老人ホームなど				
		倫理学入門	1	心理学	1													
		社会学	1	体育	1													
		日本の伝統文化	1															
		日本の近代史	1															
	自然科学系科目	生物学	1				統計学	1										
		物理学Ⅰ	1															
		数学	1															
	語学教育科目	英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1		韓国語	1										
							中国語	1										
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1							
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1									
		運動学Ⅰ	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	神経内科学Ⅱ	1									
		リハビリテーション概論	1	運動学Ⅱ	1	整形外科Ⅰ	1	整形外科Ⅱ	1									
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1									
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1									
						老年医学	1											
						画像診断学	1											
						栄養学	1											
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習Ⅱ	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習Ⅰ	7	作業療法総合臨床実習Ⅱ	7			
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	1	運動器疾患作業療法学実習	1	高次脳機能障害作業療法学実習	1			作業療法地域実習	1			
		基礎作業学実習Ⅰ	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法学実習	1	精神障害作業療法学実習	1							
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法学	1	発達障害作業療法学実習Ⅱ	1							
				作業療法見学実習Ⅰ	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法学実習Ⅰ	1	老年期障害作業療法学実習	1							
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法学	1	家族援助論	1							
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1							
						作業療法見学実習Ⅱ	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1							
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法学実習Ⅲ	1							
								地域生活作業療法学実習Ⅰ	1	作業療法評価実習	5							
								地域生活作業療法学実習Ⅱ	1									
		展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1		
地域社会共生論	2		地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1				
										身体障がい者就労環境論	2	老年期地域生活適応論実習	1					
											老年期地域生活適応論	2						
総合科目														作業療法総合実習Ⅰ	1			
														作業療法総合実習Ⅱ	1			
														協働連携論総合実習	2			
各期合計単位	1年前期	23	1年後期	19	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4		
4年間合計単位		##																

卒業に必要な選択科目

# びわこリハビリテーション専門職大学 既修得単位の認定に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、本学学則第16条の規定に基づき、既修得単位の認定に関し必要な事項を定める。

(単位認定の対象とする入学前の既修得単位等)

第2条 単位認定の対象とすることができる入学前の既修得科目は、本学において開講する基礎科目、職業専門科目の理学療法／作業療法理論科目群、展開科目の授業科目（以下「当該授業科目」という。）の内容に見合う授業科目とする。

2 単位認定の対象とすることができる入学前の既修得単位等は、次の各号に掲げるとおりとする。

一 大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

二 前号以外の教育施設等における学修のうち、次に掲げるもの

ア 大学又は短期大学の専攻科における学修

イ 高等専門学校のカリキュラム又は専攻科における学修

ウ 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修

エ 文部科学大臣認定技能審査（英検、漢検等）に係る学修および TOEIC、TOEFL 又はこれらと同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、大学が大学教育相当水準と認めたもの

3 単位の認定の対象とすることのできる既修得単位は、在学中に他大学等で修得した単位と合わせて 60 単位以内とする。

(認定の申請)

第3条 単位の認定を受けようとする者は、既修得単位認定願に当該大学及び短期大学等の成績証明書（在学期間を明記したもの）及び認定を受けようとする既修得科目の概要を記載した書類を添えて入学した年度の前学期授業開始1週間以内に学長に提出しなければならない。

(単位の認定)

第4条 単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

(認定の可否)

第5条 学長は、認定の可否について、既修得単位認定通知書により学生に通知する。

(社会人の経験に対する単位の認定)

第6条 社会人の「専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力」の単位認定は、本学において開講する展開科目の授業科目（以下「当該授業科目」という。）

の内容に見合う授業科目とする。

2 単位認定の対象とすることができる入学前の社会人の経験とは、法令の規定に基づく職業資格と技能検定、技能審査その他の実務の能力に関する審査、または同等以上の社会的評価を有する実務の能力に関する審査であって、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 審査を行う者が国、地方公共団体、独立行政法人その他の公益的法人であること
- 二 審査の内容が、学校教育法第八十三条の二第一項に規定する専門職大学の目的に照らして適切なものであること
- 三 審査が全国的な規模において、毎年一回以上行われるものであること
- 四 審査の実施の方法が、適切かつ公正であること

3 単位の認定の対象とすることのできる既修得単位は 30 単位を超えない範囲とし、在学中に他大学等で修得した単位と合わせて 60 単位以内とする。

(社会人の経験に対する単位の認定の申請)

第7条 単位の認定を受けようとする者は、資格等を証明する証書の写しを入学した年度の前学期授業開始1週間以内に学長に提出しなければならない。

(社会人の経験に対する単位の認定)

第8条 単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

(社会人の経験に対する単位の認定の可否)

第9条 学長は、認定の可否について、既修得単位認定通知書により学生に通知する。

(外国の大学等を卒業又は中途退学した場合)

第10条 外国の大学等を卒業又は中途退学した後、本学に入学した学生の単位の認定についても、この内規により取り扱う。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、既修得単位の認定に関し必要な事項は、教授会において定める。

附 則

本内規は、令和2年4月1日から施行する。

# 実習の手引き

学校法人 藍野大学

びわこリハビリテーション専門職大学

リハビリテーション学部 理学療法学科

## I. 各学年の臨床実習

配当年次	科目名	単位数	時間	(時期)
1年次	前期	理学療法見学実習Ⅰ	必修(1)	45時間(8月頃)
	後期	理学療法見学実習Ⅱ	必修(1)	45時間(2月頃)
2年次	前期	理学療法見学実習Ⅲ	必修(1)	45時間(8月頃)
3年次	前期	理学療法評価実習	必修(4)	180時間(6月頃)
	後期	理学療法総合臨床実習Ⅰ	必修(6)	270時間(1月頃)
4年次	前期	理学療法総合臨床実習Ⅱ	必修(6)	270時間(4月頃)
		理学療法地域実習	必修(1)	45時間(6月頃)

## II. 実習規定

実習科目の履修に関しては、次の実習規定により履修条件を定める。

理学療法見学実習Ⅰ：必要履修科目は定めない。

理学療法見学実習Ⅱ：必要履修科目は定めない。

理学療法見学実習Ⅲ：必要履修科目は定めない。

理学療法評価実習：理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を修得していること。

理学療法総合臨床実習Ⅰ：理学療法評価実習の単位を修得していること。

理学療法総合臨床実習Ⅱ：理学療法総合臨床実習Ⅰの単位を修得していること。

理学療法地域実習：理学療法総合臨床実習Ⅰの単位を修得していること。

## III. 各実習の目標と内容

### 1. 理学療法見学実習Ⅰ

(目標)

対象者や職員の方とコミュニケーションをとり、専門職としての適切な行動や言動を理解する。理学療法士の仕事を知り、施設の役割、施設における理学療法士の役割を理解する。理学療法士は地域で活躍の場が広がっているということを1年次に認識し、今後の学習意欲のさらなる向上を目標とする。

(内容)

滋賀県を中心とした介護老人保健施設において、理学療法業務の見学および管理指導の下、対象者の方とコミュニケーションをとる。また、理学療法業務における周辺領域の補助、対象者の生活支援の一部の補助を行う。

### 2. 理学療法見学実習Ⅱ

(目標)

理学療法士が行う評価と治療を見学し、評価方法の進め方と評価技術の重要性について理解する。医療機関における理学療法士の具体的な仕事内容を理解し、自己の目標を明確にし、医療従事者としてのコミュニケーションや基本的態度について認識することを目標とする。

(内容)

滋賀県を中心とした医療機関において、理学療法業務の見学および管理指導の下、対象者と医療面接を行う。また、理学療法業務における周辺領域の補助を行う。

### 3. 理学療法見学実習Ⅲ

(目標)

適切な介助、援助をするために、必要な知識が何であるのかを自ら気づくことができる。また、1年次の学びを基盤に、理学療法士として役割を理解し、適切なコミュニケーションや行動がとれることを目標とする。

(内容)

1年次の理学療法見学実習Ⅰでの自らの学び、指導者からの指導、学内での振り返りや再学習を踏まえ、再度見学実習Ⅰと同様の施設で実習を行う。

滋賀県を中心とした介護老人保健施設において、理学療法士の業務の見学および管理指導の下、対象者の方とコミュニケーションをとる。また、理学療法業務における周辺領域を一部拡大し、補助の範囲を増やして行う。また、対象者の方の食事や入浴といった日常生活には欠かせない行為の生活支援の一部の補助を行う。

### 4. 理学療法評価実習

(目標)

診療参加型実習を行い、理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとることができる。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、患者の状態に関する評価を理学療法士の管理指導の下、リスク管理技術の水準Ⅰ（スタンダードプリコーション、バイタルサインの測定等）、理学療法評価技術の水準Ⅰ（情報収集、検査・測定、姿勢評価、日常生活活動等）の内容を実践することを目標とする。

※水準Ⅰ：指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目（例：症状・病態の確認、バイタルサインの測定、意識レベルの評価、転倒予防、褥瘡予防、基本動作・移動動作介助など）

(内容)

診療参加型実習において、患者評価場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、理学療法士が行う検査・測定を指導者の監視の下に一部実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導の中から自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

### 5. 理学療法総合臨床実習Ⅰ

(目標)

診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案までの一連の思考過程を理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰ（関節可動域運動、筋力増強運動、バランス練習、基本動作練習、歩行練習、移動動作練習等）の一部を実践することを目標とする。

(内容)

診療参加型実習において、患者評価場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、理学療法士が行う検査・測定を指導者の監視の下に一部実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導の中から自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

## 6. 理学療法総合臨床実習Ⅱ

(目標)

診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定までの一連の理学療法プロセスを理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践することを目標とする。

(内容)

診療参加型実習において、評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、理学療法士が行うおおよそすべての検査・測定や治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導の中から自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

## 7. 理学療法地域実習

(目標)

地域で生活を送る障がい者の現状を知り、介護保険分野における理学療法士の仕事についてだけでなく多職種との連携方法や多職種の業務についても理解を深めることを目標とする。

(内容)

滋賀県を中心とした訪問リハビリテーション、および通所リハビリテーション施設において、理学療法士の介護保険分野における業務を見学し一部補助を行う。

# IV. 実習内容

## 1. 実習場所

配当年次		科目名	実習場所
1年次	前期	理学療法見学実習Ⅰ	滋賀県を中心とした介護老人保健施設
	後期	理学療法見学実習Ⅱ	医療提供施設
2年次	前期	理学療法見学実習Ⅲ	理学療法見学実習Ⅰと同一施設
3年次	前期	理学療法評価実習	医療提供施設
	後期	理学療法総合臨床実習Ⅰ	医療提供施設
4年次		理学療法総合臨床実習Ⅱ	医療提供施設
	前期	理学療法地域実習	訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーション施設

## 2. 実習形態

実習前、実習中、実習後で試験や提出課題等の取り組みを実施する。

実習前：筆記試験、実習前レポート（理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法地域実習）、客観的臨床能力試験（OSCE）（理学療法評価実習、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ）

実習中：学外実習

実習後：口頭試問、客観的臨床能力試験（OSCE）（理学療法評価実習、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ）

※実習前は、知識レベルの確認のための筆記試験、実習施設の概要や役割をまとめる実習前レポートの作成、技術レベルの確認を行う OSCE により、各実習に臨む一定レベルの水準に到達していることの確認を行う。

※理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法地域実習における実習後の取り組みは、実習ポートフォリオをもとに、学校にて凝縮ポートフォリオを作成し、提出課題とする。

※実習後の口頭試問では、実習で経験した疾患の理解、検査・治療を実施する上で必要な解剖学・生理学・運動学の知識、予後の理解、評価の意義、評価結果の解釈、ICF を用いた障害の構造の理解、治療技術の選択と実施の方法等について試験を行う。

※実習後の客観的臨床能力試験（OSCE）では、各実習で経験した疾患・障害領域ごとの患者・場面設定のもと、臨床に関する能力・技能の試験を行う。

## 3. 試験および提出課題

		試験		提出課題
		筆記試験・口頭試問（試験範囲）	OSCE（課題例）	
理学療法 見学実習 Ⅰ	前	筆記試験 （リハビリテーション概論 コミュニケーション論 基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ）		実習前レポート
	後			実習ポートフォリオ 成長報告書 凝縮ポートフォリオ(実 習後に学校で作成)
理学療法 見学実習 Ⅱ	前	筆記試験 （理学療法見学実習Ⅰの筆記試験 の範囲に加えて、理学療法評価学）		実習前レポート
	後			実習ポートフォリオ 成長報告書 凝縮ポートフォリオ(実 習後に学校で作成)
理学療法 見学実習 Ⅲ	前	筆記試験 （理学療法見学実習Ⅱの筆記試験 の範囲に加えて、老年医学）		実習前レポート

	後			実習ポートフォリオ 成長報告書 凝縮ポートフォリオ(実習後に学校で作成)
理学療法 評価実習	前	筆記試験 基礎医学(解剖学・生理学・運動学) 疾患学(内科・整形外科・神経内科・小児科等) 理学療法評価学	基本的な理学療法評価 (医療面接、血圧・脈拍、関節可動域測定、徒手筋力検査、形態計測、反射、片麻痺運動機能検査等)	
	後	口頭試問 (凝縮ポートフォリオをもとに実習で経験した内容から出題)	実習で経験した疾患・障害領域に合わせて患者設定し、理学療法評価水準Ⅰの内容から出題	実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 成長報告書 凝縮ポートフォリオ
理学療法 総合臨床 実習Ⅰ	前	筆記試験 (理学療法評価実習の筆記試験の範囲に加えて、運動療法学・物理療法学・日常生活活動学・義肢装具学)	関節可動域運動(基本的な四肢・体幹の運動が適切に実施できるレベル) 歩行補助具の適合、歩行の評価・分析 物理療法の実施	
	後	口頭試問 (凝縮ポートフォリオをもとに実習で経験した内容から出題)	実習で経験した疾患・障害領域に合わせて患者設定し、理学療法評価及び治療技術の水準Ⅰの内容から出題	実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 成長報告書 凝縮ポートフォリオ
理学療法 総合臨床 実習Ⅱ	前	筆記試験 (理学療法総合臨床実習Ⅰの筆記試験の範囲に加えて、障害別理学療法治療学)	関節可動域訓練(患者想定し、基本的な四肢・体幹の運動が適切に実施できるレベル) 起居動作(寝返り・起き上がり等)とベッド・車いす間の移乗指導と介助 歩行の指導と介助	
	後	口頭試問 (凝縮ポートフォリオをもとに実習で経験した内容から出題)	実習で経験した疾患・障害領域に合わせて患者設定し、理学療法評価及び治療技術の水準Ⅰの内容から出題	実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 成長報告書 凝縮ポートフォリオ

※全ての実習において各種届出書類がある場合提出する。

#### 4. 評定

評価表における評定は、理学療法評価実習・理学療法総合臨床実習Ⅰ・理学療法総合臨床実習Ⅱの各

評価表にある評定項目について評定基準に従ってご記入下さい。

その際、以下の点（「評定記入」参照）に注意していただき、ご記入下さいますようお願いいたします。

### 1) 評定記入

(1) 臨床実習終了時における到達度を評定して下さい。

- ・評価表の各項目について、以下の基準に基づき評定して下さい。

**優：指導がなくてもできた**

**良：指導をして改善できた**

**可：常に多くの指導をすればできた**

**不可：指導してもできなかった**

(2) 評価が不可の項目には、必ずその理由をコメント欄に詳しく記入して下さい。

(3) 記入を終えた評価表は、学生に示しながら説明していただけますようお願いいたします。

(4) 評価表は所定の封筒で、実習終了後直ちに大学へ送付してください。

### 2) 全体の評定（単位認定基準）

各実習における評定を以下に定める。

			実習前			実習中				実習後		
			筆記試験	OSCE	実習前レポート	実習指導者評価	実習ポートフォリオ	体験チェックリスト	成長報告書	凝縮ポートフォリオ	口頭試問	OSCE
理学療法見学実習Ⅰ	1年次	前期	●		●	●	●		●	●		
理学療法見学実習Ⅱ	1年次	後期	●		●	●	●		●	●		
理学療法見学実習Ⅲ	2年次	前期	●		●	●	●		●	●		
理学療法評価実習	3年次	前期	●	●		●	●	●	●	●	●	●
理学療法総合臨床実習Ⅰ	3年次	後期	●	●		●	●	●	●	●	●	●
理学療法総合臨床実習Ⅱ	4年次	前期	●	●		●	●	●	●	●	●	●
理学療法地域実習	4年次	前期	●		●	●	●		●	●		
成績評価			学生の到達水準の確認			60%				40%		

## V. 学生への指導内容

### 1. 注意事項

本学科では、実習にあたり以下の内容を学生に指導しています。

#### 1) 一般的心得

いかなる施設あるいはその中の各部門においても、対象者・職員・施設の円滑な管理運営を図るため、様々な方針や規定が定められている。今回実習を実施する各施設においても各々独自の方針や規定があるため、実習に入る前にその概要を知っておく必要がある。具体的内容については、各施設の実習指導者に確認する。

また、下記の学生が守るべき一般的な心得については、実習開始に先立って熟知しておく。

#### ①時間の使い方について

臨床実習は、学生自身が主体的に学ぶ場である。計画的に時間配分を考え積極的に行動する。ま

た、「対象者から学ぶ」という姿勢を持ち学習の機会を無駄にしない。

## ②実習中の基本的姿勢について

疑問・問題のある場合には、まず自分自身で調べ疑問・問題解決に対する積極的行動をとる。それでもなお解決しない場合には、実習指導者に助言を求める。

## ③実習施設の概要について

施設の概要を事前に学習し、疑問点や実習施設での質問事項を整理しておく。

## ④実習施設への通学について

基本的には学則に準ずるが、自動車・自転車・バイクの使用に際しては実習担当教員に報告し、施設の許可を得る。

## ⑤実習時間について

実習施設には勤務時間についての規定があり、学生もその規定を厳守しなければならない。また、非常時や災害時などについては実習施設の指示に従う。

## ⑥整容について

医療人としての整容・身だしなみには、安全性・機能性・清潔さが必要であるため、以下の項目を守る。

- a. ユニホームの着用が定められている施設においては、大学あるいは施設の指定するユニホームを着用する。また、ユニホームは絶えず清潔なものにするよう心掛ける。上履きもユニホーム同様に、清潔を保つようにする。
- b. 歯、手、爪を清潔に保つ（特に爪は事故防止のために短く切る）。
- c. 男子は、髭をきれいに剃り、髪は見苦しくないようにし、不快感を与えないようにする。女子で長髪の場合は紐などで結び、肩以下の長さにならないようにする。また、アクセサリー・化粧品類の使用についても十分に考慮する。

## ⑦遅刻・早退・欠席について

実習前および実習中の健康管理に努め、遅刻・早退・欠席することのないようにする。万一、遅刻・早退・欠席する場合には、所定の手続きを確実に行う。

## ⑧実習終了に際して

実習中に受けた援助に感謝し、関係者一同に謝辞を表す必要がある。また任意ではあるが、実習指導者に礼状を書き、実習の機会が与えられたことに感謝することが望ましい。

## 2) 対象者に対する責任

対象者に対して何らかの指示が与えられた場合、指示の理由・内容・方法をはっきりと確認し、責任を持って実施することが重要である。対象者に接するにあたっては、専門職に従事しようとするものとして、以下のような心構えを十分認識しておく必要がある。

### ①守秘義務について

対象者に関係する情報の秘密は、厳守しなければならない。私的なメモ類の取り扱いにも注意を払う。不要になった報告書などはシュレッダーにて破棄する。また、カルテ・記録などは実習指導者の許可なく所定の場所から移動させてはならない。

### ②医療人としての行動について

対象者に接する場合、尊敬の念と誠意を持って対処する。馴々しい態度、えこひいきを避ける。ま

た、私的な関係を持つことのないように注意する。

### ③事故発生時の行動について

事故発生の際には、直ちに実習指導者に連絡し指示に従う。また、事故発生報告書を実習指導者に提出する。さらに、その複写を大学にも提出する。

### 3) 職場の人間関係

- ・ 職場全体に対する配慮と礼儀を心掛ける。
- ・ 親しみと誠意を持って接する。
- ・ 信頼関係を築くよう努める。
- ・ なすべきことがわかっている場合は、指示を待つことなく積極的に行なう。
- ・ 職場の一員として、他職員に対して配慮する。
- ・ 職員・施設等の批判をしない。

## 2. 出席・遅刻・早退・欠席

出席の取り扱いは、土曜日および日曜日も含めて実習施設の勤務体制に準ずる。なお、遅刻・早退・欠席については、原則として以下の如く取り扱う。

- ・ 遅刻：始業時間より 30 分以内で遅く出勤した場合
- ・ 早退：終業時間より 30 分以内で早く帰宅した場合
- ・ 遅刻・早退は、2 回で 1 日の欠席とみなす。
- ・ 就業時間の 30 分を越える遅刻・早退は欠席とする。

止むを得ず遅刻・早退・欠席をする場合には、実習指導者および大学に対して速やかに連絡し了解を得るとともに、遅刻・早退・欠席願（届）を実習指導者に提出する。遅刻・早退・欠席の回数またはその理由によっては、不合格あるいは補充実習の対象となる場合がある。ただし、次項 a～f に該当するものはこの限りではない。

- a. 疾病の場合（医師の診断書を添付）
- b. 一親等および二親等死亡の場合（往復に要する日数を除き一親等は 5 日間、二親等は 3 日間とし、会葬礼状などを添付）
- c. 就職試験の場合（受験証明書を添付）
- d. 不慮の事故または災害による場合（事故証明書・被災証明書を添付）
- e. 交通機関のストライキまたは延着の場合（延着証明書などを添付）
- f. その他、正当と認められる理由がある場合（理由書を添付）

## 3. 交通機関不通および暴風・特別警報

交通機関が不通の場合および暴風警報・特別警報が発令された場合の取り扱いは、土曜日および日曜日も含めて実習施設の勤務体制に準ずる。なお、大学での対応は以下の通りとなっている。交通機関不通および暴風・特別警報については、原則として以下の如く取り扱う（授業ならびに試験規定引用）。

- 交通機関の不通（原因の如何を問わず）の場合

開通時刻と授業・試験開始時限

開通時刻	授業・試験開始時限
7 時 00 分までに開通	1 時限（9 時 00 分）から実施
7 時 01 分から 8 時 00 分までに開通	2 時限（10 時 40 分）から実施

8時01分から11時00分までに開通	3時限（13時00分）から実施
11時01分以降に開通	全時限休講

- 暴風警報発令の場合（その他の警報等は対象外）  
各施設における地域に暴風警報が発令された場合は休講とする。  
解除時刻と授業・試験開始時限

解除時刻	授業・試験開始時限
7時00分までに解除	1時限（9時00分）から実施
7時01分から8時00分までに解除	2時限（10時40分）から実施
8時01分から11時00分までに解除	3時限（13時00分）から実施
11時01分以降に解除	全時限休講

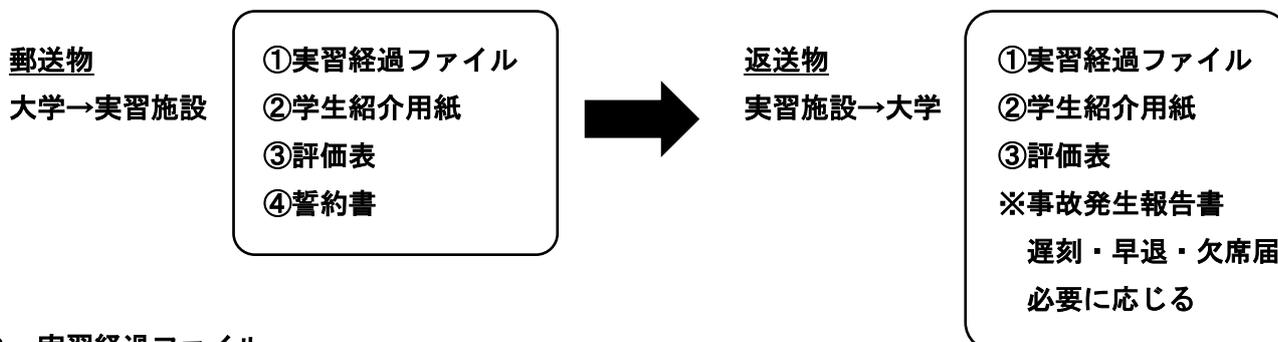
- 特別警報発令の場合（その他の警報等は対象外）  
各施設における地域に特別警報が発令された場合は休講とする。  
解除時刻と授業・試験開始時限

解除時刻	授業・試験開始時限
0時00分までに解除されていない場合	全時限休講

## VI. 実習指導者へのお願い

### 1. 郵送物

実習開始2週間前までに次項①～④を郵送いたしますので、実習終了後1週間以内に評価表および出席表をご記入のうえ④を除く①～③を返送してください。



### 2. 実習経過ファイル

このファイルには、学生が1年次より行ってきた成長報告書と体験チェックリスト（理学療法評価実習、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ）、実習施設間連絡票が入っています。

### 3. 評価表

実習終了後、実習指導者が記入し署名、捺印ください。

### 4. 出席表（評価表の表紙裏に添付）

学生が出席した日付に実習指導者が捺印してください。また、必要事項をご記入ください。

### 5. ポートフォリオ

実習における成果や記録、プロセスを記載する実績歴です。日々作成する「実習ポートフォリオ」と、「実習ポートフォリオ」をもとに、実習終了時期に作成する「凝縮ポートフォリオ」があります。「凝縮

縮ポートフォリオ」は、実習終了時まで実習指導者をご確認ください（理学療法評価実習、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ）。

## 6. ふりかえりシート

週に一度学生が記入し提出いたしますのでご確認し、実習指導者が記入し捺印ください。その後、「実習ポートフォリオ」へ学生がファイリングします。

## 7. 体験チェックリスト

経験した理学療法技術を記録し、修得状況を把握するためのものです。流れは以下に示します。

- ・総合臨床実習Ⅰ、Ⅱの場合、実習開始時、中間（約2週間後、約4週間後）、実習最終時に、学生が自己評価として記載します。
- ・実習指導者は、各項目を確認した後捺印してください。また、必要事項をご記入ください。
- ・実習期間中にすべての項目が、独立実施できないといけないわけではありません。
- ・実習指導者と学生が相談しながら、経験すべき項目を決めていく。

## 8. 成長報告書

実習終了時に、学生が記入し提出いたしますのでご確認し、実習指導者が記入し捺印ください。

## 9. 学生指導

実習指導に際しては、評価表、実習の目標（Ⅲ、各実習の目的と目標）に応じたご指導をください。実習ポートフォリオ、ふりかえりシートを実習指導にご活用ください。また、学生が実施する症例については、水準Ⅰのレベルとし、学生の能力を考慮した上でご指導ください。学生の年齢・学歴などの先入観をいれることなくご指導ください。さらに、更衣室などの実習環境についてもご配慮をお願いします。

## 10. 補充実習

実習期間中に遅刻・早退・欠席などにより、必要な時間数を満たさない場合、本校の指定した施設において補充実習を命ずることがあります。

## 11. 再実習

各実習の総合評価が60点未満の場合、本校が指定した施設において再実習を命ずることがあります。なお、実習規定時間の4分の1以上を欠席した場合は評価を受けることができません。但し、その欠席が次項a～dに該当する場合は、本校が指定した施設において再実習を命ずることがあります。

- a. 病気および負傷のため欠席した者。
- b. 火災、風水害、交通機関の事故などの理由で欠席した者。
- c. 忌引きのため欠席した者。
- d. その他やむを得ない理由により欠席した者。

## 12. 個人情報保護の取り組み

本学科では個人情報保護の観点から次の取り組みを行っています。なお、実習に際して個人情報保護に関する誓約書を作成し郵送いたします。各実習施設に所定の形式がある場合は、事前に大学までご連絡ください。

### 1) 学生の实習における情報の取り扱い

実習中は学生が対象者に理学療法の一部を実施するため診療情報などを閲覧する必要があり、学生にも守秘義務が生じます。また、実習記録の保管、プライバシー保護にも記録と同等の配慮が必要

となります。実習期間中に知り得た情報について守秘義務を遵守し、個人情報の漏洩は不法行為であることを十分指導しておりますが、さらに学生の認識を高めるよう指導をお願いします。

## 2) 実習記録の取り扱い

実習記録の取り扱いは、各実習施設における規則を遵守するよう指導しています。また、実習記録には個人を特定できる内容が含まれていますので、「匿名性」の確保だけが機密の保持になるわけではないということを理解させています。実習記録の取り扱いに関する主な留意点については以下に示す内容に従い指導しています。

- ①記録用紙は、個人を特定する情報（住所、氏名、生年月日、病院、病棟、家族歴や遺伝情報等）を可能な限り記載しないようなフォーマットにする。また、実習施設および実習指導者名は記載せず、大学名と学生氏名のみ記載する。具体例を別に示す。
- ②不必要な情報ならびに不確実な情報は記述しない。
- ③診療記録および実習記録は安易に複写しない。
- ④カンファレンスの資料などに利用するため複写したものは、実習指導者に返却しシュレッダーにかけるなど適切に処分する。
- ⑤個人が特定される可能性がある実習記録などの院外への持ち出しは原則として禁止する。止むを得ず院外に持ち出す際には規則に従う（紛失・散逸の防止に努める。ファイルなどで管理し、第三者の目に触れないようにする）。
- ⑥実習目的以外に利用しない。
- ⑦実習記録の作成にパソコンなどの電子媒体を使用した場合には、ハードディスクや機体にデータが残ることを考慮し、個人所有の電子媒体の使用は避ける。使用する場合は、事前に許可を得る必要がある。また、作成したデータはCDやハードディスクなどの外部機器で自宅にて厳重に保管する。
- ⑧実習終了後、不必要となった記録物やメモ類はシュレッダーにかける。電子媒体は内容を消去するなどの処分を行う。
- ⑨実習終了後の実習記録は、実習指導者が適切に保管・管理する。実習記録を学生が保管する場合は、その取り扱いを適切に行う。

## 3) 学生による記録の記載

学生が対象者記録に記載することは原則として行わない。記録した場合は、記載した学生と記載内容の確認を行った者の両者の署名を行う。

## 4) 実習記録の開示への対応

学生の実習記録は実習目的を達成するための手段であり、公的な対象者記録とは異なるため、原則として実習記録を開示する必要はないと考えられます。しかし、開示を求めた対象者の状況、病院の設置主体、当該地域の条例、実習記録の内容などにより、場合によっては開示しなければならないこともありますので、その場合は適切な対応をよろしくお願いします。

## VII. ハラスメント

本校ではハラスメントに関して、「ハラスメントとは、相手側の意に反する言動などにより、相手側に

不快感や不利益を与え、教育・研究、就学および就労の環境を悪化されること」と定義し、ハラスメント防止を実施しています。臨床における実習期間においても同様とし、実習指導者ならびに関係者の方にもご理解とご配慮いただくようお願いいたします。以下に、ハラスメントに関する主な指導内容を記載します。

1. セクシュアル・ハラスメントとは、性的嫌がらせを意味し、性的差別を含む性的な言動によって、相手方の人格を傷つけることをいう。このような言動は、男性か女性か、あるいは学生か教員や実習指導者かといった性別・地位・立場などには関係なく起こり得るものである。
2. アカデミック・ハラスメントとは、教員や実習指導者などの教育上優位な地位にある者が、その地位や権限を利用するまたは逸脱して、教育・指導を受ける学生の修学環境や学習・研究意欲を著しく損うような不適切な言動や行為を行うことをいう。
3. パワー・ハラスメントとは、優位な地位にある者が、その地位や権限を利用するもしくは逸脱して学生の生活環境や意欲を著しく阻害するような不適切な言動や指導などを行うことをいう。
4. 学生は、まず誤解されるような言動を慎み、学生らしい行動を心がけてください。しかし、もしハラスメントを受けたり、「おかしいな」、「嫌だな」と思った場合は一人で悩まないで、まず教員に連絡を入れてください。自分だけで判断して解決しないで、まず相談してください。

#### Ⅷ. 実習中の事故など緊急時の連絡

万一実習中に事故が発生した場合、直ちに実習指導者に報告するよう指導しています。事故報告があった場合、下記までご連絡をお願い致します。

##### 〔緊急連絡先〕

平日（8:00～18:00）：大学 TEL 0749-46-2311（代表）、0749-46-2322（学科直通）

平日の時間外、休日：学科携帯電話（080-3823-7999）

## 理学療法学科

〒527-0145

滋賀県東近江市北坂町 967 番地

TEL (0749) 46-2311 (代表)

(0749) 46-2322 (直通)

(080) 3823-7999 (携帯)

FAX (0749) 46-2313

# 実習の手引き

学校法人 藍野大学

びわこリハビリテーション専門職大学

リハビリテーション学部 作業療法学科

## I. 各学年の臨床実習

配当年次	科目名	単位数	時間	時期
1年次	後期 作業療法見学実習 I	必修 (1)	45 時間	(3月頃)
2年次	前期 作業療法見学実習 II	必修 (1)	45 時間	(8月頃)
3年次	前期 作業療法評価実習	必修 (5)	225 時間	(7月頃)
	後期 作業療法総合臨床実習 I	必修 (7)	315 時間	(1月頃)
4年次	前期 作業療法総合臨床実習 II	必修 (7)	315 時間	(4月頃)
	前期 作業療法地域実習	必修 (1)	45 時間	(6月頃)

## II. 実習規定

実習科目の履修に関しては、次の実習規定により履修条件を定める。

作業療法見学実習 I：必要履修科目は定めない。

作業療法見学実習 II：必要履修科目は定めない。

作業療法評価実習：作業療法見学実習 I・II の単位を修得していること。

作業療法総合臨床実習 I：作業療法評価実習の単位を修得していること。

作業療法総合臨床実習 II：作業療法総合臨床実習 I の単位を修得していること。

作業療法地域実習：作業療法総合臨床実習 I の単位を修得していること。

## III. 各実習の目標と内容

各実習の目標と内容は以下のとおりである

### 1. 作業療法見学実習 I

(目標)

医療人としての接遇・態度を身につけること、作業療法士の仕事を知り、施設の役割、施設における作業療法士の役割を理解すること。そして作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすることで、作業療法における施設特性を理解すること。

(内容)

滋賀県を中心とした医療機関、介護保険関連施設において、臨床指導者の指導の下で見学を中心として、実務状況を体感していく。またその経験内容は日々のレポートとして蓄積していくように進める。

### 2. 作業療法見学実習 II

(目標)

医療人としての接遇・態度を身に着けること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関りを説明できること、作業療法が展開される施設特性や空間を理解できること。

(内容)

滋賀県を中心とした医療機関、介護保険施設において、臨床指導者の指導の下で見学と評価の一部を体験及び治療場面を見学し説明を受けることを通して、実務状況を体感・体験し一部考察を進めていくこととする。またその経験内容は日々のレポートとして蓄積していくように進める。

### 3. 作業療法評価実習

(目標)

医療人としての接遇・態度を身に着けること、そして作業療法の対象となる人や疾患像に対する作業療法士の関りを説明できること、作業療法が展開される施設特性や空間を理解できることとする。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、作業療法士の指導管理の下、作業療法評価の一部を実践し、プログラム立案までのプロセスを理解することを目標とする。(作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては考察が困難な点であるために、臨床指導者の指導を基にして思考を進める。)

(内容)

対象者の評価場面において指導者が見本を示したうえで、作業療法士が行う検査・測定を指導者の監視の下に一部実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導の中から自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

### 4. 作業療法総合臨床実習Ⅰ

(目標)

作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶこと。

(内容)

評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、学生自身がその一部を作業療法士が行う検査・測定や治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への評価介入の一連の実施方法や考え方を学んでいくこととする。

### 5. 作業療法総合臨床実習Ⅱ

(目標)

作業療法における評価・治療を含む一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学ぶこと。

(内容)

評価・治療場面のすべてにおいて指導者が見本を示したうえで、学生自身がその一部を作業療法士が行う検査・測定や治療を指導者の監視の下に実践する。これらの実践を記録し、日々の指導者からの指導・助言の下で自ら主体的にテーマを模索し、学習した内容をまとめる。

また、作業療法総合臨床実習Ⅰとは異なった分野・領域となる臨床指導者の指導の下で、診療参加型の体験学習を中心として、作業療法対象者への作業療法介入の一連の実施と経過のまとめ及び再評価を通して作業療法の効果判定の考え方を学んでいくこととする。

### 6. 作業療法地域実習

(目標)

地域で作業療法を行っている施設での実習を通じて、障がい者が地域で生活することの意味や困難を知り、地域医療福祉の理念やその中での作業療法の役割を理解すること。

(内容)

滋賀県を中心とした訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーション施設において、地域作業療法を実施している施設にて指導者の指導のもと介護保険における業務を見学し一部補助を行う。

#### IV. 実習内容

##### 1. 実習場所

配当年次	科目名	実習場所	
1年次 後期	作業療法見学実習Ⅰ	医療提供施設、介護保険関連施設	
2年次 前期	作業療法見学実習Ⅱ	医療提供施設、介護保険関連施設	
3年次 前期	作業療法評価実習	医療提供施設、介護保険関連施設	
	後期	作業療法総合臨床実習Ⅰ	医療提供施設
4年次 前期	作業療法総合臨床実習Ⅱ	医療提供施設	
	前期	作業療法地域実習	訪問リハビリテーションおよび通所リハビリテーション施設

##### 2. 実習形態

実習前、実習中、実習後で実習に向けた取り組みを実施する。

実習前：実習前レポート（作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ、作業療法地域実習）、筆記試験と客観的臨床能力試験（OSCE）（作業療法評価実習、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ）

実習中：学外実習

実習後：実習ポートフォリオの発表（作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ、作業療法地域実習）、客観的臨床能力試験（OSCE）と凝縮ポートフォリオの発表（作業療法評価実習、作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ）

※実習前レポートでは、実習地の施設概要、作業療法士の役割を調べる事を課題としており、実習中の情報収集を通して完成させる事としている。

※実習前の筆記試験は、実習に臨むに際して、実習地で出会うことの多い疾患に対する基本的な知識を問うものである。客観的臨床能力試験（OSCE）は、作業療法士として必要な技能、態度の基本能力を身に付けさせるものである。

※実習後の実習ポートフォリオの発表は、実習にて学生が印象に残っている対象者、作業療法介入の一つを取り上げ「実習ポートフォリオ」の形式にて発表する。

※凝縮ポートフォリオ発表は、学生が実習指導者と一緒に受け持った対象者の作業療法介入の流れをまとめ、本学にて発表を行うことを指す。実習を通して一事例の作業療法の流れを詳細に記述することが望ましいと考えている。

※実習後の客観的臨床能力試験（OSCE）は実習前と同様の課題を行う事で実習での成長を評価する。

### 3. 課題および提出物

	前・後課題		提出課題
	OSCE (課題例)	実習ポートフォリオ or 凝縮ポートフォリオの発表の到達目標	
作業療法見学実習 I		一般情報から作業療法介入場面の報告	実習前レポート 体験チェックリスト 成長報告書 実習ポートフォリオ
作業療法見学実習 II		一般情報から作業療法介入場面の報告 (一部評価結果まで)	実習前レポート 体験チェックリスト 成長報告書 実習ポートフォリオ
作業療法評価実習	基本的な作業療法介入の手技と療法士面接	一般情報から作業療法評価結果の解釈までの一連の作業療法介入過程	体験チェックリスト 成長報告書 実習ポートフォリオ 凝縮ポートフォリオ
作業療法総合臨床実習 I	作業療法総合臨床実習 I で経験しうる技術、手技などの応用的な技能	一般情報から治療プログラム立案までの一連の作業療法介入過程	体験チェックリスト 成長報告書 実習ポートフォリオ 凝縮ポートフォリオ
作業療法総合臨床実習 II	作業療法総合臨床実習で経験しうる技術、手技などの応用的な技能	一般情報から作業療法実施の再評価、考察まで一連の作業療法介入過程	体験チェックリスト 成長報告書 実習ポートフォリオ 凝縮ポートフォリオ
作業療法地域実習		地域作業療法の報告、一連の作業療法介入の報告	実習前レポート 体験チェックリスト 成長報告書 実習ポートフォリオ

※全ての実習において各種届出書類がある場合提出する。

### 4. 評定

評価表における評定は、作業療法見学実習 I ・作業療法見学実習 II ・作業療法評価実習 ・作業療法総合臨床実習 I ・作業療法総合臨床実習 II ・作業療法地域実習の各評価表にある評定項目について評定基準に従ってご記入下さい。

その際以下の点 (「評定記入」参照) に注意していただき、ご記入下さいますようお願いいたします。

#### 1) 評定記入

(1) 総括的評価として実習終了時における到達度を評定して下さい。

評価表の各項目について、以下の基準に基づき評価して下さい。

**優：指導がなくてもできた**

**良：指導して改善できた**

**可：常に多くの指導をすればできた**

**不可：指導してもできなかった**

- (2) 評価が不可判定の項目には、必ずその理由をコメント欄に詳しく記入して下さい。
- (3) 記入を終えた評価表は、学生に示しながら説明していただけますようお願いいたします。
- (4) 評価表は所定の封筒で、実習終了後直ちに大学へ送付してください。

## 2) 全体の評価

各実習における評価を以下に定める。

			実習前			実習中				実習後		
			筆記試験	OSCE	実習前レポート	実習指導者評価	実習ポートフォリオ	体験チェックリスト	成長報告書	発表	凝縮ポートフォリオ	OSCE
作業療法見学実習Ⅰ	1年次	後期			●	●	●	●	●	●		
作業療法見学実習Ⅱ	2年次	前期			●	●	●	●	●	●		
作業療法評価実習	3年次	前期	●	●		●	●	●	●	●	●	●
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3年次	後期	●	●		●	●	●	●	●	●	●
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4年次	前期	●	●		●	●	●	●	●	●	●
作業療法地域実習	4年次	前期			●	●	●	●	●	●		
成績評価			学生の到達水準の確認			作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ、作業療法地域実習は60% 作業療法評価実習、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱは50%				作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ、作業療法地域実習は40% 作業療法評価実習、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱは50%		

## V. 学生への指導内容

### 1. 注意事項

本学科では、実習にあたり以下の内容を学生に指導しています。

#### 1) 一般的心得

いかなる施設あるいはその中の各部門においても、対象者・職員・施設の円滑な管理運営を図るため、様々な方針や規定が定められている。今回実習を実施する各施設においても各々独自の方針や規定があるため、実習に入る前にその概要を知っておく必要がある。具体的内容については、各施設の実習指導者に確認する。

また、下記の学生が守るべき一般的な心得については、実習開始に先立って熟知しておく。

### ①時間の使い方について

臨床実習は、学生自身が主体的に学ぶ場である。計画的に時間配分を考え積極的に行動する。また、「対象者から学ぶ」という姿勢を持ち学習の機会を無駄にしない。

### ②実習中の基本的姿勢について

疑問・問題のある場合には、まず自分自身で調べ疑問・問題解決に対する積極的行動をとる。それでもなお解決しない場合には、実習指導者に助言を求める。

### ③実習施設の概要について

施設の概要を事前に学習し、疑問点や実習施設での質問事項を整理しておく。

### ④実習施設への通学について

基本的には学則に準ずるが、自動車・自転車・バイクの使用に際しては担当教員に報告し、施設の許可を得る。

### ⑤実習時間について

実習施設には勤務時間についての規定があり、学生もその規定を厳守しなければならない。また、非常時や災害時などについては実習施設の指示に従う。

### ⑥整容について

医療人としての整容・身だしなみには、安全性・機能性・清潔さが必要であるため、以下の項目を守る。

- a.ユニホームの着用が定められている施設においては、大学あるいは施設の指定するユニホームを着用する。また、ユニホームは絶えず清潔なものにするよう心掛ける。上履きもユニホーム同様に、清潔を保つようにする。
- b.歯、手、爪を清潔に保つ（特に爪は事故防止のために短く切る）。
- c.男子は、髭をきれいに剃り、髪は見苦しくないようにし、不快感を与えないようにする。女子で長髪の場合は紐などで結び、肩以下の長さにならないようにする。また、アクセサリー・化粧品類の使用についても十分に考慮する。

### ⑦遅刻・早退・欠席について

実習前および実習中の健康管理に努め、遅刻・早退・欠席することのないようにする。万一、遅刻・早退・欠席する場合には、所定の手続きを確実に行う。

### ⑧実習終了に際して

実習中に受けた援助に感謝し、関係者一同に謝辞を表す必要がある。また任意ではあるが、実習指導者に礼状を書き、実習の機会が与えられたことに感謝することが望ましい。

## 2) 対象者に対する責任

対象者に対して何らかの指示が与えられた場合、指示の理由・内容・方法をはっきりと確認し、責任を持って実施することが重要である。対象者に接するにあたっては、専門職に従事しようとするものとして、以下のような心構えを十分認識しておく必要がある。

### ①守秘義務について

対象者に関係する情報の秘密は、厳守しなければならない。私的なメモ類の取り扱いにも注意を払う。不要になった報告書などはシュレッダーにて破棄する。また、カルテ・記録などは実習指導者

の許可なく所定の場所から移動させてはならない。

## ②医療人としての行動について

対象者に接する場合、尊敬の念と誠意を持って対処する。馴々しい態度、えこひいきを避ける。また、私的な関係を持つことのないように注意する。

## ③事故発生時の行動について

事故発生の際には、直ちに実習指導者に連絡し指示に従う。また、事故発生報告書を実習指導者に提出する。さらに、その複写を大学にも提出する。

## 3) 職場の人間関係

- ・職場全体に対する配慮と礼儀を心掛ける。
- ・親しみと誠意を持って接する。
- ・信頼関係を築くよう努める。
- ・なすべきことがわかっている場合は、指示を待つことなく積極的に行なう。
- ・職場の一員として、他職員に対して配慮する。
- ・職員・施設等の批判をしない。

## 2. 出席・遅刻・早退・欠席

出席の取り扱いは、土曜日および日曜日も含めて実習施設の勤務体制に準ずる。なお、遅刻・早退・欠席については、原則として以下の如く取り扱う。

- ・遅刻：始業時間より 30 分以内で遅く出勤した場合
- ・早退：終業時間より 30 分以内で早く帰宅した場合
- ・遅刻・早退は、2 回で 1 日の欠席とみなす。
- ・就業時間の 30 分を越える遅刻・早退は欠席とする。

止むを得ず遅刻・早退・欠席をする場合には、実習指導者および大学に対して速やかに連絡し了解を得るとともに、遅刻・早退・欠席願(届)を実習指導者に提出する。遅刻・早退・欠席の回数またはその理由によっては、不合格あるいは補充実習の対象となる場合がある。ただし、次項 a~f に該当するものはこの限りではない。

- a. 疾病の場合 (医師の診断書を添付)
- b. 一親等および二親等死亡の場合 (往復に要する日数を除き一親等は 5 日間、二親等は 3 日間とし、会葬礼状などを添付)
- c. 就職試験の場合 (受験証明書を添付)
- d. 不慮の事故または災害による場合 (事故証明書・被災証明書を添付)
- e. 交通機関のストライキまたは延着の場合 (延着証明書を添付)
- f. その他、正当と認められる理由がある場合 (理由書を添付)

## 3. 交通機関不通および暴風・特別警報

交通機関が不通の場合および暴風警報・特別警報が発令された場合の取り扱いは、土曜日および日曜日も含めて実習施設の勤務体制に準ずる。なお、大学での対応は以下の通りとなっている。交

通機関不通および暴風・特別警報については、原則として以下の如く取り扱う（授業ならびに試験規定引用）。

- 交通機関の不通（原因の如何を問わず）の場合

開通時刻と授業・試験開始時限

開通時刻	授業・試験開始時限
7時00分までに開通	1時限（9時00分）から実施
7時01分から8時00分までに開通	2時限（10時40分）から実施
8時01分から11時00分までに開通	3時限（13時00分）から実施
11時01分以降に開通	全時限休講

- 暴風警報発令の場合（その他の警報等は対象外）

各施設における地域に暴風警報が発令された場合は休講とする。

解除時刻と授業・試験開始時限

解除時刻	授業・試験開始時限
7時00分までに解除	1時限（9時00分）から実施
7時01分から8時00分までに解除	2時限（10時40分）から実施
8時01分から11時00分までに解除	3時限（13時00分）から実施
11時01分以降に解除	全時限休講

- 特別警報発令の場合（その他の警報等は対象外）

各施設における地域に特別警報が発令された場合は休講とする。

解除時刻と授業・試験開始時限

解除時刻	授業・試験開始時限
0時00分までに解除されていない場合	全時限休講

## VI. 実習指導者へのお願い

### 1. 郵送物

実習開始2週間前までに次項①～④を郵送いたしますので、**実習終了後1週間以内**に評価表および出席表をご記入のうえ④を除く①～③を返送してください。

郵送物

大学→実習施設

- ① 実習の手引き
- ② 体験チェックリスト
- ③ 学生個人資料
- ④ 評価表
- ⑤ 誓約書



返送物

実習施設→大学

- ① 体験チェックリスト
- ② 学生個人資料
- ③ 評価表
- ④ 各種届書類

### 2. 体験チェックリスト

この書類には、学生が1年次より行ってきた実習の経験や指導者のコメントが記載されています。

### 3. 評価表

実習終了後、実習指導者が記入し署名、捺印ください。

#### 4. 出席表（評価表の表紙裏に添付）

学生が出席した日付に実習指導者が捺印してください。また、必要事項をご記入ください。

#### 5. ポートフォリオ

実習における成果や記録、プロセスを記載する実績歴です。日々作成する「実習ポートフォリオ」と、実習終了後に作成する「凝縮ポートフォリオ」があります。

#### 6. ふりかえりシート

週に一度学生が記入し提出いたしますのでご確認し、実習指導者が記入し捺印ください。その後、実習ポートフォリオへ学生がファイリングします。

#### 7. 成長報告書

実習終了時に、学生が記入し提出いたしますのでご確認し、実習指導者が記入し捺印ください。

#### 8. 学生指導

実習指導に際しては、評価表、実習の目標（Ⅲ、各実習の目的と目標）に応じたご指導をください。ポートフォリオ、ふりかえりシートを実習指導にご活用ください。また、学生が実施する事例については、学生の能力を考慮した上でご指導ください。学生の年齢・学歴などの先入観をいれることなくご指導ください。さらに、更衣室などの実習環境についてもご配慮をお願いします。

#### 9. 補充実習

実習期間中に遅刻・早退・欠席などにより、必要な時間数を満たさない場合、本校の指定した施設において補充実習を命ずることがあります。

#### 10. 個人情報保護の取り組み

本学科では個人情報保護の観点から次の取り組みを行っています。なお、実習に際して個人情報保護に関する誓約書を作成し郵送いたします。各実習施設に所定の形式がある場合は、事前に大学までご連絡ください。

##### 1) 学生の実習における情報の取り扱い

実習中は学生が対象者に作業療法の一部を実施するため診療情報などを閲覧する必要があり、学生にも守秘義務が生じます。また、実習記録の保管、プライバシー保護にも記録と同等の配慮が必要となります。実習期間中に知り得た情報について守秘義務を遵守し、個人情報の漏洩は不法行為であることを十分指導しておりますが、さらに学生の認識を高めるよう指導をお願いします。

##### 2) 実習記録の取り扱い

実習記録の取り扱いは、各実習施設における規則を遵守するよう指導しています。また、実習記録には個人を特定できる内容が含まれていますので、「匿名性」の確保だけが機密の保持になるわけではないということを理解させています。実習記録の取り扱いに関する主な留意点については以下に示す内容に従い指導しています。

- ①記録用紙は、個人を特定する情報（住所、氏名、生年月日、病院、病棟、家族歴や遺伝情報等）を可能な限り記載しないようなフォーマットにする。また、実習施設および実習指導者名は記載せず、大学名と学生氏名のみ記載する。具体例を別に示す。
- ②不必要な情報ならびに不確実な情報は記述しない。
- ③診療記録および実習記録は安易に複写しない。

- ④カンファレンスの資料などに利用するため複写したものは、実習指導者に返却しシュレッダーにかけるなど適切に処分する。
- ⑤個人が特定される可能性がある実習記録などの院外への持ち出しは原則として禁止する。止むを得ず院外に持ち出す際には規則に従う（紛失・散逸の防止に努める。ファイルなどで管理し、第三者の目に触れないようにする）。
- ⑥実習目的以外に利用しない。
- ⑦実習記録の作成にパソコンなどの電子媒体を使用した場合には、ハードディスクや機体にデータが残ることを考慮し、個人所有の電子媒体の使用は避ける。使用する場合は、事前に許可を得る必要がある。また、作成したデータはCDやハードディスクなどの外部機器で自宅にて厳重に保管する。
- ⑧実習終了後、不必要となった記録物やメモ類はシュレッダーにかける。電子媒体は内容を消去するなどの処分を行う。
- ⑨実習終了後の実習記録は、実習指導者が適切に保管・管理する。実習記録を学生が保管する場合は、その取り扱いを適切に行う。

#### 具体例

氏名：○・□氏（イニシャルでなく個人とは関係のない文字を使用する）

年齢：30歳代前半

教育歴・職業歴：必要事項のみを簡潔に記載する。

経済状況：記載しない。

家族構成：必要事項のみ簡潔に記載する。兄弟などの居住先を記載しない。

住居環境：地域を特定できないよう地名や店名などは記入しない。

趣味：簡潔に記載する。

現病歴：受傷や発症について地名などは記載せず、必要な状況のみ記載する。なお、日時は現在から何病日、何ヵ月もしくは何年前かを記載する。

既往歴：時期と疾患名のみ記載する。

主治医・病棟：一切記載しない。

### 3) 学生による記録の記載

学生が実務カルテに記載することは原則として行わない。記録の場合は、記載した学生と記載内容の確認を行った者の両者の署名を行う。

### 4) 実習記録の開示への対応

学生の実習記録は実習目的を達成するための手段であり、公的な対象者記録とは異なるため、原則として実習記録を開示する必要はないと考えられます。しかし、開示を求めた対象者の状況、病院の設置主体、当該地域の条例、実習記録の内容などにより、場合によっては開示しなければならないこともありますので、その場合は適切な対応をよろしくお願いします。

## Ⅶ. ハラスメント

本校ではハラスメントに関して、「ハラスメントとは、相手側の意に反する言動などにより、相手側に不快感や不利益を与え、教育・研究、就学および就労の環境を悪化されること」と定義し、ハラスメント防止を実施しています。臨床における実習期間においても同様とし、実習指導者ならびに関係者の方にもご理解とご配慮いただくようお願いいたします。以下に、ハラスメントに関する主な指導内容を記載します。

1. セクシュアル・ハラスメントとは、性的嫌がらせを意味し、性的差別を含む性的な言動によって、相手方の人格を傷つけることをいう。このような言動は、男性か女性か、あるいは学生か教員や実習指導者かといった性別・地位・立場などには関係なく起こり得るものである。
2. アカデミック・ハラスメントとは、教員や実習指導者などの教育上優位な地位にある者が、その地位や権限を利用するまたは逸脱して、教育・指導を受ける学生の修学環境や学習・研究意欲を著しく損うような不適切な言動や行為を行うことをいう。
3. パワー・ハラスメントとは、優位な地位にある者が、その地位や権限を利用するもしくは逸脱して、学生の生活環境や意欲を著しく阻害するような不適切な言動や指導などを行うことをいう。
4. 学生は、まず誤解されるような言動を慎み、学生らしい行動を心がけてください。しかし、もしハラスメントを受けたり、「おかしいな」、「嫌だな」と思った場合は一人で悩まないで、まず教員に連絡を入れてください。自分だけで判断して解決しないで、まず相談してください。

## Ⅷ. 実習中の事故など緊急時の連絡

万一実習中に事故が発生した場合、直ちに実習指導者に報告するよう指導しています。事故報告があった場合、下記までご連絡をお願いいたします。

### 〔緊急連絡先〕

平日（8:00～18:00）：大学 TEL 0749-46-2311（代表）、0749-46-2323（学科直通）

平日の時間外、休日：学科携帯電話（080-4230-5844）

## 作業療法学科

〒527-0145

滋賀県東近江市北坂町 967 番地

TEL (0749) 46-2311 (代表)

(0749) 46-2323 (直通)

(080) 4230-5844 (携帯)

FAX (0749) 46-2313





理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	2											✓														✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	2											✓														✓			
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	2												✓																
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	2												✓																
公益財団法人近江兄弟社 ウォーリス記念病院	近施設	2											✓													✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	2												✓																✓		
公立甲賀病院	近施設	2									✓																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人 マキノ病院	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週																				
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日														
医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	近施設	2											✓																												✓			
医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	近施設	2												✓																												✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
公益財団法人 豊郷病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	2								✓															✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週													
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	2											✓																					✓			
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	2												✓																					✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	2												✓																					✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	2											✓													✓				
京都大学医学部附属病院	中施設	2											✓													✓				
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	2										✓															✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	2									✓															✓				
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	2										✓															✓			
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	2										✓															✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週													
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	2											✓																					✓			
社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデン伏見	中施設	2												✓																					✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	2										✓														✓				
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここちの郷	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週													
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	2											✓																						✓		
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	2											✓																						✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	2										✓														✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	2										✓														✓				
社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設ハートフル	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	2												✓															✓	
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	2												✓															✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																✓					
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																✓					
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																		✓			
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																			✓		
医療法人 堤整形外科	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																			✓		
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																				✓	
医療法人 堤整形外科	近施設	1																				✓	
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓			
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																					✓		
加賀市医療センター	遠施設	1																	✓			✓			
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																	✓			✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週									
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
枚方総合発達医療センター	中施設	1																					✓			
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																						✓		
加賀市医療センター	遠施設	1																			✓		✓			
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																			✓		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																		✓			
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																		✓			
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1														✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																			✓		
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																				✓	
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																				✓	
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																				✓	
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																					✓
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																					✓
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
公立甲賀病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																			✓	✓	
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
公立甲賀病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																				✓	✓
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																		✓			
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																		✓			
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																				✓	
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																✓					
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																✓					
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																			✓		
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																✓	✓				
市立敦賀病院	遠施設	1																✓	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																			✓		
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																✓	✓				
市立敦賀病院	遠施設	1																✓	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1																				✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																					✓	
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																✓	✓					
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																✓						
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1																					✓	
医療法人 マキノ病院	中施設	1																						✓
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																✓	✓					
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																✓						
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																✓					
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																✓					
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

	実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	担当教員	第1週							第2週							第3週							第4週								
					月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
1	医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	2	植田昌治 (理学療法学科)									✓																✓					
2	近江八幡市立総合医療センター	近施設	2	分木ひとみ (理学療法学科)									✓																✓					
3	社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	2	藤谷 亮 (理学療法学科)									✓																✓					
4	滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	2	堀 寛史 (理学療法学科)										✓																✓				
5	滋賀県立小児保健医療センター	近施設	2	弘部重信 (理学療法学科)									✓																✓					
6	市立長浜病院	近施設	2	宇於崎孝 (理学療法学科)										✓																✓				
7	公益財団法人 豊郷病院	近施設	2	治郎丸卓三 (理学療法学科)									✓																✓					
8	日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	2	宇於崎孝 (理学療法学科)										✓																✓				
9	医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	2	山内正雄 (理学療法学科)										✓															✓					
10	医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	2	大西 均 (理学療法学科)									✓																✓					
11	医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	2	大西 均 (理学療法学科)											✓															✓				
12	一般社団法人愛生会山科病院	近施設	2	池谷雅江 (理学療法学科)										✓																✓				
13	公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	2	宇於崎孝 (理学療法学科)										✓																✓				
14	医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	2	治郎丸卓三 (理学療法学科)										✓																✓				
15	医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	2	治郎丸卓三 (理学療法学科)									✓																	✓				
16	社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	2	鈴木美香 (理学療法学科)											✓																✓			
17	地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	2	池谷雅江 (理学療法学科)											✓															✓				
18	日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	2	弘部重信 (理学療法学科)										✓																✓				
19	社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデン伏見	中施設	2	藤谷 亮 (理学療法学科)												✓															✓			
20	医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	近施設	2	里中綾子 (理学療法学科)											✓																✓			
21	医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	近施設	2	里中綾子 (理学療法学科)												✓															✓			
22	社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここの郷	近施設	2	分木ひとみ (理学療法学科)											✓															✓				
23	医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	2	野口真一 (理学療法学科)												✓															✓			
24	京都大学医学部附属病院	中施設	2	野口真一 (理学療法学科)												✓															✓			
25	公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	2	野口真一 (理学療法学科)												✓														✓				
26	医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	2	安田 孝志 (理学療法学科)												✓															✓			
27	医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	2	安田 孝志 (理学療法学科)												✓															✓			
28	公立甲賀病院	近施設	2	大西 均 (理学療法学科)											✓																✓			
29	医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	2	鈴木美香 (理学療法学科)													✓														✓			
30	医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	2	植田昌治 (理学療法学科)												✓															✓			
31	医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	2	山内正雄 (理学療法学科)												✓														✓				
32	医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	2	川崎浩子 (理学療法学科)													✓														✓			
33	医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	2	堀 寛史 (理学療法学科)													✓														✓			
34	医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	2	池谷雅江 (理学療法学科)													✓														✓			
35	医療法人 マキノ病院	中施設	2	川崎浩子 (理学療法学科)													✓														✓			
36	医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	2	和智道生 (理学療法学科)												✓															✓			
37	社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	2	鈴木美香 (理学療法学科)													✓														✓			
38	特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	2	弘部重信 (理学療法学科)													✓														✓			
39	医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	2	植田昌治 (理学療法学科)													✓														✓			
40	社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設ハートフル	中施設	2	和智道生 (理学療法学科)													✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日





理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	2											✓														✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	2											✓														✓			
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
市立長浜病院	近施設	2												✓																	✓	
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	2												✓																	✓	
公益財団法人近江兄弟社 ウォーリス記念病院	近施設	2											✓															✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	2												✓																		✓		
公立甲賀病院	近施設	2									✓																		✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人 マキノ病院	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	近施設	2											✓														✓			
医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	近施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人 豊郷病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	2								✓																	✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	2											✓														✓			
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	2												✓														✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	2											✓													✓				
京都大学医学部附属病院	中施設	2											✓													✓				
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	2										✓															✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	2									✓															✓				
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	2										✓														✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	2											✓														✓			
社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデ ン伏見	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	2										✓														✓				
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここの郷	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	2											✓																✓	
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	2											✓																✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	2										✓														✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	2										✓														✓				
社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設ハートフル	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	2											✓														✓			
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																	✓				
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																				✓	
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																				✓	
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																				✓	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																				✓	
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																				✓	
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																					✓
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																					✓
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																				✓			
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																					✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																				✓			
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																					✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																				✓			
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																				✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週									
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																					✓			
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																						✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																					✓			
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																						✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																					✓			
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																					✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																		✓			
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																			✓		
医療法人 堤整形外科	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																			✓		
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																				✓	
医療法人 堤整形外科	近施設	1																				✓	
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表 (2024年1月8日(月)～2月18日(日))

担当教員名

里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
枚方総合発達医療センター	中施設	1																			✓		
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																				✓	
加賀市医療センター	遠施設	1																				✓	✓
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓		
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																					✓	
加賀市医療センター	遠施設	1																					✓	✓
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																					✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																			✓		
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																			✓		
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																				✓			
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																					✓		
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																					✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓						
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓						
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																			✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週									
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																					✓			
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																						✓		
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																						✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓							
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓							
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																			✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
公立甲賀病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																			✓	✓	
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
公立甲賀病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																				✓	✓
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																		✓			
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																		✓			
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																			✓		
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																	✓	✓			
市立敦賀病院	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																				✓	
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																		✓	✓		
市立敦賀病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1																				✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																					✓	
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓				
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																✓						
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1																						✓
医療法人 マキノ病院	中施設	1																						✓
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																		✓	✓			
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																✓						
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																✓					
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																✓					
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1															✓						
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1															✓						
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1															✓						
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1															✓						
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1															✓						
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1															✓						
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																		✓			
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																		✓			
医療法人 恭昭会 彦根中央リハビリテーションクリニック	近施設	1																		✓			
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																			✓		
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人 恭昭会 彦根中央リハビリテーションクリニック	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																				✓	
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																				✓	
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																	✓				
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																	✓				
医療法人 堤整形外科	近施設	1																	✓				
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																				✓	
長浜市立湖北病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																				✓	
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																		✓			
医療法人 堤整形外科	近施設	1																		✓			
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																				✓	
長浜市立湖北病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																	✓				
宇治徳洲会病院	中施設	1																			✓		
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓			
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																		✓			
宇治徳洲会病院	中施設	1																				✓	
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓			
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1															✓						
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1															✓						
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																✓					
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1															✓						
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1															✓						
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																✓					
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																✓					
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																	✓				
こばやし整形外科	近施設	1																	✓				
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																		✓			
白石クリニック	中施設	1																		✓			
枚方総合発達医療センター	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																	✓				
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																	✓				
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																		✓			
こばやし整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
白石クリニック	中施設	1																			✓		
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1															✓						
公立甲賀病院	近施設	1															✓						
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1															✓						
京都大学医学部附属病院	中施設	1																			✓		
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1															✓						
公立甲賀病院	近施設	1															✓						
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1															✓						
京都大学医学部附属病院	中施設	1																			✓		
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	近施設	1																✓					
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	近施設	1																✓					
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																	✓				
医療法人湖青会 青木医院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 SEISEN 清泉クリニック整形外科 静岡	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																	✓				
医療法人湖青会 青木医院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 SEISEN 清泉クリニック整形外科 静岡	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
いへだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
いへだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																			✓		
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓		✓			
加賀市医療センター	遠施設	1																✓		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																				✓	
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																	✓		✓		
加賀市医療センター	遠施設	1																	✓		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																				✓		
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																				✓		
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																✓						
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																	✓					
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																	✓					
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																				✓		
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																				✓		
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																✓						
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																	✓					
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																	✓					
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																	✓	✓			
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																	✓	✓			
日本赤十字社 舞鶴赤十字病院	遠施設	1																	✓	✓			
市立敦賀病院	遠施設	1																	✓	✓			
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																		✓	✓		
日本赤十字社 舞鶴赤十字病院	遠施設	1																		✓	✓		
市立敦賀病院	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1															✓						
医療法人 マキノ病院	中施設	1															✓						
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																				✓	
公立甲賀病院	近施設	1																				✓	
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																				✓	
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1															✓						
医療法人 マキノ病院	中施設	1															✓						
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																				✓	
公立甲賀病院	近施設	1																				✓	
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																				✓	
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1															✓							
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓				
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																		✓				
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																	✓					
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1															✓							
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓				
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																		✓				
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																	✓					
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日





作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
社会福祉法人真寿会老人保健施設 リハビリセンターあゆみ	近施設	1								✓																		✓						
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設ここの郷	近施設	1										✓																		✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1												✓																		✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1												✓																		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1											✓																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1									✓																		✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1								✓																	✓							
公益財団法人近江兄弟社 介護老人保健施設 ヴォーリス老健センター	近施設	1									✓																	✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
彦根市立病院	近施設	1								✓														✓						
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1									✓														✓					
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓															✓	
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1												✓															✓	
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1									✓														✓					
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1									✓														✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)～7/31(日))

担当教員名 辻村 肇(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1								✓																			✓						
介護老人保健施設 ケアポート栗東	近施設	1									✓																			✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1									✓																			✓					
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1												✓																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 園田悠馬(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
米原市地域包括医療福祉センター 「ふくしあ」	近施設	1												✓																
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1									✓																			
市立長浜病院	近施設	1										✓																		
公益社団法人 地域医療振興協会 地域包括ケアセンターいぶき	近施設	1												✓																

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 河津 拓(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1									✓														✓					
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1											✓														✓			
一般社団法人 水口病院	近施設	1											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
高島市民病院	中施設	1								✓																		✓						
社会福祉法人 よつば会 特別養護老人ホーム 風流里	近施設	1											✓																		✓			
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1												✓																		✓		
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1										✓																		✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1								✓																		✓						
和邇いきいきリハビリセンター	近施設	1											✓																		✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1										✓																		✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人 金沢整形外科クリニック デイケアしおん	近施設	1										✓																		✓				
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1								✓																		✓						
滋賀県立総合病院	近施設	1												✓																		✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1									✓																		✓					
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1										✓																		✓				
公立甲賀病院	近施設	1												✓																		✓		
医療法人滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	近施設	1								✓																		✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1																✓					
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																✓					
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1																✓					
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																✓					
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓			
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓			
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 園田悠馬(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 河津 拓(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																	✓				
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																	✓				
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																	✓				
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																	✓				
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 辻村 肇(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
滋賀県立総合病院	近施設	1																	✓						
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																						✓	
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓				
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																	✓						
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																	✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
滋賀県立総合病院	近施設	1																	✓						
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																						✓	
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																				✓			
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																	✓						
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																	✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1																	✓				
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1																	✓				
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日







作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
社会福祉法人真寿会老人保健施設 リハビリセンターあゆみ	近施設	1								✓																		✓						
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設ここの郷	近施設	1										✓																		✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1												✓																		✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1												✓																		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1											✓																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1									✓																		✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1								✓																	✓							
公益財団法人近江兄弟社 介護老人保健施設 ヴォーリス老健センター	近施設	1									✓																				✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
彦根市立病院	近施設	1									✓																			✓					
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1												✓																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1										✓																		✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1											✓														✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1											✓														✓			
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1								✓													✓							
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1								✓													✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)～7/30(日))

担当教員名 辻村 肇(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1							✓														✓							
介護老人保健施設 ケアポート栗東	近施設	1								✓												✓								
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1								✓												✓								
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1											✓												✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 園田悠馬(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
米原市地域包括医療福祉センター 「ふくしあ」	近施設	1												✓																		✓		
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1									✓																		✓					
市立長浜病院	近施設	1										✓																		✓				
公益社団法人 地域医療振興協会 地域包括ケアセンターいぶき	近施設	1												✓																		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 河津 拓(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1										✓																			✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1												✓																			✓		
一般社団法人 水口病院	近施設	1												✓																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
高島市民病院	中施設	1								✓																			✓						
社会福祉法人 よつば会 特別養護老人ホーム 風流里	近施設	1											✓																			✓			
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1												✓																			✓		
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1										✓																			✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1								✓																			✓						
和邇いきいきリハビリセンター	近施設	1											✓																			✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1										✓																			✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
医療法人 金沢整形外科クリニック デイケアしおん	近施設	1										✓																			✓				
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1								✓																			✓						
滋賀県立総合病院	近施設	1												✓																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1									✓																			✓					
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1										✓																			✓				
公立甲賀病院	近施設	1												✓																			✓		
医療法人滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	近施設	1								✓																			✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1															✓						
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1															✓						
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																	✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																	✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 園田悠馬(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 河津 拓(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																	✓				
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																	✓				
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																	✓				
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																	✓				
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 辻村 肇(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																			✓		
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																		✓			
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1															✓						
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1															✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																		✓			
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																			✓		
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓					
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓					
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓					
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓					
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)~5/21(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																			✓		
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																			✓		
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)~5/21(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1															✓						
市立長浜病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1															✓						
市立長浜病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)~5/21(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 辻村 肇(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1															✓						
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
一般社団法人 水口病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1															✓						
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
一般社団法人 水口病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 園田悠馬(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																				✓	
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																				✓	

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																				✓	
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 河津 拓(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1															✓						
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																			✓		
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1															✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1															✓						
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																			✓		
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓					
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1															✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓					
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

# びわこリハビリテーション専門職大学学則

## 第 1 章 総 則

(目的)

第 1 条 びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学」という。）は、リハビリテーションに関する実践的かつ応用的な能力を展開するための教育研究により、高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付けた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献することを目的とする。

(自己点検及び自己評価)

第 2 条 本学は、教育・研究の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価に必要な細部については、別に定める。

## 第 2 章 構 成

(学部及び学科)

第 3 条 本学に次の学部及び学科を置く。

リハビリテーション学部 理学療法学科  
作業療法学科

(学部及び学科の教育研究上の目的)

第 4 条 リハビリテーション学部の目的は、次の 2 点となる。

- (1) 高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。
- (2) 地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。

2 理学療法学科の目的は、次の 2 点となる。

- (1) 理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。
- (2) 理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸と QOL 維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を養成する。

3 作業療法学科の目的は、次の 2 点となる。

- (1) 子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。
- (2) 地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の

実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。

(事務局)

第5条 本学に事務部を置く。

2 事務組織及び事務分掌に関する規程は、別に定める。

### 第3章 学生定員及び修業年限

(学生定員)

第6条 入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
リハビリテーション学部 理学療法学科	80名	320名
作業療法学科	40名	160名

(修業年限及び在学期間)

第7条 修業年限は4年とする。

2 学生は、休学の期間を除き8年を超えて在学することができない。

### 第4章 学年・学期及び休業日

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第9条 学期を分けて次の2期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(授業日数)

第10条 年間の授業日数は定期試験等の期間を含め、原則として35週とする。

(休業日)

第11条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 開学記念日 5月1日

(4) 春期休業 3月14日から3月31日まで

(5) 夏期休業 8月10日から9月20日まで

(6) 冬期休業 12月27日から1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

## 第 5 章 教育課程及び履修方法等

### (授業科目の区分)

第 12 条 授業科目を分けて、基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目とする。

2 授業科目の種類、単位数、開講年次及び必修、選択科目、自由科目の別等は、別表 1 のとおりとする。

### (単位の計算方法)

第 13 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 演習については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 実験、実習及び実技等については、30～45 時間をもって 1 単位とする。

(4) 1 の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して教授会の定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(5) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、単位数を定めることができる。

### (他の大学等における授業科目の履修等)

第 14 条 教授会が教育上有益と認めるときは、他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは外国の短期大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60 単位を超えない範囲で本学における卒業に必要な単位として認めることができる。

### (大学以外の教育施設等における学修)

第 15 条 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 2 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えてはならない。

### (入学前の既修得単位等の認定)

第 16 条 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生制度により修得した単位を含む。）を本学において修得したものとして認定することができる。

2 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が本学の入学前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力（本学において修得させることとしているものに限る。）を修得している場合において、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学における授業科目の履修とみなし、30 単位を超えない範囲で単位を与えることができる。

4 前 3 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、再入学の場合を除き、第 14 条第 1 項及び前条第 1 項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせ

て60単位を超えてはならない。

5 本学に入学した者の既修得単位の認定等に関する事項は、別に定める。

(単位の授与)

第17条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(追試験)

第18条 病気その他本学が認めたやむをえない事由のため、定期試験に欠席した者は、追試験によって単位の修得の認定を受けることができる。

(再試験)

第19条 試験の成績が不合格のため、単位の修得認定を受けることができない授業科目については、再試験を行うことがある。

(成績の評価)

第20条 授業科目の成績の評価は、A、B、C、Dをもって表し、A、B、Cを合格としDを不合格とする。

2 前項の評価は、100点をもって満点とし、A(80点以上)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満)とする。

3 第1項の規定にかかわらず、他大学等において修得した単位を認定する場合は、N(認定)とする。

4 授与又は認定した単位の取消しは、これを認めない。

(委任)

第21条 この章に規定するものの他、教育課程及び履修方法等に関し必要な事項は、別に定める。

## 第6章 卒業の要件及び学位

(卒業の要件)

第22条 休学期間を除き、本学に4年以上在学し、次表の単位数を修得した者には教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

学 部	学 科	各科目合計で修得すべき単位数
リハビリテーション学部	理学療法学科 (2020年度入学生) 作業療法学科 (2020年度入学生)	131 単位以上 130 単位以上

2 卒業に必要な単位の修得に関する詳細は、別表1に定める。

(学士)

第 23 条 学長は、卒業を認定した者に対して、学士の学位を授与する。

2 学士の学位は、次の区分によるものとし、学位の授与等に関する規定は、びわこリハビリテーション専門職大学学位規程に定める。

リハビリテーション学部 理学療法学士（専門職）、作業療法学士（専門職）

## 第 7 章 入学・休学及び退学

(入学の時期)

第 24 条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学の資格)

第 25 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第一号）により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18 歳に達した者

(入学の出願)

第 26 条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 前項の書類の提出時期、方法及び提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第 27 条 前条の規定により入学を志願した者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び許可)

第 28 条 前条の規定による選考に合格した者は、所定の期日までに本学所定の書類を提出すると共に、別に定める納付金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の規定による手続を完了した者に入学を許可する。

(再入学)

第 29 条 第 30 条（退学）の規定により、退学を許可された者で再入学を志願する者があるときは、

別に定めるところにより選考の上、教授会の議を経て、学長は相当年次に入学を許可することができる。

(退学)

第30条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第31条 疾病その他やむを得ない事情により2ヵ月以上就学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 学長は疾病のため就学することが適当でない認められる者については、休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第32条 休学の期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続きさらに1年まで延長することができる。

2 休学期間は、通算して3年を超えることができない。

3 休学期間は、第7条第2項の在学期間に算入しない。

(復学)

第33条 休学の期間が満了したとき又はその期間中に当該休学の事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学するものとする。

(除籍)

第34条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

(1) 第7条第2項の規定による在学年限を超えた者

(2) 休学の期間が満了し、復学を願い出ない者

(3) 第32条第2項の規定する休学の期間を超えた者

(4) 授業料その他学費の納付を怠り、所定の期日までに授業料等の学納金を納入しない者

(5) 死亡又は行方不明の届出のあった者

## 第8章 学 費

(学費)

第35条 入学検定料、入学金、授業料、実験実習費、施設設備費の金額、納入方法及び納入期日については、別表2に定める。

2 休学した学生については、休学した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。ただし、休学期間が当該期間全域にわたる場合はその期の授業料及び実習実験費は免除する。納入期の単位は、前期と後期の2期とし、月割り等の計算はしない。

3 復学した学生については、復学した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。納入期の単位は、前期と後期の2期とし、月割り等の計算はしない。

4 退学し、又は除籍されたとき、若しくは退学の処分を受けた学生については、退学又は除籍した日時の属する学期の授業料及び実験実習費を納入しなければならない。納入期の単位は、前期と後期の2期とし、月割り等の計算はしない。

(納付金の返還)

第 36 条 既に納付した入学検定料、学費及びその他の納付金は返還しない。ただし、年初に年間学費を納付し、後期全域にわたる休学が認められた場合又は前期中に退学した場合若しくは除籍となった場合は、その限りでない。

(学費の未納)

第 37 条 授業料その他の納付を怠った者は、別に定めるところにより定期試験等の受験を停止し、又は除籍することがある。

## 第 9 章 職員組織

(職員)

第 38 条 本学に教授、准教授、講師、助教、助手並びに事務職員及びその他の職員を置く。

(役職)

- 2 本学に学長、学部長を置く。
- 3 学長は必要に応じて副学長及び第 1 項のほか必要な職員を置くことができる。

## 第 10 章 教授会、運営会議

(教授会)

第 39 条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。

- 2 前項にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、その他必要な職員を加えることができる。
- 3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。学部長に事故ある時は、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。
- 4 教授会の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。

(運営会議)

第 40 条 本学に運営会議を置き、全学的な教学の方針、企画及び執行等の教学運営を司る。

- 2 運営会議の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。

## 第 11 章 教育課程連携協議会

(教育課程連携協議会)

第 41 条 本学に、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するため、教育課程連携協議会を置く。

- 2 教育課程連携協議会に関する事項は別に定める。

## 第 12 章 科目等履修生、聴講生及び外国人学生

(科目等履修生、聴講生)

第 42 条 本学の一又は複数の授業科目の履修を志願するものについては、授業及び研究に支障をきたさない限りにおいて、選考の上、聴講生又は科目等履修生としてこれを許可することがある。

- 2 科目等履修生及び聴講生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人学生)

第43条 外国人で入学を志願する者については、選考の上、入学を許可することがある。

2 外国人学生に関して必要な事項は、別に定める。

## 第 13 章 賞 罰

(表彰)

第44条 品行方正、かつ、学術優秀な者又は学生として模範的行為があった者については、学長は、教授会の議を経て、これを表彰することができる。

(罰則)

第45条 本学の規則に反し、又は学生としての本分に反した者については、学長は、教授会の議を経て、懲戒することができる。

(1) 学業成績不良で成業の見込がないと認められた者

(2) 性行不良で改善の見込がないと認められた者

(3) 正当な理由なくして出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

2 懲戒の種類は、譴責、戒告、停学及び退学とする。

3 前項の停学期間は、在学年限に算入する。

4 学生の主催する学内団体で本学の精神にもとるもの及び、著しく学内の秩序を乱したものに対しては、解散、その他必要措置を命ずることができる。

## 第 14 章 公開講座

(公開講座)

第46条 地域住民の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する事項は別に定める。

附 則

1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。

学則第12条 別表1

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部 理学療法学科

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
初年次 教科目	学びの基盤	15	1			1									<p>【卒業要件】 次により、必修科目109単位、選択科目22単位以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目20単位以上 (1) 必修科目10単位 (2) 選択科目10単位以上</p> <p>・人間と社会系科目の内から6単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計10単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目87単位以上 (1) 必修科目83単位 (2) 選択科目4単位</p> <p>3. 展開科目20単位以上 (1) 必修科目12単位 (2) 選択科目8単位以上</p> <p>4. 総合科目4単位 (1) 必修科目4単位</p>
	コミュニケーション論	15	1			1									
①基礎科目 人間と社会系科目	音楽	15		1			1								
	キャリア発達論	15	1					1							
	教育学	15	1			1									
	倫理学入門	15	1			1									
	哲学入門	15		1		1									
	心理学	15	1				1								
	経営学入門	15		1				1							
	社会学	15		1		1									
	日本の伝統文化	15		1		1									
	日本の近代史	15		1		1									
体育	15		1			1									
自然科学系科目	生物学	15	1			1									
	物理学Ⅰ	15	1			1									
	物理学Ⅱ	15		1			1								
	統計学	15	1					1							
	数学	15		1		1									
語学教育科目	英語Ⅰ	15	1			1									
	英語Ⅱ	15		1			1								
	韓国語	15		1				1							
	中国語	15		1					1						
理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	60	2			2									
	解剖学Ⅱ	60	2				2								
	解剖学Ⅲ	30	1				1								
	生理学Ⅰ	60	2			2									
	生理学Ⅱ	60	2				2								
	運動学Ⅰ	30	1				1								
	運動学Ⅱ	30	1					1							
	運動学実習	30	1						1						
	運動生理学実習	30	1							1					
	人間発達学	15	1				1								
	救急援助論	15	1						1						
	内科学Ⅰ	30	1					1							
	内科学Ⅱ	30	1						1						
	神経内科学Ⅰ	30	1					1							
	神経内科学Ⅱ	30	1						1						
	整形外科Ⅰ	30	1					1							
	整形外科Ⅱ	30	1						1						
	精神医学	15	1				1								
	小児科学	30	1					1							
	老年医学	30	1					1							
	薬理学概論	15	1				1								
	予防医学	15	1						1						
	画像診断学	15	1					1							
	栄養学	15	1						1						
	社会福祉学	15	1							1					
	地域包括ケア論	30	1								1				
	リハビリテーション概論	30	1				1								
	②職業専門科目 職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	15	1			1								
基礎理学療法Ⅱ		15	1			1									
基礎理学療法実習Ⅰ		30	1				1								
基礎理学療法研究法		15	1						1						
基礎理学療法実習		30	1				1								
臨床技能論実習		30	1							1					
理学療法管理学		15	1										1		
保健医療福祉関連制度論		15	1											1	
理学療法評価学		30	1				1								
理学療法評価学実習		60	2					2							
理学療法評価学演習		30	1							1					
画像評価学		15	1						1						
運動療法学		30	1					1							
運動療法学実習		30	1						1						
徒手理学療法学		15	1							1					
徒手理学療法実習		30	1								1				
物理療法学		15	1					1							
日常生活活動学		30	1					1							

	義肢装具学Ⅰ	30	1				1						
	義肢装具学Ⅱ	30	1					1					
	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	30	1						1				
	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	30	1							1			
	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	30	1					1					
	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	30	1							1			
	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	30	1							1			
	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	30	1								1		
	小児期理学療法学演習	30	1						1				
	老年期理学療法学演習	30	1							1			
	スポーツ障害系理学療法学実習	30	1						1				
	神経筋骨格障害応用論実習	90		2									2
	内部障害応用論実習	90		2									2
	スポーツ障害応用論実習	90		2									2
	地域理学療法学	15	1						1				
	地域理学療法学実習	30	1							1			
	理学療法見学実習Ⅰ	45	1		1								
	理学療法見学実習Ⅱ	45	1			1							
	理学療法見学実習Ⅲ	45	1				1						
	理学療法評価実習	180	4							4			
	理学療法総合臨床実習Ⅰ	270	6								6		
	理学療法総合臨床実習Ⅱ	270	6									6	
	理学療法地域実習	45	1									1	
③ 展 開 科 目	マーケティング論	15	1								1		
	施設起業運営論	15	1								1		
	ボランティア論	15	1			1							
	生涯スポーツ論	15	1		1								
	労働衛生論	15	1			1							
	子育て支援論	15	1				1						
	災害支援論	15	1					1					
	教育支援論	15	1						1				
	メンタルヘルスマネジメント論	15		1								1	
	地域共生論	30	2								2		
	障がい者スポーツ論	15	1									1	
	障がい者スポーツ論実習	30	1										1
	スポーツリズムトレーニング論	15		1								1	
	体力測定論	15		1								1	
	健康増進実践演習	30		1								1	
	健康増進実践実習	30		1								1	
	パフォーマンス向上論	15		1								1	
	フィットネス論	30		2								2	
	ランニングトレーニング論	30		2								2	
	ゴルフトレーニング論	30		2								2	
	ビジョントレーニング論	30		2								2	
	遊びとレクリエーション	15		1								1	
	生きがい創造	30		2								2	
	伝承遊び	30		2								2	
	シューフィッティング論	15		1								1	
	福祉工学地域活用論	15		1								1	
	ロボット工学地域活用論基礎	15		1								1	
	ロボット工学地域活用論応用	30		2								2	
	身体障がい者就労環境論	30		2								2	
	組織運営論	30		2								2	
	総 目 合 科	協働連携論総合実習	60	2									
理学療法総合実習		30	1										1
リハビリテーション総合演習		30	1								1		

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部 作業療法学科

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
①基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1								卒業要件 次により、必修科目118単位、選択科目12単位以上を修得すること。  基礎科目（20単位以上）  必修科目 11単位 選択科目 9単位以上  ・人間と社会系科目の内から5単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から4単位以上を選び、合計9単位以上を修得すること。  職業専門科目（86単位） 必修科目 86単位  展開科目（20単位以上）  必修科目 17単位 選択科目 3単位  総合科目（4単位） 必修科目 4単位	
	初年次教育科目	コミュニケーション論	15	1			1									
	人間と社会系科目	音楽	15		1			1								
		キャリア発達論	15	1					1							
		教育学	15	1			1									
		倫理学入門	15	1			1									
		哲学入門	15		1		1									
		心理学	15	1				1								
		経営学入門	15		1				1							
		社会学	15	1			1									
		日本の伝統文化	15		1		1									
		日本の近代史	15		1		1									
	体育	15		1			1									
	自然科学系科目	生物学	15	1			1									
		物理学Ⅰ	15	1			1									
		物理学Ⅱ	15		1			1								
		統計学	15	1					1							
		数学	15		1		1									
	語学教育科目	英語Ⅰ	15	1			1									
		英語Ⅱ	15		1			1								
韓国語		15		1				1								
中国語		15		1					1							
②職業専門科目	職業実践科目群	解剖学Ⅰ	60	2			2									
		解剖学Ⅱ	60	2				2								
		解剖学Ⅲ	30	1				1								
		生理学Ⅰ	60	2			2									
		生理学Ⅱ	60	2			2									
		運動学Ⅰ	30	1			1									
		運動学Ⅱ	30	1				1								
		運動学実習	30	1					1							
		人間発達学	30	1				1								
		救急援助論	15	1				1								
		内科学Ⅰ	30	1					1							
		内科学Ⅱ	30	1						1						
		神経内科学Ⅰ	30	1						1						
		神経内科学Ⅱ	30	1							1					
		整形外科Ⅰ	30	1							1					
		整形外科Ⅱ	30	1								1				
		精神医学	30	1								1				
		小児科学	30	1								1				
		老年医学	30	1								1				
		薬理学概論	15	1					1							
		予防医学	15	1								1				
		画像診断学	15	1								1				
		栄養学	15	1								1				
		社会福祉学	15	1									1			
		地域包括ケア論	30	1									1			
リハビリテーション概論	30	1				1										
作業療法学総論	30	1				1										
基礎作業学	15	1				1										
基礎作業学実習Ⅱ	30	1					1									
基礎作業学実習Ⅰ	30	1				1										
作業療法研究法	15	1									1					
作業療法管理・制度論	15	1					1									
作業療法と倫理	15	1					1									
作業療法評価学総論	30	1					1									
身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	30	1						1								
身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	30	1							1							
精神障害作業療法評価学実習	30	1								1						
発達障害作業療法評価学実習	30	1									1					
身体障害作業療法基礎技術論	30	1									1					
運動器疾患作業療法学実習	30	1										1				
中枢神経疾患作業療法学実習	30	1											1			
高次脳機能障害作業療法学実習	30	1											1			
精神障害作業療法学	30	1											1			
精神障害作業療法学実習	30	1											1			
発達障害作業療法実習Ⅰ	30	1											1			
発達障害作業療法実習Ⅱ	30	1											1			

	老年期障害作業療法学	30	1					1												
	老年期障害作業療法学実習	30	1						1											
	日常生活活動論実習	30	1					1												
	社会生活行為論実習	30	1					1												
	作業分析活用論	30	1						1											
	作業分析活用論実習	30	1						1											
	家族援助論	15	1						1											
	住環境支援論	30	1							1										
	作業療法義肢器具実習	30	1						1											
	生活行為向上マネジメント論実習	30	1							1										
	地域生活作業療法総論	30	1					1												
	地域生活作業療法学実習Ⅰ	30	1						1											
	地域生活作業療法実習Ⅱ	30	1						1											
	地域生活作業療法実習Ⅲ	30	1							1										
	作業療法見学実習Ⅰ	45	1			1														
	作業療法見学実習Ⅱ	45	1				1													
	作業療法評価実習	225	5							5										
	作業療法臨床総合実習Ⅰ	315	7								7									
	作業療法臨床総合実習Ⅱ	315	7									7								
	地域作業療法実習	45	1										1							
③ 展開科目	マーケティング論	15	1						1											
	施設起業運営論	15	1							1										
	ボランティア論	15	1		1															
	子育て支援論	15	1			1														
	災害支援論	15	1			1														
	教育支援論	15	1				1													
	メンタルヘルスマネジメント論	15	1				1													
	障がい者スポーツ論	15	1									1								
	障がい者スポーツ論実習	30	1										1							
	地域社会共生論	30	2		2															
	地域社会共生論実習	45	1			1														
	精神障がい者就労環境論	30	2									2								
	身体障がい者就労環境論	30	2									2								
	就労環境論実習	30	1										1							
	老年期地域生活適応論	30		2								2								
	老年期地域生活適応論実習	45		1									1							
	成人期地域生活適応論	30		2								2								
	成人期地域生活適応論実習	45		1									1							
児童期地域生活適応論	30		2								2									
児童期地域生活適応論実習	45		1									1								
総合科目	協働連携論総合実習	60	2																2	
	作業療法総合実習Ⅰ	30	1																1	
	作業療法総合実習Ⅱ	30	1																1	

学則第 35 条 別表 2

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

1. 入学検定料

(単位：円)

	入学検定料
理学療法学科	30,000
作業療法学科	30,000

2. 入学金、授業料等

年額 (単位：円)

	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費
理学療法学科	400,000	900,000 (各期 1/2)	100,000	200,000
作業療法学科	400,000	900,000 (各期 1/2)	100,000	200,000

3. 納入期日

	前期	後期
理学療法学科	8月25日	3月31日
作業療法学科		

※新入学生の入学時における学費は、別に定める期日までに納入しなければならない。

# びわこリハビリテーション専門職大学教授会規程

## (目的)

第1条 この規程は、びわこリハビリテーション専門職大学学則第39条第4項の規定に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学教授会（以下「教授会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (構成)

- 第2条 教授会は、教授及び准教授（以下、「構成員」という。）をもって組織する。
- 2 教授会は、学部長が議長となる。
  - 3 学部長に事故あるときは、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。

## (開催)

- 第3条 教授会は、原則として毎月（8月を除く。）1回定例に開催する。ただし、緊急に開催する場合は、この限りでない。
- 2 学部長は、構成員の4分の1以上から開催要求があったときは、教授会を招集しなければならない。

## (開催通知)

第4条 教授会を招集するに当たっては、予め審議事項等を記載した書面をもって学部長がこれを招集する。

## (定足数)

第5条 教授会は、教授（休職中及び外国出張中の者を除く。）の3分2以上の出席がなければこれを開くことができない。ただし、別段の定めがあるときはこの限りでない。

## (審議事項)

- 第6条 教授会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- 一 学生の入学、卒業及び除籍
  - 二 学位の授与
  - 三 教育課程、試験及び単位認定
  - 四 教員の資格審査
  - 五 学生の賞罰
  - 六 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
  - 3 第1項第4号の事項の審議は、教授をもって行う。

## (議事及び議決)

第7条 教授会の議事は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第8条 議長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させて説明又は意見を聴くことができる。

(議事録の作成)

第9条 教授会の議事については、議事録を作成し、次回の教授会（やむを得ない事情があるときは、その次の教授会）において確認するものとする。

(庶務)

第10条 教授会に関する庶務は、事務部総務課において処理する。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃については、学長が発議し、理事会の議を経て行う。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、教授会に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学長が別に定める。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

# びわこリハビリテーション専門職大学運営会議規程

## (目的)

第1条 この規程は、びわこリハビリテーション専門職大学学則第37第2項の規定に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学運営会議（以下「運営会議」という。）の運営について、必要な事項を定める。

## (構成)

第2条 運営会議は、次に掲げる職員をもって構成するものとする。

- 一 学長
- 二 副学長
- 三 学部長
- 四 各学科長
- 五 事務長
- 六 総務課長
- 七 前各号に掲げるもののほか、学長が必要と認めた者

## (開催等)

第3条 学長は、隔週に1回定例に、又は必要に応じて臨時に、運営会議を招集し、議長となる。ただし、学長不在の場合は、必要に応じて副学長が運営会議を招集し、議長となる。

## (定足数)

第4条 運営会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

## (審議事項)

第5条 運営会議は、教学に関する企画、執行、調整を円滑に行うため、次の事項を審議する。

- 一 教育研究に関する年次計画及び中期計画に関すること
- 二 教育課程の編成方針に関すること
- 三 教授会に提出する議案に関すること
- 四 特任教員及び助手の選考に関すること
- 五 前各号に掲げるもののほか、藍野大学の教育研究の重要事項に関すること

## (議決)

第6条 議事は、出席者の合議を経て学長が決する。

## (意見の聴取)

第7条 学長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

## (庶務)

第8条 運営会議に関する庶務は、事務部総務課において処理する。

## (雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営会議に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、令和2年4月1日より施行する。

# びわこリハビリテーション専門職大学自己点検・評価規程

## (目的)

第1条 この規程は、びわこリハビリテーション専門職大学学則第2条に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学」という。）が自ら点検・評価を実施するために必要な事項を定める。

## (設置)

第2条 本学は、自己点検・評価の実施を円滑に進めるため、びわこリハビリテーション専門職大学自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## (審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検・評価の基本的方針
- (2) 自己点検・評価項目に関する事
- (3) 自己点検・評価の実施体制に関する事
- (4) 自己点検・評価の報告書の作成及び公表に関する事
- (5) 自己点検・評価の検証及び活用に関する事
- (6) 認証評価及びその他の第三者評価に関する事
- (7) その他自己点検・評価に関する重要事項

## (委員の構成)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学科 学科長
- (4) 事務部 事務長
- (5) その他学長が必要と認める者

## (委員長等)

第5条 委員会には委員長を置き、学長がこれを指名する。

- 2 委員会は、必要に応じ、委員長が委員の中から指名する副委員長を置くことができる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に支障があるときはこれを代行する。

## (委員会の運営)

第6条 委員会は、毎年度1回以上、必要に応じて委員長の招集により開催する。

- 2 委員会は、委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。
- 3 委員会は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聞くことができる。

## (結果の報告及び公表)

第7条 委員会は、自己点検・評価の結果を報告書としてまとめ、本学の全教職員に対して公表する。

- 2 各学科及び事務部の長は、自己点検・評価の結果を真摯に受け止め、自ら改善が必要であると思われる項目について、改善計画を取りまとめ自己点検・評価委員会に提出する。
- 3 学長は、自己点検・評価の結果を受け、各学科及び事務部に対し、必要な事項に対し改善の実施を要求することができる。当該組織の長は、この場合においても、改善計画を取りまとめ、自己点検・評価委員会に提出する。
- 4 学長は、自己点検・評価の結果及び結果を受けて各組織の長より提出された改善計画について、学校法人藍野大学合同運営会議において報告する。
- 5 委員会は、自己点検・評価の結果及び改善計画について、学外の諸機関等に公表できるものとする。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、教授会の承認を必要とする。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

# びわこリハビリテーション専門職大学

## ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会規程

### (目的・設置)

第1条 びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学」という。）の教育理念及び学部、学科の教育目標に基づく教育活動の質向上の支援を目的とし、びわこリハビリテーション専門職大学組織規程第9条第1項に基づき、びわこリハビリテーション専門職大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (任務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事項を任務とする。

- (1) FD 研修プログラムの企画、立案
- (2) FD 研修プログラムの実施、運営
- (3) FD 活動に関する指導、助言
- (4) FD 活動に関する調査、分析
- (5) FD 活動の評価
- (6) その他 FD 活動に関すること

### (委員会の構成)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学部長
- (2) 各学科より選出された教員1名ずつ
- (3) 事務部 事務長
- (4) その他学部長が必要と認める者

### (委員長等)

第4条 委員会には委員長を置き、学部長がこれを指名する。

- 2 委員会は、必要に応じ、委員長が委員の中から指名する副委員長を置くことができる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に支障があるときはこれを代行する。

### (委員会の運営)

第5条 委員会は、必要に応じて委員長の招集により開催する。

- 2 委員会は、委員総数の2分の1以上の出席をもって成立する。
- 3 委員会は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聞くことができる。

### (活動の報告)

第6条 委員会は、2年に1度、その活動状況を学長に報告するものとする。

(所管)

第7条 この委員会の事務の所管は、事務部教務課とする。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、教授会の承認を必要とする。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

# びわこリハビリテーション専門職大学 研究倫理規程

## (目的)

第1条 この規程は、びわこリハビリテーション専門職大学に所属する研究者（教員）が行うヒトを対象とする研究、調査、教育その他の活動（以下「研究等」という。）について、研究等の対象となる者及びその家族等の関係者（以下「研究対象者等」という。）の人権の擁護並びに当該研究対象者等に対する肉体的、心理的及び社会的配慮の確保等のために必要な事項を定めることを目的とする。

## (理念)

第2条 研究等は、関係法令を遵守し、かつ、「世界医師会ヘルシンキ宣言」、「公益社団法人日本看護協会看護者の倫理綱領」、「公益社団法人日本理学療法士協会倫理規程」、「一般社団法人日本作業療法士協会倫理要綱」及び「公益社団法人日本臨床工学技士会倫理綱領」の趣旨を尊重して行わなければならない。

## (研究倫理委員会の設置)

第3条 びわこリハビリテーション専門職大学に研究倫理委員会（以下「委員会」という。）を置く。  
2 委員会は、前条に定める理念の実現を図るため、びわこリハビリテーション専門職大学に所属する研究者の申請により第7条第1項に定める審査を行う。ただし、委員長が必要と認めた場合は、研究者に申請するよう命じることができる。

## (組織)

第4条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 研究科及び各学科から選出された者 各1名
- 二 医学又は人文、社会科学の分野で各学科から推薦された者 各学科1名 三 倫理、社会、法律に関し、専門知識を有する学内外の学識経験者 若干名 四 その他学長が必要と認めた者
- 2 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

## (会議)

第6条 委員会は、委員の2分の1以上の出席をもって成立する。

- 2 委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。ただし、第7条第1項の審議にあたっては、出席者の全員の合意をもって決し、委員長が必要と認めたときは、3分2以上の合意をもって決するものとする。

- 3 委員が第3条第2項に定める申請に関する者であるときは、次条第1項に定める審査及び議決に加わることができない。
- 4 委員会は、必要と認めるときは、委員以外の学識経験者の意見を求め、又は委員以外の者を出席させて説明若しくは意見を聴くことができる。
- 5 委員会は、必要に応じ、随時開くものとする。

#### (審査)

第7条 委員会は、第3条第2項の申請にかかる研究等を第2条に定める理念に照らして審査する。

- 2 前項の審査（以下「審査」という。）を申請しようとする研究者は、様式1に研究計画書を添付して学長に提出しなければならない。
- 3 学生の研究に関しては、指導教員の指導の下で行い、学会発表や論文を考えている場合、又は、侵襲性（身体的・心理的）が大きい場合など本研究倫理委員会での審査が必要な場合のみ、学生の指導教員が申請者となり、申請を行うものとする。
- 4 学長は、前二項の申請のあったときは、委員会に諮らなければならない。
- 5 審査の項目は、次に掲げる事項とする。
  - 一 当該研究等にかかる研究対象者等の人権の擁護及びプライバシーの保護
  - 二 当該研究等によって生じうる研究対象者等にかかる不利益及び危険性の予測
  - 三 動物実験の結果に基づく研究等の安全性の確保
  - 四 当該研究等の目的、内容、実施方法、研究結果の公表方法等並びに当該研究等によって生じうる研究対象者等にかかる不利益及び不快、危険、苦痛等に関する説明方法並びにこれに対する研究対象者等の理解及び同意を得る方法
  - 五 当該研究等の教育、学術及び社会に対する貢献
  - 六 前各号に掲げる事項の他、当該研究等に関し、委員長が必要と認めた事項
- 6 審査の結果は、「承認」、「条件付き承認」、「変更の勧告」、「不承認」又は「非該当」のいずれかとする。
- 7 委員長は、審査の経過及び結果を記録して保存する。
- 8 委員長は、審査の結果を様式2により学長に答申しなければならない。
- 9 学長は、前項の答申があったときは、委員会が定める審査判定書様式3により申請者に通知する。
- 10 委員長が必要と認め、かつ、申請者が同意したときは、審査の結果を公表することができる。

#### (再審査)

第8条 申請者は、審査の結果が不承認であったときは、様式4により再審査を申請することができる。

- 2 再審査の手続き等については、前条の規定を準用する。
- 3 委員長は、再審査の結果を学長に報告するとともに様式5により再審査の申請者に通知する。

#### (迅速審査)

第9条 研究期間の延長、共同研究者の追加・変更にかかる軽微な研究計画の変更を対象として、迅速審査を行うことができる。その場合は、1週間の持ち回り審査とする。

(他機関からの審査依頼)

第10条 委員会は、びわこリハビリテーション専門職大学に所属しない研究者が行うヒトを対象とした研究等について、当該研究者が所属する機関の長から学長に審査の依頼があり、学長がそれを承認した場合には、審査を行うことができる。

(研究等の変更等)

第11条 研究者は、承認を受けた研究等の内容を変更し、又は中止しようとするときは、様式6を提出し、委員会の承認を得なければならない。

(研究実施報告)

第12条 申請者は、1年度に経過報告、2年度に終了報告を研究実施報告書(様式7)にて学長に提出しなければならない。3年以上要する研究の場合は、再度、研究倫理申請を行うものとする。

(審査等の停止)

第13条 特に共同研究、人を対象とした臨床研究、科学研究費助成事業など研究費を得て行う研究において、研究データの改ざん、捏造、研究倫理委員会の承認を得ずに行なわれた研究、研究費の私的使用等を行った研究者に対しては、研究倫理委員会は、その研究者の研究倫理申請に関する審査・承認を一定期間行わないことができる。

(庶務)

第14条 委員会に関する庶務は、事務部総務課において処理する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるほか、研究倫理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

【様式 1】

## 研究倫理審査申請書

年 月 日

びわこリハビリテーション専門職大学 学長 殿

[申請者]

所属学科

職名

研究責任者名

印

[確認者]

所属学科

職名

学科長

印

所属学科

職名

研究倫理委員

印

[※ 受付番号 ]

1. 研究課題名
2. 研究責任者名 所属 職名
3. 研究分担者名 所属 職名
4. 添付書類 <input type="checkbox"/> 研究実施計画書 <input type="checkbox"/> 対象者への説明書 <input type="checkbox"/> 同意書 <input type="checkbox"/> 同意撤回書 <input type="checkbox"/> アンケート <input type="checkbox"/> モニタリング実施手順書 <input type="checkbox"/> 監査実施手順書 <input type="checkbox"/> その他 ( )



インターネットによる募集  
ポスター掲示等による募集（掲示場所：（ ））  
その他（（ ））

1 0. 研究実施期間  
始期：  
終期：

1 1. 研究資金  
個人研究費：（ ）円      枠外研究費：（ ）円  
科学研究費補助金：（ ）円  
その他（（ ））      円  
以下に具体的に用途等を記載（（ ））

1 2. 資料の収集

1) 資料の種類

2) 過去の資料

使用する

使用する資料の種類（（ ））

匿名化の有無      あり  
                                  なし

匿名化していない場合

対象者の同意の有無      同意あり    文書 IC      口頭  
  同意なし      オプトアウト

使用しない。

1 3. 資料の匿名化

1) 取得する資料

個人識別符号      要配慮個人情報      左記以外

2) 匿名化の有無

資料を匿名化する

匿名化の方法：

匿名加工情報又は非識別加工情報を作成する。

上記以外

対応表を作成する  
対応表保管場所：  
対応表を作成しない

以下に匿名化の方法を具体的に記載（（ ））

資料を匿名化しない

匿名化しない理由を具体的に記載：

#### 1 4. 資料・情報の他機関への提供

他機関へ提供する

他機関へ提供しない

提供先： 国内 海外

##### 1) 【国内に関しては以下に記載】

個人情報：含む 含まない

資料・情報の種類：

提供機関名：

提供理由：

提供方法：

提供先の保管状態：

提供先の保管方法：

提供先の保管期間：

情報提供に係る記録の保管状態：

情報提供に係る保管期間：

保管後の廃棄方法：

同意撤回があった場合の対応方法：

なお、資料の提供に関しては、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って、記録の作成・確認及び記録の保管を行う。

##### 2) 【海外に関しては、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に沿って詳細に記載】

#### 1 5. 資料の廃棄と保存

研究終了後、資料を廃棄する

資料の廃棄方法：

研究終了後、資料を保存する

対象者の同意を得て資料を保存する

<p>保存する資料の種類： 保存が必要な理由：</p> <p>保存場所： 保存期間の終期：研究終了後 年間 <input type="checkbox"/> 年 月 日</p> <p><input type="checkbox"/>対象者の同意を得ずに資料を保存する 保存する資料の種類： 保存が必要な理由： 同意を得ない理由： 保存場所： 保存期間の終期：研究終了後 年間 <input type="checkbox"/> 年 月 日</p>
<p>1 6. 資料解析の委託</p> <p><input type="checkbox"/>外部検査機関等へ資料解析を委託する 外部委託機関及び所在地： 外部委託時の匿名化の方法：</p> <p><input type="checkbox"/>外部検査機関等へ資料解析を委託しない</p>
<p>1 7. 医薬品・試薬等の保管・管理方法</p> <p><input type="checkbox"/>使用する 医薬品・試薬等の種類：  保管・管理方法：  保管・管理場所：  <input type="checkbox"/>使用しない</p>
<p>1 8. 対象者の自由な選択の保障</p> <p><input type="checkbox"/>何ら不利益をうけることなく自由意思で、研究への参加・不参加を選択できる <input type="checkbox"/>研究参加の意思表示を撤回できる 以下に、対象者の自由な選択の保障について、具体的に記載 ( )</p>
<p>1 9. 対象者のプライバシー及び個人情報の保護の方策について具体的に記載</p>

<p>20. 対象者の費用負担</p> <p><input type="checkbox"/> 研究に参加した場合、対象者の費用負担がある（負担額：                  円）</p> <p><input type="checkbox"/> 研究に参加した場合、対象者の費用負担はない</p>
<p>21. 研究に参加した場合に対象者の受ける利益・不利益・危険性及び説明方法並びに同意の方法</p>
<p>22. 対象者への健康被害の補償</p> <p><input type="checkbox"/> 対象者への健康被害の補償のために、保険その他の必要な措置を講じている</p> <p>補償の内容：</p> <p><input type="checkbox"/> 保険へ加入済（又は加入手続き中）（関係書類を添付すること）</p> <p><input type="checkbox"/> 医療費の支払いまたは医療の無償提供（資金：                                  ）</p> <p><input type="checkbox"/> 補償金の支払い（資金：                                  ）</p> <p><input type="checkbox"/> 対象者への健康被害の補償のために、保険その他の必要な措置を講じていない</p> <p>理由：</p>
<p>23. 代諾者の選定及び手続き</p> <p><input type="checkbox"/> 代諾者を置く</p> <p>理由：<input type="checkbox"/> 1. 被代諾者が中学校等の課程を未修了であり、且つ 16 歳未満の未成年者</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 被代諾者が中学校等の課程を修了している又は 16 歳以上の未成年者で研究対象者が十分な判断能力を有すると判断される場合（侵襲を伴う研究）</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 被代諾者が中学校等の課程を修了している又は 16 歳以上の未成年者で研究対象者が十分な判断能力を有すると判断される場合（侵襲を伴わない研究）</p> <p><input type="checkbox"/> 4. その他（    ）</p> <p>※ <input type="checkbox"/> 1. 2. 4 の場合、代諾者からインフォームド・コンセントを得る</p> <p><input type="checkbox"/> 3 の場合、代諾者に対するオプトアウトの実施</p> <p>代諾者の種類</p> <p><input type="checkbox"/> 父母    <input type="checkbox"/> 親権者    <input type="checkbox"/> 配偶者    <input type="checkbox"/> 成人の子    <input type="checkbox"/> 成人の兄弟姉妹又は孫</p> <p><input type="checkbox"/> 祖父母   <input type="checkbox"/> 同居の親族又は近親者</p> <p><input type="checkbox"/> 後見人   <input type="checkbox"/> 保佐人    <input type="checkbox"/> その他（    ）</p> <p><input type="checkbox"/> 代諾者を置かない</p> <p>理由：</p>
<p>24. 研究対象者に対する手続き</p> <p><input type="checkbox"/> インフォームド・コンセントの取得</p> <p>中学校等の課程を修了している又は 16 歳以上の未成年者で、十分な判断力を有すると判断される場合</p> <p><input type="checkbox"/> インフォームド・アセントの取得</p>



共同研究者（所属・職名・氏名）：

主管となる機関の名称：

他機関が主管となる場合の当該機関における倫理審査委員会の承認

あり（承認通知書のコピーを添付） なし

※外国の共同研究を行う場合は、相手国の指針を訳文にて添付すること

3 1. 過去2年における、倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講習等の受講の有無

研究責任者 氏名：

臨床研究eラーニングサイト「ICR 臨床研究入門」

臨床研究のためのeTraining center

研究倫理eラーニングコース [eL CoRE]

CITI Japan eラーニングプログラム

学内FD研修会

※臨床研究eラーニングサイト「ICR 臨床研究入門」、CITI Japan eラーニングプログラムを受講している場合は、「修了証」を、研究倫理eラーニングコース [eL CoRE]を受講している場合は、「修了証書」を、臨床研究のためのeTraining centerを受講している場合は、合格している「成績・学習履歴証明書」、学内FD研修会を受講した場合は、「研究倫理講習受講修了書」を添付すること

受講していない

研究分担者 氏名：

臨床研究eラーニングサイト「ICR 臨床研究入門」

臨床研究のためのeTraining center

研究倫理eラーニングコース [eL CoRE]

CITI Japan eラーニングプログラム

学内FD研修会

※臨床研究eラーニングサイト「ICR 臨床研究入門」、CITI Japan eラーニングプログラムを受講している場合は、「修了証」を、研究倫理eラーニングコース [eL CoRE]を受講している場合は、「修了証書」を、臨床研究のためのeTraining centerを受講している場合は、合格している「成績・学習履歴証明書」、学内FD研修会を受講した場合は、「研究倫理講習受講修了書」を添付すること

受講していない

3 2. 個人情報の管理

個人情報管理者：

個人情報分担管理者：

置かない

置く（所属： 職名： 氏名： ）

3 3. 介入研究

侵襲性を有する

侵襲性は軽微である       はい    いいえ

侵襲性を有しない

3 4. モニタリング及び監査

侵襲性のある介入研究の場合、以下を記載（軽微な侵襲性を除く）

モニタリングの実施

モニタリング従事者      (所属： )

(職名： )

(氏名： )

当該研究者との関係 ( )

実施手順の概略 ( )

実施手順書の添付

監査の実施

監査従事者      (所属： )

(職名： )

(氏名： )

当該研究者との関係 ( )

実施手順の概略 ( )

実施手順書の添付

3 5. 本研究の問い合わせ先

所属：

職名：                      氏名：

学内内線番号：

e-mail：

- 注意事項 1. 審査対象となる研究の実施計画書等を添付すること  
2. ※欄は記入しないこと  
3. 項目を選択する場合は、はに塗りつぶすこと



【様式 2】

## びわこリハビリテーション専門職大学研究倫理審査部会 答申書

年 月 日

びわこリハビリテーション専門職大学 学長 殿

びわこリハビリテーション専門職大学  
研究倫理委員会  
委員長 印

受付番号

研究会題名：

申請者名  
(研究代表者名)

先に諮問のあった上記課題に係る研究倫理審査申請書を 年 月 日の研究倫理  
審査部会で審査し、下記のとおり判定しましたので答申します。

判 定	承認	条件付承認	変更の勧告
	不承認	非該当	
理 由 又 は 勧 告			

【様式 3】

## 倫 理 審 査 判 定 通 知 書

年 月 日

申請者 殿

びわこリハビリテーション専門職大学  
学 長 印

受付番号

研究会題名：

申 請 者 名  
(研究代表者名)

上記課題に係る研究倫理審査申請書を 年 月 日の研究倫理委員会で審査し、  
下記のとおり判定しましたので通知します。

判 定	承 認	条件付承認	変更の勧告
	不 承 認	非 該 当	
理 由 又 は 勧 告			

【様式 4】

## 異 議 申 立 書

年 月 日

びわこリハビリテーション専門職大学研究倫理委員会  
委員長 殿

申請者 所属学科 職名  
氏名 印

受付番号

研究会題名：

年 月 日付けの研究倫理委員会の審査結果に異議がありますので、再審査を  
要請いたします。

記

異議：

理由：

(異議の根拠となる資料などを添付すること。)

【様式 5】

## 再 審 査 結 果 通 知 書

年 月 日

申請者 殿

びわこリハビリテーション専門職大学  
研究倫理委員会  
委員長 印

受付番号

研究会題名：

申請者名  
(研究代表者名)

年 月 日付けで異議申し立てのあった上記研究課題の研究計画について、  
年 月 日の研究倫理委員会で再審査し、下記のとおり判定したので通知します。

### 1. 判定

- (1) 承認
- (2) 条件付承認
- (3) 変更の勧告
- (4) 不承認
- (5) 非該当

### 2. 条件・勧告又は理由

## 研究計画変更・中止審査申請書

年 月 日

びわこリハビリテーション専門職大学研究倫理委員会

委員長 殿

申請者 所属学科 職名  
氏名 印

さきに 年 月 日付けをもって提出した・承認された研究課題  
受付番号 \_\_\_\_\_ の研究計画を下記のとおり変更・中止したいので承認願います。

1. 研究課題

2. 変更・中止理由

(承認された研究課題においても、大きな変更があれば、再度申請し直してください。)

### 3. 研究内容

(1) 研究等の概要

(2) 研究等を行う具体的な場所

(3) 研究等における倫理的配慮について

### 4. その他

(注) 紙面が足りない場合は、別紙に明記してください。

# 研究実施報告書

報告日：\_\_\_\_\_年 月 日

びわこリハビリテーション専門職大学 学長 殿

研究責任者：所属

職名

氏名

印

学 科 長：所属

氏名

印

過去に承認された研究課題について、以下のとおり報告します。

1. 報告区分： 進捗状況 終了 中止 重篤な有害事象及び不具合等の発生状況

## 2. 研究課題名等

1) 受付番号：

2) 研究課題名：

3) 研究期間： \_\_\_\_\_年 月 日～ \_\_\_\_\_年 月 日

4) 報告期間： \_\_\_\_\_年 月 日～ \_\_\_\_\_年 月 日

5) 介入研究 観察研究 / 侵襲性あり 侵襲性なし / 前向き 後向き

6) 登録の有無：あり なし

登録機関：日本医師会 UMIN JAPIC 登録番号：

## 3. 研究の進捗状況、研究結果の概要

1) 本学における予定対象者数 患者： \_\_\_\_\_名 健常者： \_\_\_\_\_名

2) 本学における実施対象者数 患者： \_\_\_\_\_名 健常者： \_\_\_\_\_名

※3)及び4)は本学が主管となる多施設共同研究の場合にのみ記入

3) 全体における予定対象者数 患者： \_\_\_\_\_名 健常者： \_\_\_\_\_名

4) 全体における実施対象者数 患者： \_\_\_\_\_名 健常者： \_\_\_\_\_名

5) 進捗状況 ※中止・終了報告の場合は研究結果の概要

4. 有害事象及び不具合等の発生状況：なし あり

(ありの場合はその内容、程度、処置、経過、転帰、臨床研究との関係、他機関への周知等)

5. その他参考になる事項

※「介入研究」で「侵襲性あり」の場合：あらかじめ、登録された臨床研究計画の内容が公開されているデータベース（国立大学附属病院長会議，財団法人日本医薬情報センター及び社団法人日本医師会が設置したもの）に当該研究に係る臨床研究計画を登録しなければならない。

※次の場合は変更申請書を提出すること。

- ・研究分担者の変更（所属・職名も含む）
- ・登録期間・研究期間の延長 ※期間が過ぎないように注意すること。
- ・症例数の追加

# びわこリハビリテーション専門職大学 入学試験委員会規程

## (設置)

第1条 びわこリハビリテーション専門職大学組織規程第9条第1項に基づき、入学者選抜に関する基本的事項を審議するため、入学試験委員会（以下「委員会」という。）を設置し、同条第2項の規定に基づき、委員会に必要な事項を定めるものとする。

## (構成)

第2条 委員会は、次に掲げる職員をもって構成するものとする。

- 一 学長
- 二 副学長
- 三 学部長
- 四 各学科長
- 五 各学科から選出された者 各1名
- 六 事務長
- 七 入試課長

2 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

3 委員会委員長が指名する副委員長を置く。

## (任期)

第3条 前条第1項第5号委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げないものとする。

2 委員に欠員が生じた場合、補充される委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、任期が満了した場合においても新たに委員が選出されるまで第1項の規定にかかわらず引き続きその職務を行うものとする。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項について審議するものとする。

- 一 入学者選抜の基本方針に関すること
- 二 入学者選抜方法の企画・総括に関すること
- 三 その他入学者選抜試験の実施に関すること

## (議事)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

3 委員会は、委員の2分の1以上の出席をもって成立することとし、議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は委員長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

## (専門委員会)

第6条 委員会に特定の事項を審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、別に定める。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、事務部入試課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、入学者の選抜に関し必要な事項は、別に定めるものとする。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

# びわこリハビリテーション専門職大学 学生委員会規程

## (設置)

第1条 びわこリハビリテーション専門職大学組織規程第9条第1項に基づき、学生の厚生及び支援に関する基本的事項を審議するため、学生委員会（以下「委員会」という。）を設置し、同条第2項の規定に基づき、委員会に必要な事項を定めるものとする。

## (構成)

第2条 委員会は、次に掲げる職員をもって構成するものとする。

- 一 各学科から選出された者 各2名
  - 二 学生相談室担当の教員
  - 三 保健管理室長
  - 四 事務長
  - 五 学生課長
- 2 委員会に委員長を置き、前項第1号委員のうち学長が指名する者をもって充てる。
- 3 委員会は、必要に応じ、委員長が指名する副委員長を置くことができる。

## (任期)

第3条 前条第1項第1号委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げないものとする。

- 2 委員に欠員が生じた場合、補充される委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、任期が満了した場合においても新たに委員が選出されるまで第1項の規定にかかわらず引き続きその職務を行うものとする。

## (審議事項)

第4条 委員会は、次の事項について審議するものとする。

- 一 学生の奨学金に関すること
- 二 学生の厚生施設及び厚生事業に関すること
- 三 学生の保健管理に関すること
- 四 学生相談に関すること
- 五 学生の就職に関すること
- 六 学生のボランティア活動の支援に関すること
- 七 学生の安全確保に関すること
- 八 課外活動に関すること
- 九 学生団体に関すること
- 十 学生の賞罰に関すること
- 十一 その他学生生活の支援に関すること

## (議事)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。
- 3 委員会は、委員の2分の1以上の出席をもって成立することとし、議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は委員長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

(専門委員会)

第6条 委員会に特定の事項を審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、別に定める。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、事務部学生課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、学生の厚生及び支援に関し必要な事項は、別に定めるものとする。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

学生の確保の見通し等を記載した書類

学校法人 藍野大学

# 目 次

## びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部における学生確保の見通し等 目次

### 1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

#### 1) 学生の確保の見通し

- (1) 入学定員の考え方と定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
  - ① 滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における 18 歳人口・・・・ P2  
の大学進学状況
  - ② 滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における高等学校・・・・ P2  
及び中学校の在籍者数による中長期的な見通し
  - ③ 社会人に対するニーズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
  - ④ 滋賀県内の理学療法士・作業療法士養成施設・・・・・・・・・・・・ P4
- (2) 既設の大学・専門学校の定員未充足に関する原因分析等・・・・・・・・ P4

- #### 2) 定員充足の根拠となる客観的データの概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
- (1) 入学意向調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
  - (2) 高校生対象に行った調査・分析・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
  - (3) 施設等職員を対象に行った調査・分析・・・・・・・・・・・・ P11

- #### 3) 学生納付金の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P13

#### 4) 高校生と社会人を対象とした調査実施の目的や根拠となる学生の受け入れ

- 方針と学生募集方法，入学選抜方法について・・・・・・・・ P13
  - (1) 学生確保に向けた具体的な取組み（学生募集の方法）・・・・ P13
  - (2) 入学選抜方法の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P17

### 2. 人材需要の動向等社会の要請

#### 1) 社会的・地域的な人材需要の動向等

- ①大学の必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P20
- ②滋賀県内の PT・OT 確保の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P20
- ③地域からの要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P20
- ④地域における人材需要の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・ P21

## びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部における学生確保の見通し等

### 1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

#### 1) 学生の確保の見通し

##### (1) 入学定員の考え方と定員充足の見込み

びわこリハビリテーション専門職大学（以下「本学」という。）では、リハビリテーション学部の入学定員を理学療法学科 80 名、作業療法学科 40 名に設定した。

高齢化の進展に伴い、医療や介護を必要とする人が増加すること、また、地域社会ではこの状況に対応するために医療・介護提供体制の充実を実現していくにあたり、従事するリハビリテーション専門職の確保が課題となっていることを踏まえた上で、地元である滋賀県や近隣の都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における 18 歳人口の大学進学状況、理学療法士・作業療法士の養成を行う私立大学の志願者状況、さらには、第三者による大学第 1 期生の対象となる高等学校 2 年生と社会人を対象としたアンケート調査の結果を勘案し、入学定員の充足が十分に可能であると判断し、既述の入学定員を設定した。

また、日本全国の理学療法士・作業療法士を養成する私立大学の入学定員は図表 1 のとおりであり、他の大学と比較しても、妥当な入学定員であると考えられる。

次に、卒業後の就職という観点から、現行の滋賀医療技術専門学校の求人状況は、図表 2 のとおりである。平成 29 年度卒業生に対する求人数は減少したものの、それでも理学療法学科に対しては 527 施設・2,940 人、作業療法学科に対しては 555 施設・2,788 人と 1 学年の定員を大きく上回る求人があり、就職先は十分に確保できるものと判断される。また、病院・施設を対象とした採用意向のアンケート調査結果においても、就職先を確保できる結果となっている。

さらには、高齢化の進展に伴い、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025（平成 37）年に向けて、各都道府県では地域包括ケアシステムの構築に取り組まれているなど、これに携わる理学療法士・作業療法士に対する需要もより高まることが予測される。

地元である滋賀県（以下「県内」という。）についても、2018（平成 30）年に作成した滋賀県保健医療計画において、地域包括ケアシステムをはじめとする医療・介護提供体制の充実を実現していくにあたり必要となるリハビリテーション専門職は、2025（平成 37）年には 3,000 人の確保を目標としており、人材確保が課題となっている。（図表 3）

本学が、理学療法士・作業療法士を養成する学科を設置することは、以上のような地域が抱える課題に対し貢献できるものであると考える。

また、県内の 18 歳人口の大学進学率が 50%を超える中で、県内には理学療法士・作業療法士を養成する大学が皆無であり、志望者は他府県の大学に進学せざるを得ない状況である。このことから、県内に理学療法士・作業療法士を養成する学科を設置することは県内の 18 歳人口の進学に貢献できるものと考えられる。

① 滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における 18 歳人口の大学進学状況

滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における 18 歳人口の進学に関する状況は、文部科学省の学校基本調査によると、図表 4 のとおりである。

大学等進学者の割合は、55%以上であり、大学等への進学意欲は高いものである。

② 滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における高等学校及び中学校の在籍者数による中長期的な見通し

平成 29 年度の学校基本調査によると、本学の開設年度に受験対象となる滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における高等学校に在籍している 1 年生の生徒は、合計で 135,136 人、開設 2 年目に受験対象となる中学 3 年生は 136,618 人となっている。

また、開設 3 年目に受験対象となる中学 2 年生は 133,231 人、完成年度に受験対象となる中学 1 年生は 130,133 人となっている。（図表 5）

現在、高等学校への進学率は 97%を超えており、今後、滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な確保の見通しがあるものと思われる。

③ 社会人に対するニーズ

a) 社会人の学び直しに対する意識

社会人の学び直しに対する意識はどのようなものか、内閣府大臣官房政府広報室が実施した世論調査報告書（平成 27 年 12 月調査）によると、まず、「学び直したい学習の内容」であるが、「医療・福祉」は、「外国語に関すること」に次いで、2 番目（27.0%）に関心が高い。（資料 1. P1, P3, P4）

次に、「学び直しの実施状況」について、「学んだことがある（現在学んでいる）」という者が 19.1%で、「学んだことはないが、今後は学んでみたい」という者が 30.3%である。両方合わせると 49.4%になり、調査対象者数の約半分が学び直しに対する関心を持っており、意識が高いことがわかる。（資料 1. P1, P5, P6）

また、「学び直したいと考えた理由」であるが、学校を出て一度社会人になった後に、学校において「学んだことがある（現在学んでいる）」、「学んだことはないが、今後は学んでみたい」と答えた者（817 人）が考える理由の上位は、「教養を深めるため」（51.8%）、「今後の人生を有意義にするため」（48.8%）、「就職や転職のために必要性を感じたため」（28.4%）「現在または学んだ当時に就いていた職業において必要性を感じたため」（25.1%）、「他の人との親睦を深めたり、友人を得たりするため」（21.2%）となっている。

特に、「就職や転職のために必要性を感じたため」とあることについては、社会人が知識や技術を構築する場を求めていることが推察できる。（資料 1. P1, P7, P8）

b) 医療専門職の年収等に関する考察と福祉施設介護員・ホームヘルパーからのスキルアップ

理学療法士・作業療法士の平均年収を厚生労働省「賃金構造基本統計調査」の結果を基に作成するとともに、関連する他の職種と比較してみた。(図表 6)

理学療法士・作業療法士の平成 29 年における平均年収は、405 万円である。看護師は夜勤もあるため、当然のことながら高収入となる。(平成 29 年 平均年収 478 万円)

その点、理学療法士・作業療法士は、看護師より年収は下回るが、勤務時間の制約は軽減されるため、家庭との時間や個人の能力開発などの時間を持つことから考えると、医療専門職の内でも選択しやすい職種と言える。

次に介護関連職種と比較してみると、福祉施設介護員・ホームヘルパーとは年収に約 70 万円の大きな格差がある。また、福祉施設介護員がスキルアップを目指す資格の一つとして介護支援専門員(ケアマネージャー)がある。しかし、その資格を取得したとしても、23 万円の格差がある。

このことから、福祉施設介護員としての知識・技術を活かしながら、さらなるスキルアップ及びより安定した生活を目指すならば、理学療法士・作業療法士の資格取得は有効であると判断され、ニーズはあるものと考えられる。

また、社会人が学び直しに取り組む上で、懸念されることは学費の負担であるが、独立行政法人日本学生支援機構や都道府県の奨学金制度や政府の社会人の学び直しに対する助成の PR, 並びに大学独自の奨学金制度を拡充することにより、社会人の学び直しに対する機運を高めていきたいと考える。

加えて、地域包括ケアシステム構築に向けて、リハビリテーション人材の需要は高まることが想定されるが、学生は、高齢者施設よりも病院への就職を希望する傾向がある。その背景としては、対象者の年齢が若ければ回復力も高く、年配者よりも早く治療効果を実感できることにある。また、それがセラピストとしての自信に繋がる。

そのため、結果として、高齢者施設へのリハビリテーション人材の供給は不足していることが考えられる。

このような状況において、高齢者施設の理解・協力の下、高齢者施設が雇用する福祉施設介護員・ホームヘルパーをスキルアップさせ、リハビリテーション人材を確保していくという流れを創り出し、高齢者施設のリハビリテーション人材供給に繋げていく。

P11 (3) で述べるように受験意向調査(資料 2-2)については、「受験したい」と回答した人は 230 人(37%)で、この 230 人のみを抽出して、入学意向を示した人数をみると、全体で 207 人(90%)が、受験して合格したら入学したいと回答している。さらに詳細にみていくと、「理学療法学科に入学したい」と回答した人は 139 人、現在の職種別では、介護福祉士 29 人、ケアマネージャー 10 人、作業療法士 8 人、看護師 8 人の順で多かった。「作業療法学科に入学したい」と回答した人は 69 人、現在の職業別では、介護福祉士 15 人、教員 13 人、医療事務 5 人、理学療法士 2 人の順で多かった。この結果の分析から、理学療法学科と

作業療法学科に共通していたのは、介護福祉士が最も多かったこと、すでに何らかの資格を取得している人が多く、ダブルライセンスを目指している人が多かったことである。

④ 滋賀県内の理学療法士・作業療法士養成施設

滋賀県内の理学療法士・作業療法士養成施設は、本学の設置母体である学校法人藍野大学が設置している滋賀医療技術専門学校のみである。

しかし、滋賀医療技術専門学校については、平成 31 年度生の募集を停止していることから、滋賀県内における理学療法士・作業療法士養成施設は皆無である。

(2) 既設の大学・専門学校の定員未充足に関する原因分析等

基本計画書の「既設大学等の状況」欄に記載のとおり、藍野大学および藍野大学短期大学部は定員を充足しているが、滋賀医療技術専門学校については、理学療法学科が 0.71 倍、同校作業療法学科が 0.74 倍となり、入学定員を下回る状況である。このことに伴い、次のとおり原因の分析、学生確保の見通し等について述べる。

①定員未充足の原因分析

○滋賀医療技術専門学校

過去 2 年（平成 31 年度は学生募集停止）の滋賀医療技術専門学校理学療法学科・作業療法学科における入学定員充足状況は、次のとおりである。

・理学療法学科（入学定員：80 人）

年 度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
平成 29 年度	81	80	64	61	0.76
平成 30 年度	86	85	59	54	0.67
				平 均	0.71

・作業療法学科（入学定員：40 人）

年 度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
平成 29 年度	35	34	34	33	0.82
平成 30 年度	32	30	29	27	0.67
				平 均	0.74

滋賀医療技術専門学校の理学療法学科（入学定員 40 人）・作業療法学科（入学定員 40 人）は、1996（平成 8）年に設置されたが、当時は同分野の大学もなく、入学定員も充足されていた。

その後、諸般の事情により、2009（平成 21）年 4 月より、3 年制の理学療法学科（入学定員 40 人）・作業療法学科（入学定員 40 人）で養成事業を行うこととなった。

それ以降の学生確保の状況について述べると、理学療法学科は入学定員を充足することができていた。しかし、作業療法学科については、全国的な傾向である

が、作業がどのように治療に結びつくのかなど職種内容がわかりにくい等の理由により、定員未充足の状況が続くこととなった。

それに伴い、理学療法学科において、作業療法学科の定員未充足分の収入を補うことを念頭に、2012（平成 24）年 4 月より理学療法学科の入学定員を 80 人（1 クラス 40 人の定義による）に変更した。

理学療法学科については、際どい状況ではあるが、入学定員を充足するだけの志願者数はいる。しかし、近年においては、入学試験の成績が一定の基準から大きく離れている受験者が多くなってきており、合格者を増やすことも困難になり、80 人の入学定員充足には至っていない。

滋賀医療技術専門学校の学生募集において、このような状況が起きている背景としては、大学進学率の向上と 2002（平成 14）年度以降の相次ぐ同分野の大学・学部の設置（私立大学：京都府 2 校・大阪府 11 校・岐阜県 1 校・三重県 1 校）がある。

18 歳人口の進学については、滋賀県及び近隣の都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における大学等への進学率と専修学校専門課程への進学率を比較すると、図表 4 のとおりで、専修学校専門課程よりも大学等への進学が望まれていることがわかる。滋賀医療技術専門学校を受験し合格しても、実際には入学しなかった受験生が毎年数名～10 名程度存在する。これまでに直接事情を聞くことが可能だった辞退者にヒアリングしたところ、「佛教大学または京都橘大学にも合格したので『大学』に行きたい、しかも京都の大学は自宅通学できるので」という辞退理由であった。これらのことから、本学が設置されれば、現役高校生の入学希望者は、滋賀医療技術専門学校の時よりも増加すると見通しを立てている。大学進学率の向上と結びつくものではないが、「日本は学歴社会である」と考える人々がまだいることも事実であり、大学・短大を上位に、専門学校を下位にみる序列意識が根強く存在していると思われる。

さらに、滋賀医療技術専門学校を含めて、既述の大学が理学療法士・作業療法士の資格を取得できる学校であることは、第三者も理解できるが、それぞれの学校の特色や違いは明確ではない。

そのため、志願者においては、偏差値や大学の規模等（大学全体の定員規模や学部・学科数、大学所在地周辺の賑わい等）を指標にした大学選びが行われているものと推測する。

このような状況において、学生確保がままならない学校は、教育内容の工夫やアメニティーの充実、情報発信に一層の努力や工夫が求められるが、滋賀医療技術専門学校については、それを行う力量が不足していたことが定員未充足の原因と考える。

## ②今後の在り方

専門職大学への移行を目的に、2019（平成 31）年度生からの学生募集を停止している。

## 2) 定員充足の根拠となる客観的データの概要

### (1) 入学意向調査の概要

「藍野専門職大学」(仮称)設置に関するニーズ調査 結果報告書(資料 1-1 高校生対象調査 施設等職員対象調査)は、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」に対する進学需要を確認するために、2018年7月2日から2018年9月7日の期間にアンケート調査を実施した。

公正性を担保するために第3者機関に調査を依頼した。同様の調査実績のある「進研アド」を選んだ。

入学意向調査で高校生2年生を対象にした理由は、AO入試、推薦入試、一般入試を受験する生徒を想定したからである。一方、施設における多職種を対象としたのは、社会人推薦入試を想定したからである。本学が想定した社会人推薦入試の対象者とは、以下に示すとおりである。

#### 本学が入学を想定する社会人

- ①キャリアアップ及びスキルアップを目的としたリハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種  
介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等
- ②資格の多重取得を目的とした看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医療職
- ③キャリアチェンジを目的とした全く異なる職種からの転職者

この中の①と②に属する者は、本学が社会人入学者として想定した主な職種であり、その多くが医療・介護・福祉関係の施設、特別支援学校等で働いているため、これらを総称して「施設等職員」と表現した。また、③については、あらゆる職種が考えられ、且つ、ごく少数であるため、調査は困難と判断した。そのような経緯から、社会人を対象とした調査結果報告書のタイトルが「施設等職員に対する入学意向調査」となった。

なお、調査終了後の2019年3月の補正申請で大学名及び学部名を変更したため、本学の大学名での調査ではなくなるが、調査時に対象者に配布したリーフレットには、藍野専門職大学(仮称、設置構想中)、また、学部名についても同様に「臨床リハビリテーション学部」(仮称、設置構想中)と記していることから、大学名や学部名から想起される内容や職業へのイメージへの影響は少ないと考えている。

### (2) 高校生対象に行った調査・分析

#### ①アンケート調査に関する一般的事項

調査は、本学が学生確保における主要なエリア(近畿地方と中部地方・北陸地方の一部)に所在する高校の進路指導課に対し依頼し、承諾が得られた54校に送付し、高校留置き調査を行った。

#### 回収状況

依頼校数54校、9,490人に対し、回収数が3,817人(回収率40.2%)であった。

性別は、男性 47.2%、女性 52.2%であった。

### 高校卒業後の希望進路

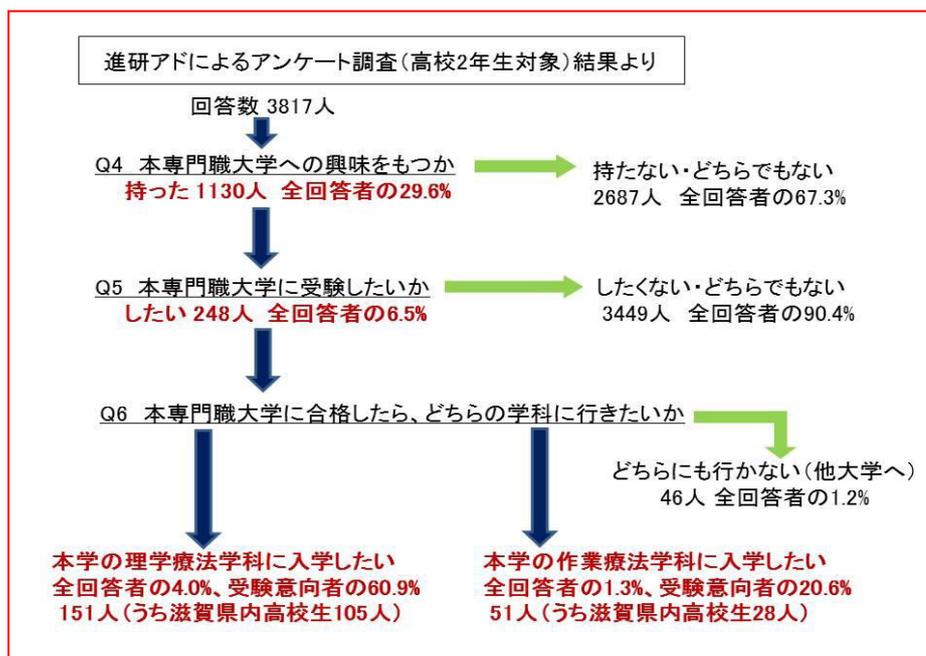
高校卒業後の希望進路では、複数回答の質問形式で、就職 (22.8%)、その他 (2.4%)、無回答 (0.8%) となり、これらを合計すると 26.0%、つまりそれ以外の 74.0%は、進学希望を示していると考えられる。進学先の希望は、国公立大学 32.6%、私立大学 36%、専門職大学 6.0%、短期大学 11.7%、専修学校・専門学校 31.8%であった。

### 興味のある学問系統

興味のある学問系統について「看護学」の 13%にならび、「医療技術・リハビリテーション学」は 12.5%、「スポーツ・体育・健康科学」 12.1%と上位の比率をしめして、高校生にとって関心が高いと言える。

### ②調査結果から本学への受験意向・入学意向を分析

調査結果から本学への受験意向・入学意向に関する結果は下図のとおりである。



まず、興味度に関する質問に対して、設置構想中の本専門職大学に「興味をもった」と答えた人は 29.6%、次に「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中) への受験意向に関する質問に対して、「受験したいと思う」と回答した人は 248 人 (6.5%) であった。この 248 人のみを抽出して、本専門職大学に合格した場合の入学意向を聞いたところ、「臨床リハビリテーション学部理学療法学科に入学したい」151 人 (60.9%、全回答者の 4.0%) で、「臨床リハビリテーション学部作業療法学科に入学したい」51 名 (20.6%、全回答者の 1.3%) であった。入学希望しない(すなわち、他大学に行く)と答えた生徒は 46 名であった。本学の理学療法学科 80 人、作業療法学科 40 人の定員に対し、入学定員以上(理学療法学科 1.89 倍、作業療法学科 1.28 倍)の実数を得ることができた。

本学近隣の滋賀県・湖北・湖東・湖南・甲賀地区における高校生と中学生（本学設置5年後まで）の人口推移に関する表を以下に示す。18歳人口が数年先まで維持されていることが分かる。上記の調査結果で得られた比率をもとに計算すると、この地域から理学療法でおよそ500人、作業療法で160人が、本学受験を希望し、更に入学意向を表明していることになる。なお、これらの地域の中で、特に東近江市に南接する滋賀県湖南地域は、全国的に稀な、18歳人口増加地域である。

計算式：入学意向者予測値＝（対象地域の高校2年生人口）×（本学への受験意向・入学意向者比率）

理学療法学科 12,464人×4.0%＝498.6人

作業療法学科 12,464人×1.3%＝162.0人

滋賀県湖北・湖東・湖南地域の高等学校・中学校生徒数（開設5年目までを想定）

平成30年5月1日現在

単位：人

高等学校

区分	学校数		全 日 制													専攻科	別科
	計	全日制	本 科														
			計			1 学 年			2 学 年			3 学 年					
			計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女			
大津市	13	10	9,725	4,947	4,778	3,278	1,667	1,611	3,278	1,676	1,602	3,169	1,604	1,565	-	-	
彦根市	6	5	4,797	2,832	1,965	1,617	957	660	1,584	932	652	1,596	943	653	-	-	
長浜市	5	4	3,058	1,475	1,583	992	471	521	1,058	514	544	1,008	490	518	-	-	
近江八幡市	4	4	3,461	1,832	1,629	1,184	634	550	1,187	631	556	1,090	567	523	-	-	
草津市	6	5	4,674	2,400	2,274	1,621	817	804	1,564	835	729	1,489	748	741	-	-	
守山市	3	3	2,292	1,159	1,133	804	394	410	767	407	360	721	358	363	-	-	
栗東市	2	2	1,414	618	796	486	216	270	459	186	273	469	216	253	-	-	
甲賀市	4	4	1,942	1,043	899	676	355	321	633	345	288	633	343	290	-	-	
野洲市	1	1	437	238	199	160	93	67	139	74	65	138	71	67	-	-	
湖南市	2	2	1,113	507	606	361	157	204	381	157	224	371	193	178	-	-	
東近江市	4	3	2,264	1,148	1,116	791	399	392	738	389	349	735	360	375	-	-	
米原市	2	2	1,186	667	519	391	214	177	401	198	203	394	255	139	-	-	
日野町	1	1	470	228	242	160	87	73	158	71	87	152	70	82	-	-	
竜王町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛荘町	1	1	345	138	207	121	54	67	117	46	71	107	38	69	-	-	
豊郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
甲良町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
多賀町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	54	47	37,178	19,232	17,946	12,642	6,515	6,127	12,464	6,461	6,003	12,072	6,256	5,816	-	-	
						専門職大学 開設2年目対象			専門職大学 開設年度対象								

出所：「平成30年度 学校基本調査（滋賀県/第26表 高等学校 学校数、学級数および学年別生徒数）」より、抽出し作成

## 中学校

区分	学校数			生徒数											
	計	本校	分校	計			1 学 年			2 学 年			3 学 年		
				計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
大 津 市	18	18	-	8,771	4,467	4,304	2,810	1,440	1,370	2,901	1,450	1,451	3,060	1,577	1,483
彦 根 市	7	7	-	3,055	1,575	1,480	994	513	481	1,000	518	482	1,061	544	517
長 浜 市	12	12	-	3,348	1,720	1,628	1,090	562	528	1,158	592	566	1,100	566	534
近江八幡市	4	4	-	2,061	1,020	1,041	700	361	339	656	322	334	705	337	368
草 津 市	6	6	-	3,363	1,752	1,611	1,098	564	534	1,152	597	555	1,113	591	522
守 山 市	4	4	-	2,685	1,378	1,307	865	443	422	900	453	447	920	482	438
栗 東 市	3	3	-	2,112	1,132	980	688	402	286	721	364	357	703	366	337
甲 賀 市	6	6	-	2,475	1,300	1,175	799	422	377	806	420	386	870	458	412
野 洲 市	3	3	-	1,377	750	627	441	246	195	502	265	237	434	239	195
湖 南 市	4	4	-	1,450	763	687	459	223	236	487	256	231	504	284	220
東 近 江 市	9	9	-	3,154	1,610	1,544	1,021	521	500	1,079	556	523	1,054	533	521
米 原 市	7	7	-	1,057	552	505	349	181	168	342	182	160	366	189	177
日 野 町	1	1	-	548	265	283	178	82	96	187	90	97	183	93	90
竜 王 町	1	1	-	320	184	136	119	70	49	78	42	36	123	72	51
愛 荘 町	2	2	-	644	322	322	222	117	105	217	106	111	205	99	106
豊 郷 町	1	1	-	215	98	117	72	37	35	74	28	46	69	33	36
甲 良 町	1	1	-	179	89	90	45	24	21	64	26	38	70	39	31
多 賀 町	1	1	-	200	110	90	74	40	34	55	35	20	71	35	36
	90	90	-	37,014	19,087	17,927	12,024	6,248	5,776	12,379	6,302	6,077	12,611	6,537	6,074
							専門職大学 開設5年目対象			専門職大学 開設4年目対象			専門職大学 開設3年目対象		

出所：「平成30年度 学校基本調査（滋賀県/第17表 中学校 学校数、学級数および学年別生徒数）」より、抽出し作成

### ③ 学生確保の見通しを裏付ける他の判断材料

#### 滋賀医療技術専門学校の実績

滋賀医療技術専門学校の実績から考えると、ここ3年間の平均で、理学療法学科の志願者数が87名であり、単純にみると本専門職大学の入学定員を充足する。滋賀医療技術専門学校では、成績不良者を避けるために入学許可を7割程度に絞っているが、「理学療法士になりたいが、専門学校だからという理由から進学先として検討にならない場合も多いため、大学になればもっと成績の良い受験者数が増える」と予想する高校進路指導者も多い。また、滋賀医療技術専門学校を受験し合格しても、実際には入学しなかった受験生が毎年数名～10名程度存在する。これまでに直接事情を聞くことが可能だった辞退者にヒアリングしたところ、「佛教大学または京都橘大学にも合格したので『大学』に行きたい、しかも京都の大学は自宅通学できるので」という辞退理由であった。これらのことから、本学が設置されれば、現役高校生の入学希望者は、滋賀医療技術専門学校の時よりも増加すると見通しを立てている。

#### 通学手段に関する地域事情

地域の特性として、世帯当たりの車保有台数の多いこと、高校卒業時に免許取得する人が多いことから、駅まで自家用車・バイクで行き、そこからJRなどで長時間通学する学生も多い。

前身の滋賀医療技術専門学校では、約35%の生徒が自家用車にて通学している状況である。友人同士で乗り合うケースや2輪バイクで通学する生徒も考慮すると、約半

数の生徒が公共交通機関以外の方法で通学していることになる。実際に、学校まで最寄りの JR 能登川駅から通学バスで約 30 分かかるため、車やバイクを利用することで学校まで最短距離で移動でき、通学にかかる時間を大幅に短縮できる。本学は、学生の通学に係る負担を減らすために自動車通学ができるように学生が利用できる駐車場を用意している。

### 競合大学との関係

京都・大阪北部・三重県隣接地域の 11 大学リハビリテーション系学部における志願者倍率は、各大学のホームページによると、理学療法学科の倍率 2.9～19.8%、作業療法学科の倍率 1.4～19.9%となっており、競合大学同学科の入学定員は充足していることから、4 年制大学への進学需要は、供給を超えていることが分かる。さらに、競合する可能性のある在京都の大学に比べ、本学の学費は 4 年間合計で 520 万円であり、競合大学と比較して 97 万円以上安価であり、進学先を選択する際には、経済的負担が少ないという点は優位に働くと考える。

### 競合の志願者倍率

#### 理学療法学科

大学名	所在地	入学定員	2016 年		2017 年		2018 年	
			志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率
佛教大学	京都市中京区	40	1,153	28.8	952	23.8	616	15.4
京都橘大学	京都市山科区	66	986	14.9	1,154	17.5	1,307	19.8
藍野大学	大阪府茨木市	80	469	5.9	263	3.3	230	2.9
大和大学	大阪府吹田市	40	645	16.1	689	17.2	724	18.1
大阪人間科学大学	大阪府摂津市	60	374	6.2	307	5.1	242	4.0
大阪保健医療大学	大阪市北区	70	306	4.4	195	2.8	217	3.1
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	60	792	13.2	722	12.0	712	11.9
大阪電気通信大学	大阪府四条畷市	40	99	2.5	71	1.8	116	2.9
中部学院大学	岐阜県関市	60	191	3.2	134	2.2	276	4.6
鈴鹿医療科学大学	三重県鈴鹿市	40	251	6.3	264	6.6	276	6.9

#### 作業療法学科

大学名	所在地	入学定員	2016 年		2017 年		2018 年	
			志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率
佛教大学	京都市中京区	40	490	12.3	423	10.6	429	10.7
京都橘大学	京都市山科区	40	—	—	—	—	796	19.9
藍野大学	大阪府茨木市	40	161	4.0	97	2.4	75	1.9
大和大学	大阪府吹田市	40	417	10.4	448	11.2	489	12.2
大阪保健医療大学	大阪市北区	30	89	3.0	75	2.5	41	1.4
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	40	244	6.1	381	9.5	305	7.6

## ○学費の状況

びわこリハビリテーション専門職大学（本学）

リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	実験実習費	施設設備費	合計
初年度	400	900	100	200	1,600
2年次以降	—	900	100	200	1,200
				4年間の合計	5,200

類似の大学の学費（出所：各大学のホームページより抽出）

単位：千円

大学名	区分	入学金	授業料（年額）	施設設備費 など	合計	本学との 差異
佛教大学	初年度	170	1,380	400	1,950	+350
	2年次以降	—	1,380	400	1,780	+580
	4年間の合計				7,290	+2,090
京都橘大学	初年度	250	1,200	280	1,730	+130
	2年次以降	—	1,200	280	1,480	+280
	4年間の合計				6,170	+970
大和大学	初年度	180	1,150	400	1,730	+130
	2年次以降	—	1,150	400	1,550	+350
	4年間の合計				6,380	+1,180
森ノ宮医療大学	初年度	250	1,200	280	1,730	+130
	2年次以降	—	1,200	280	1,480	+280
	4年間の合計				6,170	+970

### （3）施設等職員を対象に行った調査・分析

調査は、滋賀県を中心とした近畿エリアの施設等に依頼し、承諾が得られた47施設へ調査票を送付し、郵送にて回収した。依頼数は47施設959人に対して、回収数622人（回収率64.9%）であった。

#### ①調査の一般的事項・対象者属性

勤務地は、滋賀県（87.5%）が約9割を占め、次いで京都府（9.6%）となり、本学への通学が可能な範囲に所在する施設が大半であった。対象者の性別は、男性33.1%、女性65.9%で、回答者の年齢は、20代（25.9%）、30代（30.5%）、40代（22.7%）、50代（16.6%）となり、20代から50代の両性の意向を反映している。なお、回答者の最終学歴は、四年制大学29.9%、次いで高等学校22.5%、専門学校22.0%の順で多かった。

#### ②「学び直しへの関心」及び「本専門職大学への魅力度」について

資格取得や専門知識・スキルアップのために大学や専門学校に入学し、「学び直し」することに関心があるかという質問に対し、「関心がある」と回答した人は59.2%であった。前述した本学が想定する社会人入学者を対象は、予想通り「学び直しへの関心」がある結果となった。

「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）の特色に対する魅力度について、A～Eすべての項目について、「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」と回答した人が8割

を超えている。対象者が、本学の領域に関心の高い人であるため、魅力度は高くなると予測していたが、想定を上回る高い結果であり、本学の特色に加え、社会人においても専門職大学という新しい制度への期待は大きく、結果を押し上げるほうへ影響したと考えた。

### ③調査結果での本学への受験意向・入学意向

受験意向については、「受験したい」と回答した人は 230 人（37%）であった。

この 230 人のみを抽出して、入学意向を示した人数をみると、全体で 207 人（90%）が、受験して合格したら入学したいと回答している。さらに詳細にみていくと、「理学療法学科に入学したい」と回答した人は 139 人（60.4%）、現在の職種別では、介護福祉士 29 人、介護支援専門員 10 人、作業療法士 8 人、看護師 8 人の順で多かった。「作業療法学科に入学したい」と回答した人は 69 人（30.0%）、現在の職業別では、介護福祉士 15 人、教員 13 人、医療事務職員 5 人、理学療法士 2 人の順で多かった。

この結果から、理学療法学科と作業療法学科に共通していたのは、介護福祉士が最も多かったこと、すでに何らかの資格を取得している人が多く、多重資格取得を目指している人が多かったことである。違いは、理学療法学科では看護師と介護支援専門員が多いこと、作業療法学科は教員（特別支援学校）、医療事務職員が多いことであった。

本調査では、「受験したい」と回答した人 230 人（理学療法学科 139 人、作業療法学科 69 人）であったが、対象者の年齢は 20 代から 50 代であり、学び直しの時期やタイミングは、就学するための条件が整わないと難しいと思われ、受験のタイミングには幅があると捉えるほうが妥当と考え、下方修正する必要があるが、「学び直したい」というニーズが高いこと、受験までこぎつければ、合格したら入学する意欲が高い集団が存在し、長期にわたり一定数の入学者は確保できると想定している。

### ④調査を裏付ける他の判断材料

前身の滋賀医療技術専門学校の直近 3 年間の社会人入試・学士入試の状況は下表の通りである。社会人（社会人の経験を持つ者+大卒の者）の受験者数（社会人入試と学士入試受験者数の合計）の平均は、19.7 人（PT11.3 人、OT8.3 人）で、合格者すれば全員必ず入学している。

滋賀医療技術専門学校 社会人入試・学士入試状況

	理学療法学科			作業療法学科		
	受験者	合格者	入学者	受験者	合格者	入学者
2018 年	8	4	4	5	3	3
2017 年	11	8	8	9	9	9
2016 年	15	6	6	11	11	11

これらの結果をもとに、本学が社会人枠として想定した理学療法学科 8 名程度、作業療法学科 4 名程度の入学者の確保の見通しは立っているものとする。

### 3) 学生納付金の考え方

学生納付金の設定については、収入全体において、学生納付金が占める割合は約80%と考えられることから、金額の設定を重視し、支出として多くなる人件費及び教育研究経費を十分に賄い、収支均衡を図ることを第一義とした。

次に、想定される競合大学の学生納付金と比較した。(P11 参照)

4年間でかかる学生納付金の平均総額は6,619,091円で、本学においては、平均総額より低く設定し、5,200,000円(入学金400,000円・授業料900,000円・実験実習費100,000円・施設設備費200,000円【年額】)とした。それにより、保護者や社会人入学者の経済的軽減を図ることができ、より多くの志願者を確保するとともに、入学定員を充足できるものと考えている。

### 4) 高校生と社会人を対象とした調査実施の目的や根拠となる学生の受け入れ方針と学生募集方法、入学選抜方法について

今回、学生確保の見込みについて、計量的な数値から確認することを目的として、第三者の調査機関に依頼し、滋賀県及び京都府、和歌山県、福井県、岐阜県、三重県に所在する高等学校の2年生(54校・9,490人)並びに滋賀県及び京都府、兵庫県に所在する施設等職員(47施設・959枚)に対する入学意向調査を実施したが、高校生と社会人(施設等職員)を対象とした調査実施の目的や根拠となる本学の学生の受け入れ方針と学生募集方法、入学選抜方法の関係性・適切性について述べる。

18歳人口の急激な減少に加え、長く続いた経済不況及び国民の多くが景気よさを実感できていない昨今の経済状況に起因する「私大離れ現象」「地元志向の高まり」等、私立大学を取り巻く環境は一段と厳しさを増し、「大学全入時代」に突入している。こうした社会環境のもとで、大学が自らの社会的使命をより高度に達成していくためには、何よりもまず高等教育機関としての内実の強化・充実が前提となるが、同時に豊かな可能性を持った優秀な学生を迎え入れることが重要であり、そのためには、自らの個性と魅力を積極的にアピールする広報活動の充実と、公正で合理的な入学者選抜制度の確立が不可欠となっている。このような認識の下、本学では、個性に応じた多様な選抜制度を計画している。

#### (1) 学生確保に向けた具体的な取組み(学生募集の方法)

学部・学科で行う教育目標等と教育内容・方法、教育研究環境等に係る情報について、とりわけ受験生に正確に把握してもらうこと、さらに、アドミッション・ポリシー並びに入学選抜方法等に係る入試情報について、学部・学科と受験生の双方にとって必要かつ的確な情報を提供することにより、本学を第一志望とする受験生を増やすべく、以下のような学生募集活動を展開する。また、受験生・入学者が本学における教育研究活動に対して興味・関心を示している内容と、各学科が用意しているカリキュラム及び教育研究内容との間に齟齬が生じないように、高校訪問や施設訪問、学外ガイダンス等の機会

において、具体的な教育内容、研究等について丁寧に説明していく。

学生確保に向けた取り組み（学生募集の方法）としては、学生募集に関するパンフレット等の配布をはじめ、自校のホームページやオープンキャンパスの充実、広報誌媒体（電子媒体を含む）への掲出などの多くのメディアを使用した広報活動を行う。

また、志願者（高校生・社会人）確保の窓口となりうる高等学校や施設に対し、継続的な訪問を実施し、情報提供を行うとともに、継続的な志願者の紹介に繋がるように関係構築に努める。

具体的な取り組みについては、次のとおり実施していく。

#### ①パンフレット・ポスター

本学の学部・学科の特長が理解できるパンフレットを作成し、高等学校や施設の訪問、進学ガイダンス等で配付する。紙媒体は、志願者・高等学校教員・保護者に対し対面で説明する際にも、本学の情報をよく見てもらうことができ、さらに保存性も高いため、効果的に活用することができるツールである。

また、人の視覚にダイレクトに訴え、印象を残すためにポスターを作成する。ポスターは、高等学校や施設に配付し、本学の存在、学科の内容及び特長を簡単にわかりやすく伝わるつくりにする。

#### ②ホームページ・ソーシャルメディア

近年の情報入手の手段は、インターネットを介する者が多いことは言うまでもないが、インターネットにつなぐ情報通信機器の保有状況として、スマートフォンの保有状況が2010（平成22）年以降、爆発的に普及している。総務省の「通信利用動向調査」によると、2016（平成28）年にはスマートフォンの保有率（世帯数）は71.8%となっている。（図表7）また、個人の保有率について述べると、20代・30代が90%を超え、13歳～19歳までの保有率は80%を超えている。（図表8）

このように、スマートフォンというインターネット利用端末が低年齢層まで普及している状況ことから、インターネットを介した情報入手が更に促進されることは明らかである。

以上のことから、ホームページは、高校生や社会人に対し、本学の学部・学科の魅力や最新情報を伝えていくための最も有効な手段と言える。ホームページにおいては、学部・学科の特長、オープンキャンパス、入学選抜の内容は勿論のこと、就学に関することや就職・国家試験の状況に関する事など、本学での四年間の学生生活を深く理解してもらえよう高校生や社会人が必要とする内容を構築する。

また、10代・20代のスマートフォンの利用内容において、最も多いものがソーシャルメディアである。（図表9）このことから、本学においても、学部・学科の教育研究活動やイベント活動などの取り組みをソーシャルメディア（「Instagram」、 「LINE」など）を通じて、魅力を発信していく。

### ③高校訪問・施設訪問

本学では、これまで滋賀医療技術専門学校において培ってきた滋賀県をはじめとする高等学校との繋がりを活用し、高校生や進路指導担当教員との対話を重視した学生募集活動を実施し、学科の教育内容や特色を直接伝えていく。

また、高齢者施設等の施設訪問を通して、福祉施設介護員・ホームヘルパーからの学び直しやステップアップを目指す者に対し、待遇の違い（図表 6）を含め PR を行う。

### ④進学情報誌・進学情報サイトへの掲出

志願者が、新しい大学を発見することができる手段として進学情報誌・進学情報サイトがある。潜在的志願者に情報を届けることで学科への興味を喚起し、志願者になり得る資料請求者を増加させるために有効な媒体である。

専門学校での状況や当法人が設置する大学の状況を検証し、効果的なものを選び積極的に掲出し、資料請求者の母集団の拡大に繋げる。

### ⑤校内ガイダンスへの参画

高等学校（専門業者の委託含む。）からの要請により、生徒の進路学習の一環として校内で実施される進学ガイダンスは、学年別や希望分野別など様々な方向性で実施されている。その中で直接生徒に職種や大学の魅力を伝えることができるため、最大限に利用し、特色や魅力が伝わるよう説明方法にも工夫を凝らしていく。

### ⑥会場進学ガイダンス

会場進学ガイダンスは専門業者が主催しているものであるが、進学に対する目的意識の高い高校生が多く参加している。また、高等学校として、生徒が将来的に就きたいと考える職種に必要な能力を身につけるためにどのような学校があり、どのような学びが行われているのかを学ぶ機会として、貸し切りバス等により学年全体で来場するケースもある。

この有効的な機会に積極的に参加し、学生募集担当と教育職員の協働により、対面する生徒への情報伝達効果が最大限になるように努める。

### ⑦オープンキャンパス・入試説明会

5月から9月にかけてオープンキャンパスを年間6～7回程度、高等学校の学事などを考慮した生徒が参加しやすい日程で開催する。また、10月に入試説明会を開催する。

オープンキャンパスの主な実施内容は、大学・学部・学科の紹介、職種を理解するための模擬授業・実技体験、入試・奨学金説明、施設見学、各種相談となるが、運営スタッフに在学学生を加え、進学希望者・保護者や家族との懇談の機会を設け、イメージの現実性を高めてもらう。

オープンキャンパスは、本学への進学を選択肢の一つとして考える者や保護者・家族と直接対面して接することができる貴重な機会であるため、本学の学部・学科

の特色や魅力を具体的かつ最大限に伝えていく。

入試説明会は、オープンキャンパス参加者よりも、本学への進学意識が高いことが想定されることから、本学が育成する人材像、本学が求める人材像などを具体的に説明し、医療専門職になりたいという意志をより具体性をもって高めてもらえるようにする。

開設予定年度の入学対象者に対する PR については、本学がスタートをする上で重要なポイントとなるため、以下のようにオープンキャンパス等を実施し、本学の認知度を向上させる。

年月日	名 称	開催場所等
2019.4.27	医療健康フォーラム (専門職大学制度の説明等)	八日市商工会議所
2019.7.15	学校説明会 (高等学校教員向け)	GNET しが (近江八幡市)
2019.7.21	学校説明会 (高校生・一般向け)	GNET しが (近江八幡市)
2019.8.3	学校説明会 (高校生・一般向け)	滋賀県立文化産業交流会館 (米原市)
2019.8.25	オープンキャンパス	本学
2019.9.14	オープンキャンパス (又は入試説明会)	本学
2019.10.26	オープンキャンパス (又は入試説明会)	本学
2019.11.16	オープンキャンパス	本学
2019.12.8	オープンキャンパス	本学

#### ⑧看板を用いた広告掲出

JR の最寄り駅や利用者が多い駅において、本学の看板広告を掲出し、進学を考える者を含む列車の乗降客の目に繰り返し情報を発信することで、地域社会における本学の存在認知を高めていく。

また、広告内容についても、適宜変更し、効果的な情報浸透を図る。

#### ⑨公開講座

地域の生涯学習振興の促進に寄与するとともに、本学の研究成果を社会に還元することを目的として、公開講座を開催する。

人々の生活における身近な話題をテーマとし、多くの来場を図るとともに、地域社会における本学の存在認知を高めていく。

## (2) 入学者選抜方法の概要

入学者選抜、本学のアドミッション・ポリシーに見合う、医療専門職業人としての目的意識が明確で、学習意欲の高い、大学教育を受けるにふさわしい能力をもった人材を選考するために実施するものである。

入学試験にも多様性をもたせ、受験者を多面的・総合的に評価する目的で、アドミッション・オフィス（AO）入試、並びに推薦入試として、学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康であることを出身学校長が保証することを前提とした「指定校推薦入試」や「公募制推薦入試」、推薦書等で社会人としての豊かな経験・自らの強み・学び直しの意欲・適正を選考する「社会人推薦入試」、併せて、学力試験を課し適正を選考する「一般入試」の5つの入試区分で選考を行う。なお、指定校推薦入試の選定基準は、原則として、本学に通学可能な地域に所在し、本学への入学希望のニーズが高い生徒がいる高校とし、約20～30校に指定校推薦枠を設ける。この選定は、前身の滋賀医療技術専門学校における指定校からの入学実績、卒業実績を参考にして行う。

また、推薦入試の入試区分を「指定校推薦入試」、「公募制推薦入試」及び「社会人推薦入試」の3つすることにより、受験生にとって、本学の入試区分がより分かりやすくなり、多様な選抜方法から選ぶことができるようになること、本学にとっては、アドミッション・ポリシーに見合う学生を異なる選抜方法から多面的に評価し、選考できる点でメリットがあると考えられる。

一方、一般試験の学力試験の実施方法を 国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ及びⅡから1科目選択、数学Ⅰ、物理基礎及び生物基礎から1科目選択する2科目としていたが、入試による選択科目の試験の難易度を統一することは難しく、より多様な人材を確保するために以下の通り変更する。コミュニケーション能力を評価する文系科目（国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題）と職業に直結する知識を評価する理系科目（数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題）に分け、それぞれで出題された問題の中から、受験者が（科目ではなく）問題単位で選択して回答する方式とする。この変更により、1科目を得意とする者、複数科目をまんべんなく得意とする者を選抜したい。

以上の、変更を踏まえ、募集定員をリハビリテーション学部理学療法学科は80名、リハビリテーション学部作業療法学科は40名として、AO入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、社会人推薦入試、一般入試の5つの区分で実施する。募集人員の想定は、次の通りで、AO入試では、理学療法学科8名、作業療法学科4名とし、推薦入試では、全体の募集定員の4割とし、指定校推薦入試（理学療法学科16名程度、作業療法学科は8名程度）、公募制推薦入試（理学療法学科8名程度、作業療法学科は4名程度）、社会人推薦入試（理学療法学科8名程度、作業療法学科は4名程度）を想定している。また、複数の入試区分を設けているため、合否の判定は多面的かつ合理的な根拠をもって公正に行われるように配慮する。

各入試区分の概要と選考の方法は次の通りである。

## AO入試

調査書とエントリーシート、グループディスカッションを通して、学力試験では測ることができない学生の意欲・適性をもとに判定する。部活動などの活動業績やボランティア活動、検定資格なども評価し、選考する。このグループディスカッションは、与えられたテーマをもとにディスカッションさせて AP2 から AP4 の項目ごとに評価する。

## 指定校推薦入試

本学が指定する高等学校の卒業見込者で、学業成績・人物ともに極めて優れ、心身ともに健康であると出身学校長が責任を持って推薦できる者について、高校長からの推薦書、調査書、志願理由書、個人面接を行い、選考する。AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。

## 公募制推薦入試

高等学校の卒業見込の者、または、前年 3 月に卒業した者で、学業成績・人物面における優等性について高校長の推薦のもとに、調査書、志願理由書、グループディスカッション、個別面接を行い、選考する。AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。

## 社会人推薦入試

入学時において社会人経験を 1 年以上有する者（パートタイム・アルバイトの実務経験を含む）で、社会人としての豊かな経験と学び直しの意欲・適性を自己推薦書（AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。）、個別面接、小論文（課題を読んで、それに対応して論じさせる。）をもとに選考する。

## 一般入試

志願理由書と学力試験をもとに選考する。学力試験は、文系科目（国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題）と理系科目（数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題）に分ける。文系科目は、コミュニケーション能力や理解力・表現力を見極めるためのもので、理系科目はリハビリテーション専門職にとって重要な理系の基礎知識を問うものである。いずれも出題全問を提示し、問題ごとに選択できる方式とし（選択数は 1 科目分）、得意な科目が単科目突出型か、まんべんなく複数科目得意型か、多様な人材を確保する。

## (2) 入学者選抜の具体的な方法

### 理学療法学科

入試区分	AO 入試	推薦入試			一般入試
		指定校 推薦入試	公募制 推薦入試	社会人 推薦入試	
募集人数	8名	32名			40名
専願/併願	専願	専願	併願	専願	併願
選抜方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④個人面接	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④グループディスカッション ⑤個人面接	①自己推薦書 ③個人面接 ④小論文	①志願理由書 ②学力試験 文系科目(国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題) 理系科目(数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題) ※両科目とも出題から、選択して回答

### 作業療法学科

入試区分	AO 入試	推薦入試			一般入試
		指定校 推薦入試	公募制 推薦入試	社会人 推薦入試	
募集人数	4名	16名			20名
専願/併願	専願	専願	併願	専願	併願
選抜方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④個人面接	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④グループディスカッション ⑤個人面接	①自己推薦書 ②個人面接 ③小論文	①志願理由書 ②学力試験 文系科目(国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題) 理系科目(数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題) ※両科目とも出題から、選択して回答

なお、この入学者選抜方法は、高大接続改革の一環としての大学入学共通テストが導入されるまでを想定しており、その後は試験実施方法等については見直しを行う予定である。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### 1) 社会的・地域的な人材需要の動向等

#### ①大学の必要性

滋賀県内における理学療法士・作業療法士養成施設は、平成30年4月現在、当法人が設置する滋賀医療技術専門学校1校である。その滋賀医療技術専門学校についても、地域のニーズに応えうる質の高い理学療法士・作業療法士の育成を目的とした藍野専門職大学への改組という意味合いから、平成31年度生の学生募集は停止している。

地元である滋賀県（以下「県内」という。）については、2018（平成30）年に作成した滋賀県保健医療計画において、地域包括ケアシステムをはじめとする医療・介護提供体制の充実を実現していくにあたり必要となるリハビリテーション専門職は、2025（平成37）年には3,000人の確保を目標とし、人材確保が課題となっている。このことから、理学療法士・作業療法士を充足し、滋賀県が掲げる目標を達成するためには、地域に根ざした養成施設を置く必要がある。

また、近年、理学療法士は整形外科疾患の患者に限らず、脳卒中発症後患者の急性期リハビリテーションや糖尿病患者の運動療法等、様々な疾患をもつ患者への対応が期待されている。また、作業療法士については、言語聴覚士とともに摂食・嚥下チームのチームメンバーとしての役割が期待されている。このように、患者のリハビリテーションに対するニーズが多様化し、その対応が求められており、教育プログラムの改善・充実及び実習指導者の養成が必要とされており、これらのことを確実に履行していくためには、豊富な人的・物的な研究資源を持つ大学が中心になって取り組む必要があると考える。

#### ②滋賀県内のPT・OT確保の状況

滋賀県では、図表10より、「平成28年度病院報告」及び「平成28年度介護サービス施設・事業所調査」において、理学療法士が893.6人、作業療法士が460.5人、病院・施設等で従事していることが示されている。

しかし、対人口10万人で見た場合、他府県の水準と比較して十分な水準とは言えない。今後の高齢化の進展や疾病構造の変化、リハビリテーションの対象疾患の拡大、予防に向けた取り組みの充実に伴い、国と同様に必要な人材の確保が必要になると考えられる。

#### ③地域からの要望

滋賀県では、2025（平成37）年を見据えた医療福祉の推進という観点から、2014（平成26）年9月より医療福祉拠点機能の調査検討を進められてきたが、滋賀県においても、後期高齢者人口の急増が見込まれる中で、地域包括ケアシステムを支える医療福祉専門職の養成確保が喫緊の課題であり、その人材養成機能として、家庭や地域で県民が自立した生活を送るための地域リハビリテーションの強化も重ねて重要な課題となっている。滋賀県では、こうした支援を担うリハビリテーション専門職が、

2025（平成 37）年に約 3,000 人が必要と推計されており、現状の 1,200 人と比較して 1,800 人が不足する見通しである。そのため、リハビリテーション専門職を中心とした医療福祉専門職を養成するための高等教育機関の設置が滋賀県にとって急務であるとの考えより、平成 30 年 10 月 22 日付けで、滋賀県知事から文部科学大臣に対し、藍野専門職大学（現、びわこリハビリテーション専門職大学）設置認可申請について、要望書の提出がなされた。（資料 4）

また、本学の設置予定地である東近江市では、2017（平成 29）年 10 月 1 日時点での高齢者人口は 29,114 人で、高齢化率は 25.3%と全国水準より低いものの、確実に高齢化は進行し、2025（平成 37）年には 28.0%に達することが見込まれている。このような中で、東近江市では、誰もが可能な限り住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるよう、医療、介護、予防、住まい及び生活支援サービスが切れ目なく包括的に確保される「地域包括ケアシステム」の構築を目指し、実現に必要な取組が始められている。しかしながら、これらの取組を実現させていく上で、重要な課題は、地域包括ケアシステムを支える医療福祉専門職の養成確保と地域リハビリテーションの強化となっていることから、平成 30 年 10 月 23 日付けで、東近江市長から文部科学大臣に対し、藍野専門職大学（現、びわこリハビリテーション専門職大学）設置認可申請について、要望書の提出がなされた。（資料 5）

この他、公益社団法人滋賀県理学療法士会並びに一般社団法人滋賀県作業療法士会からも、滋賀県内における医療機関・高齢者施設等の運営において、理学療法士・作業療法士の確保は喫緊の課題となっていることから、地域医療に貢献するリハビリテーション専門職の安定的な供給、地域医療活動の円滑な推進と発展を期待し、公益社団法人滋賀県理学療法士会 平成 30 年 10 月 15 日付け、一般社団法人滋賀県作業療法士会 平成 30 年 10 月 22 日付けで要望書が提出された。（資料 6, 7）

#### ④地域における人材需要の見通し

びわこリハビリテーション専門職大学の設置計画を進める上で、地域社会の人材需要や卒業後の具体的な進路の見通しについて検証するために、滋賀県をはじめ近隣の都道府県に所在する病院・施設（218 病院・施設）を対象として、リハビリテーション職員の充足状況及び理学療法士・作業療法士の養成やそれを養成する大学の必要性、本学の理学療法学科・作業療法学科の卒業生に対する採用意向などに関する調査を行った。（資料 2-3）

なお、調査時における大学名は「藍野専門職大学」であった。

#### ○病院・施設採用担当者対象調査

調 査 対 象	病院・施設の採用担当者
調 査 方 法	郵送調査
調 査 時 期	2018（平成 30）年 7 月 2 日（月）～2018（平成 30）年 8 月 22 日（水）
調査実施機関	株式会社 進研アド

調査の結果、滋賀県をはじめとする都道府県において、調査に回答した病院・施設の理学療法士・作業療法士の充足状況（資料 2-3. P3）については、理学療法士で「若干不足している」が 55.5%で最も多い。また、「不足している」が 19.3%、「非常に不足している」が 0.8%であり、若干～非常に不足していると回答した病院・施設が、調査票回収件数 119 件の 75.6%を占めている。作業療法士では「若干不足している」が 34.5%、「不足している」が 24.4%、「非常に不足している」が 13.4%であり、若干～非常に不足していると回答した病院・施設が、調査票回収件数 119 件の 72.3%を占めている。この結果がそのまま反映されているものと考えられるが、理学療法学科の社会的必要性は、調査票回収件数 119 件の 90.8%にあたる 108 件の病院・施設が必要性を認め、作業療法学科の社会的必要性は、調査票回収件数 119 件の 94.1%にあたる 112 件の病院・施設が必要性を認めている。

次に調査に回答した病院・施設の「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度を見ると、「とても魅力を感じる」および「ある程度、魅力を感じる」と回答された特色で高いのは、「A. 滋賀県初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは 4 年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。」「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」が同率で 96.6%（「とても魅力を感じる」+「ある程度、魅力を感じる」）である。

また、「とても魅力を感じる」の割合でみると、全ての項目で 4 割を超えているが、特に「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4 年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」では 52.1%と、最も高い。

「理学療法学科」の特色である「F. 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターシップを行い、実践力と応用力を育てます。」に対する魅力度は 90.8%である。

「作業療法学科」の特色である「G. 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。」に対する魅力度は 92.4%である。

具体的な本学の理学療法学科・作業療法学科を卒業する学生の採用意向については、「理学療法学科」卒業生に対する採用意向（資料 2-3. P5）が調査票回収件数の 89.1%にあたる 106 件の病院・施設が「採用したいと思う」と回答しており、「作業療法学科」卒業生に対する採用意向（資料 2-3. P8）が調査票回収件数の 83.2%にあたる 112 件の病院・施設が「採用したいと思う」と回答しており、両学科共に入学定員を上回る採用意向が伺える。

また、理学療法学科・作業療法学科の卒業生を毎年何名程度の採用を想定している

か聞いたところ、調査に回答した病院・施設の全体合計で「理学療法学科」では189名程度、「作業療法学科」では203名程度であった。このことより、安定した人材需要があることも伺え、卒業後の進路は十分に見通しがあるものと考えられる。(資料2-3. P5, P8) (備考：調査実施後に学部名を臨床リハビリテーション学部からリハビリテーション学部に変更)

以上

## 图 表

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

学生の確保の見通し等 図表

# 目 次

## びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部における学生確保の 見通し等 図表

- 図表 1 ー 理学療法士・作業療法士養成校 私立大学入学定員・・・・・・・・・・ P1
- 図表 2 ー 滋賀医療技術専門学校 求人状況（過去3年）・・・・・・・・・・ P1
- 図表 3 ー 滋賀県におけるリハビリテーション人材確保の現状と目標・・・・・・・・ P1
- 図表 4 ー 滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における  
18歳人口の大学進学状況・・・・・・・・・・ P2
- 図表 5 ー 滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）の  
高等学校・中学校の在籍者数・・・・・・・・・・ P2
- 図表 6 ー 理学療法士・作業療法士 平均年収推移（他職種比較）平成25～29年・・・ P3
- 図表 7 ー 我が国の情報通信機器の保有状況の推移（世帯）・・・・・・・・・・ P3
- 図表 8 ー スマートフォン個人保有率の推移・・・・・・・・・・ P4
- 図表 9 ー インターネットの利用項目別の利用時間（経年年代別：10～20代）・・・・ P4
- 図表 10 ー 滋賀県におけるリハビリテーション専門職数・・・・・・・・・・ P5

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部における学生確保の見通し等 図表

図表 1

平成 30 年度 理学療法士養成校 私立大学入学定員

全国

30 名	35 名	38 名	40 名	45 名	50 名
2 校	2 校	1 校	29 校	1 校	3 校

60 名	65 名	70 名	80 名	120 名
14 校	1 校	2 校	28 校	1 校

出所：公益社団法人 日本理学療法士協会ホームページより抽出

平成 29 年度 作業療法士養成校 私立大学入学定員

全国

25 名	30 名	35 名	40 名	50 名	54 名
1 校	4 校	1 校	47 校	1 校	1 校

60 名	80 名
3 校	3 校

出所：一般社団法人 日本作業療法士協会ホームページより抽出

図表 2 滋賀医療技術専門学校 求人状況（過去 3 年）

	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
理学療法学科	583	2,989	594	4,233	527	2,940
作業療法学科	626	3,179	608	3,960	555	2,788

図表 3 滋賀県におけるリハビリテーション人材確保の現状と目標

(数値目標)

目標項目	現状値	目標値 (H35)	備考
県内で従事するリハビリテーション専門職の確保	1,908 人	3,000 人 (H37)	県の推計による
地域リハビリテーションの中核を担う人材の育成	0 人	60 人	
個別ケースレベルの地域ケア会議にリハビリテーション専門職を活用する市町の増加	16 市町 (H28)	19 市町	

出所：平成 30 年（2018 年）3 月 滋賀県保健医療計画（P215）より抜粋

図表 4 滋賀県及び近隣都道府県（京都府・大阪府・岐阜県）における 18 歳人口の大学進学状況

滋賀県

卒業年月	卒業者数	大学等進学者	専修学校進学者
平成 27 年 3 月	12,360 人	6,865 人 (55.5%)	2,049 人 (16.6%)
平成 28 年 3 月	12,656 人	6,958 人 (55.0%)	2,114 人 (16.7%)
平成 29 年 3 月	12,884 人	7,206 人 (55.9%)	2,171 人 (16.9%)

京都府

卒業年月	卒業者数	大学等進学者	専修学校進学者
平成 27 年 3 月	22,966 人	15,249 人 (66.4%)	3,155 人 (13.7%)
平成 28 年 3 月	22,813 人	15,161 人 (66.5%)	3,128 人 (13.7%)
平成 29 年 3 月	23,480 人	15,547 人 (66.2%)	3,217 人 (13.7%)

大阪府

卒業年月	卒業者数	大学等進学者	専修学校進学者
平成 27 年 3 月	73,852 人	43,896 人 (59.4%)	11,155 人 (15.1%)
平成 28 年 3 月	74,413 人	45,013 人 (60.5%)	10,949 人 (14.7%)
平成 29 年 3 月	75,858 人	45,292 人 (59.7%)	11,410 人 (15.0%)

岐阜県

卒業年月	卒業者数	大学等進学者	専修学校進学者
平成 27 年 3 月	18,477 人	10,357 人 (56.1%)	2,556 人 (13.8%)
平成 28 年 3 月	18,029 人	9,941 人 (55.1%)	2,406 人 (13.3%)
平成 29 年 3 月	18,379 人	10,279 人 (55.9%)	2,419 人 (13.2%)

※1. ( ) 内は、高等学校卒業生数に占める割合

※2. 専修学校進学者数は専門課程のみを記載

出所：文部科学省「学校基本調査 高等学校（全日制・定時制）卒業後の状況調査」より抽出

図表 5 滋賀県及び近隣都道府県（滋賀県・京都府・大阪府・岐阜県）の高等学校・中学校の在籍者数

平成 29 年度

	高校 1 年	中学 3 年	中学 2 年	中学 1 年
滋賀県	13,605	14,298	14,001	13,722
京都府	24,090	22,977	22,581	22,165
大阪府	78,724	79,353	77,250	75,659
岐阜県	18,717	19,990	19,399	18,587
合計	135,136	136,618	133,231	130,133
本学への受験対象	開学初年度	開学 2 年目	開学 3 年目	完成年度

出所：文部科学省「平成 29 年度 学校基本調査 学年別生徒数」（中学校・高等学校）より抽出

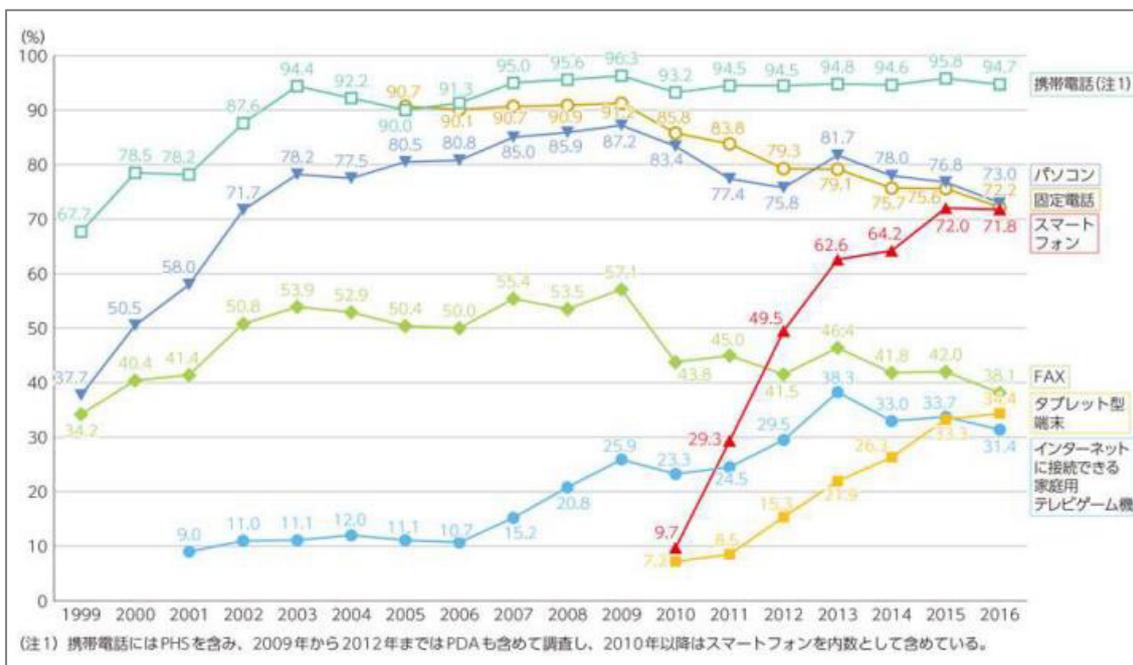
図表6 理学療法士・作業療法士 平均年収推移（他職種比較）平成25～29年 単位：万円

職 種	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
理学療法士・作業療法士	397	390	405	407	405
看護師	472	473	478	481	478
介護支援専門員(ケアマネジャー)	367	372	371	376	377
福祉施設介護員	307	309	316	322	330
ホームヘルパー	289	293	304	305	333

- ※1. 企業規模10人以上で算出
- ※2. 1万円未満を四捨五入している。

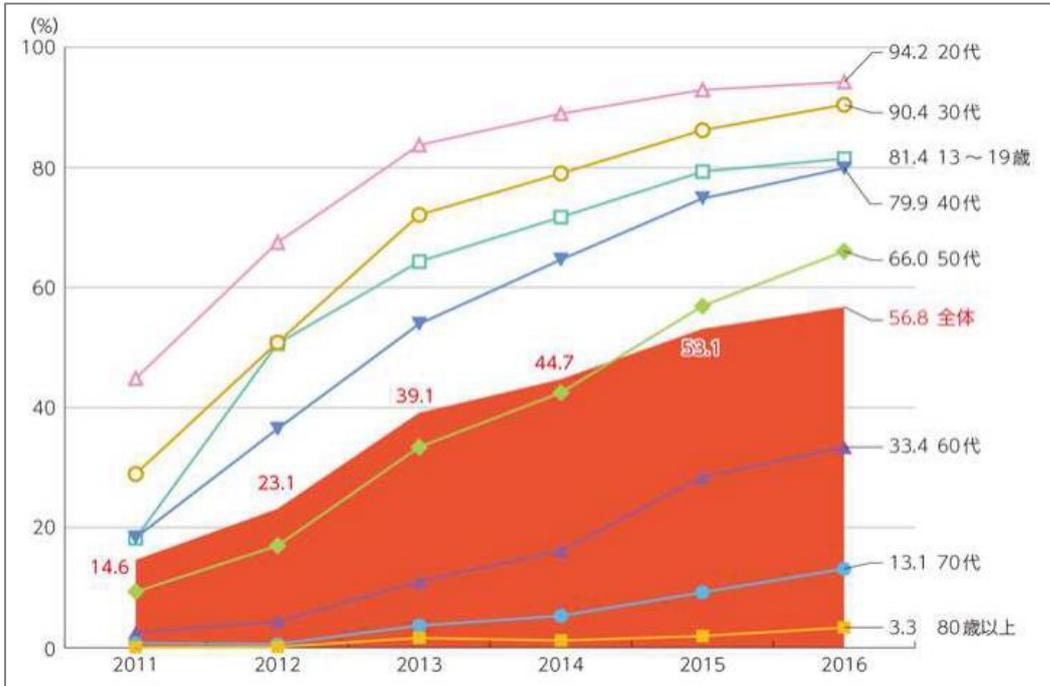
出所：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」（平成25～29年）より作成

図表7 我が国の情報通信機器の保有状況の推移（世帯）



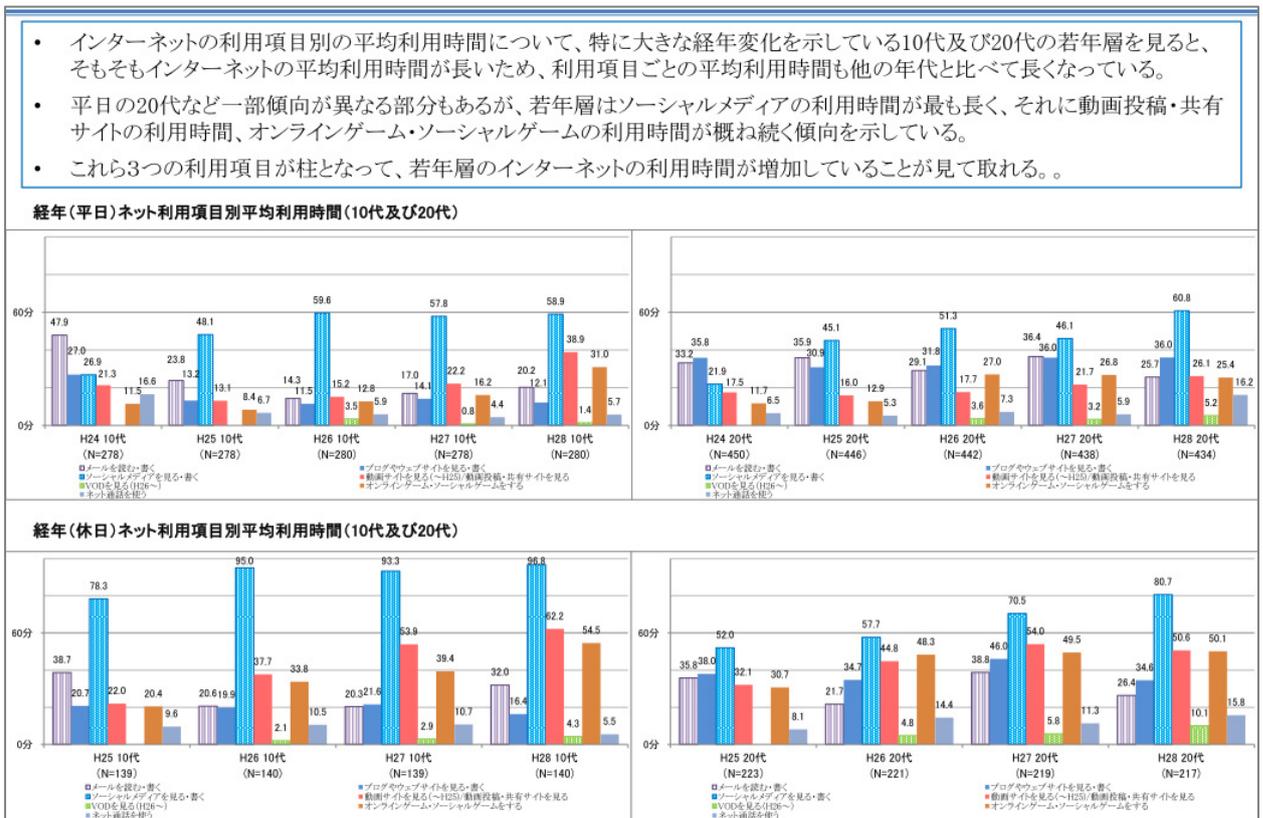
出所：総務省「通信利用動向調査」

図表 8 スマートフォン個人保有率の推移



出所：総務省「通信利用動向調査」

図表 9 インターネットの利用項目別の利用時間（経年年代別：10～20代）



出所：総務省 情報通信政策研究所「平成 28 年 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

<概要> (平成 29 年 7 月)

図表 10 滋賀県におけるリハビリテーション専門職数

病院に従事するリハビリテーション専門職数				
	滋賀		全国	
	常勤換算数	対人口 10 万人	常勤換算数	対人口 10 万人
理学療法士	677.6	48.0	74,235.6	58.5
作業療法士	346.5	24.6	43,884.1	34.6
言語聴覚士	121.9	8.7	15,123.2	12.0

出所：平成 28 年度「病院報告」（厚生労働省）

介護保険サービス施設・事業所に従事するリハビリテーション専門職数				
	滋賀		全国	
	常勤換算数	対人口 10 万人	常勤換算数	対人口 10 万人
理学療法士	216	15.3	32,082	25.3
作業療法士	114	8.1	17,281	13.7
言語聴覚士	19	1.4	3,418	2.7

出所：平成 28 年度「介護サービス施設・事業所調査」（厚生労働省）

出所：平成 30 年（2018 年）3 月 滋賀県保健医療計画（P210）より抜粋

添 付 資 料

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

学生の確保の見通し等 添付資料

## 目 次

### びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部における学生確保の 見通し等 添付資料

資料 1 社会人の学び直しについて

資料 2-1 「藍野専門職大学」(仮称) 設置に関するニーズ調査結果報告書  
【高校生対象調査】

資料 2-2 「藍野専門職大学」(仮称) 設置に関するニーズ調査結果報告書  
【施設等職員対象調査】

資料 2-3 「藍野専門職大学」(仮称) 設置に関するニーズ調査結果報告書  
【病院・施設採用担当者対象調査】

資料 2-4 藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 リーフレット  
「藍野専門職大学」(仮称) 設置に関するニーズ調査時において対象者に配付  
した本学資料

資料 3 平成 29 年度学校基本調査(確定値)の公表について

資料 4 藍野専門職大学の設置に係る要望  
滋賀県知事 三日月 大造

資料 5 藍野専門職大学リハビリテーション学部設置に係る要望について  
滋賀県東近江市長 小椋 正清

資料 6 藍野専門職大学リハビリテーション学部の設置に係る要望書  
公益社団法人 滋賀県理学療法士会 会長 平岩 康之

資料 7 藍野専門職大学リハビリテーション学部設置に係る要望  
一般社団法人 滋賀県作業療法士会 会長 宮内 吉則

# 資料 1

## 1. 社会人の学び直しについて

## (1) 学び直したい学習の内容

機会があれば再び学びたいと思うものはあるか聞いたところ、「外国語に関すること」を挙げた者の割合が 31.3%と最も高く、以下、「医療や福祉（保育、介護など）に関すること」（27.0%）、「日本や世界の歴史・地理に関すること」（26.6%）などの順となっている。なお、「特になし」と答えた者の割合が 18.3%となっている。（複数回答，上位 3 項目）

都市規模別に見ると、「日本や世界の歴史・地理に関すること」を挙げた者の割合は中都市で高くなっている。

性別に見ると、「外国語に関すること」、「医療や福祉（保育、介護など）に関すること」を挙げた者の割合は女性で、「日本や世界の歴史・地理に関すること」を挙げた者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

年齢別に見ると、「外国語に関すること」を挙げた者の割合は 20 歳代から 40 歳代で、「医療や福祉（保育、介護など）に関すること」を挙げた者の割合は 30 歳代，50 歳代で、「日本や世界の歴史・地理に関すること」を挙げた者の割合は 40 歳代で、それぞれ高くなっている。（図 1 2，表 1 2）

## (2) 学び直しの実施状況

学校を出て一度社会人となった後に、大学、大学院、短大、専門学校などの学校において学んだことがあるか聞いたところ、「学んだことがある、学んでみたい」とする者の割合が 49.4%（「学んだことがある（現在学んでいる）」19.1%＋「学んだことはないが、今後は学んでみたい」30.3%）、「学んだことはなく、今後も学びたいとは思わない」と答えた者の割合が 46.1%、「社会人となった経験がなく、在学中である」と答えた者の割合が 2.1%となっている。

都市規模別に見ると、「学んだことがある、学んでみたい」とする者の割合は大都市で高くなっている。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「学んだことがある、学んでみたい」とする者の割合は 30 歳代から 50 歳代で、「学んだことはなく、今後も学びたいとは思わない」と答えた者の割合は 70 歳以上で、それぞれ高くなっている。（図 1 3，表 1 3）

## ア 学び直したいと考えた理由

学校を出て一度社会人になった後に、学校において「学んだことがある（現在学んでいる）」、「学んだことはないが、今後は学んでみたい」と答えた者（817 人）に、学びたいと考えた理由を聞いたところ、「教養を深めるため」を挙げた者の割合が 51.8%、「今後の人生を有意義にするため」を挙げた者の割合が 48.8%と高く、以下、「就職や転職のために必要性を感じたため」（28.4%）、「現在または学んだ当時に就いていた職業において必要性を感じたため」（25.1%）、「他の人との親睦を深めたり、友人を得たりするため」（21.2%）などの順となっている。（複数回答，上位 5 項目）

性別に見ると、「現在または学んだ当時に就いていた職業において必要性を感じたため」を挙げた者の割合は男性で高くなっている。（図 1 4，表 1 4）

## (3) 学び直しやすくするための取組

社会人が大学などの教育機関で学びやすくするためには、どのような取組が必要だと思うか聞いたところ、「学費の負担などに対する経済的な支援」を挙げた者の割合が 46.1%と最も高く、以下、「就職や資格取得などに役立つ社会人向けプログラムの拡充」(35.0%)、「土日祝日や夜間における授業の拡充」(34.0%)、「学び直しに関する情報を得る機会の拡充」(29.8%)、「学び直しに対する理解を高めるための企業などへの働きかけ」(28.0%)などの順となっている。(複数回答, 上位 5 項目)

都市規模別に見ると、「土日祝日や夜間における授業の拡充」を挙げた者の割合は大都市で高くなっている。

性別に見ると、「学費の負担などに対する経済的な支援」、「就職や資格取得などに役立つ社会人向けプログラムの拡充」、「学び直しに関する情報を得る機会の拡充」を挙げた者の割合は女性で高くなっている。

年齢別に見ると、「学費の負担などに対する経済的な支援」を挙げた者の割合は 20 歳代から 50 歳代で、「就職や資格取得などに役立つ社会人向けプログラムの拡充」を挙げた者の割合は 20 歳代, 30 歳代で、「土日祝日や夜間における授業の拡充」を挙げた者の割合は 20 歳代から 40 歳代で、「学び直しに対する理解を高めるための企業などへの働きかけ」を挙げた者の割合は 30 歳代から 50 歳代で、それぞれ高くなっている。

出所：内閣府大臣官房政府広報室ホームページ

「教育・生涯学習に関する世論調査」(平成 28 年 2 月)より抜粋

図 1 2 学び直したい学習の内容

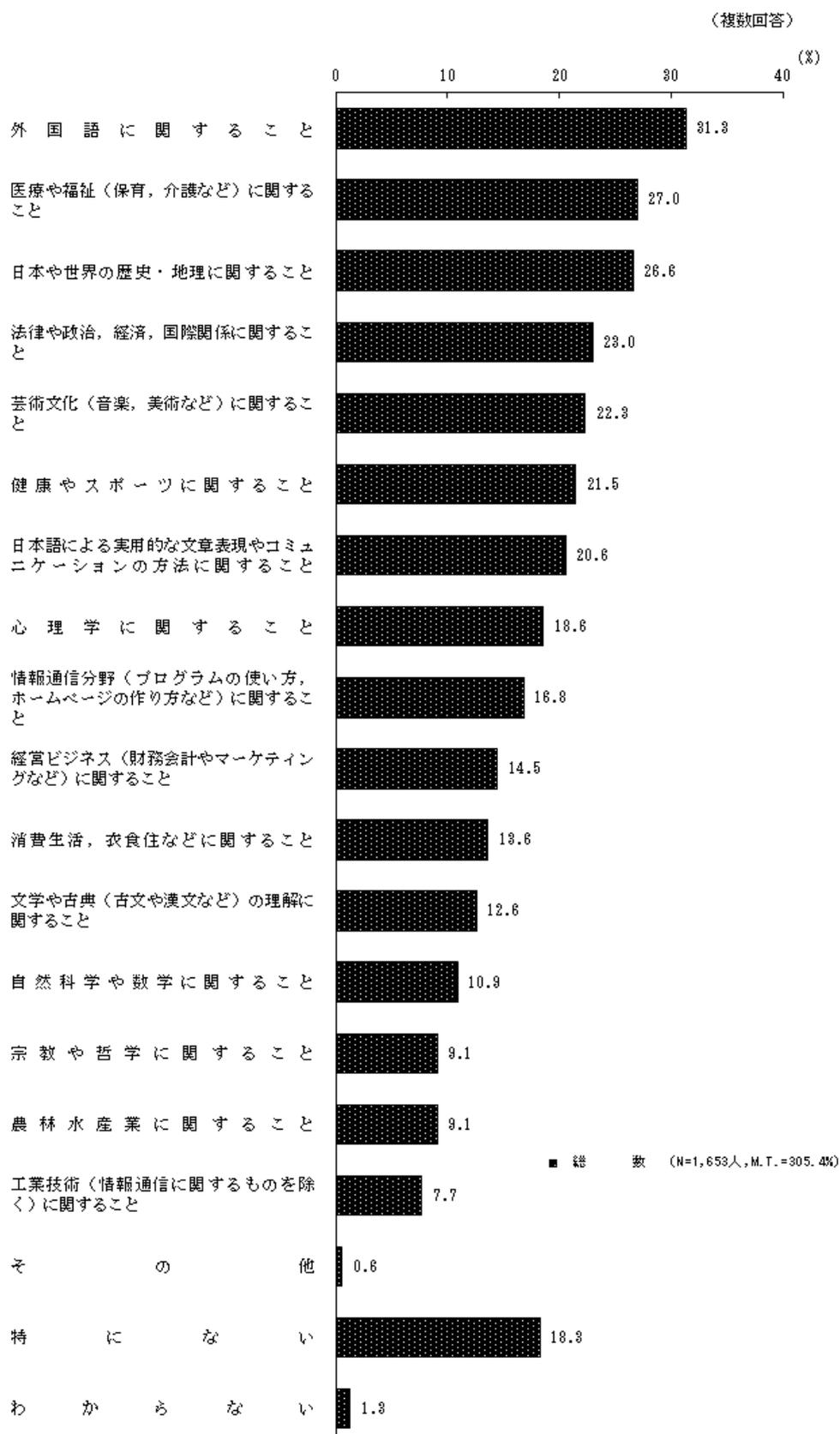


表12学び直したい学習の内容

	(複数回答)																				
	該当者数	外国語に関すること	医療や福祉(保育、介護など)に関すること	日本や世界の歴史・地理に関すること	法律や政治、経済、国際関係に関すること	芸術文化(音楽、美術など)に関すること	健康やスポーツに関すること	日本語による実用的な文章表現やコミュニケーションの方法に関すること	心理学に関すること	情報通信分野(プログラム、ホームページの作り方など)に関すること	経営ビジネス(財務会計やマーケティングなど)に関すること	消費生活、衣食住などに関すること	文学や古典(古文や漢文など)の理解に関すること	自然科学や数学に関すること	宗教や哲学に関すること	農林水産業に関すること	工業技術(情報通信に関するものを除く)に関すること	その他	特になし	わからない	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,653	31.3	27	26.6	23	22.3	21.5	20.6	18.6	16.8	14.5	13.6	12.6	10.9	9.1	9.1	7.7	0.6	18.3	1.3	305.4
[都市規模]																					
大都市	424	34.7	24.1	27.8	26.2	25.5	18.2	21.5	21.5	15.8	14.9	13.9	14.9	12.7	13.2	10.1	9	0.5	18.6	1.4	324.3
東京都区部	94	42.6	21.3	34	28.7	27.7	21.3	24.5	18.1	17	13.8	8.5	13.8	12.8	16	11.7	10.6	2.1	17	1.1	342.6
政令指定都市	330	32.4	24.8	26.1	25.5	24.8	17.3	20.6	22.4	15.5	15.2	15.5	15.2	12.7	12.4	9.7	8.5	-	19.1	1.5	319.1
中都市	655	31.3	29.6	29.5	23.2	23.1	22.9	21.4	18.9	18	13.4	12.4	14.2	11.9	9.3	8.2	7.2	0.6	14.5	0.6	310.2
小都市	414	30.2	27.3	22.7	21.5	18.6	23.4	18.4	15.7	17.1	14.7	15.2	8	8.7	5.8	9.4	8.5	1	23.2	1	290.3
町村	160	25.6	23.8	21.3	17.5	20.6	19.4	21.3	16.9	13.1	16.9	13.1	12.5	8.1	6.3	8.8	4.4	-	20	5	274.4
[性]																					
男性	760	27.1	20.5	29.7	27	18.2	24.6	17.6	15.3	18.3	19.3	8.6	12	14.1	11.1	13.3	13.8	0.9	17.2	0.9	309.5
女性	893	34.9	32.6	23.9	19.6	25.9	18.8	23.2	21.4	15.5	10.3	17.8	13.2	8.3	7.5	5.5	2.5	0.3	19.1	1.7	301.9
[年齢]																					
20～29歳	144	45.8	27.8	26.4	36.1	31.3	19.4	34	30.6	22.9	26.4	19.4	9	14.6	10.4	9	13.9	-	5.6	0.7	383.3
30～39歳	220	48.6	33.6	30.9	35	20.9	17.7	31.4	26.8	28.2	27.7	18.2	15.5	14.5	12.3	10	10.9	0.5	6.4	-	389.1
40～49歳	303	43.9	29.4	32	30.4	23.1	19.5	26.1	28.1	23.8	20.1	12.9	9.6	9.2	9.6	5.9	8.9	0.7	8.6	1	342.6
50～59歳	263	34.2	35.7	27.8	19.8	27	27.4	20.2	21.3	19.8	17.5	12.5	14.8	15.2	10.3	13.3	7.2	0.8	11	-	335.7
60～69歳	334	21.9	24.9	27.2	14.4	21.9	22.2	16.2	13.2	9.3	5.4	12.9	14.4	9.9	8.1	11.4	5.7	0.9	24	1.2	264.7
70歳以上	389	12.6	17.2	18.5	15.2	16.5	21.3	9.5	4.9	6.9	3.9	10.5	11.8	6.9	6.7	6.2	4.6	0.5	37.3	3.6	214.7
[従業上の地位]																					
雇用者	795	38.4	29.4	28.8	26.5	22	20.9	26	23.5	21	19.2	12.8	11.6	12.6	10.1	9.8	9.9	0.6	11.1	0.6	335
自営業主	120	25.8	27.5	29.2	24.2	28.3	28.3	16.7	16.7	17.5	24.2	14.2	14.2	12.5	15.8	20	9.2	1.7	17.5	-	343.3
家族従業者	37	37.8	29.7	40.5	27	27	29.7	29.7	13.5	24.3	16.2	10.8	16.2	8.1	8.1	16.2	5.4	2.7	16.2	-	359.5
無職	701	24	24.1	22.8	18.5	21.4	20.5	14.7	13.6	11.4	7.3	14.4	13.4	9	7	6	5	0.3	26.7	2.4	262.5
主婦	393	29.5	30.3	22.6	16.8	23.9	20.9	16.5	16.5	11.2	5.9	19.8	14.8	8.7	4.6	4.1	2.5	0.3	23.4	1.8	274
主夫	27	18.5	18.5	33.3	33.3	22.2	22.2	7.4	14.8	14.8	7.4	11.1	22.2	11.1	18.5	14.8	7.4	-	37	3.7	318.5
その他の無職	281	16.7	16	22.1	19.6	17.8	19.9	12.8	9.3	11.4	9.3	7.1	10.7	9.3	9.3	7.8	8.2	0.4	30.2	3.2	240.9
[職業]																					
管理・専門技術・事務職	409	44.3	31.5	31.1	29.8	24.7	19.3	27.9	25.9	20.5	19.6	14.9	15.2	14.2	14.7	10.3	8.6	0.5	9	-	361.9
管理職	53	39.6	20.8	37.7	24.5	26.4	26.4	11.3	5.7	15.1	13.2	5.7	18.9	11.3	9.4	18.9	7.5	1.9	7.5	-	301.9
専門・技術職	144	44.4	38.2	29.9	29.9	29.2	20.8	32.6	27.8	20.1	17.4	15.3	18.1	16.7	16	13.2	11.1	-	8.3	-	388.9
事務職	212	45.3	29.7	30.2	31.1	21.2	16.5	28.8	29.7	22.2	22.6	17	12.3	13.2	15.1	6.1	7.1	0.5	9.9	-	358.5
販売・サービス・保安職	270	37.8	32.6	33	26.7	25.9	24.4	23.7	23.3	23	23.7	13	12.6	10	10	10.7	7	0.7	11.1	0.4	349.6
農林漁業職	28	14.3	17.9	32.1	21.4	10.7	21.4	10.7	3.6	7.1	10.7	14.3	3.6	7.1	7.1	42.9	3.6	-	28.6	-	257.1
生産・輸送・建設・労務職	243	25.5	22.6	22.2	20.6	18.5	24.7	23	16.9	19.8	16.9	9.1	7.4	12.8	5.3	10.3	15.2	1.6	16.5	1.6	290.5
無回答	2	50	50	-	-	-	-	50	50	50	-	50	-	-	-	-	-	-	-	-	300

図 1 3 学び直しの実施状況

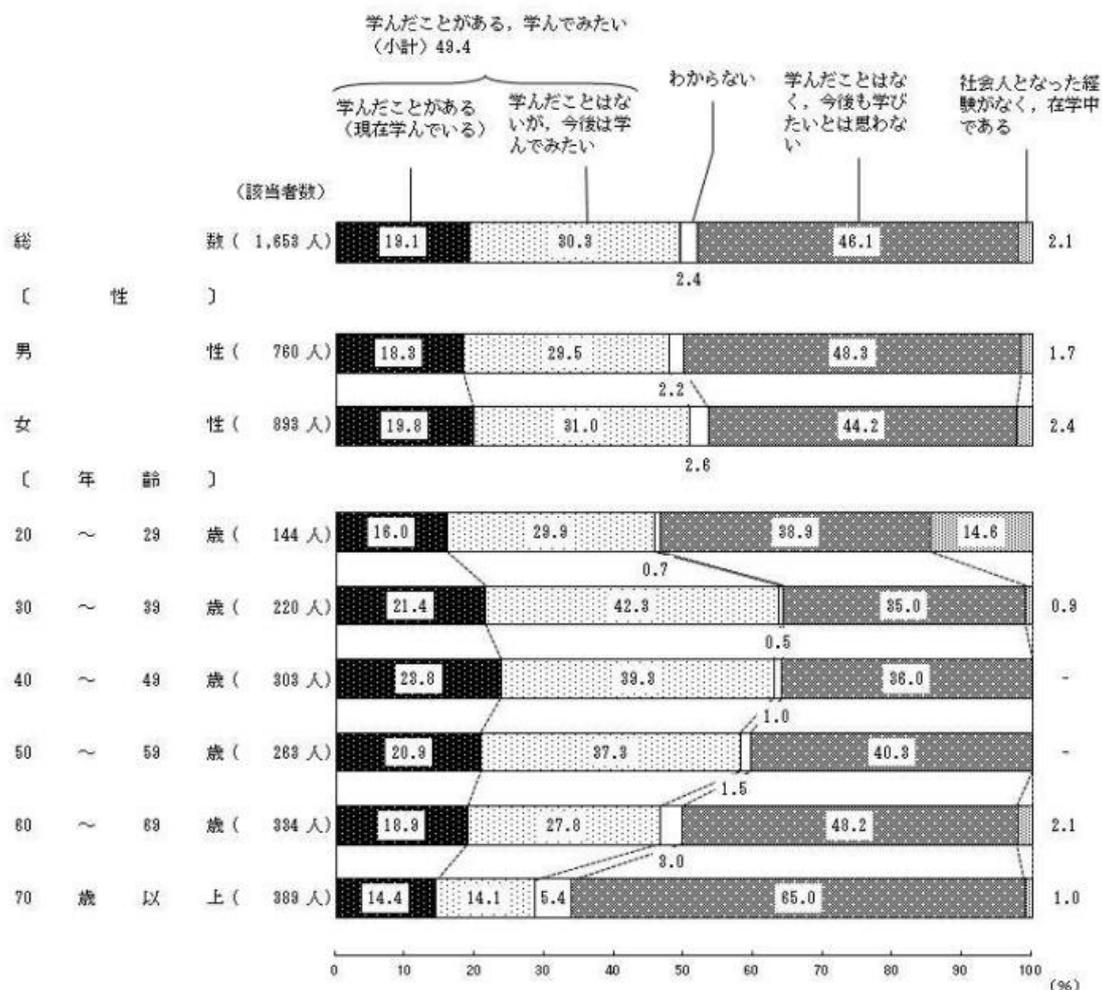


表13学び直しの実施状況

	該当者数	学んだことがある、学んでみたい(小計)	学んだことがある(現在学んでいる)	学んだことはないが、今後は学んでみたい	学んだことはなく、今後も学びたいとは思わない	社会人となった経験がなく、在学中である	わからない
	人	%	%	%	%	%	%
総数	1,653	49.4	19.1	30.3	46.1	2.1	2.4
〔都市規模〕							
大都市	424	54.2	22.4	31.8	42.7	2.1	0.9
東京都区部	94	51.1	16	35.1	46.8	2.1	-
政令指定都市	330	55.2	24.2	30.9	41.5	2.1	1.2
中都市	655	48.1	17.3	30.8	48.4	2.1	1.4
小都市	414	45.4	17.1	28.3	48.1	1.7	4.8
町村	160	52.5	23.1	29.4	40.6	2.5	4.4
〔性〕							
男性	760	47.8	18.3	29.5	48.3	1.7	2.2
女性	893	50.8	19.8	31	44.2	2.4	2.6
〔年齢〕							
20～29歳	144	45.8	16	29.9	38.9	14.6	0.7
30～39歳	220	63.6	21.4	42.3	35	0.9	0.5
40～49歳	303	63	23.8	39.3	36	-	1
50～59歳	263	58.2	20.9	37.3	40.3	-	1.5
60～69歳	334	46.7	18.9	27.8	48.2	2.1	3
70歳以上	389	28.5	14.4	14.1	65	1	5.4
〔従業上の地位〕							
雇用者	795	56.7	21.3	35.5	41.6	0.8	0.9
自営業主	120	56.7	25.8	30.8	41.7	-	1.7
家族従業者	37	45.9	8.1	37.8	43.2	-	10.8
無職	701	40.1	16.1	24	52.1	4	3.9
主婦	393	46.1	16.3	29.8	48.3	1.5	4.1
主夫	27	29.6	22.2	7.4	66.7	-	3.7
その他の無職	281	32.7	15.3	17.4	55.9	7.8	3.6
〔職業〕							
管理・専門技術・事務職	409	64.3	27.6	36.7	34	0.2	1.5
管理職	53	56.6	22.6	34	41.5	-	1.9
専門・技術職	144	70.8	39.6	31.3	27.8	0.7	0.7
事務職	212	61.8	20.8	41	36.3	-	1.9
販売・サービス・保安職	270	58.9	20.7	38.1	39.3	1.1	0.7
農林漁業職	28	35.7	10.7	25	57.1	-	7.1
生産・輸送・建設・労務職	243	42	11.9	30	56	0.8	1.2
無回答	2	100	100	-	-	-	-

図 1 4 学び直したいと考えた理由

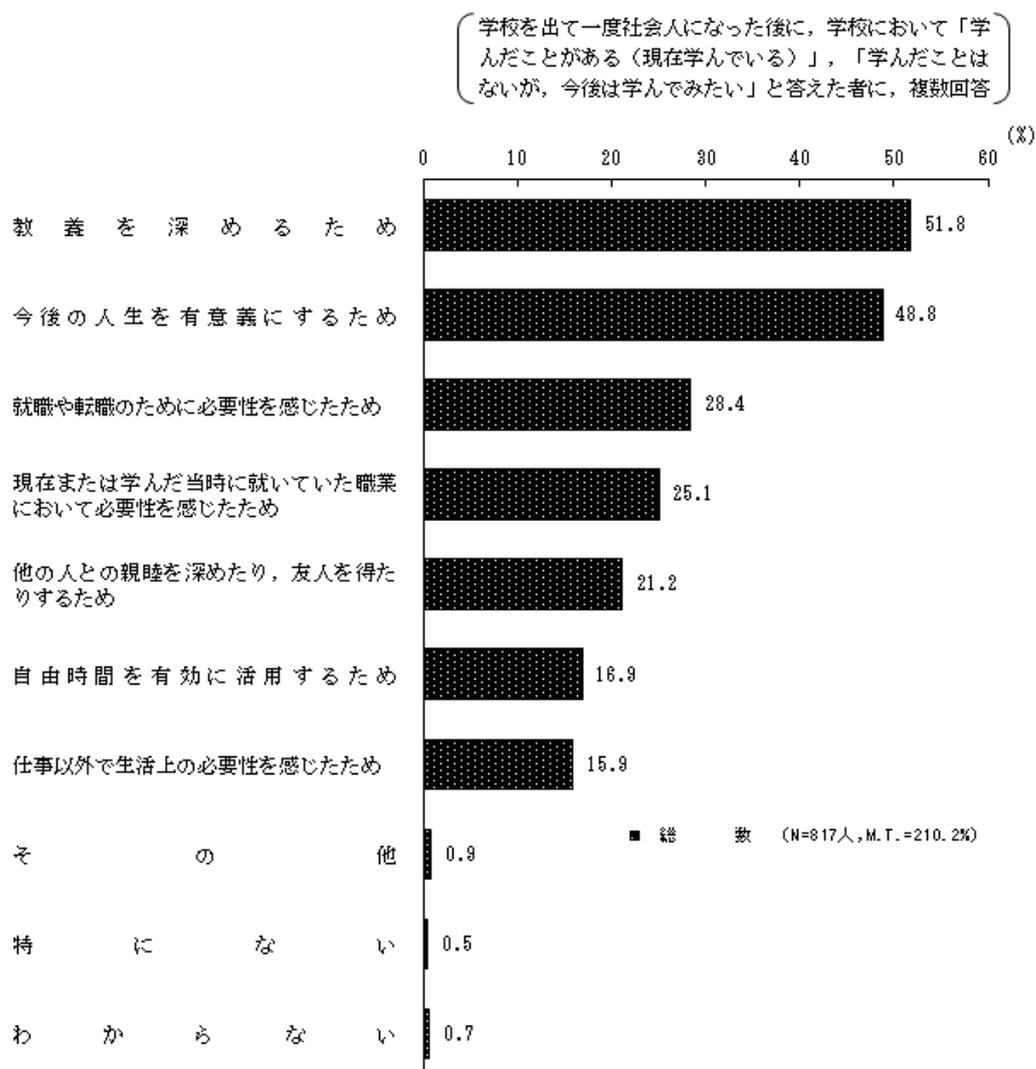


表14学び直したいと考えた理由

学校を出て一度社会人になった後に、学校において「学んだことがある(現在学んでいる)」、「学んだことはないが、今後は学んでみたい」と答えた者に、複数回答

	該当者数	教養を深めるため	今後の人生を有意義にするため	就職や転職のために必要性を感じたため	現在または学んだ当時に就いていた職業において必要性を感じたため	他の人との親睦を深めたり、友人を得たりするため	自由時間を有効に活用するため	仕事以外で生活上の必要性を感じたため	その他	特になし	わからない	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	817	51.8	48.8	28.4	25.1	21.2	16.9	15.9	0.9	0.5	0.7	210.2
[都市規模]												
大都市	230	53.5	48.7	30.4	24.3	20.9	18.7	12.6	0.4	0.9	-	210.4
東京都区部	48	66.7	35.4	22.9	25	16.7	16.7	4.2	-	2.1	-	189.6
政令指定都市	182	50	52.2	32.4	24.2	22	19.2	14.8	0.5	0.5	-	215.9
中都市	315	54	50.2	27.9	26.3	18.4	16.8	16.8	1	-	0.3	211.7
小都市	188	49.5	45.7	29.3	28.2	25	16	17.6	1.1	-	2.1	214.4
町村	84	44	51.2	22.6	15.5	23.8	14.3	17.9	1.2	2.4	1.2	194
[性]												
男性	363	49.6	46	25.9	30.3	18.7	14.9	16.3	1.4	0.8	0.8	204.7
女性	454	53.5	51.1	30.4	20.9	23.1	18.5	15.6	0.4	0.2	0.7	214.5
[年齢]												
20～29歳	66	45.5	42.4	39.4	30.3	22.7	9.1	19.7	-	1.5	1.5	212.1
30～39歳	140	48.6	49.3	46.4	29.3	17.1	12.9	13.6	-	0.7	2.1	220
40～49歳	191	54.5	46.6	36.6	33.5	19.4	8.9	17.3	1	-	-	217.8
50～59歳	153	58.8	51	24.2	19	21.6	15	19	-	-	0.7	209.2
60～69歳	156	50	55.1	12.2	18.6	23.1	27.6	14.7	1.9	0.6	-	203.8
70歳以上	111	47.7	44.1	13.5	19.8	25.2	27.9	11.7	1.8	0.9	0.9	193.7
[従業上の地位]												
雇用者	451	48.8	47.7	34.1	31.9	19.5	12.2	14.9	0.7	0.2	0.9	210.9
自営業主	68	52.9	57.4	19.1	23.5	25	19.1	16.2	2.9	-	1.5	217.6
家族従業者	17	82.4	41.2	23.5	17.6	29.4	11.8	23.5	5.9	-	-	235.3
無職	281	54.4	49.1	21.7	14.9	22.4	24.2	17.1	0.4	1.1	0.4	205.7
主婦	181	58	53	22.1	14.4	23.8	22.7	16	-	0.6	-	210.5
主夫	8	37.5	62.5	12.5	37.5	-	37.5	12.5	-	-	-	200
その他の無職	92	48.9	40.2	21.7	14.1	21.7	26.1	19.6	1.1	2.2	1.1	196.7
[職業]												
管理・専門技術・事務職	263	52.9	49.8	27	36.1	15.6	12.9	12.5	0.8	-	1.1	208.7
管理職	30	33.3	36.7	26.7	33.3	6.7	10	13.3	3.3	-	-	163.3
専門・技術職	102	56.9	50	28.4	39.2	11.8	7.8	12.7	-	-	1	207.8
事務職	131	54.2	52.7	26	34.4	20.6	17.6	12.2	0.8	-	1.5	219.8
販売・サービス・保安職	159	53.5	53.5	37.1	25.8	25.8	15.1	17	2.5	0.6	-	230.8
農林漁業職	10	10	30	10	20	10	20	20	-	-	10	130
生産・輸送・建設・労務職	102	43.1	40.2	37.3	24.5	26.5	9.8	19.6	-	-	1	202
無回答	2	50	50	100	-	-	-	-	-	-	-	200

資 料 2 - 1

---

---

**「藍野専門職大学」(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書**

**【高校生対象調査】**

---

---

**平成30年9月  
株式会社 進研アド**

# 高校生対象 調査概要

## 1. 調査目的

2020年4月開設予定の「藍野専門職大学」設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		福井県、岐阜県、三重県、滋賀県、 京都府、和歌山県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数	9,490人（依頼校数54校）
	回収数 <回収率>	3,817人（回収校数32校） <40.2%>
調査時期		2018年7月2日（月）～2018年9月7日（金）
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

高校生対象調査	
<u>①藍野専門職大学への進学ニーズについて</u> ・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問系統 ・「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度 ・「藍野専門職大学」への興味度 ・「藍野専門職大学」への受験意向 ・「藍野専門職大学」への入学意向	<u>②「専門職大学」制度について</u> ・「専門職大学」の認知 ・「専門職大学」への進学意向 <u>③進路選択行動・意識について</u> ・進路相談相手 ・進学先候補の学校を知ったきっかけ ・進学先選択時の重視点

※調査実施時点では、学部名を「臨床リハビリテーション学部」とすることを検討していたため、本報告書内でも学部名は「臨床リハビリテーション学部」と記載している。  
調査対象者に対しては、名称や内容は構想中のものであり、変更の可能性があることを明記した上で、(仮称)と表記して調査を行っており、また、学部名称の変更も「臨床リハビリテーション学部」から「リハビリテーション学部」と、学部名から想起される学問内容や職業イメージが大幅に変動するものではないことから、「リハビリテーション学部」の調査結果としての読み替えは可能と考える。

## 高校生対象 調査結果まとめ

### ① 藍野専門職大学への進学ニーズについて

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 回答者の属性

※本調査は、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」に対する進学需要を確認するための調査として設計し、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」の主な学生募集エリアと想定される近畿地方、中部地方に所在する高校から54校を抽出しその高校に在籍する高校2年生に調査を実施した。

- 本調査の回答者は3,817人。
- 回答者の性別は「男性」が47.2%、「女性」が52.2%。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が91.1%、「私立」が8.9%。
- 回答者の在籍高校所在地は、藍野専門職大学の所在予定地である「滋賀県」が最も多く54.7%。隣接する「岐阜県」が11.6%で続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が35.4%、「理系クラス(理系コース)」が21.5%である。

## 高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統(Q1、Q2)

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」が36.0%で最も多く、次いで「国公立大学に進学」が32.6%、「専門学校・専修学校に進学」が31.8%であった。また、この時点で「専門職大学に進学」と回答した人も6.0%みられた。

今後、私立専門職大学への進学を検討する可能性が高いと考えられる私立大学、専門学校・専修学校への進学志望者が多いことから、藍野専門職大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。

- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「教員養成・教育学」「経済・経営・商学」(14.1%)、「看護学」(13.6%)が上位。「臨床リハビリテーション学部」の学問内容と関連する「医療技術・リハビリテーション学(理学療法、作業療法など含む)」は12.5%。

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度(Q3)

- 「藍野専門職大学」の特色(A～E)に対する魅力度(※)は、全ての項目で7割前後。
- 最も魅力度が高いのは、「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」で、71.5%である。  
次に高いのは、「D. 滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。」の70.5%。
- 「理学療法学科」の特色である「F. 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。」に対する魅力度は69.2%である。
- 「作業療法学科」の特色である「G. 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。」に対する魅力度は66.4%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値÷数表中の「魅力を感じる・計」の値

## 「藍野専門職大学」への興味度(Q4)

- 今回の調査を通じて、藍野専門職大学に「興味をもった」人は、29.6%である。

# 高校生対象 調査結果まとめ

※回答者には、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」への受験意向・入学意向等を質問する前に、同封した「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」のリーフレットを読むように依頼している。このリーフレットには、専門職大学と大学の違いや、藍野専門職大学の特色、類似の内容が学べる近隣の四年制大学が明記されている。

回答者は、リーフレット記載の上記内容に目を通した上で「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」への受験・入学意向に回答していることから、リーフレット記載の近隣大学や、アンケート回答以前から自身の進学先候補として検討していた大学・専門学校等と「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」を比較検討した上で、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」への受験意向・各学科への入学意向の有無を回答していると考えられる。

## 「藍野専門職大学」への受験意向(Q5)

- ・ 藍野専門職大学を「受験したいと思う」と答えた人は、6.5% (248人)である。

## 「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科」への入学意向(Q6)

- ・ 藍野専門職大学を「受験したいと思う」と答えた248人のうち、「理学療法学科へ入学したいと思う」と入学意向を示した人は、60.9% (151人)であり、予定している入学定員80人を上回る入学意向者数がみられた。
- ・ 藍野専門職大学を「受験したいと思う」かつ「理学療法学科へ入学したいと思う」と回答した151人の県別内訳をみると、地元の「滋賀県」が69.5% (105人)で最も多い。
- ・ 藍野専門職大学を「受験したいと思う」と答えた248人のうち、「作業療法学科へ入学したいと思う」と入学意向を示した人は、20.6% (51人)であり、予定している入学定員40人を上回る入学意向者数がみられた。
- ・ 藍野専門職大学を「受験したいと思う」かつ「作業療法学科へ入学したいと思う」と回答した51人の県別内訳をみると、地元の「滋賀県」が54.9% (28人)で最も多い。
- ・ また、滋賀県からの回答者全体でみると、藍野専門職大学を「受験したいと思う」かつ「理学療法学科へ入学したいと思う」と回答した人の割合は5.0% (2089人中、105人)、藍野専門職大学を「受験したいと思う」かつ「作業療法学科へ入学したいと思う」と回答した人の割合は1.3% (2089人中、28人)みられた。

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科」への入学意向(Q6)

- ・ 藍野専門職大学を「受験したいと思う」と答えた248人のうち、「理学療法学科へ入学したいと思う」と入学意向を示した人は、60.9% (151人)であり、予定している入学定員80人を上回る入学意向者数がみられた。

以下は属性別の結果である。

### ◇性別

- ・ 「女性」より「男性」の方が入学意向が高く、「男性」の入学意向は71.1% (142人中、101人)で予定している入学定員数を上回っている。

### ◇高校所在地別

- ・ 藍野専門職大学の所在予定地である「滋賀県」の高校在籍者からの入学意向は65.6% (160人中、105人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

### ・ ◇高校卒業後の希望進路別

- ・ **調査票冒頭のQ1回答時点で**、「専門職大学に進学」を考えていると回答した人の入学意向は61.8% (34人中、21人)であった。

また、**Q1回答時点では**「私立大学に進学」を考えていると回答した人の入学意向は70.0% (110人中、77人)、「専門学校・専修学校に進学」を考えていると回答した人の入学意向は61.2% (103人中、63人)であった。

当初から専門職大学への進学を視野にいれていた層だけでなく、もともとは私立大学への進学や専門学校・専修学校への進学を検討していた層においても、今回の調査を通じて「専門職大学」への進学に対する関心が高まり、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科」への入学意向につながったものと考えられる。

このことから、現時点で私立大学や専門学校・専修学校への進学を検討している層も、藍野専門職大学の学生募集ターゲットになり得ると考えられる。

# 高校生対象 調査結果まとめ

---

## ◇興味のある学問系統別

- 藍野専門職大学の「臨床リハビリテーション学部」の学問内容と関連する「医療技術・リハビリテーション学」に興味のある人の入学意向は71.1% (128人中、**91人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。  
また、「スポーツ・体育・健康科学」に興味のある人の入学意向も76.7% (60人中、**46人**)と高い。

## ◇「藍野専門職大学」の特色に対する魅力別

- 「A. 滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。」に魅力を感じている人からの入学意向は61.1% (239人中、**146人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」に魅力を感じている人からの入学意向は61.7% (235人中、**145人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」に魅力を感じている人からの入学意向は61.3% (240人中、**147人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「D. 滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。」に魅力を感じている人からの入学意向は61.8% (238人中、**147人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

# 高校生対象 調査結果まとめ

---

- 「E. 理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。」に魅力を感じている人からの入学意向は62.0% (237人中、**147人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

## ◇「理学療法学科」の特色に対する魅力別

- 「F. 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。」に魅力を感じている人からの入学意向は61.4% (236人中、**145人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

## ◇「藍野専門職大学」への興味度別

- 藍野専門職大学に「興味をもった」と答えた人からの入学意向は62.2% (233人中、**145人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科」への入学意向(Q6)

- ・ 藍野専門職大学を「受験したいと思う」と答えた248人のうち、「作業療法学科へ入学したいと思う」と入学意向を示した人は、20.6% (51人)であり、予定している入学定員40人を上回る入学意向者数がみられた。

以下は属性別の結果である。

### ◇性別

- ・ 「男性」より「女性」の入学意向が高く、「女性」の入学意向は31.4% (105人中、33人)である。

### ◇高校所在地別

- ・ 藍野専門職大学の所在予定地である「滋賀県」の高校在籍者からの入学意向は17.5% (160人中、28人)である。

### ◇高校卒業後の希望進路別

- ・ **調査票冒頭のQ1回答時点で**、「専門職大学に進学」を考慮していると回答した人の入学意向は17.6% (34人中、6人)であった。

また、**Q1回答時点では**「私立大学に進学」を考慮していると回答した人の入学意向は19.1% (110人中、21人)、「短期大学に進学」を考慮していると回答した人の入学意向は37.9% (29人中、11人)、「専門学校・専修学校に進学」を考慮していると回答した人の入学意向は23.3% (103人中、24人)であった。

当初から専門職大学への進学を視野にいれていた層だけでなく、もともとは私立大学への進学や短期大学、専門学校・専修学校への進学を検討していた層においても、今回の調査を通じて「専門職大学」への進学に対する関心が高まり、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科」への入学意向につながったものと考えられる。

このことから、現時点で私立大学や短期大学、専門学校・専修学校への進学を検討している層も、藍野専門職大学の学生募集ターゲットになり得ると考えられる。

# 高校生対象 調査結果まとめ

---

## ◇興味のある学問系統別

- 藍野専門職大学の「臨床リハビリテーション学部」の学問内容と関連する「医療技術・リハビリテーション学」に興味のある人の入学意向は24.2% (128人中、**31人**)。また、「看護学」に興味のある人からの入学意向は30.9% (55人中、**17人**)、「教員養成・教育学」に興味のある人からの入学意向は28.6% (35人中、**10人**)と比較的高い。

## ◇「藍野専門職大学」の特色に対する魅力別

- 「A. 滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。」に魅力を感じている人からの入学意向は20.1% (239人中、**48人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」に魅力を感じている人からの入学意向は20.0% (235人中、**47人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」に魅力を感じている人からの入学意向は20.4% (240人中、**49人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「D. 滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。」に魅力を感じている人からの入学意向は19.7% (238人中、**47人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

# 高校生対象 調査結果まとめ

---

- 「E. 理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。」に魅力を感じている人からの入学意向は19.8% (237人中、**47人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

## ◇「作業療法学科」の特色に対する魅力別

- 「G. 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。」に魅力を感じている人からの入学意向は20.9% (235人中、**49人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

## ◇「藍野専門職大学」への興味度別

- 藍野専門職大学に「興味をもった」と答えた人からの入学意向は20.6% (233人中、**48人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

## 高校生対象 調査結果まとめ



### ②「専門職大学」制度について

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 「専門職大学」の認知(Q8)

- 今回の調査以前に、「専門職大学」について、大学や専門学校との違いなど、具体的な内容まで知っていた」は4.3%、「大学や専門学校との違いなど具体的な内容は知らなかったが、「専門職大学」という名前は聞いたことがあった」は19.9%で、「専門職大学」の認知度は2割程度であった。

## 「専門職大学」への進学意向(Q9)

- 今回の調査を通じて、「専門職大学を第一希望の進学先として考えたい」と思った回答者は3.2%、「第一希望ではないが、進学先候補の1つとして検討したい」は32.7%みられた。  
両者を合わせると、「専門職大学」への進学に関心をもった人の割合は3割強。
- 調査票冒頭のQ1で高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取した時には、「専門職大学に進学」と回答した人は6.0%のみであったことと比較すると、今回の調査に回答する中で、「専門職大学」への理解が深まり、回答者の「専門職大学への進学」に対する関心が高まったと考えられる。
- 「専門職大学」への進学に「興味がある(専門職大学を第一希望+進学先候補の1つ)」と回答した人における、**藍野専門職大学を「受験したいと思う」かつ「理学療法学科へ入学したいと思う」と回答した人の割合は9.8%(1,373人中、134人)**みられた。また、**藍野専門職大学を「受験したいと思う」かつ「作業療法学科へ入学したいと思う」と回答した人の割合は3.4%(1,373人中、46人)**みられた。

## 高校生対象 調査結果まとめ



### ③進路選択行動・意識について

# 高校生対象 調査結果まとめ

---

## 進路相談相手(Q10)

- 進路相談相手を複数回答で聴取すると、「母親」(69.9%)が最も高く、突出している。次いで、「同じ学年の友達」が42.7%、「高校の担任の先生」が33.4%と続く。

## 進学先候補の学校を知ったきっかけ(Q11)

- 進学先候補の学校を知ったきっかけを複数回答で聴取すると、「インターネットで興味のあるキーワードを検索したらその学校のホームページが出てきた」が31.1%と最も高い。次いで「保護者から聞いて」(22.9%)、「色々な学校の情報が載っているインターネットの進学情報サイトを見て」(20.8%)と続く。

## 進学先選択時の重視点(Q12)

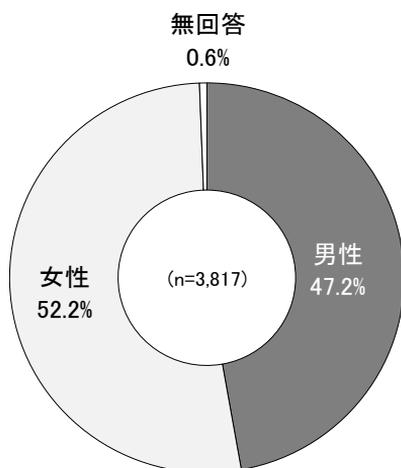
- 進学先選択時の重視点を複数回答で聴取すると、「就職率が高い」が43.8%で最も高い。次いで「学費が安い」(39.1%)、「専門分野についての知識をわかりやすく教えてくれる」(34.8%)と続く。

## 高校生対象 調査結果

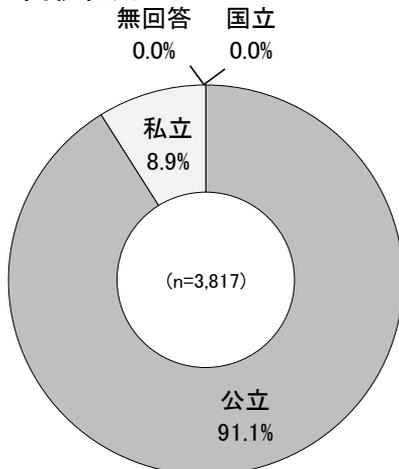
### ① 藍野専門職大学への進学ニーズについて

# 回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

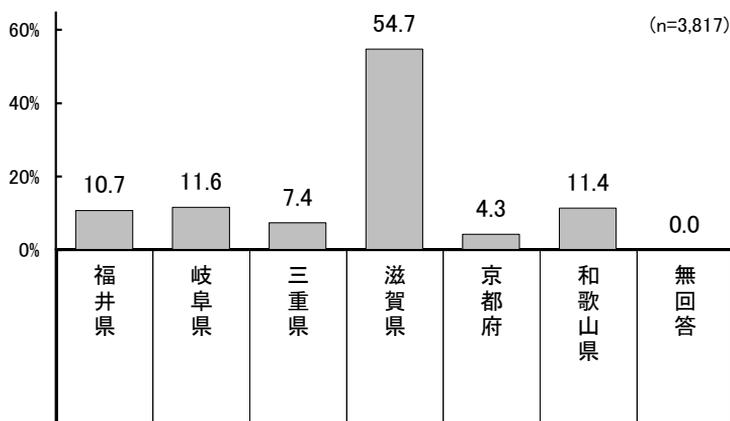
## ■性別



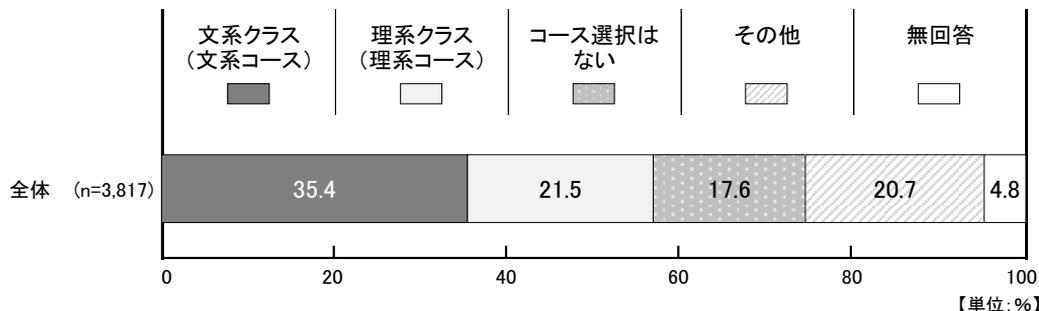
## ■高校種別



## ■高校所在地



## ■所属クラス

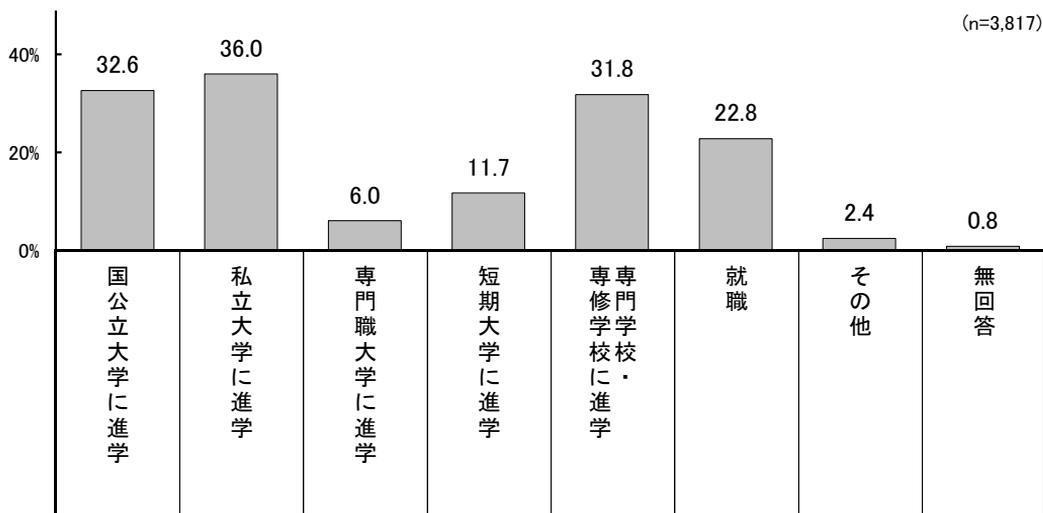


# 高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

## ■高校卒業後の希望進路（複数回答）

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。

以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（いくつでも）

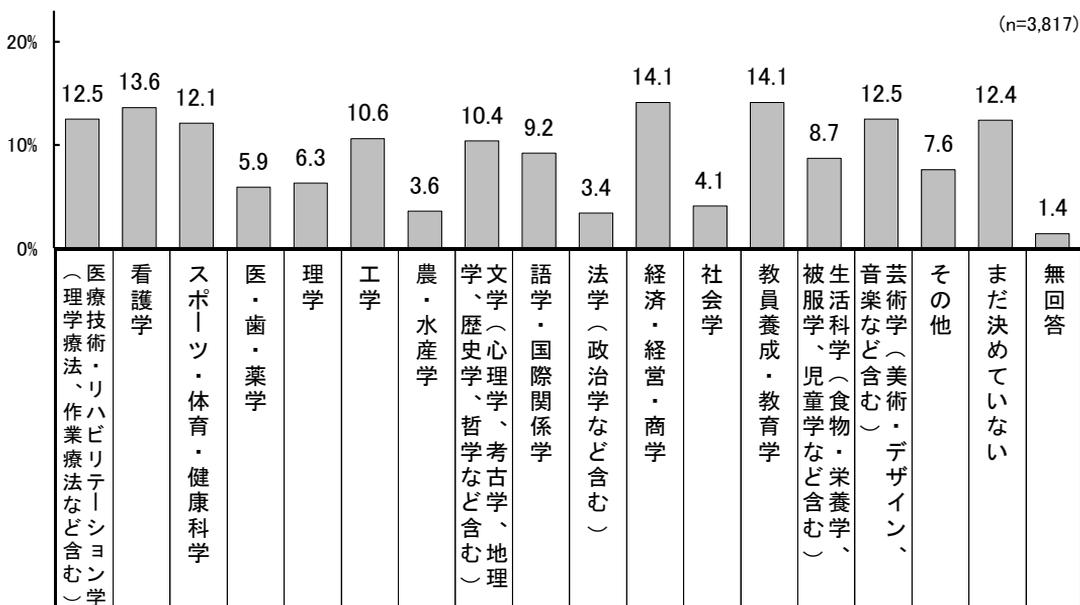


## ■興味のある学問系統（複数回答）

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。

以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。（いくつでも）

（現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。）



# 「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度 ／「藍野専門職大学」への興味度

## ■「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度

Q3. 「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。  
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

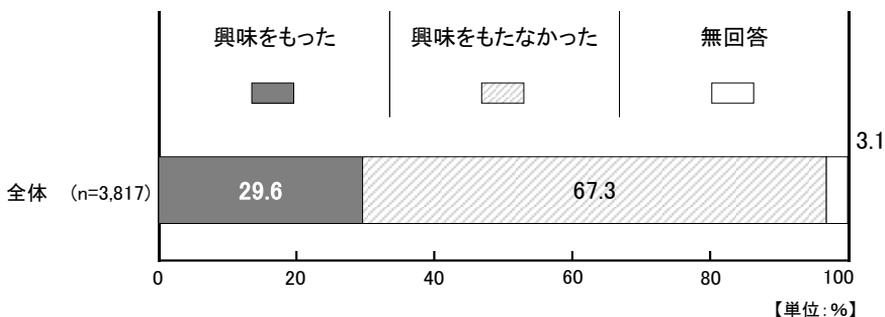


※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

## ■「藍野専門職大学」への興味度

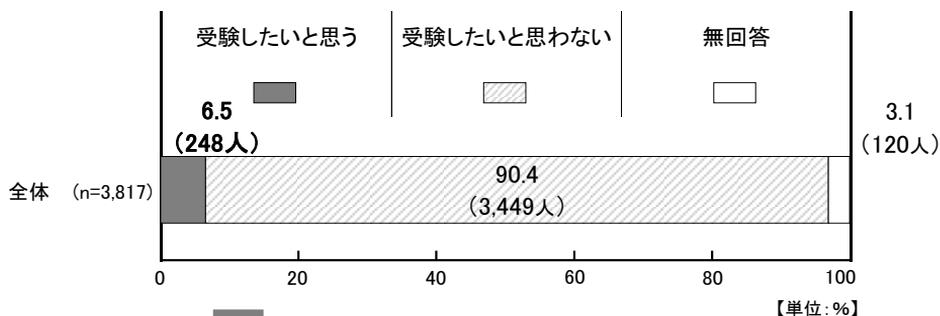
Q4. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)に興味をもちましたか。  
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



# 「藍野専門職大学」への受験意向／入学意向

## ■「藍野専門職大学」への受験意向

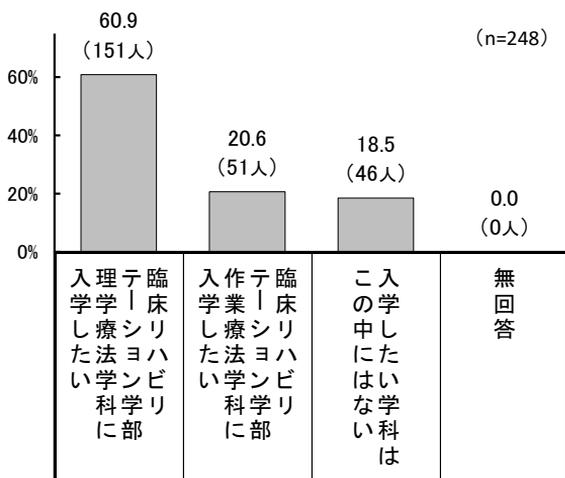
Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。  
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた248人のみ抽出

## ■「藍野専門職大学」への入学意向

Q6. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



## ■学科ごとの入学意向者における、県別内訳

	標本数	福井県	岐阜県	三重県	滋賀県	京都府	和歌山県	
「藍野専門職大学」を受験したいかつ「理学療法学科」に入学したい	151	10.6	7.3	3.3	69.5	4.0	5.3	%
		16	11	5	105	6	8	人数
「藍野専門職大学」を受験したいかつ「作業療法学科」に入学したい	51	15.7	13.7	2.0	54.9	5.9	7.8	%
		8	7	1	28	3	4	人数

# 参考)全回答者、滋賀県の回答者を母数とした場合の 各学科への入学意向率

## ■参考)全回答者、滋賀県の回答者を母数とした場合の、 藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 「理学療法学科」「作業療法学科」への受験かつ入学意向率

- Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。  
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)
- Q6. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

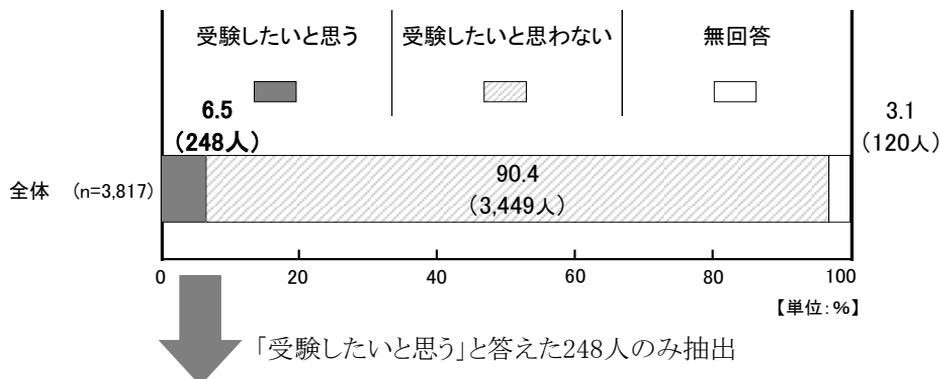
※以下の数表では、回答者全体、および、滋賀県の回答者における  
Q5で「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」と回答し、かつ、  
Q6で「臨床リハビリテーション学部 理学療法学科に入学したい」または  
「臨床リハビリテーション学部 作業療法学科に入学したい」と回答した人数の割合を示す。

	標 本 数	理 学 療 法 学 科 に 入 学 し た い	臨 床 リ ハ ビ リ テ ー シ ヨ ン 学 部 に 入 学 し た い	藍 野 専 門 職 大 学 を 受 験 し た い	作 業 療 法 学 科 に 入 学 し た い	臨 床 リ ハ ビ リ テ ー シ ヨ ン 学 部 に 入 学 し た い	藍 野 専 門 職 大 学 を 受 験 し た い	
全体	3,817	4.0	1.3	151	51			% 人数
滋賀県	2,089	5.0	1.3	105	28			% 人数

# 「藍野専門職大学」への受験意向／ 「理学療法学科」への入学意向

## ■「藍野専門職大学」への受験意向

Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。  
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



## ■「理学療法学科」への入学意向

Q6. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

<属性別> ※Q5の「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」と答えた248人のうち、  
Q6の「臨床リハビリテーション学部 理学療法学科に入学したい」と答えた人の属性別回答状況

属性	人数 (n)	割合 (%)	入学意向者数
全体	248	60.9	151人
性別	男性 (n=142)	71.1	101人
	女性 (n=105)	46.7	49人
所在地別	中部地方 (n=61)	52.5	32人
	近畿地方 (n=187)	63.6	119人
	滋賀県 (n=160)	65.6	105人
卒業後の進路別	国公立大学に進学 (n=78)	57.7	45人
	私立大学に進学 (n=110)	70.0	77人
	専門職大学に進学 (n=34)	61.8	21人
	短期大学に進学 (n=29)	48.3	14人
	専門学校・専修学校に進学 (n=103)	61.2	63人
興味のある系統別	医療技術・リハビリテーション学 (n=128)	71.1	91人
	看護学 (n=55)	50.9	28人
	スポーツ・体育・健康科学 (n=60)	76.7	46人
	医・歯・薬学 (n=26)	69.2	18人
特色魅力度別	特色A魅力あり (n=239)	61.1	146人
	特色B魅力あり (n=235)	61.7	145人
	特色C魅力あり (n=240)	61.3	147人
	特色D魅力あり (n=238)	61.8	147人
	特色E魅力あり (n=237)	62.0	147人
各学科の特色魅力度別	特色F 魅力あり (n=236)	61.4	145人
「藍野専門職大学」への興味度別	興味をもった (n=233)	62.2	145人

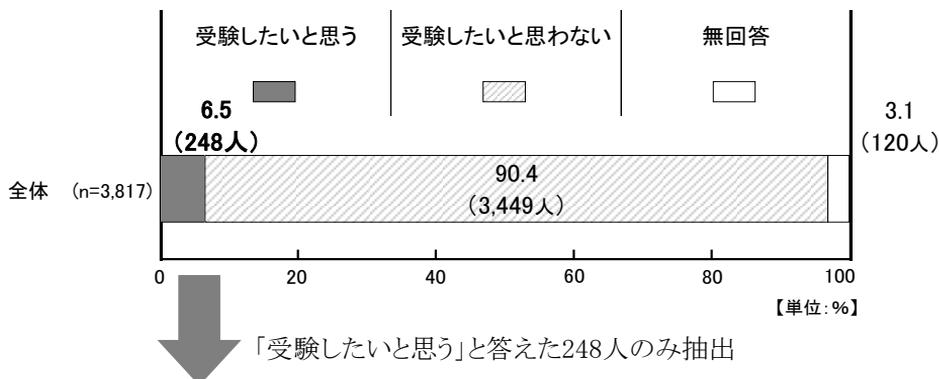
【単位:%】

※回答者は、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」への受験意向・入学意向等を回答する前に、専門職大学と大学の違いや、藍野専門職大学の特色、類似の内容が学べる近隣の四年制大学が明記された「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」のリーフレットに目を通している。このことから、回答者は、リーフレット記載の近隣大学や、アンケート回答以前から自身の進学先候補として検討していた大学・専門学校等と「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」を比較検討した上で、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」への受験意向・各学科への入学意向を回答していると考えられる。

# 「藍野専門職大学」への受験意向／ 「作業療法学科」への入学意向

## ■「藍野専門職大学」への受験意向

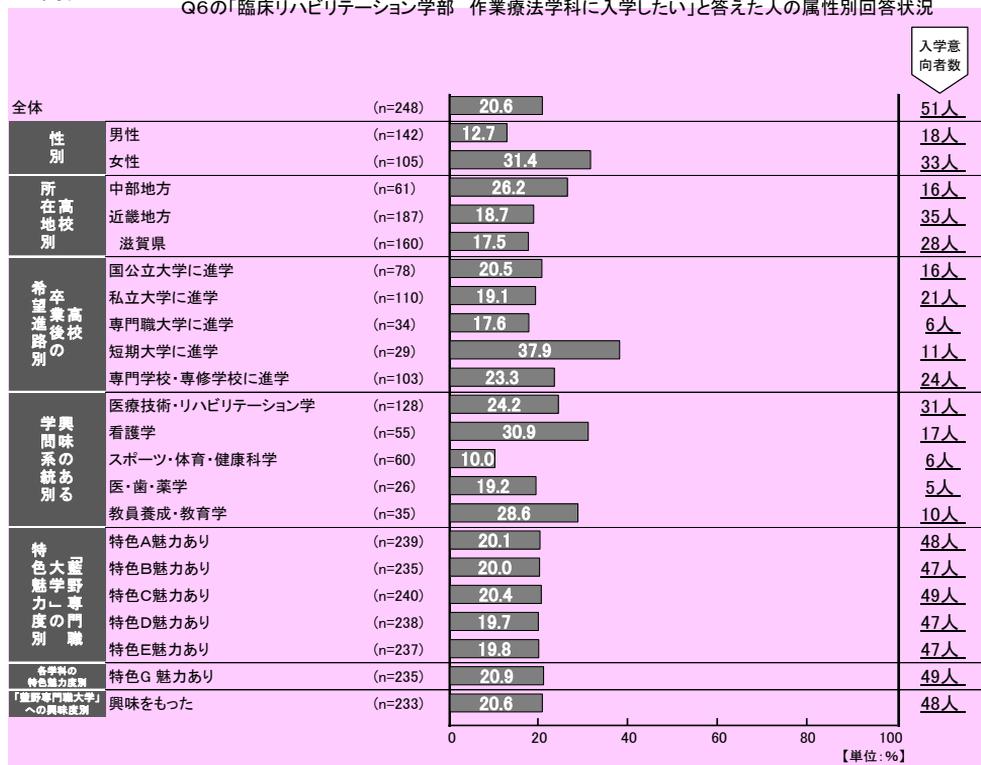
Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。  
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



## ■「作業療法学科」への入学意向

Q6. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

＜属性別＞ ※Q5の「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」と答えた248人のうち、  
Q6の「臨床リハビリテーション学部 作業療法学科に入学したい」と答えた人の属性別回答状況



※回答者は、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」への受験意向・入学意向等を回答する前に、専門職大学と大学の違いや、藍野専門職大学の特色、類似の内容が学べる近隣の四年制大学が明記された「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」のリーフレットに目を通して頂いている。このことから、回答者は、リーフレット記載の近隣大学や、アンケート回答以前から自身の進学先候補として検討していた大学・専門学校等と「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」を比較検討した上で、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」への受験意向・各学科への入学意向を回答していると考えられる。

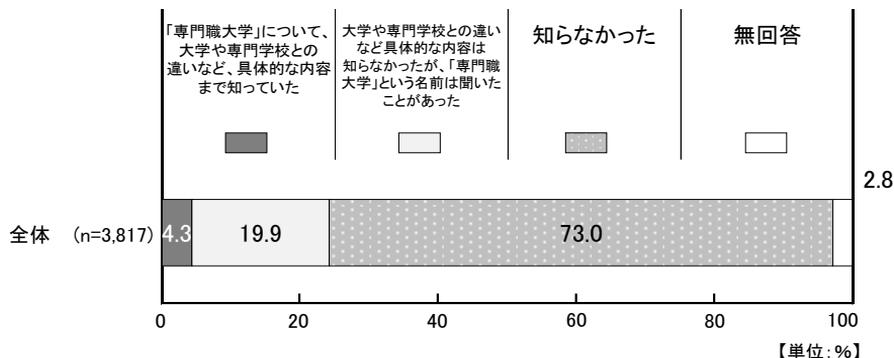
## 高校生対象 調査結果

### ②「専門職大学」制度について

# 「専門職大学」の認知／進学意向

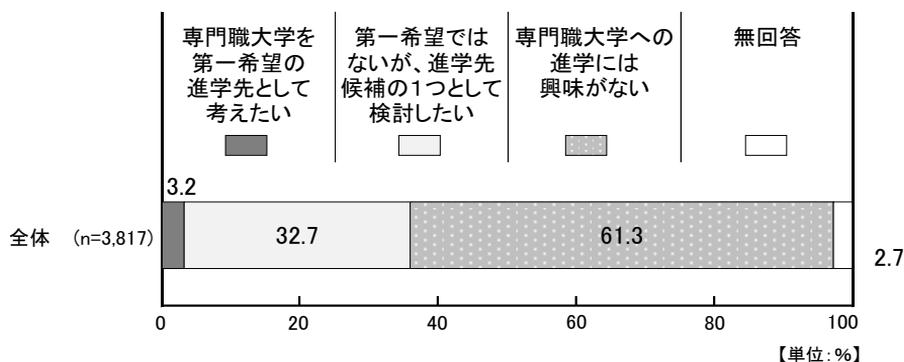
## ■「専門職大学」の認知

Q8. あなたは、このアンケートに回答する以前は、「専門職大学」という新しい学校制度について知っていましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



## ■「専門職大学」への進学意向

Q9. 現時点で、あなたは、「専門職大学」に進学することにどの程度興味がありますか。現在のあなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



# 「専門職大学」の認知／進学意向

## ■参考)「専門職大学」への進学意向別

藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部

「理学療法学科」「作業療法学科」への受験かつ入学意向率

- Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。  
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)
- Q6. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※以下の数表では、回答者全体、および、「専門職大学」への進学意向別における

Q5で「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」と回答し、かつ、

Q6で「臨床リハビリテーション学部 理学療法学科に入学したい」または

「臨床リハビリテーション学部 作業療法学科に入学したい」と回答した人数の割合を示す。

		標 本 数	理 学 療 法 学 科 に 入 学 し た い	臨 床 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 部 に 入 学 し た い	藍 野 専 門 職 大 学 を 受 験 し た い	
全体		3,817	4.0	1.3	51	% 人数
「専門職大学」 への 進学意向別	進学に興味あり	1,373	9.8	3.4	46	% 人数
	専門職大学を第一希望	124	22.6	6.5	8	% 人数
	進学先候補の1つ	1,249	8.5	3.0	38	% 人数

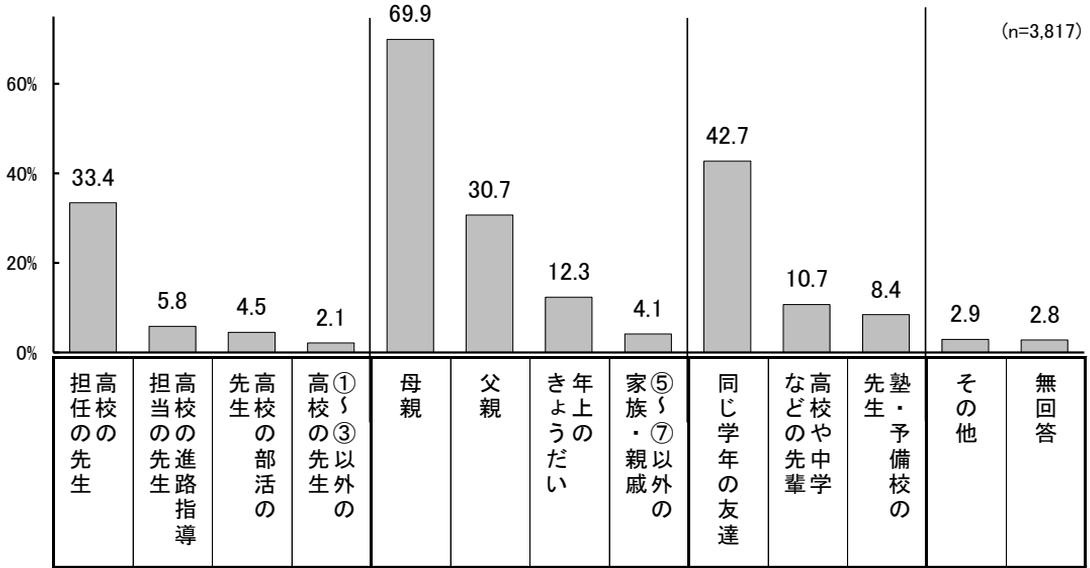
## 高校生対象 調査結果

### ③進路選択行動・意識について

# 進路相談相手

## ■進路相談相手

Q10.あなたは、高校卒業後の進路について考えたり悩んだりしたとき、誰に相談することが多いですか。  
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

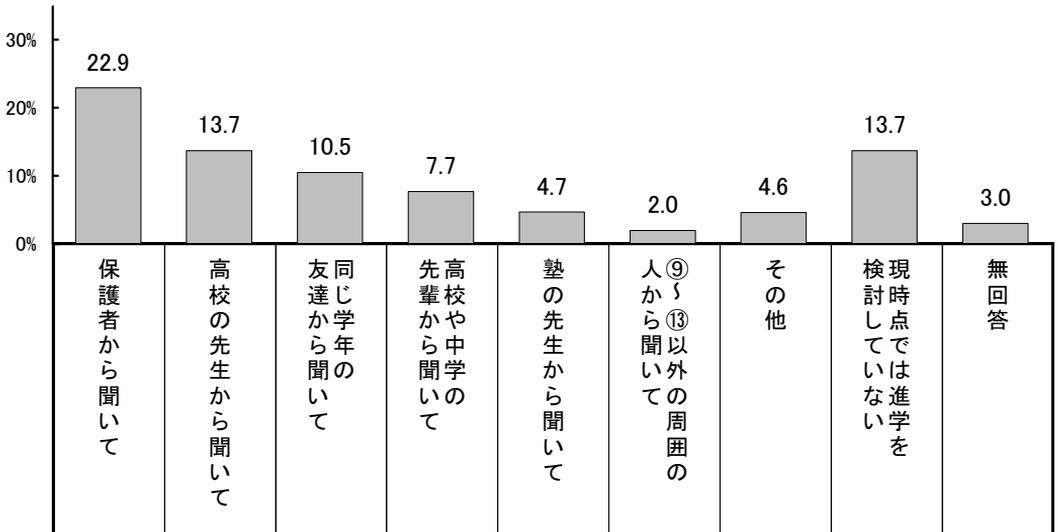
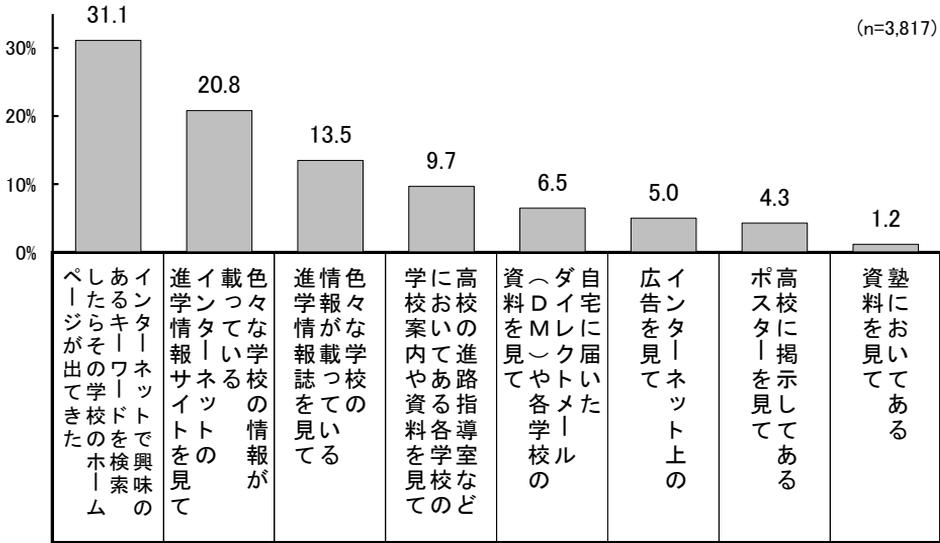


※各カテゴリー内でソート

# 進学先候補の学校を知ったきっかけ

## ■進学先候補の学校を知ったきっかけ

Q11.あなたが現在進学を検討している学校を知ったきっかけはなんですか。  
以下の項目から、あてはまる番号すべてにQをつけてください。(いくつでも)

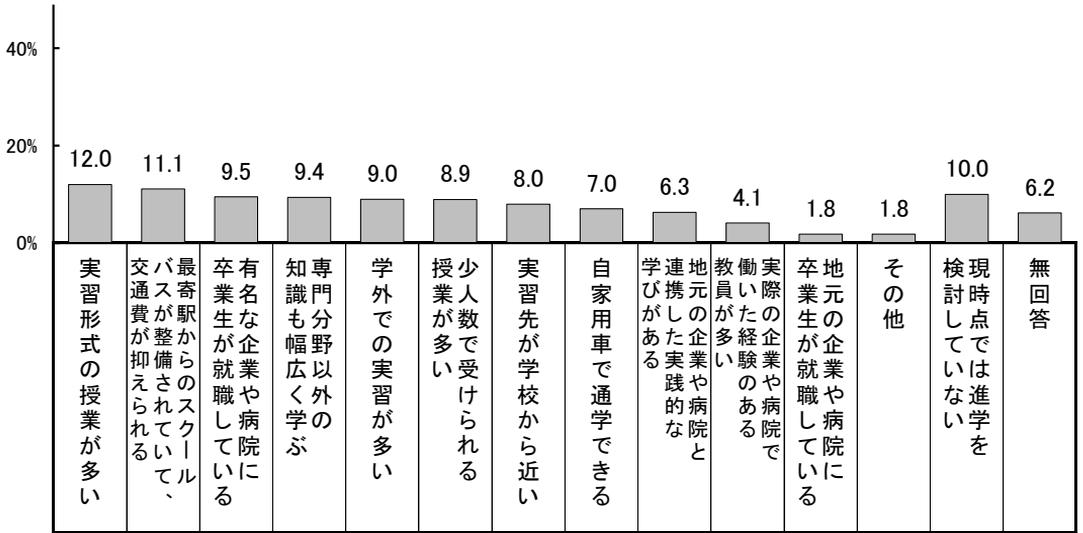
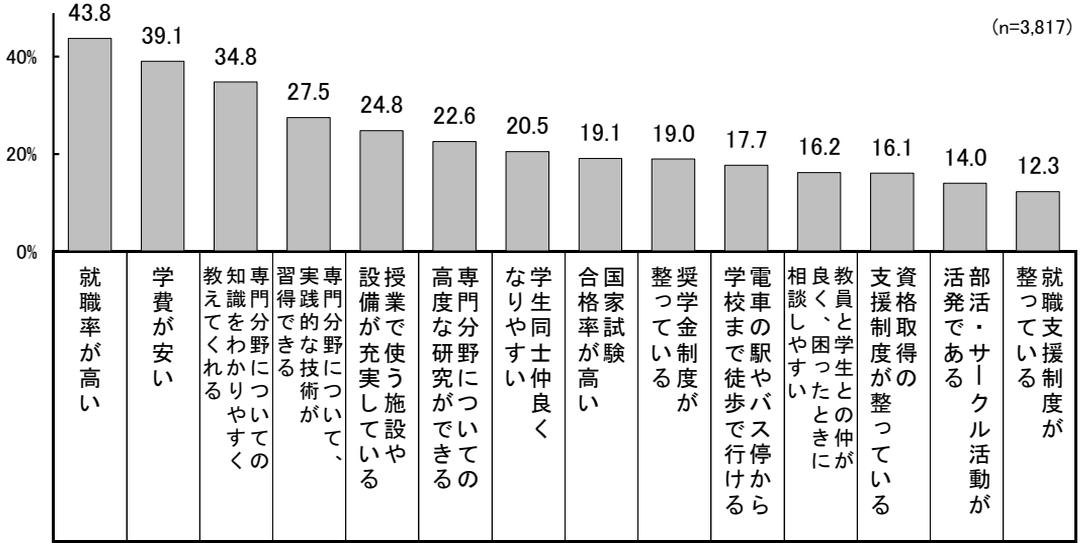


※各カテゴリー内で全体の数値を基準に降順で並び替え

# 進学先選択時の重視点

## ■進学先選択時の重視点

Q12.あなたは、進学先候補の学校を選ぶ際、どのような点を重視して選ぼうと思いますか。  
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



※全体の数値を基準に降順で並び替え

## 卷末資料



• 調査票



# 調査票

## ◆「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）についてお聞きます。

学校法人 藍野大学では、2020年4月に、「藍野専門職大学」（仮称）を新設することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3 「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例.	○○である。	①	○	③	④
A.	滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。	→ ①	②	③	④
B.	専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。	→ ①	②	③	④
C.	滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。	→ ①	②	③	④
D.	滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。	→ ①	②	③	④
E.	理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。	→ ①	②	③	④
F.	臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。	→ ①	②	③	④
G.	臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。	→ ①	②	③	④

Q4 あなたは、「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）に興味をもちましたか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。（1つだけ）

- ① 興味をもった                      ② 興味をもたなかった

Q5 あなたは、「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。（1つだけ）

- ① 受験したいと思う                      ② 受験したいと思わない

Q6 あなたは、「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちが一番近い番号1つに○をつけてください。（1つだけ）

- ① 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科に入学したい                      ③ 入学したい学科はこの中にはない  
② 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科に入学したい

**Q7** 「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）について、もっと知りたい情報があれば、どのようなことでもかまいませんので、ご自由にお書きください。

## ◆「専門職大学」という新しい学校制度についてお聞きします。

**Q8** あなたは、このアンケートに回答する以前は、「専門職大学」という新しい学校制度について知っていましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（1つだけ）

- ① 「専門職大学」について、大学や専門学校との違いなど、具体的な内容まで知っていた
- ② 大学や専門学校との違いなど具体的な内容は知らなかったが、「専門職大学」という名前は聞いたことがあった
- ③ 知らなかった

**Q9** 現時点で、あなたは、「専門職大学」に進学することにどの程度興味がありますか。現在のあなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。（1つだけ）

- ① 専門職大学を第一希望の進学先として考えたい
- ② 第一希望ではないが、進学先候補の1つとして検討したい
- ③ 専門職大学への進学には興味がない

## ◆あなた自身の進路選択についてお聞きします。

**Q10** あなたは、高校卒業後の進路について考えたり悩んだりしたとき、誰に相談することが多いですか。以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（いくつでも）

- ① 高校の担任の先生
- ② 高校の進路指導担当の先生
- ③ 高校の部活の先生
- ④ ①～③以外の高校の先生
- ⑤ 父親
- ⑥ 母親
- ⑦ 年上のきょうだい
- ⑧ ⑤～⑦以外の家族・親戚
- ⑨ 高校や中学などの先輩
- ⑩ 同じ学年の友達
- ⑪ 塾・予備校の先生
- ⑫ その他  
（具体的に：\_\_\_\_\_）

**Q11** あなたが現在進学を検討している学校を知ったきっかけは何ですか。以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（いくつでも）

- ① インターネットに興味のあるキーワードを検索したらその学校のホームページが出てきた
- ② 色々な学校の情報が載っているインターネットの進学情報サイトを見て
- ③ インターネット上の広告を見て
- ④ 色々な学校の情報が載っている進学情報誌を見て
- ⑤ 自宅に届いたダイレクトメール(DM)や各学校の資料を見て
- ⑥ 高校の進路指導室などにおいてある各学校の学校案内や資料を見て
- ⑦ 高校に掲示してあるポスターを見て
- ⑧ 塾においてある資料を見て
- ⑨ 高校の先生から聞いて
- ⑩ 保護者から聞いて
- ⑪ 塾の先生から聞いて
- ⑫ 高校や中学の先輩から聞いて
- ⑬ 同じ学年の友達から聞いて
- ⑭ ⑨～⑬以外の周囲の人から聞いて  
（具体的に：\_\_\_\_\_）
- ⑮ その他  
（具体的に：\_\_\_\_\_）
- ⑯ 現時点では進学を検討していない

# 調査票

Q12

あなたは、進学先候補の学校を選ぶ際、どのような点を重視して選ぼうと思いますか。  
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

- |                                      |                          |
|--------------------------------------|--------------------------|
| ① 専門分野についての高度な研究ができる                 | ⑭ 専門分野について、実践的な技術が習得できる  |
| ② 専門分野についての知識をわかりやすく教えてくれる           | ⑮ 専門分野以外の知識も幅広く学ぶ        |
| ③ 学外での実習が多い                          | ⑯ 実習形式の授業が多い             |
| ④ 少人数で受けられる授業が多い                     | ⑰ 授業で使う施設や設備が充実している      |
| ⑤ 地元の企業や病院と連携した実践的な学びがある             | ⑱ 実習先が学校から近い             |
| ⑥ 教員と学生との仲が良く、困ったときに相談しやすい           | ⑲ 実際の企業や病院で働いた経験のある教員が多い |
| ⑦ 就職率が高い                             | ⑳ 就職支援制度が整っている           |
| ⑧ 有名な企業や病院に卒業生が就職している                | ㉑ 地元の企業や病院に卒業生が就職している    |
| ⑨ 国家試験合格率が高い                         | ㉒ 資格取得の支援制度が整っている        |
| ⑩ 学生同士仲良くなりやすい                       | ㉓ 部活・サークル活動が活発である        |
| ⑪ 学費が安い                              | ㉔ 奨学金制度が整っている            |
| ⑫ 自家用車で通学できる                         | ㉕ 電車の駅やバス停から学校まで徒歩で行ける   |
| ⑬ 最寄駅からのスクールバスが整備されていて、<br>交通費が抑えられる | ⑳ その他<br>(具体的に: _____ )  |
|                                      | ㉖ 現時点では進学を検討していない        |

\*\*\* 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。 \*\*\*

資 料 2 - 2

---

---

**「藍野専門職大学」(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書**  
**【施設等職員対象調査】**

---

---

平成30年9月  
株式会社 進研アド

# 施設等職員対象 調査概要

## 1. 調査目的

2020年4月開設予定の「藍野専門職大学」設置構想に関して、施設等職員からの進学ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		施設等職員対象調査
調査対象		施設等職員
調査エリア		滋賀県、京都府、兵庫県
調査方法		郵送にて配布・回収
調査対象数	依頼数	47施設 959枚
	回収数 <回収率>	622人 <64.9%>
調査時期		2018年7月2日(月)～2018年8月22日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

社会人対象調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・性別</li><li>・年代</li><li>・勤務地</li><li>・現在の職種</li><li>・最終学歴</li><li>・「学びなおし」への関心</li><li>・「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度</li><li>・「藍野専門職大学」への受験意向</li><li>・「藍野専門職大学」への入学意向</li></ul>

## 施設等職員対象 調査結果まとめ



# 施設等職員対象 調査結果まとめ

## 回答者の属性

※本調査は、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」に対する社会人からの進学需要を確認するための調査として設計し、藍野専門職大学の主な学生募集エリアである滋賀県、京都府を中心とした近畿エリアの病院・施設等職員に調査を実施した。

- 本調査の回答者は622人。
- 回答者の性別は「男性」が33.1%、「女性」が65.9%。
- 回答者の年代は「30代」の30.5%が最も多く、次いで「20代」が25.9%、「40代」が22.7%と続く。
- 回答者の勤務地は、藍野専門職大学の所在地となる「滋賀県」が87.5%で最も多い。
- 回答者の職種は「介護福祉士」が26.2%と最も多く、次いで「介護職員」が25.1%と続く。
- 回答者の最終学歴は「四年制大学」が29.9%と最も多く、次いで「高等学校」が22.5%、「専門学校」が22.0%と多い。

## 「学びなおし」への関心

- 回答者で学びなおしに「関心がある」と答えた人は、59.2%である。

# 施設等職員対象 調査結果まとめ

## 「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度

- 「藍野専門職大学」の特色(A～E)に対する魅力度(※)は、全ての項目で8割を超える。
- 「藍野専門職大学」の特色の中で、最も魅力度が高いのは、「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」の90.5%で、「とても魅力を感じる」の割合も5割を超える。

次に、「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」が魅力度90.2%で続く。

- 「理学療法学科」の特色である「F. 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。」に対する魅力度は87.8%である。
- 「作業療法学科」の特色である「G. 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。」に対する魅力度は86.8%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値÷数表中の「魅力を感じる・計」の値

# 施設等職員対象 調査結果まとめ

## 「藍野専門職大学」への受験意向

- ・「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」と答えた人は、37.0% (230人)である。

## 「理学療法学科」への入学意向

- ・「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」と答えた230人のうち、「臨床リハビリテーション学部 理学療法学科に入学したい」と入学意向を示した人は、60.4% (139人)であり、予定している入学定員80人を上回る入学意向者数がみられた。

以下は属性別の結果である。

### ◇年代別

- ・「30代」の「理学療法学科」への入学意向は70.5% (78人中、55人)と、他の年代に比べて高い。

### ◇勤務地別

- ・藍野専門職大学の所在予定地である「滋賀県」勤務者からの入学意向は58.9% (207人中、122人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

### ◇現在の職種別

- ・現在の職種を「作業療法士」と答えた回答者からの入学意向は88.9% (9人中、8人)みられた。

### ◇最終学歴別

- ・最終学歴を「短期大学」と答えた回答者からの入学意向は71.7% (46人中、33人)、「専門学校」と答えた回答者からの入学意向は60.0% (50人中、30人)、「高等学校」と答えた回答者からの入学意向は53.6% (56人中、30人)である。

# 施設等職員対象 調査結果まとめ

---

## ◇「学びなおし」への関心別

学びなおしに「関心がある」と答えた回答者からの入学意向は60.9%（184人中、112人）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

## ◇「藍野専門職大学」の特色に対する魅力別

- 「A. 滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。」に魅力を感じている回答者の入学意向は60.8%（227人中、138人）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」に魅力を感じている回答者の入学意向は60.2%（221人中、133人）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」に魅力を感じている回答者の入学意向は60.7%（224人中、136人）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「D. 滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。」に魅力を感じている回答者の入学意向は60.8%（217人中、132人）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「E. 理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。」に魅力を感じている回答者の入学意向は60.7%（214人中、130人）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

# 施設等職員対象 調査結果まとめ

---

## ◇「理学療法学科」の特色に対する魅力別

- 「F. 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。」に魅力を感じている回答者の入学意向は61.1% (221人中、**135人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

# 施設等職員対象 調査結果まとめ

## 「作業療法学科」への入学意向

- 「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」と答えた230人のうち、「臨床リハビリテーション学部 作業療法学科に入学したい」と入学意向を示した人は、30.0% (69人) であり、予定している入学定員40人を上回る入学意向者数がみられた。

以下は属性別の結果である。

### ◇勤務地別

- 藍野専門職大学の所在予定地である「滋賀県」勤務者からの入学意向は30.9% (207人中、64人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

### ◇現在の職種別

- 現在の職種を「教員」と答えた回答者からの入学意向は52.0% (25人中、13人)みられた。

### ◇最終学歴別

- 最終学歴を「高等学校」と答えた回答者からの入学意向は41.1% (56人中、23人)みられた。

### ◇「学びなおし」への関心別

- 学びなおしに「関心がある」と答えた回答者の入学意向は29.9% (184人中、55人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

# 施設等職員対象 調査結果まとめ

---

## ◇「藍野専門職大学」の特色に対する魅力別

- 「A. 滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。」に魅力を感じている回答者の入学意向は30.0% (227人中、**68人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」に魅力を感じている回答者の入学意向は30.8% (221人中、**68人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」に魅力を感じている回答者の入学意向は29.9% (224人中、**67人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「D. 滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。」に魅力を感じている回答者の入学意向は30.0% (217人中、**65人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。
- 「E. 理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。」に魅力を感じている回答者の入学意向は30.4% (214人中、**65人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

# 施設等職員対象 調査結果まとめ

---

◇「作業療法学科」の特色に対する魅力別

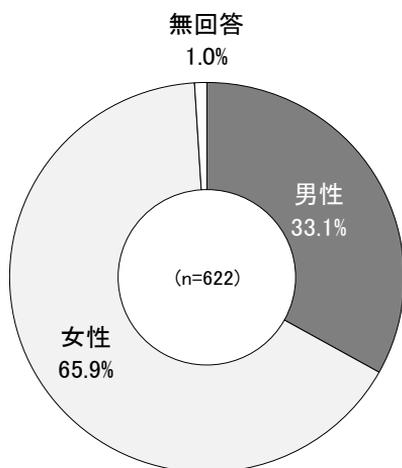
- 「G. 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。」に魅力を感じている回答者の入学意向は31.0% (216人中、**67人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者数がみられた。

## 施設等職員対象 調査結果

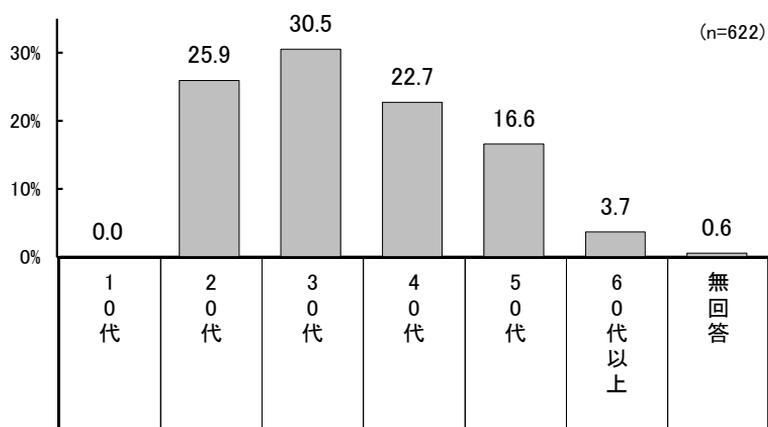


# 回答者の属性(性別/年代/勤務地)

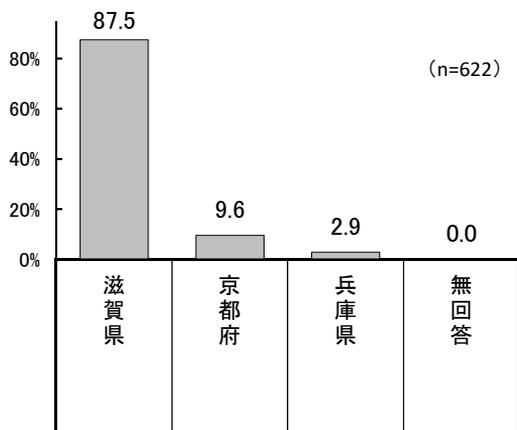
## ■性別



## ■年代

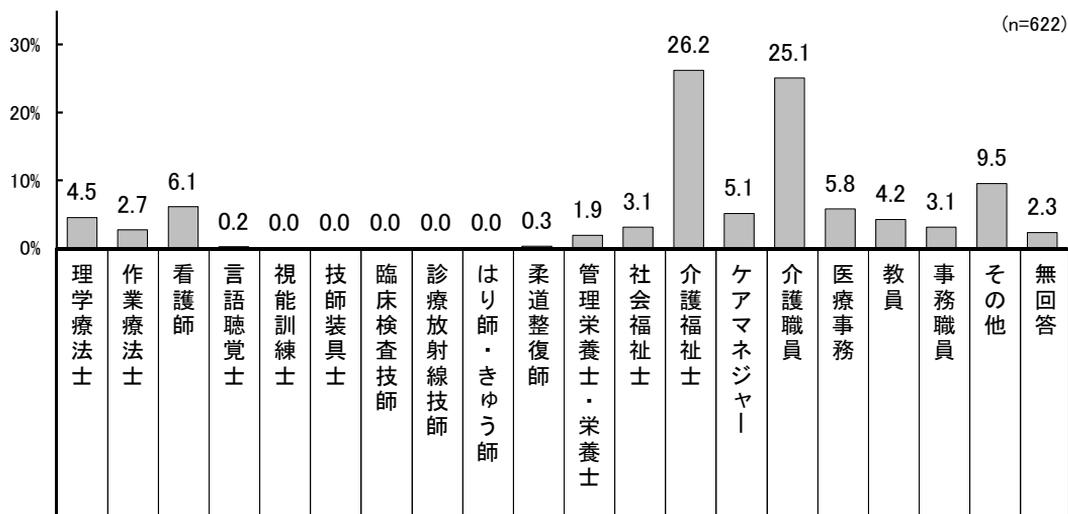


## ■勤務地

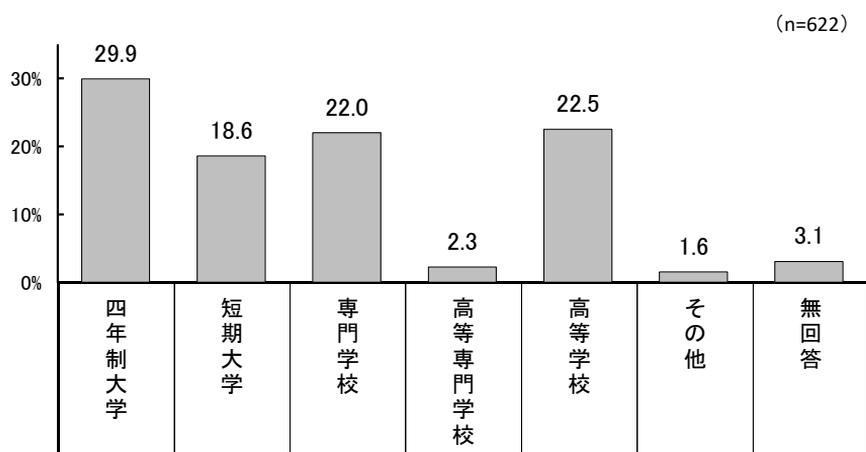


# 現在の職種／最終学歴

## ■現在の職種



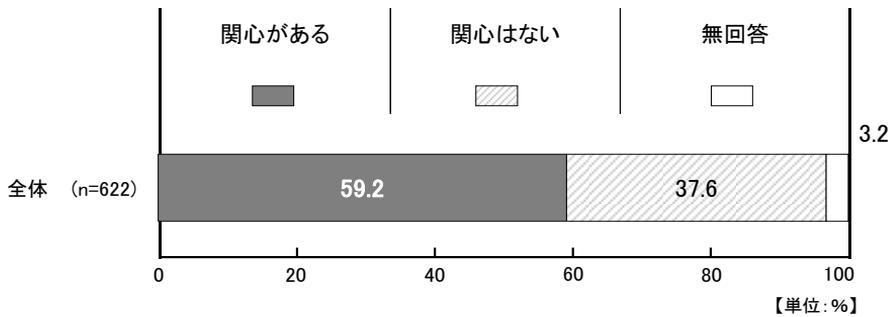
## ■最終学歴



# 「学びなおし」への関心

## ■「学びなおし」への関心

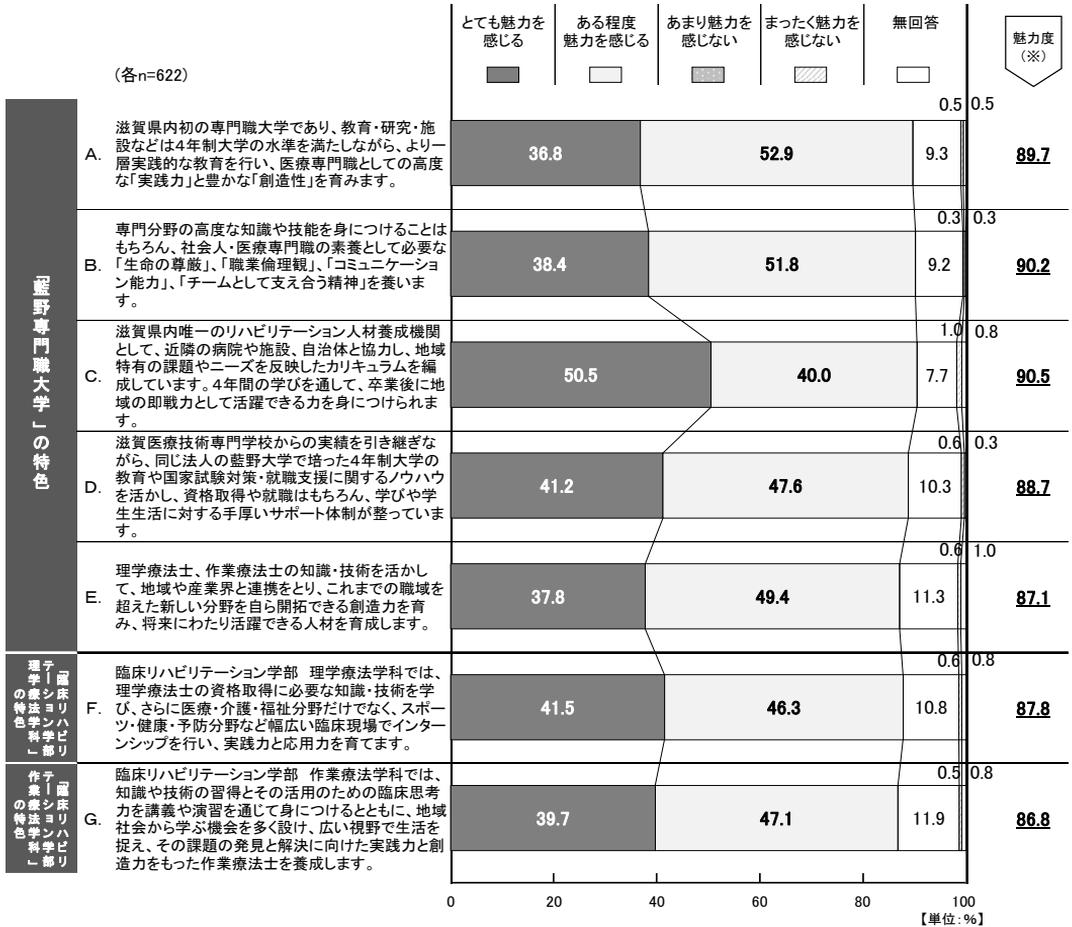
Q2. あなたは、資格取得や専門知識・スキルアップのために、大学や専門学校等に入学し、「学びなおし」することに関心がありますか。(あてはまる番号1つに○)



# 「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度

## ■「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度

Q3.「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。  
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



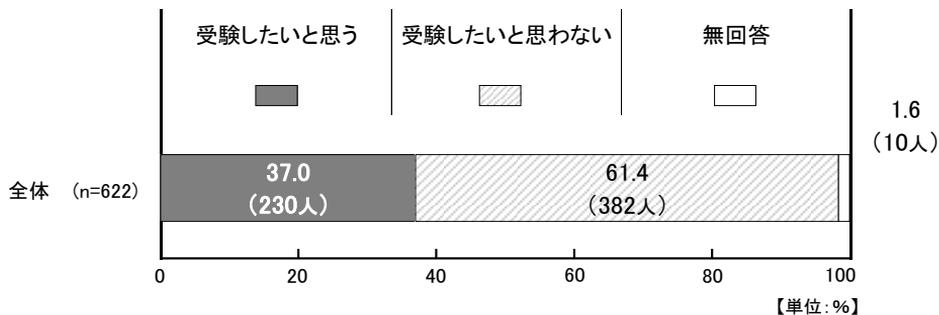
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 「藍野専門職大学」への受験意向／入学意向

## ■「藍野専門職大学」への受験意向

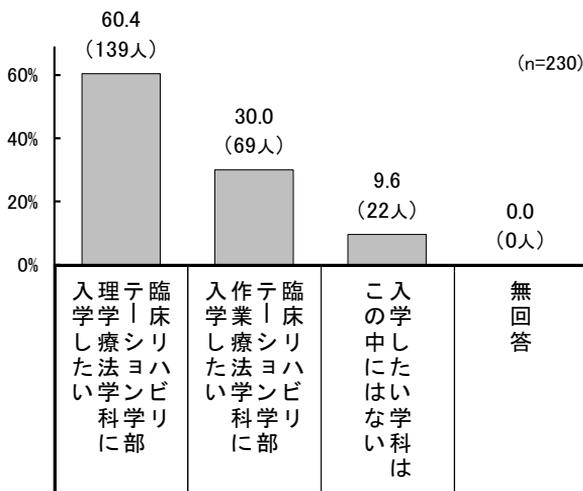
Q4. あなたは、Q3のような特色をもつ「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験したいと思いますか。  
あなたのお気持ちに近い方の番号1つにQをつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた230人のみ抽出

## ■「藍野専門職大学」への入学意向

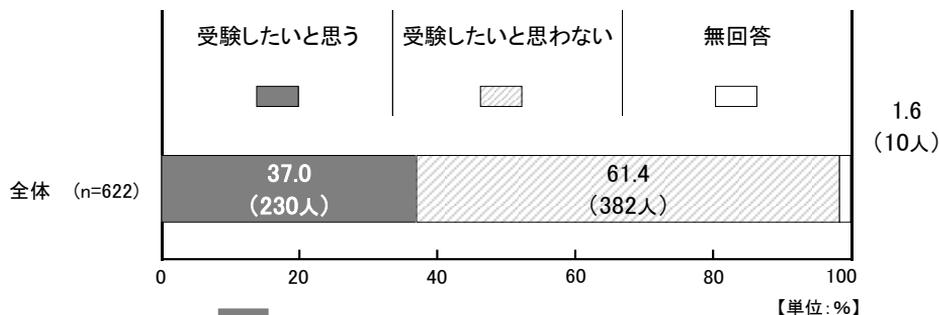
Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたのお気持ちに一番近い番号1つにQをつけてください。(1つだけ)



# 「藍野専門職大学」への受験意向／ 「理学療法学科」への入学意向

## ■「藍野専門職大学」への受験意向

Q4. あなたは、Q3のような特色をもつ「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験したいと思いますか。  
あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた230人のみ抽出

## ■「理学療法学科」への入学意向

Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたのお気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

<属性別> ※Q4の「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」

かつ、Q5の「臨床リハビリテーション学部 理学療法学科に入学したい」と答えた139人の回答

入学意向者数

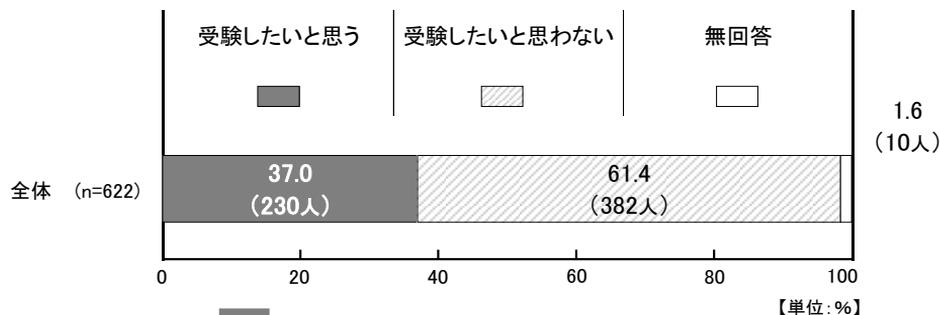
属性	人数	割合 (%)	人数
全体	(n=230)	60.4	139人
年代	20代 (n=62)	56.5	35人
	30代 (n=78)	70.5	55人
	40代 (n=45)	55.6	25人
	50代以上 (n=44)	54.5	24人
地勤務	滋賀県 (n=207)	58.9	122人
	京都府 (n=18)	66.7	12人
現在の職種別	作業療法士 (n=9)	88.9	8人
	看護師 (n=12)	66.7	8人
	介護福祉士 (n=47)	61.7	29人
	ケアマネジャー (n=15)	66.7	10人
最終学歴別	四年制大学 (n=69)	59.4	41人
	短期大学 (n=46)	71.7	33人
	専門学校 (n=50)	60.0	30人
	高等学校 (n=56)	53.6	30人
「学びなおし」への関心別	関心がある (n=184)	60.9	112人
	関心はない (n=42)	57.1	24人
特色大魅力度別	特色A魅力あり (n=227)	60.8	138人
	特色B魅力あり (n=221)	60.2	133人
	特色C魅力あり (n=224)	60.7	136人
	特色D魅力あり (n=217)	60.8	132人
	特色E魅力あり (n=214)	60.7	130人
各学科の特色魅力度別	特色F魅力あり (n=221)	61.1	135人

【単位:%】

# 「藍野専門職大学」への受験意向／ 「作業療法学科」への入学意向

## ■「藍野専門職大学」への受験意向

Q4. あなたは、Q3のような特色をもつ「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験したいと思いますか。  
あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた230人のみ抽出

## ■「作業療法学科」への入学意向

Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。  
あなたのお気持ちが一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

<属性別> ※Q4の「藍野専門職大学」を「受験したいと思う」

かつ、Q5の「臨床リハビリテーション学部 作業療法学科に入学したい」と答えた69人の回答

入学意向者数

属性	人数 (n)	割合 (%)	人数
全体	(n=230)	30.0	69人
年代	20代 (n=62)	35.5	22人
	30代 (n=78)	19.2	15人
	40代 (n=45)	33.3	15人
	50代以上 (n=44)	36.4	16人
地 勤 別 務	滋賀県 (n=207)	30.9	64人
	京都府 (n=18)	27.8	5人
現在の職種別	理学療法士 (n=8)	25.0	2人
	介護福祉士 (n=47)	31.9	15人
	医療事務 (n=13)	38.5	5人
	教員 (n=25)	52.0	13人
最終学歴別	四年制大学 (n=69)	31.9	22人
	短期大学 (n=46)	17.4	8人
	専門学校 (n=50)	26.0	13人
	高等学校 (n=56)	41.1	23人
「学びなおし」への関心別	関心がある (n=184)	29.9	55人
	関心はない (n=42)	31.0	13人
特色「藍野専門職大学」の魅力度別	特色A魅力あり (n=227)	30.0	68人
	特色B魅力あり (n=221)	30.8	68人
	特色C魅力あり (n=224)	29.9	67人
	特色D魅力あり (n=217)	30.0	65人
	特色E魅力あり (n=214)	30.4	65人
各学科の特色魅力度別	特色G魅力あり (n=216)	31.0	67人

【単位:%】

## 卷末資料



• 調査票

# 調査票

※こちらのアンケートは、貴施設の【職員の方】にご回答いただきますようお願いいたします。

各位

## 『藍野専門職大学』（仮称、設置構想中）に関するアンケート

学校法人 藍野大学では、2020年4月に、現在の滋賀医療技術専門学校を改組・転換し、四年制の専門職大学である「藍野専門職大学」（仮称）を設置することを構想しています。

そこで、病院や医療・介護施設等に勤務されている皆様にアンケート調査を実施させていただき、構想中の「藍野専門職大学」（仮称）の内容をより充実したものにするための参考とさせていただきたいと考えております。

なお、この調査は無記名で行い、皆様の個人情報をお守りすることをお約束します。

ぜひ皆様の率直なご意見をお聞かせいただきますようアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）に関する内容は現在構想中の予定であり、変更される可能性があります。

Q1. はじめに、あなたご自身についてお答えください。

※回答から個人を特定することは一切ありません。

性別 (1つに○)	1. 男性	2. 女性				
年代 (1つに○)	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代	6. 60代以上
勤務地	〔 〕					都・道・府・県
現在の職種 (1つに○)	1. 理学療法士	7. 臨床検査技師	13. 介護福祉士			
	2. 作業療法士	8. 診療放射線技師	14. ケアマネジャー			
	3. 看護師	9. はり師・きゆう師	15. 介護職員			
	4. 言語聴覚士	10. 柔道整復師	16. 医療事務			
	5. 視能訓練士	11. 管理栄養士・栄養士	17. その他( )			
	6. 技師装具士	12. 社会福祉士				
最後に卒業した学校 (1つに○)	1. 四年制大学	3. 専門学校	5. 高等学校			
	2. 短期大学	4. 高等専門学校	6. その他( )			

Q2. あなたは、資格取得や専門知識・スキルアップのために、大学や専門学校等に入學し、「学びなおし」することに関心がありますか。

(あてはまる番号1つに○)

1. 関心がある
2. 関心はない

次のページへ続く→

# 調査票

※ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください※

## ◆「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)についてお聞きます。

学校法人 藍野大学では、2020年4月に、現在の滋賀医療技術専門学校を改組・転換し、四年制の専門職大学である「藍野専門職大学」(仮称)を設置することを構想しています。

### Q3. 「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。

それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
回答方法例) A～Fそれぞれの特色について、あてはまる番号1つに○ →	①	2	3	4
A 滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践性」と豊かな「創造性」を育みます。 →	1	2	3	4
B 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。 →	1	2	3	4
C 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。 →	1	2	3	4
D 滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。 →	1	2	3	4
E 理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。 →	1	2	3	4
F 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。 →	1	2	3	4
G 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。 →	1	2	3	4

### Q4. あなたは、Q3のような特色をもつ「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験したいと思いますか。

あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

1. 受験したいと思う 2. 受験したいと思わない

### Q5. あなたは、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、

どの学科に入学したいと思いますか。

あなたのお気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

1. 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科に入学したい 3. 入学したい学科はこの中にはない  
 2. 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科に入学したい

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

資 料 2 - 3

---

---

**「藍野専門職大学」(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書**

**【病院・施設採用担当者対象調査】**

---

---

**平成30年9月  
株式会社 進研アド**

# 病院・施設対象 調査概要

## 1. 調査目的

2020年4月開設予定の「藍野専門職大学」設置構想に関して、病院・施設等からの採用ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		病院・施設対象調査
調査対象		病院・施設の採用担当者
調査エリア		千葉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、岡山県、徳島県、愛媛県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	218病院・施設
	回収数(回収率)	119病院・施設 (54.6%)
調査時期		2018年7月2日(月)～2018年8月22日(水)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

病院・施設 対象調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・人事採用への関与度</li><li>・本社所在地</li><li>・主な業種</li><li>・従業員数</li><li>・各職種の従業員数</li><li>・各職種の充足状況</li><li>・「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度</li><li>・「臨床リハビリテーション学部」の社会的必要性</li><li>・「臨床リハビリテーション学部」卒業生に対する採用意向</li><li>・「臨床リハビリテーション学部」卒業生の毎年の採用想定人数</li><li>・従業員で各資格を取得したいと考えている人数</li><li>・「臨床リハビリテーション学部」の進学推奨度</li></ul>

※調査実施時点では、学部名を「臨床リハビリテーション学部」とすることを検討していたため、本報告書内でも学部名は「臨床リハビリテーション学部」と記載している。  
調査対象者に対しては、名称や内容は構想中のものであり、変更の可能性があることを明記した上で、(仮称)と表記して調査を行っており、また、学部名称の変更も「臨床リハビリテーション学部」から「リハビリテーション学部」と、学部名から想起される学問内容や職業イメージが大幅に変動するものではないことから、「リハビリテーション学部」の調査結果としての読み替えは可能と考える。

## 病院・施設対象 調査結果まとめ



# 病院・施設対象 調査結果まとめ

## 回答病院・施設(回答者)の属性

※本調査は、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」に対する人材需要を確認するための調査として設計し、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」の卒業生就職先として想定される病院・施設の人事採用業務担当者を対象に調査を実施し、119病院・施設から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は34.5%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が43.7%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答病院・施設の本社所在地は、藍野専門職大学の所在地となる「滋賀県」が52.1%と最も多い。次いで「京都府」が27.7%、「大阪府」が5.9%である。
- 回答病院・施設の業種としては「病院」が39.5%と最も多く、次いで「診療所・クリニック」が33.6%、「社会福祉・介護事業」が26.1%と続く。
- 回答病院・施設の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が37.8%で最も多い。次いで「50名未満」が32.8%、「50名～100名未満」が16.0%である。
- 回答病院・施設の「理学療法士」の従業員数(正規社員)は、「1～4名」が29.4%で最も多い。次いで「20名以上」が25.2%、「5～9名」が19.3%である。
- 回答病院・施設の「作業療法士」の従業員数(正規社員)は、「1～4名」が33.6%で最も多い。次いで「0名」が26.9%、「20名以上」が13.4%である。

## 理学療法士、作業療法士の充足状況

- 回答病院・施設の「理学療法士」の充足状況は、「若干不足している」が55.5%で最も多い。また、「不足している」が19.3%、「非常に不足している」が0.8%であり、若干～非常に不足していると回答した病院・施設が75.6%を占める。
- 回答病院・施設の「作業療法士」の充足状況は、「若干不足している」が34.5%、「不足している」が24.4%、「非常に不足している」が13.4%であり、若干～非常に不足していると回答した病院・施設が72.3%を占める。

# 病院・施設対象 調査結果まとめ

## 「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度

- 「藍野専門職大学」の特色(A～E)に対する魅力度(※)は、全ての項目で9割を超える。
- 「藍野専門職大学」の特色の中で、最も魅力度が高いのは、「A. 滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。」「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」が同率で96.6%である。

また、「とても魅力を感じる」の割合でみると、全ての項目で4割を超えているが、特に「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」では52.1%と、最も高い。

- 「理学療法学科」の特色である「F. 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。」に対する魅力度は90.8%である。
- 「作業療法学科」の特色である「G. 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。」に対する魅力度は92.4%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値÷数表中の「魅力を感じる・計」の値

# 病院・施設対象 調査結果まとめ

## 「理学療法学科」の社会的必要性

- ・「理学療法学科」の社会的必要性についての評価は、90.8%（108病院・施設）と、多くの病院・施設がこれからの社会にとって必要な学科であると答えている。

## 「理学療法学科」卒業生に対する採用意向／ 毎年の採用想定人数

- ・「理学療法学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた病院・施設は、89.1%（106病院・施設）。予定している入学定員80名を上回る採用意向数がみられた。
- ・「理学療法学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた106病院・施設へ「理学療法学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数の合計は189名程度であった。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

## 「理学療法学科」卒業生に対する採用意向 属性別傾向

### ◇本社所在地別

- ・藍野専門職大学の所在予定地である「滋賀県」の病院・施設からの採用意向は、90.3%（62病院・施設中、56病院・施設）である。

### ◇業種別

- ・「病院・診療所・クリニック」からの採用意向は89.7%（87病院・施設中、78病院・施設）、「社会福祉・介護事業」からの採用意向は87.1%（31病院・施設中、27病院・施設）と同程度みられる。

### ◇「理学療法士」の充足状況別

- ・勤務している「理学療法士」が「不足している」病院・施設からの採用意向は、93.3%（90病院・施設中、84病院・施設）と高く、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。

# 病院・施設対象 調査結果まとめ

## ◇「藍野専門職大学」の特色に対する魅力別

- 「A. 滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は90.4% (115病院・施設中、**104病院・施設**)と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。
- 「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は90.4% (115病院・施設中、**104病院・施設**)と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。
- 「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は90.9% (110病院・施設中、**100病院・施設**)と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。
- 「D. 滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は90.8% (109病院・施設中、**99病院・施設**)と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。
- 「E. 理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は92.0% (112病院・施設中、**103病院・施設**)と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。

# 病院・施設対象 調査結果まとめ

---

## ◇「理学療法学科」の特色に対する魅力別

- 「F. 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は91.7% (108病院・施設中、**99病院・施設**)と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。

## ◇「理学療法学科」の社会的必要性別

- 「理学療法学科」が社会的に「必要だと思う」と答えた病院・施設からの採用意向は94.4% (108病院・施設中、**102病院・施設**)と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。

# 病院・施設対象 調査結果まとめ

## 「作業療法学科」の社会的必要性

- ・「作業療法学科」の社会的必要性についての評価は、94.1%（112病院・施設）と、多くの病院・施設がこれからの社会にとって必要な学科であると答えている。

## 「作業療法学科」卒業生に対する採用意向／ 毎年の採用想定人数

- ・「作業療法学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた病院・施設は、83.2%（99病院・施設）。予定している入学定員40名を2倍以上上回る採用意向数がみられた。
- ・「作業療法学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた99病院・施設へ「作業療法学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数の合計は203名程度であった。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

## 「作業療法学科」卒業生に対する採用意向 属性別傾向

### ◇本社所在地別

- ・藍野専門職大学の所在予定地である「滋賀県」の病院・施設からの採用意向は、79.0%（62病院・施設中、49病院・施設）と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。

### ◇業種別

- ・「病院・診療所・クリニック」からの採用意向は、82.8%（87病院・施設中、72病院・施設）で、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。また、「病院」からの採用意向に限ってみると、95.7%（47病院・施設中、45病院・施設）と特に高い。
- ・「社会福祉・介護事業」からの採用意向は、87.1%（31病院・施設中、27病院・施設）である。

# 病院・施設対象 調査結果まとめ

---

## ◇「作業療法士」の充足状況別

- 勤務している「作業療法士」が「不足している」病院・施設からの採用意向は、90.7% (86病院・施設中、**78病院・施設**)と、予定している入学定員数を上回る採用意向数がみられた。

## ◇「藍野専門職大学」の特色に対する魅力別

- 「A. 滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は84.3% (115病院・施設中、**97病院・施設**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る採用意向数がみられた。
- 「B. 専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は85.2% (115病院・施設中、**98病院・施設**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る採用意向数がみられた。
- 「C. 滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は83.6% (110病院・施設中、**92病院・施設**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る採用意向数がみられた。
- 「D. 滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は82.6% (109病院・施設中、**90病院・施設**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る採用意向数がみられた。

# 病院・施設対象 調査結果まとめ

---

- 「E. 理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は84.8% (112病院・施設中、**95病院・施設**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る採用意向数がみられた。

## ◇「作業療法学科」の特色に対する魅力別

- 「G. 臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。」に魅力を感じている病院・施設からの採用意向は85.5% (110病院・施設中、**94病院・施設**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る採用意向数がみられた。

## ◇「作業療法学科」の社会的必要性別

- 「作業療法学科」が社会的に「必要だと思う」と答えた病院・施設からの採用意向は86.6% (112病院・施設中、**97病院・施設**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る採用意向数がみられた。

# 病院・施設対象 調査結果まとめ

## 各資格を取得したいと考えている従業員数(回答者の予想)

- 勤務先で「理学療法士」の資格を取得したいと考えている従業員が1名以上いると回答したのは40.3%。そのうち「5名以上」と回答した病院・施設は12.6%みられた。
- 勤務先で「作業療法士」の資格を取得したいと考えている従業員が1名以上いると回答したのは30.2%。そのうち「5名以上」と回答した病院・施設は10.9%みられた。

## 「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」への進学推奨度

- 勤務先従業員に対して「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」の「理学療法学科」への進学を「薦めたいと思う」と回答した病院・施設は70.6%。
- 勤務先従業員に対して「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」の「作業療法学科」への進学を「薦めたいと思う」と回答した病院・施設は68.9%。

## 病院・施設対象 調査結果

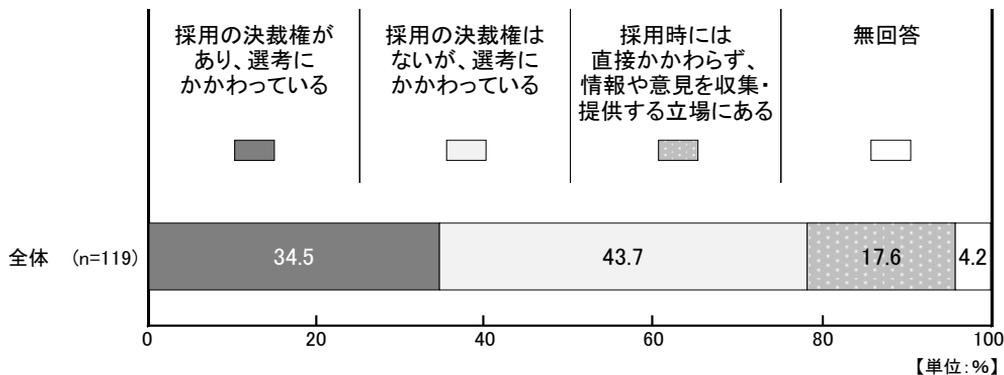


# 回答病院・施設(回答者)の属性

(人事採用への関与度／本社所在地)

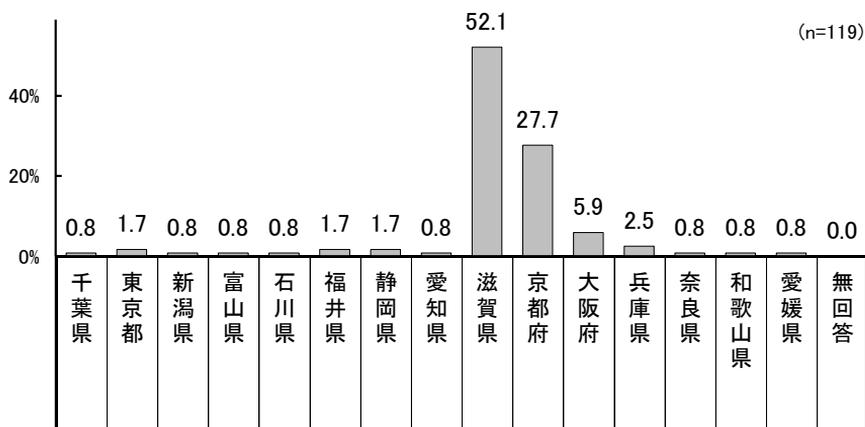
## ■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



## ■本社所在地

Q2. 貴施設の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

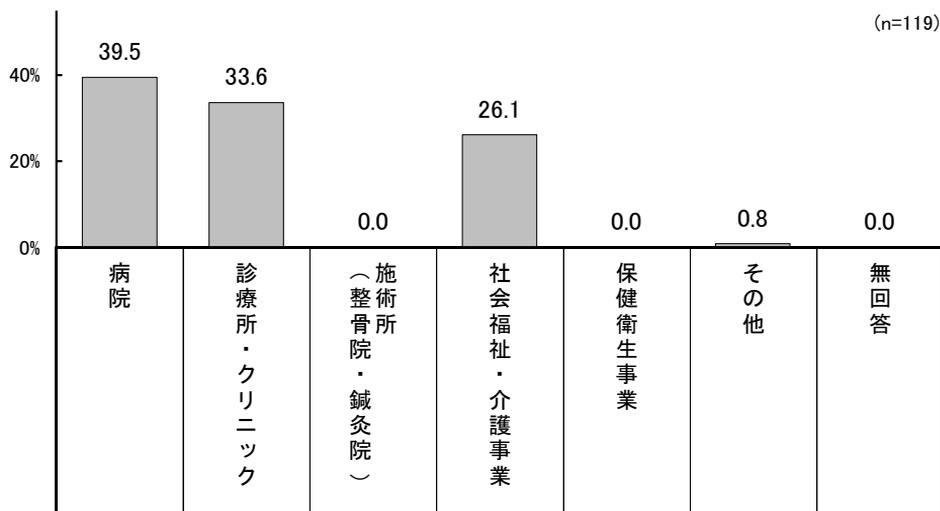


# 回答病院・施設(回答者)の属性

(主な業種／従業員数)

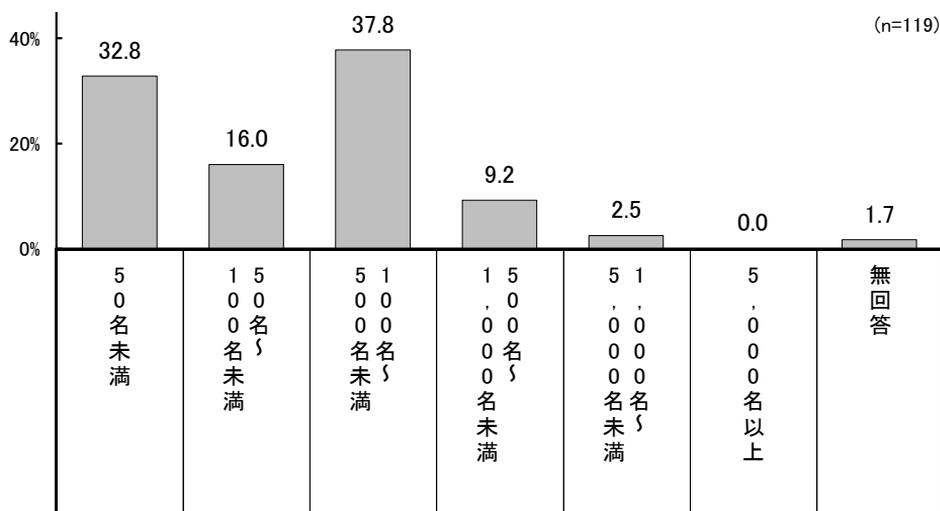
## ■主な業種

Q3. 貴施設の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



## ■従業員数

Q4. 貴施設の従業員数(正規職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

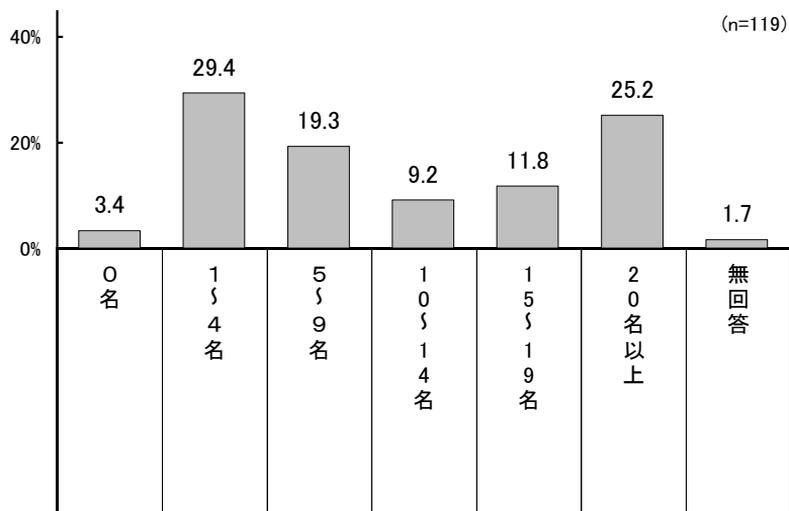


# 「理学療法士」の従業員数／「理学療法士」の充足状況

## ■「理学療法士」の従業員数

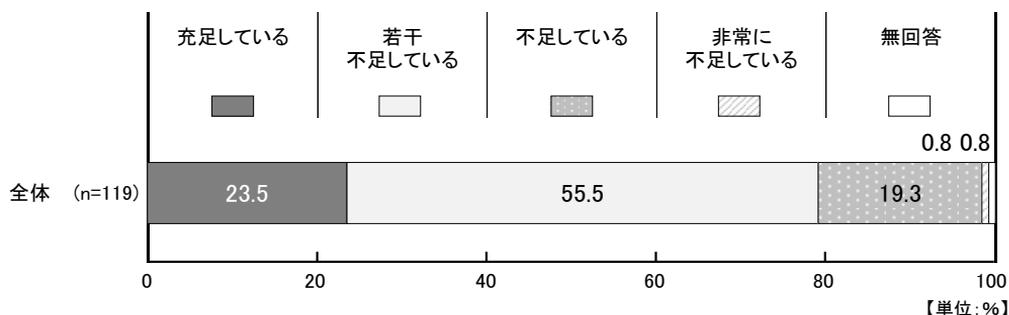
Q5. 貴施設で、現在下記の職種として勤務されている方の人数をお教えてください。

総数	2,222人
平均	19.0人



## ■「理学療法士」の充足状況

Q6. 貴施設における、以下の職種として勤務されている方の充足状況をお教えてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

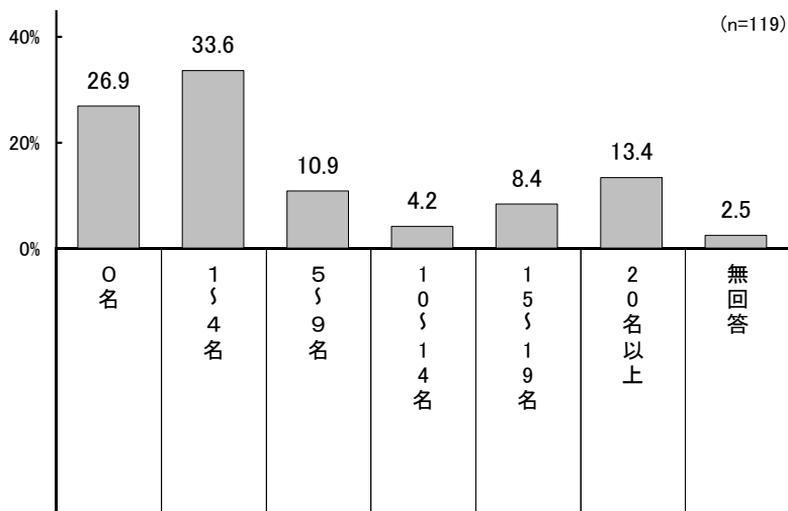


# 「作業療法士」の従業員数／「作業療法士」の充足状況

## ■「作業療法士」の従業員数

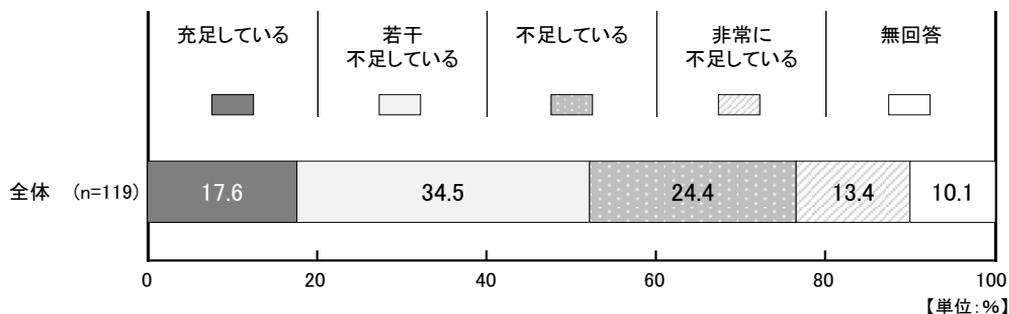
Q5. 貴施設で、現在下記の職種として勤務されている方の人数をお教えてください。

総数	985人
平均	8.5人



## ■「作業療法士」の充足状況

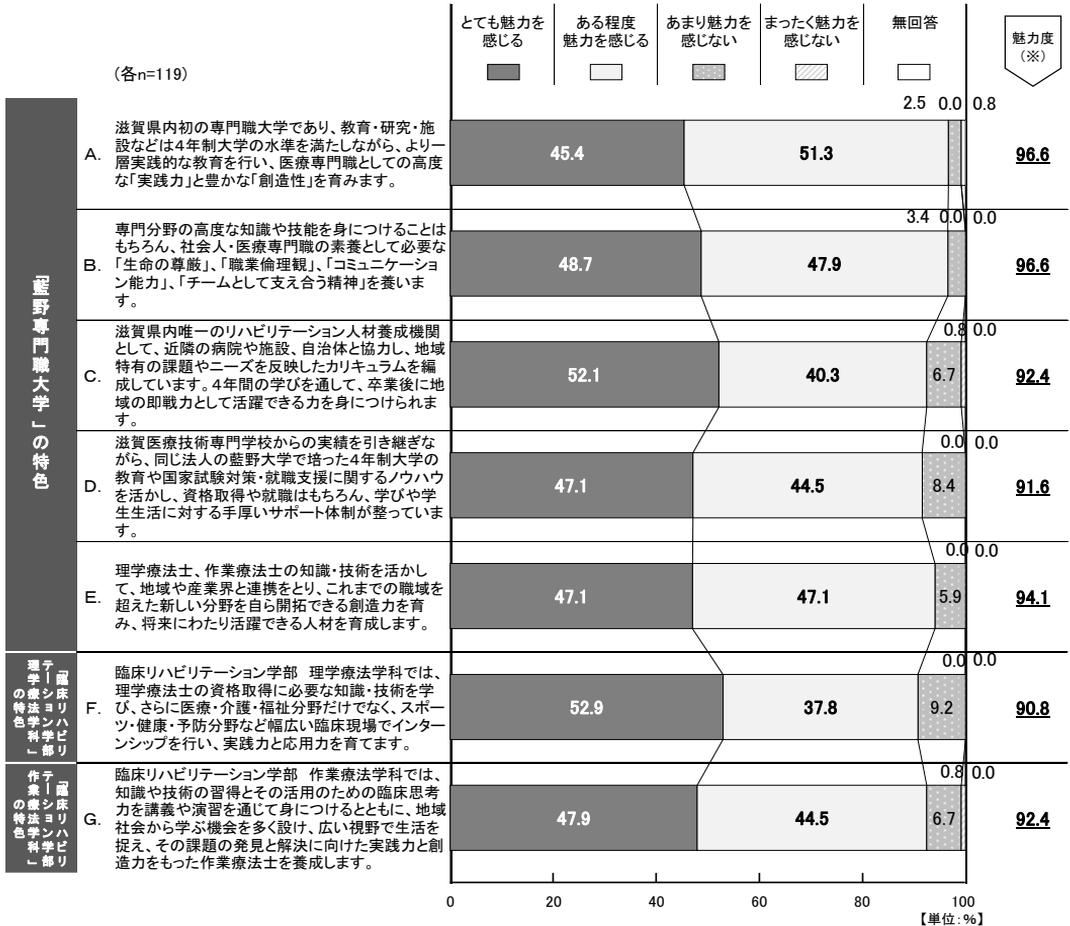
Q6. 貴施設における、以下の職種として勤務されている方の充足状況をお教えてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)



# 「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度

## ■「藍野専門職大学」の特色に対する魅力度

Q7.「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。  
貴院・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。  
（それぞれ、あてはまる番号1つに○）



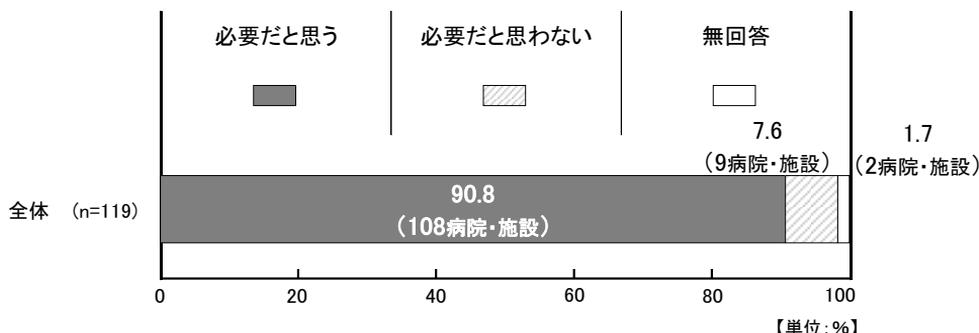
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

「理学療法学科」の社会的必要性／  
 「理学療法学科」卒業生に対する採用意向／  
 「理学療法学科」卒業生の毎年の採用想定人数

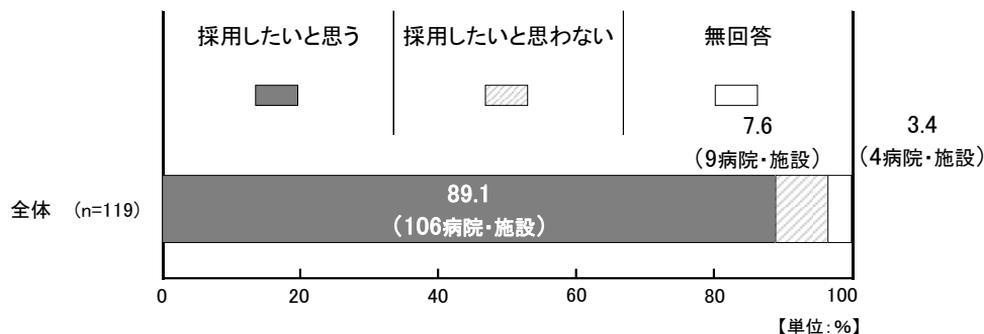
■「理学療法学科」の社会的必要性

Q8. 貴施設(ご回答者)は、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「理学療法学科」卒業生に対する採用意向

Q9. 貴施設(ご回答者)では、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「理学療法学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた106病院・施設のみ抽出

■「理学療法学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q10. Q9でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

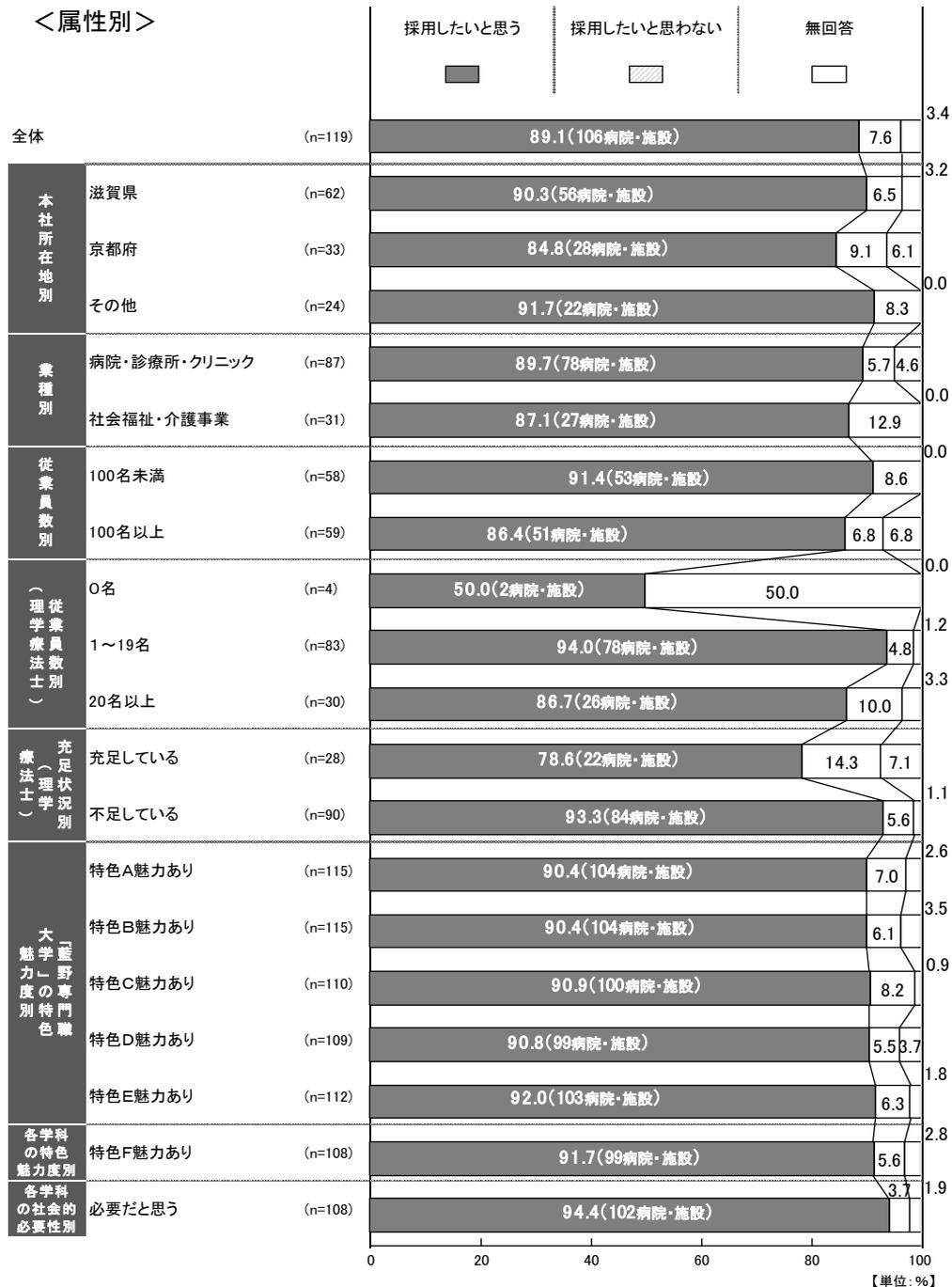
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	⇒	お示し 毎年の採用 想定人数 を計	
		%	%	%	%	%	%	%			
全体	106	%	34.0%	15.1%	5.7%	3.8%	6.6%	1.9%	30.2%	⇒	103
		病院・施設数	36	16	6	4	7	2	32		
		名	36	32	18	16	35	20	32		

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名 を代入し合計値を算出

# 「理学療法学科」卒業生に対する採用意向 <属性別>

## ■「理学療法学科」卒業生に対する採用意向

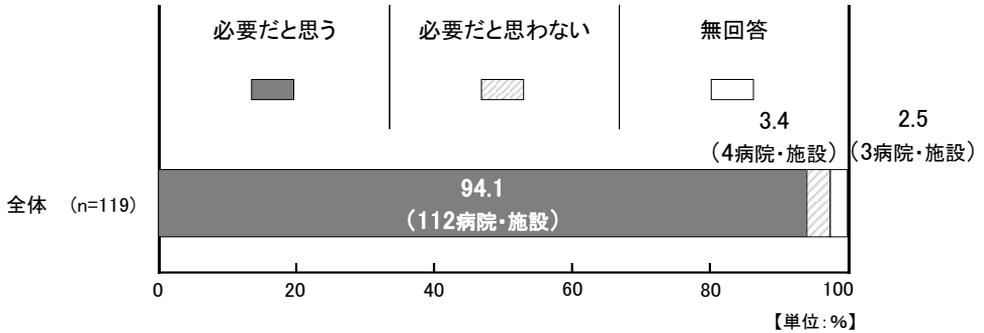
Q9. 貴施設(ご回答者)では、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「作業療法学科」の社会的必要性／  
 「作業療法学科」卒業生に対する採用意向／  
 「作業療法学科」卒業生の毎年の採用想定人数

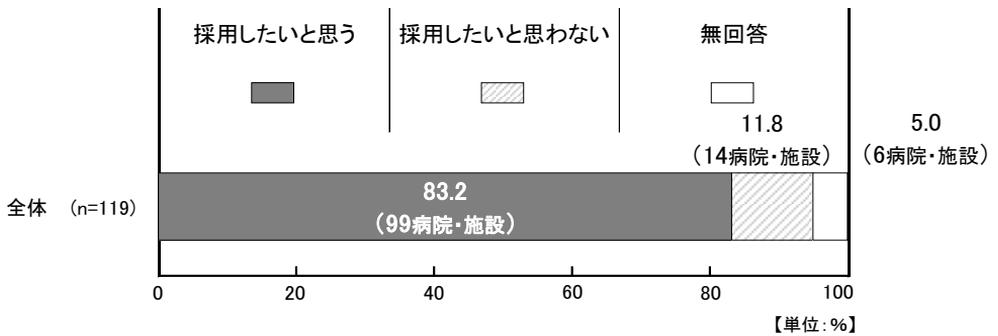
■「作業療法学科」の社会的必要性

Q8. 貴施設(ご回答者)は、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



■「作業療法学科」卒業生に対する採用意向

Q9. 貴施設(ご回答者)では、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「作業療法学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた99病院・施設のみ抽出

■「作業療法学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q10. Q9でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

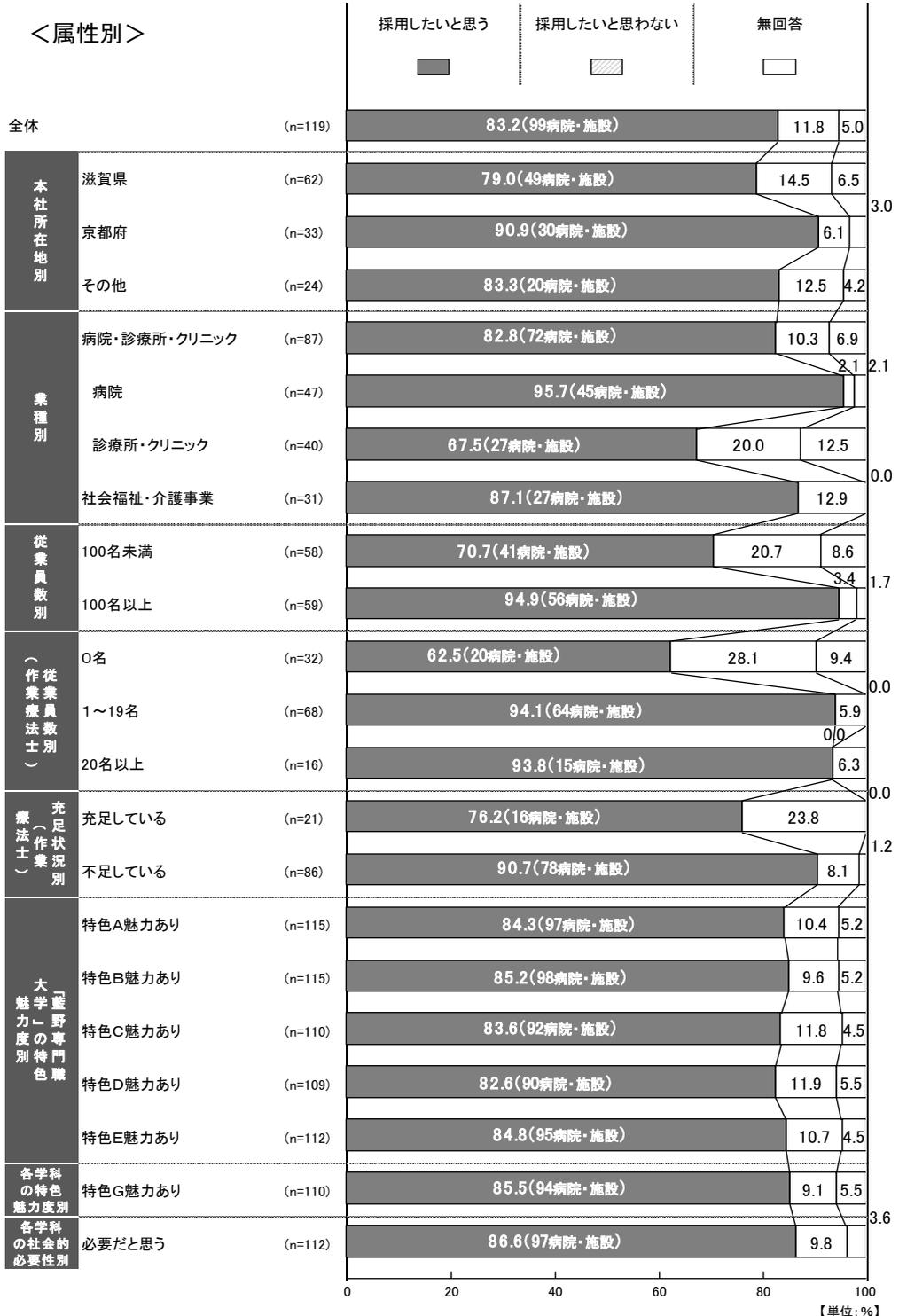
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	⇒	お示し毎年の採用院採用想定団体人数を計
		%	31.3%	13.1%	4.0%	3.0%	6.1%	6.1%		
全体	99	病院・施設数	31	13	4	3	6	6	32	95
		名	31	26	12	12	30	60	32	203

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名 を代入し合計値を算出

# 「作業療法学科」卒業生に対する採用意向 <属性別>

## ■「作業療法学科」卒業生に対する採用意向

Q9. 貴施設（ご回答者）では、「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」（いずれも仮称、設置構想中）を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

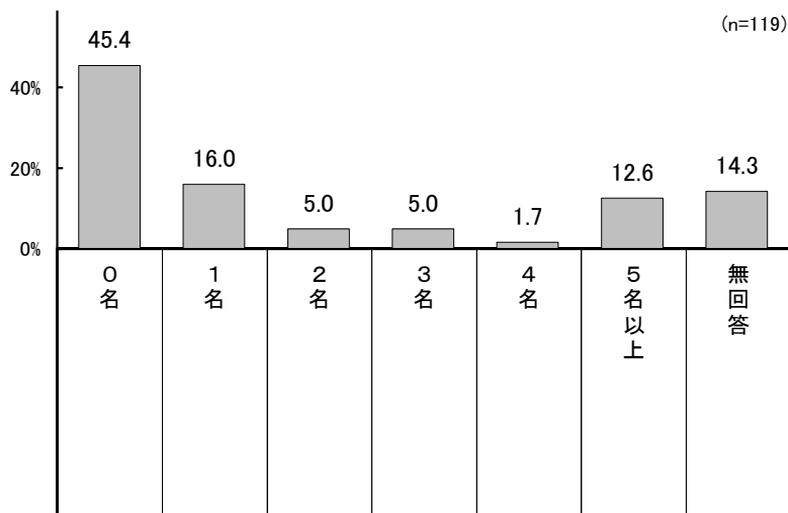


# 従業員で「理学療法士」の資格を取得したいと考えている人数／「理学療法学科」の進学推奨度

## ■従業員で「理学療法士」の資格を取得したいと考えている人数

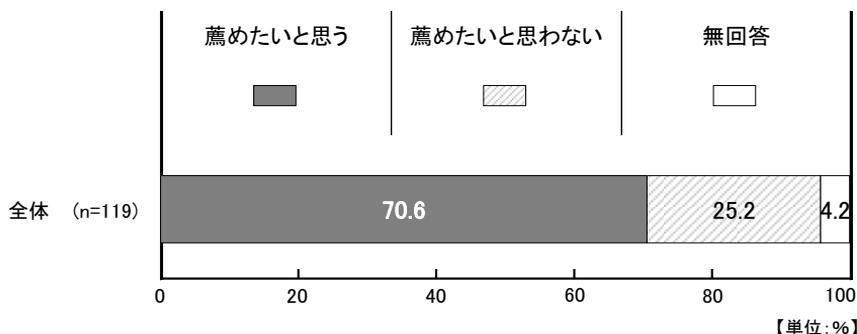
Q11. 貴施設で働く方で、これから以下の資格を取得したいと考えている人は何人程度いると思いますか。  
それぞれの資格について、ご回答者ご自身がわかる範囲で人数をお書きください。

総数	257人
平均	2.5人



## ■「理学療法学科」の進学推奨度

Q12. ご回答者ご自身は、貴施設で働く方に、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)への進学を薦めたいと思いますか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

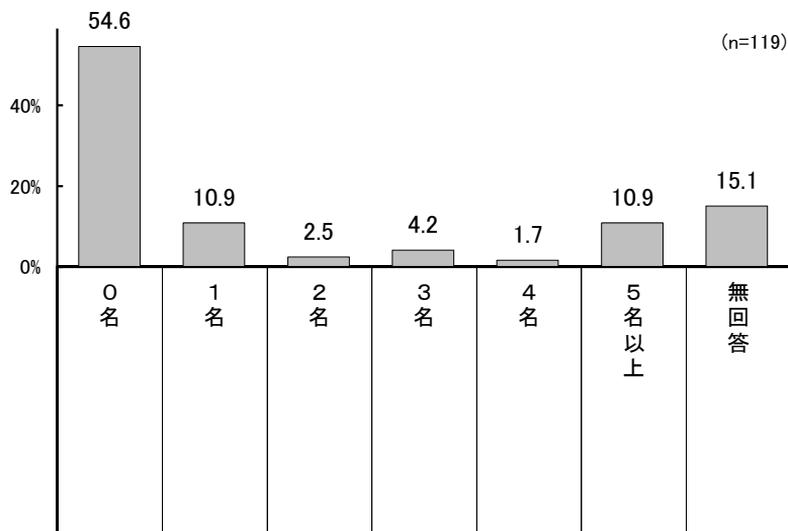


# 従業員で「作業療法士」の資格を取得したいと考えている人数／「作業療法学科」の進学推奨度

## ■従業員で「作業療法士」の資格を取得したいと考えている人数

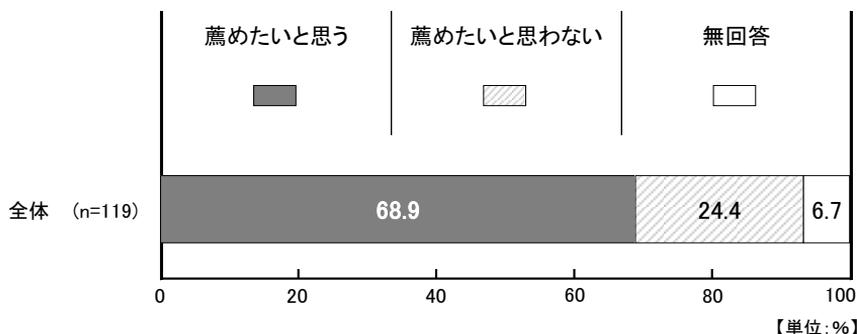
Q11. 貴施設で働く方で、これから以下の資格を取得したいと考えている人は何人程度いると思いますか。  
それぞれの資格について、ご回答者ご自身がわかる範囲で人数をお書きください。

総数	172人
平均	1.7人



## ■「作業療法学科」の進学推奨度

Q12. ご回答者ご自身は、貴施設で働く方に、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)への進学を薦めたいと思いますか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



## 卷末資料



• 調査票

# 調査票

※こちらのアンケートは、貴施設の【採用ご担当者様】にご回答いただきますようお願いいたします。

## 採用ご担当者様

### 『藍野専門職大学』(仮称、設置構想中) 採用に関するアンケート

学校法人 藍野大学では、2020年4月に、現在の滋賀医療技術専門学校を改組・転換し、四年制の専門職大学である「藍野専門職大学」(仮称)を設置することを構想しています。

このアンケートは、採用ご担当者様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)に関する内容は現在構想中の予定であり、変更される可能性があります。

#### はじめに、貴施設についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴施設の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴施設の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- |              |                 |           |
|--------------|-----------------|-----------|
| 1. 病院        | 3. 施術所(整骨院・鍼灸院) | 5. 保健衛生事業 |
| 2. 診療所・クリニック | 4. 社会福祉・介護事業    | 6. その他    |
|              |                 | ( )       |

Q4. 貴施設の従業員数(正規職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- |               |                  |                    |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満      | 3. 100名～500名未満   | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上        |

Q5. 貴施設で、現在下記の職種として勤務されている方の人数をお教えてください。

A. 理学療法士 →

人

B. 作業療法士 →

人

次のページへ続く→

# 調査票

Q6. 貴施設における、以下の職種として勤務されている方の充足状況をお教えてください。  
(それぞれあてはまる番号1つに○)

- A. 理学療法士  
→ 1. 充足している      2. 若干不足している      3. 不足している      4. 非常に不足している
- B. 作業療法士  
→ 1. 充足している      2. 若干不足している      3. 不足している      4. 非常に不足している

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

◆「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)についてお聞きます。

学校法人 藍野大学では、2020年4月に、現在の滋賀医療技術専門学校を改組・転換し、四年制の専門職大学である「藍野専門職大学」(仮称)を設置することを構想しています。

Q7. 「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。  
貴施設(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力 を感じる	ある程度 魅力 を感じる	あまり 魅力 を感じない	まったく 魅力 を感じない
回答方法例)	A~Fそれぞれの特色について、あてはまる番号1つに○	→ (1)	2	3	4
A	滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。	→ 1	2	3	4
B	専門分野の高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。	→ 1	2	3	4
C	滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。	→ 1	2	3	4
D	滋賀医療技術専門学校からの実績を引き継ぎながら、同じ法人の藍野大学で培った4年制大学の教育や国家試験対策・就職支援に関するノウハウを活かし、資格取得や就職はもちろん、学びや学生生活に対する手厚いサポート体制が整っています。	→ 1	2	3	4
E	理学療法士、作業療法士の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの職域を超えた新しい分野を自ら開拓できる創造力を育み、将来にわたり活躍できる人材を育成します。	→ 1	2	3	4
F	臨床リハビリテーション学部 理学療法学科では、理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学び、さらに医療・介護・福祉分野だけでなく、スポーツ・健康・予防分野など幅広い臨床現場でインターンシップを行い、実践力と応用力を育てます。	→ 1	2	3	4
G	臨床リハビリテーション学部 作業療法学科では、知識や技術の習得とその活用のための臨床思考力を講義や演習を通じて身につけるとともに、地域社会から学ぶ機会を多く設け、広い視野で生活を捉え、その課題の発見と解決に向けた実践力と創造力をもった作業療法士を養成します。	→ 1	2	3	4

# 調査票

Q8. 貴施設(ご回答者)は、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

- 【理学療法学科】 → 1. 必要だと思う                      2. 必要だと思わない  
 【作業療法学科】 → 1. 必要だと思う                      2. 必要だと思わない

Q9. 貴施設(ご回答者)では、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

- 【理学療法学科】 → 1. 採用したいと思う                      2. 採用したいと思わない  
 【作業療法学科】 → 1. 採用したいと思う                      2. 採用したいと思わない

Q10. Q9でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。

現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上	人数は 未確定
【理学療法学科】 →	1	2	3	4	5	6	7
【作業療法学科】 →	1	2	3	4	5	6	7

Q11. 貴施設で働く方で、これから以下の資格を取得したいと考えている人は何人程度いると思えますか。

それぞれの資格について、ご回答者ご自身がわかる範囲で人数をお書きください。

- A. 理学療法士 →  人程度  
 B. 作業療法士 →  人程度

Q12. ご回答者ご自身は、貴施設で働く方に、「藍野専門職大学」(仮称、設置構想中)の臨床リハビリテーション学部「理学療法学科」「作業療法学科」(いずれも仮称、設置構想中)への進学を薦めたいと思えますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

- 【理学療法学科】 → 1. 薦めたいと思う                      2. 薦めたいと思わない  
 【作業療法学科】 → 1. 薦めたいと思う                      2. 薦めたいと思わない

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

資 料 2 - 4

## 充実の国家試験対策・就職サポート

学校法人 藍野大学は1968年に藍野病院附属看護学院を開校して以来、8,485人\*もの国家試験合格者を育ててきました。現在では看護学科、理学療法学科、作業療法学科、臨床工学科を擁する藍野大学で近畿圏有数の合格実績を誇っています。これまでに培ってきた50年の実績とノウハウを活かし、新学部・新学科でも万全の国家試験対策を行います。

\*2018年3月時点

### 藍野大学

国家試験合格者数

●理学療法学科\*1 ●作業療法学科\*2

近畿圏第1位

\*1 厚生労働省発表(2017年度実績)

\*2 藍野医療福祉専門学校時代より通算  
2017年9月発行「日本作業療法士協会誌」第66号

就職率

●理学療法学科 ●作業療法学科  
**100%** **100%**  
★2017年度実績 ★2017年度実績

滋賀医療技術専門学校は、1996年に開校し、20有余年に渡り、医療専門課程(理学療法学科・作業療法学科)において高度専門士および専門士の養成を行ってきました。これまでの卒業生は980名にのぼり、地元滋賀県をはじめ、全国で高度なリハビリテーションの知識や技術をもって活躍しています。

国家試験合格率

●理学療法学科 ●作業療法学科

**97.8%** **86.7%**

★2017年度実績  
(全国平均81.4%)

★2017年度実績  
(全国平均77.6%)

就職率

●理学療法学科 ●作業療法学科  
**100%** **100%**  
★2017年度実績 ★2017年度実績

## 卒業後の活躍フィールド



新しいリハビリのカタチを創造する

## ■ 入学金を含めた初年度納入金(予定)

1,600,000円

\*学費は予定であり、今後変更になる場合もあります。

## ■ 近隣の類似する学部・学科

大学	学部・学科	参考(初年度納入金)*
佛教大学	保健医療技術学部 理学療法学科 作業療法学科	1,950,000円
大和大学	保健医療学部 保健医療学科 理学療法専攻・作業療法専攻	1,880,000円
森ノ宮医療大学	保健医療学部 理学療法学科 作業療法学科	1,830,000円
京都橘大学	健康科学部 理学療法学科 作業療法学科	1,730,000円

\*他大学はいずれも2017年度実績。委託徴収金を除く学納金のみ。

## ■ キャンパス・アクセス(予定)

JR能登川駅(琵琶湖線)よりスクールバスで約30分  
滋賀県東近江市北坂町967



学校法人 藍野大学  
EDUCATIONAL FOUNDATION AINO UNIVERSITY

〒567-0011 大阪府茨木市高田町1番22号  
TEL : 072(621)3764 FAX : 072(621)3756  
URL : http://www.aino.ac.jp

■お問い合わせ  
TEL : 0749(46)2311(専門職大学設置準備室)

滋賀県唯一のリハビリテーション人材養成機関

# 藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科

(仮称・設置構想中)

入学定員 理学療法学科:80名(予定)、作業療法学科:40名(予定)

2020年4月  
開設予定  
(設置構想中)

## 専門職大学って?

産業の構造が急激に転換する今、より高度な「実践力」と新たなモノやサービスを創り出せる「創造力」を備えた人材の育成が強く求められています。そうしたニーズに応え、新たに開設されるのが「専門職大学」です。産業界との密接な連携によって、実践的な職業教育を行い、専門職業人材を養成します。

## 既存の大学と、どう違う?

### 既存の大学

- ▶ 専門教育・教養教育と学術研究を行う
- ▶ 学問的な色彩が強い

### 専門職大学

- ▶ 卒業単位の3~4割以上が実習で、より実践的な教育を行う
- ▶ 特定の職種における高度な「実践力」や豊かな「創造性」を養う

## 専門学校と、どう違う?

### 専門学校

- ▶ 大学制度に位置付くものではなく、自由度の高い制度が特色
- ▶ 社会のニーズに対応しながら、多様で実践的な教育を行う

### 専門職大学

- ▶ 大学制度の中に位置付けられ、大学として必要な水準のものが求められる
- ▶ 卒業生には「学士(専門職)」の学位が授与される



学校法人 藍野大学  
EDUCATIONAL FOUNDATION AINO UNIVERSITY

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

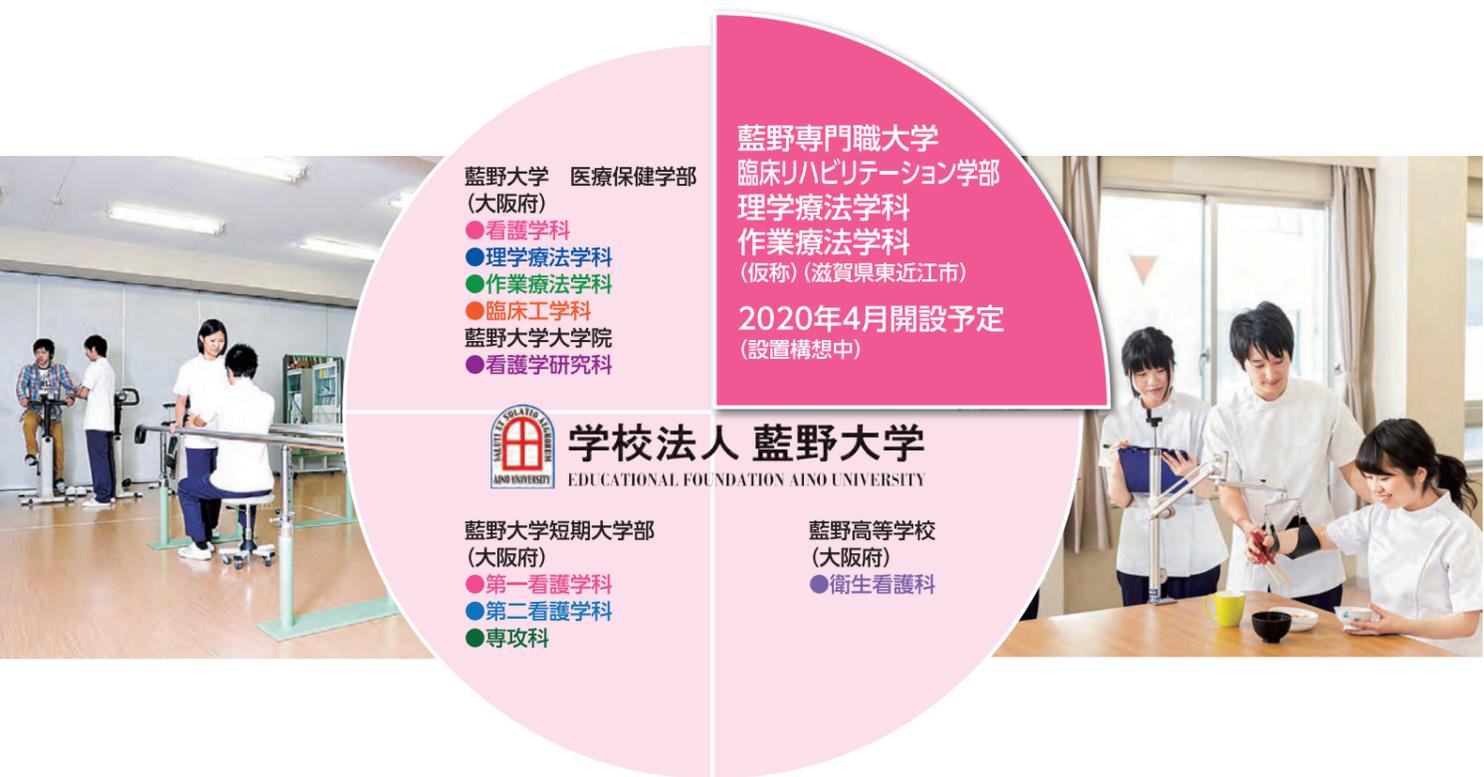
# 2020年4月、滋賀県下唯一の理学療法士・作業療法士の養成機関として 藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科(仮称・設置構想中)を開設します

すでに「超高齢社会」に突入している日本。医療や介護の需要はさらに増えることが見込まれます。高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、良好な居住環境と在宅ケアを組み合わせる「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。また、医療の高度化に伴って、社会で強く求められているのが、より深い学問的知識を背景とした高度かつ最良の医療を提供する医療従事者です。

こうした社会的要請に応え、学校法人藍野大学は2020年4月、滋賀県下唯一の理学療法士・作業療法士の養成施設である

滋賀医療技術専門学校を「藍野専門職大学(仮称)」に改組することを構想しています。

これまでに培ってきた教育研究資源を活かし、より高度かつ実践的な職業教育を展開し、社会課題の解決につながるような医療を提供できるリハビリテーション専門職を養成します。



## 人間性と創造性に優れた 実践的な理学療法士・作業療法士を養成

### 学部の特徴

#### 1.豊かな人間性の育み

専門的な高度な知識や技能を身につけることはもちろん、社会人・医療専門職の素養として必要な「生命の尊厳」、「職業倫理観」、「コミュニケーション能力」、「チームとして支え合う精神」を養います。

#### 2.高度な実践力と創造力の育み

滋賀県内初の専門職大学であり、教育・研究・施設などは4年制大学の水準を満たしながら、より一層実践的な教育を行い、医療専門職としての高度な「実践力」と豊かな「創造性」を育みます。

#### 3.地域のニーズに対応した即戦力を育成

滋賀県内唯一のリハビリテーション人材養成機関として、近隣の病院や施設、自治体と協力し、地域特有の課題やニーズを反映したカリキュラムを編成しています。4年間の学びを通して、卒業後に地域の即戦力として活躍できる力を身につけられます。

### 学科の特徴

#### 理学療法学科(仮称)

##### ●多様化した社会のニーズに対応できる「プロ意識の高い」人材を育成する

理学療法士の資格取得に必要な知識・技術を学ぶだけでなく、神経筋骨格障害・内部障害・スポーツ障害・地域理学療法・予防理学療法・リハビリテーション工学の6つの専門分野から選択した臨床現場でインターンシップを行うなど、実践力と応用力を育てます。

さらに、理学療法の知識・技術を活かして、地域や産業界と連携をとり、これまでの医療、介護の枠を超えた新しい分野を開拓する創造力を育みます。

#### 理学療法士とは

理学療法士は、障がいのある方を社会復帰させる、リハビリテーション専門家の一員です。「起きる、歩く」などの基本動作能力や、身体機能を向上させるからだのスペシャリストです。近年は健康維持目的の予防医学、障害予防やコンディショニング目的のスポーツ分野など活動領域は拡大しています。



#### 作業療法学科(仮称)

##### ●地域共生社会の実現に貢献できる実践志向型の人材を育成する

作業療法士に必要な幅広い教養や医療・福祉の基礎知識、作業療法の専門知識・技術に加え、多様な障がいに対応するための応用力と実践力、臨床思考力を身につけます。

さらに講義・演習に加えて、早期より学外にて地域における作業療法の関わりを学ぶ機会を設け、保健・医療・福祉の広い視野を育むとともに、地域での学びを通して得た課題に対する解決方法を導くための創造力を身につけます。

#### 作業療法士とは

作業療法士は、健康な人も障がいのある人も全ての人が自分らしい生活を送れるように支援していく専門家です。作業療法は病気や障がいだけでなく、対象者の生き方、それを作る生活行為に重点をおいたリハビリテーションを行います。



### 学びのステップ

科学的思考力と専門的な知識・技術を身につけるとともに、幅広い教養を育み、豊かな人間性や医療専門職としての使命感・責任感を養います。

また、専門分野に関連した知識・技術を学び、職業の幅広い応用力を身につけ、課題解決や新しい発想を生み出す創造力を育み、実践していく能力を高めます。

	1年次/基礎	2年次/専門知識と技術	3年次/臨床体験の実践	4年次/創造力の育み・キャリア展開
科学的思考力と専門的な知識・技術を身につけるとともに、幅広い教養を育み、豊かな人間性や医療専門職としての使命感・責任感を養います。	幅広い教養と倫理観の育み、医療、理学療法・作業療法の基礎知識を学ぶ	専門的な知識と技術を学ぶとともに応用能力を高める	蓄積された専門知識・技術を病院・施設で実践する	関連の職業分野などの教育を通して、専門性・応用性・創造性を高める
また、専門分野に関連した知識・技術を学び、職業の幅広い応用力を身につけ、課題解決や新しい発想を生み出す創造力を育み、実践していく能力を高めます。	学びの基礎、生物学I、生物学II、英語I リハビリテーション概論、解剖学I・II・III 生理学I・II、運動学I・II、体表解剖触診学 など	内科学I・II、神経内科学I・II、整形外科学I・II 小児科学、老年医学、運動学III、臨床運動学演習 栄養学 など	多職種連携論 地域包括ケア論 福祉用具論 など	シメディカル論、住環境コーディネーター論 マーケティング論、災害支援論、子育て支援論、起業論 メンタルヘルスマネジメント論、キャリア発達論 など
	基礎理学療法学I・II・III、姿勢動作観察基礎 臨床推論基礎、理学療法評価学 見学実習I・II など	理学療法評価学演習I、画像評価学、運動療法学 運動器障害系理学療法学演習I、スポーツ障害系理学療法学演習 見学実習III、地域リハビリテーション実習 など	臨床技能論、徒手理学療法学演習、地域理学療法学 基礎理学療法学研究法、評価実習 総合臨床実習I、総合臨床実習II など	神経筋骨格障害応用演習・実習、内部障害応用演習・実習 スポーツ障害応用演習・実習、障害者スポーツ論演習、地域理学療法応用演習・実習 予防理学療法応用演習・実習、リハビリテーション工学応用演習・実習 など
	作業療法学総論I・II、基礎作業学 基礎作業学演習I・II 作業療法臨床実習I など	身体機能障害評価学I・II、作業分析学I・II、日常生活活動演習 地域社会共生論I、精神障害作業療法学I 生活行為向上マネジメント論、地域生活作業療法演習 など	中枢神経疾患作業療法学、家族支援論、発達障害作業療法学II 老年期障害作業療法学II、地域生活精神障害作業療法演習 地域生活身体障害作業療法演習、作業療法臨床実習III・IV・V など	地域作業療法臨床実習、地域社会共生論演習II 老年期障害作業療法演習、運動器疾患作業療法演習 精神障害作業療法演習、リハビリテーション総合特論I・II など

修業年限： 4年(両学科共通)  
学 位： 理学療法学科(仮称)  
理学療法士(専門職) 予定  
作業療法学科(仮称)  
作業療法士(専門職) 予定

取得可能な資格(予定)：  
理学療法学科(仮称)  
理学療法士国家試験受験資格  
作業療法学科(仮称)  
作業療法士国家試験受験資格

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

# 資 料 3



平成29年12月22日

## 平成29年度学校基本調査（確定値）の公表について

文部科学省は、学校教育行政に必要な学校に関する基本的事項を明らかにすることを目的として、標記調査を昭和23年度より毎年実施しています。  
今般、平成29年度の結果を確定値としてとりまとめたので、公表します。

## 1 調査内容

- (1) 調査期日：平成29年5月1日現在
- (2) 調査対象：幼稚園，幼保連携型認定こども園，小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，中等教育学校，特別支援学校，大学，短期大学，高等専門学校，専修学校及び各種学校並びに市町村教育委員会
- (3) 調査項目：学校数，在学者数，教員数，卒業者数，進学者数，就職者数等

## 2 調査結果の主な概要（カッコ書きのカタカナは次ページ以降の図表とリンク。）

- (1) **在学者数等**（P.1の表1，P.2の表2及びP.3の図1を参照。）

在学者総数は減少。

- ・幼保連携型認定こども園，義務教育学校，中等教育学校，特別支援学校，各種学校，大学，大学院の在学者数等は増加。
- ① 幼保連携型認定こども園は50万6千人で，前年度より10万8千人増加（ア）。
  - ② 義務教育学校は2万2千人で，前年度より1万人増加（イ）。
  - ③ 大学は289万1千人で，前年度より1万7千人増加（ウ）。

- (2) **高等学校卒業者（中等教育学校後期課程卒業者を含む）の進学率**

（P.4の表3，P.5の図3及びP.6の図5を参照。）

—大学進学率が上昇—

- ① 大学・短大進学率（現役）は54.8%（エ）（前年度同率）。
- ② 大学（学部）進学率（現役）は49.6%（オ）（前年度より0.3ポイント上昇）で過去最高。
- ③ 専門学校進学率（現役）は16.2%（カ）（前年度より0.1ポイント低下）。
- ④ 大学・短大進学率（過年度卒含む）は57.3%（前年度より0.5ポイント上昇）で過去最高。
- ⑤ 大学（学部）進学率（過年度卒含む）は52.6%（前年度より0.6ポイント上昇）で過去最高。
- ⑥ 専門学校進学率（過年度卒含む）は22.4%（前年度より0.1ポイント上昇）。
- ⑦ 高等教育機関進学率（過年度卒含む）は80.6%（前年度より0.6ポイント上昇）で過去最高。

# 資 料 4

## 藍野専門職大学の設置に係る要望

平素は、滋賀県政の推進に格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
文部科学省におかれましては、学校教育、社会教育など教育行政の充実・発展等に日々御尽力いただいていることに、心から敬意を表します。

さて、本県では、今後、急速な高齢化が見込まれる中、医療と介護がより一層連携し、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築と地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築を図る必要があります。

特にリハビリテーション専門職については、機能回復を目指した医学的リハビリテーションだけにとどまらず、地域包括ケアシステムの構築に向け、地域の実情に合わせ、障害福祉、教育、就労、地域づくりなど、人々の暮らしに関わる様々な領域における活動が期待されているところです。

しかしながら、本県において2025年に3,000人必要と推計されるリハビリテーション専門職は、平成28年度には約1,900人と全国と比較しても少なく、その確保が喫緊の課題となっています。

このような中、本県内における唯一のリハビリテーション専門職の養成機関である滋賀医療技術専門学校が22年間の人材養成の実績をもとに専門職大学化を目指しておられることは、本県の地域包括ケアシステムの構築等に必要となるリハビリテーション専門職の確保に大きく貢献するものと考えています。

藍野専門職大学の設置の認可に係る判断に当たっては、本県の実情についてご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成30年10月22日

文部科学大臣

柴山昌彦様

滋賀県知事



# 資料 5

東企第452号

平成30年10月23日

文部科学大臣 柴山昌彦様

滋賀県東近江市長 小椋正



藍野専門職大学リハビリテーション学部設置に係る要望について

東近江市は、これまで滋賀医療技術専門学校からの実習の受入れや同校への市職員の講師派遣、協働による介護予防関連の研究事業への取組など同校と連携を図りながら介護事業等を進めてまいりました。

本市の平成27年国勢調査における高齢者人口は、28,214人で高齢化率は24.7%と全国水準より低いものの高齢化は確実に進行しており、2025年には28.0%に達すると見込まれています。

長い高齢期をいきいきと過ごすためには、住み慣れた地域で生きがいを持って暮らすことが重要です。また、加齢とともに心身機能の低下は避けられませんが、可能な限り健康寿命を延ばすことや、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる支援やサービス体制の充実等が必要と考えます。

そこで本市では、誰もが可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けられ、医療、介護、予防、住まい及び生活支援サービスが切れ目なく包括的に確保されるよう、地域包括ケアシステムの実現に向け必要な取組を進めてまいりました。

専門的知識と技能を身につけたリハビリテーション専門職は、多職種連携や地域住民等との協働により地域をサポートする人材として非常に重要な役割を担っています。本市が地域包括ケアシステムの取組を展開するに当たっては、安定的な福祉医療人材の確保が大きな課題となっています。

県内唯一のリハビリテーション専門職の養成機関である滋賀医療技術専門学校が20年にわたるリハビリテーション人材の養成実績を背景に専門職大学化を目指しておられることは、地域を基盤とした包括的な支援体制を構築することに大きく貢献するものと期待しております。

本市といたしましても、藍野専門職大学リハビリテーション学部の設置認可を強く要望致しますとともに、特段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

# 資料 6

文部科学大臣 柴山 昌彦 殿

藍野専門職大学リハビリテーション学部の設置に係る要望書

謹啓

秋冷の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

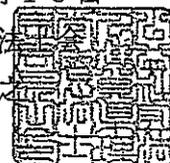
さて、滋賀県における理学療法士は、平成8年に現在の滋賀医療技術専門学校が開学した当時150名会員でしたが、その後多くの卒業生が県内に就職し、現在の1,000名まで在籍者が増えました。しかしながら、滋賀県の理学療法士数は、現在の近畿圏域ではもっとも少ない県となっており、今後、後期高齢者人口の急増が見込まれる中で、本県における理学療法士の需要は益々増加することが予想されています。

したがって、理学療法士および作業療法士といったリハビリテーション専門職を養成する高等教育機関の設置が本土会にとって急務であると考えております。そうした中で、本県内における唯一のリハビリテーション専門職の養成機関である滋賀医療技術専門学校が、高等教育機関として専門職大学を目指しておられることについて、本土会と致しましても、藍野専門職大学リハビリテーション学部としての設置認可を強く要望致します。

謹白

2018(平成30)年10月15日

公益社団法人 滋賀県理学療法士会  
会 長 平岩 康之



# 資 料 7

文部科学大臣 殿

### 藍野専門職大学リハビリテーション学部設置に係る要望

文部科学省におかれましては、平素より教育行政の充実・発展にご協力をご賜り感謝申し上げます。

さて、現在わが国は世界的にも類をみない超高齢化社会に突入し、総務省統計局による推計では、65歳以上の高齢化率は2025年には30.0%に達すると見込まれ、滋賀県においても2025年には27.5%、2045年には34.3%に達すると予測されております。滋賀県ではこの高齢化社会に伴う多様な課題に対して、医療、介護、予防、生活支援の連携したサービス提供体制等、地域共生社会の実現に向けて継続的かつ包括的なケアシステムの構築が進められております。

しかしながら滋賀県の医療・介護提供体制の現実には、2025年にはリハビリテーション専門職が3000人必要であるとされているなか、2018年の時点でリハビリテーション専門職は1908人であり、特に作業療法士に関しては453人と全国平均と比較しても少なく人材の確保が課題となっております。また現在の医療・介護の現状を鑑みると、社会から求められるニーズは多様化し、より高度な知識と技能が作業療法に求められていると同時に、地域包括ケアの推進やチーム医療の実現等に貢献できる作業療法士の養成も急務となっております。

このような背景の中での藍野専門職大学リハビリテーション学部の開設は、滋賀県下及び地域における作業療法士の求人の増加に伴う人材不足など社会的ニーズに即したものであります。また滋賀県の目指す地域共生社会・地域包括ケアシステムの構築にむけた作業療法士の養成としても、作業療法士に必要な高度な技術や知識の修得に加え、地域課題の解決に向けた創造的思考力を育むことを目的とした教育は望ましい事であると考えております。よって本会は藍野専門職大学リハビリテーション学部の設置認可を強く要望いたします。

2018年10月22日

一般社団法人 滋賀県作業療法士会

会長



## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ヤマカワ マサノブ 山川 正信 <令和2年4月>		医学博士		宝塚大学 学長 宝塚大学看護学部教授 (平成29年4月)

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等												
(リハビリテーション学部 理学療法学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する過当 たり平均日数
1	専	教授 (学長)	ヤマカワ マサノブ 山川 正信 <令和2年4月>		医学博士		予防医学 ※	3前	1.6	2	宝塚大学学長 (平29.4)	5日
2	専	教授 (学部長)	ヤマダ ヒサオ 山田 久夫 <令和2年4月>		医学博士		解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ	1前 1後 1後	4 4 2	2 2 2	関西医科大学 教 授 (医学部 解 剖学第一講座) (平12.7)	5日
①	専	教授	カナザワ ノブヒコ 金沢 伸彦 <令和2年4月>		医学博士		整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 画像評価学 ※	2前 2後 2後	2 2 1.5	2 2 2	金沢整形外科 クリニック 理事長 (平8.12)	5日
②	専	教授	シノダ ケイイチ 篠田 恵一 <令和3年4月>		医学博士		内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 救急援助論 画像評価学 ※	2前 2後 2後 2後	2 2 2 0.5	2 2 2 2	藍野大学 医療保健学部 特任教授 (平30.4)	5日
3	専	教授	ナカノ ノリヒコ 中野 法彦 <令和2年4月>		博士 (医学)		生物学	1前	2	2	藍野大学 医療保健学部 准教授 (平25.4)	5日
③	専	教授	センジュウ ヒデアキ 千住 秀明 <令和4年4月>		博士 (医学)		内部障害系理学療法実習Ⅰ ※ 内部障害系理学療法実習Ⅱ ※ 内部障害応用論実習 ※ 理学療法総合実習	3前 3前 4後 4後	1.5 0.6 0.4 1	2 2 2 1	公益財団法人結核 予防会 複十字病 院 呼吸ケアリハ ビリセンター部長 (平27.4)	5日
⑤	専	准教授	ブンキ ヒトミ 分木 ひとみ <令和2年4月>		博士 (学術)		学びの基盤 予防医学 ※ リハビリテーション概論 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 体力測定論 ※ 健康増進実践演習 ※ 健康増進実践実習 ※ 遊びとレクリエーション 協働連携総合実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	1前 3前 1前 1前 1後 2前 3前 3後 4前 4前 3後 3後 3後 3後 4後 4後 3後	2 0.2 2 1 1 1 4 6 6 1 0.4 0.8 0.6 2 2 2 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 学科長 (平21.4)	5日
8	専	准教授	カネキヨ ケンジ 兼清 健志 <令和2年4月>		博士 (薬学)		栄養学	2前	2	2	藍野大学中央研究 施設 講師(平28.4) 藍野大学 医療保 健学部 臨床工学 科 講師(平 30.4)	5日
⑥	専	講師	ウエダ ショウジ 植田 昌治 <令和2年4月>		博士 (心身健康 科学)		日常生活活動学 ※ 地域理学療法学 ※ 地域理学療法学実習 ※ 基礎理学療法学Ⅰ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	2前 2後 3前 1前 1前 1後 2前 3前 3後 4前 4前 4後 3後	0.9 1 0.6 2 1 1 1 4 6 6 1 1 1	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	藍野大学 医療保健学部 教授 (平25.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する適当 たり平均日数
⑦	専	講師	ホリ ヒロフミ 堀 寛史 <令和2年4月>		博士 (学術)		哲学入門	1前		1	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平17.4)	5日
							基礎理学療法学Ⅱ	1前	2	2			
							理学療法見学実習Ⅰ	1前	1	1			
							理学療法見学実習Ⅱ	1後	1	1			
							理学療法見学実習Ⅲ	2前	1	1			
							理学療法評価実習	3前	4	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6	1			
							理学療法地域実習	4前	1	1			
							理学療法総合実習	4後	1	1			
リハビリテーション総合演習	3後	1	1										
⑧	専	講師	サトナカ アヤコ 里中 綾子 <令和2年4月>		博士(リハビ リテーション 療法学)		運動学Ⅱ ※	2前	0.5	2	名古屋大学大学院 医学系研究科ウェ ルビーイングinア ジア 特任准教授  (平30.4)	5日	
							基礎理学療法学実習Ⅰ	1後	2	2			
							基礎理学療法学研究法	3前	2	2			
							小児期理学療法学演習 ※	2後	0.1	2			
							理学療法見学実習Ⅰ	1前	1	1			
							理学療法見学実習Ⅱ	1後	1	1			
							理学療法見学実習Ⅲ	2前	1	1			
							理学療法評価実習	3前	4	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6	1			
							理学療法地域実習	4前	1	1			
							理学療法総合実習	4後	1	1			
							リハビリテーション総合演習	3後	1	1			
							⑨	専	助教	サトウ タカヒコ 佐藤 隆彦 <令和2年4月>			
運動生理学実習	2後	2	2										
生涯スポーツ論	1前	2	2										
フィットネス論	3後	1.6	2										
⑩	専	講師	ワチ ミチオ 和智 道生 <令和2年4月>		修士(ス ポーツ健康 科学)		スポーツ障害応用論実習	4後	1	2	医療法人金沢整形 外科クリニック リハビリテーショ ン科 医療保険課 課長 理学療法士	5日	
							理学療法見学実習Ⅰ	1前	1	1			
							理学療法見学実習Ⅱ	1後	1	1			
							理学療法見学実習Ⅲ	2前	1	1			
							理学療法評価実習	3前	4	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6	1			
							理学療法地域実習	4前	1	1			
							理学療法総合実習	4後	1	1			
							リハビリテーション総合演習	3後	1	1			
⑪	実専	准教授	ウオザキ タカシ 宇於崎 孝 <令和2年4月>		修士 (学術)		基礎理学療法学実習Ⅱ	1後	2	2	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平13.4)	5日	
							理学療法評価学実習 ※	2前	4	2			
							徒手理学療法学実習	3後	2	2			
							神経筋骨格障害応用論実習 ※	4後	0.9	2			
							スポーツ障害応用論実習 ※	4後	1	2			
							理学療法見学実習Ⅰ	1前	1	1			
							理学療法見学実習Ⅱ	1後	1	1			
							理学療法見学実習Ⅲ	2前	1	1			
							理学療法評価実習	3前	4	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6	1			
							ゴルフトレーニング論 ※	3後	1.6	2			
							理学療法総合実習	4後	1	1			
⑫	実専	講師	カワサキ ヒロコ 川崎 浩子 <令和3年4月>		修士 (学術)		臨床技能論実習	3前	2	2	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平17.4)	5日	
							理学療法評価学	1後	2	2			
							日常生活活動学 ※	2前	1.1	2			
							地域理学療法学	2後	1	2			
							理学療法見学実習Ⅰ	1前	1	1			
							理学療法見学実習Ⅱ	1後	1	1			
							理学療法見学実習Ⅲ	2前	1	1			
							理学療法評価実習	3前	4	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6	1			
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6	1			
	理学療法地域実習	4前	1	1									
	理学療法総合実習	4後	1	1									
	兼任	講師	カワサキ ヒロコ 川崎 浩子 <令和2年4月>		修士 (学術)		理学療法評価学	1後	2	2			
理学療法見学実習Ⅰ							1前	1	1				
理学療法見学実習Ⅱ							1後	1	1				

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する適 たり平均日数
14	実専	講師	スズキ ミカ 鈴木 美香 <令和3年4月>		修士 (学術)		予防医学 ※ 地域包括ケア論 ※ 地域理学療法実習 ※ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 体力測定論 ※ 健康増進実践演習 ※ 健康増進実践実習 ※	3前 3前 3前 1前 1後 2前 3前 3後 4前 4前 3後 3後 3後	0.2 1.6 1.1 1 1 1 4 6 6 1 0.8 0.6 0.6	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平25.4)	5日	
	兼任	講師	スズキ ミカ 鈴木 美香 <令和2年4月>		修士 (学術)		理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1			
13	実専	講師	ヒロベ シゲノブ 弘部 重信 <令和4年4月>		短期大学士		地域包括ケア論 ※ 理学療法評価学演習 ※ 内部障害系理学療法実習Ⅱ ※ 内部障害応用論実習 ※ 地域理学療法実習 ※ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	3前 3前 3前 4後 3前 3前 3後 4前 4前 4後 3後	0.4 0.6 1.4 3.6 0.9 4 6 6 1 1 1 1	2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	滋賀県立総合病院 主任技師長 (平20.4)	5日	
14	実専	講師	イケヤ マサエ 池谷 雅江 <令和2年4月>		修士 (社会福祉 学)		運動療法実習 神経筋骨格障害応用論実習 ※ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 障がい者スポーツ論実習 体力測定論 ※ 健康増進実践演習 ※ 健康増進実践実習 ※ 協働連携論総合実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	2後 4後 1前 1後 2前 3前 3後 4前 4前 4前 3後 3後 3後 4後 4後 3後	2 0.9 1 1 1 4 6 6 1 0.9 0.8 0.6 0.8 2 1 1	2 2 1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平19.4)	5日	
15	実専	講師	ノグチ シンイチ 野口 真一 <令和2年4月>		学士 (教養)		スポーツ障害応用論実習 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	4後 1前 1後 2前 3前 3後 4前 4前 4後 3後	1 1 1 1 4 6 6 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢整形外科クリ ニック デイケアしおん 理学療法士 主任  (平29.10)	5日	
16	実(研)	教授 (学科 長)	ヤマウチ マサオ 山内 正雄 <令和2年4月>		修士 (学術)		運動学Ⅰ 理学療法管理学 理学療法評価学演習 徒手理学療法 神経筋骨格障害応用論実習 ※ 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 理学療法見学実習Ⅲ 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習 理学療法総合実習 リハビリテーション総合演習	1後 4後 3前 3前 4後 1前 1後 2前 3前 3後 4前 4前 4後 3後	2 2 0.8 2 0.9 1 1 1 4 6 6 1 1 1 1	2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	首都大学東京 大学院 高度医療 准教授 (平28.4)	5日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する適当 たり平均日数
⑰	実(研)	准教授	ジロウマル タクミ 治郎丸 卓三 <令和2年4月>		博士 (スポーツ 健康科学)		運動療法学	2前		2	2	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平23.4)	5日
							スポーツ障害系理学療法学実習	2後		2	2		
							スポーツ障害応用論実習 ※	4後		1	2		
							理学療法評価実習	3前		4	1		
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後		6	1		
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前		6	1		
							パフォーマンス向上論	3後		2	2		
							フィットネス論 ※	3後	1.2		2		
							ランニングトレーニング論	3後		4	2		
							理学療法総合実習	4後		1	1		
リハビリテーション総合演習	3後		1	1									
⑱	実(研)	准教授	ヤスダ タカシ 安田 孝志 <令和3年4月>		修士 (スポーツ 科学)		運動学Ⅱ ※	2前		1	2	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平19.4)	5日
							運動学実習 ※	2後		1.1	2		
							運動器障害系理学療法学実習Ⅱ ※	3前		0.8	2		
							理学療法見学実習Ⅰ	1前		1	1		
							理学療法見学実習Ⅱ	1後		1	1		
							理学療法見学実習Ⅲ	2前		1	1		
							理学療法評価実習	3前		4	1		
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後		6	1		
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前		6	1		
							障がい者スポーツ論	3後		2	2		
	障がい者スポーツ論実習	4前		1	2								
	ゴルフトレーニング論 ※	3後	1.2		2								
	ロボット工学地域活用論応用 ※	3後	1.8		2								
理学療法総合実習	4後		1	1									
リハビリテーション総合演習	3後		1	1									
兼任	講師	ヤスダ タカシ 安田 孝志 <令和2年4月>		修士 (スポーツ 科学)		理学療法見学実習Ⅰ	1前		1	1			
						理学療法見学実習Ⅱ	1後		1	1			
⑲	実(研)	准教授	オオニシ ヒトシ 大西 均 <令和3年4月>		修士 (学術)		理学療法評価学実習 ※	2前		0.5	2	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平24.4)	5日
							運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	2後		2	2		
							運動器障害系理学療法学実習Ⅱ ※	3前		0.6	2		
							神経筋骨格障害応用論実習 ※	4後		0.9	2		
							理学療法見学実習Ⅰ	1前		1	1		
							理学療法見学実習Ⅱ	1後		1	1		
							理学療法見学実習Ⅲ	2前		1	1		
							理学療法評価実習	3前		4	1		
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後		6	1		
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前		6	1		
理学療法地域実習	4前		1	1									
フィットネス論 ※	3後	1.2		2									
理学療法総合実習	4後		1	1									
リハビリテーション総合演習	3後		1	1									
兼任	講師	オオニシ ヒトシ 大西 均 <令和2年4月>		修士 (学術)		理学療法見学実習Ⅰ	1前		1	1			
						理学療法見学実習Ⅱ	1後		1	1			
⑳	実(研)	講師	フジタニ リョウ 藤谷 亮 <令和3年4月>		博士 (学術)		運動学Ⅱ ※	2前		0.5	2	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平26.4)	5日
							運動学実習 ※	2後		0.9	2		
							理学療法評価学演習 ※	3前		0.6	2		
							神経障害系理学療法学実習Ⅱ	3前		2	2		
							理学療法見学実習Ⅰ	1前		1	1		
							理学療法見学実習Ⅱ	1後		1	1		
							理学療法見学実習Ⅲ	2前		1	1		
							理学療法評価実習	3前		4	1		
							理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後		6	1		
							理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前		6	1		
理学療法地域実習	4前		1	1									
理学療法総合実習	4後		1	1									
リハビリテーション総合演習	3後		1	1									
兼任	講師	フジタニ リョウ 藤谷 亮 <令和2年4月>		博士 (学術)		理学療法見学実習Ⅰ	1前		1	1			
						理学療法見学実習Ⅱ	1後		1	1			
14	兼任	教授	トノイケ ミツオ 外池 光雄 <令和2年4月>		工学博士		物理学Ⅰ	1前		2	2	なし	
							物理学Ⅱ	1後		1	1		
							統計学	2後		2	2		
							数学	1前		1	1		
							福祉工学地域活用論	3後		2	2		

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する適 たり平均日数
16	兼担	教授	ミタニ アキラ 三谷 章 <令和2年4月>		医学博士		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	1前 1後	4 4	2 2	京都大学大学院 医学研究科 教授 (平15.10)	
17	兼担	教授	タナカ コウイチロウ 田中 弘一郎 <令和2年4月>		理学博士		薬理学概論	1後	2	2	大阪大学先導的 学際研究機構 招聘教授 (平29.5)	
23	兼担	教授	タオダ カズシ 埴田 和史 <令和2年4月>		医学博士		労働衛生論 身体障がい者就労環境論	1後 3後	2 4	2 2	滋賀医科大学社会 医学講座衛生学部 門 准教授 (平12.4)	
21	兼担	准教授	スズキ キミヒロ 鈴木 規己洋 <令和2年4月>		修士 (教育学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1前 1後	2 1	2 1	藍野大学 医療保健学部 准教授 (H24.4)	
19	兼担	准教授	オオニシ ミツル 大西 満 <令和3年4月>		修士 (保健学)		子育て支援論 協働連携総合実習 障がい者スポーツ論実習	2前 4後 4前	2 2 0.1	2 1 2	藍野大学 医療保健学部 教授 (平16.4)	
22	兼担	講師	ソノダ ユウマ 園田 悠馬 <令和5年4月>		博士 (保健学)		協働連携総合実習	4後	2	1	滋賀医科大学医学 部附属病院リハビ リテーション部 (平23.4)	
21	兼任	講師	イイダ ヒデハル 飯田 英晴 <令和2年4月>		博士 (医学)		コミュニケーション論 心理学	1前 1後	2 2	2 2	藍野大学 短期大学部 副学長 教授 (平29.4)	
22	兼任	講師	タンバ ヒロユキ 丹葉 寛之 <令和2年4月>		博士 (教育学)		人間発達学	1後	2	2	藍野大学 医療保健学部 講師 (平20.4)	
23	兼任	講師	カキモト リツコ 柿本 理津子 <令和2年4月>		修士 (音楽)		音楽	1後	1	1	兵庫県立阪神 特別支援学校 臨時講師 (平28.4)	
24	兼任	講師	リ エン 李 艶 <令和3年4月>		博士 (心理学)		キャリア発達論	2後	2	2	聖泉大学 人間学部 教授 (平16.4)	
25	兼任	講師	ハラ ミキ 原 未来 <令和2年4月>		修士 (教育学)		教育学	1前	2	2	滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 (平29.4)	
26	兼任	講師	クロセ ツトム 黒瀬 勉 <令和2年4月>		文学修士		倫理学入門	1前	2	2	神戸女子大学 非常勤講師 (平25.4)	
28	兼任	講師	オザワ ミチノリ 小沢 道紀 <令和3年4月>		修士 (経営学)		経営学入門 マーケティング論	2前 3後	1 2	1 2	立命館大学 食マネジメント学部 准教授 (平13.4)	
29	兼任	講師	フジワラ ノブユキ 藤原 信行 <令和2年4月>		博士 (学術)		社会学	1前	1	1	大阪市立大学大学 院文学研究科都市 文化研究センター 研究員 (平28.4)	
30	兼任	講師	マツダ ミチコ 松田 美智子 <令和3年4月>		修士 (教育学)		社会福祉学	2後	2	2	天理大学 人間学部 教授 (平25.4)	
24	兼任	講師	キムラ ユウキ 木村 裕樹 <令和2年4月>		博士 (文学)		日本の伝統文化	1前	1	1	立命館大学 食マネジメント部 准教授 (H30.4)	
32	兼任	講師	タイラ アキヒロ 平良 聡弘 <令和2年4月>		修士 (文学)		日本の近代史	1前	1	1	和歌山県立文書館 研究員 (平26.4)	
35	兼任	講師	マツイ セイイチロウ 松井 聖一郎 <令和3年4月>		修士 (地域文化 研究)		韓国語	2後	1	1	滋賀県立大学 非常勤講師 (平24.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する適 たり平均日数
36	兼任	講師	ゴリョウヒ 呉 凌非 <令和3年4月>		博士 (言語学)		中国語	2後	1	1	滋賀県立大学 人間文化学部 教授 (平27.4)	
37	兼任	講師	セキヤ テツジ 関谷 徹治 <令和3年4月>		医学博士		神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ	2前 2後	2 2	2 2	彦根中央病院 医師 (平18.4)	
38	兼任	講師	マシモ イズミ 真下 いずみ <令和3年4月>		修士 (保健学)		精神医学	1後	2	2	藍野大学 非常勤講師 (平30.4)	
39	兼任	講師	ヨシダ シノブ 吉田 忍 <令和3年4月>		博士 (医学)		小児科学	2前	2	2	近江八幡市立総合 医療センター 小児科部長 (平17.4)	
40	兼任	講師	フジモト マサコ 藤本 雅子 <令和3年4月>		修士 (学術)		老年医学	2前	2	2	藍野大学 医療保健学部 講師 (平19.3)	
41	兼任	講師	ヤマシロ タカノブ 山城 尊靖 <令和3年4月>		学士 (保健衛生 学)		画像診断学	2前	2	2	箕面市立病院 放射線部 主査 (H8.4.1)	
43	兼任	講師	オダ ヤスヒロ 小田 泰宏 <令和5年4月>		法学士		保健医療福祉関連制度論	4後	2	2	藍野大学 医療保健学部 教授 (平16.4)	
44	兼任	講師	マエカワ ショウジ 前川 昭次 <令和4年4月>		学士 (教養)		運動器障害系理学療法実習Ⅱ ※	3前	0.6	2	滋賀医科大学附属 病院 リハビリテーション科 技師長 (昭58.4)	
45	兼任	講師	ヒライワ ヤスユキ 平岩 康之 <令和4年4月>		修士 (学術)		内部障害系理学療法実習Ⅰ ※	3前	0.5	2	滋賀医科大学附属 病院 リハビリテーション科 副技師長 (平1.4)	
46	兼任	講師	シラホシ シンイチ 白星 伸一 <令和3年4月>		修士 (社会学)		小児期理学療法実習 ※	2後	1.9	2	佛教大学 保健医療技術学部 准教授 (平20.4)	
47	兼任	講師	タケトミ ジュンコ 武富 純子 <令和2年4月>		修士 (社会学)		老年期理学療法実習 ボランティア論	2後 1後	2 2	2 2	弓削メディカルク リニック 在宅医療部 理学療法士 (平22.4)	
48	兼任	講師	ナガタ カオリ 永田 かおり <令和4年4月>		専修学校卒		施設起業運営論	3後	2	2	社会福祉法人 ひだまり 理事長 (平27.6)	
49	兼任	講師	カクノ フミヒコ 角野 文彦 <令和2年4月>		医学士		災害支援論	2前	2	2	滋賀県 健康医療福祉部 理事 (平30.4)	
50	兼任	講師	クロダ ヨシタカ 黒田 吉孝 <令和4年4月>		博士 (教育学)		教育支援論 ※	2前	1	2	びわこ学院大学 教育福祉学部 教授 (平27.4)	
51	兼任	講師	ゴトウ シンゴ 後藤 真吾 <令和4年4月>		学士 (社会学)		教育支援論 ※	2前	1	2	びわこ学院大学 教育福祉学部 講師 (H27.4)	
52	兼任	講師	シュドウ サトシ 首藤 賢 <令和4年4月>		修士 (文学)		メンタルヘルスマネジメント論	3後	2	2	湖南クリニック 臨床心理士 (平30.4)	
53	兼任	講師	ヤマモト タカユキ 山本 高之 <令和4年4月>		学士 (工学)		地域共生論 ※	3後	1.1	2	株式会社日本サラ ブレッドコミュニ ティクラブ 代表取締役 (平18.1)	
54	兼任	講師	ヤマモト ヒロミ 山本 姫呂己 <令和4年4月>		学士 (社会学)		地域共生論 ※	3後	1.1	2	放課後等デイサー ビスPONY KIDS 児童発達支援管理 責任者 (平27.9)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する適 たり平均日数
55	兼任	講師	ヨシダ カズヤ 吉田 和也 <令和4年4月>		専修学校卒		スポーツリズムトレーニング論 ※	3後		0.6	2	堤整形外科 理学療法士 主任 (平26.4)	
56	兼任	講師	ヒサダ シンイチ 久田 信彦 <令和4年4月>		専修学校卒		スポーツリズムトレーニング論 ※	3後		0.6	2	栗東診療所 リハビリテーション科 理学療法士 (平22.1)	
57	兼任	講師	モリ ヨシヒロ 森 宜裕 <令和4年4月>		学士 (人間健康 科学)		スポーツリズムトレーニング論 ※	3後		0.8	2	華頂短期大学 非常勤講師 (平30.9)	
58	兼任	講師	オクムラ タツヤ 奥村 竜也 <令和4年4月>		高等学校卒		ゴルフトレーニング論 ※	3後		1.2	2	美松ゴルフセンター 支配人 (平22.1)	
59	兼任	講師	イシクラ ヤスジ 石倉 康次 <令和4年4月>		修士 (社会学)		生きがい創造	3後		4	2	立命館大学 産業社会学部 特任教授 (平29.4)	
60	兼任	講師	オクダ エンジ 奥田 援史 <令和4年4月>		修士 (体育学)		伝承遊び	3後		4	2	滋賀大学 教職大学院 教授 (平29.4)	
61	兼任	講師	ミタ アツシ 三田 敦士 <令和4年4月>		学士 (工学)		シューフィッティング論	3後		2	2	アトレスプレース 有限会社 取締役 (H16.4)	
62	兼任	講師	タニダ ソウスケ 谷田 惣亮 <令和4年4月>		博士 (工学)		ロボット工学地域活用論基礎 ※ ロボット工学地域活用論応用 ※	3後 3後		1 1.8	2 2	佛教大学 保健医療技術学部 講師 (H28.4)	
63	兼任	講師	オザワ タクヤ 小澤 拓也 <令和4年4月>		博士 (工学)		ロボット工学地域活用論基礎 ※ ロボット工学地域活用論応用 ※	3後 3後		1 2.2	2 2	伏見桃山病院 診療技術部 部長 (平28.2)	
25	兼任	講師	イエムラ カオル 家村 薫 <令和4年4月>		専修学校卒		組織運営論 ※	3後		2.2	2	かけはしケアプラ ンセンター 管理者 (H28.4)	
26	兼任	講師	シバタ ケイコ 柴田 恵子 <令和4年4月>		準学士 (看護)		組織運営論 ※	3後		1.8	2	地域ケアステーション 森のお家 理事長 (H30.4)	
27	兼任	講師	わたなべ わこ 渡邊 和湖 <令和4年4月>		学士 (社会学)		地域共生論 ※	3前		1.8	2	合同会社和湖 代表社員 (H30.5)	
28	兼任	講師	ひょうどう ゆうたろう 兵頭 勇太郎 <令和4年4月>		学士 (保健学)		ビジョントレーニング論	3後		4	2	金沢整形外科クリ ニック 主任 (H27.4.1)	
	専任 補充						物理療法学 義肢装具学Ⅰ 義肢装具学Ⅱ 神経障害系理学療法実習Ⅰ 神経筋骨格障害応用論実習 理学療法総合実習	2前 2前 2後 3前 4後 4後		2 2 2 2 0.4 1	2 2 2 2 2 1		

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等													
(リハビリテーション学部 作業療法学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 す 週当たり平均日 数
1	専	教授	ノダ トオル 野田 亨 <令和2年4月>		医学博士		解剖学Ⅰ 解剖学Ⅲ	1前 1後		2 1	1 1	藍野大学 客員研究員 (平30.4)	5日
2	専	教授	ミタニ アキラ 三谷 章 <令和2年4月>		医学博士		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	1前 1後		2 2	1 1	京都大学大学院 医学研究科 教授 (平15.10)	5日
3	専	教授	トノイケ ミツオ 外池 光雄 <令和2年4月>		工学博士		物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 統計学 数学	1前 1後 2後 1前		1 1 1 1	1 1 1 1	元 藍野大学 医療保健学部 教授 (平30.3まで)	5日
4	専	教授	タナカ コウイチロウ 田中 弘一郎 <令和2年4月>		理学博士		薬理学概論	1後		1	1	大阪大学先導的 学際研究機構 招聘教授 (平29.5)	5日
①	専	教授	カラシマ チエコ 辛島 千恵子 <令和3年4月>		博士 (保健学)		作業療法研究法 発達障害作業療法学実習Ⅰ 発達障害作業療法学実習Ⅱ 作業分析活用論 家族援助論 地域生活作業療法学総論 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習	3前 2後 3前 2後 3前 2前 3前 3後 4前 4前		1 1 1 1 1 1 5 7 7 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋大学大学院 医学系研究科 リハビリテーショ ン療法学専攻 作業療法学講座 教授 (平24.4)	5日
2	専	教授	イデ チツカ 井出 千束 <令和2年4月>		医学博士		解剖学Ⅱ	1後		2	1	藍野大学医療保健 学部 臨床工科学科 学科長 (平30.4)	5日
3	専	教授	タオダ カズシ 埴田 和史 <令和2年4月>		医学博士		身体障がい者就労環境論	3後		2	1	滋賀医科大学社会 医学講座衛生学部 門 准教授 (平12.4)	5日
②	専	准教授	スズキ キミヒロ 鈴木 規己洋 <令和2年4月>		修士 (教育学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1前 1後		1 1	1 1	藍野大学 医療保健学部 准教授 (平24.4)	5日
③	専	講師	ツジムラ ハジメ 辻村 肇 <令和2年4月>		博士 (工学)		基礎作業学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅱ	1前 1後 2前 3前 3後 4前 4前 4後		1 1 1 5 7 7 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	鳥取市医療看護専 門学校 教務部長 兼作業療法学科学 科長 (平26.11)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
④	専	講師	ソノダ ユウマ 園田 悠馬 <令和2年4月>		博士 (保健学)		作業療法評価学総論	1後		1	1	滋賀医科大学医学 部附属病院リハビ リテーション部 (平23.4)	5日
							身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2前	1	1			
							身体障害作業療法基礎技術論	2後	1	1			
							老年期障害作業療法学実習	3前	1	1			
							作業療法見学実習Ⅰ	1後	1	1			
							作業療法見学実習Ⅱ	2前	1	1			
							作業療法評価実習	3前	5	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7	1			
							作業療法地域実習	4前	1	1			
協働連携論総合実習	4後	2	1										
⑤	実専	助教	キオカ カズミ 木岡 和実 <令和3年4月>		学士 (教養)		作業療法見学実習Ⅰ	1後		1	1	滋賀医療技術 専門学校 作業療法学科 学科長 (平16.4)	5日
							作業療法見学実習Ⅱ	2前	1	1			
							作業療法評価実習	3前	5	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7	1			
							作業療法地域実習	4前	1	1			
兼任	講師	キオカ カズミ 木岡 和実 <令和2年4月>		学士 (教養)		作業療法見学実習Ⅰ	1後		1	1			
⑥	実専	助教	スギモト クミコ 杉本 久美子 <令和2年4月>		専門士 ※平32.3月 修士 (社会福祉 学) 取得予定		作業療法見学実習Ⅰ	1後		1	1	滋賀医療技術 専門学校 作業療法学科 専任教員 (平23.4)	5日
							作業療法見学実習Ⅱ	2前	1	1			
							作業療法評価実習	3前	5	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7	1			
							作業療法地域実習	4前	1	1			
							作業療法総合実習Ⅰ	4後	1	1			
							作業療法総合実習Ⅱ	4後	1	1			
⑦	実専	助教	カワツ タク 河津 拓 <令和2年4月>		修士 (作業療法 学)		基礎作業学実習Ⅱ	1後		1	1	学校法人青丹学園 関西学研医療福祉 学院 専任教員 (平20.3)	5日
							中枢神経疾患作業療法実習	2後	1	1			
							高次脳機能障害作業療法実習	3前	1	1			
							日常生活活動論実習	2前	1	1			
							社会生活行為論実習	2前	1	1			
							生活行為向上マネジメント論実習	3前	1	1			
							作業療法見学実習Ⅰ	1後	1	1			
							作業療法見学実習Ⅱ	2前	1	1			
							作業療法評価実習	3前	5	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7	1			
							作業療法地域実習	4前	1	1			
							作業療法総合実習Ⅱ	4後	1	1			
							⑧	実(研)	准教授	オオニシ ミツル 大西 満 <令和2年4月>			
作業療法学総論	1前	1	1										
作業療法管理・制度論	1後	1	1										
作業療法と倫理	1後	1	1										
発達障害作業療法評価学実習	2前	1	1										
作業療法評価実習	3前	5	1										
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7	1										
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7	1										
作業療法地域実習	4前	1	1										
子育て支援論	2前	1	1										
障がい者スポーツ論実習 ※	4前	0.2	1										
協働連携論総合実習	4後	2	1										
作業療法総合実習Ⅰ	4後	1	1										
作業療法総合実習Ⅱ	4後	1	1										
⑨	実(研)	講師	アベ セイヤ 安部 征哉 <令和2年4月>		修士 (学術)		学びの基盤	1前		1	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平17.4)	5日
							運動学Ⅰ	1前	1	1			
							運動学Ⅱ	1後	1	1			
							運動学実習	2前	1	1			
							身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1	1			
							運動器疾患作業療法実習	2後	1	1			
							作業療法義肢装具実習	2後	1	1			
							作業療法見学実習Ⅰ	1後	1	1			
							作業療法見学実習Ⅱ	2前	1	1			
							作業療法評価実習	3前	5	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7	1			
							作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7	1			
作業療法地域実習	4前	1	1										
作業療法総合実習Ⅰ	4後	1	1										

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
⑩	実(研)	助教	シマカワ マサノリ 嶋川 昌典 <令和2年4月>		修士 (人間文化 学)		基礎作業学 精神障害作業療法評価学実習 精神障害作業療法学 精神障害作業療法学実習 作業分析活用論実習 地域生活作業療法学実習Ⅱ 作業療法見学実習Ⅰ 作業療法見学実習Ⅱ 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ 作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習 作業療法総合実習Ⅰ	1前 2前 2後 3前 2後 2後 1後 2前 3前 3後 4前 4前	1 1 1 1 1 1 1 1 5 7 7 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀医療技術 専門学校 作業療法学科 専任教員 (平25.4)	5日
16	兼任	准教授	ブンキ ヒトミ 分木 ひとみ <令和4年4月>		博士 (学術)		予防医学 ※ 協働連携論総合実習	3前 4後	0.1 2	1 1	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 学科長 (平21.4)	
17	兼任	教授	カナザワ ノブヒコ 金沢 伸彦 <令和3年4月>		医学博士		整形外科学Ⅰ 整形外科学Ⅱ	2前 2後	1 1	1 1	医) 金沢整形外科 クリニック 理事長 (平8.12)	
⑪	兼任	教授	シノダ ケイイチ 篠田 恵一 <令和3年4月>		医学博士		内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 救急援助論	2前 2後 2後	1 1 1	1 1 1	藍野大学 医療保健学部 特任教授 (H30.4)	
13	兼任	教授 (学長)	ヤマカワ マサノブ 山川 正信 <令和2年4月>		医学博士		予防医学 ※	3前	0.8	1	宝塚大学学長 (平29.4)	
14	兼任	教授	ナカノ ノリヒコ 中野 法彦 <令和2年4月>		博士 (医学)		生物学	1前	1	1	藍野大学 中央研究施設 准教授 (平28.4) 藍野大学 医療保健学 部臨床工学科 准教授 (平30.4)	
15	兼任	講師	ホリ ヒロフミ 堀 寛史 <令和2年4月>		博士 (学術)		哲学入門	1前	1	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平17.4)	
19	兼任	准教授	ヤスダ タカシ 安田 孝志 <令和4年4月>		修士 (スポーツ科 学)		障がい者スポーツ論 障がい者スポーツ論実習 ※	3後 4前	1 0.4	1 1	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平19.4)	
16	兼任	准教授	カネキヨ ケンジ 兼清 健志 <令和3年4月>		博士 (薬学)		栄養学	2前	1	1	藍野大学 中央研究施設 講師 (H28.4) 藍野大学 医療保健学部 臨床工学科 講師 (H30.4)	
17	兼任	助教	サトウ タカヒコ 佐藤 隆彦 <令和2年4月>		博士 (スポーツ 科学)		体育	1後	1	1	立命館大学スポー ツ健康科学部 特 任助教 (平28.4)	
20	兼任	講師	イケヤ マサエ 池谷 雅江 <令和5年4月>		修士 (社会福祉 学)		障がい者スポーツ論実習 ※ 協働連携論総合実習	4前 4後	0.4 2	1 1	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平19.4)	
21	兼任	講師	スズキ ミカ 鈴木 美香 <令和4年4月>		専門士  ※平31.3月 修士 (学術) 取得予定		予防医学 ※	3前	0.1	1	滋賀医療技術 専門学校 理学療法学科 専任教員 (平25.4)	
22	兼任	講師	イダ ヒデハル 飯田 英晴 <令和2年4月>		博士 (医学)		コミュニケーション論 心理学	1前 1後	1 1	1 1	藍野大学 短期大学部 副学長 教授 (平29.4)	
23	兼任	講師	カキモト リツコ 柿本 理津子 <令和2年4月>		修士 (音楽)		音楽	1後	1	1	兵庫県立阪神 特別支援学校 臨時講師 (平28.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
24	兼任	講師	リ エン 李 艶 <令和3年4月>		博士 (心理学)		キャリア発達論	2後	1	1	聖泉大学 人間学部 教授 (平16.4)	
25	兼任	講師	スギウラ ユカリ 杉浦 由香里 <令和2年4月>		博士 (教育学)		教育学	1前	1	1	滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 (平27.4)	
26	兼任	講師	クロセ ツトム 黒瀬 勉 <令和2年4月>		文学修士		倫理学入門	1前	1	1	神戸女子大学 非常勤講師 (平25.4)	
28	兼任	講師	オザワ ミチノリ 小沢 道紀 <令和2年4月>		修士 (経営学)		経営学入門 マーケティング論	2前 2後	1 1	1 1	立命館大学 食マネジメント学部 准教授 (平13.4)	
29	兼任	講師	フジワラ ノブユキ 藤原 信行 <令和2年4月>		博士 (学術)		社会学	1前	1	1	大阪市立大学大学院 文学研究科都市 文化研究センター 研究員 (平28.4)	
30	兼任	講師	マツダ ミチコ 松田 美智子 <令和3年4月>		修士 (教育学)		社会福祉学	2後	1	1	天理大学 人間学部 教授 (平25.4)	
19	兼任	講師	キムラ ユウキ 木村 裕樹 <令和2年4月>		博士 (文学)		日本の伝統文化	1前	1	1	立命館大学 食マネジメント部 准教授 (H30.4)	
32	兼任	講師	タイラ アキヒロ 平良 聡弘 <令和2年4月>		修士 (文学)		日本の近代史	1前	1	1	和歌山県立文書館 研究員 (平26.4)	
35	兼任	講師	マツイ セイイチロウ 松井 聖一郎 <令和2年4月>		修士 (地域文化 研究)		韓国語	2後	1	1	滋賀県立大学 非常勤講師 (平24.4)	
36	兼任	講師	ゴリョウヒ 呉 凌非 <令和2年4月>		博士 (言語学)		中国語	2後	1	1	滋賀県立大学 人間文化学部 教授 (平27.4)	
37	兼任	講師	タンバ ヒロユキ 丹葉 寛之 <令和2年4月>		博士 (教育学)		人間発達学	1後	1	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平20.4)	
38	兼任	講師	セキヤ テツジ 関谷 徹治 <令和3年4月>		医学博士		神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ	2前 2後	1 1	1 1	彦根中央病院 医師 (平18.4)	
39	兼任	講師	マシモ イズミ 真下 いずみ <令和3年4月>		修士 (保健学)		精神医学	2前	1	1	藍野大学 非常勤講師 (平30.4)	
40	兼任	講師	ヨシダ シノブ 吉田 忍 <令和3年4月>		博士 (医学)		小児科学	2前	1	1	近江八幡市立総合 医療センター 小児科部長 (平17.4)	
41	兼任	講師	フジモト マサコ 藤本 雅子 <令和3年4月>		修士 (学術)		老年医学	2前	1	1	藍野大学 医療保健学部 講師 (平19.3)	
42	兼任	講師	ヤマシロ タカノブ 山城 尊靖 <令和3年4月>		学士 (保健衛生)		画像診断学	2前	1	1	箕面市立病院 放射線部 主査 (平8.4.1)	
44	兼任	講師	ウノ エミコ 宇野 恵美子 <令和3年4月>		修士 (看護学)		老年期障害作業療法	2後	1	1	滋賀医療技術 専門学校 作業療法学科 非常勤講師 (平27.4)	
45	兼任	講師	ナガタ カオリ 永田 かおり <令和4年4月>		専修学校卒		施設起業運営論	3前	1	1	社会福祉法人 ひだまり 理事長 (平27.6)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
46	兼任	講師	タケトミ ジュンコ 武富 純子 <令和2年4月>		修士 (社会学)		ボランティア論	1前	1	1	弓削メディカルク リニック 在宅医療部 理学療法士 (平22.4)	
47	兼任	講師	カクノ フミヒコ 角野 文彦 <令和2年4月>		医学士		災害支援論	1後	1	1	滋賀県 健康医療福祉部 理事 (平30.4)	
48	兼任	講師	クロダ ヨシタカ 黒田 吉孝 <令和3年4月>		博士 (教育学)		教育支援論 ※	2後	0.5	1	びわこ学院大学 教育福祉学部 教授 (平27.4)	
49	兼任	講師	ゴトウ シンゴ 後藤 真吾 <令和3年4月>		学士 (社会学)		教育支援論 ※	2後	0.5	1	びわこ学院大学 教育福祉学部 講師 (平27.4)	
50	兼任	講師	シュドウ サトシ 首藤 賢 <令和3年4月>		修士 (文学)		メンタルヘルスマネジメント論	2前	1	1	湖南クリニック 臨床心理士 (平30.4)	
51	兼任	講師	タムラ カズヒロ 田村 和宏 <令和2年4月>		修士 (社会福祉 学)		地域社会共生論	1前	2	1	立命館大学 産業社会学部 教授 (平27.4)	
52	兼任	講師	ヤマモト ヒデツグ 山本 英嗣 <令和2年4月>		専修学校卒		地域社会共生論実習	1後	1	1	特定非営利活動法 人アイ・コラボ レーション 理事長 (平22.6)	
53	兼任	講師	シロ タカシ 城 貴志 <令和4年4月>		学士 (社会福祉 学)		精神障がい者就労環境論 就労環境論実習	3後 4前	2 1	1 1	NPO法人 滋賀県社 会就労事業振興セ ンター 理事長 (平23.4)	
54	兼任	講師	サカナシ ヨシオ 坂梨 仁勇 <令和4年4月>		専修学校卒		老年期地域生活適応論 老年期地域生活適応論実習	3後 4前	2 1	1 1	株式会社ジッセン トシップ 代表取締役 (平26.4)	
55	兼任	講師	ササイ ヒサツグ 笹井 久嗣 <令和4年4月>		準学士 (保育)		成人期地域生活適応論 成人期地域生活適応論実習	3後 4前	2 1	1 1	株式会社THEMSY 放課後等デイサー ビス 代表取締役 (平30.4)	
56	兼任	講師	シゲミ マサハル 重見 将治 <令和4年4月>		専門学校卒		児童期地域生活適応論 児童期地域生活適応論実習	3後 4前	2 1	1 1	あいの南千里 保育園 施設長 (平30.4)	
	専任 補充						地域包括ケア論 住環境支援論 地域生活作業療法実習Ⅰ 地域生活作業療法実習Ⅲ	2後 3前 2後 3前	1 1 1 1	1 1 1 1		

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (リハビリテーション学部 理学療法学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	人	1人	4人	6人	
	修 士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	0人	
	短期大士 学	人	人	人	人	人	人	人	0人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	0人	
准 教 授	博 士	人	人	2人	人	人	1人	人	3人	
	修 士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	0人	
	短期大士 学	人	人	人	人	人	人	人	0人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	0人	
講 師	博 士	人	人	3人	人	1人	人	人	4人	
	修 士	人	1人	1人	2人	人	人	人	4人	
	学 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	短期大士 学	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	0人	
助 教	博 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	0人	
	短期大士 学	人	人	人	人	人	人	人	0人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	0人	
合 計	博 士	人	1人	5人	1人	1人	2人	4人	14人	
	修 士	人	2人	3人	3人	人	1人	人	9人	
	学 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	短期大士 学	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人		

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (リハビリテーション学部 作業療法学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	人	3人	4人	7人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人		
	学 士	人	人	人	人	人	人	人		
	短期大士 学	人	人	人	人	人	人	人		
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人		
准 教 授	博 士	人	人	人	人	人	人	人		
	修 士	人	人	人	1人	1人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人		
	短期大士 学	人	人	人	人	人	人	人		
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人		
講 師	博 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人		
	短期大士 学	人	人	人	人	人	人	人		
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人		
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人		
	修 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短期大士 学	人	人	人	人	人	人	人		
	そ の 他	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
合 計	博 士	人	人	1人	1人	人	3人	4人	9人	
	修 士	人	人	1人	3人	1人	人	人	5人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短期大士 学	人	人	人	人	人	人	人		
	そ の 他	人	人	1人	人	人	人	人	1人	

専任教員の年齢構成・学位保有状況（専門職大学等の実務の経験等を有する専任教員） （リハビリテーション学部 理学療法学科）										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 1人 )	( 人 )	1人 ( 1人 )	
	学 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
准教授	博 士	( 人 )	( 人 )	1人 ( 1人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 1人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	2人 ( 1人 )	1人 ( 1人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	3人 ( 2人 )	
	学 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
講 師	博 士	( 人 )	( 人 )	1人 ( 1人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 1人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	1人 ( 人 )	2人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	3人 ( 人 )	
	学 士	( 人 )	1人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
助 教	博 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	学 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
合 計	博 士	( 人 )	( 人 )	2人 ( 2人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	2人 ( 2人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	3人 ( 1人 )	3人 ( 1人 )	( 人 )	1人 ( 1人 )	( 人 )	7人 ( 3人 )	
	学 士	( 人 )	1人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	1人 ( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	

専任教員の年齢構成・学位保有状況(専門職大学等の実務の経験等を有する専任教員) (リハビリテーション学部 作業療法学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	学 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
准 教 授	博 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 1 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 1 人 )	
	学 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
講 師	博 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 1 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 1 人 )	
	学 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
助 教	博 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	1 人 ( 1 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	2 人 ( 1 人 )	
	学 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	
合 計	博 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	修 士	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	3 人 ( 3 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	4 人 ( 3 人 )	
	学 士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	
	短期大士	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	
	そ の 他	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	( 人 )	1 人 ( 人 )	

審査意見への対応を記載した書類（7月）

# 審査意見への対応を記載した書類（7月）

## （目次）

リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

### 【大学等の設置の趣旨・必要性】

#### 1. 【全体計画審査意見1の回答について】＜ポリシーとの対応関係が不明確＞

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が依然として不明確である。また、社会人入試について、アドミッション・ポリシーとの対応関係が不明確なため、以下の点について、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1、作業療法学科 是正事項1】・・・・・・・・・・1

(1) カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が不明確であることから、対応関係を明らかにした上で、カリキュラム・ポリシーの実現性についても明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1（1）、作業療法学科 是正事項1（1）】・・・・・・・・・・1

(2) 社会人入試を実施するとあるが、どのような社会人を受け入れるか不明確なため、アドミッション・ポリシーとの対応関係も踏まえて明確に説明すること。また、受け入れた社会人の既修得単位の認定に係る考え方についても明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1（2）、作業療法学科 是正事項1（2）】・・・・・・・・・・7

#### 2. 【全体計画審査意見3の回答について】＜大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確＞

専門職大学の特色や創造性、実習における支援体制などの観点から、大学、短期大学及び専門学校との違いについて、単に制度や目的の違いにとどまらず、カリキュラムとの整合性も含めて、改めて明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項3、作業療法学科 是正事項3】・・・・・・・・・・12

#### 3. 【全体計画審査意見6の回答について】＜入学意向調査の適正性が不明確＞

高校2年生や施設等職員を対象に入学意向調査を実施し、その結果をもって学生確保の見通しを説明しているが、入学者選抜方法に照らして、入学を想定している者を対象として適切に調査・分析がなされているか不明確であることから、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項4、作業療法学科 是正事項4】・・・・・・・・・・17

### 【教育課程等】

#### 4. 【全体計画審査意見7の回答について】＜シラバス上の到達目標が不明確＞

「英語Ⅱ」のシラバスにおける到達目標について、授業の終了段階で身に付けていることが期待される行動・能力をより具体的に明示することが望まれる。【2学科共通 理学療法学科 改善事項5、作業療法学科 改善事項5】・・・・・・・・・・27

#### 5. 【全体計画審査意見9の回答について】＜総合科目の実施方法等が不明確＞

総合科目の以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6、作業療法学科 是正事項6】・・28

(1) 本学では、「教員から学生への口頭による学習内容の伝達を踏まえた上で、課題などによって学修を深める科目」を「演習」、「理学療法、作業療法の評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目」を含む「授業で学習した手技・手法について体験を通して学ぶ科目」を「実習」と定義しているが、「理学療法総合演習／作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」のシラバスの記載は、その違いが不明確であることから、授業形態の定義を踏まえた適切な記載に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6 (1)、作業療法学科 是正事項6 (1)】・・28

(2) 「理学療法総合演習／作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」について、複数の教員が担当するが、教員と学生の割り振りをどのようにするかなど、具体的な実施方法が不明確であることから、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6 (2)、作業療法学科 是正事項6 (2)】・・31

(3) 「協働連携論総合実習」の実施方法について、「理学療法学科80名、作業療法学科40名の合計120名を各学科4グループに分け、理学療法学科20名、作業療法学科10名の合計30名を1教室の構成人数」としている。さらに、「理学療法学科3名、作業療法学科2名の5名を1グループとし、1教室を6グループ構成とする」との記載があるが、全30回の授業のうち、グループによる実習は数回であると見受けられ、そのグループ単位が30名のグループなのか、5名のグループなのか不明確である。また、グループによる実習以外の授業を、両学科合計120名が同時に履修するのか、それとも30名又は5名のグループ単位で履修するのかも不明確である。「協働連携論総合実習」の実施方法について、各グループの位置付けも踏まえ、明確に説明すること。さらに、当該科目の履修年次の妥当性についても、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6 (3)、作業療法学科 是正事項6 (3)】・・33

6. 【全体計画審査意見10の回答について】＜適切な学修時間を勘案した単位設定となっているか不明確＞

1 単位科目の単位設定の考え方について、「2単位30時間の内容を1単位30時間とし、本学では授業内でより丁寧な指導を行うために、科目数を増やすことで学生の理解を深めることとした」との説明があったが、学生の総学修時間が長時間化し、各科目で求められている予習・復習時間を十分に確保できないことが懸念されることから、専門職大学設置基準第14条第2項に定める「授業時間外に必要な学修等」に考慮した単位設定となっているか、時間割も含め、明確に説明すること。

【2学科共通 理学療法学科 是正事項7、作業療法学科 是正事項7】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

7. 【全体計画審査意見17の回答について】＜国家試験受験資格の位置付けに係る記載が不適切＞

本学が、国家資格の取得のみならず、本学科における教育全般に対して責任を負うことに照らせば、「そのため、学生が国家資格を取得できるよう本学として責任を持って取り組む。」との記載は不

適切であることから削除すること。【2学科共通 理学療法学科 改善事項8、作業療法学科 改善事項8】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

### 【教員組織等】

8. 【全体計画審査意見 19 の回答について】 <専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>  
専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分との指摘に対応し、理論系の専任教員が補充されたが、依然として専攻分野に係る理論系の専任教員が適切に補充されたと認められないため、是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項9、作業療法学科 是正事項9】・・・・・・・・・・・・ 44
9. 【全体計画審査意見 21 の回答について】 <専任教員数が設置基準を満たしていない>  
専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項10、作業療法学科 是正事項10】・・・・・・・・・・・・ 49
10. 【全体計画審査意見 24 の回答について】 <十分な研究室のスペースが確保されているか不明確>  
「助教・助手室（研究室 25）」について、面積 52.00 m<sup>2</sup>のスペースに対して 8 人の教員が使用する計画となっており、教員一人当たりの面積は 6.50 m<sup>2</sup>と窮屈と考えられることから、教員が研究や学生指導を行うために必要なスペースが確保されているか疑義がある。教育研究上支障のないスペースが確保されているか、明確に説明するとともに、必要に応じて改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項11、作業療法学科 是正事項11】・・・・・・・・・・・・ 50
11. 【全体計画審査意見 26 の回答について】 <図書等の更なる充実>  
図書等の整備について、より充実した環境整備が推進されるよう、養成する人材像に照らして、教育・研究に要する図書等の更なる拡充が望まれる。【2学科共通 理学療法学科 改善事項12、作業療法学科 改善事項12】・・・・・・・・・・・・ 51

## リハビリテーション学部 理学療法学科

### 【大学等の設置の趣旨・必要性】

12. 【全体計画審査意見 2・8・11 の回答について】 <3つの履修モデルが不明確>  
3つの「履修モデル」について、以下の観点で不明確なため、具体的に説明するとともに、必要に応じて修正すること。【理学療法学科 是正事項2】
- (1) 理学療法学科における履修モデルについて、履修モデルごとに受講すべき職業専門科目の選択科目があらかじめ決定されているが、その関連付けが妥当なものか疑義があるほか、当該履修モデルの一つである「地域支援」については、他の2モデルと重複する内容を含んでいるように見受けられ、その設定が妥当なものか判断し難（がた）い。理学療法学科における履修モデルと職業専門科目の選択科目との関連付けの妥当性について、明確に説明するとともに、必要に応じて修正すること。【理学療法学科 是正事項2（1）】
- (2) 今回、3つの「コース・領域」を「履修モデル」として定義し直しているが、「学生の希望と2年次後期時点の累積 GPA を参考に、偏りが生じないように振り分ける」とされており、名称と運用とに不整合が生じている。また、「履修モデル」は履修選択の参考として例示するものであることから、運用方法を踏まえた適切な名称に修正すること。【理学療法学科 是正

リハビリテーション学部 作業療法学科

**【大学等の設置の趣旨・必要性】**

13. **【全体計画審査意見2・9・12の回答について】** <3つの履修モデルが不明確>

今回、3つの「コース・領域」を「履修モデル」として定義し直しているが、「学生の希望と2年次後期時点の累積 GPA を参考に、偏りが生じないように振り分ける」とされており、名称と運用とに不整合が生じている。また、「履修モデル」は履修選択の参考として例示するものであることから、運用方法を踏まえた適切な名称に修正すること。**【作業療法学科 是正事項2】**・・・・・・・・・・56

## 【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項1 (1)、作業療法学科 是正事項1 (1)】

### 1. 【全体計画審査意見1の回答について】 <ポリシーとの対応関係が不明確>

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が依然として不明確である。また、社会人入試について、アドミッション・ポリシーとの対応関係が不明確なため、以下の点について、明確に説明すること。

- (1) カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が不明確であることから、対応関係を明らかにした上で、カリキュラム・ポリシーの実現性についても明確に説明すること。

(対応)

補正申請書類において、カリキュラム・ポリシーと教育課程との対応関係をカリキュラムマップで図示したが、基礎科目や職業専門科目等のカテゴリーとカリキュラム・ポリシーとの対応関係の図示に留まっていたため、記載が不十分であった。そのため、各授業科目とカリキュラム・ポリシーの対応について、資料1-1、資料1-2のとおり明確とした。

資料1-1：カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

資料1-2：カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

続いて、理学療法学科、作業療法学科ともに、カリキュラム・ポリシー1～5を踏まえ、次のとおり授業科目を配置しているため、カリキュラム・ポリシーが実現可能な教育課程となっていることを説明する。

## 1) 理学療法学科

### (1) カリキュラム・ポリシー1（以下、「CP1」と呼ぶ。）

理学療法学科のCP1は次のとおりである。

#### 理学療法学科 CP1

倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。

倫理観に基づき生命を尊重する態度を涵養するために基盤となる授業科目として「倫理学入門」、「キャリア発達論」、「心理学」、「教育学」、「生物学」及び「統計学」などを配置する。さらに職業専門科目の「人間発達学」、「リハビリテーション概論」及び「社会福祉学」などの授業科目から、理学療法士に必要な資質を理解するとともに、責任をもって生涯にわたり理学療法士として働く上で必要となる態度を学修する。また、以上の資質・態度を会得するために、臨地実務実習である「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法地域実習」を学年進行に合わせ配置する。展開科目では、「地域共生論」、「ボランティア論」及び「災害支援論」を配置することで、理学療法技術を用いて、地域住民の社会生活を支援する能力の獲得につながるように構成する。

### (2) カリキュラム・ポリシー2（以下、「CP2」と呼ぶ。）

理学療法学科の CP2 は次のとおりである。

#### **理学療法学科 CP2**

理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。

理学療法士に必要なコミュニケーション能力を養う上で基礎となる授業科目として「コミュニケーション論」を配置し、「英語 I・II」、「韓国語」及び「中国語」の語学教育科目で、外国語でのコミュニケーションに必要となる能力を養う。さらに、理学療法士に必要な関係形成を学修する授業科目として「臨床技能論実習」や「理学療法見学実習 I・II・III」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習 I・II」及び「理学療法地域実習」を配置する。机上の学修を実践することで、他者と関係を構築する能力を身につけることを目的とする。また、「地域共生論」及び「協働連携論総合実習」では、対象者や作業療法学科の学生と交わり授業を進めることで、多職種との関わり方を体験として学び、地域住民との関係性を構築する能力の獲得につながるように構成する。

### **(3) カリキュラム・ポリシー3 (以下、「CP3」と呼ぶ。)**

理学療法学科の CP3 は次のとおりである。

#### **理学療法学科 CP3**

理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

理学療法に必要な専門知識と技術を養うために、職業専門科目の理学療法理論科目群である「解剖学 I・II・III」、「生理学 I・II」、「運動学 I・II」、「運動学実習」、「整形外科学 I・II」、「内科学 I・II」、「神経内科学 I・II」、「老年医学」、「リハビリテーション概論」及び「地域包括ケア論」によって、その知識の学修を行う。

併せて、職業専門科目の職業実践科目群である「基礎理学療法学 I・II」、「基礎理学療法学実習 I・II」、「基礎理学療法研究法」、「理学療法評価学」、「理学療法評価学実習」、「理学療法評価学演習」、「臨床技能論実習」、「運動療法学」、「運動療法学実習」、「日常生活活動学」、「神経系障害系理学療法学実習 I・II」、「運動器障害系理学療法学実習 I・II」、「内部障害系理学療法学実習 I・II」、「地域理学療法学」及び「地域理学療法学実習」などの授業科目により、科学的かつ論理的思考を身に付け、根拠に基づいた理学療法を実践できるように学修を進める。

そして、机上の学修を実践につなげるために、臨地実務実習である「理学療法見学実習 I・II・III」、「理学療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習 I・II」及び「理学療法地域実習」を行うとともに、理学療法のより専門的な実習として「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」及び「スポーツ障害応用論実習」を行う。また、総合科目の「協働連携論総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」を学修することで、学んだ知識や技術を活かし、それを実践できるように構成する。

### **(4) カリキュラム・ポリシー4 (以下、「CP4」と呼ぶ。)**

理学療法学科の CP4 は次のとおりである。

#### 理学療法学科 CP4

理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。

地域住民の支援に必要な知識と能力の基盤となる授業科目として、「地域包括ケア論」、「地域共生論」、「地域理学療法学」、「地域理学療法学実習」及び「保健医療福祉関連制度論」を配置する。また、地域の支援の在り方の基礎を学ぶ授業科目として、「ボランティア論」、「労働衛生論」、「子育て支援論」、「災害支援論」、及び「教育支援論」を配置する。

次に、地域住民の支援につながる課題の発見から、理学療法を応用し、解決策を導く上で必要となる能力を涵養するために、展開科目の「生涯スポーツ論」、「メンタルヘルスマネジメント論」、「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「健康増進実践演習」、「健康増進実践実習」及び「身体障がい者就労環境論」などを配置する。支援を展開するための基盤となる事業や組織の構造を学修する授業科目として「マーケティング論」及び「施設起業運営論」を配置する。

これらの授業科目での学修を基盤に、総合科目で「協働連携総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」を学修することで、学んだ知識や技術を活かし、広い視野を持ち、地域課題の発見と問題解決を実践するための能力の獲得につながるように構成する。

#### (5) カリキュラム・ポリシー5 (以下、「CP5」と呼ぶ。)

理学療法学科の CP5 は次のとおりである。

#### 理学療法学科 CP5

理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、創造的に活用して、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持を目的に支援できるよう理学療法の知識や技術を養うための授業科目を配置する。

まず、地域共生社会の理解を深める授業科目として、「地域共生論」、「地域包括ケア論」、「ボランティア論」、「労働衛生論」、「子育て支援論」、「災害支援論」、及び「教育支援論」を配置する。

さらに、理学療法士としての知識・技術を学修した学生が、関連する他分野について学ぶことで、柔軟な思考を持ち、様々な問題を解決できる理学療法士を養成する。そのための授業科目として、展開科目で「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「体力測定論」、「健康増進実践実習」、「パフォーマンス向上論」、「フィットネス論」、「ランニングトレーニング論」、「生きがい創造」、「シューフィッシング論」、「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」及び「身体障がい者就労環境論」など様々な分野の授業科目を配置し選択できるようにしている。また、支援を展開するための基盤として、事業や組織の構造を学修する「マーケティング論」、「施設起業運営論」及び「組織運営論」などを配置する。

4 年次後期には、臨地実務実習を終え、展開科目で関連する他分野についても学んだ学生が、発展的に学ぶための授業科目として「神経筋骨格障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」及び「内部障害応用論実習」を配置し、理学療法士としての応用力・実践力を高める。

これらの授業科目での学修を基盤に、総合科目の「協働連携総合実習」、「理学療法総合実習」及び「リハビリテーション総合演習」により、多職種と協働して地域住民を支援するために、理学療法士としての専門性を活用し、応用するための能力の獲得につながるように構成する。

## 2) 作業療法学科

### (1) CP1

作業療法学科の CP1 は次のとおりである。

#### 作業療法学科 CP1

人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。

倫理観に基づき生命を尊重する態度を涵養するために基盤となる授業科目として「倫理学入門」、「キャリア発達論」、「心理学」、「教育学」、「社会学」、「生物学」及び「統計学」などを配置する。また、人の暮らす地域社会の理解を深めるために、展開科目の「地域社会共生論」、「ボランティア論」及び「災害支援論」などを配置する。これらを基盤として職業専門科目では「人間発達学」、「社会福祉学」及び「リハビリテーション概論」などの授業科目から作業療法士に必要な資質を理解するとともに、責任をもって生涯にわたり作業療法士として働く上で必要となる態度を学修する。また、以上の資質・態度を会得するために、臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を学年進行に合わせ配置する。

### (2) CP2

作業療法学科の CP2 は次のとおりである。

#### 作業療法学科 CP2

多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。

作業療法士として必要なコミュニケーション能力を養う上で、基礎となる授業科目として「コミュニケーション論」を配置し、コミュニケーションに必要となる語学の能力を高めるため「英語Ⅰ・Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」などを配置する。さらに、対象者や多職種との信頼関係の構築にむけて、実際の体験を通して対人関係能力を養うため、臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を配置する。また、学内に対象者を招いて学修する機会として「地域生活作業療法学実習Ⅱ・Ⅲ」等を配置する。展開科目では、関連領域の職種や地域住民との関わりを通して対人関係能力を高めるため「地域社会共生論実習」、「就労環境論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「児童期地域生活適応論実習」などの授業科目を配置する。また、総合科目では「協働連携論総合実習」において、対象者や理学療法学科の学生と交わり授業を進めることで、多職種との関わり方を体験として学び、地域住民との関係性を構築する能力の獲得につながるように構成する。

### (3) CP3

作業療法学科の CP3 は次のとおりである。

#### 作業療法学科 CP3

作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

作業療法士として必要な専門知識と技術を養うために、職業専門科目の作業療法理論科目群では、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学」、「画像診断学」、「リハビリテーション概論」及び「地域包括ケア論」などの授業科目を配置する。

また、職業専門科目の職業実践科目群である「作業療法学総論」、「作業療法と倫理」、「基礎作業学」、「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業分析活用論」、「日常生活活動論実習」、「作業療法評価学総論」、「身体障害作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神障害作業療法評価学実習」、「発達障害作業療法評価学実習」、「身体障害作業療法基礎技術論」、「運動器疾患作業療法学実習」、「中枢神経疾患作業療法学実習」、「精神障害作業療法学」、「発達障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「老年期障害作業療法学」、「地域生活作業療法学総論」及び「域生活作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ」などにより、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付ける。

そして、各年次に学修した知識と技術を活かし、具体的な実践例から体験を通して学ぶ臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法評価実習」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を各年次に配置する。さらに、4年後期には、総合科目として「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」及び「協働連携論総合実習」を配置し、生活課題の解決に向けた作業療法の実践力を獲得することにつながるよう構成する。

#### (4) CP4

作業療法学科のCP4は次のとおりである。

##### **作業療法学科 CP4**

人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。

地域生活課題の解決に向けて、作業療法の特徴を活かして地域生活を構造的に捉え、生活課題を発見する能力を養うために、「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」を配置する。

また、地域共生社会の基本的概念を理解し、それを基盤として地域の作業療法関連領域を理解するための授業科目を配置する。地域の支援構造を理解するための授業科目が「地域包括ケア論」、「子育て支援論」及び「教育支援論」であり、組織や行われている事業の構造を学修する授業科目が「マーケティング論」及び「施設起業運営論」などである。また、地域の作業療法関連領域においては、課題の発見に向けて、人が生涯にわたり取り組む作業である仕事と余暇について学ぶための授業科目として「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「障がい者スポーツ論」を配置する。

さらに、児童期、成人期、老年期の年齢層に分けた3つの各ライフステージに関する現状理解と職種理解を深める授業科目として「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置する。また、実際の体験を通して学ぶ授業科目として「就労環境論実習」、「障がい者スポーツ論実習」、「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置する。総合科目では「作業療法総合実習Ⅰ」、「作業療法総合実習Ⅱ」及び「協働連携論総合実習」を学修することで、学んだ知識や技術を活用し、地域課題の発見と問題解決を実践できる能力の獲得につながるよう授業科目を構成する。

## (5) CP5

作業療法学科の CP5 は次のとおりである。

### 作業療法学科 CP5

地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。

作業療法に関連する他分野の専門的知識を習得し、地域での支援展開にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための授業科目を配置する。

初年次に「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」から地域共生社会に関する基本概念を理解し、その上で、「ボランティア論」、「災害支援論」、「地域包括ケア論」、「子育て支援論」、「教育支援論」から地域の支援構造を理解する。また、「マーケティング論」、「施設起業運営論」から組織や行われている事業の構造を学修する。さらに、地域の関連分野の各領域の専門家から現状と課題を学ぶ授業科目として「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「障がい者スポーツ論」を配置する。また、児童分野、成人分野、老年期分野の年齢層に分けた 3 つの領域について現状を理解し職種理解を深める授業科目として「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置した。さらに体験を通じてこれまでの学修で培った作業療法士としての専門性を活用しながら、現状と課題を構造的にとらえる機会として「就労環境論実習」、「障がい者スポーツ論実習」、「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置する。

最後に、総合科目として、「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」、「協働連携論総合実習」を配置し、多職種と協働して地域住民の支援に作業療法士としての専門性を活用し応用できる能力の獲得につながるように構成する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項1(2)、作業療法学科 是正事項1(2)】

1. 【全体計画審査意見1の回答について】 <ポリシーとの対応関係が不明確>

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係が依然として不明確である。また、社会人入試について、アドミッション・ポリシーとの対応関係が不明確なため、以下の点について、明確に説明すること。

(2) 社会人入試を実施するとあるが、どのような社会人を受け入れるか不明確なため、アドミッション・ポリシーとの対応関係も踏まえて明確に説明すること。また、受け入れた社会人の既修得単位の認定に係る考え方についても明確に説明すること。

(対応)

社会人入試において、どのような社会人を受け入れるか記載が不十分であったため、本学が想定する社会人を明確に記載し、アドミッション・ポリシー(以下、「AP」と呼ぶ。)との対応関係について記載を行った。さらに、社会人推薦入試における選抜方法とAPとの対応関係について説明する。また、社会人の既修得単位認定の方針を定め、具体例を挙げてその説明を行う。

### 1) 社会人の受け入れについて

本学は、次の者を、本学に入学する可能性のある社会人として想定しており、以下でその説明を行う。

#### 本学が入学を想定する社会人

- ① キャリアアップ及びスキルアップを目的としたリハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種  
介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等
- ② 資格の多重取得を目的とした看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医療従事者
- ③ キャリアチェンジを目的とした全く異なる職種からの転職者

#### ① キャリアアップ及びスキルアップを目的としたリハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種 介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等

リハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種の例として、介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等がある。公的資格を有する介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、認定資格のアスレティックトレーナー、資格を持たない福祉施設職員、医療事務職員等がある。これらの職種は、現在の仕事において理学療法士・作業療法士と協働する関係にあり、全く関わりのない他の職種と比べると、理学療法士・作業療法士の職業に対する理解が深く、本学が社会人入学者として最も多いと想定している職種である。

入学意向者調査において、本学への入学意向者数が、理学療法学科では39名(介護福祉士29名、介護支援専門員10名)となり、作業療法学科では33名(介護福祉士15名、特別支援学校教員13名、医療事務職員5名)と、両学科ともに最多であった。これらの職種からは、スキルアップとキャリアアップを目的とした学び直しのニーズがあると考えている。

AP との対応関連では、既に公的資格を持っている者は AP1 の知識を有していることが想定され、実務経験は職業の特性から AP3 と対応していると考えている。また、入学を希望している点で AP2、学び直しの意欲から AP4 と AP5 に対応していると考えている。

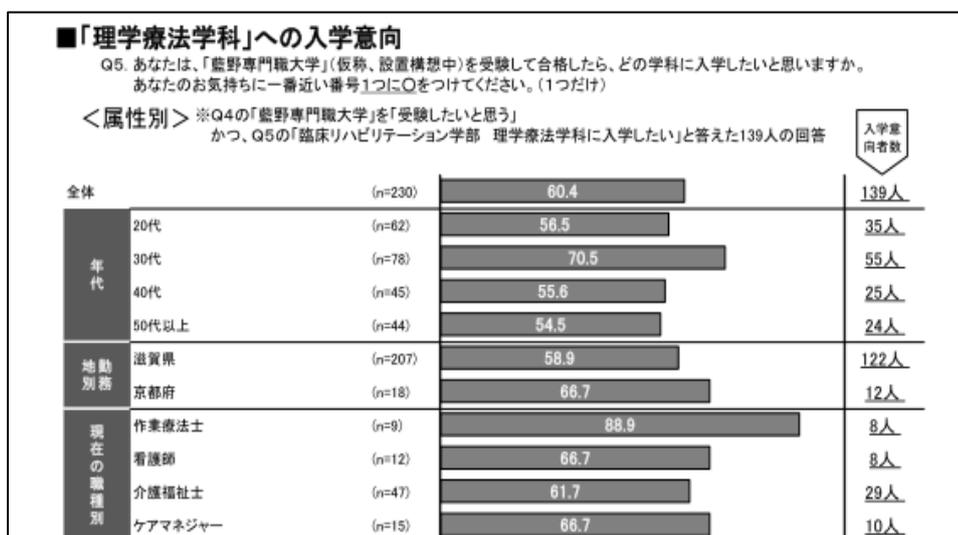
リハビリテーション学部の AP	
AP1	高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。
AP2	人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人。
AP3	良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる人。
AP4	客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる人。
AP5	多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる人。

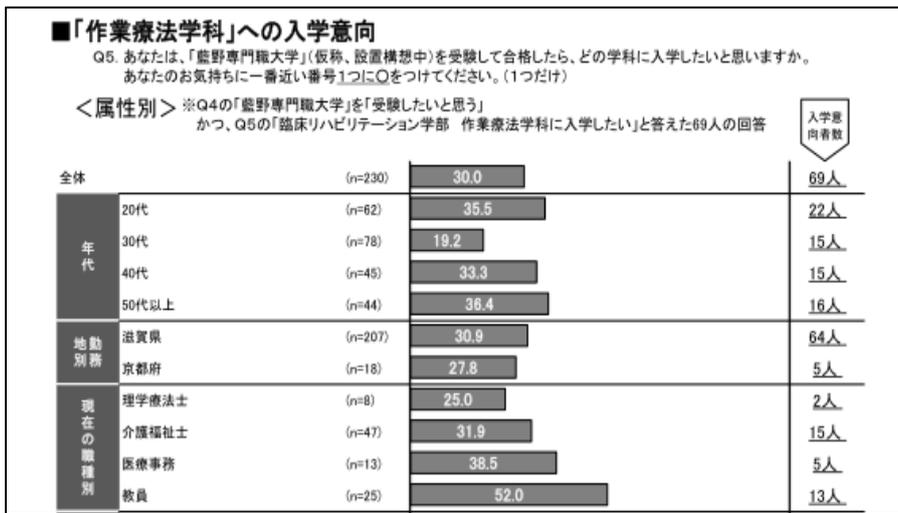
### ②資格の多重取得を目的とした看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医療従事者

看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等は、すでに医療専門職としての国家資格をもっており、互いに協働して行う業務関係にある。入学意向者調査において、①の次に入学意向者数が多かった職種である。これらは、職務上、複数の資格を持つことで、多角的に物事を捉え、問題解決能力を高めることができる。また、既に医学的な知識をもち、実務経験があるため、本学が求める AP1、AP3 を満たしていることが予想され、理学療法、作業療法への学び直しから AP2、AP4、AP5 に対応すると考えている。

### ③キャリアチェンジを目的とした全く異なる職種からの転職者

全く異なる職種からの転職者は学び直しの動機は様々で、キャリアチェンジを目的としている職種である。職業が多すぎるため、入学意向者調査が難しく、ニーズがどの程度あるかは不明であるものの、本学として受け入れることを想定している。全く異なる分野からの転職者は、社会経験が新たな発想を生み、新しい分野を開拓できる可能性が期待されることから、AP との関連では AP2、AP3、AP5 に対応すると考えている。





※「藍野専門職大学」(仮称) 設置に関するニーズ調査結果報告書【施設等職員対象調査】平成 30 年 9 月 株式会社 進研アド」より抜粋

## 2) 推薦入試 (社会人推薦入試) について内容の再検討と AP との対応

入学者選抜の制度について、社会人推薦入試の対象と AP との対応関係が不明確であるとのことご指摘を受け、選抜方法に照らし合わせ、AP との対応関係を検討した。本学は、多様な人材確保のため、入学者選抜において、推薦入試の中に社会人推薦入試を用意しており、高等学校卒業見込の者又は既卒者以外に、学び直しの機会を求める社会人にも門戸を開いている。そこで、社会人推薦入試の出願資格には、「入学時において社会人経験としての実務経験を 1 年以上有する者」とし、その実務経験は、パートタイム、アルバイト等も実務経験に含むこととしている。また、入学者選抜においても、机上の学修から離れ、時間が経っていても、社会人としての経験を選考の判断材料の 1 つとして重視し、学び直したいという強い意志を持った者に機会が与えられるように社会人推薦入試を設けている。社会人推薦入試では、①自己推薦書、②個人面接、③小論文をもって選考する。他の入試区分にはない自己推薦書では、社会人としての経験・自らの強み・適正や志願理由を評価する入試区分を用意している。社会人推薦入試と AP の関係について、次にまとめる。

### 理学療法学科

選抜方法	知識・技能	主体性・多様性・協調性		思考力・判断力・表現力	
	AP1	AP2	AP3	AP4	AP5
高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人	人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、理学療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人	協調性を持ち他者と良好な関係を築き、協働して自己の役割を責任を持って果たすことができる人	客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、自立的に物事に取り組み継続できる人	論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人	
自己推薦書	○	○		○	○
個人面接		○	○	○	○
小論文	○				○

## 作業療法学科

選抜方法	知識・技能	主体性・多様性・協調性		思考力・判断力・表現力	
	AP1	AP2	AP3	AP4	AP5
高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人	人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、作業療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人	協調性に富み他者と良好な関係を築き、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる人	客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、継続性をもって自ら考えて積極的に取り組むことができる人	論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人	
自己推薦書	○	○		○	○
個人面接		○	○	○	○
小論文	○				○

自己推薦書においては、「社会人としての経験」、「自らの強み」、「適性」、「理学療法士・作業療法士への志願理由」などを受験生に記載させる。自己推薦書の文章構成から AP1、その内容から AP2、AP4、AP5 を判定する。

個人面接においては、志願理由や社会人の経験、理学療法士・作業療法士の職業専門性について聴取することで、職業への関心、就学への意欲を AP2 として判定する。また、面接での受け答えから、良好な人間関係の構築に必要なコミュニケーション能力として AP3、質問に対する回答の内容から、物事の捉え方と自分の意見を的確に述べる能力である思考力・判断力・表現力を判定する事で AP4 と AP5 を判定する。

小論文では、決められた課題に対する論述において、課題文を読み解く力や文章の構成、表現力から AP1、AP5 を判定する。

以上のとおりに、社会人推薦入試と AP の関連を結び付け、本学の AP に見合う社会人を受け入れていく。

### 3) 社会人の既修得単位の認定及び実務経験の単位認定に係る考え方について

びわこリハビリテーション専門職大学の既修得単位の認定に関して、学則第 5 章「教育課程及び履修方法」第 16 条に定め、それに従い、既修得単位の認定の審査を行い、認定の可否を決定する。

以下では、入学前の「大学や短期大学などで修得した単位」及び「社会人の経験に対する単位」の認定について、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目に分けて、認定に係る考え方を記す。なお、既修得単位の認定に関する内規を資料 1-3 のとおり定める。

資料 1-3：びわこリハビリテーション専門職大学既修得単位の認定に関する内規

#### ①基礎科目について

入学時に、成績証明書（在学期間を明記したもの）及び認定を受けようとする既修得科目の概要を記

載した書類を提出し、成績、単位数、時間数及び授業内容を鑑みて、単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

英語検定、TOEIC 及び TOEFL は、当該担当教員が審査を行った上で、点数に応じて、「英語Ⅰ・Ⅱ」の単位として認定する。

## ②職業専門科目について

職業専門科目は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則により定められた所定の単位を履修し単位を修得する必要があるため、原則として単位認定は行わない。

ただし、理学療法／作業療法理論科目群のうち「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」等の授業科目については、保健衛生学関係の学問体系において基礎的かつ共通的な授業科目となるため、①に準じて単位を認定する。

## ③展開科目について

入学時、成績証明書（在学期間を明記したもの）及び認定を受けようとする既修得授業科目の概要を記載した書類を提出し、成績、単位数、時間数及び授業内容等を鑑みて、単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

社会人の「専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力」は、職業資格や技能検定に基づいて、展開科目の中で、読み替えに該当する授業科目がある場合に行う。入学時に「資格を証明する証書の写し」及び「認定を受けようとする授業科目を記載した書類」を提出する。単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

例) 障がい者スポーツ指導員（中級・上級）の資格の場合

障がい者スポーツ論 1 単位・障がい者スポーツ論実習 1 単位、合計 2 単位を認定する。

## ④総合科目について

総合科目は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則により定められた所定の単位を履修し単位を修得する必要があるため、単位認定は行わない。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項3、作業療法学科 是正事項3】

2. 【全体計画審査意見3の回答について】 <大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確>

専門職大学の特色や創造性、実習における支援体制などの観点から、大学、短期大学及び専門学校との違いについて、単に制度や目的の違いにとどまらず、カリキュラムとの整合性も含めて、改めて明確に説明すること。

(対応)

大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確とのご指摘を受け、改めて、学校制度の違いや地域実情からくる本学の特色と創造性、具体的なカリキュラムの違いや実習支援体制について説明する。

### 1) 学校制度の違い

現在、日本における理学療法士・作業療法士の養成は、大学、短期大学及び専門学校等において実施されており、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が定める内容を学生に教授するという点においては、大学、専門学校に違いはない。だが、大学においては、教養教育と専門教育、併せて理学療法、作業療法の理論の研究を学ぶため、学問的色彩の強い教育研究活動が行われている。しかしながら、専門教育としてのすそ野がやや広く社会ニーズを満たせていない側面を持っている。一方、専門学校は、それぞれの学校の工夫により、より質の高い実務家を養成しているものの、教員組織や施設・設備に関する基準が柔軟であるために、教育の質が制度上担保しきれていない側面も持っている。これら双方の弱点を補う意味でも専門職大学という新しい大学制度が期待されているところである。

専門職大学では、大学としての学問レベルを保ちながらも、より実学的な研究が重視され、理論に裏付けられた実践力をもつ人材を養成する。さらに、社会のニーズに即した新しい概念のプロフェッショナルリズムを身に着けさせることを重視している。教員組織については実務家教員を積極的に登用し、カリキュラムについては教養教育に加えて、専攻に係る特定の職業の分野に関連する分野について学修する展開科目を設定する。また、社会の人材ニーズに即応した職業専門人を養成するにあたり、社会の要請等を学内へと不断に取り入れることは非常に重要で、教育課程連携協議会を通じて、そのような情報を入手し、教育課程に組み込むことが可能となっている。これらの専門職大学制度は本学においても当然遵守するものである。

### 2) 地域の実情と養成する人材像

本学が養成する人材像については、地域の実情を踏まえたものであり、まずその説明を行う。

地域包括ケアシステムは、入院患者の在院日数の短縮や施設生活から在宅生活への移行の推進により、病気や障害を抱えながら地域で生活する高齢者を対象として構築された。青壮年期の患者を対象とした医療は、救命・延命、治癒、社会復帰を前提とした「病院完結型」のものである。一方、高齢化社会においては、慢性疾患による受療が多くなり、患者の住み慣れた地域や自宅における生活のための医療、つまり、地域全体で治し、支える「地域完結型」への早期転換が必要となる。

特に滋賀県では、県南部の人口増加地域を除けば、深刻な高齢化社会が到来していることや、病院が散在していて公共交通機関が不便なこともあり、地域完結型のリハビリテーション医療が求められている。今後、重要となる医療の目標は、地域社会全体での健康寿命の延伸、すなわち、要介護人口の抑制であり、生涯を通じたヘルスプロモーションと、住み慣れた地域で自立して暮らすための地域包括ケア

システムの構築となる。

一方、日本理学療法士協会による会員分布調査（2018）では、理学療法士は約 78.7%が医療・介護分野の施設に集中し、滋賀県の就労状況も同様である。日本作業療法士協会の会員の就労状況調査（作業療法白書 2015）でも、作業療法士の 65.4%が、医療法関連施設に就職しており、滋賀県の就労状況も同様である。滋賀県保健医療計画 2018 では、今後、充実してほしい対策として、リハビリテーション専門職の福祉領域や教育、就労、地域づくりへの参入が期待されている。

このような課題を解決するために、滋賀県知事は、「健康」をキーワードとした政策を実施している。例えば、「健康しが」共創会議では、「健康」をキーワードに集まった企業がお互いに意見交換をし、新たなビジネスモデルを提案し合い、実践（地域の薬局と乳飲料の会社が協同で行う子供向けの健康教室など）している。このような中、リハビリテーション職への期待は大きく、2017 年度から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を対象に「地域共生社会」の実現に向けた人材育成研修会を行っている。

本学の特徴的な要素として、滋賀県唯一の理学療法士・作業療法士の養成教育機関として、県や県民からの要請を受けており、自治体の施策や社会の要請に応えるために、次のとおりの「養成する人材像」を設定した。

- ①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。
- ②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。

### 3) 本学のディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP) 及びカリキュラムの特色

以上の人材を養成するにあたり、卒業時に備えておくべき能力・資質を次のとおり DP に定めた。

- DP1：生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP2：地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる。
- DP3：理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる。
- DP4：地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる。
- DP5：専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる。

また、このような DP を達成するために、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則って、以下の 5 つの CP を定めた。

- CP1：倫理観に基づき人を尊重し、生涯にわたり自己研鑽し、地域住民の社会生活を支援できるようになるための科目を配置する。
- CP2：専門職に必要なコミュニケーション能力を有し、対象者や多職種と良好な対人関係を築くことができるようになるための科目を配置する。
- CP3：専門職として必要な専門的知識や技術を修得し、論理的思考に基づいた問題解決策を考案できるようになるための科目を配置する。
- CP4：自らの専門性を基盤とし、地域住民と地域社会の課題発掘と問題解決を実践できるようになるための科目を配置する。
- CP5：専門領域に関連する専門分野の知識を修得し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携して支援できるようになるための科目を配置する。

CP1 に対応する授業科目として、例えば「倫理学」や「心理学」がある。前者は、理学療法士・作業療法士としての倫理観や人間性の構築を学修し、後者は子どもから高齢者といった幅広い対象者の心理的側面を学修する。

CP2 に対応する授業科目として「コミュニケーション論」、「英語」及び「韓国語」がある。前者は、幅広い対象者とコミュニケーションを図る上での基本を学修し、後者の語学系科目は海外の方とのコミュニケーションを図る技術を身につける。また、両学科に共通する臨地実務実習において、学内で学んだコミュニケーション技術を対象者への関わりを通して実践する。

CP3 に対応する授業科目としては、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」などの理学療法・作業療法理論科目群や「運動療法学」及び「作業療法学総論」といった各学科の職業実践科目群がある。職業実践科目群は、理学療法、作業療法の理論に裏付けられた専門性を涵養するために十分な時間を配当するとともに、多くの実習科目については、担当教員を実務家教員とし、高度な実践力が身に付くよう配慮した。実務家教員は、より実践の理論に裏付けられた教育研究活動を展開することが可能であり、これは本学の教育の特色にもなっている。また、養成校で学修した知識・技術は、臨地実務実習を行うことにより、対象者に対して適切なリハビリテーションを提供する技術を学修する。

CP4 に対応する授業科目として展開科目を中心に配当した。1年次より授業科目を配当し、早い段階から地域共生社会の理念の理解を図る。両学科共に地域共生社会を理解するための必修科目を12単位とし、選択科目は、学生が希望するキャリアパスを想定した授業科目を配当した。これにより地域共生社会の実現に向けて、対象者を多様な視点から捉える能力を涵養し、保健・福祉・スポーツ・就労等の分野での支援の在り方について学修する。

CP5 に対応する授業科目として総合科目を主として配当した。例えば、「協働連携総合実習」は両学科の学生が合同で行い、お互いの専門性を小グループ内で議論し合うことを通して、理学療法や作業療法のスペシャリストとしての視点とジェネラリストとしての互いの違いを認めあう過程を学修する。これにより多職種を理解し、協業をしていくことの重要性を学修する。

このような教育を行うことで、地域共生社会の実現に向けて、医療保険制度や介護保険制度下に留まらない幅広いフィールドで、創造的な役割を果たすリハビリテーション専門家を養成することが本学の特色である。

#### 4) 実習における支援体制

実習の特性、支援・指導体制については、臨地実務実習、学内での実習科目、展開科目での実習科目の3点について記述する。

##### (1) 臨地実務実習

臨地実務実習は、両学科共に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則って、実習の全体を構成した。両学科共に学生が主体的に体験を通して学修ができるような実習の手引きを作成した。具体的な学修支援は、実習前には本学内での課題（実習前テスト、レポート、OSCE）を設定し、実習後には学生の到達度を確保するための課題（OSCE、レポート課題・発表）を設定した。各実習期間中は、実務家教員による巡回指導を充実させる一方、実習指導者とメール等で頻回に連絡をとることにより、十分な教学支援体制をとる。また、学修支援ツールとしての「manaba」を導入し、学生の時間外学修をサポートする。専門学校及び大学とびわこリハビリテーション専門職大学との臨地実務実習（臨床実習）の体制の違いを、本法人の設置校を例にして次の表のとおり示す。

##### 臨地実務実習（臨床実習）における違い（学校法人藍野大学の専門学校・大学・専門職大学の例）

	滋賀医療技術専門学校	藍野大学	びわこリハビリテーション 専門職大学
指導要領	2学科が、それぞれに作成し、実施	2学科が、それぞれに作成し、実施	2学科が、1つの枠組みとして、統一したものを作成し実施
学修	担当症例を通じた、臨床思考過程を中心とした学修	担当症例を通じた、臨床思考過程を中心とした学修	「臨床参加型」の学生の体験を中心とした学修
実習前後の 課題設定	未実施	実習前（実技や臨床思考過程の演習）のみ実施	実習前（実習前テスト、レポート、OSCE）、実習後（OSCE、レポート課題・発表）を実施

##### (2) 学内での実習科目

学内での実習科目（展開科目での実習除く）は、理学療法学科では23科目、作業療法学科では25科目とした。職業専門科目における実習は、実務家教員が学生にデモンストレーションを行い、学生同士で技術を実施し、確認し合うことを多く設けるといった特徴がある。また、総合科目の「協働連携論総合実習」は、地域在住の障がい者を授業に招聘し、当事者のインタビューから両学科合同でグループワークを実践する。両学科の学生が合同で議論することにより、多職種との連携について自らの専門性に基づいた支援を考えることを意図している。このような授業形態も、本学の特色であるとともに、専門職展開という点で創造的な取り組みと考えている。

##### (3) 展開科目での実習科目

展開科目での実習は、地域共生社会を理解するための実習として「障がい者スポーツ論実習」、「健康増進実践実習」、「児童期地域社会適応論実習」、「成人期地域社会適応論実習」及び「老年期地域社会適応論実習」を配当した。これらの実習は、理学療法士、作業療法士が未だ介入できていない領域

で、他領域の指導者による実習を経験することで、キャリアパスにおける創造性を養うことを目的としている。

以上、3つの特色のある実習を経験することで、地域共生社会で活躍できる創造的なリハビリテーション人材を養成することが特色となっている。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通 理学療法学科 是正事項4、作業療法学科 是正事項4】

3. 【全体計画審査意見6の回答について】 <入学意向調査の適正性が不明確>

高校2年生や施設等職員を対象に入学意向調査を実施し、その結果をもって学生確保の見通しを説明しているが、入学者選抜方法に照らして、入学を想定している者を対象として適切に調査・分析がなされているか不明確であることから、明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項4、作業療法学科 是正事項4】

(対応)

本学が、高校2年生および施設等職員を対象として行った「藍野専門職大学」(仮称)設置に関するニーズ調査結果報告書が、入学意向調査としての適正性が不明確であるとのこと指摘を受け、再度その適正性及び学生確保の見通しを述べる。

なお、是正事項1(2)の対応として、社会人入試におけるアドミッション・ポリシーとの対応関係見直しに伴い、関連する他の入試区分においても見直しを行ったため、その概要を説明する。

## 1) 高校2年生、施設等職員に対する入学意向調査

### (1) 入学意向調査の概要

「藍野専門職大学」(仮称)設置に関するニーズ調査 結果報告書(資料1-1 高校生対象調査 施設等職員対象調査)は、「藍野専門職大学 臨床リハビリテーション学部」に対する進学需要を確認するために、2018年7月2日から2018年9月7日の期間にアンケート調査を実施した。

公正性を担保するために第3者機関に調査を依頼した。同様の調査実績のある「株式会社進研アド」を選んだ。入学意向調査で高校生2年生を対象にした理由は、アドミッション・オフィス(以下、「AO」と呼ぶ。)入試、指定校及び公募制推薦入試、一般入試を受験する生徒を想定したからである。一方、施設における多職種を対象としたのは、社会人推薦入試を想定したからである。本学が想定した社会人推薦入試の対象者とは、以下に示すとおりである。

#### 本学が入学を想定する社会人

- ①キャリアアップ及びスキルアップを目的としたリハビリテーションと関連の深い周辺領域の職種  
介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、特別支援学校教員、アスレティックトレーナー、福祉施設職員、医療事務職員等
- ②資格の多重取得を目的とした看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の医療従事者
- ③キャリアチェンジを目的とした全く異なる職種からの転職者

この中の①と②に属する者は、本学が社会人入学者として想定した主な職種であり、その多くが医療・介護・福祉関係の施設、特別支援学校等で働いているため、これらを総称して「施設等職員」と表現した。また、③については、あらゆる職種が考えられ、且つ、ごく少数であるため、調査は困難と判断した。そのような経緯から、社会人を対象とした調査結果報告書のタイトルが「施設等職員に対する入学意向調査」となった。

なお、調査終了後の2019年3月の補正申請で大学名及び学部名を変更したため、本学の大学名での調査ではなくなるが、調査時に対象者に配布したリーフレットには、藍野専門職大学（仮称、設置構想中）、また、学部名についても同様に「臨床リハビリテーション学部」（仮称、設置構想中）と記していることから、大学名や学部名から想起される内容や職業へのイメージへの影響は少ないと考えている。

## （2）高校生対象に行った調査・分析

### ①アンケート調査に関する一般的事項

調査は、本学が学生確保における主要なエリア（近畿地方と中部地方・北陸地方の一部）に所在する高校の進路指導課に対し依頼し、承諾が得られた54校に送付し、高校留置き調査を行った。

### 回収状況

依頼校数54校、9,490名に対し、回収数が3,817名（回収率40.2%）であった。  
性別は、男性47.2%、女性52.2%であった。

### 高校卒業後の希望進路

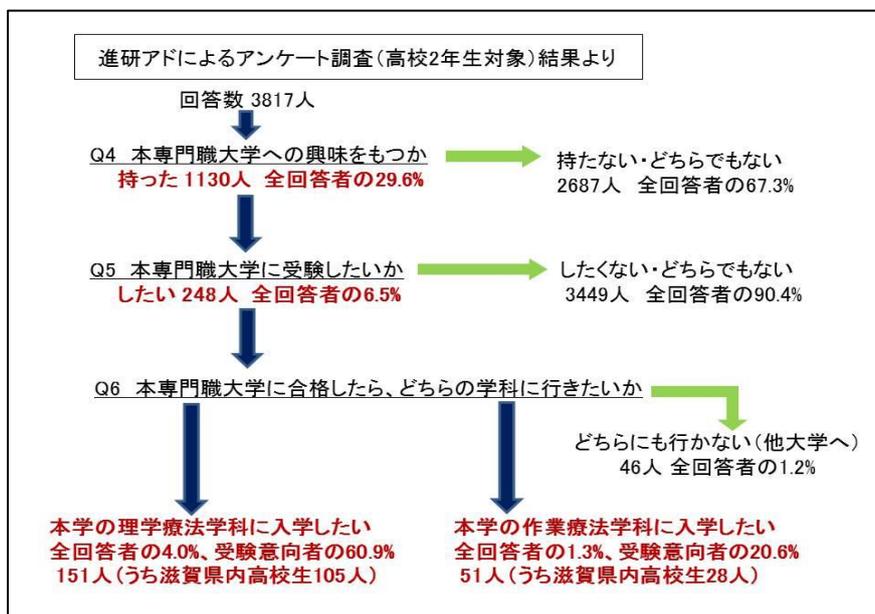
高校卒業後の希望進路では、複数回答の質問形式で、就職（22.8%）、その他（2.4%）、無回答（0.8%）となり、これらを合計すると26.0%、つまりそれ以外の74.0%は、進学希望を示していると考えられる。進学先の希望は、国公立大学32.6%、私立大学36%、専門職大学6.0%、短期大学11.7%、専修学校・専門学校31.8%であった。

### 興味のある学問系統

興味のある学問系統について「看護学」の13%にらび、「医療技術・リハビリテーション学」は12.5%、「スポーツ・体育・健康科学」12.1%と上位の比率をしめして、高校生にとって関心が高いと言える。

### ②調査結果から本学への受験意向・入学意向を分析

調査結果から本学への受験意向・入学意向に関する結果は下図のとおりである。



まず、興味度に関する質問に対して、設置構想中の本専門職大学に「興味をもった」と答えた人は29.6%、次に「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）への受験意向に関する質問に対して、「受験したいと思う」と回答した人は248名（6.5%）であった。この248名のみを抽出して、本専門職大学に合格した場合の入学意向を聞いたところ、「臨床リハビリテーション学部理学療法学科に入学したい」151名（60.9%、全回答者の4.0%）で、「臨床リハビリテーション学部作業療法学科に入学したい」51名（20.6%、全回答者の1.3%）であった。入学希望しない（すなわち、他大学に行く）と答えた生徒は46名であった。本学の理学療法学科80名、作業療法学科40名の定員に対し、入学定員以上（理学療法学科1.89倍、作業療法学科1.28倍）の実数を得ることができた。

本学近隣の滋賀県・湖北・湖東・湖南・甲賀地区における高校生と中学生（本学設置5年後まで）の人口推移に関する表を以下に示す。18歳人口が数年先まで維持されていることが分かる。上記の調査結果で得られた比率をもとに計算すると、この地域から理学療法でおおよそ500名、作業療法で160名が、本学受験を希望し、更に入学意向を表明していることになる。なお、これらの地域の中で、特に東近江市に南接する滋賀県湖南地域は、全国的に稀な、18歳人口増加地域である。特に東近江市に南接する滋賀県南部地域は現在、全国的にまれな18歳人口増加地域である。（「平成30年度学校基本調査 滋賀県/第26表高等学校学年別生徒数」より抽出作成した以下の表中の四角囲み部分）

計算式：入学意向者予測値＝（対象地域の高校2年生人口）×（本学への受験意向・入学意向者比率）

理学療法学科 12,464名×4.0%＝498.6名

作業療法学科 12,464名×1.3%＝162.0名

滋賀県湖北・湖東・湖南地域の高等学校・中学校生徒数（開設5年目までを想定）

平成30年5月1日現在  
単位：人

区分	学校数		全 日 制															専攻科	別科
	計	全日制	本 科									3 学 年							
			計			1 学 年			2 学 年			計			3 学 年				
			計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女		
大津市	13	10	9,725	4,947	4,778	3,278	1,667	1,611	3,278	1,676	1,602	3,169	1,604	1,565	-	-			
彦根市	6	5	4,797	2,832	1,965	1,617	957	660	1,584	832	652	1,596	943	653	-	-			
長浜市	5	4	3,058	1,475	1,583	992	471	521	1,058	514	544	1,008	490	518	-	-			
近江八幡市	4	4	3,461	1,832	1,629	1,184	634	550	1,187	631	556	1,090	567	523	-	-			
草津市	6	5	4,674	2,400	2,274	1,621	817	804	1,564	835	729	1,489	748	741	-	-			
守山市	3	3	2,292	1,159	1,133	804	394	410	767	407	360	721	358	363	-	-			
栗東市	2	2	1,414	618	796	486	216	270	459	186	273	469	216	253	-	-			
甲賀市	4	4	1,942	1,043	899	676	355	321	633	345	288	633	343	290	-	-			
野洲市	1	1	437	238	199	160	83	67	139	74	65	138	71	67	-	-			
湖南市	2	2	1,113	507	606	361	157	204	381	157	224	371	193	178	-	-			
東近江市	4	3	2,264	1,148	1,116	791	399	392	738	389	349	735	360	375	-	-			
米原市	2	2	1,186	667	519	391	214	177	401	198	203	394	255	139	-	-			
日野町	1	1	470	228	242	160	87	73	158	71	87	152	70	82	-	-			
竜王町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
愛荘町	1	1	345	138	207	121	54	67	117	46	71	107	38	69	-	-			
豊郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
甲良町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
多賀町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
合 計	54	47	37,178	19,232	17,946	12,642	6,515	6,127	12,464	6,461	6,003	12,072	6,256	5,816	-	-			
						専門職大学 開設2年目対象			専門職大学 開設年度対象										

出所：「平成30年度学校基本調査（滋賀県/第26表 高等学校 学校数、学部数および学年別生徒数）」より、抽出し作成

## 中学校

単位：人

区 分	学 校 数			生 徒 数											
	計	本校	分校	計			1 学 年			2 学 年			3 学 年		
				計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
大 津 市	18	18	-	8,771	4,467	4,304	2,810	1,440	1,370	2,901	1,450	1,451	3,060	1,577	1,483
彦 根 市	7	7	-	3,055	1,575	1,480	994	513	481	1,000	518	482	1,061	544	517
長 浜 市	12	12	-	3,348	1,720	1,628	1,090	562	528	1,158	592	566	1,100	566	534
近江八幡市	4	4	-	2,061	1,020	1,041	700	361	339	656	322	334	705	337	368
草 津 市	6	6	-	3,363	1,752	1,611	1,098	564	534	1,152	597	555	1,113	591	522
守 山 市	4	4	-	2,685	1,378	1,307	865	443	422	900	453	447	920	482	438
栗 東 市	3	3	-	2,112	1,132	980	688	402	286	721	364	357	703	366	337
甲 賀 市	6	6	-	2,475	1,300	1,175	799	422	377	806	420	386	870	458	412
野 洲 市	3	3	-	1,377	750	627	441	246	195	502	265	237	434	239	195
湖 南 市	4	4	-	1,450	763	687	459	223	236	487	256	231	504	284	220
東 近 江 市	9	9	-	3,154	1,610	1,544	1,021	521	500	1,079	556	523	1,054	533	521
米 原 市	7	7	-	1,057	552	505	349	181	168	342	182	160	366	189	177
日 野 町	1	1	-	548	265	283	178	82	96	187	90	97	183	93	90
竜 王 町	1	1	-	320	184	136	119	70	49	78	42	36	123	72	51
愛 荘 町	2	2	-	644	322	322	222	117	105	217	106	111	205	99	106
豊 郷 町	1	1	-	215	98	117	72	37	35	74	28	46	69	33	36
甲 良 町	1	1	-	179	89	90	45	24	21	64	26	38	70	39	31
多 賀 町	1	1	-	200	110	90	74	40	34	55	35	20	71	35	36
	90	90	-	37,014	19,087	17,927	12,024	6,248	5,776	12,379	6,302	6,077	12,611	6,537	6,074
							専門職大学 開設5年目対象			専門職大学 開設4年目対象			専門職大学 開設3年目対象		

出所：「平成30年度 学校基本調査（滋賀県/第17表 中学校 学校数、学級数および学年別生徒数）」より、抽出し作成

## ③ 学生確保の見通しを裏付ける他の判断材料

## 滋賀医療技術専門学校の実績

滋賀医療技術専門学校の実績から考えると、直近3年間の平均は、理学療法学科の志願者数が87名であり、単純にみると本専門職大学の入学定員を上回る。滋賀医療技術専門学校では、成績不良者を避けるために入学許可を7割程度に絞っているが、「理学療法士になりたいが、専門学校だからという理由から進学先として検討にならない場合も多いため、大学になればもっと成績の良い受験者数が増える」と予想する高校進路指導者も多い。また、滋賀医療技術専門学校を受験し合格しても、実際には入学しなかった受験生が毎年数名～10名程度存在する。これまでに直接事情を聞くことが可能だった辞退者にヒアリングしたところ、「A大学またはB大学にも合格したので『大学』に行きたい、しかも京都の大学は自宅通学できるので」という辞退理由であった。これらのことから、本学が設置されれば、現役高校生の入学希望者は、滋賀医療技術専門学校の時よりも増加すると見通しを立てている。

## 通学手段に関する地域事情

地域の特性として、世帯当たりの車保有台数の多いこと、高校卒業時に免許取得する人が多いことから、駅まで自家用車・バイクで行き、そこからJRなどで長時間通学する学生も多い。

前身の滋賀医療技術専門学校では、約35%の生徒が自家用車（4輪）にて通学している状況である。友人同士で乗り合うケースや2輪バイクで通学する生徒も考慮すると、約半数の生徒が公共交通機関以外の方法で通学していることになる。実際に、学校まで最寄りのJR能登川駅から通学バスで約30分

かかるため、車やバイクを利用することで学校まで最短距離で移動でき、本学は、学生が利用できる駐車場を用意しているため、通学にかかる時間を大幅に短縮できる。立地の不便さは支障がないものと考えている。

## 競合大学との関係

京都・大阪北部・三重県隣接地域の 11 大学リハビリテーション系学部における志願者倍率は、各大学のホームページによると、理学療法学科の倍率 2.9～19.8%、作業療法学科の倍率 1.4～19.9%となっており、競合大学同学科の入学定員は充足していることから、4 年制大学への進学需要は、供給を超えていることが分かる。さらに、競合する可能性のある大学に比べ、本学の学費は 4 年間合計で 520 万円であり、競合大学と比較して 97 万円以上安価であり、進学先を選択する際には、経済的負担が少ないという点は優位に働くと考える。

## 競合の志願者倍率

### 理学療法学科

大学名	所在地	入学定員	2016 年		2017 年		2018 年	
			志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率
佛教大学	京都市中京区	40	1,153	28.8	952	23.8	616	15.4
京都橘大学	京都市山科区	66	986	14.9	1,154	17.5	1,307	19.8
藍野大学	大阪府茨木市	80	469	5.9	263	3.3	230	2.9
大和大学	大阪府吹田市	40	645	16.1	689	17.2	724	18.1
大阪人間科学大学	大阪府摂津市	60	374	6.2	307	5.1	242	4.0
大阪保健医療大学	大阪市北区	70	306	4.4	195	2.8	217	3.1
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	60	792	13.2	722	12.0	712	11.9
大阪電気通信大学	大阪府四条畷市	40	99	2.5	71	1.8	116	2.9
中部学院大学	岐阜県関市	60	191	3.2	134	2.2	276	4.6
鈴鹿医療科学大学	三重県鈴鹿市	40	251	6.3	264	6.6	276	6.9

### 作業療法学科

大学名	所在地	入学定員	2016 年		2017 年		2018 年	
			志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率	志望者数	志願倍率
佛教大学	京都市中京区	40	490	12.3	423	10.6	429	10.7
京都橘大学	京都市山科区	40	—	—	—	—	796	19.9
藍野大学	大阪府茨木市	40	161	4.0	97	2.4	75	1.9
大和大学	大阪府吹田市	40	417	10.4	448	11.2	489	12.2
大阪保健医療大学	大阪市北区	30	89	3.0	75	2.5	41	1.4
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	40	244	6.1	381	9.5	305	7.6

## ○学費の状況

びわこリハビリテーション専門職大学（本学）

リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	実験実習費	施設設備費	合計
初年度	400	900	100	200	1,600
2年次以降	—	900	100	200	1,200
				4年間の合計	5,200

類似の大学の学費（出所：各大学のホームページより抽出）

単位：千円

大学名	区分	入学金	授業料（年額）	施設設備費など	合計	本学との差異
佛教大学	初年度	170	1,380	400	1,950	+350
	2年次以降	—	1,380	400	1,780	+580
	4年間の合計				7,290	+2,090
京都橘大学	初年度	250	1,200	280	1,730	+130
	2年次以降	—	1,200	280	1,480	+280
	4年間の合計				6,170	+970
大和大学	初年度	180	1,150	400	1,730	+130
	2年次以降	—	1,150	400	1,550	+350
	4年間の合計				6,380	+1,180
森ノ宮医療大学	初年度	250	1,200	280	1,730	+130
	2年次以降	—	1,200	280	1,480	+280
	4年間の合計				6,170	+970

### （3）施設等職員を対象に行った調査・分析

調査は、滋賀県を中心とした近畿エリアの施設等に依頼し、承諾が得られた 47 施設へ調査票を送付し、郵送にて回収した。依頼数は 47 施設 959 名に対して、回収数 622 名（回収率 64.9%）であった。

#### ①調査の一般的事項・対象者属性

勤務地は、滋賀県（87.5%）が約 9 割を占め、次いで京都府（9.6%）となり、本学への通学が可能な範囲に所在する施設が大半であった。対象者の性別は、男性 33.1%、女性 65.9%で、回答者の年齢は、20代（25.9%）、30代（30.5%）、40代（22.7%）、50代（16.6%）、となり、20代から50代の男性・女性の意向を反映している。なお、回答者の最終学歴は、四年制大学 29.9%、次いで高等学校 22.5%、専門学校 22.0%の順で多かった。

#### ②「学び直しへの関心」及び「本専門職大学への魅力度」について

資格取得や専門知識・スキルアップのために大学や専門学校に入学し、「学び直し」することに関心があるかという質問に対し、「関心がある」と回答した人は 59.2%であった。前述した本学が想定する社会人入学者を対象は、予想通り「学び直しへの関心」がある結果となった。

「藍野専門職大学」（仮称、設置構想中）の特色に対する魅力度について、A～E すべての項目について、「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」と回答した人が 8 割を超えている。対象者が、本学の領域に関心の高い人であるため、魅力度は高くなると予測していたが、想定を上回る高い結果であり、本学の特色に加え、社会人においても専門職大学という新しい制度への期待は大きく、結果を押し

上げるほうへ影響したと考えた。

### ③調査結果での本学への受験意向・入学意向

受験意向については、「受験したい」と回答した人は230名（37%）であった。

この230人のみを抽出して、入学意向を示した人数をみると、全体で207名（90%）が、受験して合格したら入学したいと回答している。さらに詳細にみていくと、「理学療法学科に入学したい」と回答した人は139名（60.4%）、現在の職種別では、介護福祉士29名、介護支援専門員10名、作業療法士8名、看護師8名の順で多かった。「作業療法学科に入学したい」と回答した人は69名（30.0%）、現在の職業別では、介護福祉士15名、教員13名、医療事務職員5名、理学療法士2名の順で多かった。

この結果から、理学療法学科と作業療法学科に共通していたのは、介護福祉士が最も多かったこと、すでに何らかの資格を取得している人が多く、多重資格取得を目指している人が多かったことである。違いは、理学療法学科では看護師と介護支援専門員が多いこと、作業療法学科は教員（特別支援学校）、医療事務職員が多いことであった。

本調査では、「受験したい」と回答した人230名（理学療法学科139名、作業療法学科69名）であったが、対象者の年齢は20代から50代であり、学び直しの時期やタイミングは、就学するための条件が整わないと難しいと思われ、受験のタイミングには幅があると捉えるほうが妥当と考え、下方修正する必要があるが、「学び直したい」というニーズが高いこと、受験までこぎつければ、合格したら入学する意欲が高い集団が存在し、長期にわたり一定数の入学者は確保できると想定している。

### ④調査を裏付ける他の判断材料

前身の滋賀医療技術専門学校の直近3年間の社会人入試・学士入試の状況は下表の通りである。社会人（社会人の経験を持つ者+大卒の者）の受験者数（社会人入試と学士入試受験者数の合計）の平均は、19.7名（理学療法学科11.3名、作業療法学科8.3名）で、合格者すれば全員必ず入学している。

滋賀医療技術専門学校 社会人入試・学士入試状況

	理学療法学科			作業療法学科		
	受験者	合格者	入学者	受験者	合格者	入学者
2018年	8	4	4	5	3	3
2017年	11	8	8	9	9	9
2016年	15	6	6	11	11	11

これらの結果をもとに、本学が社会人枠として想定した理学療法学科8名程度、作業療法学科4名程度の入学者の確保の見通しは立っているものとする。

## 2) 入学者選抜方法の概要

是正事項1（2）の対応として、社会人入試におけるアドミッション・ポリシーとの対応関係見直しに伴い、関連する他の入試区分においても見直しを行った。その内容を次に記述する。

### （1）入学者選抜方法における指定校推薦入試の追加、学校推薦の入試区分名称の変更及び一般試験の学力試験の変更

入学者選抜は、本学のアドミッション・ポリシーに見合う、医療専門職業人としての目的意識が明確で、学習意欲の高い、大学教育を受けるにふさわしい能力をもった人材を選考するために実施するものである。そこで、2019年3月の補正申請では、AO入試、公募制推薦入試（学校推薦、社会人推薦）、一般入試の4つの入試区分で選考を行うとしていたが、入学者選抜にも多様性をもたせ、受験者を多面的・総合的に評価する目的で、学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康であることを出身学校長が保証することを前提とした「指定校推薦入試」を追加する。なお、指定校の選定基準は、原則として、本学に通学可能な地域に所在し、本学への入学希望のニーズが高い学生がいる高校とし、約20～30校に指定校推薦枠を設ける。実際には、前身の滋賀医療技術専門学校における入学者が過去数年に合計数名以上存在する高校からの入学実績、成績、卒業実績を参考に選定する。

また、2019年3月の補正申請において、「公募制推薦入試」に「学校推薦」と「社会人推薦」の2つの入試区分を設けていたが、「公募制推薦入試」を「推薦入試」に変更し、推薦入試の中の入試区分を「指定校推薦入試」、「公募制推薦入試」及び「社会人推薦入試」の3つに再編成した。変更することにより、受験生にとって、本学の入試区分がより分かりやすくなり、多様な選抜方法から選ぶことができるようになること、本学にとっては、アドミッション・ポリシーに見合う学生を異なる選抜方法から多面的に評価し、選考できる点でメリットがあると考えられる。

一方、一般試験の学力試験の実施方法を 国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ及びⅡから1科目選択、数学Ⅰ、物理基礎及び生物基礎から1科目選択する2科目としていたが、入試による選択科目の試験の難易度を統一することは難しく、より多様な人材を確保するために以下の通り変更する。コミュニケーション能力を評価する文系科目（国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題）と職業に直結する知識を評価する理系科目（数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題）に分け、それぞれで出題された問題の中から、受験者が（科目ではなく）問題単位で選択して回答する方式とする。この変更により、得意な科目を1科目あるいは複数科目を選択させることによって、多様な人材を確保する。

以上の、変更を踏まえ、募集定員をリハビリテーション学部理学療法学科は80名、リハビリテーション学部作業療法学科は40名として、AO入試、指定校推薦入試、公募制推薦入試、社会人推薦入試、一般入試の5つの区分で実施する。募集人員の想定は、次の通りで、AO入試では、理学療法学科8名、作業療法学科4名とし、推薦入試では、全体の募集定員の4割とし、指定校推薦入試（理学療法学科16名程度、作業療法学科は8名程度）、公募制推薦入試（理学療法学科8名程度、作業療法学科は4名程度）、社会人推薦入試（理学療法学科8名程度、作業療法学科は4名程度）を想定している。また、複数の入試区分を設けているため、可否の判定は多面的かつ合理的な根拠をもって公正に行われるように配慮する。

各入試区分の概要と選考の方法は次の通りである。

## AO入試

調査書とエントリーシート、グループディスカッションを通して、学力試験では測ることができない学生の意欲・適性をもとに判定する。部活動などの活動業績やボランティア活動、検定資格なども評価し、選考する。このグループディスカッションは、与えられたテーマをもとにディスカッションさせてAP2からAP4の項目ごとに評価する。

## 指定校推薦入試

本学が指定する高等学校の卒業見込者で、学業成績・人物ともにきわめて優れ、心身ともに健康であると出身学校長が責任を持って推薦できる者について、高校長からの推薦書、調査書、志願理由書、個人面接を行い、選考する。AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。

## 公募制推薦入試

高等学校の卒業見込の者、または、前年 3 月に卒業した者で、学業成績・人物面における優等性について高校長の推薦のもとに、調査書、志願理由書、グループディスカッション、個別面接を行い、選考する。AP 各項目が判断できるように推薦書や志願理由書には記載内容を指示する。

## 社会人推薦入試

入学時において社会人経験を 1 年以上有する者（パートタイム・アルバイトの実務経験を含む）で、社会人としての豊かな経験と学び直しの意欲・適性を自己推薦書、個別面接、小論文（課題を読んでそれに対応して論じさせる）をもとに選考する。

## 一般入試

志願理由書と学力試験をもとに選考する。学力試験は、文系科目（国語総合、コミュニケーション英語 I・II から出題）と理系科目（数学 I、物理基礎、生物基礎から出題）に分ける。文系科目は、コミュニケーション能力や理解力・表現力を見極めるためのもので、理系科目はリハビリテーション専門職にとって重要な理系の基礎知識を問うものである。いずれも出題全問を提示し、問題ごとに選択できる方式とし、得意な科目を 1 科目あるいは複数科目を選択させることによって、多様な人材を確保する。

## (2) 入学者選抜の具体的な方法

### 理学療法学科

入試区分	AO 入試	推薦入試			一般入試
		指定校 推薦入試	公募制 推薦入試	社会人 推薦入試	
募集人数	8 名	32 名			40 名
専願/併願	専願	専願	専願/併願	専願	併願
選抜方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④個人面接	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④グループディスカッション ⑤個人面接	①自己推薦書 ③個人面接 ④小論文	①志願理由書 ②学力試験 文系科目(国語総合、 コミュニケーション 英語 I・II から出題) 理系科目(数学 I、物 理基礎、生物基礎から 出題) ※両科目とも出題か ら、選択して回答

作業療法学科

入試区分	AO 入試	推薦入試			一般入試
		指定校 推薦入試	公募制 推薦入試	社会人 推薦入試	
募集人数	4名	16名			20名
専願/併願	専願	専願	専願/併願	専願	併願
選抜方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④個人面接	①推薦書 (学校長による) ②調査書 ③志願理由書 ④グループディスカッション ⑤個人面接	①自己推薦書 ②個人面接 ③小論文	①志願理由書 ②学力試験 文系科目(国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱから出題) 理系科目(数学Ⅰ、物理基礎、生物基礎から出題) ※両科目とも出題から、選択して回答

なお、この入学者選抜方法は、高大接続改革の一環としての大学入学共通テストが導入されるまでを想定しており、その後は試験実施方法等については見直しを行う予定である。

## 【教育課程等】

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 改善事項5、作業療法学科 改善事項5】

### 4. 【全体計画審査意見7の回答について】 <シラバス上の到達目標が不明確>

「英語Ⅱ」のシラバスにおける到達目標について、授業の終了段階で身に付けていることが期待される行動・能力をより具体的に明示することが望まれる。

(対応)

「英語Ⅱ」のシラバスの授業概要到達目標では、「英語4技能の向上」、「応用的な読解力」、「リスニング力」、「異文化理解力」及び「積極性を身に付けること」などと記載したが、指摘を受け、授業の終了段階における到達目標としては、抽象的であったものと認識した。そのため、「授業の終了段階で身に付けていることが期待される行動・能力」を『「読み、書き、リスニング、スピーキング」を職場を含む社会生活で実践できる』と定めることで、本改善事項への対応とする。

資料4-1：シラバス（英語Ⅱ）変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス 英語Ⅱ 授業概要到達目標

新	旧
<p>グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために、<u>また、基礎的な英語4技能の向上と幅広い知識の習得のために、テキストを利用しながら様々なケースについて知識を得るとともに、臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら、実践的に学ぶ機会を提供する。</u></p> <p><u>日常的に接する「読み、書き、リスニング、スピーキング」に気づかせる教材を利用し、基礎的文法、構文、語彙、慣用表現を復習・認識させながら、「読み、書き、リスニング、スピーキング」を職場を含む社会生活で実践できるようになるための基礎的な英語力を修得する。</u></p>	<p>グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。</p> <p>語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項6(1)、作業療法学科 是正事項6(1)】

5. 【全体計画審査意見9の回答について】 <総合科目の実施方法等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。

- (1) 本学では、「教員から学生への口頭による学習内容の伝達を踏まえた上で、課題などによつて学修を深める科目」を「演習」、「理学療法、作業療法の評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目」を含む「授業で学習した手技・手法について体験を通して学ぶ科目」を「実習」と定義しているが、「理学療法総合演習／作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」のシラバスの記載は、その違いが不明確であることから、授業形態の定義を踏まえた適切な記載に改めること。

(対応)

総合科目の実施方法等が不明確とのご指摘を受け、シラバスの内容を改めて確認したところ、「理学療法総合演習」は、理学療法の「評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目」であり、実習の定義に該当するため、授業形態を演習としていたことが不適切であった。そのため、授業科目名称を「理学療法総合演習」から「理学療法総合実習」に改めるとともに、授業形態を「演習」から「実習」に改め、そのことがより分かるように、資料5-1のとおり、シラバスの「授業概要到達目標」を修正する。

また、「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」については、作業療法の「評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目」であり、実習の定義に合致するが、そのことがより分かるように、資料5-2、資料5-3のとおり、シラバスの「授業概要到達目標」を修正する。

資料5-1：シラバス（理学療法総合実習）変更後・変更前

資料5-2：シラバス（作業療法総合実習Ⅰ）変更後・変更前

資料5-3：シラバス（作業療法総合実習Ⅱ）変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス 科目名及び授業形態

新		旧	
科目名	授業形態	科目名	授業形態
理学療法総合実習	実習	理学療法総合演習	演習

(新旧対照表) シラバス 授業概要到達目標

科目名	新	旧
理学療法総合実習	<p>本科目では、<u>展開科目で学んだ知識と、職業専門科目から得た知識や技術に基づいて、地域共生社会の実現に向けて、地域社会が抱える課題を検討し、その課題に対して取りうるアプローチとその効果について情報を整理する。そして、整理した情報に基づき、地域が抱える固有の課題を発見し、ディスカッションを通して、調査・研究計画を立案していく。さらに、調査・研究結果を発表するとともに、得られた結果から、展開科目や職業専門科目で学んだことを応用・展開させ、地域課題を解決するためのプロジェクトについても企画する。</u></p>	<p>本科目では、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え、学ぶ授業である。地域が抱える課題については、各自が選択した分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画する。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてる。それをもとに、グループワークを行い、理学療法と隣接領域での知識、技術を融合し、それを地域社会の中で応用し活用できる力を育成する。</p>
作業療法総合実習Ⅰ	<p>これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することを目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるかを発見するために、<u>作業療法評価を応用・活用する方法について学修する。これまでの展開科目や実習で得た情報、事例を基にグループワークを通じて、作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学修する。</u></p>	<p>これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのかを発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。</p>

科目名	新	旧
作業療法総合実習Ⅱ	<p>本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談(事例)から、<u>地域障害者の課題をグループごとに発見し、分析すること</u>で応用力を育成する。</p>	<p>本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力を育成する。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項6(2)、作業療法学科 是正事項6(2)】

5. 【全体計画審査意見9の回答について】 <総合科目の実施方法等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。

- (2) 「理学療法総合演習／作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」について、複数の教員が担当するが、教員と学生の割り振りをどのようにするかなど、具体的な実施方法が不明確であることから、明確に説明すること。

(対応)

ご指摘を受け、シラバスの内容をあらためて確認したところ、「理学療法総合実習(補正申請時:理学療法総合演習)」及び「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」について、具体的な実施方法が不明確な記載となっていた。教育と学生の割り振りを含めた具体的な実施方法については、それぞれ次のとおりであり、シラバスの各回の内容等についても資料5-1、資料5-2、資料5-3のとおり改める。

資料5-1: シラバス(理学療法総合実習) 変更後・変更前

資料5-2: シラバス(作業療法総合実習Ⅰ) 変更後・変更前

資料5-3: シラバス(作業療法総合実習Ⅱ) 変更後・変更前

### 1) 理学療法総合実習(補正申請時:理学療法総合演習)の実施方法

理学療法学科の学生80名を17グループに分け、1グループ(学生数4~5名)につき1名の専任教員を配置し、ゼミ形式で進める。また、本授業科目の学生数は40名(40名×2教室、合計80名)を1教室当たりの最大学生数としており、80名を1教室で授業を行うことはなく、担当教員は、8名と9名に分かれて行う。教室全体で行う回とグループで行う回は次のとおりであり、オリエンテーションの回とプレゼンテーションの回以外はグループ単位で行う。

1教室40名全体で行う回 : 第1回、第12回、第13回

5~6名グループで行う回 : 第2~第11回、第14回、第15回

本授業科目では、グループで問題解決の方法を考案し、解決策を検討・提案できることを目標としている。グループにおいて情報を整理し、問題点を抽出し、調査・研究計画の検討、立案を行うとともに、プロジェクトの企画までを行う。チームとして意見交換しやすく、各学生が活躍・貢献可能な人数であることを考慮し、4~5名とした。

### 2) 作業療法総合実習Ⅰの実施方法

作業療法学科の学生40名を1グループ5名の8グループに分け、2グループにつき1名の専任教員(総計4名)を配置し、グループワーク形式で進める。本科目の担当教員は5名であり、残りの1名は、総合的な指導・統括を行う位置に配置する。教室全体で行う回とグループで行う回は次のとおりであり、オリエンテーションの回と発表の回以外はグループ単位で行う。

- 1 教室 40 名全体で行う回 : 第 1 回、第 10 回～第 13 回  
5 名グループで行う回 : 第 2 回～第 9 回、第 14 回、第 15 回

本授業科目ではグループでの問題の抽出、アプローチ法の検討、発表、レポート作成をチームで行う。そのため、一人一人が意見交換しやすく、各人が活躍・貢献出来る人数として 1 グループ 5 名に設定した。また、第 10 回～第 13 回の発表に関しては、20 分発表、20 分質疑応答、5 分間は統括する教員からのフィードバックの時間とする。発表時には、グループ担当教員が発表時の座長を務め、発表内容の補足説明等を行い、グループ発表における学生の理解を深める。また、5 名で行うグループ実習においては、少人数ということで、役割の確立や意見交換が行いやすい状況を作ることで、互いに知識や技術、その他得た情報の共有を行いながら応用・発展した問題点の発見、解決策の模索を行っていく。担当教員は情報交換や、検討時にファシリテータとして適宜関与しながら進めていく。

### 3) 作業療法総合実習Ⅱの実施方法

作業療法学科の学生 40 名を 1 グループ 5 名の 8 グループに分け、2 グループにつき 1 名の専任教員（総計 4 名）を配置し、グループワーク形式で進める。本授業科目の担当教員は 5 名であり、残りの 1 名は、総合的な指導・統括を行う位置に配置する。教室全体で行う回とグループで行う回は次のとおりであり、オリエンテーションの回と発表の回以外はグループ単位で行う。

- 1 教室 40 名全体で行う回 : 第 1 回～第 3 回、第 10 回～第 13 回  
5 名グループで行う回 : 第 4 回～第 9 回、第 14 回、第 15 回

本授業科目では地域生活障がい者の体験談を聞くことで、疾患や障害を抱えながら地域生活障がい者としての生活像や障害像をイメージした後、グループでの問題の抽出、アプローチ法の検討、発表、レポート作成をチームで行う。そのため、一人一人が意見交換しやすく、各人が活躍・貢献出来る人数として 1 グループ 5 名に設定した。また、第 10 回～第 13 回の発表に関しては、20 分発表、20 分質疑応答、5 分間は統括する教員からのフィードバックの時間とする。発表時には、グループ担当教員が発表時の座長を務め、発表内容の補足説明等を行い、グループ発表における学生の理解を深める。また、5 名で行うグループ実習においては、少人数ということで、役割の確立や意見交換が行いやすい状況を作ることで、互いに知識や技術、その他得た情報の共有を行いながら応用・発展した問題点の発見、解決策の模索を行っていく。担当教員は情報交換や、検討時にファシリテータとして適宜関与しながら進めていく。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項6(3)、作業療法学科 是正事項6(3)】

5. 【全体計画審査意見9の回答について】 <総合科目の実施方法等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。

(3) 「協働連携論総合実習」の実施方法について、「理学療法学科80名、作業療法学科40名の合計120名を各学科4グループに分け、理学療法学科20名、作業療法学科10名の合計30名を1教室の構成人数」としている。さらに、「理学療法学科3名、作業療法学科2名の5名を1グループとし、1教室を6グループ構成とする」との記載があるが、全30回の授業のうち、グループによる実習は数回であると見受けられ、そのグループ単位が30名のグループなのか、5名のグループなのか不明確である。また、グループによる実習以外の授業を、両学科合計120名が同時に履修するのか、それとも30名又は5名のグループ単位で履修するのかも不明確である。「協働連携論総合実習」の実施方法について、各グループの位置付けも踏まえ、明確に説明すること。さらに、当該科目の履修年次の妥当性についても、明確に説明すること。

(対応)

総合科目「協働連携論総合実習」について、授業回ごとのグループ構成について不明確な記載となっていたため、次の通りとし、シラバスの備考欄に明記した。また、本授業の学生数は30名(30名×4教室、合計120名)を1教室当たりの最大学生数としており、120名を1教室で授業を行うことはない。

- ①1教室30名 : 第1回～第6回、第8回、第25回～第28回
- ②5名グループ : 第7回、第9回～第24回、第29回、第30回

また各グループの位置づけは次のとおりである。

- ①1教室30名 : 授業内容の主体が講話、または発表の場合は、30名のグループにて実習を行う。体験談からは知識・情報の共有、発表では質疑・応答による意見交換を多く取り入れることを目的としているため30名としている。
- ②5名グループ : 本授業科目ではリハビリテーションチームとして、問題点解決へのアプローチを想像し、解決策を検討・提案できることを目標としている。グループでの問題の抽出、アプローチ法の検討、発表、レポート作成をチームとして、意見交換しやすく、各人が活躍・貢献出来る人数としている。

実施方法については、いずれのグループにおいても30名あたり、学科の異なる教員(担当教員、助手)2名を配置する。①の30名グループにおいては担当教員、ゲストスピーカーによる講話のあと質疑応答の機会を設け、情報・知識の共有を深める形で進めていく。②の5名グループにおいては、少人数ということで、役割の確立や意見交換が行いやすい状況を作ることで、チームとして所属学科の専門的観点から意見交換を行い、応用・発展した問題点の発掘、解決策の模索を行っていく。2名の教員を配置することで、少人数グループの情報交換や、検討にファシリテータとして適宜関与しながら進めていく。

以上の実習を通じて、学部の DP4 に該当する「地域及び地域住民が抱える課題を発見することができる、解決するための方法を論理的に考案することができる」と DP5 に該当する「専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を想像することができる」を主として涵養することが本授業科目の目的となる。

地域で生活する障がい者の講話から、それまでに履修した知識を総合して、地域における課題を想像する上で、必要となる知識として、理学療法学科では、3年次前期の「地域包括ケア論」、3年次後期の「福祉工学地域活用論」及び「ロボット工学地域活用論基礎・応用」、4年次前期の「理学療法地域実習」などが挙げられる。また、作業療法学科では、3年次前期の「家族援助論」及び「住環境支援論」や、3年次後期の「精神障がい者就労環境論」及び「身体障がい者就労環境論」、4年前期の「作業療法地域実習」などが挙げられる。

本授業科目は、地域で生活する障がい者の体験談から、その実態を想像する能力が必要となり、すべての臨地実務実習とともに、上述の授業科目を履修し終えた4年次後期に配置することが妥当であると考えている。

資料 5-4：シラバス（協働連携論総合実習）変更後・変更前

新	旧
<p><b>4) 同時に授業を行う学生数</b></p> <p><u>本学は、全ての授業科目を 40 名以下の人数で行う。選択科目についても、受講者が 40 名を超える場合は、2 回授業を開講することで対応する。</u></p>	<p><b>4) 同時に授業を行う学生数</b></p> <p>理学療法学科及び作業療法学科共に 40 人以下で授業を行うことを原則とし、40 人以上で行う授業科目は、総合科目の「協働連携論総合実習」のみである。本科目は、理学療法学科及び作業療法学科が合同で行うため、最大人数は、入学定員の 120 名となる。協働連携論総合実習は、理学療法学科、作業療法学科の学生が一緒になり、リハビリテーションチームとして、障がい者が抱える生活課題の発見と解決のために思考することで、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目的にした科目である。そのため、両学科の学生が同時に受講する必要があることが、受講人数が 40 名を超える理由である。</p> <p>授業形態としては、理学療法学科 80 名、作業療法学科 40 名の合計 120 名を各学科 4 グループに分け、理学療法学科 20 名、作業療法学科 10 名の合計 30 名を 1 教室の構成人数とする。さらに、理学療法学科 3 名、作業療法学科 2 名の 5 名を 1 グループとし、1 教室を 6 グループ構成とすることで、小グループでのグループディスカッションができる環境を設定する。なお、1 教室には学科の異なる担当教員及び補助教員(科目担当以外の専任教員)の 2 名を配置する。そのため、2 名の教員に対して学生が最大 30 名となることから学習において学生に不利益が生じることはない。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項7、作業療法学科 是正事項7】

6. 【全体計画審査意見10の回答について】<適切な学修時間を勘案した単位設定となっているか不明確>

1 単位科目の単位設定の考え方について、「2 単位 30 時間の内容を 1 単位 30 時間とし、本学では授業内でより丁寧な指導を行うために、科目数を増やすことで学生の理解を深めることとした」との説明があったが、学生の総学修時間が長時間化し、各科目で求められている予習・復習時間を十分に確保できないことが懸念されることから、専門職大学設置基準第14条第2項に定める「授業時間外に必要な学修等」に考慮した単位設定となっているか、時間割も含め、明確に説明すること。

(対応)

補正申請時の審査意見への対応において、誤解を招く表現を行ってしまっていたため、改めて、単位設定の考え方を説明させていただきたい。

まず、専門職大学設置基準（以下、「設置基準」と呼ぶ。）及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（以下、「指定規則」と呼ぶ。）との関係から、本学としての基本的な単位設定の考え方を述べる。続いて、それを踏まえた上で、各授業科目の単位設定の考え方と 授業内・外の学修時間の配分について述べる。その上で、時間割表を示すことで、各授業科目で求められる予習・復習時間が、十分に確保可能であることを示す。

### 1) 設置基準と指定規則からの考え方

設置基準第14条では、講義・演習の授業時間について15時間から30時間で1単位、実習の授業時間について30時間から45時間で1単位と規定されている。また、第29条では、卒業要件として124単位のうち、基礎科目20単位以上、職業選択科目60単位以上、展開科目20単位以上及び総合科目4単位以上と規定されている。

一方、指定規則が、2020年4月に施行され、理学療法士養成課程・作業療法士養成課程ともに、最低履修単位数が93単位から101単位に引き上げられた。併せて、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン（以下、「ガイドライン」と呼ぶ。）において、最低履修時間数をはじめで規定され、理学療法士養成課程では、3,120時間、作業療法士養成課程では、3,150時間とされた。また、指定規則の別表において、理学療法士養成課程について、基礎分野が14単位、専門基礎分野が30単位、専門分野が57単位（うち臨床実習20単位）と規定されており、作業療法士養成課程については、基礎分野が14単位、専門基礎分野が30単位、専門分野が57単位（うち臨床実習22単位）と規定された。

理学療法士養成課程について、指定規則での単位数の内訳と総時間から推し量ると、基礎分野210時間、専門基礎分野900時間、専門分野2,010時間（うち臨床実習900時間）が目安となる。つまり、基礎分野で1単位あたり15時間（210時間/14単位）、専門基礎分野で1単位あたり30時間（900時間/30単位）、専門分野（臨床実習を除く）で1単位あたり30時間（1,110時間/37単位）、臨床実習で1単位あたり45時間（900時間/20単位）となる。また、作業療法士養成課程について、指定規則での単位数と総時間から推し量ると、基礎分野210時間、専門基礎分野900時間、専門分野2,040時間

(うち臨床実習 990 時間) となる。つまり、基礎分野で 1 単位当たり 15 時間 (210 時間/14 単位)、専門基礎分野で 1 単位あたり 30 時間 (900 時間/30 単位)、専門分野 (臨床実習を除く) で 1 単位あたり 30 時間 (1,050 時間/35 単位)、臨床実習で 1 単位当たり 45 時間 (990 時間/22 単位) となる。

以上を踏まえた上で、設置基準及び指定規則と本学教育課程の対応は次の表のとおりとなる。なお、展開科目については、「専攻に係る特定の職業の分野に関連する分野における応用的な能力」を涵養することを目的とした授業科目であり、指定規則上の授業科目とは対応しないため、「その他」の欄を設け、記載している。

### 理学療法学科

【理学療法学科】	理学療法士 学校養成施設 指定規則	基礎分野			専門基礎分野			専門分野					その他	計	
		科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学			臨床実習
		授業時間数	210h(推)	900h(推)			1,110h(推)					900h(推)		3,120h	
専門職 大学 設置 基準	①基礎科目	20	20											20	
	②職業専門科目 理学療法理論科目群	40		14	14	2								30	
	③職業専門科目 職業実践科目群(④除く)	(60-④)					6	2	5	21	3			37	
	④臨地実務実習	20										20		20	
	⑤展開科目	20											20	20	
	⑥総合科目	4					2		1	1				4	
	合計単位数	124	20	14	14	4	6	2	6	22	3	20	20	131	
	指定規則上の授業科目の授業時間数	最小300h 最大315h	855h			1,080h					900h		最小3135h 最大3150h		
	合計授業時間数 (全体)	最小300h 最大315h	855h			1,080h					900h	最小300h 最大330h	最小3,435h 最大3,480h		

## 作業療法学科

【作業療法学科】	理学療法士 作業療法士 指定規則	基礎分野			専門基礎分野			専門分野					その他	計	
		科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学			臨床実習
授業時間数	210(推)	900h(推)			1,050h(推)					990(推)		3,150h			
専門職 大学 設置 基準	①基礎科目	20	20												20
	②職業専門科目 作業療法理論科目群	40		13	14	3								30	
	③職業専門科目 職業実践科目群(④除く)	(60-④)					5	2	5	18	4			34	
	④臨地実務実習	20										22		22	
	⑤展開科目	20											20	20	
	⑥総合科目	4				2			1	1				4	
	合計単位数	124	20			13	14	5	5	2	6	19	4	22	130
	指定規則上の授業科目の授業時間数		最小300h 最大315h	855h			1,005h					990h		最小3,150h 最大3,165h	
合計授業時間数(全体)		最小300h 最大315h	840h			1,005h					990h	最小390h 最大405h	最小3,540h 最大3,570h		

資料 6-1: 設置基準及び指定規則と本学教育課程の対応表

学生は、指定規則上の授業科目とは別に展開科目 20 単位分の学修が必要となるため、指定規則上の授業科目について理学療法学科で総学修時間 3,120 時間のところ、3,135 時間から 3,150 時間、作業療法学科で 3,150 時間のところ、3,150 時間から 3,165 時間とし、学生に過度な負担をかけないように配慮した。

また、指定規則上の最低授業時間数である 3,120 時間(理学療法学科)と 3,150 時間(作業療法学科)に、展開科目の最低授業時間数である 300 時間(1 単位 15 時間×20 単位)を加えた 3,420 時間と 3,450 時間が設置基準及び指定規則を満たす最低授業時間数となる。

一方、本学の総授業時間数は、表のとおり、理学療法学科で、3,420 時間が最低基準のところ、3,435 時間から 3,480 時間、作業療法学科で、最低基準が 3,450 時間のところ、3,540 時間から 3,570 時間となる。これは、設置基準及び指定規則を遵守した上で、特色ある教育課程を組むことを考えた結果としての総授業時間数であり、予習・復習時間を確保できるものと考えている。

### 2) 各授業科目の単位設定の考え方と講義内一外の学修時間の配分

続いて、各授業科目の単位設定の考え方と講義内一外の学修時間の配分について説明する。資料 6-2 において、講義科目における単位と授業時間を整理した。併せて、資料 6-3 において、全ての授業科目の単位数と授業時間を整理した。以下では、各授業科目の単位設定の考え方と講義内一外の学修時間の配分について、①1 単位 15 時間の講義科目、②2 単位 30 時間の講義科目、③1 単位 30 時間の講義科目、④2 単位 60 時間の講義科目、⑤1 単位 30 時間の演習科目・実習科目、⑥1 単位当たり 45 時間の臨地実務実習科目・実習科目ごとに説明を行う。

資料 6-2：講義科目における単位と授業時間の整理表

資料 6-3：教育課程等の概要【改変】

### ①1 単位 15 時間の講義科目

基礎科目と展開科目における 1 単位 15 時間の授業科目は、リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシー（以下、「DP」と呼ぶ。）1「生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。」及び DP5「理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。」のうち、特に DP1 の「幅広い教養」を涵養することや、DP5 の「多職種と連携」する能力を涵養する目的で設定した。既存の大学が一般的に採用する 2 単位 30 時間の科目ではなく、1 単位 15 時間の講義で行える授業科目を多数用意することによって、卒業までに多くの科目を履修できるようにした。そうすることによって、教養の幅を広げ、多職種と連携する際の基盤を築くことを企図した。

職業専門科目における 1 単位 15 時間の科目については、配当年次の順次性の観点から単位設定を行った。例えば、理学療法学科 1 年次前期の「基礎理学療法学 I」は、1 年次後期の「基礎理学療法学実習 I」の前段階として学修される。医学の基礎となる解剖学や生理学の進捗に応じて、段階的に授業科目を配置することによって、教育効果を高めることが可能であると考えた。作業療法学科においても、同様の考えに立っており、職業専門科目に 1 単位 15 時間の科目を用意した。

いずれの場合も講義内外の学修時間の配分については標準的な配分と考えている。

### ②2 単位 30 時間の講義科目

展開科目のうち 30 時間分の講義が必要な授業科目については、2 単位 30 時間とした。教授すべき内容が多いため、講義時間を 30 時間（15 回）とっており、学生の予習・復習時間を十分に設けることで主体的な学修を促すことを企図している。この場合も講義内外の学修時間の配分については標準的な配分と考えている。

### ③1 単位 30 時間の講義科目

1 単位 30 時間の授業科目は、全て職業専門科目（理学療法／作業療法理論科目群）と職業専門科目（職業実践科目群）である。講義の中で、物（義肢・装具・評価器具・疾患の画像・標本）や環境（ADL 室や補装具室）を必要とし、かつ、教員が説明しなければ理解しにくいいため、講義時間内に知識の定着を図れるようにする。そのため、講義時間数に比し、予習・復習の時間数を軽減している。なお、演習室、実習室、補装具室、水浴室などについて、授業のない時間は学生に開放し、予習・復習ができるようにする。

### ④2 単位 60 時間の講義科目

2 単位 60 時間の授業科目は、職業専門科目（理学療法／作業療法理論科目群）に該当する「解剖学 I・II」及び「生理学 I・II」のみである。難解な専門用語が多く、内容的にも膨大で、分厚い教科書・参考書を読むという予習は、学生にとって難しい。講義の中で一から解きほぐし十分理解させたうえで、参加型授業形態（いわゆるアクティブラーニング）をとり、知識の定着を図る。そのため、予習・復習

の時間比率は低い。

### ⑤1 単位 30 時間の演習科目・実習科目

演習科目・実習科目については、物（義肢・装具・評価器具・疾患の画像・標本）や環境（ADL 室や補装具室）を必要とし、いわゆる「知識習得型」教育ではなく、「体験型」教育の範疇に属する授業科目である。授業時間内での学修効果が高いため、1 単位当たりの授業時間を 30 時間、予習・復習時間を 15 時間の配分とした。

### ⑥1 単位あたり 45 時間の臨地実務実習科目及び実習科目

設置基準における臨地実務実習は、臨床実習にあたり、ガイドラインにおいて 1 単位当たり、40 時間以上と規定されている。基本的に、臨地実務実習先においてその授業科目が完結し、実習での到達度が評価の対象となるため、1 単位あたり 45 時間の授業時間とした。

1 単位あたり 45 時間の実習科目は、臨地実務実習と同様に、全て学外での実習となり、基本的には、実習先においてその授業科目が完結し、実習での到達度が評価の対象となるため、臨地実務実習にない 1 単位あたり 45 時間の授業時間とした。

## 3) 授業時間外の学修時間の確保について

最後に、時間割表を示すことによって、各授業科目で求められている予習・復習時間を十分に確保できていることを示す。

### (1) 時間割表について

資料 6-4、資料 6-5 が、理学療法学科、作業療法学科の時間割表である。1 単位 15 時間・8 回の授業科目があるため、便宜的に、半期を前半（8 週）、後半（8 週）に分け、16 期間（1 年生前期（前半）～4 年生後期（後半））ごとに時間割表を作成した。選択科目については、卒業要件を満たすために必要な授業科目数としている。なお、1 単位 45 時間の臨地実務実習や学外での実習については、授業時間外の学修時間を想定していないため、時間割表からは除いている。

資料 6-4：時間割表（理学療法学科）

資料 6-5：時間割表（作業療法学科）

本時間割には、当該期間に、授業科目ごとに必要な授業時間外の学修時間を次のように算出した。

授業科目の区分	当該期間の時間外学修時間	理由
1 単位 15 時間の授業科目	30 時間	当該期間のみで 30 時間 (45 時間-15 時間) の時間外学修が必要となるため
1 単位 30 時間の授業科目	7.5 時間	前半・後半で 15 時間 (45 時間-30 時間) の時間外学修が必要であり、当該期間についてはさらに半分の 7.5 時間必要となるため。
2 単位 30 時間の授業科目	30 時間 (2 単位)	前半・後半で 60 時間 (90 時間-30 時間) の時間外学修が必要であり、当該期間についてはさらに半分の 30 時間必要となるため。
2 単位 60 時間の授業科目	7.5 時間 (1 単位)	前半・後半ともに 2 回の授業を行うこととなるため、1 回あたりは、1 単位 30 時間の科目として表現することとしたため。

## (2) 1 日当たりの平均時間外学修時間と 1 日当たりの平均空き時間

以上の時間割表をもとに、学生が時間外学修を行う余裕があるかを検証するために、「1 日当たりの平均時間外学修時間」と「1 日当たりの平均空き時間」という概念を導入し、その数値を表にまとめたのが、資料 6-6 となる。

資料 6-6 : 1 日当たりの平均時間外学修時間と 1 日当たりの平均空き時間

### ① 「1 日当たりの平均時間外学修時間」

1 日当たりの平均時間外学修時間は、各期間において必要な時間外学修の総計を期間 (8 週間) で割り、その値をさらに、7 日 (1 週間) で割ることによって、算出を行った。そのため、授業のない土・日においても、授業のある平日と同様の時間、時間外学修を行った場合の数値となる。なお、計算式は次のとおりである。

$$\text{「1 日当たりの平均時間外学修時間」} = 1 \text{ 期間の総時間外学修時間} / 8 \text{ (週)} / 7 \text{ (日)}$$

### ② 「1 日当たりの平均空き時間」

学内にいる時間帯で、授業がない時間 (昼食時間除く) は、予習・復習等の時間外学修にあてることが可能な時間である。「1 限の開始時間 (9 時 00 分) から 5 限の終了時間 (17 時 50 分)」から「昼食時間」と「授業と授業の間の時間」を引いた時間がそれにあたる。1 日当たりの平均空き時間は、時間外学修時間を履行できるかどうかを判断する際の基準となると考え、期間ごとに算出を行った。なお、1 日当たりの平均空き時間を導出する計算式は次のとおりである。

### 「1日当たりの平均空き時間」

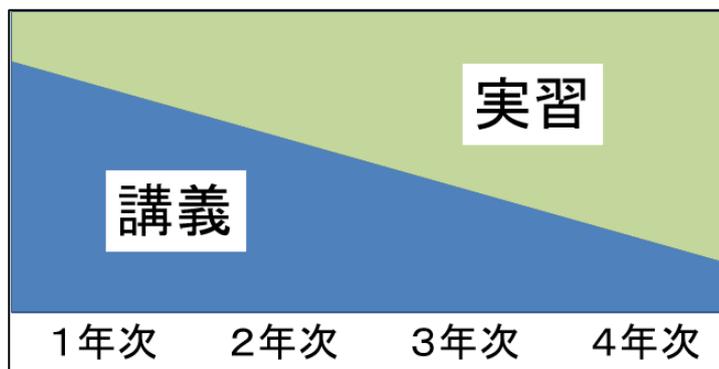
=5回(1日の最大授業回数) - 「1日当たりの平均授業回数」 × 1.5時間

※ 「1日当たりの平均授業回数」 = 「月曜日から金曜日までの総授業回数」 ÷ 5日(月曜日から金曜日)

### (3) 時間外学修時間の確保について

理学療法士・作業療法士の養成課程では、講義の後に実習を行う組み立てになっているため、1年次及び2年次は講義形式の授業科目が多くなる。そのため、学年が進行するにしたがって、講義形態をとる授業科目が減り、実習形態の科目が増加することになる。本学の時間割から、授業時間外の学修時間の状況を算出すると、1年次から4年次までの1日当たりの平均時間外学修時間の最大値は、理学療法学科1年次前期4.4時間、作業療法学科1年次前期5.3時間となっており、両学科とも1年次前期が最も長い。特に1年次は基礎科目が多い上に、職業専門科目の理学療法／作業療法理論科目群の講義が配置されているためである。そのため、自宅や学外、あるいは土日の時間外学修が当然に発生することとなる。

予習・復習など時間外学修に必要な時間は、講義形式の基礎科目や職業専門科目の理学療法／作業療法理論科目は、必然的に長くなるが、実習形式の科目は、環境・設備が必要となるため、予習や復習を行うには時間以外の制約が多く、時間外学修時間は少なくなる。このことから、1年次は予習・復習に費やす時間多くなるが、学年が進行していくと、実習形式の授業科目が増えるため、予習・復習に必要な時間も少なくなり、余裕を持つことができ、各科目で求められている予習・復習時間を十分に確保した単位数及び授業時間数となっている。



また、図書館、学生ホール、大教室2部屋については、平時は学生に開放するとともに、前述のとおり実習室等についても授業のない時間帯は開放をするため、学生が授業のない時間帯に、時間外学修に取り組める環境を整えている。その他、情報処理室、図書室及び学生ホールには、ネットワーク環境を整備しており、ネットワーク経由で情報を収集できる環境も確保している。

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 改善事項8、作業療法学科 改善事項8】

7. 【全体計画審査意見 17 の回答について】 <国家試験受験資格の位置付けに係る記載が不適切>  
本学が、国家資格の取得のみならず、本学科における教育全般に対して責任を負うことに照ら  
せば、「そのため、学生が国家資格を取得できるよう本学として責任を持って取り組む。」との記  
載は不適切であることから削除すること。

(対応)

「そのため、学生が国家資格を取得できるよう本学として責任を持って取り組む。」と記載したが、本  
学が、教育全般に対して責任を負うことに照らし、不適切であったため、以上の一文を削除することで、  
本改善事項への対応とする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 74 頁

新	旧
<p>理学療法士・作業療法士というリハビリテーシ ョンの専門家を養成することが、本学の根幹とな るため、理学療法学科の学生は、理学療法士の国 家資格を取得することが、また、作業療法学科の 学生は、作業療法士の国家資格を取得すること が、主要な目標となる。<del>そのため、学生が国家資 格を取得できるよう本学として責任を持って取 り組む。</del></p>	<p>理学療法士・作業療法士というリハビリテーシ ョンの専門家を養成することが、本学の根幹とな るため、理学療法学科の学生は、理学療法士の国 家資格を取得することが、また、作業療法学科の 学生は、作業療法士の国家資格を取得すること が、主要な目標となる。そのため、学生が国家資 格を取得できるよう本学として責任を持って取 り組む。</p>

## 【教員組織等】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項9、作業療法学科 是正事項9】

8. 【全体計画審査意見19の回答について】<専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>  
専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分との指摘に対応し、理論系の専任教員が補充された  
が、依然として専攻分野に係る理論系の専任教員が適切に補充されたとは認められないため、  
是正すること。

(対応)

ご指摘を受け、専攻分野に係る理論系の専任教員を、理学療法学科で5名(そのうち前回職位不適格  
となった者は3名)、作業療法学科で2名(そのうち前回職位不適格となった者は0名)補充した。本  
学として、専攻分野に係る理論系の専任教員を、「実務の経験等を有する専任教員ではなく、理学療法学  
科においては理学療法士の国家資格を有した者、作業療法学科においては作業療法士の国家資格を有し  
た者」と理解し、本是正事項へ対応した。補充した者の略歴と担当科目は、両学科それぞれ次のとおり  
である。

なお、補充した専任教員のうち2名は本学の定年(65歳)を超えており、教員の年齢構成が比較的高  
齢に偏ってしまったため、教育研究の維持継続の観点から、今後の対応方針についても述べる。

### 1) 補充教員(理学療法学科)

専攻分野に係る理論系の専任教員について、2名はこれまでの教育歴と各専門分野における業績とを  
鑑み教授の候補とした。前回職位不適格となった3名と合わせて、5名を補充した。

#### ・千住秀明 教授(候補)

専門分野：内部障害系理学療法

担当科目：「内部障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「内部障害応用論実習」、「理学療法総合実習」

昭和49年3月 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 卒業  
昭和49年4月 星ヶ丘厚生年金病院理学療法士(昭和51年11月まで)  
昭和51年12月 国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院理学療法士(昭和54年12月まで)  
昭和55年1月 国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院専任教員(昭和60年3月まで)  
昭和57年3月 大阪産業大学工学部機械工学科卒業  
昭和60年4月 長崎大学医療技術短期大学部 理学療法学科講師(昭和63年3月まで)  
昭和63年4月 長崎大学医療技術短期大学部 理学療法学科助教授(平成13年9月まで)  
平成11年3月 学位取得 博士(医学)(長崎大学)  
平成12年2月 Curtin 工科大学理学療法学科留学(文部省在外研究員)(平成12年11月)  
平成13年10月 長崎大学医学部 保健学科理学療法専攻教授(平成27年3月まで)  
平成18年4月 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 保健学専攻教授(平成27年3月まで)  
平成22年4月 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻教授(平成27年3月まで)  
平成27年4月 公益財団法人 結核予防会複十字病院(現在に至る)  
平成28年1月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻抗酸菌感染症学講座連携大学院  
教授(現在に至る)

理学療法士養成の教育に長い経験があり、かつ大学院教育にも10年以上携わり、理学療法士の研究者育成にも貢献してきた。また、内部障害系理学療法の中でも呼吸リハビリテーションの分野での業績は突出しており、長年に渡り呼吸理学療法の業務及び研究を第一線で牽引し、現在も呼吸器疾患の臨床現場で理学療法士の指導と研究に携わっている。よって、本学科の教授として、また上記科目の担当者として相応しいと考え補充した。

・**富田昌夫 教授（候補）**

専門分野：中枢神経系理学療法、臨床運動学

担当科目：「神経障害系理学療法学実習Ⅰ」、「神経筋骨格障害応用論実習」、「理学療法総合実習」

昭和43年4月	茨城大学工学部電子工学科	卒業
昭和50年1月	国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院	卒業
昭和50年1月	神奈川リハビリテーション病院	勤務（昭和55年12月まで）
昭和56年4月	スイス バレンツ病院	勤務（昭和60年12月まで）
昭和61年4月	神奈川リハビリテーション病院	勤務（平成15年3月まで）
平成15年4月	藤田保健衛生大学 衛生学部 看護学科	教授
平成16年4月	藤田保健衛生大学 衛生学部 リハビリテーション学科	教授
平成20年4月	藤田保健衛生大学 医療学部 リハビリテーション学科	教授
	藤田保健衛生大学大学院 保健学研究科	教授
平成24年4月	藤田保健衛生大学 医療科学部 リハビリテーション学科	客員教授（現在に至る）
	藤田保健衛生大学大学院 保健学研究科	客員教授（現在に至る）
	佛教大学 保健医療技術学部	客員教授（平成29年3月まで）
平成29年4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部	客員教授（現在に至る）

理学療法士の教育に長年携わり、大学や大学院での教育及び研究指導に貢献してきた。また、中枢神経系障害に対する理学療法の業績が非常に多く、研究と臨床において常に研鑽を積んで、治療技術の開発と研究に長年携わっている。これらの理学療法士養成と理学療法水準の向上に対する熱意と行動は、多くの理学療法士の模範となっている。よって、本学科の教授としてまた上記科目の担当者として相応しいと考え補充した。

・**植田昌治 講師（候補）**

専門分野：心身相関、精神的要因、運動

担当科目：「日常生活活動学」、「地域理学療法学」、「基礎理学療法学Ⅰ」、「理学療法総合演習」、「リハビリテーション総合演習」、その他、全ての臨地実務実習

昭和 62 年 3 月	藍野医療技術専門学校	理学療法学科	卒業
昭和 62 年 4 月	京都市身体障害者リハビリテーションセンター	訓練課	勤務 (平成 5 年 3 月まで)
平成 5 年 4 月	藍野医療技術専門学校	理学療法学科	専任教員 (平成 11 年 3 月まで)
平成 12 年 4 月	藍野医療技術専門学校	理学療法学科	学科主任 (平成 16 年 3 月まで)
平成 16 年 4 月	藍野大学医療保健学部	理学療法学科	講師 (平成 20 年 3 月まで)
平成 20 年 4 月	藍野大学医療保健学部	理学療法学科	准教授 (平成 22 年 3 月まで)
平成 21 年 4 月	藍野学院短期大学(平成 24 年に藍野大学短期大学部に名称変更)	専攻科地域看護学専攻	非常勤講師(現在に至る)
平成 22 年 4 月	藍野大学医療保健学部	理学療法学科	教授 (現在に至る)
平成 28 年 4 月	藍野大学医療保健学部	理学療法学科	学科長補佐 (現在に至る)

### ・里中綾子 講師 (候補)

専門分野：リハビリテーション科学、福祉工学、スポーツ科学、応用健康科学

担当科目：「運動学Ⅱ」、「基礎理学療法学実習Ⅰ」、「基礎理学療法研究法」、「小児期理学療法学演習」、「理学療法総合演習」、「リハビリテーション総合演習」、その他、全ての臨地実務実習

平成 8 年 3 月	名古屋大学医療技術短期大学部	理学療法学科	卒業
平成 8 年 4 月	小山田記念温泉病院		理学療法士 (平成 9 年 3 月まで)
平成 9 年 4 月	ふく田整形外科		理学療法士 (平成 13 年 3 月まで)
平成 13 年 4 月	ひがし春日井病院		理学療法士 (平成 21 年 12 月まで)
平成 14 年 4 月	障害者療護施設夢の家		理学療法士 (非常勤, 平成 16 年 3 月まで)
平成 15 年 4 月	障害者療護施設麦の里		理学療法士 (非常勤, 平成 18 年 3 月まで)
平成 16 年 4 月	障害者療護施設ハートランド小牧の杜		理学療法士 (非常勤, 平成 18 年 6 月まで)
平成 21 年 3 月	名古屋大学大学院医学系研究科	リハビリテーション療法学専攻	博士前期課程 修了
平成 22 年 1 月	あさひ病院		理学療法士 (平成 23 年 3 月まで)
平成 23 年 4 月	訪問看護ステーション仁		理学療法士 (平成 24 年 3 月以降は非常勤勤務)
平成 24 年 3 月	名古屋大学大学院医学系研究科	リハビリテーション療法学専攻	博士後期課程 修了 学位取得 博士 (リハビリテーション療法学) (名古屋大学)
平成 24 年 4 月	愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所		リサーチレジデント (平成 25 年 12 月まで)
平成 24 年 4 月	名古屋大学医学部保健学科		非常勤講師 (平成 25 年 12 月まで)
平成 26 年 1 月	名古屋大学大学院医学系研究科	ウェルビーイング in アジア	特任助教 (平成 30 年 3 月まで)
平成 30 年 4 月	名古屋大学大学院医学系研究科	ウェルビーイング in アジア	特任准教授 (現在に至る)

### ・堀寛史 講師 (候補)

研究分野：痛み、臨床哲学、理学療法学

担当科目：「哲学入門」、「基礎理学療法学Ⅱ」、「理学療法総合演習」、「リハビリテーション総合演習」、その他、全ての臨地実務実習

平成 11 年 3 月	西日本リハビリテーション学院	卒業
平成 11 年 4 月	医療法人 寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部	入職 (平成 15 年 3 月退職)
平成 15 年 3 月	放送大学 教養学部	卒業 学士 (教養)
平成 15 年 4 月	医療法人 光寿会 アラキ整形外科 リハビリテーション科	入職 (平成 17 年 3 月退職)
平成 17 年 3 月	熊本大学大学院文学研究科人間科学専攻	修了 修士 (文学)
平成 17 年 4 月	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科	入職 助手
平成 20 年 4 月	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科	助教
平成 21 年 3 月	大阪大学大学院文学研究科文化形態学専攻臨床哲学研究室	博士後期課程 単位取得後退学
平成 21 年 4 月	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科	講師 (現在に至る)
平成 29 年 7 月	博士 (学術) 大阪大学文学研究科	取得

## 2) 補充教員 (作業療法学科)

専攻分野に係る理論系の専任教員について、2 名を補充した。教育歴と各専門分野における業績とを鑑み 2 名を講師の候補とした。

### ・辻村肇 講師 (候補)

専門分野：介護予防、福祉用具、認知症

担当科目：「基礎作業学実習Ⅰ」、「住環境支援論」、「地域生活作業療法学実習Ⅲ」、「地域包括ケア論」、「作業療法総合実習Ⅱ」、「地域生活作業療法学実習Ⅰ」、その他、全ての臨地実務実習

平成 5 年	大阪電気通信大学工学部電子物性工学科	卒業
平成 8 年	大阪電気通信大学大学院工学研究科博士課程前期	修了 修士 (工学)
平成 11 年	彦根モーターズ	勤務 (平成 14 年まで)
平成 19 年	サンビレッジ国際医療福祉専門学校作業療法学科	卒業
平成 19 年	雪野会介護老人保健施設ケアセンター蒲生野	勤務 (平成 26 年まで)
平成 22 年	大阪電気通信大学医療福祉工学部医療福祉工学科	客員准教授 (現在に至る)
平成 24 年	大阪電気通信大学大学院医療福祉工学研究科博士課程後期	修了 博士 (医療福祉工学)
平成 26 年	大阪滋慶学園鳥取市医療看護専門学校	作業療法学科長 (現在に至る)

老年期を対象者とした作業療法介入では、工学的な知識を使った環境適応への介入 (車椅子や福祉用具) の経験が豊富であり、そのような知識・技術研修会での実績も多い。また、「笑い」についての研究業績も多く、身体機能や環境適応といった側面だけでなく、対象者の生活の質、満足度に関する視点も兼ね備えている。このような研修は公民館や老人クラブ等で地域住民を対象に実施しており、「健康」や「笑い」をキーワードにした地域づくりの実践とその事例に基づく研究業績がある。このようなことから、幅広い作業療法の介入視点を学生に教育できる。よって、本学科の講師として、また上記科目の担当者として相応しいと考え補充した。

### ・園田悠馬 講師 (候補)

専門分野：認知症、神経リハビリテーション、神経難病、慢性痛、小児がん

担当科目：「身体障害作業療法評価学実習Ⅱ」、「老年期障害作業療法学実習」、「身体障害作業療法基礎技術論」、「作業療法評価学総論」、「協働連携論総合実習」、その他全ての臨地実務実習

平成 15 年	福井医療技術専門学校作業療法学科	卒業
平成 15 年	セラピット リハ・リハ	勤務（平成 23 年まで）
平成 17 年	神戸大学医学部保健学科作業療法学専攻	卒業
平成 19 年	神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程前期	修了 修士（保健学）
平成 22 年	神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程後期	修了 博士（保健学）
平成 22 年	神戸大学保健学研究科川又研究室	研究員（平成 23 年まで）
平成 23 年	滋賀医科大学医学部附属病院リハビリテーション科	勤務（現在に至る）

大学病院にて、小児から高齢者、そして脳血管疾患や神経疾患だけでなく、がんや難病など幅広い疾患の作業療法介入の実践を行い、その業績も多い。研究は、医師らと協業している身体障害領域に関するテーマが多く、多職種にも実証できるエビデンスに基づいた作業療法介入を実践している。このような研究実績から作業療法士の育成とその水準の向上に重要となる者である。よって、本学科の講師として、また上記科目の担当者として相応しいと考え補充した。

### 3) 教員組織に関する対応方針

基本方針として、教員の退職の際には本学の教育研究活動に支障が生じないように、教育課程を担うことができる十分な教育研究業績を備え、かつ退職する教員の専門分野等を考慮した後任人事を行う。

その具体的な対応方針として、第一に、このたび補充を行った 2 名の専任教員について、完成年度を迎えるまで定年を超えて契約を延長することの議決を、2019 年（令和元年）6 月 24 日実施の令和元年度第 2 回評議員会及び第 3 回理事会の第 1 号議案「専門職大学設置認可申請に係る再補正申請について」において行った。

第二に、教育研究業績を積み重ねるための学内的な支援策として、1 週間に 1 日取得可能な「研究日制度」を実施する。その研究日制度を活用することにより、40 歳代以下の若手の教員は、高年齢教員により研究指導を受け、教育研究業績を積み上げることにより、准教授から教授、講師から准教授、助教から講師へと昇任を積極的に促し、本学としての教育研究活動の継続に支障をきたさないよう教員配置を行なっていく。

第三に、完成年度終了時に退職となる高年齢教員の後任採用については、2022 年度前期に教員採用に関する調整委員会を立ち上げ、将来を見据えた教員の昇任及び採用を計画的に実施することによって、年齢構成のバランスをとり、教育研究活動の継続性を図る。

以上のとおり、大学設置基準第 7 条第 3 項の「大学は、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮するものとする。」の主旨を十分にふまえ、将来にわたって本学の専任教員を確保し、教育研究活動体制の維持及び向上を図る。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項10、作業療法学科 是正事項10】

9. 【全体計画審査意見21の回答について】＜専任教員数が設置基準を満たしていない＞

専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

この度の教員審査の結果として、理学療法学科、作業療法学科の専任教員数は、それぞれ次の表のとおりであり、専門職大学設置基準の規定を満たしている。なお、次の表には、職位不適格となった者は含んでいない。

#### 補正申請における教員審査を受けての専任教員数（理学療法学科）

区 分	教授		准教授		講師		助教		合計	
	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準
専任教員	6	4	6	-	7	-	0	-	19	8
うち実務の経験等を有する専任教員	1	-	4	-	6	-	0	-	11	4
うち実（研）	1	-	3	-	1	-	0	-	5	2

※実数は教員審査の結果を受けての人数を、基準は、専門職大学設置基準上必要な人数を表す。

#### 補正申請における教員審査を受けての専任教員数（作業療法学科）

区 分	教授		准教授		講師		助教		合計	
	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準
専任教員	7	4	2	-	1	-	4	-	14	8
うち実務の経験等を有する専任教員	0	-	1	-	1	-	4	-	6	4
うち実（研）	0	-	1	-	1	-	1	-	3	2

#### 補正申請における教員審査を受けての専任教員数（大学全体の合算）

区 分	教授		准教授		講師		助教		合計	
	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準	実数	基準
専任教員	13	12	8	-	8	-	4	-	33	24
うち実務の経験等を有する専任教員	1	-	5	-	7	-	4	-	17	11
うち実（研）	1	-	4	-	2	-	1	-	8	6

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 是正事項 1 1、作業療法学科 是正事項 1 1】

1 0. 【全体計画審査意見 24 の回答について】 <十分な研究室のスペースが確保されているか不明  
確>

「助教・助手室 (研究室 25)」について、面積 52.00 m<sup>2</sup>のスペースに対して 8 人の教員が使用する  
計画となっており、教員一人当たりの面積は 6.50 m<sup>2</sup>と窮屈と考えられることから、教員が研  
究や学生指導を行うために必要なスペースが確保されているか疑義がある。教育研究上支障の  
ないスペースが確保されているか、明確に説明するとともに、必要に応じて改めること。

(対応)

ご指摘を受け、助教・助手室 (研究室 25) について、研究や学生指導を行うために必要なスペースが  
確保できていないと認識したため、次の①から⑧の変更と専任教員の割り振りの見直しを行ったこと  
により、専任教員 (教授、准教授、講師、助教) 1 人当たりの研究室の面積を最低で 15.04 m<sup>2</sup>、最大で 35.54  
m<sup>2</sup>とし、研究や学生指導を行うために必要なスペースの確保を行った。変更の詳細は、資料 10-1 のと  
おりである。

- ①助教・助手室 (研究室 25) (現：共同研究室 (研究室 26)) を 3 人部屋 (全員助教) とした。
- ②補正申請時に、名称を記載していなかった学生サポート室 (2) の奥の部屋と運転手控室を助手室 (現：研究室 28、  
研究室 29) とした。
- ③個別研究室 (研究室 9) を共同研究室 (研究室 9) とし、1 人部屋から 2 人部屋とした。
- ④個別研究室 (研究室 10) を共同研究室 (研究室 10) とし、1 人部屋から 2 人部屋とした。
- ⑤個別研究室 (研究室 13) を共同研究室 (研究室 13) とし、1 人部屋から 2 人部屋とした。
- ⑥個別研究室 (研究室 15) を共同研究室 (研究室 15) とし、2 人部屋から 1 人部屋とした。
- ⑦共同研究室 (研究室 22) を個別研究室 (研究室 22)、個別研究室 (研究室 23) に部屋を分割した。
- ⑧専任教員を配置していなかった個別研究室 (研究室 26) (現、研究室 27) に 1 名配置した。

資料 10-1：専任教員の研究室の割り振り 新旧対照表

本学の教員はその研究の性質上、データの収集に使用する場所は、学外の病院、診療所、地域の学校、  
スポーツ現場、健康教室など、及び学内の実習室である。収集されたデータを持ち帰り分析する場合に、  
自身の研究室を用いパソコンを使用するが、今回のご指摘を受け、変更した面積で、研究は可能である  
と考えている。

また、学生指導に必要なテーブルとイスはすべての研究室に配置する。学生面談は、1 階の学生サポ  
ート室の隣に、面接室を 2 部屋用意しており、必要に応じて、こちらを利用することとする。

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通 理学療法学科 改善事項12、作業療法学科 改善事項12】

11. 【全体計画審査意見26の回答について】<図書等の更なる充実>

図書等の整備について、より充実した環境整備が推進されるよう、養成する人材像に照らして、教育・研究に要する図書等の更なる拡充が望まれる。【2学科共通 理学療法学科 改善事項12、作業療法学科 改善事項12】

(対応)

ご指摘を受け、改めて、専門学校から転用する書籍、購入予定の書籍及び購入予定の電子書籍のリストを見直した結果、展開科目で学生に教授する授業科目に関する書籍が不十分であると認識したため、それらの書籍を200冊経年的に整備することとした。その書籍の一覧は資料11-1のとおりである。

さらに、専門職大学として、研究の方法について主として学生が学修できるよう45冊経年的に整備することとした。その書籍の一覧は資料11-2のとおりである。

また、理学療法学、作業療法学の教育・研究を進める上で、重要な書籍を追加で、理学療法学科40冊、作業療法学科48冊を経年的に整備することとした。その書籍の一覧は資料11-3、資料11-4のとおりである。

資料11-1：展開科目に係る購入予定の書籍一覧

資料11-2：研究の方法に係る購入予定の書籍一覧

資料11-3：理学療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

資料11-4：作業療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

## 【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科【理学療法学科 是正事項 2 (1)】

### 1 2. 【全体計画審査意見 2・8・11 の回答について】 < 3つの履修モデルが不明確 >

3つの「履修モデル」について、以下の観点不明確なため、具体的に説明するとともに、必要に応じて修正すること。

(1) 理学療法学科における履修モデルについて、履修モデルごとに受講すべき職業専門科目の選択科目があらかじめ決定されているが、その関連付けが妥当なものか疑義があるほか、当該履修モデルの一つである「地域支援」については、他の2モデルと重複する内容を含んでいるように見受けられ、その設定が妥当なものか判断し難(がた)い。理学療法学科における履修モデルと職業専門科目の選択科目との関連付けの妥当性について、明確に説明するとともに、必要に応じて修正すること。

(2) 今回、3つの「コース・領域」を「履修モデル」として定義し直しているが、「学生の希望と2年次後期時点の累積 GPA を参考に、偏りが生じないように振り分ける」とされており、名称と運用とに不整合が生じている。また、「履修モデル」は履修選択の参考として例示するものであることから、運用方法を踏まえた適切な名称に修正すること。

(対応)

ご指摘を受けた上記の是正事項に対する対応について、(1)と(2)に重複する内容があるため、2つをまとめて、次のように順序立てて記述する。はじめに「履修モデル」の運用の見直しを説明した上で、職業実践科目の選択科目の扱いとそれに伴う卒業要件について記述する。次に、「履修モデル」について、「生活工学」(旧名称「地域支援」)の独立性を含めて、3つの履修モデルの内容を記述する。

### 1) 「履修モデル」の運用方法の見直し

当初(10月申請時点)、びわこリハビリテーション専門職大学(旧:藍野専門職大学)の特色を出すために、理学療法学科においては、3つのコースを設けると設置の趣旨等を記載した書類において論じた。しかし、補正申請における審査意見において、コースの趣旨や運用方法についてご指摘をいただき、再考したところ、一般に使われるコースには、本学が用意している教育課程の実施方法は適さないと判断し、履修モデルと定義し直し、補正申請を行った。また、この度のご指摘のとおり、履修モデルには該当しない運用(GPAによる振り分け、卒業要件への明記など)を実施すると記載を行ってしまっていた。そもそも、履修モデルとは、履修する際の参考例であり、目安である以上、それをもって、本学の特色・魅力として打ち出すこと自体が不適切であるとも認識した。

そこで、「履修モデル」は、コースのような体系性はなく、授業科目の選択に縛りがあるものでもない。学生に将来のキャリアパスを想定させ、「履修選択の参考として提示する例」とする。選択科目については、学生が自由に選択できるものとし、累積 GPA によって学生を振り分けず2回開講して対応する。

### 2) 職業実践科目の「選択科目の関連付け」の扱いについて

履修モデルごとに受講すべき職業専門科目の選択科目があらかじめ決定されていたが、その関連付けの妥当性について疑義があることをご指摘を受け、「履修モデル」の定義を学生に将来のキャリアパスを想定させ、「履修選択の参考として提示する例」と改めたことに伴い、選択科目についても、学生が自由に履修選択できるように改めた。それにより、履修モデルごとの職業選択科目との紐づけを解消するこ

とし、キャリアパスのための選択性を高め、より多くの専門性の高い技術を学び、視野の広い理学療法士を養成するという観点から、職業専門科目の3つの応用論実習「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」及び「スポーツ障害応用論実習」のうち4単位以上を学生が自由に選択できるように変更した。

### 3) 卒業要件

履修選択の変更に伴い、卒業要件を次のとおり変更する。

学則に則り、本学に4年以上在籍し、所定の要件を満たして、131単位以上を修得した者に対し卒業を認定する。修得すべき授業科目は、講義の他に実習や演習、臨地実務実習の授業科目が含まれる。基礎科目を通じてなされた教養教育と、学科の特性に応じて編成された職業専門科目、展開科目、総合科目をともに修得しているかどうか、学士を授与する要件となる。

理学療法学科は、必須科目109単位、選択科目22単位以上、合計131単位以上を修得することを規定する。基礎科目は20単位以上、内訳は必修科目が10単位、選択科目が人間と社会系科目から6単位以上、自然科学系科目と語学教育系科目から4単位以上を選択する。職業専門科目は必修科目を83単位、選択科目は4単位以上を選択する。展開科目は必修科目12単位、選択科目は8単位以上を選択し、20単位以上とする。総合科目は必修科目を4単位とする。

ディプロマ・ポリシーに基づき、地域共生社会で活躍できるリハビリテーション人材の養成を謳っているため、職業専門科目では、医学系の理論科目と各学科の基盤となる職業実践科目を設定し、学科のリハビリテーション職としての質を保証した。また、展開科目は、地域共生社会を理解するための授業科目を必修科目とし、多様な視点を学ぶための授業科目を選択科目とした。そして、総合科目において、職業専門科目と展開科目での学修を統合することを企図した。

### 4) 履修モデル

履修モデル「地域支援」について、他の2つの履修モデルとは異なる設定を持つが、それが分かりにくい記載となっていたため、この履修モデルの名称を「生活工学」へと変更した。「生活工学」の履修モデルでは、リハビリテーション・福祉工学分野の知識を学修し、キャリア形成として就労支援事業所（作業所）、リハビリテーション機器開発企業、福祉機器メーカーなどを想定し、工学系の知識と技術をいかにして生活・就労環境に活用するかを学修する履修モデルである。そのため、「ヘルスプロモーション」や「生涯スポーツ」とは内容が異なる。

その上で、以下のとおり想定しているキャリア形成と関連付けて3つの履修モデルの違いを説明する。

ヘルスプロモーションに関連する就職先を希望するモデルは、将来のキャリア形成として地方自治体（健康教室・高齢者サロン）、健康増進施設、企業の健康推進室、健康関連企業などを想定している。本履修モデルでは、「体力測定論」で体力の客観的評価の重要性とその方法論を学修し、「健康増進実践演習」及び「健康増進実践実習」で運動の提供についての実践力を身に付ける。また、生活習慣病、呼吸器疾患、循環器疾患、がんなどの予防を、子供から高齢者までを対象として支援していく必要がある。そのためには多様な人々と良好な関係を形成する力が必要であり、このような力を育む目的で「遊びとレクリエーション」、「生きがい創造」、「伝承遊び」及び「メンタルヘルスマネジメント論」を学修する。

生涯スポーツに関連する就職先を希望するモデルは、将来のキャリア形成として地方自治体・教育機

関（部活指導）、体育協会、スポーツクラブ、フィットネスクラブ、スポーツ・健康・食・ファッション関連企業などを想定している。本履修モデルでは、「スポーツリズムトレーニング論」、「フィットネス論」、「ランニングトレーニング論」、「ゴルフトレーニング論」、「ビジョントレーニング論」及び「シューフィッティング論」及び「パフォーマンス向上論」を履修する。様々なスポーツのトレーニング理論を学ぶことで、様々な年代が生涯を通して健康的にスポーツを実践するための知識・技術を修得する。

生活工学に関連する就職先を希望するモデルは、将来のキャリア形成として就労支援事業所（作業所）、放課後等デイサービス、グループホーム、特別支援学校、リハビリ機器開発企業、福祉機器メーカーなどを想定している。本履修モデルでは、障害予防に対する生活工学の利用だけでなく、神経・運動障害の有無にかかわらず、安全・安心な生活・就労の支援に関する生活工学について学修する。「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」、「ロボット工学地域活用論応用」及び「身体障がい者就労環境論」を履修することで、工学系の知識と技術をいかにして生活・就労環境に活用するかを学修する。

資料 12-1：履修モデル（理学療法学科）

（新旧対照表）別記様式第 2 号（その 2 の 1）教育課程等の概要 卒業要件及び履修方法

新	旧
<p><b>【卒業要件】</b> 次により、必修科目 109 単位、選択科目 <u>22 単位</u> 以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目 20 単位以上            (1) 必修科目 10 単位            (2) 選択科目 10 単位以上            ・人間と社会系科目の内から 6 単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 10 単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目 <u>87 単位</u> 以上            (1) 必修科目 83 単位            (2) 選択科目 <u>4 単位</u> 以上</p> <p>3. 展開科目 20 単位以上            (1) 必修科目 12 単位            (2) 選択科目 8 単位以上</p> <p>4. 総合科目 4 単位            (1) 必修科目 4 単位</p>	<p><b>【卒業要件】</b> 次により、必修科目 109 単位、選択科目 20 単位以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目 20 単位以上            (1) 必修科目 10 単位            (2) 選択科目 10 単位以上            ・人間と社会系科目の内から 6 単位以上、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 10 単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目 85 単位以上            (1) 必修科目 83 単位            (2) 選択科目 2 単位以上            ・次の①～②の選択肢から 1 つ以上選び、合計 2 単位以上を修得すること。            ①神経筋骨格障害応用論実習            ②内部障害応用論実習            ③スポーツ障害応用論実習</p> <p>3. 展開科目 20 単位以上            (1) 必修科目 12 単位            (2) 選択科目 8 単位以上            ・選択科目は、職業専門科目の選択科目におい</p>

	<p>て、①を選択した場合は④を選択し、②を選択した場合は⑤を、③を選択した場合は⑥を選択し、8単位以上履修すること。</p> <p>④：身体障がい者就労環境論、福祉工学地域活用論、ロボット工学地域活用論基礎、ロボット工学地域活用論応用、組織運営論</p> <p>⑤：遊びとレクリエーション、生きがい創造、伝承遊び、体力測定論、メンタルヘルスマネジメント論、健康増進実践演習、健康増進実践実習</p> <p>⑥：スポーツリズムトレーニング論、パフォーマンス向上論、フィットネス論、ランニングトレーニング論、ゴルフトレーニング論、ビジョントレーニング論、シューフィッティング論</p> <p>4. 総合科目 4 単位 (1) 必修科目 4 単位</p>
--	---

## 【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科【作業療法学科 是正事項2】

### 1 3. 【全体計画審査意見 2・9・12 の回答について】 < 3つの履修モデルが不明確 >

今回、3つの「コース・領域」を「履修モデル」として定義し直しているが、「学生の希望と2年次後期時点の累積 GPA を参考に、偏りが生じないように振り分ける」とされており、名称と運用とに不整合が生じている。また、「履修モデル」は履修選択の参考として例示するものであることから、運用方法を踏まえた適切な名称に修正すること。

(対応)

当初(10月申請時点)、びわこリハビリテーション専門職大学(旧:藍野専門職大学)の特色を出すために、作業療法学科においては、3つの領域を設けると設置の趣旨等を記載した書類において論じた。しかし、補正申請における審査意見において、領域の趣旨や運用方法についてご指摘をいただき、再考したところ、一般に使われるコースには、本学が用意している教育課程の実施方法は適さないと判断し、履修モデルと定義し直し、補正申請を行った。しかし、この度のご指摘のとおり、履修モデルには該当しない運用(GPAによる振り分け、卒業要件への明記など)を実施するとの記載を行ってしまっていた。そもそも、履修モデルとは、履修する際の参考例であり、目安である以上、それをもって、本学の特色・魅力として打ち出すこと自体が不適切であるとも認識した。

以上の経緯を踏まえ、教育課程の実施方法について改めてその見直しを図った。本学科は、作業療法の一般的専門教育に加え、地域共生社会の実現を見据え、地域住民に支援を展開できる「展開型スペシャリスト」を養成するために、児童期、成人期、老年期と3つの履修モデルを提示していた。しかし、この3つは、決して、不変的なものではなく、時代の変化に応じ、変わり得るものである。そのため、コースのようにある程度の体系性を持ったものというよりは、学生に将来のキャリアパスを想定させるために、本学として設定する履修の参考例(モデル)であることを改めて確認をした。

よって、履修モデルに合うように、教育課程の実施方法を改めた。第一に、累積 GPA によって学生の振り分けることはやめ、学生が自由に授業科目を履修できるようにした。第二に、次のとおり卒業要件の見直しを行った。最後に、それぞれ用意した履修モデルを改めて示す。

### 1) 卒業要件

学則に則り、本学に4年以上在籍し、所定の要件を満たして、130単位以上を修得した者に対し卒業を認定する。修得すべき授業科目は、講義の他に実習や演習、臨地実務実習の授業科目が含まれる。基礎科目を通じてなされた教養教育と、学科の特性に応じて編成された職業専門科目、展開科目、総合科目をともに修得しているかどうか、学士を授与する要件となる。

作業療法学科は、必須科目118単位、選択科目12単位以上、合計130単位以上を修得すること。基礎科目は20単位以上、内訳は必修科目が11単位、選択科目が人間と社会系科目から5単位以上、自然科学系科目と語学教育系科目から4単位以上を選択する。職業専門科目は必修科目を86単位。展開科目は必修科目17単位、選択科目は3単位以上を選択し、20単位以上とする。総合科目は必修科目を4単位とする。

ディプロマ・ポリシーに基づき、地域共生社会で活躍できるリハビリテーション人材の養成を謳っているため、職業専門科目では、医学系の理論科目と各学科の基盤となる職業実践科目を設定し、学科のリハビリテーション職としての質を保証した。また、展開科目は、地域共生社会を理解するための授業

科目を必修科目とし、多様な視点を学ぶための授業科目を選択科目とした。そして、総合科目において、職業専門科目と展開科目での学修を統合することを企図した。

## 2) 履修モデル

学生の主な卒業先の進路としては、病院や福祉施設といった今までの就職先だけでなく、地域共生社会の実現に向け、地方自治体、健康関連企業、就労支援事業所、生活訓練施設、有料老人ホーム等といった企業や施設を想定している。そして、このような産業への参入を想定したカリキュラムを構成している。職業専門科目において、作業療法の医療や福祉領域でのその専門性を学び、展開科目では、作業療法の関連領域での関わりを学ぶ。

例えば、保育園、小学校、特別支援学校、学童保育、放課後等デイサービス等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「児童期地域生活適応論」及び「児童期地域生活適応論実習」を選択する。これらの授業科目では、作業療法士がまだ介入していない保育園や放課後等デイサービスの現状を学び、実習を行う。その過程を通して、児童期における作業療法の多様な支援についての学修を深める。

就労移行支援事業所、特例子会社、生活訓練施設、グループホーム等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「成人期地域生活適応論」及び「成人期地域生活適応論実習」を選択する。これらの授業科目では、作業療法士が介入していない施設での成人期の方の QOL の向上に向けた関わりを学び、実習を行う。その過程を通して、成人期の方の生活支援の多様性について学修を深める。

通所介護施設、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム等で活躍する作業療法士を目指す学生の履修モデルは、「老年期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論実習」を選択する。これらの授業科目では、作業療法士が介入していない老年期の方の通所や施設での関わり方を学び、実習を行う。その過程を通して、老年期の方が自分らしく生活することについて学修を深める。

以上で説明を行った 3 つの履修モデルを資料 13-1 に示す。

資料 13-1 : 履修モデル (作業療法学科)

(新旧対照表) 教育課程等の概要 卒業要件及び履修方法

新	旧
<p><b>【卒業要件】</b> 次により、必修科目 118 単位、選択科目 12 単位以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目 20 単位以上            (1) 必修科目 11 単位            (2) 選択科目 9 単位以上            ・人間と社会系科目の内から 5 単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 9 単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目 86 単位            (1) 必修科目 86 単位</p>	<p><b>【卒業要件】</b> 次により、必修科目 118 単位、選択科目 12 単位以上を修得すること。</p> <p>1. 基礎科目 20 単位以上            (1) 必修科目 11 単位            (2) 選択科目 9 単位以上            ・人間と社会系科目の内から 5 単位以上を選択し、自然科学系科目と語学教育科目の内から 4 単位以上を選び、合計 9 単位以上を修得すること。</p> <p>2. 職業専門科目 86 単位            (1) 必修科目 86 単位</p>

<p>3. 展開科目 20 単位</p> <p>(1) 必修科目 17 単位</p> <p>(2) 選択科目 3 単位</p> <p>4. 総合科目 4 単位</p> <p>(1) 必修科目 4 単位</p>	<p>3. 展開科目 20 単位</p> <p>(1) 必修科目 17 単位</p> <p>(2) 選択科目 3 単位</p> <p>選択科目は以下の①～③のいずれかの組み合わせにより履修すること</p> <p>① 老年期地域生活適応論及び老年期地域生活適応論実習</p> <p>② 成人期地域生活適応論及び成人期地域生活適応論実習</p> <p>③ 児童期地域生活適応論及び児童期地域生活適応論実習</p> <p>4. 総合科目 4 単位</p> <p>(1) 必修科目 4 単位</p>
--	---

## 審査意見への対応を記載した書類（7月）資料編 目次

- 資料 1-1：カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）
- 資料 1-2：カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）
- 資料 1-3：びわこリハビリテーション専門職大学既修得単位の認定に関する内規
- 資料 4-1：シラバス（英語Ⅱ）変更後・変更前
- 資料 5-1：シラバス（理学療法総合実習）変更後・変更前
- 資料 5-2：シラバス（作業療法総合実習Ⅰ）変更後・変更前
- 資料 5-3：シラバス（作業療法総合実習Ⅱ）変更後・変更前
- 資料 5-4：シラバス（協働連携論総合実習）変更後・変更前
- 資料 6-1：設置基準及び指定規則と本学教育課程の対応表
- 資料 6-2：講義科目における単位と授業時間の整理表
- 資料 6-3：教育課程等の概要【改変】
- 資料 6-4：時間割表（理学療法学科）
- 資料 6-5：時間割表（作業療法学科）
- 資料 6-6：1日当たりの平均時間外学修時間と1日当たりの平均空き時間
- 資料 10-1：専任教員の研究室の割り振り 新旧対照表
- 資料 11-1：展開科目に係る購入予定の書籍一覧
- 資料 11-2：研究の方法に係る購入予定の書籍一覧
- 資料 11-3：理学療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧
- 資料 11-4：作業療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧
- 資料 12-1：履修モデル（理学療法学科）
- 資料 13-1：履修モデル（作業療法学科）

### カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

CP1：倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。

CP2：理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。

CP3：理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP4：理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP5：理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
基礎科目	初年次教育 学びの基盤	1前	1		◎					
	コミュニケーション論	1前	1			◎				
	人間と社会科学系科目	音楽	1後		1	◎				
		キャリア発達論	2後	1		◎				
		教育学	1前	1		◎				
		倫理学入門	1前	1		◎				
		哲学入門	1前		1	◎				
		心理学	1後	1		◎				
		経営学入門	2前		1	◎				
		社会学	1前		1	◎				
		日本の伝統文化	1前		1	◎				
		日本の近代史	1前		1	◎				
	体育	1後		1	◎					
	自然科学系科目	生物学	1前	1		◎				
		物理学Ⅰ	1前	1		◎				
		物理学Ⅱ	1後		1	◎				
		統計学	2後	1		◎				
		数学	1前		1	◎				
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1		◎	◎			
		英語Ⅱ	1後		1	◎	◎			
韓国語		2後		1	◎	◎				
中国語		2後		1	◎	◎				
②職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			◎			
		解剖学Ⅱ	1後	2			◎			
		解剖学Ⅲ	1後	1			◎			
		生理学Ⅰ	1前	2			◎			
		生理学Ⅱ	1後	2			◎			
		運動学Ⅰ	1後	1			◎			
		運動学Ⅱ	2前	1			◎			
		運動学実習	2後	1			◎			
		運動生理学実習	2後	1			◎			
		人間発達学	1後	1		◎				
		救急援助論	2後	1			◎			
		内科学Ⅰ	2前	1			◎			
		内科学Ⅱ	2後	1			◎			
		神経内科学Ⅰ	2前	1			◎			
		神経内科学Ⅱ	2後	1			◎			
		整形外科Ⅰ	2前	1			◎			
		整形外科Ⅱ	2後	1			◎			
		精神医学	1後	1			◎			
	職業実践科目群	小児科学	2前	1			◎			
		老年医学	2前	1			◎			
		薬理学概論	1後	1			◎			
		予防医学	3前	1			◎			
		画像診断学	2前	1			◎			
		栄養学	2前	1			◎			
		社会福祉学	2後	1		◎				
		地域包括ケア論	3前	1			◎	◎	◎	
リハビリテーション概論	1前	1		◎		◎				
基礎理学療法Ⅰ	1前	1				◎				
基礎理学療法Ⅱ	1前	1				◎				
基礎理学療法実習Ⅰ	1後	1				◎				
基礎理学療法研究法	3前	1				◎				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
② 職業専門科目	職業実践科目群	基礎理学療法学実習Ⅱ	1後	1			◎			
		臨床技能論実習	3前	1		◎	◎			
		理学療法管理学	4後	1			◎			
		保健医療福祉関連制度論	4後	1			◎	◎		
		理学療法評価学	1後	1				◎		
		理学療法評価学実習	2前	2				◎		
		理学療法評価学演習	3前	1				◎		
		画像評価学	2後	1				◎		
		運動療法学	2前	1				◎		
		運動療法学実習	2後	1				◎		
		徒手理学療法学	3前	1				◎		
		徒手理学療法学実習	3後	1				◎		
		物理療法学	2前	1				◎		
		日常生活活動学	2前	1				◎		
		義肢装具学Ⅰ	2前	1				◎		
		義肢装具学Ⅱ	2後	1				◎		
		神経障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1				◎		
		神経障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1				◎		
		運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	2後	1				◎		
		運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1				◎		
		内部障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1				◎		
		内部障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	1				◎		
		小児期理学療法学演習	2後	1				◎		
		老年期理学療法学演習	2後	1				◎		
		スポーツ障害系理学療法学実習	2後	1				◎		
		神経筋骨格障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		内部障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		スポーツ障害応用論実習	4後		2			◎		◎
		地域理学療法学	2後	1				◎	◎	
		地域理学療法学実習	3前	1				◎	◎	
		理学療法見学実習Ⅰ	1前	1		◎	◎	◎	◎	
		理学療法見学実習Ⅱ	1後	1		◎	◎	◎		
		理学療法見学実習Ⅲ	2前	1		◎	◎	◎	◎	
		理学療法評価実習	3前	4		◎	◎	◎		
		理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6		◎	◎	◎		
		理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6		◎	◎	◎		
		理学療法地域実習	4前	1		◎	◎	◎	◎	
		③ 展開科目	マーケティング論	3後	1				◎	◎
			施設起業運営論	3後	1				◎	◎
			ボランティア論	1後	1		◎			◎
			生涯スポーツ論	1前	1				◎	◎
			労働衛生論	1後	1				◎	◎
			子育て支援論	2前	1				◎	◎
災害支援論	2前		1		◎			◎		
教育支援論	2前		1				◎	◎		
メンタルヘルスマネジメント論	3後			1				◎		
地域共生論	3前		2		◎	◎		◎		
障がい者スポーツ論	3後		1					◎		
障がい者スポーツ論実習	4前		1					◎		
スポーツリズムトレーニング論	3後			1				◎		
体力測定論	3後			1				◎		
健康増進実践演習	3後			1				◎		
健康増進実践実習	3後			1				◎		
パフォーマンス向上論	3後			1				◎		
フィットネス論	3後			2				◎		
ランニングトレーニング論	3後			2				◎		
ゴルフトレーニング論	3後			2				◎		
ビジョントレーニング論	3後			2				◎		
遊びとレクリエーション	3後			1				◎		
生きがい創造	3後			2				◎		
伝承遊び	3後			2				◎		
シューフィッティング論	3後			1				◎		
福祉工学地域活用論	3後			1				◎		
ロボット工学地域活用論基礎	3後			1				◎		
ロボット工学地域活用論応用	3後			2				◎		
身体障がい者就労環境論	3後			2				◎		
組織運営論	3後			2				◎		
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2		◎	◎	◎	◎		
	理学療法総合実習	4後	1			◎	◎	◎		
	リハビリテーション総合演習	3後	1				◎	◎		

カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（理学療法学科）

カリキュラム・ポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマ・ポリシー
<p>理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>					<p>理学療法学科では、所定の規則に基づき131単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に理学療法士（専門職）の学位を授与する。</p>
<p><b>CP1</b> 倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 学びの基礎 音楽（選択） 教育学 倫理学入門 哲学入門（選択） 心理学 社会学（選択） 日本の伝統文化（選択） 日本の近代史（選択） 体育（選択） 生物学 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ（選択） 数学 英語Ⅰ 英語Ⅱ（選択） 【職業専門科目】 人間発達学 リハビリテーション概論 理学療法見学実習Ⅰ 理学療法見学実習Ⅱ 【展開科目】 ポランティア論</p>	<p>【基礎科目】 キャリア発達論 経営学入門（選択） 統計学 韓国語（選択） 中国語（選択） 【職業専門科目】 社会福祉学 理学療法見学実習Ⅲ 【展開科目】 災害支援論</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法評価実習 理学療法総合臨床実習Ⅰ 【展開科目】 地域共生論</p>	<p>理学療法総合臨床実習Ⅱ 理学療法地域実習</p>	<p><b>DP1</b> 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>
<p><b>CP2</b> 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 コミュニケーション論 英語Ⅰ※再掲 英語Ⅱ（選択）※再掲 【職業専門科目】 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 理学療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【基礎科目】 韓国語（選択）※再掲 中国語（選択）※再掲 【職業専門科目】 理学療法見学実習Ⅲ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 臨床技能論実習 理学療法評価実習※再掲 理学療法総合臨床実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 地域共生論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 理学療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習</p>	<p><b>DP2</b> 地域住民を取り巻き多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p>
<p><b>CP3</b> 理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅲ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 運動学Ⅰ 精神医学 薬理学概論 リハビリテーション概論※再掲 基礎理学療法Ⅰ 基礎理学療法Ⅱ 基礎理学療法実習Ⅰ 基礎理学療法実習Ⅱ 理学療法評価学 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 理学療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 運動学Ⅱ 運動学実習 運動生理学実習 救急救助論 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 小児科学 老年医学 画像診断学 栄養学 理学療法評価学実習 画像評価学 運動療法学 運動療法学実習 物理療法学 日常生活活動論 義肢装具学Ⅰ 義肢装具学Ⅱ 運動器障害系理学療法実習Ⅰ 小児理学療法学演習 老年期理学療法学演習 スポーツ障害系理学療法学演習 地域理学療法学 理学療法見学実習Ⅲ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 予防医学 地域包括ケア論 基礎理学療法研究法 臨床技能論実習※再掲 理学療法評価学演習 徒手理学療法学 徒手理学療法学実習 神経障害系理学療法学実習Ⅰ 神経障害系理学療法学実習Ⅱ 運動器障害系理学療法学実習Ⅰ 運動器障害系理学療法学実習Ⅱ 内部障害系理学療法学実習Ⅰ 内部障害系理学療法学実習Ⅱ 地域理学療法学実習 理学療法評価学実習※再掲 理学療法総合臨床実習Ⅰ※再掲 【総合科目】 リハビリテーション総合演習</p>	<p>【職業専門科目】 理学療法管理学 保健医療福祉関連制度論 神経筋骨格障害応用論実習（選択） 内部障害応用論実習（選択） スポーツ障害応用論実習（選択） 理学療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 理学療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習</p>	<p><b>DP3</b> 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>
<p><b>CP4</b> 理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を究掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 リハビリテーション概論※再掲 理学療法見学実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 ポランティア論※再掲 生涯スポーツ論 労働衛生論</p>	<p>【職業専門科目】 地域理学療法学※再掲 理学療法見学実習Ⅲ※再掲 【展開科目】 子育て支援論 災害支援論※再掲 教育支援論</p>	<p>【職業専門科目】 地域理学療法学実習※再掲 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 施設企業運営論 メンタルヘルスマネジメント論（選択） 地域共生論※再掲 障がい者スポーツ論 健康増進実践演習（選択） 健康増進実践演習（選択） 身体障がい者就業環境論（選択） 組織運営論（選択） 【総合科目】 リハビリテーション総合演習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 保健医療福祉関連制度※再掲 理学療法地域実習※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習※再掲</p>	<p><b>DP4</b> 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p>
<p><b>CP5</b> 理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や技術を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 リハビリテーション概論※再掲 【展開科目】 ポランティア論※再掲 生涯スポーツ論※再掲 労働衛生論※再掲</p>	<p>【展開科目】 子育て支援論※再掲 災害支援論※再掲 教育支援論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論 【展開科目】 マーケティング論※再掲 施設企業運営論※再掲 メンタルヘルスマネジメント論（選択）※再掲 地域共生論※再掲 障がい者スポーツ論※再掲 スポーツリズムトレーニング論（選択） 体力測定論（選択） 健康増進実践演習（選択）※再掲 健康増進実践演習（選択）※再掲 パフォーマンス向上論（選択） フィットネス論（選択） ランニングトレーニング論（選択） ゴルフトレーニング論（選択） ビジョントレーニング論（選択） 遊びとレクリエーション（選択） 生きがい創造（選択） 伝承遊び（選択） シューフィッティング論（選択） 福祉工学地域活用論（選択） ロボット工学地域活用論基礎（選択） ロボット工学地域活用論応用（選択） 身体障がい者就業環境論（選択）※再掲 組織運営論（選択）※再掲 【総合科目】 リハビリテーション総合演習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 神経筋骨格障害応用論実習（選択）※再掲 内部障害応用論実習（選択）※再掲 スポーツ障害応用論実習（選択）※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 理学療法総合実習※再掲</p>	<p><b>DP5</b> 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>

凡例

基礎科目
職業専門科目
展開科目
総合科目

## カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。

CP1：人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。

CP2：多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。

CP3：作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を实践できる能力を養うための科目を配置する。

CP4：人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。

CP5：地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	
			必修	選択						
① 基礎科目	初年次 目次 学びの基盤	1前	1		◎					
	コミュニケーション論	1前	1			◎				
	人間と社会系科目	音楽	1後		1	◎				
		キャリア発達論	2後	1		◎				
		教育学	1前	1		◎				
		倫理学入門	1前	1		◎				
		哲学入門	1前		1	◎				
		心理学	1後	1		◎				
		経営学入門	2前		1	◎				
		社会学	1前	1		◎				
		日本の伝統文化	1前		1	◎				
		日本の近代史	1前		1	◎				
		体育	1後		1	◎				
		自然科学系科目	生物学	1前	1		◎			
	物理学Ⅰ		1前	1		◎				
	物理学Ⅱ		1後		1	◎				
	統計学		2後	1		◎				
	数学		1前		1	◎				
	語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1		◎	◎			
		英語Ⅱ	1後		1	◎	◎			
		韓国語	2後		1	◎	◎			
		中国語	2後		1	◎	◎			
	② 職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			◎		
			解剖学Ⅱ	1後	2			◎		
			解剖学Ⅲ	1後	1			◎		
			生理学Ⅰ	1前	2			◎		
			生理学Ⅱ	1後	2			◎		
運動学Ⅰ			1前	1			◎			
運動学Ⅱ			1後	1			◎			
運動学実習			2前	1			◎			
人間発達学			1後	1		◎				
救急援助論			2後	1				◎		
内科学Ⅰ			2前	1				◎		
内科学Ⅱ			2後	1				◎		
神経内科学Ⅰ			2前	1				◎		
神経内科学Ⅱ			2後	1				◎		
整形外科Ⅰ			2前	1				◎		
整形外科Ⅱ			2後	1				◎		
精神医学			2前	1				◎		
小児科学			2前	1				◎		
老年医学			2前	1				◎		
薬理学概論			1後	1				◎		
予防医学			3前	1				◎		
画像診断学		2前	1				◎			
栄養学		2前	1				◎			
社会福祉学		2後	1		◎					
地域包括ケア論		2後	1				◎	◎		
リハビリテーション概論		1前	1		◎		◎			
職業実践科目群		作業療法学総論	1前	1				◎		
		基礎作業学	1前	1				◎		
		基礎作業学実習Ⅰ	1前	1				◎		
		基礎作業学実習Ⅱ	1後	1				◎		
		作業療法研究法	3前	1				◎		
		作業療法管理・制度論	1後	1				◎		
		作業療法と倫理	1後	1				◎		
		作業療法評価学総論	1後	1				◎		
		身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1				◎		
		身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2前	1				◎		
		精神障害作業療法評価学実習	2前	1				◎		
		発達障害作業療法評価学実習	2前	1				◎		
		身体障害作業療法基礎技術論	2後	1				◎		
		運動器疾患作業療法学実習	2後	1				◎		
		中枢神経疾患作業療法学実習	2後	1				◎		
高次脳機能障害作業療法学実習		3前	1				◎			
精神障害作業療法学	2後	1				◎				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		CP1	CP2	CP3	CP4	CP5
			必修	選択					
② 職業専門科目	職業実践科目群	精神障害作業療法学実習	3前	1			◎		
		発達障害作業療法学実習Ⅰ	2後	1			◎		
		発達障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1			◎		
		老年期障害作業療法学	2後	1			◎		
		老年期障害作業療法学実習	3前	1			◎		
		日常生活活動論実習	2前	1			◎		
		社会生活行為論実習	2前	1			◎		
		作業分析活用論	2後	1			◎		
		作業分析活用論実習	2後	1			◎		
		家族援助論	3前	1			◎		
		住環境支援論	3前	1			◎		
		作業療法義肢装具実習	2後	1			◎		
		生活行為向上マネジメント論実習	3前	1			◎		
		地域生活作業療法学総論	2前	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅰ	2後	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅱ	2後	1			◎	◎	
		地域生活作業療法学実習Ⅲ	3前	1			◎	◎	
		作業療法見学実習Ⅰ	1後	1		◎	◎	◎	
		作業療法見学実習Ⅱ	2前	1		◎	◎	◎	
		作業療法評価実習	3前	5		◎	◎	◎	
		作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7		◎	◎	◎	
		作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7		◎	◎	◎	
		作業療法地域実習	4前	1		◎	◎	◎	◎
③ 展開科目	マーケティング論	2後	1					◎	◎
	施設起業運営論	3前	1					◎	◎
	ボランティア論	1前	1		◎				◎
	子育て支援論	2前	1					◎	◎
	災害支援論	1後	1		◎				◎
	教育支援論	2後	1					◎	◎
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1					◎	◎
	障がい者スポーツ論	3後	1					◎	◎
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					◎	◎
	地域社会共生論	1前	2		◎			◎	◎
	地域社会共生論実習	1後	1			◎		◎	◎
	精神障がい者就労環境論	3後	2					◎	◎
	身体障がい者就労環境論	3後	2					◎	◎
	就労環境論実習	4前	1			◎		◎	◎
	老年期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	老年期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
	成人期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	成人期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
	児童期地域生活適応論	3後		2				◎	◎
	児童期地域生活適応論実習	4前		1		◎		◎	◎
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2			◎	◎	◎	◎
	作業療法総合実習Ⅰ	4後	1				◎	◎	◎
	作業療法総合実習Ⅱ	4後	1				◎	◎	◎

カリキュラム・ポリシーと授業科目の対応表（作業療法学科）

カリキュラム・ポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	ディプロマ・ポリシー
<p>作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>					<p>作業療法学科では、所定の規則に基づき130単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法士（専門職）の学位を授与する。</p>
<p><b>CP1</b> 人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 学びの基盤 音楽（選択） 教育学 倫理学入門 哲学入門（選択） 心理学 社会学（選択） 日本の伝統文化（選択） 日本の近代史（選択） 体育（選択） 生物学 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ（選択） 数学 英語Ⅰ 英語Ⅱ（選択） 【職業専門科目】 人間発達学 リハビリテーション概論 作業療法見学実習Ⅰ 【展開科目】 ボランティア論 災害支援論 地域社会共生論</p>	<p>【基礎科目】 キャリア発達論 経営学入門（選択） 統計学 韓国語（選択） 中国語（選択） 【職業専門科目】 社会福祉学 作業療法見学実習Ⅱ</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法評価実習 作業療法総合臨床実習Ⅰ</p>	<p>作業療法総合臨床実習Ⅱ 作業療法地域実習</p>	<p><b>DP1</b> 作業療法として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊富な人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p>
<p><b>CP2</b> 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【基礎科目】 コミュニケーション論 英語Ⅰ※再掲 英語Ⅱ（選択）※再掲 【職業専門科目】 作業療法見学実習Ⅰ※再掲 【展開科目】 地域社会共生論実習</p>	<p>【基礎科目】 韓国語（選択）※再掲 中国語（選択）※再掲 【職業専門科目】 地域生活作業療法学総論 地域生活作業療法学実習Ⅰ 地域生活作業療法学実習Ⅱ 作業療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域生活作業療法学実習Ⅲ 作業療法評価実習※再掲 作業療法総合臨床実習Ⅰ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 作業療法地域実習※再掲 【展開科目】 就労環境論実習 老年期地域生活適応論実習 成人期地域生活適応論実習 児童期地域生活適応論実習 【総合科目】 協働連携論総合実習</p>	<p><b>DP2</b> 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p>
<p><b>CP3</b> 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【職業専門科目】 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅲ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 薬理学概論 リハビリテーション概論※再掲 作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業療法学実習Ⅰ 基礎作業療法学実習Ⅱ 作業療法管理・制度論 作業療法と倫理 作業療法評価学総論 作業療法見学実習Ⅰ</p>	<p>【職業専門科目】 運動学実習 救急救助論 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 精神医学 小児科学 老年医学 画像診断学 栄養学 地域包括ケア論 身体障害作業療法評価学実習Ⅰ 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習 身体障害作業療法基礎技術論 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 精神障害作業療法学 発達障害作業療法学実習Ⅰ 老年障害作業療法学 日常生活活動論実習 社会生活行為論実習 作業分析活用論 作業分析活用論実習 作業療法義肢装具実習 地域生活作業療法学総論※再掲 地域生活作業療法学実習Ⅰ※再掲 地域生活作業療法学実習Ⅱ※再掲 作業療法見学実習Ⅱ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 予防医学 作業療法研究法 高次脳機能障害作業療法学実習 精神障害作業療法学実習 発達障害作業療法学実習Ⅱ 老年期障害作業療法学実習 家族援助論 住環境支援論 生活行為向上マネジメント論実習 地域生活作業療法学実習Ⅲ※再掲 作業療法評価実習※再掲 作業療法総合臨床実習Ⅰ※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法総合臨床実習Ⅱ※再掲 作業療法地域実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ 作業療法総合実習Ⅱ</p>	<p><b>DP3</b> 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>
<p><b>CP4</b> 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【展開科目】 地域社会共生論※再掲 地域社会共生論実習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 子育て支援論 教育支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p>	<p>【職業専門科目】 地域生活作業療法学実習Ⅲ※再掲 【展開科目】 施設企業運営論 障がい者スポーツ論 精神障がい者就労環境論 身体障がい者就労環境論 老年期地域生活適応論（選択） 成人期地域生活適応論（選択） 児童期地域生活適応論</p>	<p>【職業専門科目】 作業療法地域実習※再掲 【展開科目】 障がい者スポーツ論実習 就労環境論実習※再掲 老年期地域生活適応論実習※再掲 成人期地域生活適応論実習※再掲 児童期地域生活適応論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ※再掲 作業療法総合実習Ⅱ※再掲</p>	<p><b>DP4</b> 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p>
<p><b>CP5</b> 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>【展開科目】 ボランティア論※再掲 災害支援論※再掲 地域社会共生論※再掲 地域社会共生論実習※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 地域包括ケア論※再掲 【展開科目】 マーケティング論 子育て支援論 教育支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p>	<p>【展開科目】 施設企業運営論※再掲 障がい者スポーツ論※再掲 精神障がい者就労環境論※再掲 身体障がい者就労環境論※再掲 老年期地域生活適応論（選択）※再掲 成人期地域生活適応論（選択）※再掲 児童期地域生活適応論※再掲</p>	<p>【職業専門科目】 障がい者スポーツ論実習※再掲 就労環境論実習※再掲 老年期地域生活適応論実習※再掲 成人期地域生活適応論実習※再掲 児童期地域生活適応論実習※再掲 【総合科目】 協働連携論総合実習※再掲 作業療法総合実習Ⅰ※再掲 作業療法総合実習Ⅱ※再掲</p>	<p><b>DP5</b> 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。</p>

凡例

基礎科目
職業専門科目
展開科目
総合科目

# びわこリハビリテーション専門職大学 既修得単位の認定に関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は、本学学則第16条の規定に基づき、既修得単位の認定に関し必要な事項を定める。

(単位認定の対象とする入学前の既修得単位等)

第2条 単位認定の対象とすることができる入学前の既修得科目は、本学において開講する基礎科目、職業専門科目の理学療法／作業療法理論科目群、展開科目の授業科目（以下「当該授業科目」という。）の内容に見合う授業科目とする。

2 単位認定の対象とすることができる入学前の既修得単位等は、次の各号に掲げるとおりとする。

一 大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

二 前号以外の教育施設等における学修のうち、次に掲げるもの

ア 大学又は短期大学の専攻科における学修

イ 高等専門学校のカリキュラム又は専攻科における学修

ウ 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修

エ 文部科学大臣認定技能審査（英検、漢検等）に係る学修および TOEIC、TOEFL 又はこれらと同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、大学が大学教育相当水準と認めたもの

3 単位の認定の対象とすることのできる既修得単位は、在学中に他大学等で修得した単位と合わせて 60 単位以内とする。

(認定の申請)

第3条 単位の認定を受けようとする者は、既修得単位認定願に当該大学及び短期大学等の成績証明書（在学期間を明記したもの）及び認定を受けようとする既修得科目の概要を記載した書類を添えて入学した年度の前学期授業開始1週間以内に学長に提出しなければならない。

(単位の認定)

第4条 単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

(認定の可否)

第5条 学長は、認定の可否について、既修得単位認定通知書により学生に通知する。

(社会人の経験に対する単位の認定)

第6条 社会人の「専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力」の単位認定は、本学において開講する展開科目の授業科目（以下「当該授業科目」という。）

の内容に見合う授業科目とする。

2 単位認定の対象とすることができる入学前の社会人の経験とは、法令の規定に基づく職業資格と技能検定、技能審査その他の実務の能力に関する審査、または同等以上の社会的評価を有する実務の能力に関する審査であって、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 審査を行う者が国、地方公共団体、独立行政法人その他の公益的法人であること
- 二 審査の内容が、学校教育法第八十三条の二第一項に規定する専門職大学の目的に照らして適切なものであること
- 三 審査が全国的な規模において、毎年一回以上行われるものであること
- 四 審査の実施の方法が、適切かつ公正であること

3 単位の認定の対象とすることのできる既修得単位は 30 単位を超えない範囲とし、在学中に他大学等で修得した単位と合わせて 60 単位以内とする。

(社会人の経験に対する単位の認定の申請)

第7条 単位の認定を受けようとする者は、資格等を証明する証書の写しを入学した年度の前学期授業開始1週間以内に学長に提出しなければならない。

(社会人の経験に対する単位の認定)

第8条 単位の認定は、当該授業科目担当教員が審査を行い、教授会の承認を得て、授業科目及び単位数を認定する。

(社会人の経験に対する単位の認定の可否)

第9条 学長は、認定の可否について、既修得単位認定通知書により学生に通知する。

(外国の大学等を卒業又は中途退学した場合)

第10条 外国の大学等を卒業又は中途退学した後、本学に入学した学生の単位の認定についても、この内規により取り扱う。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、既修得単位の認定に関し必要な事項は、教授会において定める。

附 則

本内規は、令和2年4月1日から施行する。

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語Ⅱ	選	鈴木 規己洋	1	15	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために、また、基礎的な英語4技能の向上と幅広い知識の習得のために、テキストを利用しながら様々なケースについて知識を得るとともに、臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら、実践的に学ぶ機会を提供する。</p> <p>日常的に接する「読み、書き、リスニング、スピーキング」に気づかせる教材を利用し、基礎的文法、構文、語彙、慣用表現を復習・認識させながら、「読み、書き、リスニング、スピーキング」を職場を含む社会生活で実践できるようになるための基礎的な英語力を修得する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p> <p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	Travel and Technology (旅行とテクノロジー)					鈴木 規己洋
第2回	The Color of Fashion (ファッションの色)					鈴木 規己洋
第3回	Disappearing Animal (絶滅動物) I Endangered Species (絶滅危惧種)					鈴木 規己洋
第4回	Disappearing Animal (絶滅動物) II Bring Back the Woolly Mammoth (マンモス呼び戻す)					鈴木 規己洋
第5回	Big Money (大金) I What Does a Million Dollars Buy? (百万ドルで何をかう?)					鈴木 規己洋
第6回	Big Money (大金) II Lottery Winners: Rich...but Happy? (宝くじ: お金持ち、でも幸せ?)					鈴木 規己洋
第7回	Celebrations Around the world (世界の祝い) Wedding Customs (結婚式の習慣)					鈴木 規己洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規己洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験 (30%)、小テスト・中間確認 (20%)、グループワーク (40%)、レポート (10%)					
教科書	「Active 3 (CENGAGE learning)」					
参考書	「リハビリテーションの英会話」清水雅子・Timothy Minton (MEDICAL VIEW) 医学略語用語集、メディカル英語基礎表現100					
オフィスアワー	後期: 水 16:10~17:15 木 16:10~17:15					

変更前

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語Ⅱ	選	鈴木 規己洋	1	15	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。 語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。					
学位授与方針との関連	DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。 DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。					
	内容					担当教員
第1回	Travel and Technology (旅行とテクノロジー)					鈴木 規己洋
第2回	The Color of Fashion (ファッションの色)					鈴木 規己洋
第3回	Disappearing Animal (絶滅動物) I Endangered Species (絶滅危惧種)					鈴木 規己洋
第4回	Disappearing Animal (絶滅動物) II Bring Back the Woolly Mammoth (マンモス呼び戻す)					鈴木 規己洋
第5回	Big Money (大金) I What Does a Million Dollars Buy? (百万ドルで何を買う?)					鈴木 規己洋
第6回	Big Money (大金) II Lottery Winners: Rich...but Happy? (宝くじ: お金持ち、でも幸せ?)					鈴木 規己洋
第7回	Celebrations Around the world (世界の祝い) Wedding Customs (結婚式の習慣)					鈴木 規己洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規己洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験 (30%)、小テスト・中間確認 (20%)、グループワーク (40%)、レポート (10%)					
教科書	「Active 3 (CENGAGE learning)」					
参考書	「リハビリテーションの英会話」清水雅子・Timothy Minton (MEDICAL VIEW) 医学略語用語集、メディカル英語基礎表現100					
オフィスアワー	後期: 水 16:10~17:15 木 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合実習	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・千住秀明・富田昌夫・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生	1	30	4年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>本科目では、展開科目で学んだ知識と、職業専門科目から得た知識や技術に基づいて、地域共生社会の実現に向けて、地域社会が抱える課題を検討し、その課題に対して取りうるアプローチとその効果について情報を整理する。そして、整理した情報に基づき、地域が抱える固有の課題を発見し、ディスカッションを通して、調査・研究計画を立案していく。さらに、調査・研究結果を発表するとともに、得られた結果から、展開科目や職業専門科目で学んだことを応用・展開させ、地域課題を解決するためのプロジェクトについても企画する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・千住秀明・富田昌夫・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生
第2回	地域課題に対する現状についてディスカッション					
第3回	地域課題に対する現状についてディスカッションのまとめ					
第4回	地域課題が抱える固有の問題についてディスカッション					
第5回	地域課題が抱える固有の問題についてディスカッションのまとめ					
第6回	地域共生社会実現に向けての調査・研究計画の検討					
第7回	地域共生社会実現に向けての調査・研究計画の立案					
第8回	地域共生社会実現に向けての調査・研究の実施					
第9回	地域共生社会実現に向けての調査・研究の分析					
第10回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション資料検討					
第11回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション資料作成					
第12回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション①					
第13回	地域共生社会実現に向けての調査・研究結果についてのプレゼンテーション②					
第14回	地域共生社会実現に向けての地域課題を解決するためのプロジェクトの企画書検討					
第15回	地域共生社会実現に向けての地域課題を解決するためのプロジェクトの企画書作成					
備考	<p>本科目の実施方法については、理学療法学科の学生80名を17グループに分け、1グループ4～5名の学生につき1名の専任教員を配置し、ゼミ形式で進める。しかし、オリエンテーション、プレゼンテーションを行う第1回、第12回、第13回の授業は、1グループ40名の学生と8～9名の専任教員の配置により実施する。</p>					
授業時間以外の学習について	<p>予習として展開科目の学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。プレゼンテーション資料、企画書の作成は授業の進行に合わせて準備すること。</p>					
課題・評価方法	ポートフォリオ40%、レポート30%、プレゼンテーション30%					
教科書	配布資料					
参考書	なし					
オフィスアワー	<p>池谷 後期：水 16：10～17：15            植田 後期：火 16：10～17：15            川崎 後期：月 16：10～17：15            宇於崎 後期：月 16：10～17：15            大西 後期：火 16：10～17：15            里中 後期：水 16：10～17：15            治郎丸 後期：木 16：10～17：15            千住 後期：水 16：10～17：15            富田 後期：月 16：10～17：15            野口 後期：水、金 16：10～17：15            弘部 後期：水 16：10～17：15            藤谷 後期：水 16：10～17：15            分木 後期：水 16：10～17：15            堀 後期：木 16：10～17：15            安田 後期：水 16：10～17：15            山内 後期：水 16：10～17：15            和智 後期：水、金 16：10～17：15</p>					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合演習	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西 均・里中綾子・治郎丸卓三・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀 寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生	1	30	4年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え、学ぶ授業である。地域が抱える課題については、各自が選択した分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画する。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてる。それをもとに、グループワークを行い、理学療法と隣接領域での知識、技術を融合し、それを地域社会の中で応用し活用できる力を育成する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・野口真一・弘部重信・藤谷 亮・分木ひとみ・堀 寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生
第2回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッション					
第3回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッション					
第4回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッションとフィードバック					
第5回	地域課題に対する選択するテーマの決定					
第6回	テーマに対する理学療法士として実践可能な課題解決策について情報交換					
第7回	テーマに対する理学療法士として実践可能な課題解決策についてディスカッション					
第8回	地域課題に対する理学療法の応用計画書の作成					
第9回	地域課題に対する理学療法の応用計画についてディスカッション					
第10回	地域課題に対する理学療法の応用計画についてディスカッションとフィードバック					
第11回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション作成					
第12回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第13回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第14回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第15回	地域課題に対する理学療法の応用計画書のレポート作成					
備考	授業はゼミ形式で進める					
授業時間以外の学習について	予習として展開科目の中で選択した分野について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。計画書の作成とプレゼンテーション作成は講義の進行に合わせて準備すること。					
課題・評価方法	ポートフォリオ40%、レポート30%、プレゼンテーション30%					
教科書	配布資料					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 植田 後期：火 16：10～17：15 川崎 後期：月 16：10～17：15 宇於崎 後期：月 16：10～17：15 大西 後期：火 16：10～17：15 里中 後期：水 16：10～17：15 治郎丸 後期：木 16：10～17：15 野口 後期：水、金 16：10～17：15 弘部 後期：水 16：10～17：15 藤谷 後期：水 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15 堀 後期：木 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15 山内 後期：水 16：10～17：15 和智 後期：水、金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習 I	必	大西満 安部征哉 嶋川 昌典 木岡和実 杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することを目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるかを発見するために、作業療法評価を応用・活用する方法について学修する。これまでの展開科目や実習で得た情報、事例を基にグループワークを通じて、作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学修する。					
学位授与方 針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	第2回～第9回、第14回、第15回は、学生40名を1グループ5名の8グループに分け、2グループにつき1人の専任教員を配置し、グループワーク形式で進める。					
授業時間以 外の学習に ついて	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価 方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、安部（火・金 16：10～17：15） 嶋川（火・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅰ	必	大西満 安部征哉 嶋川 昌典 木岡和実 杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのか発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。					
学位授与方 針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分かれてディスカッションを行う。					
授業時間以 外の学習に ついて	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価 方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、安部（火・金 16：10～17：15） 嶋川（火・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西満 辻村肇 河津拓 木岡和実 杉本久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談(事例)から、地域障害者の課題をグループごとに発見し、分析することで応用力を育成する。					
学位授与方 針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション(授業目標と方法など)					大西 満 辻村 肇 河津 拓 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談(片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺)					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	第4回～第9回、第14回、第15回について、学生40名を1グループ5名の8グループに分け、2グループにつき1人の専任教員(総計4名)を配置し、グループワーク形式で進める。					
授業時間 以外の学習 について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価 方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：大西(月・水 16:10～17:15)、辻村(木・金 16:10～17:15) 河津(月・水 16:10～17:15)、木岡(水・金 16:10～17:15) 杉本(月・金 16:10～17:15)					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西満 下西徳 木岡和実 澤賢一郎 杉本久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力を育成する。					
学位授与方 針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 下西 徳 澤 賢一郎 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分け、2グループごとに4名のゲストスピーカーから体験を聴取する。					
授業時間 以外の学習 について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価 方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、下西（木・金 16：10～17：15） 澤（水・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西満 分木ひとみ 園田悠馬 池谷雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実践について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西満 分木ひとみ 園田悠馬 池谷雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺、切断）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考	講義回ごと下記のグループ単位で実習を行う。 ①30名グループ：第1～6、8、25～28回 ②5名グループ：第7、9～24、29、30回					
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、分木（水 16：10～17：15） 園田（水・金 16：10～17：15）、池谷（水 16：10～17：15）					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	有田 智氏・大西 満・辛島 千恵子・池谷 雅江・分木 ひとみ	2	60	4年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。 DP3 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。 DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					有田 智氏・大西 満・辛島 千恵子・池谷 雅江・分木 ひとみ
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考						
授業時間以外の学習について	症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習行うこと。またレポート作成、発表などの準備を各自で進めるようにしてください。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	大西 後期：月、水 16：10～17：15 辛島 後期：水、木 16：10～17：15 有田 後期：月、水 16：10～17：15 池谷 後期：水 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

# 設置基準及び指定規則と本学教育課程の対応表

## 理学療法学科

【理学療法学科】	理学療法士 作業療法士 施設指定 規則	単位数	基礎分野			専門基礎分野			専門分野					その他	計	
			科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学			臨床実習
			14	12	14	4	6	2	6	20	3	20				
		授業時間数	210h(推)			900h(推)			1,110h(推)					900h(推)	101	3,120h
専門職大学設置基準	①基礎科目	20	20													20
	②職業専門科目 理学療法理論科目群	40 (60-④)		14	14	2										30
	③職業専門科目 職業実践科目群(④除く)						6	2	5	21	3				37	
	④臨地実務実習	20										20			20	
	⑤展開科目	20											20		20	
	⑥総合科目	4				2			1	1					4	
	合計単位数	124	20			14	14	4	6	2	6	22	3	20	20	131
	指定規則上の授業科目の授業時間数			最小300h 最大315h			855h			1,080h					900h	最小3135h 最大3150h
	合計授業時間数(全体)			最小300h 最大315h			855h			1,080h					900h	最小3,435h 最大3,480h

## 作業療法学科

【作業療法学科】	理学療法士 作業療法士 施設指定 規則	単位数	基礎分野			専門基礎分野			専門分野					その他	計	
			科学的思考の基盤	人間と生活	社会の理解	人体の構造と機能及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業療法治療学	地域作業療法学			臨床実習
			14	12	14	4	5	2	5	19	4	22				
		授業時間数	210(推)			900h(推)			1,050h(推)					990(推)	101	3,150h
専門職大学設置基準	①基礎科目	20	20													20
	②職業専門科目 作業療法理論科目群	40 (60-④)		13	14	3										30
	③職業専門科目 職業実践科目群(④除く)						5	2	5	18	4				34	
	④臨地実務実習	20										22			22	
	⑤展開科目	20											20		20	
	⑥総合科目	4				2			1	1					4	
	合計単位数	124	20			13	14	5	5	2	6	19	4	22		130
	指定規則上の授業科目の授業時間数			最小300h 最大315h			855h			1,005h					990h	最小3,150h 最大3165h
	合計授業時間数(全体)			最小300h 最大315h			840h			1,005h					990h	最小3,540h 最大3,570h

講義科目における単位と授業時間の整理表

理学療法学科

講義	基礎科目	職業専門科目 (理学療法理論科目群)	職業専門科目 (職業実践科目群)	展開科目	総合科目
1単位15時間	学びの基盤、コミュニケーション論、音楽、キャリア発達論、教育学、倫理学入門、哲学入門、心理学、経営学入門、社会学、日本の伝統文化、日本の近代史、生物学、物理学Ⅰ・Ⅱ、統計学、数学、英語Ⅰ・Ⅱ、韓国語、中国語	人間発達学、救急援助論、精神医学、薬理学概論、予防医学、画像診断学、栄養学、社会福祉学	基礎理学療法Ⅰ、基礎理学療法Ⅱ、基礎理学療法研究法、理学療法管理学、保健医療福祉関連制度論、画像評価学、徒手理学療法学、物理療法学、地域理学療法学	マーケティング論、施設起業運営論、ボランティア論、子育て支援論、災害支援論、教育支援論、メンタルヘルスマネジメント論、障がい者スポーツ論、生涯スポーツ論、労働衛生論、体力測定論、パフォーマンス向上論、遊びとレクリエーション、シューフィッティング論、福祉工学地域活用論、ロボット工学地域活用論基礎、スポーツリズムトレーニング論	
2単位30時間				地域共生論、身体障がい者就業環境論、フィットネス論、ランニングトレーニング論、ゴルフトレーニング論、ビジョントレーニング論、生きがい創造、伝承遊び、身体障がい者就業環境論、組織運営論、ロボット工学地域活用論応用	
1単位30時間		解剖学Ⅲ、運動学Ⅰ・Ⅱ、内科学Ⅰ・Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、整形外科Ⅰ・Ⅱ、小児科学、老年医学、地域包括ケア論、リハビリテーション概論	理学療法評価学、運動療法学、日常生活活動学、義肢装具学Ⅰ、義肢装具学Ⅱ		
2単位60時間		解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ			

作業療法学科

講義	基礎科目	職業専門科目 (作業療法理論科目群)	職業専門科目 (職業実践科目群)	展開科目	総合科目
1単位15時間	学びの基盤、コミュニケーション論、音楽、キャリア発達論、教育学、倫理学入門、哲学入門、心理学、経営学入門、社会学、日本の伝統文化、日本の近代史、生物学、物理学Ⅰ・Ⅱ、統計学、数学、英語Ⅰ・Ⅱ、韓国語、中国語	人間発達学、救急援助論、薬理学概論、予防医学、画像診断学、栄養学、社会福祉学	基礎作業学、作業療法研究法、作業療法管理・制度論、作業療法と倫理、家族援助論	マーケティング論、施設起業運営論、ボランティア論、子育て支援論、災害支援論、教育支援論、メンタルヘルスマネジメント論、障がい者スポーツ論	
2単位30時間				地域社会共生論、精神障がい者就業環境論、身体障がい者就業環境論、老年期地域社会適応論、成人期地域社会適応論、児童期地域社会適応論	
1単位30時間		解剖学Ⅲ、運動学Ⅰ・Ⅱ、内科学Ⅰ・Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、整形外科Ⅰ・Ⅱ、精神医学、小児科学、老年医学、地域包括ケア論、リハビリテーション概論	作業療法学総論、作業療法評価学総論、身体障害作業療法基礎技術論、精神障害作業療法学、老年期障害作業療法学、作業分析活用論、住環境支援論、地域生活作業療法学総論		
2単位60時間		解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ			

## 教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
① 基礎科目	初年次教育科目 学びの基盤 コミュニケーション論	1前	1			○			15	15		
		1前	1			○			15	15		
	自然科学系科目	音楽	1後		1		○			15	15	
		キャリア発達論	2後	1			○			15	15	
		教育学	1前	1			○			15	15	
		倫理学入門	1前	1			○			15	15	
		哲学入門	1前		1		○			15	15	
		心理学	1後	1			○			15	15	
		経営学入門	2前		1		○			15	15	
		社会学	1前		1		○			15	15	
		日本の伝統文化	1前		1		○			15	15	
		日本の近代史	1前		1		○			15	15	
		体育	1後		1				○	30	30	
		語学教育科目	英語 I	1前	1			○			15	15
	英語 II		1後		1		○			15	15	
	韓国語		2後		1		○			15	15	
	中国語		2後		1		○			15	15	
	小計 (22科目)		—	10	12	0	—					
	② 職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学 I	1前	2			○			30	60
			解剖学 II	1後	2			○			30	60
解剖学 III			1後	1			○			30	30	
生理学 I			1前	2			○			30	60	
生理学 II			1後	2			○			30	60	
運動学 I			1後	1			○			30	30	
運動学 II			2前	1			○			30	30	
運動学実習			2後	1					○	30	30	
運動生理学実習			2後	1					○	30	30	
人間発達学			1後	1			○			15	15	
救急援助論			2後	1			○			15	15	
内科学 I			2前	1			○			30	30	
内科学 II			2後	1			○			30	30	
神経内科学 I			2前	1			○			30	30	
神経内科学 II			2後	1			○			30	30	
整形外科 I			2前	1			○			30	30	
整形外科 II			2後	1			○			30	30	
精神医学			1後	1			○			15	15	
小児科学			2前	1			○			30	30	
老年医学			2前	1			○			30	30	
薬理学概論			1後	1			○			15	15	
予防医学			3前	1			○			15	15	
画像診断学			2前	1			○			15	15	
栄養学			2前	1			○			15	15	
社会福祉学	2後	1			○			15	15			
地域包括ケア論	3前	1			○			30	30			
リハビリテーション概論	1前	1			○			30	30			

## 教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
② 職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1前	1			○			15	15
	基礎理学療法Ⅱ	1前	1			○			15	15
	基礎理学療法実習Ⅰ	1後	1					○	30	30
	基礎理学療法研究法	3前	1			○			15	15
	基礎理学療法実習Ⅱ	1後	1					○	30	30
	臨床技能論実習	3前	1					○	30	30
	理学療法管理学	4後	1			○			15	15
	保健医療福祉関連制度論	4後	1			○			15	15
	理学療法評価学	1後	1			○			30	30
	理学療法評価学実習	2前	2					○	30	60
	理学療法評価学演習	3前	1				○		30	30
	画像評価学	2後	1			○			15	15
	運動療法学	2前	1			○			30	30
	運動療法学実習	2後	1					○	30	30
	徒手理学療法学	3前	1			○			15	15
	徒手理学療法実習	3後	1					○	30	30
	物理療法学	2前	1			○			15	15
	日常生活活動学	2前	1			○			30	30
	義肢装具Ⅰ	2前	1			○			30	30
	義肢装具Ⅱ	2後	1			○			30	30
	神経障害系理学療法実習Ⅰ	3前	1					○	30	30
	神経障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1					○	30	30
	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	2後	1					○	30	30
	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1					○	30	30
	内部障害系理学療法実習Ⅰ	3前	1					○	30	30
	内部障害系理学療法実習Ⅱ	3前	1					○	30	30
	小児期理学療法演習	2後	1					○	30	30
	老年期理学療法演習	2後	1					○	30	30
	スポーツ障害系理学療法実習	2後	1					○	30	30
	神経筋骨格障害応用論実習	4後			2			○	45	90
	内部障害応用論実習	4後			2			○	45	90
	スポーツ障害応用論実習	4後			2			○	45	90
	地域理学療法学	2後	1				○		15	15
	地域理学療法実習	3前	1					○	30	30
	理学療法見学実習Ⅰ	1前	1					臨	45	45
	理学療法見学実習Ⅱ	1後	1					臨	45	45
	理学療法見学実習Ⅲ	2前	1					臨	45	45
	理学療法評価実習	3前	4					臨	45	180
	理学療法総合臨床実習Ⅰ	3後	6					臨	45	270
	理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	6					臨	45	270
理学療法地域実習	4前	1					臨	45	45	
小計 (68科目)		—	83	6	0		—			

## 教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
③ 展開科目	マーケティング論	3後	1			○			15	15
	施設起業運営論	3後	1			○			15	15
	ボランティア論	1後	1			○			15	15
	生涯スポーツ論	1前	1			○			15	15
	労働衛生論	1後	1			○			15	15
	子育て支援論	2前	1			○			15	15
	災害支援論	2前	1			○			15	15
	教育支援論	2前	1			○			15	15
	メンタルヘルスマネジメント論	3後			1	○			15	15
	地域共生論	3前	2			○			15	30
	障がい者スポーツ論	3後	1			○			15	15
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○	30	30
	スポーツリズムトレーニング論	3後			1	○			15	15
	体力測定論	3後			1	○			15	15
	健康増進実践演習	3後			1		○		30	30
	健康増進実践実習	3後			1			○	30	30
	パフォーマンス向上論	3後			1	○			15	15
	フィットネス論	3後			2	○			15	30
	ランニングトレーニング論	3後			2	○			15	30
	ゴルフトレーニング論	3後			2	○			15	30
	ビジョントレーニング論	3後			2	○			15	30
	遊びとレクリエーション	3後			1	○			15	15
	生きがい創造	3後			2	○			15	30
	伝承遊び	3後			2	○			15	30
	シューフィッティング論	3後			1	○			15	15
	福祉工学地域活用論	3後			1	○			15	15
	ロボット工学地域活用論基礎	3後			1	○			15	15
	ロボット工学地域活用論応用	3後			2	○			15	30
	身体障がい者就労環境論	3後			2	○			15	30
	組織運営論	3後			2	○			15	30
小計 (30科目)		—	12	28	0		—			
④ 総合科目	協働連携論総合実習	4後	2					○	30	60
	理学療法総合実習	4後	1					○	30	30
	リハビリテーション総合演習	3後	1				○		30	30
	小計 (3科目)		—	4	0	0		—		
合計 (123科目)		—	109	46	0		—			

## 教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			1単位当たりの授業時間数	総授業時間数		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
① 基礎科目	教育科目 初年次 学びの基盤	1前	1			○			15	15		
	コミュニケーション論	1前	1			○			15	15		
	人間と社会系科目	音楽	1後		1		○			15	15	
		キャリア発達論	2後	1			○			15	15	
		教育学	1前	1			○			15	15	
		倫理学入門	1前	1			○			15	15	
		哲学入門	1前		1		○			15	15	
		心理学	1後	1			○			15	15	
		経営学入門	2前		1		○			15	15	
		社会学	1前	1			○			15	15	
		日本の伝統文化	1前		1		○			15	15	
		日本の近代史	1前		1		○			15	15	
	体育	1後		1				○	30	30		
	自然科学系科目	生物学	1前	1			○			15	15	
		物理学Ⅰ	1前	1			○			15	15	
		物理学Ⅱ	1後		1		○			15	15	
		統計学	2後	1			○			15	15	
		数学	1前		1		○			15	15	
		語学教育科目	英語Ⅰ	1前	1			○			15	15
			英語Ⅱ	1後		1		○			15	15
	韓国語		2後		1		○			15	15	
		中国語	2後		1		○		15	15		
	小計 (22科目)	—	11	11	0	—						
② 職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			○			30	60	
		解剖学Ⅱ	1後	2			○			30	60	
		解剖学Ⅲ	1後	1			○			30	30	
		生理学Ⅰ	1前	2			○			30	60	
		生理学Ⅱ	1後	2			○			30	60	
		運動学Ⅰ	1前	1			○			30	30	
		運動学Ⅱ	1後	1			○			30	30	
		運動学実習	2前	1					○	30	30	
		人間発達学	1後	1			○			15	15	
		救急援助論	2後	1			○			15	15	
		内科学Ⅰ	2前	1			○			30	30	
		内科学Ⅱ	2後	1			○			30	30	
		神経内科学Ⅰ	2前	1			○			30	30	
		神経内科学Ⅱ	2後	1			○			30	30	
		整形外科Ⅰ	2前	1			○			30	30	
		整形外科Ⅱ	2後	1			○			30	30	
		精神医学	2前	1			○			30	30	
		小児科学	2前	1			○			30	30	
		老年医学	2前	1			○			30	30	
		薬理学概論	1後	1			○			15	15	
		予防医学	3前	1			○			15	15	
		画像診断学	2前	1			○			15	15	
		栄養学	2前	1			○			15	15	
社会福祉学	2後	1			○			15	15			
地域包括ケア論	2後	1			○			30	30			
リハビリテーション概論	1前	1			○			30	30			

## 教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			1単位当 たりの授業時 間数	総授業 時間数	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習			
② 職業 専門科目	作業療法学総論	1前	1			○			30	30	
	基礎作業学	1前	1			○			15	15	
	基礎作業学実習Ⅰ	1前	1					○	30	30	
	基礎作業学実習Ⅱ	1後	1					○	30	30	
	作業療法研究法	3前	1			○			15	15	
	作業療法管理・制度論	1後	1			○			15	15	
	作業療法と倫理	1後	1			○			15	15	
	作業療法評価学総論	1後	1			○			30	30	
	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1					○	30	30	
	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2前	1					○	30	30	
	精神障害作業療法評価学実習	2前	1					○	30	30	
	発達障害作業療法評価学実習	2前	1					○	30	30	
	身体障害作業療法基礎技術論	2後	1			○			30	30	
	運動器疾患作業療法学実習	2後	1					○	30	30	
	中枢神経疾患作業療法学実習	2後	1					○	30	30	
	高次脳機能障害作業療法学実習	3前	1					○	30	30	
	精神障害作業療法学	2後	1			○			30	30	
	精神障害作業療法学実習	3前	1					○	30	30	
	発達障害作業療法学実習Ⅰ	2後	1					○	30	30	
	発達障害作業療法学実習Ⅱ	3前	1					○	30	30	
	老年期障害作業療法学	2後	1			○			30	30	
	老年期障害作業療法学実習	3前	1					○	30	30	
	日常生活活動論実習	2前	1					○	30	30	
	社会生活行為論実習	2前	1					○	30	30	
	作業分析活用論	2後	1			○			30	30	
	作業分析活用論実習	2後	1					○	30	30	
	家族援助論	3前	1			○			15	15	
	住環境支援論	3前	1			○			30	30	
	作業療法義肢装具実習	2後	1					○	30	30	
	生活行為向上マネジメント論実習	3前	1					○	30	30	
	地域生活作業療法学総論	2前	1			○			30	30	
	地域生活作業療法学実習Ⅰ	2後	1					○	30	30	
	地域生活作業療法学実習Ⅱ	2後	1					○	30	30	
	地域生活作業療法学実習Ⅲ	3前	1					○	30	30	
	作業療法見学実習Ⅰ	1後	1					臨	45	45	
	作業療法見学実習Ⅱ	2前	1					臨	45	45	
	作業療法評価実習	3前	5					臨	45	225	
	作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7					臨	45	315	
	作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7					臨	45	315	
	作業療法地域実習	4前	1					臨	45	45	
	小計 (66科目)		—	86	0	0		—			

## 教 育 課 程 等 の 概 要 【 改 変 】

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			1単位当 たりの授業時 間数	総授業 時間数
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習		
③ 展 開 科 目	マーケティング論	2後	1			○			15	15
	施設起業運営論	3前	1			○			15	15
	ボランティア論	1前	1			○			15	15
	子育て支援論	2前	1			○			15	15
	災害支援論	1後	1			○			15	15
	教育支援論	2後	1			○			15	15
	メンタルヘルスマネジメント論	2前	1			○			15	15
	障がい者スポーツ論	3後	1			○			15	15
	障がい者スポーツ論実習	4前	1					○	30	30
	地域社会共生論	1前	2			○			15	30
	地域社会共生論実習	1後	1					○	45	45
	精神障がい者就労環境論	3後	2			○			15	30
	身体障がい者就労環境論	3後	2			○			15	30
	就労環境論実習	4前	1					○	45	45
	老年期地域生活適応論	3後		2		○			15	30
	老年期地域生活適応論実習	4前		1				○	45	45
	成人期地域生活適応論	3後		2		○			15	30
	成人期地域生活適応論実習	4前		1				○	45	45
	児童期地域生活適応論	3後		2		○			15	30
	児童期地域生活適応論実習	4前		1				○	45	45
小計 (20科目)		—	17	9	0	—				
④ 総 合 科 目	協働連携論総合実習	4後	2					○	30	60
	作業療法総合実習 I	4後	1					○	30	30
	作業療法総合実習 II	4後	1					○	30	30
	小計 (3科目)		—	4	0	0	—			
合計 (111科目)		—	118	11	0	—				

# 理学療法学科 1年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	学びの基盤	解剖学Ⅰ	哲学入門	生物学	リハビリテーション 概論
	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	日本の近代史				英語Ⅰ
	1単位15時間   30時間				1単位15時間   30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	基礎理学療法Ⅰ		倫理学入門	解剖学Ⅰ	
	1単位15時間   30時間		1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10		生理学Ⅰ		生理学Ⅰ	
		1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間	
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅰ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

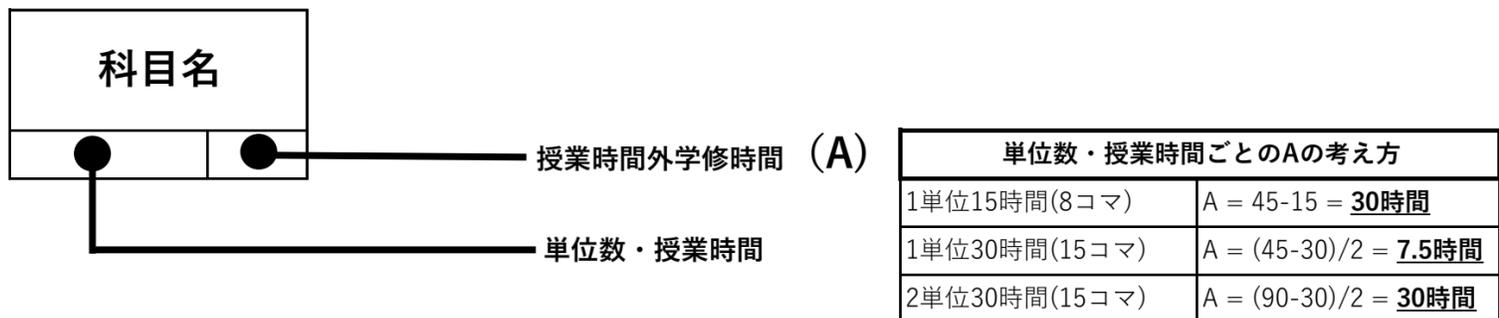
単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
30.9時間	4.4時間	2.4回	3.9時間

# 理学療法学科 1年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	解剖学Ⅰ 1単位30時間 7.5時間				リハビリテーション 概論 1単位30時間 7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	コミュニケーション論 1単位15時間 30時間	教育学 1単位15時間 30時間		物理学Ⅰ 1単位15時間 30時間	
<b>3限</b> 13:00~14:30	数学 1単位15時間 30時間				解剖学Ⅰ 生涯スポーツ論 1単位15時間 30時間
					1単位30時間 7.5時間
<b>4限</b> 14:40~16:10	基礎理学療法Ⅱ 1単位15時間 30時間	生理学Ⅰ 1単位30時間 7.5時間	社会学 1単位15時間 30時間	生理学Ⅰ 1単位30時間 7.5時間	
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅰ 1単位45時間



1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
30.9時間	4.4時間	2.4回	3.9時間

# 理学療法学科 1年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	基礎理学療法学実習Ⅰ	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ	運動学Ⅰ	理学療法評価学
	1単位30時間   7.5時間				
<b>2限</b> 10:40~12:10	基礎理学療法学実習Ⅱ	物理学Ⅱ	労働衛生論	薬理学概論	英語Ⅱ
	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	心理学	生理学Ⅱ	体育	解剖学Ⅲ	
	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10				生理学Ⅱ	
				1単位30時間   7.5時間	
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅱ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = 30$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = 7.5$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = 30$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
28.1時間	4.0時間	3.0回	3.0時間

# 理学療法学科 1年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	基礎理学療法学実習Ⅰ	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ	運動学Ⅰ	理学療法評価学
	1単位30時間   7.5時間				
<b>2限</b> 10:40~12:10	基礎理学療法学実習Ⅱ				
	1単位30時間   7.5時間				
<b>3限</b> 13:00~14:30		生理学Ⅱ	体育	解剖学Ⅲ	精神医学
		1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間
<b>4限</b> 14:40~16:10	人間発達学	音楽	ボランティア論	生理学Ⅱ	
	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅱ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

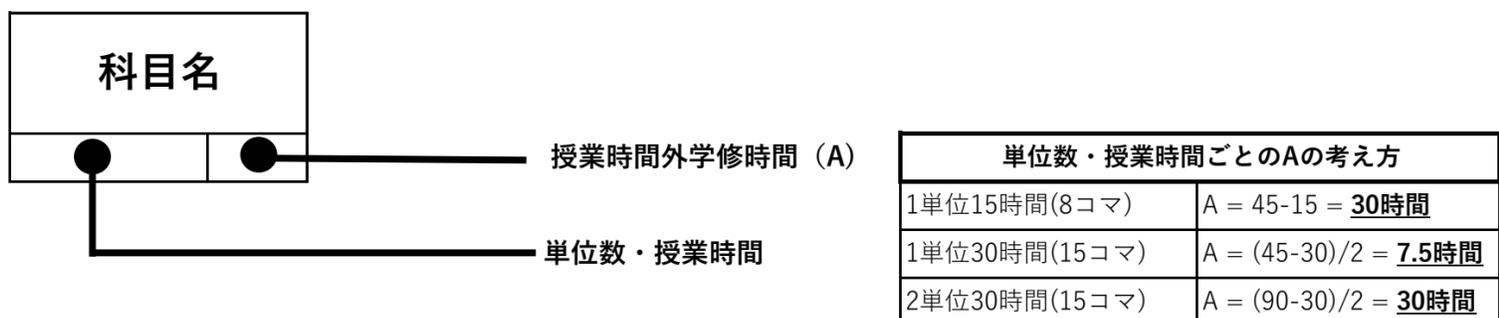
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
24.4時間	3.5時間	2.8回	3.3時間

# 理学療法学科 2年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	運動療法学	小児科学	運動学II	物理療法学	日常生活活動学
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	理学療法評価学実習	整形外科学I	老年医学		神経内科学I
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	義肢装具学I	内科学I	理学療法評価学実習	画像診断学	
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10	災害支援論				経営学入門
	1単位15時間   30時間				1単位15時間   30時間
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法見学実習III 1単位45時間



1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
25.3時間	3.6時間	3.0回	3.0時間

# 理学療法学科 2年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	運動療法学	小児科学	運動学Ⅱ		日常生活活動学
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	理学療法評価学実習	整形外科Ⅰ	老年医学	栄養学	神経内科学Ⅰ
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	義肢装具学Ⅰ	内科学Ⅰ	理学療法評価学実習		教育支援論
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間		1単位15時間   30時間
<b>4限</b> 14:40~16:10			子育て支援論		
			1単位15時間   30時間		
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法見学実習Ⅲ 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
21.6時間	3.1時間	2.8回	3.3時間

# 理学療法学科 2年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	運動学実習		小児期理学療法演習		義肢装具学 II
	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	画像評価学	内科学 II		神経内科学 II	運動生理学実習
	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	運動療法学実習	整形外科学 II	救急援助論	社会福祉学	
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10	スポーツ障害系 理学療法実習	中国語		運動器障害系 理学療法実習 I	老年期理学療法演習
	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間		1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
25.3時間	3.6時間	3.0回	3.0時間

# 理学療法学科 2年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	運動学実習	キャリア発達論	小児期理学療法学演習	地域理学療法学	義肢装具学 II
	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10		内科学 II	統計学	神経内科学 II	運動生理学実習
		1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	運動療法実習	整形外科 II			
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間			
<b>4限</b> 14:40~16:10	スポーツ障害系 理学療法実習			運動器障害系 理学療法実習 I	老年期理学療法学演習
	1単位30時間   7.5時間			1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
21.6時間	3.1時間	2.8回	3.3時間

# 理学療法学科 3年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	臨床技能論実習	徒手理学療法学	地域包括ケア論	予防医学	運動器障害系 理学療法学実習 II
	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	神経障害系 理学療法学実習 II	地域理学療法学実習		内部障害系 理学療法学実習 I	内部障害系 理学療法学実習 II
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	理学療法評価学演習				地域共生論
	1単位30時間   7.5時間				2単位30時間   30時間
<b>4限</b> 14:40~16:10			神経障害系 理学療法学実習 I		
			1単位30時間   7.5時間		
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法評価実習 4単位180時間

**科目名**

--	--

● ————— 授業時間外学修時間 (A)

● ————— 単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
19.7時間	2.8時間	2.4回	3.9時間

# 理学療法学科 3年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	臨床技能論実習		地域包括ケア論		運動器障害系 理学療法実習 II
	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	神経障害系 理学療法実習 II	地域理学療法実習		内部障害系 理学療法実習 I	内部障害系 理学療法実習 II
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	理学療法評価学演習		基礎理学療法研究法		地域共生論
	1単位30時間   7.5時間		1単位15時間   30時間		2単位30時間   30時間
<b>4限</b> 14:40~16:10			神経障害系 理学療法実習 I		
			1単位30時間   7.5時間		
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法評価実習 4単位180時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
15.9時間	2.3時間	2.2回	4.2時間

# 理学療法学科 3年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30		ランニング トレーニング論			
		2単位30時間   30時間			
<b>2限</b> 10:40~12:10		フィットネス論	ゴルフトレーニング論		
		2単位30時間   30時間	2単位30時間   30時間		
<b>3限</b> 13:00~14:30			徒手理学療法実習	リハビリテーション 総合演習	
			1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10	マーケティング論		ビジョントレーニング 論		
	1単位15時間   30時間		2単位30時間   30時間		
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法総合臨床実習Ⅰ 6単位270時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
20.6時間	2.9時間	1.4回	5.4時間

# 理学療法学科 3年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30		ランニング トレーニング論			
		2単位30時間   30時間			
<b>2限</b> 10:40~12:10		フィットネス論	ゴルフトレーニング論		
		2単位30時間   30時間	2単位30時間   30時間		
<b>3限</b> 13:00~14:30	障がい者スポーツ論		徒手理学療法実習	リハビリテーション 総合演習	
	1単位15時間   30時間		1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10		施設起業運営論	ビジョントレーニング 論		
		1単位15時間   30時間	2単位30時間   30時間		
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法総合臨床実習Ⅰ 6単位270時間

**科目名**

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30}$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5}$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30}$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
24.4時間	3.5時間	1.6回	5.1時間

# 理学療法学科 4年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					
<b>2限</b> 10:40~12:10					
<b>3限</b> 13:00~14:30			障がい者スポーツ論 実習		
			1単位30時間   7.5時間		
<b>4限</b> 14:40~16:10					
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法総合臨床実習Ⅱ 6単位270時間

理学療法地域実習 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = <b>30時間</b>
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = <b>7.5時間</b>
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = <b>30時間</b>

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
0.9時間	0.1時間	0.2回	7.2時間

# 理学療法学科 4年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					
<b>2限</b> 10:40~12:10					
<b>3限</b> 13:00~14:30			障がい者スポーツ論 実習		
			1単位30時間	7.5時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10					
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※理学療法総合臨床実習Ⅱ 6単位270時間

理学療法地域実習 1単位45時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = <b>30時間</b>
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = <b>7.5時間</b>
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = <b>30時間</b>

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
0.9時間	0.1時間	0.2回	7.2時間

# 理学療法学科 4年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					理学療法管理学
					1単位15時間   30時間
<b>2限</b> 10:40~12:10					
<b>3限</b> 13:00~14:30			協働連携論総合実習		
			1単位30時間   7.5時間		
<b>4限</b> 14:40~16:10			協働連携論総合実習		理学療法総合実習
			1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※スポーツ障害応用論実習 2単位90時間

神経筋骨格障害応用論実習 2単位90時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
6.6時間	0.9時間	0.8回	6.3時間

# 理学療法学科 4年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					
<b>2限</b> 10:40~12:10					保険医療福祉 関連制度論  1単位15時間 30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30			協働連携論総合実習  1単位30時間 7.5時間		
<b>4限</b> 14:40~16:10			協働連携論総合実習  1単位30時間 7.5時間		理学療法総合実習  1単位30時間 7.5時間
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※スポーツ障害応用論実習 2単位90時間

神経筋骨格障害応用論実習 2単位90時間



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
6.6時間	0.9時間	0.8回	6.3時間

# 作業療法学科 1年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	学びの基盤	生理学Ⅰ	基礎作業学	地域社会共生論	リハビリテーション 概論
	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	2単位30時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10					生物学
					1単位15時間   30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	作業療法学総論	解剖学Ⅰ	哲学入門	生理学Ⅰ	運動学Ⅰ
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>4限</b> 14:40~16:10	倫理学入門	日本の近代史	基礎作業学実習Ⅰ	解剖学Ⅰ	英語Ⅰ
	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7 (1週間)$	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5時間$
37.5時間	5.4時間	3.2回	2.7時間

# 作業療法学科 1年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	コミュニケーション論	生理学Ⅰ	社会学	地域社会共生論	リハビリテーション 概論
	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	2単位30時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	数学				物理学Ⅰ
	1単位15時間   30時間				1単位15時間   30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	作業療法学総論	解剖学Ⅰ	ボランティア論	生理学Ⅰ	運動学Ⅰ
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>4限</b> 14:40~16:10	教育学	日本の伝統文化	基礎作業学実習Ⅰ	解剖学Ⅰ	
	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7 (1週間)$	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5時間$
37.4時間	5.4時間	3.2回	2.7時間

# 作業療法学科 1年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	基礎作業学実習Ⅱ	生理学Ⅱ	作業療法評価学総論	運動学Ⅱ	薬理学概論
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間
<b>2限</b> 10:40~12:10		災害支援論		生理学Ⅱ	作業療法と倫理
		1単位15時間   30時間		1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30		解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅲ	英語Ⅱ
		1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間
<b>4限</b> 14:40~16:10	心理学				
	1単位15時間   30時間				
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※地域社会共生論実習 1単位45時間別枠確保

※作業療法見学実習Ⅰ 1単位45時間別枠確保



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = 30$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = 7.5$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = 30$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7$ (1週間)	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5$ 時間
26.3時間	3.8時間	2.6回	3.6時間

# 作業療法学科 1年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	基礎作業学実習Ⅱ	生理学Ⅱ	作業療法評価学総論	運動学Ⅱ	作業療法管理・制度論
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	人間発達学			生理学Ⅱ	物理学Ⅱ
	1単位15時間   30時間			1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30		解剖学Ⅱ	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅲ	
		1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10			音楽		
			1単位15時間   30時間		
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※地域社会共生論実習 1単位45時間別枠確保

※作業療法見学実習Ⅰ 1単位45時間別枠確保



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7 (1週間)$	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5時間$
22.5時間	3.2時間	2.4回	3.9時間

# 作業療法学科 2年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	内科学Ⅰ	老年医学	精神障害作業療法評価学実習	社会生活行為論実習
	1単位30時間   7.5時間				
<b>2限</b> 10:40~12:10	地域生活作業療法学総論	小児科学		画像診断学	経営学入門
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間		1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	日常生活活動論実習	整形外科Ⅰ	発達障害作業療法評価学実習	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	神経内科学Ⅰ
	1単位30時間   7.5時間				
<b>4限</b> 14:40~16:10	メンタルヘルスマネジメント論	運動学実習			
	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間			
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※作業療法見学実習Ⅱ 1単位45時間 別枠確保

<b>科目名</b>
●
●

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの授業時間外学修時間の合計 (B)	1日の平均授業時間外学修時間	1日の平均授業回数(C)	1日当たりの平均空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
23.4時間	3.3時間	3.2回	2.7時間

# 作業療法学科 2年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	内科学Ⅰ	老年医学	精神障害作業療法評価学実習	社会生活行為論実習
	1単位30時間   7.5時間				
<b>2限</b> 10:40~12:10	地域生活作業療法学総論	小児科学	精神医学	栄養学	子育て支援論
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	日常生活活動論実習	整形外科Ⅰ	発達障害作業療法評価学実習	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	神経内科学Ⅰ
	1単位30時間   7.5時間				
<b>4限</b> 14:40~16:10		運動学実習			
		1単位30時間   7.5時間			
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※作業療法見学実習Ⅱ 1単位45時間 別枠確保

<b>科目名</b>
●
●

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方	
1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの授業時間外学修時間の合計 (B)	1日の平均授業時間外学修時間	1日の平均授業回数(C)	1日当たりの平均空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
23.4時間	3.3時間	3.2回	2.7時間

# 作業療法学科 2年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	地域包括ケア論	内科学Ⅱ	運動器疾患作業療法学 実習	神経内科学Ⅱ	身体障害作業療法基礎 技術論
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	作業分析活用論	整形外科Ⅱ	救急援助論	社会福祉学	精神障害作業療法学
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	中枢神経疾患作業療法 学実習	中国語	作業分析活用論実習	教育支援論	作業療法義肢装具実習
	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>4限</b> 14:40~16:10	老年期障害作業療法学	地域生活作業療法学実 習Ⅰ	地域生活作業療法学実 習Ⅱ	発達障害作業療法学実 習Ⅰ	
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
29.1時間	4.2時間	3.8回	1.8時間

# 作業療法学科 2年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	地域包括ケア論	内科学Ⅱ	運動器疾患作業療法学 実習	神経内科学Ⅱ	身体障害作業療法基礎 技術論
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	作業分析活用論	整形外科学Ⅱ	統計学	キャリア発達論	精神障害作業療法学
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	中枢神経疾患作業療法 学実習	韓国語	作業分析活用論実習	マーケティング論	作業療法義肢装具実習
	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>4限</b> 14:40~16:10	老年期障害作業療法学	地域生活作業療法学実 習Ⅰ	地域生活作業療法学実 習Ⅱ	発達障害作業療法学実 習Ⅰ	
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = <b>30時間</b>
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = <b>7.5時間</b>
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = <b>30時間</b>

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
<b>29.1時間</b>	<b>4.2時間</b>	<b>3.8回</b>	<b>1.8時間</b>

# 作業療法学科 3年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	高次脳機能障害作業療法 学実習	作業療法研究法	住環境支援論		老年期障害作業療法学 実習
	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	精神障害作業療法学実 習	発達障害作業療法学実 習Ⅱ		予防医学	生活行為向上マネジメ ント論実習
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間		1単位15時間   30時間	1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30	施設起業運営論			地域生活作業療法学実 習Ⅲ	
	1単位15時間   30時間			1単位30時間   7.5時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10					
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※作業療法評価実習 5単位225時間 別枠確保



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = <b>30時間</b>
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = <b>7.5時間</b>
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = <b>30時間</b>

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C×1.5時間
17.8時間	2.5時間	2.0回	4.5時間

# 作業療法学科 3年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	高次脳機能障害 作業療法学実習		住環境支援論		老年期障害作業 療法学実習
	1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間		1単位30時間   7.5時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	精神障害作業 療法学実習	発達障害作業療法学 実習 II	家族援助論		生活行為向上マネジメ ント論実習
	1単位30時間   7.5時間	1単位30時間   7.5時間	1単位15時間   30時間		1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30				地域生活作業 療法学実習 III	
				1単位30時間   7.5時間	
<b>4限</b> 14:40~16:10					
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※作業療法評価実習 5単位225時間 (2022年 7/4 (月) ~7/31 (日))



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = <b>30時間</b>
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = <b>7.5時間</b>
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = <b>30時間</b>

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
10.3時間	1.5時間	1.6回	5.1時間

# 作業療法学科 3年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30	児童期地域生活適応論			身体障がい者就労環境論	精神障がい者就労環境論
	2単位・30時間   30時間			2単位・30時間   30時間	2単位・30時間   30時間
<b>2限</b> 10:40~12:10	障がい者スポーツ論				
	1単位・15時間   30時間				
<b>3限</b> 13:00~14:30					
<b>4限</b> 14:40~16:10					
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30}$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5}$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30}$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7$ (1週間)	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5$ 時間
15.0時間	2.1時間	0.8	6.3時間

# 作業療法学科 3年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					
<b>2限</b> 10:40~12:10					
<b>3限</b> 13:00~14:30					
<b>4限</b> 14:40~16:10					
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※作業療法総合臨床実習Ⅰ 7単位315時間 (2023年 1/9 (月) ~2/19 (日))

**科目名**

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = <b>30時間</b>
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = <b>7.5時間</b>
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = <b>30時間</b>

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
0時間	0時間	0回	7.5時間

# 作業療法学科 4年生前期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					
<b>2限</b> 10:40~12:10					
<b>3限</b> 13:00~14:30					
<b>4限</b> 14:40~16:10					
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※作業療法総合臨床実習 II 7単位315時間 (2023年 4/10 (月) ~5/21 (日))

※作業療法地域実習 1単位45時間

**科目名**

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30}$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5}$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30}$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5$ 時間
0時間	0時間	0回	7.5時間

# 作業療法学科 4年生前期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					
<b>2限</b> 10:40~12:10					
<b>3限</b> 13:00~14:30			障がい者スポーツ 論実習  1単位30時間 7.5時間		
<b>4限</b> 14:40~16:10					
<b>5限</b> 16:20~17:50					

※児童期地域生活適応論実習 1単位45時間

※就労環境論実習 1単位45時間

**科目名**

授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	A = 45-15 = <b>30時間</b>
1単位30時間(15コマ)	A = (45-30)/2 = <b>7.5時間</b>
2単位30時間(15コマ)	A = (90-30)/2 = <b>30時間</b>

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	B/7(1週間)	週の授業回数/5 (日)	5-C × 1.5時間
<b>0.9時間</b>	<b>0.1時間</b>	<b>0.2回</b>	<b>7.2時間</b>

# 作業療法学科 4年生後期 (前半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					
<b>2限</b> 10:40~12:10	作業療法総合実習 I				作業療法総合実習 II
	1単位30時間   7.5時間				1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30			協働連携論総合実習		
			1単位30時間   7.5時間		
<b>4限</b> 14:40~16:10			協働連携論総合実習		
			1単位30時間   7.5時間		
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30}$ 時間
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5}$ 時間
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30}$ 時間

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7$ (1週間)	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5$ 時間
3.8時間	0.5時間	0.8回	6.3時間

# 作業療法学科 4年生後期 (後半)

	月	火	水	木	金
<b>1限</b> 9:00~10:30					
<b>2限</b> 10:40~12:10	作業療法総合実習 I				作業療法総合実習 II
	1単位30時間   7.5時間				1単位30時間   7.5時間
<b>3限</b> 13:00~14:30			協働連携論総合実習		
			1単位30時間   7.5時間		
<b>4限</b> 14:40~16:10			協働連携論総合実習		
			1単位30時間   7.5時間		
<b>5限</b> 16:20~17:50					



授業時間外学修時間 (A)

単位数・授業時間

単位数・授業時間ごとのAの考え方

1単位15時間(8コマ)	$A = 45 - 15 = \underline{30時間}$
1単位30時間(15コマ)	$A = (45 - 30) / 2 = \underline{7.5時間}$
2単位30時間(15コマ)	$A = (90 - 30) / 2 = \underline{30時間}$

1週間当たりの 授業時間外 学修時間の合計 (B)	1日の平均 授業時間外 学修時間	1日の平均 授業回数(C)	1日当たりの平均 空き時間
授業時間外計/8週	$B / 7 (1週間)$	週の授業回数/5 (日)	$5 - C \times 1.5時間$
3.8時間	0.5時間	0.8回	6.3時間

## 1日当たりの平均時間外学修時間と1日当たりの平均空き時間

	理学療法学科			作業療法学科		
	1日当たりの平均時間外学修時間	1日当たりの平均授業回数	1日当たりの平均空き時間	1日当たりの平均時間外学修時間	1日当たりの平均授業回数	1日当たりの平均空き時間
1年生前期（前半）	4.4時間	2.4回	3.9時間	5.4時間	3.2回	2.7時間
1年生前期（後半）	4.4時間	2.4回	3.9時間	5.4時間	3.2回	2.7時間
1年生後期（前半）	4.0時間	3.0回	3.0時間	3.8時間	2.6回	3.6時間
1年生後期（後半）	3.5時間	2.8回	3.3時間	3.2時間	2.4回	3.9時間
2年生前期（前半）	3.6時間	3.0回	3.0時間	3.3時間	3.2回	2.7時間
2年生前期（後半）	3.1時間	2.8回	3.3時間	3.3時間	3.2回	2.7時間
2年生後期（前半）	3.6時間	3.0回	3.0時間	4.2時間	3.8回	1.8時間
2年生後期（後半）	3.1時間	2.8回	3.3時間	4.2時間	3.8回	1.8時間
3年生前期（前半）	2.8時間	2.4回	3.9時間	2.5時間	2.2回	4.2時間
3年生前期（後半）	2.3時間	2.2回	4.2時間	1.5時間	1.6回	5.1時間
3年生後期（前半）	2.9時間	1.4回	5.4時間	2.1時間	0.8回	6.3時間
3年生後期（後半）	3.5時間	1.6回	5.1時間	0時間	0回	7.5時間
4年生前期（前半）	0.1時間	0.2回	7.2時間	0時間	0回	7.5時間
4年生前期（後半）	0.1時間	0.2回	7.2時間	0.1時間	0.2回	7.2時間
4年生後期（前半）	0.9時間	0.8回	6.3時間	0.5時間	0.8回	6.3時間
4年生後期（後半）	0.9時間	0.8回	6.3時間	0.5時間	0.8回	6.3時間

## 専任教員の研究室の割り振り 新旧対照表

(新)								
専任教員の研究室割り振り(再補正申請)								
No.	区分	部屋番号	階数	面積(m <sup>2</sup> )	学科	教員氏名	学科	教員氏名
1	個別研究室	研究室1	4	22.91	OT	外池光雄(教)		
2	個別研究室	研究室2	4	22.91	PT	富田 昌夫(教)		
3	個別研究室	研究室3	4	22.91	OT	埜田和史(教)		
4	個別研究室	研究室4	4	22.91	OT	三谷章(教)		
5	個別研究室	研究室5	4	22.91	PT	篠田恵一(教)		
6	個別研究室	研究室6	4	21.74	PT	金沢伸彦(教)		
7	個別研究室	研究室7	4	21.74	PT	千住秀明(教)		
8	個別研究室	研究室8	4	20.85	OT	野田亨(教)		
9	共同研究室	研究室9	4	34.10	PT	分木ひとみ(准)	PT	里中 綾子(講)
10	共同研究室	研究室10	4	30.25	OT	辻村肇(講)	OT	木岡和実(助教)
11	個別研究室	研究室11	4	30.07	OT	井出千束(教)		
12	個別研究室	研究室12	4	30.07	OT	辛島千恵子(教)		
13	共同研究室	研究室13	4	30.07	PT	弘部重信(講)	PT	植田昌治(講)
14	個別研究室	研究室14	4	32.37	PT	山内正雄(教)		
15	個別研究室	研究室15	4	35.54	PT	山田久夫(教)		
16	共同研究室	研究室16	4	35.57	PT	佐藤隆彦(助教)	PT	堀寛史(講)
17	共同研究室	研究室17	1	38.00	OT	園田悠馬(講)	OT	安部征哉(講)
18	共同研究室	研究室18	1	38.00	PT	大西均(准)	PT	宇於崎孝(准)
19	共同研究室	研究室19	1	38.00	OT	大西満(准)	OT	鈴木規己洋(准)
20	共同研究室	研究室20	1	38.00	PT	治郎丸卓三(准)	PT	安田孝志(准)
21	共同研究室	研究室21	1	38.00	PT	川崎浩子(講)	PT	鈴木美香(講)
22	個別研究室	研究室22	1	19.00	PT	兼清健志(准)		
23	個別研究室	研究室23	1	16.15	PT	池谷雅江(講)		
24	共同研究室	研究室24	2	52.00	PT	野口真一(講)	PT	和智道生(講)
					PT	藤谷亮(講)		
25	個別研究室	研究室25	2	16.00	PT	中野法彦(教)		
26	共同研究室	研究室26	3	52.00	OT	嶋川昌典(助教)	OT	河津拓(助教)
					OT	杉本久美子(助教)		
27	個別研究室	研究室27	3	16.00	OT	田中弘一郎(教)		
28	学長室	研究室30	1	28.40	PT	山川正信(教)		

※研究室28、29は助手に充てる。(補正時IF 名称未記載の部屋及び運転手控室)

(旧)								
専任教員の研究室割り振り(補正申請)								
No.	区分	部屋番号	階数	面積(m <sup>2</sup> )	教員番号	教員氏名	教員番号	教員氏名
1	個別研究室	研究室1	4	22.91	PT 6	里中綾子(教)		
2	個別研究室	研究室2	4	22.91	PT 4	植田昌治(教)		
3	個別研究室	研究室3	4	22.91	PT 2	金沢伸彦(教)		
4	個別研究室	研究室4	4	22.91	PT 3	中野法彦(教)		
5	個別研究室	研究室5	4	22.91	PT 3	篠田恵一(教)		
6	個別研究室	研究室6	4	21.74	PT 18	山内正雄(教)		
7	個別研究室	研究室7	4	21.74	OT 2	井出千束(教)		
8	個別研究室	研究室8	4	20.85	OT 4	田中弘一郎(教)		
9	個別研究室	研究室9	4	34.10	OT 2	三谷章(教)		
10	個別研究室	研究室10	4	30.25	OT 1	野田亨(教)		
11	個別研究室	研究室11	4	30.07	OT 3	外池光雄(教)		
12	個別研究室	研究室12	4	30.07	OT 1	辛島千恵子(教)		
13	個別研究室	研究室13	4	30.07	OT 3	埜田和史(教)		
14	個別研究室	研究室14	4	32.37	PT 2	山田久夫(教)		
15	共同研究室	研究室15	4	35.54	OT 10	大西満(准)	OT 4	鈴木規己洋(准)
16	共同研究室	研究室16	4	35.57	OT 11	安部征哉(講)	OT 5	澤賢一郎(講)
17	共同研究室	研究室17	1	38.00	PT 9	佐藤隆彦(准)	PT 8	兼清健志(准)
18	共同研究室	研究室18	1	38.00	PT 21	大西均(准)	PT 12	宇於崎孝(准)
19	共同研究室	研究室19	1	38.00	PT 19	治郎丸卓三(准)	PT 20	安田孝志(准)
20	共同研究室	研究室20	1	38.00	PT 13	川崎浩子(講)	PT 14	鈴木美香(講)
21	共同研究室	研究室21	1	38.00	PT 7	分木ひとみ(准)	PT 16	池谷雅江(講)
22	共同研究室	研究室22	1	38.00	PT 15	弘部重信(講)	OT 6	下西徳(講)
23	共同研究室	研究室23	2	52.00	PT 17	野口真一(講)	PT 10	和智道生(講)
					PT 22	藤谷亮(講)		
24	個別研究室	研究室24	2	16.00	PT 5	堀寛史(教)		
25	助教・助手室	研究室25	3	52.00	OT 12	嶋川昌典(助教)	OT 7	木岡和実(助教)
					OT 8	杉本久美子(助教)	OT 9	有田智氏(助教)
					PT 11	佐々木絵美(助教)		鈴木耕平(OT助手)
						寺井淳(OT助手)		前田浩二(OT助手)
26	個別研究室	研究室26	3	16.00		助教・助手室の書庫として使用		
27	学長室	研究室27	1	28.40	PT 1	山川正信(教)		

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
1	イラストで学ぶ ロボット工学 (KS情報科学専門書)	木野 仁 (著), 谷口 忠大 (監修)	講談社	2017	1	¥2,860	ISBN-10: 4061538349 ISBN-13: 978-4061538344
2	はじめてのロボット工学(第2版): 製作を通じて学ぶ基礎と応用	石黒 浩 (著), 浅田 稔 (著), 大和 信夫 (著)	オーム社	2019	1	¥2,640	ISBN-10: 427422340X ISBN-13: 978-4274223402
3	増補版人間工学とユニバーサルデザイン新潮流 実践 ヒューマンセンターデザインのものづくりマニュアル	ユニバーサルデザイン研究会	日本工業出版	2017	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4819028196
4	たった一人の分析から事業は成長する 実践 顧客起点マーケティング	西口 一希 (著)	翔泳社	2019	1	¥2,200	ISBN-10: 4798160075 ISBN-13: 978-4798160078
5	USJを劇的に変えた、たった1つの考え方 成功を引き寄せるマーケティング入門	森岡 毅 (著)	角川書店	2016	1	¥1,540	ISBN-10: 4041041414 ISBN-13: 978-4041041413
6	マーケティングの教科書——ハーバード・ビジネス・レビュー 戦略マーケティング論文ベスト10	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4478104409 ISBN-13: 978-4478104408
7	マネジャーの教科書——ハーバード・ビジネス・レビュー マ ネジャー論文ベスト11	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4478103372 ISBN-13: 978-4478103371
8	ハーバード・ビジネス・レビュー意思決定論文ベスト10 意思 決定の教科書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4478107572 ISBN-13: 978-4478107577
9	ハーバード・ビジネス・レビュー チームワーク論文ベスト10 チームワークの教科書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2019	1	¥1,980	ISBN-10: 4478106940 ISBN-13: 978-4478106945
10	ハーバード・ビジネス・レビュー 営業論文ベスト11 営業の教 科書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2019	1	¥1,980	ISBN-10: 4478106673 ISBN-13: 978-4478106679
11	ハーバード・ビジネス・レビュー イノベーション論文ベスト10 イノベーションの教科書	ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 (編集)	ダイヤモンド社	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4478106339 ISBN-13: 978-4478106334
12	最新マーケティングの教科書2019 (日経BPムック)	日経クロストrend (編集)	日経BP	2018	1	¥1,540	ISBN-10: 4296101331 ISBN-13: 978-4296101337
13	マーケティング基礎読本増補改訂版 (日経BPムック)	日経デジタルマーケティング (編集)	日経BP	2017	1	¥1,426	ISBN-10: 4822235599 ISBN-13: 978-4822235598
14	入門 起業の科学	田所 雅之 (著)	日経BP	2019	1	¥1,760	ISBN-10: 4296100947 ISBN-13: 978-4296100941
15	起業のファイナンス増補改訂版	磯崎 哲也 (著)	日本実業出版社	2015	1	¥2,530	ISBN-10: 4534052456 ISBN-13: 978-4534052452
16	テキスト市民活動論【第2版】~ボランティア・NPOの実践から 学ぶ	早瀬昇・水谷綾・永井美佳・岡村こ ず恵他 (著)	社会福祉法人 大阪ボ ランティア協会	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4873080703 ISBN-13: 978-4873080703
17	ボランティアを生みだすもの -- 利他の計量社会学	三谷 はるよ (著)	有斐閣	2016	1	¥3,850	ISBN-10: 464117427X ISBN-13: 978-4641174276
18	運動とスポーツの基礎科学	久保山 直己 (著)	学術図書出版社	2018	1	¥2,420	ISBN-10: 4780606004 ISBN-13: 978-4780606003
19	楽しみながら運動能力が身につく! 幼児のためのコーデ ィネーション運動	東根 明人 (著)	明治図書出版	2015	1	¥2,200	ISBN-10: 4181626180 ISBN-13: 978-4181626181
20	楽しく遊んで体づくり! 幼児の運動あそび「幼児期運動指 針」に沿って	吉田 伊津美 (著)	チャイルド社	2015	1	¥2,090	ISBN-10: 4805402253 ISBN-13: 978-4805402252
21	使える! 健康教育・労働衛生教育55選	産業医科大学産業医実務研修セ ンター (編集)	日本労務研究会	2016	1	¥3,520	ISBN-10: 4889681078 ISBN-13: 978-4889681079
22	【新版】ここからはじまる 早わかり労働安全衛生法	近藤 恵子 (著), 小林 浩志 (著), 中 山 寛之 (著)	東洋経済新報社	2016	1	¥1,540	ISBN-10: 4492270582 ISBN-13: 978-4492270585
23	【新版】最新 労働安全衛生ハンドブック	寺岡 忠嗣 (著), 石井 義脩 (著)	新日本法規出版	2019	1	¥5,720	ISBN-10: 4788285096 ISBN-13: 978-4788285095
24	図説 国民衛生の動向 2018	厚生労働統計協会 (編集)	一般財団法人 厚生 労働統計協会	2018	1	¥1,681	ISBN-10: 4875117779 ISBN-13: 978-4875117773
25	改訂6版 図解よくわかる労働安全衛生法	木村嘉勝 (著), 労働調査会出版局 (編集)	労働調査会	2019	1	¥1,980	ISBN-10: 4863197209 ISBN-13: 978-4863197206
26	自治体職員が書いた子ども・子育て支援新制度の基礎が わかる本: 「子どもの最善の利益」「認定こども園化」「待機 児童」「保育の質」「保育の保障」をどうしていくのか	水畑 明彦 (著)	デザインエッグ社	2019	1	¥1,606	ISBN-10: 4815009481 ISBN-13: 978-4815009489
27	子育て支援の親子遊び30分プログラム	永野 美代子 (著)	チャイルド本社	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4805402644 ISBN-13: 978-4805402641
28	子育て支援の環境づくり	高山 静子 (著)	エイデル研究所	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4871686205 ISBN-13: 978-4871686204
29	子育て支援が日本を救う(政策効果の統計分析)	柴田 悠 (著)	勁草書房	2016	1	¥2,750	ISBN-10: 4326654007 ISBN-13: 978-4326654000
30	保育の専門性を生かした子育て支援「子どもの最善の利 益」をめざして	亀崎 美沙子 (著), 山岸 史 (イラスト)	わかば社	2018	1	¥1,650	ISBN-10: 4907270224 ISBN-13: 978-4907270223

### 展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
31	子育て支援 (MINERVAはじめて学ぶ保育)	名須川知子 (監修), 大方美香 (監修), 伊藤 篤 (編集)	ミネルヴァ書房	2018	1	¥2,420	ISBN-10: 4623079732 ISBN-13: 978-4623079735
32	詳解 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引 第3版: 子ども家庭福祉の制度・実践をふまえて	子育てひろば全国連絡協議会 (編集), 渡辺 顕一郎 (著)	中央法規出版	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4805856467 ISBN-13: 978-4805856468
33	子育て支援 (新・基本保育シリーズ)	西村 重稀 (編集), 青井 夕貴 (編集), 児童育成協会 (監修)	中央法規出版	2019	1	¥2,200	ISBN-10: 4805857994 ISBN-13: 978-4805857991
34	こころに寄り添う災害支援	一般社団法人 日本臨床心理士会 (監修), 奥村 茉莉子 (編集)	金剛出版	2017	1	¥3,740	ISBN-10: 4772415505 ISBN-13: 978-4772415507
35	災害支援者支援	高橋 晶 (著, 編集)	日本評論社	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4535984700 ISBN-13: 978-4535984707
36	災害・支援・ケアの社会学——地域保健とジェンダーの視点から	板倉有紀 (著)	生活書院	2018	1	¥4,180	ISBN-10: 4865000879 ISBN-13: 978-4865000870
37	特別支援教育 重要用語の基礎知識	小野 隆行 (編集)	学芸みらい社	2018	1	¥2,970	ISBN-10: 4908637733 ISBN-13: 978-4908637735
38	特別支援教育と介護入門	見上 昌睦 (著), 猪狩 恵美子 (著)	あいり出版	2019	1	¥2,200	ISBN-10: 4865550569 ISBN-13: 978-4865550566
39	特別支援教育の理論と実践[第3版]—概論・アセスメント (S.E.N.S養成セミナー)	竹田 契一 (監修), 上野 一彦 (監修), 編集)	金剛出版	2018	1	¥2,970	ISBN-10: 4772416072 ISBN-13: 978-4772416078
40	教育の効果: メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化	John Hattie (原著), ジョン ハツティ (著)	図書文化社	2018	1	¥4,070	ISBN-10: 4810076865 ISBN-13: 978-4810076868
41	フィンランドの教育はなぜ世界一なのか	岩竹 美加子 (著)	新潮社	2019	1	¥858	ISBN-10: 4106108178 ISBN-13: 978-4106108174
42	モンテッソーリ教育×ハーバード式 子どもの才能の伸ばし方	伊藤 美佳 (著)	かんき出版	2018	1	¥1,540	ISBN-10: 4761273623 ISBN-13: 978-4761273620
43	教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン	稲垣 忠 (著, 編集), 市川 尚 (著), 小林 祐紀 (著)	北大路書房	2019	1	¥2,420	ISBN-10: 4762830607 ISBN-13: 978-4762830600
44	ハイパフォーマンスの科学—トップアスリートをめざすトレーニングガイド—	野坂 和則 (監修), 沼澤 秀雄 (監修), David Joyce (編集)	ナッブ	2016	1	¥4,730	ISBN-10: 4905168457 ISBN-13: 978-4905168454
45	トップアスリートが実践している 最強の回復法	富家 孝 (著)	彩図社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 4801303293 ISBN-13: 978-4801303294
46	運動・からだ図解 スポーツトレーニングの基本と新理論	佐久間 和彦 (監修)	マイナビ出版	2017	1	¥1,738	ISBN-10: 4839964173 ISBN-13: 978-4839964177
47	アスレティック・ムーブメント・スキル—スポーツパフォーマンスのためのトレーニング—	Clive Brewer (著), 広瀬 統一 (翻訳), 岡本 香織 (翻訳)	ナッブ	2018	1	¥4,730	ISBN-10: 4905168562 ISBN-13: 978-4905168560
48	瞬発カトレーニングアナトミー—プライオメトリックエクササイズで爆発的な力を引き出す—	デレク・ハンセン (著), スティーブ・ケネリー (著)	ガイアブックス	2018	1	¥2,860	ISBN-10: 486654001X ISBN-13: 978-4866540016
49	プライオメトリック・トレーニング	Donald A. Chu (著), Gregory D. Myer (著)	ナッブ	2016	1	¥3,520	ISBN-10: 4905168406 ISBN-13: 978-4905168409
50	誰も教えてくれなかったマラソンフォームの基本 遅く走り始めた人ほど大切な60のコツ	みやすのんき (著)	カンゼン	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4862554407 ISBN-13: 978-4862554406
51	筋肉をつくる食事・栄養パーフェクト事典	岡田隆 (監修), 竹並恵里 (監修)	ナツメ社	2018	1	¥1,760	ISBN-10: 481636417X ISBN-13: 978-4816364174
52	走り方で脳が変わる!	茂木 健一郎 (著)	講談社	2016	1	¥1,430	ISBN-10: 4062200589 ISBN-13: 978-4062200585
53	スポーツ栄養学: 科学の基礎から「なぜ?」にこたえる	寺田 新 (著)	東京大学出版会	2017	1	¥3,080	ISBN-10: 9784130527064 ISBN-13: 978-4130527064
54	1から学ぶスポーツ生理学【第2版】	中里 浩一 (著), 岡本 孝信 (著), 須永 美歌子 (著)	ナッブ	2016	1	¥2,530	ISBN-10: 4905168422 ISBN-13: 978-4905168423
55	身体と動きで学ぶスポーツ科学: 運動生理学とバイオメカニクスがパフォーマンスを変える	深代 千之 (著), 内海 良子 (著)	東京大学出版会	2018	1	¥3,080	ISBN-10: 4130537016 ISBN-13: 978-4130537018
56	ニューロメカニクス 身体運動の科学的基盤	ロジャー・M. エノーカ (著), Roger M. Enoka (原著)	西村書店	2017	1	¥6,050	ISBN-10: 4890134700 ISBN-13: 978-4890134700
57	理学療法のための 筋カトレーニングと運動学習～動作分析から始める根拠にもとづく運動療法	畠中 泰彦 (編集)	羊土社	2018	1	¥4,950	ISBN-10: 4758102376 ISBN-13: 978-4758102377
58	世界標準のスイングが身につく科学的ゴルフ上達法 (ブルーボックス)	板橋 繁	講談社	2019	1	¥1,320	ISBN-10: 4065152143 ISBN-13: 978-4065152140
59	ワググルゴルフブック ゴルフスイング物理学	小澤 康祐	実業之日本社	2018	1	¥1,078	ISBN-10: 4408337900 ISBN-13: 978-4408337906
60	東大ゴルフ部の教科書 ゴルフを分析する	井上 透	主婦の友社	2019	1	¥1,320	ISBN-10: 4074360748 ISBN-13: 978-4074360741

### 展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
61	発達障害の子どもを伸ばすビジョントレーニング	小松佳弘	実務教育出版	2019	1	¥1,760	ISBN-10: 4788911000 ISBN-13: 978-4788911000
62	スポーツトレーニングの常識を超えろ!	日本トレーニング指導者協会	大修館書店	2016	1	¥2,200	ISBN-10: 4469268593 ISBN-13: 978-4469268591
63	完全図解 遊びリテーション大全集(介護ライブラリー)	三好 春樹(監修), 土居 新幸(著)	講談社	2017	1	¥3,850	ISBN-10: 4062824663 ISBN-13: 978-4062824668
64	頭のいい子が育つ あそび図鑑	久保田 競	主婦の友社	2017	1	¥2,530	ISBN-10: 4074268809 ISBN-13: 978-4074268801
65	福祉工学の基礎	伊福部 達	コロナ社	2016	1	¥4,510	ISBN-10: 4339018856 ISBN-13: 978-4339018851
66	労働環境病の提唱「生活習慣病」批判	細川 勝紀	第三書館	2019	1	¥1,100	ISBN-10: 4807419013 ISBN-13: 978-4807419012
67	弁護士専門研修講座 労働環境の多様化と法的対応 労働法の知識と実務III	東京弁護士会弁護士研修センター運営委員会	ぎょうせい	2016	1	¥7,718	ISBN-10: 4324100829 ISBN-13: 978-4324100820
68	就労移行支援・就労継続支援(A型・B型)事業所運営・管理ハンドブック	高橋 悠	日本法令	2019	1	¥2,970	ISBN-10: 4539726757 ISBN-13: 978-4539726754
69	障がい福祉事業の開業・手続き・運営のしかた	伊藤 誠	アニモ出版	2019	1	¥2,750	ISBN-10: 4897952239 ISBN-13: 978-4897952239
70	スポーツツウリズム・ハンドブック	高橋義雄(著), 原田宗彦(著), 岡星竜美	学芸出版社	2015	1	¥2,200	ISBN-10: 4761526025 ISBN-13: 978-4761526023
71	歌、楽器、ダンスが上達! リズム感が良くなる「体内メトロノーム」トレーニング(CD付)	長野 祐亮	リットーミュージック	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4845630486 ISBN-13: 978-4845630486
72	高齢者の体力および生活活動の測定と評価	出村 慎一(監修), 宮口 和義(編集), 佐藤 敏郎	市村出版	2015	1	¥2,860	ISBN-10: 4902109379 ISBN-13: 978-4902109375
73	メンタルヘルスを学ぶ 精神医学・内科学・心理学の視点から	村井 俊哉(著), 森本 恵子(著), 石井 信子(著)	ミネルヴァ書房	2015	1	¥2,640	ISBN-10: 4623072479 ISBN-13: 978-4623072477
74	新はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学	吉武 光世(著, 編集), 窪内 節子(著), 山崎 洋史(著), 岩瀧 大樹(著), 平澤 孝一(著)	学文社	2017	1	¥2,640	ISBN-10: 4762026980 ISBN-13: 978-4762026980
75	地域共生論: 300人規模のアクティブラーニング	賀県立大学地域共生論運営委員会(編集)	サンライズ出版	2017	1	¥1,100	ISBN-10: 4883256138 ISBN-13: 978-4883256136
76	「新しい社会保障教育」政策と地域共生社会	阿部敦	関西学院大学出版会	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 486283261X ISBN-13: 978-4862832610
77	共生社会システム論	矢口 芳生(著)	農林統計出版	2013	1	¥6,050	ISBN-10: 4897322464 ISBN-13: 978-4897322469
78	健康増進科学概論 -運動・栄養・休養- (イラスト)	今村 裕行, 沖嶋 今日太, 角南 良幸・他	東京教学者	2018	1	¥2,090	ISBN-10: 4808260247 ISBN-13: 978-4808260248
79	発達が気になる幼児の親面接: 支援者のためのガイドブック	井上 雅彦(著), 原口 英之(著), 石坂 美和(著)	金子書房	2019	1	¥4,054	ISBN-10: 4760832769 ISBN-13: 978-4760832767
80	保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック—子どもの行動を「ありのまま観る」ために	三田地 真実(著), 岡村 章司(著), 井上 雅彦(監修)	金剛出版	2019	1	¥2,860	ISBN-10: 4772416935 ISBN-13: 978-4772416931
81	イラストで学ぶ ヒューマンインタフェース 改訂第2版	北原 義典	講談社	2019	1	¥2,860	ISBN-10: 4065161436 ISBN-13: 978-4065161432
82	人間中心設計における評価 HCDライブラリー	黒須 正明(著), 樽本 徹也(著), 奥泉 直子(著)	近代科学社	2019	1	¥3,762	ISBN-10: 4764905884 ISBN-13: 978-4764905887
83	ケアとしての就労支援 こころの科学 メンタル系サイバールシリーズ	斎藤 環, 松本 俊彦, 井原 裕	日本評論社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 4535904472 ISBN-13: 978-4535904477
84	対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帖(現場で使える便利帖)	大谷 佳子	翔泳社	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4798152552 ISBN-13: 978-4798152554
85	発達障害の僕が「食える人」に変わった すごい仕事術	借金玉	KADOKAWA	2018	1	¥1,540	ISBN-10: 4046020768 ISBN-13: 978-4046020765
86	発達障害グレーゾーン	姫野 桂, OMgray事務局	扶桑社	2018	1	¥902	ISBN-10: 4594081304 ISBN-13: 978-4594081300
87	私たちは生きづらさを抱えている 発達障害じゃない人に伝えたい当事者の本音	姫野桂, 五十嵐良雄(メディカルケア大手町 院長)	イースト・プレス	2018	1	¥1,650	ISBN-10: 478161700X ISBN-13: 978-4781617008
88	自閉症スペクトラムのある子を理解して育てる本	田中 哲・藤原里美	学研プラス	2016	1	¥1,650	ISBN-10: 4054064051 ISBN-13: 978-4054064058
89	ADHDのある子を理解して育てる本	田中 康雄	学研プラス	2016	1	¥1,650	ISBN-10: 405406406X ISBN-13: 978-4054064065
90	LD(学習障害)のある子を理解して育てる本	竹田 契一	学研プラス	2018	1	¥1,760	ISBN-10: 4058007753 ISBN-13: 978-4058007754

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
91	発達障害の子の遂行機能「何度言ったらわかるの?」を「できた!」に変える上手な伝え方	本多 和子	学研プラス	2018	1	¥1,540	ISBN-10: 4058009837 ISBN-13: 978-4058009833
92	その子、発達障害ではありません IN—Childの奇跡	韓 昌完	さくら舎	2019	1	¥1,650	ISBN-10: 4865811850 ISBN-13: 978-4865811858
93	子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本	西永 堅	日本実業出版社	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4534054688 ISBN-13: 978-4534054685
94	「気がつきすぎて疲れる」が驚くほどなくなる「織細さん」の本	武田友紀	飛鳥新社	2018	1	¥1,324	ISBN-10: 4864106266 ISBN-13: 978-4864106269
95	保育者のための心の仕組みを知る本 ストレスを活かす心を守る	掛札 逸美	ぎょうせい	2017	1	¥1,650	ISBN-10: 4324103461 ISBN-13: 978-4324103463
96	住民による高齢者の見守り: ネットワークの展開と住民支援	野崎 瑞樹	みらい	2017	1	¥2,200	ISBN-10: 486015407X ISBN-13: 978-4860154073
97	最新版 図解 障害者総合支援法早わかりガイド	山内 一永	日本実業出版社	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4534056281 ISBN-13: 978-4534056283
98	これならわかる 障害者総合支援法と支援サービスのしくみと手続き	若林 美佳	三修社	2019	1	¥1,980	ISBN-10: 4384048106 ISBN-13: 978-4384048100
99	目の見えないアスリートの身体論 なぜ視覚なしでプレイできるのか	伊藤亜紗	潮出版社	2016	1	¥902	ISBN-10: 4267020590 ISBN-13: 978-4267020599
100	五訂版 視覚障害教育に携わる方のために	香川 邦生(著, 編集), 猪平 眞理(著), 大内 進(著)	慶應義塾大学出版会	2016	1	¥3,300	ISBN-10: 4766423674 ISBN-13: 978-4766423679
101	視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える	猪平 眞理	慶應義塾大学出版会	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4766424972 ISBN-13: 978-4766424973
102	「参加の力」が創る共生社会:市民の共感・主体性をどう醸成するか	早瀬 昇	ミネルヴァ書房	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4623083381 ISBN-13: 978-4623083381
103	地域福祉とファンドレイジング	宮城 孝, 長谷川 真司, 久津摩 和弘	中央法規出版	2018	1	¥2,750	ISBN-10: 4805857129 ISBN-13: 978-4805857120
104	これならわかる<スッキリ図解>共生型サービス	二本柳 覚, 中川 亮, 安藤 浩樹	翔泳社	2018	1	¥2,420	ISBN-10: 4798158631 ISBN-13: 978-4798158631
105	小さな拠点を軸とする共生型地域づくり	田中 きよむ	晃洋書房	2018	1	¥3,080	ISBN-10: 4771029555 ISBN-13: 978-4771029552
106	SDGsとまちづくり:持続可能な地域と学びづくり	田中 治彦, 枝廣 淳子他	学文社	2019	1	¥3,300	ISBN-10: 4762028711 ISBN-13: 978-4762028717
107	ようこそ、認知症カフェへ:未来をつくる地域包括ケアのかたち	武地 一	ミネルヴァ書房	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4623080250 ISBN-13: 978-4623080250
108	就労支援で高齢者の社会的孤立を防ぐ:社会参加の促進とQOLの向上	藤原佳典, 南 潮	ミネルヴァ書房	2016	1	¥4,950	ISBN-10: 4623077454 ISBN-13: 978-4623077458
109	何歳まで働くべきか? (ジェロントロジー・ライブラリー—高齢期の就業と健康)	藤原 佳典 小池 高史	社会保険出版社	2016	1	¥1,100	ISBN-10: 4784602992 ISBN-13: 978-4784602995
110	高齢社会のアクションリサーチ: 新たなコミュニティ創りをめざして	JST社会技術研究開発センター, 秋山 弘子	東京大学出版会	2015	1	¥3,080	ISBN-10: 4130624121 ISBN-13: 978-4130624121
111	高齢者の社会的孤立と地域福祉——計量的アプローチによる測定・評価・予防策	斉藤 雅茂	明石書店	2018	1	¥3,960	ISBN-10: 4750346543 ISBN-13: 978-4750346540
112	社会関係資本の地域分析	埴淵 知哉(編集)	ナカニシヤ出版	2018	1	¥3,300	ISBN-10: 4779512417 ISBN-13: 978-4779512414
113	地域におけるひきこもり支援ガイドブック—長期高齢化による生活困窮を防ぐ	境 泉洋	金剛出版	2017	1	¥3,520	ISBN-10: 4772415823 ISBN-13: 978-4772415828
114	青年のひきこもり・その後—包括的アセスメントと支援の方法論	近藤 直司	岩崎学術出版社	2017	1	¥3,080	ISBN-10: 4753311295 ISBN-13: 978-4753311293
115	精神障害のある人の就労定着支援: 当事者の希望からうまれた技法	天野 聖子, 多摩棕櫚亭協会	中央法規出版	2019	1	¥2,420	ISBN-10: 4805858923 ISBN-13: 978-4805858929
116	障がい者の就活ガイド	紺野大輝	左右社	2016	1	¥1,980	ISBN-10: 4865281665 ISBN-13: 978-4865281668
117	精神障害者雇用のABC	山口 創生	星和書店	2018	1	¥2,530	ISBN-10: 4791109805 ISBN-13: 978-4791109807
118	改訂版 障害者雇用の実務と就労支援 —「合理的配慮」のアプローチ	眞保 智子	日本法令	2019	1	¥2,090	ISBN-10: 4539726404 ISBN-13: 978-4539726402
119	これで福祉と就労支援がわかる	結城 康博, 嘉山 隆司, 内藤 晃	書籍工房早山	2016	1	¥2,200	ISBN-10: 490470147X ISBN-13: 978-4904701478
120	発達障害の人の「就労支援」がわかる本(健康ライブラリー)	梅永 雄二	講談社	2019	1	¥1,430	ISBN-10: 4065149843 ISBN-13: 978-4065149843

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
121	発達障害の人の「私たちの就活」: 発達障害者の自立・就労を支援する本3	宮尾益知, 発達障害者の自立・就労を支援する会	河出書房新社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 4309248764 ISBN-13: 978-4309248769
122	発達障害と仕事	宮尾益知, 発達障害者の自立・就労を支援する会	河出書房新社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 9784309248585 ISBN-13: 978-4309248585
123	発達障害の人が就職したくなる会社: 発達障害者の自立・就労を支援する本2	宮尾益知, 発達障害者の自立・就労を支援する会	河出書房新社	2018	1	¥1,430	ISBN-10: 4309248675 ISBN-13: 978-4309248677
124	睡眠障害の子どもたち: 子どもの脳と体を育てる睡眠学(子どものこころの発達を知るシリーズ)	大川 匡子	合同出版	2015	1	¥1,650	ISBN-10: 4772611487 ISBN-13: 978-4772611480
125	非行と反抗がおさえられない子どもたち: 生物・心理・社会モデルから見る素行症・反抗挑発症の子へのアプローチ(子どものこころの発達を知るシリーズ)	富田 拓	合同出版	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4772611517 ISBN-13: 978-4772611510
126	ワーキングメモリを生かす効果的な学習支援(学研のヒューマンケアブックス)	湯澤 正通, 湯澤 美紀	学研プラス	2017	1	¥2,200	ISBN-10: 4058007737 ISBN-13: 978-4058007730
127	知的・発達障害者の就労自立支援(特別支援教育ONEテーマブック)	高原 浩	学事出版	2017	1	¥1,760	ISBN-10: 4761923539 ISBN-13: 978-4761923532
128	動物介在教育「動物介在教育アシスタントコース」応用編/馬介在教育	青木 博史, 北川健史ほか	NPO法人 動物介在教育・療法学会	2019	1	¥3,300	ASIN: B07RLHNQGR
129	動物介在教育「動物介在教育アシスタントコース」基礎編(動物介在教育指導者養成講座)	柿沼 美紀, 鹿野 正顕ほか	特定非営利活動法人 動物介在教育・療法学会	2014	1	¥17,111	ASIN: B00TWZNL4
130	感覚統合を活かして子どもを伸ばす!「音楽療法」苦手に寄り添う楽しい音楽活動	柿崎 次子ほか	明治図書出版	2016	1	¥2,266	ISBN-10: 4182115120 ISBN-13: 978-4182115127
131	音楽とリズムと特別支援教育	斎藤一雄	東洋館出版社	2018	1	¥5,491	ISBN-10: 4491035636 ISBN-13: 978-4491035635
132	音楽療法はどれだけ有効か—科学的根拠を検証する	佐藤正之	化学同人	2017	1	¥1,760	ISBN-10: 4759816747 ISBN-13: 978-4759816747
133	音楽と脳科学: 音楽の脳内過程の理解をめざして	S. ケルシュほか	北大路書房	2016	1	¥5,500	ISBN-10: 4762829293 ISBN-13: 978-4762829291
134	訪問看護ステーションの災害対策 第2版 マニュアルの作成と活用	一般社団法人全国訪問看護事業協会	日本看護協会出版会	2019	1	¥3,300	ISBN-10: 4818021776 ISBN-13: 978-4818021778
135	多職種連携で支える災害医療: 身につけるべき知識・スキル・対応力	小井土雄一	医学書院	2017	1	¥2,970	ISBN-10: 4260028049 ISBN-13: 978-4260028042
136	DMAT標準テキスト	日本集団災害医学会	へるす出版	2015	1	¥5,720	ISBN-10: 4892698598 ISBN-13: 978-4892698590
137	エマージェンシー・ケア 2018年3月号(第31巻3号)特集: もしにも備える! お役立ちマニュアル すぐに動ける災害医療のこれだけは!		メディカ出版	2018	1	¥3,486	ISBN-10: 4840462852 ISBN-13: 978-4840462853
138	災害看護: 心得ておきたい基本的な知識	小原真理子	南山堂	2019	1	¥3,080	ISBN-10: 4525502533 ISBN-13: 978-4525502539
139	災害支援ハンドブック: 宗教者の実践とその協働	宗教者災害支援連絡会	春秋社	2016	1	¥2,200	ISBN-10: 439320901X ISBN-13: 978-4393209011
140	災害に立ち向かう人づくり: 減災社会構築と被災地復興の礎	室崎益輝	ミネルヴァ書房	2018	1	¥3,850	ISBN-10: 4623082415 ISBN-13: 978-4623082414
141	災害と復興の社会学	立木茂雄	萌書房	2016	1	¥3,300	ISBN-10: 4860651014 ISBN-13: 978-4860651015
142	マーケティングリサーチとデータ分析の基本	中野崇	すばる舎	2018	1	¥1,870	ISBN-10: 4799106945 ISBN-13: 978-4799106945
143	デジタル時代の基礎知識『リサーチ』多彩なデータから顧客の「すべて」を知る新しいルール	石渡佑矢	翔泳社	2017	1	¥1,848	ISBN-10: 4798154067 ISBN-13: 978-4798154060
144	デジタル時代の基礎知識『マーケティング』「顧客ファースト」の時代を生き抜く新しいルール	逸見光二郎	翔泳社	2017	1	¥1,518	ISBN-10: 4798154040 ISBN-13: 978-4798154046
145	デジタルマーケティングの実務ガイド	井上大輔	株式会社宣伝会議	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 488335430X ISBN-13: 978-4883354306
146	デジタルマーケティングの教科書	牧田幸裕	東洋経済新報社	2017	1	¥2,200	ISBN-10: 4492557792 ISBN-13: 978-4492557792
147	世界最先端のマーケティング 顧客とつながる企業のチャネルシフト戦略	奥谷孝司	日経BP	2018	1	¥1,980	ISBN-10: 4822255581 ISBN-13: 978-4822255589
148	マーケティング・リサーチ入門	星野崇宏	有斐閣	2018	1	¥2,750	ISBN-10: 4641221162 ISBN-13: 978-4641221161
149	消費者行動の実証研究	守口 剛ほか	中央経済社	2018	1	¥2,860	ISBN-10: 4502282618 ISBN-13: 978-4502282614
150	消費者理解に基づくマーケティング -- 感覚マーケティングと消費者情報消化モデル	須永努	有斐閣	2018	1	¥4,180	ISBN-10: 4641165319 ISBN-13: 978-4641165311

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
151	なぜ「戦略」で差がつくのか。—戦略思考でマーケティングは強くなる	音部大輔	宣伝会議	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4883353982 ISBN-13: 978-4883353989
152	コラーのマーケティング4.0 スマートフォン時代の究極法則	フィリップ・コラー	朝日新聞出版	2017	1	¥2,640	ISBN-10: 4023316156 ISBN-13: 978-4023316157
153	企業の成長戦略が10時間でわかる本——起業・MBA(経営学)・IPO(株式公開)のエッセンスを同時に学べる	木嶋豊	あさ出版	2017	1	¥1,760	ASIN: B06WLGHWJ4
154	シニア向けノルディックウォーキング・ポールウォーキングGUIDE BOOK 超高齢社会のウォーキング・イノベーションの知識と技	ノルディックウォーキング・ポールウォーキ	ライフ出版社	2015	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4990399689
155	コーディネーター必携 シニアボランティアハンドブック	藤原佳典	大修館書店	2016	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4469267938
156	地域包括ケアと福祉改革	二木 立	勁草書房	2017	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4326700981
157	多職種連携から統合へ向かう地域包括ケア	宮下 公美子	メディカ出版	2017	1	¥2,420	ISBN-13: 978-4840461597
158	地域包括ケアと医療・ソーシャルワーク	二木 立	勁草書房	2019	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4326701070
159	ケアするまちのデザイン:対話で探る超長寿時代のまちづくり	山崎 亮	医学書院	2019	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4260036009
160	住民主体の楽しい「通いの場」づくり「地域づくりによる介護予防」進め方ガイド	近藤 克則	日本看護協会出版会	2019	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4818021877
161	社協・行政協働型コミュニティソーシャルワーク	田中 英樹	中央法規出版	2019	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4805858660
162	共生の社会学	岡本 智周	太郎次郎社エディタス	2016	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4811807928
163	共生社会論の展開	福留 和彦	晃洋書房	2017	1	¥5,060	ISBN-13: 978-4771028722
164	ADHDとともに生きる人たちへ: 医療からみた「生きづらさ」と支援	田中 康雄	金子書房	2019	1	¥1,870	ISBN-13: 978-4760821822
165	多元的共生社会が未来を開く	尾関 周二	農林統計出版	2015	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4897323305
166	共生社会(1)—共生社会とは何か	矢口 芳生	農林統計出版	2016	1	¥3,819	ISBN-13: 978-4897323497
167	共生社会(2)—共生社会をつくる	矢口 芳生	農林統計出版	2016	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4897323503
168	地方創生大全	木下 斉	東洋経済新報社	2016	1	¥1,650	ISBN-13: 978-4492212257
169	持続可能な地域のつくり方	寛裕介	英治出版	2019	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4862762511
170	ビジネスモデル・ナビゲーター	オリヴァー・ガスマン	翔泳社	2016	1	¥2,420	ISBN-10: 4798146889 ISBN-13: 978-4798146881
171	ビジネスモデル・ナビゲーター 55パターンカード	オリヴァー・ガスマン	翔泳社	2016	1	¥16,500	ISBN-10: 4798150290 ISBN-13: 978-4798150291
172	基礎からはじめる職場のメンタルヘルス—事例で学ぶ考え方と実践ポイント	川上憲人	大修館書店	2017	1	¥1,980	ISBN-10: 4469268240 ISBN-13: 978-4469268249
173	3訂版 精神科産業医が明かす 職場のメンタルヘルスの正しい知識	松崎一葉	日本法令	2018	1	¥2,200	ISBN-10: 4539725939 ISBN-13: 978-4539725931
174	「職場のメンタルヘルス」を強化する——ストレスに強い組織をつくり、競争優位を目指す	吉野聡	ダイヤモンド社	2016	1	¥1,760	ISBN-10: 4478068216 ISBN-13: 978-4478068212
175	心療内科産業医と向き合う職場のメンタルヘルス不調 事例で解説 会社と社員が最適解を導く方法	石澤哲郎	第一法規株式会社	2017	1	¥2,530	ISBN-10: 4474058828 ISBN-13: 978-4474058828
176	メンタル不調者のための復職・セルフケアガイドブック	櫻澤博文	金剛出版	2016	1	¥1,980	ISBN-10: 4772415203 ISBN-13: 978-4772415200
177	ストレスチェック面接医のための「メンタル産業医」入門 改訂第2版(働き方改革関連法対応)★電子版付き	櫻澤博文	日本医事新報社	2018	1	¥4,400	ISBN-10: 4784945571 ISBN-13: 978-4784945573
178	文献選集 近代の親子問題 第1期: 親子関係と子育ての変容	広井多鶴子ほか	日本図書センター	2016	1	¥131,389	ISBN-10: 4284308165 ISBN-13: 978-4284308168
179	アスペルガー症候群の人の就労・職場定着ガイドブック—適切なニーズアセスメントによるコーチング	バーバラ・ピソネット	明石書店	2016	1	¥2,420	ISBN-10: 4750343889 ISBN-13: 978-4750343884
180	障害者雇用の実務 法令理解から定着支援、戦略化まで	労務行政研究所	労務行政	2016	1	¥4,015	ISBN-10: 4845263513 ISBN-13: 978-4845263516

展開科目に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%で計算	ISBN
181	発達障害児を救う体育指導—激変! 感覚統合スキル95	根本正雄	学芸みらい社	2017	1	¥2,530	ISBN-10: 4908637563 ISBN-13: 978-4908637568
182	子どものための精神医学	滝川一廣	医学書院	2017	1	¥2,750	ISBN-10: 426003037X ISBN-13: 978-4260030373
183	地域活性のための産官学ベストプラクティス 連携による地域イノベーション	事業構想大学院大学 出版部(編)	宣伝会議	2018	1	¥1,650	ISBN-13: 978-4883354399
184	DMO 観光地経営のイノベーション	高橋 一夫	学芸出版社	2017	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4761526467
185	広報コミュニケーション基礎	社会情報大学院大学(編)	宣伝会議	2016	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4883353750
186	地域の見方を変えると福祉実践が変わる	松端克文	ミネルヴァ書房	2018	1	¥3,300	ISBN-13: 978-4623083190
187	地域再生と地域福祉	牧里 每治	相川書房	2017	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4750103945
188	持続可能な地域福祉のデザイン	牧里每治	ミネルヴァ書房	2016	1	¥7,150	ISBN-13: 978-4623078608
189	現代の産業・企業と地域経済—持続可能な発展の追究	大西 勝明	晃洋書房	2018	1	¥3,190	ISBN-13: 978-4771029750
190	地域産業のイノベーションシステム	山崎 朗,	学芸出版社	2019	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4761526962
191	孤立不安社会	石田 光規	勁草書房	2018	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4326654185
192	自治と協働からみた現代コミュニティ論	小山弘美	晃洋書房	2018	1	¥3,190	ISBN-13: 978-4771029774
193	地域共生の開発福祉	日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター	ミネルヴァ書房	2017	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4623080076
194	再生可能エネルギーによる地域づくり	白井信雄	環境新聞社	2018	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4860183493
195	介護福祉学概論 地域包括ケアの構築に向けて	松田 美知子	クリエイツかもがわ	2018	1	¥2,420	ISBN-13: 978-4863422353
196	介護施設運営・管理ハンドブック	鳥羽 稔	日本法令	2016	1	¥4,729	ISBN-13: 978-4539724583
197	誰も教えてくれなかった胸部画像の見かた・考えかた	小林弘明(著)	医学書院	2017	1	¥5,500	ISBN-13: 978-4260030083
198	腹部CTの読み方がわかる! ~研修医が今すぐ知りたい、よく遭遇する疾患の“基本的な読影方法”をわかりやすく教えます!	藪田 実(編集)	羊土社	2019	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4758116282
199	理学療法のための 筋カトレーニングと運動学習~動作分析から始める根拠にもとづく運動療法	畠中 泰彦(編)	羊土社	2018	1	¥4,950	ISBN-13: 978-4758102377
200	臨床動作分析—PT・OTの実践に役立つ理論と技術	富田 昌夫(編), 竹中 弘行(編), 玉垣 努(編)	三輪書店	2018	1	¥6,600	ISBN-13: 978-4895906265
	合計				200	¥689,581	

## 研究の方法に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
1	研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」	近藤 克則 (著)	医学書院	2018	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4260036740
2	リサーチの技法	ウェイン・C・ブース (著), グレゴリー・G・コロンプ (著), ジョセフ・M・ウィリアムズ (著)	ソシム	2018	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4802611527
3	もしあなたが臨床研究を学んだら医療現場はもつとときめく	福間 真悟 (著), 渡部 一宏 (著), 福原 俊一 (監修)	じほう	2019	1	¥3,960	ISBN-13: 978-4840751506
4	メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法〜「目的」と「データの種類」で簡単検索! 適した手法が76の事例から見つかる、結果がまとめられる	山田 実 (編集), 浅井 剛 (その他), 土井 剛彦 (その他)	羊土社	2018	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4758102285
5	いまだ誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 第1巻 まずは統計アレルギーを克服しよう! (Dr.あさいのこっそりマスターシリーズ)	浅井 隆 (著)	アトムス	2010	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4904307243
6	いまだ誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 第2巻 結果の解釈ができるようになるう! (Dr.あさいのこっそりマスターシリーズ)	浅井 隆 (著), 浅井 隆 (編)	アトムス	2010	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4904307281
7	いまだ誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 第3巻 研究の質を評価できるようになるう! (Dr.あさいのこっそりマスターシリーズ)	浅井 隆 (著)	アトムス	2010	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4904307304
8	臨床研究の教科書: 研究デザインとデータ処理のポイント	川村 孝 (著)	医学書院	2016	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4260024976
9	臨床研究の道標 第2版(上巻)	福原俊一 (著)	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2017	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4903803265
10	臨床研究の道標 第2版(下巻)	福原俊一 (著)	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2017	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4903803272
11	リサーチ・クエスチョンの作り方 第3版(臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト)	福原俊一 (著)	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2015	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4903803241
12	概念モデルをつくる(臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト)(シリーズ:臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト)	松村 真司 (著), 福原 俊一 (監修, 監修)	NPO法人健康医療評価研究機構	2008	1	¥2,420	ISBN-13: 978-4903803043
13	サンプルサイズ的设计(臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト)	山口拓洋 (著), 福原俊一 (監修), 大西良浩 (その他)	特定非営利活動法人健康医療評価研究機構	2010	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4903803159
14	臨床研究立ち上げから英語論文発表まで最速最短で行うための極意(すべての臨床医に捧ぐ超現場重視の臨床研究指南書)	原 正彦 (著)	金芳堂	2017	1	¥3,960	ISBN-13: 978-4765317344
15	必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略50の鉄則	康永 秀生 (著)	金原出版	2016	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4307004787
16	できる臨床研究 最短攻略50の鉄則	康永秀生 (著)	金原出版	2017	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4307004824
17	実践対談編 臨床研究立ち上げから英語論文発表まで最速最短で行うための極意(すべての臨床医そして指導医にも捧ぐ超現場型の臨床研究体験書)	原 正彦 (編集)	金芳堂	2018	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4765317542
18	なぜあなたは論文が書けないのか?	佐藤 雅昭 (著)	メディカルレビュー社	2016	1	¥2,530	ISBN-13: 978-4779217241
19	なぜあなたの研究は進まないのか?	佐藤 雅昭 (著)	メディカルレビュー社	2016	1	¥2,530	ISBN-13: 978-4779217258
20	なぜあなたの発表は伝わらないのか? できてるつもり! ?そこが危ないプレゼンテーション	佐藤 雅昭 (著)	メディカルレビュー社	2017	1	¥2,530	ISBN-13: 978-4779219313
21	できる研究者の論文作成メソッド 書き上げるための実践ポイント	ポール・J・シルヴィア (著), 高橋 さきの (翻訳)	講談社	2016	1	¥2,200	ISBN-13: 978-4061556270
22	できる研究者の論文生産術 どうすれば「たくさん」書けるのか	ポール・J・シルヴィア (著), 高橋 さきの (翻訳)	講談社	2015	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4061531536
23	実践 研究計画作成法 情報収集からプレゼンテーションまで	独立行政法人日本学生支援機構 (著)	凡人社	2009	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4893586933
24	合格ナビ!研究計画書の書き方	千島 昭宏 (著), 野林 靖夫 (監修), 進研アカデミーグラデュエイト大学部 (編集)	東京図書	2016	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4489022326
25	SPSSによる分散分析と多重比較の手順	石村 貞夫 (著), 石村 光資郎 (著)	東京図書	2015	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022043
26	SPSSによる多変量データ解析の手順	石村 貞夫 (著), 石村 光資郎 (著)	東京図書	2016	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022425
27	SPSSによる統計処理の手順 第8版	石村 貞夫 (著), 石村 光資郎 (著)	東京図書	2018	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022784
28	SPSSによるアンケート調査のための統計処理	石村 貞夫 (著), 石村 光資郎 (著)	東京図書	2018	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022814
29	SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順	石村 貞夫 (著), 劉 晨 (著, 原著), 石村 友二郎 (著), 加藤 千恵子 (著)	東京図書	2013	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489021442
30	SPSS完全活用法 データの入力と加工	酒井 麻衣子 (著)	東京図書	2016	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4489022470

### 研究の方法に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
31	医療系データのとり方・まとめ方—SPSSで学ぶ実験計画法と分散分析	対馬栄輝(著), 石田水里(著)	東京図書	2013	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4489021435
32	日常診療で臨床疑問に出会ったとき何をすべきかがわかる本	片岡 裕貴(著)	中外医学社	2019	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4498014084
33	論文を正しく読むのはけっこう難しい: 診療に活かせる解釈のキホンとピットフォール	植田真一郎(著)	医学書院	2018	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4260035873
34	読む技術 論文の価値を見抜くための基礎知識	トリーシャ・グリーンハーフ(著), 日経メディカル(編)	日経BP	2016	1	¥4,400	ISBN-13: 978-4822200886
35	あなたの臨床研究応援します～医療統計につながる正しい研究デザイン, 観察研究の効果的なデータ解析	新谷 歩(著)	羊土社	2019	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4758118514
36	査読者が教える 医学論文のための研究デザインと統計解析	森本 剛(著)	中山書店	2017	1	¥3,300	ISBN-13: 978-4521745084
37	査読者が教える 採用される医学論文の書き方	森本 剛(著)	中山書店	2013	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4521737010
38	雑誌編集長が欲しがる!! 医学論文の書き方	浅井 隆(著)	アトムス	2016	1	¥3,960	ISBN-13: 978-4904307786
39	脱・しくじりプレゼン: 言いたいことを言うと伝わらない!	八幡紘芦史(著, 編集), 竹本文美(著), 田中雅美(著), 福内史子(著)	医学書院	2018	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4260031912
40	研究発表のためのスライドデザイン	宮野 公樹(著)	講談社	2013	1	¥990	ISBN-13: 978-4062578134
41	学生・研究者のための 使える! PowerPointスライドデザイン 伝えるプレゼン1つの原理と3つの技術	宮野 公樹(著)	化学同人	2009	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4759811759
42	学生・研究者のための伝わる! 学会ポスターのデザイン術	宮野 公樹(著)	化学同人	2011	1	¥2,090	ISBN-13: 978-4759814699
43	「伝わるデザイン」PowerPoint 資料作成術	渡辺 克之(著)	ソーテック社	2016	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4800711458
44	一生使える 見やすい資料のデザイン入門	森重 湧太(著)	インプレス	2016	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4844339632
45	一生使えるプレゼン上手の資料作成入門	岸 啓介(著)	インプレス	2017	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4295000693
	合計				45	¥137,280	

理学療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
1	理学療法研究の進めかた—基礎から学ぶ研究のすべて	森山 英樹 (編集)	文光堂	2014	1	¥7,843	ISBN-13: 978-4830645044
2	臨床の“疑問”を“研究”に変える 臨床研究 first stage	網本 和 (著)	医学書院	2017	1	¥3,300	ISBN-13: 978-4260032278
3	運動療法エビデンスレビュー (臨床・研究に役立つ評価指標・基準値・介入のエビデンスをこの一冊に凝縮)	松永篤彦 (編集), 神谷健太郎 (編集)	文光堂	2018	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4830645655
4	PT・OTのための臨床研究はじめての一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実験から教えます	土井 剛彦 (著), 浅井 剛 (著), 山田 実 (その他)	羊土社	2016	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4758102162
5	エビデンスに基づく骨盤底の理学療法 原著第2版 科学と臨床をつなぐ	野村昌良 (翻訳), 鈴木重行 (翻訳)	医歯薬出版	2017	1	¥14,300	ISBN-13: 978-4263216743
6	エビデンスから身につける物理療法	庄本康治 (編集)	羊土社	2017	1	¥5,720	ISBN-13: 978-4758102216
7	実践的なQ&Aによるエビデンスに基づく理学療法 第2版—評価と治療指標を総まとめ	内山 靖 (編集)	医歯薬出版	2015	1	¥8,250	ISBN-13: 978-4263216736
8	神経症候障害学—病態とエビデンスに基づく治療と理学療法	内山 靖 (編集)	文光堂	2016	1	¥11,260	ISBN-13: 978-4830645365
9	ここで差がつく“背景疾患別”理学療法Q&A	高橋 哲也 (著)	医学書院	2016	1	¥2,970	ISBN-13: 978-4260027960
10	臨床思考”が身につく 運動療法Q&A	高橋 哲也 (著)	医学書院	2016	1	¥2,970	ISBN-13: 978-4260027953
11	すぐできる!!リハビリテーション統計—データのみかたから検定・多変量解析まで	下井俊典 (著), 勝平純司 (著)	南江堂	2012	1	¥3,646	ISBN-13: 978-4524268184
12	脊柱理学療法マネジメント—病態に基づき機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く	成田 崇矢 (編集)	メジカルビュー社	2019	1	¥6,160	ISBN-13: 978-4758319133
13	股関節理学療法マネジメント—機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く	永井 聡 (編集), 対馬 栄輝 (編集)	メジカルビュー社	2018	1	¥6,160	ISBN-13: 978-4758319102
14	膝関節理学療法マネジメント—機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く	石井 慎一郎 (監修), 森口 晃一 (編集)	メジカルビュー社	2018	1	¥6,050	ISBN-13: 978-4758319119
15	人の生きた筋膜の構造(DVD付き) 内視鏡検査を通して示される細胞外マトリックスと細胞	Jean-Claude GUIMBERTEAU (著), Colin ARMSTRONG (著), 竹井仁 (翻訳)	医道の日本社	2018	1	¥10,780	ISBN-13: 978-4752931249
16	筋膜系の機能解剖アトラス	Carla Stecco (著), 竹井 仁 (翻訳)	医歯薬出版	2018	1	¥1,430	ISBN-13: 978-4263265567
17	人体の張力ネットワーク 膜・筋膜—最新知見と治療アプローチ	Robert Schleip (著), 竹井 仁 (翻訳)	医歯薬出版	2015	1	¥11,000	ISBN-13: 978-4263215401
18	脳卒中理学療法の理論と技術 第3版	原 寛美 (編集), 吉尾 雅春 (編集)	メジカルビュー社	2019	1	¥7,150	ISBN-13: 978-4758319362
19	脳卒中片麻痺者に対する 歩行リハビリテーション	阿部 浩明 (編集), 大畑 光司 (編集)	メジカルビュー社	2016	1	¥6,050	ISBN-13: 978-4758317115
20	歩行再建—歩行の理解とトレーニング	大畑 光司 (著)	三輪書店	2017	1	¥4,400	ISBN-13: 978-4895905992
21	ペリー歩行分析原著第2版正常歩行と異常歩行	Jacquelin Perry (著), 武田 功 (翻訳), 弓岡 光徳 (翻訳)	医歯薬出版	2012	1	¥9,900	ISBN-13: 978-4263213988
22	筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版	Donald A. Neumann (著), P.D. Andrew (翻訳), 有馬慶美 (翻訳), 日高正巳 (翻訳)	医歯薬出版	2018	1	¥13,750	ISBN-13: 978-4263265819
23	歩行再建を目指す下肢装具を用いた理学療法	阿部浩明 (編集)	文光堂	2019	1	¥5,500	ISBN-13: 978-4830645730
24	身体性システムとリハビリテーションの科学1 運動制御	太田 順 (編集), 内藤 栄一 (編集), 芳賀 信彦 (編集)	東京大学出版会	2018	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4130644013
25	身体性システムとリハビリテーションの科学2 身体認知	近藤 敏之 (編集), 今水 寛 (編集), 森岡 周 (編集)	東京大学出版会	2018	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4130644020
26	腰痛—エビデンスに基づく予防とリハビリテーション	Stuart McGill (著), 小山 貴之 (翻訳), 玉置 龍也 (翻訳)	ナッブ	2017	1	¥6,600	ISBN-13: 978-4905168478
27	骨盤と仙腸関節の機能解剖—骨盤帯を整えるリアラインアプローチ	John Gibbons (著), 赤坂清和 (監修)	医道の日本社	2019	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4752911623
28	目醒める! 大腰筋 コアを鍛えて内面から身心を改善	ジョアン・スタウガード ジョーンズ (著), 武田 淳也 (監修)	医道の日本社	2016	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4752931133
29	強める! 殿筋 殿筋から身体全体へアプローチ	John Gibbons (著), 木場 克己 (監修)	医道の日本社	2017	1	¥3,960	ISBN-13: 978-4752931195
30	スポーツと運動の筋膜	Robert Schleip (著), 竹内 京子 (監修, 翻訳)	ラウンドフラット	2019	1	¥7,480	ISBN-13: 978-4904613481
31	ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第2版	高橋 哲也 (編集)	医歯薬出版	2017	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4263218129
32	キネティックコントロール 制御されていない動きのマネジメント Kinetic Control The Management of Uncontrolled Movement	Mark Comerford (著), Sarah Mottram (著), 佐藤 晃一 (翻訳)	ブックハウス・エイチディ	2017	1	¥13,200	ISBN-13: 978-4909011008

理学療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
33	身体運動学—関節の制御機構と筋機能	市橋 則明 (編集)	メジカルビュー社	2017	1	¥7,480	ISBN-13: 978-4758317122
34	ヒトの動き百話—スポーツの視点からリハビリテーションの視点まで	小田 伸午 (編集), 市橋 則明 (編集)	市村出版	2011	1	¥3,204	ISBN-13: 978-4902109269
35	脳百話—動きの仕組みを解き明かす	松村 道一 (編集), 小田 伸午 (編集), 石原 昭彦 (編集)	市村出版	2003	1	¥1,540	ISBN-13: 978-4902109023
36	胸郭運動システムの再建法 第2版-呼吸運動再構築理論に基づく評価と治療 Web動画付	柿崎 藤泰 (編集)	ヒューマン・プレス	2017	1	¥6,600	ISBN-13: 978-4908933066
37	関節可動域制限—病態の理解と治療の考え方	沖田 実 (編集)	三輪書店	2013	1	¥3,520	ISBN-13: 978-4895904353
38	ペインリハビリテーション入門	沖田 実 (著), 松原 貴子 (著)	三輪書店	2019	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4895906340
39	デルモニューロモジュレーティング日本語版第2版	ダイアン・ジェイコブス (著), 岩吉 新 (翻訳)	NextPublishing Authors Press	2018	1	¥6,926	ISBN-13: 978-4802095198
40	慢性痛のサイエンス: 脳からみた痛みの機序と治療戦略	半場 道子 (著)	医学書院	2017	1	¥3,740	ISBN-13: 978-4260034289
	合計				40	¥245,949	

## 作業療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
1	行動変容を導く! 上肢機能回復アプローチ 脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略	道免 和久(監修), 竹林 崇(編集)	医学書院	2017	1	¥4,400	ISBN-13: 978-4260024143
2	上肢運動障害の作業療法-麻痺手に対する作業運動学と作業治療学の実際	竹林 崇(著)	文光堂	2018	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4830645716
3	片麻痺回復のための運動療法 第3版 促通反復療法「川平法」の理論と実際	川平 和美(著), 下堂 蘭 恵(著), 野間 知一(著)	医学書院	2017	1	¥6,820	ISBN-13: 978-4260022163
4	上肢痙縮に対するボツリヌス治療とリハビリテーション	安保 雅博(著, 編集), 角田 亘(著, 編集)	金原出版	2012	1	¥7,335	ISBN-13: 978-4307750295
5	脳卒中後遺症に対するrTMS治療とリハビリテーション	安保 雅博(著, 編集), 角田 亘(著, 編集)	金原出版	2013	1	¥5,060	ISBN-13: 978-4307750370
6	高次脳機能障害のリハビリテーション [DVD付] 第3版: 実践的アプローチ	本田 哲三(著)	医学書院	2016	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4260024778
7	高次脳機能障害学第2版	石合 純夫(著)	医歯薬出版	2012	1	¥4,840	ISBN-13: 978-4263213964
8	リハビリテーションのための脳・神経科学入門	森岡 周(著)	協同医書出版社	2016	1	¥3,080	ISBN-13: 978-4763910790
9	カンデル神経科学	金澤一郎(監修), 宮下保司(監修), Eric R. Kandel(編集)	メディカルサイエンスインターナショナル	2014	1	¥15,400	ISBN-13: 978-4895927710
10	行為と動作の障害	一般社団法人日本高次脳機能障害学会 教育・研修委員会(編集)	新興医学出版社	2018	1	¥4,290	ISBN-13: 978-4880028729
11	注意と意欲の神経機構	日本高次脳機能障害学会 教育・研修委員会(編集)	新興医学出版社	2014	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4880028507
12	精神障害と作業療法【新版】病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践	山根 寛(著)	三輪書店	2017	1	¥4,400	ISBN-13: 978-4895905831
13	精神科作業療法の理論と技術	早坂 友成(編集)	メジカルビュー社	2018	1	¥4,620	ISBN-13: 978-4758319256
14	ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む 新版	山根 寛(著)	三輪書店	2015	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4895905046
15	ひとと集団・場【新版】治療や援助、支援における場と集団のもち方	山根 寛(著)	三輪書店	2018	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4895906159
16	キールホフナーの人間作業モデル-理論と応用- 改訂第5版	Renée R. Taylor(著, 編集), 山田 孝(翻訳), 石井 良和(翻訳)	協同医書出版社	2019	1	¥9,350	ISBN-13: 978-4763921444
17	作業療法実践の理論 原書第4版	ギャーリー キールホフナー(著), Gary Kielhofner(原著), 山田 孝(翻訳)	医学書院	2014	1	¥5,170	ISBN-13: 978-4260019750
18	作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド	吉川 ひろみ(著)	医学書院	2008	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4260007481
19	作業療法がわかる COPM・AMPS実践ガイド	吉川 ひろみ(著), 齋藤 さわ子(著)	医学書院	2014	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4260020138
20	川モデル 文化に適した作業療法	Michael K. Iwama(著), 松原 麻子(翻訳), 清水 一(翻訳), 宮口 英樹(翻訳)	三輪書店	2014	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4895904803
21	作業療法とドライブマネジメント	藤田佳男(編集), 澤田辰徳(編集)	文光堂	2018	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4830645709
22	脳卒中・脳外傷者のための自動車運転 第2版	林 泰史(監修), 米本 恭三(監修), 武原 格(編集), 一杉 正仁(編集)	三輪書店	2016	1	¥3,740	ISBN-13: 978-4895905787
23	ハンドセラピー(リハ実践テクニック)	齋藤 慶一郎(編さん)	メジカルビュー社	2014	1	¥6,050	ISBN-13: 978-4758314732
24	臨床ハンドセラピー	坪田 貞子(編集)	文光堂	2011	1	¥9,167	ISBN-13: 978-4830643866
25	手を診る力をきたえる	鎌倉 矩子(著), 中田 真由美(著)	三輪書店	2013	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4895904483
26	上肢運動器疾患の画像リハビリテーション—評価・戦略・アプローチのすべて	射場浩介(監修), 白戸力弥(編集)	ヒューマン・プレス	2018	1	¥5,280	ISBN-13: 978-4908933158
27	手の運動を学ぶ—手の役割と手の機能解剖との関係から運動を紐解き、臨床に活かす	矢崎 潔(著), 小森 健司(著), 田口 真哉(著)	三輪書店	2017	1	¥4,180	ISBN-13: 978-4895906036
28	認知症トータルケア(日本医師会生涯教育シリーズ)	栗田 圭一(編)	日本医師会	2018	1	¥6,050	ISBN-13: 978-4758317795
29	認知症と生きる(放送大学教材)	井出 訓(著)	放送大学教育振興会	2015	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4595315510

作業療法学の教育・研究に係る購入予定の書籍一覧

No.	タイトル	著者名	出版社	発行年	冊数	価格(税込) 10%	ISBN
30	ぜんぶわかる認知症の事典—4大認知症をわかりやすくビジュアル解説	富本 秀和(編集), 松田 博史(編集), 羽生 春夫(編集), 吉田 眞理(編集)	医学書院	2018	1	¥9,900	ISBN-13: 978-4260032315
31	認知症テキストブック 単行本	日本認知症学会(編集), 日本痴呆学会(編集)	中外医学社	2008	1	¥8,360	ISBN-13: 978-4498129269
32	よくわかる地域包括ケア(やわらかアカデミズム・わかる)シリーズ 単行本	隅田好美(編集), 藤井博志(編集), 黒田研二(編集)	ミネルヴァ書房	2018	1	¥2,640	ISBN-13: 978-4623082933
33	プライマリ・ケア-地域医療の方法- 単行本	松岡史彦(著), 小林只(著)	メディカルサイエンス社	2012	1	¥4,730	ISBN-13: 978-4903843247
34	在宅医療カレッジ: 地域共生社会を支える多職種の学び21講 単行本 - 2018/12/17	佐々木 淳(編集)	医学書院	2018	1	¥2,200	ISBN-13: 9784260038232
35	地域包括ケアと福祉改革 単行本	二木 立(著)	勁草書房	2017	1	¥2,750	ISBN-13: 978-4326700981
36	地域包括ケアと地域医療連携 単行本	二木 立(著)	勁草書房	2015	1	¥2,970	ISBN-13: 978-4326700875
37	楽に動ける福祉用具の使い方 第2版 多職種協働による環境整備	窪田 静(編集), 栄 健一郎(編集), 樋口 由美(編集)	日本看護協会出版会; 第2版	2019	1	¥2,860	ISBN-13: 978-4818021792
38	高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン2019	日本老年医学会(編集), 日本在宅医学会(編集), 国立長寿医療研究センター(編集)	ライフ・サイエンス	2019	1	¥1,100	ISBN-13: 978-4898016534
39	ひとりひとりの福祉用具 -福祉用具支援概論- 単行本	市川 冽(著)	日本工業出版	2019	1	¥3,850	ISBN-13: 978-4819031127
40	摂食嚥下リハビリテーション第3版 単行本	才藤 栄一(監修), 植田 耕一郎(監修), 出江 紳一(編集), 鎌倉 やよい(編集)	医歯薬出版; A4変型版	2016	1	¥8,360	ISBN-13: 978-4263444474
41	姿勢から介入する摂食嚥下 脳卒中患者のリハビリテーション 単行本	森若 文雄(監修), 内田 学(編集)	メジカルビュー社	2017	1	¥4,950	ISBN-13: 978-4758319041
42	発達障害グレーゾーン(扶桑社新書)新書	姫野 桂(著), OMgray事務局(著)	扶桑社	2018	1	¥902	ISBN-13: 978-4594081300
43	おとなの軽度発達障害—こども時代をふりかえり自分をいかすためのヒント(埼玉医科大学超人氣健康セミナーシリーズ)	横山富士男(著), 吉益晴夫(著)	ライフサイエンス出版	2018	1	¥1,650	ISBN-13: 978-4897753768
44	発達性トラウマ障害と複雑性PTSDの治療 単行本	杉山 登志郎(著)	誠信書房	2019	1	¥1,980	ISBN-13: 978-4414416503
45	自我状態療法—理論と実践 単行本	ジョン・G・ワトキンス(著), ヘレン・H・ワトキンス(著), 福井 義一(翻訳), 福島 裕人(翻訳)	金剛出版	2019	1	¥5,940	ISBN-13: 978-4772416795
46	自閉症児のためのTEACCHハンドブック(ヒューマンケアブックス) 単行本	佐々木 正美(著)	学研プラス; 改訂新版	2008	1	¥2,420	ISBN-13: 978-4054031531
47	感覚統合とその実践 第2版 単行本	Anita C. Bundy(著), Elizabeth A. Murray(著), Shelly J. Lane(著), 土田 玲子(翻訳), 小西 紀一(翻訳)	協同医書出版社	2006	1	¥9,350	ISBN-13: 978-4763921147
48	子どもの感覚運動機能の発達と支援—発達の科学と理論を支援に活かす 単行本	大城 昌平(編集), 儀間 裕貴(編集)	メジカルビュー社	2018	1	¥5,720	ISBN-13: 978-4758319003
	合計				48	¥238,724	

理学療法学科 履修モデル1 ヘルスプロモーションに関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					ヘルスプロモーションに関連する就職先 地方自治体（健康教室・高齢者サロン）、 健康増進施設、企業の健康推進室、 健康関連企業など				
		倫理学入門	1	音楽	1													
		哲学入門	1	体育	1													
		日本の伝統文化	1															
		日本の近代史	1															
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1			統計学	1									
		物理学Ⅰ	1															
		数学	1															
語学教育科目	英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1			韓国語	1										
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1							
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1							
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1									
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1									
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1									
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1									
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1									
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1	
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1	
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					内部障害応用論実習	2	
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					スポーツ障害応用論実習	2	
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1							
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								地域理学療法	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1							
展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1				
			労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1						
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1						
											体力測定論	1						
											健康増進実践演習	1						
											健康増進実践実習	1						
											遊びとレクリエーション	1						
総合科目																		
各期合計単位	1年前期	20	1年後期	20	2年前期	19	2年後期	18	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9		
4年間合計単位		131																

卒業に必要な選択科目

理学療法学科 履修モデル2 生涯スポーツに関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1		キャリア発達論	1										生涯スポーツに関連する就職先 地方自治体・教育機関（部活指導）、 体育協会、スポーツクラブ、フィットネスクラブ、 スポーツ・健康・食・ファッション関連企業など
		倫理学入門	1	音楽	1													
		哲学入門	1	体育	1													
		社会学	1															
		日本の伝統文化	1															
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1		統計学	1										
		物理学Ⅰ	1	英語Ⅱ	1		中国語	1										
		数学	1															
語学教育科目	英語Ⅰ	1																
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1							
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1							
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1									
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1									
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1									
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1									
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1									
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1	
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1	
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					スポーツ障害応用論実習	2	
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					神経筋骨格障害応用論実習	2	
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1							
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1							
								地域理学療法	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1							
展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1				
			労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1						
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1						
											フィットネス論	2						
											ランニングトレーニング論	2						
											ゴルフトレーニング論	2						
総合科目																		
各期合計単位	1年前期	21	1年後期	20	2年前期	18	2年後期	18	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9		
4年間合計単位		131																

卒業に必要な選択科目

理学療法学科 履修モデル3 生活工学に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1																
		コミュニケーション論	1																
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					生活工学に関連する就職先 就労支援事業所（作業所）、放課後等デイサービス、 グループホーム、特別支援学校、 リハビリ機器開発企業、福祉機器メーカーなど					
		倫理学入門	1	音楽	1														
		哲学入門	1	体育	1														
		社会学	1																
		日本の伝統文化	1																
	自然科学系科目	生物学	1	物理学Ⅱ	1			統計学	1										
		物理学Ⅰ	1																
		数学	1																
語学教育科目	英語Ⅰ	1					韓国語	1											
							中国語	1											
職業専門科目	理学療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学Ⅱ	1	運動学実習	1	予防医学	1								
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	運動生理学実習	1	地域包括ケア論	1								
		リハビリテーション概論	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	救急援助論	1										
				運動学Ⅰ	1	整形外科Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1										
				人間発達学	1	小児科学	1	神経内科学Ⅱ	1										
				精神医学	1	老年医学	1	整形外科Ⅱ	1										
				薬理学概論	1	画像診断学	1	社会福祉学	1										
						栄養学	1												
	職業実践科目群	基礎理学療法Ⅰ	1	基礎理学療法実習Ⅰ	1	理学療法評価学実習	2	画像評価学	1	基礎理学療法研究法	1	徒手理学療法実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅱ	6	理学療法管理学	1		
		基礎理学療法Ⅱ	1	基礎理学療法実習Ⅱ	1	運動療法学	1	運動療法学実習	1	臨床技能論実習	1	理学療法総合臨床実習Ⅰ	6	理学療法地域実習	1	保健医療福祉関連制度論	1		
		理学療法見学実習Ⅰ	1	理学療法評価学	1	物理療法学	1	義肢装具学Ⅱ	1	理学療法評価学演習	1					神経筋骨格障害応用論実習	2		
				理学療法見学実習Ⅱ	1	日常生活活動学	1	運動器障害系理学療法実習Ⅰ	1	徒手理学療法	1					内部障害応用論実習	2		
						義肢装具学Ⅰ	1	小児期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅰ	1								
						理学療法見学実習Ⅲ	1	老年期理学療法演習	1	神経障害系理学療法実習Ⅱ	1								
								スポーツ障害系理学療法実習	1	運動器障害系理学療法実習Ⅱ	1								
								地域理学療法	1	内部障害系理学療法実習Ⅰ	1								
										内部障害系理学療法実習Ⅱ	1								
										地域理学療法実習	1								
										理学療法評価実習	4								
		展開科目	生涯スポーツ論	1	ボランティア論	1	子育て支援論	1			地域共生論	2	マーケティング論	1	障がい者スポーツ論実習	1			
			労働衛生論	1	災害支援論	1					施設起業運営論	1							
					教育支援論	1					障がい者スポーツ論	1							
											福祉工学地域活用論	1							
											ロボット工学地域活用論基礎	1							
											ロボット工学地域活用論応用	2							
総合科目																			
各期合計単位	1年前期	20	1年後期	19	2年前期	19	2年後期	19	3年前期	18	3年後期	19	4年前期	8	4年後期	9			
4年間合計単位		131																	

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル1 児童期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	音楽	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					児童期に関連する就職先 保育園、小学校、特別支援学校、 学童保育、放課後等デイサービスなど				
		倫理学入門	1	心理学	1													
		哲学入門	1	体育	1													
		社会学	1															
		日本の伝統文化	1															
	自然科学系科目	生物学	1					統計学	1									
		物理学I	1															
		数学	1															
	語学教育科目	英語I	1	英語II	1			韓国語	1									
								中国語	1									
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学I	2	解剖学II	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1							
		生理学I	2	解剖学III	1	内科学I	1	内科学II	1									
		運動学I	1	生理学II	2	神経内科学I	1	神経内科学II	1									
		リハビリテーション概論	1	運動学II	1	整形外科I	1	整形外科II	1									
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1									
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1									
						老年医学	1											
						画像診断学	1											
						栄養学	1											
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習II	1	身体障害作業療法評価学実習I	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習I	7	作業療法総合臨床実習II	7			
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習II	1	運動器疾患作業療法学実習	1	高次脳機能障害作業療法学実習	1			作業療法地域実習	1			
		基礎作業学実習I	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法学実習	1	精神障害作業療法学実習	1							
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法学	1	発達障害作業療法学実習II	1							
				作業療法見学実習I	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法学実習I	1	老年期障害作業療法学実習	1							
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法学	1	家族援助論	1							
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1							
						作業療法見学実習II	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1							
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法学実習III	1							
								地域生活作業療法学実習I	1	作業療法評価実習	5							
								地域生活作業療法学実習II	1									
		展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1		
地域社会共生論	2		地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1				
										身体障がい者就労環境論	2	児童期地域生活適応論実習	1					
											児童期地域生活適応論	2						
総合科目																作業療法総合実習I	1	
																作業療法総合実習II	1	
																協働連携論総合実習	2	
各期合計単位	1年前期	23	1年後期	19	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4		
4年間合計単位		130																

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル2 成人期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1																
		コミュニケーション論	1																
	人間と社会系科目	教育学	1	心理学	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					成人期に関連する就職先 就労移行支援事業所、特例子会社、 生活訓練施設、グループホームなど					
		倫理学入門	1	体育	1														
		哲学入門	1																
		社会学	1																
		日本の伝統文化	1																
	自然科学系科目	生物学	1				統計学	1											
		物理学Ⅰ	1																
		数学	1																
語学教育科目	英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1		韓国語	1												
						中国語	1												
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1								
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1										
		運動学Ⅰ	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	神経内科学Ⅱ	1										
		リハビリテーション概論	1	運動学Ⅱ	1	整形外科Ⅰ	1	整形外科Ⅱ	1										
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1										
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1										
						老年医学	1												
						画像診断学	1												
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習Ⅱ	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習Ⅰ	7	作業療法総合臨床実習Ⅱ	7				
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	1	運動器疾患作業療法実習	1	高次脳機能障害作業療法実習	1	作業療法地域実習	1						
		基礎作業学実習Ⅰ	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法実習	1	精神障害作業療法実習	1								
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法	1	発達障害作業療法実習Ⅱ	1								
				作業療法見学実習Ⅰ	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法実習Ⅰ	1	老年期障害作業療法実習	1								
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法	1	家族援助論	1								
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1								
						作業療法見学実習Ⅱ	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1								
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法実習Ⅲ	1								
								地域生活作業療法実習Ⅰ	1	作業療法評価実習	5								
展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1					
	地域社会共生論	2	地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1					
										身体障がい者就労環境論	2	成人期地域生活適応論実習	1						
										成人期地域生活適応論	2								
総合科目														作業療法総合実習Ⅰ	1				
														作業療法総合実習Ⅱ	1				
														協働連携論総合実習	2				
各期合計単位	1年前期	24	1年後期	18	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4			
4年間合計単位		130																	

卒業に必要な選択科目

作業療法学科 履修モデル3 老年期に関連する就職先を希望するモデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目	初年次教育科目	学びの基盤	1															
		コミュニケーション論	1															
	人間と社会系科目	教育学	1	音楽	1	経営学入門	1	キャリア発達論	1					老年期に関連する就職先 通所介護施設、特別養護老人ホーム、 サービス付き高齢者住宅、 有料老人ホームなど				
		倫理学入門	1	心理学	1													
		社会学	1	体育	1													
		日本の伝統文化	1															
		日本の近代史	1															
	自然科学系科目	生物学	1				統計学	1										
		物理学Ⅰ	1															
		数学	1															
	語学教育科目	英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1		韓国語	1										
							中国語	1										
職業専門科目	作業療法理論科目群	解剖学Ⅰ	2	解剖学Ⅱ	2	運動学実習	1	救急援助論	1	予防医学	1							
		生理学Ⅰ	2	解剖学Ⅲ	1	内科学Ⅰ	1	内科学Ⅱ	1									
		運動学Ⅰ	1	生理学Ⅱ	2	神経内科学Ⅰ	1	神経内科学Ⅱ	1									
		リハビリテーション概論	1	運動学Ⅱ	1	整形外科Ⅰ	1	整形外科Ⅱ	1									
				人間発達学	1	精神医学	1	社会福祉学	1									
				薬理学概論	1	小児科学	1	地域包括ケア論	1									
						老年医学	1											
						画像診断学	1											
						栄養学	1											
	職業実践科目群	作業療法学総論	1	基礎作業学実習Ⅱ	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	1	身体障害作業療法基礎技術論	1	作業療法研究法	1	作業療法総合臨床実習Ⅰ	7	作業療法総合臨床実習Ⅱ	7			
		基礎作業学	1	作業療法管理・制度論	1	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	1	運動器疾患作業療法学実習	1	高次脳機能障害作業療法学実習	1			作業療法地域実習	1			
		基礎作業学実習Ⅰ	1	作業療法と倫理	1	精神障害作業療法評価学実習	1	中枢神経疾患作業療法学実習	1	精神障害作業療法学実習	1							
				作業療法評価学総論	1	発達障害作業療法評価学実習	1	精神障害作業療法学	1	発達障害作業療法学実習Ⅱ	1							
				作業療法見学実習Ⅰ	1	日常生活活動論実習	1	発達障害作業療法学実習Ⅰ	1	老年期障害作業療法学実習	1							
						社会生活行為論実習	1	老年期障害作業療法学	1	家族援助論	1							
						地域生活作業療法学総論	1	作業分析活用論	1	住環境支援論	1							
						作業療法見学実習Ⅱ	1	作業分析活用論実習	1	生活行為向上マネジメント論実習	1							
								作業療法義肢装具実習	1	地域生活作業療法学実習Ⅲ	1							
								地域生活作業療法学実習Ⅰ	1	作業療法評価実習	5							
								地域生活作業療法学実習Ⅱ	1									
		展開科目	ボランティア論	1	災害支援論	1	子育て支援論	1	マーケティング論	1	施設起業運営論	1	障がい者スポーツ論	1	障害者スポーツ論実習	1		
地域社会共生論	2		地域社会共生論実習	1	メンタルヘルスマネジメント論	1	教育支援論	1			精神障がい者就労環境論	2	就労環境論実習	1				
										身体障がい者就労環境論	2	老年期地域生活適応論実習	1					
											老年期地域生活適応論	2						
総合科目														作業療法総合実習Ⅰ	1			
														作業療法総合実習Ⅱ	1			
														協働連携論総合実習	2			
各期合計単位	1年前期	23	1年後期	19	2年前期	20	2年後期	23	3年前期	16	3年後期	14	4年前期	11	4年後期	4		
4年間合計単位		##																

卒業に必要な選択科目

審査意見への対応を記載した書類（3月）

## 審査意見への対応を記載した書類（3月）

### （目次）

リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

#### 【大学等の設置の趣旨・必要性】

##### 1. <養成する人材像、3つのポリシーが不明確>

高齢者人口の増加などの社会的課題に対して、今後、求められる人材の能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を掲げ、専門職大学で人材を育成する必要性を説明し、設置構想審査においても既設の大学の理学療法学科・作業療法学科で育成する人材の能力が異なることを示していたが、既設の大学においても即戦力となる教育の実施など同様の教育目標がホームページに掲載されており、専門職大学で人材を育成する必要性や身に付ける知識等の違いに関する説明が不十分で矛盾しており、養成する人材像の違いが不明確であるほか、3つのポリシーの内容も不明確なため、以下の点に留意しつつ、修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1、作業療法学科 是正事項1】・・・・・・・・・・1

(1) 養成する人材像が不明確なため、3つのポリシーの妥当性を判断することは困難となるが、ディプロマ・ポリシーの内容が抽象的かつ不明確な内容になっているため、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの一貫性を確認することもできない。特に、カリキュラム・ポリシーは専門職大学制度に関する説明に留まっており、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針になっているとは認められない。3つのポリシーの修正に当たっては、大学がどのような個性・特色、魅力を持ち、どのような有為な人材を育成できるのかを対外的に示すなどのポリシーを定める意義を踏まえ、適切に改めた上で、3つのポリシーの一貫性について明確に説明すること。また、3つのポリシーは養成する人材像に応じてそれぞれの専攻分野の特性に応じた内容になると考えるが、本学から示された両学科の3つのポリシーはほぼ同じ内容になっているため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1（1）、作業療法学科 是正事項1（1）】・・・・・・・・・・1

(2) 養成する人材像や3つのポリシーが不明確なため、教育課程の妥当性を判断することは困難だが、申請のあった教育課程に関する配当年次の考え方、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、科目間の対応関係などの説明がなく、教育課程が体系的に編成されているのか疑義がある。特に、3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置して、科目区分に応じて配当年次を二分化しているが、修得する知識の接続性・順序性を踏まえたものとなっているのか不明確である。教育課程に関する配当年次の考え方、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、科目間の対応関係を明らかにした上で、体系的な教育課程が編成されていることを明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1（2）、作業療法学科 是正事項1（2）】・・・・・・・・・・23

(3) 入学者選抜に関する具体的な方法（試験科目、募集定員の割合など）に関する説明がなく、アドミッション・ポリシーに沿った適切な入試が実施されるのか判断ができないため、入学者選抜に関する具体的な方法とともに、アドミッション・ポリシーとの整合性を明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項1 (3)、作業療法学科 是正事項1 (3)】・・ 35

2. <3つのコース・領域の目的等が不明確>

理学療法学科は「地域支援コース」、「ヘルスプロモーションコース」及び「障害スポーツ支援コース」の3つのコース、作業療法学科は「児童領域」、「成人領域」及び「老年期領域」の3つの領域を設けて履修指導を行うとのことだが、3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性に関する十分な説明がないほか、3つのコース・領域で育成する人材の社会的需要の説明もなく、3つのコース・領域を設ける意義が不明確になっている。このため、3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性を明らかにするとともに、育成される人材の社会的需要を明確に説明すること。その際、3つのコース・領域で育成する人材に求められる能力を身に付けるための必要な科目が適切に配置されているかどうか併せて説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2、作業療法学科 是正事項2】・・ 40

3. <大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確>

大学、短期大学及び専門学校との違いが具体的に説明されておらず、不明確である。開設する授業科目の到達目標や教育水準、教員組織などが専門職大学としてどのように充実され、大学教育としての学修の質が担保されるのかを明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項3、作業療法学科 是正事項3】・・ 51

4. <大学名称の妥当性が不明確>

大学名称で使用している「藍野」は、本法人に係る名称として通用していて、国内外で同一の名称がないことを理由に設定したと説明しているが、専門職大学設置基準第54条で規定する教育研究上の目的にふさわしい大学名称になっているとは認められないため、専攻に係る教育研究上の目的を踏まえた適切な大学名称に修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項4、作業療法学科 是正事項4】・・ 62

5. <英語名称の国際的通用性が不明確>

学位の英語名称を「Bachelor Physical/Occupational Therapy」としているが、英語名称の国際的通用性を踏まえれば、「Bachelor of Physical/Occupational Therapy」が適切な英語名称だと考えられるため、適切に修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項5、作業療法学科 是正事項5】・・ 63

6. <学生確保の見通しが不明確>

高校2年生や施設等職員を対象に入学意向調査を実施し、入学定員を超える進学希望者がいたとの説明だが、進学希望者を集計するために調査した内容は「本大学に興味をもったか」、「受験してみ

たいか」、「受験して合格したら、どの学科に入学したいか」という単純な設問に留まり、他府県に競合校がある中で、他大学ではなく専門職大学を選ぶ学生がどのくらいいるのか不明確であるため、学生を確保できる見通しについて、客観的な根拠とともに、改めて説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項6、作業療法学科 是正事項6】・・・・・・・・・・・・・・・・・・64

【教育課程等】

7. <基礎科目の科目区分等が不明確>

基礎科目の以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項7、作業療法学科 是正事項7】・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

(1) 精神統一をする手段を習得する「日本の伝統文化」、中学・高校時代の文法の復習など英語の基礎学力を修得する「英語Ⅰ」は、大学教育の水準としてふさわしい内容とは認められないため、修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項7(1)、作業療法学科 是正事項7(1)】・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

(2) 基礎科目に「コミュニケーション論」、「人間学」、「心理学」、「社会福祉学」及び「英語Ⅱ」が配置されているが、授業科目の概要で内容を確認する限り、授業計画に専攻に係る職業についての学修内容が含まれており、職業専門科目に該当する疑義があるため、これらの科目のシラバスを提出した上で、適切な区分であることを明確に説明するか、科目区分を適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項7(2)、作業療法学科 是正事項7(2)】・・・・・・・・・・・・・・・・・・75

8. <展開科目の体系的が不明確>

展開科目を通じて、どのような能力を育成しようとしているのか、展開科目で修得する能力は育成する専門職業人にとって有意義な内容であるのかについて説明がないため、明確に説明すること。なお、展開科目に配置されたほぼ全ての科目が「地域共生・地域包括ケアシステムを学修する科目群」として4年次に配当されているが、養成する人材像を育成するために必要な科目が体系的に配置されているのか不明確なため、配当年次の妥当性についても併せて明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項8、作業療法学科 是正事項9】・・・・・・・・・・・・・・・・・・81

9. <総合科目の必要性等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項9、作業療法学科 是正事項10】・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

(1) 「理学療法総合演習／作業療法総合演習Ⅰ・Ⅱ」の授業内容は、総合科目の目的である「修得した知識及び技能等を総合し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させる」ことが実現できる授業計画とは認められないため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項9(1)、作業療法学科 是正事項10(1)】・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

(2)「シンメディカル論」では、チームアプローチの実際について学修すること目的に、理学療法学科と作業療法学科の学生全員（120名）が同時に受講することを計画しているが、シラバスを確認しても講義や演習に係る具体的な活動内容が十分に明示されておらず、教育効果を上げるために、どのような授業が展開されるのか不明確であるため、明確に説明すること。

【2学科共通 理学療法学科 是正事項 9（2）、作業療法学科 是正事項 10（2）】・・95

10. <単位設定の考え方が不明確>

大学から示された主要授業科目をはじめ、教育課程上、1単位の科目が散見されるが、各科目の単位設定の考え方が説明されておらず、到達目標に照らして、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されているのか不明確なため、各科目の単位設定の考え方を明らかにした上で、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されていることを明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項 10、作業療法学科 是正事項 11】・・97

11. <コース・領域の運用計画が不明確>

3つのコース・領域を設けて、それぞれの方向性や領域において、地域社会に貢献できる理学療法士・作業療法士を育成すると説明しているが、コース・領域に関する学生への履修指導の方法についての説明がないほか、養成する人材像ごとの履修モデルの提出もなく、学生に対して、いつ・どのように3つのコース・領域の履修指導を実施するのか不明確である。養成する人材像ごとの履修モデルを明らかにした上で、学生に対する3つのコース・領域の履修指導をいつ・どのように実施するのか明確に説明すること。この際、特定のコース・領域に学生が集中した場合の対応方針についても併せて説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項 11、作業療法学科 是正事項 12】・・100

12. <授業形態の設定が不明確>

実験、実習又は実技による授業科目一覧（別記様式第2号（その2の4））で掲げられた各科目について、シラバスや教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））を確認したところ、シラバス等では講義又は演習の内容となっているにもかかわらず、実験、実習又は実技による授業科目一覧（別記様式第2号（その2の4））では「実技」としており、不整合が生じているため、各科目の授業内容を再度確認するとともに、適切な授業形態に修正すること。なお、修正に当たってはどのような考え方で授業形態を設定したかが確認できるよう、該当する科目のシラバスとともに、授業形態の設定の考え方を明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項 12、作業療法学科 是正事項 13】・・103

13. <シラバスの内容が不十分>

提出されたシラバスを確認したところ、1単位 45 時間の学修時間数に含まれる「授業時間以外の学習」欄が未記載になっているもの、学生が担当教員に質問等を行うことができる機会を担保するオフィスアワーが未記載になっているもの、授業計画の内容が「活動①」、「活動②」のように各授業でどのような内容を学修するのか不明確なものなど、専門職大学設置基準第 19 条で規定する授業方法等の明示を満たしていない科目が多いため、全てのシラバスを点検し、不十分な

シラバスは是正すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 3、作業療法学科 是正事項 1 4】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108

1 4. <遠隔地の実習施設の対応方法が不明確>

実習先について、学生負担や適切な実習指導体制の観点から、学科ごとに実習先の地域分布を示した上で、遠方の実習先においては過度な学生負担となっていないか、教員の巡回指導等が適切に行われる体制となっているかを明確に説明すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 4、作業療法学科 是正事項 1 5】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135

1 5. <臨地実務実習が不明確>

大学教育としてふさわしい臨地実務実習が実施され、単位認定が厳格に行われる計画なのか疑義があるため、次の内容をはじめとして、計画全体を再度確認し、適切に修正すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 5、作業療法学科 是正事項 1 6】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139

(1) 臨地実務実習の実施に当たっては、専門性の高い臨床能力の担保のため、例えば「OSCE (客観的臨床能力試験)」などにより、実習前における能力の到達度の確認や、実習後における公平な成績評価の実施が重要であるが、本学科の教育課程上、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画を明確に説明すること。特に実習後の客観的臨床能力試験については実施すると説明はあるが、十分な説明がなく、具体的な実施計画が不明なため、時期や方法を含めた詳細の実施計画を明確に説明すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 5 (1)、作業療法学科 是正事項 1 6 (1)】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 139

(2) 提出された巡回指導計画表に、担当教員の氏名が記載されておらず、巡回指導のシフトが適切に組まれているのか不明なため、巡回指導計画表を修正した上で、臨地実務実習が適切に実施できる指導体制となっていることを説明すること。その際、完成年度時において、担当教員が講義と実習を同時期に担当する場合には、教員ごとの科目担当時間割等を資料として添付した上で、教員の負担等の観点から無理のない計画であることを併せて説明すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 1 5 (2)、作業療法学科 是正事項 1 6 (2)】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 154

1 6. <取得可能な資格に関する指導方法が不十分>

取得可能な資格として挙げられた各資格を取得することがどのような意義をもつのかについて、学生にどのように指導していくのか不明なため、資格取得のための学生の費用負担に関する考え方とともに、明確に説明すること。その際、3つのコース・領域の学修における対応関係についても留意すること。【2 学科共通 理学療法学科 改善事項 1 6、作業療法学科 改善事項 1 7】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157

1 7. <国家試験受験資格の位置付けが不適切>

共生型社会に向けたリハビリテーションの専門家育成を掲げているにもかかわらず、国家試験を受験しなかった者又は受験できなかった者も卒業要件を満たせば卒業できることを設置計画書

上で明示しているが、専門職大学制度における専門職業人の育成目的を踏まえれば、国家試験の受験資格に関する考え方が不適切なため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項17、作業療法学科 是正事項18】・・・・・・・・・・158

18. <教育課程連携協議会に関する整備が不明確>

教育課程連携協議会について、以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項18、作業療法学科 是正事項19】・・・・・・・・・・159

(1) 教育課程連携協議会に関する専門職大学設置基準第11条第2項第3号の区分の構成員について、地域の幅広い意見を教育課程に反映させるための代表者として十分なのか不明確であるため、妥当性を明確に説明するか、構成員を追加する等構成を見直すこと。【2学科共通 理学療法学科 是正事項18(1)、作業療法学科 是正事項19(1)】・・・・・・・・159

(2) 教育課程の不断の見直しを実現するために重要な事項を審議し、学長に意見を述べる役割を担う教育課程連携協議会の位置付けを踏まえれば、学則上で教育課程連携協議会の設置を規定することが適切だと考えられるが、本大学の学則では規定がないため、適切に規定すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項18(2)、作業療法学科 是正事項19(2)】・・・・・・・・162

【教員組織等】

19. <専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>

両学科において、専攻分野に係る理論系の専任教員が少なく、専門職大学設置基準第31条第1項が規定する当該専攻分野に係る教員組織体制として不十分であるため、適切な教員組織体制に修正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項19、作業療法学科 是正事項20】・・・・・・・・・・164

20. <担当単位数が不適切>

週当たりの平均勤務日数が5日の専任教員がおらず、全ての専任教員が3日又は4日となる中、担当単位数が30単位を超える者もあり、科目数の過度な負担により十分な研究時間を確保することができないおそれや、授業及び学生指導などの教育の質の低下を招くおそれがあり、教育研究の実現可能性に疑義がある。担当する科目数を見直した上で、教育と研究を両立することができる教員組織を整えること。なお、見直した教員組織を説明する際には、各教員の1週間の勤務スケジュール（授業、学生指導、研究をいつ実施するのか示すもの。なお、既設の大学や専門学校を兼務する専任教員については既設の大学や専門学校での勤務に関する情報を含めたもの。）が分かる資料を提出すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項20、作業療法学科 是正事項21】・・・・・・・・・・172

21. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項21、作業療法学科 是正事項22】・・・・・・・・・・175

2.2. <設置計画の一層の充実>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。【2学科共通 理学療法学科 改善事項2.2、作業療法学科 改善事項2.3】・・・・・・・・・・177

2.3. <給与の考え方が不明確>

教員の氏名等（別記様式第3号）において、月額基本給が0と記載された教員が散見されるが、授業科目を担当するにもかかわらず、月額基本給が0になる理由が不明なため、合理的な理由を説明するか、改めること。【2学科共通 理学療法学科 改善事項2.3、作業療法学科 改善事項2.4】・・・・・・・・・・178

【名称、その他】

2.4. <研究室が不十分>

研究室の以下の点を是正すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.4、作業療法学科 是正事項2.5】・・・・・・・・・・180

(1) 基本計画書では研究室は21室となっている一方で、設置の趣旨等を記載した書類では20室と説明しており、不整合であるため、正確な研究室数を明らかにした上で、専任教員27名に対する研究室の割り振りの考え方について明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.4(1)、作業療法学科 是正事項2.5(1)】・・・・・・・・・・180

(2) 各研究室の具体的な仕様が示されていないため、各専任教員が取り組む研究領域を踏まえ、どのような研究手法をとり、それに必要な環境（研究用実験室や研究用機器、機密情報の管理などを含む）が整備されているかどうかを明確にし、必要に応じて整備計画を充実させること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.4(2)、作業療法学科 是正事項2.5(2)】・・・・・・・・・・182

2.5. <適切な学生控室を確保しているのか不明確>

主として学生控室は食堂と兼用の学生ホール（207.42 m<sup>2</sup>）を利用するとのことだが、全学年で480名の学生が在籍する完成年度以降、食堂と兼用の中で余裕をもって休息、交流その他の活動で利用できる十分な環境になっているのか不明確なため、大学の規模に応じた適切な学生控室が配置されることを明確に説明すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.5、作業療法学科 是正事項2.6】・・・・・・・・・・188

2.6. <外国書の学術雑誌等の選定方針が不明確>

図書等の整備について、外国書の学術雑誌0冊、電子ジャーナル1冊の計画となっており、大学としてふさわしい教育・研究環境が整備されるのか疑義がある。外国書の学術雑誌及び電子ジャーナルの選定理由を明らかにした上で、教育・研究に必要な図書等が十分に整備されていることを明確に説明するか、必要に応じて充実すること。【2学科共通 理学療法学科 是正事項2.6、作

業療法学科 是正事項 27】	189
----------------	-----

27. <図書館スペースが十分か不明確>

収容可能冊数が 12,960 冊の図書館に対して、完成年度は 12,434 冊を整備する計画となっており、追加で購入可能な図書等は 500 冊程度に限られるため、今後、教育研究活動に必要な図書等が生じた場合、適切に整備できるのか疑義がある。このため、今後の図書等の整備に関する対応方針を明確に説明するか、必要に応じて図書等のスペースを充実させること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 27、作業療法学科 是正事項 28】

28. <体育館の代替施設の利用方法が不明確>

体育館等のスポーツ施設を設けないため、市営の運動公園を利用し、バス送迎を行うとのことだが、法令上規定されている学生の利用に際しての経済的負担の軽減が図られた運用になっているのか、学生の授業時間割等に配慮がなされたバスの運行計画となっているのか、学生のクラブ活動など授業以外でも利用できる使用契約となっているのかなど、市営の運動公園の具体的な利用計画が不明なため、明確に説明すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 28、作業療法学科 是正事項 29】

29. <学則が不適切>

学則第 35 条第 1 項に、入学検定料、入学金、授業料などは学校法人藍野大学学費取扱規程に定めると記載されているが、法令上、授業料、入学料その他の費用徴収に関することは学則に記載しなければならないとされていることから、適切に改めること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 29、作業療法学科 是正事項 30】

30. <書類不備>

認可申請書類に不備が散見されるため、適切に修正すること。【2 学科共通 理学療法学科 是正事項 30、作業療法学科 是正事項 31】

リハビリテーション学部 作業療法学科

【教育課程等】

31. <授業の到達目標と授業計画が不一致>

職業専門科目で配置された「地域生活作業療法学演習Ⅰ」は、掲げられた授業の到達目標を達成するための授業計画としては不適切なため、修正すること。【作業療法学科 是正事項 8】

その他の事項

学長予定者の変更について	201
--------------	-----

## 【大学等の設置の趣旨・必要性】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

### 1. <養成する人材像、3つのポリシーが不明確>

高齢者人口の増加などの社会的課題に対して、今後、求められる人材の能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を掲げ、専門職大学で人材を育成する必要性を説明し、設置構想審査においても既設の大学の理学療法学科・作業療法学科で育成する人材の能力が異なることを示していたが、既設の大学においても即戦力となる教育の実施など同様の教育目標がホームページに掲載されており、専門職大学で人材を育成する必要性や身に付ける知識等の違いに関する説明が不十分で矛盾しており、養成する人材像の違いが不明確であるほか、3つのポリシーの内容も不明確なため、以下の点に留意しつつ、修正すること。【2学科共通】

- (1) 養成する人材像が不明確なため、3つのポリシーの妥当性を判断することは困難となるが、ディプロマ・ポリシーの内容が抽象的かつ不明確な内容になっているため、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの一貫性を確認することもできない。特に、カリキュラム・ポリシーは専門職大学制度に関する説明に留まっており、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針になっているとは認められない。3つのポリシーの修正に当たっては、大学がどのような個性・特色、魅力を持ち、どのような有為な人材を育成できるのかを対外的に示すなどのポリシーを定める意義を踏まえ、適切に改めた上で、3つのポリシーの一貫性について明確に説明すること。また、3つのポリシーは養成する人材像に応じてそれぞれの専攻分野の特性に応じた内容になると考えるが、本学から示された両学科の3つのポリシーはほぼ同じ内容になっているため、適切に改めること。

(対応)

ご指摘のとおり、既設の大学（藍野大学）の養成する人材像との違いを明確に論じ分けることができなかつたため、第一に、藍野大学と本学（びわこリハビリテーション専門職大学）との養成する人材像の違いを説明する。第二に、第一を受け本学の目的を整理し直したため、その説明を行う。第三に、学部の目的（養成する人材像）と3つのポリシーを整理し直したため、その説明と、一貫性の説明を行う。第四、第五に、両学科の目的（養成する人材像）と3つのポリシーを改めて整理し直したため、その説明と、一貫性の説明を行う。

### 1) 既設の大学との養成する人材像の違い

学校法人として定めている教育理念「*Saluti et Solatio Aegrorum*（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」に基づき、「病気を医学的に治療すると同時に患者様の心に慰めを与えることが医療人の理想である」という考えを、本学と藍野大学は共有している。

藍野大学においては、学校教育法第83条第1項に規定する「大学は学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的

とする。」を踏まえつつ、「医療の高度化・専門化」に対応し、専門分化した医療現場において、高度な実践力を持ってチーム医療に貢献できる人材の養成を根幹に置いている。藍野大学医療保健学部の教育目標③「保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材を育成する。」がこれを表現している。藍野大学医療保健学部には、理学療法学科、作業療法学科のほかに看護学科と臨床工学科を置き、4学科の学生が共同で、チーム医療について学ぶための科目を配置している。

一方、本学においては、社会の要請等として、厚生労働省が提唱する「地域共生社会（申請書類においては、「共生型社会」という用語を使用した。）の実現に必要なリハビリテーション人材の養成」に応ずることを、その主眼に置いている。今後も、急速な高齢化による疾病構造の多様化は、病院やクリニック等の医療分野において、リハビリテーション人材は求められる。

しかし、今後は、医療の在り方が、病院完結型から地域完結型への移行に従い、病気や障害を抱えながらも地域で生活する住民を支援できるリハビリテーション専門家が重要となることは間違いない。そのような社会を実現するうえで、リハビリテーション専門家に求められる能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を申請書類において掲げた。

以上のように、藍野大学と本学では、人材養成の目的（社会の要請等）に違いがあるにも関わらず、申請時点では、養成する人材像及び3つのポリシーにおいて、論じ分けることができていなかったと認識している。藍野大学医療保健学部とびわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部の養成する人材像の違いは次の表のとおりである。

#### 藍野大学とびわこリハビリテーション専門職大学の養成する人材像の違い

	藍野大学 医療保健学部	びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部
教育理念（法人）	「Saluti et Solatio Aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」	
人材養成の目的（社会の要請等）	医療の高度化・専門化に対応した医療専門職の養成	地域共生社会の実現に必要なリハビリテーション専門家の養成
目的（養成する人材像）	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人を愛する心を持ち、豊かな教養を身につけた人材を育成する。</li> <li>②心の通う保健・医療サービスを提供できる人材を育成する。</li> <li>③<u>保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材を育成する。</u></li> <li>④国際的な視野を持つ人材を育成する。</li> <li>⑤生涯学び続け、課題発掘・解決能力を練磨できる人材を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。</li> <li>②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。</li> </ul>

※目的には、人材養成の違いが分かるように、藍野大学医療保健学部では教育目標を掲載し、本学リハビリテーション学部では、リハビリテーション学部の目的を掲載した。

## 2) 本学の目的

藍野大学と本学との違いを改めて明確にしたことにより、大学の目的も改めることとした。

申請書類においては、「医療専門職として社会的使命・社会的責任を果たし」や「医療専門職の養成」を唱っていたことにより、地域の保健・福祉・スポーツ・就労等といった分野で、必要なリハビリテーションを実践できる人材を養成したいという本学の設置の趣旨が曖昧なものとなってしまうため、それらの文言を外し、「地域共生社会の実現に貢献すること」という文言に改めた。

また、当初の大学の目的においては、人材養成という視点からのみ目的を定めており、社会的使命・大学が果たすべき役割の記載が抜けていたため、人材養成を通じて、持続可能な地域共生社会を実現するために、その意義を見直し、びわこリハビリテーション専門職大学の目的を改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 8ページ 大学の目的

新	旧
<p>教育基本法及び学校教育法の定めるところに従うとともに教育理念に則り、<u>リハビリテーションに関する実践的かつ応用的な能力を展開するための教育研究により、高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付けた有能な人材を養成することで、地域共生社会の実現に貢献することを目的とする。</u></p>	<p>教育基本法および学校教育法の定めるところに従うとともに教育理念に則り、生命の尊重と個人の尊厳を根幹とする医療専門職として社会的使命・社会的責任を果たし、社会に広く貢献できる人材を育成する。また、専門分野及び関係する他の分野の知識や技術を活用・応用し、より社会の人材ニーズに即応した課題解決方法の発見や職業の新たな展開の創造に向けて思索・実践できる医療専門職の養成を行うことを目的とする。</p>

## 3) リハビリテーション学部の目的と3つのポリシーの一貫性

### (1) リハビリテーション学部の目的

現在、在院日数の短縮が推進され、また、障がい者は、施設生活から在宅生活への移行が促進される中、病気や障害を抱えながら地域で生活する住民が増加している。しかし、地域生活を営む地域住民の支援策の整備は充実したものとは言えない。この地域支援に携わるリハビリテーション専門職が求められている。このような社会変化に対応するため、子どもから高齢者までの地域住民に対して、理学療法、作業療法を提供できる人材を養成することをリハビリテーション学部の目的とした。また、今後の高齢化率の上昇や人口減少等の社会情勢の変化に伴い、地域において、理学療法士・作業療法士に求められる役割は変化していくことが予測される。特に、理学療法や作業療法の専門性を考慮すると、地域の保健、スポーツ、福祉、就労等の分野で地域住民を支援できる可能性は高く、地域共生社会の実現に貢献できることに繋がると考え、リハビリテーション学部の目的とした。なお、その理由については、是正事項2において詳しく論じた。

よって、ご指摘にあった「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」は、人材養成のために必要な能力であることは相違ないが、あくまで能力となるため、養成する人材像を的確に表現することにはなっていなかったと理解し、前述のとおり、改めて養成する人材像について整理し、次のとおり2つに文言を改めた。

新	旧
<p>①<u>高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。</u></p> <p>②<u>地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。</u></p>	<p><b>(2) 教育目標</b></p> <p>① 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性、幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる人材を育成する。</p> <p>② チーム医療の一員として、他の職種を理解し、協調性・連携意識をもって行動することができる人材を育成する。</p> <p>③ 医療専門職として高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる人材を育成する。</p> <p>④ 自ら医療・保健・福祉の課題発掘に努め、科学的・専門的知識と技術を背景に創造的な解決方法を導くことができる人材を育成する。</p> <p>⑤ 専門分野に関連する他の分野に関心を持ち、応用能力を高めるとともに、専門分野の新たな展開を創造することができる人材を育成する。</p> <p>⑥ 生涯にわたり、広い視野をもって幅広い知識や技術を獲得し続けることができる。</p> <p><b>(3) リハビリテーション学部の目的</b></p> <p>リハビリテーション学部では、教育理念および大学の目的を踏まえ、豊かな人間性や幅広い教養、医療専門職としてふさわしい専門的知識と技術、職業倫理、他の職種との協調性・連携意識を身に付けるとともに、専攻分野に関連する他の分野に関することを学び、応用能力を高め、課題解決や専攻分野の新たな展開の創造に向けて、主体的に考え実践し、医療・保健・福祉に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p>

## (2) 学部のディプロマ・ポリシー

養成する人材像にある「高い倫理観と豊かな人間性」を持った人材とは、生命の尊厳と職業倫理を備えた上で、人間性を高め幅広い教養を有し、地域住民に関わる理学療法や作業療法の専門職として自覚を持ち、その責任を果たし、生涯にわたり自己研鑽を継続できる人材である。それを DP1 で表現した。

また、理学療法士・作業療法士が地域においてリハビリテーションを通じた地域住民の支援を実践するためには、多職種と連携し、協力することが必要である。多職種と連携し協力することができる人材に必要な能力は、対象者や多職種と円滑なコミュニケーションをとり、自ら信頼関係を築くことができ

る能力である。それを DP2 で表現した。また、理論に裏付けられた知識や技術をもとに、理学療法や作業療法を実践できる能力を備えることにより、子どもから高齢者まですべての対象者に適切なリハビリテーションを提供できる人材の養成が必要なため、DP3 で表現した。加えて、地域社会において各々の専門的立場や分野から地域課題を発見し解決策を考案できる能力を DP4 で表現した。そして、理学療法や作業療法の特性を適切に応用し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携し、実践できることを DP5 で表現した。

これらの能力について、DP⑥として生涯に渡る自己研鑽を設定していたが、DP1 に結合し、次のとおり 5 項目のディプロマ・ポリシーに改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 7～8 ページ リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシー

新	旧
<p><u>本学において所定の期間在学し、学科ごとに定める単位を取得し、次のとおりの能力を身に付けた者に学位を授与する。</u></p> <p><u>DP1：生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</u></p> <p><u>DP2：地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる。</u></p> <p><u>DP3：理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる。</u></p> <p><u>DP4：地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる。</u></p> <p><u>DP5：専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる。</u></p>	<p>リハビリテーション学部では、豊かな人間性や幅広い教養、医療専門職としてふさわしい専門的知識と技術、職業倫理、他の職種との協調性・連携意識を身に付けるとともに、専門分野に関連する他の分野に関することを学び、応用能力を高め、課題解決や専攻分野の新たな展開の創造に向けて、主体的に考え実践し、医療・保健・福祉に貢献できる人材の育成を目指している。以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <p>①生命を尊び、人との関わりを大切にする豊かな人間性、幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p> <p>②チーム医療の一員として、他の職種を理解し、協調性・連携意識をもって行動することができる。</p> <p>③医療専門職として高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p> <p>④自ら医療・保健・福祉の課題発掘に努め、科学的・専門的知識と技術を背景に創造的な解決方法を導くことができる。</p> <p>⑤専攻分野に関連する他の分野に関心を持ち、応用能力を高めるとともに、専攻分野の新たな展開を創造することができる。</p> <p>⑥生涯にわたり、広い視野をもって幅広い知識や技術を獲得し続けることができる。</p>

### (3) 学部のカリキュラム・ポリシー

リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシーを達成し、学位授与に求められる能力を修得するために、次のとおりの方針でカリキュラム・ポリシーを策定した。

DP1にある職業倫理を備え専門職としての自覚と責任を涵養するために、基礎科目の人間と社会系科目を基盤とし、職業専門科目の理学療法・作業療法理論科目群の「リハビリテーション概論」や職業実践科目群でそれぞれの専門性に必要な倫理観を学び、専門職としての自覚と責任を学修するための科目を配置する。

DP2にある円滑なコミュニケーションと信頼関係の構築を涵養するために、基礎科目の人間と社会系科目及び語学教養科目を基礎とし、職業専門科目の職業実践科目群で専門職として人間関係を築く必要性や方法について学び、臨地実務実習において体験を通して学修できるよう科目を配置している。さらに、展開科目や総合科目において、多職種とのコミュニケーション能力をより深めることができる科目を配置している。

DP3にある適切なリハビリテーションの実践を達成するための科目は職業専門科目が中心となり、理学療法・作業療法理論科目群で専門職に必要な基盤を学修し、職業実践科目群に学修した内容を反映させるように構成している。臨地実務実習で、机上で学んだ内容が専門職として実践できるよう、学修段階を踏まえて臨地実務実習を構成し、理学療法学科は7科目、作業療法学科は6科目を配置している。職業専門科目で学修した内容を、展開科目と総合科目で専門職として応用実践できるように配置している。

DP4にある地域の課題を発見し、解決策を考案できる能力を達成するための科目は、職業専門科目の理学療法・作業療法理論科目群にある「地域包括ケア論」で学んだことを基盤に、職業実践科目群で理学療法士及び作業療法士の地域医療に携わる現状を学ぶ。これらで学修した内容を活かし、展開科目及び総合科目で専門職として地域共生社会の実現に向けて、どのように貢献できるかを見据え、地域の抱える課題を発見し解決できる方法について、思考し想像できる能力を学修できるよう配置している。

DP5にある多職種との連携により、専門職としての新たな展開を創造できる能力を達成するための科目は、基礎科目を基盤とし、職業専門科目と展開科目を交えて、両者を融合し学修できる科目として総合科目を配置している。

また、申請時においては、学修成果の評価に関する方針について記載を行っていなかったため、カリキュラム・ポリシーにおいて、それを定める。まず、授業形態ごとの成績評価であるが、講義については、主として筆記試験により評価を行い、実習科目においては、技術試験を主としつつ、筆記試験、レポート及びプレゼンテーションなどにより評価を行う。また、臨地実務実習においては、OSCE（客観的臨床能力試験）、実習評価表及びルーブリックに基づき、評価を行う。以上のとおり、それぞれの授業形態に即した試験等を学生に課すことによって、科目ごとの目標到達度を適切に評価できる体制とする。

さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについて評価をするとともに、すべての科目をGPAによって点数化する。これらによって、学生それぞれが履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを促進する。併せて、各学期のGPAと累積のGPAにより、学修レベルの進捗度合い、修得科目全体の成績水準が明らかとなるため、それを教員による学生指導に活用する。

新	旧
<p><u>リハビリテーション学部の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</u></p> <p><u>CP1：倫理観に基づき人を尊重し、生涯にわたり自己研鑽し、地域住民の社会生活を支援できるようになるための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP2：専門職に必要なコミュニケーション能力を有し、対象者や多職種と良好な対人関係を築くことができるようになるための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP3：専門職として必要な専門的知識や技術を修得し、論理的思考に基づいた問題解決策を考案できるようになるための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP4：自らの専門性を基盤とし、地域住民と地域社会の課題発掘と問題解決を実践できるようにするための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP5：専門領域に関連する専門分野の知識を修得し、地域共生社会の実現に向けて多職種と連携して支援できるようになるための科目を配置する。</u></p> <p><u>&lt;成績評価&gt;</u></p> <p><u>すべての科目においてGPAによる評価を行う。</u></p> <p><u>また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。</u></p> <p><u>講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び技術試験などにより評価を行う。</u></p> <p><u>臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。</u></p>	<p>学位授与に求められる能力を修得するために、リハビリテーション学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <p>①基礎科目では、社会的・職業的自立を図るために必要な能力に加え、生涯にわたり自らの資質を向上させるために必要な能力を育成することを目的として、倫理観、コミュニケーション能力、接遇、国際的感覚、キャリア形成などを育むための科目を配置する。加えて、日本の伝統文化や地域の特性などを学ぶ科目などを配置し、心豊かな人格を育成する。</p> <p>②職業専門科目では、医療専門職として必要な専門的知識・技術を修得するために、基盤となる医学に関する科目を配置し、その上に他の職種との協調・連携、職業倫理についての学びを含め、専攻分野科目を系統的に配置する。また、実践的スキルを養うために学内での演習・実習に加え、学外での臨床実習を効果的に配置する。さらに、選択科目により、専門性の幅を広げるための科目を配置する。</p> <p>③展開科目では、専攻分野における応用能力・創造性を高めることを目的として、専攻分野に関連する他の分野について学ぶ科目を配置する。</p> <p>④総合科目では、修得した専門知識・技術等を総合し、実践的かつ応用的な能力を総合的に高めることを目的として、多職種連携を踏まえた総合演習科目を配置する。</p>

さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。	
---	--

#### (4) 学部のアドミッション・ポリシー

リハビリテーション学部が求める人材は、本学の目的及びリハビリテーション学部の目的を理解し、理学療法・作業療法の専門職を希望する者を広く受け入れることとした。そこで、高大接続答申(2014)で示された「学力の3要素」を踏まえた上で、学部の求める要素に「知識・技能」、「主体性・多様性・協調性」及び「思考力・判断力・表現力」の3つを主な資質とした。さらに、ディプロマ・ポリシーを達成する能力としてアドミッション・ポリシーを改正したので、次にその関係性について説明する。

「知識・技能」を示す資質として、AP1「高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する」をあげた。これは、理学療法、作業療法の専門的知識を修得し、適切なリハビリテーションを実践する DP3「理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる」を達成するための基盤となる能力である。専門的で幅広い知識を学び、技術を修得するための基礎になる学力を示している。

理学療法士・作業療法士を職業とするために必要な資質として「主体性・多様性・協調性」をあげ、AP2とAP3に定めた。

AP2「人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ」は、職業倫理を備え専門職としての自覚と責任を持って自己研鑽ができる DP1「生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる」を達成するための能力となる。これは理学療法士・作業療法士がリハビリテーション・チームアプローチの一員として職務を遂行するために必要な資質であり、人を尊重しリハビリテーションの専門職として社会に貢献する意欲を持っていることを資質としてあげた。

AP3「良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる」は、地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションで良好な信頼関係を築くことができる DP2「地域住民や多職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる」を達成するための能力となる。理学療法士・作業療法士は、地域住民の生活を支援するため対象者や多職種との信頼関係が重要であり、良好なコミュニケーション能力を有し他者と協働して物事を進めることができる能力としてあげた。

最後に理学療法や作業療法を応用し、活用できる能力として「思考力・判断力・表現力」をあげ、AP4とAP5に定めた。

AP4「客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる」は、地域住民の課題を発見し、解決のための論理的思考ができる DP4「地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる」を達成するための能力となる。理学療法や作業療法の専門的知識により自ら課題を見つけ解決策を考えるために、状況を客観的に把握し課題を見つけ、自主的に解決に向けて行動できる能力として定めた。

AP5「多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる」は、理学療法士・作業療法士として修得した知識や技術を、多職種と連携し新たに創造できる DP5「専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる」を達成するための能力となる。特に地域共生社会の実現に向けて専門職として地域住民を支

援するため、自らその能力を応用し、創造することにつながる能力であり、多角的に物事を捉え、新たな展開への探求と論理的思考ができる能力として定めた。

以上の通り「知識・技能」、「主体性・多様性・協調性」及び「思考力・判断力・表現力」を3本柱とし、ディプロマ・ポリシーとその能力を達成するために対応して改正したカリキュラム・ポリシーに係づくよう、一貫性のあるアドミッション・ポリシーとして、次の5項目に改めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 8～9 ページ リハビリテーション学部のアドミッション・ポリシー

新	旧
<p><u>リハビリテーション学部では、「①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。</u></p> <p><u>そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。</u></p> <p><u>(知識・技能)</u> <u>AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。</u></p> <p><u>(主体性・多様性・協調性)</u> <u>AP2：人を尊重し人に興味を持ち、リハビリテーションの専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人。</u></p> <p><u>AP3：良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力を有し、他者と協働して物事を進めることができる人。</u></p> <p><u>(思考力・判断力・表現力)</u> <u>AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともにその解決に向け、自主的に取り組み継続できる人。</u></p> <p><u>AP5：多角的に物事を捉え、新しい展開への探求と論理的思考ができる人。</u></p>	<p>中央教育審議会答申(2016)で示された「高等学校までに培った学力・資質・能力の柱」第一に知識・技能、第二に思考力・判断力・表現力等、第三に学びに向かう力・人間性と合わせて、高大接続答申(2014)で示された「学力の3要素」第一に主体性・多様性・協働性、第二に知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力、第三に知識・技能を踏まえた上で、本学の教育目的及びリハビリテーション学部の目的を理解し、医療専門職を希望する次の者を広く受け入れる。</p> <p>①高等学校までに学ぶべき基礎的な知識と技能を有している人</p> <p>②人々の病気や障がい、健康に関心を持ち、医療専門職として社会に貢献することに意欲を持つ人</p> <p>③他者の多様な考えを尊重し、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる人</p> <p>④客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、主体的に取り組むことができる</p> <p>⑤専門分野以外にも関心を持ち、既存の発想にとらわれず、広い視野で新しい展開への探求ができる人</p>

#### 4) 理学療法学科の目的と3つのポリシーの一貫性

##### (1) 理学療法学科の目的

理学療法の対象は、子どもから高齢者までのすべての年齢層の人々を含み、障がいを持つ人、持たない人、在院・入所している人、在宅生活をしている人、それら全ての人々である。しかし、現在の理学療法士の就労状況を見ると、日本理学療法士協会による会員分布調査（2018）では、医療・介護分野が約78.7%と最多であり、健康分野はわずかに0.07%しか存在しない。

今後の高齢化率の上昇と人口減少の予測を見据えると、地域包括ケアシステムのみならず、広く高齢期に差し掛かる前に、健康で自立した生活を維持するための取り組みが重要となる。

滋賀県の2015年の平均寿命は男性が81.78歳、女性が87.57歳である。2016年の健康寿命（日常生活に制限のない期間）の平均は男性が72.30歳、女性が74.07歳であった。健康寿命と平均寿命の差は日常生活に制限を持ちながら生活する期間の存在を示し、その期間は男性で9年間、女性で13年間と長期にわたる。この日常生活に不自由な期間を短縮することは、高いQOLを維持し、その人が望む人生を送るために重要である。また、この期間は介護を必要とすることが想定され、社会資源の浪費を伴うことも大きな問題である。

これらの問題を受け、「健康日本21（第二次）」が2013年に全部改正された。その中では、住民自身の自助による健康維持が求められている。さらに、共助として支援する専門職が必要であり、疾病や傷害を予防しリスク管理のもと運動処方のできる理学療法士は適任である。理学療法の身体活動の知識・技術を活用することにより、健康寿命延伸が可能であろう。しかし、前述の調査から理学療法士は約78.7%が医療・介護分野に集中し、健康分野は0.07%と非常に僅かである。この現状を踏まえ、健康分野での理学療法士の必要性を理解し、その現状と対策を学修し、理学療法士として健康分野へ職域を展開できる人材を養成することが本学科の特色である。

健康を促進するために、スポーツを生活の中に取り入れることが推奨されている。また、スポーツを通して地域を活性化することも可能とされている。スポーツは健康に直結するが、その方法を誤るとケガによる不健康を招く。この逆効果を防止するために、スポーツによるケガを予防できる指導者が必要となる。また、疾患や障害を持つ人に対してもスポーツを推奨する必要がある。疾患や障害を持ちながらもスポーツができるように提案・支援できるのは、医療専門職である理学療法士である。そこで、本学科では障がいの有無に関わらず、全ての人にスポーツの継続を通して健康を維持し、質の高い生活を送ることを支援できる人材を養成することも特色である。

また、このような身体活動を維持できれば、生活に重要な経済活動をできるだけ長く継続できる。しかし、前掲の国民生活基礎調査（2016）によると、50代の有訴率は30%を超え、「腰痛」、「肩こり」、「手足の関節が痛む」の運動器障害が上位を占めている。これらの症状を持ちながら就労を継続するためには、就労環境や方法の検討が有用であり、運動器障害に対する知識のある理学療法士が支援できる分野である。さらに、障害を持ちながら就労する人への支援も、理学療法士の専門性が活用できる分野である。

障がい児・者への身体活動に関する支援としては、就労だけでなく住み慣れた地域で日常生活を自分らしく送るためにも理学療法技術の応用が有益である。このような地域や福祉の分野を支援できる人材を養成することも本学科の特色である。

いずれにせよ、本学の理学療法士教育は、医療保険や介護保険の枠から一步踏み出し、自ら需要を見つけて理学療法士の職域を拡大していく人材養成である。様々な地域社会や医療・介護以外の業界で専門職として活動するために、多くの職種、地域の人々との連携が必要不可欠となる。多職種との連携は、

医療の中ではチーム医療としてその概念の定着を見るが、その必要性は地域社会でははるかに上回ると考えられる。このため、本学科では多職種との連携や協働した活動にも重点を置いていることも特色の一つである。

以上のような理学療法技術を活用した健康寿命の延伸と生活の支援は、地域共生社会の実現に向けた改革の一助となる。よって、本学科では将来のキャリア形成の中で、地域共生社会における健康、スポーツ、福祉の分野で活躍できる理学療法士を輩出するため養成する人材像を次の2点とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 23 ページ 理学療法学科の目的

新	旧
<p>①<u>理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。</u></p> <p>②<u>理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸と QOL 維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を養成する。</u></p>	<p>理学療法学科では、リハビリテーション学部の目的に則り、人の尊厳と権利、職業倫理観、協調・連携を理解し、身体的諸機能の維持・回復や疾病・障がい予防、健康増進等を図ることのできる実践力のある理学療法士を養成することが目的である。</p> <p>その一方で、現在の需給状況を見ると、理学療法士の約9割が医療・介護・福祉の保険制度下で仕事をしており、その現場で、活躍できる人材の確保することが、これまでの社会のニーズであったが、今後は、そのニーズも変化し、医療・介護分野での需要が減少に転じる時期が、遠くない将来に到来する。そのような時代の変遷に対応し、理学療法士の強みを活かし、新たな分野を開拓できる応用力をもった人材を養成することも目的に掲げている。</p>

## (2) 理学療法学科のディプロマ・ポリシー

理学療法学科の養成する人材像について上記のように定め、その人材を養成するための資質や能力を明確にした。

まず、理学療法士の基本的な資質となる基礎を、人を尊重し倫理観を持ち、理学療法士の自覚と責任を持って生涯にわたり自己研鑽できることとし DP1 で表現した。理学療法の実際の場面では、地域住民とその対象者を取り巻く多職種と協働するために、円滑なコミュニケーション能力をもって信頼関係を築き実践できる能力を DP2 で表現した。その上で、理学療法の専門的な知識や技術を修得し、対象者の課題について論理的思考をもち、理学療法プログラムを計画し実践することが、理学療法士として第一に必要な能力となり DP3 で表現した。加えて、本学科の目的である健康・スポーツ・福祉の分野における地域住民の支援にあたり理学療法の専門性を活かし、自ら地域住民の課題を発見し解決できる能力を DP4 で表現した。多職種と連携を取り理学療法技術を自らのキャリア形成の中で応用実践できる能力を養成することを DP5 で表現した。このような能力の養成を目指し、ディプロマ・ポリシーは次の5項目とした。

新	旧
<p><u>理学療法学科では、所定の規則に基づき 129 単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に理学療法士（専門職）の学位を授与する。</u></p> <p><u>DP1：人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</u></p> <p><u>DP2：地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</u></p> <p><u>DP3：理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</u></p> <p><u>DP4：地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</u></p> <p><u>DP5：理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</u></p>	<p>理学療法学科では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <p>① 生命を尊び、人との関わりを大切にする豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p> <p>② 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>③ 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p> <p>④ リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。</p> <p>⑤ 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>

### (3) 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー

DP1にある倫理観と理学療法士としての自覚と責任を持ち自己研鑽できる能力を涵養するために、基礎科目の人間と社会系科目、自然科学系科目及び語学教育科目が基礎となるよう構成している。これらを基盤に、職業専門科目を学修することで理学療法士としての資質を理解し、どのように行動すべきかを学び、臨地実務実習で実践が可能となるよう組み込んでいる。理学療法技術を地域住民に応用するため、専門職としての自覚と責任が形成されるよう展開科目にも科目を配置している。

DP2にある理学療法実践に必要なコミュニケーションと信頼関係を形成する能力を涵養するために、基礎科目の初年次教育科目である「コミュニケーション論」を基盤とし、語学教育科目で必要な能力を学修し、理学療法士に必要な信頼関係形成を学修する科目として職業実践科目群、展開科目及び総合科目を配置している。なかでも、職業実践科目群の臨地実務実習では、机上の学修を実践することにより身につく科目として配置している。また、総合科目の「協働連携論総合実習」では、当事者の方や作業療法学科の学生と交わり授業を進めることで、多職種との実際の関りから体験として学べるように配置している。

DP3にある理学療法を実践する能力を涵養するために、職業専門科目の理学療法理論科目群及び職業実践科目群を中心に、理学療法士に必要な知識と技術を学修する科目を配置している。そして、学修した知識と技術を活かし応用実践能力を養成する過程として、総合科目を配置している。

DP4にある地域住民の支援に、理学療法の特性を活かし課題の発見と解決方法を導く能力を涵養するために、職業専門科目で地域での理学療法の現状を学び、地域で理学療法を活用できる分野と現状について学修する。地域住民の支援につながる課題発見や、解決策の理学療法応用を導くために展開科目と総合科目を配置している。

DP5にある理学療法の知識と技術を、多職種と協働して地域住民の支援に応用する能力を涵養するために、基礎科目を基盤とし、職業専門科目で培った理学療法士としての専門性を活用し応用できるように、展開科目と総合科目を主要な科目として配置している。

以上のように内容を改め、カリキュラム・ポリシーを次の5項目とした。なお、学修成果の評価に関する方針については学部に準ずる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 29～30 ページ 理学療法学科のカリキュラム・ポリシー

新	旧
<p><u>理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</u></p>	<p>①理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則が指定する内容である「基礎科目」「職業専門科目」「総合科目」を配置し、理学療法士に求められる資質と知識と技術を系統的に学ぶことができるようにしている。また、「職業専門科目」の中の「展開科目」では、理学療法士の専門性を活かし、応用的、創造的に広げることができる科目を配置している。</p>
<p><u>CP1：倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。</u></p>	<p>②初年度に行う「基礎科目」では、豊かな人間性、倫理観、広い視野、国際的感覚を養うための教養科目と、コミュニケーション能力向上やキャリア形成に役立つ科目を配置し、社会人・職業人としての育成に加え、新たな開拓に向け思考・探求の基盤となる科目を配置する。</p>
<p><u>CP2：理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協調し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。</u></p>	<p>③「職業専門科目」では、社会の多様化したニーズに対応できる理学療法士を育てるため、科学的かつ論理的思考をもって評価から治療の立案、実施、検証ができるようになることを目標としている。そこで、「理学療法理論科目群」では、人体の構造と機能、疾病の成り立ちや回復過程、臨床医学、予防医学など、医療職に共通して必要な知識を学ぶ科目を配置する。また、「職業実践科目群」では、理学療法士の役割や職務の理解を深め、科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を習得するための科目</p>
<p><u>CP3：理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</u></p>	
<p><u>CP4：理学療法の知識・技術を基盤とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発掘し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。</u></p>	
<p><u>CP5：理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法の知識や</u></p>	

<p><u>技術を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>&lt;成績評価&gt;</u></p> <p><u>すべての科目においてGPAによる評価を行う。</u></p> <p><u>また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。</u></p> <p><u>講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び技術試験などにより評価を行う。</u></p> <p><u>臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。</u></p> <p><u>さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。</u></p>	<p>を配置する。</p> <p>④「総合科目」では学んだ知識・技術を基盤とし、当事者の個人の生活から地域まで見渡すことができる広い視野をもち、連携した行動できることを目標とし、他職種の専門性を理解と多職種の中で理学療法士としての専門性を発揮することを学ぶ講義・演習を配置している。</p> <p>⑤「展開科目」では、3つのコース（地域支援コース・ヘルスプロモーションコース・生涯スポーツ支援コース）を設け、個人が選択したコースで専門性を伸ばすことができるようにしている。教員指導の下、学生が企画・運営などのフィールドワークやインターンシップなどを行うなど、ここでの学びは、理学療法の専門性を活かし、将来、応用的、創造的に理学療法士の職域を拓げていく基礎となる。</p>
---	---

#### (4) 理学療法学科のアドミッション・ポリシー

AP1「高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する」は、理学療法を学修するために必要な基礎学力を示しており、DP3「理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる」を達成するための能力となる。医学的知識や理学療法に関連する分野を広く学ぶ必要があるためその基礎となる。

AP2「人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、理学療法士として社会に貢献することに意欲を持つ」は、理学療法士としての自覚や責任をもつための資質で、DP1「人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる」を達成するための能力となる。人を対象とする理学療法士にとって、人を尊び理学療法士としての自覚を持ち、人のために理学療法士になり実践することに意欲を持って学修に臨める資質を示している。

AP3「協調性をもち他者と良好な関係を築き、協働して自己の役割を責任を持って果たすことができる」は、対象者や多職種と信頼関係を築く事ができる資質を示しており、DP2「地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる」を達成するための能力となる。理学療法士には、関わる全ての人とコミュニケーションをとって信頼関係を築くことが必要であるため、他者と協調性をもって行動できる能力を示している。

AP4「客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、自主的に物事に取り組み継続できる」は、理学療法士の特性を活かし、地域住民の課題を発見し解決方法を考える事ができる DP4「地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる」を達成するための能力となる。自身が状況に合わせて何ができるのかを客観的に把握し、解決に向け取り組みを考えられる能力を示している。

AP5「論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している」は、専門的知識を持ち多職種と連携し、理学療法を地域住民に应用できる DP5「理学療法に関連する他

分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる」を達成するための能力となる。自身の考えを論理的に構成し、他者にその考えを的確に伝えることができる能力を示している。

以上のような考えに基づき、5項目のアドミッション・ポリシーを次のように構成した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 93～94 ページ 理学療法学科のアドミッション・ポリシー

新	旧
<p><u>理学療法学科では、「①理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、地域住民の思いに共感し、且つ多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成する。②理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸と QOL 維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通じて地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて地域住民の支援ができる人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。</u></p> <p><u>そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。</u></p> <p><u>(知識・技能)</u>  <u>AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。</u></p> <p><u>(主体性・多様性・協調性)</u>  <u>AP2：人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、理学療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人</u></p> <p><u>AP3：協調性をもち他者と良好な関係を築き、協働して自己の役割を責任を持って果たすことができる人。</u></p> <p><u>(思考力・判断力・表現力)</u>  <u>AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、自主的に物事に取り組み継続できる人</u></p> <p><u>AP5：論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有</u></p>	<p>—</p>

## 5) 作業療法学科の目的と 3つのポリシーの一貫性

### (1) 作業療法学科の目的

日本作業療法士協会は「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療・保健・福祉・教育・職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す」と定義している。また、その具体的な対象者は、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への不適応により日々の作業に困難が生じている、またはそれが予測される人や集団である。彼らの生活に対して、作業を用い、環境に手を入れ、外部からの干渉をコントロールすることにより生活の困難を軽減させる。そのために、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して、環境面にも働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材が必要となる。そのような作業療法士は地域共生社会の必需となると考えられる。

近年、我が国は国民の約 3 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となる超高齢化社会を迎え、滋賀県においても高齢化率は 2045 年には 34.3%に上昇するとされている。老年期では、高齢化による機能低下や、様々な疾患や障害の影響により、生活の活動や社会への参加の難しさを持つ地域住民が多くなることが予想される。その中で、年齢を重ねても可能な限りこれまでと同じような生活を送ることができるような支援が求められている。また、児童期では特別支援学校や特別支援学級に通う児童数が 1.8 倍に増加しており、その支援も求められている。さらに、成人期においては、能力に応じた障害者雇用のむつかしさ、また就労者の離職率の高さといった課題があげられている。このようにすべての年齢層の地域住民が、その能力を生活や就労に活かすための支援は少ない。そのため、地域共生社会の実現を目指した支援体制の構築が求められており、作業療法士もその一翼を担う必要がある。

上記に述べたような社会状況と作業療法士の需要ではあるが、滋賀県の作業療法士数は 463 名 (2019 年 3 月滋賀県作業療法士会の調査)、人口 10 万人あたりにすると 24.6 人である。これは全国平均の 34.6 人に比べて大きく低い値である。また、その少ない作業療法士の所属先のほとんどは医療機関に集中している。つまり、滋賀県の現状は、医療機関に所属する作業療法士すら少ないという状況にある (「滋賀県保健医療計画」、平成 28 年のリハ職の従事状況の調査より)。この少ない人数から、医療機関以外の地域社会で活躍する余裕はない。

そのため、滋賀県の養成校に求められるのは、1つは、医療現場の作業療法士を増やすこと、もう一つは、地域共生社会の創造の一助となる作業療法士を新たに輩出することの二点となる。

また、作業療法で言う「作業」とは、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など人が営む生活をしていく上で必要な生活活動そのものと、それを行うのに必要な心身の活動が含まれる。生活をしていく上での活動は、その人ができるようになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個別的な目的や価値が含まれるものである。そのため、生活活動に焦点をあてた実践には、心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する手段としての生活活動の利用と、その生活活動自体を練習し、「できるようにしていく」という目的としての生活活動の利用及びこれらを達成するための、障害を持った人と物的・人的環境とを調整することが含まれるのである。対象者のもてる能力を活かすために、環境を調整することが重要であり、これは地域の生活環境の中で活かすことのできる作業療法士の専門性である。しかし、現在の作業療法士の就労先は病院中心であり、病院から地域支援へと移行が求められているが、その絶対数の不足からほとんど応じられていないのが現状である。よって、地域生活者の暮らす生活環境の中で、対象者の能力を活かして生活を営めるように、環

境の調整を含めた支援ができる専門職として作業療法士を養成することは意義があると考える。

地域の住民は幅広い年齢層であり、また、疾患や障害を抱える場合も多い。彼らは自身の能力では目の前にある環境への適応が難しく、生活に困難が生じている。また、その困難さはライフステージにおいて、流動的に変化する。児童期、成人期、老年期といったライフステージと、その生活の経過や個人の抱える身体的又は精神的な障害によって、生活における課題は様々存在する。このような多様な課題の解決に向けて、その年齢層と障害や生活環境を構成する要素から、生活の状態を把握し、作業や物的環境を調整するだけでなく、人的環境因子である地域住民や多職種を理解し、協働して支援内容や、役割の調整ができる作業療法士を養成することは、今後の地域での生活支援にむけて意義がある。そして、その先には地域共生社会の実現が見えてくる。

よって、本学科では地域住民のために作業療法士の専門性を活かした支援ができるとともに、地域の児童期、成人期、老年期分野において、地域住民や多職種と連携して生活支援を実践できる作業療法士を輩出することを目的として、人材養成像を次の2点とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 25 ページ 作業療法学科の目的

新	旧
<u>①子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。</u>	①リハビリテーション学部の目的に則り、人の尊厳と権利、職業倫理観、協調・連携を理解し、生活全般の動作や社会適応能力の回復や疾病・障害の予防、健康増進等を図ることのできる作業療法士を養成する。
<u>②地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。</u>	②広い視野をもって変化していく地域社会のニーズを捉え、他者と協働しながら、その課題解決に向けて作業療法関連分野の専門知識を自ら修得し、作業療法の応用・活用や職業展開に新しい発想を生み出し実践できる人材を養成する。

## (2) 作業療法学科のディプロマ・ポリシー

まず、作業療法士の基本的な資質として豊かな人間性と倫理観、幅広い教養が重要となる。これは、作業療法が対象者の障害の側面よりも健康的側面を重視すること、地域には様々な年齢層の、様々な障がいや課題を抱えた方が生活をしており、幅広い対象者に対して作業療法士として関わるためである。そのため、生涯を通して作業療法士として自覚と責任を持ち、その知識と技術を向上する意識が必要となるため DP1 で表現した。そして、地域の中で様々な課題を抱えながら生活している対象者と関わるには、作業療法士一人の力では十分な支援とはなりえない。そこには、関連する多職種との円滑なコミュニケーション、協調性が必要となるため DP2 で表現した。その上で、障がい者を対象とした場合に必要な医学的な知識と技術だけでなく、作業療法士の独自の視点、対象者が大切にしている作業を通して人を理解する知識と技能でもある。このような作業療法士が学ぶ知識や技術は、対象者の生活のしづらさを構造的にみる視点を必要とする。生活の困難さは、疾患や障害に起因するものか、対象者の環境の影響によるものか、といった構造を明らかにする能力を DP3 で表現した。このような作業療法士の

専門性を活かし、地域における様々な課題を構造的に捉え、見極めることで、新たな課題解決ができる能力を DP4 で表現した。以上の能力を修得することにより、地域住民の課題を捉え、多職種と連携し、生活課題の新たな支援を展開できる能力を DP5 で表現した。このような能力の養成を目指し、ディプロマ・ポリシーを次の 5 項目とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 73 ページ 作業療法学科のディプロマ・ポリシー

新	旧
<p><u>作業療法学科では、所定の規則に基づき 130 単位の単位取得及び上記の要件を充たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法士（専門職）の学位を授与する。</u></p> <p><u>DP1：作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</u></p> <p><u>DP2：多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</u></p> <p><u>DP3：作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</u></p> <p><u>DP4：変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</u></p> <p><u>DP5：作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。</u></p>	<p>作業療法学科では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <p>①生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p> <p>②様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>③作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p> <p>④リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。</p> <p>⑤作業療法に関連する他の分野の専門学力の修得に努め、自己の能力を開発し、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>

### (3) 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー

DP1にある豊かな人間性と倫理観、幅広い教養と生涯学習する意欲を養うために、基礎科目の人間と社会系科目、自然科学系科目及び語学教育系科目が基礎となるように構成している。その中で、哲学、社会学、日本の文化や歴史に関する選択科目を構成し、対象者の人となりを知るための作業療法の視点を学ぶ科目を配置した。これらを基盤に、職業専門科目を学修することで作業療法士としての資質を理解し、どのように行動すべきかを学び、臨地実務実習での学びに繋がるように配置した。

DP2にある多職種と協調・連携するためのコミュニケーション能力、信頼関係を構築する能力を涵養するために、初年次教育科目である「コミュニケーション論」、語学教育系科目にて必要な能力を学修する。また、多職種と連携することの多い医療関係の専門職とのコミュニケーションを円滑に行うため、

職業専門科目の作業療法理論科目群において、基礎的な人体構造の知識や疾患の知識を学修する。

DP3にある作業療法を実践する能力を達成するために、職業専門科目の作業療法理論科目群及び職業実践科目群を中心に、作業療法士に必要な知識と技術を学修する科目を配置している。作業療法理論科目群は、医学的な知識や技術の学修、職業実践科目群は、対象者にとっての大切な作業を評価、治療に用いる知識や技術、対象者の障害がどのような構造によって生じているかを学修する。そして、学修した知識と技術を活かし、臨地実務実習において具体的な実践例を学ぶ。また、応用実践力を養成する過程として、総合科目を配置している。

DP4にある地域課題を発見する能力を涵養するために、展開科目を配置した。学生が耳にすることが多いボランティアや災害、子育てに関して学ぶ科目から、人が生涯にわたって取り組む就労やスポーツについて学ぶ科目を配置した。地域生活における様々な現状や課題を学修することと、それまでの作業療法士としての専門的な視点、構造的にとらえる視点から、地域の課題を発見できるように配置した。

DP5にある作業療法の専門的知識と技術を活かし、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用する能力を涵養するために、展開科目の3つのモデルと実習を配置した。各領域の専門家から現状と課題を学び、実習を行う中で、これまでの学修で培った作業療法士としての専門性を活用しながら、課題を構造的にとらえていく。そして、学修のまとめとして総合科目を配置した。

以上のように内容を改め、カリキュラム・ポリシーを次の5項目とした。なお、学修成果の評価に関する方針については学部準ずる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 32 ページ 作業療法学科のカリキュラム・ポリシー

新	旧
<p><u>作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</u></p> <p><u>CP1：人の生命や価値観や人の暮らす社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP2：多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP3：作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動・参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP4：人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を</u></p>	<p>①理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則が指定する内容に加え、本学の特徴である「展開科目」と「基礎科目」「職業専門科目」「総合科目」に区分し、作業療法士に求められる資質と知識・技術を系統的に学ぶことができるように配置する。また、展開科目では関連分野において応用的、創造的に作業療法の専門性を活かすための内容を取り入れている。</p> <p>②「基礎科目」では、豊かな人間性、倫理観、接遇、国際的感覚を養うための教養科目と、社会人・職業人としての基礎能力となるコミュニケーション能力向上やキャリア形成に役立つ科目を配置し、社会人・職業人としての基盤を形成する科目を配置する。</p> <p>③「職業専門科目」では、多様化する社会のニーズに対応できる作業療法士を育てるために、科学的かつ論理的思考をもって評価から治療の立案、実施、検証ができるようになることを目標としている。そこで、「作業療法理論科目群」では、人体の構造と機能、疾病の成り立ちや回</p>

<p><u>養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>CP5：地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</u></p> <p><u>&lt;成績評価&gt;</u></p> <p><u>すべての科目においてGPAによる評価を行う。</u></p> <p><u>また、各授業形態での特性を考慮し、成績評価は以下のとおり行う。</u></p> <p><u>講義については、主に筆記試験により評価を行い、演習・実習科目においては、筆記試験、レポート、プレゼンテーション及び技術試験などにより評価を行う。</u></p> <p><u>臨地実務実習においては、OSCE、実習評価表及びルーブリックに基づき、目標とする能力を身につけたかを評価する。</u></p> <p><u>さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについても評価を行う。</u></p>	<p>復過程、臨床医学、予防医学など、医療職に共通して必要な知識を学ぶ科目を配置する。また、「職業実践科目群」では、作業療法の基盤となる生活と作業や人々の健康促進にむけた作業療法士の役割と職務の理解を深め、評価から、治療計画の立案・実行・検証に至るまでの一連のプロセスを正しく理解し、科学的かつ専門的根拠を背景とした作業療法を実践できる能力を修得するための科目を配置する。</p> <p>④「総合科目」では作業療法の基盤を固めるために学んだ知識を関連させながら総合的に作業療法の理解を深める。また人々が置かれている生活環境を含めてその構造を理解し、他職種と協調した行動ができることを目標とする。基礎科目や専門科目で学んだ知識を統合し、他職種の専門性の理解と、多職種の中で作業療法士としての専門性を発揮する多職種連携の知識を基盤に、その実際について学ぶ講義・演習を配置している。</p> <p>⑤「展開科目」では、作業療法士の専門性を多様化する地域社会のニーズに合わせて応用活用するために、作業療法の関連領域である分野について理解を深め、課題の発見と解決や新しい発想を生み出す土壌の育成を図ることを目的とする。科目としては、第一は児童領域、第二は成人領域、第三は老年期領域を設け、社会での作業療法の応用的、創造的な役割を拡げていくための科目を配置する。</p>
--	---

#### (4) 作業療法学科のアドミッション・ポリシー

AP1「高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する」は、本学科にて学業を修めるために必要な高等学校までに学ぶべき基礎的な知識をさしており、DP3「作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる」を達成するための能力となる。地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる作業療法士の養成のためには、障がい者に関する医学的な知識だけでなく、多職種との連携、地域住民との関わりのため幅広い知識を学ぶ必要があり、基礎的な高等学校の学力が必要である。

AP2「人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、作業療法士として社会に貢献することに意欲を持つ」は、地域共生社会に向けた作業療法士になるためには、様々な方との対人交流が必要であり、DP1「作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有

し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる」を達成するための能力となる。そのためには、作業療法士として人に関心を持ち、主体的に交流し、様々な課題に取り組む意欲と責任感を持っていることが必要である。

AP3「協調性に富み他者と良好な関係を築き、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる」は、地域共生社会に向けた作業療法士には、他者と柔軟なコミュニケーションをはかることが必要になる。そのため DP2「多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる」を達成するための能力となる。他者と協力しあうこと、他者と衝突することがあっても柔軟に対応する能力を兼ね備える必要があり、その基礎的な資質となる。

AP4「客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、継続性をもって自ら考えて積極的に取り組むことができる人」は、地域共生社会に向けた作業療法士として、物事を判断し、解決に向けて努力する、DP4「変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる」を達成するための能力となる。そのためには、判断力や客観的に物事を捉える力、解決に向かうための意欲と真摯さを兼ね備えていることが必要である。

AP5「論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人」は、地域共生社会に向けた課題を解決するにあたり、論理性や柔軟な発想、そして他者に自身の考えを説明できる能力を兼ね備えた人物をさし、DP5「作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる」を達成させるための能力となる。思いや意欲だけでは、専門家は成立しない。自身の実践を他者に説明できる力を兼ね備える必要がある。

以上のような考えに基づき、5項目のアドミッション・ポリシーを次のように構成した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 94 ページ 作業療法学科のアドミッション・ポリシー

新	旧
<p><u>作業療法学科では、「①子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。②地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。」ことを養成する人材像として掲げている。</u></p> <p><u>そのために、以下のような資質を有する学生を求めている。</u></p>	<p>—</p>

(知識・技能)

AP1：高等学校までに学ぶべき基礎的な知識を有する人。

(主体性・多様性・協調性)

AP2：人を尊重し、健康や生活に関心を持ち、作業療法士として社会に貢献することに意欲を持つ人

AP3：協調性に富み他者と良好な関係を築き、柔軟な思考をもって、物事を協働して進めることができる人

(思考力・判断力・表現力)

AP4：客観的に状況を把握し、課題を発見するとともに、その解決に向け、継続性をもって自ら考えて積極的に取り組むことができる人

AP5：論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自己の意見を的確に示す表現力や論述力を有している人

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

1. <養成する人材像、3つのポリシーが不明確>

高齢者人口の増加などの社会的課題に対して、今後、求められる人材の能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を掲げ、専門職大学で人材を育成する必要性を説明し、設置構想審査においても既設の大学の理学療法学科・作業療法学科で育成する人材の能力が異なることを示していたが、既設の大学においても即戦力となる教育の実施など同様の教育目標がホームページに掲載されており、専門職大学で人材を育成する必要性や身に付ける知識等の違いに関する説明が不十分で矛盾しており、養成する人材像の違いが不明確であるほか、3つのポリシーの内容も不明確なため、以下の点に留意しつつ、修正すること。【2学科共通】

(2) 養成する人材像や3つのポリシーが不明確なため、教育課程の妥当性を判断することは困難だが、申請のあった教育課程に関する配当年次の考え方、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、科目間の対応関係などの説明がなく、教育課程が体系的に編成されているのか疑義がある。特に、3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置して、科目区分に応じて配当年次を二分化しているが、修得する知識の接続性・順序性を踏まえたものとなっているのか不明確である。教育課程に関する配当年次の考え方、必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由、科目間の対応関係を明らかにした上で、体系的な教育課程が編成されていることを明確に説明すること。

(対応)

ご指摘の「3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置」したのは、理学療法士・作業療法士としての知識と技術を身に付けたうえで、展開科目を履修することで、応用力を涵養することができると考えていたためである。しかし、結果として、国家試験の対策に多くの時間を割くこととなる4年次に、多くの科目を履修しなければならない配置となってしまっていた。また、それを優先した結果、修得する知識の接続性・順序性が損なわれてしまっていた。ご指摘を受け、改めて配当年次の見直しを行った。以下では、学科ごとに、配当年次の見直し、配当年次の考え方、科目構成及び科目間の対応関係について順に説明を行うことで、教育課程の体系性の説明とする。併せて、その説明を図示したカリキュラムマップ(資料1-1、資料1-2)を添付する。

資料1-1:カリキュラムマップ(理学療法学科)

資料1-2:カリキュラムマップ(作業療法学科)

## 1) 理学療法学科

### (1) 配当年次の見直し

ご指摘の「3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置」したのは、基礎科目及び職業専門科目において、理学療法士としての知識と技術を身に付けた後、展開科目を履修することで、応用力を涵養することができると考えていたためである。しかし、ご指摘のとおり、そうしたことによって、修得する知識の接続性・順序性が損なわれてしまっていた。配当年次は学年進行に合わせて学修内容が積み上げられるよう、基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目の関係

性を考慮し、配当し直した。

考慮した主な観点は、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の配当方法である。申請時には、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」をともに3年次後期に配置していた。そして、3年次後期を3区分し、学生はそのうちの2つの期間で実習を行い、実習を行っていない1期間は、学内で「リハビリテーション総合演習」を進めることとしていた。しかし、全学生を同時期に履修させることで、学びの平等性を保証するべきだと考えたため、実習期間を2つに集約し、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」を3年次後期に、「理学療法総合臨床実習Ⅱ」を4年次前期に配置し直した。また、展開科目の配当年次については、学びの進行状況に連動するよう1年次から順次専門性を深めて学修できるように改め、展開科目での学修内容が総合科目に反映できる配当年次とした。基礎科目については、申請時には、1年次で履修を終える構成としていたが、順序性を意識し、1・2年次に分散して配置し直した。配当年次を見直した科目は次の新旧対照表のとおりである。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) リハビリテーション学部 理学療法学科

新		旧	
授業科目の名称	配当年次	授業科目の名称	配当年次
キャリア発達論	2後	キャリア発達論	1後
経営学入門	2前	経営学入門	1前
統計学	2後	統計学	1後
韓国語	2後	韓国語	1後
中国語	2後	中国語	1後
救急援助論	2後	救急援助論	1後
社会福祉学	2後	社会福祉学	1前
内部障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	内部障害系理学療法学演習Ⅰ	2後
内部障害系理学療法学実習Ⅱ	3前	内部障害系理学療法学演習Ⅱ	2後
神経筋骨格障害応用論実習	4後	神経筋骨格障害応用論実習	4通
内部障害応用論実習	4後	内部障害応用論実習	4通
スポーツ障害応用論実習	4後	スポーツ障害応用論実習	4通
理学療法総合臨床実習Ⅱ	4前	総合臨床実習Ⅱ	3後
マーケティング論	3後	マーケティング論	4前
施設起業運営論	3後	施設起業運営論	4前
子育て支援論	2前	子育て支援論	4前
災害支援論	2前	災害支援論	4後
教育支援論	2前	教育支援論	4前
メンタルヘルスマネジメント論	3後	メンタルヘルスマネジメント論	4前
地域共生論	3前	地域共生論	4前
障がい者スポーツ論	3後	障がい者スポーツ論	4通
障がい者スポーツ論実習	4前	障がい者スポーツ論演習	4通
スポーツリズムトレーニング論	3後	スポーツリズムトレーニング論	4前

体力測定論	3 後	体力測定論	4 通
健康増進実践演習	3 後	健康増進実践演習 I	4 通
健康増進実践実習	3 後	健康増進実践演習 II	4 通
パフォーマンス向上論	3 後	パフォーマンス向上論	4 通
フィットネス論	3 後	フィットネス論	4 通
ランニングトレーニング論	3 後	ランニングトレーニング論	4 通
ゴルフトレーニング論	3 後	ゴルフトレーニング論	4 通
ビジョントレーニング論	3 後	ビジョントレーニング論	4 通
遊びとレクリエーション	3 後	遊びとレクリエーション	4 通
生きがい創造	3 後	生きがい創造	4 通
伝承遊び	3 後	伝承遊び	4 通
シューフィッティング論	3 後	シューフィッティング論	4 通
福祉工学地域活用論	3 後	福祉工学地域活用論	4 通
ロボット工学地域活用論基礎	3 後	ロボット工学地域活用論基礎	4 通
ロボット工学地域活用論応用	3 後	ロボット工学地域活用論応用	4 通
協働連携論総合実習	4 後	シンメディカル論	4 前
リハビリテーション総合演習	3 後	リハビリテーション総合演習	3 通

## (2) 配当年次の考え方

### ① 1年次の配当

1年次には、本学で学修を行うにあたって必要となる基礎知識を身に付けるため初年次教育科目として「学びの基盤」及び「コミュニケーション論」を配置し、幅広い教養を身につける科目として「教育学」及び「人間発達学」などの人間と社会系科目、「生物学」及び「物理学」などの自然科学系科目及び「英語Ⅰ・Ⅱ」などの語学教育科目を配置する。

職業専門科目としては、理学療法を学ぶための基盤となる「リハビリテーション概論」、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ」などの理学療法理論科目群を多く配置し、2年次以降の疾患学及び理学療法の専門科目につながる配置としている。また、理学療法の基本概念を学ぶ科目として「基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ」、「基礎理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「理学療法評価学」を配置し、理学療法士としての職業意識を高め、職務内容の理解を深めるために、臨地実務実習である「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。

展開科目では地域社会の理解を進めるため、1年次でも理解しやすい「ボランティア論」、「生涯スポーツ論」及び「労働衛生論」を配置している。

### ② 2年次の配当

2年次には1年次の教育内容を受け、専門領域の科目を中心に理学療法理論科目群の「内科学Ⅰ・Ⅱ」及び、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」などの疾患学に加え、職業実践科目群の「運動療法学」、「日常生活活動学」及び「義肢装具学Ⅰ・Ⅱ」などを配置した。特に2年次からは講義だけでなく、「老年期理学療法学演習」及び「小児期理学療法学演習」などの演習科目を、「理学療法評価学実習」、「運動療法学実習」及び「神経障害系理学療法学実習Ⅰ」などの実習科目を配置し、講義で身に付けた知識の定着を図るととも

に3年次開講の「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ」へ向けた実践的な技術の習得を行う。

### ③3年次の配当

3年次には臨地実務実習に加えて、理学療法士としての視野を広げるために、関連他分野の科目群すなわち展開科目において、「地域共生論」を履修した上で、ヘルスプロモーション支援、生涯スポーツ支援及び地域支援の履修モデルを、学生各々の関心に基づき履修をすることができるように配置した。ヘルスプロモーション支援モデルでは「体力測定論」、「健康増進実践演習」及び「健康増進実践実習」などを、生涯スポーツ支援モデルでは「フィットネス論」、「スポーツリズムトレーニング論」及び「パフォーマンス向上論」などを、地域支援モデルでは「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」及び「組織運営論」などの科目を配置する。また、研究を通して理学療法の知識の拡大を図り、4年次に繋げる科目として「リハビリテーション総合演習」を配置する。

### ④4年次の配当

4年次には「理学療法総合臨床実習Ⅱ」及び「理学療法地域実習」に加えて、「理学療法管理学」などの管理に関する講義や、3年次までの展開科目で習得した知識・技能と理学療法を繋ぎ活用するために「神経筋骨格障害応用論実習」、「内部障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」及び「理学療法総合演習」を配置する。その上で「協働連携論総合実習」において、理学療法士として地域共生社会の実現に向けた役割と職業観の確立を目指す。

## (3) 科目構成

基礎科目について、理学療法の専門職として職業的自立を図る上で重要性の高い科目は必修科目とし、広く教養を身につけることを意図した科目は選択科目とした。職業専門科目は、理学療法士の国家資格を取得するために必要な科目と位置づけているため、その多くを必修科目とし、一部を選択科目とした。選択科目として配置した科目は、展開科目の3つの履修モデルと連動する実習科目のため、履修モデルと合わせ3科目（「内部障害応用論実習」、「スポーツ障害応用論実習」及び「神経筋骨格障害応用論実習」）を設定した。展開科目は、すべての学生が隣接分野について学ぶべき内容は必修科目とし、3つの履修モデルごとの科目は選択科目とした。総合科目は、学科のディプロマ・ポリシーを達成するための集大成の科目となるため、全て必修科目とした。なお、理学療法学科では、自由科目は設定していない。

## (4) 科目間の対応関係

理学療法学科の科目構成は、基礎科目を大学で学修するすべての基盤として位置づけている。そして職業専門科目を中心に、理学療法士の資格を取得するために必要な科目を配置し、階層的に関連付けて学びが進むよう設定している。さらに、地域共生社会の実現に貢献できる理学療法士を輩出するために、展開科目で健康、スポーツ、福祉の関連分野を学び、職業専門科目と展開科目で学修した知識と技術を統合し、理学療法学科の人材養成の目的を達成する集大成の科目群として総合科目を位置づけている。

### ①基礎科目

基礎科目として、社会で幅広く豊かな人間関係を形成していくための教養を培い、理学療法の専門職として地域住民を支援するために必要な資質を身に付け、理学療法士としてキャリア形成を進める基盤

となるような科目を配置した。

初年次教養科目は、1年次前期に必修科目として配置し、大学での学修の意義と方法について学ぶ科目として「学びの基盤」を、対人援助職である理学療法士の基礎となるコミュニケーション能力の養成に繋がる科目として「コミュニケーション論」を配置した。

人間と社会系科目では、必修科目で「教育学」、「哲学入門」及び「心理学」を1年次に配置し、理学療法士に必要な専門職としての人間形成につながる基礎科目とする。また、2年次に「キャリア発達論」を配置することで、理学療法士としてキャリアを形成する上で、生涯学び続けることが重要であることを理解するとともに、理学療法士としての自覚と責任を涵養するための科目と位置付けている。選択科目には1年次では教養を広げる科目として「音楽」、「哲学入門」及び、「社会学」などを配置しており、2年次には、将来のキャリア形成として起業を視野に入れた学修につながる科目として「経営学入門」を配置している。

自然科学系科目は、理学療法を学ぶ上で基礎となる「生物学」及び、「物理学Ⅰ」を1年次に必修科目として配置し、2年次には「統計学」を必修科目として配置した。また、「物理学Ⅱ」及び「数学」を選択科目とし、より深く学べる配置としている。

語学教育科目は、「英語Ⅰ」を必修科目とし、理学療法に必要な基本的な語学を学ぶとともに、選択科目に「英語Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」を配置することで教養を深めるとともに、グローバル社会に応じたコミュニケーション能力を高める科目となるよう1年次と2年次に配置している。

## ②職業専門科目

職業専門科目は、理学療法に関する専門知識と技術を学び、学内で学修したことを臨地実務実習において、チームアプローチの中で理学療法士の役割を経験しながら学修する科目として配置している。理学療法理論科目群を基盤とし、職業実践科目群を学ぶことで、理学療法の意義と実践方法を理解し、適切な理学療法を科学的な根拠に基づき理論的に実施できるよう科目を配置している。

理学療法理論科目群のなかで、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ」は理学療法の医学的な基礎となり、人体の構造と機能を学ぶ科目となるため、1年次に配置し、学ぶ範囲が広い解剖学と生理学については単位数を多く設定した。これらの科目を学修し、人体の機能及び心身の発達について知識を深める科目として、1年次に「人間発達学」及び「運動学Ⅱ」を配置し、「運動学実習」及び「運動生理学実習」を2年次に配置している。

理学療法の治療分野となる疾病と障害の成り立ち及びその回復過程の促進について、人体の構造と機能を学修したことを基盤とし、学ぶことができるよう2年次を中心に配置した。科目は「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「老年医学」などである。

理学療法の意義及び理学療法士のチームアプローチにおける役割を知るために必要となる基本的な概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配置し、2年次に「社会福祉学」、3年次に「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。これらの科目の目的は、保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念を学修することであり、特に「地域包括ケア論」は、理学療法学科の人材養成の基盤となる科目として位置付けている。

職業実践科目群では、理学療法理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、理学療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付けて学ぶことができるよう配置している。法的制度下の理学療法士の位置付けや職域及び研究など、理学療法の基礎となる内容を中心に学ぶ科目として1年次に「基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ」、3年次に「臨床技能論実習」及び「基礎理学療

法研究法」を配置している。また、理学療法の基本となる身体動作について実習により学ぶ科目として「基礎理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」を1年次に配置している。

理学療法の評価について学ぶ科目は、理学療法治療に不可欠な科目であり、広く評価の概念を理解するため、1年次に配置し、評価技術の修得に「理学療法評価学実習」を2年次に配置し、学修範囲が広いこと、2単位に設定している。そして、評価の知識と技術を活かし、疾患に対応した評価が可能となるよう2年次に「画像評価学」を、3年次に「理学療法評価学演習」を配置し、理解を深めることができるよう設定している。

理学療法治療を学ぶ科目についても階層性を重視して配置しており、治療技術の基礎として「運動療法学」、「日常生活活動学」、「義肢装具学Ⅰ」及び「物理療法学」を2年次前期に、2年次後期から3年次にかけて、理学療法治療技術の基礎と理論科目群の疾患学とを関連づけ、理学療法治療技術を学修する科目を配置している。対応させている科目は、「神経障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「運動器障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「義肢装具学Ⅱ」、「内部障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱ」、「小児理学療法学演習」、「老年期理学療法学演習」及び「スポーツ障害系理学療法学実習」である。これらに加え、地域における理学療法について、基礎を学ぶ科目として「地域理学療法学」を2年次に配置し、その実践方法を学ぶ科目として「地域理学療法学実習」を3年次に配置している。また、本学科の特色として理学療法治療技術の一つである「徒手理学療法学」と、その手技を学ぶ「徒手理学療法学実習」を3年次に配置し、実践的な技術の学びができるよう配置している。

臨地実務実習については、リハビリテーションと理学療法の概念と、理学療法に必要な倫理やコミュニケーションを、基礎科目及び職業専門科目で学修した1年次前期の最終時期に「理学療法見学実習Ⅰ」を配置している。理学療法士の仕事を見学することで、職業人としての自覚が形成され、学修の目的が明確になるように設定している。また、1年次後期の最終時期に「理学療法見学実習Ⅱ」を配置することで、理学療法士の自覚とキャリア形成を促し、2年次の職業専門科目を学修する動機付けにつながることを意図している。2年次前期の最終時期に配置している「理学療法見学実習Ⅲ」は、「理学療法見学実習Ⅰ」と同じ施設で実習を行う。そうすることで、同じ施設で実習中に関わる様々な人とのコミュニケーションを深め、関係作りを形成しやすい環境を設定し、理学療法士に必要な資質形成を促す。理学療法理論科目群と理学療法評価について学修した後、3年次前期に「理学療法評価実習」を配置し、臨床場面で理学療法評価を体験し、理学療法の治療につながる意義について症例を通して学修する。その後、評価実習で学修したことを反映し、「理学療法総合臨床実習Ⅰ（3年次後期）・Ⅱ（4年次前期）」で治療についての実習を実施する。この2つの実習は実習内容の到達目標を変え、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」から「理学療法総合臨床実習Ⅱ」へと目標を上げ、理学療法の治療体験を積み上げていけるよう設定している。これらの実習が終了した後「理学療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問理学療法について実習することで、医療と介護の連携についても学修する。

以上の職業専門科目は、理学療法士資格を取得するために重要であり全て必修科目としている。これらの科目以外に、選択科目を職業実践科目群で3科目設定し、1科目を選択するよう4年次後期に配置している。この3科目は展開科目の履修分野と関連し、展開科目のヘルスプロモーション支援を履修した場合は、「内部障害応用論実習」を、生涯スポーツ支援を履修した場合は「スポーツ障害応用論実習」を、地域支援を履修した場合は「神経筋骨格障害応用論実習」を選択し、それぞれの分野の理学療法について学修する科目となる。

### ③展開科目

展開科目は、地域共生社会の実現に向け、理学療法領域に隣接する分野での地域の理解と課題を知る科目に、「地域共生論」、「生涯スポーツ論」、「労働衛生論」、「災害支援論」、「ボランティア論」、「子育て支援論」及び「教育支援論」を配置している。これらの科目を学び、地域共生社会の実現に向け支援できる方策として「マーケティング論」、「施設起業運営論」、「障がい者スポーツ論」及び「障がい者スポーツ論実習」を配置している。これらは全て必修科目とし全学生が学ぶことで、選択する履修モデルの基礎となる科目である。そして、選択した分野に応じた科目を各々が履修する。ヘルスプロモーション支援には、「体力測定論」、「健康増進実践演習」、「健康増進実践実習」、「メンタルヘルスマネジメント論」、「遊びとレクリエーション」、「伝承遊び」及び「生きがい創造」を配置する。生涯スポーツ支援には、「パフォーマンス向上論」、「フィットネス論」、「スポーツリズムトレーニング論」、「ランニングトレーニング論」、「ゴルフトレーニング論」、「ビジョントレーニング論」及び「シューフィッティング論」を配置する。地域支援には、「福祉工学地域活用論基礎」、「ロボット工学地域活用論基礎」、「ロボット工学地域活用論応用」、「組織運営論」及び「身体障がい者就労環境論」を配置する。なお、詳細は是正事項2において詳述する。

### ④総合科目

総合科目は全て必修科目とし、基礎科目を基盤に職業専門科目と展開科目を融合させ統合していく科目として位置付けている。「リハビリテーション総合演習」を3年次後期に配置し、研究を通して知識を広げる。また、理学療法士として従来の医療・介護の分野のみならず、地域共生社会の実現に向けて地域住民の生活を支援できる人材を養成するための集大成の科目として「理学療法総合演習」と「協働連携論総合実習」を4年次後期に配置する。

## 2) 作業療法学科

### (1) 配当年次の見直し

ご指摘の「3年次までに職業専門科目を主として配置し、4年次に展開科目を主として配置」したのは、作業療法士としての知識と技術を身に付けた後、展開科目を履修することで、応用力を涵養する構成で考えていたためである。しかし、そうしたことによって、修得する知識の接続性・順序性が損なわれてしまっていた。作業療法学科のディプロマ・ポリシーを達成するための科目の構成を設定し直すとともに、配当年次は学年進行に合わせて学修内容を積み上げられるよう基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目の関係性を考慮して配当し直した。

考慮した主な観点は、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の配当方法である。この2つの総合臨床実習は、3年次後期を前期・中期・後期の3期間に分け、学生は前期と後期の2期間でⅠとⅡの実習を履修することとしていた。中の期間は、次の実習に向けての準備期間として捉えており、学生への過度なストレスがかからないよう科目の配置はしていなかった。しかし、より段階的に学修できるよう3年次後期と4年次前期に振り分けるとともに、それに伴い配当年次の整理を行った。また、展開科目の配当年次については、学びの進行状況に付随するよう1年次から順次専門性を深めて学修できるように改め、総合科目に展開科目の内容が反映できる配当年次とした。基礎科目については、2年次で修了するよう設定し、1・2年次に分散して配置し直した。以上の見直しを受け、配当年次が変更となった科目は次の新旧対照表のとおりである。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第 2 号 (その 2 の 1) リハビリテーション学部 作業療法学科

新		旧	
科目名称	配当年次	科目名称	配当年次
キャリア発達論	<u>2</u> 後	キャリア発達論	1 後
経営学入門	<u>2</u> 前	経営学入門	1 前
統計学	<u>2</u> 後	統計学	1 後
韓国語	<u>2</u> 後	韓国語	1 後
中国語	<u>2</u> 後	中国語	1 後
救急援助論	<u>2</u> 後	救急援助論	1 後
精神医学	<u>2</u> 前	精神医学	2 通
社会福祉学	<u>2</u> 後	社会福祉学	1 前
基礎作業学実習 I	<u>1</u> 前	基礎作業学演習 II	1 後
基礎作業学実習 II	<u>1</u> 後	基礎作業学演習 I	1 前
作業療法研究法	<u>3</u> 前	作業療法研究法	4 前
家族援助論	<u>3</u> 前	家族援助論	2 後
作業療法総合臨床実習 II	<u>4</u> 前	作業療法臨床総合実習 II	3 後
マーケティング論	<u>2</u> 後	マーケティング論	4 前
施設起業運営論	<u>3</u> 前	施設起業運営論	4 前
ボランティア論	<u>1</u> 前	ボランティア論	4 後
子育て支援論	<u>2</u> 前	子育て支援論	4 前
災害支援論	<u>1</u> 後	災害支援論	4 前
教育支援論	<u>2</u> 後	教育支援論	4 後
メンタルヘルスマネジメント論	<u>2</u> 前	メンタルヘルスマネジメント論	4 前
障がい者スポーツ論	<u>3</u> 後	障がい者スポーツ論	4 通
障がい者スポーツ論実習	<u>4</u> 前	障がい者スポーツ論演習	4 通
地域社会共生論	<u>1</u> 前	地域社会共生論	4 前
地域社会共生論実習	<u>1</u> 後	地域社会共生論実習	4 前
精神障がい者就労環境論	<u>3</u> 後	心理精神企業適応論	4 前
老年期地域生活適応論	<u>3</u> 後	老年期地域生活適応論	4 前
成人期地域生活適応論	<u>3</u> 後	成人期施設生活適応論	4 前
児童期地域生活適応論	<u>3</u> 後	児童地域生活適応論	4 前
協働連携論総合実習	<u>4</u> 後	シンメディカル論	4 前

## (2) 配当年次の考え方

本学科は、基礎科目から職業専門科目、そして展開科目、総合科目を順に積み上げていくことで体系的を担保することを想定していた。ご指摘を頂き、再検討をした結果、展開として位置づけた科目の中でも学生が比較的、耳にする機会の多い内容を含む科目を 1 年次に配置し、地域共生社会の課題を身近なものとして考える機会を設けた方が、本学が考える養成する人材像を早期から養成することに繋がる

と考えた。つまり、従来の作業療法士の養成校で示されたような基礎、応用、展開の流れではなく、学生が分かりやすい展開科目を1年次から配置することで、地域共生社会への志向性を学生に学修させていく構成とする。また、同時進行的に従来の作業療法士養成校と同じような科目を並列的に配置することで、医療分野で働くことを想定した作業療法士像と地域共生社会で求められる作業療法士像とのギャップを学生に感じさせるように配置した。この意図は、学生に心理的葛藤を生じさせるためであり、この契機によって、自身が進むべき作業療法士のあり方を深めさせるためである。そして、4年次の展開科目において3つの履修モデルの科目と実習、総合科目を配置し、新たな領域にも挑戦する作業療法士を養成する。

ディプロマ・ポリシーを達成するための具体的な科目構成は次のとおりである。

### ①1年次の配当

1年次には本学で学修を行うにあたって必要となる基礎知識を身に付けるため初年次教育科目として「学びの基盤」及び「コミュニケーション論」を、幅広い教養を身につける科目として「教育学」及び「心理学」などの人間と社会系科目を、「生物学」及び「物理学」などの自然科学系科目及び「英語Ⅰ」などの語学教育科目を配置する。

職業専門科目は、作業療法を学ぶための基盤となる「リハビリテーション概論」、「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」などの理論系科目と、作業療法を学ぶにあたって基礎となる職業実践科目「作業療法学総論」、「作業療法管理・制度論」及び「作業療法と倫理」などを配置し、1年次後期から2年次以降の医学系の科目の基礎及び作業療法の専門科目へとつながる内容としている。また、作業療法士としての意識と自覚を高めるために、臨地実務実習である「作業療法見学実習Ⅰ」を1年後期に配置する。

展開科目は、「ボランティア論」、「災害支援論」、「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」を配置する。

### ②2年次の配当

2年次には1年次の教育内容を受け、職業専門科目の作業療法理論科目群の「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学」及び「老年医学」などに加え、職業実践科目群の「身体障害作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「精神障害作業療法評価学実習」など実習を多く配置した編成とし、講義での知識の定着と3年次からの「作業療法評価実習」、「作業療法臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ」及び「地域作業療法実習」へ向けた実践的な技術の修得を行う。

展開科目は、「子育て支援論」、「メンタルヘルスマネジメント論」及び「教育支援論」を配置する。1年次に続き、学生には比較的なじみのある科目を配置し、地域共生社会への志向性をもたせる。また、後期に「マーケティング論」を配置し、3年次の「施設起業運営論」に向けた基本的な知識を学ぶ。

### ③3年次の配当

3年次には2年次の講義等を踏まえ、さらに学内の講義や演習によって知識と技術の習得を行う。その上で前期に「作業療法評価実習」、後期には「作業療法総合臨床実習Ⅰ」を配置し、作業療法士としての実践力を養う。

展開科目は、「施設起業運営論」や人にとって一生涯を通して関わることが多い就労やスポーツについて学ぶための科目として「障がい者スポーツ論」、「精神障がい者就労環境論」及び「身体障がい者就労環境」を配置する。そして、展開科目の3つの履修モデルの「児童期地域生活適応論」、「成人期地域

生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置する。これらは、それまでの展開科目のまとめ的な意味合いと、4年次の各モデルの実習につながる科目である。

#### ④4年次の配当

4年次には、3年次までの職業専門科目の集大成としての「作業療法総合臨床実習Ⅱ」及び「作業療法地域実習」を配置する。

展開科目は、3年次後期で学んだ3つの履修モデルの実習、「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置した。そして、4年次後期に「協働連携論総合実習」及び「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」において、これまで学修した内容に基づき、作業療法士として地域共生社会で果たすべき役割と職業観の確立を目指す。

#### (3) 科目構成

基礎科目は、作業療法の専門職として必要で重要性の高い科目は必修科目とし、広く教養を身につけることを意図した科目は選択科目とした。職業専門科目は、従来の作業療法士教育に求められる科目と本学科が考える人材像を養成するための科目との両方を学生に学んでもらうため、全ての科目を必修科目とした。展開科目は、3つの履修モデルに関連する科目は必修科目とし、3つの履修モデルごとの科目は選択科目とした。総合科目は、学科のディプロマ・ポリシーを達成するための集大成の科目となるため必修科目とした。なお、作業療法学科では、自由科目は設定していない。

#### (4) 科目間の対応関係

作業療法学科の科目構成は、基礎科目を大学で学修する全ての基盤として位置付けている。そして、職業専門科目を中心に、作業療法士の資格を取得するために必要な科目を配置し、階層的に関連付けて学びが進むよう設定している。さらに、地域共生社会の実現に貢献できる作業療法士を輩出するために、展開科目で児童期、成人期及び老年期の各分野に共通する概念と実践を学び、職業専門科目と展開科目で学修した知識と技術を統合し、作業療法学科の人材養成の目的を達成する集大成の科目群として総合科目を位置付けている。

#### ①基礎科目

基礎科目は、社会で幅広く豊かな人間関係を形成していくための教養を培い、作業療法の専門職として人を支援するために必要な資質を身に着け、作業療法士としてキャリア形成を進める基盤となるよう科目を配置した。

初年次教養科目は、1年次前期に必修科目として配置し、大学での学修の意義と方法について学ぶ科目として「学びの基礎」を、対人援助職である作業療法士の基礎となるコミュニケーション能力の養成につながる科目として「コミュニケーション論」を配置した。

人間と社会系科目は、必修科目で「教育学」、「哲学入門」及び「心理学」を1年次に配置し、作業療法士に必要な専門職としての人間形成につながる基礎科目とする。また、2年次に「キャリア発達論」を配置することで、作業療法士としてキャリアを形成する上で、生涯学び続けることが重要であることを理解するとともに、作業療法士としての自覚と責任を涵養する。選択科目には1年次では教養を広げる科目として「音楽」、「哲学入門」及び「社会学」などを配置しており、2年次に、将来のキャリア形成として起業を視野に入れた学修につながる科目として「経営学入門」を配置している。

自然科学系科目は、科学的な思考の基礎となる「生物学」及び「物理学Ⅰ」を1年次で、2年次に「統計学」を必修科目とし、「物理学Ⅱ」及び「数学」を選択科目に配置し、より深く学べるようにした。

語学教育科目は、「英語Ⅰ」を必修科目とし、作業療法に必要な基本的な語学を学ぶとともに、選択科目に「英語Ⅱ」、「韓国語」及び「中国語」を配置することで教養を深めるとともに、グローバル社会に応じたコミュニケーション能力を高める科目となるよう1年次と2年次に配置している。

## ②職業専門科目

職業専門科目は、作業療法に関する専門知識と技術を学び、学内で学修したことを臨地実務実習においてチームアプローチの中で作業療法士の役割を経験しながら学修する科目として配置している。作業療法理論科目群が基盤となった上に職業実践科目群を学ぶことで、作業療法の意義と実践方法を理解し、適切な作業療法を根拠に基づき、理論的に実施できるよう科目を配置している。

作業療法理論科目群は、「解剖学Ⅰ・Ⅱ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ・Ⅱ」で作業療法の医学的な基礎となる人体の構造と機能を学ぶ科目になるため、1年次前期から順次配置し、学ぶ範囲が広い「解剖学Ⅰ・Ⅱ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」は単位数を多く設定した。これらの科目を学修し、人体の機能及び心身の発達についての知識を深める科目として「人間発達学」及び「解剖学Ⅲ」を1年次後期に、「運動学実習」を2年次前期に配置している。

また、作業療法の対象者の疾病と障害の成り立ち及びその回復過程を学ぶため、2年次に配置した。具体的な科目は「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「精神医学」などである。

次に、作業療法の意義及び作業療法士のチームアプローチでの役割を知る基本的なリハビリテーションの概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配置し、2年次に「社会福祉学」及び「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。これらの科目の目的は、保健・医療・福祉とリハビリテーションの理念を学修することであり、特に「地域包括ケア論」は、作業療法学科の養成する人材像の基盤となる科目として位置づけている。

職業実践科目群は、作業療法理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、作業療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付けて学ぶことができるよう配置している。

作業療法の基礎となる内容を中心に学ぶ科目として、1年次より作業療法の基本的理念や歴史的経緯、作業について学ぶ「作業療法学総論」、「基礎作業学」及び「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置している。また、作業療法の管理に関する科目として、1年次後期に法的制度下の作業療法士の位置づけや職域、管理や倫理を学ぶ「作業療法管理・制度論」及び「作業療法と倫理」を配置している。

作業療法評価学は、作業療法治療に不可欠な科目であり、広く評価の概念を理解するため、1年次後期に「作業療法評価学総論」を配置した。これは、2年次の本格的な各領域での作業療法評価の基礎的知識を学ぶ科目として位置づけている。2年次前期に各領域での作業療法評価（たとえば、「身体障害作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神障害作業療法評価学実習」など）を配置し、作業療法の評価技術の知識と技能を学修する。

作業療法治療学では、2年次前期に各領域の対象者に共通する日常生活と社会生活行為について学ぶ「日常生活活動論実習」及び「社会生活行為論実習」を配置した。これらを基に、2年次後期から3年次前期にかけて各領域の治療学の科目と実習を順次配置している。

地域における作業療法については、2年次よりその基礎となる「地域生活作業療法学総論」を配置し、

2年次後期から3年次前期にかけて各領域での対象者の地域生活支援を学ぶ「地域生活作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置した。

臨地実務実習においては、リハビリテーションと作業療法の概念、作業療法に必要な倫理やコミュニケーションを、基礎科目及び職業専門科目で学修した1年次後期に「作業療法見学実習Ⅰ」を配置している。作業療法士の仕事を見学することで、職業人としての自覚が形成され学修の目的が明確になるように設定している。2年次前期の「作業療法見学実習Ⅱ」は、作業療法評価学で学んだ評価技術の一部を実際に体験することを目的の一つにしている。3年次前期には「作業療法評価実習」を配置し、臨床場面で作業療法評価を体験し、作業療法の治療につながる意義について症例を通して学修する。3年次後期には評価実習で学修したことを踏まえ、「作業療法総合臨床実習Ⅰ」で作業療法の治療的介入についての実習を配置する。「作業療法総合臨床実習Ⅱ」は4年次前期に配置する。この2つの実習は、異なる領域の対象者への作業療法介入を学修するように設定している。また、4年次には「作業療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問作業療法について学修する。

以上の職業専門科目は、作業療法士資格を取得するために重要であり、全て必修科目としている。

### ③展開科目

展開科目は、地域共生社会の実現に向け、作業療法士が参入していない領域の対象者への支援の現状と課題を学修する。「他分野を学ぶための共通科目」と3つの履修モデル「児童期」、「成人期」及び「老年期」より構成される。

他分野を学ぶための科目は、学生が聞いたことがありイメージしやすい科目を1年次より順次配置する。たとえば、「ボランティア論」、「災害支援論」及び「子育て支援論」などである。また、人が生涯においてかわることの多いスポーツと就労の科目「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「就労環境論実習」を必修科目として配置した。これら他分野を学ぶための科目を基に人のライフステージに分けた3つの履修モデルとして「児童期」、「成人期」及び「老年期」における科目「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を配置する。そして、これらの科目に対応する実習を4年次前期に配置する。

### ④総合科目

総合科目は、「協働連携論総合実習」及び「作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」を4年次後期に配置した。これらは、すべて必修科目であり、「基礎科目」を基盤に「職業専門科目」と「展開科目」を融合させ統合していく科目として位置づけている。本学科での学びの集大成として、地域共生社会で求められる作業療法士として活躍できる人材を養成する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

1. <養成する人材像、3つのポリシーが不明確>

高齢者人口の増加などの社会的課題に対して、今後、求められる人材の能力として「高度な実践力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見能力・問題解決能力」及び「応用力・刷新力」を掲げ、専門職大学で人材を育成する必要性を説明し、設置構想審査においても既設の大学の理学療法学科・作業療法学科で育成する人材の能力が異なることを示していたが、既設の大学においても即戦力となる教育の実施など同様の教育目標がホームページに掲載されており、専門職大学で人材を育成する必要性や身に付ける知識等の違いに関する説明が不十分で矛盾しており、養成する人材像の違いが不明確であるほか、3つのポリシーの内容も不明確なため、以下の点に留意しつつ、修正すること。【2学科共通】

(3) 入学者選抜に関する具体的な方法(試験科目、募集定員の割合など)に関する説明がなく、アドミッション・ポリシーに沿った適切な入試が実施されるのか判断ができないため、入学者選抜に関する具体的な方法とともに、アドミッション・ポリシーとの整合性を明確に説明すること。

(対応)

ご指摘のとおり、申請書類において入学者選抜に関する具体的な方法(試験科目、募集定員の割合など)の記載を行っておらず、不適切であった。第一に、入学者選抜に関する具体的な方法の記載を行った後に、アドミッション・ポリシーとの整合性について説明を行う。

## 1) 入学者選抜(両学科共通)

### (1) 出願資格

出願資格を有する者は、次の①～⑧のいずれかの要件を満たしている者とする。

#### 【基礎資格】

- ①高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)を卒業した者及び2020年3月卒業見込の者
- ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2020年3月修了見込の者
- ③外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び2020年3月末日までに修了見込の者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ④外国において、中等教育の課程の修了まで12年を要しない国については、文部科学大臣が指定した大学に入学するための準備教育を行う課程を修了し、かつ、2020年4月1日までに満18歳に達する者
- ⑤文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び2020年3月末日までに修了見込の者
- ⑥文部科学大臣の指定した者(専修学校の高等課程の修業年限3年以上の課程で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者など)、韓国高等学校または朝鮮高級学校を修了した者及び2020年3月修了見込の者
- ⑦文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定に合格した者を含む)及び2020年3月末日までに合格見込の者で2020年4月1日までに満18歳に達する者

- ⑧本学において、個別の出願資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2020年4月1日までに満18歳に達する者

**【入試区分別出願資格】（両学科共通）**

入試区分別出願資格	
AO入試	上記の【基礎資格】を有し、次の要件を満たしている者 I. 合格した場合、必ず入学する者
公募制 推薦入試	<p><b>【学校推薦入試】</b></p> 上記の【基礎資格】を有し、次の要件を満たしている者 I. 学業成績・人物ともに優れ、心身ともに健康で、出身学校長が責任を持って推薦できる者 II. 高等学校を2020年3月に卒業見込の者、または2019年3月に卒業した者 III. 合格した場合、必ず入学する者
	<p><b>【社会人入試】</b></p> 上記の【基礎資格】を有し、次の要件をすべて満たしている者 I. 入学時において社会人としての実務経験を1年以上有する者 （パートタイム・アルバイト等も実務経験に含む） II. 合格した場合、必ず入学する者 ※ 受験時に1年以上の実務経験が無い場合でも受験可
一般選抜 入試	上記の【基礎資格】を有する者

(2) 理学療法学科の入学者選抜に関する具体的な方法

理学療法学科の入学者選抜に関する具体的な方法は次の表のとおりとする。

リハビリテーション学部 理学療法学科

入試区分	AO入試	公募制推薦入試		一般入試
募集人数	8名	32名		40名
専願/併願	専願			併願可
	—	学校推薦	社会人推薦	—
選抜の方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①調査書 ②志望理由書 ③グループディスカッション	①志望理由書 ②面接 ③小論文	①志望理由書 ②国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ及びⅡから1科目選択。 ③数学Ⅰ、物理基礎及び生物基礎から1科目選択
出願期間	2019年8月初旬 ～ 2019年9月中旬	2019年10月下旬 ～ 2019年11月上旬		2020年1月初旬 ～ 2020年1月下旬
試験日	2019年8月中旬 ～ 2019年9月下旬	2019年11月中旬		2020年2月上旬 ～ 2020年2月中旬
合格発表日	2019年8月下旬 ～ 2019年9月下旬	2019年11月下旬		2020年2月中旬 ～ 2020年2月下旬
入学手続締切日	2019年12月下旬	2019年12月下旬		2020年3月上旬

### (3) 作業療法学科の入学者選抜に関する具体的な方法

作業療法学科の入学者選抜に関する具体的な方法は次の表のとおりとする。

#### リハビリテーション学部 作業療法学科

入試区分	AO入試	公募制推薦入試		一般入試
募集人数	4名	16名		20名
専願/併願	専願			併願可
	—	学校推薦	社会人推薦	—
選抜の方法	①調査書 ②エントリーシート ③グループディスカッション	①調査書 ②志望理由書 ③グループディスカッション	①志望理由書 ②面接 ③小論文	①志望理由書 ②国語総合、コミュニケーション英語Ⅰ及びⅡから1科目選択。 ③数学Ⅰ、物理基礎及び生物基礎から1科目選択
出願期間	2019年8月初旬 ～ 2019年9月中旬	2019年10月下旬 ～ 2019年11月上旬		2020年1月初旬 ～ 2020年1月下旬
試験日	2019年8月中旬 ～ 2019年9月下旬	2019年11月中旬		2020年2月上旬 ～ 2020年2月中旬
合格発表日	2019年8月下旬 ～ 2019年9月下旬	2019年11月下旬		2020年2月中旬 ～ 2020年2月下旬
入学手続締切日	2019年12月下旬	2019年12月下旬		2020年3月上旬

## 2) 入試制度とアドミッション・ポリシーとの整合性

### (1) 理学療法学科

AO入試においては、高等学校の基礎学力は、調査書の各科目の評定を用いてAP1に掲げた基礎学力の有無を確認する。AP2からAP5に関しては、調査書の課外活動の状況や、エントリーシートを用いて入学希望者が理学療法士を目指す理由、社会に貢献する意思、グループディスカッションを通じて他の受験生との協調性、自主性、思考力及び論理的な思考を評価する。

公募制推薦入試は多様な学生を受け入れるために、2つの区分を設定した。主に新卒者を対象とした学校推薦では、AP1を基礎学力の有無を調査書で評価し、AP2からAP5については、志望理由書で理

学療法士となる意思を確認し、グループディスカッションで他の受験生との協調性、積極性、思考力、表現力等を評価する。

公募推薦入試のうち、社会人経験者を対象とした社会人推薦では、多様な経歴を評価するために、志望理由書及び面接において AP2、AP3、AP4 に掲げる主体性、協調性等を判断し、小論文において AP1 及び AP5 に掲げる基礎学力及び思考力、表現力等を評価する。

一般入試では、AP1 に掲げた高等学校までの基礎学力を評価するために学力試験を課す。試験科目は理学療法士として必要となる国語総合、コミュニケーション英語 I 及び II から 1 科目選択、数学 I、物理基礎及び生物基礎から 1 科目選択させる。AP2 から AP5 については、志望理由書の記載内容から評価する。

以上の入試制度により、理学療法学科のアドミッション・ポリシーで求める能力、資質を判断し、総合的に評価することとしており、アドミッション・ポリシーと入試制度は整合する。

## (2) 作業療法学科

AO 入試においては、高等学校の基礎学力は、調査書の各科目の評定を用いて AP1 に掲げた基礎学力の有無を確認する。AP2 から AP5 に関しては、調査書の課外活動の状況や、エントリーシートを用いて入学希望者が作業療法士を目指す理由、社会に貢献する意思、グループディスカッションを通じて他の受験生との協調性、自主性、思考力及び論理的な思考を評価する。

公募制推薦入試は多様な学生を受け入れるために、2 つの区分を設定した。主に新卒者を対象とした学校推薦では、AP1 を基礎学力の有無を調査書で評価し、AP2 から AP5 については、志望理由書で作業療法士となる意思を確認し、グループディスカッションで他の受験生との協調性、積極性、思考力、表現力等を評価する。

公募推薦入試のうち、社会人経験者を対象とした社会人推薦では、多様な経歴を評価するために、志望理由書及び面接において AP2、AP3 及び AP4 に掲げる主体性、協調性等を判断し、小論文において AP1 及び AP5 に掲げる基礎学力及び思考力、表現力等を評価する。

一般入試では、AP1 に掲げた高等学校までの基礎学力を評価するために学力試験を課す。試験科目は作業療法士として必要となる国語総合、コミュニケーション英語 I 及び II から 1 科目選択、数学 I、物理基礎及び生物基礎から 1 科目選択させる。AP2 から AP5 については、志望理由書の記載内容から評価する。

以上の入試制度により、作業療法学科のアドミッション・ポリシーで求める能力、資質を判断し、総合的に評価することとしており、アドミッション・ポリシーと入試制度は整合する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

## 2. <3つのコース・領域の目的等が不明確>

理学療法学科は「地域支援コース」、「ヘルスプロモーションコース」及び「障害スポーツ支援コース」の3つのコース、作業療法学科は「児童領域」、「成人領域」及び「老年期領域」の3つの領域を設けて履修指導を行うとのことだが、3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性に関する十分な説明がないほか、3つのコース・領域で育成する人材の社会的需要の説明もなく、3つのコース・領域を設ける意義が不明確になっている。このため、3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性を明らかにするとともに、育成される人材の社会的需要を明確に説明すること。その際、3つのコース・領域で育成する人材に求められる能力を身に付けるための必要な科目が適切に配置されているのかも併せて説明すること。【2学科共通】

(対応)

ご指摘のとおり、「3つのコース・領域を設ける趣旨・必要性に関する十分な説明」及び「3つのコース・領域で育成する人材の社会的需要の説明」を行っていなかったため、説明するとともに、「3つのコース・領域で育成する人材に求められる能力を身に付けるための必要な科目が適切に配置されている」ことを改めて説明を行う。その際、3つのコース・領域としたことで、「専攻」と解される表現としてしまったが、養成する人材像は、理学療法学科、作業療法学科でそれぞれ1つと考えているため、3つのコース・領域をそれぞれ履修モデルと定義し直し、説明を行う。

### 1) 各学科3つの履修モデルを設ける趣旨・必要性

内閣府によると、現在日本の人口は、長期の減少過程に入っており、2029年に1億2,000万人を下回った後も減少を続け、2053年には1億人を割り、2065年には8,808万人になると推計されている。その過程で、高齢者人口は増加し、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年には3,677万人、2042年には3,935万人とピークを迎え、その後は減少に転ずると推計されている。総人口に占める高齢化率は2065年には38.4%に達し、国民の2.6人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上の高齢者となる。反面、15～64歳の現役世代の割合は低下し、2065年には1人の高齢者を1.3人の現役世代で支える状況となる。本学が位置する滋賀県(県民生活部統計課人口経済統計係)においても、2015年には141万人であった総人口は、2025年には139万人、2045年には126万人に減少する一方、65歳以上の高齢者は2015年の34万人から増加をつづけ2045年には43万人になると予測され、高齢化率は、2025年には27.5%、2045年には34.3%に上昇するとされている。また、年少人口(14歳以下)、生産年齢人口(15～64歳)共に、直近3年は連続で減少している。

このような高齢社会の進展は、医療の在り方にも大きな影響を与えている。平成25年8月に社会保障制度改革国民会議がまとめた「社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～」では、青壮年期の患者を対象とした医療は、救命・延命、治癒、社会復帰を前提とした「病院完結型」のものであるが、高齢化社会においては、慢性疾患による受療が多くなり、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える「地域完結型」のものに変わらざるを得ないという認識が示された。このような医療のあり方の変化に加えて、生産年齢人口減少による社会保障機能(公助と共助)の低下という問題もあり、厚生労働省が、2005年頃から主として高齢者を

地域で支える体制として地域包括ケアシステム構築の必要性を提唱し、さまざまな取り組みが行政主導のもとで行われてきた。さらに、2016年6月に「ニッポン1億総活躍プラン」が閣議決定され、高齢者に対象を限定しない地域共生社会（地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会）の実現が提唱されるに至った。

ここで、厚生労働省は、地域共生社会の実現に向けた改革の骨子として、「地域課題の解決力の強化」、「地域丸ごとのつながりの強化」、「地域を基盤とする包括的支援の強化」及び「専門人材の機能強化・最大活用」の4つを掲げており、特に、「地域課題の解決力」及び「地域を基盤とする包括的支援」を強化するために、リハビリテーションの専門家である理学療法士・作業療法士が出来ることは多い。しかし、理学療法士・作業療法士の多くは、病院やクリニック等の医療現場で勤務しているのが現状であり、本法人が設置する藍野大学及び滋賀医療技術専門学校においても、病院やクリニック等に人材の輩出を行ってきた。本学は、このような現状を踏まえた上で、専門職大学の特色である「展開科目」を活用し、地域共生社会の実現のために理学療法士に出来ることとして、「ヘルスプロモーション支援」、「生涯スポーツ支援」及び「地域支援」という3つの履修モデルを用意し、作業療法士に出来ることとして「児童期」、「成人期」及び「老年期」の3つの履修モデルを用意する。

資料 2-1：「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）

## 2) 理学療法学科の3つの履修モデル

理学療法士は、身体活動の評価と運動処方をする専門家である。さらに、疾病・傷害予防や二次障害予防を見据えたリスク管理を行うことができる。これらの身体活動に関わる知識や技術を、健康寿命延伸や高いQOL維持を目的とした地域共生社会の実現に応用できると考えた。その結果、「展開科目」において、地域住民の課題を知ると共に、解決につながる知識や技術を学修することを目的とした。また、学生自身の将来のキャリア形成につながるように、「ヘルスプロモーション支援」、「生涯スポーツ支援」、及び「地域支援」の3つの履修モデルを用意し、より具体的な支援について学修する機会となるようにした。

滋賀県の高齢化率（2018）は25.7%、本学の所在する東近江市は26.5%と高く、今後の高齢化率の上昇と人口減少の予測を見据えると、高齢期に差し掛かるまでの人々が、健康で自立した生活を長く維持できる、つまり健康寿命を伸ばす取り組みが重要である。滋賀県の2015年の平均寿命は男性が81.78歳で女性が87.57歳であり、2016年の健康寿命（日常生活に制限のない期間）の平均は男性が72.30歳で女性が74.07歳であった。日常生活に制限を持ちながら生活する期間が、およそ男性では9年間、女性では13年間であり、10年前後の日常生活に不自由な期間を短縮することは、高いQOLを維持し、その人が望む人生を送るために重要である。「健康日本21（第二次）」が策定され、住民自身の自助による健康維持が求められているが、共助として支援する専門職も必要で、疾病や傷害予防などのリスク管理のもと運動処方のできる理学療法士は適任である。理学療法の身体活動の知識と技術を活用し、健康寿命延伸のために運動機能の維持・向上及び、一次予防の知識や技術をヘルスプロモーションに応用し実践する意義は高い。しかし、日本理学療法士協会による会員分布調査（2018）では、理学療法士は約78.7%が医療・介護分野に集中し、健康分野は0.07%と非常に僅かであり、滋賀県の就労状況も同様である。そこで将来、健康分野へ職域を展開できる人材を養成することを目的として、展開科目のなかで履修モデルとして「ヘルスプロモーション支援」を設定した。

ヘルスプロモーションとして身体活動の推進のために、スポーツを生活の中に取り入れ、継続することが推奨されている。しかし、スポーツにより負傷してしまう危険性もあるため、スポーツを安全に継続でき、ケガを予防する知識が必要となる。スポーツを継続するために、ケガの予防を考慮した指導や、疾病や障害を持つ人に対し適切な管理のもとに、スポーツ実施を支援できるのは、理学療法士である。身体活動を利用する他の職種よりも疾病や障害について詳しく理解しているため、より安全な方法で中高年者の生活習慣病の予防、子どもの体力向上のためのスポーツ方法を開発し指導することが可能で、中学生・高校生・大学生及び社会人のアスリートのパフォーマンス向上にも応用も可能である。そこで、本学科では障がいの有無にかかわらず、生涯に渡りスポーツを通して質の高い生活を送ることを支援できる人材を養成することを目的としているため、展開科目の履修モデルとして「生涯スポーツ支援」を設定した。

身体活動を維持することは、生活に重要な経済活動をできるだけ長く維持できることにつながる。しかし、国民生活基礎調査(2016)によると、50代の有訴率は30%を超え、「腰痛」、「肩こり」及び「手足の関節が痛む」の運動器障害系の症状が上位を占めている。これらの症状を持ちながら就労を継続するためには、また、労働時の傷害を予防するためには、就労環境や方法の検討が必要であり、運動器障害に対する知識のある理学療法士が支援できる分野である。さらに、障がいを持ちながら就労する人口の増加も課題となっており、障がい者の就労環境が整備されていないことが、就労人口の増加を妨げている大きな要因でもある。それぞれの身体障害に応じた二次障害を予防できる労働環境の整備は、理学療法士の専門性が活用できる分野である。しかし、企業の中でそのような役割を担っている理学療法士は皆無に等しい。今後、理学療法士が傷害予防の視点から関わることで、障害を予防できる可能性が高い。よって、労働による障害予防、障がい者の就労促進の分野で支援できる人材を養成することを目的として、展開科目の履修モデルとして「地域支援」を設定した。

以下では、3つの履修モデルについて詳述する。

### (1) 「ヘルスプロモーション支援」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

ヘルスプロモーションとは、1986年にWHOにより提唱された人々の健康の維持・増進のための活動・戦略で、「自分の健康は自分でつくる」という個人への働きかけに加えて、「住民の健康づくりを支援する環境をつくる＝健康な地域づくり」という社会システムづくりを推進させることである。

我が国は、健康状態を示す包括的指標である「平均寿命」は、世界一の健康水準を示している。一方、がんや高血圧などに起因する循環器病などの「生活習慣病」が増加し、医療・介護など老後の不安が顕著な社会問題となっている。そのため世論調査(2018)でも、健康・老後に関連したことが国民の大きな関心事となっている。

滋賀におけるヘルスプロモーションの実践を解析、普及、推進させることは、日本全国におけるヘルスプロモーションの推進に大きく貢献することが期待される。しかしながら、行政のマンパワー不足、地域の健康推進員の減少(2014、滋賀県南部健康福祉事務所)などヘルスプロモーションをけん引する人材も不足が懸念されている。

このような社会情勢の中にあり、理学療法士の予防的活動への責務の拡大について社会的にも期待されている。厚生労働省医政局(2013)は「理学療法士が、介護予防事業等において、身体に障害のないものに対して、転倒防止の指導等の診療の補助に該当しない範囲の業務を行うことがあるが、このように理学療法以外の業務を行うときであっても、「理学療法士」という名称を使用することはなんら問題がないこと。また、このような診療の補助に該当しない範囲の業務を行うときは、医師の指示は不要で

ある」とヘルスプロモーション事業への理学療法士の参画に国も期待し、支援している。それと同時に理学療法士は、10万人を超える会員を抱える専門職集団であり、健康づくりといった新たな社会的課題に対して果たすべき責任がある。

理学療法士は様々な疾病・障害に対して「自立した生活」及び「生活の質の向上」を目的に運動処方を行う医療・介護の専門職である。また生活習慣病予防やそれらに関連する疾患に対する知識だけでなく、運動処方による障害予防への貢献が期待されている。しかしながら、これまでヘルスプロモーションに特化した専門教育・実習はなされておらず、養成校から直接ヘルスプロモーション分野に輩出されることはなかった。

ヘルスプロモーション人材の需要としては、これまでは行政、保険医療機関、介護施設、学校教育機関などに限られてきた。しかしながら、健康に関する関心が高まっていることを背景に、食品・健康増進関連企業などはそのイメージを良くする目的で多くの需要が見込まれる。これら健康関連企業には約64万の事業所、医薬品・医療機器に関連する約1万の企業、さらには検査受託企業などの医療に関連する約7,000の企業、健康増進に関連する約2,000社の企業など種々の事業所が存在している。これらのことから健康づくりにおける専門職種の要望は大変高いものと考えられる。

本領域では、これからの上記で示した健康づくりにおける現状とそれに伴う社会的需要を鑑み、地域共生社会の健康づくりを支援するため、次の科目配置を行った。

生きがいに関連する活動として「遊びとレクリエーション」では、子どもから高齢者までを対象としたレクリエーション、余暇活動の意義と目的、現状などを学ぶ。次に「伝承遊び」により各年代の文化と遊びから、高い生活の質を提供し、生きがいの元となる余暇や趣味についての意義や手法について学ぶ。「生きがい創造」においてポジティブ心理学の立場から人生の生きがいづくりを支援する手法を学ぶ。また「メンタルヘルスマネジメント論」で心の健康管理への取り組みの重要性、ストレスやその原因となる問題に対処する方法を学ぶ。

ヘルスプロモーションの実践に必要な、医療専門職としての知識や技術の他に、健康増進に関する知識については、「健康増進実践演習」で学び、小児期から高齢者までの各ライフステージに則した体力や身体指標に関する測定方法とその意義について「体力測定論」にてその知識と技術を習得する。また最後に実践を通じて健康づくりに必要な企画、立案、実施を「健康増進実践実習」で経験する。

以上のことから、ヘルスプロモーション支援では、より人が健やかに生き生きと働ける社会・地域を作るための支援について学ぶ。そして最後に本履修モデルでは生活習慣病、がんなどヘルスプロモーションに関する分野への実習を行うことで、地域社会において活躍し、日本の健康寿命延伸を支援する専門的な理学療法士を養成することを目的としており、将来のキャリア形成の中で就労先として想定される施設は、地方自治体の健康教室、健康増進施設及び健康関連企業などが挙げられる。

## (2) 「生涯スポーツ支援」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

我が国において、2015年にスポーツ立国の実現を使命としてスポーツ行政を一元的に行う「スポーツ庁」が設置されて以降、2016年に「日本再興戦略 2016の成長戦略」によりスポーツの成長産業化、2017年には、スポーツで「人生」が変わる、「社会」を変える、「世界」とつながる、「未来」を創るという4つの観点で「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことが基本方針として打ち出された。その中で、スポーツの持つ多様な価値を活かし、スポーツを通じて健康増進、地域や経済の活性化、国際競技力の向上、国際貢献することが掲げられている。

滋賀県においても、2015年12月に「滋賀県スポーツ推進条例」を制定し、スポーツに親しみ、楽し

むこと等により、心身の健康の保持増進や体力の向上を通じて健康寿命の延伸を図る地域社会の実現に努めている。しかし、2016年度に実施した「滋賀県民のスポーツライフにかかわるスポーツ実施状況調査」では、成人の1週間のスポーツ実施率が36.0%と全国平均の42.5%に比べて低く、20～50歳代の実施率が低い状況にあり、運動を行わなかった理由としては、「仕事が忙しくて時間がないから」の割合が高い。したがって、この働く世代のスポーツ実施率を高めるためには、場所を選ばず、身近な場所で自分の都合に合わせて運動することができるトレーニング方法の提供が重要となってくる。

また、滋賀県の子どもの体力の状況は「2016年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、体力合計点は全国平均より低く、1週間の運動実施時間の合計も全国平均よりも低い傾向にある。その要因の一つとして、スポーツクラブへの加入率が全国に比べて低い状況であることが挙げられている。したがって、小学生における運動実施時間を増やすためには、楽しんで実施することができるトレーニング方法を提供することにより、スポーツクラブの加入率が高くなるような試みが重要となってくる。

また、滋賀県は「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果に基づく検証改善サイクルの確立や、運動プログラム等の開発・実践に関する取組などについて、大学とスポーツ団体とが連携し、子どもの体力向上を図るとしている。さらに、大学、スポーツ団体、企業と連携し、大学の持つノウハウを活かした選手強化システムの充実に努めるとともに、医科学サポート運営会議等を中心に、スポーツ医・科学に基づく効果的なトレーニング法や怪我の予防対策等の情報提供及び指導を行うとしている。

ただ、スポーツは良い面ばかりではなく、負傷などにより不健康となり、QOLを低下させる危険性もあることを忘れてはならない。負傷の危険性に関して、スポーツメディスンオーストラリアは、負傷防止ガイドラインに従うことにより、危険性を最小限に抑えることができるとしている。したがって、子ども、成人、高齢者、障がい者の別を問わず、全ての人に対してスポーツを推進していくには、安全に継続でき、負傷が生じないように予防する知識が必要となる。これらのことを踏まえて滋賀県は、すべての人に対して安全にスポーツを指導、提供できる、共助として支援する専門性を身につけた専門職を求めている。

理学療法士は運動学に基づいて身体活動を観察・分析し、疾病や障害の治療、重篤化予防を行うことで、社会復帰を支援する専門職である。また、近年では疾病や障害の早期発見、早期治療にも関与してきている。しかし、理学療法士は疾病や障害の発生を未然に防ぐ健康づくり対策にはほとんど関わっていない。健康分野の中で、スポーツを生活の中に取り入れ継続することが推奨され、スポーツを通して健康寿命延伸を目指すことが期待されている。

つまり、健康寿命延伸を目的とした生涯スポーツ支援を行う必要がある。そして、さまざまな年代、障害の程度などすべての人に対して、安全にスポーツが継続できるように指導、提供し、負傷が生じないように予防することができる人材が求められる。そこで本領域では、滋賀県におけるスポーツ分野の人材需要に答える上で必要な能力を養うために、次の科目配置を行った。

すべての人が安全にスポーツを実施でき、健康と体力の維持・増進に効果的なトレーニング方法を学ぶことで、健康寿命の延伸を図る能力を養うために「フィットネス論」を配置した。そして、楽しんで実施することができるトレーニング方法について学ぶことで、スポーツを行うことの楽しさを伝え、スポーツ実施率の向上を図る能力を養うために「スポーツリズムトレーニング論」を配置した。また、場所を選ばず、身近な場所で自分の都合に合わせて運動することができるトレーニング方法について学ぶことで、働き盛りの世代のスポーツ実施率を高めるとともに、スポーツへの関心の向上を図る能力を養うために「ビジョントレーニング論」を配置した。さらに、怪我をしないだけでなく、パフォーマンスを向上させるためのフォーム、シューズ選び・補正方法、トレーニング方法を学ぶことで、怪我の受傷

リスクを軽減し、パフォーマンスを向上させることができ、その結果、スポーツ実施率を高めるとともに、スポーツを実施することの満足度の向上を図る能力を養うために「ランニングトレーニング論」、「ゴルフトレーニング論」、「シューフィッティング論」及び「パフォーマンス向上論」を配置した。

よって、本履修モデルでは、生涯スポーツ支援に関する知識や技術を学ぶことで、すべての人に対して安全にスポーツを指導できるようになり、スポーツを通して健康寿命延伸を図り、ひいては地域共生社会の実現に向けて応用できる、そのような専門的な理学療法士を養成することを目的としており、将来のキャリア形成の中で就労先として想定される施設は、教育機関の部活指導、スポーツクラブ、フィットネスクラブ及びスポーツ関連企業などが挙げられる。

### (3) 「地域支援」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

前期高齢者とされる 65 歳以上 75 歳未満の人は、元気で労働者として活躍できるといわれている。1992 年の 64 歳の歩行スピードは 2002 年の 75 歳と同程度といわれており、前期高齢者が仕事から引退し、公的年金に頼る生活を営む社会の是非が問われている。また、2016 年の内閣府の「高齢者の経済・生活環境に対する調査」では高齢世帯の所得は、その他の世帯と比較して 50%以下であり、経済的な暮らし向きに心配がある世帯も 34%に上る。つまり、経済的側面からみても、高齢者の就労を促進する必要性は高い。滋賀県においても例にもれず高齢化は進んでいる。2017 年の滋賀県の 65 歳以上の比率は 25.3%となっている。これに対して 15 歳～64 歳の人口比率は 60.5%であり減少傾向にあり、生産人口を増加させることは急務である。

そこで、前期高齢者の就労を継続することで労働人口を確保する必要がある。では、高齢者はなぜ働かないのか。定年退職という企業制度や公的年金制度などの影響も見逃せないが、身体的な愁訴を抱えることが理由の一つである。2016 年の国民生活基礎調査によると、加齢とともに病気やけがに起因する有訴率は高くなり、前期高齢者では 50%に近くなる。その中でも上位を占めるものは、腰痛や関節痛である。

本履修モデルでは、労働による疾病予防として、腰痛や関節痛が起こらない労働環境を整備できる理学療法士、また、65 歳を超えて腰痛や関節痛があっても、それとうまく付き合いながら就業することを支援できる理学療法士を養成したいと考えている。そのために、「福祉工学地域活用論」、「ロボット工学地域活用論基礎」及び「ロボット工学地域活用論応用」を学ぶことで、種々の機器や技術の使用を支援に組み込み、応用できることを目指す。

もう一つの労働人口増加の枠組みとして、障がい者の就労を促進する必要がある。2016 年の障害者白書による我が国の障がい者総数は 761 万人、滋賀県における 2016 年度の統計では約 8 万 6 千人である。障がい者の就労促進にあたり低賃金という問題が指摘されている。労働環境と障がい者の身体機能をすり合わせることは、業務効率を向上させ、ひいては賃金の増加につながると考えられる。障がい者の身体機能は一人ひとり異なり、二次障害予防の観点や、机や椅子の高さ、作業スペースの取り方、使う道具とどれをとってもその人専用のものが提供されるか否かが、大きく作業効率を変える。

本履修モデルでは、各企業に雇用される障がい者の身体機能とその業務と環境に、疾患と障害の基礎知識を基盤に、業務内容の検討、環境の変更、ロボットの導入などを視野に入れ介入できる知識や技術を学ぶため、「身体障がい者就労環境論」及び「福祉工学地域活用論」を配置した。

さらに、労働人口増加以外にも医療・介護保険の適応以外で、理学療法技術を必要とする障がい者や高齢者を支援していく必要がある。2016 年の厚生労働省発表の「地域の実情に合った総合的な福祉サービスの提供に向けたガイドライン」において、高齢者・障がい者（児）・児童・生活困窮者に提供さ

れる福祉サービスを提供する施設の中で、理学療法士の人員配置は皆無に等しい。しかし、多くの福祉施設において常勤の理学療法士を雇用する経済的余裕はない。この問題を解決するために、非常勤の理学療法士を派遣できる組織や、施設経営する理学療法士が増える必要がある。そのためには、複数の理学療法士を雇用し、組織を運営する能力が必要となり、将来自ら起業し、埋もれた障がい者や高齢者に手を差し伸べられる人材が望まれる。本履修モデルでは、将来のキャリア形成の中で起業も視野に入れることができる基盤に繋がる科目として「組織運営論」を配置している。

よって本履修モデルでは、地域共生社会の実現に向けて将来のキャリア形成の中で、労働状況の改善、ひいては労働人口の増加に貢献できる理学療法士と、医療・介護保険以外で理学療法技術を必要としている人に支援を提供できる理学療法士を養成することを目的としており、将来のキャリア形成の中で就労先として想定される施設は、通所介護施設であるデイサービス、放課後等デイサービス、就労支援施設及び福祉機器メーカーなどが挙げられる。

### 3) 作業療法学科の3つの履修モデル

作業療法は、人が営む生活行為に焦点をあてる。その中で、児童期の営みは成人期の形成に繋がり、また成人期の過程が老年期を形成するといった視点に立つ必要がある。これらは障害の有無を問わず地域住民が対象となるため、本学科においては、18歳未満の「児童期」、18歳以上の「成人期」、65歳以上の「老年期」として3つの履修モデルを設けることとする。

地域住民全体を捉えた場合、多様であるがゆえに具体的介入が困難となる可能性がある。それは年代（以下ライフステージとする）によって、抱える課題が大きく変化するためである。R.J.Havighurstが提唱する「学び」では老年期の課題として、引退と収入の減少への適応や、同年代の人と明るい親密な関係を結ぶこととある。一方で、児童の「学び」としては遊びを通じて必要な身体技能を学修することや、独立した個人となること、健全な態度の形成などが挙げられる。つまり、ライフステージによって、対象となる地域住民との関り方は変化が求められる。

3つの履修モデルを分化させる目的は、各ライフステージの人々を深く理解し、支援するためには該当のライフステージにおける生活行為の特殊性に精通している必要がある。そのような作業療法士を養成するために3つの履修モデルを設定した。

加えて、実際に滋賀県の「滋賀県保健医療計画」においても高齢者における認知症対策や健康づくり、小児期の医療や教育、そして障害をもつ成人とライフステージによって大別される傾向にある。よって、地域共生社会に貢献する作業療法士として、地域全体として学ぶだけではなく、ライフステージごとにより深く理解し、地域医療とも連携できる状況が望まれる。3つの履修モデルにおける分化した学修によって、具体的な地域課題の抽出と問題解決方法がより深く、洗練されたものとなることが期待できる。

先述のとおり、作業療法士は作業を評価し、個人にとって意味のなす作業を通して人を健康にするという点で、全ての人々に対して共通した視点を基盤としている。それは医学的な視点を持ちながらも、人（価値・役割・心身機能構造）と環境（人的・物的・制度）と課題を分析する専門的知識により成立する。この専門性を基盤に各ライフステージの特徴を踏まえて、地域共生社会の創造を支援できる作業療法士を養成したいと考えている。

履修科目は、次のように配置した。1年次の「地域社会共生論」及び「地域社会共生論実習」では地域共生社会の基本的概念を深め、特に滋賀県の地域特性や状況、そして課題を学ぶように配置した。また、どのライフステージにも関係する「ボランティア論」及び「災害支援論」を学ぶように配置した。2年次は、地域の教育支援の理解として「子育て支援論」及び「教育支援論」と組織運営マネジメント

理解として「メンタルヘルスマネジメント論」及び「マーケティング論」を学ぶように配置した。3年次は、「施設起業運営論」と地域での就労と余暇の理解として「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者労働環境論」及び「障がい者スポーツ論」を学ぶ。また、すべてのライフステージにおいて共通する課題について学ぶ「就労環境論実習」及び「障がい者スポーツ論実習」を4年次に配置した。これら地域共生社会に関する知識を深めた後に、3年次後期から4年次前期にかけて「児童期地域生活適応論」とその実習、「成人期地域生活適応論」とその実習、「老年期地域生活適応論」とその実習を学ぶ。

以下では、3つの履修モデルについて詳述する。

### (1) 「児童期」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

本履修モデルでは地域共生社会実現に向けて、「児童期」をより深く理解した作業療法士を養成する。滋賀県教育委員会が発行した滋賀の特別支援教育平成30年度版のリーフレットによると、平成20年(1998年)と平成29年(2017年)とを比較した際、滋賀県の特別支援学校に通う児童は1.4倍に増加している。また、市町村の普通学校の特別支援学級に通う児童も1.8倍の増加している。その中でも知的障害の児童は1.6倍、自閉症・情緒障害の児童は2.3倍の増加とされる。さらに、公立小中学校の通常学級に通っているが、特別な支援を必要とする児童も約10年で小、中、高等学校全てにおいて増加している。

滋賀県立リハビリテーションセンターの職員へのヒアリングからは、定期的な支援が必要な方がリハビリテーション支援を受けられる地域が少ない状況であり、児童に対して身近で継続的な支援が不足している。2019年現在、滋賀県作業療法士会会員463名のうち発達領域で勤務しているのは17名と4%に満たず、身体領域の247名、老年期領域の76名と精神領域の36名と比べ最も少ない。ここから障がい児への作業療法士の関わり不足が伺える。さらに、このような児童期の状況は、将来的に成人期・老年期の二次障害や就労の困難さにつながる可能性が高い。このような現状に対して、個人の能力を最大限に生かす環境を整えることのできる作業療法士が、児童期の身近な“通いの場”でアセスメントや働きかけができるように、児童期に対応できる作業療法士を養成することが必要である。

また、児童の家族のニーズは滋賀県リハビリテーション提供体制再構築基礎調査事業報告書(2017)によると、「保護者が自らサービスを調べて受診していくのではなく、障害が分かった時点で、トータルコーディネートして作業療法やその他のサービスを組んでいく体制」を望む意見が多い。また、「本当は受けたかった・必要だと思うリハビリテーションの内容」には、身体機能、姿勢・基本動作の他、遊びの支援、職場や学校に出向いての支援及び学修に対する支援も挙げられている。

上記を踏まえ、本学では、児童の身近な通いの場(保育園、小学校、特別支援学校、学童保育、放課後等デイサービス等)で児童の発達に合わせた関わりができ、児童の能力を生かした生活へ向かうための働きかけができる作業療法士の養成を目指す。

「児童期地域生活適応論」では、放課後等デイサービスや保育園、学童保育等の現状の課題を学修し、「児童期地域生活適応論実習」において、滋賀県内の放課後等デイサービスや保育園や学童保育等、児童の通いの場で実際に児童と関わることにより、生活状況や地域課題への理解を深める。また、児童に関わる人々の想いや支援の考え方を知り、円滑な連携へ向けての学びを深める。

神奈川県では、2008年度より理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士の資格をもつ専門職を「自立活動教諭(専門職)」として、県立特別支援学校に配置している。滋賀県でも児童期への関わりを意識した作業療法士を多く養成し、行政と連携することで作業療法士が児童の通いの場で働くことを実現できる可能性があると考えられる。

## (2) 「成人期」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

本履修モデルでは地域共生社会の実現に向けて、「成人期」をより深く理解した作業療法士を養成する。地域の障がい者の就労促進の支援と、施設内での生活を余儀なくされている方々の生活の質の改善を目的とした支援ができるようになることを目指す。

滋賀県リハビリテーション推進計画(2015)では、地域リハビリテーションにおける成人領域の状況として、3,359名の県民を対象とした調査(滋賀県保健医療計画2018)を実施している。その結果、今後充実してほしい対策の上位に、在宅医療29.4%が挙げられている。同時に、医師をはじめとしてリハビリテーション専門職の福祉領域や教育、就労、地域づくりへの参入不足が懸念されるとしている。また、2015年度に策定された滋賀県地域医療構想では2013年に9,278人/日であった在宅医療などの医療需要が、2025年には13,995人/日と1.5倍に増加すると推計できるとされ、さらに介護保険の第1号被保険者の要介護・要支援認定者数は、2016年度に約60,000人、2020年には67,000人、2025年には78,000人になると推計されている。つまり、前述したリハビリテーション専門職の不足に反して、滋賀県民からの需要はさらに上昇することが分かる。

滋賀県内の精神疾患の患者数は、2008年には25,000人であったものが、2014年には37,000人に増加している。また精神障害者保健福祉手帳の交付者数も年々増加しており、2011年には6,023人であったものが、2016年には9,024人と3,000人の増加を示している。精神病床における1年以上の長期入院患者数は1,265人となっている。5年以上の長期入院患者が全入院患者の4割近くを占めており、この中には受け入れ条件が整えば退院可能な入院患者も含まれていると考えられている。この点においても上記と同じく地域で受け入れるための人的・物的環境と体制づくりが必要とされている。

就労支援という点では、ハローワークにおける職業紹介状況(就職件数)は平成19年度に全国で45,565件(身体障害者24,535件、知的障害者12,186件、精神障害者8,479件、その他365件)であったのに対し、平成29年度では97,814件(身体障害者26,756件、知的障害者20,987件、精神障害者45,064件)に上っている。滋賀県でも同様に就職件数が平成21年度に561件であったのに対して1,196件に上っており、同じくして求職件数も増加している。現在、地域における就労支援を実践する作業療法士の統計は存在しないものの、日本作業療法士協会のデータからは地域で生活活動の支援を行う作業療法士は少ないものと推察される。

上記より、成人期の障がい者を取り巻く地域課題は施設生活や在宅生活、就労まで多岐にわたる。作業療法士は障害の有無に関わりなく、その人の特性を評価し、その人の能力を最大限発揮できる環境を整えることができる。これを基盤として、課題解決へと率先して取り組むことのできる作業療法士の養成が求められる。

就労については成人期のみならず児童期における就学から就労への課題、老年期では定年後の役割を担いながら社会へと貢献するための就労課題など、すべての履修モデルに当てはまる。そのため「精神障がい者就労環境論」、「身体障がい者就労環境論」及び「就労環境論実習」では、必須科目として県内における就労支援と業務の実際を学んでいく。しかし、現在の成人期の地域課題を捉えられた場合、医療処置を終えた方々に対する在宅生活や長期の施設生活を余儀なくされている福祉領域の課題も含まれており、「成人期」履修モデルでは、さらに広い視点から成人期の地域生活の学修が必要となる。よって、「成人期地域生活適応論」では、地域で生活する成人期障がい者の現状、福祉施設の歴史と現在、成人期を迎えた家族の思い、福祉支援職の役割、現状の生活と困難、支援者の抱える課題について学びを深めていく。更に、「成人期地域生活適応論実習」では、障がい者支援施設、生活訓練施設、グループホ

ーム、通所支援施設への実習を通して、作業療法士としての成人期の生活支援の在り様を模索し、地域における課題解決を図る素地を養う。

### (3) 「老年期」履修モデルの人材需要と求められる能力と科目配置

本履修モデルでは地域共生社会の実現に向けて、「老年期」をより深く理解した作業療法士を養成する。高齢化率が高まるなかで、疾患や障害を抱えた状態でも、可能な限りこれまでと同じような在宅生活を地域の中で送ることが求められるようになった。社会的・身体的・精神的にも多くの課題を抱え、老年期を生きる対象者は厳しい時間を過ごさなければならない。また、高騰する医療費の抑制・効果的で効率的なリハビリテーションの推進・地域リハビリテーションの充実など、社会もまた多くの課題を抱えている。

国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、滋賀県における 2025 年の 65 歳以上の高齢者人口は、38.5 万人となり高齢化率は 27.5%に達する見込みである。2016 年の厚生労働省「病院報告」では滋賀県の病院に従事する作業療法士は 346 人となっており、同年の厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」では介護保険サービス施設・事業所に従事する作業療法士は 114 人と報告している。その中でも、介護報酬の中で作業療法士の配置が基準とされていないデイサービスや特別養護老人施設、グループホームではさらに少なく、作業療法技術を必要とする人たちに提供できていない現実がある。

また、滋賀県の「リハビリテーション推進計画」(2015)では、在宅生活への移行後、運動や体操等の身体機能訓練のみが継続されて行われていることが多く、当事者の生活行為の向上を目的としたリハビリテーションサービスが不足している。当事者の生活行為に焦点を当てたりリハビリテーションにより、高齢者が、家庭や地域社会で、役割を持ち、そこに住む人たちとともに生活し、社会活動に参画できるようにしていくことが重要課題である。例えば、一旦、介護保険サービスを利用するとそのサービスの中でのコミュニティで完結してしまい、1 歩外へ出た介護保険以外での社会参加が難しい。この対策として、リハビリテーションにおいて身体機能や日常生活活動能力の改善のみではなく、学校教育との関わりや地域活動への参加等、新たな社会参加、地域参加の展開へ向けた支援の必要がある。

さらに、「役割」という点においては就労の視点も視野に入ってくる。現在、介護認定を受けていても環境への働きかけや個人の能力の開発により、働くことが可能となる高齢者もいると考える。高齢者の 42%は働けるうちは働きたいと希望している (内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」,2014)。

このように、高齢者が家庭や住み慣れた地域で自立して生活できる社会を実現するため、対象者の生活行為にまつわる課題を発見し、対象者を中心とした多職種や産業界と連携しながら支援体制の構築できる能力を身に付け、かつ老年期リハビリテーション支援の中核を担う人材が求められている。その役割が担えるのは、その人の能力を総合的にアセスメントし、環境を整えていく事を学んでいる作業療法士であると考える。作業療法士としての知識や技術のみでなく、地域共生社会へ向けた地域課題の発見や解決策を思考することで、このような高齢者に対して、社会参加の機会もしくはその手段を提供できる作業療法士を養成したいと考えている。

現在でも少ないが、グループホームのスタッフが、登下校時の子どもへの声掛けや、特別養護施設の高齢者が児童と関わるなど、社会参加への取り組みをしているところもある。環境と人と作業のマッチングを理論的に分析し、その活動の効果を科学的に表すことができる作業療法士が参画することにより、その活動の重要性を対象者本人や多職種へ示すことが可能となる。その結果、当該活動の効果を見える化することにより、対象者、多職種のモチベーションの向上へとつながる。また、対象者の能力と作業活動の要素を評価できる作業療法士が、デイサービスやグループホームなど現在、介入の少ない領域へ

参入することで、就労へつなぐことができる高齢者の発掘へ寄与できると考える。これらの課題に対応する作業療法士を養成する目的で、「老年期地域生活適応論」では、デイサービスやグループホーム、特別老人養護施設の現状と問題点について学び、「老年期地域生活適応論実習」ではデイサービスやグループホーム、特別老人養護施設への実習を行い、実際の課題を発見し、その解決策を思考する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

3. <大学、短期大学及び専門学校との違いが不明確>

大学、短期大学及び専門学校との違いが具体的に説明されておらず、不明確である。開設する授業科目の到達目標や教育水準、教員組織などが専門職大学としてどのように充実され、大学教育としての学修の質が担保されるのかを明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

ご意見を踏まえ、大学、短期大学及び専門学校との違いを制度の違いから論じ直したうえで、藍野大学と滋賀医療技術専門学校との違いを「養成する人材像」、「卒業後の進路」、「教育課程及び授業科目の到達目標」、「実習」、「成績評価」及び「教員組織」についてそれぞれ追記する。

### 1) 学校制度の違い

現在、日本における理学療法士・作業療法士の養成は、大学、短期大学、及び専門学校等において実施されており、2016年4月現在、理学療法士養成校は289校、作業療法士養成校は200校に上り、その多くは、大学と専門学校である。理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が定める内容を学生に教授するという点においては、大学、専門学校に違いはないが、大学においては、教養教育と専門教育、併せて理学療法学、作業療法学等に関する研究を行うため、学問的色彩の強い教育研究活動が行われている。他方、専門学校は、大学と比較した際に、制度的な縛りが柔軟で、その自由度を活かし、社会や産業界等の人材ニーズに即応し、卒業後、現場において即戦力となる人材の養成を行っている。大学と専門学校は、これまでそれぞれの特色・強みを活かした人材養成を行ってきたし、これからもその役割を果たしていくであろうことが予想される。

しかし、それぞれの機関に弱点がないわけではない。大学においては、前述のとおり学問的色彩が強く、理学療法学、作業療法学に関する専門性を極める方向性が強い。専門性は必ずしも実践性と相反するわけではないが、領域の細分化、専門分化は常に専門分野外の実践性を損なう危険性を伴う。他方、専門学校においては、教員組織や施設・設備に関する基準が柔軟であるため、教育の質が制度上担保しきれておらず、大学への進学率が上昇を続ける現代において、社会的評価を得にくい状況に変わりつつある。2020年4月1日より施行規則が改正され、地域包括ケアシステム構築に対応するため、例えば、「自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携の理解」が必修となり、「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を1単位以上行うこと」が義務化されるが、既存の学校制度の中で、どこまでそのような社会の要請等に応じた教育を提供することができるかが問われている。

一方、新たな高等教育機関として制度化された専門職大学は、長期の企業内実習や関連他分野に関する教育等を通じ、高度な実践力と豊かな創造力を培う教育研究に重点を置き創設された大学制度であり、「理論にも裏付けられた高度な実践力を強みとして、専門業務を牽引できる人材」かつ「変化に対応して、新たなモノやサービスを創り出すことができる人材」の養成を制度の根幹としている。理学療法士・作業療法士を養成する既存の大学と比較した際に、際立った特徴は、3つある。1つ目は、実務家教員の積極的な登用である。一般の大学においても、理学療法士作業療法士養成施設指定規則に則り、「理学療法士又は作業療法士の各免許を受けた後、5年以上理学療法又は作業療法に関する業務に従事した者」

を専任教員として揃えることが制度上担保されているが、研究者としてのキャリアを積む過程で、現場から遠ざかった者がほとんどである。専門職大学においては、高度の実務の能力を有した実務家教員の登用が制度化されているため、より実践の理論に裏付けられた教育研究活動を展開することが可能である。2つ目は、「専攻に係る特定の職業の分野に関連する分野における応用的能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的とした展開科目を20単位以上学生に修得させることである。一般の大学においては、教養教育を基盤として専門性を極めることを通じて創造性を発揮することが求められているが、専門職大学においては、他分野の知識を修得することを通じて創造性を涵養することが制度化されている。3つ目は、「産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施する」ことを目的とした教育課程連携協議会が必置とされている点である。社会の人材ニーズに即応した職業専門人を養成するにあたり、社会の要請等を、学内へと不断に取り入れることは、非常に重要である。専門職大学制度においては、教育課程連携協議会を通じて、そのような情報を入手し、それを教育課程に組み込むことが可能となっている。

今後、地域共生社会の実現に向けて、介護保険制度や医療保険制度下に留まらず、隣近所、友人、ボランティア、企業等を担い手とする「互助」の領域、また、本人や親族等を担い手とする「自助」の領域において、リハビリテーションの専門家として、創造的な役割を果たすことのできる人材の養成を行うにあたり、他分野の知識を修得することを通じて創造性を涵養することを主目的とした展開科目が制度として整備されている専門職大学という制度は、本学の人材の養成に関する目的に適している。

## 2) 養成する人材像の違い

学校法人として定めている教育理念「Saluti et Solatio Aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」に基づき、「病気を医学的に治療すると同時に患者様の心に慰めを与えることが医療人の理想である」という考えを、本学と藍野大学は共有している。

藍野大学においては、学校教育法第83条第1項に規定される大学の目的である「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」を踏まえ、学問的色彩が強いという機関としての強みを活かし、「医療の高度化・専門化」に対応し、専門分化した医療現場において、高度な実践力を持ってチーム医療に貢献できる人材の養成を行っている。

一方、滋賀医療技術専門学校においては、学校教育法第124条第1項に規定された「職業若しくは実生活に必要な能力を養成し、又は教養の向上を図ること」を踏まえ、理学療法士・作業療法士としての高度な実践力を有し、地域医療に貢献できる人材の養成を行ってきた。学費を他の養成校より安くするとともに、3年間で国家試験を取得できるようにすることで、学士取得者や社会人なども受け入れ、主として滋賀県の地域医療に理学療法士・作業療法士として貢献したいと考える者に短期集中的な教育を提供してきた。

本学は、学校教育法第83条の2第1項に規定される「深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させること」という専門職大学の目的を踏まえ、「地域共生社会の実現に向けたリハビリテーション専門家の養成」という社会の要請等に応えることを人材養成の主眼に置いており、そのために必要となる能力・資質を備えた人材を養成することを目指す。養成する人材像の違いをまとめると次の表のとおりとなる。

### 設置校ごとの養成する人材像

	藍野大学	滋賀医療技術専門学校	びわこリハビリテーション 専門職大学
教育理念 (法人)	「Saluti et Solatio Aegrorum (病める人々を医やすばかりでなく慰めるために)」		
人材養成 の目的 (社会の 要請等)	医療の高度化・専門化に 対応した医療専門職の養成	地域医療に貢献する人材 の養成	地域共生社会の実現に向けたリ ハビリテーション専門家の養成
目的 (養 成する人 材像)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人を愛する心を持ち、豊かな教養を身につけた人材を育成する。</li> <li>②心の通う保健・医療サービスを提供できる人材を育成する。</li> <li>③保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材を育成する。</li> <li>④国際的な視野を持つ人材を育成する。</li> <li>⑤生涯学び続け、課題発掘・解決能力を練磨できる人材を育成する。</li> </ul>	豊かな人間性を養い有能にして広く社会の要請にこたえ得る医療にたずさわる専門技術者の育成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高い倫理観と豊かな人間性、理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なリハビリテーションを提供できる人材を養成する。</li> <li>②地域共生社会の実現に向け、理学療法士・作業療法士として保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、多職種と連携・協力のもと、地域住民及び地域が抱える課題を発見し、解決することのできる創造性豊かな人材を養成する。</li> </ul>

### 3) 卒業後の進路の違い

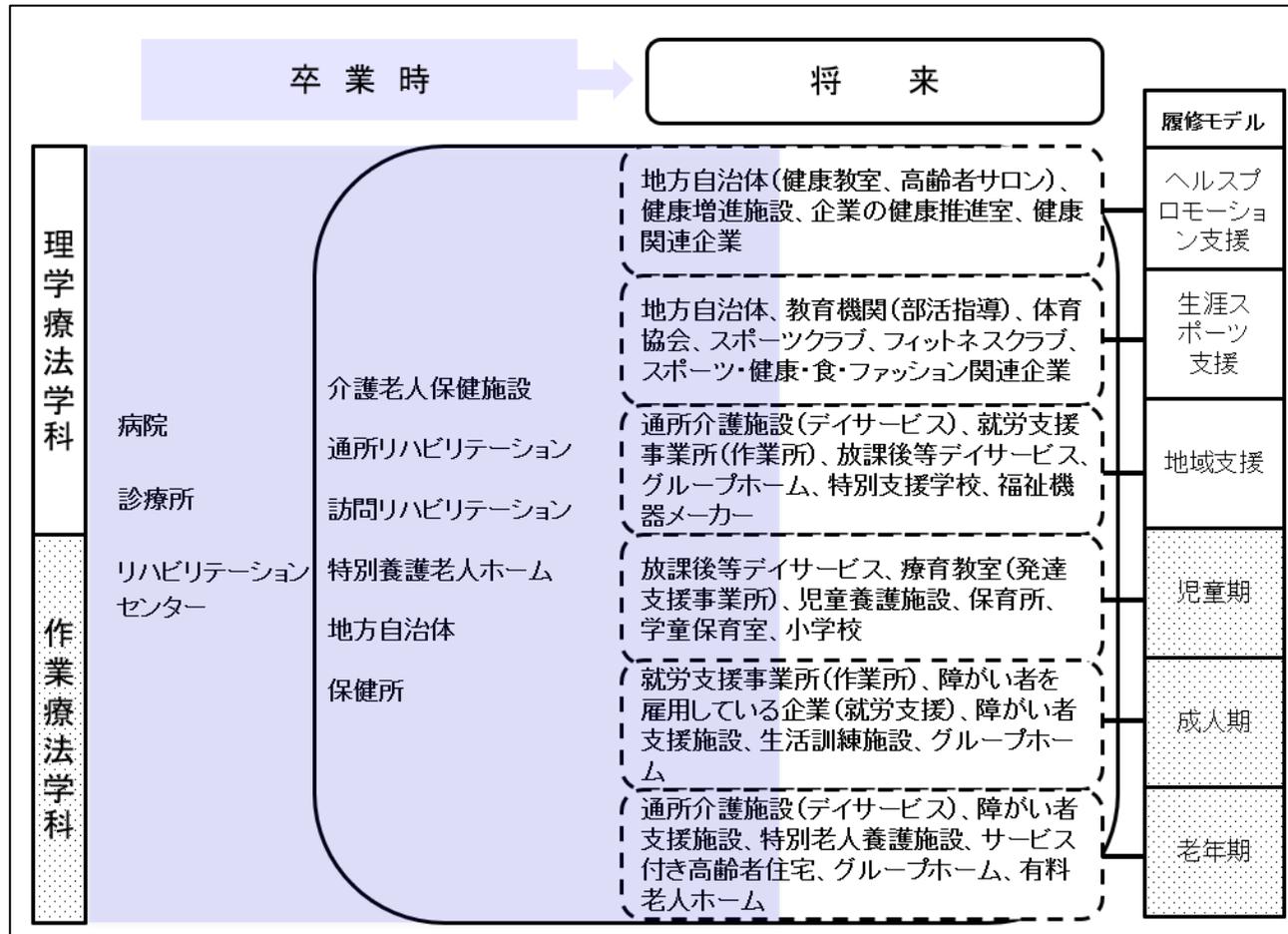
藍野大学及び滋賀医療技術専門学校の卒業後の進路は、基本的には病院である。次の表は、理学療法士又は作業療法士の国家試験に合格し卒業した者のうち病院（クリニック含む）に就職した者の人数と割合を示したものである。年度と学科ごとにばらつきはあるが、低くとも76%以上の学生が病院に就職していることが分かる。

国家試験に合格し卒業した者のうち病院就職者数とその割合（実績）

	平成 27 年度 病院等就職者割合	平成 28 年度 病院等就職者割合	平成 29 年度 病院等就職者割合
藍野大学医療保健学部 理学療法学科	99% 76名/77名	97% 76名/78名	92% 83名/90名
藍野大学医療保健学部 作業療法学科	86% 25名/29名	85% 23名/27名	81% 29名/36名
滋賀医療技術専門学校 理学療法学科	98% 51名/52名	76% 26名/34名	96% 43名/45名
滋賀医療技術専門学校 作業療法学科	95% 21名/22名	89% 16名/18名	92% 12名/13名

一方、本学は、リハビリテーション学部の目的に「地域住民に適切なリハビリテーションを提供する」とあるように、卒業後の進路は、地域包括ケアシステムを中心とした地域のリハビリテーションに関連する施設を想定している。また、地域共生社会の実現に向け、理学療法や作業療法の専門性を応用できることも人材養成の目的としており、卒業後一定期間キャリアを積んだ後、各自が学修した履修モデルの分野に就職することも想定している。しかし、卒業時に履修した分野を進路として選択する可能性も想定されるため、就職先として広く考えている。次の図で、卒業後の進路と履修モデルの関係を示す。

卒業後の進路と履修モデル（想定）



#### 4) 教育課程及び授業科目の到達目標の違い

##### (1) 教育課程の概要

###### ① 藍野大学

藍野大学は、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分構成とし、その中に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則上の科目を含めて教育課程を編成している。基礎科目では、中区分として教養教育科目、語学教育科目、理系基礎科目、初年次教育科目に分け、基盤知識と教養を身に付けるための科目を配置している。職業専門科目においては、保健・医療・福祉に関連する科目及び専門分野に必要な医学の基礎知識を学ぶとともにシンメディカル論などチーム医療を実践できる素地を形成するための科目を配置している。専門科目においては、理学療法士・作業療法士としての基礎と応用を学ぶ科目を配置している。

特に、藍野大学医療保健学部の教育目標において、「豊かな教養を身につけた人材」と「国際的な視野を持つ人材」を挙げているため、教養教育科目や語学教育科目等の充実を図っている。また、「保健・医療チームのなかで、自己の役割を遂行できる人材」の養成を同じく教育目標に掲げているため看護学科や臨床工学科の学生とチーム医療の実践について学ぶ「シンメディカル論」という科目を用意している。その他、専門科目において、理学療法学科では、「がんの理学療法学」、作業療法学科においては、「特定・内部疾患作業療法学」及び「高次脳機能特論」など医療分野においてその必要性が高まっている科目を用意している。

資料 3-1：藍野大学医療保健学部理学療法学科・作業療法学科 教育課程等の概要（2018年度以降に入学した学生用）

###### ② 滋賀医療技術専門学校

滋賀医療技術専門学校では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を、教育課程の根幹としており、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大別し、教育課程を編成している。そのうえで、理学療法学科では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則必要単位数 93 単位のところ、卒業要件を 104 単位と 11 単位増、作業療法学科では、必要単位数 93 単位のところ卒業要件を 105 単位と 12 単位増としている。3 年制を採用しており、時間的制約がある中で、取得単位数を多くしているのは、実践力を高め、現場で即戦力となる人材を養成するためである。理学療法学科において単位数を増やしている科目は、「臨床能力技術演習Ⅰ・Ⅱ」及び「徒手療法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などであり、臨床能力や徒手療法技術を高めることを企図している。作業療法学科において単位数を増やしている科目は、「作業分析学Ⅰ・Ⅱ」や臨床実習関連の科目などで、身体と精神・認知機能の分析力を高めることを通じて臨床能力を高めることや、臨床実習及び実習後の振り返りの科目を多くし、実践力を高めることを企図している。

資料 3-2：滋賀医療技術専門学校理学療法学科・作業療法学科 教育課程等の概要

###### ③ びわこリハビリテーション専門職大学

本学は、教育課程を基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目の4区分構成とし、その中に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則上の科目を含めて教育課程を編成している。

基礎科目では、中区分として初年次教育科目、人間と社会系科目、自然科学系科目、語学教育科目に分け、基盤知識と教養を身に付けるための科目を配置している。ここでは、理学療法／作業療法の専門

職として必要で重要性の高い科目は必修科目とし、広く教養を身につけることを意図した科目は、選択科目とした。

職業専門科目は、理論系科目群と職業実践科目群に二分しており、理学療法士・作業療法士の国家資格取得に必要な中心的科目を配置している。理学療法・作業療法理論科目群のなかで、医学的な基礎となる「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「生理学Ⅰ・Ⅱ」及び「運動学Ⅰ」は、身体の構造と機能を学ぶ科目となるため、1年次に配置し、理学療法、作業療法の治療分野となる疾病と障害の成り立ち及びその回復過程の促進を学ぶ「内科学Ⅰ・Ⅱ」、「神経内科学Ⅰ・Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ・Ⅱ」、「小児科学」及び「精神医学」などは、2年次を中心に配当した。チームアプローチにおける役割を知るために必要となる基本的な概念を学ぶ科目として、「リハビリテーション概論」を1年次に配当し、2年次に「社会福祉学」、3年次に「地域包括ケア論」と階層的に学修できるよう配置した。理論科目群で学修した疾患学やリハビリテーションの理念を基に、理学療法、作業療法の概念から評価、治療、実践について知識と技術を階層的に関連付けて学ぶことができるよう配置している。

臨地実務実習については、1・2年次に理学療法士・作業療法士の仕事の見学を中心とした実習を行い、医療職としての倫理観と自覚を形成し、その後の学修の動機づけとなるように設定している。そして、「理学療法／作業療法評価実習」から「理学療法／作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」へと進み、一連の治療のプロセスを学んだ後、「理学療法地域実習」を配置し、在宅高齢者の通所リハビリテーションや訪問理学療法について実習することで、医療と介護の連携についても学修できるように配置している。以上の職業専門科目は、理学療法士・作業療法士国家資格を取得するために重要であり、そのほとんどを必修科目としている。

展開科目は、地域共生社会の実現に向け、リハビリテーション領域に隣接する分野での地域の理解と課題を知る科目に、「地域共生論」、「生涯スポーツ論」、「労働衛生論」、「災害支援論」、「ボランティア論」、「子育て支援論」及び「教育支援論」を配置している。これらの科目を学び、地域共生社会の実現に向け支援できる方策を学ぶ科目として「マーケティング論」、「施設起業運営論」、「障がい者スポーツ論」及び「障がい者スポーツ論実習」を配置している。これらは全て必修科目である。そのうえで、理学療法学科では「ヘルスプロモーション支援」、「生涯スポーツ支援」及び「地域支援」という3つの履修モデル、作業療法学科では「児童期」、「成人期」及び「老年期」の3つの履修モデルに対応した科目を履修することで、理学療法士・作業療法士としての実践力と応用力を高める。

総合科目は、学科のディプロマ・ポリシーを達成するための集大成の科目となり、職業専門科目で修得した理学療法、作業療法に関する知識と技術と展開科目で学んだ知識を踏まえ、地域住民への支援の在り方を自ら考える科目となる。

以上の教育課程をもって、リハビリテーション高い倫理観と豊かな人間性、実践の理論に裏付けられた専門的な知識と技術を身に付け、地域共生社会の実現に貢献できる人材を養成する。

## (2) 授業科目の到達目標の違い

藍野大学、滋賀医療技術専門学校及び本学の3校は、理学療法士・作業療法士養成施設としての役割は共通している。よって、国家試験受験資格を与えるための教育水準は、国家試験合格に求められる水準と同等になることから、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定められた授業科目の到達目標も、3校に差が生じることはない。しかし、3校の養成する人材像や目的は異なるため、目的に応じた教育課程と授業科目がそれぞれの学校の特徴として生じ、授業科目の到達目標にも違いが認められる。次に、特徴的な授業科目を取り上げ、到達目標について記載する。

## ①藍野大学

藍野大学は、医療専門職として高度な知識を修得することを目的としている。そのための科目として、理学療法学科では「生体計測学」及び「がんの理学療法学」が挙げられる。「生体計測学」では、理学療法に必要な生体計測と、ヒトの動きや身体活動を数値化するための機器の仕組みや操作法を学び、研究に活用できる知識・技術を身につける科目である。授業の到達目標は2つあり、「①理学療法に必要な身体活動の諸現象を計測し、客観的なデータを活用する方法を習得できる。②計測で得られた客観的データを活用し、エビデンスに基づいた理学療法と実践できる能力を習得できる。」と設定し、卒業研究や将来の研究に向けた能力の達成を到達目標としている。

「がんの理学療法学」では、がんの病態や治療方法、がん患者に対する理学療法を実施する上で、必要な基礎知識を理解し、他の疾患とは異なる考え方、病期及び症状に合わせた理学療法をについて修得する科目である。授業の到達目標は、「がん患者にたいする理学療法を行う上で必要な考え方及び基礎的知識、エビデンスに基づいた理学療法が実践できる能力を体得する。また、がん患者に対する対応は、チーム医療が重視されることから、チーム医療の一員として他職と協働し医療が提供できるよう、自分の考えを論理的に表出できることを目標とする。」と設定し、医療の高度化、専門化に適應するための能力を達成目標としている。

作業療法学科では「認知神経作業療法特論」及び「ハンドセラピー特論」があげられる。「認知神経作業療法特論」では、脳血管障害によって生じる高次脳機能障害について、脳の働きと関連させながら学び、臨床で行われている高次脳機能障害作業療法の評価と介入の方法について、文献抄読を交えながら最新の知識を修得する科目である。授業の到達目標は、「脳の構造と働きを学び、その働きが損なわれたことで高次脳機能障害が出現していることを理解できる。臨床で行われている作業療法評価と介入方法を個々の高次脳機能障害と関連させて挙げることができる。主な評価方法を実施することができる。」と設定し、より高度で最新の専門知識の習得を達成目標としている。

「ハンドセラピー特論」では、ハンドセラピーは手の外科術後の患者に行われる、極めて高度に専門分化した上肢の機能障害に対するリハビリテーションの一分野であり、その概念と術後の患者のみならず手の機能障害すべてを学び、ハンドセラピーの基本的な考え方、対象とする疾患と治療及び今後の多様化と発展について学修する科目である。授業の到達目標は、「手の解剖学的知識を身に着け、手の疾患別プロトコルが理解できるようになる。」と設定し、作業療法分野により特化した分野の専門知識の習得を達成目標としている。

以上のように藍野大学では、理学療法と作業療法の医療分野での高度化と専門化に対応できる能力の獲得を授業の到達目標に設定していることが特徴である。

## ②滋賀医療技術専門学校

滋賀医療技術専門学校は、医療に携わる専門技術者の養成を目的としている。そのための科目として、理学療法学科では「徒手療法Ⅲ」及び「スポーツ系理学療法学」が挙げられる。「徒手療法Ⅲ」は、「徒手療法Ⅰ」及び「徒手療法Ⅱ」で徒手療法の基本的な技術を学んだことを活かし、筋骨格系の疾患に対する個々の病態に応じた評価と治療手技の選択と実施について、基本理論から学修する科目である。授業の到達目標は、「徒手療法を理解するために必須の解剖学・運動学とともに触診技術を再認識する。徒手療法の理論的背景を理解する。評価理論を理解し、正しい手順で行えるようにする。適應と禁忌を理解し、基本的な治療技術を身につける。」と設定し、臨床で使用できる治療技術の一つとして修得するこ

とを達成目標としている。

「スポーツ系理学療法学」は、実際のスポーツ場面での障害を想定し、理学療法士が提供できる知識や技術を学修する科目である。授業の到達目標は、「スポーツ場面で起こりやすい疾患について学び、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、スポーツ場面で発生しやすい下肢（股関節、膝関節、足関節）疾患、上肢（肩関節）疾患の理学療法について実技通して理解できる。また、各スポーツ障害におけるリスク管理ができるようになることも目標とする。」と設定し、理学療法により専門的な技術習得を目標としている。

作業療法学科では、「精神障害作業療法評価学」及び「日常生活活動学Ⅱ」が挙げられる。「精神障害作業療法評価学」は、精神障害の分野における作業療法評価について学ぶ科目であるが、特に LASMI、Rehab、OSA-Ⅱ、職業適性検査、精神障害ケアアセスメントなども学修し、臨床場面で使用できる知識を身につける科目である。授業の到達目標は、「学生自身が検者、被検者の役割を通して、精神障害作業療法の基本的な手順や内容を理解できる。」と設定し、より臨床的な知識や技術を身につけることを達成目標としている。

「日常生活活動学Ⅱ」では、主に脳血管障害患者を対象に、日常生活活動の作業療法支援を学修する科目である。一般的な作業療法の治療技術と、自助具を実際の患者を想定して作成する内容も加えている。授業の到達目標は、「①作業療法が対象とする主な疾患（脳血管障害を中心に）に対する ADL の考え方と、障害特性に応じた評価と介入を理解できる。②ADL、手段的 ADL に関して疾患の特性、対象の生活、価値観などを考慮して治療に役立てられる。③対象者に適した自助具を提供できる。」と設定し、自助具作成までの技術の修得を目標としている。

以上のように、滋賀医療技術専門学校では卒業後すぐに使える技術の獲得を授業の到達目標に設定していることが特徴である。

### ③びわこリハビリテーション専門職大学

本学は、地域住民の支援ができる人材の養成を目的としている。そのための科目として、理学療法学科では「地域共生論」及び「理学療法総合演習」が挙げられる。「地域共生論」は、地域住民が生涯を地域社会でつながりを持ち、住み慣れた地域で暮らしていくために、どのような環境やシステムが必要かについて理解することを目的とする科目である。授業の到達目標は、「子どもや高齢者や障がい者など、世代や背景の異なる人々が社会の中で、どのように地域社会で暮らしているか現状について学修し、孤立せず地域の中でつながりを持つための課題について理解し、地域共生社会に貢献するための必要な能力を自ら考えることができる。」と設定し、地域生活において理学療法士の専門性を活かすことができる能力の修得を目標としている。

「理学療法総合演習」は、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え学ぶ科目である。授業の到達目標は、「地域が抱える課題については、各自が選択した履修モデルの分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画することができる。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてることができる。」と設定し、地域住民に対し、理学療法士としてより実践的な関わりを考えられることを到達目標としている。

作業療法学科では、「身体障がい者就労環境論」及び「作業療法総合実習Ⅱ」が挙げられる。「身体障がい者就労環境論」は、身心の機能に障害があったとしても就労場面において、企業での障害者雇用が

義務付けられたり、新たな法制度の制定により様々な社会場面での障害者差別の解消が図られているなか、どのような課題があり、解決方法があるかについて学ぶ科目である。授業の到達目標は、「①身体障害を中心に障害特性を理解できる。②成人障害者の二次障害の発生実態とその発生要因を理解できる。③良好な成果が得られた障害者の就労環境改善事例から、障害者の就労環境の改善に至るアプローチを学び、模擬改善計画が作成できる。」と設定し、地域の就労環境に対し作業療法士として実践できる専門性を理解し、応用できる能力の修得を目標としている。

「作業療法総合実習Ⅱ」は、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学修する科目である。授業の到達目標は、「地域障害者が抱える課題については、地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力が習得できる。」と設定し、地域住民に対し作業療法の専門性を活かすためのより実践的な能力獲得を目標としている。

以上のように、びわこリハビリテーション専門職大学では地域住民に対して支援をする上で必要となる実践的な能力の獲得を授業の到達目標に設定していることが特徴である。

## 5) 成績評価の違い

藍野大学では、各科目の担当教員が、筆記試験、口述試験、レポート、論文、実技、出席状況などを学生に課すことによって各科目の成績評価を行っている。その上で、AA、A、B、C、D（不可）の5段階による Grade Point Average 制度（以下、「GPA」と呼ぶ。）を導入している。それによって、学生それぞれが履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを促進している。併せて、各学期の GPA と累積の GPA により、学修レベルの進捗度合い、修得科目全体の成績水準が明らかとなるため、それを教員による学生指導に活用している。

滋賀医療技術専門学校では、理学療法学科、作業療法学科ともに開設授業科目の全科目を必修科目かつ卒業要件としている。成績評価の方法については、担当教員に委ねており、レポートや授業態度、出席状況、試験、実技試験などを学生に課している。それらの評価方法を一つもしくは複数を組み合わせ、優（80点以上）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）の4段階で評価を行っており、優、良、可を合格（単位認定）、不可を不合格としている。GPAを導入しているが、成績通知には載せておらず、表彰等で活用しているのみに留まっている。

本学においては、各科目の成績評価の方法について、講義については、主として筆記試験により評価を行い、実習科目においては、技術試験を主としつつ、筆記試験、レポート及びプレゼンテーションなどにより評価を行う。また、臨地実務実習においては、OSCE（客観的臨床能力試験）、実習評価表及びルーブリックに基づき、評価を行う。以上のとおり、それぞれの授業形態に即した試験等を学生に課すことによって、科目ごとの目標到達度を適切に評価できる体制とする。さらに、学修ポートフォリオを導入し、日常的な学修への取り組みについて評価をするとともに、既設学校と同様、すべての科目を GPA によって点数化する。これらによって、学生それぞれが履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを促進する。併せて、各学期の GPA と累積の GPA により、学修レベルの進捗度合い、修得科目全体の成績水準が明らかとなるため、それを教員による学生指導に活用する。

## 6) 実習の違い

藍野大学と滋賀医療技術専門学校の実習は、理学療法士・作業療法士の養成課程に必要な臨床現場で学ぶ見学実習、評価実習、臨床実習が主となるが、本学は、専門職大学であるため、大学よりも多くの実習単位を設け、臨地実務実習及び職業専門科目や展開科目の実習に充てている点が大きく異なる。

本学の特徴の1つである職業専門科目や展開科目の実習は、各学科の3つの履修モデルに分かれ、臨地実務実習を終えた学生が、理学療法士・作業療法士の専門的な知識と技術をもって臨むものである。臨地実務実習よりも応用的な実習やこれまで理学療法士、作業療法士が参入していなかった施設・団体・企業等において実習を行うものがあり、実践力と応用力を同時に涵養することを目指すという従来の大学にはなかった内容となっている。主な実習先は次の表のとおりである。

### 履修モデルごとの実習先

	履修モデル	科目名称	実習施設
理学療法 学科	ヘルスプロモーション支援	内部障害応用論実習	近江八幡市立総合医療センター等
	生涯スポーツ支援	スポーツ障害応用論実習	滋賀レイクスターズ等
	地域支援	神経筋骨格障害応用論実習	おした整形外科医院等
作業療法 学科	児童期	児童期地域生活適応論実習	あいの南千里保育園
	成人期	成人期地域生活適応論実習	株式会社 THEMSY (放課後等デイサービス)
	老年期	老年期地域生活適応論実習	株式会社ジッセント・シップ (デイサービス)

また、臨床実習（専門職大学においては臨地実務実習）については、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則り計画されており、概ね到達目標が一致しているため、大卒での差はないと認識している。しかし、目標到達に向けた単位の配置や実習前後の学内の取り組み、実習中の指導体制、成績評価に違いがあるため、藍野大学、滋賀医療技術専門学校及び本学の違いを述べる。

滋賀医療技術専門学校と藍野大学と本学の総合臨床実習に相当する単位を比較すると、見学実習に関しては、藍野大学及び本学では、3単位と手厚く、1・2年次に理学療法士・作業療法士の職業理解を深め、その後の学修の動機付けとなるよう配置している。一方、滋賀医療技術専門学校は、3年制の学校であるため1単位と少ないが、実習以外の授業時間に見学を工夫して組み入れており、効率的に3年間で学ぶ体制が特徴的である。臨床実習に関しては、藍野大学は、理学療法学科 16単位、作業療法学科 16単位、滋賀医療技術専門学校は、理学療法学科・作業療法学科ともに 16単位を配置しているが、本学は、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ合わせて 12単位、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ合わせて 14単位と少ない。これは、理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則の改正の影響が大きく、指導方法を診療参加型実習へと変更し、実習前後の学内の取り組みを充実させ、実習施設での学びを教材として、実

習後においても学内で手厚く指導するようにしたためである。また、本学の臨地実務実習では、実習前、実習中及び実習後の評価を厳密に行うことにより、大学教育にふさわしい実習となるように計画している。

## 7) 教員組織の違い

藍野大学では、専任教員を採用する際の基準として、「人格識見ともに優れ、かつ、その職務に応じた教育研究上の能力があると認められる者」としており、特に、教授、准教授、講師、助教に見合う研究業績の有無を非常に重視している。また、医学、理学療法学、作業療法学を専門とする教員のほかに、心理学、統計学、言語学等を専門とする教員を採用しており、教養教育を担当する専任教員の充実も図っている。一方、滋賀医療技術専門学校では、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき、理学療法士又は作業療法士の各免許を受けた後、5年以上理学療法又は作業療法に関する業務に従事した者であることを採用する際の基本としている。

本学においては、専門職大学設置基準に基づき、当該分野の研究業績を有する者はもちろん、専攻分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者と、そのうち研究業績を併せて有する者で教員組織の構成を行った。理学療学科の専任教員24名のうち博士号取得者は13名、修士号取得者は8名であり、作業療学科の専任教員16名のうち博士号取得者は7名、修士号取得者は6名である。現状、理学療法士又は作業療法士の資格を有した専任教員の多くは、実務家教員に偏っており、大学と比較した際に、研究業績を有した者が少ないことが課題であると認識している。大学として、就任予定の専任教員について修士号、博士号の取得を促進するとともに、今後、研究業績を有した専攻分野に係る専任教員の採用を進めることで、大学教育としての学修の質が担保されるよう努める。なお、専任教員の学位保有状況は次のとおりである。

### 学位等取得状況

	学科	収容定員	博士号取得者	修士号取得者	学士号取得者	短期大学士号	その他	合計
藍野大学	理学療学科	320	15	6	3	0	0	24
滋賀医療技術専門学校		240	3	5	0	0	1	9
びわこリハビリテーション専門職大学		320	13	8	1	1	1	24
藍野大学	作業療学科	160	5	8	0	0	0	13
滋賀医療技術専門学校		120	0	1	2	0	3	6
びわこリハビリテーション専門職大学		160	7	6	2	0	1	16

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

4. <大学名称の妥当性が不明確>

大学名称で使用している「藍野」は、本法人に係る名称として通用していて、国内外で同一の名称がないことを理由に設定したと説明しているが、専門職大学設置基準第 54 条で規定する教育研究上の目的にふさわしい大学名称になっているとは認められないため、専攻に係る教育研究上の目的を踏まえた適切な大学名称に修正すること。【2学科共通】

(対応)

当初の申請において、学校法人藍野大学の教育理念の継承を踏まえて大学名称を「藍野専門職大学」としていたが、ご意見のとおり、専門職大学設置基準第 54 条で規定する教育研究上の目的にふさわしい大学名称とするために熟考を重ね、次の理由を付して、新たな大学名称を「びわこリハビリテーション専門職大学」(英語名称: **Biwako Professional University of Rehabilitation**) と修正を行う。

本学は、本州東西軸のほぼ真ん中の滋賀県東近江市に位置し、その中央に県土の約 6 分の 1 を占める日本最大の湖・琵琶湖を抱え、周囲には緑豊かな山々や田園地帯が広がる自然環境の中にびわ湖キャンパスを有している。(1. 設置の趣旨及び必要性 (1) ③びわ湖キャンパス記載のとおり)

琵琶湖は、滋賀県庁のホームページでも示しているとおり滋賀県民の心のよりどころとして大きな存在であり、悠久の歴史とともに琵琶湖と人は共生する社会を継承してきた。滋賀県において琵琶湖は、「地域共生社会」の象徴的な存在であり多様な知的価値を持っていると言える。

また、リハビリテーション学部の目的(1)では「(抜粋) 子どもから高齢者までの地域住民を対象に、適切なりハビリテーションを提供できる人材を養成する」としており、対象者の広い年齢層にも支持されるように、ひらがな表記「びわこ」とすることは、教育研究上の目的にふさわしい言葉であり、大学名称に用いることとした。

また、「リハビリテーション」という言葉を用いるのは、1981年にWHO(世界保健機関)が、「(抜粋) リハビリテーションは障害者が環境に適応するための訓練を行うばかりでなく、障害者の社会的統合を促す全体として環境や社会に手を加えることも目的とする。そして、障害者自身・家族・そして彼らの住んでいる地域社会が、リハビリテーションに関するサービスの計画と実行に関わり合わなければならない。」と定義しており、特に文中の「障害者自身・家族・そして彼らの住んでいる地域社会が、リハビリテーションに関するサービスの計画と実行に関わり合わなければならない。」とする定義が本学の教育研究上の目的である「地域共生社会」の実現を促す内容であると熟考したので「リハビリテーション」という教育研究上の目的にふさわしい言葉を大学名称に用いることとした。

(新旧対照表) 別記様式第 2 号 (その 1 の 1) 基本計画書 大学の名称

	新	旧
フリガナ 大学の名称	<u>びわこリハビリテーション専門職大学</u> ( <u>Biwako Professional University of Rehabilitation</u> )	藍野専門職大学 (Aino Professional University)

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

5. <英語名称の国際的通用性が不明確>

学位の英語名称を「Bachelor Physical/Occupational Therapy」としているが、英語名称の国際的通用性を踏まえれば、「Bachelor of Physical/Occupational Therapy」が適切な英語名称だと考えられるため、適切に修正すること。【2学科共通】

(対応)

国際通用性を踏まえ、学位の英語名称を「Bachelor of Physical/Occupational Therapy」に改める。

(新旧対照表) 別記様式第2号(その1の1) 基本計画書 学位又は称号

		新	旧
新設学部等の概要	学位又は称号	理学療法学士(専門職) (Bachelor of Physical Therapy)	理学療法学士(専門職) (Bachelor Physical Therapy)
		作業療法学士(専門職) (Bachelor of Occupational Therapy)	作業療法学士(専門職) (Bachelor Occupational Therapy)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 27ページ

新	旧
<p><b>2) 学位の名称</b></p> <p>びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部理学療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「理学療法学士(専門職)」とし、英語名称は「Bachelor of Physical Therapy」とする。また、びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「作業療法学士(専門職)」とし、英語名称は「Bachelor of Occupational Therapy」とする。</p>	<p><b>2) 学位の名称</b></p> <p>藍野専門職大学リハビリテーション学部理学療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「理学療法学士(専門職)」とし、英語名称は「Bachelor Physical Therapy」とする。また、藍野専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科の卒業要件を満たした者に与える学位の名称は「作業療法学士(専門職)」とし、英語名称は「Bachelor Occupational Therapy」とする。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

6. <学生確保の見通しが不明確>

高校2年生や施設等職員を対象に入学意向調査を実施し、入学定員を超える進学希望者がいたとの説明だが、進学希望者を集計するために調査した内容は「本大学に興味をもったか」、「受験してみたいか」、「受験して合格したら、どの学科に入学したいか」という単純な設問に留まり、他府県に競合校がある中で、他大学ではなく専門職大学を選ぶ学生がどのくらいいるのか不明確であるため、学生を確保できる見通しについて、客観的な根拠とともに、改めて説明すること。【2学科共通】

(対応)

本学としては、「受験して合格したら、どの学科に入学したいか」という問いに対して、「理学療法学科に入学したい」又は「作業療法学科に入学したい」と回答した学生の多くは、他府県に競合校がある中で、他大学ではなく本学を選ぶと考えている。その根拠を説明する。

### 1) 高校2年生に対する入学意向調査

入学意向調査を行う前に、本学が作成したリーフレット(追加資料2-4)を読むように指示している。リーフレットには専門職大学と大学の違い、本学の特色、類似の内容が学べる近隣の他大学を明記しており、回答者はこれらに目を通した上で本学への受験・入学意向に回答している。

さらに「進学希望者」であれば、調査回答時点である程度、進学先候補の大学・学校及び学びたい分野も決まっている者であり、それらの進学先候補校やリーフレット記載の近隣大学と本学を比較検討した上で本学を受験したいか、入学したいかという質問に回答していると考える。

Q5の『あなたは「藍野専門職大学(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか』との質問(資料2-1・P33)に対し、「受験したいと思う」と答えた者は、回答者3,817人中、248人である。(資料2-1・P20)

その内、Q6の『あなたは、藍野専門職大学(仮称、設置構想中)に受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか』との質問(資料2-1・P33)に対し、「理学療法学科に入学したい」と回答した者は151人、「作業療法学科に入学したい」と回答した者は51人であった。(資料2-1・P20)これらの者の中にはQ1の「あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。」との質問(資料2-1・P32)に対し、専門職大学ではなく、私立大学や短期大学、専門学校・専修学校を選んだ者もいる。しかし、今回の調査を通じて「専門職大学」への進学に対する関心が高まり、「入学したい」との回答につながったものと考えている。

質問については、「藍野専門職大学」という名称を使用しており、回答者は本学が専門職大学であることを意識して回答している。本学では、特に滋賀県の高校生で「入学したい」と回答した者の数は非常に信憑性が高いものであると考えている。その理由について、次のとおり説明する。

第1. 経済的負担の少ない本学の納入金

本学は、初年度納入金を160万円（入学金込み）、2年次より120万円を設定している。

一方、類似の大学の初年度納入金は173万円～195万円であり、2年次からは148万円～178万円である。

4年間総額で見た場合、その差額は97万円～209万円にまで昇る。

本学の魅力である学生・家族への経済的負担が少ない納入金の設定は、競合する大学と比較した場合、志願者へのインパクトは大きいと考えている。

**びわこリハビリテーション専門職大学（本学）**

リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	実験実習費	施設設備費	合計
初年度	400	900	100	200	1,600
2年次以降	－	900	100	200	1,200

**類似の大学の状況**

**佛教学 保健医療技術学部**

理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	施設設備費など	合計	本学との 差異
初年度	170	1,380	400	1,950	+350
2年次以降	－	1,380	400	1,780	+580

4年間での本学との差額は209万円

**京都橋大学 健康科学学部**

理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	施設設備費など	合計	本学との 差異
初年度	250	1,200	280	1,730	+130
2年次以降	－	1,200	280	1,480	+280

4年間での本学との差額は97万円

**大和大学 保健医療学部**

保健医療学科 理学療法専攻・作業療法専攻

単位：千円

区分	入学金	授業料（年額）	施設設備費など	合計	本学との 差異
初年度	180	1,150	400	1,730	+130
2年次以降	－	1,150	400	1,550	+350

4年間での本学との差額は118万円

森ノ宮医療大学 保健医療学部

理学療法学科・作業療法学科

単位：千円

区分	入学金	授業料 (年額)	施設設備費 など	合 計	本学との 差異
初年度	250	1,200	280	1,730	+130
2年次以降	—	1,200	280	1,480	+280

4年間での本学との差額は97万円

以上のことから、滋賀県内だけではなく、滋賀県の北部に隣接する福井県や岐阜県、南に隣接する京都市、さらに進学するには下宿が必要な場所である三重県熊野市、京都府の京丹後市、福知山市、和歌山県の新宮市、西牟婁郡、田辺市からも本学の経済的負担の少ない納入金を魅力とし、入学希望の回答がなされていると考えている。

本学に入学したいと回答した者の出身地

理学療法学科

滋賀県	福井県	岐阜県	三重県	京都府	和歌山県	合 計
105人	16人	11人	5人	6人	8人	151人

作業療法学科

滋賀県	福井県	岐阜県	三重県	京都府	和歌山県	合 計
28人	8人	7人	1人	3人	4人	51人

出典：資料2-1「藍野専門職大学（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】

P17「[藍野専門職大学]への興味度/受験意向/入学意向」より抽出

第2. 近隣の類似の大学の志願者倍率

次のとおり、近隣の類似の大学の志願者倍率（大阪行岡医療大学は非公表）を示す。

全ての大学において、入学定員を上回る志願者がおり、理学療法士・作業療法士の養成に対するニーズはあるものと判断できる。

理学療法

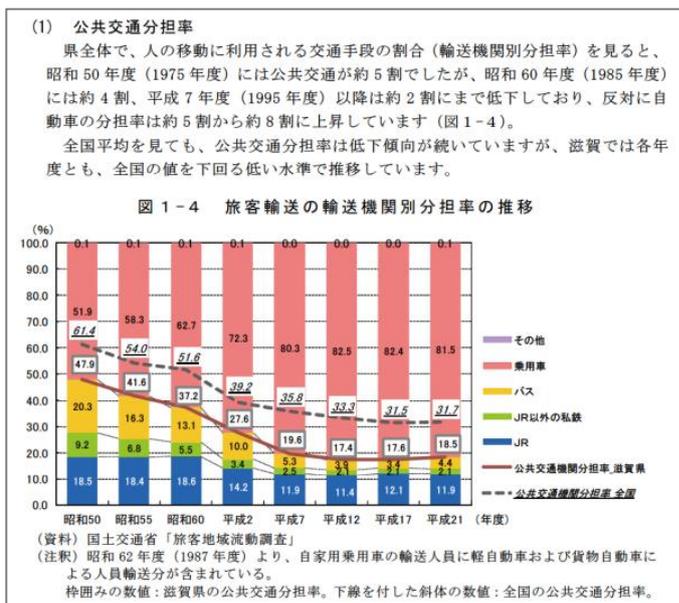
大学名	所在地	入学定員	2016(平成28)年度		2017(平成29)年度		2018(平成30)年度	
			志願者数	志願者倍率	志願者数	志願者倍率	志願者数	志願者倍率
佛光大学	京都市中京区	40	1,153	28.8	952	23.8	616	15.4
京都橘大学	京都市山科区	66	986	14.9	1,154	17.5	1,307	19.8
藍野大学	大阪府茨木市	80	469	5.9	263	3.3	230	2.9
大阪行岡医療大学	大阪府茨木市	80	—	—	—	—	—	—
大和大学	大阪府吹田市	40	645	16.1	689	17.2	724	18.1
大阪人間科学大学	大阪府摂津市	60	374	6.2	307	5.1	242	4.0
大阪保健医療大学	大阪市北区	70	306	4.4	195	2.8	217	3.1
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	60	792	13.2	722	12.0	712	11.9
大阪電気通信大学	大阪府四條畷市	40	99	2.5	71	1.8	116	2.9
中部学院大学	岐阜県関市	60	191	3.2	134	2.2	276	4.6
鈴鹿医療科学大学	三重県鈴鹿市	40	251	6.3	264	6.6	276	6.9
合計		636	5,266	8.3	4,751	7.5	4,716	7.4

作業療法

大学名	所在地	入学定員	2016(平成28)年度		2017(平成29)年度		2018(平成30)年度	
			志願者数	志願者倍率	志願者数	志願者倍率	志願者数	志願者倍率
佛光大学	京都市中京区	40	490	12.3	423	10.6	429	10.7
京都橘大学	京都市山科区	40	—	—	—	—	796	19.9
藍野大学	大阪府茨木市	40	161	4.0	97	2.4	75	1.9
大和大学	大阪府吹田市	40	417	10.4	448	11.2	489	12.2
大阪保健医療大学	大阪市北区	30	89	3.0	75	2.5	41	1.4
森ノ宮医療大学	大阪市住之江区	40	244	6.1	381	9.5	305	7.6
合計		230	1,401	6.1	1,424	6.2	2,135	9.3

第3. 滋賀県の車社会と自動車通学並びに理学療法学科・作業療法学科に入学したいと回答した者の居住地からの通学時間と近隣大学との比較

滋賀県は都市部とは異なり、公共交通機関が限られており、県内でも北に向かうほど、琵琶湖の周囲を走行する JR が主要となる。琵琶湖周辺から離れた地域もあり、そこに住む者は駅まで自転車や自家用車での移動を余儀なくされる。そのため、滋賀県民の移動手段は自家用車が多く、車社会であると言える。このことは、下記の滋賀県が策定した「滋賀交通ビジョン」、で証明されている。



引用：滋賀県策定「滋賀交通ビジョン」

滋賀県は車社会であり、県内であれば自家用車での通勤はごく当たり前の状況である。そのような状況において、本学の前身とも言える滋賀医療技術専門学校では、学校の立地を考慮し、最寄り駅（JR 能登川駅）から無料のスクールバスも運行を行うと同時に、自家用車での通学も認めている。自動車通学者の実績は次のとおりである。無料のスクールバスを運行しているにも関わらず、約 35%の学生が自家用車で通学している。

滋賀医療技術専門学校 自動車通学者数

地 域	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
滋賀県	高島市	0	1	1
	長浜市	8	13	10
	米原市	4	7	8
	彦根市	9	9	10
	犬上郡	4	2	2
	愛知郡	1	1	0
	東近江市	15	13	16
	近江八幡市	8	7	5
	蒲生郡	5	6	5
	守山市	1	3	3
	栗東市	3	1	0
	草津市	3	1	3
	湖南市	4	7	6
	甲賀市	7	11	11
大津市	5	6	6	
京都府	京都市	3	1	1
合 計	80	89	87	

学生数の平均約 35%が自動車に通学

滋賀医療技術専門学校での実績や本学の立地を踏まえ、自家用車での通学を本学でも認めることにより、本学を選ぶ学生は出てくるものと考えます。

なお、自家用車は燃料費や維持費などの負担はあるが、滋賀県は車社会であるということが浸透しているためか、滋賀医療技術専門学校では、自家用車での通学に対し経済的な抵抗感も見受けられない。その意識については、専門職大学でも同様であると考えます。

次に滋賀県内の高校生で、本学の理学療法学科または作業療法学科に入学したいと回答した者の居住地を次のとおり示す。

理学療法学科

長浜市	米原市	彦根市	近江八幡市	栗東市	甲賀市	湖南市	合 計
26 人	18 人	6 人	22 人	8 人	21 人	4 人	105 人

作業療法学科

長浜市	米原市	彦根市	近江八幡市	栗東市	蒲生郡	甲賀市	湖南市	合 計
7 人	6 人	2 人	5 人	5 人	1 人	1 人	1 人	28 人

出典：資料 2-1 「藍野専門職大学（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】

P17 「「藍野専門職大学」への興味度／受験意向／入学意向」より抽出

理学療法学科・作業療法学科に入学したいと回答した滋賀県内の高校生で、居住地は記述で示したとおり、栗東市より北部や東部であり、特に近江八幡市から北部と滋賀県東部の甲賀市や湖南市は自動車であれば、他大学よりも本学に通う方が近い。

本学の最も近隣である同系統大学の京都橘大学への滋賀県からの通学時間を見てみた。

滋賀県の北部、中部、南部で抽出してみたが、北部の長浜市からは1時間29分かかる。本学の場合はバス通学54分・自動車通学41分である。中部の近江八幡市からは58分かかる。本学の場合はバス通学32分・自動車通学26分である。南部の栗東市からは45分かかる。本学の場合はバス通学47分・自動車通学44分である。

結果、南部の栗東市はほぼ同じくらいの通学時間であるが、それよりも北部の地域は本学に通う方が近い。なお、東部に位置する地域（蒲生郡・甲賀市・湖南市）の者も自動車通学なら本学に来る方が近い。（近くて20分、遠くて40分）

既述の表において示した入学したいと回答した者の居住地を見ると、栗東市より北部または東部に位置しており、以上の説明で最も近隣の京都橘大学よりも本学に来る方が、近いことがわかる。

このことから、本学に入学したいと回答した人数の信憑性は高いものと考えている。

また、電車やバスのように時刻に縛られない点では、大学の閉門まで時間を気にすることなく、勉強ができ、自由な時間に下校することもできることが最大のメリットと言える。

本学でも自動車通学は認めるため、滋賀医療技術専門学校の実績を鑑み、約3割程度の自動車通学者が出てくるものと想定している。

なお、駐車場については、学生専用として約140台分を確保している。



. . . 入学したいと回答した者の居住地

. . . 自動車通学者の経路

. . . スクールバスの経路

### ・・・自動車通学者の経路

自動車の時速は50km/hで算出

経路① 長浜市(JR長浜駅)→本学 33.7km/41分  
米原市(JR米原駅)→本学 25.9km/32分  
彦根市(JR彦根駅)→本学 19.8km/24分

経路② 甲賀市(JR甲賀駅)→本学 32.5km/39分  
湖南市(JR甲西駅)→本学 31.5km/38分  
蒲生郡(近江鉄道 日野駅)→大学 17.9km/22分

経路③ 栗東市(JR栗東駅)→本学 36.4km/44分  
近江八幡市(JR近江八幡駅)→本学 20.9km/26分

### ・・・スクールバスの経路

バスの時速は30km/hで算出

JR長浜駅→JR能登川駅(バス)→本学 40.8km/54分  
JR米原駅→JR能登川駅(バス)→本学 33.1km/46分  
JR彦根駅→JR能登川駅(バス)→本学 27.1km/39分  
JR甲賀駅→JR能登川駅(バス)→本学 68.3km/1時間27分  
JR甲西駅→JR能登川駅(バス)→本学 51.4km/1時間3分  
近江鉄道 日野駅→JR能登川駅(バス)→本学 43.7km/1時間40分  
JR栗東駅→JR能登川駅(バス)→本学 36.7km/47分  
JR近江八幡駅→JR能登川駅(バス)→本学 21.9km/32分

最も近隣の京都橘大学へ行く場合の時間

JR長浜駅→地下鉄 柳辻駅→徒歩→京都橘大学 1時間29分  
JR近江八幡駅→地下鉄 柳辻駅→徒歩→京都橘大学 58分  
JR栗東駅→地下鉄 柳辻駅→徒歩→京都橘大学 45分

以上の第1～第3の理由から、本学としては記述のQ6の回答を確実性の高い数字として考える。

## 2) 医療・福祉施設の医療従事者(理学療法士・作業療法士・介護福祉士等)に対する入学意向調査

入学意向調査を行う前に、本学が作成したリーフレット(追加資料2-4)を読むように指示している。リーフレットには専門職大学と大学の違い、本学の特色、類似の内容が学べる近隣の他大学を明記しており、回答者はこれらに目を通した上で本学への受験・入学意向に回答している。さらに「進学希望者」であれば、調査回答時点である程度、進学先候補の大学・学校及び学びたい分野も決まっている者と考えられるので、それらの進学先候補校やリーフレット記載の近隣大学と本学を比較検討した上で本学を受験したいか、入学したいかという質問に回答している。

その結果、本学への受験意向は、回答者622人中、「受験したいと思う」と回答した者は、230人(37.0%)である。(資料2-2・P16) その内、「受験をしたいと思う」と回答した者で、本学の「理学療法学科・作業療法学科に入学したい」と回答した者(資料2-2・P16)は、理学療法学科139人、作業療法学科69人となっており、社会人学生を確保することができる見通し結果となった。学科を通じて、特に介護福祉士の入学希望者が多く、自己のスキルアップを望んでいることが伺え

る。(資料 2-2・P17~18)

学科名	入学定員	受験したいと思う	進学を希望する
理学療法学科	80人	230人	139人
作業療法学科	40人		69人

出典：資料 2-2「藍野専門職大学（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【施設等職員対象調査】 P17「藍野専門職大学」への受験意向／入学意向」より抽出

以上のことから、本学としては、学生を確保できるものと考えているが、専門職大学としての魅力については、高校生などにしっかり理解されているとは言い難いので、テレビ CM や高校内進路ガイダンス、インターネット媒体の広報ツールにより PR し、専門職大学の存在を広めていく。

**【教育課程等】**

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

7. <基礎科目の科目区分等が不明確>

基礎科目の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (1) 精神統一をする手段を習得する「日本の伝統文化」、中学・高校時代の文法の復習など英語の基礎学力を修得する「英語Ⅰ」は、大学教育の水準としてふさわしい内容とは認められないため、修正すること。

(対応)

ご指摘のとおり「日本の伝統文化」、「英語Ⅰ」ともに大学教育の水準としてふさわしい内容とは認められなかったため、次のとおり大学教育の水準にふさわしい内容に改める。

**1) 日本の伝統文化**

「日本の伝統文化」については、当初、精神を統一する手段を修得するという内容としていたが、大学教育の水準に達していなかった。地域の理解を深め、幅広い教養を身に付けることを目的に、日本の伝統的な職人文化を概観し、具体的な事例として、本学のある近江の職人文化を取り上げ、地域の文化及び伝統を学ぶ内容に改めた。

資料 7-1 : シラバス (日本の伝統文化) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 日本の伝統文化

新	旧
<p><u>(授業概要到達目標)</u></p> <p><u>日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをとまなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江(滋賀県)とゆかりの深い、木地屋(木地師)と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をおし、できるだけビジュアルに進めます。</u></p> <p><u>(到達目標)</u></p> <p><u>(1) 日本の職人の特質について理解する。</u></p> <p><u>(2) 日本の職人のイメージと実態について理解する。</u></p>	<p>(授業概要到達目標)</p> <p>医療従事者は、生命にかかわる重大な場面に直面することがある。どのような状況においても、常に冷静で個人の感情には左右されない強い精神力が求められている。この冷静な精神力の育成に、生命の大切さを根底にした冷静な精神統一をはかるために、僧侶の講話・茶道の経験・尺八の吹奏により精神統一をする手段を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/8回)</p> <p>(稲葉隆道/2回)</p> <p>一つの相にこだわらない無相。一処にとどまらない無住。一つの思いにかたよらない無念の心境を禅定と呼び、仏の心のことであり、医療人として最も必要な仏の心を生命の大切さを通して学ぶ。</p> <p>(1 砂川勇/4回)</p> <p>医療人として大切なことは、いかなる場面におい</p>

<p><u>(3) 日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。</u></p>	<p>でも現状を直視し、冷静に判断することで、この冷静さを体得するために、尺八の音色を感じ心を静め、精神統一を図ることを学ぶ。</p> <p>(4 分木ひとみ/2回) 茶道を通し季節を感じながら気持ちを切り替え、精神的なストレス解消法の一つとなるよう学ぶ。</p>
---	--

## 2) 英語 I

英語 I については内容を見直し、中学、高校の復習といった内容から、読解力、リスニング力の修得を通じて、グローバルとは何かについて考えを深め、多文化理解を促す内容へと改めた。

資料 7-2 : シラバス (英語 I) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 英語 I

新	旧
<p><u>(授業概要到達目標)</u></p> <p><u>大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを今の自分たちの生活と将来の生活(仕事を含め)中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。</u></p> <p><u>(学習到達目標)</u></p> <p><u>語学の授業は、聞いているだけでは理解できないし、上達しない。大学での英語教育の到達目標はインプットしたものをどうアウトプットするかを学ぶためグループワークやクラスへのフィードバックを通してインプットとアウトプットの大切さを知る。</u></p>	<p>(授業概要・到達目標)</p> <p>グローバル化が進む中、英語力は社会人として必須になってくる。そのため日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できるようにする。また中学、高校時代の文法やボキャブラリーの見直しなどの復習も行い、基礎学力の向上につなげる。リスニングに関しては、耳慣れすることを目標に日常的な会話の聞き取りから始め、コミュニケーションツールとして使える英語の習得を目指す。また将来、外国人の患者に対応する可能性も考え、日常会話や簡単な動作指示ができるように、表現方法を学ぶ。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

7. <基礎科目の科目区分等が不明確>

基礎科目の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (2) 基礎科目に「コミュニケーション論」、「人間学」、「心理学」、「社会福祉学」及び「英語Ⅱ」が配置されているが、授業科目の概要で内容を確認する限り、授業計画に専攻に係る職業についての学修内容が含まれており、職業専門科目に該当する疑義があるため、これらの科目のシラバスを提出した上で、適切な区分であることを明確に説明するか、科目区分を適切に改めること。

(対応)

「コミュニケーション論」、「心理学」及び「英語Ⅱ」に関しては、授業概要では確かに専攻に係る職業についての学修内容が含まれているように見えるが、これらの科目の趣旨は、専攻に関する知識の習得に重きを置くものではなく、テーマのひとつとして取り上げているのであるが、誤解を招く授業概要となっていたため、授業概要について改め、基礎科目としての授業であることを明確にしたシラバスを提出する。

「人間学」及び「社会福祉学」については、ご指摘のとおり科目区分が不適切であると判断したため、科目区分を職業専門科目に改める。なお、「人間学」については、授業内容を検討した結果、科目名称を適切な名称である「人間発達学」へと変更する。

1) コミュニケーション論

授業概要をリハビリテーション医療に必要となる対人コミュニケーションに限定せず、社会人として求められるコミュニケーションスキルを修得することを目標とした内容に改めた。

その結果、基礎科目として適切な内容であると考えます。

資料 7-3 : シラバス (コミュニケーション論)

(新旧対照表) シラバス (授業計画) コミュニケーション論

新	旧
<p>(授業概要到達目標)</p> <p><u>コミュニケーションの基本概念と構造、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、社会的相互作用等コミュニケーションについて深く理解するとともに、自己のコミュニケーション能力について洞察を深める。社会人に求められるより良いコミュニケーション、より良い人間関係を自ら作り上げることができることを目標とする。</u></p> <p>(授業内容)</p>	<p>(授業概要)</p> <p>リハビリテーション医療を担う上で必要となる、対人コミュニケーションについて学ぶ。人のコミュニケーション能力の基本構成から、言語によるコミュニケーションと非言語的なコミュニケーションに言及し、対象となる患者の持つコミュニケーション能力の把握技術を含め実践する。例えば、言語表出が困難な患者(失語症患者や構音障害患者)に対するコミュニケーション技術を実例を踏まえて学習する。さらに、一切の意思表示能力の欠落をもたらす疾患の例を挙げ、脳機能と</p>

<p><u>第1回 コミュニケーションの基本概念と構造、人間関係の基礎</u></p> <p><u>第2回 臨床の場におけるコミュニケーション、如何にしてコミュニケーションは治療になり得るか</u></p> <p><u>第3回 社会的相互作用、相互作用における無関心と無意識</u></p> <p><u>第4回 社会的役割と役割行動、役割の特性、役割葛藤、役割距離と装い</u></p> <p><u>第5回 援助的コミュニケーション、関係性の維持と発展</u></p> <p><u>第6回 対人技法の基本、聴くこと・話を聞いてもらうことの効果、聴く・聞く・訊くの違い、非言語コミュニケーションとその効果</u></p> <p><u>第7回 死にゆく人との対話、傍らに居るというコミュニケーション、死の受容に至る経過とコミュニケーション</u></p> <p><u>第8回 人との接し方の基本、コミュニケーション能力の自己評価と研鑽</u></p>	<p>意志表出の有無、さらには感情の有無に言及し、表出困難者の人権保護の観点から医療人としての人格を育む。</p>
---	---

## 2) 心理学

医療と関係が深い研究の成果を紹介し、医療従事者の対象である患者を理解するために臨床心理学的な視点を持つことを目標とするとしていたが、人の理解につながる内容とし、人間の行動を科学的に観察する視点を養うことを目標に改めた。

その結果、基礎科目として適切な内容であると考える。

資料 7-4 : シラバス (心理学)

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 心理学

新	旧
<p><u>(授業概要到達目標)</u></p> <p>心理学は人の心の動きやそこから生じる行動について探求しようとする領域である。その領域は多岐にわたり、発達心理学、認知心理学、知覚心理学、臨床心理学、異常心理学、社会心理学など幅広い。本講義では、心理学の中でも人の理解につながる領域の基礎を学ぶ。知能の構造、知能の発達、性格の形成、人の欲求、適応と不適応行動、行動の展開、感情、記憶等人の理解につながる基礎を学び、人間の行動を科学的に観察する視点を養う。</p> <p><u>(授業内容)</u></p> <p>第1回 知能とは何か、知能の構造、知的能力の発達、知能の障害とその評価</p> <p>第2回 性格とは何か、性格の定義、性格の形成に及ぼす人間関係、性格の評価</p> <p>第3回 人の欲求、一次欲求と二次欲求、行動の展開の原理、欲求が阻害された時の行動、自我防衛、不適応行動</p> <p>第4回 感情と行動、感情のコントロール、感情の発達・分化</p> <p>第5回 心の病気と異常心理学、精神病の世界の-1</p> <p>第6回 心の病気と異常心理学、精神病の世界の-2</p> <p>第7回 発達と老化、認識の発達、言語の発達、老化に伴う精神機能の変化</p> <p>第8回 他人の行動と自己の観察、人間の行動の不思議、まとめ</p>	<p>(授業概要)</p> <p>心理学とは、人のこころの動きや、そこから生じる行動について探求しようとする学問である。</p> <p>しかし、その領域は多岐にわたり、どのようにこころに接近し、とらえようとするかについては、さまざまな考え方があある。この授業では心理学の中でも、特に医療と関係の深い研究の成果を紹介し、心理学が対象とする「こころ」に対する見方や考え方を説明できることを目標とする。特に医療従事者の対象である患者を理解するために臨床心理学的な視点を持つことを目標とする。</p>

### 3) 英語Ⅱ

本科目の趣旨は、英語の4技能の向上を図ることにあり、そのテーマの一環としてリハビリテーションを取り上げたにすぎなかった。本来の趣旨にあわせた授業内容に改め、基礎科目として適切な内容とした。

資料 7-5 : シラバス (英語Ⅱ) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 英語Ⅱ

新	旧
<p><u>(授業概要到達目標)</u>  <u>グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。</u>  <u>語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。</u></p> <p><u>(授業内容)</u>  <u>第1回</u>  <u>Travel and Technology8 (旅行とテクノロジー)</u>  <u>第2回</u>  <u>The Color of Fashion (ファッションの色)</u>  <u>第3回</u>  <u>"Disappearing Animal (絶滅動物) I</u>  <u>Endangered Species(絶滅危惧種) "</u>  <u>第4回</u>  <u>"Disappearing Animal (絶滅動物) II</u>  <u>Bring Back the Woolly Mammoth(マンモスを呼び戻す) "</u>  <u>第5回</u>  <u>"Big Money (大金) I</u>  <u>What Does a Million Dollars Buy? (百万ドルで何を買う?) "</u>  <u>第6回</u>  <u>"Big Money (大金) II</u>  <u>Lottery Winners: Rich...but Happy? (宝くじ:お金持ち、でも幸せ?) "</u></p>	<p>(科目の概要)  リーディングは全ての技能の基礎になるため、長い文章でも我慢強く読む力をつけていく。日本人の多くに見られる「訳す」ことはせず、全体的に意味をつかむ力を身に着けられるようにする。また解剖学と合わせて骨関節、筋名等の医療英語を学習し、リーディング能力に反映させられるよう専門用語に慣れていく。授業資料のひとつとして主にリハビリテーション分野の論文を用いてアカデミックイングリッシュに触れ、ゼネラルイングリッシュとの違いを学び、論文形式に抵抗感なく取り組み、読み慣れることを目標とする。</p> <p>第1回  "Exercise and the Body(Staying Healthy): What is Health?  運動と身体：健康を保つために：健康とは"  第2回  "Exercise and the Body (Staying Healthy): Overview of the Body  運動と身体：健康を保つために：身体の常識"  第3回  "What is Rehabilitation?:  Physical Therapy and Physical Therapists  リハビリテーションとは？理学療法と理学療法士"  第4回  "What is Rehabilitation?:  Occupational Therapy and Occupational Therapists  リハビリテーションとは？作業療法と作業療法士"  第5回  "Fundamentals of the Human Body for Rehabilitation:  Major joints and Regions of the Body  リハビリテーションのための人体の基礎知識  主要関節と部位"</p>

<p>(第7回)</p> <p><u>"Celebrations Around the world (世界の祝い)</u> <u>Wedding Customs (結婚式の習慣) "</u></p> <p>(第8回)</p> <p><u>"Conclusion</u> <u>結び"</u></p>	<p>第6回</p> <p>"The Structure of the Human Body: The skeletal System</p> <p>人体の構造：骨格系"</p> <p>第7回</p> <p>"Diseases and Rehabilitation: Bone Fractures</p> <p>疾患とリハビリテーション：骨折"</p> <p>第8回</p> <p>"Conclusion</p> <p>結び"</p>
---	---

#### 4) 人間発達学 (人間学)

ご指摘を受け、人間学の内容を再検討した結果、主に人間の発達過程を扱う内容であることから、科目概要を修正の上、職業専門科目へと区分を変更し、科目名称を人間発達学へ改めた。

#### 資料 7-6 : シラバス (人間発達学)

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 人間発達学

新	旧
<p>(授業概要到達目標)</p> <p><u>人間発達学は人が発達する存在であるという観点から理解しようとする学問である。人間発達学では、人を細胞、組織、器官のレベルで捉えるのではなく、生活体として捉え理解をしていく。生命の誕生である胎児期から老年期までの生涯発達について、環境との相互作用の中でどのような発達を遂げるのか、また、ライフステージに応じた課題、役割などについての基本原理を理解することを目標とする。</u></p> <p>(授業内容)</p> <p>第1回 発達の概念と発達理論</p> <p>第2回 胎児期から新生児期の発達と特徴</p> <p>第3回 乳児期の発達と特徴</p> <p>第4回 幼児期の発達と特徴</p> <p>第5回 児童期の発達と特徴</p> <p>第6回 青年期の発達と特徴</p> <p>第7回 成人期の発達と特徴</p> <p>第8回 老年期の発達と特徴</p>	<p>(科目の概要)</p> <p>人間の一生をかけての心身の発達過程を学ぶことから、人間とはそもそも何か。他の哺乳類と人間の違いは何か。そんな疑問に答える作業と講義から、いかに生きるかという哲学的テーマにも挑戦していく授業である。また、リハビリテーション医療にかかわる時に必須となる、運動の発達にも言及する。具体的な運動発達の過程を学び、実践することにより、運動発達の過程がリハビリテーションに応用できることを理解する基礎を形成する学問である。</p>

## 5) 社会福祉学

ご指摘を受け、社会福祉学の内容を再検討した結果、リハビリテーション職に必要な社会福祉の考え方を身に付けるものであったため、基礎科目ではなく、職業専門科目にするとともに、それが分かるよう科目概要を改める。

### 資料 7-7：シラバス（社会福祉学）

#### （新旧対照表）シラバス（授業計画）社会福祉学

新	旧
<p><u>（授業概要到達目標）</u>  <u>社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に着けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。</u></p> <p><u>（授業内容）</u>            第1回 <u>社会福祉の発展過程と現代社会での生活問題</u>            第2回 <u>社会福祉の理念と倫理 価値・援助者としての態度</u>            第3回 <u>少子高齢社会における共生</u>            第4回 <u>地域包括ケアシステムが目指すもの</u>            第5回 <u>医療福祉と多職種連携</u>            第6回 <u>在宅療養を支援する上でのコメディカルの役割 調べ学習と発表</u>            第7回 <u>健康長寿に向けてのコメディカルの役割 調べ学習と発表</u>            第8回 <u>地域福祉を推進する中でのコメディカルの役割 調べ学習とまとめ</u></p>	<p><u>（科目の概要）</u>            社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に着けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

#### 8. <展開科目の体系性が不明確>

展開科目を通じて、どのような能力を育成しようとしているのか、展開科目で修得する能力は育成する専門職業人にとって有意義な内容であるのかについて説明がないため、明確に説明すること。なお、展開科目に配置されたほぼ全ての科目が「地域共生・地域包括ケアシステムを学修する科目群」として4年次に配当されているが、養成する人材像を育成するために必要な科目が体系的に配置されているのか不明確なため、配当年次の妥当性についても併せて明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

展開科目を通じて養成する能力とその意義についての説明がないとのご指摘に対して、あらためて説明を加える。展開科目の配置が一部を除き、4年次となっていることに関し、再考したところ、早い年次から段階的に履修することで、より有意義に能力の修得が可能になると考え、配当年次を改めたため、配当年次順にその説明を行う。また、展開科目についてその見直しを行った結果、両学科とも、科目の新設と既存科目の単位の変更等を行うこととなったため、その説明を併せて行う。

### 1) 理学療法学科

#### (1) 展開科目を通じて養成する能力とその意義

理学療法学科では、我が国の健康寿命延伸、障害・疾病予防、健康増進の支援を通じて、「地域共生社会の実現に向けて地域住民を支援できる人材」を育成することを目的とした。そのため、展開科目を通じて、地域住民の身体活動に新たな支援展開（生涯スポーツ支援、地域支援、ヘルスポロモーション支援等）を創造できる能力を養成する。少子高齢化を迎えている我が国において、健康増進や障害・疾病予防は大きな意義がある。そのため、運動に係る専門職である理学療法士が早期から健康増進・予防を含めた広い視点、知識と技術を持つことは、将来の専門職としてのキャリア形成だけでなく、将来の日本の健康寿命延伸、健康増進に与える意義は大きい。

展開科目を通じ、上記の能力を養成するため、各年次で段階的な学修配置を行った。1・2年次では「地域共生社会の理解・地域展開」、3年次では「地域共生実現へのキャリア形成」、3・4年次では「地域共生実現のための方策と展開方法」を目的に科目の新設、再配置を行った。

#### ①1年次

1年次では、地域共生社会の実現に向けて、理学療法士が持ち合わせて置くべき資質・能力の一部を養う。その1つは、地域共生社会の実現に貢献することへの興味・関心であり、もう1つは、理学療法士の活躍の場が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域に存在するということを認識することである。この根幹を養うことで、多職種と連携して、地域住民を支援できる人材の基盤を築くことができる。

これらの内容を学修する科目として1年次前期に「生涯スポーツ論」を、1年次後期に「ボランティア論」及び「労働衛生論」を配置する。スポーツの継続、ボランティア活動への参加による健康寿命延伸、QOLの維持・向上への効果を学修することで、身体活動やボランティア活動が、地域社会への貢献につながることを理解する。また、同時に学生に地域社会に貢献することへの興味、関心を持たせるこ

とが可能となる。また、労働環境や労働者に生じる課題を学び、その環境の的確な変更が業務効率を改善し、ひいては地域経済の発展につながることを理解する。そして、その取組みに、理学療法士が関わることで職域の拡大につながることを理解する。これらの科目は、医学に関する知識がなくとも理解できるため、1年次に配当した。

## ②2年次

2年次では、現代社会が抱える課題に焦点を当て、どのような場面や状況で地域住民は支援を必要としているのかを学び、理学療法士がこれらの課題に対してどのように関わるのかを想像する能力を涵養する。この能力が養われることで、地域社会で理学療法士が必要とされていることを認識し、理学療法士が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域で活動できることを強く実感できるようになるという意義を持つ。

これらを学修する科目として2年前期に「子育て支援論」、「教育支援論」及び「災害支援論」を配置する。地域社会が子育て、教育、そして、災害問題においてどのような課題を抱え、どのような支援を必要としているのかを学ぶことで、この課題に対して理学療法士はどのような支援を行うことができるのかを思考できるようになる。また、理学療法士が様々な角度から地域住民のQOLの維持・向上に貢献できることを理解する。理学療法理論科目群や職業実践科目群と並行して学修することで、「理学療法に関する知識と技術の地域における活用」という視点を持ちながら、それらを学修することができるよう配慮した。

## ③3年次前期

3年次前期では、地域共生とは何かを具体的に実感してもらい、地域共生社会の実現に向けて、主体的に物事を考え・行動する能力を涵養する。この能力を養うことで、地域共生社会の実現に向けて、理学療法士としての知識や技術をどのように応用すれば、自分自身が地域社会のために役立つことができるかを考え・行動できるようになる。

そのために、3年次前期に「地域共生論」を配置する。地域共生社会の実現に向けて、地域で取組みを実践している理学療法士・作業療法士から、地域の現状の課題と対策方法を学ぶとともに、実際に施設を見学することで、現状の課題に対して理学療法士がどのように考え・行動すればよいかを思考できるようになり、理学療法士が健康寿命の延伸、QOLの維持・向上に貢献できることを理解する。

## ④3年次後期～4年次

3年次後期から4年次にかけては、医療分野や介護分野で理学療法士として働き続けるだけでなく、将来的には自らが主体となって、保健・福祉・スポーツ・就労等の分野において、地域住民の健康寿命延伸、QOLの維持・向上に貢献できるようになるための能力を涵養する。それによって、これらの分野で実際に何を提供できるかに関する知識と技術を身に付けることができる。

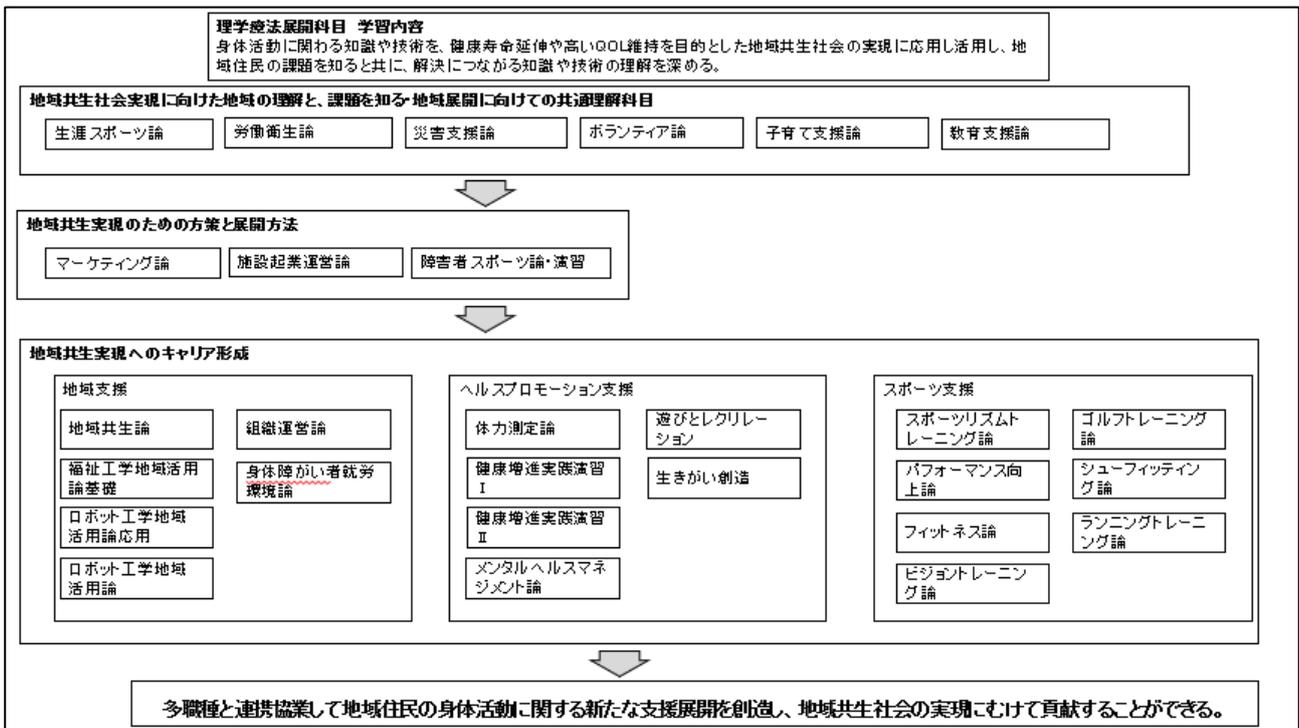
本学科では、地域社会における保健・福祉・スポーツ・就労等の分野の課題を知るとともに、解決につながる知識や技術を学修することを目的に、「ヘルスプロモーション支援」、「生涯スポーツ支援」及び「地域支援」の3つの履修モデルを用意する。これらの内容を教授する科目を、理学療法理論科目群や職業実践科目群の多くの科目の履修を終えた段階である3年次後期に配置した。履修モデルの詳細は是正事項2で詳述したとおりである。

また、医療・介護分野で働き続けるだけでなく、将来的には自らが主体となって、保健・福祉・ス

スポーツ・就労等の分野において、地域住民の健康寿命の延伸、QOLの維持・向上に貢献できるようになるためには、地域社会の現状をリサーチする能力や施設を起業し運営する能力が必要となる。したがって、これらの内容を教授する科目として、3年次後期に「マーケティング論」及び「施設起業運営論」を配置した。

障がい者の支援の一つに障がい者スポーツがある。スポーツは障害の有無に関わらず、人生の生きがいとなり健康寿命の延伸とQOLの維持・向上に大きく貢献する。特に障がい者に対する生きがいづくりの一つの選択肢としてその価値は大きく、彼らの身近にいる理学療法士が、スポーツを紹介できる意義は大きい。本学では、障害者スポーツについての理論と実際を学修することにより、必要に応じてスポーツを紹介できるようになるための科目を用意する。これらの内容を教授する科目として、3年次後期に「障がい者スポーツ論」を、4年次前期に「障がい者スポーツ論実習」を配置した。特に「障がい者スポーツ論実習」では、障がい者スポーツの楽しさを体感し、障がい者スポーツが健康寿命延伸やQOL維持・向上に役立つ手段の一つであることを、体験を通して理解する。

### 理学療法学科展開科目概念図



### (2) 科目の変更とその理由

本学科の養成する人材像は、理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、地域住民の思いに共感し、且つ多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を養成するというものである。また、それに加えて、理学療法士の専門性を活かすことにより、地域住民の健康寿命延伸とQOL維持・向上に貢献するために、医療分野や介護分野だけに留まらず、保健・福祉・スポーツ・就労等の分野においても地域共生社会の実現に向けた人材を養成するとしており、このような人材を養成するために、次の通り必要な科目を新たに新設するとともに、また現在の科目についても修正を行った。

### ①「生涯スポーツ論」の新設

地域社会に貢献することへの興味、関心を涵養することを目的で、生涯にわたりスポーツを継続することが、健康寿命の延伸、QOLの維持・向上に効果があるということを学ぶことで、身体活動を提供することが地域社会に貢献することができるということを理解してもらう。そこで、これらの内容を教授する科目として、必須科目として「生涯スポーツ論」を新設した。

### ②「労働衛生論」の新設

現代社会における労働環境や労働者に生じる問題について学ぶことで、労働環境や労働者が働くうえで良い状態に変化することが地域経済の発展につながることを理解できるようになる。労働環境や労働者が働くうえでよい状態に変化することに理学療法士が関わることができ、理学療法士の活躍の場が医療分野や介護分野だけではなく企業などにも存在し、理学療法士の職域が地域社会の広い領域に存在することを理解することができる。そこで、必須科目として、労働を取り巻く実情を知るために「労働衛生論」を新設した。

### ③「組織運営論」の新設

地域支援履修モデルでは、少子高齢化による労働人口問題に対応できる理学療法士ならびに、医療分野や介護分野以外で、理学療法の知識と技術を必要としている人に貢献できる理学療法士の養成と目的を改めた。そのため、卒業後に医療分野や介護分野で理学療法士として働き続けるだけでなく、将来的には自らが主体となって、地域社会に出ていき起業する人材を養成することも想定している。起業した際に考えなければならないこととして、組織の発展、及び、円滑な運営について学び、自らの成長だけでなく雇用者の人材の養成に努める義務があり、その素地となる科目として、地域支援モデルの選択科目として「組織運営論」を新設した。

### ④「身体障がい者就労環境論」の新設

地域支援履修モデルでは、少子高齢化による労働人口問題に対応できる理学療法士ならびに、医療分野や介護分野以外で、理学療法の知識と技術を必要としている人に貢献できる理学療法士の養成と目的を改めた。そのため、障がい者の就労環境を知り、障がい者の就労を促進できるための知識が必要であると考えた。よって、地域支援モデルの選択科目として「身体障がい者就労環境論」を新設した。

### ⑤「地域共生論」の単位変更

必須科目である「地域共生論」の中で、地域社会で暮らしている現状について学修し、孤立せずに地域の中でつながりを持つための課題について講義するだけでは、地域課題の発見に至る十分な能力を学修できないと考えた。そこで、その素地として福祉施設での見学を行い、どのような理念のもとに設立運営がなされているのかを理解することが必要と考えを改め、1単位から2単位へ単位の変更を行った。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) 授業科目の名称及び配当年次 (理学療法学科)

新		旧	
授業科目の名称	配当年次	授業科目の名称	配当年次
マーケティング論	3 後	マーケティング論	4 前
施設起業運営論	3 後	施設起業運営論	4 前
生涯スポーツ論	1 前	新設	
労働衛生論	1 後	新設	
子育て支援論	2 前	子育て支援論	4 前
災害支援論	2 前	災害支援論	4 後
教育支援論	2 前	教育支援論	4 前
メンタルヘルスマネジメント論	3 後	メンタルヘルスマネジメント論	4 前
地域共生論	3 前	地域共生論	4 前
障がい者スポーツ論	3 後	障がい者スポーツ論	4 通
障がい者スポーツ論実習	4 前	障がい者スポーツ論演習	4 通
スポーツリズムトレーニング論	3 後	スポーツリズムトレーニング論	4 前
体力測定論	3 後	体力測定論	4 通
健康増進実践演習	3 後	健康増進実践演習 I	4 通
健康増進実践実習	3 後	健康増進実践演習 II	4 通
パフォーマンス向上論	3 後	パフォーマンス向上論	4 通
フィットネス論	3 後	フィットネス論	4 通
ランニングトレーニング論	3 後	ランニングトレーニング論	4 通
ゴルフトレーニング論	3 後	ゴルフトレーニング論	4 通
ビジョントレーニング論	3 後	ビジョントレーニング論	4 通
遊びとレクリエーション	3 後	遊びとレクリエーション	4 通
生きがい創造	3 後	生きがい創造	4 通
伝承遊び	3 後	伝承遊び	4 通
シューフィッティング論	3 後	シューフィッティング論	4 通
福祉工学地域活用論	3 後	福祉工学地域活用論	4 通
ロボット工学地域活用論基礎	3 後	ロボット工学地域活用論基礎	4 通
ロボット工学地域活用論応用	3 後	ロボット工学地域活用論応用	4 通
身体障がい者就労環境論	3 後	新設	
組織運営論	3 後	新設	

## 2) 作業療法学科

### (1) 展開科目を通じて育成する能力とその意義

作業療法学科では、「地域共生社会の実現に貢献する人材」を育成することを目的とし、展開科目を通じて、地域住民（児童期、成人期、老年期）の生活課題に関する新たな支援展開を創造できる能力を養成する。人にとって、就労や余暇活動は、活動量の増加にさせるだけでなく、「生活の質」を向上させることに大きな意義を持ち、それは健康増進や障害・疾病予防に大きく貢献する。そのため、行為・活動に係る専門職である作業療法士が早期から就労と余暇活動を含めた広い視点、知識と技術を持つことは、将来の専門職としてのキャリア形成だけでなく、将来の日本の健康寿命延伸、健康増進に与える意義は大きい。

展開科目を通じ、上記の能力を養成するため、各年次で段階的な学修配置を行った。1年次では「地域共生社会の基本概念と現状の理解」、2年次では「地域展開に向けた共通理解」、3・4年次では「地域の課題発見・解決」を目的に科目の新設、再配置を行った。

#### ①1年次

1年次では、地域共生社会の実現に向けて、作業療法士が持ち合わせておくべき資質・能力の一部を養う。その1つは、地域共生社会の実現に貢献することへの興味・関心であり、もう1つは、作業療法士の活躍の場が、医療分野や介護分野だけではなく、地域社会の広い領域に存在するということを認識することである。それによって、多職種と連携して、地域住民を支援できる人材の基盤を築くことができる。

これらの内容を学修する科目として1年次前期に「地域社会共生論」及び「ボランティア論」を配置し、1年次後期に「地域社会共生論実習」及び「災害支援論」を配置する。「地域社会共生論」では、地域共生とは何かを学び、後期の「地域社会共生論実習」でその実際を体験する。これにより、地域社会が必要とする支援を理解する能力を修得する。また、「ボランティア論」では地域への貢献とは何か、どのような活動が地域社会への貢献につながるかを理解する。また、同時に学生に地域社会に貢献することへの興味、関心を持たせる意義がある。また、「災害支援論」緊急時の支援の基礎的な概念を学び、非日常的環境の中で人がどのような支援を求めるのかを理解する。1年次にこれらを学修することにより、作業療法士としての専門的知識を学修する目的を、明確にできると考える。これらの科目は、医学に関する知識がなくとも理解できるため、1年次に担当した。

#### ②2年次

2年次では、地域社会が抱える課題に焦点を当て、どのような場面や状況で地域住民が支援を必要としているのかを学び、作業療法士がこれらの課題に対してどのように関われるのか、何を支援できるのかを想起する能力を涵養する。この能力が養われることで、地域社会で作業療法士が必要とされていることを認識し、作業療法士が、医療・介護分野だけではなく、地域社会の広い領域で活動できることを実感できるようになるという意義を持つ。

これらを学修する科目として2年前期に「子育て支援論」及び「メンタルヘルスマネジメント論」を、2年後期に「教育支援論」及び「マーケティング論」を配置した。ここでは、子育てについての概要を学修し、子どもとのかかわり方、子どもの力を引き出すためのかかわり方を学び、子どもに対するかかわり方と作業を用いた支援の在り方を結びつける基礎知識とする。また、後期の「教育支援論」で学ぶ、学校とはそもそも何か、学校内での支援の在り方、現状の課題を学ぶ。これにより、作業療法士が支援

できる課題を見極める能力を修得させる意義がある。「メンタルヘルスマネジメント論」では個人のストレス耐性について学び、企業組織の中の従業員として働く中でのストレスとストレスナーについて学ぶ。これにより、作業療法士が現状の企業組織の中での課題に対して、支援できることを理解する。「マーケティング論」では組織に所属する多くの人々、地域の人々の支援の需要をどのように把握するかを学ぶ。作業療法士として、地域の需要を自ら発見する能力の基礎となる。

また、作業療法士が様々な角度から地域住民の QOL の維持・向上に貢献できることを理解する。作業療法理論科目群や職業実践科目群と並行して学修することで、「作業療法に関する知識と技術の地域における活用」という視点を持ちながら、それらを学修することができるよう配慮した。

### ③ 年次前期

3 年次前期では、安定して組織運営を行うための方法論や課題について学修する。「施設起業運営論」において、組織運営の持続可能な要素について学び、そこから課題を発見する能力を養う。そして、その課題に対する解決策を思考する能力を養う。また、将来自身が起業する場合の基礎知識とすることで、施設運営などに行かせる能力を養う。これにより、作業療法士が組織という環境に着目して支援する基盤とするために配置した。これにより地域住民の QOL の維持・向上につなげる。

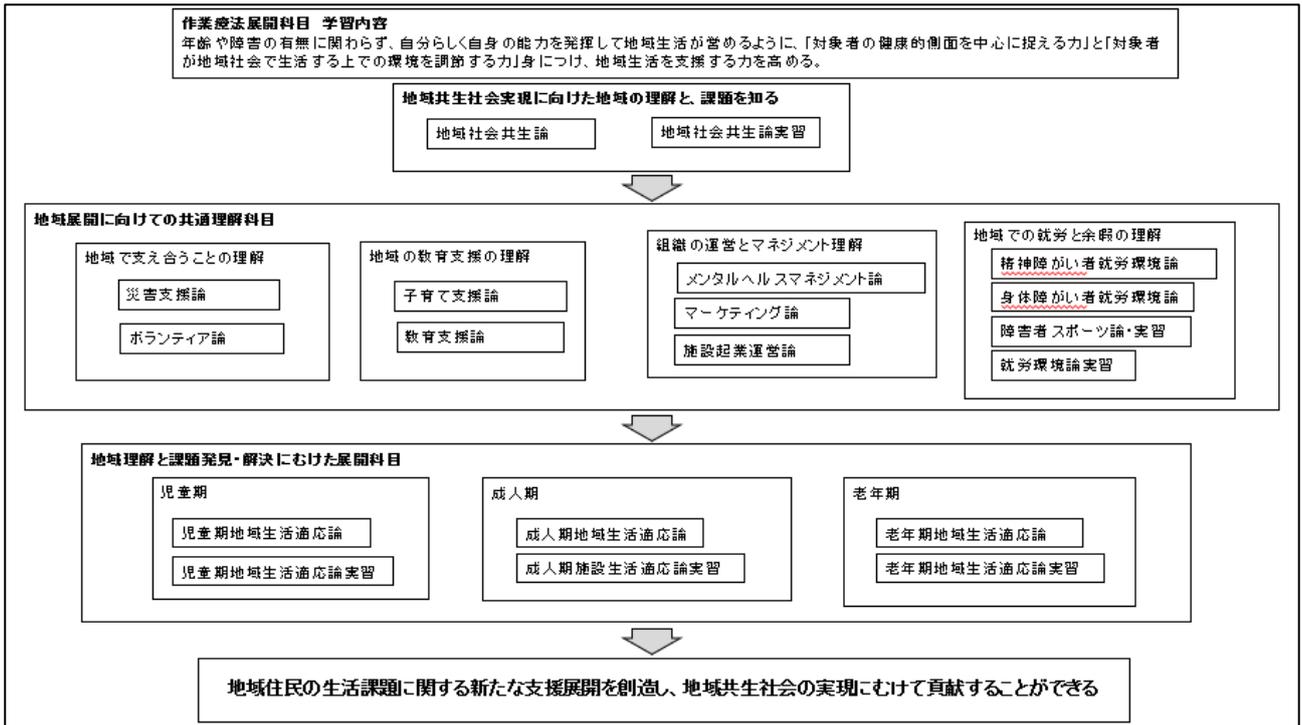
### ④ 3 年次後期～4 年次前期

3 年次後期から 4 年次にかけては、医療・介護分野で作業療法士として働き続けるだけでなく、将すべての年代に共通する活動として、就労と余暇活動に焦点を当てる。就労に対して、「精神障がい者就労環境論」及び「身体障がい者就労環境論」の 2 科目で、障害を持った方の就労環境とはどのようなものかを知り、課題を解決する理論を学修する。障がいの就労環境とその改善理論を学修したのちに、「就労環境論実習」において、実際の現場で課題を発見し、その課題を解決する能力を養う。

余暇活動に対して、「障がい者スポーツ論」「障がい者スポーツ論実習」を学修する。スポーツは障害の有無に関わらず、人生の生きがいとなり健康寿命の延伸と QOL の維持・向上に大きく貢献する。特に障がいの社会参加の選択肢としてその価値は大きく、彼らの身近にいる作業療法士が、スポーツを提案する必要がある。また、スポーツをとおして余暇活動、すなわち自分らしい時間の使い方を見つけるきっかけを作る能力の基礎とするために配置した。

本学科では、地域社会における保健・福祉・スポーツ・就労等の分野の課題を知るとともに、解決につながる知識や技術を学修することを目的に、「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」の 3 つの履修モデルを用意する。これらの内容を教授する科目を、作業療法理論科目群や職業実践科目群の多くの科目の履修を終えた段階である 3 年次後期に配置した。履修モデルの詳細は是正事項 2 で詳述したとおりである。

## 作業療法学科展開科目概念図



### (2) 科目及び科目名称等の変更とその理由

本学科の養成する人材像は、作業療法士として、子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成するというものである。また、それに加えて、作業療法士の専門性を活かすことにより、地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成するとしており、このような人材を養成するために、下記の通り必要な科目を新たに新設し、また現在の科目についても修正を行った。

#### ①身体障がい者就労環境論

地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる作業療法士を養成するため、身体障がい者の就労環境を知り、身体障がい者の就労を促進するための知識が必要であると考えた。よって、展開科目の必修として身体障がい者就労環境論を新設した。

#### ②科目名称変更

再度展開科目の体系性を考えた結果、単位数及び授業概要・シラバス内容に変更はないが、科目名称でより科目の意図がわかるよう科目名称を変更した。

「精神障がい者就労環境論」

心理精神企業適応論より変更する。特に精神障がい者に係る就労実態、環境、課題等を教授する。

「就労環境論実習」

心理精神企業適応論実習より変更する。障害者が就労している場面での実態、環境、課題等の体験型実習を行う。

### ③必修科目及び選択科目の変更

申請時の展開科目の考え方として、学生の興味関心の幅を広げる意図もあり学生自ら主体的に考え科目を選択する方向で考えたが、改めて作業療法学科の人材養成像として、子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成するというものであり、それに加えて、作業療法士の専門性を活かすことにより、地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成すると改めた。そのため作業療法学科の展開科目では、地域共生社会の実現に向けて、多職種と連携して支援展開に向けた知識に加え、作業療法関連分野である地域の児童・成人・高齢期分野に関する知識と現状の理解について学修する。作業療法士として、多職種と連携し、地域住民の生活活動に関する新たな支援展開を思考し、地域共生社会の実現に向けて貢献できるよう次の科目を選択科目から必修科目として変更した。

「マーケティング論」、「施設起業運営論」、「ボランティア論」、「子育て支援論」、「災害支援論」、「教育支援論」、「メンタルヘルスマネジメント論」、「障がい者スポーツ論」、「障がい者スポーツ論実習」、「就労環境論実習」

また、各年齢層からみた地域社会の理解を深めるために「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」を設けており、学生の主体的な学修と卒業後の進路を見据えて、体験を通じて学ぶ実習科目として「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」を配置し、各時期の「地域生活適応論」及び「地域生活適応論実習」を対として選択するものとした。そのため、「児童期地域生活適応論」、「成人期地域生活適応論」及び「老年期地域生活適応論」の科目を必修科目から選択科目として変更した。

つまり、児童期に興味関心があり卒業後の進路の方向性を考える場合は、「児童期地域生活適応論」「児童期地域生活適応論実習」を同時に選択することとなり、成人期を考える場合は、「成人期地域生活適応論」「成人期地域生活適応論実習」、老年期の場合は、「老年期地域生活適応論」「老年期地域生活適応論実習」と選択することによって、興味関心を持った年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業を手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) 授業科目の名称及び配当年次 (作業療法学科)

新			旧		
科目名称	配当年次	必・選	科目名称	配当年次	必・選
マーケティング論	<u>2</u> 後	<u>必修</u>	マーケティング論	4前	選択
施設起業運営論	<u>3</u> 前	<u>必修</u>	施設起業運営論	4前	選択
ボランティア論	<u>1</u> 前	<u>必修</u>	ボランティア論	4後	選択
子育て支援論	<u>2</u> 前	<u>必修</u>	子育て支援論	4前	選択
災害支援論	<u>1</u> 後	<u>必修</u>	災害支援論	4後	選択
教育支援論	<u>2</u> 後	<u>必修</u>	教育支援論	4前	選択
メンタルヘルスマネジメント論	<u>2</u> 前	<u>必修</u>	メンタルヘルスマネジメント論	4前	選択
障がい者スポーツ論	<u>3</u> 後	<u>必修</u>	障がい者スポーツ論	4通	選択
障がい者スポーツ論実習	<u>4</u> 前	<u>必修</u>	障がい者スポーツ論演習	4通	選択
地域社会共生論	<u>1</u> 前	必修	地域社会共生論	4前	必修
地域社会共生論実習	<u>1</u> 後	必修	地域社会共生論実習	4前	必修
精神障がい者就労環境論	<u>3</u> 後	必修	心理精神企業適応論	4前	必修
身体障がい者就労環境論	<u>3</u> 後	必修	新設		
就労環境論実習	<u>4</u> 前	<u>必修</u>	心理精神企業適応論実習	4前	選択
老年期地域生活適応論	<u>3</u> 後	選択	老年期地域生活適応論	4前	必修
成人期 <u>地域</u> 生活適応論	<u>3</u> 後	選択	成人期施設生活適応論	4前	必修
児童期 <u>地域</u> 生活適応論	<u>3</u> 後	選択	児童地域生活適応論	4前	必修

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

9. <総合科目の必要性等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (1) 「理学療法総合演習／作業療法総合演習Ⅰ・Ⅱ」の授業内容は、総合科目の目的である「修得した知識及び技能等を総合し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させる」ことが実現できる授業計画とは認められないため、適切に改めること。

(対応)

「理学療法総合演習／作業療法総合演習Ⅰ・Ⅱ」について、職業専門科目における知識のみを統合する内容となっており、ご指摘のとおり不適切であったため、基礎科目を基盤として職業専門科目と展開科目を総合することによって、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを企図し、それぞれ次のように改める。

1) 「理学療法総合演習」

理学療法総合演習について、申請時点のシラバスにおいては、国家試験対策を中心とした基礎科目、職業専門科目における知識のみを統合する内容となっており、ご指摘のとおり、総合科目の定義に合致していなかった。そのため、基礎科目を基盤として、職業専門科目と展開科目を総合し、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを企図した授業計画に改めた。

本科目では、理学療法学科の特色である履修モデルの3分野、「ヘルスポモーション支援」、「生涯スポーツ支援」及び「地域支援」で学んだことと、各関連領域での実習から得た知識と技術を用いて、地域が抱える「予防」及び「健康づくり」等の課題に対し、理学療法士としてどのようにアプローチするのかをディスカッションを通して考えを深めたうえで、どのようなプロジェクトを企画、実施するのかについてプレゼンテーションを行う。テーマの決定に関しては、展開科目で選択した分野が基盤となり、その分野の中から学生自身が地域住民の課題を決定し、加えて、その課題解決の方法についてこれまで職業専門科目で学んだことを交え、実施計画を策定する。以上の演習を通じて、DP4に該当する「問題を発見し、解決する能力」とDP5に該当する「応用力」を涵養する。本科目は、理学療法士としてのキャリア形成につなげることを意図しており、配当年次は、これまで学修してきた内容のまとめの科目となるため、4年次後期に配置する。

資料 9-1：シラバス（理学療法総合演習）変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 理学療法総合演習

新		旧	
授業概要到達目標	<p>本科目では、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え、学ぶ授業である。地域が抱える課題については、各自が選択した分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画する。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてる。それをもとに、グループワークを行い、理学療法と隣接領域での知識、技術を融合し、それを地域社会の中で応用し活用できる力を育成する。</p>	授業概要到達目標	<p>本科目では解剖学・生理学・運動学など理学療法士としての重要な基礎科目と、整形外科学・神経内科学・内科学などの各種疾患学、さらには理学療法士としての治療学(運動療法・物理療法・義肢装具学など)をそれぞれ関連付けることを目標とする。学生の中で関連付けができておらず、ばらばらの知識として習得されている知識群を、それぞれ関連性を見つけて、実際の臨床で使える知識へと変換していく過程を作り出す。主として想定した患者(映像などを使用)について、各知識をどう使うかをグループワークも行いながら、知識の拡大を図る。最後に教員が解答を与えることにより、正解と不正解を学習させていく。各科目の知識の復習と知識の統合を目標とし、理学療法士国家試験に合格でき、臨床現場で活躍できる力を育成する。</p>

## 2) 「作業療法総合実習Ⅰ」(作業療法総合演習Ⅰ)

「作業療法総合演習Ⅰ」について申請時点のシラバスでは、職業専門科目のうち作業療法理論科目群である「解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」及び「生理学Ⅰ・Ⅱ」等によって学んだ基礎医学に関する知識と、職業実践科目群の「作業療法評価学総論」及び「身体／精神／発達障害評価学実習」等によって学んだ作業療法士が行う評価に関する知識とを統合し、総復習する科目としていた。ご指摘のとおり職業専門科目の知識のみを総合する科目となっていたため、総合科目の定義に合致せず、不適切であったため、改めた。

本科目では、本科目の到達目標は、「作業療法の評価技術を応用・活用することで、地域住民が自身の能力を発揮し、健康的に暮らしていく上で、それを阻害する生活課題を発見し、その構造と問題点を導き出すことができるようになること」とし、展開科目の「児童期地域生活適応論実習」、「成人期地域生活適応論実習」及び「老年期地域生活適応論実習」の履修者ごとにグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理し、構造化とその分析を行うことで、各ライフステージの生活の課題とその問題点を導き出すための考えた方を学修する。以上の実習を通じて、DP4に該当する「問題を発見し、解決する能力」とDP5に該当する「応用力」を涵養する。本科目は、作業療法士としてのキャリア形成につなげることを意図しており、配当年次は、これまで学修してきた内容のまとめの科目となるため、4年次後期に配置する。

なお、科目名称である「作業療法総合演習Ⅰ」は、是正項目12でご指摘をうけたように、授業形態の設定の考え方を明確にし、それに基づいて科目名称を検討した結果、授業が事例の検討とそのフィー

ドバックを通して実践に向けた思考力を養うといった内容であることから、授業形態を演習ではなく実習とした。それに合わせて、本科目の名称を「作業療法総合演習Ⅰ」から「作業療法総合実習Ⅰ」へ改めた。

資料 9-2：シラバス（作業療法総合実習Ⅰ）変更後・変更前

（新旧対照表）シラバス（授業計画）作業療法総合実習Ⅰ

授業概要到達目標	<p><u>これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのか発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。</u></p>	授業概要到達目標	<p>専門基礎科目を総合的に復習し、知識をつなげて理解することを目標とする。内容は、解剖・運動・生理学といった専門基礎、各種疾患の病態、作業療法で行う検査・測定などの評価がつながることを再認識できるように学習する。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の基礎医学知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。</p>
----------	--	----------	---

3) 作業療法総合実習Ⅱ（作業療法総合演習Ⅱ）

作業療法総合演習Ⅱについて、申請時点のシラバスにおいては、各種疾患の病態に関する基礎医学知識、作業療法評価（検査・測定など）及び治療・支援に関する知識を繋げ、職業専門科目で履修した内容を総復習する科目としていた。ご指摘のとおり総合科目の定義に合致せず、不適切であったため、改めた。

本科目では、ゲストスピーカー（脳卒中後の片麻痺者、脊髄損傷者、脳性麻痺者）の講話から、学生自身が行う面接や情報収集を経て、生活障がい者として地域の中で暮らす方々がその能力を十分に発揮し、地域社会に参加していくことの弊害となる課題を抽出し、作業療法学だけではなく近隣領域等、他分野からの学びを参考にしながら、課題解決のための具体策を検討する。以上の実習を通じて、DP4に該当する「問題を発見し、解決する能力」とDP5に該当する「応用力」を涵養する。本科目は、作業療法士としてのキャリア形成につなげることを意図しており、配当年次は、これまで学修してきた内容のまとめの科目となるため、4年次後期に配置する。

なお、科目名称である「作業療法総合演習Ⅱ」は、是正項目12のご指摘を受け、授業形態の設定の考え方を明確にし、それに基づいて科目名称を検討した結果、授業が事例の検討とそのフィードバックを通して実践に向けた思考力を養うといった内容であることから、授業形態を演習ではなく実習に改めた。それに合わせて、本科目の名称を「作業療法総合演習Ⅱ」から「作業療法総合実習Ⅱ」へ改めた。

資料 9-3 : シラバス (作業療法総合実習Ⅱ) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 作業療法総合実習Ⅱ

<p>授業概要到達目標</p>	<p><u>本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺、切断等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し作業療法士としての対応策の提案ができる応用力を育成する。</u></p>	<p>授業概要到達目標</p>	<p>作業療法専門分野を総合的に復習し、専門基礎科目を含めて知識をつなげて理解することを目標とする。授業内容は、各種疾患の病態とその生活像が作業療法評価や治療とつながるよう学習を行う。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の作業療法の実践的知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。</p>
-----------------	--	-----------------	--

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

9. <総合科目の必要性等が不明確>

総合科目の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (2) 「シンメディカル論」では、チームアプローチの実際について学修すること目的に、理学療法学科と作業療法学科の学生全員（120名）が同時に受講することを計画しているが、シラバスを確認しても講義や演習に係る具体的な活動内容が十分に明示されておらず、教育効果を上げるために、どのような授業が展開されるのか不明確であるため、明確に説明すること。

(対応)

「シンメディカル論」について「具体的な活動内容と教育効果をあげるためにどのような授業展開がされるのか明確に説明すること」とのご指摘であるが、本科目は、既設の大学（藍野大学）で行なっている授業科目を、本学に適した内容に変更をし、総合科目に配置したものである。是正事項1の「既設の大学との違いを明確にすること」との指摘を踏まえると、本科目をそのままの内容で行うことは不適切であると判断したため、具体的な活動内容等の説明を行うのではなく、科目の名称及び内容を改め、その具体的な活動内容について説明を行う。

### 1) 当初予定していた科目の主旨と変更理由

シンメディカルとは、本法人が提唱している理念であり、「看護、理学療法、作業療法を含む医療、福祉、保健の専門家が一緒になり（Sym）、シンフォニーを奏できるように協力して患者さん中心の医療（Medical）を行うことが重要である」との考えを指し、「シンメディカル論」もこの考えに依拠した科目となる。この度、既設の大学（藍野大学）との養成する人材像の違いを明確にした際、保健・福祉・スポーツ・就労等、医療以外の分野で活躍する理学療法士・作業療法士の養成を掲げることとしたため、「患者さんを中心とした医療専門職の協力・協働」の在り方を学ぶ本科目を総合科目として行うのは不相当であると判断した。

### 2) 科目名称等

本科目の名称について「シンメディカル論」から「協働連携論総合実習」へ改める。

なお、配当年次（4年次後期）、科目区分（必修科目）及び、理学療法学科、作業療法学科の学生全員（120名）を対象とする点は、申請時と同様とする。

### 3) 授業の概要・実施計画

地域で生活している障がい者（脳卒中後の片麻痺者、脊髄損傷者、脳性麻痺者）をゲストスピーカーとして招き、生活状況の現状をお話しいただく。入院生活時の状況と現在の生活状況を対比し、病院等から家庭に帰り生活者となることによって、新たな生活課題に直面した状況を理学療法学科、作業療法学科の学生に提示する。本科目は、ゲストスピーカーの講話を題材として、理学療法学科、作業療法学科の学生が一緒になり、生活課題の発見と解決策を導き出すプロセスを通じて、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目的とする。

#### 4) 実施方法

講義中心の一方向性の授業では、教員と学生あるいは学生同士が意見交換を行うことが難しいため、学修した知識と技術を実践できるようにするため、少人数でのグループを構成し、学科の異なる学生同士あるいは教員、同じ学科同士の学生あるいは教員とが議論を行う中で授業を展開する。

理学療法学科 80 名、作業療法学科 40 名の合計 120 名を各学科 4 グループに分け、理学療法学科 20 名、作業療法学科 10 名の合計 30 名を 1 教室の構成人数とする。さらに、理学療法学科 3 名、作業療法学科 2 名の 5 名を 1 グループとし、1 教室を 6 グループ構成とすることで、小グループでのグループディスカッションができる環境を設定する。なお、1 教室には学科の異なる担当教員及び補助教員（科目担当以外の専任教員）の 2 名を配置する。

教室ごとにゲストスピーカーに講演いただいた直後に、質問時間を設けることで、素早く講演内容の理解をさせる。授業後、グループのメンバーと再度講演内容を吟味し、再質問項目を考えることでグループ間での考え方の共有を促す。その上で、再度教室全体での質問時間を設ける。このように個人からグループへ、そして教室全体へと広がっていくことで、問題の共有化を図る。続いて、1 グループ内で同じ学科の 2～3 名の学生に分かれ、意見を出し合える状況を作り、所属学科の専門的な観点から問題点やその問題へのアプローチ方法を考え、まとめる。それをグループ毎に発表することによって、新たな発見が生まれる状況を作り出す。その発表後に、質疑応答時間を設けることで、さらに吟味する時間を設ける。その後、同一グループに戻り、地域で生活している障がい者の生活課題の解決案を分析・考察する。最終的に、再度各教室担当のゲストスピーカーに対して、プレゼンテーションを行い、フィードバックをいただくことで、思考を深める。以上の方法により、理学療法士・作業療法士としての実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させることを目指す。

資料 9-4：シラバス（協働連携論総合実習）変更後・変更前

（新旧対照表）シラバス（授業計画）協働連携論総合実習 授業概要到達目標

新		旧	
授業概要到達目標	<p>リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障がい者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障がい者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障がい者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。</p>	授業概要到達目標	<p>リハビリテーションの分野で共通する症状、障害をテーマに実際の症例を想定して、チームアプローチの実際について討議・学習する。理学療法・作業療法の専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える提示症例に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際の症例を想定し、各分野の専門性をもとにシンメディカルの理念を実現するための方法について学び、当事者主体の原理に立ったチームアプローチ法を検討・理解する。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

10. <単位設定の考え方が不明確>

大学から示された主要授業科目をはじめ、教育課程上、1単位の科目が散見されるが、各科目の単位設定の考え方が説明されておらず、到達目標に照らして、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されているのか不明確なため、各科目の単位設定の考え方を明らかにした上で、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されていることを明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

ご指摘のとおり、理学療法学科、作業療法学科ともに、1単位の科目が多く、各科目の単位設定の考え方についても十分な説明ができていない。そのため、まず、1単位の科目が多い理由、次に理学療法学科、作業療法学科の全体的な単位設定の考え方を説明し、その上で各科目の単位設定の考え方を明確にし、その妥当性を説明する。

### 1) 1単位の科目を多く設定した理由

1単位の科目を多く設定した理由は次のとおりである。

本学では、科目の内容に合わせて、講義では1単位15時間から30時間、演習及び実習では1単位30時間、臨地実務実習では1単位45時間と設定している。

特に理学療法、作業療法を学修する上での基礎となる科目及び演習、実習、臨地実務実習に直接関係する科目では、学修すべき内容が多く、多くの時間を必要とするため、1単位30時間と設定した。

一般の大学では、講義においては2単位30時間の科目設定が一般的であるが、2単位30時間の内容を1単位30時間とし、本学では授業内でより丁寧な指導を行うために、科目数を増やすことで学生の理解を深めることとした。そのため、1単位の科目が多いが、決して授業時間が短いわけではなく、むしろ同等の科目においては2倍の時間をかけており、授業時間内で、学修成果を上げられるように工夫している。

授業時間外の学修時間についても、本学の教育課程では平均して各期20単位程度を履修する。

時間割上では、学生は1日6時間(3コマ程度)の履修をすることになる。このため、授業時間外の学修は1日2時間から3時間、週末に3時間程度を行うことで、講義及び授業時間外の学修を合わせた1単位45時間の学修は十分に可能であり、1単位の科目は多いが、時間外の学修を阻害するような単位及び科目設定とはなっていない。

また、科目数が多いことで、成績評価が細項目となるため、成績が詳細に分析でき、学生の状況が把握しやすくなり、適切な指導を行うことができると考えている。

### 2) 全体的な単位及び時間数についての考え方

#### (1) 専門職大学設置基準に基づく単位及び時間数の考え方

専門職大学設置基準第14条第2項第1号から第3号に基づき、講義、演習及び実習の時間を、本学学則で定めている。

## (2) 学則に基づく単位及び時間数の考え方

本学の単位及び時間に関しては、学則第 13 条で次のとおり定めている。

(単位の計算方法)

第 13 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 演習については、15～30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技等については、30～45 時間をもって 1 単位とする。
- (4) 1 の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち、2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準を考慮して教授会の定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- (5) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、単位数を定めることができる。

以上に基づき、次のように設定をした。

講義の基礎科目、展開科目については、1 単位 15 時間

講義の職業専門科目については、1 単位 15 時間または 30 時間

演習・実習に関しては、1 単位 30 時間

臨地実務実習に関しては、1 単位 45 時間

この度のご指摘を受け、再度授業科目の単位数及び時間数の検討を両学科行った。

### ①理学療法学科

「体育」は、是正事項 1 2 の指摘を受け、授業形態に関する考え方を見直した結果、授業形態が「講義」ではなく、実習であったため、時間数を 15 時間から 30 時間に改めた。「基礎理学療法学Ⅲ」も同様、授業形態が実習中心となるため、時間数を 15 時間から 30 時間に訂正し、科目名も「基礎理学療法学実習Ⅰ」に変更した。「徒手理学療法学」は、授業形態が講義と実習を 1 科目の中に含めていたが、講義と実習を分けることで学生が理解しやすく学修できると考え、「徒手理学療法学」を講義 1 単位に、新たに「徒手理学療法学実習」1 単位を設定した。「地域共生論」は、地域住民の暮らしにおける課題を発見する基礎になる科目であり、展開科目の中で重要な科目となるため、より広い範囲の学びを進めるべきであると考えを改め、1 単位から 2 単位に変更した。「協働連携論総合実習」(申請時:「シンメディカル論」)についても、是正事項 1 2 の指摘を受け、授業形態に関する考え方を見直した結果、講義から実習に改めたため、時間数を 30 時間から 60 時間に変更した。

(新旧対照表) 理学療法学科

新				旧		
	授業科目の名称	単位	1 単位当たりの時間数	授業科目の名称	単位	1 単位当たりの時間数
1	体育	1	30	体育	1	15
2	基礎理学療法学実習 I	1	30	基礎理学療法学Ⅲ	1	15
3	徒手理学療法学	1	15	徒手理学療法学	2	15
4	徒手理学療法学実習	1	30	新設	—	—
5	地域共生論	2	15	地域共生論	1	15
6	協働連携論総合実習	2	30	シンメディカル論	2	15

②作業療法学科

作業療法学科においては、臨地実務実習である「作業療法評価実習」及び「作業療法士総合臨床実習 I・II」について実習内容を検討し、見直したことから、単位数のみ変更した。詳細は、是正 15 (1) にて詳述する。また、「体育」と「協働連携論総合実習」は、申請時、講義科目としていたが、是正事項 1 2 の指摘を受け、授業形態に関する考え方を見直した結果、「体育」及び「協働連携論総合実習」(旧：シンメディカル論) は、是正事項 1 2 の指摘を受け、授業形態を講義から実習に改めた結果、1 単位 15 時間から 1 単位 30 時間に変更した。

(新旧対照表) 作業療法学科

新				旧		
	授業科目の名称	単位	1 単位当たりの時間数	科目名称	単位	1 単位当たりの時間数
1	体育	1	30	体育	1	15
2	作業療法評価実習	5	45	作業療法臨床評価実習	3	45
3	作業療法総合臨床実習 I	7	45	作業療法臨床総合実習 I	8	45
4	作業療法総合臨床実習 II	7	45	作業療法臨床総合実習 II	8	45
5	協働連携論総合実習	2	30	シンメディカル論	2	15

3) 各授業科目の単位及び時間数についての考え方

各科目の単位数及び時間数の考え方は資料 10-1、10-2 の通りであり、十分な学修効果を得られる学修時間が確保されているものと考えている。

資料 10-1：各授業科目の単位及び時間数についての考え方 (理学療法学科)

資料 10-2：各授業科目の単位及び時間数についての考え方 (作業療法学科)

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科  
共通】

1 1. <コース・領域の運用計画が不明確>

3つのコース・領域を設けて、それぞれの方向性や領域において、地域社会に貢献できる理学療法士・作業療法士を育成すると説明しているが、コース・領域に関する学生への履修指導の方法についての説明がないほか、養成する人材像ごとの履修モデルの提出もなく、学生に対して、いつ・どのように3つのコース・領域の履修指導を実施するのか不明確である。養成する人材像ごとの履修モデルを明らかにした上で、学生に対する3つのコース・領域の履修指導をいつ・どのように実施するのか明確に説明すること。この際、特定のコース・領域に学生が集中した場合の対応方針についても併せて説明すること。【2学科共通】

(対応)

1) 履修モデル

是正事項2に記載のとおり、検討を行った結果、理学療法学科、作業療法学科で養成する人材像はあくまで1つずつであり、3つのコース・領域ごとに異なる人材を養成するわけではないため、それぞれ3つの履修モデルとして再定義する。そのうえで、3つの履修モデルは資料11-1、11-2のとおりとする。

資料11-1：履修モデル（理学療法学科）

資料11-2：履修モデル（作業療法学科）

2) 履修指導の方法

学生への履修指導の方法については、履修ガイダンスを学科ごとに「入学時ガイダンス」と「2年次後期ガイダンス」の2回に分けて丁寧に行う。

(1) 入学時ガイダンス

入学時ガイダンスは、入学式終了後に、各学科長が入学生に対して行う。まず、学科における人材の養成に関する目的とディプロマ・ポリシーについて分かりやすく説明した後に、教育課程全体の説明を行う。その際、3つの履修モデルの趣旨と違いの説明を行う。履修モデルの分化は3年次より発生するため、2年次後期のはじめに希望（第1希望と第2希望）を聞き、3年次前期のはじめに結果を公表することを伝える。各学科の人材の養成に関わる目的を達成するためには、それぞれの履修人数を均等に配置することが相応しいと考えるため、学生の希望と2年次後期時点の累積GPAを参考に、偏りが生じないように振り分けることも伝える。

よって、入学時ガイダンスにおいて希望が必ず通るわけではないこと、希望の履修モデルに配置されるためには優秀な成績が鍵となるため1年次から学修に励むべきことを伝える。

(2) 2年次後期ガイダンス

2年次後期ガイダンスにおいては、履修モデルの違いについて改めて担任からその説明を行い、希望を記入する用紙を配布し、当年の12月末までに、事務部教務課まで提出するように指示をする。併せて再度、各履修モデルの人数は均等に割り振りすることを伝え、希望と2年次後期時点の累積GPAを基に振り分けることについて説明を行う。希望が必ず通るわけではないこと、希望の履修モデルへの配

置を達成するためには、2年次後期にさらなる成績向上を目指し学修に励むべきことを伝える。

設置の趣旨等を記載した書類 p.76～77 ページ

新	旧
<p>学生が、本学の授業を通じて、必要な能力を習得できるように、本学の教職員は、様々な方法で、その履修指導を行う。まず、入学時に行うオリエンテーションにおいて、事務職員より履修の方法及び卒業要件等についての説明を行い、<u>履修モデルについての説明を含め「入学時ガイダンス」としてそれぞれの学科より行う。</u>また、学生が履修上の不明な点等について聞けるように、授業の開講期間は、事務室の窓口にて、その対応を行う。理学療法学科及び作業療法学科ともに、担任制をひくため、担当教員が、適宜それらについて指導を行うとともに、オフィス・アワーを用意し、その指導時間としても活用する。<u>加えて、「2年次後期ガイダンス」を学科ごとに行い、履修モデルについて2回に分けて丁寧に行う。以下に、その詳細を記載する。</u></p> <p><b>①入学時ガイダンス</b></p> <p><u>入学時ガイダンスは、入学式終了後に、学内において各学科長が入学生に対して行う。まず、学科における人材の養成に関する目的とディプロマ・ポリシーについて分かりやすく説明した後、教育課程全体の説明を行う。その際、3つの履修モデルを設けていること及びそれぞれの趣旨と違いの説明を行う。履修モデルの分化は3年次より発生するため、2年次後期のはじめに希望（第1希望と第2希望）を聞き、3年次前期のはじめに結果を公表することを伝える。各学科の人材の養成に関わる目的を達成するためには、それぞれの履修人数を均等に配置することが相応しいと考えるため、偏りが生じないよう学生の希望と2年次後期時点の累積GPAを参考に振り分けることも伝える。</u></p> <p><u>よって、入学時ガイダンスにおいて希望が必ず通るわけではないこと、及び希望の履修モデルに配置されるためには優秀な成績が鍵となるため1</u></p>	<p>学生が、本学の授業を通じて、必要な能力を習得できるように、本学の教職員は、様々な方法で、その履修指導を行う。まず、入学時に行うオリエンテーションにおいて、事務職員より履修の方法及び卒業要件等についての説明を行う。また、学生が履修上の不明な点等について聞けるように、授業の開講期間は、事務室の窓口にて、その対応を行う。理学療法学科及び作業療法学科ともに、担任制を取るため、担当教員が、適宜それらについて指導を行うとともに、オフィス・アワーを用意し、その指導時間としても活用する。</p>

年次から学修に励むよう伝える。

### ②2年次後期ガイダンス

2年次後期ガイダンスにおいては、履修モデルの違いについて改めて担任からその説明を行い、希望を記入する用紙を配布し、当年の12月末までに、事務部教務課まで提出するように指示をする。併せて再度、各履修モデルの人数は均等に割り振りすることを伝え、希望と2年次後期時点の累積GPAを基に振り分けることについて説明を行う。希望が必ず通るわけではないこと、及び希望の履修モデルへの配置を達成するためには、2年次後期にさらなる成績向上を目指し学修に励むよう伝える。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

## 1 2. <授業形態の設定が不明確>

実験、実習又は実技による授業科目一覧(別記様式第2号(その2の4))で掲げられた各科目について、シラバスや教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))を確認したところ、シラバス等では講義又は演習の内容となっているにもかかわらず、実験、実習又は実技による授業科目一覧(別記様式第2号(その2の4))では「実技」としており、不整合が生じているため、各科目の授業内容を再度確認するとともに、適切な授業形態に修正すること。なお、修正に当たってはどのような考え方で授業形態を設定したかが確認できるよう、該当する科目のシラバスとともに、授業形態の設定の考え方を明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

本学において、「学内で行う実習」のことを演習、「学外で行う実習」のことを実習とし、申請書類の作成を行っていた。実験、実習又は実技による授業科目一覧(別記様式第2号(その2の4))で掲げた科目名称の末尾が演習である科目について、以上の考え方より、授業形態を実習とするのは、不適切であると判断し、止む無く、「実技」としていた。ご指摘を受け、本学として講義、実習、演習の定義を次のとおり定めた。そのうえで、全ての開設授業科目の科目名及び授業形態の見直しを次のとおり行った。

### 1) 講義・演習・実習の定義

本学は、講義・演習・実習の定義を次のように定める。

講義：主として教員による語りや問答を通して、学生に学修内容を伝達する科目。

演習：教員から学生への口頭による学修内容の伝達を踏まえた上で、課題などによって学修を深める科目。

実習：授業で学修した手技・手法について体験を通して学ぶ科目。また、理学療法、作業療法の評価や治療の考え方について事例の検討や発表を通して学ぶ科目を含む。

実習の定義は、例えば、デジタル大辞泉によると、「講義などで学んだ技術や方法などを実地または実物にあたって学ぶこと」とある。これを理学療法学科、作業療法学科に当てはめた場合、「病院やリハビリテーションセンター等の実地で学ぶこと」または「生身の人体など実物にあたって学ぶこと」等を意味する。本学の実習の定義には「事例の検討や発表」という実地でも実物でもない要素を含めており、一般的な定義よりも広く捉えることとした。リハビリテーション(特に、作業療法)は、心や精神といった目に見えないものを治療の対象あるいは目的として取り扱う。そのための高度な実践力を養うためには、実物を介さずに、グループワークやアクティブラーニング等で、臨床思考を身に付ける必要がある。実習科目の目的は、高度な実践力を涵養することにあるため、「事例の検討や発表」といった要素についても、「実習」の定義の中にも含めるべきだと判断した。

### 2) 授業科目名称及び授業形態等の見直し

前章の定義を踏まえた上で、シラバスを全て確認したところ、シラバス(授業計画)の新旧対照表のとおり理学療法学科で25科目、作業療法学科で27科目の授業形態が変更となった。その変更を受け、

該当の授業科目の科目名称の変更を行った。また、実習、実技又は演習という名称が授業計画に混在するシラバスを申請書類として提出していたため、それらシラバスの記載も、授業形態に即して改めた。当該変更に伴い、修正を入れたシラバスは、資料 12-1、12-2 のとおりである。授業科目一覧（別記様式第 2 号（その 2 の 4））の新旧対照表も次で示す。

資料 12-1：授業形態の統一に伴い計画を一部変更したシラバス（理学療法学科）変更後・変更前

資料 12-2：授業形態の統一に伴い計画を一部変更したシラバス（作業療法学科）変更後・変更前

（新旧対照表）シラバス（授業計画）授業科目の名称及び授業形態 リハビリテーション学部 理学療法学科

	新		旧	
	授業科目の名称	授業形態	授業科目の名称	授業形態
1	体育	実習	シラバスなし	
2	運動学実習	実習	運動学演習	演習
3	運動生理学実習	実習	運動生理学演習	演習
4	救急援助論	講義	救急援助論	講義・演習
5	地域包括ケア論	講義	地域包括ケア論	講義・演習
6	基礎理学療法学実習Ⅰ	実習	基礎理学療法学Ⅲ	講義
7	基礎理学療法研究法	講義	基礎理学療法研究法	講義・演習
8	基礎理学療法学実習Ⅱ	実習	基礎理学療法学演習	講義
9	臨床技能論実習	実習	臨床技能論	講義
10	理学療法評価学実習	実習	理学療法評価学演習Ⅰ	演習
11	理学療法評価学演習	演習	理学療法評価学演習Ⅱ	演習・講義
12	運動療法学実習	実習	運動療法学演習	演習
13	義肢装具学Ⅱ	講義	義肢装具学演習	演習
14	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	神経障害系理学療法学演習Ⅰ	演習
15	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	神経障害系理学療法学演習Ⅱ	演習
16	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	運動器障害系理学療法学演習Ⅰ	演習
17	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	運動器障害系理学療法学演習Ⅱ	演習
18	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	内部障害系理学療法学演習Ⅰ	演習
19	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	内部障害系理学療法学演習Ⅱ	演習
20	スポーツ障害系理学療法学実習	実習	スポーツ障害系理学療法学演習	演習
21	地域理学療法学実習	実習	地域理学療法学Ⅱ	講義・演習
22	障がい者スポーツ論実習	実習	障がい者スポーツ論演習	演習
23	健康増進実践演習	演習	健康増進実践演習Ⅰ	演習
24	健康増進実践実習	実習	健康増進実践演習Ⅱ	演習
25	協働連携論総合実習	実習	シンメディカル論	講義

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 授業科目の名称及び授業形態 リハビリテーション学部 作業療法学科

	新		旧	
	授業科目の名称	授業形態	授業科目の名称	授業形態
1	体育	実習	シラバスなし	
2	運動学実習	実習	運動学演習	演習
3	基礎作業学実習Ⅰ	実習	基礎作業学演習Ⅱ	演習
4	基礎作業学実習Ⅱ	実習	基礎作業学演習Ⅰ	演習
5	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	実習	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	演習
6	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	実習	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	演習
7	精神障害作業療法評価学実習	実習	精神障害作業療法評価学演習	演習
8	発達障害作業療法評価学実習	実習	発達障害作業療法評価学演習	演習
9	運動器疾患作業療法学実習	実習	運動器疾患作業療法学演習	演習
10	中枢神経疾患作業療法学実習	実習	中枢神経疾患作業療法学演習	演習
11	高次脳機能障害作業療法学実習	実習	高次脳機能障害作業療法学演習	演習
12	精神障害作業療法学実習	実習	精神障害作業療法学演習	演習
13	発達障害作業療法学実習Ⅰ	実習	発達障害作業療法学演習Ⅰ	演習
14	発達障害作業療法学実習Ⅱ	実習	発達障害作業療法学演習Ⅱ	演習
15	老年期障害作業療法学実習	実習	老年期障害作業療法学演習	演習
16	日常生活活動論実習	実習	日常生活活動論演習	演習
17	社会生活行為論実習	実習	社会生活行為論演習	演習
18	作業分析活用論実習	実習	作業分析活用論Ⅱ	講義
19	作業療法義肢装具実習	実習	作業療法義肢装具演習	演習
20	生活行為向上マネジメント論実習	実習	生活行為向上マネジメント論演習	演習
21	地域生活作業療法学実習Ⅰ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅰ	演習
22	地域生活作業療法学実習Ⅱ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅱ	演習
23	地域生活作業療法学実習Ⅲ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅲ	演習
24	障がい者スポーツ論実習	実習	障がい者スポーツ論演習	演習
25	協働連携論総合実習	実習	シンメディカル論	講義
26	作業療法総合実習Ⅰ	実習	作業療法総合演習Ⅰ	演習
27	作業療法総合実習Ⅱ	実習	作業療法総合演習Ⅱ	演習

なお、申請時において、「身体障害作業療法基礎技法」としていた講義科目について、実習・実技との誤解を生む科目名称のため、「身体障害作業療法基礎技術論」に名称を変更した。併せて、「作業分析活用論Ⅱ」の授業形態の見直しを行った結果、講義から実習に変更になったことを受け、「作業分析活用論Ⅰ」の名称を「作業分析活用論」とした。

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 授業科目の名称 作業療法学科

	新	旧
授業科目の名称	身体障害作業療法基礎技術論	身体障害作業療法基礎技法
	作業分析活用論	作業分析活用論Ⅰ

(新旧対照表) 実験、実習又は実技による授業科目一覧 (別記様式第2号 (その2の4)) リハビリテーション学部 理学療法学科

	新		旧	
	授業科目の名称	授業形態	授業科目の名称	授業形態
1	体育	実習	当該様式への記載なし	
2	運動学実習	実習	運動学演習	実技
3	運動生理学実習	実習	運動生理学演習	実技
4	基礎理学療法学実習Ⅰ	実習	当該様式への記載なし	
5	基礎理学療法学実習Ⅱ	実習	基礎理学療法学演習	実技
6	臨床技能論実習	実習	当該様式への記載なし	
7	理学療法評価学実習	実習	理学療法評価学演習Ⅰ	実技
8	当該様式への記載なし		理学療法評価学演習Ⅱ	実技
9	運動療法学実習	実習	運動療法学演習	実技
10	徒手理学療法学実習	実習	当該様式への記載なし	
11	当該様式への記載なし		義肢装具学演習	実技
12	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	神経障害系理学療法学演習Ⅰ	実技
13	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	神経障害系理学療法学演習Ⅱ	実技
14	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	運動器障害系理学療法学演習Ⅰ	実技
15	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	運動器障害系理学療法学演習Ⅱ	実技
16	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	内部障害系理学療法学演習Ⅰ	実技
17	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	内部障害系理学療法学演習Ⅱ	実技
18	—		小児期理学療法学演習	実技
19	—		老年期理学療法学演習	実技
20	スポーツ障害系理学療法学実習	実習	スポーツ障害系理学療法学演習	実技
21	障がい者スポーツ論実習	実習	障がい者スポーツ論演習	実技
22	当該様式への記載なし		健康増進実践演習Ⅰ	実技
23	健康増進実践実習	実習	健康増進実践演習Ⅱ	実技
24	—		リハビリテーション総合演習	実技

(新旧対照表) 実験、実習又は実技による授業科目一覧 (別記様式第 2 号 (その 2 の 4)) リハビリテーション学部 作業療法学科

	新		旧	
	授業科目の名称	授業形態	授業科目の名称	授業形態
1	体育	実習	—	
2	運動学実習	実習	運動学演習	実技
3	基礎作業学実習Ⅱ	実習	基礎作業学演習Ⅰ	実技
4	基礎作業学実習Ⅰ	実習	基礎作業学演習Ⅱ	実技
5	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	実習	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	実技
6	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	実習	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	実技
7	精神障害作業療法評価学実習	実習	精神障害作業療法評価学演習	実技
8	発達障害作業療法評価学実習	実習	発達障害作業療法評価学演習	実技
9	運動器疾患作業療法学実習	実習	運動器疾患作業療法学演習	実技
10	中枢神経疾患作業療法学実習	実習	中枢神経疾患作業療法学演習	実技
11	高次脳機能障害作業療法学実習	実習	高次脳機能障害作業療法学演習	実技
12	精神障害作業療法学実習	実習	精神障害作業療法学演習	実技
13	発達障害作業療法学実習Ⅰ	実習	発達障害作業療法学演習Ⅰ	実技
14	発達障害作業療法学実習Ⅱ	実習	発達障害作業療法学演習Ⅱ	実技
15	老年期障害作業療法学実習	実習	老年期障害作業療法学演習	実技
16	日常生活活動論実習	実習	日常生活活動論演習	実技
17	社会生活行為論実習	実習	社会生活行為論演習	実技
18	作業分析活用論実習	実習	—	
19	作業療法義肢装具実習	実習	作業療法義肢装具演習	実技
20	生活行為向上マネジメント論実習	実習	生活行為向上マネジメント論演習	実技
21	地域生活作業療法学実習Ⅰ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅰ	実技
22	地域生活作業療法学実習Ⅱ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅱ	実技
23	地域生活作業療法学実習Ⅲ	実習	地域生活作業療法学演習Ⅲ	実技
24	障がい者スポーツ論実習	実習	障がい者スポーツ論演習	実技
25	協働連携論総合実習	実習	当該様式への記載なし	
26	作業療法総合実習Ⅰ	実習	作業療法総合演習Ⅰ	実技
27	作業療法総合実習Ⅱ	実習	作業療法総合演習Ⅱ	実技

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

13. <シラバスの内容が不十分>

提出されたシラバスを確認したところ、1単位 45 時間の学修時間数に含まれる「授業時間以外の学習」欄が未記載になっているもの、学生が担当教員に質問等を行うことができる機会を担保するオフィスアワーが未記載になっているもの、授業計画の内容が「活動①」、「活動②」のように各授業でどのような内容を学修するのか不明確なものなど、専門職大学設置基準第 19 条で規定する授業方法等の明示を満たしていない科目が多いため、全てのシラバスを点検し、不十分なシラバスは是正すること。【2学科共通】

(対応)

「授業時間外の学習」及び「オフィスアワー」が未記載となっていたシラバスについて、その全てに記載を行った。また、各授業でどのような内容を学修するのか不明確なものについても、専門職大学設置基準第 19 条を踏まえ、その修正を行った。「授業時間外の学習」及び「オフィスアワー」については、新旧対照表で、学修内容が不明確なものについては、シラバスを添付する。

資料 13-1：学修内容が明確になるよう変更したシラバス（理学療法学科）変更後・変更前

資料 13-2：学修内容が明確になるよう変更したシラバス（作業療法学科）変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 授業時間外の学習及びオフィスアワー 理学療法学科

新		旧	
授業科目名	授業時間外の学習	授業科目名	授業時間外の学習
	オフィスアワー		オフィスアワー
学びの基盤	授業で学んだ内容を、他の講義で実践して学ぶスキルアップを図るため、必ず復習するようにしてください。	学びの基盤	授業で学んだ内容を、他の講義で実践して学ぶスキルアップを図ってください。
	前期：月 16：10～17：15		記載なし
解剖学Ⅰ	各單元ごとに小テストを実施するため、授業の復習を行うこと。	解剖学Ⅰ	京都大学での解剖学見学実習を希望する。
	前期：火、木 16：10～17：15		記載なし
解剖学Ⅱ	各單元ごとに小テストを実施するため、授業の復習を行うこと。	解剖学Ⅱ	記載なし
	後期：火、木 16：10～17：15		記載なし
解剖学Ⅲ	構造と機能が説明できるようになるために講義後、必ず復習をすること。	解剖学Ⅲ	記載なし
	後期：火、木 16：10～17：15		記載なし

運動学Ⅰ	人間の動きは複雑です。 <u>講義後に学生同士で肢位を変え、動きを体感し確認しながら復習を行うこと。</u>	運動学Ⅰ	人間の動きは複雑です。学生同士で肢位を変え、動きを体感し確認しながら進めてください。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし
運動学Ⅱ	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。	運動学Ⅱ	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。
	安田 前期：水 16：10～17：15 里中 前期：水 16：10～17：15 藤谷 前期：水 16：10～17：15		記載なし
運動学実習	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。	運動学演習	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。 その分野を復習してから講義に臨んでください。 また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。
	安田 後期：水 16：10～17：15 藤谷 後期：水 16：10～17：15		記載なし
運動生理学実習	本授業においては、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	運動生理学演習	本授業においては、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	後期：月 16：10～17：15		記載なし
救急援助論	<u>医療職種として重要な知識ですので、各講義ごとに復習をするようにしてください。</u>	救急援助論	記載なし
	後期：水、金 16：10～17：15		記載なし
内科学Ⅰ	授業の前に、シラバスに記載してある内容について教科書で予習しておくこと。小テストについて、配布プリント、教科書を参考に必ず復習する。	内科学Ⅰ	授業の前に、シラバスに記載してある内容について教科書で予習しておくこと。小テストについて、配布プリント、教科書を参考に必ず復習する。
	前期：火、木 16：10～17：15		記載なし

内科学Ⅱ	授業の前に、シラバスに記載してある内容について教科書で予習しておくこと。小テストについて、配布プリント、教科書を参考に必ず復習する。	内科学Ⅱ	授業の前に、シラバスに記載してある内容について教科書で予習しておくこと。小テストについて、配布プリント、教科書を参考に必ず復習する。
	後期：火、木 16：10～17：15		記載なし
整形外科Ⅰ	関連項目の解剖学と生理学の予習は必須である。 授業後は、教科書の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	整形外科Ⅰ	関連項目の解剖学と生理学の予習は必須である。
	前期：火 16：10～17：15		記載なし
整形外科Ⅱ	関連項目の解剖学と生理学の予習は必須である。 授業後は、教科書の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	整形外科Ⅱ	関連項目の解剖学と生理学の予習は必須である。
	後期：火 16：10～17：15		記載なし
予防医学	授業後は、配布資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。また復習とともに、他の科目との関連性を広げてください。	予防医学	復習とともに、他の科目との関連性を広げてください。
	山川 前期：木 16：10～17：15		記載なし
	分木 前期：月 16：10～17：15 鈴木 前期：水 16：10～17：15		
地域包括ケア論	本講義は医療・介護・福祉分野を体系的に理解しておくことで授業理解がスムーズとなります。これらの分野を予習し、授業後は、教科書の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	地域包括ケア論	本講義は医療・介護・福祉分野を体系的に理解しておくことで授業理解がスムーズとなります。これらの分野を復習し、地域社会に興味を持って講義に臨んで下さい。
	弘部 前期：水 16：10～17：15 鈴木 前期：水 16：10～17：15		記載なし
リハビリテーション概論	講義後は教科書、文献等を見返し要点をまとめることで習になるように進めて下さい。	リハビリテーション概論	本講義は理学療法に至る入口の学問です。リハビリテーションとは何かを考え、幅広い概念で捉えられるよう柔軟な態度で授業に臨んで下さい。また、同時に医療用語の理解を進めて下さい。
	前期：月 16：10～17：15		記載なし
基礎理学療法Ⅰ	講義後は教科書を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。特に、ICF についてまとめることで理解を深めてもらいます。学生同士で議論する時間を作ってまとめてください。	基礎理学療法Ⅰ	ICF についてまとめることで理解を深めてもらいます。学生同士で議論する時間を作ってまとめてください。
	前期：水 16：10～17：15		記載なし

基礎理学療法学Ⅱ	<u>授業ごとに復習、レポート作成により考えをまとめる時間を作ってください。</u>	基礎理学療法学Ⅱ	常に、なぜだろうと、疑問を持ち、自分で考えるくせを付けましょう
	前期：木 16：10～17：15		記載なし
基礎理学療法学実習Ⅰ	<u>講義後は教科書を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</u>	基礎理学療法学Ⅲ	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし
基礎理学療法研究法	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。	基礎理学療法研究法	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。
	前期：水 16：10～17：15		記載なし
基礎理学療法学実習Ⅱ	本講義においては、解剖学と運動学の理解が必要となります。その分野を授業の進行に合わせて復習しながら講義に臨んでください。また講義後は、学生同士で触診の復習を進めてください。	基礎理学療法演習	本講義においては、解剖学と運動学の理解が必要となります。その分野を授業の進行に合わせて復習しながら講義に臨んでください。また講義後は、学生同士で触診の復習を進めてください。
	後期：月 16：10～17：15		記載なし
臨床技能論実習	<u>理学療法の対象となる疾患・評価・動作について、講義前に復習しておいてください。</u> 授業時間は限られています。評価の実技のスキルアップを図れるように各自練習してください。	臨床技能論	理学療法の対象となる疾患について、病態、障害像が想起できるように復習しておいてください。 授業時間は限られています。評価の実技のスキルアップを図れるように各自練習してください。
	川崎 前期：月 16：10～17：15		記載なし
理学療法管理学	<u>日常生活での様々な事象について常に注意し、観察しながら本講義内容を当てはめて生活してみましょう。また、ノートや参考資料等を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</u>	理学療法管理学	日常生活での様々な事象について常に注意し、観察しながら本講義内容を当てはめて生活してみましょう。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし
理学療法評価学	理学療法士には各回の内容の関連を含め確実に習得していく必要があるため、復習を行い技術の習得に努めること。	理学療法評価学	理学療法士には各回の内容の関連を含め確実に習得していく必要があるため、復習をし技術の習得に努めること。
	後期：月 16：10～17：15		記載なし

理学療法評価学実習	実技中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。	理学療法評価学演習Ⅰ	実技中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。
	大西 前期：水 16：10～17：15 宇於崎 前期：月 16：10～17：15		記載なし
理学療法評価学演習	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。	理学療法評価学演習Ⅱ	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	山内 前期：水 16：10～17：15 弘部 前期：水 16：10～17：15 藤谷 前期：水 16：10～17：15		記載なし
画像評価学	本講義は、解剖学や画像診断学、整形外科学、神経内科学といった基礎、専門基礎科目からの応用科目になるので、しっかり各講義予習・復習してください。	画像評価学	本講義は、解剖学や画像診断学、整形外科学、神経内科学といった基礎、専門基礎科目からの応用科目になるので、しっかり復習して臨んでください。
	堀 後期：木 16：10～17：15 和智 後期：水、金 16：10～17：15		記載なし
運動療法学	本授業においては、解剖学、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	運動療法学	本授業においては、解剖学、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	治郎丸 前期：木 16：10～17：15		記載なし
運動療法学実習	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけられるよう復習すること。	運動療法学演習	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけましょう。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし
徒手理学療法学	本講義は、解剖学や運動学が基礎になる応用科目になるので、しっかり予習・復習してください。	徒手理学療法学	本講義は、解剖学や運動学が基礎になる応用科目になるので、しっかり復習して臨んでください。
	前期：水 16：10～17：15		記載なし

物理療法学	<u>生理学の分野の復習、講義後は教科書や参考資料を基に復習してください。</u>	物理療法学	本授業においては、寒冷、温熱、電気などの物理的エネルギーが生体に加わった時の生理的反応を評価や治療に応用するため、生理学の分野への理解があった上での学問になります。講義の中でも復習しますが、事前に復習するようにしましょう。
	前期：木 16：10～17：15		記載なし
日常生活活動学	ADL 評価 (Barthel Index、FIM) がしっかりできるように復習してください。 歩行補助具の適合は、学生同士で練習し、適合と歩行指導・介助ができるようになるまで練習してください。	日常生活活動学	ADL 評価 (Barthel Index、FIM) がしっかりできるように復習してください。 歩行補助具の適合は、学生同士で練習し、適合と歩行指導・介助ができるようになるまで練習してください。
	植田 前期：水 16：10～17：15 川崎 前期：月 16：10～17：15		記載なし
義肢装具学Ⅰ	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。 <u>また、講義後は教科書や参考資料を基に復習しておくこと。</u>	義肢装具学	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。
	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15		記載なし
義肢装具学Ⅱ	<u>授業時間は限られているため、授業後に紹介した義肢や装具を実際に手に取って構造や機能の理解を深めるようにしてください。</u>	義肢装具学演習	復習で、授業時間は限られているため、授業で紹介した義肢や装具を実際に手に取って構造や機能の理解を深めるようにしてください。
	大西 後期：火 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15		記載なし
神経障害系理学療法学実習Ⅰ	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。	神経障害系理学療法学演習Ⅰ	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は効果書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	藤谷 後期：水 16：10～17：15		記載なし
神経障害系理学療法	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。	神経障害系理学療法	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は効果書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。

	<u>前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	整形外科学で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科学の教科書の予習、また講義後は教科書の復習を行うこと。	運動器障害系理学療法学演習Ⅰ	整形外科学で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科学の教科書の予習、また講義後は教科書の復習を行うこと。
	<u>後期：火 16：10～17：15</u>		記載なし
運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	整形外科学で学んだ疾患の知識を基に授業が進みます。整形外科学の教科書の復習をしっかりとしてから本授業に臨んでください。 <u>また講義後は教科書の復習を行うこと。</u>	運動器障害系理学療法学演習Ⅱ	整形外科学で学んだ疾患の知識を基に授業が進みます。整形外科学の教科書の復習をしっかりとしてから本授業に臨んでください。また解剖学と運動学の知識が重要になりますので、これらの復習もしてください。
	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15		
内部障害系理学療法学実習Ⅰ	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。	内部障害系理学療法学演習Ⅰ	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。
	<u>前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
内部障害系理学療法学実習Ⅱ	症例検討が中心になります。自己学習で文献検索をすることと、友だちと話すことで考えが広がりまとまるので、ディスカッションを多くしてください。	内部障害系理学療法学演習Ⅱ	症例検討が中心になります。自己学習で文献検索をすることと、友だちと話すことで考えが広がりまとまるので、ディスカッションを多くしてください。
	<u>前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
小児期理学療法学	小児疾患についての復習を中心とした自己学習と、実際に学んだ理学療法技術について友達同士で実習の復習もできるだけ多く練習してください。	小児期理学療法学	小児疾患についての復習を中心とした自己学習と、実際に学んだ理学療法技術について友達同士で実習の復習もできるだけ多く練習してください。

	<u>里中 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
スポーツ障害系理学療法実習	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	スポーツ障害系理学療法実習	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	<u>後期：木 16：10～17：15</u>		記載なし
神経筋骨格障害応用論実習	実習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。	神経筋骨格障害応用論実習	実習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。
	<u>山内 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
	<u>宇於崎 後期：月 16：10～17：15</u>		
	<u>大西 後期：水 16：10～17：15</u> <u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u>		
内部障害応用論実習	必要な文献の収集と、理解を深めポートフォリオを作成してください。	内部障害応用論実習	必要な文献の収集と、理解を深めポートフォリオを作成してください。
	<u>後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
スポーツ障害応用論実習	本授業においては、これまで学んできた全ての科目の理解が必要となります。特にスポーツ分野の科目を中心に復習して基礎知識の整理を行っていただきます。また、臨床現場において情報収集や検査実、トレーニングができるように実技練習など実践できるように備えておいてください。また、毎日の実習で得た知識・技術の振り返りや教科書の見返しなどにより、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	スポーツ障害応用論実習	本授業においては、これまで学んできた全ての科目の理解が必要となります。特にスポーツ分野の科目を中心に復習して基礎知識の整理を行っていただきます。また、臨床現場において情報収集や検査実、トレーニングができるように実技練習など実践できるように備えておいてください。また、毎日の実習で得た知識・技術の振り返りや教科書の見返しなどにより、要点をまとめることで復習になるように進めてください。

	<p>治郎丸 後期：木 16：10～17：15</p> <p>宇於崎 後期：月 16：10～17：15</p> <p>野口 後期：水、金 16：10～17：15</p> <p>和智 後期：水、金 16：10～17：15</p>		記載なし
地域理学療法学	<p>バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておく。<u>また講義後は教科書の復習を行うこと。そして、自分が住んでいる町の環境について興味をもち、未来に向けて「もっと住みやすい街」にするためには？を考えてみてください。</u></p>	地域理学療法学Ⅰ	<p>バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておく。</p> <p>自分が住んでいる町の環境について興味をもち、未来に向けて「もっと住みやすい街」にするためには？を考えてみてください。</p>
	<p>植田 後期：水 16：10～17：15</p> <p>川崎 後期：月 16：10～17：15</p>		記載なし
地域理学療法実習	<p>褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。<u>また講義後は教科書の復習を行うようにしてください。</u></p>	地域理学療法学Ⅱ	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。
	<p>弘部 前期：水 16：10～17：15</p> <p>鈴木 前期：水 16：10～17：15</p>		記載なし
理学療法見学実習Ⅰ	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>	見学実習Ⅰ	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>

	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>		記載なし
理学療法見学実習	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。	見学実習Ⅱ	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。

	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	記載なし
理学療法見学実習Ⅲ	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。	この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。

	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	<p>記載なし</p>
<p>理学療法評価実習</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>
	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	<p>記載なし</p> <p>評価実習</p>

	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>		
<p>理学療法総合臨床実習Ⅰ</p>	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u>  <u>植田 前期：火 16：10～17：15</u>  <u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u>  <u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u>  <u>大西 前期：水 16：10～17：15</u>  <u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u>  <u>里中 前期：水 16：10～17：15</u>  <u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u>  <u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u>  <u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u>  <u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u>  <u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u>  <u>分木 前期：月 16：10～17：15</u>  <u>堀 前期：木 16：10～17：15</u>  <u>安田 前期：水 16：10～17：15</u>  <u>山内 前期：水 16：10～17：15</u>  <u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	<p>総合臨床実習Ⅰ</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p> <p>記載なし</p>
<p>理学療法総合臨床実習Ⅱ</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>	<p>総合臨床実習Ⅱ</p>	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p>

	<p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>		記載なし
理学療法地域実習	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p> <p><u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>佐々木 前期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>鈴木 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 前期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 前期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 前期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 前期：水、金 16：10～17：15</u></p>	地域リハビリテーション実習	<p>この実習では、これまで修得したすべての知識・技術が必要です。学内での実習前でのセミナー内容を十分理解し、復習をして臨んでください。また、日々の学習内容や実習後の提出物は実習のてびきをよく読んで学習を進めてください。</p> <p>記載なし</p>

障がい者スポーツ論	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。	障がい者スポーツ論	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。
	<u>後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
障がい者スポーツ論実習	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。	障がい者スポーツ論演習	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。
	<u>大西 前期：月、水 16：10～17：15</u> <u>安田 前期：水 16：10～17：15</u> <u>池谷 前期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
体力測定論	配布資料を中心に復習・課題の作成を行って下さい。	体力測定論	配布資料を中心に復習・課題の作成を行って下さい。
	<u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>鈴木 後期：木 16：10～17：15</u> <u>分木 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
健康増進実践演習	講義後は配布資料を中心に要点をまとめるなど、復習を中心に学習してください。	健康増進実践演習Ⅰ	復習を中心に学習してください。
	<u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>鈴木 後期：木 16：10～17：15</u> <u>分木 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
健康増進実践実習	<u>次の講義の準備のためグループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。</u>	健康増進実践演習Ⅱ	グループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。
	<u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>鈴木 後期：木 16：10～17：15</u> <u>分木 後期：水 16：10～17：15</u>		記載なし
パフォーマンス向上論	本授業においては、生理学、運動生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	パフォーマンス向上論	本授業においては、生理学、運動生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。

	後期：木 16：10～17：15		記載なし
フィットネス論	運動学と生理学の知識を応用することで、フィットネスに対する理解が深まります。 <u>基礎科目のあらかじめ復習をしてから、本講義に臨んでください。講義後は配布資料をまとめるなど復習をしてください。</u>	フィットネス論	運動学と生理学の知識を応用することで、フィットネスに対する理解が深まります。基礎科目の復習をしてから、本講義に臨んでください。
	佐藤 後期：月 16：10～17：15 治郎丸 後期：木 16：10～17：15 大西 後期：火 16：10～17：15		記載なし
ランニングトレーニング論	本授業においては、スポーツ障害系理学療法学演習、スポーツ障害応用論、スポーツ障害応用論実習などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。	ランニングトレーニング論	本授業においては、スポーツ障害系理学療法学演習、スポーツ障害応用論、スポーツ障害応用論実習などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。
	後期：木 16：10～17：15		記載なし
ゴルフトレーニング論	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 <u>また授業後は教科書の要点をまとめるなど復習をすること。</u>	ゴルフトレーニング論	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。
	宇於崎 後期：月 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15		記載なし
遊びとレクリエーション	講義後は配布資料、参考資料をまとめるだけでなく、 <u>学んだことを基に自らの余暇活動の見直しにつなげてください。</u>	遊びとレクリエーション	自らの余暇活動の見直しにつなげてください。
	後期：水 16：10～17：15		記載なし

<p>ロボット工学地域活用論応用</p>	<p>本講義においては、ロボット工学の基礎を理解するために、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。</p> <p>また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</p> <p><u>安田 後期：水 16：10～17：15</u></p>	<p>ロボット工学地域活用論応用</p>	<p>本講義においては、ロボット工学の基礎を理解するために、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。</p> <p>また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</p> <p>記載なし</p>
<p>協働連携論総合実習</p>	<p>症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習行うこと。<u>またレポート作成、発表などの準備を各自で進めるようにしてください。</u></p> <p><u>大西 後期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>辛島 後期：水、木 16：10～17：15</u></p> <p><u>有田 後期：月、水 16：10～17：15</u></p> <p><u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 後期：水 16：10～17：15</u></p>	<p>シンメディカル論</p>	<p>症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと</p> <p>適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程調整すること</p>
<p>理学療法総合演習</p>	<p>予習として展開科目の中で選択した分野について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。計画書の作成とプレゼンテーション作成は講義の進行に合わせて準備すること。</p> <p><u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>植田 後期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>川崎 後期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>宇於崎 後期：月 16：10～17：15</u></p> <p><u>大西 後期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>里中 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>治郎丸 後期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>野口 後期：水、金 16：10～17：15</u></p> <p><u>弘部 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>藤谷 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>分木 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>堀 後期：木 16：10～17：15</u></p> <p><u>安田 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>山内 後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>和智 後期：水、金 16：10～17：15</u></p>	<p>理学療法総合演習</p>	<p>予習として展開科目の中で選択した分野について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。計画書の作成とプレゼンテーション作成は講義の進行に合わせて準備すること。</p> <p>記載なし</p>

リハビリテーション総合演習	興味がある分野に関する先行研究を集め、その内容を整理し、課題の発見や方向性について考えておくこと。実験・調査はゼミで協働して行い、各自が主体的に参加できるように心がけること。	リハビリテーション総合演習	興味がある分野に関する先行研究を集め、その内容を整理し、課題の発見や方向性について考えておくこと。実験・調査はゼミで協働して行い、各自が主体的に参加できるように心がけること。
	<u>池谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>植田 後期：火 16：10～17：15</u> <u>大西 後期：火 16：10～17：15</u> <u>里中 後期：水 16：10～17：15</u> <u>治郎丸 後期：木 16：10～17：15</u> <u>野口 後期：水、金 16：10～17：15</u> <u>弘部 後期：水 16：10～17：15</u> <u>藤谷 後期：水 16：10～17：15</u> <u>分木 後期：水 16：10～17：15</u> <u>堀 後期：木 16：10～17：15</u> <u>安田 後期：水 16：10～17：15</u> <u>山内 後期：水 16：10～17：15</u> <u>和智 後期：水、金 16：10～17：15</u>		記載なし

(新旧対照表) シラバス (授業計画) 授業時間外の学習及びオフィスアワー (作業療法学科)

新		旧	
授業科	授業時間外の学習	授業科	授業時間外の学習
	オフィスアワー		オフィスアワー
学びの基礎	<u>予習：次回の授業範囲について事前に調べ・考えをまとめておくこと</u> <u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</u>	学びの基礎	予習：次回の授業範囲について事前に調べ・考えをまとめておくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと。
	<u>前期：火 16：10～17：15</u> <u>金 16：10～17：15</u>		記載なし
物理学Ⅰ	毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題(宿題)のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。	物理学Ⅰ	毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題(宿題)のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。
	<u>前期：火 16：10～17：15</u> <u>木 16：10～17：15</u>		記載なし
物理	毎回、講義内容に関する予習と復習のための演	物理	毎回、講義内容に関する予習と復習のための演

	<p>習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>後期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>		<p>習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>記載なし</p>
統計学	<p>毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>後期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	統計学	<p>毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>記載なし</p>
数学	<p>毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	数学	<p>毎回、講義内容に関する予習と復習のための演習問題（宿題）のプリントを課し、授業の始めに宿題プリントを回収して、簡単な解説と評価を行う。</p> <p>記載なし</p>
英語Ⅰ	<p>事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。</p> <p>前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	英語Ⅰ	<p>事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。</p> <p>前期 火曜日 2 限目、3 限目 水曜日 3 限目、4 限目 後期 水曜日 3 限目、4 限目 木曜日 2 限目、3 限目</p>
英語Ⅱ	<p>事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。</p> <p>後期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	英語Ⅱ	<p>事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。</p> <p>前期 火曜日 2 限目、3 限目 水曜日 3 限目、4 限目 後期 水曜日 3 限目、4 限目 木曜日 2 限目、3 限目</p>
解剖学Ⅰ	<p>予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること</p> <p>前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>	解剖学Ⅰ	<p>京都大学での解剖学実習見学を1回希望する。</p> <p>前期：月、火、水曜日、16:10～17:00</p>

解剖学Ⅱ	<u>予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと</u> <u>復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること</u>	解剖学Ⅱ	記載なし
	<u>後期：火 16：10～17：15</u> <u>          木 16：10～17：15</u>		後期：月、水、木曜日、16:10～17:00
解剖学Ⅲ	<u>予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと</u> <u>復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること</u>	解剖学Ⅲ	記載なし
	<u>後期：火 16：10～17：15</u> <u>          木 16：10～17：15</u>		後期：月、水、木曜日、午後 16:10～17:00
生理学Ⅰ	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。	生理学Ⅰ	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。
	<u>前期：月 16：10～17：15</u> <u>          水 16：10～17：15</u>		講義中に情報提供する。
生理学Ⅱ	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。	生理学Ⅱ	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。
	<u>後期：月 16：10～17：15</u> <u>          水 16：10～17：15</u>		講義中に情報提供する。
運動学Ⅰ	<u>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと</u> <u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと</u>	運動学Ⅰ	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。
	<u>前期：火 16：10～17：15</u> <u>          金 16：10～17：15</u>		記載なし
運動学Ⅱ	<u>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと</u> <u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと</u>	運動学Ⅱ	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。
	<u>後期：火 16：10～17：15</u> <u>          金 16：10～17：15</u>		記載なし
運動学実	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること	運動学演	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること

	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>火 16：10～17：15</p>		記載なし
薬理学概論	<p>毎回配布する講義資料、教科書および参考書などを用いて予習・復習すると共に、各学生からの質問に対する回答や討議を通して授業内容の理解を深めること。</p>	薬理学概論	<p>毎回配布する講義資料、教科書および参考書などを用いて予習・復習すると共に、各学生からの質問に対する回答や討議を通して授業内容の理解を深めること。</p>
	<p>後期：月 16：10～17：15</p> <p>金 16：10～17：15</p>		記載なし
地域包括ケア論	<p>予習：次回行う部分に目を通してくること</p> <p>復習：講義した内容について整理すること</p>	地域包括ケア論	<p>毎回の授業の予習を行ってこること</p>
	<p>後期：木 16：10～17：15</p> <p>金 16：10～17：15</p>		記載なし
リハビリテーション概論	<p>予習として授業前には事前に配布された資料に目を通しておくこと。復習は授業の内容を整理し、理解に努めること。</p>	リハビリテーション概論	<p>予習として授業前には事前に配布された資料に目を通しておくこと。復習は授業の内容を整理し、理解に努めること。</p>
	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>水 16：10～17：15</p>		記載なし
作業療法学総論	<p>適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。</p>	作業療法学総論	<p>適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。</p>
	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>水 16：10～17：15</p>		<p>適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること</p>
基礎作業学実習Ⅰ	<p>予習：次回の授業範囲について事前に調べておくこと</p> <p>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</p>	基礎作業学実習Ⅰ	<p>その都度の復習をお願いします。</p>
	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>水 16：10～17：15</p>		記載なし
基礎作業学実習Ⅱ	<p>特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。</p>	基礎作業学実習Ⅱ	<p>特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。</p>

	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
基礎作業学	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。	基礎作業学	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
作業療法研究法	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整 理しておくこと。	作業療法研究法	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整 理しておくこと。
	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15		記載なし
作業療法管理・制度論	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出 をした状態出で受講すること。具体的内容は授業 終了時に次回までの課題を説明する。	作業療法管理・制度論	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出 をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終 了時に次回までの課題を説明する。
	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行 い日程を調整すること
作業療法と倫理	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通 し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理を することとする。	作業療法と倫理	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通 し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理を することとする。
	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
作業療法評価学総論	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技 に関しては体を使って練習すること	作業療法評価学総論	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技 に関しては体を使って練習すること
	後期：水 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	予習：授業前にテキストの該当箇所を理解し、実 技練習を行いデモンストレーションに備えること 復：毎回の授業、演習内容を振り返り、繰り返し 実技練習をすること	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	【準備学習】 <各回共通> 予習:授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技 練習を行いデモンストレーションに備えること。 復習:毎回の授業、演習内容を振り返り、繰り返し 実技練習をすること。
	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15		記載なし

身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技 に関しては体を使って練習すること	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技 に関しては体を使って練習すること
	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15		記載なし
精神障害作業療法評価学実習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。	精神障害作業療法評価学演習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
発達障害作業療法評価学実習	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出 をした状態で受講すること。具体的内容は授業 終了時に次回までの課題を説明する。	発達障害作業療法評価学演習	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出を した状態で受講すること。具体的内容は授業終 了時に次回までの課題を説明する。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
身体障害作業療法基礎技術論	2年前期に修了した科目を十分に振り返っておく ようにしてください。 人の身体を理解するために、各内容を関連付けて 考えられるようになる必要があります。 各自で教科書を読むなどの予習・復習の時間を設 けてください。	身体障害作業療法基礎技術論	2年前期に修了した科目を十分に振り返っておく ようにしてください。 人の身体を理解するために、各内容を関連付けて 考えられるようになる必要があります。 各自で教科書を読むなどの予習・復習の時間を設 けてください。
	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
運動器疾患作	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整 理しておくこと	運動器疾患作	予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整 理しておくこと。

	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
中枢神経疾患作業療法学実習	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること	中枢神経疾患作業療法学演習	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること
	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
高次脳機能障害作業療法学実習	人が当たり前に過ごす日常生活における基本的な脳の機能を基にします。特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く考えを進めてみてください。	高次脳機能障害作業療法学演習	人が当たり前に過ごす日常生活における基本的な脳の機能を基にします。特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く考えを進めてみてください。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
精神障害作業療法学	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。	精神障害作業療法学	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。
	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15		記載なし
精神障害作業療法学実習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。 演習（第5、6、7、14回）を手伝ってもらおう学生とは事前学習を行う。	精神障害作業療法学演習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。 演習（第5、6、7、14回）を手伝ってもらおう学生とは事前学習を行う。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
発達障害作業	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。	発達障害作業	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。

	後期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15		記載なし
発達障害作業療法学実習Ⅱ	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理をすることとする。	発達障害作業療法学演習Ⅱ	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理をすることとする。
	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15		記載なし
老年期障害作業療法学実習	予習：次回の授業範囲について事前に調べること 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと	老年期障害作業療法学演習	授業毎に復習をお願いしたい。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
日常生活活動論実習	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。	日常生活活動論演習	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。
	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15		記載なし
社会生活行為論実習	自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしておく。 作成自助具の選定や準備物について文献、インターネットを使用し事前に準備をしておくことが望ましい。	社会生活行為論演習	自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしておく。 作成自助具の選定や準備物について文献、インターネットを使用し事前に準備をしておくことが望ましい。
	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15		記載なし
作業分析活用論	自身の日常生活動作と脳血管障害を呈した対象者の日常生活動作を比較しながら分析してください。また、様々な作業活動をグループワークで分析しプレゼンテーションしあうことによって様々な	作業分析活用論Ⅰ	自身の日常生活動作と脳血管障害を呈した対象者の日常生活動作を比較しながら分析してください。また、様々な作業活動をグループワークで分析しプレゼンテーションしあうことによって様々な

	<p>分析視点を理解してください。<u>予習は次回の授業範囲について事前に目を通しておくこと</u></p> <p><u>復習は毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと。</u></p>		<p>分析視点を理解してください。</p>
	<p><u>後期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>金 16：10～17：15</u></p>		<p>記載なし</p>
作業分析活用論実習	<p>授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。</p>	作業分析活用論Ⅱ	<p>授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。</p>
	<p><u>後期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>金 16：10～17：15</u></p>		<p>記載なし</p>
家族援助論	<p>適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。</p>	家族援助論	<p>適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。</p>
	<p><u>前期：水 16：10～17：15</u></p> <p><u>木 16：10～17：15</u></p>		<p>適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること</p>
住環境支援論	<p><u>予習：次回の授業範囲について事前に目を通しておくこと</u></p> <p><u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</u></p>	住環境支援論	<p>その都度の復習をお願いしたい。</p>
	<p><u>前期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>木 16：10～17：15</u></p>		<p>記載なし</p>
作業療法義肢装具実習	<p>装具作成演習は、型紙法を用いるため型紙をもとに作成の練習、講義内で説明する装具作成方法の流れの復習を実施する。スプリント作成において作成 point を熟知したうえで実施する事が望ましい。</p>	作業療法義肢装具演習	<p>装具作成演習は、型紙法を用いるため型紙をもとに作成の練習、講義内で説明する装具作成方法の流れの復習を実施する。スプリント作成において作成 point を熟知したうえで実施する事が望ましい。</p>
	<p><u>後期：火 16：10～17：15</u></p> <p><u>金 16：10～17：15</u></p>		<p>記載なし</p>
生活行為向上マネ	<p><u>予習：次回の授業範囲について事前に目を通しておくこと</u></p> <p><u>復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</u></p>	生活行為向上マネ	<p>記載なし</p>

	<p>前期：水 16：10～17：15</p> <p>木 16：10～17：15</p>		記載なし
地域生活作業療法学総論	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また授業内容をもとに自分の暮らしている地域について考えてみてください。	地域生活作業療法学総論	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また授業内容をもとに自分の暮らしている地域について考えてみてください。
	<p>前期：水 16：10～17：15</p> <p>木 16：10～17：15</p>		記載なし
地域生活作業療法学実習Ⅰ	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。 授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。	地域生活作業療法学実習Ⅰ	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。 授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。
	<p>後期：木 16：10～17：15</p> <p>金 16：10～17：15</p>		記載なし
地域生活作業療法学実習	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。	地域作業療法学実習Ⅱ	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。
	<p>後期：火 16：10～17：15</p> <p>金 16：10～17：15</p>		記載なし
地域生活作業療法学実習Ⅲ	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。 地域の方との関わりの前には、グループ単位での準備・予習が必要になります。	地域作業療法学実習Ⅲ	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。 地域の方との関わりの前には、グループ単位での準備・予習が必要になります。
	<p>前期：火 16：10～17：15</p> <p>木 16：10～17：15</p>		記載なし
子育て支援論	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。	子育て支援論	適宜、google classroom を使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。

	<p>前期：月 16：10～17：15</p> <p>水 16：10～17：15</p>		<p>適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること</p>
障がい者スポーツ論実習	<p>講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。</p> <p>その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。</p>	障がい者スポーツ論演習	<p>講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。</p> <p>その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。</p>
	<p>前期：安田（水 16：10～17：15）</p> <p>大西（火、木 16：10～17：15）</p> <p>池谷（水 16：10～17：15）</p>		記載なし
作業療法総合実習Ⅰ	<p>予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと。</p>	作業療法総合演習Ⅰ	<p>予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと。</p>
	<p>後期：大西（月・水 16：10～17：15）</p> <p>安部（火・金 16：10～17：15）</p> <p>嶋川（火・金 16：10～17：15）</p> <p>木岡（水・金 16：10～17：15）</p> <p>杉本（月・金 16：10～17：15）</p>		記載なし
作業療法総合実習Ⅱ	<p>予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと。</p>	作業療法総合演習Ⅱ	<p>予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと。</p>
	<p>後期：大西（月・水 16：10～17：15）</p> <p>下西（木・金 16：10～17：15）</p> <p>澤（水・金 16：10～17：15）</p> <p>木岡（水・金 16：10～17：15）</p> <p>杉本（月・金 16：10～17：15）</p>		記載なし
協働連携論総合実習	<p>症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと</p>	シンメデイカル論	<p>症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと</p>
	<p>後期：大西（月・水 16：10～17：15）</p> <p>分木（水 16：10～17：15）</p> <p>辛島（水・木 16：10～17：15）</p> <p>有田（月・水 16：10～17：15）</p> <p>池谷（水 16：10～17：15）</p>		記載なし

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

14. <遠隔地の実習施設の対応方法が不明確>

実習先について、学生負担や適切な実習指導体制の観点から、学科ごとに実習先の地域分布を示した上で、遠方の実習先においては過度な学生負担となっていないか、教員の巡回指導等が適切に行われる体制となっているかを明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

本学の臨地実務実習施設については、本学の定める実習目標に対応できるよう、滋賀県内をはじめ京都府、大阪府等の近畿圏域から全国各地に受け入れ施設を確保していた。しかし、遠隔地の実習先における学生への過度な負担や、教員の巡回指導等の観点から、受け入れ施設全体の見直しを行い、学生に対する負担の軽減と無理のない巡回指導が可能となるよう修正した。

1) 遠隔地の実習先の見直し

本学は滋賀県内で唯一の理学療法士・作業療法士の養成校となることから、滋賀県出身の学生が多くなることが見込まれる。この観点から、実習先に通うことが可能な地域を「滋賀県、京都府南部、大阪府北部～大阪市内、岐阜県南部、福井県嶺南部」と仮定し、遠隔地の定義を「学生の居住地から公共交通機関を利用し、1時間半を越える範囲」とすると、理学療法学科においては107施設中20施設(京都府2施設・大阪府1施設・福井県1施設を含む)、作業療法学科においては71施設中11施設(京都府1施設・大阪府1施設を含む)が遠隔地の実習地に該当していた。このため、理学療法学科においては北海道、宮城県、千葉県の受け入れ施設を省き、新たに承諾の得られた京都府1施設、大阪府2施設を臨地実務実習施設として加えた。また、作業療法学科においては富山県、石川県、静岡県、広島県、和歌山県、奈良県、兵庫県、遠隔地となる京都府1施設、大阪府1施設の受け入れ施設を省き、56施設とした。

臨地実務実習施設の変更(都道府県別)とその分布図を以下に示す。

(新旧対照表) 理学療法学科 臨地実務実習施設

新		旧	
都道府県	施設数	都道府県	施設数
北海道	0	北海道	1
宮城	0	宮城	1
千葉	0	千葉	1
石川	2	石川	2
福井	2	福井	2
岐阜	1	岐阜	1
静岡	1	静岡	1
愛知	1	愛知	1
滋賀	64	滋賀	64
京都	20	京都	19

大 阪	<u>10</u>	大 阪	8
兵 庫	2	兵 庫	2
和 歌 山	1	和 歌 山	1
岡 山	1	岡 山	1
徳 島	1	徳 島	1
愛 媛	1	愛 媛	1
合 計	107	合 計	107

(新旧対照表) 作業療法学科 臨地実務実習施設

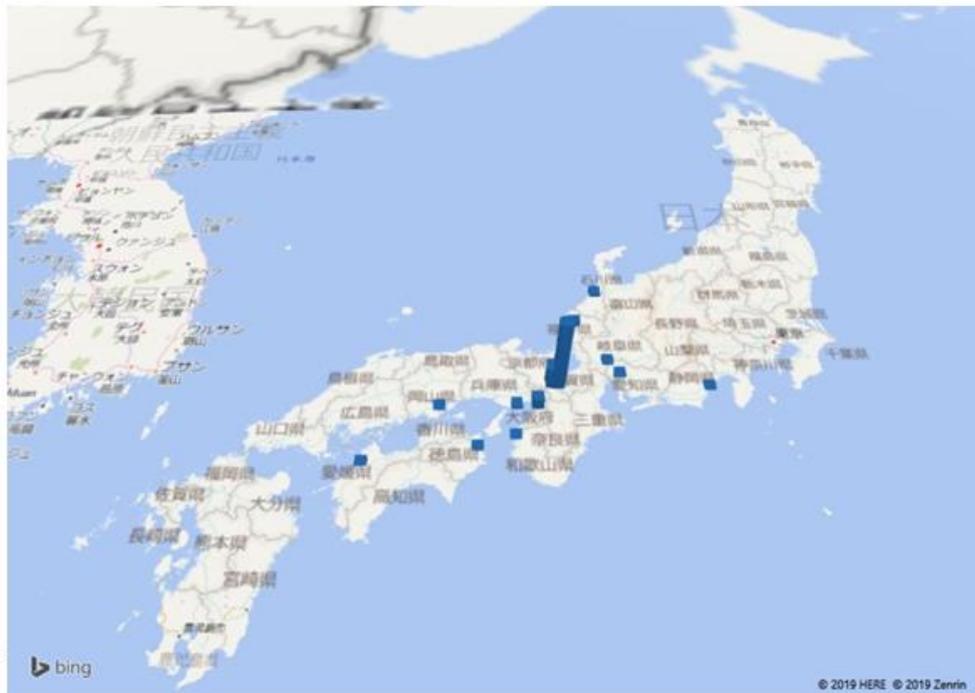
新		旧	
都道府県	施設数	都道府県	施設数
富 山	<u>0</u>	富 山	1
石 川	<u>0</u>	石 川	2
福 井	<u>0</u>	福 井	2
静 岡	<u>0</u>	静 岡	1
滋 賀	44	滋 賀	44
京 都	<u>9</u>	京 都	12
大 阪	<u>3</u>	大 阪	4
兵 庫	<u>0</u>	兵 庫	1
奈 良	<u>0</u>	奈 良	2
和 歌 山	<u>0</u>	和 歌 山	1
広 島	<u>0</u>	広 島	1
合 計	<u>56</u>	合 計	71

理学療法学科 臨地実務実習施設地域分布図

理学療法学科 実習先地域分布図

都道府県	施設数
石川	2
福井	2
岐阜	1
静岡	1
愛知	1
滋賀	64
京都	20
大阪	10
兵庫	2
和歌山	1
岡山	1
徳島	1
愛媛	1
合計	107

は滋賀県から通える地域を示す。(一部地域を除く。京都府北部など)

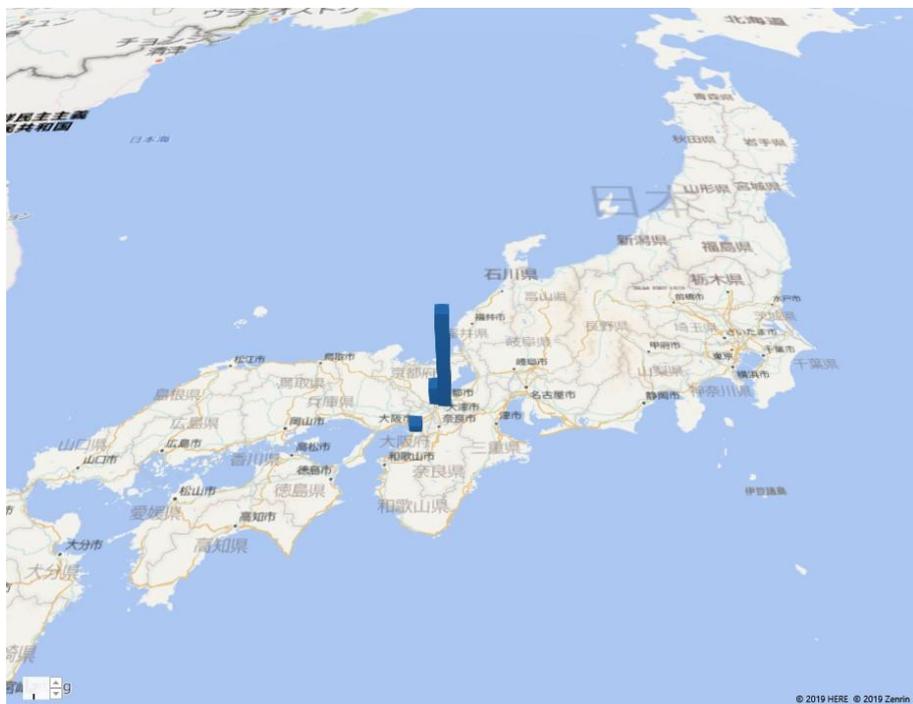


作業療法学科 臨地実務実習施設地域分布図

作業療法学科 実習先地域分布図

都道府県	施設数
滋賀	44
京都	9
大阪	3
合計	56

は滋賀県から通える地域を示す。



## 2) 学生への配慮

実習配置は、「学生の居住地から公共交通機関を利用し、1時間半を越えない範囲」とし、遠隔地の実習先とならないよう実習調整者がその調整を行うこととする。一人の学生に複数回遠隔地の実習先が配置されないよう、実習調整者がその調整を行うが、実習先の受入れ状況等、遠隔地の実習先に配置せざるを得ない状況になった場合は、実習先の宿舎またはアパートを借り上げ、家賃については本学が負担する。

## 3) 教員の巡回指導体制

臨地実務実習のうち、「理学療法評価実習」、「作業療法評価実習」、「理学療法総合臨床実習Ⅰ」、「作業療法総合臨床実習Ⅰ」、「理学療法総合臨床実習Ⅱ」及び「作業療法総合臨床実習Ⅱ」において、専任教員（実習担当教員）における巡回指導を行う。実習担当教員一人あたりの担当施設数は、担当科目数を考慮して、「理学療法評価実習」で3施設程度、「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」で5施設程度としている。また、作業療法評価実習で5施設程度、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」で5施設程度とし、担当教員の過度な負担を避け、担当科目の授業に支障がでないよう調整する。

実習担当教員の巡回指導は、実習期間中に必ず1回は実施し、実習における問題が生じた場合には、必要に応じて2回目以降の巡回指導を行う。巡回指導の時期については、全ての学生において一定となるように配慮し、評価時期が平等となるよう調整する。また、巡回指導日に実習担当教員の担当科目を入れないよう時間の調整を行う。

下表に実習地と本学または実習担当教員の居住地までの距離ならびに所要時間における実習巡回条件区分を下表に示す。

### 実習巡回条件

区分	巡回日程	施設数	大学から施設までの条件
近距離施設	1日以内	1~3	大学もしくは教員の居住地から半径50km以内 もしくは、移動時間が片道1時間半程度
中距離施設	1日以内	1~2	大学もしくは教員の居住地から移動時間が片道1時間半以上、半日以内
遠距離施設	1泊2日	1~3	大学もしくは教員の居住地から移動時間が半日以上

表の区分より、本学から実習地までの距離及び所要時間に応じて1度に巡回可能な施設数を調整する。1人の担当教員が担当する実習地は、1実習期間中に複数の遠距離施設を担当しないよう、実習調整者が組み合わせの調整を行い、巡回の際の移動に無理が生じないよう配慮し、担当教員への過度な負担による教育の質の低下が起こらないよう調整する。なお、巡回指導における移動手段は、本学から向かう場合はその利便性の配慮から公用車もしくは自家用車とし、担当教員の居住地から向かう場合は、自家用車もしくは公共交通機関を使用する。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

15. <臨地実務実習が不明確>

大学教育としてふさわしい臨地実務実習が実施され、単位認定が厳格に行われる計画なのか疑義があるため、次の内容をはじめとして、計画全体を再度確認し、適切に修正すること。

【2学科共通】

(1) 臨地実務実習の実施に当たっては、専門性の高い臨床能力の担保のため、例えば「OSCE (客観的臨床能力試験)」などにより、実習前における能力の到達度の確認や、実習後における公平な成績評価の実施が重要であるが、本学科の教育課程上、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画を明確に説明すること。特に実習後の客観的臨床能力試験については実施すると説明はあるが、十分な説明がなく、具体的な実施計画が不明なため、時期や方法を含めた詳細の実施計画を明確に説明すること。

(対応)

大学教育としてふさわしい臨地実務実習が実施され、単位認定が厳格に行われる計画なのか疑義があるのご指摘を受け、理学療法学科、作業療法学科ともに、臨地実務実習の計画の見直しを行った。第一に、全体計画の見直した点について記載を行った後、第二に、実習前における能力の到達度の確認方法について、第三に、実習後の OSCE (客観的臨床能力試験) などの具体的な実施計画についてその記載を行う。

## 1) 理学療法学科

### (1) 全体計画の見直し

申請時点の教育課程においては、1年次から3年次までの3年間で、優先的に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則った単位を履修させ、4年次に展開科目・総合科目を学ぶ構成としていたが、是正事項1を受け、全ての科目の配当年次の見直しを行った。臨地実務実習の名称を変更、次に実習目的の見直しを行った。

### ①臨地実務実習の名称の変更と臨地実務実習配当年次の見直し

臨地実務実習の名称の変更については、本学は、リハビリテーション学部の中に理学療法学科と作業療法学科を併設しているが、理学療法士作業療法士養成施設ガイドラインが同じであるにも関わらず、実習の名称のつけ方が異なっていた。そこで、臨地実務実習の名称を学科(理学療法・作業療法)、実習の種別(見学・評価・総合臨床・地域)の順で表すこと(例:理学療法評価実習)で、実習内容が分かりやすくなるように名称変更を行った。

配当年次については、理学療法総合臨床実習Ⅱを3年次後期から4年次前期へ変更した。見直しを図った結果、理学療法士の養成に必要な科目に偏らず、展開科目を含めた様々な科目が1年次から段階的に学べるように修正された。このことにより、我々が3年制の専門学校の教育では行えなかった理学療法士の知識や技術が、新たな分野で活かせる可能性を並行して学ぶことができ、より広い視野をもち、柔軟な思考で問題解決能力の高い人材を養成できると考える。

臨地実務実習の配当年次の変更及び実習の名称の変更内容を以下に示す。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第 2 号 (その 2 の 1) リハビリテーション学部 理学療法学科

新		旧	
授業科目の名称	配当年次	授業科目の名称	配当年次
理学療法見学実習 I	1 前	見学実習 I	1 前
理学療法見学実習 II	1 後	見学実習 II	1 後
理学療法見学実習 III	2 前	見学実習 III	2 前
理学療法評価実習	3 前	評価実習	3 前
理学療法総合臨床実習 I	3 後	総合臨床実習 I	3 後
理学療法総合臨床実習 II	4 前	総合臨床実習 II	3 後
理学療法地域実習	4 前	地域リハビリテーション実習	4 前

②「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習 I・II」の実習目的の見直し

平成 30 年 10 月 5 日に新しい理学療法士作業療法士養成施設ガイドラインが示され、本学が申請した実習の目的から変更されている点があったため、「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習 I・II」について、下表のとおり修正する。

新		旧	
実習名	目的	実習名	目的
理学療法 評価実習	<u>診療参加型実習を行い、理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとることができる。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、患者の状態に関する評価を理学療法士の管理指導の下、リスク管理技術の水準 I (スタンダードプリコーション、バイタルサインの測定等)、理学療法評価技術の水準 I (情報収集、検査・測定、姿勢評価、日常生活活動等)の内容を実践することを目標とする。</u>	評価実習	理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動がとれる。また、これまでに学習した知識を臨床場面に結びつけ、理学療法士の指導管理の下、理学療法評価の一部を実践し、プログラム立案までのプロセスを理解することを目的とする。
理学療法 総合臨床 実習 I	<u>診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案までの一連の思考過程を理解することができる。また、理学療法治療技術の水準 I (関節可動域運動、筋力増強運動、バランス練習、基本動作練習、歩行練習、移動動作練習等)の一部を実践することを目標とする。</u>	総合臨床 実習 I	理学療法評価から治療までの一連の理学療法について学ぶ実習であるが、臨床参加型実習において理学療法業務の水準 Iの一部を実践し理学療法士の思考過程を理解することを目的とする。

理学療法 総合臨床 実習Ⅱ	診療参加型実習を行い、理学療法評価を基に、患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定までの一連の理学療法プロセスを理解することができる。また、理学療法治療技術の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践することを目標とする。	総合臨床 実習Ⅱ	理学療法評価から治療までの一連の理学療法について学ぶ実習であるが、臨床参加型実習において理学療法業務の水準Ⅰの項目をおおよそすべて実践し、理学療法士の思考過程を理解することを目的とする。
---------------------	--	-------------	---

資料 15-1：水準と臨床実習の教育目標との関係

(2) 「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「理学療法地域実習」について

本学科の教育課程上、臨地実務実習に際して、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画が不明であるとの指摘を受け、実習前後の学内の取り組みの概要を見直し、時期や方法を含めた具体的な実施計画を加えて以下に示す。

「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「理学療法地域実習」の概要

		1限	2限	3限	4限
実習前	木	実習オリエンテーション①	筆記試験	ポートフォリオの書き方 実習前レポート作成	
	金	実習オリエンテーション②	実習前レポート作成・提出		
実習中	臨地実務実習				
実習後	月			実習セミナー	凝縮ポートフォリオ作成
	火	凝縮ポートフォリオ作成・提出			

①実習前

実習前、関連する領域の知識について筆記試験で一定の水準に到達していることの確認を行う。筆記試験の範囲は以下に示す。実習中に作成するポートフォリオの書き方を指導する。さらに、実習施設の概要や役割をまとめ、実習前レポートとして提出することで、実習に臨む体制を整える。

	筆記試験
理学療法見学実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リハビリテーション概論</li> <li>●コミュニケーション論</li> <li>●基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ</li> </ul>
理学療法見学実習Ⅱ	理学療法見学実習Ⅰの筆記試験の範囲に加えて、理学療法評価学
理学療法見学実習Ⅲ	理学療法見学実習Ⅱの筆記試験の範囲に加えて、老年医学
理学療法地域実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域理学療法学</li> <li>●地域包括ケア論</li> </ul>

## ②実習中

学生は、様々な対象者の理学療法の介入場面の見学を通して経験し、多様な理学療法の支援のあり方を学ぶ。その際、実習指導者から口頭、文章、図示などの教示がされる。それらの要点をまとめて実習ポートフォリオを作成し、実習指導者に提出することで、実習指導者は学修状況（何をどのように理解したか）を確認し、その後の指導に活かす。

実習担当教員は、実習中と実習後に、実習指導者に電話連絡し、実習の状況を把握する。実習に支障をきたしている時は、実習担当教員が訪問し、実習指導者とともに学生指導を行う。

実習中の評価については、実習指導者と実習担当教員が行う。実習指導者は、本学の評価表を用いて行うが、実習担当教員が電話連絡した際に、本学の評価基準が守られているか確認する。

また、学生が実習中に作成した実習ポートフォリオと成長報告書は、実習終了後に学校へ提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点から、実習担当教員が評価を行い、実習中の評価とする。

## ③実習後

実習後は、凝縮ポートフォリオの作成を通して実習の振り返りを行う。提出された凝縮ポートフォリオとその作成中の取り組みの状況、実習施設の概要や役割の理解の深まり等、見学実習の学修の成果の観点で学内教員が評価を行う。

以上のように、実習前・実習中・実習後に分け、それぞれの時期について取り組みと評価について見直し、成績評価の内訳を下表のとおり変更した。変更理由は、申請時の計画では、実習前後の筆記試験とOSCEの評価を含めていたが、実習前の筆記試験とOSCEは、学生の知識と技術の到達水準を確認するためのもので、成績に含めることは不適切と考えたためである。検討の結果、実習中と実習後の評価をもって成績評価を行うように変更した。

「理学療法見学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「理学療法地域実習」の評価内訳

	新		旧	
	評価内容	評価の割合	評価内容	評価の割合
実習前	筆記試験	評価に含めない (知識の水準の確認)	口頭試問	提出課題 30% 口頭試問 40% 筆記試験 30%
	実習前レポート		実習前レポート	
実習中	実習指導者評価	60%	成長報告書	
	実習ポートフォリオ			
	成長報告書			
実習後	凝縮ポートフォリオ	40%	筆記試験 口頭試問 実習後レポート	

### (3) 「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」について

本学科の教育課程上、臨地実務実習に際して、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画が不明であるとの指摘を受け、実習前後の学内の取り組みの概要を見直し、時期や方法を含めた具体的な実施計画を加えて以下に示す。

「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の概要

		1限	2限	3限	4限
実習前	月	実習オリエンテーション①	筆記試験	OSCEのオリエンテーション	OSCE課題の実技練習
	火	OSCE（火曜日・水曜日の2日間かけて試験を実施する。）			
	水	学生は2日間の8コマのうち、あらかじめ指定された1コマ（90分）の時間に試験を受ける。試験以外の時間は、実技練習の時間に充てる。			
	木	OSCEのフィードバック・実技練習			
	金	ポートフォリオの書き方	実習オリエンテーション②		
実習中	臨地実務実習				
実習後	月			実習セミナー	OSCEのオリエンテーション
	火	実習報告会			
	水	口頭試験			
	木	OSCE（木曜日・金曜日の2日間かけて試験を実施する。）			
	金	学生は2日間の8コマのうち、あらかじめ指定された1コマ（90分）の時間に試験を受ける。試験以外の時間は、実技練習の時間に充てる。			

※理学療法総合臨床実習Ⅰは、実習開始が第2週の月曜日となるため、実習前の学内の取り組みは前月の最終週に行う。

①実習前

「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」においては、知識レベルを判定するための筆記試験と技術レベルを判定するOSCEの2つの試験において、一定の水準に到達していることを確認する。筆記試験は、当該実習までに履修した科目から実習に必要な基本的な知識を問うものである。OSCEは、学生に理学療法士として必要な技能、態度の基本能力を身に付けさせるものである。本学では、「理学療法評価実習」及び「理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の実習の前後に設ける。これらは、求められる基本的臨床能力の深さが段階的に増すように設定する。筆記試験とOSCEの試験範囲と内容は下表に示す。

	筆記試験	OSCE（課題例）
理学療法評価実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎医学（解剖学・生理学・運動学）</li> <li>●疾患学（内科・整形外科・神経内科・小児科等）</li> <li>●理学療法評価学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的な理学療法評価（医療面接、血圧・脈拍、関節可動域測定、徒手筋力検査、形態計測、反射、片麻痺運動機能検査等）</li> </ul>
理学療法総合臨床実習Ⅰ	理学療法評価実習の筆記試験の範囲に加えて、運動療法学・物理療法学・日常生活活動学・義肢装具学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関節可動域運動（基本的な四肢・体幹の運動が適切に実施できるレベル）</li> <li>●歩行補助具の適合、歩行の評価・分析</li> <li>●物理療法の実施</li> </ul>

理学療法総合臨床実習 II	理学療法総合臨床実習 I の筆記試験の範囲に加えて、障害別理学療法治療学	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関節可動域訓練（患者想定し、基本的な四肢・体幹の運動が適切に実施できるレベル）</li> <li>●起居動作（寝返り・起き上がり等）とベッド・車いす間の移乗指導と介助</li> <li>●歩行の指導と介助</li> </ul>
---------------	--------------------------------------	---

OSCE の具体的な実施方法は、才藤ら（2015）が推奨する方法を参照し、次のように設定する。

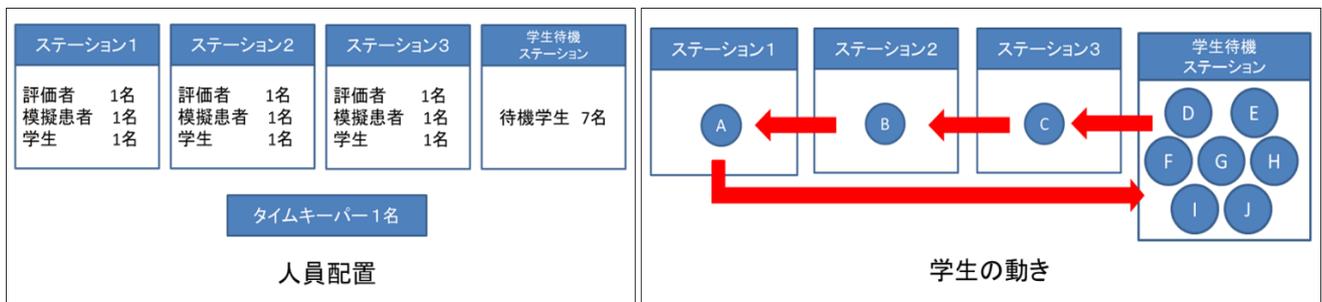
### OSCE の試験環境の設定

試験会場は、1 階実習室とする。実習室を可動式パーテーションで部屋を仕切り、3 つのステーションと学生待機スペースを設定する。タイムキーパーはすべてのステーションが見渡せる位置とする。1 つのステーションに配置される人員は、評価者 1 名、模擬患者 1 名、受験する学生の 3 名とする。学生待機ステーションには 7 名の学生が待機する。評価者と模擬患者、タイムキーパーは教員が行う。

### OSCE の実施方法

1 つのステーションでの試験時間は 5 分で、試験終了 2 分間のフィードバックを受け、次のステーションへの移動時間を 1 分間設ける。つまり、学生が 1 課題を受験に必要な時間は 8 分間となる。

理学療法学科の 80 名の学生を 10 名ずつの 8 グループに分け、1 グループずつ試験室に入る。タイムキーパーの指示に従って、各ステーションに学生を 1 名ずつ配置し、3 ステーション同時に試験を行う。課題が終わるごとに、タイムキーパーの指示に従って下の図のとおりローテーションする。10 名が、すべての課題を終了するために必要な時間は 80 分となるが、余裕をもって、1 グループ 1 限（90 分）ずつ割り当てる。つまり、8 グループに対して OSCE を行うために 8 時限必要となり、2 日間かけて行う計画である。



### OSCE の課題（例）股関節の関節可動域の測定

設問) 変形性股関節症の患者です。この患者の股関節の屈曲の関節可動域（他動）を測定して、結果を報告してください。測定の前に、評価者に基本軸、移動軸を伝えてください。測定後は、患者は端坐位にしてください。制限時間は 5 分です。

準備物) 治療用ベッド、枕、角度計

患者設定)

疾患・障害	右変形性股関節症	疼痛	右股関節の荷重痛
年齢・性別	不問	ROM 制限	右股屈曲 100°伸展 -10°
受傷・発症後	1 年前	筋力低下	右股屈曲・伸展 MMT3
主訴	歩くとき股関節が痛い	起居動作	自立
理解・表出	正常	歩行	自立

採点基準) ルーブリック評価の採点基準に基づき、評価をする。

## ②実習中

実習中、学生は、理学療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとること、これまでに学修した知識を臨床場面に結びつけ、実習指導者の下で、リスク管理技術及び理学療法評価技術、治療技術の模倣・実施を経験し、理学療法の一連のプロセスを学ぶ。それを実習ポートフォリオにまとめ、実習指導者に提出することで、実習指導者は学修状況(何をどのように理解したか)を確認し、その後の指導に活かす。また、実習担当教員は、巡回時に学生の実習ポートフォリオを確認し、作成がスムーズに進行できるように支援を行う。

実習中は、各実習施設に最低1名の専任教員(実習担当教員)を配置し、実習期間中に必ず1回以上、巡回指導を行い、実習施設の指導者と実習の進捗状況や問題点の把握を実施する。実習に支障をきたしている時は、実習指導者とともに学生指導を行う。

実習中の評価については、実習指導者と教員が行う。実習担当教員は、訪問あるいは電話連絡時に、実習指導者とともに学生の状況を評価表に沿って中間評価を行う。実習指導者の評価は、形成的評価として捉え、段階的に成長していけるよう学生の教育に活用する。その際、本学の定める評価の基準と実習指導者の評価に差があるときは、評価をつける根拠を聞きとり、評価基準を説明し、評価が適正に行われるように働きかける。また、実習中に作成した実習ポートフォリオは、実習終了後に学校へ提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点から、実習担当教員が評価を行い、実習中の評価とする。

## ③実習後

実習後の評価内容を「筆記試験と OSCE」から、「凝縮ポートフォリオの報告に対する口頭試問と OSCE」に変更した。知識は、凝縮ポートフォリオをもとに実習報告を行い、経験した内容に関する口頭試問を行うことで確認する。また、技術は、実習で経験した疾患・障害領域に合わせて患者設定して、OSCE を行い、実習目的の到達度を確認する。なお、この口頭試問及び OSCE は、実習終了後1週間の間に実施する。

変更理由は、申請時の計画では、実習前後の評価を同一内容の筆記試験と OSCE を行うことで、成長を測ることが、公平な成績評価であると捉えていた。しかし、配置された実習施設の実習施設によって、対象となる疾患や障害が異なり、実習内容が大きく異なるため、実習後の評価は、あくまで実習での学修成果に対して行うことが、公平な成績評価となると認識を改めたためである。

以上のように、実習前・実習中・実習後に分け、それぞれの時期について取り組みと評価について見直し、成績評価の内訳を下表のとおり変更した。変更理由は、申請した計画では、実習前後の筆記試験と OSCE の評価を含めていたが、実習前の筆記試験と OSCE は、学生の知識と技術の到達水準を確認

するためのもので、成績に含めることは不適切と考えたためである。検討の結果、実習中と実習後の評価をもって成績評価を行うように変更した。

「理学療法評価実習」及び「理学療法総合実習Ⅰ・Ⅱ」の評価内訳

	新		旧	
	評価内容	評価の割合	評価内容	評価の割合
実習前	筆記試験	評価に含めない (知識の水準の確認)	OSCE	提出課題 10% 施設評価 20% OSCE 40% 筆記試験 30%
	OSCE		筆記試験	
実習中	実習指導者評価	60%	施設評価	
	実習ポートフォリオ		凝縮ポートフォリオ	
	体験チェックリスト		成長報告書	
	成長報告書			
実習後	凝縮ポートフォリオ	40%	OSCE	
	口頭試問		筆記試験	
	OSCE			

2) 作業療法学科

(1) 全体計画の見直し

申請時点の教育課程においては、1年次から3年次までの3年間で、優先的に理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則った単位を履修させ、4年次に展開科目・総合科目を学ぶ構成としていたが、是正事項1を受け、全ての科目の配当年次を見直すとともに、臨地実務実習の名称及び単位数を変更した。次に各臨地実務実習の見直しを行い、具体的にどのような形で実習を行うかの流れを提示した。

①臨地実務実習の名称及び実習単位数の変更

臨地実務実習の名称変更については、本学は、リハビリテーション学部の中に理学療法学科と作業療法学科を併設しているが、理学療法士作業療法士養成施設ガイドラインが同じであるにも関わらず、実習の名称のつけ方が異なっていた。そこで、臨地実務実習の名称を学科(理学療法・作業療法)、実習の種別(見学・評価・総合臨床・地域)の順で表すこと(例:作業療法評価実習)で、実習内容が分かりやすくなるように名称変更を行った。

単位数の変更については、実習単位を「作業療法評価実習」では3単位から5単位への変更、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」では8単位から7単位への変更を行った。変更理由は、提出した実習計画では、「作業療法評価実習」では、実習地で学ぶ期間が短すぎることで、また、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」では、実習施設と学内とで学ぶ時間が曖昧で分かりづらいことにある。そこで、作業療法の多様な考えを学ぶ機会を学生に設ける為、「作業療法評価実習」は、実習施設で4週間、実習後に学内で1週間の学修を設定した。また、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」は、実習施設で6週間、実習後に学内で1週間の学修を設定した。

配当年次については、「作業療法総合臨床実習Ⅱ」を3年次後期から4年次前期へ変更した。見直しを図った結果、作業療法士の養成に必要な科目に偏らず、展開科目を含めた様々な科目が1年次から段階的に学べるように修正された。このことにより、我々が3年制の専門学校の教育では行えなかった作業療法士の知識や技術が、新たな分野で活かせる可能性を並行して学ぶことができ、より広い視野をも

ち、柔軟な思考で問題解決能力の高い人材を養成できると考える。

臨地実務実習の名称、配当年次及び単位数の変更内容を次に示す。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 別記様式第2号 (その2の1) リハビリテーション学部 作業療法学科

新			旧		
授業科目の名称	配当年次	単位数	授業科目の名称	配当年次	単位
作業療法見学実習Ⅰ	1後	1	作業療法見学実習Ⅰ	1後	1
作業療法見学実習Ⅱ	2前	1	作業療法見学実習Ⅱ	2前	1
作業療法評価実習	3前	5	作業療法臨床評価実習	3前	3
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後	7	作業療法臨床総合実習Ⅰ	3後	8
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前	7	作業療法臨床総合実習Ⅱ	3後	8
作業療法地域実習	4前	1	地域作業療法実習	4前	1

## ②臨地実務実習の内容の見直し

「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」の見直し

提出した「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」の計画では、1週間（実質5日間）のうち、初日と最終日の2日間が学内での学修、中3日間が実習施設での学修となっていたが、5日間実習施設で実習を行うことに変更した。変更理由は、当初は、実習施設と養成校が協力して学生の学びの支援をする為の計画であったが、実習施設での学びの時間が不十分になると考えたためである。また、見学実習であり、学生間の討論も成長に必要な要因の一つと考え、学生の配置数も1施設2名（「作業療法地域実習」は必要時4名）と変更とした。「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」の主な流れを以下に示す。

	月	火	水	木	金	土	日
第1週	オリエンテーション 施設見学					実習 ポー	
	作業療法士の業務見学、作業療法以外の他部門の見学等、患者とのコミュニケーション					トフ	
	実習ポートフォリオの提出					オリ	
	実習指導者のフィードバック				実習の総括	オ報 告会	

※見学実習は、実習施設の体制に従って、週5日（40時間）行う。土曜日に実習ポートフォリオ報告会（5時間）を行い、45時間（1単位）とする。

新		旧	
授業科目の名称	学生の配置数	授業科目の名称	学生の配置数
作業療法見学実習Ⅰ	1施設2名程度	作業療法見学実習Ⅰ	1施設1名程度
作業療法見学実習Ⅱ	1施設2名程度	作業療法見学実習Ⅱ	1施設1名程度
作業療法地域実習	1施設2名又は4名程度	地域作業療法実習	1施設3～4名程度

「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の見直し

「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の主な流れを以下に示す。

	月	火	水	木	金	土	日	
第1週 実習施設	オリエンテー ション 施設見学	他部門の見学					実習施設の 体制によっ て、実習を 行うことが ある	
	作業療法士の 臨床の見学	作業療法士の臨床の見学、評価の模倣・実施						
		実習ポートフォリオ、体験チェックリスト（週末のみ）の提出						
	実習指導者のフィードバック							
作業療法評 価実習では 第2～3 週、作業療 法総合臨床 実習Ⅰ・Ⅱ では第2～ 5週 実習施設		他部門、カンファレンス、サービス担当者会議等の見学						
		作業療法士の臨床の見学、評価の模倣・実施 （情報収集、検査・測定、姿勢評価、ADL評価等）						
		実習ポートフォリオ、体験チェックリスト（週末のみ）提出						
	巡回教員によ る実習ポート フォリオの内 容の確認	実習指導者のフィードバック						
作業療法評 価実習では 第4週、作 業療法総合 臨床実習 Ⅰ・Ⅱでは 第6週 実習施設		他部門、カンファレンス、サービス担当者会議等の見学						
		作業療法士の臨床の見学、評価の模倣・実施（情報収集、検査・測定、姿勢評価、ADL 評価等）						
		実習ポートフォリオ、体験チェックリスト（週末のみ）、成長報告書提出						
	巡回教員によ る実習ポート フォリオの内 容の確認 （予備日）	実習指導者のフィードバック			実習の総括			
作業療法評 価実習では 第5週、作 業療法総合 臨床実習 Ⅰ・Ⅱでは 第7週 学内	凝縮ポートフ ォリオの作成	凝縮ポートフ ォリオの作成	OSCE（実習 後）、OSCEの 試験の時間外は 凝縮ポートフ ォリオの作成	凝縮ポートフ ォリオの作成	凝縮ポートフ ォリオ報告会			

※実習中の実習担当教員の巡回は、作業療法評価実習で第2週に1回実施する。作業療法総合臨床実習で第3週に1回実施する。

## (2) 「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」について

本学科の教育課程上、臨地実務実習に際して、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画が不明であるとの指摘を受け、実習前後の学内の取り組みの概要を見直し、時期や方法を含めた具体的な実施計画を加えて以下に示す。

### ①実習前

実習中に作成するポートフォリオの書き方を指導する。さらに、実習前は、実習施設の概要（実践する場がどのような環境にあるのか、どのような対象者がいるのか、作業療法士が用いる介入で多い方法、作業療法士の組織図上の位置、設置にいたる歴史的経緯、実習地の地域の中での役割など）についてまとめ、実習前レポートとして提出することで、実習に臨む体制を整える。

### ②実習中

学生は、様々な対象者の作業療法の介入場面の見学を通して経験し、多様な作業療法の支援のあり方を学ぶ。その際、実習指導者から口頭、文章、図示などの教示がされる。それらの要点をまとめて実習ポートフォリオを作成し、実習指導者に提出することで、実習指導者は学修状況（何をどのように理解したか）を確認し、その後の指導に活かす。

実習担当教員は、実習中と実習後に、実習指導者に電話連絡し、実習の状況を把握する。実習に支障をきたしている時は、実習担当教員が訪問し、実習指導者とともに学生指導を行う。

実習中の評価については、実習指導者と実習担当教員が行う。実習指導者は、本学の評価表を用いて行うが、実習担当教員が電話連絡した際に、本学の評価基準が守られているか確認する。

また、学生が実習中に作成した実習ポートフォリオは、実習終了後に学校へ提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点から、実習担当教員が評価を行い、実習中の評価とする。

### ③実習後

実習後の評価内容を「筆記試験と OSCE」から、「実習ポートフォリオの発表と提出課題」の2つに変更した。その変更理由は、申請時の計画では、実習前後の評価を同一内容の筆記試験と OSCE を行うことで、成長を測ることが、公平な成績評価であると捉えていた。しかし、配置された実習施設の特徴によって、対象となる疾患や障害が異なり、実習内容が大きく異なるため、実習後の評価は、あくまで実習での学修成果に対して行うことが、公平な成績評価となると認識を改めたためである。そこで、実習ポートフォリオをもとに発表を行い、教員が評価する。なお、実習ポートフォリオの発表は、施設実習終了後に実施する。

以上のように、実習前・実習中・実習後に分け、それぞれの時期について取り組みと評価について見直し、成績評価の内訳を下表のとおり変更した。変更理由は、申請時の計画では、実習前後の筆記試験と OSCE の評価を含めていたが、実習前の筆記試験と OSCE は、学生の知識と技術の到達水準を確認するためのもので、成績に含めることは不適切と考えたためである。検討の結果、実習中と実習後の評価をもって成績評価を行うよう改める。

### 「作業療法見学実習Ⅰ・Ⅱ」及び「作業療法地域実習」の評価内訳

	新		旧	
	評価内容	評価の割合	評価内容	評価の割合
実習前	実習前レポート	評価に含めない	口頭試問 実習前レポート	提出課題 30% 口頭試問 40% 筆記試験 30%
実習中	実習指導者評価 実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 成長報告書	60%	成長報告書	
実習後	凝縮ポートフォリオの発表 教員の評価	40%	筆記試験 口頭試問 実習後レポート	

### (3) 「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」について

本学科の教育課程上、臨地実務実習に際して、どのような取組を実施するのか具体的な実施計画が不明であるとの指摘を受け、実習前後の学内の取り組みの概要を見直し、時期や方法を含めた具体的な実施計画を加えて以下に示す。

#### ①実習前

「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」においては、知識レベルを判定するための筆記試験と技術レベルを判定する OSCE の 2 つの試験において、一定の水準に到達していることを確認する。

筆記試験は、実習地で出会うことの多い疾患に対する基本的な知識（身体障害領域の実習地であれば、脳梗塞の病態についての知識、基本的な介入方法、評価の視点、治療視点など）を問うものである。目的は、臨地実務実習に行くにあたって、疾患の知識の習得である。

OSCE は、学生に作業療法士として必要な技能、態度の基本能力を身に付けさせるものである。本学では、「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の実習の前後に設ける。これらは、求められる基本的臨床能力の深さが段階的に増すように設定する。「作業療法評価実習」は、基本的な作業療法介入の手技と療法士面接とし、「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」は、実習地で経験しうる技術、手技といった応用的な技能とする。試験課題は、実習施設の特性にあった疾患・障害領域に合わせて患者設定し、臨床実習における OSCE で獲得すべき水準Ⅰ（作業療法臨床実習指針）の技能と本学が推奨する「作業」を通して対象者を理解する為の技能の 2 つの課題とする。

OSCE の具体的な実施方法は、才藤ら（2015）が推奨する方法を参照し、次のように設定する。

#### OSCE の試験環境の設定

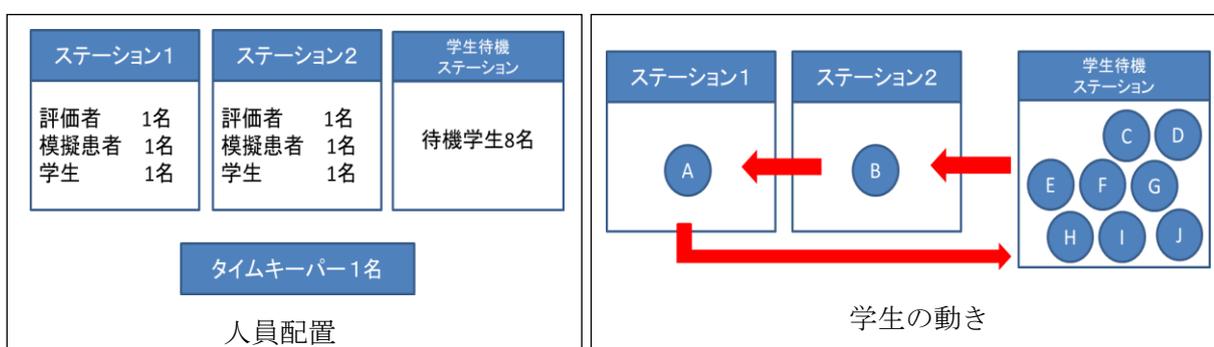
試験会場は、2 階評価実習室とする。実習室を可動式パーテーションで部屋を仕切り、2 つのステーションと学生待機スペースを設定する。タイムキーパーはすべてのステーションが見渡せる位置とする。

1つのステーションに配置される人員は、評価者1名、模擬患者1名、受験する学生の3名とする。学生待機ステーションには8名の学生が待機する。評価者と模擬患者、タイムキーパーは教員が行う。

### OSCEの実施方法

1つのステーションでの試験時間は5分で、試験終了2分間のフィードバックを受け、次のステーションへの移動時間を1分間設ける。つまり、学生が1課題を受験に必要な時間は8分間となる。

作業療法学科の40名の学生を10名ずつの4グループに分け、1グループずつ試験室に入る。タイムキーパーの指示に従って、各ステーションに学生を1名ずつ配置し、2ステーション同時に試験を行う。課題が終わるごとに、タイムキーパーの指示に従って下の図のとおりローテーションする。10名が、すべての課題を終了するために必要な時間は80分となるが、余裕をもって、1グループ1限(90分)ずつ割り当てる。つまり、4グループに対してOSCEを行うために4時限必要となり、1日間かけて行う計画である。



### OSCEの課題(例1) 肩・肘関節可動域の検査測定(肩・肘関節動作の機能の評価の技術)

設問) 脳梗塞により左片麻痺を呈した患者です。この患者の肩関節が移転の角度を測定してください。

測定の際は基本軸、移動軸を口頭で採点者に説明しながら計測してください。制限時間は5分です。では、始めてください。

準備物) 治療用ベッド、枕、角度計

患者設定)

疾患・障害	脳梗塞・左片麻痺	座位	自立
年齢・性別	不問	立位	自立
受傷・発症後	1ヶ月	起居動作	自立
疼痛	左肩	理解・表出	良好
表在覚	軽度鈍麻		

採点基準) 本学が作成した採点基準(ループリック評価)で評価をする。

### OSCEの課題(例2) 興味関心チェックシートを用いた面接(対象者の「作業」を調査する質問紙法、面接の技術)

設問) 脳梗塞により左片麻痺を呈した患者です。この方の「作業」に着眼したアプローチを考えたあな

たは、興味関心チェックシート（様々な作業活動が記載されており、それぞれの経験の有無、関心の有無を問う質問紙）を用いた面接を実施することになりました。制限時間は5分です。では、始めてください。

準備物) 鉛筆、消しゴム、興味関心チェックシート（制限時間の問題から設問項目を5問とする）、机

疾患・障害	脳梗塞・左片麻痺	座位	自立
年齢・性別	不問	立位	自立
受傷・発症後	1ヶ月	起居動作	自立
疼痛	左肩	理解・表出	良好
表在覚	軽度鈍麻		

採点基準) 本学が作成した採点基準（ループリック評価）にて評価する。

## ②実習中

実習中、学生は、作業療法士としての基本的態度を学び、様々な場面での適切な行動をとること、これまでに学修した知識を臨床場面に結びつけ、実習指導者の下で、リスク管理技術及び作業療法評価技術、治療技術の模倣・実施を経験し、作業療法の一連のプロセスを学ぶ。それを実習ポートフォリオにまとめ、実習指導者に提出することで、実習指導者は学修状況（何をどのように理解したか）を確認し、その後の指導に活かす。また、教員は、巡回時に学生の実習ポートフォリオを確認し、作成がスムーズに進行できるように支援を行う。

学生には毎週末に実習地でどのような経験をしたかを記す体験チェックリストを課題として設定する。この表は、作業療法の実践の何をどれくらい経験したのかを明らかにし、経験できていないものは、経験する機会を実習指導者と学生、実習担当教員で確認するものである。

実習中は、各実習施設に最低1名の専任教員（実習担当教員）を配置し、実習期間中に必ず1回以上巡回指導を行い、実習施設の指導者と実習の進捗状況や問題点の把握を実施する。実習に支障をきたしている時は、実習指導者とともに学生指導を行う。

実習中の評価については、実習指導者と教員が行う。実習担当教員は、訪問あるいは電話連絡時に、実習指導者とともに学生の状況を評価表に沿って中間評価を行う。実習指導者の評価は、形成的評価として捉え、段階的に成長していけるよう学生の教育に活用する。その際、本学の定める評価の基準と実習指導者の評価に差があるときは、評価をつける根拠を聞きとり、評価基準を説明し、評価が適正に行われるように働きかける。また、実習中に作成した実習ポートフォリオ、体験チェックリスト、成長報告書は、実習終了後に学校へ提出し、実習中の取り組みの状況、学生の変化の2つの観点から、実習担当教員が評価を行い、実習中の評価とする。

## ③実習後

実習後の評価内容を「筆記試験とOSCE」から、「凝縮ポートフォリオの発表とOSCE」の2つに変更した。その変更理由は、申請時の計画では、実習前後の評価を同一内容の筆記試験とOSCEを行うことで、成長を測ることが、公平な成績評価であると捉えていた。しかし、配置された実習施設の特性によって、対象となる疾患や障害が異なり、実習内容が大きく異なるため、実習後の評価は、あくまで実習での学修成果に対して行うことが、公平な成績評価となると認識を改めたためである。そこで、知識は、凝縮ポートフォリオをもとに発表を行い、教員が評価する。OSCEは、実習で経験した疾患・障害

領域に合わせて患者設定して、実習目的の到達度を確認する。なお、凝縮ポートフォリオの発表（作成の期間を含む）と OSCE は、施設実習終了後 1 週間の間に実施する。

以上のように、実習前・実習中・実習後に分け、それぞれの時期について取り組みと評価について見直し、成績評価の内訳を下表のとおり変更した。変更理由は、申請時の計画では、実習前後の筆記試験と OSCE の評価を含めていたが、実習前の筆記試験と OSCE は、学生の知識と技術の到達水準を確認するためのもので、成績に含めることは不適切と考えたためである。検討の結果、実習中と実習後の評価をもって成績評価を行うよう改める。

「作業療法評価実習」及び「作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の評価内訳

	新		旧	
	評価内容	評価の割合	評価内容	評価の割合
実習前	筆記試験 OSCE	評価に含めない	筆記試験 OSCE	提出課題 10% 施設評価 20% OSCE 40% 筆記試験 30%
実習中	実習指導者評価 実習ポートフォリオ 体験チェックリスト 成長報告書	50%	施設評価 凝縮ポートフォリオ 成長報告書	
実習後	凝縮ポートフォリオの発表 OSCE 教員の評価	50%	OSCE 筆記試験	

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

15. <臨地実務実習が不明確>

大学教育としてふさわしい臨地実務実習が実施され、単位認定が厳格に行われる計画なのか疑義があるため、次の内容をはじめとして、計画全体を再度確認し、適切に修正すること。

【2学科共通】

(2) 提出された巡回指導計画表に、担当教員の氏名が記載されておらず、巡回指導のシフトが適切に組まれているのか不明なため、巡回指導計画表を修正した上で、臨地実務実習が適切に実施できる指導体制となっていることを説明すること。その際、完成年度時において、担当教員が講義と実習を同時期に担当する場合には、教員ごとの科目担当時間割等を資料として添付した上で、教員の負担等の観点から無理のない計画であることを併せて説明すること。

(対応)

申請時に提出を行った巡回指導計画表に、担当教員の氏名を記載しておらず不適切であった。巡回指導計画表(資料15-2、15-3)及び実習担当教員ごとの勤務スケジュール表(資料15-4、15-5)を添付することで、臨地実務実習が適切に実施できる指導体制となっていることの説明を行う。

完成年度における実習担当教員の科目担当時間割を資料に示す。全ての実習担当教員に研究日を1日設定しており、これに科目担当を入れても担当していない時間があり、この時間を巡回指導にあてる。1人あたりの実習担当施設数は、理学療法評価実習においては3施設程度、作業療法評価実習においては5施設程度、理学療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにおいては5施設程度、作業療法総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにおいては5施設程度配置している。また、1人の担当教員が担当する実習地は、1実習期間中、本学が定める実習巡回条件区分の遠距離施設を複数担当しないように配慮し、近距離施設と遠距離施設を組み合わせるよう調整する。

各実習担当教員における科目担当の平均単位数を下表に示す。両学科とも、平均担当単位数が前期・後期ともに5単位程度であった。これは、下表に示す他大学の平均担当単位数と比較しても少なく、このことから本学の教員体制から考え、巡回指導を十分行うことができ、かつ実習担当教員の学生教育及び研究に支障をきたすことはない。さらに、臨床実習全体の計画の作成、実習地との調整、臨床実習の進捗管理等、実習の管理を臨地実務実習以外の科目を担当しない実習調整者が行うことで、他の実習担当教員が学生教育及び研究の時間をさらにとることができるよう配慮する。

資料15-2：巡回指導計画表(理学療法学科)

資料15-3：巡回指導計画表(作業療法学科)

資料15-4：勤務スケジュール表(理学療法学科)

資料15-5：勤務スケジュール表(作業療法学科)

表1 本学両学科教員の平均担当単位数 (完成年度時)

学科名	教員数 (名)	平均担当単位 (単位)		定員 (名)
		前期	後期	
理学療法学科	17	2.16	5.07	80
作業療法学科	9	2.80	3.56	40

表2 宝塚医療大学の平均担当単位数

学科名	教員数 (名)	平均担当単位 (単位)		定員 (名)
		前期	後期	
理学療法学科	14	5.28	5.28	70

(宝塚医療大学HP <http://www.tumh.ac.jp/course/teachers/index.html>

平成30年度シラバス

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000375.pdf>

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000376.pdf>

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000377.pdf>

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000378.pdf>

<http://www.tumh.ac.jp/uploads/outline/0000000379.pdf>

本学調べ)

表3 森ノ宮医療大学の平均担当単位数

学科名	教員数 (名)	平均担当単位 (単位)		定員 (名)
		前期	後期	
理学療法学科	15	8.03	6.13	70

(森ノ宮医療大学 HP <https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/kyoin.php#rigaku>

講義概要 シラバス [https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/syllabus\\_list.pdf](https://www.morinomiya-u.ac.jp/info/pdf/syllabus_list.pdf)

本学調べ)

表4 藤田医科大学の平均担当単位数

学科名	教員数 (名)	平均担当単位 (単位)		定員 (名)
		前期	後期	
作業療法学科	9	2.80	3.78	40

(藤田医科大学 HP <https://www.fujita-hu.ac.jp/rs/list2.html?g=4>

平成30年度 (2018) シラバス

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/dubv6r00000025sv-att/dubv6r0000002k7b.pdf>

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/dubv6r00000025sv-att/dubv6r0000002k77.pdf>

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/dubv6r00000025sv-att/dubv6r0000002k7i.pdf>

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/dubv6r00000025sv-att/dubv6r0000002k7l.pdf>

本学調べ)

表5 国際医療福祉大学小田原キャンパスの平均担当単位数

学科名	教員数（名）	平均担当単位（単位）		定員（名）
		前期	後期	
作業療法学科	15	6.23	8.00	80

（国際医療福祉大学 HP <https://otawara.iuhw.ac.jp/gakubu/sagyou/professor.html>

平成 29 年度 授業計画（シラバス集） <https://www2.iuhw.ac.jp/pdf/syllabus/作業療法学科.pdf>  
 本学調べ)

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

16. <取得可能な資格に関する指導方法が不十分>

取得可能な資格として挙げられた各資格を取得することがどのような意義をもつのかについて、学生にどのように指導していくのか不明なため、資格取得のための学生の費用負担に関する考え方とともに、明確に説明すること。その際、3つのコース・領域の学修における対応関係についても留意すること。【2学科共通】

(対応)

設置の趣旨等を記載した書類の62項～63頁において、取得可能な資格として、理学療法学科においては、理学療法士国家試験受験資格以外に、「中級障がい者スポーツ指導員」、「スポーツリズムトレーニング (DIFFUSER)」及び「ゴルフフィジオトレーナー」の3つの資格を挙げ、作業療法学科においては、作業療法士国家試験受験資格以外に、「福祉住環境コーディネーター2級」、「中級障がい者スポーツ指導員」及び「メンタルヘルス・マネジメント2種」の3つの資格を挙げたが、資格の取得自体を単位取得の条件とはしておらず、もとより3つのコース・領域（現：履修モデル）との対応関係は想定していなかった。

これらは、本学の授業に関連した資格を挙げており、当該科目を受講すれば資格が取れるというものではない。学生が授業を通して、これらの資格に興味を持った場合、その後、自身のキャリアアップのため、自らの意思で資格を取得できることを伝え、資格取得のための情報を提供することが、本学の学生に対する指導内容となる。資格に関する情報提供は、授業内や学内情報の掲示版にて行い、資格取得にあたっての費用は、学生負担とする。

そのため、「理学療法士／作業療法士国家試験受験資格」とは切り離し、授業科目の延長で取得可能な資格として、以上の6つの資格を列記することで、本改善事項への対応とさせていただく。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

17. <国家試験受験資格の位置付けが不適切>

共生型社会に向けたリハビリテーションの専門家育成を掲げているにもかかわらず、国家試験を受験しなかった者又は受験できなかった者も卒業要件を満たせば卒業できることを設置計画書上で明示しているが、専門職大学制度における専門職業人の育成目的を踏まえれば、国家試験の受験資格に関する考え方が不適切なため、適切に改めること。【2学科共通】

(対応)

ご指摘のとおり、理学療法士・作業療法士というリハビリテーションの専門家を養成することが、本学の目的の根幹となるため、学生に国家試験受験資格を取得させたうえで卒業させるべきである。そのため、学生が国家試験受験資格を取得し、卒業できるよう大学として責任を持って取り組む旨を明記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (75 ページ)

新	旧
<p><b>2) 資格の位置づけ</b></p> <p><u>理学療法士・作業療法士というリハビリテーションの専門家を養成することが、本学の根幹となるため、理学療法学科の学生は、理学療法士の国家資格を取得することが、また、作業療法学科の学生は、作業療法士の国家資格を取得することが、主要な目標となる。そのため、学生が国家資格を取得できるよう本学として責任を持って取り組む。</u></p>	<p><b>2) 資格の位置づけ</b></p> <p>理学療法学科の学生は、国家資格である理学療法士を取得することが、また、作業療法学科の学生は、国家資格である作業療法士を取得することが主要な目標となるが、国家試験に不合格であった場合、又は、国家試験を受験しなかった場合、あるいは受験できなかった場合でも、上述の卒業要件を満たしていれば、卒業（修了）できるものとする。</p>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

18. <教育課程連携協議会に関する整備が不明確>

教育課程連携協議会について、以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (1) 教育課程連携協議会に関する専門職大学設置基準第11条第2項第3号の区分の構成員について、地域の幅広い意見を教育課程に反映させるための代表者として十分なのか不明確であるため、妥当性を明確に説明するか、構成員を追加する等構成を見直すこと。

(対応)

申請時の専門職大学設置基準第11条第2項第3号の区分の構成員(東近江市福祉総合支援課主幹の河島克彦氏)について、地域の幅広い意見を教育課程に反映させるための代表者としての妥当性についてご指摘を受け、検討を行った。

新たに、当該区分の構成員として滋賀県健康医療福祉部理事の角野文彦氏を追加し、河島克彦氏については、本学の目的を達成するために、欠かせぬ人材であるため、専門職大学設置基準第11条第2項第5号の区分の構成員へ移動する。さらに、見直しを行う過程で、本学の目的を達成するために、滋賀県立リハビリテーションセンター主査の乙川亮氏を専門職大学設置基準第11条第2項第5号の区分の構成員として新たに追加する。

1) 滋賀県健康医療福祉部理事の角野文彦氏を専門職大学設置基準第11条第2項3号の区分の構成員に据える。

滋賀県健康医療福祉部理事の角野文彦氏は、これまで滋賀県健康医療福祉部の要職を歴任し、県内の医療政策や福祉政策、医療福祉や健康寿命延伸の推進など、現在に至るまで県民の保健・医療・福祉に多く携わるとともに、県内の幅広い意見を集約している人材である。

以上の理由で、現在、そしてこれからの保健・医療・福祉分野の課題や動向、地域共生社会の実現に向けたリハビリテーション専門職の在り方に関する提言ができる存在となると考え、教育課程連携協議会の代表者としてふさわしいと考え、角野文彦氏を専門職大学設置基準第11条第2項3号の区分の構成員に据えることとした。

略歴

年 月	事 項
昭和 61 年 3 月	滋賀医科大学医学部 卒業
昭和 61 年 6 月	滋賀県入庁 彦根保健所
平成 11 年 4 月	滋賀医科大学「公衆衛生」非常勤講師
平成 20 年 4 月	滋賀県 健康福祉部 健康推進課長
平成 24 年 4 月	滋賀県 健康医療福祉部 次長
平成 25 年 4 月	滋賀医科大学 特命教授 (現在に至る)
平成 30 年 4 月	滋賀県 健康医療福祉部 理事 (現在に至る)

備考：理事職について

○滋賀県職員の標準的な職に関する規則

平成28年4月1日  
滋賀県規則第60号

滋賀県職員の標準的な職に関する規則をここに公布する。  
滋賀県職員の標準的な職に関する規則  
(趣旨)

第1条 この規則は、地方公務員法(昭和25年法律第261号)第15条の2第2項の規定に基づき、滋賀県職員の標準的な職に関し、必要な事項を定めるものとする。  
(定義)

第2条 この規則において「本庁」とは滋賀県行政組織規則(昭和51年滋賀県規則第16号)第2章に規定する機関を、「地方機関」とは同規則第3章および第4章に規定する機関をいう。  
(標準的な職)

第3条 滋賀県職員(技能労務職員を除く。)の標準的な職は、次の表のとおりとする。

事務部局の区分	機関の種類別	職	標準的な職
知事の事務部局	本庁	部長、 <b>理事</b> 、防災危機管理監、コンプライアンス推進監、会計管理者および会計管理局長	部長
	地方機関	東京本部の本部長	
	本庁	次長、管理監、技監、知事公室長、防災危機管理局長、IT統括監、スポーツ局長、子ども・青少年局長、観光交流局長、ここ滋賀推進監および流域政策局長	次長
	地方機関	大津土木事務所、政策研修センター、工業技術総合センター、ここ滋賀および農業技術振興センターの所長、近代美術館の館長、琵琶湖環境科学研究センターの副センター長ならびに琵琶湖博物館の副館長	

滋賀県健康医療福祉部 理事の分掌事務

(健康・医療政策担当)

(健康医療福祉部次長事務取扱)

(病院事業庁次長事務取扱)

(総務事務・厚生課主席参事事務取扱)

2) 東近江市福祉総合支援課の河島克彦主幹を専門職大学設置基準第11条第2項5号の区分の構成員に変更する。

本学において、地域の幅広い意見を教育課程に反映させるための代表者を十分に議論した結果、前述のとおり、専門職大学設置基準第11条第2項第3号の区分の構成員として角野文彦氏を追加し、東近江市福祉総合支援課の河島克彦主幹については、専門職大学設置基準第11条第2項第5号の区分の構成員として区分を変更して据えることとした。

河島克彦氏が在籍する東近江市福祉総合支援課の主な業務内容は、地域包括支援センターの運営(高齢者対象)・要援護高齢者、障害者、生活困窮者の総合相談、高齢者、障害者及び生活困窮者の総合相談、地域包括支援センターの運営、高齢者及び障害者の権利擁護、認知症に対する相談に関することであり、福祉総合支援課が蓄積する豊富な情報は重要な資源と言える。河島克彦氏は主幹として、当該部署業務の中心的役割を果たしている。加えて、本学の学生にとって、地域の現状把握、分析、課題解決能力を身に付けさせ、実践力を高めるためにはフィールドワークが不可欠であり、それを実施するためには福祉総合支援課の協力が重要となる。これらの理由から、河島氏は、欠かせぬ人材であるため、設置基準

第 11 条第 2 項 5 号の区分の構成員に据える。

**3) 滋賀県立リハビリテーションセンター主査の乙川亮氏を、専門職大学設置基準第 11 条第 2 項第 5 号の区分の構成員に加える。**

上記、2) で東近江市福祉総合支援課の河島克彦主幹を設置基準第 11 条第 2 項 5 号の区分の構成員として据えることとしたが、東近江市という市単位の意見だけは、その市の特徴に偏ることも考えられる。そこで、もう 1 つ大きな枠として、県単位のリハビリテーションの状況をよく知る人材も追加することで構成員の構成がよりバランスが良くなると考え、さらにもう 1 名、乙川亮氏を専門職大学設置基準第 11 条第 2 項第 5 号の区分の構成員に加えた。

乙川氏は、滋賀県立リハビリテーションセンターに在籍する作業療法士である。同センターの役割は、滋賀県のリハビリテーションの質的向上を目的として、地域リハビリテーションを推進し、地域と県全域をつなぐ支援のネットワークづくりや、利用者本位の一貫したサービスを総合的に提供できる体制の整備などを行うことにある。その中でも、支援部門は、関係機関・施設・各種団体との協働により、教育・研修、情報の収集・提供、交流など様々な事業を行っている。構成員に乙川氏が加わることで、滋賀県のリハビリテーション中核としての機能（最先端のリハビリテーションに関する知識や技術、地域連携など）を本学の教育課程に反映したいと考えている。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

18. <教育課程連携協議会に関する整備が不明確>

教育課程連携協議会について、以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (2) 教育課程の不断の見直しを実現するために重要な事項を審議し、学長に意見を述べる役割を担う教育課程連携協議会の位置付けを踏まえれば、学則上で教育課程連携協議会の設置を規定することが適切だと考えられるが、本大学の学則では規定がないため、適切に規定すること。

(対応)

教育課程連携協議会の趣旨・重要性を踏まえ、教育課程連携協議会を本学に設置する旨を、学則に明記する。

(新旧対照表) 学則7ページ

新	旧
<p>(略)</p> <p>第10章 教授会、運営会議 (教授会)</p> <p>第39条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。</p> <p>(略)</p> <p><u>第11章 教育課程連携協議会</u> <u>(教育課程連携協議会)</u></p> <p><u>第41条 本学に、産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するため、教育課程連携協議会を置く。</u></p> <p><u>2 教育課程連携協議会に関する事項は別に定める。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>第10章 教授会、運営会議 (教授会)</p> <p>第39条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。</p> <p>(略)</p>

※是正事項30の「書類不備」への対応として第40条に運営会議について規定するため、教育課程連携協議会は第41条としている。

(新旧対照表) 教育課程連携協議会規程 1 ページ

新	旧
<p>(目的)</p> <p>第 1 条 この規程は、専門職大学設置基準第 11 条及び学則第 41 条に基づき、<u>びわこリハビリテーション専門職大学</u> (以下「<u>本学</u>」という。)と産業界及び地域社会との連携により、本学の教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために設置する教育課程連携協議会 (以下「<u>連携協議会</u>」という。) について必要な事項を定める。</p>	<p>(目的)</p> <p>第 1 条 この規程は、専門職大学設置基準第 11 条に基づき、<u>藍野専門職大学</u> (以下「<u>本学</u>という。 」と産業界及び地域社会との連携により、本学の教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために設置する教育課程連携協議会 (以下「<u>連携協議会</u>」 という。) について必要な事項を定める。</p>

## 【教員組織等】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

### 19. <専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>

両学科において、専攻分野に係る理論系の専任教員が少なく、専門職大学設置基準第31条第1項が規定する当該専攻分野に係る教員組織体制として不十分であるため、適切な教員組織体制に修正すること。【2学科共通】

(対応)

専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分であるとの指摘を受け、教員組織を見直し、次のとおり、普通教員（実務家教員以外の教員）並びに研究業績を有する実務家教員の追加を行った。

### 1) 理学療法学科配属

理論系の専任教員について、普通教員（実務家教員以外の教員）10人（教授候補6人・准教授候補2人・講師候補1人・助教候補1名）を追加した。なお、教員審査で普通教員（実務家教員以外の教員）の講師相当と判定を受けた者1名は諸般の事情から外した。結果、専攻分野に係る理論系の教員は、次の表のとおり6名増となった。

追加した教員10名のうち、授与する学位に係る理学療法を専門とする教員は5名であり、4名は、理学療法の基礎となる医学を専門とする教員となる。残りの1人は、理学療法の関連領域であるスポーツ科学を専門とする教員となる。また、そのうちの1人はヘルスプロモーションや地域保健を専門としており、本学科の目的と整合する。

申請時

区分	教授	准教授	講師	助教	合計
普通教員 (実務家教員以外)	4人	0人	0人	0人	4人
実務家教員研究者	5人	3人	0人	0人	8人
合計	9人	3人	0人	0人	12人

補充後

区分	教授	准教授	講師	助教	合計
普通教員 (実務家教員以外)	8人 (+4)	3人 (+3)	1人 (+1)	1人 (+1)	13人 (+9)
実務家教員研究者	1人 (-4)	3人 (±0)	1人 (+1)	0人 (±0)	5人 (-3)
合計	9人 (±0)	6人 (+3)	2人 (+2)	1人 (+1)	18人 (+6)

補充した者の略歴は次のとおりである

①普通教員（実務家教員以外）10人

・山川正信 教授（候補）

専門分野：予防医学、公衆衛生学、健康教育学、疫学、ヘルスプロモーション、地域保健

昭和50年3月	京都大学大学院工学研究科修士課程（衛生工学専攻）修了
昭和51年9月	滋賀医科大学医学部 助手（保健管理学講座）
平成3年3月	学位取得 医学博士（滋賀医科大学）
平成7年2月	滋賀医科大学医学部 講師（福祉保健医学講座）
平成7年10月	ハワイ大学留学（～平成8年9月）
平成9年4月	大阪教育大学教育学部 教授
平成21年4月	（兼）大阪教育大学附属池田中学校 校長 （兼）大阪教育大学附属高等学校池田校舎 校舎主任
平成27年3月	大阪教育大学 名誉教授
平成29年4月	学校法人関西女子学園 宝塚大学看護学部教授・学長（現在に至る）

・山田久夫 教授（候補）

専門分野：解剖学

昭和55年3月	関西医科大学医学部 卒業
昭和55年4月	京都府立医科大学 助手（第一解剖学教室）（昭和63年3月まで）
昭和60年9月	学位取得 医学博士（京都府立医科大学）
昭和63年4月	京都府立医科大学 講師（平成3年8月まで）
平成元年9月	滋賀医科大学 助教授（解剖学第二講座）（平成12年6月まで） 平成5年6月～平成6年6月 文部省在外研究員（米国アイオワ大学医学部薬理学教室）
平成12年7月	関西医科大学 教授（解剖学第一講座）（現在に至る） 平成15年度～平成20年度 附属図書館長 平成19年度～平成23年度 産学連携・知的財産 統括室長 平成20年度～平成23年度 学生部長 （他に学内役職は多数）

・中野法彦 教授（候補）

専門分野：神経再生、細胞生物学、生化学

平成6年3月	北海道大学医学部医学科 卒業
平成11年3月	大阪大学大学院医学研究科 修了 学位取得 博士（医学）（大阪大学）
平成11年4月	大阪大学医学部附属病院 基礎系医員
平成11年11月	大阪府立母子保健総合医療センター研究所 研究員
平成14年4月	大阪府立母子保健総合医療センター研究所 主任研究員（平成16年3月まで）
平成15年4月	大阪大学 客員助教授（歯学研究科）（平成16年3月まで）
平成16年4月	杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室 講師

平成 19 年 6 月 藍野大学再生医療研究所 特任准教授  
 平成 23 年 4 月 藍野大学再生医療研究所 准教授  
 平成 25 年 4 月 (兼) 藍野大学医療保健学部臨床工学科 准教授 (現在に至る)

・植田昌治 教授 (候補)

専門分野：心身相関、精神的要因、運動

昭和 62 年 3 月 藍野医療技術専門学校 理学療法学科 卒業  
 昭和 62 年 4 月 京都市身体障害者リハビリテーションセンター 訓練課 勤務 (平成 5 年 3 月まで)  
 平成 5 年 4 月 藍野医療技術専門学校理学療法学科専任教員 (平成 11 年 3 月まで)  
 平成 12 年 4 月 藍野医療技術専門学校理学療法学科学科主任 (平成 16 年 3 月まで)  
 平成 16 年 4 月 藍野大学医療保健学部理学療法学科 講師 (平成 20 年 3 月まで)  
 平成 20 年 4 月 藍野大学医療保健学部理学療法学科 准教授 (平成 22 年 3 月まで)  
 平成 21 年 4 月 藍野学院短期大学(平成 24 年に藍野大学短期大学部に名称変更)  
 専攻科地域看護学専攻 非常勤講師(現在に至る)  
 平成 22 年 4 月 藍野大学医療保健学部理学療法学科 教授  
 平成 28 年 4 月 藍野大学医療保健学部理学療法学科 学科長補佐 (現在に至る)

・堀 寛史 教授 (候補)

研究分野：痛み、臨床哲学、理学療法学

平成 11 年 3 月 西日本リハビリテーション学院 卒業  
 平成 11 年 4 月 医療法人 寿量会 熊本機能病院 総合リハビリテーション部 入職 (平成 15 年 3 月退職)  
 平成 15 年 3 月 放送大学 教養学部 卒業 学士 (教養)  
 平成 15 年 4 月 医療法人 光寿会 アラキ整形外科 リハビリテーション科 入職 (平成 17 年 3 月退職)  
 平成 17 年 3 月 熊本大学大学院文学研究科人間科学専攻 修了 修士 (文学)  
 平成 17 年 4 月 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 入職 助手  
 平成 18 年 4 月 大阪大学大学院文学研究科文化形態学専攻臨床哲学研究室 入科  
 平成 20 年 4 月 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 助教  
 平成 21 年 3 月 大阪大学大学院文学研究科文化形態学専攻臨床哲学研究室  
 博士後期課程 単位取得後退学  
 平成 21 年 4 月 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 講師 (現在に至る)  
 平成 29 年 7 月 博士 (学術) 大阪大学文学研究科 取得

・里中綾子 教授 (候補)

専門分野：リハビリテーション科学、福祉工学、スポーツ科学、応用健康科学

平成 8 年 3 月 名古屋大学医療技術短期大学部理学療法学科 卒業  
 平成 8 年 4 月 小山田記念温泉病院, 理学療法士 (平成 9 年 3 月まで)  
 平成 9 年 4 月 ふく田整形外科, 理学療法士 (平成 13 年 3 月まで)  
 平成 13 年 4 月 ひがし春日井病院, 理学療法士 (平成 21 年 12 月まで)  
 平成 14 年 4 月 障害者療護施設夢の家, 理学療法士 (非常勤, 平成 16 年 3 月まで)

平成 15 年 4 月 障害者療護施設麦の里, 理学療法士 (非常勤, 平成 18 年 3 月まで)

平成 16 年 4 月 障害者療護施設ハートランド小牧の杜, 理学療法士 (非常勤, 平成 18 年 6 月まで)

平成 21 年 3 月 名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 博士前期課程 修了

平成 22 年 1 月 あさひ病院, 理学療法士 (平成 23 年 3 月まで)

平成 23 年 4 月 訪問看護ステーション仁, 理学療法士 (平成 24 年 3 月以降は非常勤勤務)

平成 24 年 3 月 名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 博士後期課程 修了  
学位取得 博士 (リハビリテーション療法学) (名古屋大学)

平成 24 年 4 月 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所, リサーチレジデント (平成 25 年 12 月まで)

平成 24 年 4 月 名古屋大学医学部保健学科, 非常勤講師 (平成 25 年 12 月まで)

平成 26 年 1 月 名古屋大学大学院医学系研究科ウェルビーイング in アジア特任助教 (平成 30 年 3 月まで)

平成 30 年 4 月 名古屋大学大学院医学系研究科ウェルビーイング in アジア特任准教授 (現在に至る)

・兼清健志 准教授 (候補)

専門分野：神経再生、幹細胞生物学、グリア細胞、薬学、栄養学、生化学

平成 14 年 3 月 富山医科薬科大学薬学部 卒業

平成 16 年 3 月 富山医科薬科大学大学院 薬学研究科 博士前期課程 修了

平成 19 年 9 月 富山医科薬科大学大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了  
学位取得 博士 (薬学) (富山医科薬科大学)

平成 19 年 10 月 富山医科薬科大学大学院医学薬学研究部・生薬学研究室 協力研究員

平成 20 年 1 月 理化学研究所 フロンティア研究システム システム糖鎖生物学研究グループ  
疾患糖鎖研究チーム 研究員 (平成 20 年 3 月まで)

平成 20 年 4 月 理化学研究所 基幹研究所 ケミカルバイオロジー研究領域 システム糖鎖生物学研究グループ  
疾患糖鎖研究チーム 特別研究員 (平成 25 年 3 月まで)

平成 25 年 4 月 理化学研究所 グローバル研究クラスター 理研-マックスプランク連携研究センター  
システム糖鎖生物学研究グループ 疾患糖鎖研究チーム 協力研究員 (平成 25 年 7 月まで)

平成 25 年 8 月 藍野大学再生医療研究所 助教 (平成 27 年 3 月まで)

平成 25 年 12 月 理化学研究所 グローバル研究クラスター 理研-マックスプランク連携研究センター  
システム糖鎖生物学研究グループ 疾患糖鎖研究チーム 客員研究員 (現在に至る)

平成 27 年 4 月 藍野大学再生医療研究所 講師 (現在に至る)

・佐藤隆彦 准教授 (候補)

専門分野：スポーツ科学、バイオメカニクス学、体育学

平成 20 年 3 月 金沢大学教育学部スポーツ科学課程 卒業

平成 20 年 4 月 北陸大学 非常勤講師 (平成 21 年 3 月まで)  
北陸大学バスケットボール部 契約コーチ (平成 22 年 3 月まで)

平成 22 年 3 月 金沢大学大学院教育学研究科保健体育専攻修士課程 修了

平成 23 年 4 月 国立スポーツ科学センター 非常勤専門職員 (平成 25 年 3 月まで)

平成 23 年 10 月 東京リゾート&スポーツ専門学校 非常勤講師 (平成 27 年 3 月まで)

平成 26 年 4 月 明海大学 非常勤講師 (平成 27 年 3 月まで)

	日本医学柔整鍼灸専門学校 非常勤講師 (平成 27 年 3 月まで)
平成 27 年 4 月	早稲田大学スポーツ科学学術院 研究助手 (平成 28 年 3 月まで)
平成 28 年 1 月	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士課程 修了
	学位取得 博士 (スポーツ科学) (早稲田大学)
平成 28 年 4 月	立命館大学スポーツ健康科学部 特任助教 (現在に至る)

・和智 道生 講師 (候補)

専門分野：リハビリテーション科学、スポーツ科学、運動器リハビリテーション、画像評価

平成 23 年 3 月	佛教大学 保健医療技術学部卒業
平成 23 年 4 月	医療法人金沢整形外科クリニック 理学療法士 (平成 27 年 3 月まで)
平成 26 年 3 月	立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士課程前期課程 修了
	学位取得 修士 (スポーツ科学) (立命館大学)
平成 27 年 3 月	医療法人金沢整形外科クリニック リハビリテーション科
	医療保険課 課長 理学療法士 (現在に至る)
平成 27 年 4 月	京都府立久御山高等学校 非常勤講師 (現在に至る)
平成 27 年 11 月	滋賀県水泳連盟競泳委員会 委員 (現在に至る)
平成 30 年 3 月	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科博士後期課程 満期退学
平成 30 年 10 月	京都工芸繊維大学大学院 工芸化学科学研究科
	バイオテクノロジー専攻 博士後期課程 入学 (現在に至る)

・佐々木 絵美 助教 (候補)

専門分野：医療技術評価学、リハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学、身体教育学

平成 21 年 3 月	滋賀医療技術専門学校 理学療法学科卒業
平成 21 年 4 月	吉川整形外科クリニック リハビリテーション科(平成 31 年 2 月まで)
平成 25 年 3 月	放送大学教養学部卒業
平成 31 年 3 月	放送大学大学院文化科学研究科生活健康科学プログラム卒業
平成 31 年 3 月	いそクリック リハビリテーション科 (現在に至る)

## 2) 作業療法学科配属

理論系の専任教員について、普通教員 (実務家教員以外の教員) を 4 人 (教授候補 3 人、講師候補 1 人) 追加した。追加した教員 4 人のうち、授与する学位に係る作業療法を専門とする教員は 2 人であり、残りの 2 人は、作業療法の基礎となる医学を専門とする教員である。福祉工学や地域研究、労働衛生、健康科学等を研究分野とする教員がおり、本学科の目的と合致しており、有意義な研究になるものと考えている。

申請時

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
普通教員 (実務家教員以外)	5 人	0 人	0 人	0 人	5 人
実務家教員研究者	1 人	2 人	1 人	0 人	4 人
合 計	6 人	2 人	1 人	0 人	9 人

補充後

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
普通教員 (実務家教員以外)	7 人 (+2)	1 人 (+1)	1 人 (+1)	0 人 (±0)	9 人 (+4)
実務家教員研究者	0 人 (-1)	1 人 (-1)	1 人 (±0)	1 人 (+1)	3 人 (-1)
合 計	7 人 (+1)	2 人 (±0)	2 人 (+1)	1 人 (+1)	12 人 (+3)

補充した者の略歴は次のとおりである

①普通教員（実務家教員以外）4 人

・辛島千恵子 教授（候補）

専門分野：リハビリテーション科学・福祉工学、地域研究、特別支援教育

昭和 53 年 3 月	国立療養所近畿中央病院付属リハビリテーション学院作業療法科卒業
昭和 53 年 4 月	済生会 吹田療育園(昭和 55 年 8 月まで)
昭和 55 年 10 月	石川整肢学園(平成 7 年 4 月作業療法課主任:平成 9 年 12 月まで)
昭和 61 年 4 月	金沢大学医学部医療技術短期大学作業療法学科非常勤講師 (発達障害治療学 30 時間担当:平成 8 年 3 月まで)
平成 10 年 4 月	YMCA 米子医療福祉専門学校(専任教員:平成 12 年 3 月まで)
平成 12 年 4 月	金沢大学医学部保健学科作業療法学専攻助手(平成 14 年 3 月まで)
平成 13 年 3 月	佛教大学社会学部社会福祉学専攻卒業
平成 14 年 4 月	四條畷学園短期大学作業療法専攻教授(平成 17 年 3 月まで)
平成 14 年 4 月	金沢大学医学部保健学科作業療法学専攻非常勤講師 (発達障害治療学 30 時間:平成 16 年 3 月まで)
平成 15 年 3 月	金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻(前期課程)修了
平成 17 年 4 月	四條畷学園大学作業療法専攻教授 (発達障害治療学 30 時間 : 平成 18 年 3 月まで)
平成 18 年 3 月	金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻(後期課程)修了
平成 18 年 4 月	名古屋大学医学部保健学科作業療法学専攻教授(平成 24 年 3 月まで)
平成 24 年 4 月	名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 作業療法学講座教授(現在に至る)

・井出千束 教授（候補）

専門分野：脳神経化学、神経細胞学、神経質再生

昭和 42 年 5 月	東京大学医学部医学科	卒業
昭和 47 年 3 月	東京大学大学院医学研究科博士課程	修了 学位取得 医学博士（東京大学）
昭和 47 年 4 月	東京大学医学部助手	（昭和 50 年 12 月まで）
昭和 51 年 1 月	ペンシルバニア州立大学医学部解剖学教室	留学（昭和 52 年 5 月まで）
昭和 52 年 6 月	自治医科大学医学部	助教授（昭和 56 年 1 月まで）
昭和 56 年 2 月	岩手医科大学医学部	教授（平成 2 年 3 月まで）
平成 2 年 4 月	神戸大学医学部	教授（平成 6 年 3 月まで）
平成 6 年 4 月	京都大学大学院医学研究科	教授（平成 17 年 3 月まで）
平成 17 年 4 月	京都大学	名誉教授
平成 17 年 4 月	藍野大学医療保健学部作業療法学科	教授（平成 30 年 3 月まで）
平成 19 年 2 月	藍野大学再生医療研究所	所長（現在に至る）
平成 30 年 4 月	藍野大学医療保健学部臨床工学科	学科長・教授（現在に至る）

・埤田和史 教授（候補）

専門分野：予防医学、公衆衛生学、健康科学、労働衛生学、身体障がい者就労環境

昭和 52 年 4 月	滋賀医科大学医学部医学科	入学
昭和 58 年 3 月	滋賀医科大学医学部医学科	卒業（医学士）
昭和 58 年 5 月	医師免許取得	（医籍登録番号 第 272984 号）
昭和 58 年 4 月	岡山医療生活協同組合立総合病院岡山協立病院	内科医師（昭和 62 年 3 月まで）
昭和 62 年 4 月	滋賀医科大学大学院医学研究科	入学
平成 3 年 3 月	滋賀医科大学大学院医学研究科	修了 博士（医学）
平成 3 年 4 月	滋賀医科大学予防医学講座	助手（平成 8 年 4 月まで）
平成 8 年 5 月	滋賀医科大学予防医学講座	講師（平成 10 年 3 月まで）
平成 10 年 4 月	滋賀医科大学予防医学講座	助教授（平成 20 年 8 月まで）
平成 10 年 7 月	スウェーデン王立労働生活研究所	上級研究員（平成 11 年 8 月まで）
平成 12 年 4 月	滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門	准教授（現在に至る）
平成 25 年 4 月	聖泉大学非常勤講	（平成 22 年 5 月、聖泉大学看護学科開設に際して教員審査を受け資格認定される。担当科目：衛生学）（平成 29 年 3 月まで）

・澤賢一郎 講師（候補）

専門分野：人間医工学、作業療法学

平成 16 年 3 月 神戸総合医療介護福祉専門学校 卒業 （作業療法士）

平成 16 年 4 月 医療法人関田会 ときわ病院（平成 19 年 3 月まで）

平成 19 年 4 月 医療法人慈恵会 新須磨リハビリテーション病院（平成 25 年 3 月まで）

平成 22 年 4 月 神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻修士課程 修了 （保健学修士）

平成 25 年 4 月 医療法人幸生会 琵琶湖中央病院（平成 30 年 3 月まで）

平成 29 年 4 月 同病院 係長

平成 30 年 4 月 大和大学 保健医療学部 総合リハビリテーション学科

作業療法学専攻 講師（現在に至る）

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

20. <担当単位数が不適切>

週当たりの平均勤務日数が5日の専任教員がおらず、全ての専任教員が3日又は4日となる中、担当単位数が30単位を超える者もあり、科目数の過度な負担により十分な研究時間を確保することができないおそれや、授業及び学生指導などの教育の質の低下を招くおそれがあり、教育研究の実現可能性に疑義がある。担当する科目数を見直した上で、教育と研究を両立することができる教員組織を整えること。なお、見直した教員組織を説明する際には、各教員の1週間の勤務スケジュール(授業、学生指導、研究をいつ実施するのか示すもの。なお、既設の大学や専門学校を兼務する専任教員については既設の大学や専門学校での勤務に関する情報を含めたもの。)が分かる資料を提出すること。【2学科共通】

(対応)

申請書類において、全ての専任教員の勤務日数を3日又は4日としていたのは、全ての専任教員について、研究時間を確保できるよう研究日を2日又は1日設けており、その日を勤務日数に含めていなかったためである。しかし、研究も勤務の一部であるため、全専任教員について、「申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数」を5日に改めた。併せて、申請書類において、シラバスのオフィスアワー記入欄が未記載となっていたが、1週間の中で必ず1時間以上設けるように改めた。

また、是正事項19<専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>及び是正事項21<専任教員数が設置基準を満たしていない>への対応も踏まえ、教員組織の見直しを行い、理学療法学科で9名、作業療法学科で5名の専任教員を増やし、担当単位数が、原則30単位を超えないよう調整を行った。

資料15-1、15-2は、専任教員ごとの1週間の勤務スケジュールを表したものである。授業時間、研究日、オフィスアワー及び学内業務等を示すとともに、既設の大学と専門学校を兼務する専任教員については、既設の大学と専門学校での勤務に関する情報も示した。資料15-1、15-2のとおり、全専任教員について、1週間のうち最低1日は研究のみに充てることのできる日を設けており、学内業務としている時間についても、研究が可能であるため、十分な研究時間を確保できていると考えている。また、学生指導についても、前述のとおり、オフィスアワーの時間を1週間の中で必ず1時間以上設けており、学内業務の時間の一部はそれに充てることを想定しているため、十分な学生指導の時間を確保できているものと考えている。

資料15-4：勤務スケジュール表(理学療法学科)

資料15-5：勤務スケジュール表(作業療法学科)

(新旧対照表) 別記様式第3号(その2の1) 担当単位数及び申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数(理学療法学科)

氏名	新		旧	
	担当単位数 合算	申請に係る大学等の 職務に従事する週 当たり平均日数	担当単位数	申請に係る大学等の 職務に従事する週 当たり平均日数
砂川 勇	削除	削除	1.6	3日
山川 正信	1.6	5日	—	—
山田 久夫	10	5日	—	—
金沢 伸彦	<u>4</u>	<u>5日</u>	7.6	3日
篠田 恵一	4	<u>5日</u>	4	3日
中野 法彦	2	5日	—	—
植田 昌治	25.9	5日	—	—
堀 寛史	28	5日	—	—
分木 ひとみ	<u>30.1</u>	<u>5日</u>	35.5	4日
兼清 健志	2	5日	—	—
佐藤 隆彦	5.8	5日	—	—
和智 道夫	23.5	5日	—	—
佐々木 絵美	20	5日	—	—
宇於崎 孝	<u>29.7</u>	<u>5日</u>	30.9	4日
川崎 浩子	<u>28.1</u>	<u>5日</u>	37.6	4日
鈴木 美香	<u>23.9</u>	<u>5日</u>	28.9	4日
弘部 重信	27.1	5日	—	—
野口 真一	24.5	5日	—	—
山内 正雄	<u>29.3</u>	<u>5日</u>	34.3	4日
里中 綾子	26.6	5日	—	—
治郎丸 卓三	<u>29.1</u>	<u>5日</u>	33.8	4日
藤谷 亮	<u>29</u>	<u>5日</u>	32.3	4日
池谷 雅江	<u>29.7</u>	<u>5日</u>	33.7	4日
安田 孝志	<u>31.4</u>	<u>5日</u>	31.7	4日
大西 均	<u>28.1</u>	<u>5日</u>	33.6	4日

(新旧対照表) 別記様式第3号 (その2の1) 担当単位数及び申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数 (作業療法学科)

氏名	新		旧	
	担当単位数 合算	申請に係る大学等の 職務に従事する週 当たり平均日数	担当単位数	申請に係る大学等の 職務に従事する週 当たり平均日数
野田 亨	<u>3</u>	<u>5</u> 日	5	4日
三谷 章	4	<u>5</u> 日	4	4日
外池 光雄	4	<u>5</u> 日	4	4日
田中 弘一郎	1	<u>5</u> 日	1	4日
辛島 千恵子	27	5日	—	—
井出 千束	2	5日	—	—
埜田 和史	2	5日	—	—
鈴木 規巳洋	2	<u>5</u> 日	2	4日
澤 賢一郎	29	5日	—	—
下西 徳	30	5日	—	—
木岡 和実	<u>24</u>	<u>5</u> 日	28	4日
杉本 久美子	<u>24</u>	<u>5</u> 日	28	4日
大西 満	<u>30.2</u>	<u>5</u> 日	31.2	4日
安部 征哉	29	<u>5</u> 日	29	4日
嶋川 昌典	29	<u>5</u> 日	29	4日
有田 智氏	<u>28</u>	<u>5</u> 日	26	4日

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

21. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、専門職大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

【2学科共通】

(対応)

専門職大学設置基準の規定を満たしていないかったため、次のとおり、専任教員を追加する。

1) 理学療法学科配属

教員審査の結果、専任教員数は普通教員（実務家教員以外の教員）が4人、実務家教員は9人（実研5人・実専4人）、計13人（内、教授3人）である。この結果を踏まえ、普通教員（実務家教員以外の教員）を10人（教授候補6人・准教授候補2人・講師候補1人・助教候補1人）、実務家教員の内、実専を2人（講師候補）追加した。教員審査で普通教員（実務家教員以外の教員）の講師相当と判定いただいた者1人は諸般の事情から外したため、理学療法学科に配属する専任教員数は24人となる。内訳は次のとおりである。

補充後の専任教員数（理学療法学科）

区 分		教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
普通教員（実務家以外の教員）		8	3	1	1	13
実務家 教員	実 研	1	3	1	0	5
	実 専	0	1	5	0	6
	小 計	1	4	6	0	11
合 計		9	7	7	1	24

2) 作業療法学科配属

教員審査の結果、専任教員数は普通教員（実務家教員以外の教員）が5人、実務家教員は6人（実研3人・実専3人）、計11人（内、教授4人）である。この結果を踏まえ、普通教員（実務家教員以外の教員）を4人（教授候補3人）、実務家教員の内、実専を1人（講師候補）補充した。その結果、作業療法学科に配属する専任教員数は16人となる。内訳は次のとおりである。

補充後の専任教員数（作業療法学科）

区 分		教 授	准教授	講 師	助 教	合 計
普通教員（実務家以外の教員）		7	1	1	0	9
実務家 教員	実 研	0	1	1	1	3
	実 専	0	0	1	3	4
	小 計	0	1	2	4	7
合 計		7	2	3	4	16

### 3) 結論

既述1)、2)の対応により、専門職大学設置基準別表第一の「イ」及び「ロ」で規定されている専任教員数は満たしている。

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

22. <設置計画の一層の充実>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。

【2学科共通】

(対応)

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っているとのご指摘を受け、その対応方針について説明する。

本改善事項を受け、教員補充の際に、比較的若い専任教員を補充するよう努めたが、主として、是正事項21<専任教員数が設置基準を満たしていない>への対応によって、教授相当の教員を補充した関係で、平均年齢は、理学療法学科においては微減(51.5歳⇒49.2歳)するも、作業療法学科においては、微増(51.9歳⇒55.6歳)となった。完成年度を迎えたとき、迎える前に、本学の定年65歳を超える教員は、理学療法学科6名、作業療法学科8名の計14名となる。

対応方針として、第一に、2019年(平成31年)3月25日実施の平成30年度第12回理事会の第1号議案「専門職大学設置に係る補正申請について」において、教育研究の継続性を踏まえ、14名の教員について、完成年度を迎えるまで定年を超えて契約を延長することの議決を行った。なお、今回の専門職大学設置に伴う定年延長の措置は、あくまでも、例外的な措置であり、今後の運用に当たっては、特任教授制度等の適用により、適切な定年制度の運用を図っていくこととする。

第二に、本学は、専任教員に対して1週間に1日、研究日を用意する。その研究日を活用し、研究業績を積む、又は学士号、修士号、博士号の取得を奨励することで、高年齢の教員の退官後も、内部昇進によって、教育研究活動の継続性を図る。

第三に、新規教員の採用を計画的に実施することによって、年齢構成のバランスをとり、教育研究活動の継続性を図る。特に、30代の専任教員は、両学科併せて2割に過ぎないため、30代の専任教員の採用を図る。

以上3点を今後の対応方針とする。

(改善事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

23. <給与の考え方が不明確>

教員の氏名等(別記様式第3号)において、月額基本給が0と記載された教員が散見されるが、授業科目を担当するにもかかわらず、月額基本給が0になる理由が不明なため、合理的な理由を説明するか、改めること。【2学科共通】

(対応)

別記様式第3号において「兼任教員」及び「兼任教員のうち本法人の設置校に本務を置く教員」の月額基本給を0と記載していた。

本法人は、専任教育職員(本法人の就業規則上の呼び名)の業務について、教育研究、教学組織運営及び事務業務等多岐に亘るため、例えば、担当する授業科目数によって、給与を算出することは合理的ではないという考え方を背景に、労働時間(就業時間)を定め、その労務提供に対して給与を支払うことを就業規則に定め、各専任教育職員と雇用契約を締結してきた。別の設置校において授業を担当する場合であっても、本務では当該時間を労務提供しない代わりに、当該設置校で労務を提供しているがゆえに、本俸に含めることが妥当であると考えてきた。

しかし、例えば、大学設置基準第12条第1項には、「教員は、一の大学に限り、専任教員となるものとする。」とあり、同条第2項には「専任教員は、専ら前項の大学における教育研究に従事するものとする。」とあるように、専任教員の定義は、法人単位ではなく、学校単位のものである。そのため、本務以外の設置校において授業科目を担当する場合に、その賃金を本俸の中に含めると考えるのは、不適当であると考えを改めるに至った。

そこで、兼任教員は、本学の一員として本務の一環で当該授業科目を担当するという考え方に立ち、本俸とは別に給与を支払うことはせず、0と記載した箇所について、本俸の記載を行う。他方、兼任教員のうち本法人の設置校にて勤務する者は、本務以外の業務を行っているという考え方にに基づき、本俸とは別に1コマ2,500円(2時間)を支払うこととする。これは、開設年度に滋賀医療技術専門学校の専任教員として勤務しつつ、本学の授業科目を担当する場合も同様の対応とする。

なお、本金額は、本法人の専任教育職員でない兼任教員に支払う給与額より低い金額となる。そのように設定を行った理由は、前述のとおり、本法人は、就業時間における労務の提供をもって給与を支払っているが、担当する授業科目を教授する時間の本俸を控除しないためである。本務以外の設置校で授業科目を担当する者と担当しない者との公平性に配慮し、金額を設定した。併せて、資料23-1のとおり、非常勤講師の給与を含む任用等に関する規程を定める。

資料23-1: びわこリハビリテーション専門職大学 非常勤講師及び非常勤実験実習助手の任用等に関する規程

(新旧対照表) 別記様式第3号 (その2の1) 月額基本給 (千円) (理学療法学科)

新			旧		
氏名	専任等区分	月額基本給 (千円)	氏名	専任等区分	月額基本給 (千円)
鈴木 美香	兼任	<u>10</u>	鈴木 美香	兼任	0
川崎 浩子	兼任	<u>23</u>	川崎 浩子	兼任	0
藤谷 亮	兼任	<u>10</u>	藤谷 亮	兼任	0
安田 孝志	兼任	<u>10</u>	安田 孝志	兼任	0
大西 均	兼任	<u>10</u>	大西 均	兼任	0
外池 光雄	兼担	<u>500</u>	外池 光雄	兼担	0
野田 亨	兼担	—	野田 亨	兼担	0
三谷 章	兼担	<u>795</u>	三谷 章	兼担	0
田中 弘一郎	兼担	<u>585</u>	田中 弘一郎	兼担	0
鈴木 規己洋	兼担	<u>670</u>	鈴木 規己洋	兼担	0
大西 満	兼担	<u>975</u>	大西 満	兼担	0
杉本 久美子	兼担	—	杉本 久美子	兼担	0
飯田 英晴	兼任	<u>26</u>	飯田 英晴	兼任	0
藤本 雅子	兼任	<u>25</u>	藤本 雅子	兼任	0
小田 泰宏	兼任	<u>13</u>	小田 泰宏	兼任	0

(新旧対照表) 別記様式第3号 (その2の1) 月額基本給 (千円) (作業療法学科)

新			旧		
氏名	専任等区分	月額基本給 (千円)	氏名	専任等区分	月額基本給 (千円)
木岡 和実	兼任	<u>5</u>	木岡 和実	兼任	0
鈴木 耕平	兼任	—	鈴木 耕平	兼任	0
寺井 淳	兼任	—	寺井 淳	兼任	0
砂川 勇	兼担	—	砂川 勇	兼担	0
分木 ひとみ	兼担	<u>850</u>	分木 ひとみ	兼担	0
金沢 伸彦	兼担	<u>625</u>	金沢 伸彦	兼担	0
篠田 恵一	兼担	<u>600</u>	篠田 恵一	兼担	0
安田 孝志	兼担	<u>500</u>	安田 孝志	兼担	0
池谷 雅江	兼担	<u>500</u>	池谷 雅江	兼担	0
鈴木 美香	兼担	<u>420</u>	鈴木 美香	兼担	0
飯田 英晴	兼任	<u>14</u>	飯田 英晴	兼任	0
堀 寛史	兼担	<u>690</u>	堀 寛史	兼担	0
丹葉 寛之	兼任	<u>13</u>	丹葉 寛之	兼任	0
藤本 雅子	兼任	<u>13</u>	藤本 雅子	兼任	0

## 【名称、その他】

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

### 24. <研究室が不十分>

研究室の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (1) 基本計画書では研究室は 21 室となっている一方で、設置の趣旨等を記載した書類では 20 室と説明しており、不整合であるため、正確な研究室数を明らかにした上で、専任教員 27 名に対する研究室の割り振りの考え方について明確に説明すること。

(対応)

研究室について、基本計画書では、助手室を含めて 21 室としていたが、設置の趣旨等を記載した書類では、助手室を含めず 20 室と記載していたため、不整合が生じていた。ご指摘を受け、検討した結果、次のとおり学長室及び助手等室を含めて 27 室とした。

#### 1) 対応に当たっての前提

専門学校の教育環境が劣化しないこと、利便性などについて専門学校生が不利益を被らないことを前提に、施設・設備を共有する滋賀医療技術専門学校を移設する。これを以って、空いたスペースを本学の研究室や学生の教育環境の充実に充てる。

#### 2) 研究室の整備

是正事項 19 <専攻分野に係る理論系の専任教員が不十分>及び是正事項 21 <専任教員数が設置基準を満たしていない>等への対応として、教員組織の見直しを行った結果、専任教員数は、理学療法学科で 24 名、作業療法学科で 16 名の計 40 名となる。そこで、新たに研究室の整備を行い、研究室は学長室を含めて 27 室とした。研究室の割り振りについては、教授は 1 人 1 部屋、准教授・講師は 2 人 1 部屋、助教・助手は集合部屋として教員研究室を整備する。各教員の配置については、下記の表 1 に示す。

教員研究室は 1 階に学長室を含め 7 部屋（教授 1 名、准教授 6 人、講師 6 人）、3 階に 2 部屋（助教 5 人、助手 3 人）、2 階に 2 部屋（教授 1 名、講師 3 名）、4 階に 16 部屋（教授 14 人、准教授 2 人、講師 2 人）を配置する。

共同研究室を 2 名もしくは複数名で使用する准教授及び講師は、円滑に教育研究が行われるよう研究領域が近い教員を配置する。研究室 15 と研究室 17 については、研究領域が異なるものの、同じ学科の専任教員を同室に配置することで大学教育が円滑になるよう配慮している。また、研究室 23 は 3 名で 1 部屋としているが、室内をパーティションで 3 区画に区切ることで、1 人のスペースを 15.00 m<sup>2</sup>以上とし、専任教員のプライバシーを守り教育研究上の機密情報を守るよう鍵付きのキャビネットをそれぞれ配置する。研究室 25 は、助教・助手室として 8 名の教員を配置しているが、研究室 23 と同様にプライバシー及び機密情報を守るよう配慮する。さらに、隣接の研究室 26 に鍵付きの書庫を配置し、各教員がより広く研究室を使用できるよう配慮している。

専任教員の研究室割り振り

	区分	室名	階数	面積	番号	教員氏名	番号	教員氏名
1	個別研究室	研究室 1	4	22.91㎡	PT6	里中綾子 (教)		
2	個別研究室	研究室 2	4	22.91㎡	PT4	植田昌治 (教)		
3	個別研究室	研究室 3	4	22.91㎡	PT2	金沢伸彦 (教)		
4	個別研究室	研究室 4	4	22.91㎡	PT3	中野法彦 (教)		
5	個別研究室	研究室 5	4	22.91㎡	PT3	篠田恵一 (教)		
6	個別研究室	研究室 6	4	21.74㎡	PT18	山内正雄 (教)		
7	個別研究室	研究室 7	4	21.74㎡	OT2	井出千束 (教)		
8	共同研究室	研究室 8	4	21.85㎡	OT4	田中弘一郎 (教)		
9	共同研究室	研究室 9	4	34.10㎡	OT2	三谷章 (教)		
10	共同研究室	研究室 10	4	30.25㎡	OT1	野田亨 (教)		
11	共同研究室	研究室 11	4	30.07㎡	OT3	外池光雄 (教)		
12	共同研究室	研究室 12	4	30.07㎡	OT1	辛島千恵子 (教)		
13	共同研究室	研究室 13	4	30.07㎡	OT3	埜田和史 (教)		
14	共同研究室	研究室 14	4	32.37㎡	PT2	山田久夫 (教)		
15	共同研究室	研究室 15	4	35.54㎡	OT10	大西満 (准)	OT4	鈴木規巳洋 (准)
16	共同研究室	研究室 16	4	35.57㎡	OT11	阿部征哉 (講)	OT5	澤賢一郎 (講)
17	共同研究室	研究室 17	1	38.00㎡	PT9	佐藤隆彦 (准)	PT8	兼清健志 (准)
18	共同研究室	研究室 18	1	38.00㎡	PT21	大西均 (准)	PT12	宇於崎孝 (准)
19	共同研究室	研究室 19	1	38.00㎡	PT19	治郎丸卓三 (准)	PT20	安田孝志 (准)
20	共同研究室	研究室 20	1	38.00㎡	PT13	川崎浩子 (講)	PT14	鈴木美香 (講)
21	共同研究室	研究室 21	1	38.00㎡	PT7	分木ひとみ (准)	PT16	池谷雅江 (講)
22	共同研究室	研究室 22	1	38.00㎡	PT15	弘部重信 (講)	OT6	下西徳 (講)
23	共同研究室	研究室 23	2	52.00㎡	PT17	野口真一 (講)	PT10	和智道生 (講)
					PT22	藤谷亮 (講)		
24	個別研究室	研究室 24	2	16.00㎡	PT5	堀寛史 (教)		
25	助教・助手室	研究室 25	3	52.00㎡	OT12	嶋川昌典 (助教)	OT7	木岡和実 (助教)
					OT8	杉本久美子 (助教)	OT9	有田智 (助教)
					PT11	佐々木絵美 (助教)		鈴木耕平 (助手)
						寺井淳 (助手)		前田浩二 (助手)
26	個別研究室	研究室 26	3	16.00㎡		助教・助手室の書庫として使用		
27		学長室	1	28.40㎡	PT1	山川正信 (教)		

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

#### 24. <研究室が不十分>

研究室の以下の点を是正すること。【2学科共通】

- (2) 各研究室の具体的な仕様が示されていないため、各専任教員が取り組む研究領域を踏まえ、どのような研究手法をとり、それに必要な環境（研究用実験室や研究用機器、機密情報の管理などを含む）が整備されているかどうかを明確にし、必要に応じて整備計画を充実させること。

(対応)

各研究室の具体的な仕様について記載ができていなかったため、あらためて示すとともに各教員と研究領域・手法及び実施場所について記載する。

教員研究室は、机、椅子、電話機、ノート型パソコン、プリンター、機密情報を保管するための鍵付きキャビネット及び本棚等を配置する。研究室内は良好な環境を維持し、適正な整備及び管理を行うことで、専任教員の教育研究の成果を高めるよう配慮する。

専任教員が取り組む研究領域及び研究場所について以下の表に示す。本学では、基礎研究から臨床研究、フィールドワーク、調査研究など幅広く研究テーマを設け、実施する。特に理学療法学科では身体活動の分析を中心に研究をし、作業療法学科では身体と精神の両面から生活活動の分析や調査を中心として地域住民の生活を支援できるよう研究を行う。なお、本学の開設時及び開設後の設備計画に基づき研究用機材は適切に配置する。

研究内容により、研究室以外で研究活動を行うが、各部屋の機能及び配置する機材について説明する。機能訓練室には、歩行や走行、ジャンプといった人間の基本的な動き及び、投球やスイングなど各種スポーツ動作を行うことができる走行スペースを併設する。ここでは、三次元動作解析装置及び床反力、筋電図、FlightScope といったものを新たに設置し、人間のさまざまな動きを分析することができる。さらに、トレッドミルや自転車エルゴメーター、呼気ガス分析装置を配置し、運動生理学的変化を分析する。治療室や評価実習室、演習室では、超音波診断装置や体成分分析装置等、移動が可能な計測機器を使用して計測する。基礎医学実習室には電子顕微鏡等を配置し、組織化学や神経生理学に関する研究を行う。その他、本学では地域や病院などフィールドワークを行いやすいよう研究日として1週間に1日は必ず研究を実施できる日を設ける。

機密情報の管理については、大学が保有する研究情報、研究成果のうち未公開のものすべてを機密情報として管理する。入試情報や学内人事、財務情報など企業等と行う共同研究に際しての研究情報も含め、次の通り厳重に管理する。学長が統括責任者として秘密情報の管理を統括し、研究グループごとに管理者をおく。保有している機密情報は有体物については、各研究室におく鍵のかかるキャビネットに保管する。電子データ等の無体物については、各研究室のパソコンにて、アクセス制限をかけ保存する。大学外で得たデータ等や大学外にデータ等を持ち出す場合は、管理者の許可のもと、鍵のかかる鞆を使用する。大学内全職員に対して、機密情報の管理への意識を継続的に持つための研修を行い、意識啓発に努める。

専任教員が取り組む研究領域及び研究場所（理学療法学科）

番号	氏名	研究領域や手法	研究室以外で行う 研究の場所
1	山川 正信	主に地域や施設で実施されるリハ事業の企画・効果の評価を質問紙法などによる疫学的な視点から行っていく。	地域や協力施設
2	山田 久夫	解剖学、神経解剖学、神経病理学、神経科学一般に関する量的・質的研究を中心に行っていく。	基礎医学実習室
3	金沢 伸彦	三次動作解析、表面筋電図を用いて、各年代の健常人および障害者の歩行時の運動パターンと筋活動パターンについて研究を行っていく。	機能訓練室・走行スペース
4	篠田 恵一	アルツハイマー病などの認知症の臨床症状、及びその治療、対策、予防パーキンソン病の治療について臨床研究を行っていく。	藍野病院
5	中野 法彦	再生医療、特に脊髄損傷治療へ向けた再生医療研究を行っていく。研究室内に卓上の光学顕微鏡を研究室に配置する。	藍野大学中央研究施設
6	植田 昌治	心身健康科学領域における心身相関の科学的な解明について量的研究を行っていく。	藍野病院
7	堀 寛史	哲学：理学療法哲学・倫理学という新しい学問の確立。知識情報：ICTによる知的な治療計画・介護計画の支援。スポーツ理学療法：スポーツ損傷を軽減させるための評価方法の検討。	フィールドワーク。 知識情報は病院・施設。
8	里中 綾子	運動生理学を援用したリハビリテーション医学領域における臨床研究を進める。 具体的には地域に在住する障がい者や高齢者の身体活動と体力向上に関する研究を行っていく。	在宅の障害者や高齢者の身体活動の観測等はフィールドワークが中心。 地域の病院や施設。
9	分木 ひとみ	地域在住の高齢者の転倒予防を中心とした介護予防の介入を行い、縦断的な変化について研究する。 重度心身障害児・者の加齢に伴う変化と、介護の重度化の予防について縦断的な研究を行う。	研究フィールドは地域の高齢者や施設
10	兼清 健志	再生医療、特に脊髄損傷治療へ向けた再生医療研究を行っていく。研究室内に卓上の光学顕微鏡を研究室に配置する。	藍野大学中央研究施設

11	佐藤 隆彦	研究領域はバイオメカニクスであり、身体運動を動力学的に分析することで、障害発生の機序解明、障害予防、リハビリテーションプログラムの提案、トレーニングプログラムの提案、などについての研究を行う。	機能訓練室
12	和智 道生	超音波診断装置を用いて各筋の筋厚を計測し、形態的特徴や障害について実験研究を行っていく。	評価実習室
13	佐々木 絵美	肩関節の各運動方向における肩関節周囲筋の筋活動および筋収縮のタイミングについての実験研究。 介護保険下での理学療法士の役割や、今後の理学療法士の需要と供給の調査研究についても実施する。	治療室、地域の施設
14	宇於崎 孝	臨床現場で行う画像評価に加え、側弯症の姿勢および運動特性を分析し、徒手理学療法の効果について実験研究を行う。	実習室、地域の病院 及びクリニック
15	川崎 浩子	介助動作の分析、腰痛予防対策、二次障害予防の方策の実験研究、調査を行っていく。	フィールド調査は、 研究協力施設
16	鈴木 美香	表面筋電図を用いて、若年者と高齢者の歩幅の大きさとその際の筋活動について実験研究を行っていく。また、超音波診断装置を用いて、歩幅の大きさに関する筋の筋厚についても実験研究を行っていく。	治療室、地域の施設
17	弘部 重信	在宅心不全患者の運動実態調査や試行的介入を行っていく。	フィールドは地域の 施設
18	池谷 雅江	障がい者スポーツに関する実験研究は、学外で継続的にアスリートを対象に行う。足部アプローチと静的バランス、神経ダイナミクスの実験研究を行っていく。	障がい者スポーツ実 施施設
19	野口 真一	表面筋電図、超音波診断装置、呼吸機能検査装置を用いて、各年代の健常人、障害者、およびアスリートの歩行や走行動作時の運動パターンと筋活動パターンについての実験研究。	評価実習室、スポー ツ現場
20	山内 正雄	スポーツ種目やスポーツの開始時期などの違いが扁平足罹患に影響するのか調査研究を行う。 脊柱の複合運動の組み合わせやその可動域について実験研究を行う。	実習室、地域の病院 及びクリニック

21	治郎丸 卓三	三次動作解析、表面筋電図を用いて、各年代の健常人、障害者、およびアスリートの歩行や走行動作時の運動パターンと筋活動パターンについて実験研究を行っていく。また、超音波診断装置を用いて、各筋における表面筋電図の記録法の確立について研究を行っていく。	機能訓練室・走行スペース、治療室
22	安田 孝志	三次動作解析、床反力計、表面筋電図を用いて、障がい者（アスリート中心）、健常者のパフォーマンス分析に対する実験研究を行っていく。	機能訓練室、地域の体育館、ゴルフ練習場
23	大西 均	人の運動や姿勢を多方面から分析する実験研究。表面筋電図計測などを使用した運動・姿勢の分析を行っていく。	治療室、地域の病院及びクリニック
24	藤谷 亮	姿勢不良者の運動・姿勢筋制御について、各神経疾患における運動・姿勢筋制御について、筋活動研の実験研究を行っていく。	フィールドワーク（病院、施設、教育機関等）

#### 専任教員が取り組む研究領域及び研究場所（作業療法学科）

	氏名	研究領域	研究室以外で行う研究の場所
1	野田 亨	科研費のテーマとしている科研費挑戦的研究 「大和言葉を手掛かりとした日本人の身体名称、および身体観についての研究」（17K18497） の継続、およびその発展研究 「組織化学と光学顕微鏡、あるいは電子顕微鏡を組み合わせた形態学的研究」	基礎医学実習室
2	三谷 章	リハビリテーション訓練によって促進される脳機能回復の基盤となっている神経機構を、神経生理学的手法をはじめとする神経科学的手法を用いて明らかにする。	基礎医学実習室、治療室
3	外池 光雄	脳科学、生体工学、匂い研究、認知症に関する事例・実験研究を行っていく。	基礎医学実習室

4	田中 弘一郎	<p>1. ストレス関連疾患の発症メカニズムに関する研究 現在取得している科学研究費助成金課題（ストレスによる機能性胃腸症の発症メカニズム解明とイメージングバイオマーカーの開発）を中心に、ストレス関連疾患の発症に関与する神経系を介した脳と腸の相互作用を超高磁場機能的 MRI (fMRI) を用いてリアルタイムかつ非侵襲的に可視化する方法を開発し、ストレス関連疾患の発症メカニズムを解明するための基盤研究を行う。</p> <p>2. ストレス関連疾患及び精神神経疾患に対する薬剤の研究開発 藤田医科大学との共同研究。ストレス負荷時にみられる代謝異常の研究から得られた治療に寄与すると考えられる標的分子に対する薬剤の研究開発を行う。 生化学・分子生物学実験に用いる簡単な器具・機器を配置する。</p>	基礎医学実習室、 藍野大学中央研究施設、大阪大学脳情報通信融合研究センター、藤田医科大学
5	辛島 千恵子	<p>現在、科研費のテーマとしている研究 基盤研究 C「特別支援教育・作業療法士と教員のための環境因子観察表と実践モデルの開発」 基盤研究 C「発達障害・他がある子どもと養育者の地域包括ケアに生かす外出に関する質問紙の開発」の継続。</p>	特別支援学校
6	井出 千束	脊髄損傷の治療法の開発を行っていく。研究室に顕微鏡を配置する。	藍野大学中央研究施設
7	埜田 和史	<p>作業関連性運動器障害の予防に関する研究。 ①医療福祉領域における腰痛・頸肩腕障害の予防、農作業安全の推進に関わる研究。 ②就労支援及び二次障害予防に関する研究。 研究室に携帯型4チャンネル表面筋電計、騒音計、活動量計、熱中症計、心拍計、デジタルビデオカメラ、座圧計を配置する。</p>	フィールド調査を中心に研究、治療室
8	鈴木 規巳洋	<p>①英語4技能上達のためのモチベーションアップのアクティブラーニング法 ②大人数対処のための多面的評価法（発言・提出・グループワーク・家庭学習・暗唱・個別能力対応等）・調査・実験研究および事例研究</p>	フィールドワーク

9	澤 賢一郎	中枢神経疾患による麻痺患者の運動機能から行為動作について事例研究を行う。 認知症患者の作業観察をおこない行動特性について事例、実験研究を行う。	フィールドワーク (病院、施設など 研究協力施設)
10	下西 徳	内部障害に対する作業療法、神経難病患者に対する意思伝達装置、訪問リハビリテーションをテーマに事例、実験研究を行っていく。	星ヶ丘医療センター
11	木岡 和実	障害をもつ方の環境調整からの生活支援について、職種による捉え方の違いや連携についての調査研究。 作業療法士養成教育が学生の職業観に与える影響についての調査研究。	研究フィールドは 地域の施設、作業 療法士養成校
12	杉本 久美子	障害をもった方、高齢者を中心に、地域で暮らす方の生活障害を評価・支援し、健康増進と障害予防のためにライフスタイルを設計する方法を調査研究する。 急性期、回復期、生活期の連携、他職種との連携の在り方、政策動向等、作業療法を取り巻く環境を踏まえて調査研究していく。	フィールドワーク (病院、施設、自 治体、地域包括ケ アセンター)
13	有田 智氏	整形外科領域での事例研究。 術後の運動療法効果、検証を事例、実験研究を行っていく。	地域の病院、施設
14	大西 満	1.小学生のバランス能力と協調性に関する研究 2.子育てにおける対応方法に関する研究 調査・実験研究	小学校、地域の施 設
15	安部 征哉	①作業療法教育研究 学内の作業療法教育の手法を具体的に考え、臨床実習でも手法も具体的に調査研究していく。 ②認知機能・高次脳機能研究 認知症や半側空間無視の患者がどのように視線を動かし視覚的にものを認識しているのか実験研究をしていく。	フィールドワーク (病院、施設など 研究協力施設)
16	嶋川 昌典	環境と学生との相互作用の視点から質的研究を行う。	フィールドは、臨 床実習や評価実習 の施設

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

25. <適切な学生控室を確保しているのか不明確>

主として学生控室は食堂と兼用の学生ホール (207.42 m<sup>2</sup>) を利用することだが、全学年で480名の学生が在籍する完成年度以降、食堂と兼用の中で余裕をもって休息、交流その他の活動で利用できる十分な環境になっているのか不明確なため、大学の規模に応じた適切な学生控室が配置されることを明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

本学では、学生ホール内に厨房を用意し、食堂を兼ねて授業時間外の自己や学生交流の際に利用する予定である。ここには座席が192席を準備しているが、ご指摘のとおり、全学年在籍する完成年度以降、480名が同時に座ることは困難である。そこで、学生控室の確保の対応を改めて見直した。昼食時の対応、学生交流に関する対応の2点について次のとおりとする。

### 1) 昼食時の対応

現在の専門学校の状況は360名の在籍している学生約80%が自宅より通学しており、昼食を持参している学生も非常に多い。現在、8室ある1室40席の普通教室(合計320席)では飲食を認めており、各自がそれぞれの場所で昼食をとっても食堂と合わせて十分な状況にある。本学完成年度以降には480名が在籍するが、食堂192席、普通教室320席に加えて、3階の大教室2室(120席)を新たに飲食可能な部屋として開放すると、合計で632席を昼食時に利用することができる。本学完成年度以降も、在籍学生の多くが自宅より通学すると想定しており、その状況に大きな変化はないと思われるため、学生は余裕をもって昼食をとることができると考えている。

### 2) 学生交流に関する対応

学生の自己学修については、図書館の自習スペース(80席)と視聴覚室(40席)を常時開放し、書籍や雑誌、インターネット等で学修できる環境を整えている。また、完成年度以降の授業時間割をみると、理学療法学科と作業療法学科を合わせても、同時に授業を行うのは最大で8教室使用することになる。本学では、普通教室が8室あり、その他にも実習室や演習室もあるため、これらの教室で十分授業が可能となる。そこで、3階にある大教室2部屋を常時開放することで学生が自由にディスカッションや交流ができるスペースとして使用する。この部屋は、両学科合同で授業をする場合のみ使用するために設置した教室であるが、両学科合同で行うのは4年次後期の協働連携論総合実習2単位のみである。そこで、授業での使用時にはあらかじめ示した時間割及び大教室前に授業利用時間を提示し、他学生に対して周知を促すことで、学生の学修や交流及び授業の妨げとならないよう配慮して管理できると考えている。放課後の余暇やサークル活動では、普通教室8室、大教室2室を引き続き開放し、演習室1室、実習室1室も教務課の利用許可を得て使用を認めることとする。ここでは実技練習なども含めて身体を動かしながら交流できるスペースとして利用することが可能である。

これらのことから、本学の環境において学生の学修や交流が十分に行うことができると考えている。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

26. <外国書の学術雑誌等の選定方針が不明確>

図書等の整備について、外国書の学術雑誌0冊、電子ジャーナル1冊の計画となっており、大学としてふさわしい教育・研究環境が整備されるのか疑義がある。外国書の学術雑誌及び電子ジャーナルの選定理由を明らかにした上で、教育・研究に必要な図書等が十分に整備されていることを明確に説明するか、必要に応じて充実すること。【2学科共通】

(対応)

図書等の整備について、大学としてふさわしい教育・研究環境が整備されるのか疑義があるのご指摘を受け、「外国書の学術雑誌」については、次のとおり、経年的に整備することとした。「電子ジャーナル」については、現状の整備計画で十分であると考えており、その理由を説明する。

1) 外国書の学術雑誌の整備

外国書の学術雑誌は、次の7種を経常経費で経年整備する。リスト及び選定理由は、次のとおりである。併せて、購入計画を示す。

外国書の学術雑誌購入計画リスト

優先度	刊名/所蔵雑誌	Print	選定理由
		<b>Rehabilitation</b>	
4	121	Title : American Journal of Physical Medicine & Rehabilitation Pub. : Lippincott Williams & Wilkins ISSN : 0894-9115 MJN : 557935 :USA Vol. : 98 冊数 : 12 LP : YEN 214,400 定価 : 299,500 * 形態 :	予防、診断、治療及び筋骨格状態、脳損傷、脊髄損傷、心肺疾患、外傷、急性及び慢性疼痛、切断、義肢装具、移動、歩行、及び小児科だけでなく、癌のリハビリテーション、教育、行政など、リハビリテーションについて幅広い領域を網羅した雑誌であるため選定した。日本の理学療法、作業療法においても発展的に研究していくために重要な雑誌である。リストアップしたリハビリテーション関係の雑誌の中で、CiNii Booksでの所蔵誌数が3番目に多いため、優先順位を4位とした。  Impact Factor: 1.843 (2017/2018) (Impact Factor: 雑誌を評価する主要な指標の一つで、雑誌に掲載された論文の引用回数によって算出する。数が多いほど価値が高い。)
1	213	Title : Archives of Physical Medicine and Rehabilitation Pub. : W.B. SAUNDERS COMPANY ISSN : 0003-9993 MJN : 017710 :USA Vol. : 100 冊数 : 12 LP : USD 1,464.00 定価 : 232,400 * 形態 :	米国リハビリテーション医学会の公式ジャーナルであり、理学療法、作業療法などのリハビリテーション及び関連分野の重要な動向や研究開発について掲載している学術雑誌であるため選定した。個人の治療はもとより、研究に有益な情報源となる雑誌である。リストアップしたリハビリテーション関係の雑誌の中で、CiNii Booksでの所蔵誌数をもっとも多いため、優先順位を1位とした。  Impact Factor: 3.077 (2017/2018)
7	26	Title : Physical & Occupational Therapy in Pediatrics Pub. : Informa Healthcare ISSN : 0194-2638 MJN : 314046 :USA Vol. : 39 冊数 : 6 LP : USD 2,288.00 定価 : 365,700 * 形態 : with Electronic Journal	小児科における乳児、子供及び若者の発達の及び身体的なリハビリテーションに関わる情報を提供する医学雑誌で、病院、リハビリテーションセンター、学校、そして保健及び福祉サービス機関の理学療法士及び作業療法士など小児科専門家のためのジャーナルであるため選定した。理学療法、作業療法の専門雑誌であるが、対象が小児限定であり、価格が高いため、優先順位を7位とした。  Impact Factor: 1.719 (2017/2018)
		<b>Physical Therapy (理学療法)</b>	
3	157	Title : Physical Therapy Pub. : Oxford University Press ISSN : 0031-9023 MJN : 164070 :USA Vol. : 99 冊数 : 12 LP : STP 170.00 定価 : 39,000 * 形態 :	アメリカの理学療法に関する学術誌である。アメリカ理学療法全般を網羅する学術誌である。日本の理学療法の発展的な治療や研究に必要な雑誌であるため選定した。リストアップされたリハビリテーションの関係雑誌で、CiNii Booksでの所蔵誌数が2番目に多いため、優先順位を3位とした。  Impact Factor: 2.587 (2017/2018)
		<b>Occupational Therapy (作業療法)</b>	
2	74	Title : British Journal of Occupational Therapy Pub. : Sage Publications ISSN : 0308-0226 MJN : 398210 :GBR Vol. : 82 冊数 : 12 LP : USD 789.00 定価 : 131,100 * 形態 : with Electronic Journal	イギリスの作業療法に関する学術誌である。イギリスでの作業療法全般に関する学術誌であり、政治、医療関係の法律、病院サービス及び社会保障等を論じた内容も含まれる雑誌である。日本の作業療法にも発展的な治療や研究のために必要な雑誌であるため選定した。リストアップされたリハビリテーションの雑誌は、多くが理学療法が主となるため、作業療法の雑誌を優先順位を2位とした。

		Other	
5	233	Title : Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume) Pub. : Lippincott Williams & Wilkins ISSN : MJN : 438221 :USA Vol. : 101 冊数 : 24 LP : YEN 201,900 定価 : 282,000* 形態 :	整形外科・外傷・リウマチを網羅し、整形外科と関連領域の外科の進歩と改善、新しい知識や新技術が記された専門性のあるジャーナルであるため選定した。非常に重要な雑誌でCiNii Booksでの所蔵館数も多いが、整形外科学の雑誌であり、リハビリテーション専門の雑誌ではないため、優先順位を5位とした。  Impact Factor: 4.583 (2017/2018)
6	159	Title : Stroke Pub. : AM HEART ASSN ISSN : 0039-2499 MJN : 203021 :USA Vol. : 50 冊数 : 12 LP : YEN 333,600 定価 : 466,000* 形態 :	脳血管障害の予防、診断、治療に関する臨床報告や実験の最新情報を網羅したAHA/ASAの学会誌である。神経内科、循環器、血管外科、脳神経外科、また、リハビリテーション、理学療法など、扱う領域が多いため選定した。非常に重要な雑誌であるが、脳卒中という医学的要素の強い雑誌であり、CiNii Booksでの所蔵館数が「Journal of Bone and Joint Surgery」に比べ少なく、さらに高価なため、優先順位を6位とした。  Impact Factor: 6.239 (2017/2018)

### ●購入計画

単位:千円

年	優先度No	金額(定価)	累計金額(定価)
1年目	1、2、3	403	403
2年目	4	300	703
3年目	5	282	985
4年目	6	466	1,451
5年目	7	366	1,817
合計		1,817	1,817

税抜き

## 2) 電子ジャーナルの整備

設置認可申請書、別記様式第2号(その1の1)基本計画内の図書・設備に挙げた1冊の電子ジャーナルとは、メディカルオンラインのことである。メディカルオンラインは、医療関係者のための医療情報の総合Webサイトである。メディカルオンラインは、取り扱っている配信ジャーナル数1,405ジャーナル、配信文献数308万文献に及んでいる。日本国内の学会・出版社発行の雑誌に掲載された医学、歯学、薬学、看護学、医療技術、栄養学及び衛生・保健などのあらゆる医学関連分野の「医学文献」から検索し、必要な文献はその場で全文閲覧・ダウンロードが可能である。また、メディカルオンラインは、本学が選定している39冊の学術誌の多くを含んでいる。以上のことから、電子ジャーナルの選定は、1冊ではあるが、教育・研究の観点から考えても、十分な数を網羅出来ていると考えている。また、常に最新の情報を収集できるという点でも、最適なジャーナルであると考えている。

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

## 27. <図書館スペースが十分か不明確>

収容可能冊数が 12,960 冊の図書館に対して、完成年度は 12,434 冊を整備する計画となっており、追加で購入可能な図書等は 500 冊程度に限られるため、今後、教育研究活動に必要な図書等が生じた場合、適切に整備できるのか疑義がある。このため、今後の図書等の整備に関する対応方針を明確に説明するか、必要に応じて図書等のスペースを充実させること。【2学科共通】

(対応)

ご指摘を受け、施設・設備を共有する滋賀医療技術専門学校を移設することによって空いたスペースを活用することで、図書室を拡大(申請時: 162.97 m<sup>2</sup>→現行の計画: 311.66 m<sup>2</sup>)することとした。これによって、収納可能冊数は、12,960 冊から 24,167 冊とおおよそ 2 倍となった。そのため、書籍の経年整備に伴う蔵書の増加に十分対応することが可能である。変更後と変更前の図面を資料 27-1 において示す。

併せて、株式会社朝日ネットが提供している教育支援サービス「manaba」を經由して、電子書籍「Maruzen eBook Library」を閲覧・利用できる環境を整備することで、スペースの制限を受けずに、教育研究活動の充実を図れる体制とした。

なお、電子書籍については、理学療法学科・作業療法学科の科目や各教員の研究環境を配慮し、計 116 冊購入する計画であり、その一覧は資料 27-2 のとおりである。

資料 27-1: 図書館図面 変更後・変更前

資料 27-2: 購入予定の電子書籍一覧

## 電子書籍「Maruzen eBook Library」

Copyright © 2018 Asahi Net, Inc. All Rights Reserved. CONFIDENTIAL 13

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

28. <体育館の代替施設の利用方法が不明確>

体育館等のスポーツ施設を設けないため、市営の運動公園を利用し、バス送迎を行うとのことだが、法令上規定されている学生の利用に際しての経済的負担の軽減が図られた運用になっているのか、学生の授業時間割等に配慮がなされたバスの運行計画となっているのか、学生のクラブ活動など授業以外でも利用できる使用契約となっているのかなど、市営の運動公園の具体的な利用計画が不明なため、明確に説明すること。【2学科共通】

(対応)

申請時においては、市営の運動公園の具体的な利用計画について記載を行っていなかったため、早期予約と費用負担、市営の運動公園の詳細、バスの運行計画について次のとおり記載を行う。

1) 早期予約と費用負担

おくのの運動公園の賃借料及び施設までのバスの費用については、本学が全額負担とし、学生に経済的負担をかけることはない。また、当該施設を管理する東近江市とは、一般の施設利用者が3ヶ月前から予約可能なところ、本学は利用しようとする前年度1月から予約を可能とする取り決めを行っている(資料 28-1)。クラブ活動などによって学生が当該施設を利用する場合は、学生サポートセンターの窓口にて申し出ることとし、予約の手続きは、事務部学生課が代行する。

資料 28-1：東近江市おくのの運動公園利用に関する早期利用申請について（承諾）

2) おくのの運動公園の詳細

おくのの運動公園の詳細は次のとおりであり、体育館、グラウンド、野球場、テニスコート、フットサルコート及び多目的広場と多様な施設が揃っているため、学生のクラブ活動など授業以外でも活動することが可能な施設となる。

おくのの運動公園

名 称	おくのの運動公園
所 在 地	東近江市青山町 70 番地
施 設	体育館、野球場、グラウンド、テニスコート
開園時間	・体育館・グラウンド 通年 午前 8 時 30 分～22 時 00 分 ・野球場・テニスコート・フットサルコート 4 月～10 月 午前 8 時 30 分～22 時 00 分 11 月～3 月 午前 8 時 30 分～日没 ・多目的広場 通年 午前 8 時 30 分～日没
休 園	年末年始 (12 月 28 日～翌年 1 月 3 日)

### 3) バスの運行計画

スクールバスの状況及び運行時刻は次のとおりであり、学生の授業時間割等に配慮したバスの運行計画とする。

#### (1) スクールバスの状況

スクールバスはリース賃貸借しており、以下のバスを充て、柔軟に対応できる体制とする。

なお、スクールバスは学生の登下校にも使用するが、自動車通学も認めている。想定としては、スクールバスの利用と自動車通学はおよそ6:4または7:3になるものと想定されるため、全てのバスを学生の登下校に使用することはない。よって、クラブ活動等に伴うバスの運行状況に不測の事態が起こったとしても、代替用のバスでの対応が可能である。

NO	座席数	備考
1	56席	立ち乗りを含めると70人
2	57席	立ち乗りを含めると65人
3	51席	立ち乗り不可
4	29席	立ち乗り不可
5	18席	立ち乗り不可

※上記のバスの内、2台程度、大型バス（70人乗りのバス）へのリース替えを計画中である。

#### (2) 運行時刻

基礎科目である「体育」及び「クラブ・サークル活動」での移動のために、バスの運行を行う。

##### ①体育

1単位30時間の体育（選択科目）は、理学療法学科2クラス水曜日の3・4限目（2コマ）、作業療法学科1クラス月曜日の3・4限目（2コマ）で開講し、時間は13時00分～16時10分となる。

##### <授業時間割等への配慮>

時間割上2限目終了が12:10であり、着替え及び昼食は大学構内で済ませてからスクールバスにて移動を行う。本学出発後は通常5分でおくの運動公園へ到着するが、乗車時間は余裕をみて10分見込んでいる。また、体育終了後はバスで帰校し、大学で着替えることとなるが、体育の開催日5限目には授業を入れないよう配慮した。

なお、以下は基本的な運行時間であり、授業開始・終了時間変更などの事態が生じた場合は、運行時間を随時変更する。

##### おくの運動公園 行き

本学 発	おくの運動公園 着
12:45	12:55

##### 本学 行き

おくの運動公園 発	本学 着
16:30	16:40

## ②クラブ・サークル活動

以下が基本的な運行時間であり、予約状況や活動時間により、運行時刻・バス本数は増減する。

月曜日～金曜日

おくのの運動公園 行き

本学 発	おくのの運動公園 着
16:30	16:40
18:30	18:40

本学 行き

おくのの運動公園 発	本学 着
19:00	19:10
20:00	20:10
21:00	21:10

土曜日・日曜日・祝日（年末年始除く）

おくのの運動公園 行き

本学 発	おくのの運動公園 着
9:30	9:40
12:30	12:40

本学 行き

おくのの運動公園 発	本学 着
13:00	13:10
14:00	14:10
15:00	15:10
16:00	16:10

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

29. <学則が不適切>

学則第35条第1項に、入学検定料、入学金、授業料などは学校法人藍野大学学費取扱規程に定めると記載されているが、法令上、授業料、入学料その他の費用徴収に関することは学則に記載しなければならないとされていることから、適切に改めること。【2学科共通】

(対応)

別に定めるのではなく、学則内に次のとおり別表として定める。

学則第35条 別表2

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

入学金、授業料等

年額 (単位:円)

	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費
理学療法学科	400,000	900,000	100,000	200,000
作業療法学科	400,000	900,000	100,000	200,000

(新旧対照表) 学則6ページ

新	旧
<p>(略)</p> <p>第8章 学 費</p> <p>(学費)</p> <p>第35条 入学検定料、入学金、授業料、実験実習費、施設設備費の金額、納入方法及び納入期日については、<u>別表2</u>に定める。</p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>第8章 学 費</p> <p>(学費)</p> <p>第35条 入学検定料、入学金、授業料、実験実習費、施設設備費の金額、納入方法及び納入期日については、学校法人藍野大学学費取扱規程に定める。</p> <p>(略)</p>

学則第 35 条 別表 2

びわこリハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部

入学金、授業料等

年額 (単位：円)

	入学金	授業料	実験実習費	施設設備費
理学療法学科	<u>400,000</u>	<u>900,000</u>	<u>100,000</u>	<u>200,000</u>
作業療法学科	<u>400,000</u>	<u>900,000</u>	<u>100,000</u>	<u>200,000</u>

(是正事項) リハビリテーション学部 理学療法学科、リハビリテーション学部 作業療法学科【2学科共通】

30. <書類不備>

認可申請書類に不備が散見されるため、適切に修正すること。【2学科共通】

(対応)

認可申請書類に不備が散見されたため、次のとおり改める。

1) 学則における運営会議の規定について

学則において、運営会議について規定を行うとの章立てとしていたにもかかわらず、規定していなかったため、修正を行い、次の新旧対象表に示す。

(新旧対照表) 学則 7ページ

新	旧
<p>第 10 章 教授会、運営会議 (教授会)</p> <p>第 39 条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。</p> <p>2 前項にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、その他必要な職員を加えることができる。</p> <p>3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。学部長に事故ある時は、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。</p> <p>4 教授会の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。</p> <p><u>(運営会議)</u></p> <p>第 40 条 本学に運営会議を置き、全学的な教学の方針、企画及び執行等の教学運営を司る。</p> <p><u>2 運営会議の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。</u></p>	<p>第 10 章 教授会、運営会議 (教授会)</p> <p>第 39 条 本学に教授会を置き、教授及び准教授をもって組織する。</p> <p>2 前項にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、その他必要な職員を加えることができる。</p> <p>3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。学部長に事故ある時は、学部長が予め指名した者がこれに代わるものとする。</p> <p>4 教授会の審議事項及び開催等に関する規則は、別に定める。</p>

2) 損害賠償責任保険、傷害保険への加入について

実習中の学生の損害賠償責任保険に関して、入学時に全学生に対して加入を行う損害賠償責任保険、傷害保険について、保険名称ならびに保険内容に誤りがあったため、修正を行い、次の新旧対照表に示す。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 109～110 ページ

新	旧
<p>入学時に全学生に対して、<u>医療系学生の総合補償制度である総合生活保険（障害補償）への加入を行う。この保険は、実習中を含めた学校管理下（敷地外可）の傷害事故を補償するものであり、この保険への加入により、実習期間中に学生自身が怪我等の障害をおった場合、ならびに実習中に起こった患者の身体または財物への損壊に対して補償を行う体制を整える。</u></p>	<p>入学時に全学生に対して、<u>学生生徒災害障害保険ならびに医療分野学生生徒賠償責任保険への加入を行う。この保険への加入により、実習期間中に学生自身が怪我等の障害をおった場合、ならびに実習中に起こった患者の身体または財物への損壊に対して補償を行う体制を整える。</u></p>

### 3) 実務の経験等を有する専任教員一覧書類について

実務の経験等を有する専任教員一覧において、本学実務家教員である「池谷雅江」の実務経験の概要欄が作成中であったため、次の新旧対象表に示す。

実務経験等を有する専任教員一覧（別記様式第3号（その4）理学療法学科 9 ページ

新	旧
<p>平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月</p> <p><u>医療法人誠光会 草津総合病院 リハビリテーション科 理学療法士</u></p> <p><u>骨折、靭帯損傷に対する術後、人工関節置換術、リウマチ等の整形外科疾患、中枢神経疾患の理学療法</u></p>	<p>記述なし（作成中）</p>
<p>平成 16 年 2 月～平成 30 年 8 月</p> <p><u>医療法人湖光会 若草診療所 非常勤職員</u></p> <p><u>急性期、慢性期の整形外科疾患、中枢神経疾患、神経難病、高齢者の運動器不安定症に対する理学療法、訪問リハビリテーションを実施</u></p>	
<p>平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月</p> <p><u>医療法人誠光会 矢橋中央病院 リハビリテーション科 理学療法士 異動</u></p> <p><u>高齢者、人工透析患者に対する理学療法、胃ろう離脱の取り組みをチーム医療で実施</u></p>	
<p>平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月</p> <p><u>医療法人誠光会 草津総合病院 リハビリテーション科 理学療法士 異動</u></p>	
<p>平成 19 年 4 月～現在に至る</p> <p><u>滋賀医療技術専門学校 理学療法学科 専任教員（現在休職中）</u></p> <p><u>「社会福祉学」「医学英語」「徒手療法学Ⅲ」「神経障害系理学療法学Ⅰ」「神経障害系理学療法学Ⅱ」「運動療法学実習」「運動学演習」「理学療法研究法」「評価実習Ⅰ」「評価</u></p>	

	実習Ⅱ」「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」等	
平成 20 年、平成 21 年 7 月	龍谷大学 社会福祉学科 集中講義 講師 「起居・移乗介助」	
平成 21 年 6 月～平成 22 年 3 月	大津市通所型介護予防事業（運動器の機能 向上プログラム）実施	
平成 22 年 6 月～平成 23 年 3 月	大津市通所型介護予防事業（運動器の機能 向上プログラム）実施	
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 非常勤講師 「マニュアルセラピー」の実技アシスタ ントとして、学生に技術指導を行った	
平成 24 年 5 月～6 月	佛教大学 保健医療技術学部 理学療法学 科 非常勤講師 「日常生活活動学」[運動学]を講義	
平成 27 年 2 月～平成 30 年 8 月	社会医療法人誠光会 草津ケアセンター リハビリテーション科 非常勤職員	
平成 27 年 8 月～平成 28 年 3 月	会福祉法人大樹会やすらぎハウス 介護予 防事業（滋賀県要介護度改善推進モデル事 業）実施	

#### 4) 組織名称の誤植

設置の趣旨等を記載した書類の 50 ページにおいて、教育課程連携協議会の構成員である。宮内吉則氏の所属組織である「一般社団法人滋賀県作業療法士会」の名称を「公益社団法人作業療法士会」としていた。正しい名称に改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 80 ページ

新	旧
⑤宮内吉則 : <u>一般社団法人</u> 作業療法士会 会長	⑤宮内吉則 : 公益社団法人作業療法士会 会長

#### 5) その他

その他、誤字・脱字、てにをはの間違いなど軽微な間違いについて適切に修正を行う。

【教育課程等】

(是正事項) リハビリテーション学部 作業療法学科

3 1. <授業の到達目標と授業計画が不一致>

職業専門科目で配置された「地域生活作業療法学演習 I」は、掲げられた授業の到達目標を達成するための授業計画としては不適切なため、修正すること。

(対応)

当該授業科目の到達目標を、申請時点においては「地域に住まう利用者との関わりを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」としていた。一方、授業計画では、「風船バレーボール大会参加」を主に置いていた。「障害を持つ方の生活」と「風船バレーボール大会」とは一致しないため、ご指摘のとおり不適切であった。当該科目においては、障害を持つ方の「生活」ではなく、「社会参加」の意義について理解することを授業の到達目標として用意した授業科目となる。そのため、そのことが分かるよう授業の到達目標を改める。なお、是正事項 1 2 <授業形態の設定が不明確>の対応として、科目名称を「地域生活作業療法学演習 I」から「地域生活作業療法学実習 I」に改めた。

資料 32-1 : シラバス (地域生活作業療法学実習 I) 変更後・変更前

(新旧対照表) シラバス (授業計画)

新		旧	
授業概要到達目標	<p>目標は、「<u>地域に住まう利用者との関わりを通して、障害を持つ方が地域社会に参加することの意義を理解する。また作業療法士やその他の関連職種が活動・参加の促進にむけて、どのような役割を果たすべきかを考える</u>」とする。授業形態として講義形式・グループワーク・地域で開催されるリハビリテーション実践活動へ参加する。障害を持つ方が地域社会に参加する機会を提供することの意味やそのことによる日常生活の参加や活動への影響について、参加して得られた情報や作業療法士・多職種からの聞き取った情報をグループワークにて検討し発表することとする。また地域で開催される実践活動の企画・運営を経験する機会とする。</p>	授業概要到達目標	<p>目標は、「<u>地域に住まう利用者との関わりを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える</u>」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関わりを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。</p>

<その他の事項>

学長予定者の変更について

(対応)

申請時において、滋賀医療技術専門学校開学当初より 22 年に渡り学校長及び名誉学校長を務めてきた砂川勇氏を本学の学長候補者としてきたが、先の設置構想審査における対応や、教員資格審査で職位が教授から講師相当と判断頂いたことを重く受け止め、再度、本法人内で熟慮熟考を重ねた結果、本人からの学長予定者を辞退したい旨の申入れもあり、本補正申請において学長予定者を変更させて頂きたい。

### 1) 新学長予定者の選考方針

本法人は、新学長予定者の選考方針を次のとおり示し、選考会議において検討を重ねた。

- (1) 学校教育法第 92 条第 3 項において規定されている「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する」という校務に関する最終的な決定権を学長が有し、所属職員に対して指揮命令権を有する最重要ポストであることを深く認識し行動できる者。
- (2) 専門職大学の制度的理解や本学設置の趣旨を深く理解し、推進する資質・能力を有し、学長としてのリーダーシップと大学構成員とのコミュニケーション能力を有する者。
- (3) 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学における教育研究活動等について、これまでの大学執行部における経験を踏まえ、更に本学の教育研究活動を発展させるべく適切かつ効果的に本学の運営ができる能力を有する者。
- (4) 専門職大学としての本学の将来像について明確なビジョンと情熱を有し、強力なリーダーシップを発揮し、本学の目的の達成に向けて着実に実行する能力を有する者。

### 2) 選考結果

新学長予定者の選考方針に基づき検討を重ねた結果、山川正信氏を本学の学長予定者としたい。山川正信氏は、本学が求めるべき学長像に合致し、また、地域共生社会に貢献する志の高い学生を育む教育への取り組みや、本学の研究の推進、専門職大学としてのシステム構築、教職員の多様性とやる気を生かす大学の体制構築など具体的な考えを示しており、本学の学長として最も適任であるという結論に至った。

・山川正信 教授（候補）

専門分野：予防医学、公衆衛生学、健康教育学、疫学、ヘルスプロモーション、地域保健

昭和 50 年 3 月 京都大学大学院工学研究科修士課程（衛生工学専攻）修了

昭和 51 年 9 月 滋賀医科大学医学部 助手（保健管理学講座）

平成 3 年 3 月 学位取得 医学博士（滋賀医科大学）

平成 7 年 2 月 滋賀医科大学医学部 講師（福祉保健医学講座）

平成 7 年 10 月 ハワイ大学留学（～平成 8 年 9 月）

平成 9 年 4 月 大阪教育大学教育学部 教授

平成 21 年 4 月 (兼) 大阪教育大学附属池田中学校 校長

(兼) 大阪教育大学附属高等学校池田校舎 校舎主任

平成 27 年 3 月 大阪教育大学 名誉教授

平成 29 年 4 月 学校法人関西女子学園 宝塚大学看護学部教授・学長 (現在に至る)

## 審査意見への対応を記載した書類（3月）資料編 目次

資料 1-1：カリキュラムマップ（理学療法学科）

資料 1-2：カリキュラムマップ（作業療法学科）

資料 2-1：「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）

資料 3-1：藍野大学医療保健学部理学療法学科・作業療法学科 教育課程等の概要（2018年度以降に入学した学生用）

資料 3-2：滋賀医療技術専門学校理学療法学科・作業療法学科 教育課程等の概要

資料 7-1：シラバス（日本の伝統文化）変更後・変更前

資料 7-2：シラバス（英語Ⅰ）変更後・変更前

資料 7-3：シラバス（コミュニケーション論）

資料 7-4：シラバス（心理学）

資料 7-5：シラバス（英語Ⅱ）変更後・変更前

資料 7-6：シラバス（人間発達学）

資料 7-7：シラバス（社会福祉学）

資料 9-1：シラバス（理学療法総合演習）変更後・変更前

資料 9-2：シラバス（作業療法総合実習Ⅰ）変更後・変更前

資料 9-3：シラバス（作業療法総合実習Ⅱ）変更後・変更前

資料 9-4：シラバス（協働連携論総合実習）変更後・変更前

資料 10-1：各授業科目の単位及び時間数についての考え方（理学療法学科）

資料 10-2：各授業科目の単位及び時間数についての考え方（作業療法学科）

資料 11-1：履修モデル（理学療法学科）

資料 11-2：履修モデル（作業療法学科）

資料 12-1：授業形態の統一に伴い計画を一部変更したシラバス（理学療法学科）変更後・変更前

資料 12-2：授業形態の統一に伴い計画を一部変更したシラバス（作業療法学科）変更後・変更前

資料 13-1：学修内容が明確になるよう変更したシラバス（理学療法学科）変更後・変更前

資料 13-2：学修内容が明確になるよう変更したシラバス（作業療法学科）変更後・変更前

資料15-1：水準と臨床実習の教育目標との関係

資料15-2：巡回指導計画表（理学療法学科）

資料 15-3：巡回指導計画表（作業療法学科）

資料 15-4：勤務スケジュール表（理学療法学科）

資料 15-5：勤務スケジュール表（作業療法学科）

資料 23-1：びわこリハビリテーション専門職大学 非常勤講師及び非常勤実験実習助手の任用等に関する規程

資料 27-1：図書館図面 変更後・変更前

資料 27-2：購入予定の電子書籍一覧

資料 28-1：東近江市おくのの運動公園利用に関する早期利用申請について（承諾）

資料 32-1：シラバス（地域生活作業療法学演習Ⅰ）変更後・変更前

理学療法学科 カリキュラムマップ

養成する人材像	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	基礎科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期		
<p>(1) 理学療法士として、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、住み慣れた地域で生活を維持するために、多職種と協働し、科学的な根拠に基づく最適な理学療法を実践できる人材を育成する。</p> <p>(2) 理学療法士の専門性を活かし、地域住民の健康寿命延伸とQOL維持・向上のために、身体活動に関わる生活の側面から、多職種との連携を通して地域が抱える課題を発見し解決することで、健康・スポーツ・福祉の分野において地域共生社会の実現に向けて支援できる人材を育成する。</p>	<p>(1) 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p> <p>(2) 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p> <p>(3) 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>(4) 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>(5) 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>	<p>理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p> <p>(1) 倫理観に基づき生命を尊重し、責任をもって生涯にわたり理学療法士として研鑽を続け、地域住民の社会生活を支援する能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(2) 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を有し、多職種と協働し、連携して地域住民との関係を構築する能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(3) 理学療法に必要な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ論理的思考をもって科学的根拠に基づいた理学療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(4) 理学療法の知識・技術を基礎とし、地域住民の生活から地域社会を見渡す広い視野を持ち地域の課題を発見し、問題解決を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p> <p>(5) 理学療法に関連する他分野の専門学力を修得し、地域住民の健康で生涯にわたる質の高い生活維持に関して、理学療法知識や技術を養うための科目を配置する。</p>	初年度教育科目	学びの基礎 コミュニケーション論									
			人間と社会系科目	教育学 倫理学入門 哲学入門 (選択) 社会学 (選択) 日本の伝統文化 (選択) 日本の近代史 (選択)	心理学 音楽 (選択) 体育 (選択)	経営学入門 (選択)	キャリア発達論						
			自然科学系科目	生物学 物理学 I 数学 (選択)	物理学 II (選択)		統計学						
			語学教育系科目	英語 I	英語 II (選択)		韓国語 (選択) 中国語 (選択)						
			理学療法理論科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I 生理学 I	解剖学 II 生理学 II 運動学 I	運動学 II	人間発達学 運動学実習 運動生理学実習					
理学療法理論科目群	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進			内科学 I 神経内科学 I 整形外科 I	内科学 II 神経内科学 II 整形外科 II								
理学療法理論科目群	保健医療福祉とリハビリテーションの理念			精神医学 薬理学概論	小児科学 老年医学 栄養学 画像診断学	救急援助論	予防医学						
理学療法理論科目群						リハビリテーション概論	社会福祉学	地域包括ケア論					
職業専門科目	基礎理学療法学	基礎理学療法学 I 基礎理学療法学 II	基礎理学療法学実習 I 基礎理学療法学実習 II					基礎理学療法学研究法 臨床技能論実習					
職業専門科目	理学療法管理学									理学療法管理学 保健医療福祉関連制度			
職業専門科目	理学療法評価学			理学療法評価学	理学療法評価学実習	画像評価学		理学療法評価学演習					
職業実践科目群	理学療法治療学			運動療法学 日常生活活動学 義肢装具学 I 物理療法学	運動療法学実習 義肢装具学 II	神経障害系理学療法学実習 I 運動障害系理学療法学実習 I 小児理学療法学演習 老年期理学療法学演習 スポーツ障害系理学療法学演習	徒手理学療法学	徒手理学療法学実習		内部障害応用論実習 (選択) 神経筋骨格障害応用論実習 (選択) スポーツ障害応用論実習 (選択)			
職業実践科目群	地域理学療法学						地域理学療法学	地域理学療法学実習					
職業実践科目群	臨床実務実習	理学療法見学実習 I	理学療法見学実習 II	理学療法見学実習 III				理学療法評価実習	理学療法総合臨床実習 I 理学療法総合臨床実習 II 理学療法地域実習				
展開科目	地分野を学ぶための共通科目	生涯スポーツ論	ボランティア論 労働衛生論	災害支援論 子育て支援論 教育支援論				地域共生論	マーケティング論 施設起業運営論 障がい者スポーツ論	障がい者スポーツ論実習			
展開科目	地域支援モデル							福祉工学地域活用論 (選択) ロボット工学地域活用論基礎 (選択) ロボット工学地域活用論応用 (選択) 身体障がい者就業環境論 (選択) 組織運営論 (選択)					
展開科目	ヘルスポモーション支援モデル							体力測定論 (選択) 健康増進実践演習 (選択) 健康増進実践演習 (選択) 遊びとレクリエーション (選択) 生きがい創造 (選択) 伝承遊び (選択) メンタルヘルスマネジメント論 (選択)					
展開科目	生涯スポーツ支援モデル							スポーツリズムトレーニング論 (選択) パフォーマンス向上論 (選択) フィットネス論 (選択) ランニングトレーニング論 (選択) ゴルフトレーニング論 (選択) ビジョントレーニング論 (選択) シューフィッティング論 (選択)					
総合科目								リハビリテーション総合演習		理学療法総合演習 協働連携総合実習			

マップの見方

- 同色の科目については科目間の関連が強い。
- 緑文字は選択科目
- 赤文字は実習科目

作業療法学科 カリキュラムマップ

養成する人材像		ディプロマ・ポリシー	基礎科目	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期		
<p>(1) 子どもから高齢者までの多様な年齢層の地域住民を対象として、健康で幸福な生活の獲得に向け、意味のある生活行為とそれを行うために必要な心身の活動に対して環境面に働きかけながら作業手段あるいは目的として利用できる人材を養成する。</p> <p>(2) 地域住民が抱える暮らしの中での課題を発見し、多職種や産業界と連携しながら新たな支援や支援体制の構築ができることによって社会適応力の向上を促し、地域共生社会の実現に向けて保健・福祉・就労等の面から貢献できる人材を養成する。</p>	<p>作業療法学科では、所定の規則に基づき130単位の単位取得及び上記の要件を満たしたうえで、次のような能力・資質を備えた人物に作業療法学士(専門職)の学位を授与する。</p>	<p>作業療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及び本学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の5つの方針で編成する。</p>	<p>初年次教育科目</p> <p>人間と社会系科目</p> <p>自然科学系科目</p> <p>語学教育系科目</p>	<p>学びの基礎 コミュニケーション論</p> <p>教育学 倫理学入門 社会学 哲学入門(選択) 日本の伝統文化(選択) 日本の近代史(選択)</p> <p>生物学 物理学 I 数学(選択)</p> <p>英語 I</p>	<p>心理学 音楽(選択) 体育(選択)</p> <p>経営学入門(選択)</p> <p>キャリア発達論</p> <p>物理学 II(選択)</p> <p>英語 II(選択)</p> <p>韓国語(選択) 中国語(選択)</p>	<p>経営学入門(選択)</p> <p>キャリア発達論</p>	<p>統計学</p> <p>韓国語(選択) 中国語(選択)</p>						
	<p>(1) 作業療法として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p>	<p>(1) 人の生命や価値観や人の暮らしを社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(1) 人の生命や価値観や人の暮らしを社会を理解できる幅広い教養を有し、医療専門職の意義や役割を理解し学術的に探究できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>人体の機能と構造及び心身の発達</p> <p>疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p>保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p>	<p>解剖学 I 生理学 I 運動学 I</p>	<p>人間発達学 解剖学 II 生理学 II 運動学 II</p>	<p>解剖学 III</p> <p>運動学実習</p>	<p>内科学 I 神経内科学 I 整形外科 I</p> <p>薬理学概論</p> <p>精神医学 小児科学 老年医学 栄養学 画像診断学</p> <p>救急援助論</p> <p>予防医学</p>	<p>内科学 II 神経内科学 II 整形外科 II</p>				
	<p>(2) 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p>	<p>(2) 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(2) 多職種と協調・連携するための円滑なコミュニケーション能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>リハビリテーション概論</p>	<p>リハビリテーション概論</p>	<p>地域包括ケア論 社会福祉学</p>	<p>地域包括ケア論 社会福祉学</p>						
	<p>(3) 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>	<p>(3) 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動、参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(3) 作業療法士として必要な専門的知識と技術を習得し、地域住民を心身機能、社会活動、参加また環境面から捉える思考方法を身に付け、作業療法を実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>基礎作業療法学</p> <p>作業療法管理学</p> <p>作業療法評価学</p>	<p>作業療法学総論 基礎作業学 基礎作業学実習 I</p>	<p>基礎作業学実習 II</p>	<p>作業療法管理・制度論 作業療法と倫理</p> <p>作業療法評価学総論</p> <p>身体障害作業療法評価学実習 I 身体障害作業療法評価学実習 II 精神障害作業療法評価学実習 発達障害作業療法評価学実習</p>	<p>日常生活活動論実習 社会生活行為論実習</p> <p>身体障害作業療法基礎技術論 精神障害作業療法学 老年期障害作業療法学 作業分析活用論 運動器疾患作業療法学実習 中枢神経疾患作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 I 作業療法施設職員実習</p>	<p>作業療法研究法 家族援助論 住環境支援論 高次脳機能障害作業療法学実習 精神障害作業療法学実習 発達障害作業療法学実習 II 老年期障害作業療法学実習 生活行為向上マネジメント論実習</p>				
	<p>(4) 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p>	<p>(4) 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(4) 人的、作業的、環境的側面から地域生活課題の発見に努め、論理的に課題の構造化を行い、課題解決に向けて実践できる能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>地域作業療法学</p> <p>臨床実務実習</p>	<p>地域生活作業療法学総論</p>	<p>地域生活作業療法学実習 I 地域生活作業療法学実習 II</p>	<p>地域生活作業療法学実習 III</p>	<p>作業療法見学実習 I</p> <p>作業療法見学実習 II</p>	<p>作業療法評価実習</p> <p>作業療法総合臨床実習 I</p> <p>作業療法総合臨床実習 II 作業療法地域実習</p>				
<p>(5) 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開に向けて作業療法を活用することができる。</p>	<p>(5) 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>(5) 地域社会への関心をもち関連する分野について理解を深め、地域生活の課題解決にむけて作業療法を応用的・創造的に活用する能力を養うための科目を配置する。</p>	<p>他分野を学ぶための共通科目</p> <p>老年期モデル</p> <p>成人期モデル</p> <p>児童期モデル</p>	<p>ボランティア論 地域社会共生論</p>	<p>災害支援論 地域社会共生論実習</p>	<p>子育て支援論 メンタルヘルスマネジメント論</p>	<p>マーケティング論 教育支援論</p>	<p>施設起業運営論</p> <p>障害者スポーツ論 精神障がい者就労環境論 身体障がい者就労環境論</p>	<p>障害者スポーツ論実習 就労環境論実習</p>	<p>老年期地域生活適応論(選択) 成人期地域生活適応論(選択) 児童期地域生活適応論(選択)</p>	<p>老年期地域生活適応論実習(選択) 成人期地域生活適応論実習(選択) 児童期地域生活適応論実習(選択)</p>		
			<p>総合科目</p>	<p>1年前期</p>	<p>1年後期</p>	<p>2年前期</p>	<p>2年後期</p>	<p>3年前期</p>	<p>3年後期</p>	<p>4年前期</p>	<p>4年後期</p>		
											<p>協働連携論総合実習 作業療法総合実習 I 作業療法総合実習 II</p>		

マップの見方

- 同系色の科目については科目間の関連が強い。
- 緑文字は選択科目
- 赤文字は実習科目

# 「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）【概要】

平成29年2月7日 厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定

## 「地域共生社会」とは

- ◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

## 改革の背景と方向性

### 公的支援の『縦割り』から『丸ごと』への転換

- 個人や世帯の抱える複合的課題などへの包括的な支援
- 人口減少に対応する、分野をまたがる総合的サービス提供の支援

### 『我が事』・『丸ごと』の地域づくりを育む仕組みへの転換

- 住民の主体的な支え合いを育み、暮らしに安心感と生きがいを生み出す
- 地域の資源を活かし、暮らしと地域社会に豊かさを生み出す

## 改革の骨格

### 地域課題の解決力の強化

- 住民相互の支え合い機能を強化、公的支援と協働して、地域課題の解決を試みる体制を整備【29年制度改革】
- 複合課題に対応する包括的相談支援体制の構築【29年制度改革】
- 地域福祉計画の充実【29年制度改革】

### 地域を基盤とする包括的支援の強化

- 地域包括ケアの理念の普遍化：高齢者だけでなく、生活上の困難を抱える方への包括的支援体制の構築
- 共生型サービスの創設【29年制度改革・30年報酬改定】
- 市町村の地域保健の推進機能の強化、保健福祉横断的な包括的支援のあり方の検討

## 「地域共生社会」の実現

- 多様な担い手の育成・参画、民間資金活用の推進、多様な就労・社会参加の場の整備
- 社会保障の枠を超え、地域資源（耕作放棄地、環境保全など）と丸ごとつながることで地域に「循環」を生み出す、先進的取組を支援

- 対人支援を行う専門資格に共通の基礎課程創設の検討
- 福祉系国家資格を持つ場合の保育士養成課程・試験科目の一部免除の検討

### 地域丸ごとのつながりの強化

### 専門人材の機能強化・最大活用

## 実現に向けた工程

平成29(2017)年：介護保険法・社会福祉法等の改正

- ◆市町村による包括的支援体制の制度化
- ◆共生型サービスの創設 など

平成30(2018)年：

- ◆介護・障害報酬改定：共生型サービスの評価 など
- ◆生活困窮者自立支援制度の強化

平成31(2019)年以降：

更なる制度見直し

2020年代初頭：  
全面展開

### 【検討課題】

- ①地域課題の解決力強化のための体制の全国的な整備のための支援方策（制度のあり方を含む）
- ②保健福祉行政横断的な包括的支援のあり方
- ③共通基礎課程の創設 等

学則第12条 別表1

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2018年度以降に入学した学生用)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1							卒業要件 基礎科目 必修科目 6単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から2単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 32単位 計 32単位以上 専門科目 必修科目 70単位 選択必修科目4単位以上 計 74単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 129単位以上
	論理学入門	15			1		1		1						
	人間学	15			1		1		1						
	心理学	15			1		1		1						
	宗教学入門	15			1		1		1						
	文化人類学	15			1		1		1						
	欧米の文化	15			1		1		1						
	近畿の伝統文化	15			1		1		1						
	日本史の見方	15			1		1		1						
	法学 ●★	30			2		2		2						
	経済学入門	15			1		1		1						
	フィールドワーク入門	15			1		1		1						
	ボランティア論	15			1		1		1						
	世界の保健医療	15		1			1		1						
	国際比較福祉論	15		1			1		1						
	環境と生活	15			1		1		1						
	科学技術論	15			1		1		1						
	発酵学入門	15			1					1		1			
	心のサイエンス	15			1		1		1						
	からだの化学と機能	15			1		1		1						
基礎科目	英語 I	30	1			1									
	英語 II	30	1				1								
	医療英語 I	15			1			1							
	医療英語 II	15			1				1						
	フランス語入門 I	15			1		1		1						
	フランス語入門 II	15			1			1		1					
	複言語学習のすすめ	30			2		2		2						
理系基礎科目	統計学 II	30			1		1		1						
	情報科学 II	30			1		1		1						
	数学基礎 I	30			1		1		1						
	数学基礎 II	30			1		1		1						
	物理学基礎 I	30			1		1		1						
	物理学基礎 II	30			1		1		1						
	化学基礎	15			1		1		1						
	生物学入門	15			1		1		1						
	再生医療入門	15			1		1		1						
	学びの基盤	15	1			1									
初年次教育科目	健康科学	15			1		1		1						
	コミュニケーション論	15			1		1		1						
	文章表現法	15			1		1		1						
	統計学 I	30	1			1									
	情報科学 I	30	2			2									
	体育講義 ●★	30			1		1		1						
	体育実習 ●★	30			1		1		1						
その他	国際医療研修	30			1		1		1		1		1		
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的の連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門基礎科目	解剖生理学 I	30	2			2									
	解剖生理学 II	30	2				2								
	生化学 ●	30		1		1									
	臨床生化学	30	1							1					
	代謝栄養学	30	2						2						
	薬理学	30	2						2						
	微生物学	30	2				2								
	病理学	30	2				2								
	病態学 I (症候論)	30	1					1							
	病態学 II (病態生理学)	30	1					1							
	病態学 III (病態臨床学)	30	1						1						
	病態学 IV (病態治療論)	30	1							1					
	臨床検査学	30	1					1							
	基礎医学実習	60	2				2								
	精神医学概論	30	2				2								
	リハビリテーション総論	30	2				2								
	ターミナルケア	30	2							2					
	ヘルスコミュニケーション	15			1		1								
	医療心理学	15			1		1								
	医療倫理学	30	2									2			
	社会保障論	30	1										1		
	医療制度論	30			2		2								
	保健福祉行政論 I ★○	30			2							2			
保健福祉行政論 II ○	15			1								1			
公衆衛生学 ★	30			2		2									
疫学 ★○	30			2					2						
保健統計学	30	2				2									
シンメディカル論	15	1							1						
ホースセラピー	15			1				1		1					



藍野大学医療保健学部 看護学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1							卒業要件 基礎科目 必修科目 6単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から2単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 32単位 計 32単位以上 専門科目 必修科目 70単位 選択必修科目4単位以上 計 74単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 129単位以上
	論理学入門	15			1	1		1							
	人間学	15			1	1		1							
	心理学	15			1	1		1							
	宗教学入門	15			1	1		1							
	文化人類学	15			1	1		1							
	欧米の文化	15			1	1		1							
	近畿の伝統文化	15			1		1		1						
	日本史の見方	15			1		1		1						
	法学 ●★	30			2	2		2							
	経済学入門	15			1	1		1							
	フィールドワーク入門	15			1		1		1						
	ボランティア論	15			1	1		1							
	世界の保健医療	15		1			1		1						
	国際比較福祉論	15		1			1		1						
	環境と生活	15			1	1		1							
	科学技術論	15			1		1		1						
	発酵学入門	15			1					1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1							
	からだの化学と機能	15			1		1		1						
基礎教育科目	英語 I	30	1			1									
	英語 II	30	1				1								
	医療英語 I	15			1			1							
	医療英語 II	15			1				1						
	フランス語入門 I	15			1	1		1							
	フランス語入門 II	15			1		1		1						
理系基礎科目	統計学 II	30			1		1		1						
	情報科学 II	30			1		1		1						
	数学基礎 I	30			1	1		1							
	数学基礎 II	30			1		1		1						
	物理学基礎 I	30			1	1		1							
	物理学基礎 II	30			1		1		1						
	化学基礎	15			1	1		1							
	生物学入門	15			1		1		1						
	再生医療入門	15			1		1		1						
	学びの基盤	15	1			1									
初年次教育科目	健康科学	15			1	1		1							
	コミュニケーション論	15			1	1		1							
	文章表現法	15			1	1		1							
	統計学 I	30	1			1									
	情報科学 I	30	2			2									
	体育講義 ●★	30			1		1		1						
体育実習 ●★	30			1	1		1								
その他	国際医療研修	30			1		1		1		1		1		
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門基礎科目	解剖生理学 I	30	2			2									
	解剖生理学 II	30	2				2								
	生化学 ●	30			1	1									
	臨床生化学	30	1							1					
	代謝栄養学	30	2						2						
	薬理学	30	2						2						
	微生物学	30	2				2								
	病理学	30	2				2								
	病態学 I (症候論)	30	1					1							
	病態学 II (病態生理学)	30	1					1							
	病態学 III (病態臨床学)	30	1						1						
	病態学 IV (病態治療論)	30	1						1						
	臨床検査学	30	1					1							
	基礎医学実習	60	2				2								
	精神医学概論	30	2				2								
	リハビリテーション総論	30	2				2								
	ターミナルケア	30	2							2					
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1									
	医療心理学	15			1	1									
	医療倫理学	30	2									2			
	社会保障論	30	1										1		
	医療制度論	30			2	2									
	保健福祉行政論 I ★○	30			2							2			
保健福祉行政論 II ○	15			1								1			
公衆衛生学 ★	30			2	2										
疫学 ★○	30			2					2						
保健統計学	30	2				2									
シメディカル論	15	1							1						
ホースセラピー	15			1			1		1						

\* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修。

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考						
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年								
						前	後	前	後	前	後	前	後							
看護	看護学概論	30	2			2														
	基礎看護学援助論 I	60	2			2														
	基礎看護学援助論 II	60	2				2													
	基礎看護学活動論 I	30	2					2												
	基礎看護学活動論 II	60	2					2												
	臨床看護総論	30	2						2											
	基礎看護学実習 I	45	1				1													
	基礎看護学実習 II	90	2						2											
	成人看護学概論	30	2						2											
	成人看護学援助論 I	30	1							1										
	成人看護学援助論 II	30	1								1									
	成人看護学演習 I	30	1									1								
	成人看護学演習 II	30	1										1							
	成人看護学実習 I	135	3											3						
	成人看護学実習 II	135	3												3					
	老年看護学概論	30	2						2											
	老年看護学援助論	30	1							1										
	老年看護学演習	60	2								2									
	老年看護学実習	180	4											4						
	小児看護学概論	30	2						2											
	小児看護学援助論	30	1							1										
	小児看護学活動論	30	1									1								
	小児看護学実習	90	2										2							
	母性看護学概論	30	2						2											
	母性看護学援助論	30	1								1									
	母性看護学活動論	30	1										1							
	母性看護学実習	90	2											2						
	精神看護学概論	30	2							2										
	精神看護学援助論	30	1							1										
	精神看護学活動論	60	2									2								
	精神看護学実習	90	2											2						
	在宅看護学概論	30	2						2											
	在宅看護学援助論	30	1										1							
	在宅看護学活動論	30	1											1						
	在宅看護学実習	90	2												2					
	統合看護実践論 I	30	2									2								
	統合看護実践論 II	30	2													2				
	統合看護学実習	90	2														2			
	看護学総合演習	30	1																1	
	公衆衛生看護学概論	○ 30		2			2													
	公衆衛生看護学援助論 I	○ 30			2			2												
	公衆衛生看護学援助論 II	○ 30			2				2											
	公衆衛生看護学活動論 I	○ 30			2							2								
	公衆衛生看護学活動論 II	○ 30			2								2							
	公衆衛生看護学活動論 III	○ 30			2											2				
公衆衛生看護管理論	○ 30			2												2				
学校保健	★ ○ 30		2			2														
養護学概論	★ 30			2					2											
健康相談活動論	★ 60			2							2									
公衆衛生看護学実習 I	○ 180			4											4					
公衆衛生看護学実習 II	○ 45			1												1				
公衆衛生看護学総合演習	○ 30			1														1		
卒業研究	90	2																2		
教育	教職論	● ★ 30		2			2													
	教育原論	● ★ 30			2	2														
	教育心理学	● ★ 30			2		2													
	教育社会学	● ★ 30		2			2													
	教育課程論	● ★ 30			2			2												
	看護教育方法 I	● 30			2				2											
	看護教育方法 II	● 30			2										2					
	道德教育の研究	★ 30			2						2									
	特別活動の指導	● ★ 30			2						2									
	教育方法論	● ★ 30			2						2									
	生徒・進路指導論	● ★ 30			2						2									
	教育相談	● ★ 30			2		2													
	教育実習指導	● 15			1								1							
	教育実習	● 90			2														2	
	教職実践演習 (高)	● 30			2														2	
	教職実践演習 (養護教諭)	★ 30			2														2	
	養護実習指導	★ 15			1														1	
	養護実習	★ 120			4														4	

\* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種、○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修。

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2015年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 必修科目 8単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 9単位以上 計 18単位以上 専門基礎科目 必修科目 35単位 計 35単位以上 専門科目 必修科目 71単位 選択必修科目4単位以上 計 75単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 132単位以上
	法学 ●★	30			2	2										
	医療倫理学	30	2										2			
	社会保障論	30	1											1		
	世界の保健医療	30		1			1									
	国際比較福祉論	30		1			1									
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1		1									
	再生医療概説	15			1		1									
	人間学	30			1					1						
	医療心理学	30			1	1										
	体育講義 ●★	30			1		1									
	体育実習 ●★	30			1	1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1			1								
	医療英語 II	30			1				1							
	文章表現法	30			1	1										
	コミュニケーション論	30			1	1										
	統計学 I	30	1			1										
	統計学 II	30			1		1									
	情報科学 I	30	2			2										
	情報科学 II	30			1		1									
	生化学 ●	30			1	1										
	数学基礎 I	30			1	1										
数学基礎 II	30			1		1										
物理学基礎 I	30			1	1											
物理学基礎 II	30			1		1										
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的 連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで											
小計	855	8	2	24	16	10	1	1	1	0	2	1				
専門基礎科目	解剖生理学 I	30	2			2										
	解剖生理学 II	30	2				2									
	臨床生化学	30	2						2							
	代謝栄養学	30	2					2								
	薬理学	30	2					2								
	微生物学	30	2				2									
	病理学	30	2				2									
	病態学 I (症候論)	30	2					2								
	病態学 II (病態生理学)	30	2					2								
	病態学 III (病態臨床学)	30	2						2							
	病態学 IV (病態治療論)	30	2						2							
	臨床検査学	30	2					2								
	基礎医学実習	60	2				2									
	リハビリテーション総論	30	2				2									
	ターミナルケア	30	2						2							
	医療社会学	30			2	2										
	精神医学概論	30	2				2									
	保健統計学	30	2				2									
保健福祉行政論 I ★○	30			2							2					
保健福祉行政論 II ○	15			1								1				
疫学 ★○	30			2				2								
公衆衛生学	30			2	2											
シンメディカル論	15	1							1							
小計	690	35	0	9	6	14	6	8	7	0	2	1				

\* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種を取得する場合は必修  
○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (2015年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考			
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
看護 専 門 科 目	看護学概論	30	2			2											
	基礎看護学援助論 I	60	2			2											
	基礎看護学援助論 II	60	2				2										
	基礎看護学活動論 I	30	2					2									
	基礎看護学活動論 II	60	2					2									
	臨床看護総論	30	2						2								
	基礎看護学実習 I	45	1			1											
	基礎看護学実習 II	90	2						2								
	成人看護学概論	30	2					2									
	成人看護学援助論 I	30	1						1								
	成人看護学援助論 II	30	1						1								
	成人看護学演習 I	30	1							1							
	成人看護学演習 II	30	1							1							
	成人看護学実習 I	135	3								3						
	成人看護学実習 II	135	3								3						
	老年看護学概論	30	2					2									
	老年看護学援助論	30	1						1								
	老年看護学演習	60	2							2							
	老年看護学実習	180	4								4						
	小児看護学概論	30	2					2									
	小児看護学援助論	30	1						1								
	小児看護学活動論	30	1							1							
	小児看護学実習	90	2								2						
	母性看護学概論	30	2					2									
	母性看護学援助論	30	1						1								
	母性看護学活動論	30	1							1							
	母性看護学実習	90	2								2						
	精神看護学概論	30	2					2									
	精神看護学援助論	30	1						1								
	精神看護学活動論	60	2							2							
	精神看護学実習	90	2								2						
	在宅看護学概論	30	2					2									
	在宅看護学援助論	30	1							1							
	在宅看護学活動論	30	1							1							
	在宅看護学実習	90	2								2						
	統合看護実践論 I	30	2							2							
	統合看護実践論 II	30	2									2					
	統合看護学実習	90	2									2					
	看護学総合演習	60	2										2				
	公衆衛生看護学概論	○ 30		2			2										
	公衆衛生看護学援助論 I	○ 30			2			2									
	公衆衛生看護学援助論 II	○ 30			2				2								
	公衆衛生看護学活動論 I	○ 30			2					2							
	公衆衛生看護学活動論 II	○ 30			2						2						
	公衆衛生看護学活動論 III	○ 30			2							2					
	公衆衛生看護管理論	○ 30			2								2				
	学校保健	★ 30		2			2										
	養護学概論	★ 30			2				2								
	健康相談活動論	★ 60			2					2							
	公衆衛生看護学実習 I	○ 180			4								4				
	公衆衛生看護学実習 II	○ 45			1								1				
	公衆衛生看護学総合演習	○ 60			2									2			
	卒業研究	90	2											2			
	教育	教職論 ●★	30		2			2									
		教育原論 ●★	30			2	2										
	教育心理学 ●★	30			2		2										
	教育社会学 ●★	30		2			2										
	教育課程論 ●★	30			2			2									
	看護教育方法 I ●	30			2				2								
	看護教育方法 II ●	30			2							2					
	道德教育の研究 ★	30			2					2							
	特別活動の指導 ●★	30			2				2								
	教育方法論 ●★	30			2			2									
	生徒・進路指導論 ●★	30			2				2								
	教育相談 ●★	30			2		2										
	教育実習指導 ●	15			1					1							
	教育実習 ●	90			2								2				
	教職実践演習(高) ●	30			2									2			
	教職実践演習(養護教諭) ★	30			2									2			
	養護実習指導 ★	15			1								1				
	養護実習 ★	120			4								4				
小計		3450	71	8	55	7	14	22	20	21	18	15	17				
合計		4995	114	10	88	29	38	29	29	29	18	19	19				

\* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種を取得する場合は必修  
○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2014年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考												
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年														
						前	後	前	後	前	後	前	後													
基礎科目	健康科学	30			1	1																		卒業要件 基礎科目 8単位 必修科目 1単位以上 選択必修科目 1単位以上 選択科目 9単位以上 計 18単位以上 専門基礎科目 35単位 必修科目 35単位以上 計 35単位以上 専門科目 71単位 必修科目 71単位 選択必修科目4単位以上 計 75単位以上 専門基礎科目と専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上 合計 132単位以上		
	法学 ●★	30			2	2																				
	医療倫理学	30	2																							
	社会保障論	30	1																							
	世界の保健医療	30		1			1																			
	国際比較福祉論	30		1			1																			
	環境と生活	30			1	1																				
	ボランティア論	30			1	1																				
	科学技術論	30			1		1																			
	再生医療概説	15			1		1																			
	人間学	30			1									1												
	医療心理学	30			1	1																				
	体育講義 ●★	30			1		1																			
	体育実習 ●★	30			1	1																				
	英語 I	30	1			1																				
	英語 II	30	1				1																			
	医療英語 I	30			1			1																		
	医療英語 II	30			1				1																	
	文章表現法	30			1	1																				
	コミュニケーション論	30			1	1																				
	統計学 I	30	1			1																				
	統計学 II	30			1		1																			
	情報科学 I	30	2			2																				
	情報科学 II	30			1		1																			
	生化学 ●	30			1	1																				
	数学基礎 I	30			1	1																				
	数学基礎 II	30			1		1																			
	物理学基礎 I	30			1	1																				
物理学基礎 II	30			1		1																				
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工学情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで																					
小計	855	8	2	24	16	10	1	1	1	0	2	1														
専門基礎科目	解剖生理学 I	30	2			2																				
	解剖生理学 II	30	2				2																			
	臨床生化学	30	2							2																
	代謝栄養学	30	2						2																	
	薬理学	30	2						2																	
	微生物学	30	2				2																			
	病理学	30	2				2																			
	病態学 I (症候論)	30	2					2																		
	病態学 II (病態生理学)	30	2					2																		
	病態学 III (病態臨床学)	30	2						2																	
	病態学 IV (病態治療論)	30	2						2																	
	臨床検査学	30	2					2																		
	基礎医学実習	60	2				2																			
	リハビリテーション総論	30	2				2																			
	ターミナルケア	30	2							2																
	医療社会学	30			2	2																				
	精神医学概論	30	2				2																			
	保健統計学	30	2				2																			
保健福祉行政論 I ★○	30			2																		2				
保健福祉行政論 II ○	15			1																				1		
疫学 ★○	30			2									2													
公衆衛生学	30			2	2																					
シンメディカル論	15	1											1													
小計	690	35	0	9	6	14	6	8	7	0	2	1														

\* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種を取得する場合は必修

○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2014年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考			
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
看護	看護学概論	30	2			2											
	基礎看護学援助論 I	60	2			2											
	基礎看護学援助論 II	60	2				2										
	基礎看護学活動論 I	60	2					2									
	基礎看護学活動論 II	60	2						2								
	臨床看護総論	60	2							2							
	基礎看護学実習 I	45	1			1											
	基礎看護学実習 II	90	2							2							
	成人看護学概論	30	2							2							
	成人看護学援助論 I	30	1								1						
	成人看護学援助論 II	30	1									1					
	成人看護学演習 I	30	1										1				
	成人看護学演習 II	30	1											1			
	成人看護学実習 I	135	3												3		
	成人看護学実習 II	135	3													3	
	老年看護学概論	30	2							2							
	老年看護学援助論	30	1								1						
	老年看護学演習	60	2									2					
	老年看護学実習	180	4												4		
	小児看護学概論	30	2							2							
	小児看護学援助論	30	1								1						
	小児看護学活動論	30	1										1				
	小児看護学実習	90	2											2			
	母性看護学概論	30	2							2							
	母性看護学援助論	30	1									1					
	母性看護学活動論	30	1										1				
	母性看護学実習	90	2											2			
	精神看護学概論	30	2							2							
	精神看護学援助論	30	1								1						
	精神看護学活動論	60	2										2				
	精神看護学実習	90	2											2			
	在宅看護学概論	30	2							2							
	在宅看護学援助論	30	1										1				
	在宅看護学活動論	30	1											1			
	在宅看護学実習	90	2												2		
	統合看護実践論 I	60	2									2					
	統合看護実践論 II	60	2													2	
	統合看護学実習	90	2													2	
	看護学総合演習	60	2														2
	公衆衛生看護学概論	○ 30		2				2									
	公衆衛生看護学援助論 I	○ 30			2				2								
	公衆衛生看護学援助論 II	○ 30			2					2							
公衆衛生看護学活動論 I	○ 30			2							2						
公衆衛生看護学活動論 II	○ 30			2								2					
公衆衛生看護学活動論 III	○ 30			2										2			
公衆衛生看護管理論	○ 30			2											2		
学校保健	★ 30		2				2										
養護学概論	★ 30			2					2								
健康相談活動論	★ 60			2							2						
公衆衛生看護学実習 I	○ 180			4										4			
公衆衛生看護学実習 II	○ 45			1											1		
公衆衛生看護学総合演習	○ 60			2												2	
卒業研究	90	2														2	
教育	教職論	● ★ 30		2				2									
	教育原論	● ★ 30			2		2										
	教育心理学	● ★ 30			2			2									
	教育社会学	● ★ 30		2					2								
	教育課程論	● ★ 30			2					2							
	看護教育方法 I	● 30			2						2						
	看護教育方法 II	● 30			2									2			
	道德教育の研究	★ 30			2							2					
	特別活動の指導	● ★ 30			2							2					
	教育方法論	● ★ 30			2						2						
	生徒・進路指導論	● ★ 30			2							2					
	教育相談	● ★ 30			2					2							
	教育実習指導	● 15			1								1				
	教育実習	● 90			2											2	
	教職実践演習(高)	● 30			2											2	
	教職実践演習(養護教諭)	★ 30			2											2	
	養護実習指導	★ 15			1											1	
	養護実習	★ 120			4											4	
	小計		3570	71	8	55	7	14	22	20	21	18	15	17			
合計		5115	114	10	88	29	38	29	29	29	18	19	19				

\* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種を取得する場合は必修  
 ○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修  
 \* 公衆衛生看護学実習 I・公衆衛生看護学実習 IIの変更については、2012年度入学生より適用する。

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2012年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考											
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年													
						前	後	前	後	前	後	前	後												
基礎科目	健康科学	30			1	1																	卒業要件 基礎科目 必修科目 8単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 9単位以上 計 18単位以上 専門基礎科目 必修科目 35単位 計 35単位以上 専門科目 必修科目 71単位 選択必修科目4単位以上 計 75単位以上 専門基礎科目と専門科目から あわせて 選択科目 4単位以上 合計 132単位以上		
	法学 ●★	30			2	2																			
	医療倫理学	30	2																						
	社会保障論	30	1																						
	世界の保健医療	30		1			1																		
	国際比較福祉論	30		1			1																		
	環境と生活	30			1		1																		
	ボランティア論	30			1		1																		
	科学技術論	30			1		1																		
	人間学	30			1						1														
	医療心理学	30			1		1																		
	体育講義 ●★	30			1		1																		
	体育実習 ●★	30			1		1																		
	英語 I	30	1				1																		
	英語 II	30	1					1																	
	医療英語 I	30			1				1																
	医療英語 II	30			1					1															
	文章表現法	30			1		1																		
	コミュニケーション論	30			1		1																		
	統計学 I	30	1				1																		
	統計学 II	30			1			1																	
	情報科学 I	30	2				2																		
	情報科学 II	30			1			1																	
	生化学 ●	30			1		1																		
	数学基礎 I	30			1		1																		
	数学基礎 II	30			1			1																	
	物理学基礎 I	30			1		1																		
	物理学基礎 II	30			1			1																	
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学の連携事業の教育プログラム	—			1 または 2		1年前期から4年前期まで																			
小計	840	8	2	23	16	9	1	1	1	0	2	1													
専門基礎科目	解剖生理学 I	30	2			2																			
	解剖生理学 II	30	2				2																		
	臨床生化学	30	2							2															
	代謝栄養学	30	2						2																
	薬理学	30	2						2																
	微生物学	30	2				2																		
	病理学	30	2				2																		
	病態学 I (症候論)	30	2					2																	
	病態学 II (病態生理学)	30	2					2																	
	病態学 III (病態臨床学)	30	2						2																
	病態学 IV (病態治療論)	30	2						2																
	臨床検査学	30	2						2																
	基礎医学実習	60	2					2																	
	リハビリテーション総論	30	2					2																	
	ターミナルケア	30	2							2															
	医療社会学	30			2		2																		
	精神医学概論	30	2					2																	
保健統計学	30	2					2																		
保健福祉行政論 I ★○	30			2																	2				
保健福祉行政論 II ○	15			1																			1		
疫学 ★○	30			2						2															
公衆衛生学 ★○	30			2		2																			
シンメディカル論	15	1									1														
小計	690	35	0	9	6	14	6	8	7	0	2	1													

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2012年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
専 門 科 目	看護学概論	30	2			2										
	基礎看護学援助論 I	60	2			2										
	基礎看護学援助論 II	60	2				2									
	基礎看護学活動論 I	60	2					2								
	基礎看護学活動論 II	60	2						2							
	臨床看護総論	60	2						2							
	基礎看護学実習 I	45	1			1										
	基礎看護学実習 II	90	2						2							
	成人看護学概論	30	2						2							
	成人看護学援助論 I	30	1							1						
	成人看護学援助論 II	30	1								1					
	成人看護学演習 I	30	1									1				
	成人看護学演習 II	30	1										1			
	成人看護学実習 I	135	3											3		
	成人看護学実習 II	135	3												3	
	老年看護学概論	30	2							2						
	老年看護学援助論	30	1								1					
	老年看護学演習	60	2									2				
	老年看護学実習	180	4												4	
	小児看護学概論	30	2							2						
	小児看護学援助論	30	1								1					
	小児看護学活動論	30	1									1				
	小児看護学実習	90	2											2		
	母性看護学概論	30	2							2						
	母性看護学援助論	30	1								1					
	母性看護学活動論	30	1									1				
	母性看護学実習	90	2											2		
	精神看護学概論	30	2							2						
	精神看護学援助論	30	1								1					
	精神看護学活動論	60	2									2				
	精神看護学実習	90	2											2		
	在宅看護学概論	30	2							2						
	在宅看護学援助論	30	1									1				
	在宅看護学活動論	30	1										1			
	在宅看護学実習	90	2											2		
	統合看護実践論 I	60	2									2				
	統合看護実践論 II	60	2												2	
	統合看護学実習	90	2												2	
	看護学総合演習	60	2												2	
	公衆衛生看護学概論	○	30		2			2								
	公衆衛生看護学援助論 I	○	30			2			2							
	公衆衛生看護学援助論 II	○	30			2				2						
	公衆衛生看護学活動論 I	○	30			2					2					
	公衆衛生看護学活動論 II	○	30			2						2				
	公衆衛生看護学活動論 III	○	30			2								2		
	公衆衛生看護管理論	○	30			2									2	
	学校保健	★	30		2			2								
	養護学概論	★	30			2				2						
	健康相談活動論	★	60			2					2					
	公衆衛生看護学実習 I	○	180			4								4		
	公衆衛生看護学実習 II	○	45			1									1	
	公衆衛生看護学総合演習	○	60			2									2	
卒業研究		90	2											2		
教 育	教職論	●★	30		2		2									
	教育原論	●★	30			2	2									
	教育心理学	●★	30			2		2								
	教育社会学	●★	30		2			2								
	教育課程論	●★	30			2			2							
	看護教育方法 I	●	30			2				2						
	看護教育方法 II	●	30			2								2		
	道德教育の研究	★	30			2					2					
	特別活動の指導	●★	30			2					2					
	教育方法論	●★	30			2			2							
	生徒・進路指導論	●★	30			2				2						
	教育相談	●★	30			2		2								
	教育実習指導	●	15			1					1					
	教育実習	●	90			2									2	
	教職実践演習(高)	●	30			2									2	
	教職実践演習(養護教諭)	★	30			2									2	
養護実習指導	★	15			1									1		
養護実習	★	120			4									4		
小計		3570	71	8	55	7	14	22	20	21	18	20	12			
合計		5100	114	10	87	29	37	29	29	29	18	24	14			

\* ●は高等学校教諭一種(看護)、★は養護教諭一種を取得する場合は必修  
○は保健師国家試験受験資格を取得する場合は必修

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2010年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	健康科学	30	1			1									卒業要件 基礎科目 13単位 必修科目 13単位 選択必修科目 1単位以上 選択科目 8単位以上 計 22単位以上  専門基礎科目 必修科目 26単位 選択必修科目 1単位以上 計 27単位以上  専門科目 必修科目 82単位 計 82単位  専門基礎科目と 専門科目からあわせて 選択科目 4単位以上  合計 135単位以上
	統計学Ⅰ	30	1			1									
	統計学Ⅱ	30			1		1								
	情報科学Ⅰ	30	2						2						
	情報科学Ⅱ	30			1			1							
	環境と生活	30			1	1									
	数学基礎Ⅰ	30			1	1									
	数学基礎Ⅱ	30			1		1								
	物理学基礎Ⅰ	30			1	1									
	物理学基礎Ⅱ	30			1		1								
	生化学	30			1			1							
	科学技術概論	30			1			1							
	英語Ⅰ	30	1			1									
	英語Ⅱ	30	1				1								
	医療英語Ⅰ	30	1					1							
	医療英語Ⅱ	30	1						1						
	英文抄読	30			2					2					
	日本語	30			1	1									
	文章表現法	30			1				1						
	コミュニケーション論	30	1			1									
	ボランティア論	30			1	1									
	社会保障論	30	1						1						
	法学	30			2					2					
	医療倫理学	30	2										2		
	世界の保健医療	30		1			1								
	国際比較福祉論	30		1			1								
	体育講義	30			1		1								
	体育実習	30			1	1									
	人間学	30			1					1					
	医療心理学	30	1			1									
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで										
小計	900	13	2	21	11	7	1	10	3	0	2	0			
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	30	2			2									
	解剖生理学Ⅱ	30	2				2								
	臨床生化学	30	1									1			
	代謝栄養学	30	2						2						
	薬理学	30	2						2						
	微生物学	30	2				2								
	病理学	30	2				2								
	病態学Ⅰ(症候論)	30	1					1							
	病態学Ⅱ(病態生理学)	30	1					1							
	病態学Ⅲ(病態臨床学)	30	1						1						
	病態学Ⅳ(病態治療論)	30	1						1						
	臨床検査学	30			1			1							
	基礎医学実習	60	2					2							
	リハビリテーション総論	30			1		1								
	ターミナルケア	30			1					1					
	医療社会学	30			1	1									
	精神病学	30			1				1						
	保健統計学	30	2									2			
	保健福祉行政論Ⅰ	30	2									2			
	保健福祉行政論Ⅱ	15	1										1		
疫学	30	2						2							
国際看護研修	30			2					2						
シンメディカル学Ⅰ	15		1			1									
シンメディカル学Ⅱ	15		1					1							
シンメディカル学Ⅲ	15		1							1					
シンメディカル学Ⅳ	15		1									1			
小計	735	26	4	7	3	10	3	10	3	1	4	3			

藍野大学医療保健学部 看護学科 (2010年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考					
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年							
						前	後	前	後	前	後	前	後						
看護	看護学概論	30	2			2													
	基礎看護学援助論 I	45	2			2													
	基礎看護学援助論 II	45	2				2												
	基礎看護学活動論 I	30	1					1											
	基礎看護学活動論 II	30	1					1											
	臨床看護総論	30	2						2										
	基礎看護学実習 I	45	1			1													
	基礎看護学実習 II	90	2						2										
	成人看護学概論	30	2					2											
	成人看護学援助論 I	30	1					1											
	成人看護学援助論 II	30	1							1									
	成人看護学演習 I	30	1								1								
	成人看護学演習 II	30	1									1							
	成人看護学実習 I	135	3										3						
	成人看護学実習 II	135	3											3					
	老年看護学概論	30	2					2											
	老年看護学援助論	30	1						1										
	老年看護学演習	60	2							2									
	老年看護学実習	180	4											4					
	小児看護学概論	30	2					2											
	小児看護学援助論	30	1						1										
	小児看護学活動論	30	1							1									
	小児看護学実習	90	2										2						
	母性看護学概論	30	2				2												
	母性看護学援助論	30	1						1										
	母性看護学活動論	30	1								1								
	母性看護学実習	90	2										2						
	精神看護学概論	30	2					2											
	精神看護学援助論	30	1						1										
	精神看護学活動論	60	2							2									
	精神看護学実習	90	2										2						
	在宅看護学概論	30	2					2											
	在宅看護学援助論	30	2						2										
	在宅看護学実習	90	2										2						
	統合看護実践論 I	30	2							2									
	統合看護実践論 II	30	2											2					
	統合看護学実習	90	2											2					
	地域看護学概論	30	2						2										
	地域看護学援助論	30	2								2								
	地域看護学活動論 I	30	2								2								
	地域看護学活動論 II	30	2											2					
	地域看護管理論	30	2												2				
	学校保健	30	2							2									
	養護学概論	30			2								2						
	健康相談活動論	30			2								2						
地域看護学実習 I	135	3											3					*1	
地域看護学実習 II	45	1											1					*1	
看護学総合演習	30	1															1		
卒業研究	90			2													2		
専 門 科 目	教職論	30			2		2												
	教育原論	30			2		2												理学・作業療法学科 履修可
	教育心理学	30			2		2												
	教育社会学	30			2		2												
	教育課程論	30			2			2											
	看護教育方法 I	30			2				2										
	看護教育方法 II	30			2								2						
	道德教育の研究	30			2				2										
	特別活動の指導	30			2					2									
	教育方法論	30			2				2										理学・作業療法学科 履修可
	生徒・進路指導論	30			2					2									
	教育相談	30			2			2											
	教育実習指導	15			1								1						
	教育実習	60			2										2				
	養護実習指導	15			1									1					
	養護実習	120			4										4				
	教職実践演習(高)	30			2													2	
教職実践演習(養護教諭)	30			2													2		
小計	3105	82	0	42		11	8	21	20	17	19	15	13						
合計	4740	121	6	70		25	25	25	40	23	20	21	16						

\*1 2011年度入学生は、地域看護学実習Ⅰ・地域看護学実習Ⅱの配当年次を4年通年とする。

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2018年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考	
			必修	選択必修	選択	3年		4年			
						前	後	前	後		
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から3単位以上選択  合計 47単位以上 (認定単位数82単位と合せ129単位以上)  ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から23単位以上選択 合計 67単位以上 (認定単位数62単位と合せ129単位以上)	
	論理学入門	15			1		1		1		
	人間学	15			1	1		1			
	心理学	15			1	1		1			
	宗教学入門	15			1	1		1			
	文化人類学	15			1	1		1			
	欧米の文化	15			1	1		1			
	近畿の伝統文化	15			1		1		1		
	日本史の見方	15			1		1		1		
	法学 ●	30			2	2		2			
	経済学入門	15			1	1		1			
	フィールドワーク入門	15			1		1		1		
	ボランティア論	15			1	1		1			
	世界の保健医療	15			1		1		1		
	国際比較福祉論	15			1		1		1		
	環境と生活	15			1		1		1		
	科学技術論	15			1		1		1		
	発酵学入門	15			1	1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1			
	からだの化学と機能	15			1		1		1		
	基 礎 科 目	英語 I	30	1			1				
		英語 II	30	1				1			
		医療英語 I	15			1			1		
		医療英語 II	15			1					1
		フランス語入門 I	15			1	1		1		
		フランス語入門 II	15			1		1			1
		複言語学習のすすめ	30			2	2		2		
		統計学 II	30			1		1			1
情報科学 II		30			1		1		1		
数学基礎 I		30			1	1		1			
理 系 基 礎 科 目	数学基礎 II	30			1		1		1		
	物理学基礎 I	30			1	1		1			
	物理学基礎 II	30			1		1		1		
	化学基礎	15			1	1		1			
	生物学入門	15			1		1		1		
	再生医療入門	15			1		1		1		
	学びの基盤	15	1			1					
	健康科学	15			1	1		1			
	コミュニケーション論	15			1	1		1			
	文章表現法	15	1					1			
初 年 次 教 育 科 目	統計学 I	30	1			1					
	情報科学 I	30	2			2					
	体育講義 ●	30			1		1		1		
	体育実習 ●	30			1	1		1			
	国際医療研修	30			1		1		1		
	その他	—			1 または 2				3年前期から 4年前期まで		
専 門 基 礎 科 目	解剖生理学 I	30	2			2					
	解剖生理学 II	30	2				2				
	生化学 ●	30			1	1		1			
	臨床生化学	30	2					2			
	代謝栄養学	30	2				2				
	薬理学	30	2				2				
	微生物学	30	2						2		
	病理学	30	2						2		
	病態学 I (症候論)										
	病態学 II (病態生理学)										
	病態学 III (病態臨床学)										
	病態学 IV (病態治療論)										
	臨床検査学	30			1	1		1			
	基礎医学実習	60			2		2		2		
	精神医学概論										
	リハビリテーション総論	30			2		2		2		
	ターミナルケア	30			2	2		2			
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1		1			
	医療心理学	15			1	1		1			
	医療倫理学	30	2					2			
	社会保障論	30	1						1		
	医療制度論	30			2	2		2			
	保健福祉行政論 I										
	保健福祉行政論 II										
	公衆衛生学	30	2				2				
	疫学										
	保健統計学										
	シメディカル論	15	1					1			
ホースセラピー	15			1	1		1				

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2018年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択必修	選択	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護	看護学概論	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	30			2	2		2		
	基礎看護学活動論 II	60			2	2		2		
	臨床看護総論	30			2		2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45			1		1		1	
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30			2	2		2		
	成人看護学援助論 I	30	1				1			
	成人看護学援助論 II	30	1				1			
	成人看護学演習 I	30			1	1		1		
	成人看護学演習 II	30			1	1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論	30			2	2		2		
	老年看護学援助論	30	1				1			
	老年看護学演習	60			2	2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30			2	2		2		
	母性看護学援助論	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30			2		2		2	
	精神看護学援助論	30			1	1		1		
	精神看護学活動論	60			2	2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30			2	2		2		
	在宅看護学援助論 ●	30			1	1		1		
	在宅看護学活動論	30			1	1		1		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30			2	2		2		
	統合看護実践論 II	30			2	2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	公衆衛生看護学概論									
	公衆衛生看護学援助論 I									
	公衆衛生看護学援助論 II									
	公衆衛生看護学活動論 I									
	公衆衛生看護学活動論 II									
	公衆衛生看護学活動論 III									
公衆衛生看護管理論										
学校保健										
養護学概論										
健康相談活動論										
公衆衛生看護学実習 I										
公衆衛生看護学実習 II										
公衆衛生看護学総合演習										
卒業研究	90	2							2	
教職論 ●	30			2		2		2		
教育原論 ●	30			2	2		2			
教育心理学 ●	30			2		2		2		
教育社会学 ●	30			2		2		2		
教育課程論 ●	30			2	2		2			
看護教育方法 I ●	30			2		2		2		
看護教育方法 II ●	30			2				2		
道德教育の研究	30			2	2		2			
特別活動の指導 ●	30			2		2		2		
教育方法論 ●	30			2		2		2		
生徒・進路指導論 ●	30			2		2		2		
教育相談 ●	30			2		2		2		
教育実習指導 ●	15			1	1		1			
教育実習 ●	45			2				2		
教職実践演習 (高) ●	30			2				2		
教職実践演習 (養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2016年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択必修	選択	3年		4年		
						前	後	前	後	
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から3単位以上選択  合計 47単位以上 (認定単位数82単位と合せ129単位以上)
	論理学入門	15			1		1		1	
	人間学	15			1	1		1		
	心理学	15			1	1		1		
	宗教学入門	15			1	1		1		
	文化人類学	15			1	1		1		
	欧米の文化	15			1	1		1		
	近畿の伝統文化	15			1		1		1	
	日本史の見方	15			1		1		1	
	法学 ●	30			2	2		2		
	経済学入門	15			1	1		1		
	フィールドワーク入門	15			1		1		1	
	ボランティア論	15			1	1		1		
	世界の保健医療	15			1		1		1	
	国際比較福祉論	15			1		1		1	
	環境と生活	15			1	1		1		
	科学技術論	15			1		1		1	
	発酵学入門	15			1	1		1		
	心のサイエンス	15			1	1		1		
	からだの化学と機能	15			1		1		1	
基礎教育科目	英語 I	30	1			1				②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 7単位 専門基礎分野 必修 20単位 専門分野 必修 17単位 全分野から23単位以上選択 合計 67単位以上 (認定単位数62単位と合せ129単位以上)
	英語 II	30	1				1			
	医療英語 I	15			1			1		
	医療英語 II	15			1				1	
	フランス語入門 I	15			1	1		1		
	フランス語入門 II	15			1		1		1	
理系基礎科目	統計学 II	30			1		1		1	
	情報科学 II	30			1		1		1	
	数学基礎 I	30			1	1		1		
	数学基礎 II	30			1		1		1	
	物理学基礎 I	30			1	1		1		
	物理学基礎 II	30			1		1		1	
	化学基礎	15			1	1		1		
	生物学入門	15			1		1		1	
	再生医療入門	15			1		1		1	
	学びの基盤	15	1			1				
初年次教育科目	健康科学	15			1	1		1		
	コミュニケーション論	15			1	1		1		
	文章表現法	15	1					1		
	統計学 I	30	1			1				
	情報科学 I	30	2			2				
	体育講義 ●	30			1		1		1	
その他	国際医療研修	30			1		1		1	
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2				3年前期から4年前期まで	
専門基礎科目	解剖生理学 I ●	30	2			2				
	解剖生理学 II ●	30	2				2			
	生化学 ●	30			1	1		1		
	臨床生化学	30	2					2		
	代謝栄養学	30	2				2			
	薬理学 ●	30	2				2			
	微生物学 ●	30	2						2	
	病理学 ●	30	2						2	
	病態学 I (症候論)									
	病態学 II (病態生理学)									
	病態学 III (病態臨床学)									
	病態学 IV (病態治療論)									
	臨床検査学	30			1	1		1		
	基礎医学実習	60			2		2		2	
	精神医学概論									
	リハビリテーション総論	30			2		2		2	
	ターミナルケア	30			2	2		2		
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1		1		
	医療心理学	15			1	1		1		
	医療倫理学	30	2					2		
	社会保障論	30	1						1	
	医療制度論	30			2	2		2		
	保健福祉行政論 I									
	保健福祉行政論 II									
	公衆衛生学	30	2				2			
	疫学									
保健統計学										
シメディカル論	15	1					1			
ホースセラピー	15			1	1		1			

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2016年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択必修	選択	3年		4年		
						前	後	前	後	
専 門 科 目	看護学概論 ●	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I ●	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	30			2	2		2		
	基礎看護学活動論 II	60			2	2		2		
	臨床看護総論	30			2		2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45			1		1		1	
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30			2	2		2		
	成人看護学援助論 I ●	30	1				1			
	成人看護学援助論 II ●	30	1				1			
	成人看護学演習 I	30			1	1		1		
	成人看護学演習 II	30			1	1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論 ●	30			2	2		2		
	老年看護学援助論 ●	30	1				1			
	老年看護学演習	60			2	2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30			2	2		2		
	母性看護学援助論 ●	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30			2		2		2	
	精神看護学援助論	30			1	1		1		
	精神看護学活動論	60			2	2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30			2	2		2		
	在宅看護学援助論	30			1	1		1		
	在宅看護学活動論	30			1	1		1		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30			2	2		2		
	統合看護実践論 II	30			2	2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	公衆衛生看護学概論									
	公衆衛生看護学援助論 I									
	公衆衛生看護学援助論 II									
	公衆衛生看護学活動論 I									
	公衆衛生看護学活動論 II									
	公衆衛生看護学活動論 III									
	公衆衛生看護管理論									
	学校保健									
	養護学概論									
	健康相談活動論									
	公衆衛生看護学実習 I									
公衆衛生看護学実習 II										
公衆衛生看護学総合演習										
卒業研究	90	2							2	
教職論 ●	30			2		2		2		
教育原論 ●	30			2	2		2			
教育心理学 ●	30			2		2		2		
教育社会学 ●	30			2		2		2		
教育課程論 ●	30			2	2		2			
看護教育方法 I ●	30			2		2		2		
看護教育方法 II ●	30			2				2		
道德教育の研究	30			2	2		2			
特別活動の指導 ●	30			2		2		2		
教育方法論 ●	30			2		2		2		
生徒・進路指導論 ●	30			2		2		2		
教育相談 ●	30			2		2		2		
教育実習指導 ●	15			1	1		1			
教育実習 ●	45			2				2		
教職実践演習 (高) ●	30			2				2		
教職実践演習 (養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2015年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
基礎科目	健康科学	30		1		1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 17単位 専門分野 必修 17単位 全分野から7単位以上選択  合計 50単位以上 (認定単位数82単位と合せ132単位以上)  ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 17単位 専門分野 必修 17単位 全分野から27単位以上選択 合計 70単位以上 (認定単位数62単位と合せ132単位以上)
	法学 ●	30		2		2		2		
	医療倫理学	30		2				2		
	社会保障論	30		1					1	
	世界の保健医療	30		1			1		1	
	国際比較福祉論	30		1			1		1	
	環境と生活	30		1		1		1		
	ボランティア論	30		1		1		1		
	科学技術論	30		1			1		1	
	再生医療概説	15		1			1		1	
	人間学	30		1		1		1		
	医療心理学	30		1		1		1		
	体育講義 ●	30		1			1		1	
	体育実習 ●	30		1		1		1		
	英語 I ●	30	1			1				
	英語 II ●	30	1				1			
	医療英語 I	30		1		1		1		
	医療英語 II	30		1			1		1	
	文章表現法	30	1					1		
	コミュニケーション論	30		1		1		1		
	統計学 I	30	1			1				
	統計学 II	30		1			1		1	
	情報科学 I ●	30	2			2				
	情報科学 II	30		1			1		1	
	生化学 ●	30		1		1		1		
	数学基礎 I	30		1		1		1		
数学基礎 II	30		1			1		1		
物理学基礎 I	30		1		1		1			
物理学基礎 II	30		1			1		1		
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		3年前期から 4年前期まで					
小計	855	9	25	0	17	11	16	11		
専門基礎科目	解剖生理学 I ●	30	2			2				
	解剖生理学 II ●	30	2				2			
	臨床生化学	30	2					2		
	代謝栄養学	30	2				2			
	薬理学 ●	30	2				2			
	微生物学 ●	30	2						2	
	病理学 ●	30	2						2	
	病態学 I (症候論)									
	病態学 II (病態生理学)									
	病態学 III (病態臨床学)									
	病態学 IV (病態治療論)									
	臨床検査学	30		2		2		2		
	基礎医学実習	60		2			2		2	
	リハビリテーション総論	30		2			2		2	
	ターミナルケア	30		2		2		2		
	医療社会学	30		2		2		2		
	精神医学概論									
保健統計学										
保健福祉行政論 I										
保健福祉行政論 II										
疫学										
公衆衛生学	30	2			2					
シンメディカル論	15	1					1			
小計	435	17	10	0	10	10	9	8		

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2015年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護	看護学概論 ●	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I ●	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	30		2		2		2		
	基礎看護学活動論 II	60		2		2		2		
	臨床看護総論	30		2			2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45		1		1		1		
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30		2		2		2		
	成人看護学援助論 I ●	30	1				1			
	成人看護学援助論 II ●	30	1				1			
	成人看護学演習 I	30		1		1		1		
	成人看護学演習 II	30		1		1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論 ●	30		2		2		2		
	老年看護学援助論 ●	30	1				1			
	老年看護学演習	60		2		2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30		2		2		2		
	母性看護学援助論 ●	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30		2		2		2		
	精神看護学援助論	30		1			1		1	
	精神看護学活動論	60		2		2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30		2		2		2		
	在宅看護学援助論	30		1		1		1		
	在宅看護学活動論	30		1		1		1		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30		2		2		2		
	統合看護実践論 II	30		2		2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	公衆衛生看護学概論									
	公衆衛生看護学援助論 I									
	公衆衛生看護学援助論 II									
	公衆衛生看護学活動論 I									
	公衆衛生看護学活動論 II									
	公衆衛生看護学活動論 III									
	公衆衛生看護管理論									
	学校保健									
	養護学概論									
	健康相談活動論									
	公衆衛生看護学実習 I									
公衆衛生看護学実習 II										
公衆衛生看護学総合演習										
卒業研究	90	2							2	
教職論 ●	30		2			2		2		
教育原論 ●	30		2		2		2			
教育心理学 ●	30		2			2		2		
教育社会学 ●	30		2			2		2		
教育課程論 ●	30		2		2		2			
看護教育方法 I ●	30		2			2		2		
看護教育方法 II ●	30		2				2			
道德教育の研究	30		2		2		2			
特別活動の指導 ●	30		2			2		2		
教育方法論 ●	30		2		2		2			
生徒・進路指導論 ●	30		2			2		2		
教育相談 ●	30		2			2		2		
教育実習指導 ●	15		1		1		1			
教育実習 ●	45		2					2		
教職実践演習(高) ●	30		2					2		
教職実践演習(養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										
小計		1575	17	59	0	42	22	40	25	
合計		2865	43	94	0	69	43	65	44	

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2014年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
基礎科目	健康科学	30		1		1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 17単位 専門分野 必修 17単位 全分野から7単位以上選択  合計 50単位以上 (認定単位数82単位と合せ132単位以上)  ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 17単位 専門分野 必修 17単位 全分野から27単位以上選択 合計 70単位以上 (認定単位数62単位と合せ132単位以上)
	法学 ●	30		2		2		2		
	医療倫理学	30		2				2		
	社会保障論	30		1					1	
	世界の保健医療	30		1			1		1	
	国際比較福祉論	30		1			1		1	
	環境と生活	30		1		1		1		
	ボランティア論	30		1		1		1		
	科学技術論	30		1			1		1	
	再生医療概説	15		1			1		1	
	人間学	30		1		1		1		
	医療心理学	30		1		1		1		
	体育講義 ●	30		1			1		1	
	体育実習 ●	30		1		1		1		
	英語 I ●	30	1			1				
	英語 II ●	30	1				1			
	医療英語 I	30		1		1		1		
	医療英語 II	30		1			1		1	
	文章表現法	30	1					1		
	コミュニケーション論	30		1		1		1		
	統計学 I	30	1			1				
	統計学 II	30		1			1		1	
	情報科学 I ●	30	2			2				
	情報科学 II	30		1			1		1	
	生化学 ●	30		1		1		1		
	数学基礎 I	30		1		1		1		
数学基礎 II	30		1			1		1		
物理学基礎 I	30		1		1		1			
物理学基礎 II	30		1			1		1		
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		3年前期から 4年前期まで					
小計	855	9	25	0	17	11	16	11		
専門基礎科目	解剖生理学 I ●	30	2			2				
	解剖生理学 II ●	30	2				2			
	臨床生化学	30	2					2		
	代謝栄養学	30	2				2			
	薬理学 ●	30	2				2			
	微生物学 ●	30	2						2	
	病理学 ●	30	2						2	
	病態学 I (症候論)									
	病態学 II (病態生理学)									
	病態学 III (病態臨床学)									
	病態学 IV (病態治療論)									
	臨床検査学	30		2		2		2		
	基礎医学実習	60		2			2		2	
	リハビリテーション総論	30		2			2		2	
	ターミナルケア	30		2		2		2		
	医療社会学	30		2		2		2		
	精神医学概論									
	保健統計学									
	保健福祉行政論 I									
保健福祉行政論 II										
疫学										
公衆衛生学	30	2			2					
シンメディカル論	15	1					1			
小計	435	17	10	0	10	10	9	8		

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2014年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護 専 門 科 目	看護学概論 ●	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I ●	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	60		2		2		2		
	基礎看護学活動論 II	60		2		2		2		
	臨床看護総論	60		2			2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45		1		1		1		
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30		2		2		2		
	成人看護学援助論 I ●	30	1				1			
	成人看護学援助論 II ●	30	1				1			
	成人看護学演習 I	30		1		1		1		
	成人看護学演習 II	30		1		1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論 ●	30		2		2		2		
	老年看護学援助論 ●	30	1				1			
	老年看護学演習	60		2		2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30		2		2		2		
	母性看護学援助論 ●	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30		2		2		2		
	精神看護学援助論	30		1			1		1	
	精神看護学活動論	60		2		2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30		2		2		2		
	在宅看護学援助論	30		1		1		1		
	在宅看護学活動論	30		1		1		1		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	60		2		2		2		
	統合看護実践論 II	60		2		2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	公衆衛生看護学概論									
	公衆衛生看護学援助論 I									
	公衆衛生看護学援助論 II									
	公衆衛生看護学活動論 I									
	公衆衛生看護学活動論 II									
	公衆衛生看護学活動論 III									
	公衆衛生看護管理論									
	学校保健									
	養護学概論									
	健康相談活動論									
	公衆衛生看護学実習 I									
公衆衛生看護学実習 II										
公衆衛生看護学総合演習										
卒業研究	90	2							2	
教職論 ●	30		2			2		2		
教育原論 ●	30		2		2		2			
教育心理学 ●	30		2			2		2		
教育社会学 ●	30		2			2		2		
教育課程論 ●	30		2		2		2			
看護教育方法 I ●	30		2			2		2		
看護教育方法 II ●	30		2				2			
道德教育の研究	30		2		2		2			
特別活動の指導 ●	30		2			2		2		
教育方法論 ●	30		2		2		2			
生徒・進路指導論 ●	30		2			2		2		
教育相談 ●	30		2			2		2		
教育実習指導 ●	15		1		1		1			
教育実習 ●	45		2					2		
教職実践演習(高) ●	30		2					2		
教職実践演習(養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										
小計		1695	17	59	0	42	22	40	25	
合計		2985	43	94	0	69	43	65	44	

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2012年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
基礎科目	健康科学	30		1		1		1		卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 14単位 専門分野 必修 15単位 全分野から15単位以上選択 合計 53単位以上 (認定単位数82単位と合せ135単位以上) ②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 9単位 専門基礎分野 必修 14単位 専門分野 必修 15単位 全分野から35単位以上選択 合計 73単位以上 (認定単位数62単位と合せ135単位以上)
	統計学Ⅰ	30	1			1				
	統計学Ⅱ	30		1			1		1	
	情報科学Ⅰ	30	2			2				
	情報科学Ⅱ	30		1			1		1	
	環境と生活	30		1		1		1		
	数学基礎Ⅰ	30		1		1		1		
	数学基礎Ⅱ	30		1			1		1	
	物理学基礎Ⅰ	30		1		1		1		
	物理学基礎Ⅱ	30		1			1		1	
	生化学	30		1		1		1		
	科学技術概論	30		1			1		1	
	英語Ⅰ	30	1			1				
	英語Ⅱ	30	1				1			
	医療英語Ⅰ	30		1		1		1		
	医療英語Ⅱ	30		1			1		1	
	英文抄読	30		2		2		2		
	日本語	30		1		1		1		
	文章表現法	30	1					1		
	コミュニケーション論	30		1		1		1		
	ボランティア論	30		1		1		1		
	社会保障論	30	1						1	
	法学	30		2		2		2		
	医療倫理学	30	2					2		
	世界の保健医療	30		1			1		1	
	国際比較福祉論	30		1			1		1	
	体育講義	30		1			1		1	
	体育実習	30		1		1		1		
	人間学	30		1		1		1		
	医療心理学	30		1		1		1		
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		3年前期から4年前期まで					
小計	900	9	27	0	20	10	19	10		
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	30	2			2				
	解剖生理学Ⅱ	30	2				2			
	臨床生化学	30	1						1	
	代謝栄養学	30	2				2			
	薬理学	30	2				2			
	微生物学	30	2						2	
	病理学	30	2						2	
	病態学Ⅰ(症候論)									
	病態学Ⅱ(病態生理学)									
	病態学Ⅲ(病態臨床学)									
	病態学Ⅳ(病態治療論)									
	臨床検査学	30		1		1		1		
	基礎医学実習	60		2			2		2	
	リハビリテーション総論	30		1			1		1	
	ターミナルケア	30		1		1		1		
	医療社会学	30		1		1		1		
	精神病学									
保健統計学										
保健福祉行政論Ⅰ										
保健福祉行政論Ⅱ										
疫学										
国際看護研修										
シンメディカル学Ⅰ										
シンメディカル学Ⅱ										
シンメディカル学Ⅲ	15	1					1			
シンメディカル学Ⅳ	15		1					1		
小計	420	14	7	0	5	9	4	9		

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2012年度以降編入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
看護 専 門 科 目	看護学概論 ●	30	2			2				
	基礎看護学援助論 I ●	60	2			2				
	基礎看護学援助論 II	60	2				2			
	基礎看護学活動論 I	60		1		1		1		
	基礎看護学活動論 II	60		1		1		1		
	臨床看護総論	60		2			2		2	
	基礎看護学実習 I ●	45		1		1		1		
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論 ●	30		2		2		2		
	成人看護学援助論 I ●	30	1			1				
	成人看護学援助論 II ●	30	1			1				
	成人看護学演習 I	30		1		1		1		
	成人看護学演習 II	30		1		1		1		
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論 ●	30		2		2		2		
	老年看護学援助論 ●	30	1				1			
	老年看護学演習	60		2		2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論 ●	30	2			2				
	小児看護学援助論 ●	30	1						1	
	小児看護学活動論	30	1					1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論 ●	30		2		2		2		
	母性看護学援助論 ●	30	1						1	
	母性看護学活動論	30	1					1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30		2		2		2		
	精神看護学援助論	30		1		1			1	
	精神看護学活動論	60		2		2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30		2		2		2		
	在宅看護学援助論	30		2		2		2		
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30		2			2	2		
	統合看護実践論 II	30		2		2		2		
	統合看護学実習									
	看護学総合演習									
	地域看護学概論 ●									
	地域看護学援助論									
	地域看護学活動論 I									
	地域看護学活動論 II									
	地域看護管理論									
	学校保健									
	養護学概論									
	健康相談活動論									
	地域看護学実習 I									
	地域看護学実習 II									
	卒業研究	90		2						2
	教職論 ●	30		2			2		2	
教育原論 ●	30		2		2		2			
教育心理学 ●	30		2			2		2		
教育社会学 ●	30		2			2		2		
教育課程論 ●	30		2		2		2			
看護教育方法 I ●	30		2			2		2		
看護教育方法 II ●	30		2				2			
道德教育の研究	30		2		2		2			
特別活動の指導 ●	30		2			2		2		
教育方法論 ●	30		2		2		2			
生徒・進路指導論 ●	30		2			2		2		
教育相談 ●	30		2			2		2		
教育実習指導 ●	15		1		1		1			
教育実習 ●	90		2						2	
教職実践演習 (高) ●	30		2						2	
教職実践演習 (養護教諭)										
養護実習指導										
養護実習										
小計		1650	15	59	0	41	21	38	25	
合計		2970	38	93	0	66	40	61	44	

\* ●は高等学校教諭一種(看護)を取得する場合は必修

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2011年度編入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考		
			必修	選択	自由	3年		4年				
						前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30	1			1				卒業要件 ①3年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 16単位 専門基礎分野 必修 11単位 専門分野 必修 17単位 全分野から9単位以上選択 合計 53単位以上 (認定単位数82単位と合せ135単位以上)		
	統計学Ⅰ	30	1			1						
	統計学Ⅱ	30	1				1					
	情報科学Ⅰ	30	2				2					
	情報科学Ⅱ	30		1			1		1			
	環境と生活	30		1		1		1				
	数学基礎Ⅰ	30		1		1		1				
	数学基礎Ⅱ	30		1			1		1			
	物理学基礎Ⅰ	30		1		1		1				
	物理学基礎Ⅱ	30		1			1		1			
	生化学	30	1				1					
	科学技術概論	30		1			1		1			
	英語Ⅰ	30	1			1						
	英語Ⅱ	30	1				1					
	医療英語Ⅰ	30	1					1				
	医療英語Ⅱ	30	1						1			
	英文抄読	30		2				2				
	日本語	30	1			1						
	文章表現法	30	1						1			
	コミュニケーション論	30		1		1		1				
	ボランティア論	30		1		1		1				
	社会保障論	30	1				1					
	法学	30		2			2					
	医療倫理学	30	2					2				
	世界の保健医療	30		1			1		1			
	国際比較福祉論	30		1			1		1			
	体育講義											
	体育実習											
	人間学	30		1		1		1				
	医療心理学	30	1			1						
	小計	840	16	16	0	25		19				
	専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ										②2年制課程卒業の場合 基礎分野 必修 16単位 専門基礎分野 必修 11単位 専門分野 必修 17単位 全分野から29単位以上選択 合計 73単位以上 (認定単位数62単位と合せ135単位以上)
		解剖生理学Ⅱ										
		臨床生化学										
		代謝栄養学										
		薬理学										
		微生物学										
		病理学										
		病態学Ⅰ(症候論)										
病態学Ⅱ(病態生理学)												
病態学Ⅲ(病態臨床学)												
病態学Ⅳ(病態治療論)												
臨床検査学												
基礎医学実習												
リハビリテーション総論		30	1						1			
ターミナルケア		30	1			1						
医療社会学		30	1			1						
精神病学		30	1				1					
保健統計学		30	2					2				
保健福祉行政論Ⅰ		30	2					2				
保健福祉行政論Ⅱ		15	1						1			
疫学	30	2				2						
国際看護研修	30			2		2						
シンメディカル学Ⅰ												
シンメディカル学Ⅱ												
シンメディカル学Ⅲ	15		1			1						
シンメディカル学Ⅳ	15		1					1				
小計	285	11	2	2	8		7					

医療保健学部 看護学科 (3年次編入学生) (2011年度編入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次				備考
			必修	選択	自由	3年		4年		
						前	後	前	後	
専 門 科 目	看護学概論	30		2		2		2		
	基礎看護学援助論 I	45		2		2		2		
	基礎看護学援助論 II	45		2			2		2	
	基礎看護学活動論 I	30		1		1		1		
	基礎看護学活動論 II	30		1		1		1		
	臨床看護総論	30		2			2		2	
	基礎看護学実習 I									
	基礎看護学実習 II									
	成人看護学概論	30		2		2		2		
	成人看護学援助論 I	30		1		1		1		
	成人看護学援助論 II	30		1		1		1		
	成人看護学演習 I	30		1		1		1		
	成人看護学演習 II	30		1			1		1	
	成人看護学実習 I									
	成人看護学実習 II									
	老年看護学概論	30		2		2		2		
	老年看護学援助論	30		1			1		1	
	老年看護学演習	60		2		2		2		
	老年看護学実習									
	小児看護学概論	30		2		2		2		
	小児看護学援助論	30		1			1		1	
	小児看護学活動論	30		1		1		1		
	小児看護学実習									
	母性看護学概論	30		2		2		2		
	母性看護学援助論	30		1		1		1		
	母性看護学活動論	30		1		1		1		
	母性看護学実習									
	精神看護学概論	30		2		2		2		
	精神看護学援助論	30		1		1		1		
	精神看護学活動論	60		2		2		2		
	精神看護学実習									
	在宅看護学概論	30		2		2		2		
	在宅看護学援助論	30		2			2		2	
	在宅看護学実習									
	統合看護実践論 I	30		2			2		2	
	統合看護実践論 II	30		2			2		2	
	統合看護学実習									
	地域看護学概論	* 30	2				2			
	地域看護学援助論	* 30	2				2			
	地域看護学活動論 I	* 30	2				2			
	地域看護学活動論 II	* 30	2					2		
	地域看護管理論	* 30	2					2		
	学校保健	* 30	2				2			
	養護学概論	30		2		2		2		
	健康相談活動論	30		2		2		2		
	地域看護学実習 I	* 135	3						3	
	地域看護学実習 II	* 45	1						1	
	看護学総合演習	* 30	1							1
	卒業研究	90		2						2
	教職論	30		2			2		2	
教育原論	30		2		2		2			
教育心理学	30		2		2		2			
教育社会学	30		2			2		2		
教育課程論	30		2		2		2			
看護教育方法 I	30		2			2		2		
看護教育方法 II	30		2		2		2			
道德教育の研究	30		2		2		2			
特別活動の指導	30		2			2		2		
教育方法論	30		2		2		2			
生徒・進路指導論	30		2			2		2		
教育相談	30		2			2		2		
教育実習指導										
教育実習										
総合演習										
養護実習指導										
養護実習										
小計		1800	17	72	0	78		55		
合計		2925	44	90	2	111		81		

\* 選択科目は、一部指定以外は3年次・4年次いずれの学年で履修しても可  
 \* は保健師指定科目関係

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2018年度以降に入学した学生用)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1							卒業要件 基礎科目 必修科目 9単位 選択科目 10単位以上 ・教養教育科目から6単位以上 ・語学教育科目から1単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目・その他から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 33単位 計 33単位以上 専門科目 必修科目 72単位 計 72単位以上 専門基礎と専門の選択必修科目から2単位以上 合計 126単位以上
	論理学入門	15			1		1								
	人間学	15			1		1								
	心理学	15			1	1		1							
	宗教学入門	15			1	1		1							
	文化人類学	15			1	1		1							
	欧米の文化	15			1	1		1							
	近畿の伝統文化	15			1		1		1						
	日本史の見方	15			1		1		1						
	法学	30			2	2		2							
	経済学入門	15			1	1		1							
	フィールドワーク入門	15			1		1		1						
	ボランティア論	15			1	1		1							
	世界の保健医療	15			1		1		1						
	国際比較福祉論	15			1		1		1						
	環境と生活	15			1		1		1						
	科学技術論	15			1		1		1						
	発酵学入門	15			1					1					
	心のサイエンス	15			1	1		1							
	からだの化学と機能	15			1		1		1						
語学教育科目	英語 I	30	1			1									
	英語 II	30	1				1								
	医療英語 I	15			1			1							
	医療英語 II	15			1				1						
	フランス語入門 I	15			1	1		1							
	フランス語入門 II	15			1		1		1						
	複言語学習のすすめ	30			2	2		2							
	統計学 II	30			1					1					
理系基礎科目	情報科学 II	30			1		1		1						
	数学基礎 I	30	1			1									
	数学基礎 II	30			1		1		1						
	物理学基礎 I	30	1			1									
	物理学基礎 II	30			1		1		1						
	化学基礎	15			1	1		1							
	生物学入門	15			1		1		1						
	再生医療入門	15			1		1		1						
初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1									
	健康科学	15			1	1		1							
	コミュニケーション論	15			1		1		1						
	文章表現法	15	1			1									
	統計学 I	30	1					1							
	情報科学 I	30	2			2									
その他	国際医療研修	30			1		1		1		1		1		
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1									
	生体構造論 II	30	1			1									
	生体構造論 III	30	1				1								
	生体機能論 I	30	1			1									
	生体機能論 II	30	1			1									
	生体機能論 III	30	1				1								
	生体機能構造論実習	45	1			1									
	機能神経解剖学	30		2					2						
	運動生理学	30	1					1							
	運動学	30	2					2							
	運動学演習	30	1						1						
	運動学実習	45	1							1					
	バイオメカニクス	30	1						1						
	生化学	30		1			1								
	栄養学	30		2						2					
	薬理学	30		2						2					
	病理学	30	2				2								
	リハビリテーション医学	30	1							1					
	内科学 I	30	1					1							
	内科学 II	30	1						1						
	神経内科学 I	30	1					1							
	神経内科学 II	30	1						1						
	整形外科学 I	30	1					1							
	整形外科学 II	30	1						1						
	精神医学 I	30	2						2						
	老年医学	30	1							1					
	小児科学	30	1							1					
医療倫理学	30	2						2							
社会保障論	30		1			1									
公衆衛生学	30	2				2									
社会福祉論	30	1					1								
医療統計学	30	1								1					
シムメディカル論	15	1								1					
ホースセラピー	15		1				1		1						

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2018年度以降に入学した学生用)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考					
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年							
						前	後	前	後	前	後	前	後						
専 門 科 目	理学療法学概論	30	1			1													
	生体計測学	30	1							1									
	理学療法評価学	30	2				2												
	理学療法評価学実習	45	1					1											
	臨床推論	30	1						1										
	臨床推論演習	30	1							1									
	理学療法診断論	30	1								1								
	物理療法学実習	45	1							1									
	義肢装具学	30	2						2										
	義肢装具学演習	30	1								1								
	運動療法学	30	2						2										
	運動療法学実習	45	1							1									
	運動器理学療法学総論	30	1							1									
	運動器理学療法学	30	2								2								
	運動器理学療法学実習	45	1									1							
	脳血管理学療法学総論	30	1							1									
	脳血管理学療法学	30	2								2								
	脳血管理学療法学実習	45	1									1							
	神経筋理学療法学	30	2								2								
	神経筋理学療法学実習	45	1									1							
	循環呼吸器理学療法学	30	2									2							
	小児理学療法学	30	2									2							
	日常生活活動学	30	2								2								
	地域理学療法学	30	2									2							
	実践地域理学療法学	30	2										2						
	がんの理学療法学	30	2										2						
	住環境コーディネーター論	30		2							2								
	スポーツ障害論	30		2								2							
	障がい者スポーツ特論	45		1				1											
	パーソナルトレーナー論	30		2					2										
	パーソナルトレーナー実習	45		1						1									
	体表解剖学	30	2						2										
	マニュアルセラピー論Ⅰ	30		1								1							
	マニュアルセラピー論Ⅱ	30		1									1						
	臨床見学実習	45	1						1										
	臨床観察実習Ⅰ	45	1							1									
	臨床観察実習Ⅱ	45	1								1								
	臨床評価実習Ⅰ	45	1									1							
	臨床評価実習Ⅱ	180	4										4						
	臨床総合実習	720	16											16					
	理学療法学研究法	30	2									2							
	理学療法学研究法演習	30	1										1						
	卒業研究	90	2																2
	理学療法学特論	30	2																2
	理学療法学総合演習	30	1																1

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1							卒業要件 基礎科目 必修科目 9単位 選択科目 10単位以上 ・教養教育科目から6単位以上 ・語学教育科目から1単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目・その他から1単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 33単位 計 33単位以上 専門科目 必修科目 72単位 計 72単位以上 専門基礎と専門の選択必修科目から2単位以上 合計 126単位以上	
	論理学入門	15			1		1									
	人間学	15			1		1									
	心理学	15			1	1		1								
	宗教学入門	15			1	1		1								
	文化人類学	15			1	1		1								
	欧米の文化	15			1	1		1								
	近畿の伝統文化	15			1		1		1							
	日本史の見方	15			1		1		1							
	法学	30			2	2		2								
	経済学入門	15			1	1		1								
	フィールドワーク入門	15			1		1		1							
	ボランティア論	15			1	1		1								
	世界の保健医療	15			1		1		1							
	国際比較福祉論	15			1		1		1							
	環境と生活	15			1	1		1								
	科学技術論	15			1		1		1							
	発酵学入門	15			1					1						
	心のサイエンス	15			1	1		1								
	からだの化学と機能	15			1		1		1							
	基礎科目	英語 I	30	1			1									
		英語 II	30	1				1								
		医療英語 I	15			1			1							
		医療英語 II	15			1				1						
		フランス語入門 I	15			1	1		1							
		フランス語入門 II	15			1		1		1						
	理系基礎科目	統計学 II	30			1				1						
		情報科学 II	30			1		1		1						
数学基礎 I		30	1			1										
数学基礎 II		30			1		1		1							
物理学基礎 I		30	1			1										
物理学基礎 II		30			1		1		1							
化学基礎		15			1	1		1								
生物学入門		15			1		1		1							
再生医療入門		15			1		1		1							
初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1										
	健康科学	15			1	1		1								
	コミュニケーション論	15			1		1		1							
	文章表現法	15	1			1										
	統計学 I	30	1					1								
	情報科学 I	30	2			2										
体育実習	30			1	1		1									
その他	国際医療研修	30			1		1		1		1		1			
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで										
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1										
	生体構造論 II	30	1			1										
	生体構造論 III	30	1				1									
	生体機能論 I	30	1			1										
	生体機能論 II	30	1			1										
	生体機能論 III	30	1				1									
	生体機能構造論実習	45	1			1										
	機能神経解剖学	30		2					2							
	運動生理学	30	1					1								
	運動学	30	2					2								
	運動学演習	30	1					1								
	運動学実習	45	1						1							
	バイオメカニクス	30	1					1								
	生化学	30		1			1									
	栄養学	30		2					2							
	薬理学	30		2					2							
	病理学	30	2				2									
	リハビリテーション医学	30	1							1						
	内科学 I	30	1					1								
	内科学 II	30	1						1							
	神経内科学 I	30	1						1							
	神経内科学 II	30	1							1						
	整形外科 I	30	1						1							
	整形外科 II	30	1							1						
	精神医学 I	30	2						2							
	老年医学	30	1							1						
	小児科学	30	1							1						
	医療倫理学	30	2						2							
	社会保障論	30		1			1									
	公衆衛生学	30	2				2									
社会福祉論	30	1						1								
医療統計学	30	1								1						
シメディカル論	15	1							1							
ホースセラピー	15		1					1		1						

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考																						
			必修	選択 必修	選択	1年		2年		3年		4年																								
						前	後	前	後	前	後	前	後																							
専門科目	理学療法概論	30	1			1																														
	生体計測学	30	1									1																								
	理学療法評価学	30	2					2																												
	理学療法評価学実習	45	1						1																											
	臨床推論	30	1							1																										
	臨床推論演習	30	1									1																								
	理学療法診断論	30	1										1																							
	物理療法学実習	45	1									1																								
	義肢装具学	30	2								2																									
	義肢装具学演習	30	1										1																							
	運動療法学	30	2							2																										
	運動療法学実習	45	1									1																								
	運動器理学療法学総論	30	1									1																								
	運動器理学療法学	30	2										2																							
	運動器理学療法学実習	45	1											1																						
	脳血管理学療法学総論	30	1									1																								
	脳血管理学療法学	30	2										2																							
	脳血管理学療法学実習	45	1											1																						
	神経筋理学療法学	30	2										2																							
	神経筋理学療法学実習	45	1											1																						
	循環呼吸器理学療法学	30	2										2																							
	小児理学療法学	30	2										2																							
	日常生活活動学	30	2									2																								
	地域理学療法学	30	2										2																							
	実践地域理学療法学	30	2											2																						
	がんの理学療法学	30	2											2																						
	住環境コーディネーター論	30		2											2																					
	スポーツ障害論	30		2												2																				
	パーソナルトレーナー論	30		2								2																								
	パーソナルトレーナー実習	45		1								1																								
	体表解剖学	30	2									2																								
	マニュアルセラピー論 I	30		1											1																					
	マニュアルセラピー論 II	30		1												1																				
	臨床見学実習	45	1								1																									
	臨床観察実習 I	45	1									1																								
	臨床観察実習 II	45	1										1																							
	臨床評価実習 I	45	1											1																						
	臨床評価実習 II	180	4														4																			
	臨床総合実習	720	16															16																		
理学療法学研究法	30	2												2																						
理学療法学研究法演習	30	1													1																					
卒業研究	90	2																																		
理学療法学特論	30	2																																		
理学療法学総合演習	30	1																																		

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2014年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 11単位 選択科目 6単位以上 計 17単位以上 専門基礎科目 必修科目 32単位 計 32単位以上 専門科目 必修科目 74単位 計 74単位以上 専門基礎と専門の選択必修科目から2 単位以上 合計 125単位以上
	法学	30			2			2								
	医療倫理学	30	2						2							
	社会保障論	30	1				1									
	世界の保健医療	30			1		1									
	国際比較福祉論	30			1		1									
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1		1									
	再生医療概説	15			1		1									
	人間学	30			1		1									
	医療心理学	30			1	1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1			1								
	医療英語 II	30			1				1							
	文章表現法	30	1			1										
	コミュニケーション論	30	1				1									
	統計学 I	30			1			1								
	統計学 II	30			1				1							
	情報科学 I	30	2			2										
	情報科学 II	30			1		1									
	生化学	30			1		1									
	数学基礎 I	30	1			1										
	数学基礎 II	30			1		1									
	物理学基礎 I	30	1			1										
物理学基礎 II	30			1		1										
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的の大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで											
小計	795	11	0	21	10	12	4	4	0	0	0	0	0	0		
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1										
	生体構造論 II	30	1			1										
	生体構造論 III	30	1				1									
	生体機能論 I	30	1			1										
	生体機能論 II	30	1			1										
	生体機能論 III	30	1				1									
	生体機能構造論実習 I	45	1			1										
	生体機能構造論実習 II	45	1			1										
	生体機能構造論実習 III	45	1				1									
	機能神経解剖学	30		2					2							
	運動生理学	30	2					2								
	バイオメカニクス	30		2					2							
	病理学	30	2				2									
	リハビリテーション医学	30	2				2									
	内科学 I	30	1					1								
	内科学 II	30	1						1							
	神経内科学 I	30	1					1								
	神経内科学 II	30	1						1							
	整形外科 I	30	1					1								
	整形外科 II	30	1						1							
	精神医学 I	30	2					2								
老年医学	30	2					2									
小児科学	30	2						2								
公衆衛生学	30	2				2										
社会福祉論	30	2					2									
シンメディカル論	15	1							1							
薬理学	30		2					2								
栄養学	30		2					2								
小計	870	32	8	0	6	9	11	13	1	0	0	0	0			

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2014年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考			
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
専門科目	理学療法概論	30	2			2											
	運動学	30	2				2										
	運動学演習	30	1					1									
	運動学実習	45	1					1									
	生体計測学	30		2						2							
	理学療法評価学	30	2				2										
	理学療法評価学実習	45	1					1									
	臨床推論	30	2						2								
	臨床推論演習	30	1							1							
	理学療法診断論	30	2								2						
	物理療法学	30	2							2							
	義肢装具学	30	2						2								
	義肢装具学演習	30	1							1							
	運動療法学	30	2					2									
	運動療法学実習	45	1						1								
	骨関節理学療法学	30	2							2							
	骨関節理学療法学実習	45	1								1						
	脳血管理学療法学	30	2							2							
	脳血管理学療法学実習	45	1								1						
	神経筋理学療法学	30	2							2							
	神経筋理学療法学実習	45	1								1						
	循環呼吸器理学療法学	30	2							2							
	小児理学療法学	30	2							2							
	日常生活活動学	30	2						2								
	地域理学療法学	30	2							2							
	実践地域理学療法学	30	2								2						
	住環境コーディネーター論	30		2							2						
	統合医療論	30		2							2						
	スポーツ障害論	30		2							2						
	パーソナルトレーナー論	30		2			2										
	パーソナルトレーナー実習	45		1				1									
	マニュアルセラピー	30	2				2										
	マニュアルセラピー実習	45	1					1									
	マニュアルセラピー特論	30		2								2					
	臨床見学実習	45	1				1										
	臨床観察実習	45	1						1								
	臨床評価実習	180	4								4						
	臨床総合実習	720	16									16					
	理学療法研究法	30	2							2							
	理学療法研究法演習	30	1								1						
	卒業研究	90	2													2	
	理学療法特論	30	2													2	
理学療法総合演習	30	1													1		
小計	2340	74	13	0		2	9	7	8	24	16	16	5				
合計	4005	117	21	21		18	30	22	25	25	16	16	5				

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2012年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎科目	健康科学	30			1	1									卒業要件 基礎科目 11単位 選択科目 6単位以上 計 17単位以上 専門基礎科目 必修科目 32単位 計 32単位以上 専門科目 必修科目 74単位 計 74単位以上 専門基礎と専門の選択必修科目から2 単位以上 合計 125単位以上
	法学	30			2			2							
	医療倫理学	30	2						2						
	社会保障論	30	1					1							
	世界の保健医療	30			1			1							
	国際比較福祉論	30			1			1							
	環境と生活	30			1	1									
	ボランティア論	30			1	1									
	科学技術論	30			1		1								
	人間学	30			1		1								
	医療心理学	30			1	1									
	英語 I	30	1			1									
	英語 II	30	1				1								
	医療英語 I	30			1			1							
	医療英語 II	30			1				1						
	文章表現法	30	1			1									
	コミュニケーション論	30	1				1								
	統計学 I	30			1			1							
	統計学 II	30			1				1						
	情報科学 I	30	2			2									
	情報科学 II	30			1		1								
	生化学	30			1		1								
	数学基礎 I	30	1			1									
	数学基礎 II	30			1		1								
	物理学基礎 I	30	1			1									
	物理学基礎 II	30			1		1								
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的 大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
	小 計	780	11	0	20	10	11	4	4	0	0	0	0	0	
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1									
	生体構造論 II	30	1			1									
	生体構造論 III	30	1				1								
	生体機能論 I	30	1			1									
	生体機能論 II	30	1			1									
	生体機能論 III	30	1				1								
	生体機能構造論実習 I	45	1			1									
	生体機能構造論実習 II	45	1			1									
	生体機能構造論実習 III	45	1				1								
	機能神経解剖学	30		2					2						
	運動生理学	30	2					2							
	バイオメカニクス	30		2					2						
	病理学	30	2				2								
	リハビリテーション医学	30	2				2								
	内科学 I	30	1					1							
	内科学 II	30	1						1						
	神経内科学 I	30	1						1						
	神経内科学 II	30	1							1					
	整形外科 I	30	1						1						
	整形外科 II	30	1							1					
	精神医学 I	30	2					2							
	老年医学	30	2					2							
	小児科学	30	2						2						
	公衆衛生学	30	2				2								
	社会福祉論	30	2					2							
	シンメディカル論	15	1							1					
	薬理学	30		2						2					
	栄養学	30		2						2					
小 計	870	32	8	0	6	9	11	13	1	0	0	0			

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 (2012年度以降入学生)

授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
		必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
理学療法学概論	30	2			2										
運動学	30	2				2									
運動学演習	30	1					1								
運動学実習	45	1					1								
生体計測学	30		2						2						
理学療法評価学	30	2				2									
理学療法評価学実習	45	1					1								
臨床推論	30	2						2							
臨床推論演習	30	1							1						
理学療法診断論	30	2								2					
物理療法学	30	2							2						
義肢装具学	30	2						2							
義肢装具学演習	30	1							1						
運動療法学	30	2					2								
運動療法学実習	45	1						1							
骨関節理学療法学	30	2							2						
骨関節理学療法学実習	45	1								1					
脳血管理学療法学	30	2							2						
脳血管理学療法学実習	45	1								1					
神経筋理学療法学	30	2							2						
神経筋理学療法学実習	45	1								1					
循環呼吸器理学療法学	30	2							2						
小児理学療法学	30	2							2						
日常生活活動学	30	2						2							
地域理学療法学	30	2							2						
実践地域理学療法学	30	2								2					
住環境コーディネーター論	30		2						2						
統合医療論	30		2							2					
スポーツ障害論	30		2						2						
パーソナルトレーナー論	30		2			2									
パーソナルトレーナー実習	45		1				1								
マニュアルセラピー	30	2				2									
マニュアルセラピー実習	45	1					1								
マニュアルセラピー特論	30		2									2			
臨床見学実習	45	1				1									
臨床観察実習	45	1						1							
臨床評価実習	180	4								4					
臨床総合実習	720	16										16			
理学療法学研究法	30	2							2						
理学療法学研究法演習	30	1								1					
卒業研究	90	2												2	
理学療法学特論	30	2												2	
理学療法学総合演習	30	1												1	
小計	2340	74	13	0	2	9	7	8	24	16	16	5			
合計	3990	117	21	20	18	29	22	25	25	16	16	5			

藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2018年度以降に入学した学生用)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1							卒業要件 基礎科目 必修科目 8単位 選択科目 11単位以上 ・教養教育科目から5単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目・その他から2単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 31単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 2単位以上 計 35単位以上 専門科目 必修科目 69単位 選択科目 4単位以上 計 73単位以上 合計 127単位以上
	論理学入門	15			1		1								
	人間学	15			1		1								
	心理学	15	1			1									
	宗教学入門	15			1	1		1							
	文化人類学	15			1	1		1							
	欧米の文化	15			1	1		1							
	近畿の伝統文化	15			1		1		1						
	日本史の見方	15			1		1		1						
	法学	30			2	2		2							
	経済学入門	15			1	1		1							
	フィールドワーク入門	15			1		1		1						
	ボランティア論	15			1	1		1							
	世界の保健医療	15			1		1		1						
	国際比較福祉論	15			1		1		1						
	環境と生活	15			1		1		1						
	科学技術論	15			1		1		1						
	発酵学入門	15			1					1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1							
	からだの化学と機能	15			1		1		1						
語学教育科目	英語 I	30	1			1									
	英語 II	30	1				1								
	医療英語 I	15			1			1							
	医療英語 II	15			1				1						
	フランス語入門 I	15			1	1		1							
	フランス語入門 II	15			1		1		1						
	複言語学習のすすめ	30			2	2		2							
	統計学 II	30			1					1					
理系基礎科目	情報科学 II	30			1		1		1						
	数学基礎 I	30	1			1									
	数学基礎 II	30			1		1		1						
	物理学基礎 I	30			1	1		1							
	物理学基礎 II	30			1		1		1						
	化学基礎	15			1	1		1							
	生物学入門	15			1		1		1						
	再生医療入門	15			1		1		1						
初年次教育科目	学びの基盤	15	1			1									
	健康科学	15			1	1		1							
	コミュニケーション論	15			1		1		1						
	文章表現法	15			1		1		1						
	統計学 I	30	1					1							
	情報科学 I	30	2			2									
その他	国際医療研修	30			1		1		1		1		1		
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1									
	生体構造論 II	30	1			1									
	生体構造論 III	30	1				1								
	生体機能論 I	30	1			1									
	生体機能論 II	30	1			1									
	生体機能論 III	30	1				1								
	生体機能構造論実習 I	45	1				1								
	生体機能構造論実習 II	45	1			1									
	生体機能構造論実習 III	45	1				1								
	機能神経解剖学	30		2						2					
	基礎運動学	30	1						1						
	基礎運動学実習	30	1							1					
	バイオメカニクス	30			1					1					
	生化学	30			1		1								
	栄養学	30			2					2					
	薬理学	30			2					2					
	病理学	30		2						2					
	リハビリテーション医学	30	1				1								
	内科学 I	30	1					1							
	内科学 II	30	1						1						
	神経内科学 I	30	1						1						
	神経内科学 II	30	1							1					
	整形外科学 I	30	1							1					
	整形外科学 II	30	1								1				
	精神医学 I	30	2							2					
	精神医学 II	30	2								2				
	老年医学	30	1								1				
	小児科学	30	1								1				
	医療倫理学	30	2							2					
	医療心理学	15	1				1								
	臨床心理学	30	1					1							
	ヘルスコミュニケーション	15			1	1									
	メンタルヘルス論	30			2							2			
社会保障論	30	1							1						
社会福祉論	30	1					1								
住環境論	30		2							2					
シメディカル論	15	1								1					
ホースセラピー	15			1			1		1						



藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1							卒業要件 基礎科目 必修科目 8単位 選択科目 11単位以上 ・教養教育科目から5単位以上 ・語学教育科目から2単位以上 ・理系基礎科目から2単位以上 ・初年次教育科目・その他から2単位以上 計 19単位以上 専門基礎科目 必修科目 31単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 2単位以上 計 35単位以上 専門科目 必修科目 69単位 選択科目 4単位以上 計 73単位以上 合計 127単位以上
	論理学入門	15			1		1								
	人間学	15			1		1		1						
	心理学	15	1			1									
	宗教学入門	15			1	1		1							
	文化人類学	15			1	1		1							
	欧米の文化	15			1	1		1							
	近畿の伝統文化	15			1		1		1						
	日本史の見方	15			1		1		1						
	法学	30			2	2		2							
	経済学入門	15			1	1		1							
	フィールドワーク入門	15			1		1		1						
	ボランティア論	15			1	1		1							
	世界の保健医療	15			1		1		1						
	国際比較福祉論	15			1		1		1						
	環境と生活	15			1	1		1							
	科学技術論	15			1		1		1						
	発酵学入門	15			1					1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1							
	からだの化学と機能	15			1		1		1						
基礎科目	英語 I	30	1			1									
	英語 II	30	1				1								
	医療英語 I	15			1			1							
	医療英語 II	15			1				1						
	フランス語入門 I	15			1	1		1							
	フランス語入門 II	15			1		1		1						
理系基礎科目	統計学 II	30			1				1						
	情報科学 II	30			1		1		1						
	数学基礎 I	30	1			1									
	数学基礎 II	30			1		1		1						
	物理学基礎 I	30			1	1		1							
	物理学基礎 II	30			1		1		1						
	化学基礎	15			1	1		1							
	生物学入門	15			1		1		1						
	再生医療入門	15			1		1		1						
	学びの基盤	15	1			1									
初年次教育科目	健康科学	15			1	1		1							
	コミュニケーション論	15			1		1		1						
	文章表現法	15			1	1		1							
	統計学 I	30	1					1							
	情報科学 I	30	2			2									
	体育実習	30			1	1		1							
その他	国際医療研修	30			1		1		1		1		1		
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医情報学コンソーシアム関西戦略的連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1									
	生体構造論 II	30	1			1									
	生体構造論 III	30	1				1								
	生体機能論 I	30	1			1									
	生体機能論 II	30	1			1									
	生体機能論 III	30	1				1								
	生体機能構造論実習 I	45	1			1									
	生体機能構造論実習 II	45	1			1									
	生体機能構造論実習 III	45	1				1								
	機能神経解剖学	30		2						2					
	基礎運動学	30	1						1						
	基礎運動学実習	30	1							1					
	バイオメカニクス	30			1					1					
	生化学	30			1		1								
	栄養学	30			2					2					
	薬理学	30			2					2					
	病理学	30		2						2					
	リハビリテーション医学	30	1				1								
	内科学 I	30	1						1						
	内科学 II	30	1							1					
	神経内科学 I	30	1							1					
	神経内科学 II	30	1								1				
	整形外科 I	30	1								1				
	整形外科 II	30	1									1			
	精神医学 I	30	2								2				
	精神医学 II	30	2									2			
	老年医学	30	1									1			
	小児科学	30	1										1		
	医療倫理学	30	2								2				
	医療心理学	15	1				1								
臨床心理学	30	1					1								
ヘルソコミュニケーション	15			1	1										
メンタルヘルス論	30			2							2				
社会保障論	30	1								1					
社会福祉論	30	1					1								
住環境論	30		2								2				
シメディカル論	15	1									1				
ホースセラピー	15			1					1		1				



藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2014年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 10単位 必修科目 10単位 選択科目 7単位以上 計 17単位以上 専門基礎科目 必修科目 33単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 2単位以上 計 37単位以上 専門科目 必修科目 69単位 選択科目 4単位以上 計 73単位以上 合計 127単位以上
	法学	30			2	2										
	医療倫理学	30	2					2								
	社会保障論	30	1						1							
	世界の保健医療	30			1		1									
	国際比較福祉論	30			1		1									
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1		1									
	再生医療概説	15			1		1									
	人間学	30			1		1									
	医療心理学	30	1			1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1			1								
	医療英語 II	30			1				1							
	文章表現法	30			1			1								
	コミュニケーション論	30			1		1									
	統計学 I	30	1					1								
	統計学 II	30			1				1							
	情報科学 I	30	2			2										
	情報科学 II	30			1				1							
	生化学	30			1		1									
	数学基礎 I	30	1			1										
	数学基礎 II	30			1		1									
物理学基礎 I	30			1	1											
物理学基礎 II	30			1		1										
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的の大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで											
小計	795	10	0	22	11	10	5	4	0	0	0	0	0	0		
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1										
	生体構造論 II	30	1			1										
	生体構造論 III	30	1				1									
	生体機能論 I	30	1			1										
	生体機能論 II	30	1			1										
	生体機能論 III	30	1				1									
	生体機能構造論実習 I	45	1			1										
	生体機能構造論実習 II	45	1			1										
	生体機能構造論実習 III	45	1				1									
	機能神経解剖学	30		2					2							
	基礎運動学	30	2					2								
	基礎運動学実習	30	1						1							
	バイオメカニクス	30			2				2							
	病理学	30		2					2							
	リハビリテーション医学	30	2				2									
	内科学 I	30	1					1								
	内科学 II	30	1						1							
	神経内科学 I	30	1						1							
	神経内科学 II	30	1							1						
	整形外科 I	30	1						1							
	整形外科 II	30	1							1						
	精神医学 I	30	2						2							
	精神医学 II	30	2							2						
	老年医学	30	2						2							
	小児科学	30	2							2						
臨床心理学	30	2					2									
社会福祉論	30	2					2									
シンメディカル論	15	1							1							
薬理学	30			2				2								
栄養学	30			2				2								
メンタルヘルス論	30			2						2						
住環境論	30		2						2							
小計	990	33	6	8	6	9	9	18	3	2	0	0	0			

藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2014年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考			
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
作業療法学総論	30	2			2												
基礎作業学	30	2			2												
基礎作業学実習Ⅰ	60	2			2												
基礎作業学実習Ⅱ	60	2				2											
作業療法評価学総論	30	2				2											
発達過程評価学演習	60	2					2										
身体機能評価学演習	60	2					2										
心理社会評価学演習	60	2					2										
生活環境評価学演習	30	1							1								
作業療法治療学総論	30	2				2											
乳幼児期作業療法学演習	60	2						2									
学童青年期作業療法学	30	2								2							
心理社会作業療法学	30	2								2							
心理社会作業療法学演習	60	2						2									
中枢性疾患作業療法学演習Ⅰ	60	2						2									
中枢性疾患作業療法学演習Ⅱ	60	2								2							
整形疾患作業療法学演習	60	2								2							
特定・内部疾患作業療法学	30	2								2							
高齢期作業療法学	30	2								2							
作業療法臨床分析学演習	30	1									1						
地域作業療法学	30	2									2						
地域作業療法学演習	30	1										1					
地域作業療法臨床実習	45	1											1				
作業療法研究法	30	2								2							
作業療法研究実習	90	2												2			
作業療法学総合演習	30	1												1			
対人関係特論	30			2				2									
障害と犯罪心理	30			2						2							
作業療法と社会学	30			2										2			
特別支援教育特論	30			2											2		
精神障害ケアマネジメント論	30			2												2	
認知神経作業療法特論	30			2						2							
作業療法と倫理	30			2				2									
福祉用具特論	30			2											2		
作業療法と認知症	30			2										2			
集団作業療法特論	30			2					2								
ハンドセラピー特論	30			2											2		
障害者スポーツ特論	30			2												2	
解剖運動学特論	30			2												2	
保健医療福祉実習	30	1				1											
臨床実習Ⅰ	45	1					1										
臨床実習Ⅱ	45	1						1									
臨床実習Ⅲ	135	3										3					
臨床実習Ⅳ	360	8											8				
臨床実習Ⅴ	360	8												8			
小計	2520	69	0	26	7	7	10	9	19	14	14	15					
合計	4305	112	6	56	24	26	24	31	22	16	14	15					

藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2012年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎科目	健康科学	30			1	1										卒業要件 基礎科目 必修科目 10単位 選択科目 7単位以上 計 17単位以上 専門基礎科目 必修科目 33単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 2単位以上 計 37単位以上 専門科目 必修科目 69単位 選択科目 4単位以上 計 73単位以上 合計 127単位以上
	法学	30			2	2										
	医療倫理学	30	2					2								
	社会保障論	30	1						1							
	世界の保健医療	30			1	1										
	国際比較福祉論	30			1	1										
	環境と生活	30			1	1										
	ボランティア論	30			1	1										
	科学技術論	30			1	1										
	人間学	30			1	1										
	医療心理学	30	1			1										
	英語 I	30	1			1										
	英語 II	30	1				1									
	医療英語 I	30			1		1									
	医療英語 II	30			1			1								
	文章表現法	30			1		1									
	コミュニケーション論	30			1		1									
	統計学 I	30	1					1								
	統計学 II	30			1				1							
	情報科学 I	30	2				2									
	情報科学 II	30			1				1							
	生化学	30			1		1									
	数学基礎 I	30	1				1									
	数学基礎 II	30			1		1									
	物理学基礎 I	30			1		1									
	物理学基礎 II	30			1		1									
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的の大学連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで										
小計	780	10	0	21	11	9	5	4	0	0	0	0	0	0		
専門基礎科目	生体構造論 I	30	1			1										
	生体構造論 II	30	1			1										
	生体構造論 III	30	1				1									
	生体機能論 I	30	1			1										
	生体機能論 II	30	1			1										
	生体機能論 III	30	1				1									
	生体機能構造論実習 I	45	1			1										
	生体機能構造論実習 II	45	1			1										
	生体機能構造論実習 III	45	1				1									
	機能神経解剖学	30		2					2							
	基礎運動学	30	2					2								
	基礎運動学実習	30	1						1							
	バイオメカニクス	30			2				2							
	病理学	30		2					2							
	リハビリテーション医学	30	2				2									
	内科学 I	30	1					1								
	内科学 II	30	1						1							
	神経内科学 I	30	1					1								
	神経内科学 II	30	1						1							
	整形外科 I	30	1					1								
	整形外科 II	30	1						1							
	精神医学 I	30	2					2								
	精神医学 II	30	2					2		2						
	老年医学	30	2					2								
	小児科学	30	2						2							
	臨床心理学	30	2				2									
	社会福祉論	30	2				2									
シンメディカル論	15	1							1							
薬理学	30			2				2								
栄養学	30			2				2								
メンタルヘルス論	30			2						2						
住環境論	30		2						2							
小計	990	33	6	8	6	9	9	18	3	2	0	0	0	0		

藍野大学医療保健学部 作業療法学科 (2012年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択 必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
	作業療法学総論	30	2			2										
	基礎作業学	30	2			2										
	基礎作業学実習Ⅰ	60	2			2										
	基礎作業学実習Ⅱ	60	2				2									
	作業療法評価学総論	30	2				2									
	発達過程評価学演習	60	2					2								
	身体機能評価学演習	60	2					2								
	心理社会評価学演習	60	2					2								
	生活環境評価学演習	30	1							1						
	作業療法治療学総論	30	2				2									
	乳幼児期作業療法学演習	60	2						2							
	学童青年期作業療法学	30	2							2						
	心理社会作業療法学	30	2							2						
	心理社会作業療法学演習	60	2						2							
	中枢性疾患作業療法学演習Ⅰ	60	2						2							
	中枢性疾患作業療法学演習Ⅱ	60	2							2						
	整形疾患作業療法学演習	60	2							2						
	特定・内部疾患作業療法学	30	2							2						
	高齢期作業療法学	30	2							2						
	作業療法臨床分析学演習	30	1								1					
専 門 科 目	地域作業療法学	30	2									2				
	地域作業療法学演習	30	1										1			
	地域作業療法臨床実習	45	1											1		
	作業療法研究法	30	2								2					
	作業療法研究実習	90	2												2	
	作業療法学総合演習	30	1												1	
	対人関係特論	30			2				2							
	障害と犯罪心理	30			2					2						
	作業療法と社会学	30			2										2	
	特別支援教育特論	30			2										2	
	精神障害ケアマネジメント論	30			2										2	
	認知神経作業療法特論	30			2						2					
	作業療法と倫理	30			2				2							
	福祉用具特論	30			2											2
	作業療法と認知症	30			2											2
	集団作業療法特論	30			2					2						
	ハンドセラピー特論	30			2											2
	障害者スポーツ特論	30			2											2
	解剖運動学特論	30			2											2
	保健医療福祉実習	30	1				1									
臨床実習Ⅰ	45	1					1									
臨床実習Ⅱ	45	1						1								
臨床実習Ⅲ	135	3									3					
臨床実習Ⅳ	360	8										8				
臨床実習Ⅴ	360	8											8			
小計	2520	69	0	26		7	7	10	9	19	14	14	15			
合計	4290	112	6	55		24	25	24	31	22	16	14	15			

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2018年度以降に入学した学生用)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考	
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年			
						前	後	前	後	前	後	前	後		
教養 教育科目	哲学入門	15			1	1		1							卒業要件 基礎科目 必修科目 13単位 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から8単位以上 ・語学教育・理系基礎・ 初年次教育科目・その他から 4単位以上 小計 25単位以上 専門基礎科目 必修科目 42単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 1単位以上 小計 45単位以上 専門科目 必修科目 60単位 小計 60単位 合計 130単位以上
	論理学入門	15			1		1								
	人間学	15			1		1								
	心理学	15			1		1								
	宗教学入門	15			1	1		1							
	文化人類学	15			1	1		1							
	欧米の文化	15			1	1		1							
	近畿の伝統文化	15			1		1		1						
	日本史の見方	15			1		1		1						
	法学	30			2	2		2							
	経済学入門	15			1	1		1							
	フィールドワーク入門	15			1		1		1						
	ボランティア論	15			1	1		1							
	世界の保健医療	15			1		1		1						
	国際比較福祉論	15			1		1		1						
	環境と生活	15			1		1		1						
	科学技術論	15			1		1		1						
	発酵学入門	15			1					1		1			
	心のサイエンス	15			1	1		1							
	からだの化学と機能	15			1		1		1						
基礎 科目	英語 I	30	1			1									
	英語 II	30	1				1								
	医療英語 I	15			1			1							
	医療英語 II	15			1				1						
	英文抄読	30	2							2					
	フランス語入門 I	15			1	1		1							
	フランス語入門 II	15			1		1		1						
	複言語学習のすすめ	30			2	2		2							
	統計学 II	30			1		1		1						
	数学基礎 I	30	1			1									
数学基礎 II	30	1				1									
物理学基礎 I	30	1			1										
物理学基礎 II	30	1				1									
化学基礎	15	1			1										
生物学入門	15			1		1		1							
再生医療入門	15			1		1		1							
初年次 教育科目	学びの基盤	15	1			1									
	健康科学	15			1	1		1							
	コミュニケーション論	15			1	1		1							
	文章表現法	15			1	1		1							
	統計学 I	30	1			1									
	情報科学 I	30	2			2									
体育実習	30			1	1		1								
その他	国際医療研修	30			1		1		1		1		1		
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医情報学コンソーシアム関西戦略的 連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで									
専門 基礎 科目	解剖学 I	30	2			2									
	解剖学 II	30	2				2								
	生理学 I	30	2			2									
	生理学 II	30	2				2								
	生理学実習	45	1				1								
	医学概論	30	1			1									
	病理学概論	30	1					1							
	生化学	30	1				1								
	臨床生化学	30	1						1						
	感染症・免疫学	30	1						1						
	臨床薬理学	30	1						1						
	公衆衛生学	30	1				1								
	社会保障論	30			1									1	
	医療倫理学	30			2		2								
	医療基礎技術	30	1						1						
	数学基礎演習 I	30	1			1									
	数学基礎演習 II	30	1				1								
	物理学基礎演習 I	30	1			1									
	物理学基礎演習 II	30	1				1								
	数学	30	1						1						
	応用数学	30		1						1					
	物理学	30	1						1						
	数学・物理学演習	30		1						1					
	電気工学 I	30	1				1								
	電気工学 II	30	1						1						
	電気工学実習	60	2							2					
電子工学 I	30	1						1							
電子工学 II	30	1							1						
電子工学実習	60	2								2					
機械工学	30	2						2							
機械工学演習	30		1						1						
機械工学実習	60	2								2					
システム・制御工学	30	2							2						
情報科学 II	30	1				1									
情報科学 III	30	2						2							
情報科学実習	60	2							2						
ホースセラピー	15			1			1			1					



藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配當年次								備考		
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
教養教育科目	哲学入門	15			1	1		1							卒業要件 基礎科目 必修科目 13単位 選択科目 12単位以上 ・教養教育科目から8単位以上 ・語学教育・理系基礎・ 初年次教育科目・その他から 4単位以上 小計 25単位以上 専門基礎科目 必修科目 42単位 選択必修科目 2単位以上 選択科目 1単位以上 小計 45単位以上 専門科目 必修科目 60単位 小計 60単位 合計 130単位以上	
	論理学入門	15			1		1		1							
	人間学	15			1		1		1							
	心理学	15			1		1		1							
	宗教学入門	15			1	1		1								
	文化人類学	15			1	1		1								
	欧米の文化	15			1	1		1								
	近畿の伝統文化	15			1		1		1							
	日本史の見方	15			1		1		1							
	法学	30			2	2		2								
	経済学入門	15			1	1		1								
	フィールドワーク入門	15			1		1		1							
	ボランティア論	15			1	1		1								
	世界の保健医療	15			1		1		1							
	国際比較福祉論	15			1		1		1							
	環境と生活	15			1	1		1								
	科学技術論	15			1		1		1							
	発酵学入門	15			1					1		1				
	心のサイエンス	15			1	1		1								
	からだの化学と機能	15			1		1		1							
	基礎科目	英語 I	30	1			1									
		英語 II	30	1				1								
		医療英語 I	15			1			1							
		医療英語 II	15			1				1						
		英文抄読	30	2							2					
		フランス語入門 I	15			1	1		1							
		フランス語入門 II	15			1		1		1						
		統計学 II	30			1		1		1						
		数学基礎 I	30	1			1									
数学基礎 II		30	1				1									
理系基礎科目		物理学基礎 I	30	1			1									
	物理学基礎 II	30	1				1									
	化学基礎	15	1			1										
	生物学入門	15			1		1		1							
	再生医療入門	15			1		1		1							
	学びの基盤	15	1			1										
	健康科学	15			1	1		1								
	コミュニケーション論	15			1	1		1								
初年次教育科目	文章表現法	15			1	1		1								
	統計学 I	30	1			1										
	情報科学 I	30	2			2										
その他	体育実習	30			1	1		1								
	国際医療研修	30			1		1		1		1		1			
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的 連携事業の教育プログラム	—			1 または 2	1年前期から4年前期まで										
専門基礎科目	解剖学 I	30	2			2										
	解剖学 II	30	2				2									
	生理学 I	30	2			2										
	生理学 II	30	2				2									
	生理学実習	45	1				1									
	医学概論	30	1			1										
	病理学概論	30	1					1								
	生化学	30	1				1									
	臨床生化学	30	1						1							
	感染症・免疫学	30	1						1							
	臨床薬理学	30	1						1							
	公衆衛生学	30	1					1								
	社会保障論	30			1									1		
	医療倫理学	30			2	2										
	医療基礎技術	30	1				1									
	数学基礎演習 I	30	1			1										
	数学基礎演習 II	30	1				1									
	物理学基礎演習 I	30	1			1										
	物理学基礎演習 II	30	1				1									
	数学	30	1					1								
	応用数学	30		1						1						
	物理学	30	1					1								
	数学・物理学演習	30		1						1						
	電気工学 I	30	1				1									
	電気工学 II	30	1					1								
	電気工学実習	60	2							2						
	電子工学 I	30	1					1								
	電子工学 II	30	1						1							
	電子工学実習	60	2								2					
	機械工学	30	2							2						
	機械工学演習	30		1						1						
機械工学実習	60	2								2						
システム・制御工学	30	2							2							
情報科学 II	30	1				1										
情報科学 III	30	2						2								
情報科学実習	60	2							2							
ホースセラピー	15			1			1		1							

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2016年度以降入学生)

分野	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考																								
			必修	選択必修	選択	1年		2年		3年		4年																										
						前	後	前	後	前	後	前	後																									
専 門 科 目	臨床工学概論	30	1			1																																
	生体医工学	30	2						2																													
	生体物性学	30	2						2																													
	医用材料学	30	2							2																												
	生体計測装置学Ⅰ	30	2							2																												
	生体計測装置学Ⅱ	30	2									2																										
	生体計測機器学実習	30	1											1																								
	心血管カテーテル治療学	30	2											2																								
	医用画像診断機器学	30	2							2																												
	医用治療機器学Ⅰ	30	2								2																											
	医用治療機器学Ⅱ	30	2										2																									
	医用治療機器学実習	30	1											1																								
	人工心肺制御学Ⅰ	30	2										2																									
	人工心肺制御学Ⅱ	30	2												2																							
	人工呼吸制御学Ⅰ	30	2											2																								
	人工呼吸制御学Ⅱ	30	2													2																						
	血液浄化療法学Ⅰ	30	2											2																								
	血液浄化療法学Ⅱ	30	2														2																					
	人工心肺制御学実習	30	1												1																							
	血液浄化療法学実習	30	1													1																						
	人工呼吸制御学実習	30	1													1																						
	医用機器安全管理学Ⅰ	30	2									2																										
	医用機器安全管理学Ⅱ	30	2												2																							
	医用機器安全管理学実習	30	1													1																						
	臨床工学関連法規	30	1										1																									
	臨床医学外科総論	30	1											1																								
	臨床医学内科総論	30	1												1																							
	呼吸器病態学	30	1												1																							
	循環器病態学	30	1														1																					
	腎泌尿器病態学	30	1													1																						
	麻酔集中治療医学	30	1														1																					
	臨床実習講義	30	1																																	1		
	臨床血液浄化実習	45	1																																		1	
臨床手術室実習	45	1																																		1		
臨床集中治療室実習	45	1																																		1		
臨床医療機器管理実習	45	1																																		1		
シンメディカル論	15	1																																		1		
臨床工学特論	30	1																																		1		
臨床工学総合演習	30	1																																		1		
臨床工学特別演習	90	2																																		2		
卒業研究	90	2																																		2		

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2015年度以降入学生)

授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
		必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
健康科学	30	1			1										卒業要件： 基礎科目 必修 21単位 選択 4単位 小計 25単位  専門基礎科目 必修 46単位  専門科目 必修 58単位 選択科目2単位 小計60単位  合計131単位
統計学Ⅰ	30		1		1										
統計学Ⅱ	30		1			1									
情報科学Ⅰ	30		1		1										
環境と生活	30		1		1										
数学基礎Ⅰ	30	1			1										
数学基礎Ⅱ	30	1				1									
物理学基礎Ⅰ	30	1			1										
物理学基礎Ⅱ	30	1				1									
生化学	30	1				1									
科学技術論	30	1				1									
再生医療概説	15		1			1									
英語Ⅰ	30	1			1										
英語Ⅱ	30	1				1									
医療英語Ⅰ	30	1					1								
医療英語Ⅱ	30	1						1							
英文抄読	30	2							2						
文章表現法	30	1					1								
コミュニケーション論	30	1			1										
ボランティア論	30		1		1										
社会保障論	30	1											1		
法学	30	2					2								
医療倫理学	30	2						2							
世界の保健医療	30		1			1									
国際比較福祉論	30		1		1										
人間学	30	1						1							
医療心理学	30		1			1									
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的 連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		1年前期から4年前期まで										
小計	795	21	11	0	10	9	4	4	2	0	0	0	1		
解剖学Ⅰ	30	2			2										専門基礎科目
解剖学Ⅱ	30	2				2									
生理学Ⅰ	30	2			2										
生理学Ⅱ	30	2				2									
生理学実習	45	1					1								
医学概論	30	1					1								
病理学概論	30	1						1							
臨床生化学	30	1					1								
感染症・免疫学	30	1					1								
代謝栄養学	30	1					1								
臨床薬理学	30	1						1							
公衆衛生学	30	1				1									
救命救急医学	30	1					1								
看護学概論	30	1					1								
数学基礎演習Ⅰ	30	1			1										
数学基礎演習Ⅱ	30	1				1									
物理学基礎演習Ⅰ	30	1			1										
物理学基礎演習Ⅱ	30	1				1									
数学	30	1					1								
物理学	30	1					1								
数学・物理学演習	30	1						1							
電気工学Ⅰ	30	1				1									
電気工学Ⅱ	30	1					1								
電気工学実習	60	2						2							
電子工学Ⅰ	30	1					1								
電子工学Ⅱ	30	1						1							
電子工学実習	60	2							2						
計測工学	30	1						1							
機械工学	30	2						2							
機械工学演習	30	1						1							
機械工学実習	60	2							2						
システム・制御工学	30	2						2							
情報科学Ⅱ	30	1				1									
情報科学Ⅲ	30	2					2								
情報科学実習	60	2					2								
小計	1185	46	0	0	6	9	15	12	4	0	0	0	0		

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2015年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考																					
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年																							
						前	後	前	後	前	後	前	後																						
専門科目	臨床工学概論	30	1			1																													
	生体医工学	30	2						2																										
	生体物性学	30	2						2																										
	医用材料学	30	2										2																						
	医用信号・画像処理	30	2						2																										
	生体計測機器学	30	2									2																							
	生体計測機器学実習	30	1										1																						
	医用画像診断機器学	30	2											2																					
	医用治療機器学Ⅰ	30	2												2																				
	医用治療機器学Ⅱ	30	2														2																		
	医用治療機器学実習	30	1														1																		
	人工臓器学	30	2											2																					
	人工心臓学Ⅰ	30	2												2																				
	人工心臓学Ⅱ	30	2													2																			
	人工呼吸療法学	30	2													2																			
	高気圧治療論	30	1																																
	血液浄化療法学Ⅰ	30	2														2																		
	血液浄化療法学Ⅱ	30	2															2																	
	生命維持装置学実習	90	2																2																
	医用機器安全管理学Ⅰ	30	2															2																	
	医用機器安全管理学Ⅱ	30	2																	2															
	医用機器安全管理学実習	30	1																		1														
	関連法規	30	2																						2										
	臨床医学総論Ⅰ	30	2															2																	
	臨床医学総論Ⅱ	30	2																2																
	腎・泌尿器学	30	2																2																
	麻酔・集中治療医学	30	2																			2													
	医用画像診断学	30	1																				1												
	臨床実習Ⅰ	45	1																																*
	臨床実習Ⅱ	45	1																																*
	臨床実習Ⅲ	45	1																																*
	臨床実習Ⅳ	45	1																																*
	シンメディカル論	15	1																																
	臨床工学特論Ⅰ	30		2																															
	臨床工学特論Ⅱ	30		2																															
	臨床工学総合演習	30	1																																
卒業研究	90	2																																	
小計	1275	58	4	0		1	0	0	10	21	17	1	12																						
合計	3255	125	15	0		17	18	19	26	27	17	1	13																						

\* 臨床実習Ⅰ・臨床実習Ⅱ・臨床実習Ⅲ・臨床実習Ⅳの変更については、2012年度入学生より適用する。

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2014年度以降入学生)

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考			
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
基礎科目	健康科学	30	1			1											卒業要件： 基礎科目 必修 21単位 選択 4単位 小計 25単位  専門基礎科目 必修 46単位  専門科目 必修 58単位 選択科目2単位 小計60単位  合計131単位
	統計学Ⅰ	30		1		1											
	統計学Ⅱ	30		1			1										
	情報科学Ⅰ	30		1		1											
	環境と生活	30		1		1											
	数学基礎Ⅰ	30	1			1											
	数学基礎Ⅱ	30	1				1										
	物理学基礎Ⅰ	30	1			1											
	物理学基礎Ⅱ	30	1				1										
	生化学	30	1				1										
	科学技術論	30	1				1										
	再生医療概説	15		1			1										
	英語Ⅰ	30	1			1											
	英語Ⅱ	30	1				1										
	医療英語Ⅰ	30	1					1									
	医療英語Ⅱ	30	1						1								
	英文抄読	30	2							2							
	文章表現法	30	1						1								
	コミュニケーション論	30	1			1											
	ボランティア論	30		1		1											
	社会保障論	30	1												1		
	法学	30	2						2								
	医療倫理学	30	2							2							
	世界の保健医療	30		1				1									
	国際比較福祉論	30		1		1											
	人間学	30	1							1							
	医療心理学	30		1				1									
	大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、 臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的 連携事業の教育プログラム	—			1 または 2		1年前期から4年前期まで										
小計	795	21	11	0	10	9	4	4	2	0	0	0	1				
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	30	2			2											
	解剖学Ⅱ	30	2				2										
	生理学Ⅰ	30	2			2											
	生理学Ⅱ	30	2				2										
	生理学実習	45	1					1									
	医学概論	30	1					1									
	病理学概論	30	1						1								
	臨床生化学	30	1					1									
	感染症・免疫学	30	1					1									
	代謝栄養学	30	1					1									
	臨床薬理学	30	1						1								
	公衆衛生学	30	1				1										
	救命救急医学	30	1					1									
	看護学概論	30	1					1									
	数学基礎演習Ⅰ	30	1			1											
	数学基礎演習Ⅱ	30	1				1										
	物理学基礎演習Ⅰ	30	1			1											
	物理学基礎演習Ⅱ	30	1				1										
	数学	30	1					1									
	物理学	30	1					1									
	数学・物理学演習	30	1						1								
	電気工学Ⅰ	30	1				1										
	電気工学Ⅱ	30	1					1									
	電気工学実習	60	2						2								
	電子工学Ⅰ	30	1					1									
	電子工学Ⅱ	30	1						1								
	電子工学実習	60	2							2							
	計測工学	30	1						1								
	機械工学	30	2						2								
機械工学演習	30	1						1									
機械工学実習	60	2							2								
システム・制御工学	30	2							2								
情報科学Ⅱ	30	1				1											
情報科学Ⅲ	30	2						2									
情報科学実習	60	2						2									
小計	1185	46	0	0	6	9	15	12	4	0	0	0	0				

	授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
			必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
専 門 科 目	臨床工学概論	30	1			1										
	生体医工学	30	2					2								
	生体物性学	30	2					2								
	医用材料学	30	2							2						
	医用信号・画像処理	30	2					2								
	生体計測機器学	30	2							2						
	生体計測機器学実習	30	1								1					
	医用画像診断機器学	30	2							2						
	医用治療機器学I	30	2							2						
	医用治療機器学II	30	2								2					
	医用治療機器学実習	30	1								1					
	人工臓器学	30	2							2						
	人工心臓学 I	30	2							2						
	人工心臓学 II	30	2							2						
	人工呼吸療法学	30	2							2						
	高気圧治療論	30	1												1	
	血液浄化療法学 I	30	2								2					
	血液浄化療法学 II	30	2								2					
	生命維持装置学実習	90	2								2					
	医用機器安全管理学 I	30	2							2						
	医用機器安全管理学 II	30	2								2					
	医用機器安全管理学実習	30	1								1					
	関連法規	30	2									2				
	臨床医学総論 I	30	2							2						
	臨床医学総論 II	30	2								2					
	腎・泌尿器学	30	2							2						
	麻酔・集中治療医学	30	2								2					
	医用画像診断学	30	1								1					
	臨床実習 I	45	1											1		
	臨床実習 II	45	1											1		
	臨床実習 III	45	1											1		
	臨床実習 IV	45	1											1		
	シンメディカル論	15	1											1		
	臨床工学特論 I	30		2												2
臨床工学特論 II	30		2												2	
臨床工学総合演習	30	1													1	
卒業研究	90	2													2	
小計	1275	58	4	0		1	0	0	10	21	17	5	8			
合計	3255	125	15	0		17	18	19	26	27	17	5	9			

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2010年度以降入学生)

授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
		必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
健康科学	30	1			1										卒業要件： 基礎科目 必修 22単位 選択 4単位 小計 26単位  専門基礎科目 必修 45単位  専門科目 必修 60単位 選択科目2単位 小計62単位  合計133単位
統計学Ⅰ	30		1		1										
統計学Ⅱ	30		2			2									
情報科学Ⅰ	30		1		1										
情報科学Ⅱ	30	1			1										
環境と生活	30		1		1										
数学基礎Ⅰ	30	1			1										
数学基礎Ⅱ	30	1			1										
物理学基礎Ⅰ	30	1			1										
物理学基礎Ⅱ	30	1			1										
生化学	30	1			1										
科学技術概論	30	1			1										
英語Ⅰ	30	1			1										
英語Ⅱ	30	1				1									
医療英語Ⅰ	30	1					1								
医療英語Ⅱ	30	1						1							
英文抄読	30	2							2						
日本語	30		1		1										
文章表現法	30	1					1								
コミュニケーション論	30	1			1										
ボランティア論	30		1		1										
社会保障論	30	1				1									
法学	30	2						2							
医療倫理学	30	2							2						
世界の保健医療	30		1			1									
国際比較福祉論	30		1		1										
人間学	30	1							1						
医療心理学	30		1			1									
大学コンソーシアム大阪の単位互換協定に基づく科目、臨床医工情報学コンソーシアム関西戦略的大学の連携事業の教育プログラム	—		1 または 2		1年前期から4年前期まで										
小計	840	22	12	0	11	11	4	4	2	0	0	0	0		
解剖学Ⅰ	30	2			2										専門基礎科目
解剖学Ⅱ	30	2				2									
生理学Ⅰ	30	2			2										
生理学Ⅱ	30	2				2									
生理学実習	45	1					1								
医学概論	30	1					1								
病理学概論	30	1						1							
臨床生化学	30	1					1								
感染症・免疫学	30	1					1								
代謝栄養学	30	1					1								
臨床薬理学	30	1						1							
公衆衛生学	30	1				1									
救命救急医学	30	1					1								
リハビリテーション概論	30	1				1									
看護学概論	30	1					1								
数学基礎演習	30	1				1									
物理学基礎演習	30	1				1									
数学	30	1					1								
物理学	30	1					1								
数学・物理学演習	30	1						1							
電気工学Ⅰ	30	1				1									
電気工学Ⅱ	30	1					1								
電気工学実習	60	2						2							
電子工学Ⅰ	30	1					1								
電子工学Ⅱ	30	1						1							
電子工学実習	60	2							2						
計測工学	30	1						1							
機械工学	30	2							2						
機械工学演習	30	1							1						
機械工学実習	60	2								2					
システム・制御工学	30	2								2					
システム・制御工学演習	30	1								1					
情報科学Ⅲ	30	2								2					
情報科学実習	60	2									2				
小計	1155	45	0	0	4	9	15	12	5	0	0	0	0		

藍野大学医療保健学部 臨床工学科 (2010年度以降入学生)

授業科目名	時間	単位数			配当年次								備考		
		必修	選択	自由	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
臨床工学概論	30	1			1										
生体医工学	30	2					2								
生体物性学	30	2						2							
医用材料学	30	2							2						
医用信号・画像処理	30	2					2								
生体計測機器学	30	2						2							
生体計測機器学実習	30	1								1					
医用画像診断機器学	30	2						2							
医用治療機器学Ⅰ	30	2						2							
医用治療機器学Ⅱ	30	2							2						
医用治療機器学実習	30	1								1					
人工臓器学	30	2						2							
人工心臓学Ⅰ	30	2						2							
人工心臓学Ⅱ	30	2						2							
人工呼吸療法学	30	2						2							
血液浄化療法学Ⅰ	30	2							2						
血液浄化療法学Ⅱ	30	2							2						
生命維持装置学実習	90	2							2						
医用機器安全管理学Ⅰ	30	2							2						
医用機器安全管理学Ⅱ	30	2								2					
医用機器安全管理学実習	30	1								1					
関連法規	30	2								2					
臨床医学総論Ⅰ	30	2						2							
臨床医学総論Ⅱ	30	2							2						
腎・泌尿器学	30	2						2							
麻酔・集中治療医学	30	2							2						
医用画像診断学	30	1							1						
臨床実習Ⅰ	45	1											1		
臨床実習Ⅱ	45	1											1		
臨床実習Ⅲ	45	1											1		
臨床実習Ⅳ	45	1											1		
シンメディカル学Ⅰ	15	1					1								
シンメディカル学Ⅱ	15	1						1							
シンメディカル学Ⅲ	15	1								1					
シンメディカル学Ⅳ	15	1											1		
臨床工学特論Ⅰ	30		2											2	
臨床工学特論Ⅱ	30		2											2	
臨床工学総合演習	30	1												1	
卒業研究	90	2												2	
小計	1290	60	4	0	1	1	0	9	23	18	4	8			
合計	3285	127	16	0	16	21	19	25	30	18	4	8			

滋賀医療技術専門学校 理学療法学科  
 学科目及び時間数 (単位数)

分野	教育内容	指定規則	科目名	単位数	時間数	1年	2年	3年
基礎分野	科学的思考の基盤	14	心理学	2	30	30		
			生物学	2	30	30		
			教育学	1	15	15		
			物理学	1	15	15		
			医療統計学	1	15		15	
			小計	7	105	90	15	0
			社会福祉学	2	30	30		
	人間と生活		公衆衛生学	1	15	15		
			英語	2	30	30		
			医学英語	1	15	15		
			国語	1	15	15		
			小計	7	105	105	0	0
			基礎分野小計	14	210	195	15	0
			専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12	解剖学	3	90
解剖学実習	2	90	90					
生理学Ⅰ	2	60	60					
生理学Ⅱ	2	60	60					
運動学Ⅰ	1	30	30					
運動学Ⅱ	1	30				30		
身体機能論	1	30	30					
身体構造論	1	30	30					
運動学演習Ⅰ	1	30	30					
運動学演習Ⅱ	1	30				30		
臨床運動学	1	30				30		
人間発達学	1	30	30					
小計	17	540	450			90	0	
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12	病理学概論			1	15	
			臨床心理学	1	15	15		
			臨床医学	1	15	15		
			内科学Ⅰ	1	30		30	
			内科学Ⅱ	1	30		30	
			整形外科Ⅰ	1	30		30	
			整形外科Ⅱ	1	30		30	
			神経内科学Ⅰ	1	30		30	
			神経内科学Ⅱ	1	30		30	
			精神医学	1	15	15		
			小児科学	1	30		30	
			薬理学概論	1	15		15	
			救急援助法	1	15	15		
			画像診断学	1	15		15	
小計	14	315	60	255	0			
保険医療福祉とリハビリテーションの理念	2	26	リハビリテーション概論	1	30	30		
			リハビリテーション医学	1	30	30		
			保健医療福祉制度論	1	30			30
			小計	3	90	60	0	30
			専門基礎分野小計	34	945	570	345	30

分野	教育内容	指定規則	科目名	単位数	時間数	1年	2年	3年
専門分野	基礎理学療法学	6	基礎理学療法学Ⅰ	1	15	15		
			基礎理学療法学Ⅱ	1	15	15		
			基礎理学療法学Ⅲ	1	15	15		
			理学療法研究法	3	45			45
			小計	6	90	45	0	45
			理学療法評価学	5	臨床能力技術演習Ⅰ	1	15	15
	臨床能力技術演習Ⅱ	1	15			15		
	理学療法評価学Ⅰ	1	30		30			
	理学療法評価学Ⅱ	2	60			60		
	理学療法評価学演習Ⅰ	1	15			15		
	理学療法評価学演習Ⅱ	1	15				15	
	小計	7	150		45	90	15	
	理学療法治療学	20	運動療法学	1	30		30	
			運動療法学実習	1	30		30	
			徒手療法Ⅰ	1	30		30	
			徒手療法Ⅱ	1	15		15	
			徒手療法Ⅲ	1	30			30
			物理療法学Ⅰ	1	15		15	
			物理療法学Ⅱ	1	30		30	
			日常生活活動学Ⅰ	1	30		30	
			日常生活活動学Ⅱ	1	30		30	
			義肢学	1	30		30	
			装具学	1	30		30	
			神経障害系理学療法学Ⅰ	1	15		15	
			神経障害系理学療法学Ⅱ	1	30		30	
			骨関節障害系理学療法学Ⅰ	1	15		15	
			骨関節障害系理学療法学Ⅱ	1	30		30	
			内部障害系理学療法学	1	30		30	
			小児期理学療法学	1	30		30	
			老年期理学療法学	1	15		15	
			スポーツ系理学療法学	1	15		15	
			理学療法学特論	2	60			60
	小計	21	540	0	450	90		
	地域理学療法学	4	生活環境学Ⅰ	1	15			15
			生活環境学Ⅱ	1	15			15
			地域理学療法学Ⅰ	1	15		15	
			地域理学療法学Ⅱ	1	15			15
			小計	4	60	0	15	45
	臨床実習	18	評価実習Ⅰ	1	45	45		
			評価実習Ⅱ	3	135		135	
			臨床実習Ⅰ	7	315			315
			臨床実習Ⅱ	7	315			315
			小計	18	810	45	135	630
		53	専門分野合計	56	1650	135	690	825
	合計	93		104	2805	900	1050	855

滋賀医療技術専門学校 作業療法学科  
 学科目及び時間数（単位数）

分野	教育内容	指定規則	科目名	単位数	時間数	1年	2年	3年	
基礎分野	科学的思考の基盤	14	心理学	2	30	30			
			生物学	2	30	30			
			教育学	1	15	15			
			統計学	1	15	15			
			物理学	1	15	15			
			(小計)	7	105	105	0	0	
	人間と生活		社会福祉学	2	30	30			
			英語	2	30	30			
			医学英語	1	15	15			
			社会学	1	15	15			
			国語	1	15	15			
			(小計)	7	105	105	0	0	
			基礎分野小計	14	210	210	0	0	
			専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12	解剖学	3	90	90
解剖学実習	2	90				90			
生理学Ⅰ	2	60				60			
生理学Ⅱ	2	60				60			
作業運動学Ⅰ	1	30				30			
作業運動学Ⅱ	1	30				30			
作業運動学実習	1	45				45			
人間発達学	1	30				30			
(小計)	13	435				435	0	0	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12	病理学概論		1		15		15	
		臨床心理学		1		30	30		
		臨床医学		1		15	15		
		内科学Ⅰ		1		30		30	
		内科学Ⅱ		1		30		30	
		整形外科Ⅰ		1	30		30		
		整形外科Ⅱ		1	30		30		
		神経内科学Ⅰ		1	30		30		
		神経内科学Ⅱ		1	30		30		
		精神医学		1	30	30			
		小児科学		1	30		30		
		薬理学概論		1	15		15		
		救急援助法		1	15	15			
		画像診断学		1	15		15		
	(小計)	14		345	90	255	0		
保険医療福祉とリハビリテーションの理念	2	リハビリテーション概論		1	30	30			
		リハビリテーション医学		1	30	30			
		(小計)		2	60	60	0	0	
	26	専門基礎分野小計		29	840	585	255	0	

分野	教育内容	指定規則	科目名	単位数	時間数	1年	2年	3年
専門分野	基礎作業療法学	6	作業療法概論Ⅰ	1	30	30		
			作業療法概論Ⅱ	1	30	30		
			作業療法管理運営論	1	15			15
			作業分析学Ⅰ	1	15		15	
			作業分析学Ⅱ	1	15		15	
			基礎作業学実習Ⅰ	1	30	30		
			基礎作業学実習Ⅱ	1	30	30		
			レクリエーション概論	1	15	15		
			作業療法研究論	1	15			15
			(小計)	9	195	135	30	30
			作業療法評価学	5	作業療法評価学総論	1	30	30
	身体障害作業療法評価学Ⅰ	1			30	30		
	身体障害作業療法評価学Ⅱ	1			30	30		
	精神障害作業療法評価学	1			30		30	
	発達障害作業療法評価学	1			15		15	
	老年期障害作業療法評価学	1			15		15	
	(小計)	6			150	90	60	0
	作業治療学	20	身体障害作業治療学Ⅰ	1	30		30	
			身体障害作業治療学Ⅱ	1	30		30	
			身体障害作業治療学Ⅲ	1	30		30	
			身体障害作業治療学Ⅳ	1	30		30	
			精神障害作業治療学Ⅰ	1	30		30	
			精神障害作業治療学Ⅱ	1	30		30	
			精神障害作業治療学Ⅲ	1	30		30	
			発達障害作業治療学Ⅰ	1	30		30	
			発達障害作業治療学Ⅱ	1	30		30	
			老年期障害作業治療学Ⅰ	1	30		30	
			老年期障害作業治療学Ⅱ	1	30		30	
			義肢装具治療学	1	45		45	
			日常生活活動学Ⅰ	1	30		30	
			日常生活活動学Ⅱ	1	30		30	
			職業関連活動論	1	15		15	
			高次神経障害作業治療学	1	30		30	
			バリアフリー生活環境論	1	30		30	
			作業療法ゼミナール	1	30		30	
			評価実習セミナー	1	30		30	
			臨床実習Ⅰセミナー	1	30			30
			臨床実習Ⅱセミナー	1	30			30
			リハビリテーション特論	1	30			30
	(小計)	22	660	0	570	90		
	地域作業療法学	4	地域リハビリテーション学	1	15	15		
			地域生活作業療法学Ⅰ	1	30		30	
			地域生活作業療法学Ⅱ	1	15		15	
			家族援助論	1	15			15
	(小計)	4	75	15	45	15		
	臨床実習	18	臨床見学・体験実習Ⅰ	1	45	45		
			臨床見学・体験実習Ⅱ	1	45	45		
			評価実習	3	135		135	
			臨床実習Ⅰ	8	360			360
			臨床実習Ⅱ	8	360			360
			(小計)	21	945	90	135	720
	53	専門分野小計	62	2025	330	840	855	
	93	合計	105	3075	1125	1095	855	

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日本の伝統文化	選	木村 裕樹	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>【授業概要】 日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをとまなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江（滋賀県）とゆかりの深い、木地屋（木地師）と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をとおして、できるだけビジュアルに進めます。</p> <p>【到達目標】 （１）日本の職人の特質について理解する。 （２）日本の職人のイメージと実態について理解する。 （３）日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「職人」とは何か：ガイダンス、現代の暮らしと「職人」					木村 裕樹
第2回	「職人」の歴史：「職人」概念、職人集団、居職と出職、名産、手仕事と量産					木村 裕樹
第3回	現代の職人をめぐる制度：伝統的工芸品産業の振興、文化財保護行政					木村 裕樹
第4回	近江の木地屋（１）：職祖伝承と発祥地、轆轤					木村 裕樹
第5回	近江の木地屋（２）：漆器産地と木地屋					木村 裕樹
第6回	近江の鋳物師					木村 裕樹
第7回	職人という生き方と教育（１）：料理と職人					木村 裕樹
第8回	職人という生き方と教育（２）：スポーツと職人					木村 裕樹
備考						
授業時間以外の学習について	日本の職人はマスメディアで取り上げられる機会の多い存在です。本や雑誌、新聞、インターネット記事、映画などをこまめにチェックし、情報収集につとめてください。博物館や美術館の展示、あるいは百貨店の見学も役立ちます。					
課題・評価方法	授業時に指示する課題（30%）やレポート（70%）への積極的な取りくみを、評価の基準とします。					
教科書	使用しない。					
参考書	遠藤元男『ヴィジュアル史料日本職人史』（1～4）雄山閣。大高洋司・大久保純一・小島道裕編『鋳形蕙斎画 近世職人尽絵詞—江戸の職人と風俗を読み解く』勉誠出版。白洲正子『かくれ里』新潮社。その他、講義時に適宜、紹介する。					
オフィスアワー	講義終了後					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日本の伝統文化	選	稲葉隆道・砂川勇・分木ひとみ	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>医療従事者は、生命にかかわる重大な場面に直面することがある。どのような状況においても、常に冷静で個人の感情には左右されない強い精神力が求められている。この冷静な精神力の育成に、生命の大切さを根底にした冷静な精神統一をはかるために、僧侶の講話・茶道の経験・尺八の吹奏により精神統一をする手段を習得する。</p> <p>オムニバス方式 8回 (稲葉隆道／2回) 一つの相にこだわらない無相。一処にとどまらない無住。一つの思いにかたよらない無念の心境を禪定と呼び、仏の心のことであり、医療人として最も必要な仏の心を生命の大切さを通して学ぶ。 (砂川勇／4回) 医療人として大切なことは、いかなる場面においても現状を直視し、冷静に判断することで、この冷静さを体得するために、尺八の音色を感じ心を静め、精神統一を図ることを学ぶ。 (分木ひとみ／2回) 茶道を通し季節を感じながら気持ちを切り替え、精神的なストレス解消法の一つとなるよう学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	命の大切さを再度考えてみよう					稲葉隆道
第2回	「生苦」より学ぶ人生と職業倫理					稲葉隆道
第3回	茶道の成り立ち					分木ひとみ
第4回	喫茶の所作と経験					分木ひとみ
第5回	理学療法士となって半世紀					砂川勇
第6回	尺八の製作（塩ビ管による尺八の製作）					砂川勇
第7回	精神統一と音色					砂川勇
第8回	求められるセラピストを目指して					砂川勇
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート課題 50%					
教科書	配布資料					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語I	必	鈴木 規巳洋	1	15	1年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>(科目の概要) 大学の英語教育を通して「グローバル」とは何であるのかを今の自分たちの生活と将来の生活（仕事を含め）中でどう活かして行けるかを学習する。テキストでは多文化理解教育を様々なケースで読解し、また臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら基礎的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与える。</p> <p>(学習到達目標) 語学の授業は、聞いているだけでは理解できないし、上達しない。大学での英語教育の到達目標はインプットしたものをどうアウトプットするかを学ぶためグループワークやクラスへのフィードバックを通してインプットとアウトプットの大切さを知る。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p> <p>DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	Education and Gender I 教育とジェンダー I ビデオ&解説(DVD Activities)					鈴木 規巳洋
第2回	Education and GenderII 教育とジェンダー II 読解(Reading Activities)					鈴木 規巳洋
第3回	Global Warming I 地球温暖化 I ビデオ&解説(DVD Activities)					鈴木 規巳洋
第4回	Global Warming 地球温暖化II 読解(Reading Activities)					鈴木 規巳洋
第5回	Fighting Disease I 病との闘い I ビデオ&解説(DVD Activities)					鈴木 規巳洋
第6回	Fighting Disease II 病との闘い II 読解(Reading Activities)					鈴木 規巳洋
第7回	Terrorism テロリズム 読解(Reading Activities)					鈴木 規巳洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規巳洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験（30%）、小テスト・中間確認（20%）、グループワーク（40%）、レポート（10%）					
教科書	Global Issues Towards Peace（南雲堂）					
参考書	グローバリゼーションと現代社会、リハビリテーションの基礎英語					
オフィスアワー	前期火曜日2限、3限      水曜日3限、4限 後期水曜日3限、4限      木曜日2限、3限					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語I	必	鈴木 規己洋	1	15	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	グローバル化が進む中、英語力は社会人として必須になってくる。そのため日常生活で目や耳にする英語に親しみ、それらを最低限理解できるようにする。また中学、高校時代の文法やボキャブラリーの見直しなどの復習も行い、基礎学力の向上につなげる。リスニングに関しては、耳慣れすることを目標に日常的な会話の聞き取りから始め、コミュニケーションツールとして使える英語の習得を目指す。また将来、外国人の患者に対応する可能性も考え、日常会話や簡単な動作指示ができるように、表現方法を学ぶ。					
学位授与方針との関連	DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。 DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。					
	内容					担当教員
第1回	How to develop good study skills and habits! 良い勉強スキルと習慣の作り方					鈴木 規己洋
第2回	How to stop procrastinating! 先のばしにすることをやめる方法					鈴木 規己洋
第3回	How to become your own "Lie detector"! あなた自身の「うそ発見器」になる方法					鈴木 規己洋
第4回	How to learn a language online! 言葉をオンラインで学ぶ方法					鈴木 規己洋
第5回	How to deak with difficult people! 扱いにくい人の対処法					鈴木 規己洋
第6回	How to keep people awake in meetings! 会議で目を覚ましておく方法					鈴木 規己洋
第7回	How to do the right thing! 正しいことをする方法					鈴木 規己洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規己洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験（30%）、小テスト・中間確認（20%）、グループワーク（40%）、レポート（10%）					
教科書	HOW-TO ENGLISH Advice for a better Life. Jim Knudsen（南雲堂）					
参考書	PT/OTが書いた「リハビリテーション英会話」、医学略語用語集					
オフィスアワー	前期火曜日2限、3限      水曜日3限、4限 後期水曜日3限、4限      木曜日2限、3限					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
コミュニケーション論	必	飯田 英晴	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	コミュニケーションの基本概念と構造、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、社会的相互作用等コミュニケーションについて深く理解するとともに、自己のコミュニケーション能力について洞察を深める。社会人に求められるより良いコミュニケーション、より良い人間関係を自ら作り上げることができることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	コミュニケーションの基本概念と構造、人間関係の基礎					飯田 英晴
第2回	臨床の場におけるコミュニケーション、如何にしてコミュニケーションは治療になり得るか					飯田 英晴
第3回	社会的相互作用、相互作用における無関心と無意識					飯田 英晴
第4回	社会的役割と役割行動、役割の特性、役割葛藤、役割距離と装い					飯田 英晴
第5回	援助的コミュニケーション、関係性の維持と発展					飯田 英晴
第6回	対人技法の基本、聴くこと・話を聞いてもらうことの効果、聴く・聞く・訊くの違い、非言語コミュニケーションとその効果					飯田 英晴
第7回	死にゆく人との対話、傍らに在るといふコミュニケーション、死の受容に至る経過とコミュニケーション					飯田 英晴
第8回	人との接し方の基本、コミュニケーション能力の自己評価と研鑽					飯田 英晴
備考	毎回授業内容について課題を出し提出してもらおう。遅刻、無断欠席、授業態度の良くない学生には厳しく対応する。					
授業時間以外の学習について	計5回の授業時間外課題を提出してもらおう					
課題・評価方法	終講試験60%、授業時間課題+提出課題40%で最終評価を出す。					
教科書	特に指定しない。講義初回に書き込み型のテキストを配布する					
参考書	特に指定しない。					
オフィスアワー	講義担当日の放課後					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
心理学	必	飯田 英晴	1	15	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	心理学は人の心の動き そこから生 じる行動について 求しようとする 域で なる。その 域は多 に り、発達心理学、 心理学、 心理学、臨床心理学、 心理学、社会心理学な い。本講義 では、心理学の ても人の理解につながる 域の基礎を学 。 能の構造、 能の発達、性 の形 、人 の 求、 応と 応行動、行動の展 、 、 等人の理解につながる基礎を学 、人間の行動を 科学的に 察する を う。					
学位授与方 針との関連	DP1 人を い教 を し、 と を持 ない 理 のもと、理学療法 としての自 と を持 、生 に り自己研鑽することができる。					
	内容					担当教員
第1回	能とは何か、 能の構造、 能の能力の発達、 能の とその評価					飯田 英晴
第2回	性 とは何か、性 の定義、性 の形 に す人間関係、性 の評価					飯田 英晴
第3回	人の 求、 次 求と 次 求、行動の展 の 理、 求が れ 時の行 動、自 、 応行動					飯田 英晴
第4回	と行動、 のコント ー 、 の発達・					飯田 英晴
第5回	心の と 心理学、 の の 1					飯田 英晴
第6回	心の と 心理学、 の の 2					飯田 英晴
第7回	発達と 、 識の発達、言語の発達、 に う 能の					飯田 英晴
第8回	人の行動と自己の 察、人間の行動の 、 とめ					飯田 英晴
備考	計5回の テストを行う。 テストの は最終評価に る。遅刻、無断欠席、授業態度の い学 生には厳しく臨み す。					
授業時間以 外の学習に ついて	5回 度の授業時間外課題を提出してもらい、最終 に る					
課題・評価 方法	終講試験60%、授業時間外課題+ テスト 40%で評価する。					
教科書	特に指定しない。初回時に書き込み型のテキストを配布する。					
参考書	特に指定しない。					
オフィスア ワー	講義担当日の放課後					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語II	選	鈴木 規巳洋	1	15	2年次前期	演習
履修要件						
授業概要 到達目標	<p>(科目の概要) グローバル社会、グローバリズム、グローバル化という広く一般に使われている言葉の意味を学ぶために英語4技能の向上と幅広い知識を習得し、テキストを利用しながら様々なケースを知る。臨場感を持たせるビデオ教材を活用しながら応用的な読解力とリスニング力を中心に学ぶ機会を与え、社会・文化・学術交流の英語力、知識、異文化理解力をつける。</p> <p>(学習の到達目標) 語学の授業は、インプットしたものをアウトプットすることで実践的な英語力が身につく。実践的に「読み、書き、リスニング、スピーキング」することでさらなる英語力を磨きます。また新しい知識を自分の言葉で他者と話し、考える機会を多く作るため、論議できるスキルを習得し、積極性を身に付けることも大切な到達目標の要素である。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。</p> <p>DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p>					
内 容						担当教員
第1回	Travel and Technology(旅行とテクノロジー)					鈴木 規巳洋
第2回	The Color of Fashion(ファッションの色)					鈴木 規巳洋
第3回	Disappearing Animal(絶滅動物) I Endangered Species(絶滅危惧種)					鈴木 規巳洋
第4回	Disappearing Animal(絶滅動物) II Bring Back the Woolly Mammoth(マンモス呼び戻す)					鈴木 規巳洋
第5回	Big Money(大金) I What Does a Million Dollars Buy?(百万ドルで何をかう?)					鈴木 規巳洋
第6回	Big Money(大金) II Lottery Winners: Rich...but Happy?(宝くじ: お金持ち、でも幸せ?)					鈴木 規巳洋
第7回	Celebrations Around the world(世界の祝い) Wedding Customs(結婚式の習慣)					鈴木 規巳洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規巳洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験(30%)、小テスト・中間確認(20%)、グループワーク(40%)、レポート(10%)					
教科書	「Active 3 (CENGAGE learning)」					
参考書	「リハビリテーションの英会話」清水雅子・Timothy Minton (MEDICAL VIEW) 医学略語用語集、メディカル英語基礎表現100					
オフィスアワー	前期火曜日2限、3限 水曜日3限、4限 後期水曜日3限、4限 木曜日2限、3限					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
英語II	選	鈴木 規己洋	1	15	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リーディングは全ての技能の基礎になるため、長い文章でも我慢強く読む力をつけていく。日本人の多くに見られる「訳す」ことはせず、全体的に意味をつかむ力を身に着けられるようにする。また解剖学と合わせて骨関節、筋名等の医療英語を学習し、リーディング能力に反映させられるよう専門用語に慣れていく。授業資料のひとつとして主にリハビリテーション分野の論文を用いてアカデミックイングリッシュに触れ、ゼネラルイングリッシュとの違いを学び、論文形式に抵抗感なく取り組み、読み慣れることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。 DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。					
	内容					担当教員
第1回	Exercise and the Body (Staying Healthy): What is Health? 運動と身体：健康を保つために：健康とは					鈴木 規己洋
第2回	Exercise and the Body (Staying Healthy): Overview of the Body 運動と身体：健康を保つために：身体の常識					鈴木 規己洋
第3回	What is Rehabilitation?: Physical Therapy and Physical Therapists リハビリテーションとは？ 理学療法と理学療法士					鈴木 規己洋
第4回	What is Rehabilitation?: Occupational Therapy and Occupational Therapists リハビリテーションとは？ 作業療法と作業療法士					鈴木 規己洋
第5回	Fundamentals of the Human Body for Rehabilitation: Major joints and Regions of the Body リハビリテーションのための人体の基礎知識 主要関節と部位					鈴木 規己洋
第6回	The Structure of the Human Body: The skeletal System 人体の構造：骨格系					鈴木 規己洋
第7回	Diseases and Rehabilitation: Bone Fractures 疾患とリハビリテーション：骨折					鈴木 規己洋
第8回	Conclusion 結び					鈴木 規己洋
備考						
授業時間以外の学習について	事前に指定している参考資料をネットで確認させる。授業で習った内容のさらなる深化を測り、またディスカッションのときに利用する資料にする。学期の初めに渡しておいた簡単な関係論文を少しずつ読ませる。					
課題・評価方法	定期試験（30%）、小テスト・中間確認（20%）、グループワーク（40%）、レポート（10%）					
教科書	「リハビリテーション基礎英語（Medical View）」					
参考書	「リハビリテーションの英会話」清水雅子・Timothy Minton（MEDICAL VIEW） 医学略語用語集、メディカル英語基礎表現100					
オフィスアワー	前期火曜日2限、3限      水曜日3限、4限 後期水曜日3限、4限      木曜日2限、3限					

講義要目

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
人間発達学	必	丹葉 寛之	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	人間学は人が発達する存在であるという観点から理解しようとする学問である。人間学では、人を細胞、組織、器官のレベルで捉えるのではなく、生活体として捉え理解をしていく。生命の誕生である胎児期から老年期までの生涯発達について、環境との相互作用の中でどのような発達を遂げるのか、また、ライフステージに応じた課題、役割などについての基本原理を理解することを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。					
	内容					担当教員
第1回	発達の概念と発達理論					丹葉 寛之
第2回	胎児期から新生児期の発達と特徴					丹葉 寛之
第3回	乳児期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第4回	幼児期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第5回	児童期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第6回	青年期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第7回	成人期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
第8回	老年期の発達の発達と特徴					丹葉 寛之
備考						
授業時間以外の学習について	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価方法	定期試験（90％）ラーニングポートフォリオ（10％）					
教科書	上杉雅之「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版					
参考書						
オフィスアワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会福祉学	必	松田 美智子	1	15	2年 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	社会福祉は私たちが安心して生活し、自分たちの可能性を伸ばせるように、社会的施策として整備されてきた。本講義では、社会福祉の歴史、理念、仕組みを学び、リハビリテーション職に必要な、社会福祉の考え方を身に付けていく。また主に高齢者、障がい者に関する現代社会の問題点を提示し、将来、臨床で活かすべき基礎的な知識や考え方も学ぶ。前半は講義中心で、後半はテーマに沿ったグループワークを行い、自分たちで文献を調べ、パワーポイントでスライドを作成しプレゼンテーションをする。講義全体を通して小論文や課題レポートを提出し、自らの考えを深め、表現する場にもする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
第1回	社会福祉の発展過程と現代社会での生活問題				松田 美智子	
第2回	社会福祉の理念と倫理 価値・援助者としての態度				松田 美智子	
第3回	少子高齢社会における共生				松田 美智子	
第4回	地域包括ケアシステムが目指すもの				松田 美智子	
第5回	医療福祉と多職種連携				松田 美智子	
第6回	在宅療養を支援する上でのコメディカルの役割 調べ学習と発表				松田 美智子	
第7回	健康長寿に向けてのコメディカルの役割 調べ学習と発表				松田 美智子	
第8回	地域福祉を推進する中でのコメディカルの役割と 調べ学習 まとめ				松田 美智子	
備考	人の尊厳をまもり、患者のみならず家族や関係者をも対象としてサポートできる医療専門職・支援者を目指して下さい。医療施設や機関内に留まらず、地域社会に貢献できる医療専門職・支援者を目指して下さい。					
授業時間以外の学習について	現代社会の様々な生活課題や医療事情に積極的に関心をもって、課題の発見や課題解決のための医療専門職としての視野を広げ自身の考えを深め表現するための主体的な学習を心がけて下さい。					
課題・評価方法	授業前半と後半でレポート課題を2題課します。また授業後半ではグループによる調べ学習と発表をしていただきます。授業時間外の予習や復習の成果を重視します。主体的な学習態度や意欲についても評価します。					
教科書	授業内容の理解に必要な資料を適宜、提示・紹介・配布します。					
参考書	参考文献についても適宜紹介します。					
オフィスアワー	講義終了後					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合演習	必	池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生	1	30	4年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>本科目では、これまで学修した理学療法の知識や技術を統合し、地域が抱える課題に対し、どのようにそれを応用し活用できるかについて自ら考え、学ぶ授業である。地域が抱える課題については、各自が選択した分野からテーマを決定しその解決につながる方法を計画する。理学療法の職業専門科目で行った、神経筋骨格障害応用論実習や内部障害応用論実習およびスポーツ障害応用論実習と、展開科目で学修した地域共生社会における理学療法士が貢献できる課題とを考え合わせ、実践可能な課題解決策の計画をたてる。それをもとに、グループワークを行い、理学療法と隣接領域での知識、技術を融合し、それを地域社会の中で応用し活用できる力を育成する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					池谷雅江・植田昌治・川崎浩子・宇於崎孝・大西均・里中綾子・治郎丸卓三・野口真一・弘部重信・藤谷亮・分木ひとみ・堀寛史・安田孝志・山内正雄・和智道生
第2回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッション					
第3回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッション					
第4回	地域課題に対する選択するテーマに関する現状についてディスカッションとフィードバック					
第5回	地域課題に対する選択するテーマの決定					
第6回	テーマに対する理学療法士として実践可能な課題解決策について情報交換					
第7回	テーマに対する理学療法士として実践可能な課題解決策についてディスカッション					
第8回	地域課題に対する理学療法の応用計画書の作成					
第9回	地域課題に対する理学療法の応用計画についてディスカッション					
第10回	地域課題に対する理学療法の応用計画についてディスカッションとフィードバック					
第11回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション作成					
第12回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第13回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第14回	地域課題に対する理学療法の応用計画のプレゼンテーション					
第15回	地域課題に対する理学療法の応用計画書のレポート作成					
備考	授業はゼミ形式で進める					
授業時間以外の学習について	予習として展開科目の中で選択した分野について、これまでの学修内容をまとめる。地域課題に対する情報収集を行うことと、応用できる理学療法知識や技術について復習すること。計画書の作成とプレゼンテーション作成は講義の進行に合わせて準備すること。					
課題・評価方法	ポートフォリオ40%、レポート30%、プレゼンテーション30%					
教科書	配布資料					
参考書	なし					
オフィスアワー	<p>池谷 後期：水 16：10～17：15  植田 後期：火 16：10～17：15  川崎 後期：月 16：10～17：15  宇於崎 後期：月 16：10～17：15  大西 後期：火 16：10～17：15  里中 後期：水 16：10～17：15  治郎丸 後期：木 16：10～17：15  野口 後期：水、金 16：10～17：15  弘部 後期：水 16：10～17：15  藤谷 後期：水 16：10～17：15  分木 後期：水 16：10～17：15  堀 後期：木 16：10～17：15  安田 後期：水 16：10～17：15  山内 後期：水 16：10～17：15  和智 後期：水、金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法総合演習	必	山内正雄・分木ひとみ・宇於崎孝・川崎浩子・治郎丸卓三・藤谷亮・大西均・安田孝志・池谷雅江・鈴木美香	1	30	4年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>本科目では解剖学・生理学・運動学など理学療法士としての重要な基礎科目と、整形外科・神経内科学・内科学などの各種疾患学、さらには理学療法士としての治療学(運動療法・物理療法・義肢装具学など)をそれぞれ関連付けることを目標とする。学生の中で関連付けができておらず、ばらばらの知識として習得されている知識群を、それぞれ関連性を見つけて、実際の臨床で使える知識へと変換していく過程を作り出す。主として想定した患者(映像などを使用)について、各知識をどう使うかをグループワークも行いながら、知識の拡大を図る。最後に教員が解答を与えることにより、正解と不正解を学習させていく。各科目の知識の復習と知識の統合を目標とし、理学療法士国家試験に合格でき、臨床現場で活躍できる力を育成する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション(授業目標と方法など)					山内正雄・分木ひとみ・宇於崎孝・川崎浩子・治郎丸卓三・藤谷亮・大西均・安田孝志・池谷雅江・鈴木美香
第2回	解剖学・生理学・運動学：①(基礎科目と疾患のつながりと理学療法)					
第3回	解剖学・生理学・運動学：② グループワーク					
第4回	解剖学・生理学・運動学：③ グループワーク 解説					
第5回	整形外科領域(骨関節障害)：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第6回	整形外科領域(骨関節障害)：② グループワーク 解説					
第7回	神経内科学領域(中枢神経・末梢神経・筋障害)：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第8回	神経内科学領域の障害：② グループワーク 解説					
第9回	内科学領域(内部障害)：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第10回	内科学領域(内部障害)：② グループワーク 解説					
第11回	精神医学領域の障害：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第12回	精神医学領域の障害：② グループワーク 解説					
第13回	小児科学領域の障害：①(疾患の特徴と生活障害のつながりと理学療法)					
第14回	小児科学領域の障害：② グループワーク 解説					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題(20%) 筆記試験(70%) 授業態度(10%)					
教科書	配布資料					
参考書						
オフィスアワー						

## 変更後

### 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅰ	必	大西 満 安部 征哉・嶋川 昌典 木岡 和実・杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのか発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分かれてディスカッションを行う。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、安部（火・金 16：10～17：15） 嶋川（火・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合演習 I	必	安部征哉 寺井淳 前田浩二 有田智氏	1	30	4年後期	演習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	<p>専門基礎科目を総合的に復習し、知識をつなげて理解することを目標とする。内容は、解剖・運動・生理学といった専門基礎、各種疾患の病態、作業療法で行う検査・測定などの評価がつながることを再認識できるよう学習する。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の基礎医学知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目的と方法など）					安部征哉 寺井淳 前田浩二 有田智
第2回	解剖学（骨、筋、神経）					
第3回	解剖学（内臓諸器官）					
第4回	確認テスト					
第5回	生理学（感覚、運動）					
第6回	生理学（循環、呼吸）					
第7回	確認テスト					
第8回	運動学（力学、四肢・体幹の運動）					
第9回	運動学（動作分析、姿勢、歩行）					
第10回	確認テスト					
第11回	病理学					
第12回	リハビリテーション概論					
第13回	臨床医学					
第14回	精神医学					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、筆記試験（70%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー						

## 変更後

### 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西 満 下西 徳・澤 賢一郎 木岡 和実・杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力を育成する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 下西 徳 澤 賢一郎 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分け、2グループごとに4名のゲストスピーカーから体験を聴取する。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、下西（木・金 16：10～17：15） 澤（水・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合演習Ⅱ	必	大西満 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子 鈴木耕平	1	30	4年後期	演習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	作業療法専門分野を総合的に復習し、専門基礎科目を含めて知識をつなげて理解することを目標とする。授業内容は、各種疾患の病態とその生活像が作業療法評価や治療とつながるよう学習を行う。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の作業療法の実践的知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。					
学位授与方針との関連	DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西満 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子 鈴木耕平
第2回	作業活動、作業療法概論、作業療法評価法					
第3回	ADL					
第4回	義肢装具					
第5回	確認テスト					
第6回	老年期障害					
第7回	脳血管障害					
第8回	神経変性・筋障害					
第9回	内科学					
第10回	確認テスト					
第11回	脊髄損傷					
第12回	関節リウマチ、整形外科疾患					
第13回	精神障害					
第14回	小児科学					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、筆記試験（70%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー						

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西 満・分岐 ひとみ 辛島 千恵子・有田 智氏 池谷 雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもって、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西 満 分岐 ひとみ 辛島 千恵子 有田 智氏 池谷 雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考						
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、分岐（水 16：10～17：15） 辛島（水・木 16：10～17：15）、有田（月・水 16：10～17：15） 池谷（水 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
シンメディカル論	必	大西満・分木ひとみ 池谷雅江・杉本久美子	2	30	4年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害をテーマに実際の症例を想定して、チームアプローチの実際について討議・学習する。理学療法・作業療法の専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える提示症例に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際の症例を想定し、各分野の専門性をもとにシンメディカルの理念を実現するための方法について学び、当事者主体の原理に立ったチームアプローチ法を検討・理解する。					
学位授与方 針との関連	DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。 DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	シンメディカルとは					大西満・分木ひとみ 池谷雅江・杉本久美子
第2回	医療専門職の業務内容					
第3回	医療専門職の業務内容の発表					
第4回	各専門職が考える提示症例に関する問題点の検討					
第5回	各専門職が考える提示症例に関する問題点のまとめ					
第6回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法の検討					
第7回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法のまとめ					
第8回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第9回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第10回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第11回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第12回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第13回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第14回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表					
第15回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表に対する吟味					
備考						
授業時間 以外の学習 について	症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと					
課題・評価 方法	レポート試験（70%）、ラーニングポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスア ワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

	授業科目の名称	授業形態	配当年次	単位数		1単位当たりの単位数	単位数及び時間数の考え方
				必修	選択		
1	学びの基盤	講義	1前	1		15	専門職大学での学びは様々あるが、授業の学び方に焦点をあて講義するため1単位とした。学習した内容を他の講義で実践できるよう事前・事後学習に十分な時間を確保し、学びを深めるために1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
2	コミュニケーション論	講義	1前	1		15	コミュニケーションの範疇は広いが、社会人・医療人として必須になる対人コミュニケーションスキルを習得することに焦点をあて講義するため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
3	音楽	講義	1後		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
4	キャリア発達論	講義	2後	1		15	将来のキャリア発達とその支援について基礎を学ぶため1単位とした。将来の展望を持ち自らの考えをまとめる時間を十分にとるため、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
5	教育学	講義	1前	1		15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
6	倫理学入門	講義	1前	1		15	倫理学の基本的な考え方を学ぶため1単位とした。現代社会の抱える倫理的問題を十分考察できる時間をとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
7	哲学入門	講義	1前		1	15	哲学の歴史と基本用語を習得するため1単位とした。今まで理解している哲学との比較を十分考察できる時間をとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
8	心理学	講義	1後	1		15	心理学の領域は多岐にわたるが、その歴史や基礎を学ぶため1単位とした。自らの考え振り返る時間を十分にとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
9	経営学入門	講義	2前		1	15	基本的な論点や社会の仕組みを学ぶため1単位とした。現代社会の現状と課題について事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
10	社会学	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
11	日本の伝統文化	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
12	日本の近代史	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
13	体育	実習	1後		1	30	身体運動を学び、それらを合わせて実践する科目であるため1単位とした。事前・事後に実習での取り組みを考える時間を確保するため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
14	生物学	講義	1前	1		15	生物学の基本的な概念について学び理解するため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
15	物理学 I	講義	1前	1		15	力学的視点の基礎を学ぶこと、物理学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
16	物理学Ⅱ	講義	1後		1	15	物理学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
17	統計学	講義	2後	1		15	統計学的思考の基礎を担う科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
18	数学	講義	1前		1	15	物理学や統計学の基礎にある科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
19	英語 I	講義	1前	1		15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
20	英語Ⅱ	講義	1後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
21	韓国語	講義	2後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
22	中国語	講義	2後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
23	解剖学 I	講義	1前	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、初めて医学的知識に触れるため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。

24	解剖学Ⅱ	講義	1後	2	30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、科目の難易度も高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
25	解剖学Ⅲ	講義	1後	1	30	解剖学Ⅰ、Ⅱと同じく理学療法を学ぶ基盤となる科目であるが、比較すると学習内容が少ないため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
26	生理学Ⅰ	講義	1前	2	30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、初めて医学的知識に触れるため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
27	生理学Ⅱ	講義	1後	2	30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、科目の難易度も高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
28	運動学Ⅰ	講義	1後	1	30	身体機能面の構造や機能を理解する科目であり、解剖学、生理学的知識が基礎になり学習を進める。また、運動学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
29	運動学Ⅱ	講義	2前	1	30	身体機能面の構造や機能を理解する科目であり、解剖学、生理学的知識が基礎になり学習を進める。また、運動学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
30	運動学実習	実習	2後	1	30	運動学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々なデータ計測などの時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
31	運動生理学実習	実習	2後	1	30	解剖学・運動学・生理学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。人体の運動における生理的反応を学ぶための実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
32	人間発達学	講義	1後	1	15	運動学Ⅱや小児科学の基礎になる人間の発達について学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
33	救急援助論	講義	2後	1	15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
34	内科学Ⅰ	講義	2前	1	30	内科的な疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
35	内科学Ⅱ	講義	2後	1	30	内科的な疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
36	神経内科学Ⅰ	講義	2前	1	30	神経内科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、神経内科学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
37	神経内科学Ⅱ	講義	2後	1	30	神経内科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、神経内科学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
38	整形外科Ⅰ	講義	2前	1	30	整形外科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、整形外科Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
39	整形外科Ⅱ	講義	2後	1	30	整形外科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、整形外科Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
40	精神医学	講義	1後	1	15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
41	小児科学	講義	2前	1	30	小児期の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学・神経内科学・整形外科と重なる部分も多いため1単位とした。子供に触れたことのない学生にとってはイメージしにくく、多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
42	老年医学	講義	2前	1	30	老年期の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学・神経内科学・整形外科と重なる部分も多いため1単位とした。今後、関わることの多い高齢者についての知識を多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
43	薬理学概論	講義	1後	1	15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
44	予防医学	講義	3前	1	15	予防的な面での医学的知識を学ぶ科目であるため1単位とした。他の医学的知識と重なる部分も多く、今までに学んだことを繋ぎ合わせる科目であるため1単位15時間とした。
45	画像診断学	講義	2前	1	15	画像診断における基本的な知識を学ぶ科目。画像評価学ならびに各疾患学でさらに画像診断学を含めた内容があるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
46	栄養学	講義	2前	1	15	基本的な人体と栄養との関係の基礎知識を学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
47	社会福祉学	講義	2前	1	15	地域理学療法学を学ぶ基礎であるため1単位とした。地域社会での理学療法士として関りも考察するため、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
48	地域包括ケア論	講義	3前	1	30	本学が考える地域共生社会で活躍できる理学療法士・作業療法士の育成の基礎となる科目であるため1単位とした。そのため、範囲も多く理解に時間を要するため授業時間を多くした方が知識が深まるため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。

49	リハビリテーション概論	講義	1前	1	30	リハビリテーションの思想、歴史、専門職としての基本的な知識を学ぶ科目のため1単位とした。1年次の科目であり、耳慣れないリハビリテーションの概念をしっかりと理解させる必要があるため、授業時間を多くした方が知識の理解が深まるため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
50	基礎理学療法学Ⅰ	講義	1前	1	15	理学療法士としての基礎になる科目であり、基礎理学療法学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
51	基礎理学療法学Ⅱ	講義	1前	1	15	理学療法士としての基礎になる科目であり、基礎理学療法学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
52	基礎理学療法学実習Ⅰ	実習	1後	1	30	基礎理学療法学Ⅰ、運動学、解剖学を基盤として合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深く理解を促すには、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
53	基礎理学療法研究法	講義	3前	1	15	理学療法士としての研究を行うにあたり基礎になる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
54	基礎理学療法学実習Ⅱ	実習	1後	1	30	基礎理学療法学Ⅰ、運動学、解剖学を基盤として合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深く理解を促すには、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
55	臨床技能論実習	実習	3前	1	30	理学療法評価学・演習・実習と合わせて統合した科目になるため1単位とした。基礎的知識を統合し考察する科目のため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
56	理学療法管理学	講義	4後	1	15	理学療法士としての将来の職場管理を担うための基礎になる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
57	保健医療福祉関連制度論	講義	4後	1	15	理学療法士として働くための制度理解の基礎になる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
58	理学療法評価学	講義	1後	1	30	理学療法士として必要な評価学の基礎的な理論を学ぶ科目で、かつ各種検査は理学療法評価学実習で学ぶため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
59	理学療法評価学実習	実習	2前	2	30	理学療法評価学を基盤としているが、範囲が広くすべての疾患に対する評価を実習をとおして学ぶ科目であるため2単位とした。理学療法評価の実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
60	理学療法評価学演習	演習	3前	1	30	理学療法評価学や理学療法評価学実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法評価の思考を理解するには演習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
61	画像評価学	講義	2後	1	15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
62	運動療法学	講義	2前	1	30	理学療法士として実践する運動療法の基礎的な理論を学ぶ科目であるため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
63	運動療法学実習	実習	2後	1	30	運動療法学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。運動療法を実践する実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
64	徒手理学療法学	講義	3前	1	15	徒手理学療法学を学ぶ基礎で徒手理学療法学実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
65	徒手理学療法学実習	実習	3後	1	30	徒手理学療法学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。運動療法を実践する実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
66	物理療法学	講義	2前	1	15	理学療法士としての物理的な力で治療する基礎的な理論を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
67	日常生活活動学	講義	2前	1	30	理学療法士として必要な日常生活活動学の基礎的な理論を学ぶ科目で、かつ疾患別の日常生活指導は他の疾患別理学療法学に含めるため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
68	義肢装具学Ⅰ	講義	2前	1	30	義肢装具の基礎的な理論を学ぶ科目であり、かつ義肢装具学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
69	義肢装具学Ⅱ	講義	2後	1	30	義肢装具の基礎的な理論を学ぶ科目であり、かつ義肢装具学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。職業専門科目であり、理解には十分な講義時間を確保しなくてはならない。そのため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
70	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	2後	1	30	神経内科学を基盤として神経障害系理学療法学実習Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
71	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	3前	1	30	神経内科学を基盤として神経障害系理学療法学実習Ⅰと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
72	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	2後	1	30	整形外科学を基盤として運動器障害系理学療法学実習Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
73	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	3前	1	30	整形外科学を基盤として運動器障害系理学療法学実習Ⅰと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。

74	内部障害系理学療法学実習Ⅰ	実習	3前	1	30	内科学を基盤として内部障害系理学療法学実習Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。	
75	内部障害系理学療法学実習Ⅱ	実習	3前	1	30	内科学を基盤として内部障害系理学療法学実習Ⅰと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。	
76	小児期理学療法学演習	演習	2後	1	30	小児科学を基盤として合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。	
77	老年期理学療法学演習	演習	2後	1	30	老年医学を基盤として合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。	
78	スポーツ障害系理学療法学実習	実習	2後	1	30	運動学や整形外科学を基盤として運動器障害系理学療法学実習Ⅰ・Ⅱと合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。理学療法の技術を高めるには、演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。	
79	神経筋骨格障害応用論実習	実習	4後		2	45	臨床現場にて2週間の実践をとおして学習する実習であるため2単位とした。本学の実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
80	内部障害応用論実習	実習	4後		2	45	臨床現場にて2週間の実践をとおして学習する実習であるため2単位とした。本学の実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
81	スポーツ障害応用論実習	実習	4後		2		臨床現場にて2週間の実践をとおして学習する実習であるため2単位とした。本学の実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
82	地域理学療法学	講義	2後	1		15	理学療法士としての地域で実践する基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
83	地域理学療法学実習	実習	3前	1		30	地域理学療法学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深め理解を促す実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
84	理学療法見学実習Ⅰ	実習	1前	1		45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
85	理学療法見学実習Ⅱ	実習	1後	1		45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
86	理学療法見学実習Ⅲ	実習	2前	1		45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
87	理学療法評価実習	実習	3前	4		45	臨地実務実習として臨床現場にて4週間の評価実践をとおして学習する実習であるため4単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
88	理学療法総合臨床実習Ⅰ	実習	3後	6		45	臨地実務実習として臨床現場にて6週間の評価から治療の実践をとおして学習する実習であるため6単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
89	理学療法総合臨床実習Ⅱ	実習	4前	6		45	臨地実務実習として臨床現場にて6週間の評価から治療の実践をとおして学習する実習であるため6単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
90	理学療法地域実習	実習	4前	1		45	臨地実務実習として訪問リハビリや通所リハビリ施設にて1週間（5日間）の実習をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
91	マーケティング論	講義	3後	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
92	施設起業運営論	講義	3後	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
93	ボランティア論	講義	1後	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
94	生涯スポーツ論	講義	1前	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
95	労働衛生論	講義	1後	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
96	子育て支援論	講義	2前	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
97	災害支援論	講義	2前	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
98	教育支援論	講義	2前	1		15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。

99	メンタルヘルスマネジメント論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
100	地域共生論	講義	3前		2	15	展開科目の中でも他の科目との関連性が高く学ぶ範囲も広いとため、理解には十分な時間が必要なため2単位とした。さらに地域社会での実践事例をもとに考えをまとめる時間が必要なため事前・事後学習に十分な時間を確保し、学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
101	障がい者スポーツ論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
101	障がい者スポーツ論実習	実習	4前		1	30	地域理学療法学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深め理解を促す実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
102	健康増進実践実習	実習	3後		1	30	健康増進実践演習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深め理解を促す実習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
103	スポーツリズムトレーニング論	講義	3後		1	30	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。新しい考え方で理解には十分な講義時間が必要なため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
104	体力測定論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
105	健康増進実践演習	演習	3後		1	30	健康増進実践実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々な課題への取り組みなど演習時間を確保する必要がある、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
107	パフォーマンス向上論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
108	フィットネス論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも技術的な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
109	ランニングトレーニング論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも技術的な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
110	ゴルフトレーニング論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも技術的な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
111	ビジョントレーニング論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも技術的な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
112	遊びとレクリエーション	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
113	生きがい創造	講義	3後		2	15	展開科目の中でも履修モデル内の関連性が高い内容なため、その関連性を解説するために2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
114	伝承遊び	講義	3後		2	15	展開科目の中でも履修モデル内の関連性が高い内容なため、その関連性を解説するために2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
115	シューフィッティング論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
116	福祉工学地域活用論	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
117	ロボット工学地域活用論基礎	講義	3後		1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
118	ロボット工学地域活用論応用	講義	3後		2	30	展開科目の中でも臨床的に高度な内容が多く、その基礎的な理論も難解なため2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
119	身体障がい者就労環境論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも履修モデル内の関連性が高い内容なため、その関連性を解説するために2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
120	組織運営論	講義	3後		2	15	展開科目の中でも履修モデル内の関連性が高い内容なため、その関連性を解説するために2単位として、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
121	協働連携論総合実習	実習	4後		2	30	本学での学びの集大成となる科目であり、かつ総合科目の中心的な科目であるため2単位とした。両学科合同で授業を行い、複数教員が関わるために手厚い指導となるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため2単位60時間とした。
122	理学療法総合演習	演習	4後		1	30	展開科目を含めたすべての科目と合わせて学ぶ科目であるため1単位として、3つの応用論実習で学んだこと多角的に捉えなおす時間が必要なため1単位30時間とした。
123	リハビリテーション総合演習	演習	3後		1	30	理学療法研究法を基盤として合わせて演習を行う科目であるため1単位とした。事前・事後学習として議論を行い理解を深める時間が必要なため1単位30時間とした。

作業療法学科

	授業科目の名称	授業形態	配当年次	単位数		1単位当たりの単位数	単位数及び時間数の考え方
				必修	選択		
1	学びの基盤	講義	1前	1		15	専門職大学での学びは様々あるが、授業の学び方に焦点をあて講義するため1単位とした。学習した内容を他の講義で実践できるよう事前・事後学習に十分な時間を確保し、学びを深めるために1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
2	コミュニケーション論	講義	1前	1		15	コミュニケーションの範疇は広いが、社会人・医療人として必須になる対人コミュニケーションスキルを習得することに焦点をあて講義するため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
3	音楽	講義	1後		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
4	キャリア発達論	講義	2後	1		15	将来のキャリア発達とその支援について基礎を学ぶため1単位とした。将来の展望を持ち自らの考えをまとめる時間を十分にとるため、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
5	教育学	講義	1前	1		15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
6	倫理学入門	講義	1前	1		15	倫理学の基本的な考え方を学ぶため1単位とした。現代社会の抱える倫理的問題を十分考察できる時間をとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
7	哲学入門	講義	1前		1	15	哲学の歴史と基本用語を習得するため1単位とした。今まで理解している哲学との比較を十分考察できる時間をとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
8	心理学	講義	1後	1		15	心理学の領域は多岐にわたるが、その歴史や基礎を学ぶため1単位とした。自らの考え振り返る時間を十分にとるために、1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
9	経営学入門	講義	2前		1	15	基本的な論点や社会の仕組みを学ぶため1単位とした。現代社会の現状と課題について事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
10	社会学	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
11	日本の伝統文化	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
12	日本の近代史	講義	1前		1	15	市民社会の担い手となる教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
13	体育	実習	1後		1	30	身体運動を学び、それらを合わせて実践する科目であるため1単位とした。事前・事後に実習での取り組みを考える時間を確保するため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
14	生物学	講義	1前	1		15	生物学の基本的な概念について学び理解するため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
15	物理学 I	講義	1前	1		15	力学的視点の基礎を学ぶこと、物理学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
16	物理学Ⅱ	講義	1後		1	15	物理学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
17	統計学	講義	2後	1		15	統計学的思考の基礎を担う科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
18	数学	講義	1前		1	15	物理学や統計学の基礎にある科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
19	英語Ⅰ	講義	1前	1		15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
20	英語Ⅱ	講義	1後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
21	韓国語	講義	2後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。

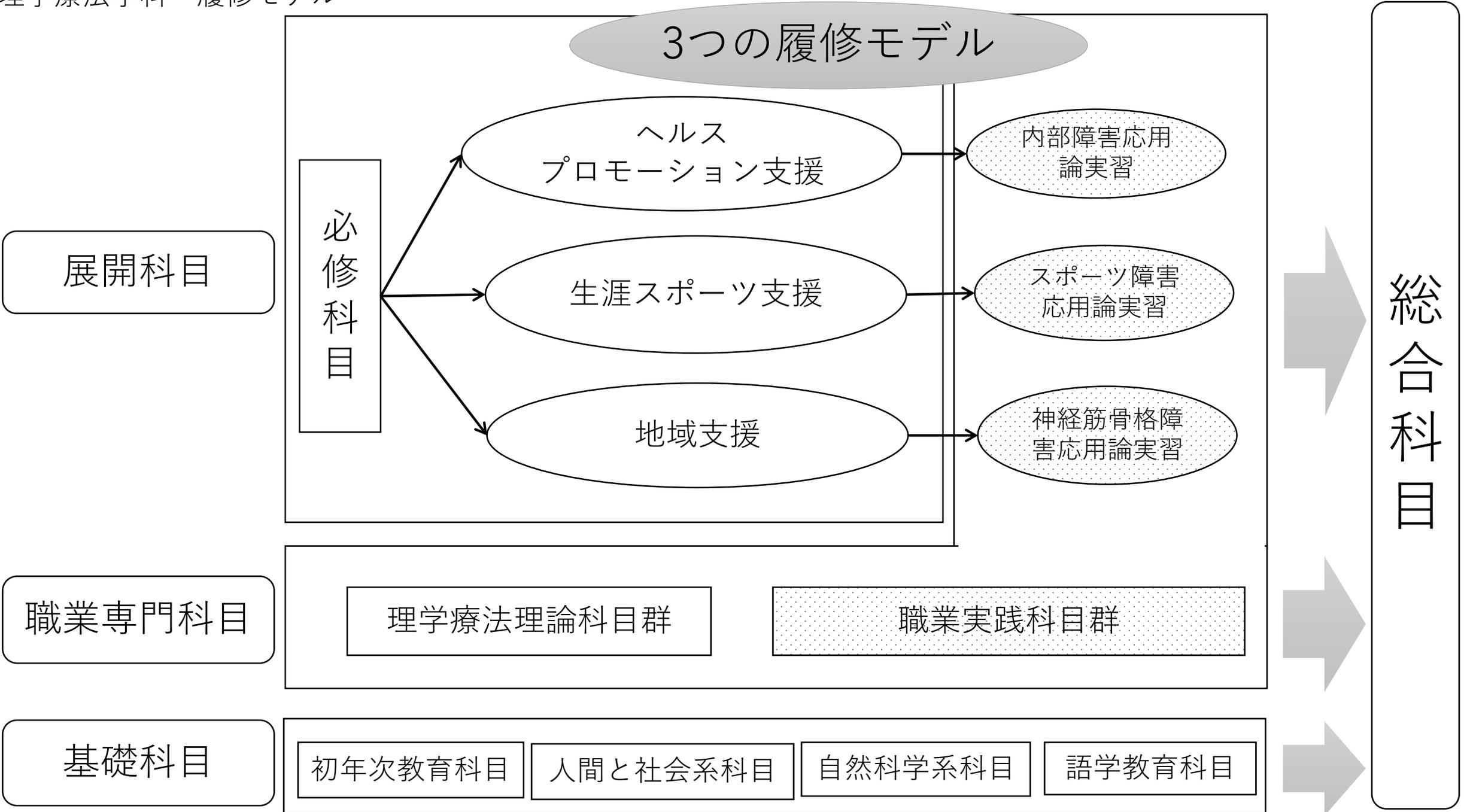
22	中国語	講義	2後		1	15	語学は教養人の育成のため、幅広い教養を身につけることを主眼としているため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
23	解剖学Ⅰ	講義	1前	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、初めて医学的知識に触れるため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した
24	解剖学Ⅱ	講義	1後	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、科目の難易度も高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
25	解剖学Ⅲ	講義	1後	1		30	解剖学Ⅰ、Ⅱと同じく理学療法を学ぶ基盤となる科目であるが、比較すると学習内容が少ないため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
26	生理学Ⅰ	講義	1前	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、初めて医学的知識に触れるため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
27	生理学Ⅱ	講義	1後	2		30	学習内容が膨大であり、職業専門科目のすべてにおいて基盤になる科目であるため2単位とした。また、科目の難易度も高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定し、2単位60時間の講義として設定した。
28	運動学Ⅰ	講義	1後	1		30	身体機能面の構造や機能を理解する科目であり、解剖学、生理学的知識が基礎になり学習を進める。また、運動学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
29	運動学Ⅱ	講義	2前	1		30	身体機能面の構造や機能を理解する科目であり、解剖学、生理学的知識が基礎になり学習を進める。また、運動学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とした。科目の難易度は高いため、授業時間を多くとり1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
30	運動学実習	実習	2後	1		30	運動学を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々なデータ計測などの時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
31	人間発達学	講義	1後	1		15	運動学Ⅱや小児科学の基礎になる人間の発達について学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
32	救急援助論	講義	2後	1		15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
33	内科学Ⅰ	講義	2前	1		30	内科的な疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
34	内科学Ⅱ	講義	2後	1		30	内科的な疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
35	神経内科学Ⅰ	講義	2前	1		30	神経内科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、神経内科学Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
36	神経内科学Ⅱ	講義	2後	1		30	神経内科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、神経内科学Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
37	整形外科Ⅰ	講義	2前	1		30	整形外科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、整形外科Ⅱと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
38	整形外科Ⅱ	講義	2後	1		30	整形外科の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、整形外科Ⅰと合わせて学ぶため1単位とする。範囲も多く難易度も高く多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
39	精神医学	講義	1後	1		15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
40	小児科学	講義	2前	1		30	小児期の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学・神経内科学・整形外科と重なる部分も多いため1単位とした。子供に触れたことのない学生にとってはイメージしにくく、多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
41	老年医学	講義	2前	1		30	老年期の疾患について学ぶことはリハビリテーションを行う上で基礎となる学ぶ科目であり、内科学・神経内科学・整形外科と重なる部分も多いため1単位とした。今後、関わることの多い高齢者についての知識を多くの学生が理解することに時間を要するため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
42	薬理学概論	講義	1後	1		15	医学的知識の基礎科目にあたる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
43	予防医学	講義	3前	1		15	予防的な面での医学的知識を学ぶ科目であるため1単位とした。他の医学的知識と重なる部分も多く、今までに学んだことを繋ぎ合わせる科目であるため1単位15時間とした。

44	画像診断学	講義	2前	1	15	画像診断における基本的な知識を学ぶ科目。画像評価学ならびに各疾患学でさらに画像診断学を含めた内容があるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
45	栄養学	講義	2前	1	15	基本的な人体と栄養との関係の基礎知識を学ぶため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
46	社会福祉学	講義	2前	1	15	地域理学療法学を学ぶ基礎であるため1単位とした。地域社会での理学療法士として関りも考察するため、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
47	地域包括ケア論	講義	3前	1	30	本学が考える地域共生社会で活躍できる理学療法士・作業療法士の育成の基礎となる科目であるため1単位とした。そのため、範囲も多く理解に時間を要するため授業時間を多くした方が知識が深まるため1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
48	リハビリテーション概論	講義	1前	1	30	リハビリテーションの思想、歴史、専門職としての基本的な知識を学ぶ科目のため1単位とした。1年次の科目であり、耳慣れないリハビリテーションの概念をしっかりと理解させる必要があるため、授業時間を多くした方が知識の理解が深まるため、1単位あたりの時間数を30時間と設定した。
49	作業療法学総論	講義	1前	1	30	作業療法の歴史から作業の意味を学ぶが、基礎作業学や基礎作業学実習と合わせて基礎を学ぶため1単位とした。初めて作業療法に触れるため十分な講義時間をもうけ、理解ができるように1単位30時間とした。
50	基礎作業学	講義	1前	1	15	基礎作業学実習ⅠとⅡを行う上での概念科目であるため1単位とした。作業は自分の経験を考察することも重要であるため、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
51	基礎作業学実習Ⅰ	実習	1前	1	30	基礎作業学を基盤に実際に作業活動を行う内容であるため1単位とした。実習時間が多くなるが、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
52	基礎作業学実習Ⅱ	実習	1後	1	30	基礎作業学を基盤に実際に作業活動を行う内容であるため1単位とした。実習時間が多くなるが、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
53	作業療法研究法	講義	3前	1	15	作業療法士としての研究を行うにあたり基礎になる科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
54	作業療法管理・制度論	講義	1後	1	15	作業療法に関する制度を学ぶことは重要であるが、作業療法に関連したもののみを取り上げる為、1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
55	作業療法と倫理	講義	1後	1	15	作業療法士になる上での基本的な倫理観を学ぶため、1単位とした。基礎科目に倫理学があり、事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
56	作業療法評価学総論	講義	1後	1	30	対象者への作業療法介入を考える際に、どのように対象者を捉えるかを学ぶ科目であり、各種評価学と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。学生は障がいや問題点に視点が向きやすいため十分な講義時間をもうけ、理解ができるように1単位30時間とした。
57	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	実習	2前	1	30	身体障害作業療法評価学実習Ⅱと合わせて学ぶ科目のため1単位とした。身体障害の対象者への定型的な評価技法は多くあるため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
58	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	実習	2前	1	30	身体障害作業療法評価学実習Ⅰと合わせて学ぶ科目のため1単位とした。身体障害の対象者への定型的な評価技法は多くあるため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
59	精神障害作業療法評価学実習	実習	2前	1	30	作業療法評価学総論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。精神障害の対象者への評価技法を学ぶため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
60	発達障害作業療法評価学実習	実習	2前	1	30	作業療法評価学総論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。発達障害の対象者への評価技法を学ぶため、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
61	身体障害作業療法基礎技術論	講義	2後	1	30	身体障害の対象者への定型的な治療介入を学び、次に続く各身体疾患においてベースとなる技術を学ぶため科目であるため1単位とした。学生が理解を要するために養成校で教員が多くの指導時間をかける必要があるため、1単位30時間とした。
62	運動器疾患作業療法実習	実習	2後	1	30	身体障害作業療法基礎技術論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。運動器疾患の対象者の作業療法の治療的介入を学ぶ科目であり、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
63	中枢神経疾患作業療法実習	実習	2後	1	30	身体障害作業療法基礎技術論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。中枢神経疾患の対象者の作業療法の治療的介入を学ぶ科目であり、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
64	高次脳機能障害作業療法実習	実習	3前	1	30	身体障害作業療法基礎技術論を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。高次脳機能障害の対象者の作業療法の治療的介入を学ぶ科目であり、実習時間を確保する必要があるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
65	精神障害作業療法学	講義	2後	1	30	精神障害の対象者への治療的な考え方を学ぶ科目であり、精神障害作業療法実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。障がいが見える形で捉えにくい精神疾患はとかく、幻聴や妄想といった際立った症状や障がいに目がいくため、学生の理解を促すためには養成校で学ぶ時間が必要であるため、1単位30時間とした。

66	精神障害作業療法学実習	実習	3前	1	30	精神障害作業療法学と合わせて学ぶため1単位とした。様々な精神障害者への治療的介入を実習を通して学ぶため実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
67	発達障害作業療法学実習 I	実習	2後	1	30	発達障害作業療法学実習 II と合わせて学ぶため1単位とした。発達障害の対象者への基本的な治療的介入を実習を通して学ぶため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
68	発達障害作業療法学実習 II	実習	3前	1	30	発達障害作業療法学実習 I と合わせて異なった内容を学ぶため1単位とした。発達障害の対象者への基本的な治療的介入を実習を通して学ぶため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
69	老年期障害作業療法学	講義	2後	1	30	高齢者への作業療法の基本的な介入について学ぶ科目であり、老年期障害作業療法学実習と合わせて学ぶため1単位とした。高齢者への介入は、抜本的な問題解決というよりも、いかにその方にとって生活の質が向上するかの視点であり、学生の理解には教員による指導が養成校で必要となるため、1単位30時間とした。
70	老年期障害作業療法学実習	実習	3前	1	30	老年期障害作業療法学と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々な疾患の高齢者への作業療法の治療的介入を実習を通して学ぶため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
71	日常生活活動論実習	実習	2前	1	30	様々な対象者の日常生活の改善に向けた介入を学ぶ科目であるが、疾患別の日常生活指導は他の科目に含めるため1単位とした。実習形式で行うため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
72	社会生活行為論実習	実習	2前	1	30	生活行為向上マネジメント論実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とする。様々な対象者の社会参加を支援することを学ぶ科目であるが、実習形式で行うため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
73	作業分析活用論	講義	2後	1	30	作業分析活用論実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々な作業活動を分析することについて学生の理解には教員による指導が養成校で必要となるため、1単位30時間とした。
74	作業分析活用論実習	実習	2後	1	30	作業分析活用論と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。様々な作業活動を分析し、分析することに慣れ親しむための実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
75	家族援助論	講義	3前	1	15	家族の支援の基本的な概念を学ぶため1単位とした。家族援助は実践例を通じた方が学習しやすいため、本科目は概念を学ぶため事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
76	住環境支援論	講義	3前	1	30	物理的な住環境の支援、対象者が住みやすくなる支援の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。本学科が考える環境に着眼する視点を学生に学ばせる科目であり、養成校にて教員の指導に時間をかけた方が学びやすいため、1単位30時間とした。
77	作業療法義肢装具実習	実習	2後	1	30	義肢装具の作成を通して、人と道具との関係性の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。実習形式で行うため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
78	生活行為向上マネジメント論実習	実習	3前	1	30	社会生活行為論実習と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。対象者の作業に着眼したアプローチを学ぶため、実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
79	地域生活作業療法学総論	講義	2前	1	30	地域における作業療法の支援のあり方を考える科目で地域生活作業療法学実習 I ・ II と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。各実習の基本的な概念を学ぶため、養成校での指導に時間を要するので、1単位30時間とした。
80	地域生活作業療法学実習 I	実習	2後	1	30	地域での対象者の生活支援ができる作業療法士の育成を行う科目であり地域生活作業療法学実習 I ・ II ・ III で分けて学ぶため1単位とした。実習形式で行うため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
81	地域生活作業療法学実習 II	実習	2後	1	30	地域での対象者の生活支援ができる作業療法士の育成を行う科目であり地域生活作業療法学実習 I ・ II ・ III で分けて学ぶため1単位とした。実習形式で行うため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
82	地域生活作業療法学実習 III	実習	3後	1	30	地域での対象者の生活支援ができる作業療法士の育成を行う科目であり地域生活作業療法学実習 I ・ II ・ III で分けて学ぶため1単位とした。実習形式で行うため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
83	作業療法見学実習 I	実習	1後	1	45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
84	作業療法見学実習 II	実習	2前	1	45	臨地実務実習として臨床現場にて1週間（5日間）の見学をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
85	作業療法評価実習	実習	3前	5	225	臨地実務実習として臨床現場にて4週間の評価実践をとおして学習する実習であるため4単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
86	作業療法総合臨床実習 I	実習	3後	7	315	臨地実務実習として臨床現場にて6週間の評価から治療の実践をとおして学習する実習に加えて1週間の学内での実習を行うため7単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
87	作業療法総合臨床実習 II	実習	4前	7	315	臨地実務実習として臨床現場にて6週間の評価から治療の実践をとおして学習する実習に加えて1週間の学内での実習を行うため7単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。

88	作業療法地域実習	実習	4前	1	45	臨地実務実習として訪問リハビリや通所リハビリ施設にて1週間（5日間）の実習をとおして学習する実習であるため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を1単位45時間と設定した。
89	マーケティング論	講義	2後	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
90	施設起業運営論	講義	3前	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
91	ボランティア論	講義	1前	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
92	子育て支援論	講義	2前	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
93	災害支援論	講義	1後	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
94	教育支援論	講義	2後	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
95	メンタルヘルスマネジメント論	講義	2前	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
96	障がい者スポーツ論	講義	3後	1	15	地域共生社会に活かすための他分野の基礎を学ぶ科目であるため1単位とした。事前・事後学習に十分な時間を確保し学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
97	障がい者スポーツ論実習	実習	4前	1	30	地域理学療法を基盤に合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。体験的な学びを深め理解を促す実習時間を確保する必要があり、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため1単位あたりの授業時間数を30時間と設定した。
98	地域社会共生論	講義	1前	2	15	展開科目の中でも他の科目との関連性が高く学ぶ範囲も広いとため、理解には十分な時間が必要なため2単位とした。さらに地域社会での実践事例をもとに考えをまとめる時間が必要なため事前・事後学習に十分な時間を確保し、学びを深めることができるよう1単位あたりの時間数を15時間と設定した。
99	地域社会共生論実習	実習	1後	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
100	精神障がい者就労環境論	講義	3後	2	15	成人期における精神障がい者の就労の様々な事例を学ぶ科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
101	身体障がい者就労環境論	講義	3後	2	15	成人期、老年期における身体障がいや高齢者の就労の様々な事例を学ぶ科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
102	就労環境論実習	実習	4前	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
103	老年期地域社会適応論	講義	3後	2	15	老年期における地域課題について学ぶ科目であり、次の実習へと繋がる科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。講師が外部の教員になるため、事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
104	老年期地域社会適応論実習	実習	4前	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
105	成人期地域社会適応論	講義	3後	2	15	成人期における地域課題について学ぶ科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
106	成人期地域社会適応論実習	実習	4前	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
107	児童期地域社会適応論	講義	3後	2	15	児童期における地域課題について学ぶ科目で、展開科目の中でもその基礎的な理論も難解なため2単位とした。事前学習と事後学習を含めて、2単位30時間とした。
108	児童期地域社会適応論実習	実習	4前	1	45	実習地にて1週間（5日間）の実習をとおして学習するため1単位とした。本学の臨地実務実習の設定に準じ、授業時間数を45時間と設定した。
109	協働連携論総合実習	実習	4後	2	30	本学での学びの集大成となる科目であり、かつ総合科目の中心的な科目であるため2単位とした。両学科合同で授業を行い、複数教員が関わるために手厚い指導となるため、事前・事後学習を行いさらに学びを深めるため2単位60時間とした。

110	作業療法総合実習 I	実習	4後	1		30	本学科での作業療法の学びの集大成の科目である。作業療法総合実習 II と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。さらに、多角的に捉えなおすためのグループワークを行う時間を要するので、1単位30時間とした。
111	作業療法総合実習 II	実習	4後	1		30	本学科での作業療法の学びの集大成の科目である。作業療法総合実習 I と合わせて学ぶ科目であるため1単位とした。作業療法総合実習 I でまとめた内容に更に当事者からの意見も踏まえ、グループで議論を行う時間を要するので1単位30時間とした。



理学療法学科 履修モデル（地域支援）

区分		科目						単位
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	生物学	物理学 I	必修7単位
		英語 I						
		哲学入門※1	社会学※1	日本の伝統文化※1	日本の近代史※1	数学※2		選択5単位
	理学療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	リハビリテーション概論				必修5単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学 I	基礎理学療法学 II					必修2単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	生涯スポーツ論						必修1単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽※1	体育※1	物理学 II ※2	英語 II ※2			選択4単位
	理学療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 I	人間発達学	精神医学	必修9単位
		薬理学概論						
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学実習 I	基礎理学療法学実習 II	理学療法評価学				必修3単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 II						必修1単位
展開科目	ボランティア論	労働衛生論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門※1						選択1単位
	理学療法理論科目	運動学 II	内科学 I	神経内科学 I	整形外科 I	小児科学	老年医学	必修8単位
		画像診断学	栄養学					
	理学療法職業実践科目	理学療法評価学実習	運動療法学	物理療法学	日常生活活動学	義肢装具学 I		必修6単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 III						必修1単位
展開科目	子育て支援論	災害支援論	教育支援論				必修3単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語※2	中国語※2					選択2単位
	理学療法理論科目	運動学実習	運動生理学実習	救急援助論	内科学 II	神経内科学 II	整形外科 II	必修7単位
		社会福祉学						
	理学療法職業実践科目	画像評価学	運動療法学実習	義肢装具学 II	神経障害系理学療法学実習 I	運動器障害系理学療法学実習 I	小児期理学療法学演習	必修9単位
	老年期理学療法学演習	スポーツ障害系理学療法学実習	地域理学療法学					
3年前期	理学療法理論科目	予防医学	地域包括ケア論					必修2単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学研究法	臨床技能論実習	理学療法評価学演習	徒手理学療法学	神経障害系理学療法学実習 II	運動器障害系理学療法学実習 II	必修9単位
		内部障害系理学療法学実習 I	内部障害系理学療法学実習 II	地域理学療法学実習				
	理学療法実習	理学療法評価実習						必修4単位
展開科目	地域共生論						必修2単位	
3年後期	理学療法職業実践科目	徒手理学療法学実習						必修1単位
	展開科目	マーケティング論	施設起業運営論	障がい者スポーツ論				必修3単位
		身体障がい者就労環境論※3	福祉工学地域活用論※3	ロボット工学地域活用論基礎※3	ロボット工学地域活用論応用※3	組織運営論※3		選択8単位
	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 I						必修6単位
総合科目	リハビリテーション総合演習						必修1単位	
4年前期	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 II	理学療法地域実習					必修7単位
	展開科目	障がい者スポーツ論実習						必修1単位
4年後期	理学療法職業実践科目	理学療法管理学	保健医療福祉関連制度論					必修2単位
		神経筋骨格障害応用論実習						選択2単位
	総合科目	協働連携論総合実習	理学療法総合演習					必修3単位
							合計	129単位

※1より6単位以上選択、※2より4単位以上選択、※3より8単位選択

理学療法学科 履修モデル (ヘルスプロモーション支援)

区分		科目						単位
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	生物学	物理学 I	必修7単位
		英語 I						
		哲学入門※1	社会学※1	日本の伝統文化※1	日本の近代史※1	数学※2		
	理学療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	リハビリテーション概論				必修5単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学 I	基礎理学療法学 II					必修2単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	生涯スポーツ論						必修1単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽※1	体育※1	物理学 II ※2	英語 II ※2			選択4単位
	理学療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 I	人間発達学	精神医学	必修9単位
		薬理学概論						
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学実習 I	基礎理学療法学実習 II	理学療法評価学				必修3単位
理学療法実習	理学療法見学実習 II						必修1単位	
展開科目	ボランティア論	労働衛生論					必須2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門※1						選択1単位
	理学療法理論科目	運動学 II	内科学 I	神経内科学 I	整形外科 I	小児科学	老年医学	必修8単位
		画像診断学	栄養学					
	理学療法職業実践科目	理学療法評価学実習	運動療法学	物理療法学	日常生活活動学	義肢装具学 I		必修6単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 III						必修1単位
展開科目	子育て支援論	災害支援論	教育支援論				必修3単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語※2	中国語※2					選択2単位
	理学療法理論科目	運動学実習	運動生理学実習	救急援助論	内科学 II	神経内科学 II	整形外科 II	必修7単位
		社会福祉学						
理学療法職業実践科目	画像評価学	運動療法学実習	義肢装具学 II	神経障害系理学療法学実習 I	運動器障害系理学療法学実習 I	小児期理学療法学演習	必修9単位	
	老年期理学療法学演習	スポーツ障害系理学療法学実習	地域理学療法学					
3年前期	理学療法理論科目	予防医学	地域包括ケア論					必修2単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学研究法	臨床技能論実習	理学療法評価学演習	徒手理学療法学	神経障害系理学療法学実習 II	運動器障害系理学療法学実習 II	必修9単位
		内部障害系理学療法学実習 I	内部障害系理学療法学実習 II	地域理学療法学実習				
	理学療法実習	理学療法評価実習						必修4単位
展開科目	地域共生論						必修2単位	
3年後期	理学療法職業実践科目	徒手理学療法学実習						必修1単位
	展開科目	マーケティング論	施設起業運営論	障がい者スポーツ論				必修3単位
		遊びとレクリエーション※3	生きがい創造※3	伝承遊び※3	体力測定論※3	メンタルヘルスマネジメント論※3	健康増進実践演習※3	選択9単位
		健康増進実践実習※3						
	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 I						必修6単位
総合科目	リハビリテーション総合演習						必修1単位	
4年前期	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 II	理学療法地域実習					必修7単位
	展開科目	障がい者スポーツ論実習						必修1単位
4年後期	理学療法職業実践科目	理学療法管理学	保健医療福祉関連制度論					必須2単位
		内部障害応用論実習						選択2単位
	総合科目	協働連携論総合実習	理学療法総合演習					必修3単位
							合計	129単位

※1より6単位以上選択、※2より4単位以上選択、※3より8単位以上選択

理学療法学科 履修モデル（生涯スポーツ支援）

区分		科目						単位
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	生物学	物理学 I	必修7単位
		英語 I						
		哲学入門※1	社会学※1	日本の伝統文化※1	日本の近代史※1	数学※2		選択5単位
	理学療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	リハビリテーション概論				必修5単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学 I	基礎理学療法学 II					必修2単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	生涯スポーツ論						必修1単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽※1	体育※1	物理学 II ※2	英語 II ※2			選択4単位
	理学療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 I	人間発達学	精神医学	必修9単位
		薬理学概論						
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学実習 I	基礎理学療法学実習 II	理学療法評価学				必修3単位
理学療法実習	理学療法見学実習 II						必修1単位	
展開科目	ボランティア論	労働衛生論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門※1						選択1単位
	理学療法理論科目	運動学 II	内科学 I	神経内科学 I	整形外科学 I	小児科学	老年医学	必修8単位
		画像診断学	栄養学					
	理学療法職業実践科目	理学療法評価学実習	運動療法学	物理療法学	日常生活活動学	義肢装具学 I		必修6単位
	理学療法実習	理学療法見学実習 III						必修1単位
展開科目	子育て支援論	災害支援論	教育支援論				必修3単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語※2	中国語※2					選択2単位
	理学療法理論科目	運動学実習	運動生理学実習	救急援助論	内科学 II	神経内科学 II	整形外科学 II	必修7単位
		社会福祉学						
理学療法職業実践科目	画像評価学	運動療法学実習	義肢装具学 II	神経障害系理学療法学実習 I	運動器障害系理学療法学実習 I	小児期理学療法学演習	必修9単位	
	老年期理学療法学演習	スポーツ障害系理学療法学実習	地域理学療法学					
3年前期	理学療法理論科目	予防医学	地域包括ケア論					必修2単位
	理学療法職業実践科目	基礎理学療法学研究法	臨床技能論実習	理学療法評価学演習	徒手理学療法学	神経障害系理学療法学実習 II	運動器障害系理学療法学実習 II	必修9単位
		内部障害系理学療法学実習 I	内部障害系理学療法学実習 II	地域理学療法学実習				
	理学療法実習	理学療法評価実習						必修4単位
展開科目	地域共生論						必修2単位	
3年後期	理学療法職業実践科目	徒手理学療法学実習						必修1単位
	展開科目	マーケティング論	施設起業運営論	障がい者スポーツ論				必修3単位
		スポーツリズムトレーニング論※3	パフォーマンス向上論※3	フィットネス論※3	ランニングトレーニング論※3	ゴルフトレーニング論※3	ピジントレーニング論※3	選択8単位
		シューフィッティング論※3						
	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 I						必修6単位
総合科目	リハビリテーション総合演習						必修1単位	
4年前期	理学療法実習	理学療法総合臨床実習 II	理学療法地域実習					必修7単位
	展開科目	障がい者スポーツ論実習						必修1単位
4年後期	理学療法職業実践科目	理学療法管理学	保健医療福祉関連制度論					必修2単位
		スポーツ障害応用論実習						選択2単位
	総合科目	協働連携論総合実習	理学療法総合演習					必修3単位
※1より6単位以上選択、※2より4単位以上選択、※3より8単位以上選択							合計	129単位

3つの履修モデル

展開科目

必修科目

全ライフステージの地域生活

- 児童期  
地域生活適応論
- 成人期  
地域生活適応論
- 老年期  
地域生活適応論

- 児童期  
地域生活実習
- 成人期  
地域生活実習
- 老年期  
地域生活実習

職業専門科目

作業療法理論科目群

職業実践科目群

基礎科目

初年次教育科目

人間と社会系科目

自然科学系科目

語学教育科目

総合科目

# 作業療法学科 児童期履修モデル

区分		科目						単位数
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	社会学		必修8単位
		生物学	物理学 I	英語 I				
		哲学入門	日本の伝統文化	数学				選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	運動学 I	リハビリテーション概論			必修6単位
	作業療法職業実践科目	作業療法学総論	基礎作業学	基礎作業学実習 I				必修3単位
展開科目	地域社会共生論	ボランティア論					必修3単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽	体育	英語 II				選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 II	人間発達学	薬理学概論	必修8単位
	作業療法職業実践科目	基礎作業学実習 II	作業療法管理・制度論	作業療法と倫理	作業療法評価学総論			必修4単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	地域社会共生論実習	災害支援論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門						選択1単位
	作業療法理論科目	運動学実習	内科学 I	神経内科学 I	整形外科 I	精神医学	小児科学	必修9単位
		老年医学	画像診断学	栄養学				
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法評価学実習 I	身体障害作業療法評価学実習 II	精神障害作業療法評価学実習	発達障害作業療法評価学実習	日常生活活動論実習	社会生活行為論実習	必修7単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 II						必修1単位
展開科目	子育て支援論	メンタルヘルスマネジメント論					必修2単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語	中国語					選択2単位
	作業療法理論科目	内科学 II	神経内科学 II	整形外科 II	地域包括ケア論	救急援助論	社会福祉学	必修6単位
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法基礎技術論	運動器疾患作業療法実習	中枢神経疾患作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 I	老年期障害作業療法実習	必修11単位
		作業分析活用論	作業分析活用論実習	作業療法義肢装具実習	地域生活作業療法実習 I	地域生活作業療法実習 II		
展開科目	マーケティング論	教育支援論					必修2単位	
3年前期	作業療法理論科目	予防医学						必修1単位
	作業療法職業実践科目	高次脳機能障害作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 II	老年期障害作業療法実習	住環境支援論	生活行為向上マネジメント論実習	必修9単位
		地域生活作業療法実習 III	家族援助論	作業療法研究法				
	作業療法実習	作業療法評価実習						必修5単位
展開科目	施設起業運営論						必修1単位	
3年後期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 I						必修7単位
	展開科目	精神障がい者就労環境論	身体障がい者就労環境論	障がい者スポーツ論				必修5単位
	展開科目	児童期地域生活適応論						選択2単位
4年前期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 II	作業療法地域実習					必修8単位
	展開科目実習	就労環境論実習	障がい者スポーツ論実習					必修2単位
	展開科目実習	児童期地域生活適応論実習						選択1単位
4年後期	総合科目	作業療法総合実習 I	作業療法総合実習 II	協働連携論総合実習				必修4単位
合計							130	単位

# 作業療法学科 成人期履修モデル

区分		科目						単位数
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	社会学		必修8単位
		生物学	物理学 I	英語 I				
		哲学入門	日本の近代史	日本の伝統文化	数学			選択4単位
	作業療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	運動学 I	リハビリテーション概論			必修6単位
	作業療法職業実践科目	作業療法学総論	基礎作業学	基礎作業学実習 I				必修3単位
展開科目	地域社会共生論	ボランティア論					必修3単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		体育	物理学 II	英語 II				選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 II	人間発達学	薬理学概論	必修8単位
	作業療法職業実践科目	基礎作業学実習 II	作業療法管理・制度論	作業療法と倫理	作業療法評価学総論			必修4単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	地域社会共生論実習	災害支援論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門						選択1単位
	作業療法理論科目	運動学実習	内科学 I	神経内科学 I	整形外科 I	精神医学	小児科学	必修9単位
		老年医学	画像診断学	栄養学				
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法評価学実習 I	身体障害作業療法評価学実習 II	精神障害作業療法評価学実習	発達障害作業療法評価学実習	日常生活活動論実習	社会生活行為論実習	必修7単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 II						必修1単位
展開科目	子育て支援論	メンタルヘルスマネジメント論					必修2単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		中国語						選択1単位
	作業療法理論科目	内科学 II	神経内科学 II	整形外科 II	地域包括ケア論	救急援助論	社会福祉学	必修6単位
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法基礎技術論	運動器疾患作業療法実習	中枢神経疾患作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 I	老年期障害作業療法実習	必修11単位
		作業分析活用論	作業分析活用論実習	作業療法義肢装具実習	地域生活作業療法実習 I	地域生活作業療法実習 II		
展開科目	マーケティング論	教育支援論					必修2単位	
3年前期	作業療法理論科目	予防医学						必修1単位
	作業療法職業実践科目	高次脳機能障害作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 II	老年期障害作業療法実習	住環境支援論	生活行為向上マネジメント論実習	必修9単位
		地域生活作業療法実習 III	家族援助論	作業療法研究法				
	作業療法実習	作業療法評価実習						必修5単位
展開科目	施設起業運営論						必修1単位	
3年後期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 I						必修7単位
	展開科目	精神障がい者就労環境論	身体障がい者就労環境論	障がい者スポーツ論				必修5単位
	展開科目	成人期地域生活適応論						選択2単位
4年前期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 II	作業療法地域実習					必修8単位
	展開科目実習	就労環境論実習	障がい者スポーツ論実習					必修2単位
	展開科目実習	成人期地域生活適応論実習						選択1単位
4年後期	総合科目	作業療法総合実習 I	作業療法総合実習 II	協働連携論総合実習				必修4単位
合計							130	単位

## 作業療法学科 老年期履修モデル

区分		科目						単位数
1年前期	共通基礎科目	学びの基盤	コミュニケーション論	教育学	倫理学入門	社会学		必修8単位
		生物学	物理学 I	英語 I				
		日本の近代史	日本の伝統文化	数学				選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学 I	生理学 I	運動学 I	リハビリテーション概論			必修6単位
	作業療法職業実践科目	作業療法学総論	基礎作業学	基礎作業学実習 I				必修3単位
展開科目	地域社会共生論	ボランティア論					必修3単位	
1年後期	共通基礎科目	心理学						必修1単位
		音楽	体育	英語 II				選択3単位
	作業療法理論科目	解剖学 II	解剖学 III	生理学 II	運動学 II	人間発達学	薬理学概論	必修8単位
	作業療法職業実践科目	基礎作業学実習 II	作業療法管理・制度論	作業療法と倫理	作業療法評価学総論			必修4単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 I						必修1単位
展開科目	地域社会共生論実習	災害支援論					必修2単位	
2年前期	共通基礎科目	経営学入門						選択1単位
	作業療法理論科目	運動学実習	内科学 I	神経内科学 I	整形外科 I	精神医学	小児科学	必修9単位
		老年医学	画像診断学	栄養学				
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法評価学実習 I	身体障害作業療法評価学実習 II	精神障害作業療法評価学実習	発達障害作業療法評価学実習	日常生活活動論実習	社会生活行為論実習	必修7単位
	作業療法実習	作業療法見学実習 II						必修1単位
展開科目	子育て支援論	メンタルヘルスマネジメント論					必修2単位	
2年後期	共通基礎科目	キャリア発達論	統計学					必修2単位
		韓国語	中国語					選択2単位
	作業療法理論科目	内科学 II	神経内科学 II	整形外科 II	地域包括ケア論	救急援助論	社会福祉学	必修6単位
	作業療法職業実践科目	身体障害作業療法基礎技術論	運動器疾患作業療法実習	中枢神経疾患作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 I	老年期障害作業療法実習	必修11単位
		作業分析活用論	作業分析活用論実習	作業療法義肢装具実習	地域生活作業療法実習 I	地域生活作業療法実習 II		
展開科目	マーケティング論	教育支援論					必修2単位	
3年前期	作業療法理論科目	予防医学						必修1単位
	作業療法職業実践科目	高次脳機能障害作業療法実習	精神障害作業療法実習	発達障害作業療法実習 II	老年期障害作業療法実習	住環境支援論	生活行為向上マネジメント論実習	必修9単位
		地域生活作業療法実習 III	家族援助論	作業療法研究法				
	作業療法実習	作業療法評価実習						必修5単位
展開科目	施設起業運営論						必修1単位	
3年後期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 I						必修7単位
	展開科目	精神障がい者就労環境論	身体障がい者就労環境論	障がい者スポーツ論				必修5単位
		展開科目	老年期地域生活適応論					選択2単位
4年前期	作業療法実習	作業療法総合臨床実習 II	作業療法地域実習					必修8単位
	展開科目実習	就労環境論実習	障がい者スポーツ論実習					必修2単位
	展開科目実習	老年期地域生活適応論実習						選択1単位
4年後期	総合科目	作業療法総合実習 I	作業療法総合実習 II	協働連携論総合実習				必修4単位
合計							130	単位

### 講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
体育	必	佐藤 隆彦	1	30	1年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	この授業では、体育活動（身体運動）を通じて学生の健康的な生活実現のために必要な最大限の身体的、精神的、かつ社会的発達を助成、涵養することを目指す。また、医療人として、また理学療法士、作業療法士としての教育を受ける中で、人間の運動の仕組みや身体の運動耐用量などを体育活動を通して学ぶ機会とする。様々なスポーツについて実践する機会を与えることにより、将来のリハビリテーション職の基礎となる、身体を動かすとは何か、運動の限界とは何かを体感する時間を提供する。また、この授業では、体育活動を通じたチームワークの形成から、コミュニケーション能力を身につけてもらうことも目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 人を尊び幅広い教養を有し、差別と偏見を持たない倫理感のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。					
	内容					担当教員
第1回	受講ガイダンス、体力テスト（文部科学省新体力テスト）					佐藤 隆彦
第2回	バスケットボール（ボールハンドリング、基礎的なパス、基礎的なドリブルの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第3回	バスケットボール（ボールハンドリング、基礎的なパス、基礎的なドリブルの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第4回	バスケットボール（応用的なパス、応用的なドリブル、1対1のスキル、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第5回	バスケットボール（応用的なパス、応用的なドリブル、1対1のオフェンススキル、1対1のディフェンススキル、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第6回	バスケットボール					佐藤 隆彦
第7回	バスケットボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、1対1のディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第8回	バレーボール（アンダーハンドパスの基礎、オーバーハンドパスの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第9回	バレーボール（アンダーハンドパスの基礎、オーバーハンドパスの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第10回	バレーボール（サーブの基礎、アタックの基礎、ブロックの基礎）					佐藤 隆彦
第11回	バレーボール（サーブの基礎、アタックの基礎、ブロックの基礎）					佐藤 隆彦
第12回	バレーボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第13回	バレーボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第14回	体力テスト（文部科学省新体力テスト）					佐藤 隆彦
第15回	体力テスト（文部科学省新体力テスト）、本科目の振り返り					佐藤 隆彦
備考						
授業時間以外の学習について	授業での運動に備えて、正しい生活習慣を身につけて体調を整えること。					
課題・評価方法	授業の参加姿勢（50%）、技能等の向上度（50%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学実習	必	安田 孝志・藤谷 亮	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、運動学で学んだことを基盤として、正常な姿勢や運動を臨床的手法としての観察・分析だけでなく、動作解析装置を使用してバイオメカニクスの視点から分析能力を養い、評価から治療に至る仮説検証過程を理解することである。                      (オムニバス方式/15回)                      (安田 孝志/8回)</p> <p>三次元動作解析装置、床反力計などを用いて、運動時における関節運動とモーメントを計測し分析するという一連の流れをグループワークにて計測を行う。それらのデータをもとに分析、考察を行うことでバイオメカニクスにおける基礎を養っていく。                      (藤谷 亮/7回)</p> <p>特殊な機器を使用しない臨床的姿勢観察と分析、姿勢の評価、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	運動機能検査機器の原理と意義：重心動揺計、床反力計、動作解析装置など					安田 孝志
第2回	運動機能検査機器の取り扱い、計測方法について					安田 孝志
第3回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田 孝志
第4回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田 孝志
第5回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田 孝志
第6回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田 孝志
第7回	計測結果と分析についての発表					安田 孝志
第8回	計測結果と分析についての発表					安田 孝志
第9回	姿勢観察・分析の基礎 姿勢と運動の捉え方					藤谷 亮
第10回	運動観察と分析：寝返り					藤谷 亮
第11回	運動観察と分析：起き上がり					藤谷 亮
第12回	運動観察と分析：立ち上がり					藤谷 亮
第13回	運動観察と分析：歩行① 歩行の運動観察と分析					藤谷 亮
第14回	運動観察と分析：歩行② 歩行の運動観察と分析					藤谷 亮
第15回	運動観察と分析：歩行③ 疾患別の異常歩行の運動観察・分析					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。					
課題・評価方法	発表・レポート (50%) 定期試験 (50%)					
教科書	配布資料 伊東元・他(編)：運動学, 医学書院 畠中泰彦：姿勢・動作・歩行分析. 羊土社					
参考書	内山 靖・他(編)：計測法入門 計り方、計る意味. 協同医書出版社. 江原義弘, 山本澄子著：ボディダイナミクス入門 立ち上がり動作の分析. 医歯薬出版. 中村隆一編著, 齋藤宏, 長崎浩著：臨床運動学 第3版. 医歯薬出版株式会社. Anne Shumway-Cook・他)：モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ. 医歯薬出版. 中村隆一・他：基礎運動学					
オフィスアワー	安田 後期：水 16：10～17：15 藤谷 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学演習	必	安田孝志・藤谷亮	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>授業目標は、運動学で学んだことを基盤として、正常な姿勢や運動を臨床的手法としての観察・分析だけでなく、動作解析装置を使用してバイオメカニクスの視点から分析能力を養い、評価から治療に至る仮説検証過程を理解することである。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (安田孝志/8回)</p> <p>三次元動作解析装置、床反力計などを用いて、運動時における関節運動とモーメントを計測し分析するという一連の流れをグループワークにて計測を行う。それらのデータをもとに分析、考察を行うことでバイオメカニクスにおける基礎を養っていく。</p> <p>(藤谷亮/7回)</p> <p>特殊な機器を使用しない臨床的姿勢観察と分析、姿勢の評価、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動機能検査機器の原理と意義：重心動揺計、床反力計、動作解析装置など					安田孝志
第2回	運動機能検査機器の取り扱い、計測方法について					安田孝志
第3回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田孝志
第4回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田孝志
第5回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田孝志
第6回	運動機能検査機器・重心動揺計・筋電計・呼気ガス分析装置を用いた計測と分析					安田孝志
第7回	計測結果と分析についての発表					安田孝志
第8回	計測結果と分析についての発表					安田孝志
第9回	姿勢観察・分析の基礎 姿勢と運動の捉え方					藤谷亮
第10回	運動観察と分析：寝返り					藤谷亮
第11回	運動観察と分析：起き上がり					藤谷亮
第12回	運動観察と分析：立ち上がり					藤谷亮
第13回	運動観察と分析：歩行① 歩行の運動観察と分析①					藤谷亮
第14回	運動観察と分析：歩行② 歩行の運動観察と分析②					藤谷亮
第15回	運動観察と分析：歩行③ 疾患別の異常歩行の運動観察・分析					藤谷亮
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本講義においては、運動学、解剖学や生理学などの基礎分野の理解が必要となります。</p> <p>その分野を復習してから講義に臨んでください。</p> <p>また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</p>					
課題・評価方法	授業態度(10%)、発表・レポート(40%) 定期試験(50%)					
教科書	<p>配布資料</p> <p>伊東元・他(編)：運動学、医学書院</p> <p>畠中泰彦：姿勢・動作・歩行分析、羊土社</p>					
参考書	<p>内山 靖・他(編)：計測法入門 計り方、計る意味、協同医書出版社。</p> <p>江原義弘、山本澄子著：ボディダイナミクス入門 立ち上がり動作の分析、医歯薬出版。</p> <p>中村隆一編著、齋藤宏、長崎浩著：臨床運動学 第3版、医歯薬出版株式会社。</p> <p>Anne Shumway-Cook・他)：モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ、医歯薬出版。</p> <p>中村隆一・他：基礎運動学</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動生理学実習	必	佐藤 隆彦	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動方法と筋骨格系機能の変化について講義と演習を交えて教授する。そして、どのような運動を行うかによって、呼吸、循環、代謝機能がどのように変化するかについても理解できるように講義と演習を交えて教授していく。運動の種類によって、筋機能にどのような影響を及ぼすかについて習得する。筋電図、超音波装置、等速性運動装置などを用いて、筋収縮時の生理学的反応を解析し、そのデータの解釈と運動指導に応用できる知識と技術を習得してもらうことも目的とする。また、運動負荷試験などを体験し、そのデータの分析・解釈を学び、運動指導に応用できる知識と技術を習得することも目的とする。この授業の目標は、運動における身体機能の変化や、測定方法やトレーニング効果について運動生理学的な視点から理解することである。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	筋の運動生理学（筋収縮とエネルギー供給系）					佐藤 隆彦
第2回	筋の運動生理学（筋線維の種類とその特徴）					佐藤 隆彦
第3回	筋の運動生理学（筋収縮における神経の役割、筋の収縮様式と筋力）					佐藤 隆彦
第4回	骨、関節の運動生理学					佐藤 隆彦
第5回	骨、関節の運動生理学					佐藤 隆彦
第6回	筋電図、超音波装置、等速性運動装置による骨格筋機能の測定、解析					佐藤 隆彦
第7回	筋電図、超音波装置、等速性運動装置による骨格筋機能の測定、解析					佐藤 隆彦
第8回	運動時の呼吸応答					佐藤 隆彦
第9回	運動時の呼吸応答					佐藤 隆彦
第10回	運動時の循環応答					佐藤 隆彦
第11回	運動の種類とエネルギー供給					佐藤 隆彦
第12回	最大酸素摂取量、最高酸素摂取量測定					佐藤 隆彦
第13回	呼吸機能測定					佐藤 隆彦
第14回	運動負荷試験測定、解析					佐藤 隆彦
第15回	運動負荷試験測定、解析					佐藤 隆彦
備考						
授業時間以外の学習について	本授業においては、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート（授業中の課題提出）40%、定期試験 60%					
教科書	配布資料 リハビリテーション運動生理学：玉木彰（監修）、解良武士（編集）、メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動生理学演習	必	治郎丸 卓三	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>運動方法と筋骨格系機能の変化について講義と演習を交えて教授する。そして、どのような運動を行うかによって、呼吸、循環、代謝機能がどのように変化するかについても理解できるように講義と演習を交えて教授していく。運動の種類によって、筋機能にどのような影響を及ぼすかについて習得する。筋電図、超音波装置、等速性運動装置などを用いて、筋収縮時の生理学的反応を解析し、そのデータの解釈と運動指導に応用できる知識と技術を習得してもらうことも目的とする。また、運動負荷試験などを体験し、そのデータの分析・解釈を学び、運動指導に応用できる知識と技術を習得することも目的とする。この授業の目標は、運動における身体機能の変化や、測定方法やトレーニング効果について運動生理学的な視点から理解することである。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	筋の運動生理学（筋収縮とエネルギー供給系）					治郎丸卓三
第2回	筋の運動生理学（筋線維の種類とその特徴）					治郎丸卓三
第3回	筋の運動生理学（筋収縮における神経の役割、筋の収縮様式と筋力）					治郎丸卓三
第4回	骨、関節の運動生理学					治郎丸卓三
第5回	骨、関節の運動生理学					治郎丸卓三
第6回	筋電図、超音波装置、等速性運動装置による骨格筋機能の測定、解析					治郎丸卓三
第7回	筋電図、超音波装置、等速性運動装置による骨格筋機能の測定、解析					治郎丸卓三
第8回	運動時の呼吸応答					治郎丸卓三
第9回	運動時の呼吸応答					治郎丸卓三
第10回	運動時の循環応答					治郎丸卓三
第11回	運動の種類とエネルギー供給					治郎丸卓三
第12回	最大酸素摂取量、最高酸素摂取量測定					治郎丸卓三
第13回	呼吸機能測定					治郎丸卓三
第14回	運動負荷試験測定、解析					治郎丸卓三
第15回	運動負荷試験測定、解析					治郎丸卓三
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、生理学、運動学などの基礎分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	<p>授業態度（授業中の課題提出）40%、定期試験 60%</p>					
教科書	<p>配布資料 リハビリテーション運動生理学：玉木彰（監修）、解良武士（編集）、メジカルビュー社</p>					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
救急援助論	必	野口 真一	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、医療にかかわる職種として生命を脅かす病態の兆候を示す患者への医学的な初期対処法について理解し、実施できるようになることである。内容としては、普通救命の基礎、救急医療を必要とする疾患とその兆候、ショックや意識消失時などの生体反応とその際の対応、死に直結する疾患とその兆候、初期対応などについて学習する。AEDの使用を含め心肺蘇生法を身につけ、医療職種として必要となる医学的な対処方法とその知識を獲得することを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	熱中症の病態と予防・応急処置					野口 真一
第2回	意識消失の原因と病態					野口 真一
第3回	急性心不全と呼吸不全					野口 真一
第4回	ショックの概念の病態					野口 真一
第5回	頭部外傷の救急処置					野口 真一
第6回	一般外傷に対する救急処置					野口 真一
第7回	スポーツ障害と外傷に対する救急処置					野口 真一
第8回	一次救命処置					野口 真一
備考						
授業時間以外の学習について	医療職種として重要な知識ですので、各講義ごとに復習をするようにしてください。					
課題・評価方法	授業内課題 (10%) 実技 (20%) 期末テスト (70%)					
教科書	目で見える救命救急処置					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：水、金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
救急援助論	必	金沢 伸彦	1	15	1年次 後期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、医療にかかわる職種として生命を脅かす病態の兆候を示す患者への医学的な初期対処法について理解し、実施できるようになることである。内容としては、普通救命の基礎、救急医療を必要とする疾患とその兆候、ショックや意識消失時などの生体反応とその際の対応、死に直結する疾患とその兆候、初期対応などについて学習する。AEDの使用を含め心肺蘇生法を身につけ、医療職種として必要となる医学的な対処方法とその知識を獲得することを目的とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	熱中症の病態と予防・応急処置					金沢 伸彦
第2回	意識消失の原因と病態					金沢 伸彦
第3回	急性心不全と呼吸不全					金沢 伸彦
第4回	ショックの概念の病態					金沢 伸彦
第5回	頭部外傷の救急処置					金沢 伸彦
第6回	一般外傷に対する救急処置					金沢 伸彦
第7回	スポーツ障害と外傷に対する救急処置					金沢 伸彦
第8回	一次救命処置					金沢 伸彦
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	授業内課題 (10%) 実技 (20%) 期末テスト (70%)					
教科書	目で見る救命救急処置					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域包括ケア論	必	鈴木 美香・弘部 重信	1	30	3年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>現在、日本は人口の減少と少子高齢化が進むなかで、“住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築”が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め、実践のあり方について理解することを授業目標とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)                      (弘部 重信/3回) 地域包括ケアシステムの概要について学び、地域包括ケアシステムを支える専門職の役割について知ることを目標とする。                      (鈴木 美香/12回) 地域包括ケアシステムを取り巻く政策と動向、現状とその課題を知り、事例検討を通して地域包括ケアシステム構築に向けた社会の在り方について学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域包括ケアシステムの概要 (人口構造の変化と社会保障への影響)					弘部 重信
第2回	地域包括ケアシステムの概念と制度					弘部 重信
第3回	地域包括ケアシステムを支える専門職の役割 (多職種連携)					弘部 重信
第4回	地域共生社会とは何か					鈴木美香
第5回	自助・共助・公助・互助について					鈴木美香
第6回	地域包括ケアシステムの主な政策と動向					鈴木美香
第7回	地域包括支援センターの役割と機能					鈴木美香
第8回	地域包括ケアシステム (地域包括ケア病棟、看護小規模多機能)					鈴木美香
第9回	自分の住む地域の地域資源について調べる					鈴木美香
第10回	地域包括ケアシステムの現状と課題 (リハビリテーション職に期待される役割)					鈴木美香
第11回	地域ケア会議について (模擬会議)					鈴木美香
第12回	事例検討1 (グループワーク)					鈴木美香
第13回	事例検討1 (発表)					鈴木美香
第14回	事例検討2 (グループワーク)					鈴木美香
第15回	事例検討2 (発表)					鈴木美香
備考						
授業時間以外の学習について	本講義は医療・介護・福祉分野を体系的に理解しておくことで授業理解がスムーズとなります。これらの分野を予習し、授業後は、教科書の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	小テスト (10%)、レポート課題 (90%)					
教科書	備酒伸彦 (編) : 地域リハビリテーション学テキスト, 南江堂					
参考書	高橋紘士 (編) : オーム社					
オフィスアワー	弘部 前期 : 水 16:10~17:15 鈴木 前期 : 水 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域包括ケア論	必	川崎浩子・鈴木美香	1	30	3年次前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>現在、日本は人口の減少と少子高齢化が進むなかで、“住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築”が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め、実践のあり方について理解することを授業目標とする。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)            (川崎浩子／3回) 地域包括ケアシステムの概要について学び、地域包括ケアシステムを支える専門職の役割について知ることを目標とする。            (鈴木美香／12回) 地域包括ケアシステムを取り巻く政策と動向、現状とその課題を知り、事例検討を通して地域包括ケアシステム構築に向けた社会の在り方について学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3            理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域包括ケアシステムの概要（人口構造の変化と社会保障への影響）					川崎浩子
第2回	地域包括ケアシステムの概念と制度					川崎浩子
第3回	地域包括ケアシステムを支える専門職の役割（多職種連携）					川崎浩子
第4回	地域共生社会とは何か					鈴木美香
第5回	自助・共助・公助・互助について					鈴木美香
第6回	地域包括ケアシステムの主な政策と動向					鈴木美香
第7回	地域包括支援センターの役割と機能					鈴木美香
第8回	地域包括ケアシステム（地域包括ケア病棟、看護小規模多機能）					鈴木美香
第9回	自分の住む地域の地域資源について調べる					鈴木美香
第10回	地域包括ケアシステムの現状と課題（リハビリテーション職に期待される役割）					鈴木美香
第11回	地域ケア会議について（模擬会議）					鈴木美香
第12回	事例検討1（グループワーク）					鈴木美香
第13回	事例検討1（発表）					鈴木美香
第14回	事例検討2（グループワーク）					鈴木美香
第15回	事例検討2（発表）					鈴木美香
備考						
授業時間以外の学習について	本講義は医療・介護・福祉分野を体系的に理解しておくことで授業理解がスムーズとなります。これらの分野を復習し、地域社会に興味を持って講義に臨んで下さい。					
課題・評価方法	授業態度（10%）、レポート課題（90%）					
教科書	備酒伸彦（編）：地域リハビリテーション学テキスト、南江堂					
参考書	高橋紘士（編）：オーム社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法実習 I	必	里中 綾子	1	30	1年次 後期	実習
履修要件						
授業概要 到達目標	<p>物理学を基礎とした身体運動、つまりボディメカニクスについて理解することにより、介助者、被介助者の双方に安全で快適な動作介助の基本的知識について学習する。                      本講の目的としては、ボディメカニクスを用いた各基本動作（ベッド上の移動や寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗動作、歩行介助など）の動作介助法を習得することとする。                      授業形式は、実技を中心とする。実技においては介助者、被介助者役を交互に経験することにより、介助方法の違いにより実際に非介助者がどのように感じるのかについて学ぶことにより、よりよい介助のあり方を理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3                      理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内 容					担当教員
第1回	動作介助に必要なボディメカニクス 動作介助の基本					里中 綾子
第2回	ベッド上での上下・左右への移動介助					里中 綾子
第3回	寝返りの介助 起き上がりの介助					里中 綾子
第4回	起き上がりの介助 椅子からの立ち上がり介助					里中 綾子
第5回	座位での移動介助 床からの立ち上がり介助					里中 綾子
第6回	移乗介助 車いす⇄ベッド（一人介助・二人介助）					里中 綾子
第7回	スライディングボード・リフトの使い方					里中 綾子
第8回	杖歩行・階段昇降介助					里中 綾子
備考						
授業時間以外の学習について	<p>講義後は教科書を見返し要点をまとめることで復習になるように進めて下さい。</p>					
課題・評価方法	<p>実技試験70% 課題20% 小テスト10%</p>					
教科書	<p>木村哲彦・他（編）：新イラストによる安全な動作介助のてびき第2版。医歯薬出版。</p>					
参考書	<p>なし</p>					
オフィスアワー	<p>後期：水 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法Ⅲ	必	川崎 浩子	1	15	1年次 後期	講義
履修要件						
授業概要 到達目標	<p>物理学を基礎とした身体運動、つまりボディメカニクスについて理解することにより、介助者、被介助者の双方に安全で快適な動作介助の基本的知識について学習する。                      本講の目的としては、ボディメカニクスを用いた各基本動作（ベッド上の移動や寝返り、起き上がり、立ち上がり、移乗動作、歩行介助など）の動作介助法を習得することとする。                      授業形式は、実技を中心とする。実技においては介助者、被介助者役を交互に経験することにより、介助方法の違いにより実際に非介助者がどのように感じるのかについて学ぶことにより、よりよい介助のあり方を理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3                      理学療法の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	動作介助に必要なボディメカニクス 動作介助の基本					川崎 浩子
第2回	ベッド上での上下・左右への移動介助					川崎 浩子
第3回	寝返りの介助 起き上がりの介助					川崎 浩子
第4回	起き上がりの介助 椅子からの立ち上がり介助					川崎 浩子
第5回	座位での移動介助 床からの立ち上がり介助					川崎 浩子
第6回	移乗介助 車いす⇄ベッド（一人介助・二人介助）					川崎 浩子
第7回	スライディングボード・リフトの使い方					川崎 浩子
第8回	杖歩行・階段昇降介助					川崎 浩子
備考						
授業時間以外の学習について	<p>事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。</p>					
課題・評価方法	<p>実技試験70% 課題20% 授業態度10%</p>					
教科書	<p>木村哲彦・他（編）：新イラストによる安全な動作介助のてびき第2版。医歯薬出版。</p>					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法研究法	必	里中 綾子	1	15	3年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法士と研究：なぜ（卒業）研究をし、なぜ研究法を学ぶのか					里中 綾子
第2回	研究の基本事項：尺度、有効数字、操作的定義、倫理的配慮					里中 綾子
第3回	データの分析：統計学的手法					里中 綾子
第4回	データの分析：統計学的手法					里中 綾子
第5回	論文の書き方：わかりやすい文章とは					里中 綾子
第6回	研究発表方法：プレゼンテーションにおける戦略					里中 綾子
第7回	英語論文の抄読発表会					里中 綾子
第8回	発表会におけるリフレクション					里中 綾子
備考						
授業時間以外の学習について	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、レポート課題 (50点)、グループ発表 (40点)					
教科書	なし					
参考書	理学療法研究法：内山靖・他編. 医学書院. 第3版					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法研究法	必	山内 正雄	1	15	3年次 前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法士と研究：なぜ（卒業）研究をし、なぜ研究法を学ぶのか					山内 正雄
第2回	研究の基本事項：尺度、有効数字、操作的定義、倫理的配慮					山内 正雄
第3回	データの分析：統計学的手法（1）					山内 正雄
第4回	データの分析：統計学的手法（2）					山内 正雄
第5回	論文の書き方：わかりやすい文章とは					山内 正雄
第6回	研究発表方法：プレゼンテーションにおける戦略					山内 正雄
第7回	英語論文の抄読発表会					山内 正雄
第8回	発表会におけるリフレクション					山内 正雄
備考						
授業時間以外の学習について	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(50点)、グループ発表(40点)					
教科書	特になし					
参考書	理学療法研究法：内山靖・他編. 医学書院. 第3版					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法実習Ⅱ	必	宇於崎 孝	1	30	1年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、触診技術論で学習した内容をもとに、骨・関節・筋の触診技術習得と触診を通して、認識できた組織に対して、それが皮膚下において形、大きさ、硬さ、位置、走行、運動性について理解する。また、解剖学的位置でのみなく、さまざまな関節の肢位や姿勢の変化による組織変化についても理解する。内容としては、演習を通して上肢帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節・手部・下肢帯・股関節・膝関節・下腿・足関節・足部・脊柱・骨盤の各身体部位の触診法と四肢・体幹の機能解剖について学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	触診概論、触診方法の原理原則					宇於崎 孝
第2回	上肢帯の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第3回	肩関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第4回	肩関節の筋の触診					宇於崎 孝
第5回	肘関節・前腕の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第6回	手関節と手部の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第7回	手関節と手部の筋の触診					宇於崎 孝
第8回	下肢帯・股関節の骨の触診					宇於崎 孝
第9回	下肢帯・股関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第10回	下肢帯・股関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第11回	膝関節・下腿の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第12回	膝関節・下腿の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第13回	足関節と足部の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第14回	脊柱の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第15回	脊柱の筋の触診					宇於崎 孝
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、解剖学と運動学の理解が必要となります。その分野を授業の進行に合わせて復習しながら講義に臨んでください。また講義後は、学生同士で触診の復習を進めてください。					
課題・評価方法	筆記小試験 (30%)、実技試験 (30%)、定期試験(40%)					
教科書	河上敬介：骨格筋の形と触察法改訂第2版、大峰閣					
参考書	野村 嶺(編)：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、医学書院。 竹井 仁：触診機能解剖カラーアトラス上・下、文光堂 野島元雄監(訳)：図解 四肢と脊椎の診かた、医歯薬出版。					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法学演習	必	宇於崎孝	1	30	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、触診技術論で学習した内容をもとに、骨・関節・筋の触診技術習得と触診を通して、認識できた組織に対して、それが皮膚下において形、大きさ、硬さ、位置、走行、運動性について理解する。また、解剖学的位置でのみなく、さまざまな関節の肢位や姿勢の変化による組織変化についても理解する。内容としては、演習を通して上肢帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節・手部・下肢帯・股関節・膝関節・下腿・足関節・足部・脊柱・骨盤の各身体部位の触診法と四肢・体幹の機能解剖について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	触診概論、触診方法の原理原則					宇於崎 孝
第2回	上肢帯の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第3回	肩関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第4回	肩関節の筋の触診					宇於崎 孝
第5回	肘関節・前腕の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第6回	手関節と手部の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第7回	手関節と手部の筋の触診					宇於崎 孝
第8回	下肢帯・股関節の骨の触診					宇於崎 孝
第9回	下肢帯・股関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第10回	下肢帯・股関節の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第11回	膝関節・下腿の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第12回	膝関節・下腿の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第13回	足関節と足部の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第14回	脊柱の骨と筋の触診					宇於崎 孝
第15回	脊柱の筋の触診					宇於崎 孝
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本講義においては、解剖学と運動学の理解が必要となります。その分野を授業の進行に合わせて復習しながら講義に臨んでください。また講義後は、学生同士で触診の復習を進めてください。</p>					
課題・評価方法	筆記小試験 (30%)、実技試験 (30%) 定期試験 (40%)					
教科書	河上敬介：骨格筋の形と触察法改訂第2版。大峰閣					
参考書	<p>野村 嶺(編)：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学。医学書院。                  竹井 仁：触診機能解剖カラーアトラス上・下。文光堂                  野島元雄監(訳)：図解 四肢と脊椎の診かた。医歯薬出版。</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
臨床技能論実習	必	川崎 浩子	1	30	3年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>リハビリテーション医学・医療は「学習の医学・医療」であり、臨床において患者に適切な治療ができ、有効な経験が積み、その中で生涯伸び続けることが重要である。そのため、実践能力の高い理学療法士となるため、社会人としてのマナーや技術力、判断力など臨床現場で必要とされる理学療法のスタンダードを学び、目的、適応、方法など一連の過程が実践できる臨床能力養う。</p> <p>授業では、患者役・学生役・評価者の3名1組となり、患者役・学生役は、模擬患者を設定した様々な課題に取り組み、評価者は、手技の関する評価用紙を用いて客観的に評価し、フィードバックを行う。これにより、自分自身の問題のみならず他の学生が陥りやすい問題を共有し、修正するための練習を行うことで理学療法士としての実践的なスキルアップを図る。</p> <p>理学療法士に必要な標準予防策、リスク管理、コミュニケーション技法・面接を学び、整形外科や脳血管障害の代表疾患を想定した模擬患者に対して、理学療法評価、理学療法治療技術及び介助技術を行い、グループでフィードバックを行い、改善に向け練習し、スキルアップを図る。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 地域住民を取り巻く多職種と必要な信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをもって理学療法を実践することができる。</p> <p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	臨床技能論概要 標準予防策、リスク管理					川崎 浩子
第2回	コミュニケーション技法・面接					川崎 浩子
第3回	血圧・脈拍測定 形態計測（下肢長・周径）					川崎 浩子
第4回	関節可動域測定					川崎 浩子
第5回	筋力測定					川崎 浩子
第6回	感覚検査					川崎 浩子
第7回	反射検査・反射 脳卒中運動機能検査 運動失調症検査					川崎 浩子
第8回	起き上がり					川崎 浩子
第9回	立ち上がり・着座					川崎 浩子
第10回	車いす移乗介助・駆動介助					川崎 浩子
第11回	関節可動域訓練					川崎 浩子
第12回	筋力増強訓練					川崎 浩子
第13回	部分荷重練習					川崎 浩子
第14回	物理療法（ホットパック）					川崎 浩子
第15回	歩行練習					川崎 浩子
備考						
授業時間以外の学習について	理学療法の対象となる疾患・評価・動作について、講義前に復習しておいてください。授業時間は限られています。評価の実技のスキルアップを図れるように各自練習してください。					
課題・評価方法	実技試験50% 期末試験（筆記）50%					
教科書	才藤栄一（監）：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編、金原出版					
参考書	松澤 正：理学療法評価学（第5版）、金原出版 津山直一他訳：新・徒手筋力検査法（第8版）、協同医書出版社					
オフィスアワー	川崎 前期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
臨床技能論	必	川崎浩子・鈴木美香	1	30	3年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>リハビリテーション医学・医療は「学習の医学・医療」であり、臨床において患者に適切な治療ができ、有効な経験が積み、その中で生涯伸び続けることが重要である。そのため、実践能力の高い理学療法士となるため、社会人としてのマナーや技術力、判断力など臨床現場で必要とされる理学療法のスタンダードを学び、目的、適応、方法など一連の過程が実践できる臨床能力を養う。</p> <p>授業では、患者役・学生役・評価者の3名1組となり、患者役・学生役は、模擬患者を設定した様々な課題に取り組み、評価者は、手技に関する評価用紙を用いて客観的に評価し、フィードバックを行う。これにより、自分自身の問題のみならず他の学生が陥りやすい問題を共有し、修正するための練習を行うことで理学療法士としての実践的なスキルアップを図る。</p> <p>(オムニバス形式／全8回)            (5 鈴木美香／4回) 理学療法士に必要な標準予防策、リスク管理、コミュニケーション技法・面接を学び、血圧・脈拍測定や形態計測を実践的に学習する。            (9 川崎浩子／4回) 整形外科や脳血管障害の代表疾患を想定した模擬患者に対して、検査・測定(関節可動域測定、筋力検査、反射検査、運動機能検査など)を行い、グループでフィードバックを行い、改善に向け練習し、スキルアップを図る。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を發揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	臨床技能論概要 標準予防策、リスク管理					鈴木美香
第2回	コミュニケーション技法・面接					鈴木美香
第3回	血圧・脈拍測定					鈴木美香
第4回	形態計測(下肢長・周径)					鈴木美香
第5回	関節可動域測定					川崎浩子
第6回	筋力測定					川崎浩子
第7回	感覚検査					川崎浩子
第8回	反射・脳卒中運動機能検査					川崎浩子
備考						
授業時間以外の学習について	理学療法の対象となる疾患について、病態・障害像が想起できるように復習しておいてください。授業時間は限られています。評価の実技のスキルアップを図れるように各自練習してください。					
課題・評価方法	実技試験50% 期末試験(筆記)40% 授業態度10%					
教科書	才藤栄一(監): PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編. 金原出版					
参考書	松澤 正: 理学療法評価学(第5版). 金原出版 津山直一他訳: 新・徒手筋力検査法(第8版). 協同医書出版社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学実習	必	宇於崎 孝・大西 均	2	60	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>理学療法評価における検査・測定の目的を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。                      (オムニバス方式/全30回)                      (宇於崎 孝/26回)</p> <p>関節可動域検査といった基本的理学療法評価を学びます。基本となる肢位、姿勢、また注意点を必ず押さえるとともに、教科書を見ることなく実施できるようになることを目標に進めていきます。また、道具を必要としない筋力評価、徒手筋力評価について学習する。肢位、段階付け、代償など注意点を抑えながら実技を習得していく。また痛みや高次脳機能検査などについても学ぶ。                      (大西 均/4回)</p> <p>解剖学、運動学を整理しているからこそ理解して、実施できるテストが整形外科的テスト、筋緊張検査になる。各検査の目的・意義が理解できることが目標となる。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容		担当教員			
第1回	関節可動域測定 (ROM-t) ROM test概論、肩関節 屈曲・伸展		宇於崎 孝			
第2回	肩関節 外転・内転、外旋・内旋		宇於崎 孝			
第3回	肩関節 水平屈曲・水平伸展、肩甲帯		宇於崎 孝			
第4回	肘関節 屈曲・伸展、前腕 回内・回外		宇於崎 孝			
第5回	手関節 掌屈・背屈、尺屈・橈屈 手指		宇於崎 孝			
第6回	股関節 屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋		宇於崎 孝			
第7回	膝関節 屈曲・伸展、足関節 背屈・底屈、足部		宇於崎 孝			
第8回	体幹 屈曲・伸展、側屈、回旋		宇於崎 孝			
第9回	頸部 屈曲・伸展、側屈、回旋 顎関節		宇於崎 孝			
第10回	徒手筋力検査 (MMT) MMTの概論 上肢の検査		宇於崎 孝			
第11回	肩関節		宇於崎 孝			
第12回	肩関節		宇於崎 孝			
第13回	肩関節		宇於崎 孝			
第14回	肘関節		宇於崎 孝			
第15回	手関節 指		宇於崎 孝			
第16回	肩甲帯		宇於崎 孝			
第17回	下肢の検査 股関節		宇於崎 孝			
第18回	股関節		宇於崎 孝			
第19回	股関節		宇於崎 孝			
第20回	膝関節		宇於崎 孝			
第21回	足関節		宇於崎 孝			
第22回	体幹の検査		宇於崎 孝			
第23回	体幹の検査		宇於崎 孝			
第24回	頸筋の検査 顔面筋 (脳神経支配筋)		宇於崎 孝			
第25回	痛みの評価		宇於崎 孝			
第26回	高次脳機能検査		宇於崎 孝			
第27回	整形外科的テスト		大西均			
第28回	整形外科的テスト		大西均			
第29回	反射検査		大西均			
第30回	筋トーン検査		大西均			
備考						
授業時間以外の学習について	実技中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	中間試験 (30%)、小テスト (20%)、定期試験 (50%)					
教科書	新・徒手筋力検査法 (原著第9版) : 協同医書出版 津山直一著 理学療法評価学 : 金原出版 松澤正著					
参考書	Anne Shumway-Cook・他) : モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ、医歯薬出版。					
オフィスアワー	大西 前期 : 水 16:10~17:15 宇於崎 前期 : 月 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習Ⅰ	必	安田孝志・宇於崎孝・大西均	2	60	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法評価における検査・測定を目的を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。各論では関節可動域検査、筋力検査、脳神経検査、高次脳検査、反射検査、筋トーン検査、痛みについて、講義と演習を行う。整形外科的疾患に対する検査測定では、足関節の評価法などを臨床に即した考え方と最新の研究における評価法を交え、具体的に実習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	関節可動域測定 (ROM-t) ROM test概論、 肩関節 屈曲・伸展					宇於崎孝
第2回	肩関節 外転・内転、外旋・内旋					宇於崎孝
第3回	肩関節 水平屈曲・水平伸展、肩甲帯					宇於崎孝
第4回	肘関節 屈曲・伸展、前腕 回内・回外					宇於崎孝
第5回	手関節 掌屈・背屈、尺屈・橈屈 手指					宇於崎孝
第6回	股関節 屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋					宇於崎孝
第7回	膝関節 屈曲・伸展、足関節 背屈・底屈、足部					宇於崎孝
第8回	体幹 屈曲・伸展、側屈、回旋					宇於崎孝
第9回	頸部 屈曲・伸展、側屈、回旋 顎関節					宇於崎孝
第10回	徒手筋力検査 (MMT) MMTの概論 上肢の検査					安田孝志
第11回	肩関節					安田孝志
第12回	肩関節					安田孝志
第13回	肩関節					安田孝志
第14回	肘関節					安田孝志
第15回	手関節 指					安田孝志
第16回	肩甲帯					安田孝志
第17回	下肢の検査 股関節					安田孝志
第18回	股関節					安田孝志
第19回	股関節					安田孝志
第20回	膝関節					安田孝志
第21回	足関節					安田孝志
第22回	体幹の検査					安田孝志
第23回	体幹の検査					安田孝志
第24回	頸筋の検査 顔面筋 (脳神経支配筋)					安田孝志
第25回	痛みの評価					安田孝志
第26回	高次脳機能検査					安田孝志
第27回	整形外科的テスト1					大西均
第28回	整形外科的テスト2					大西均
第29回	反射検査					大西均
第30回	筋トーン検査					大西均
備考						
授業時間以外の学習について	演習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	中間試験 (30%) 小テスト (20%)、定期試験 (50%)					
教科書	新・徒手筋力検査法 (原著第9版) : 協同医書出版 津山直一著 理学療法評価学 : 金原出版 松澤正著					
参考書	Anne Shumway-Cook・他) : モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付一研究室から臨床実践へ。医歯薬出版。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習	必	山内 正雄・弘部 重信・ 藤谷 亮	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。講義では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技をグループワークにて行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (整形外科領域：山内 正雄/5回)</p> <p>整形外科疾患に対する評価、各種整形外科疾患テストとその臨床的解釈について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法をしっかりと学習・実施できるようになることを目標とする。</p> <p>(内部障害領域：弘部 重信/5回)</p> <p>内部障害における理学療法評価についてその評価の意義と目的を学ぶとともに、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について自ら学習し、評価の思考過程能力および評価方法をトレーニングする。</p> <p>(中枢神経障害領域：藤谷 亮/5回)</p> <p>中枢神経障害における評価とその意義を学習し、各種検査に加えてそれらをどのように解釈し、問題点の整理、また治療に活かしていくのかについて学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	整形外科領域：整形外科疾患における医学的情報とその解釈					山内 正雄
第2回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価とその解釈					山内 正雄
第3回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習					山内 正雄
第4回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習					山内 正雄
第5回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価の統合と解釈（演習）					山内 正雄
第6回	内部障害領域：内部障害における医学的情報とその解釈					弘部 重信
第7回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価とその解釈					弘部 重信
第8回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習					弘部 重信
第9回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習					弘部 重信
第10回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					弘部 重信
第11回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における医学的情報とその解釈					藤谷 亮
第12回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における各理学療法評価とその解釈					藤谷 亮
第13回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習					藤谷 亮
第14回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習					藤谷 亮
第15回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート課題（40%）、定期試験（60%）					
教科書	配布資料					
参考書	<p>松澤 正：理学療法評価学（第5版）、金原出版。</p> <p>富雅男・砂川勇：整形徒手理学療法 Kaltenborn-Evjenth Concep. 医歯薬出版。</p> <p>吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学、医学書院。</p> <p>石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ、中山書店。</p>					
オフィスアワー	<p>山内 前期：水 16：10～17：15</p> <p>弘部 前期：水 16：10～17：15</p> <p>藤谷 前期：水 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習Ⅱ	必	山内正雄、分木ひとみ、藤谷亮	1	30	3年次前期	演習 講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。講義では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技をグループワークにて行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/15回)</p> <p>整形外科領域：山内正雄/5回 整形外科疾患に対する評価、各種整形外科疾患テストとその臨床的解釈について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法をしっかりと学習・実施できるようにすることを目標とする。</p> <p>内部障害領域：分木ひとみ/5回 内部障害における理学療法評価についてその評価の意義と目的を学ぶとともに、ペーパーペイシェントを用いた演習で障害構造について自ら学習し、評価の思考過程能力および評価方法をトレーニングする。</p> <p>中枢神経障害領域：藤谷亮/5回 中枢神経障害における評価とその意義を学習し、各種検査に加えてそれらをどのように解釈し、問題点の整理、また治療に活かしていくのかについて学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	整形外科領域：整形外科疾患における医学的情報とその解釈					山内正雄
第2回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価とその解釈					山内正雄
第3回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習①					山内正雄
第4回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習②					山内正雄
第5回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価の統合と解釈（演習）					山内正雄
第6回	内部障害領域：内部障害における医学的情報とその解釈					分木ひとみ
第7回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価とその解釈					分木ひとみ
第8回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習①					分木ひとみ
第9回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習②					分木ひとみ
第10回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					分木ひとみ
第11回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における医学的情報とその解釈					藤谷亮
第12回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における各理学療法評価とその解釈					藤谷亮
第13回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習①					藤谷亮
第14回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習②					藤谷亮
第15回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					藤谷亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(30%)、定期試験(60%)					
教科書	配布資料					
参考書	<p>松澤 正：理学療法評価学（第5版）. 金原出版.</p> <p>富雅男・砂川勇：整形徒手理学療法. Kaltborn-Evjenth Concep. 医歯薬出版.</p> <p>吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院.</p> <p>石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店.</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動療法学実習	必	池谷 雅江	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、運動療法学で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に演習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	姿勢・運動制御改善のための運動療法				池谷 雅江	
第2回	姿勢・運動制御改善のための運動療法				池谷 雅江	
第3回	姿勢・運動制御改善のための運動療法				池谷 雅江	
第4回	筋力増強のための運動療法				池谷 雅江	
第5回	筋力増強のための運動療法				池谷 雅江	
第6回	筋力増強のための運動療法				池谷 雅江	
第7回	協調性改善のための運動療法				池谷 雅江	
第8回	協調性改善のための運動療法				池谷 雅江	
第9回	関節可動域改善のための運動療法				池谷 雅江	
第10回	関節可動域改善のための運動療法				池谷 雅江	
第11回	関節可動域改善のための運動療法				池谷 雅江	
第12回	持久力増大のための運動療法				池谷 雅江	
第13回	持久力増大のための運動療法				池谷 雅江	
第14回	疼痛改善のための運動療法				池谷 雅江	
第15回	疼痛改善のための運動療法				池谷 雅江	
備考						
授業時間以外の学習について	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけられるよう復習すること。					
課題・評価方法	小テスト：15%      定期試験：85%					
教科書	配布資料					
参考書	理学療法ハンドブック：細田多穂（編集）、協同医書 運動療法学（総論）第4版：吉尾雅春（編集）、横田一彦（編集）、医学書院 運動療法学（障害別アプローチの理論と実際）第2版：市橋則明（編集）、文光堂					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動療法学演習	必	池谷 雅江	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、運動療法学で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に演習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第2回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第3回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第4回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第5回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第6回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第7回	協調性改善のための運動療法					池谷 雅江
第8回	協調性改善のための運動療法					池谷 雅江
第9回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第10回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第11回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第12回	持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第13回	持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第14回	疼痛改善のための運動療法					池谷 雅江
第15回	疼痛改善のための運動療法					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけましょう。					
課題・評価方法	授業態度：15点 定期試験：85点					
教科書	資料配布					
参考書	理学療法ハンドブック：細田多穂（編集）、協同医書 運動療法学（総論）第4版：吉尾雅春（編集）、横田一彦（編集）、医学書院 運動療法学（障害別アプローチの理論と実際）第2版：市橋則明（編集）、文光堂					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法実習 1	必	藤谷 亮	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	脳血管障害における病態、治療などの基礎から、理学療法評価、理学療法アプローチに至る流れを理解することを目標とする。脳出血や脳梗塞における病態、それら脳血管障害の回復過程の理解と脳神経回路の再構築における課程を理解する。この授業では、基礎的な神経系における運動療法、運動学習における講義と演習から、脳血管障害における病態、評価、治療につなげていく。また脳血管障害の急性期・回復期・維持期における理学療法の役割とアプローチについて学習するとともに、片麻痺の基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）についても演習を行い動作評価・治療・指導の注意点について学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	中枢神経系理学療法の基礎知識					藤谷 亮
第2回	運動と感覚の中枢機能と構造					藤谷 亮
第3回	脳損傷の定義と病態					藤谷 亮
第4回	脳損傷とその回復					藤谷 亮
第5回	脳血管障害における医学管理					藤谷 亮
第6回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					藤谷 亮
第7回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					藤谷 亮
第8回	脳血管障害後片麻痺に対する評価：機能障害の評価					藤谷 亮
第9回	脳血管障害後片麻痺に対する評価：活動制限の評価					藤谷 亮
第10回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：課題指向型トレーニングと運動学習					藤谷 亮
第11回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：座位、立位を中心に					藤谷 亮
第12回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：歩行を中心に					藤谷 亮
第13回	脳血管障害における合併症					藤谷 亮
第14回	高次脳機能障害と理学療法					藤谷 亮
第15回	脳血管障害における理学療法の実際					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の 学習について	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート課題（30%）、定期試験（70%）					
教科書	石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店. 配布資料					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健（編）：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多穂・他（編）：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスア ワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法学演習 I	必	藤谷 亮	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	脳血管障害における病態、治療など基礎から、理学療法評価、理学療法アプローチに至る流れを理解することを目的に学習を進める。脳出血や脳梗塞における病態、それら脳血管障害の回復過程の理解と脳神経回路の再構築における課程を理解する。講義では基礎的な神経系における運動療法、運動学習における講義と演習から、脳血管障害における病態、評価、治療につなげていく。また脳血管障害の急性期・回復期・維持期における理学療法の役割とアプローチについて学習するとともに、片麻痺の基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）についても演習を行い動作評価・治療・指導の注意点について学ぶ。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	中枢神経系理学療法の基礎知識					藤谷 亮
第2回	運動と感覚の中枢機能と構造					藤谷 亮
第3回	脳損傷の定義と病態					藤谷 亮
第4回	脳損傷とその回復					藤谷 亮
第5回	脳血管障害における医学管理					藤谷 亮
第6回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					藤谷 亮
第7回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					藤谷 亮
第8回	脳血管障害後片麻痺に対する評価（1）					藤谷 亮
第9回	脳血管障害後片麻痺に対する評価（2）					藤谷 亮
第10回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（1）					藤谷 亮
第11回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（2）					藤谷 亮
第12回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（3）					藤谷 亮
第13回	脳血管障害における合併症					藤谷 亮
第14回	高次脳機能障害と理学療法					藤谷 亮
第15回	脳血管障害における理学療法の実際					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(20%)、定期試験(70%)					
教科書	石川朗(編)：理学療法テキスト 神経障害理学療法学 I. 中山書店.					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健(編)：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法実習Ⅱ	必	藤谷 亮	1	30	3年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	神経難病であるパーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などを中心に、各疾患の病態、治療、評価、運動療法について理解し、実践できるようになることを目的とする。内容に関しては、基礎的な解剖学から、病理、内科及び外科的治療について学習し、理学療法における医学的基盤を整理する。また各疾患特有の理学療法評価、および運動療法についてその理論的背景を学習するだけでなく、演習を通して実践できるよう学習を進める。神経難病においては、ターミナルケアを含めた理解が重要となるため、福祉用具、環境調整、チームアプローチや行政サービスなどの社会資源の利用についても理解する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳の構造と機能（1）：大脳基底核とリハビリテーション					藤谷 亮
第2回	脳の構造と機能（2）：小脳とリハビリテーション					藤谷 亮
第3回	脳の構造と機能（3）：脳幹とリハビリテーション					藤谷 亮
第4回	パーキンソン病の病態					藤谷 亮
第5回	パーキンソン病に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第6回	パーキンソン病に対する理学療法					藤谷 亮
第7回	運動失調の病態					藤谷 亮
第8回	運動失調に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第9回	運動失調に対する理学療法					藤谷 亮
第10回	多発性硬化症の病態					藤谷 亮
第11回	多発性硬化症に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第12回	多発性硬化症に対する理学療法					藤谷 亮
第13回	筋萎縮性側索硬化症の病態					藤谷 亮
第14回	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第15回	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート課題（30%）、定期試験（70%）					
教科書	石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害系理学療法Ⅱ. 中山書店.					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法. 医学書院. 柳沢健（編）：中枢神経理学療法. メディカルビュー. 細田多穂・他（編）：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法学演習Ⅱ	必	藤谷 亮	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	神経難病であるパーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などを中心に、各疾患の病態、治療、評価、運動療法について理解し、実践できるようになることを目的とする。内容に関しては、基礎的な解剖学から、病理、内科及び外科的治療について学習し、理学療法における医学的基盤を整理する。また各疾患特有の理学療法評価、および運動療法についてその理論的背景を学習するだけでなく、演習を通して実践できるよう学習を進める。神経難病においては、ターミナルケアを含めた理解が重要となるため、福祉用具、環境調整、チームアプローチや行政サービスなどの社会資源の利用についても理解する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳の構造と機能（1）大脳基底核とリハビリテーション					藤谷 亮
第2回	脳の構造と機能（2）小脳とリハビリテーション					藤谷 亮
第3回	脳の構造と機能（3）脳幹とリハビリテーション					藤谷 亮
第4回	パーキンソン病の病態					藤谷 亮
第5回	パーキンソン病に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第6回	パーキンソン病に対する理学療法					藤谷 亮
第7回	運動失調の病態					藤谷 亮
第8回	運動失調に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第9回	運動失調に対する理学療法					藤谷 亮
第10回	多発性硬化症の病態					藤谷 亮
第11回	多発性硬化症に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第12回	多発性硬化症に対する理学療法					藤谷 亮
第13回	筋萎縮性側索硬化症の病態					藤谷 亮
第14回	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法					藤谷 亮
第15回	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに神経内科学などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(20%)、定期試験(70%)					
教科書	石川朗(編)：理学療法テキスト 神経障害系理学療法学Ⅱ. 中山書店.					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健(編)：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 実習 I	必	大西 均	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について演習を中心に行っていく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。スポーツ理学療法として、足関節捻挫の最新研究を紹介し、その治療と予防についても学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第 1 回	変形性関節症の定義					大西 均
第 2 回	変形性股関節症とその治療					大西 均
第 3 回	変形性股関節症に対する理学療法					大西 均
第 4 回	変形性膝関節症とその治療					大西 均
第 5 回	変形性膝関節症に対する理学療法					大西 均
第 6 回	変形性膝関節症に対する理学療法					大西 均
第 7 回	高齢者の骨折とは					大西 均
第 8 回	大腿骨頸部骨折の治療					大西 均
第 9 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法					大西 均
第 1 0 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法					大西 均
第 1 1 回	橈骨遠位端骨折に対する治療					大西 均
第 1 2 回	橈骨遠位端骨折に対する理学療法					大西 均
第 1 3 回	上腕骨近位端骨折に対する治療					大西 均
第 1 4 回	上腕骨近位端骨折に対する理学療法					大西 均
第 1 5 回	脊椎圧迫骨折に対する治療と理学療法					大西 均
備考						
授業時間以外 の学習につ いて	整形外科で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の予習、また講義後は教科書の復習を行うこと。					
課題・評価方 法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢：メジカルビュー社：整形外科リハビリテーション学会編					
オフィスア ワー	後期：火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 演習 I	必	大西 均	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。スポーツ理学療法として、足関節捻挫の最新研究を紹介し、その治療と予防についても学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第 1 回	変形性関節症の定義					大西 均
第 2 回	変形性股関節症とその治療					大西 均
第 3 回	変形性股関節症に対する理学療法					大西 均
第 4 回	変形性膝関節症とその治療					大西 均
第 5 回	変形性膝関節症に対する理学療法1					大西 均
第 6 回	変形性膝関節症に対する理学療法2					大西 均
第 7 回	高齢者の骨折とは					大西 均
第 8 回	大腿骨頸部骨折の治療					大西 均
第 9 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法1					大西 均
第 10 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法2					大西 均
第 11 回	橈骨遠位端骨折に対する治療					大西 均
第 12 回	橈骨遠位端骨折に対する理学療法					大西 均
第 13 回	上腕骨近位端骨折に対する治療					大西 均
第 14 回	上腕骨近位端骨折に対する理学療法					大西 均
第 15 回	脊椎圧迫骨折に対する治療と理学療法					大西 均
備考						
授業時間以外の 学習について	整形外科学で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科学の教科書の復習をしっかりとしてから本授業に臨んでください。また、解剖学と運動学の知識が重要となりますので、これらの復習もしてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢：メジカルビュー社：整形外科リハビリテーション学会編					
オフィスア ワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 学実習Ⅱ	必	安田 孝志・前川 昭次・ 大西 均	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷などの理学療法について講義を交え多くの実技をする。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/5回) 末梢神経損傷、脊髄損傷などの術後の理学療法について講義を交え、基本的な評価法や理学療法を実践する。 (前川 昭次/5回) 前十字靭帯損傷・腱板断裂・THA・TKAに関する各術後の理学療法を学び、実際の手技を実践する。 (大西 均/5回) 末梢神経障害では上肢と下肢の末梢神経絞扼部位の詳細を学び、実際にそれを開放する手技について実践する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脊髄損傷（不全損傷も含め）とは（発生原因、症状、診断と治療）、障害像					安田 孝志
第2回	Bed Soarの予防と管理、評価					安田 孝志
第3回	理学療法評価、到達可能なADL、ゴールに影響する因子					安田 孝志
第4回	(急性期) ポジショニング、呼吸理学療法、他動運動、残存筋の筋力強化および再学習					安田 孝志
第5回	マット上訓練、座位バランス訓練、立位訓練（離床期）、車いす駆動訓練、ADL訓練、屋外訓練、社会資源、スポーツ、レクリエーション、趣味					安田 孝志
第6回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法					前川 昭次
第7回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法					前川 昭次
第8回	腱板損傷術後の理学療法					前川 昭次
第9回	腱板損傷術後の理学療法					前川 昭次
第10回	THA・TKA術後の理学療法					前川 昭次
第11回	神経の解剖と絞扼部位					大西 均
第12回	神経モビライゼーション					大西 均
第13回	絞扼部開放手技の基礎					大西 均
第14回	絞扼部位開放手技の実際					大西 均
第15回	神経障害とそれ以外の鑑別方法					大西 均
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ疾患の知識を基に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとしてから本授業に臨んでください。また講義後は教科書の復習を行うこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	脊髄損傷のリハビリテーション：二瓶隆一 協同医書出版 ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	なし					
オフィスアワー	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 学演習Ⅱ	必	安田孝志 前川昭次 大西均	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。					
学位授与方 針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脊髄損傷（不全損傷も含め）とは（発生原因、症状、診断と治療）、障害像					安田孝志
第2回	Bed Soarの予防と管理、評価					安田孝志
第3回	理学療法評価、到達可能なADL、ゴールに影響する因子					安田孝志
第4回	（急性期）ポジショニング、呼吸理学療法、他動運動、残存筋の筋力強化および再学習					安田孝志
第5回	マット上訓練、座位バランス訓練、立位訓練（離床期）、車いす駆動訓練、ADL訓練、屋外訓練、社会資源、スポーツ、レクリエーション、趣味					安田孝志
第6回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法					前川昭次
第7回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法					前川昭次
第8回	腱板損傷術後の理学療法					前川昭次
第9回	腱板損傷術後の理学療法					前川昭次
第10回	THA・TKA術後の理学療法					前川昭次
第11回	神経の解剖と絞扼部位					大西均
第12回	神経モビライゼーション					大西均
第13回	絞扼部開放手技の基礎					大西均
第14回	絞扼部開放手技の実際					大西均
第15回	神経障害とそれ以外の鑑別方法					大西均
備考						
授業時間以 外の学習に ついて	整形外科で学んだ知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとってから本授業に臨んでください。また、解剖学と運動学の知識が重要となりますので、これらの復習もしてください。					
課題・評価 方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	脊髄損傷のリハビリテーション：二瓶隆一 協同医書出版 ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書						
オフィスア ワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法学 実習 I	必	弘部 重信・平岩 康之	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法の見え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。                      (オムニバス方式/全15回)                      (弘部 重信/11回)</p> <p>内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。                      (平岩 康之/4回)</p> <p>内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	呼吸器系の理学療法に必要な解剖生理					弘部 重信
第2回	循環器系の理学療法に必要な解剖生理					弘部 重信
第3回	呼吸不全の病態					弘部 重信
第4回	呼吸器系疾患の病態					弘部 重信
第5回	呼吸器系疾患の理学療法評価					弘部 重信
第6回	呼吸器系疾患の理学療法評価					弘部 重信
第7回	呼吸器系疾患の治療概念					弘部 重信
第8回	呼吸器系疾患の理学療法技術					弘部 重信
第9回	呼吸器系疾患の理学療法技術					弘部 重信
第10回	呼吸循環器系疾患のADL指導					弘部 重信
第11回	COPDの理学療法					弘部 重信
第12回	循環器系疾患の病態					平岩 康之
第13回	循環器系疾患の理学療法評価技術					平岩 康之
第14回	循環器系疾患の理学療法技術					平岩 康之
第15回	吸引の理論とリスク管理と吸引実習					平岩 康之
備考						
授業時間以外の学習について	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：10点 定期試験：70点 授業態度・実習時間内に出される課題の提出：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法 演習Ⅰ	必	分木 ひとみ・平岩 康之	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(分木ひとみ／11回) 内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。</p> <p>(平岩康之／4回) 内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	呼吸器系の理学療法に必要な解剖生理					分木 ひとみ
第2回	循環器系の理学療法に必要な解剖生理					分木 ひとみ
第3回	呼吸不全の病態					分木 ひとみ
第4回	呼吸器系疾患の病態					分木 ひとみ
第5回	呼吸器系疾患の理学療法評価					分木 ひとみ
第6回	呼吸器系疾患の理学療法評価					分木 ひとみ
第7回	呼吸器系疾患の治療概念					分木 ひとみ
第8回	呼吸器系疾患の理学療法技術					分木 ひとみ
第9回	呼吸器系疾患の理学療法技術					分木 ひとみ
第10回	呼吸循環器系疾患のADL指導					分木 ひとみ
第11回	COPDの理学療法					分木 ひとみ
第12回	循環器系疾患の病態					平岩 康之
第13回	循環器系疾患の理学療法評価技術					平岩 康之
第14回	循環器系疾患の理学療法技術					平岩 康之
第15回	吸引の理論とリスク管理と吸引実習					平岩 康之
備考						
授業時間以外の学習について	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：10点 定期試験：70点 授業態度・実習時間内に出される課題の提出：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法実習Ⅱ	必	弘部 重信	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活習慣病の概念と1次予防、2次予防について学習し、内部障害の糖尿病疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。また、糖尿病の合併症についても理解し、その予防と理学療法にも理解を深める。さらに内部障害の症例を提示し、治療から生活に対する理学療法士の関わりについて、QOLも視野に入れたプログラム作成と他職種との連携についても学習する。その方法は、アクティブラーニングの視点からグループワークを行い実践的な学びを進める。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	メタボリックシンドロームと生活習慣病の関係					弘部 重信
第2回	生活習慣病と糖尿病の関係					弘部 重信
第3回	糖尿病の理学療法評価技術					弘部 重信
第4回	糖尿病の理学療法技術					弘部 重信
第5回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成					弘部 重信
第6回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第7回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第8回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成					弘部 重信
第9回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第10回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第11回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成					弘部 重信
第12回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第13回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					弘部 重信
第14回	呼吸循環器系疾患合併患者（症例④）の評価					弘部 重信
第15回	呼吸循環器系疾患合併患者（症例④）の評価発表と討議					弘部 重信
備考						
授業時間以外の学習について	症例検討が中心になります。自己学習で文献検索をすることと、友だちと話すことで考えが広がりまとまるので、ディスカッションを多くしてください。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：80点　小テスト：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法 演習Ⅱ	必	分木 ひとみ	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活習慣病の概念と1次予防、2次予防について学習し、内部障害の糖尿病疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。また、糖尿病の合併症についても理解し、その予防と理学療法にも理解を深める。さらに内部障害の症例を提示し、治療から生活に対する理学療法士の関わりについて、QOLも視野に入れたプログラム作成と他職種との連携についても学習する。その方法は、アクティブラーニングの視点からグループワークを行い実践的な学びを進める。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	メタボリックシンドロームと生活習慣病の関係					分木 ひとみ
第2回	生活習慣病と糖尿病の関係					分木 ひとみ
第3回	糖尿病の理学療法評価技術					分木 ひとみ
第4回	糖尿病の理学療法技術					分木 ひとみ
第5回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成					分木 ひとみ
第6回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第7回	糖尿病患者（症例①）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第8回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成					分木 ひとみ
第9回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第10回	COPD患者（症例②）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第11回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成					分木 ひとみ
第12回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第13回	心筋梗塞患者（症例③）の評価と理学療法プログラム作成について発表と討議					分木 ひとみ
第14回	呼吸循環器系疾患合併患者（症例④）の評価					分木 ひとみ
第15回	呼吸循環器系疾患合併患者（症例④）の評価発表と討議					分木 ひとみ
備考						
授業時間以外の学習について	症例検討が中心になります。自己学習で文献検索をすることと、友だちと話すことで考えが広がりまとまるので、ディスカッションを多くしてください。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：80点 授業態度：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学。医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）。南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害系理学療法学実習	必	治郎丸 卓三	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、スポーツ場面で発生しやすい 鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鵞足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	スポーツ障害の基本的な考え方					治郎丸 卓三
第2回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第3回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第4回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第5回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第6回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第7回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第8回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第9回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第10回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第11回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第12回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第13回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第14回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
第15回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸 卓三
備考						
授業時間以外の学習について	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版					
参考書	スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害系理学療法学演習	必	治郎丸卓三	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>本授業では、スポーツ場面で発生しやすい 鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鵞足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	スポーツ障害の基本的な考え方					治郎丸卓三
第2回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第3回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第4回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第5回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第6回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第7回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第8回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第9回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第10回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第11回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第12回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第13回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第14回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第15回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版					
参考書	<p>スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法実習	必	弘部 重信・鈴木 美香	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、トピックスとして、多職種が連携して対応する褥瘡・嚥下障害・シーティングの3つを取り上げ、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる内容を理解し、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かし、協働した取り組みができるようになることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （鈴木 美香／3回） （弘部 重信／5回）</p> <p>サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。</p> <p>（弘部 重信・鈴木 美香 共同／5回） バリアフリー展見学実習および実習報告会 （弘部 重信／7回）</p> <p>福祉用具の選定と使い方、褥瘡の予防と管理、誤嚥予防と嚥下障害に対する対応、シーティング座位姿勢の評価と適合技術について教授する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	サービスを提供する場面ごとの理学療法（介護老人保健施設 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション）					鈴木 美香
第2回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務					鈴木 美香
第3回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務					鈴木 美香
第4回	バリアフリー展見学実習					弘部 重信・鈴木 美香
第5回	バリアフリー展見学実習					弘部 重信・鈴木 美香
第6回	バリアフリー展見学実習					弘部 重信・鈴木 美香
第7回	バリアフリー展見学実習					弘部 重信・鈴木 美香
第8回	見学実習報告					弘部 重信・鈴木 美香
第9回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習					弘部 重信
第10回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習					弘部 重信
第11回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法					弘部 重信
第12回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法					弘部 重信
第13回	誤嚥予防と嚥下障害に対する対応					弘部 重信
第14回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術					弘部 重信
第15回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術					弘部 重信
備考						
授業時間以外の学習について	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。また講義後は教科書の復習を行うようにしてください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）60% 課題40%					
教科書	細田多穂（監）：シンプル理学療法学シリーズ『地域リハビリテーション学テキスト』改訂第3版、南江堂。					
参考書	なし					
オフィスアワー	弘部 前期：水 16：10～17：15 鈴木 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法Ⅱ	必	川崎浩子・鈴木美香	1	30	3年次前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、トピックスとして、多職種が連携して対応する褥瘡・嚥下障害・シーティングの3つを取り上げ、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる内容を理解し、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かし、協働した取り組みができるようになることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）            （鈴木美香／3回）サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。            （川崎浩子・5 鈴木美香 共同／5回）バリアフリー展見学実習および実習報告会            （川崎浩子／7回）福祉用具の選定と使い方、褥瘡の予防と管理、誤嚥予防と嚥下障害に対する対応、シーティング座位姿勢の評価と適合技術について教授する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	サービスを提供する場面ごとの理学療法（介護老人保健施設 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション）				鈴木美香	
第2回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木美香	
第3回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携パス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木美香	
第4回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第5回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第6回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第7回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第8回	見学実習報告				川崎浩子・鈴木美香	
第9回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習				川崎浩子	
第10回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習				川崎浩子	
第11回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法				川崎浩子	
第12回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法				川崎浩子	
第13回	誤嚥予防と嚥下障害に対する対応				川崎浩子	
第14回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術				川崎浩子	
第15回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術				川崎浩子	
備考						
授業時間以外の学習について	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）50% 課題40% 授業態度10%					
教科書	細田多穂（監）：シンプル理学療法Ⅱシリーズ『地域リハビリテーション学テキスト』改訂第3版. 南江堂.					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論実習	必	安田 孝志・大西 満・池谷 雅江	1	30	4年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (安田 孝志/7回)                      全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。                      (池谷 雅江/7回)                      全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。                      また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。                      (大西 満/1回)                      全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4                      地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5                      理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	確認テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料 (日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー	大西 前期：月、水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15 池谷 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論演習	選	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西満
第5回	障がい者との交流					安田孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習	選	分木 ひとみ・ 鈴木 美香・池谷 雅江	1	30	3年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定から、ストレッチやラダー、二重課題、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。これらを踏まえて、健康増進に関する正しい知識を習得し、健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (分木 ひとみ/6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通じた健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。 (鈴木 美香/5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。 (池谷 雅江/4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	健康の概論					分木 ひとみ
第2回	健康維持の取り組み					分木 ひとみ
第3回	健康と生活習慣					分木 ひとみ
第4回	日常生活活動量、運動量の算出					分木 ひとみ
第5回	日常生活活動量、運動量の算出の実際					分木 ひとみ
第6回	健康づくりのための身体活動基準					分木 ひとみ
第7回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第8回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第9回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第10回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第11回	健康維持のための運動プログラム					鈴木 美香
第12回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷 雅江
第13回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷 雅江
第14回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷 雅江
第15回	高齢者を対象とした健康維持プログラム					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義後は配布資料を中心に要点をまとめるなど、復習を中心に学習してください。					
課題・評価方法	授業内課題 70%、小テスト 30%					
教科書	資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 鈴木 後期：木 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習Ⅰ	選	分木ひとみ・鈴木美香・池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定から、ストレッチやラダー、二重課題、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。これらを踏まえて、健康増進に関する正しい知識を習得し、健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目的とする。</p> <p>オムニバス方式 15回                      (分木ひとみ /6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通した健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。                      (鈴木美香 /5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。                      (池谷雅江 /4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	健康の概論				分木ひとみ	
第2回	健康維持の取り組み				分木ひとみ	
第3回	健康と生活習慣				分木ひとみ	
第4回	日常生活活動量、運動量の算出				分木ひとみ	
第5回	日常生活活動量、運動量の算出の実際				分木ひとみ	
第6回	健康づくりのための身体活動基準				分木ひとみ	
第7回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第8回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第9回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第10回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第11回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第12回	高齢者を対象とした健康維持プログラム				池谷雅江	
第13回	高齢者を対象とした健康維持プログラム				池谷雅江	
第14回	高齢者を対象とした健康維持プログラム				池谷雅江	
第15回	高齢者を対象とした健康維持プログラム				池谷雅江	
備考						
授業時間以外の学習について	復習を中心に学習してください。					
課題・評価方法	授業内課題 70%、小テスト 30%					
教科書	資料配布					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践実習	選	分木 ひとみ・ 鈴木 美香・池谷 雅江	1	30	3年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習Ⅰで学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、その評価結果を用いて個々の活力ある健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学び、地域住民に健康増進に関する取り組みを還元できるような知識を深める。そして、地域住民の方にプログラムを実践できるよう企画し、運営することで実践力を養うことを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (分木 ひとみ/5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。 小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。 (鈴木 美香/4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。 (池谷 雅江/6回) 地域住民を対象に健康増進を目的としたプログラムを企画し、実践したことをまとめて報告する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木 ひとみ
第2回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木 ひとみ
第3回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木 ひとみ
第4回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木 ひとみ
第5回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木 ひとみ
第6回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木 美香
第7回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木 美香
第8回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木 美香
第9回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木 美香
第10回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第11回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第12回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第13回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第14回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
第15回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	次の講義の準備のためグループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。					
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート50%					
教科書	資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 鈴木 後期：木 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習Ⅱ	選	分木ひとみ・鈴木美香・池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習Ⅰで学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、その評価結果を用いて個々の活力ある健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学び、地域住民に健康増進に関する取り組みを還元できるような知識を深める。そして、地域住民の方にプログラムを実践できるよう企画し、運営することで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (分木ひとみ/5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。 小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。 (鈴木美香/4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。 (池谷雅江/6回) 地域住民を対象に健康増進を目的としたプログラムを企画し、実践したことをまとめて報告する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木ひとみ
第2回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木ひとみ
第3回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第4回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第5回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第6回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第7回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第8回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第9回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第10回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第11回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第12回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第13回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第14回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第15回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	グループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。					
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート50%					
教科書	資料配布					
参考書						
オフィスアワー						

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西 満・分岐 ひとみ 辛島 千恵子・有田 智氏 池谷 雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をもとに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西 満 分岐 ひとみ 辛島 千恵子 有田 智氏 池谷 雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考						
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、分岐（水 16：10～17：15） 辛島（水・木 16：10～17：15）、有田（月・水 16：10～17：15） 池谷（水 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
シンメディカル論	必	大西満・分木ひとみ・池谷雅江・杉本久美子	2	30	4年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状・障害をテーマに実際の症例を想定して、チームアプローチの実際について討議・学習する。理学療法・作業療法の専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える提示症例に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際の症例を想定し、各分野の専門性をもとにシンメディカルの理念を実現するための方法について学び、当事者主体の原理に立ったチームアプローチ方法を検討・理解する。					
学位授与方針との関連	DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	シンメディカルとは					大西満・分木ひとみ・池谷雅江・杉本久美子
第2回	医療専門職の業務内容					
第3回	医療専門職の業務内容の発表					
第4回	各専門職が考える提示症例に関する問題点の検討					
第5回	各専門職が考える提示症例に関する問題点のまとめ					
第6回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法の検討					
第7回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法のまとめ					
第8回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第9回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第10回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第11回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第12回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第13回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第14回	立案したりハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表					
第15回	立案したりハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表に対する吟味					
備考						
授業時間以外の学習について	症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと					
課題・評価方法	レポート試験 (70%) ラーニングポートフォリオ (10%) 発表 (20%)					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
体育	必	佐藤 隆彦	1	30	1年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	この授業では、体育活動（身体運動）を通じて学生の健康的な生活実現のために必要な最大限の身体的、精神的、かつ社会的発達を助成、涵養することを目標とする。また、医療人として、また理学療法士、作業療法士としての教育を受ける中で、人間の運動の仕組みや身体の運動耐用能などを体育活動を通して学ぶ機会とする。様々なスポーツについて実践する機会を与えることにより、将来のリハビリテーション職の基礎となる、身体を動かすとは何か、運動の限界とは何かを体感する時間を提供する。また、この授業では、体育活動を通じたチームワークの形成から、コミュニケーション能力を身につけてもらうことも目標とする。					
学位授与方針との関連	DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊かな人間性と倫理感、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。					
	内容					担当教員
第1回	受講ガイダンス、体力テスト（文部科学省新体力テスト）					佐藤 隆彦
第2回	バスケットボール（ボールハンドリング、基礎的なパス、基礎的なドリブルの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第3回	バスケットボール（ボールハンドリング、基礎的なパス、基礎的なドリブルの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第4回	バスケットボール（応用的なパス、応用的なドリブル、1対1のスキル、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第5回	バスケットボール（応用的なパス、応用的なドリブル、1対1のオフェンススキル、1対1のディフェンススキル、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第6回	バスケットボール					佐藤 隆彦
第7回	バスケットボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、1対1のディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第8回	バレーボール（アンダーハンドパスの基礎、オーバーハンドパスの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第9回	バレーボール（アンダーハンドパスの基礎、オーバーハンドパスの基礎、簡易ゲーム）					佐藤 隆彦
第10回	バレーボール（サーブの基礎、アタックの基礎、ブロックの基礎）					佐藤 隆彦
第11回	バレーボール（サーブの基礎、アタックの基礎、ブロックの基礎）					佐藤 隆彦
第12回	バレーボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第13回	バレーボール（組織的なオフェンススキル、組織的なディフェンススキル、実践ゲーム）					佐藤 隆彦
第14回	体力テスト（文部科学省新体力テスト）					佐藤 隆彦
第15回	体力テスト（文部科学省新体力テスト）、本科目の振り返り					佐藤 隆彦
備考						
授業時間以外の学習について	授業での運動に備えて、正しい生活習慣を身につけて体調を整えること。					
課題・評価方法	授業の参加姿勢（50%）、技能等の向上度（50%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学実習	必	有田 智氏	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動の観察を行い、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲帯・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション バイオメカニクスとは					有田 智氏
第2回	バイオメカニクスの基礎知識（滑車、ベクトル、時間、速度、加速度）					有田 智氏
第3回	バイオメカニクスの基礎知識（重心、仕事、運動連鎖）					有田 智氏
第4回	姿勢、動作分析（運動分析と動作分析、姿勢制御）					有田 智氏
第5回	姿勢観察 臥位 座位 立位					有田 智氏
第6回	運動観察 寝返り					有田 智氏
第7回	運動分析 寝返り					有田 智氏
第8回	立ち上がり動作におけるモーメント					有田 智氏
第9回	運動観察 立ち上がり					有田 智氏
第10回	運動分析 立ち上がり					有田 智氏
第11回	正常歩行（歩行の基礎知識、歩行周期）					有田 智氏
第12回	正常歩行（床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、エネルギー消費）					有田 智氏
第13回	運動観察 歩行					有田 智氏
第14回	運動分析 歩行					有田 智氏
第15回	運動分析 歩行					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること					
課題・評価方法	小テスト（30%）、筆記試験（70%）					
教科書	伊藤元・他（編）：運動学 医学書院 畑中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析、羊土社					
参考書	竹井仁・他：運動機能障害症候群のマネジメント、医歯薬出版 石井慎一郎著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、メジカルビュー社					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学演習	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動の観察を行い、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲帯・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション バイオメカニクスとは					有田 智氏
第2回	バイオメカニクスの基礎知識（滑車、ベクトル、時間、速度、加速度）					有田 智氏
第3回	バイオメカニクスの基礎知識（重心、仕事、運動連鎖）					有田 智氏
第4回	姿勢、動作分析（運動分析と動作分析、姿勢制御）					有田 智氏
第5回	姿勢観察 臥位 座位 立位					有田 智氏
第6回	運動観察 寝返り					有田 智氏
第7回	運動分析 寝返り					有田 智氏
第8回	立ち上がり動作におけるモーメント					有田 智氏
第9回	運動観察 立ち上がり					有田 智氏
第10回	運動分析 立ち上がり					有田 智氏
第11回	正常歩行（歩行の基礎知識、歩行周期）					有田 智氏
第12回	正常歩行（床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、エネルギー消費）					有田 智氏
第13回	運動観察 歩行					有田 智氏
第14回	運動分析 歩行①					有田 智氏
第15回	運動分析 歩行②					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること					
課題・評価方法	小テスト（30%）、筆記試験（70%）					
教科書	伊藤元・他（編）：運動学.医学書院 畑中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析、羊土社					
参考書	竹井仁・他：運動機能障害症候群のマネジメント、医歯薬出版 石井慎一郎著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、メジカルビュー社					
オフィスアワー						

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学実習 I	必	澤 賢一郎	1	30	1年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法的手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。到達目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第 1 回	作業の視点について					澤 賢一郎
第 2 回	作業の主観的意味					澤 賢一郎
第 3 回	作業の主観的意味についてのグループワーク					澤 賢一郎
第 4 回	作業を通じた自分らしさ、環境とのつながり					澤 賢一郎
第 5 回	生活の構造化・健康との関連性					澤 賢一郎
第 6 回	社会的意味・作業の分類化					澤 賢一郎
第 7 回	作業活動についてのオリエンテーション					澤 賢一郎
第 8 回	ポッチャの実施					澤 賢一郎
第 9 回	ポッチャの実施					澤 賢一郎
第 10 回	ポッチャについてのグループワーク					澤 賢一郎
第 11 回	ポッチャについての発表					澤 賢一郎
第 12 回	IADL（料理）の実施					澤 賢一郎
第 13 回	IADL（料理）の実施					澤 賢一郎
第 14 回	IADL（料理）についてのグループワーク					澤 賢一郎
第 15 回	IADL（料理）についての発表					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	予習：次回の授業範囲について事前に調べておくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、発表（20%）、レポート（20%）、筆記試験（30%）、小テスト（10%）					
教科書	吉川ひろみ（2017） 『「作業」って何だろう』 作業科学入門第2版． 医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学演習Ⅰ	必	前田 浩二	1	30	1年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ること为目标とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。</p> <p>到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「作業」の意味					前田 浩二
第2回	作業演習（ネット手芸・導入）					前田 浩二
第3回	作業演習（ネット手芸・演習）					前田 浩二
第4回	作業演習（ネット手芸・演習）					前田 浩二
第5回	作業演習（籐細工・導入）					前田 浩二
第6回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第7回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第8回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第9回	作業演習（革細工・導入）					前田 浩二
第10回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第11回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第12回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第13回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第14回	作業演習（絵本分析導入）					前田 浩二
第15回	作業演習（絵本分析）					前田 浩二
備考						
授業時間以外の学習について	<p>特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。</p>					
課題・評価方法	筆記試験（60%）、授業態度（10%）、レポート（15%）、作品等（15%）					
教科書	なし					
参考書	<p>標準作業療法学 専門分野 基礎作業学                      (社) 日本作業療法士協会編著：作業療法学全書第2巻 基礎作業学 協同医書出版社</p>					
オフィスアワー						

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学実習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	1年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ることが目標とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。</p> <p>到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「作業」の意味					有田 智氏
第2回	作業演習（ネット手芸・導入）					有田 智氏
第3回	作業演習（ネット手芸・演習）					有田 智氏
第4回	作業演習（ネット手芸・演習）					有田 智氏
第5回	作業演習（籐細工・導入）					有田 智氏
第6回	作業演習（籐細工・演習）					有田 智氏
第7回	作業演習（籐細工・演習）					有田 智氏
第8回	作業演習（籐細工・演習）					有田 智氏
第9回	作業演習（革細工・導入）					有田 智氏
第10回	作業演習（革細工・演習）					有田 智氏
第11回	作業演習（革細工・演習）					有田 智氏
第12回	作業演習（革細工・演習）					有田 智氏
第13回	作業演習（革細工・演習）					有田 智氏
第14回	作業演習（絵本分析導入）					有田 智氏
第15回	作業演習（絵本分析）					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。					
課題・評価方法	筆記試験（60%）、小テスト（10%）、レポート（15%）、作品等（15%）					
教科書	なし					
参考書	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 （社）日本作業療法士協会編著：作業療法学全書第2巻 基礎作業学. 協同医書出版社					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学演習Ⅱ	必	杉本 久美子	1	30	1年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法的手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。到達目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	作業の視点について					杉本 久美子
第2回	作業の主観的意味					杉本 久美子
第3回	作業の主観的意味についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第4回	作業を通じた自分らしさ、環境とのつながり					杉本 久美子
第5回	生活の構造化・健康との関連性					杉本 久美子
第6回	社会的意味・作業の分類化					杉本 久美子
第7回	作業活動についてのオリエンテーション					杉本 久美子
第8回	作業活動①の実施（演習）					杉本 久美子
第9回	作業活動①の実施（演習）					杉本 久美子
第10回	作業活動①についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第11回	作業活動①についての発表（演習）					杉本 久美子
第12回	作業活動②の実施（演習）					杉本 久美子
第13回	作業活動②の実施（演習）					杉本 久美子
第14回	作業活動②についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第15回	作業活動②についての発表（演習）					杉本 久美子
備考						
授業時間以外の学習について	常に作業の意味とは何か、それが生活におよぼしている影響を考えて下さい。					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、発表（20%）、レポート（20%） 筆記試験（30%）、授業態度（10%）					
教科書	吉川ひろみ（2017） 『「作業」って何だろう』 作業科学入門第2版． 医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法 評価学実習Ⅰ	必	安部 征哉	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>身体障害領域における検査測定の基本知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明できるように学習をすすめ、作業療法評価の一部で関節可動域測定、反射検査、平衡機能検査、感覚検査を中心として基礎知識を深めていく。特に、これらの基本評価は実施手順を座学で把握させ、実技を通して基本的な技法を学んでいく。また知識の確認として小テストや学生同士の確認作業を通して確実に知識が身につけていることを確認しながら進めていくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	作業療法士における検査・測定の意義					安部 征哉
第2回	関節可動域測定の意義					安部 征哉
第3回	関節可動域測定（頸部・肩甲帯・体幹）					安部 征哉
第4回	関節可動域測定（肩・肘）					安部 征哉
第5回	関節可動域測定（手・手指）					安部 征哉
第6回	3回～5回 実技試験					安部 征哉
第7回	関節可動域測定（股関節）					安部 征哉
第8回	関節可動域測定（膝・足）					安部 征哉
第9回	7回～9回 実技試験					安部 征哉
第10回	反射と平衡機能の基礎					安部 征哉
第11回	反射検査					安部 征哉
第12回	平衡機能検査					安部 征哉
第13回	感覚機能の基礎					安部 征哉
第14回	感覚機能検査					安部 征哉
第15回	総括					安部 征哉
備考	<p>本科目の検査手法は、作業療法士として必修の手法であり、今後の臨床実習で活用していく。授業時間内のみでは手技を十分に習得できないので、予習・復習を行い、手技の習得に努めること。臨床実習では患者に対して行なうので、患者を想定しながら実技練習を行なうこと。学生のデモンストレーションを行ない演習を進める場合がある。 授業の際にはそれぞれ指定された教科書を持参する。</p>					
授業時間以外の学習について	<p>予習：授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行いデモンストレーションに備えること 復習：毎回の授業、演習内容を振り返り、繰り返し実技練習をすること</p>					
課題・ 評価方法	定期テスト（筆記）50%、実技試験50%					
教科書	標準作業療法学専門 作業療法評価学（第3版）医学書院					
参考書	随時紹介					
オフィスア ワー	<p>前期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	必	安部 征哉	1	30	2年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>身体障害領域における検査測定の基本知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明できるように学習をすすめ、作業療法評価の一部で関節可動域測定、反射検査、平衡機能検査、感覚検査を中心として基礎知識を深めていく。特に、これらの基本評価は実施手順を座学で把握させ、実技を通して基本的な技法を学んでいく。また知識の確認として小テストや学生同士の確認作業を通して確実に知識が身につけていることを確認しながら進めていくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	作業療法士における検査・測定の意義				安部 征哉	
第2回	関節可動域測定の意義				安部 征哉	
第3回	関節可動域測定（頸部・肩甲帯・体幹）				安部 征哉	
第4回	関節可動域測定（肩・肘）				安部 征哉	
第5回	関節可動域測定（手・手指）				安部 征哉	
第6回	3回～5回 実技試験				安部 征哉	
第7回	関節可動域測定（股関節）				安部 征哉	
第8回	関節可動域測定（膝・足）				安部 征哉	
第9回	7回～9回 実技試験				安部 征哉	
第10回	反射と平衡機能の基礎				安部 征哉	
第11回	反射検査				安部 征哉	
第12回	平衡機能検査				安部 征哉	
第13回	感覚機能の基礎				安部 征哉	
第14回	感覚機能検査				安部 征哉	
第15回	総括				安部 征哉	
備考	<p>本科目の検査手法は、作業療法士として必修の手法であり、今後の臨床実習で活用していく。授業時間内のみでは手技を十分に習得できないので、予習・復習を行い、手技の習得に努めること。臨床実習では患者に対して行なうので、患者を想定しながら実技練習を行なうこと。学生のデモンストレーションを行ない演習を進める場合がある。 授業の際にはそれぞれ指定された教科書を持参する。</p>					
授業時間以外の学習について	<p>【準備学習】 〈各回共通〉 予習：授業前にテキストの該当箇所を理解し、実技練習を行いデモンストレーションに備えること。 復習：毎回の授業、演習内容を振り返り、繰り返し実技練習をする。</p>					
課題・評価方法	定期テスト（筆記）50%、実技試験50%					
教科書	標準作業療法学専門 作業療法評価学（第3版）医学書院					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまたは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 簡易上肢機能テスト(STEF)とは、検査目的と方法					有田 智氏
第2回	簡易上肢機能テスト(STEF)					有田 智氏
第3回	簡易上肢機能テスト(STEF)					有田 智氏
第4回	簡易上肢機能テスト(STEF) 結果の解釈 グループディスカッション					有田 智氏
第5回	徒手筋力テスト(MMT)とは 検査目的と方法					有田 智氏
第6回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲					有田 智氏
第7回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲					有田 智氏
第8回	徒手筋力テスト(MMT) 前腕					有田 智氏
第9回	徒手筋力テスト(MMT) 手関節周囲 手					有田 智氏
第10回	徒手筋力テスト(MMT) 股関節周囲					有田 智氏
第11回	徒手筋力テスト(MMT) 膝関節周囲から足関節周囲					有田 智氏
第12回	徒手筋力テスト(MMT) 頸部、体幹					有田 智氏
第13回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第14回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第15回	実技試験のフィードバックと全体のまとめ					有田 智氏
備考	お互いの身体を使って評価技法の実技を行います。動きやすい服装で授業にのぞんでください					
授業時間以外の学習について	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技に関しては体を使って練習すること					
課題・評価方法	実技テスト(30%) 小テスト(20%) 筆記試験(50%)で総合判定を行う。					
教科書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院, 2010. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著：新・徒手筋力検査法 原著第9版. 協同医書出版社					
参考書	生田宗博：作業療法学全書(改訂第3版) 第3巻 作業療法評価学. 協同医書出版社, 2010.					
オフィスアワー	前期：月 16:10~17:15 火 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまずは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 簡易上肢機能テスト(STEF)とは、検査目的と方法					有田 智氏
第2回	簡易上肢機能テスト(STEF) (演習)					有田 智氏
第3回	簡易上肢機能テスト(STEF) (演習)					有田 智氏
第4回	簡易上肢機能テスト(STEF)結果の解釈 グループディスカッション(演習)					有田 智氏
第5回	徒手筋力テスト(MMT)とは 検査目的と方法					有田 智氏
第6回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲 (演習)					有田 智氏
第7回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲 (演習)					有田 智氏
第8回	徒手筋力テスト(MMT) 前腕 (演習)					有田 智氏
第9回	徒手筋力テスト(MMT) 手関節周囲 手 (演習)					有田 智氏
第10回	徒手筋力テスト(MMT) 股関節周囲 (演習)					有田 智氏
第11回	徒手筋力テスト(MMT) 膝関節周囲から足関節周囲 (演習)					有田 智氏
第12回	徒手筋力テスト(MMT) 頸部、体幹(演習)					有田 智氏
第13回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第14回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第15回	実技試験のフィードバックと全体のまとめ					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	<p>教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技に関しては体を使って練習すること</p>					
課題・評価方法	<p>実技テスト(30%)小テスト(10%) 筆記試験(50%)、授業態度(10%)で総合判定を行う。</p>					
教科書	<p>岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院,2010. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著：新・徒手筋力検査法 原著第9版,協同医書出版社</p>					
参考書	<p>生田宗博：作業療法学全書(改訂第3版)第3巻 作業療法評価学,協同医書出版社,2010.</p>					
オフィスアワー						

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法評価学実習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例（映像）とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物（レポート）をもって評価する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、総論					嶋川 昌典
第2回	作業療法の流れ					嶋川 昌典
第3回	質問紙法（質問紙法について）					嶋川 昌典
第4回	質問紙法（ISDA、SMSFの演習）					嶋川 昌典
第5回	質問司法（OSA IIの演習）					嶋川 昌典
第6回	構成的作業検査（箱づくり法について）					嶋川 昌典
第7回	箱づくり法					嶋川 昌典
第8回	箱づくり法					嶋川 昌典
第9回	箱づくり法					嶋川 昌典
第10回	集団の評価					嶋川 昌典
第11回	集団の評価					嶋川 昌典
第12回	集団の評価					嶋川 昌典
第13回	知的検査					嶋川 昌典
第14回	作業療法で用いられる検査（一般職業適性検査、TEG、LASMI、BACS-J）					嶋川 昌典
第15回	作業療法で用いられる評価（GAF、Rehab、精神障害ケアアセスメントなど）					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習でのレポート課題（実際に学生同士で評価を行いまとめる）が60%、残りの40%を定期テスト					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	香山明美、小林正義ら「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」、医歯薬出版株式会社					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法評価学演習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例（映像）とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物（レポート）をもって評価する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、総論					嶋川 昌典
第2回	作業療法の流れ					嶋川 昌典
第3回	質問紙法①（質問紙法について）					嶋川 昌典
第4回	質問紙法②（ISDA、SMSFの演習）					嶋川 昌典
第5回	質問司法③（OSAⅡの演習）					嶋川 昌典
第6回	構成的作業検査（箱づくり法について）					嶋川 昌典
第7回	箱づくり法（演習①）					嶋川 昌典
第8回	箱づくり法（演習②）					嶋川 昌典
第9回	箱づくり法（演習③）					嶋川 昌典
第10回	集団の評価					嶋川 昌典
第11回	集団の評価（演習①）					嶋川 昌典
第12回	集団の評価（演習②）					嶋川 昌典
第13回	知的検査（演習）					嶋川 昌典
第14回	作業療法で用いられる検査①（演習：一般職業適性検査、TEG、LASMI、BACS-J）					嶋川 昌典
第15回	作業療法で用いられる評価②（演習：GAF、Rehab、精神障害ケアアセスメントなど）					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習でのレポート課題（実際に学生同士で評価を行いまとめる）が60%、残りの40%を定期テストとする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	香山明美、小林正義ら「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」、医歯薬出版株式会社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法評価学実習	必	大西 満	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害児（者）に対する作業療法の理念や役割と評価に必要な典型的発達を理解、発達障害領域の作業療法評価の基本的な視点を学び理解を深める。内容としては、発達障害の概念と対象疾患、作業療法の目的と役割、粗大運動・微細運動の発達、認知機能とコミュニケーションの発達、発達障害領域の作業療法評価、情報収集や面接と観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて講義と演習を組み合わせ学習する。学生の子供のイメージを養う為に視覚教材を用いる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	発達障害とは何か					大西 満
第2回	発達障害領域における作業療法の対象となる疾患					大西 満
第3回	発達障害領域における作業療法の目的と手段					大西 満
第4回	発達障害領域における作業療法士の役割					大西 満
第5回	姿勢・運動発達（粗大・微細運動）					大西 満
第6回	認知・思考の発達					大西 満
第7回	セルフケアの発達					大西 満
第8回	発達障害領域における作業療法評価					大西 満
第9回	情報収集、面接、観察の視点					大西 満
第10回	発達障害領域における観察・動作分析とは何か					大西 満
第11回	発達障害領域における動作分析の視点（動的姿勢の分析）					大西 満
第12回	発達障害領域における動作分析の視点（運動方向の理解）					大西 満
第13回	発達障害領域における動作分析の視点（静的姿勢の分析）					大西 満
第14回	発達障害領域における動作分析の視点（動的姿勢の分析）					大西 満
第15回	発達障害領域における動作分析の視点（日常生活動作の分析）					大西 満
備考						
授業時間以外の学習について	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価方法	定期試験（90%）、ラーニングポートフォリオ（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学」メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法評価学演習	必	大西 満	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害児（者）に対する作業療法の理念や役割と評価に必要な典型的発達を理解、発達障害領域の作業療法評価の基本的な視点を学び理解を深める。内容としては、発達障害の概念と対象疾患、作業療法の目的と役割、粗大運動・微細運動の発達、認知機能とコミュニケーションの発達、発達障害領域の作業療法評価、情報収集や面接と観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて講義と演習を組み合わせ学習する。学生の子供のイメージを養う為に視覚教材を用いる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
内 容						担当教員
第1回	発達障害とは何か。					大西 満
第2回	発達障害領域における作業療法の対象となる疾患					大西 満
第3回	発達障害領域における作業療法の目的と手段（演習）					大西 満
第4回	発達障害領域における作業療法士の役割（演習）					大西 満
第5回	姿勢・運動発達（粗大・微細運動）（演習）					大西 満
第6回	認知・思考の発達					大西 満
第7回	セルフケアの発達					大西 満
第8回	発達障害領域における作業療法評価（演習）					大西 満
第9回	情報収集、面接、観察の視点					大西 満
第10回	発達障害領域における観察・動作分析とは何か（演習）					大西 満
第11回	発達障害領域における動作分析の視点（動的姿勢の分析）（演習）					大西 満
第12回	発達障害領域における動作分析の視点（運動方向の理解）（演習）					大西 満
第13回	発達障害領域における動作分析の視点（静的姿勢の分析）（演習）					大西 満
第14回	発達障害領域における動作分析の視点（動的姿勢の分析）（演習）					大西 満
第15回	発達障害領域における動作分析の視点（日常生活動作の分析）（演習）					大西 満
備考						
授業時間以外の学習について	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価方法	定期試験（90%）、ラーニングポートフォリオ（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法学ゴールドマスターテキスト7 発達障害作業療法学」メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスアワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器疾患作業療法 学実習	必	安部 征哉	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。本講義は、作業療法の対象疾患の中でも運動器疾患に焦点を当てて、障害像、ハンドセラピーなどの作業療法アプローチを理解し、説明・実施できることが授業目標となる。特に日本作業療法士協会が作業療法士の専門性の一つとして確立している手外科領域についてその内容を深めて、症例紹介を行いながら臨床像をイメージ出来るようにする。講義の内容は、骨折や末梢神経損傷、腱損傷、熱傷やリウマチの疾患概要と評価、治療の進め方などを説明する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動器疾患に関する医学的基礎知識					安部 征哉
第2回	骨折の医学的基礎知識					安部 征哉
第3回	骨折の作業療法・上肢骨折・事例検討					安部 征哉
第4回	骨折の作業療法・上肢骨折とスプリント					安部 征哉
第5回	骨折の作業療法・下肢骨折の事例検討					安部 征哉
第6回	手の末梢神経損傷の医学的基礎知識					安部 征哉
第7回	手の末梢神経損傷と作業療法と事例検討					安部 征哉
第8回	手指の腱損傷の医学的基礎知識					安部 征哉
第9回	手指の腱損傷の作業療法と事例検討					安部 征哉
第10回	手指の抹消神経損傷・腱損傷の作業療法・事例検討					安部 征哉
第11回	熱傷に対する医学的基礎知識					安部 征哉
第12回	熱傷の作業療法と事例検討					安部 征哉
第13回	関節リウマチの医学的基礎知識					安部 征哉
第14回	関節リウマチに対する作業療法・事例検討					安部 征哉
第15回	総括					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと</p>					
課題・評価方法	定期テスト 60%、小テスト40%					
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 第4巻 身体障害作業療法学 メジカルビュー社					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー	<p>後期：火 16:10~17:15 金 16:10~17:15</p>					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器疾患作業療法 学演習	必	安部 征哉	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。本講義は、作業療法の対象疾患の中でも運動器疾患に焦点を当てて、障害像、ハンドセラピーなどの作業療法アプローチを理解し、説明・実施ができるように講義を進める。特に日本作業療法士協会が作業療法士の専門性の一つとして確立している手外科領域についてその内容を深めて、症例紹介を行いながら臨床像をイメージ出来るようにする。講義の内容は、骨折や末梢神経損傷、腱損傷、熱傷やリウマチの疾患概要と評価、治療の進め方などを説明する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動器疾患に関する医学的基礎知識					安部 征哉
第2回	骨折の医学的基礎知識					安部 征哉
第3回	骨折の作業療法・上肢骨折・事例検討（演習）					安部 征哉
第4回	骨折の作業療法・上肢骨折とスプリント（演習）					安部 征哉
第5回	骨折の作業療法・下肢骨折の事例検討（演習）					安部 征哉
第6回	手の末梢神経損傷の医学的基礎知識					安部 征哉
第7回	手の末梢神経損傷と作業療法と事例検討（演習）					安部 征哉
第8回	手指の腱損傷の医学的基礎知識					安部 征哉
第9回	手指の腱損傷の作業療法と事例検討（演習）					安部 征哉
第10回	手指の抹消神経損傷・腱損傷の作業療法・事例検討（演習）					安部 征哉
第11回	熱傷に対する医学的基礎知識					安部 征哉
第12回	熱傷の作業療法と事例検討（演習）					安部 征哉
第13回	関節リウマチの医学的基礎知識（演習）					安部 征哉
第14回	関節リウマチに対する作業療法・事例検討（演習）					安部 征哉
第15回	総括（演習）					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	定期テスト 60%、小テスト40%					
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 第4巻 身体障害作業療法学 メジカルビュー社					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー						

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
中枢神経疾患作業療法 法学実習	必	下西 徳	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳血管障害における全般的症状					下西 徳
第2回	運動麻痺・筋緊張の異常とその見方、片麻痺機能検査の評価					下西 徳
第3回	姿勢反射障害、バランスの評価、協調性障害と評価方法					下西 徳
第4回	作業療法プロセスについて (トップダウン)					下西 徳
第5回	評価の解釈と個人の全体像					下西 徳
第6回	目標設定から治療計画立案					下西 徳
第7回	脳血管障害の作業療法アプローチについて					下西 徳
第8回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム					下西 徳
第9回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム					下西 徳
第10回	脊髄損傷の全般的症状					下西 徳
第11回	脊髄損傷の評価について (情報収集・観察)					下西 徳
第12回	脊髄損傷の評価 (心身機能)					下西 徳
第13回	脊髄損傷の治療 社会適応プログラム					下西 徳
第14回	脊髄損傷の治療 応用的プログラム (活動・参加について)					下西 徳
第15回	脊髄損傷の治療 基本的プログラム (心身機能面について)					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	グループレポート課題 (30%)、筆記試験 (60%)、小テスト (10%)					
教科書	菅原洋子：日本作業療法士協会 (監修：作業療法学全書4 作業治療学1 身体障害・協同医書出版社)					
参考書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院. 2017					
オフィスアワー	後期：木 16:10~17:15 金 16:10~17:15					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
中枢神経疾患作業療法学演習	必	有田 智氏	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳血管障害における全般的症状					有田 智氏
第2回	運動麻痺・筋緊張の異常とその見方、片麻痺機能検査の評価 (演習)					有田 智氏
第3回	姿勢反射障害、バランスの評価、協調性障害と評価方法 (演習)					有田 智氏
第4回	作業療法プロセスについて (トップダウン)					有田 智氏
第5回	評価の解釈と個人の全体像 (演習)					有田 智氏
第6回	目標設定から治療計画立案					有田 智氏
第7回	脳血管障害の作業療法アプローチについて					有田 智氏
第8回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム① (演習)					有田 智氏
第9回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム② (演習)					有田 智氏
第10回	脊髄損傷の全般的症状					有田 智氏
第11回	脊髄損傷の評価について (情報収集・観察：演習)					有田 智氏
第12回	脊髄損傷の評価 (心身機能：演習)					有田 智氏
第13回	脊髄損傷の治療 社会適応プログラム (演習)					有田 智氏
第14回	脊髄損傷の治療 応用的プログラム (活動・参加について：演習)					有田 智氏
第15回	脊髄損傷の治療 基本的プログラム (心身機能面について：演習)					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	グループレポート課題 (30%) 筆記試験 (60%)、授業態度・出席 (10%)					
教科書	菅原洋子：日本作業療法士協会 (監修：作業療法学全書4 作業治療学1 身体障害・協同医書出版社)					
参考書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院. 2017					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
高次脳機能障害作業療法学実習	必	澤 賢一郎	1	30	3年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、中枢神経疾患作業療法学や神経内科学と関連させながら、高次脳機能障害におけるメカニズムの理解、そして基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。内容として、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について授業を進めていく。特に臨床場面で見学体験することができない状態での授業が予想されるために動画媒体を用いながら実施する。また、動画観察後のディスカッションならびに評価のデモンストレーションのため週に2コマの編成で実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、高次脳機能障害とは					澤 賢一郎
第2回	脳の機能解剖と脳画像所見のみかた					澤 賢一郎
第3回	高次脳機能の獲得と主な疾患					澤 賢一郎
第4回	評価・治療の原則					澤 賢一郎
第5回	失語症患者への評価・治療					澤 賢一郎
第6回	評価演習（失語症）					澤 賢一郎
第7回	失行患者・失認患者の評価・治療					澤 賢一郎
第8回	評価演習（失行）					澤 賢一郎
第9回	評価演習（失認）					澤 賢一郎
第10回	半側空間無視患者・注意障害への評価・治療					澤 賢一郎
第11回	評価演習（半側空間無視）					澤 賢一郎
第12回	評価演習（注意障害）					澤 賢一郎
第13回	遂行機能障害患者・記憶障害患者への評価・治療					澤 賢一郎
第14回	評価演習（遂行機能障害）					澤 賢一郎
第15回	評価演習（記憶障害）					澤 賢一郎
備考	講義7コマ、演習および一部演習で8コマで実施する。					
授業時間以外の学習について	人が当たり前で過ごす日常生活における基本的な脳の機能を基にします。特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く考えを進めてみてください。					
課題・評価方法	筆記試験（70%）、課題（20%）、小テスト（10%）					
教科書	野登真一：標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学. 医学書院					
参考書						
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
高次脳機能障害作業療法学演習	必	鈴木 耕平	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、中枢神経疾患作業療法学や神経内科学と関連させながら、高次脳機能障害におけるメカニズムの理解、そして基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。内容として、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について授業を進めていく。特に臨床場面で見学体験することができない状態での授業が予想されるために動画媒体を用いながら実施する。また、動画観察後のディスカッションならびに評価のデモンストレーションのため週に2コマの編成で実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、高次脳機能障害とは					鈴木 耕平
第2回	脳の機能解剖と脳画像所見のみかた（演習）					鈴木 耕平
第3回	高次脳機能の獲得と主な疾患					鈴木 耕平
第4回	評価・治療の原則					鈴木 耕平
第5回	失語症患者への評価・治療					鈴木 耕平
第6回	評価演習（失語症）（演習）					鈴木 耕平
第7回	失行患者・失認患者の評価・治療					鈴木 耕平
第8回	評価演習（失行）（演習）					鈴木 耕平
第9回	評価演習（失認）（演習）					鈴木 耕平
第10回	半側空間無視患者・注意障害への評価・治療					鈴木 耕平
第11回	評価演習（半側空間無視）（演習）					鈴木 耕平
第12回	評価演習（注意障害）（演習）					鈴木 耕平
第13回	遂行機能障害患者・記憶障害患者への評価・治療					鈴木 耕平
第14回	評価演習（遂行機能障害）（演習）					鈴木 耕平
第15回	評価演習（記憶障害）（演習）					鈴木 耕平
備考	講義7コマ、演習および一部演習で8コマで実施する。					
授業時間以外の学習について	人が当たり前に過ごす日常生活における基本的な脳の機能を基にします。特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く考えを進めてみてください。					
課題・評価方法	筆記試験（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）					
教科書	野登真一：標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学。医学書院					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法学 実習	必	嶋川 昌典	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科領域で関わることが多い統合失調症や気分障害、神経症性障害、人格障害、依存症、認知症などの各疾患ごとの作業療法の介入手法を理解することである。また、認知行動療法やSST、家族療法の技法の演習も取り入れ、理解することである。各疾患は事例を通して学び、各種技法は実技演習を取り入れ、理解を深める。その為、その疾患でよく使われる治療技法をセットにして授業を行う。具体的には、統合失調症の事例を学んだ週にSSTを学ぶという形で週に2回の頻度で授業を展開する。学生の理解度は、医学的診断とリハビリテーションの流れに基づいた基本的な事例の理解、各種手技についても基本的な技法（概要とその理論背景）の理解とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 基本的な精神疾患の方への関わり方					嶋川 昌典
第2回	統合失調症の回復過程、行動特性					嶋川 昌典
第3回	統合失調症の作業療法（急性期）					嶋川 昌典
第4回	統合失調症の作業療法（慢性期）					嶋川 昌典
第5回	社会認知プログラム SCITの枠組み					嶋川 昌典
第6回	社会認知プログラム 疑心、結論の飛躍					嶋川 昌典
第7回	SST					嶋川 昌典
第8回	気分障害への作業療法介入					嶋川 昌典
第9回	認知行動療法1 コラム法					嶋川 昌典
第10回	認知行動療法2 問題解決技法、アサーション					嶋川 昌典
第11回	神経症性障害、摂食障害の作業療法					嶋川 昌典
第12回	パーソナリティ障害の作業療法					嶋川 昌典
第13回	依存症、青年期の発達障害の作業療法					嶋川 昌典
第14回	家族療法					嶋川 昌典
第15回	学生の事例を基にした事例検討					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。演習（第5、6、7、14回）を手伝ってもらう学生とは事前学習を行う。					
課題・評価方法	定期テストを90%とし、小テストを10%とする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	中井久夫・山口直彦「看護のための精神医学」医学書院、早坂友成・稲富宏之「うつ病の作業療法」、昼田源四郎「統合失調症患者の行動特性」金剛書店、Dロバーツ・中込和幸「社会認知ならびに対人関係トレーニング」星和書店 など					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法学 演習	必	嶋川 昌典	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科領域で関わることが多い統合失調症や気分障害、神経症性障害、人格障害、依存症、認知症などの各疾患ごとの作業療法の介入手法を理解することである。また、認知行動療法やSST、家族療法の技法の演習も取り入れ、理解することである。各疾患は事例を通して学び、各種技法は実技演習を取り入れ、理解を深める。その為、その疾患でよく使われる治療技法をセットにして授業を行う。具体的には、統合失調症の事例を学んだ週にSSTを学ぶという形で週に2回の頻度で授業を展開する。学生の理解度は、医学的診断とリハビリテーションの流れに基づいた基本的な事例の理解、各種手技についても基本的な技法（概要とその理論背景）の理解とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 基本的な精神疾患の方への関わり方					嶋川 昌典
第2回	統合失調症の回復過程、行動特性 (演習)					嶋川 昌典
第3回	統合失調症の作業療法 (急性期) (演習)					嶋川 昌典
第4回	統合失調症の作業療法 (慢性期) (演習)					嶋川 昌典
第5回	社会認知プログラム SCITの枠組み (演習)					嶋川 昌典
第6回	社会認知プログラム 疑心、結論の飛躍 (演習)					嶋川 昌典
第7回	SST (演習)					嶋川 昌典
第8回	気分障害への作業療法介入					嶋川 昌典
第9回	認知行動療法1 コラム法 (演習)					嶋川 昌典
第10回	認知行動療法2 問題解決技法、アサーション (演習)					嶋川 昌典
第11回	神経症性障害、摂食障害の作業療法					嶋川 昌典
第12回	パーソナリティ障害の作業療法					嶋川 昌典
第13回	依存症、青年期の発達障害の作業療法					嶋川 昌典
第14回	家族療法 (演習)					嶋川 昌典
第15回	学生の事例を基にした事例検討 (演習)					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。演習 (第5、6、7、14回) を手伝ってもらう学生とは事前学習を行う。					
課題・評価方法	定期テストを9割とし、授業態度を1割とする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法 (新版)」三輪書店					
参考書	中井久夫・山口直彦「看護のための精神医学」医学書院、早坂友成・稲富宏之「うつ病の作業療法」、昼田源四郎「統合失調症患者の行動特性」金剛書店、Dロバーツ・中込和幸「社会認知ならびに対人関係トレーニング」星和書店 など					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法学 実習Ⅰ	必	辛島千恵子	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害作業療法は、障害の特性を把握するために、生活環境、成育歴などのライフステージが大きく影響する。そのため、脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解することを目標に講義を行う。内容としては、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺・痙直型両麻痺・痙直型片麻痺・アトローゼ型の特徴と評価と治療支援、重症心身障害児（者）の概要とその評価と治療支援などについて学習する。					
学位授与方 針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳性麻痺とは（概要）					辛島千恵子
第2回	脳性麻痺（痙直型）					辛島千恵子
第3回	脳性麻痺（アトローゼ型・失調型）					辛島千恵子
第4回	脳性麻痺（混合型・弛緩型）					辛島千恵子
第5回	痙直型四肢麻痺児の特徴					辛島千恵子
第6回	痙直型四肢麻痺児の分析と評価計画立案					辛島千恵子
第7回	痙直型両麻痺児の特徴					辛島千恵子
第8回	痙直型両麻痺児の分析と評価計画立案					辛島千恵子
第9回	痙直型片麻痺児の特徴					辛島千恵子
第10回	痙直型片麻痺児の分析と評価計画立案					辛島千恵子
第11回	アトローゼ型児の特徴					辛島千恵子
第12回	アトローゼ型児の分析と評価計画立案					辛島千恵子
第13回	重症心身障害児について（概要）					辛島千恵子
第14回	重症心身障害児にの特徴					辛島千恵子
第15回	重症心身障害児にの分析と評価計画立案					辛島千恵子
備考						
授業時間以 外の学習に ついて	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価 方法	定期試験（90%）、ラーニングポートフォリオ（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学」メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスア ワー	後期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法学 演習Ⅰ	必	大西 満	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害作業療法は、障害の特性を把握するために、生活環境、成育歴などのライフステージが大きく影響する。そのため、脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解することを目標に講義を行う。内容としては、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺・痙直型両麻痺・痙直型片麻痺・アトローゼ型の特徴と評価と治療支援、重症心身障害児（者）の概要とその評価と治療支援などについて学習する。					
学位授与方 針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳性麻痺とは（概要）					大西 満
第2回	脳性麻痺（痙直型）					大西 満
第3回	脳性麻痺（アトローゼ型・失調型）					大西 満
第4回	脳性麻痺（混合型・弛緩型）					大西 満
第5回	痙直型四肢麻痺児の特徴（演習）					大西 満
第6回	痙直型四肢麻痺児の分析と評価計画立案（演習）					大西 満
第7回	痙直型両麻痺児の特徴（演習）					大西 満
第8回	痙直型両麻痺児の分析と評価計画立案（演習）					大西 満
第9回	痙直型片麻痺児の特徴（演習）					大西 満
第10回	痙直型片麻痺児の分析と評価計画立案（演習）					大西 満
第11回	アトローゼ型児の特徴（演習）					大西 満
第12回	アトローゼ型児の分析と評価計画立案（演習）					大西 満
第13回	重症心身障害児について（概要）					大西 満
第14回	重症心身障害児にの特徴（演習）					大西 満
第15回	重症心身障害児にの分析と評価計画立案（演習）					大西 満
備考						
授業時間以 外の学習に ついて	適宜、google classroomを使用し、事前課題提出をした状態出で受講すること。具体的内容は授業終了時に次回までの課題を説明する。					
課題・評価 方法	定期試験（90%）、ラーニングポートフォリオ（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学」メジカルビュー社					
参考書	なし					
オフィスア ワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法学 実習Ⅱ	必	辛島 千恵子	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害領域の知的障害や自閉症スペクトラムなどの障害特性、発達特性を理解し、発達障害領域特有の作業療法評価と治療・支援について理解・説明できるように学習を進める。講義内容としては、知的障害・自閉症スペクトラム・注意欠陥多動性障害・学習障害などの特徴を学習し、生活行為との関連について理解を深める。またライフステージに合わせた子供の能力や生活行為の評価とその治療支援について講義とVTR、遊びの体験とディスカッションなどを組み合わせ実施していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、知的障害の臨床像の理解と評価					辛島 千恵子
第2回	知的障害の治療・支援					辛島 千恵子
第3回	事例検討					辛島 千恵子
第4回	自閉症スペクトラムの臨床像の理解と評価					辛島 千恵子
第5回	自閉症スペクトラムの治療・支援					辛島 千恵子
第6回	事例検討					辛島 千恵子
第7回	学習障害の臨床像の理解と評価					辛島 千恵子
第8回	学習障害の治療・支援					辛島 千恵子
第9回	事例検討					辛島 千恵子
第10回	注意欠陥多動性障害の臨床像の理解と評価					辛島 千恵子
第11回	注意欠陥多動性障害の治療・支援					辛島 千恵子
第12回	事例検討					辛島 千恵子
第13回	感覚統合障害の評価					辛島 千恵子
第14回	感覚統合障害の治療					辛島 千恵子
第15回	事例検討					辛島 千恵子
備考	①臨床像の理解と評価②治療・支援③事例検討になっている。①②ではADL、遊び、学習などの演習が含まれます。					
授業時間以外の学習について	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理をすることとする。					
課題・評価方法	レポート課題（20%）、筆記試験（70%）、小テスト（10%）					
教科書	長崎重信「作業療法ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学」メディカルビュー社					
参考書	上杉雅之 監修 辛島千恵子編集 「イラストでわかる発達障害の作業療法」					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
発達障害作業療法学 演習Ⅱ	必	木岡 和実	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	発達障害領域の知的障害や自閉症スペクトラムなどの障害特性、発達特性を理解し、発達障害領域特有の作業療法評価と治療・支援について理解・説明できるように学習を進める。講義内容としては、知的障害・自閉症スペクトラム・注意欠陥多動性障害・学習障害などの特徴を学習し、生活行為との関連について理解を深める。またライフステージに合わせた子供の能力や生活行為の評価とその治療支援について講義とVTR、遊びの体験とディスカッションなどを組み合わせ実施していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、知的障害の臨床像の理解と評価					木岡 和実
第2回	知的障害の治療・支援					木岡 和実
第3回	事例検討					木岡 和実
第4回	自閉症スペクトラムの臨床像の理解と評価					木岡 和実
第5回	自閉症スペクトラムの治療・支援					木岡 和実
第6回	事例検討					木岡 和実
第7回	学習障害の臨床像の理解と評価					木岡 和実
第8回	学習障害の治療・支援					木岡 和実
第9回	事例検討					木岡 和実
第10回	注意欠陥多動性障害の臨床像の理解と評価					木岡 和実
第11回	注意欠陥多動性障害の治療・支援					木岡 和実
第12回	事例検討					木岡 和実
第13回	感覚統合障害の評価					木岡 和実
第14回	感覚統合障害の治療					木岡 和実
第15回	事例検討					木岡 和実
備考	①臨床像の理解と評価②治療・支援③事例検討になっている。①②ではADL、遊び、学習などの演習が含まれます。					
授業時間以外の学習について	事前に講義資料を配布するので授業までに目を通し予習しておくこと、復習は各回の内容の整理をすることとする。					
課題・評価方法	レポート課題 (20%)、筆記試験 (70%)、授業態度 (10%)					
教科書	長崎重信「作業療法ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学」メディカルビュー社					
参考書	上杉雅之 監修 辛島千恵子編集 「イラストでわかる発達障害の作業療法」					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
老年期障害作業療法学実習	必	澤 賢一郎	1	30	3年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①老年期の複雑性や高齢者に対しての作業療法の評価、支援について理解する。②高齢者の全体像（生活歴、家族状況、地域との関わり方、多職種）を把握し、支援計画を立案することができる。③高齢者に合併しやすい疾患について作業療法評価と支援について理解することができる。虚弱高齢者、寝たきり閉じこもり、廃用症候群に対しての作業療法評価、治療、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、腰痛、心疾患、呼吸器疾患、がんに対しての作業療法評価、治療について、講義や事例検討、グループワークを交えながら行っていく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	虚弱高齢者・寝たきり・閉じこもり・廃用症候群の作業療法					澤 賢一郎
第2回	症例検討（虚弱高齢者）					澤 賢一郎
第3回	症例検討（廃用症候群）					澤 賢一郎
第4回	パーキンソン病の評価と作業療法の実践					澤 賢一郎
第5回	症例検討（パーキンソン病）					澤 賢一郎
第6回	脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症の評価と作業療法の実際					澤 賢一郎
第7回	症例検討（脊髄小脳変性症）					澤 賢一郎
第8回	症例検討（筋萎縮性側索硬化症）					澤 賢一郎
第9回	大腿骨頸部骨折の評価と作業療法の実際					澤 賢一郎
第10回	症例検討（大腿骨頸部骨折）					澤 賢一郎
第11回	腰椎圧迫骨折・腰痛の評価と作業療法の実際					澤 賢一郎
第12回	症例検討（腰椎圧迫骨折）					澤 賢一郎
第13回	循環器疾患・呼吸器疾患の評価と作業療法の実際					澤 賢一郎
第14回	症例検討（循環器疾患）					澤 賢一郎
第15回	終末期の作業療法					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲について事前に調べておくこと  復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験(50%)、グループワーク課題(50%) グループワーク課題は各疾患の症例をグループで検討しレポートする。</p>					
教科書	<p>(社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書7巻 作業療法学4 老年期. 共同出版社</p>					
参考書	<p>徳永千尋・田村孝司編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学 メジカルビュー社</p>					
オフィスアワー	<p>前期：月 16：10～17：15  水 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
老年期障害作業療法学演習	必	寺井 淳	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①老年期の複雑性や高齢者に対しての作業療法の評価、支援について理解する。②高齢者の全体像（生活歴、家族状況、地域との関わり方、他職種）を把握し、支援計画を立案することができる。③高齢者に合併しやすい疾患について作業療法評価と支援について理解することができる。虚弱高齢者、寝たきり閉じこもり、廃用症候群に対しての作業療法評価、治療、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、腰痛、心疾患、呼吸器疾患、がんに対しての作業療法評価、治療について、講義や事例検討、グループワークを交えながら行っていく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容	担当教員				
第1回	虚弱高齢者・寝たきり・閉じこもり・廃用症候群の作業療法	寺井 淳				
第2回	症例検討（虚弱高齢者）	寺井 淳				
第3回	症例検討（廃用症候群）	寺井 淳				
第4回	パーキンソン病の評価と作業療法の実践	寺井 淳				
第5回	症例検討（パーキンソン病）	寺井 淳				
第6回	脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症の評価と作業療法の実際	寺井 淳				
第7回	症例検討（脊髄小脳変性症）	寺井 淳				
第8回	症例検討（筋萎縮性側索硬化症）	寺井 淳				
第9回	大腿骨頸部骨折の評価と作業療法の実際	寺井 淳				
第10回	症例検討（大腿骨頸部骨折）	寺井 淳				
第11回	腰椎圧迫骨折・腰痛の評価と作業療法の実際	寺井 淳				
第12回	症例検討（腰椎圧迫骨折）	寺井 淳				
第13回	循環器疾患・呼吸器疾患の評価と作業療法の実際	寺井 淳				
第14回	症例検討（循環器疾患）	寺井 淳				
第15回	終末期の作業療法	寺井 淳				
備考						
授業時間以外の学習について	<p>これまで受けてきた老年期に関する講義、作業療法プロセス、生活行為向上マネジメントなどの復習に加えて、内科・神経内科・整形で学習した各疾患についても復習しておく、老年期の対象者の生活イメージをもって、疾患の進行や治癒の程度に合わせた評価や治療計画の立案を検討していけると考えています。</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験(80%)、授業態度(5%)、グループワーク課題(15%)</p>					
教科書	<p>(社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書7巻 作業療法学4 老年期. 共同出版社</p>					
参考書	<p>徳永千尋・田村孝司編集：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学 メジカルビュー社</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日常生活活動論実習	必	有田 智氏	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として演習を進め分析を進めていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	日常生活活動の概念と範囲					
第2回	日常生活活動の成り立ちと作業療法					
第3回	日常生活活動別の特徴					
第4回	セルフケア –グループワークにて各セルフケアを検討する–					
第5回	セルフケア –発表–					
第6回	セルフケア –発表–					
第7回	セルフケア –発表–					
第8回	家庭生活・社会活動・コミュニケーション					
第9回	日常生活活動への援助の視点					
第10回	日常生活活動の評価					
第11回	日常生活活動の標準化された評価（バーサルインデックス）					
第12回	日常生活活動の標準化された評価（FIM）					
第13回	日常生活活動の評価					
第14回	日常生活の観察評価					
第15回	日常生活の観察評価と事例					
備考						
授業時間以外の学習について	人が当たり前で過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。					
課題・評価方法	グループレポート課題（20%）、発表（20%）、小テスト（30%） 筆記試験（30%）					
教科書	日本作業療法士協会（監修）：作業療法学全書11 日常生活活動. 協同医書出版社.					
参考書	吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日常生活活動論演習	必	鈴木 耕平	1	30	2年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として演習を進め分析を進めていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内 容					担当教員
第1回	日常生活活動の概念と範囲					鈴木 耕平
第2回	日常生活活動の成り立ちと作業療法					鈴木 耕平
第3回	日常生活活動別の特徴					鈴木 耕平
第4回	セルフケア演習 ―グループワークにて各セルフケアを検討する― (演習)					鈴木 耕平
第5回	セルフケア演習① ―発表― (演習)					鈴木 耕平
第6回	セルフケア演習② ―発表― (演習)					鈴木 耕平
第7回	セルフケア演習③ ―発表― (演習)					鈴木 耕平
第8回	家庭生活・社会活動・コミュニケーションと演習 (演習)					鈴木 耕平
第9回	日常生活活動への援助の視点					鈴木 耕平
第10回	日常生活活動の評価					鈴木 耕平
第11回	日常生活活動の標準化された評価 (バーセルインデックス)					鈴木 耕平
第12回	日常生活活動の標準化された評価 (FIM)					鈴木 耕平
第13回	日常生活活動の評価演習 (演習)					鈴木 耕平
第14回	日常生活の観察評価と演習 (演習)					鈴木 耕平
第15回	日常生活の観察評価と事例演習 (グループ演習) (演習)					鈴木 耕平
備考	講義を7コマ、演習を8コマとして実施する。					
授業時間以外の学習について	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。					
課題・評価方法	グループレポート課題 (20%)、発表 (20%)、小テスト (20%) 筆記試験 (30%)、授業態度 (10%)					
教科書	日本作業療法士協会 (監修) : 作業療法学全書11 日常生活活動. 協同医書出版社.					
参考書	1) 吉川ひろみ : 作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会生活行為論実習	必	澤 賢一郎	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内 容					担 当 教 員
第1回	総論					澤 賢一郎
第2回	日常生活関連活動支援 洗濯/掃除					澤 賢一郎
第3回	日常生活関連活動支援 調理/買い物・外出					澤 賢一郎
第4回	社会生活行為の支援 教育					澤 賢一郎
第5回	社会生活行為の支援 就労					澤 賢一郎
第6回	社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び					澤 賢一郎
第7回	自身の社会生活行為についてまとめ					澤 賢一郎
第8回	自身の社会生活行為についてまとめ					澤 賢一郎
第9回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション					澤 賢一郎
第10回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション					澤 賢一郎
第11回	まとめ、自助具作成					澤 賢一郎
第12回	自助具作成					澤 賢一郎
第13回	自助具作成					澤 賢一郎
第14回	作成した自助具のプレゼンテーション・症例紹介					澤 賢一郎
第15回	総復習					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしておく。 作成自助具の選定や準備物について文献、インターネットを使用し事前に準備をしておくことが望ましい。</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験（70%）、2回のレポート（15%×2）により評価する。</p>					
教科書	<p>濱口 豊太編：日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院.</p>					
参考書	<p>生田宗博編：IADL・作業療法の戦略と戦術・技術. 三輪書店. (社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第11巻 日常生活活動. 協同医書出版社.</p>					
オフィスアワー	<p>前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15</p>					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会生活行為論演習	必	寺井 淳	1	30	2年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内 容					担当教員
第 1 回	総論					寺井 淳
第 2 回	日常生活関連活動支援 洗濯/掃除					寺井 淳
第 3 回	日常生活関連活動支援 調理/買い物・外出					寺井 淳
第 4 回	社会生活行為の支援 教育					寺井 淳
第 5 回	社会生活行為の支援 就労					寺井 淳
第 6 回	社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び					寺井 淳
第 7 回	自身の社会生活行為についてまとめ(演習)					寺井 淳
第 8 回	自身の社会生活行為についてまとめ(演習)					寺井 淳
第 9 回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション(演習)					寺井 淳
第 10 回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション(演習)					寺井 淳
第 11 回	まとめ、自助具作成(演習)					寺井 淳
第 12 回	自助具作成(演習)					寺井 淳
第 13 回	自助具作成(演習)					寺井 淳
第 14 回	作成した自助具のプレゼンテーション・症例紹介(演習)					寺井 淳
第 15 回	総復習					寺井 淳
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしてください。 作成自助具の選定や準備について事前に調べ、準備をしておいて下さい。</p>					
課題・評価方法	定期試験 (70%)、レポート (30%)					
教科書	濱口 豊太編：日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院.					
参考書	生田宗博編：IADL・作業療法の戦略と戦術・技術. 三輪書店. (社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第11巻 日常生活活動. 協同医書出版社.					
オフィスアワー						

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論実習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	人と作業				嶋川 昌典	
第2回	作業分析チェックシートの記載の仕方				嶋川 昌典	
第3回	作業の一般的特性のシートの記載 見本提示				嶋川 昌典	
第4回	作業の一般的特性のシートの記載 実際に記入を行う				嶋川 昌典	
第5回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答				嶋川 昌典	
第6回	精神障害領域で必要な要素の記載 見本提示				嶋川 昌典	
第7回	精神障害領域で必要な要素の記載 実際に記入を行う				嶋川 昌典	
第8回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答				嶋川 昌典	
第9回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第10回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第11回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第12回	前半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認				嶋川 昌典	
第13回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第14回	学生の課題の発表				嶋川 昌典	
第15回	後半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認				嶋川 昌典	
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	小テスト（30%）と成果物（70%）とする。					
教科書	山根寛「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店					
参考書	特になし					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	人と作業					嶋川 昌典
第2回	作業分析チェックシートの記載の仕方					嶋川 昌典
第3回	作業の一般的特性のシートの記載 見本提示					嶋川 昌典
第4回	作業の一般的特性のシートの記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第5回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第6回	精神障害領域で必要な要素の記載 見本提示					嶋川 昌典
第7回	精神障害領域で必要な要素の記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第8回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第9回	学生の課題の発表①（演習）					嶋川 昌典
第10回	学生の課題の発表②（演習）					嶋川 昌典
第11回	学生の課題の発表③（演習）					嶋川 昌典
第12回	前半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
第13回	学生の課題の発表④（演習）					嶋川 昌典
第14回	学生の課題の発表⑤（演習）					嶋川 昌典
第15回	後半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習時の授業参加態度（30%）と成果物（70%）とする。					
教科書	山根寛「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店					
参考書	特になし					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法義肢装具実習	必	安部 征哉	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>義肢装具は対象者の身体障害を補完するために重要な知識である。作業療法士が義肢装具を提供する、もしくは提案する対象は運動器疾患、中枢神経疾患と目的によって多岐にわたる。講義では、義肢、装具について理解し、それらを必要とする疾患の理解、評価技法と治療的介入について理解する。作業療法士の専門性である手外科領域で使用頻度の高い装具作成演習を取り入れ対象者に合った装具を作成できること、様々なスプリント作成を見学し多種多様なスプリントについて理解するように演習を取り入れて講義・演習をすすめる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	切断総論					安部 征哉
第2回	義肢総論					安部 征哉
第3回	義手総論					安部 征哉
第4回	装具総論					安部 征哉
第5回	作業療法士とスプリント					安部 征哉
第6回	スプリント作成（カックアップスプリント型取り）					安部 征哉
第7回	スプリント作成（カックアップスプリント作成）					安部 征哉
第8回	スプリント作成（カックアップスプリント仕上げ）					安部 征哉
第9回	スプリント作成（短対立スプリント型取り）					安部 征哉
第10回	スプリント作成（短対立スプリント作成）					安部 征哉
第11回	スプリント作成（短対立スプリント仕上げ）					安部 征哉
第12回	関節リウマチ用リングスプリント作成					安部 征哉
第13回	オルフィキャストによる手指スプリント作成					安部 征哉
第14回	スプリントを用いた治療的介入について					安部 征哉
第15回	総復習					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>装具作成演習は、型紙法を用いるため型紙をもとに作成の練習、講義内で説明する装具作成方法の流れの復習を実施する。スプリント作成において作成pointを熟知したうえで実施する事が望ましい。</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験（70%）、4個のスプリント作品点（10%×2、5%×2）により評価する。 スプリント作品点は、評価項目に従って評価を実施する。</p>					
教科書	<p>川村次郎等編集 義肢装具学 第4版 医学書院 2010 随時資料配布</p>					
参考書	<p>岩崎テル子他編 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 2014 澤村誠治、田澤英二、内田光彦編 義肢学 第3版 医歯薬出版株式会社 中田眞由美、大山峰生著 作業療法士のためのハンドセラピー入門 三輪書店 矢崎潔著：手のスプリントのすべて 第4版、三輪書店</p>					
オフィスアワー	<p>後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法義肢装具演習	必	寺井 淳	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>義肢装具は対象者の身体障害を補完するために重要な知識である。作業療法士が義肢装具を提供する、もしくは提案する対象は運動器疾患、中枢神経疾患と目的によって多岐にわたる。講義では、義肢、装具について理解し、それらを必要とする疾患の理解、評価技法と治療的介入について理解する。作業療法士の専門性である手外科領域で使用頻度の高い装具作成演習を取り入れ対象者に合った装具を作成できること、様々なスプリント作成を見学し多種多様なスプリントについて理解するように演習を取り入れて講義・演習をすすめる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	切断総論					寺井 淳
第2回	義肢総論					寺井 淳
第3回	義手総論					寺井 淳
第4回	装具総論					寺井 淳
第5回	作業療法士とスプリント					寺井 淳
第6回	スプリント作成（カックアップスプリント型取り）（演習）					寺井 淳
第7回	スプリント作成（カックアップスプリント作成）（演習）					寺井 淳
第8回	スプリント作成（カックアップスプリント仕上げ）（演習）					寺井 淳
第9回	スプリント作成（短対立スプリント型取り）（演習）					寺井 淳
第10回	スプリント作成（短対立スプリント作成）（演習）					寺井 淳
第11回	スプリント作成（短対立スプリント仕上げ）（演習）					寺井 淳
第12回	関節リウマチ用リングスプリント作成（演習）					寺井 淳
第13回	オルフィキャストによる手指スプリント作成（演習）					寺井 淳
第14回	スプリントを用いた治療的介入について					寺井 淳
第15回	総復習					寺井 淳
備考						
授業時間以外の学習について	参考図書に様々なスプリントの作成方法があります。スプリント作成演習に向けて学習しておいてください。					
課題・評価方法	定期試験（70%）、スプリント作品点（30%）					
教科書	川村次郎等編集 義肢装具学 第4版 医学書院 2010 随時資料配布					
参考書	岩崎テル子他編 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院 2014 澤村誠治、田澤英二、内田光彦編 義肢学 第3版 医歯薬出版株式会社 中田真由美、大山峰生著 作業療法士のためのハンドセラピー入門 三輪書店 矢崎潔著：手のスプリントのすべて 第4版、三輪書店					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生活行為向上マネジメント論実習	必	下西 徳	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	地域で用いられる生活行為向上マネジメントを理解し、使い方や内容について説明できることが授業目標となる。内容は、生活行為向上マネジメントが作成された経緯を示す背景や変遷を説明。「生活行為」と「マネジメント」である理由について解説していく。また生活行為の障害がどのようにして生じるのかを理解させていく。次に生活行為聞き取りシート、生活行為アセスメント演習シート、生活行為プラン演習シート、興味関心チェックシートを中心として記載方法や考え方、作業療法のプロセスを踏まえて教示を進める。授業展開ではシートの説明後に演習を踏まえるため、週に2コマの編成で実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	生活行為向上マネジメントとは					下西 徳
第2回	生活行為向上マネジメントの概念					下西 徳
第3回	生活行為と生活行為の障害					下西 徳
第4回	評価指標について					下西 徳
第5回	生活行為聞き取りシートと興味関心チェックシートの取扱い					下西 徳
第6回	生活行為聞き取りシートと興味関心チェックシート演習					下西 徳
第7回	生活行為アセスメント演習シートの考え方と取扱い					下西 徳
第8回	生活行為アセスメント演習シートの演習					下西 徳
第9回	生活行為向上プラン演習シートの考え方と取扱い					下西 徳
第10回	生活行為向上プラン演習シートの演習					下西 徳
第11回	事例課題の検討とグループワーク					下西 徳
第12回	事例の発表					下西 徳
第13回	生活行為申し送り表と生活行為課題分析シートの考え方と取扱い					下西 徳
第14回	事例課題の提示とグループワーク					下西 徳
第15回	事例の発表とまとめ					下西 徳
備考						
授業時間 以外の学習に ついて	予習：次回の授業範囲について事前に目を通しておくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと					
課題・評価 方法	筆記試験（60%）、レポート（30%）、小テスト（10%）					
教科書	一般社団法人 日本作業療法士協会：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント、医歯薬出版社					
参考書						
オフィスア ワー	前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生活行為向上マネジメント論演習	必	鈴木 耕平	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	地域で用いられる生活行為向上マネジメントを理解し、使い方や内容について説明できるように講義を行う。内容は、生活行為向上マネジメントが作成された経緯を示す背景や変遷を説明。「生活行為」と「マネジメント」である理由について解説していく。また生活行為の障害がどのようにして生じるのかを理解させていく。次に生活行為聞き取りシート、生活行為アセスメント演習シート、生活行為プラン演習シート、興味関心チェックシートを中心として記載方法や考え方、作業療法のプロセスを踏まえて教示を進める。授業展開ではシートの説明後に演習を踏まえるため、週に2コマの編成で実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。 DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	生活行為向上マネジメントとは					鈴木 耕平
第2回	生活行為向上マネジメントの概念					鈴木 耕平
第3回	生活行為と生活行為の障害					鈴木 耕平
第4回	評価指標について					鈴木 耕平
第5回	生活行為聞き取りシートと興味関心チェックシートの取扱い					鈴木 耕平
第6回	生活行為聞き取りシートと興味関心チェックシート演習					鈴木 耕平
第7回	生活行為アセスメント演習シートの考え方と取扱い					鈴木 耕平
第8回	生活行為アセスメント演習シートの演習					鈴木 耕平
第9回	生活行為向上プラン演習シートの考え方と取扱い					鈴木 耕平
第10回	生活行為向上プラン演習シートの演習					鈴木 耕平
第11回	事例課題の検討とグループワーク					鈴木 耕平
第12回	事例の発表					鈴木 耕平
第13回	生活行為申し送り表と生活行為課題分析シートの考え方と取扱い					鈴木 耕平
第14回	事例課題の提示とグループワーク					鈴木 耕平
第15回	事例の発表とまとめ					鈴木 耕平
備考	講義を7コマ、演習を8コマとして実施する。					
授業時間以外の学習について	事例に対してはクラスメイトとしっかり話し合ひましょう。					
課題・評価方法	筆記試験 (60%)、レポート (30%)、授業態度 (10%)					
教科書	一般社団法人 日本作業療法士協会：事例で学ぶ生活行為向上マネジメント。医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー						

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習 I	必	下西 徳	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域社会に参加することの意義を理解する。また作業療法士やその他の関連職種が活動・参加の促進にむけて、どのような役割を果たすべきかを考える」とする。授業形態として講義形式・グループワーク・地域で開催されるリハビリテーション実践活動へ参加する。障害を持つ方が地域社会に参加する機会を提供することの意味やそのことによる日常生活の参加や活動への影響について、参加して得られた情報や作業療法士・多職種からの聞き取った情報をグループワークにて検討し発表することとする。また地域で開催される実践活動の企画・運営を経験する機会とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域の施設の役割と暮らし					下西 徳
第2回	障害と地域への社会参加					下西 徳
第3回	社会参加や活動に向けた作業療法士や多職種の役割					下西 徳
第4回	地域リハビリテーション実践活動の概要と目的					下西 徳
第5回	グループワーク（フィールドワーク時のポイントと聞き取り内容の検討）					下西 徳
第6回	フィールドワーク準備					下西 徳
第7回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第8回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第9回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第10回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第11回	参加後のまとめとグループワーク					下西 徳
第12回	地域社会参加の意義についてグループワーク					下西 徳
第13回	発表					下西 徳
第14回	発表					下西 徳
第15回	まとめ					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	<p>「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。</p>					
課題・評価方法	レポート試験60%、グループ発表40%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	<p>後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習Ⅰ	必	前田 浩二	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関りを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域参加と目的的活動について					前田 浩二
第2回	風船バレーボール大会に向けて					前田 浩二
第3回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第4回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第5回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第6回	グループワーク(風船バレー参加者と企画・運営側について)					前田 浩二
第7回	グループワーク後の発表					前田 浩二
第8回	介護保険など、関連制度について					前田 浩二
第9回	社会資源サービスと多職種について					前田 浩二
第10回	事例検討の概要と事例の提示(グループワーク)					前田 浩二
第11回	事例検討(グループワーク)					前田 浩二
第12回	事例検討(グループワーク)					前田 浩二
第13回	発表会					前田 浩二
第14回	発表会					前田 浩二
第15回	まとめ					前田 浩二
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。					
課題・評価方法	レポート試験(グループ発表を含む：80%)、授業態度20%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書(改訂第3版)第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義（ビデオ教材含む）と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、ピアカウンセラーの活動紹介（ビデオ教材）					嶋川 昌典
第2回	ピアカウンセラーの講演（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第3回	ピアカウンセラーの講演（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第4回	ピアカウンセラーの講演（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第5回	ピアカウンセラーの講演（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第6回	第2回～5回の講演についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第7回	第2回～7回の講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第8回	ピアカウンセラーの講演（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第9回	ピアカウンセラーの講演（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第10回	第8回・9回についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第11回	第8回・9回についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第12回	課題の発表					嶋川 昌典
第13回	課題の発表					嶋川 昌典
第14回	課題の発表					嶋川 昌典
第15回	課題の発表					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	講演について、学生各自が学べたこと、気づいたことの発表（50%）と成果物（50%）にて評価をする。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義（ビデオ教材含む）と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、ピアカウンセラーの活動紹介（ビデオ教材）					嶋川 昌典
第2回	ピアカウンセラーの講演①（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第3回	ピアカウンセラーの講演①（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第4回	ピアカウンセラーの講演②（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第5回	ピアカウンセラーの講演②（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第6回	講演①と②についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第7回	講演①と②についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第8回	ピアカウンセラーの講演③（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第9回	ピアカウンセラーの講演③（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第10回	講演③についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第11回	講演③についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第12回	課題の発表①					嶋川 昌典
第13回	課題の発表②					嶋川 昌典
第14回	課題の発表③					嶋川 昌典
第15回	課題の発表④					嶋川 昌典
備考	講演①、②、③はピアカウンセラーに来校してもらう。①は講演、②、③は小グループに分かれてのインタビュー。全て演習であり、課題の発表①～④も演習である。					
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	講演②と③について、学生各自が学べたこと、気づいたことの発表（50%）と成果物（50%）にて評価をする。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習Ⅲ	必	下西 徳	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域作業療法の実践過程					下西 徳
第2回	地域での作業療法における評価の視点と目標設定					下西 徳
第3回	介護老人保健施設の役割と作業療法					下西 徳
第4回	通所介護施設の役割と作業療法					下西 徳
第5回	訪問支援事業の役割と作業療法					下西 徳
第6回	事例検討					下西 徳
第7回	事例検討					下西 徳
第8回	プレ面接と評価					下西 徳
第9回	地域在住対象者					下西 徳
第10回	地域在住対象者					下西 徳
第11回	地域在住対象者					下西 徳
第12回	情報のまとめと事例検討					下西 徳
第13回	事例検討					下西 徳
第14回	グループ発表					下西 徳
第15回	グループ発表 全体のまとめ					下西 徳
備考	第9回から第11回は準備・作業療法の説明・面接・評価・後片付けをおこなう。					
授業時間以外の学習について	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。地域の方との関わりの前には、グループ単位での準備・予習が必要になります。					
課題・評価方法	レポート課題（80%）、小テスト（20%）					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時、紹介する。					
オフィスアワー	前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科 目 名	必・選	担 当 教 員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習Ⅲ	必	前田 浩二	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内 容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域作業療法の実践過程					前田 浩二
第2回	地域での作業療法における評価の視点と目標設定					前田 浩二
第3回	介護老人保健施設の役割と作業療法					前田 浩二
第4回	通所介護施設の役割と作業療法					前田 浩二
第5回	訪問支援事業の役割と作業療法					前田 浩二
第6回	事例検討					前田 浩二
第7回	事例検討					前田 浩二
第8回	プレ面接と評価					前田 浩二
第9回	地域在住対象者① (演習)					前田 浩二
第10回	地域在住対象者② (演習)					前田 浩二
第11回	地域在住対象者③ (演習)					前田 浩二
第12回	情報のまとめと事例検討					前田 浩二
第13回	事例検討					前田 浩二
第14回	グループ発表					前田 浩二
第15回	グループ発表 全体のまとめ					前田 浩二
備考	第9回から第11回は準備・作業療法の説明・面接・評価・後片付けをおこなう。					
授業時間以外の学習について	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。					
課題・評価方法	レポート課題 (80%)、授業態度 (20%)					
教科書	太田睦美：作業療法学全書 (改訂第3版) 第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時、紹介する。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論実習	必	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー	前期：安田(水 16:10~17:15) 大西(火、木 16:10~17:15) 池谷(水 16:10~17:15)					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論演習	選	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。</p> <p>DP5 作業療法に関連する他の分野の専門学力の修得に努め、自己の能力を開発し、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技				池谷 雅江	
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技				池谷 雅江	
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分				池谷 雅江	
第4回	障がい者スポーツの意義と理念				大西 満	
第5回	障がい者との交流				安田 孝志	
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際				安田 孝志	
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際				安田 孝志	
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上				安田 孝志	
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上				安田 孝志	
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳				池谷 雅江	
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳				池谷 雅江	
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール				安田 孝志	
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球				安田 孝志	
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球				池谷 雅江	
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ				池谷 雅江	
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	授業への取り組み(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅰ	必	大西 満 安部 征哉・嶋川 昌典 木岡 和実・杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合することも目的として、本科目では地域生活者が能力を発揮し健康的に暮らしていくために何が課題となるのかを発見するために、どのように作業療法評価を応用活用できるかについて学習する授業である。展開科目実習でいった児童期、成人期、老年期分野からグループに分かれて、実習で得た情報をもとに作業療法の評価視点である個人・集団、生活行為、施設の物理的・人的環境からの情報を整理して分析と構造化をおこない、各分野の生活の何が課題となるのかを導き出すための作業療法評価の思考を学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 安部 征哉 嶋川 昌典 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	各分野で得た地域生活者の制度や施策の整理					
第3回	個人の得た地域生活に関する情報の整理					
第4回	グループで情報の共有とディスカッション					
第5回	対象とする地域生活者に関する情報の整理					
第6回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出にむけたディスカッション					
第7回	地域生活者に関する情報からの課題の抽出のまとめ					
第8回	パワーポイントによる発表準備					
第9回	パワーポイントによる発表準備					
第10回	1・2グループの発表と質疑応答					
第11回	3・4グループの発表と質疑応答					
第12回	5・6グループの発表と質疑応答					
第13回	7・8グループの発表・質疑応答					
第14回	グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分かれてディスカッションを行う。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容など事前に予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、安部（火・金 16：10～17：15） 嶋川（火・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合演習Ⅰ	必	安部征哉 寺井淳 前田浩二 有田智氏	1	30	4年後期	演習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること。					
授業概要 到達目標	<p>専門基礎科目を総合的に復習し、知識をつなげて理解することを目標とする。内容は、解剖・運動・生理学といった専門基礎、各種疾患の病態、作業療法で行う検査・測定などの評価がつながることを再認識できるよう学習する。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の基礎医学知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目的と方法など）					安部征哉 寺井淳 前田浩二 有田智
第2回	解剖学（骨、筋、神経）					
第3回	解剖学（内臓諸器官）					
第4回	確認テスト					
第5回	生理学（感覚、運動）					
第6回	生理学（循環、呼吸）					
第7回	確認テスト					
第8回	運動学（力学、四肢・体幹の運動）					
第9回	運動学（動作分析、姿勢、歩行）					
第10回	確認テスト					
第11回	病理学					
第12回	リハビリテーション概論					
第13回	臨床医学					
第14回	精神医学					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、筆記試験（70%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合実習Ⅱ	必	大西 満 下西 徳・澤 賢一郎 木岡 和実・杉本 久美子	1	30	4年次 後期	実習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	本科目では、これまで学修した作業療法及び近接領域の知識や技術を統合し、地域生活障害者が抱える暮らしの中の課題に対し、作業療法士としてどのようにそれを応用し活用できるかについて学習する授業である。地域障害者が抱える課題については、地域障害者が抱える課題については、脳性麻痺、脊髄損傷、片麻痺等の障害を有した実際の地域生活障害者をゲストスピーカーとし、実際の体験談から課題を発見し分析する応用力を育成する。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西 満 下西 徳 澤 賢一郎 木岡 和実 杉本 久美子
第2回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第3回	登壇者を交えたディスカッション					
第4回	グループごとの情報のまとめ					
第5回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第6回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第7回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第8回	発表準備					
第9回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第10回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第11回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第12回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第13回	地域生活障害者を前にした7・8グループ目発表・質疑応答					
第14回	1～4グループフィードバック及びレポート作成					
第15回	5～8グループフィードバック及びレポート作成					
備考	1グループ5名で8グループに分け、2グループごとに4名のゲストスピーカーから体験を聴取する。					
授業時間以外の学習について	配布資料などからディスカッション内容について予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	学習ポートフォリオ40%、レポートの提出30%、分析結果のプレゼンテーション					
教科書	適宜資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、下西（木・金 16：10～17：15） 澤（水・金 16：10～17：15）、木岡（水・金 16：10～17：15） 杉本（月・金 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法総合演習Ⅱ	必	大西満 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子 鈴木耕平	1	30	4年後期	演習
履修要件	4年前期までの科目履修がすべて終わっていること					
授業概要 到達目標	作業療法専門分野を総合的に復習し、専門基礎科目を含めて知識をつなげて理解することを目標とする。授業内容は、各種疾患の病態とその生活像が作業療法評価や治療とつながるよう学習を行う。本授業では、国家試験の内容を加味し、作業療法を実施する上での最低限の作業療法の実践的知識の総復習を行う。また、自己評価を行い、自らの課題を明確にし、各々がその課題に対して取り組む方法や思考過程に対して援助を行う。					
学位授与方針との関連	DP2 様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができる。 DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション（授業目標と方法など）					大西満 木岡和実 嶋川昌典 杉本久美子 鈴木耕平
第2回	作業活動、作業療法概論、作業療法評価法					
第3回	ADL					
第4回	義肢装具					
第5回	確認テスト					
第6回	老年期障害					
第7回	脳血管障害					
第8回	神経変性・筋障害					
第9回	内科学					
第10回	確認テスト					
第11回	脊髄損傷					
第12回	関節リウマチ、整形外科疾患					
第13回	精神障害					
第14回	小児科学					
第15回	まとめ					
備考	小グループに分かれ課題の整理を行い、他のグループに解説を行い知識の共有を行う。					
授業時間以外の学習について	予習として事前に課題内容とすべきことの確認を行うこと。課題を通して自己評価をおこない自己課題の解決にむけて学習に取り組むこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、筆記試験（70%）、授業態度（10%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー						

変更後

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
協働連携論総合実習	必	大西 満・分岐 ひとみ 辛島 千恵子・有田 智氏 池谷 雅江	2	60	4年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害を有した地域在住の障害者に対して、職種間連携を通してリハビリテーションアプローチの実際について討議・学習する。地域で働く理学療法・作業療法などの専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える地域在住の障害者に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際に地域で生活されている障害者の講演を通して、各職種の専門性をともに、地域共生社会の実現に向けた解決策を検討・提案する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。 DP4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。 DP5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法の業務内容					大西 満 分岐 ひとみ 辛島 千恵子 有田 智氏 池谷 雅江
第2回	作業療法の業務内容					
第3回	保健師の業務内容					
第4回	行政の業務内容					
第5回	地域生活障害者体験談（片麻痺、脊髄損傷、脳性麻痺）					
第6回	登壇者を交えたディスカッション					
第7回	グループごとの情報のまとめ					
第8回	再質問項目の検討及び確認面談の実施					
第9回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点の検討					
第10回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関する問題点のまとめ					
第11回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法の検討					
第12回	各専門職毎に考える地域生活障害者に関するアプローチ方法のまとめ					
第13回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第14回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第15回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第16回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第17回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第18回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第19回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の紹介					
第20回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法に対する吟味					
第21回	発表資料準備					
第22回	発表資料作成					
第23回	発表原稿作成					
第24回	発表事前練習					
第25回	地域生活障害者を前にした1・2グループ目の最終発表・質疑応答					
第26回	地域生活障害者を前にした2・3グループ目発表・質疑応答					
第27回	地域生活障害者を前にした4・5グループ目発表・質疑応答					
第28回	地域生活障害者を前にした5・6グループ目発表・質疑応答					
第29回	1～3グループフィードバック及びレポート作成					
第30回	4～6グループフィードバック及びレポート作成					
備考						
授業時間以外の学習について	地域生活障害者に関する情報を事前に配布するので、教科書などから予習をして受講すること。日々の授業終了後は毎回1h程度の復習・まとめを行なうこと。					
課題・評価方法	レポート・発表レポート試験（70%）、学習ポートフォリオ（10%）、発表（20%）					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：大西（月・水 16：10～17：15）、分岐（水 16：10～17：15） 辛島（水・木 16：10～17：15）、有田（月・水 16：10～17：15） 池谷（水 16：10～17：15）					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
シンメディカル論	必	大西満・分木ひとみ・池谷雅江・杉本久美子	2	30	4年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	リハビリテーションの分野で共通する症状、障害をテーマに実際の症例を想定して、チームアプローチの実際について討議・学習する。理学療法・作業療法の専門職業務の理解をしながら、各専門職が考える提示症例に関する問題点・アプローチ方法を検討・発表し、リハビリテーションチームとしてのゴール設定とアプローチ方法の検討・発表を行う。内容は、実際の症例を想定し、各分野の専門性をもとにシンメディカルの理念を実現するための方法について学び、当事者主体の原理に立ったチームアプローチ法を検討・理解する。					
学位授与方針との関連	DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	シンメディカルとは					大西満・分木ひとみ・池谷雅江・杉本久美子
第2回	医療専門職の業務内容					
第3回	医療専門職の業務内容の発表					
第4回	各専門職が考える提示症例に関する問題点の検討					
第5回	各専門職が考える提示症例に関する問題点のまとめ					
第6回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法の検討					
第7回	各専門職が考える提示症例に関するアプローチ方法のまとめ					
第8回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表					
第9回	検討した問題点及びアプローチ方法の発表に対する吟味					
第10回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定の検討					
第11回	リハビリテーションチームとしてのゴール設定のまとめ					
第12回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法の検討					
第13回	リハビリテーションチームとしてのアプローチ方法のまとめ					
第14回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表					
第15回	立案したリハビリテーションゴール設定とアプローチ方法の発表に対する吟味					
備考						
授業時間以外の学習について	症例に関する情報を事前に配布するので、参考書などから自己学習をしておくこと					
課題・評価方法	レポート試験 (70%) ラーニングポートフォリオ (10%) 発表 (20%)					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィスアワー	適宜実施するため、教員アドレスに事前連絡を行い日程を調整すること					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅱ	必	山田 久夫	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	神経学総論 (ニューロン、グリア、シナプス)				山田 久夫	
第2回	神経学総論 (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第3回	神経学各論Ⅰ (髄膜、脳室、脳脊髄液の循環)				山田 久夫	
第4回	神経学各論Ⅰ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第5回	神経学各論Ⅱ (末梢神経系 頸神経 頸神経叢)				山田 久夫	
第6回	神経学各論Ⅱ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第7回	神経学各論Ⅲ (末梢神経系 腕神経叢 胸神経)				山田 久夫	
第8回	神経学各論Ⅲ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第9回	神経学各論Ⅳ (末梢神経系 腰神経 要神経叢)				山田 久夫	
第10回	神経学各論Ⅳ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第11回	神経学各論Ⅴ (末梢神経系 仙骨神経 仙骨神経層 尾骨神経層)				山田 久夫	
第12回	神経学各論Ⅴ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第13回	神経学各論Ⅵ (末梢神経系 副交感神経)				山田 久夫	
第14回	神経学各論Ⅵ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第15回	神経学各論Ⅶ (脳神経 脳神経1～6)				山田 久夫	
第16回	神経学各論Ⅶ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第17回	神経学各論Ⅷ (脳神経 脳神経7～12)				山田 久夫	
第18回	神経学各論Ⅷ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第19回	神経学各論Ⅸ (自律神経)				山田 久夫	
第20回	神経学各論Ⅸ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第21回	神経学各論Ⅹ (中枢神経系 脊髄)				山田 久夫	
第22回	神経学各論Ⅹ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第23回	神経学各論Ⅺ (中枢神経系 脳幹)				山田 久夫	
第24回	神経学各論Ⅺ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第25回	神経学各論Ⅻ (中枢神経系 小脳)				山田 久夫	
第26回	神経学各論Ⅻ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第27回	神経学各論ⅫⅢ (中枢神経系 大脳)				山田 久夫	
第28回	神経学各論ⅫⅢ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
第29回	神経学各論ⅫⅣ (伝導路)				山田 久夫	
第30回	神経学各論ⅫⅣ (演習・確認小テスト)				山田 久夫	
備考						
授業時間以外の学習について	各单元ごとに小テストを実施するため、授業の復習を行うこと。					
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。 確認テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：火、木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅱ	必	野田 亨	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	神経学総論（ニューロン、グリア、シナプス）					野田 亨
第2回	神経学総論（演習・確認小テスト）					野田 亨
第3回	神経学各論Ⅰ（髄膜、脳室、脳脊髄液の循環）					野田 亨
第4回	神経学各論Ⅰ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第5回	神経学各論Ⅱ（末梢神経系Ⅰ）					野田 亨
第6回	神経学各論Ⅱ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第7回	神経学各論Ⅲ（末梢神経系Ⅱ）					野田 亨
第8回	神経学各論Ⅲ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第9回	神経学各論Ⅳ（末梢神経系Ⅲ）					野田 亨
第10回	神経学各論Ⅳ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第11回	神経学各論Ⅴ（末梢神経系Ⅳ）					野田 亨
第12回	神経学各論Ⅴ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第13回	神経学各論Ⅵ（末梢神経系Ⅴ）					野田 亨
第14回	神経学各論Ⅵ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第15回	神経学各論Ⅶ（脳神経Ⅰ）					野田 亨
第16回	神経学各論Ⅶ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第17回	神経学各論Ⅷ（脳神経Ⅱ）					野田 亨
第18回	神経学各論Ⅷ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第19回	神経学各論Ⅸ（自律神経）					野田 亨
第20回	神経学各論Ⅸ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第21回	神経学各論Ⅹ（中枢神経系Ⅰ）					野田 亨
第22回	神経学各論Ⅹ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第23回	神経学各論Ⅺ（中枢神経系Ⅱ）					野田 亨
第24回	神経学各論Ⅺ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第25回	神経学各論Ⅻ（中枢神経系Ⅲ）					野田 亨
第26回	神経学各論Ⅻ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第27回	神経学各論ⅫⅢ（中枢神経系Ⅳ）					野田 亨
第28回	神経学各論ⅫⅢ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第29回	神経学各論ⅫⅣ（伝導路）					野田 亨
第30回	神経学各論ⅫⅣ（演習・確認小テスト）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。 確認テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月、水、木曜日、16:10～17:00					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅲ	必	山田 久夫	1	30	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脈管学総論					山田 久夫
第2回	脈管学各論（心臓）					山田 久夫
第3回	脈管学各論（上肢、下肢）					山田 久夫
第4回	脈管学各論（内臓、脳循環、胎児循環）					山田 久夫
第5回	血液学					山田 久夫
第6回	内臓学（呼吸器系）					山田 久夫
第7回	内臓学（消化器系 口腔 咽頭 食道 胃）					山田 久夫
第8回	内臓学（消化器系 小腸 大腸 肝臓 胆嚢 膵臓 腹膜）					山田 久夫
第9回	内臓学（泌尿器系）					山田 久夫
第10回	内臓学（生殖器系）					山田 久夫
第11回	内臓学（内分泌系）					山田 久夫
第12回	内臓学（血液免疫系）					山田 久夫
第13回	感覚器（皮膚）					山田 久夫
第14回	感覚器（視覚器）					山田 久夫
第15回	感覚器（聴覚器、前庭器）					山田 久夫
備考						
授業時間以外の学習について	構造と機能が説明できるようになるために講義後、必ず復習をすること。					
課題・評価方法	講義10回以上の出席が期末試験の受験資格となる。 期末試験60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書	なし					
オフィスアワー	後期：火、木 16：10～17：15					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅲ	必	野田 亨	1	30	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脈管学総論					野田 亨
第2回	脈管学各論（心臓）					野田 亨
第3回	脈管学各論（上肢、下肢）					野田 亨
第4回	脈管学各論（内臓、脳循環、胎児循環）					野田 亨
第5回	血液学					野田 亨
第6回	内臓学（呼吸器系）					野田 亨
第7回	内臓学（消化器系Ⅰ）					野田 亨
第8回	内臓学（消化器系Ⅱ）					野田 亨
第9回	内臓学（泌尿器系）					野田 亨
第10回	内臓学（生殖器系）					野田 亨
第11回	内臓学（内分泌系）					野田 亨
第12回	内臓学（血液免疫系）					野田 亨
第13回	感覚器（皮膚）					野田 亨
第14回	感覚器（視覚器）					野田 亨
第15回	感覚器（聴覚器、前庭器）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	講義10回以上の出席が期末試験の受験資格となる。 期末試験60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月、水、木曜日、午後16:10～17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法研究法	必	里中 綾子	1	15	3年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	理学療法士と研究：なぜ（卒業）研究をし、なぜ研究法を学ぶのか				里中 綾子	
第2回	研究の基本事項：尺度、有効数字、操作的定義、倫理的配慮				里中 綾子	
第3回	データの分析：統計学的手法（2群間の平均値の比較等）				里中 綾子	
第4回	データの分析：統計学的手法（3群間以上の平均値の比較等）				里中 綾子	
第5回	論文の書き方：わかりやすい文章とは				里中 綾子	
第6回	研究発表方法：プレゼンテーションにおける戦略				里中 綾子	
第7回	英語論文の抄読発表会				里中 綾子	
第8回	発表会におけるリフレクション				里中 綾子	
備考						
授業時間以外の学習について	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、レポート課題（50点）、グループ発表（40点）					
教科書	なし					
参考書	理学療法研究法：内山靖・他編．医学書院．第3版					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎理学療法研究法	必	山内 正雄	1	15	3年次前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法分野における研究の意義や目的、その歴史的背景を中心に学ぶ。理学療法の歴史を学ぶ中で、基礎研究、臨床研究の必要性を理解するとともに、研究・調査の社会的意義と役割を理解することを目的とする。またグループワークにおいて理学療法分野における英語論文の抄読を行い、その研究デザインや手法から何が明らかになるのかなど批判的に吟味するための知識や論理的思考、分析能力を身につけることを目的とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	理学療法士と研究：なぜ（卒業）研究をし、なぜ研究法を学ぶのか					山内 正雄
第2回	研究の基本事項：尺度、有効数字、操作的定義、倫理的配慮					山内 正雄
第3回	データの分析：統計学的手法（1）					山内 正雄
第4回	データの分析：統計学的手法（2）					山内 正雄
第5回	論文の書き方：わかりやすい文章とは					山内 正雄
第6回	研究発表方法：プレゼンテーションにおける戦略					山内 正雄
第7回	英語論文の抄読発表会					山内 正雄
第8回	発表会におけるリフレクション					山内 正雄
備考						
授業時間以外の学習について	英語論文に親しみ、抄読会に向けての準備をグループで積極的に行ってください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(50点)、グループ発表(40点)					
教科書	特になし					
参考書	理学療法研究法：内山靖・他編. 医学書院. 第3版					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学実習	必	宇於崎 孝・大西 均	2	60	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>理学療法評価における検査・測定を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。 (オムニバス方式/全30回) (宇於崎 孝/26回)</p> <p>関節可動域検査といった基本的理学療法評価を学びます。基本となる肢位、姿勢、また注意点を必ず押さえるとともに、教科書を見ることなく実施できるようになることを目標に進めていきます。また、道具を必要としない筋力評価、徒手筋力評価について学習する。肢位、段階付け、代償など注意点を抑えながら実技を習得していく。また痛みや高次脳機能検査などについても学ぶ。 (大西 均/4回)</p> <p>解剖学、運動学を整理しているからこそ理解して、実施できるテストが整形外科的テスト、筋緊張検査になる。各検査の目的・意義が理解できることが目標となる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内容	担当教員				
第1回	関節可動域測定 (ROM-t) ROM test 概論、肩関節 屈曲・伸展	宇於崎 孝				
第2回	肩関節 外転・内転、外旋・内旋	宇於崎 孝				
第3回	肩関節 水平屈曲・水平伸展、肩甲帯	宇於崎 孝				
第4回	肘関節 屈曲・伸展、前腕 回内・回外	宇於崎 孝				
第5回	手関節 掌屈・背屈、尺屈・橈屈 手指	宇於崎 孝				
第6回	股関節 屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋	宇於崎 孝				
第7回	膝関節 屈曲・伸展、足関節 背屈・底屈、足部	宇於崎 孝				
第8回	体幹 屈曲・伸展、側屈、回旋	宇於崎 孝				
第9回	頸部 屈曲・伸展、側屈、回旋 顎関節	宇於崎 孝				
第10回	徒手筋力検査 (MMT) MMTの概論 上肢の検査	宇於崎 孝				
第11回	肩関節	宇於崎 孝				
第12回	肩関節	宇於崎 孝				
第13回	肩関節	宇於崎 孝				
第14回	肘関節	宇於崎 孝				
第15回	手関節 指	宇於崎 孝				
第16回	肩甲帯	宇於崎 孝				
第17回	下肢の検査 股関節	宇於崎 孝				
第18回	股関節	宇於崎 孝				
第19回	股関節	宇於崎 孝				
第20回	膝関節	宇於崎 孝				
第21回	足関節	宇於崎 孝				
第22回	体幹の検査	宇於崎 孝				
第23回	体幹の検査	宇於崎 孝				
第24回	頸筋の検査 顔面筋 (脳神経支配筋)	宇於崎 孝				
第25回	痛みの評価	宇於崎 孝				
第26回	高次脳機能検査	宇於崎 孝				
第27回	整形外科的テスト (頸部 上肢)	大西均				
第28回	整形外科的テスト (腰部 下肢)	大西均				
第29回	反射検査	大西均				
第30回	筋トーン検査	大西均				
備考						
授業時間以外の学習について	実技中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	中間試験 (30%)、小テスト (20%)、定期試験 (50%)					
教科書	新・徒手筋力検査法 (原著第9版) : 協同医書出版 津山直一著 理学療法評価学 : 金原出版 松澤正著					
参考書	Anne Shumway-Cook・他) : モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付一研究室から臨床実践へ、医歯薬出版。					
オフィスアワー	大西 前期 : 水 16 : 10~17 : 15 宇於崎 前期 : 月 16 : 10~17 : 15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習 I	必	安田孝志・宇於崎孝・大西均	2	60	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法評価における検査・測定を理解し、正確に実施できる技術を身につけることを目標とする。理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の病態理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか総論的な内容を学習し評価法の各論を学ぶ。各論では関節可動域検査、筋力検査、脳神経検査、高次脳検査、反射検査、筋トーン検査、痛みについて、講義と演習を行う。整形外科的疾患に対する検査測定では、足関節の評価法などを臨床に即した考え方と最新の研究における評価法を交え、具体的に実習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	関節可動域測定 (ROM-t) ROM test概論、肩関節 屈曲・伸展					宇於崎孝
第2回	肩関節 外転・内転、外旋・内旋					宇於崎孝
第3回	肩関節 水平屈曲・水平伸展、肩甲帯					宇於崎孝
第4回	肘関節 屈曲・伸展、前腕 回内・回外					宇於崎孝
第5回	手関節 掌屈・背屈、尺屈・橈屈 手指					宇於崎孝
第6回	股関節 屈曲・伸展、外転・内転、外旋・内旋					宇於崎孝
第7回	膝関節 屈曲・伸展、足関節 背屈・底屈、足部					宇於崎孝
第8回	体幹 屈曲・伸展、側屈、回旋					宇於崎孝
第9回	頸部 屈曲・伸展、側屈、回旋 顎関節					宇於崎孝
第10回	徒手筋力検査 (MMT) MMTの概論 上肢の検査					安田孝志
第11回	肩関節					安田孝志
第12回	肩関節					安田孝志
第13回	肩関節					安田孝志
第14回	肘関節					安田孝志
第15回	手関節 指					安田孝志
第16回	肩甲帯					安田孝志
第17回	下肢の検査 股関節					安田孝志
第18回	股関節					安田孝志
第19回	股関節					安田孝志
第20回	膝関節					安田孝志
第21回	足関節					安田孝志
第22回	体幹の検査					安田孝志
第23回	体幹の検査					安田孝志
第24回	頸筋の検査 顔面筋 (脳神経支配筋)					安田孝志
第25回	痛みの評価					安田孝志
第26回	高次脳機能検査					安田孝志
第27回	整形外科的テスト1					大西均
第28回	整形外科的テスト2					大西均
第29回	反射検査					大西均
第30回	筋トーン検査					大西均
備考						
授業時間以外の学習について	演習中心の授業です。必ず復習をして体が覚えて実技ができるように努力してください。					
課題・評価方法	中間試験 (30%) 小テスト (20%)、定期試験 (50%)					
教科書	新・徒手筋力検査法 (原著第9版) : 協同医書出版 津山直一著 理学療法評価学 : 金原出版 松澤正著					
参考書	Anne Shumway-Cook・他) : モーターコントロール原著第4版 理解が深まるDVDビデオ付—研究室から臨床実践へ、医歯薬出版。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習	必	山内 正雄・弘部 重信・藤谷 亮	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。講義では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技をグループワークにて行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (整形外科領域：山内 正雄/5回) 整形外科疾患に対する評価、各種整形外科疾患テストとその臨床的解釈について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法をしっかりと学習・実施できるようになることを目標とする。 (内部障害領域：弘部 重信/5回) 内部障害における理学療法評価についてその評価の意義と目的を学ぶとともに、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について自ら学習し、評価の思考過程能力および評価方法をトレーニングする。 (中枢神経障害領域：藤谷 亮/5回) 中枢神経領域における評価とその意義を学習し、各種検査に加えてそれらをどのように解釈し、問題点の整理、また治療に活かしていくのかについて学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	整形外科領域：整形外科疾患における医学的情報とその解釈					山内 正雄
第2回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価とその解釈					山内 正雄
第3回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習（上肢・上部体幹）					山内 正雄
第4回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習（下部体幹・下肢）					山内 正雄
第5回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価の統合と解釈（演習）					山内 正雄
第6回	内部障害領域：内部障害における医学的情報とその解釈					弘部 重信
第7回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価とその解釈					弘部 重信
第8回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習（COPD）					弘部 重信
第9回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習（心不全）					弘部 重信
第10回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					弘部 重信
第11回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における医学的情報とその解釈					藤谷 亮
第12回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における各理学療法評価とその解釈					藤谷 亮
第13回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習（脳神経疾患）					藤谷 亮
第14回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習（脱髄疾患・神経難病）					藤谷 亮
第15回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	レポート課題（40%）、定期試験（60%）					
教科書	配布資料					
参考書	松澤 正：理学療法評価学（第5版）．金原出版。 富雅男・砂川勇：整形徒手理学療法 Kaltenborn-Evjenth Concep. 医歯薬出版。 吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院。 石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店。					
オフィスアワー	山内 前期：水 16：10～17：15 弘部 前期：水 16：10～17：15 藤谷 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
理学療法評価学演習Ⅱ	必	山内正雄、分木ひとみ、藤谷亮	1	30	3年次前期	演習 講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程が理解できることを目標とする。講義では、整形外科領域、内部障害領域、中枢神経領域に分野を分け、各担当教員が講義と実技をグループワークにて行う。これまで学習した疾患に対する評価項目が適切に選択でき、適切な統合解釈および理学療法プログラムを立案ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>整形外科領域：山内正雄/5回 整形外科疾患に対する評価、各種整形外科疾患テストとその臨床的解釈について講義・実習を行う。各疾患の病態を理解した上で、各種テストを行う意義、方法をしっかりと学習・実施できるようになることを目標とする。</p> <p>内部障害領域：分木ひとみ/5回 内部障害における理学療法評価についてその評価の意義と目的を学ぶとともに、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について自ら学習し、評価の思考過程能力および評価方法をトレーニングする。</p> <p>中枢神経障害領域：藤谷亮/5回 中枢神経領域における評価とその意義を学習し、各種検査に加えてそれらをどのように解釈し、問題点の整理、また治療に活かしていくのかについて学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容		担当教員			
第1回	整形外科領域：整形外科疾患における医学的情報とその解釈		山内正雄			
第2回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価とその解釈		山内正雄			
第3回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習①		山内正雄			
第4回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価技術演習②		山内正雄			
第5回	整形外科領域：整形外科疾患における理学療法評価の統合と解釈（演習）		山内正雄			
第6回	内部障害領域：内部障害における医学的情報とその解釈		分木ひとみ			
第7回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価とその解釈		分木ひとみ			
第8回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習①		分木ひとみ			
第9回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価技術演習②		分木ひとみ			
第10回	内部障害領域：内部障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）		分木ひとみ			
第11回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における医学的情報とその解釈		藤谷亮			
第12回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における各理学療法評価とその解釈		藤谷亮			
第13回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習①		藤谷亮			
第14回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価技術演習②		藤谷亮			
第15回	中枢神経障害領域：中枢神経障害における理学療法評価の統合と解釈（演習）		藤谷亮			
備考						
授業時間以外の学習について	本講義においては、評価学並びに各種疾患学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、参考資料、文献等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、レポート課題(30%)、定期試験(60%)					
教科書	配布資料					
参考書	<p>松澤 正：理学療法評価学（第5版）、金原出版。</p> <p>富雅男・砂川勇：整形徒手理学療法 Kaltenborn-Evjenth Concep. 医歯薬出版。</p> <p>吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学、医学書院。</p> <p>石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ、中山書店。</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
画像評価学	必	堀 寛史・和智 道生	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>理学療法で代表的な運動器および神経疾患の画像のみかたを学ぶことにより、患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定の計画を立てる際の一助とすることができるようになることを目標とする。講義では、画像の読影に必要な基礎的知識、代表的疾患の画像所見、読み取った画像所見と理学療法との関連について学ぶ。骨折や変形といった骨関節機能障害では、病態の悪化や回復の度合いを画像から読み取り、画像所見と身体症状の変化を学習する。 (オムニバス方式/全8回) (堀 寛史/4回)</p> <p>理学療法士に必要な画像読影に関して、画像の読影に必要な基礎的知識、整形外科分野における画像評価について学習する。 (和智 道生/4回)</p> <p>様々な疾患に対する超音波、MRIの読影について学習する。また、その読影結果からどのように考えるのかについても教授を行う。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができ</p>					
	内容				担当教員	
第1回	画像読影に必要な基礎知識				堀 寛史	
第2回	代表的患の画像所見（四肢の骨折・脱臼）				堀 寛史	
第3回	代表的疾患の画像所見（四肢変性疾患）				堀 寛史	
第4回	代表的疾患の画像所見（脊椎の骨折）				堀 寛史	
第5回	代表的疾患の画像所見（変性疾患）				和智 道生	
第6回	代表的疾患の画像所見（腫瘍）				和智 道生	
第7回	画像所見から運動器疾患における臨床所見と理学療法				和智 道生	
第8回	画像所見から脳血管疾患における臨床所見と理学療法				和智 道生	
備考						
授業時間以外の学習について	本講義は、解剖学や画像診断学、整形外科学、神経内科学といった基礎、専門基礎科目からの応用科目になるので、しっかり各講義予習・復習してください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	配布資料					
参考書	リハに役立つ脳画像：酒向 正春監修、メジカルビュー リハビリに直結する！運動器画像の見かた：河村廣幸、羊土社					
オフィスアワー	堀 後期：木 16：10～17：15 和智 後期：水、金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
画像評価学	必	山内 正雄	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法で代表的な運動器および神経疾患の画像のみかたを学ぶことにより、患者の病態を踏まえた合理的な理学療法介入、検査・測定の計画を立てる際の補助とすることができるようになることを目標とする。講義では、画像の読影に必要な基礎的知識、代表的疾患の画像所見、読み取った画像所見と理学療法との関連について学ぶ。骨折や変形といった骨関節機能障害では、病態の悪化や回復の度合いを画像から読み取り、画像所見と身体症状の変化を学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	画像読影に必要な基礎知識				山内 正雄	
第2回	代償的疾患の画像所見（四肢の骨折・脱臼）				山内 正雄	
第3回	代償的疾患の画像所見（四肢変性疾患）				山内 正雄	
第4回	代償的疾患の画像所見（脊椎の骨折・変性疾患）				山内 正雄	
第5回	代償的疾患の画像所見（脳血管障害1）				山内 正雄	
第6回	代償的疾患の画像所見（脳血管障害2）				山内 正雄	
第7回	画像所見から運動器疾患における臨床所見と理学療法				山内 正雄	
第8回	画像所見から脳血管疾患における臨床所見と理学療法				山内 正雄	
備考						
授業時間以外の学習について	本講義は、解剖学や画像診断学、整形外科学、神経内科学といった基礎、専門基礎科目からの応用科目になるので、しっかり復習して臨んでください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	なし					
参考書	リハに役立つ脳画像：酒向 正春監修。メジカルビュー リハビリに直結する！運動器画像の見かた：河村廣幸。羊土社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動療法実習	必	池谷 雅江	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、運動療法で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に実習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	姿勢・運動制御改善のための運動療法（臥位での調整）					池谷 雅江
第2回	姿勢・運動制御改善のための運動療法（臥位・立位での調整）					池谷 雅江
第3回	姿勢・運動制御改善のための運動療法（動作時における調整）					池谷 雅江
第4回	筋力増強のための運動療法（上肢）					池谷 雅江
第5回	筋力増強のための運動療法（下肢）					池谷 雅江
第6回	筋力増強のための運動療法（体幹）					池谷 雅江
第7回	協調性改善のための運動療法（上肢・下肢）					池谷 雅江
第8回	協調性改善のための運動療法（体幹・頸部）					池谷 雅江
第9回	関節可動域改善のための運動療法（上肢）					池谷 雅江
第10回	関節可動域改善のための運動療法（下肢）					池谷 雅江
第11回	関節可動域改善のための運動療法（体幹・頸部）					池谷 雅江
第12回	トレッドミルを用いた持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第13回	エルゴメーターを用いた持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第14回	疼痛改善のための運動療法（スタビリティエクササイズ）					池谷 雅江
第15回	疼痛改善のための運動療法（牽引療法）					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	運動療法の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけるよう復習すること。					
課題・評価方法	小テスト：15% 定期試験：85%					
教科書	配布資料					
参考書	理学療法ハンドブック：細田多穂（編集）、協同医書 運動療法（総論）第4版：吉尾雅春（編集）、横田一彦（編集）、医学書院 運動療法（障害別アプローチの理論と実際）第2版：市橋則明（編集）、文光堂					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動療法学演習	必	池谷 雅江	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、運動療法学で学習した各種運動療法の知識を基に思考し、臨床現場においても各種運動療法が安全かつ効果的に実施できるよう実技を中心に演習を行う。姿勢・運動制御改善のための運動療法、筋力増強のための運動療法、協調性改善のための運動療法、関節可動域改善のための運動療法、持久力増大のための運動療法、また、疼痛改善のための運動療法の具体的な実施方法や留意点について学び、各種運動療法を実践するための治療技術を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第2回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第3回	姿勢・運動制御改善のための運動療法					池谷 雅江
第4回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第5回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第6回	筋力増強のための運動療法					池谷 雅江
第7回	協調性改善のための運動療法					池谷 雅江
第8回	協調性改善のための運動療法					池谷 雅江
第9回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第10回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第11回	関節可動域改善のための運動療法					池谷 雅江
第12回	持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第13回	持久力増大のための運動療法					池谷 雅江
第14回	疼痛改善のための運動療法					池谷 雅江
第15回	疼痛改善のための運動療法					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	運動療法学の授業がベースとなります。実技は常にリスク管理を心がけ、丁寧なハンドリングを身につけましょう。					
課題・評価方法	授業態度：15点 定期試験：85点					
教科書	資料配布					
参考書	理学療法ハンドブック：細田多穂（編集）. 協同医書 運動療法学（総論）第4版：吉尾雅春（編集）、横田一彦（編集）. 医学書院 運動療法学（障害別アプローチの理論と実際）第2版：市橋則明（編集）. 文光堂					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
物理療法学	必	堀 寛史	1	15	2年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法における治療主義の一つである物理療法（温熱、寒冷、電気刺激、光線、力学的、振動刺激）について、各種エネルギーを生体に受けることによって生じる生理学的変化にちて理解することを目的とする。また各種治療機器の特徴だけでなく、取り扱いにおける留意点についても学習する。本校は講義だけでなく、実際の機器に触れ、その取扱いや留意事項について学ぶ、グループワークも取り入れる。グループワークでは患者役、治療者役に分かれることで、各物理療法機器の効果と施行について学習を行う。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
内 容						堀 寛史
第1回	物理療法総論					堀 寛史
第2回	寒冷療法と温熱療法					堀 寛史
第3回	水治療法と電気刺激療法					堀 寛史
第4回	光線療法と力学的治療法					堀 寛史
第5回	臨床応用とリスク管理					堀 寛史
第6回	各種物理療法機器の取り扱い（超音波・干渉波・低周波）					堀 寛史
第7回	各種物理療法機器の取り扱い（温熱・寒冷療法）					堀 寛史
第8回	実習：各種物理療法機器の取り扱い（水治療法）					堀 寛史
備考						
授業時間以外の学習について	生理学の分野の復習、講義後は教科書や参考資料を基に復習してください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	網本 和(編)：標準理学療法学 専門分野 物理療法学. 医学書院.					
参考書	嶋田 智明・他：物理療法マニュアル. 医学書院. 沖田 実(編)：物理療法学テキスト. 南江堂. 細田 多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー	前期：木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
物理療法学	必	藤谷 亮	1	15	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	理学療法における治療手技の一つである物理療法（温熱、寒冷、電気刺激、光線、力学的、振動刺激）について、各種エネルギーを生体が受けることによって生じる生理学変化について理解することを目的とする。また各種の治療機器の特徴だけでなく、取り扱いにおける留意点についても学習する。本講は講義だけではなく、実際の機器に触れ、その取扱いや留意事項について実技を通して学ぶ、グループワーク形式も取り入れる。グループワークではそれぞれ患者役、治療者役に分かれることで、各物理療法機器の効果と施行についての演習を行う。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	物理療法総論					藤谷 亮
第2回	温熱療法と寒冷療法					藤谷 亮
第3回	水治療法と電気刺激療法					藤谷 亮
第4回	光線療法と力学的治療法					藤谷 亮
第5回	臨床応用とリスク管理					藤谷 亮
第6回	実習：各種物理療法機器の取り扱い：実習①					藤谷 亮
第7回	実習：各種物理療法機器の取り扱い：実習②					藤谷 亮
第8回	実習：各種物理療法機器の取り扱い：実習③					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の学習について	本学問においては、温熱、寒冷、電気などのエネルギーが生体に加わった時の生理的応答を治療に応用するため、生理学の分野への理解があった上での学問になります。講義の中でも復習しますが、事前に復習するようにしましょう。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	網本 和(編)：標準理学療法学 専門分野 物理療法学. 医学書院.					
参考書	嶋田智明・他：物理療法マニュアル. 医学書院. 沖田実(編)：物理療法学テキスト. 南江堂. 細田多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
義肢装具学 I	必	大西 均・安田 孝志	1	30	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>理学療法士の業務の中で、装具や義足は様々な障害の治療手段の1つとして重要である。義肢分野では、四肢の切断の原因と適応ならびに切断の手技、術前術後のケアを学ぶ。義肢の基本的な構造、構成要素を学び、上肢・下肢の切断について、切断高位ごとに障害の特徴と使用される義肢の特徴、適合、異常歩行の原因、アライメント調整を学ぶ。これらを学んだ上で、切断者の理学療法評価からアプローチに至るプロセスを学び、リハビリテーションを実施する上で必要となる知識および使用技術を習得する。</p> <p>装具分野では、四肢の各部位に使用する装具の分類、各装具の種類や名称を学習する。また、各装具の扱い方や調整技術も学ぶ。疾患別の装具を紹介し、脊髄損傷に対する代表的な装具とその適応範囲、末梢神経障害に対する装具、体幹装具について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/8回)</p> <p>切断の原因と切断の手術、術前術後のケアについて概説する。義肢の基本的な構造を学び、下肢切断について、切断高位ごとに障害の特徴と使用される義肢の特徴、適合、異常歩行の原因を理解し、切断者のリハビリテーションについて概説する。また、切断者が行う障がい者スポーツに関する紹介、補足具や車椅子などの使用器具を概説する。</p> <p>(大西 均/7回)</p> <p>腰痛に対するコルセットが及ぼす効果やその副作用について、最新の筋電図学的研究を基に概説する。足関節捻挫の装具に関しても、最新の研究結果をもとにその効果を講義する。さらに、他の疾患に対する装具の使用方法、その名称について概説する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	切断の疫学、切断の原因となる疾患、切断手術					安田 孝志
第2回	義肢総論 義肢の分類、構造と構成部品 下腿切断の特徴					安田 孝志
第3回	下腿義足の構造 下腿義足の異常歩行 適合評価					安田 孝志
第4回	大腿切断の特徴 大腿義足の構造					安田 孝志
第5回	大腿義足 異常歩行 適合評価					安田 孝志
第6回	股関節離断・膝離断・サイム切断・足部部分切断の特徴 股義足・膝義足・サイム義足・足部部分義足の構造 適合評価					安田 孝志
第7回	上肢切断 義手種類と適応 筋電義手					安田 孝志
第8回	切断者のリハビリテーション					安田 孝志
第9回	スポーツ障害に対する装具					大西 均
第10回	先天性疾患に対する装具					大西 均
第11回	脊髄損傷の上肢装具					大西 均
第12回	脊髄損傷の下肢装具					大西 均
第13回	末梢神経障害の装具					大西 均
第14回	装具療法の実際 (上肢装具の装着)					大西 均
第15回	装具療法の実際 (下肢・体幹装具の装着)					大西 均
備考						
授業時間以外の学習について	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。また、講義後は教科書や参考資料を基に復習しておくこと。					
課題・評価方法	期末試験(筆記)80% 課題20%					
教科書	川村次郎・他(編)：義肢装具学第4版、医学書院					
参考書	澤村 誠志：義肢学、医歯薬出版。 磯崎弘司・他(編)：シンプル理学療法学シリーズ義肢装具学テキスト、南江堂。 澤村誠志：切断と義肢、医歯薬出版。					
オフィスアワー	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
義肢装具学	必	川崎浩子・大西均	1	30	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>義肢分野では、四肢の切断の原因と適応ならびに切断の手技、術前術後のケアを学ぶ。義肢の基本的な構造、構成要素を学び、上肢・下肢の切断について、切断高位ごとに障害の特徴と使用される義肢の特徴、適合、異常歩行の原因、アライメント調整を学ぶ。これらを学んだ上で、切断者の理学療法評価からアプローチに至るプロセスを学び、リハビリテーションを実施する上で必要となる知識および使用技術を習得する。</p> <p>装具分野では、各装具の種類や名称にとどまらず、各装具の扱い方や調整技術を患者を想定しながら実践することにより、臨床的な知識と技術を獲得する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	切断の疫学、切断の原因となる疾患、切断手術					川崎浩子
第2回	義肢総論 義肢の分類、構造と構成部品 下腿切断の特徴					川崎浩子
第3回	下腿義足の構造 下腿義足の異常歩行 適合評価					川崎浩子
第4回	大腿切断の特徴 大腿義足の構造					川崎浩子
第5回	大腿義足 異常歩行 適合評価					川崎浩子
第6回	股関節離断・膝離断・サイム切断・足部分切断の特徴 股義足・膝義足・サイム義足・足部分義足の構造 適合評価					川崎浩子
第7回	上肢切断 義手種類と適応 筋電義手					川崎浩子
第8回	切断者のリハビリテーション					川崎浩子
第9回	スポーツ障害に対する装具					大西均
第10回	先天性疾患に対する装具					大西均
第11回	脊髄損傷の上肢装具					大西均
第12回	脊髄損傷の下肢装具					大西均
第13回	末梢神経障害の装具					大西均
第14回	装具療法の実際1					大西均
第15回	装具療法の実際2					大西均
備考						
授業時間以外の学習について	事前に解剖学の筋の起始・停止、作用を復習し、切断されたときに生じる機能障害を想起できるようにしておくこと。					
課題・評価方法	期末試験(筆記)80% 課題10% 授業態度10%					
教科書	川村次郎・他(編):義肢装具学第4版. 医学書院					
参考書	<p>澤村 誠志:義肢学. 医歯薬出版.</p> <p>磯崎弘司・他(編):シンプル理学療法学シリーズ義肢装具学テキスト. 南江堂.</p> <p>澤村誠志:切断と義肢. 医歯薬出版.</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当 教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法実習 I	必	藤谷 亮	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	脳血管障害における病態、治療などの基礎から、理学療法評価、理学療法アプローチに至る流れを理解することを目標とする。脳出血や脳梗塞における病態、それら脳血管障害の回復過程の理解と脳神経回路の再構築における課程を理解する。この授業では、基礎的な神経系における運動療法、運動学習における講義と演習から、脳血管障害における病態、評価、治療につなげていく。また脳血管障害の急性期・回復期・維持期における理学療法の役割とアプローチについて学習するとともに、片麻痺の基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）についても演習を行い動作評価・治療・指導の注意点について学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	中枢神経系理学療法の基礎知識					藤谷 亮
第2回	運動と感覚の中枢機能と構造					藤谷 亮
第3回	脳損傷の定義と病態					藤谷 亮
第4回	脳損傷とその回復					藤谷 亮
第5回	脳血管障害における医学管理					藤谷 亮
第6回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					藤谷 亮
第7回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					藤谷 亮
第8回	脳血管障害後片麻痺に対する評価：機能障害の評価					藤谷 亮
第9回	脳血管障害後片麻痺に対する評価：活動制限の評価					藤谷 亮
第10回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：課題指向型トレーニングと運動学習					藤谷 亮
第11回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：座位、立位を中心に					藤谷 亮
第12回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング：歩行を中心に					藤谷 亮
第13回	脳血管障害における合併症					藤谷 亮
第14回	高次脳機能障害と理学療法					藤谷 亮
第15回	脳血管障害における理学療法の実践					藤谷 亮
備考						
授業時間以外の 学習について	本講義においては、評価並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見返し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方 法	レポート課題（30%）、定期試験（70%）					
教科書	石川朗（編）：理学療法テキスト 神経障害理学療法学 I. 中山書店. 配布資料					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健（編）：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多徳・他（編）：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスア ワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当 教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
神経障害系理学療法学演習 I	必	藤谷 亮	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	脳血管障害における病態、治療など基礎から、理学療法評価、理学療法アプローチに至る流れを理解することを目的に学習を進める。脳出血や脳梗塞における病態、それら脳血管障害の回復過程の理解と脳神経回路の再構築における課程を理解する。講義では基礎的な神経系における運動療法、運動学習における講義と演習から、脳血管障害における病態、評価、治療につなげていく。また脳血管障害の急性期・回復期・維持期における理学療法の役割とアプローチについて学習するとともに、片麻痺の基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）についても演習を行い動作評価・治療・指導の注意点について学ぶ。					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	中枢神経系理学療法の基礎知識					藤谷 亮
第2回	運動と感覚の中枢機能と構造					藤谷 亮
第3回	脳損傷の定義と病態					藤谷 亮
第4回	脳損傷とその回復					藤谷 亮
第5回	脳血管障害における医学管理					藤谷 亮
第6回	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ					藤谷 亮
第7回	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴					藤谷 亮
第8回	脳血管障害後片麻痺に対する評価（1）					藤谷 亮
第9回	脳血管障害後片麻痺に対する評価（2）					藤谷 亮
第10回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（1）					藤谷 亮
第11回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（2）					藤谷 亮
第12回	脳血管障害後片麻痺に対するトレーニング（3）					藤谷 亮
第13回	脳血管障害における合併症					藤谷 亮
第14回	高次脳機能障害と理学療法					藤谷 亮
第15回	脳血管障害における理学療法の実際					藤谷 亮
備考						
授業時間以外 の学習につ いて	本講義においては、評価学並びに脳血管障害などの医学分野の理解が必要となります。その分野を復習してから講義に臨んでください。また講義後は教科書、配布資料等の見直し要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方 法	授業態度(10%)、レポート課題(20%)、定期試験(70%)					
教科書	石川朗(編)：理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店.					
参考書	吉尾雅治・他：標準理学療法 神経理学療法学. 医学書院. 柳沢健(編)：中枢神経理学療法学. メディカルビュー. 細田多穂・他(編)：理学療法ハンドブック改定第4版. 協同医書出版.					
オフィスア ワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法学実習 I	必	大西 均	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について演習を中心に行っていく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。スポーツ理学療法として、足関節捻挫の最新研究を紹介し、その治療と予防についても学ぶ。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	変形性関節症の定義				大西 均	
第2回	変形性股関節症とその治療				大西 均	
第3回	変形性股関節症に対する理学療法				大西 均	
第4回	変形性膝関節症とその治療				大西 均	
第5回	変形性膝関節症に対する理学療法（運動療法の基礎）				大西 均	
第6回	変形性膝関節症に対する理学療法（運動療法の応用と牽引療法）				大西 均	
第7回	高齢者の骨折とは				大西 均	
第8回	大腿骨頸部骨折の治療				大西 均	
第9回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法（手術手技別の運動療法）				大西 均	
第10回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法（手術後の痛みに対する対処法）				大西 均	
第11回	橈骨遠位端骨折に対する治療				大西 均	
第12回	橈骨遠位端骨折に対する理学療法				大西 均	
第13回	上腕骨近位端骨折に対する治療				大西 均	
第14回	上腕骨近位端骨折に対する理学療法				大西 均	
第15回	脊椎圧迫骨折に対する治療と理学療法				大西 均	
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の予習、また講義後は教科書の復習を行うこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢：メジカルビュー社：整形外科リハビリテーション学会編					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法学演習Ⅰ	必	大西 均	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、代表的な慢性疾患である変形性関節症、肩関節周囲炎、および代表的な高齢者の骨折である大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働きや疾患の特長、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。スポーツ理学療法として、足関節捻挫の最新研究を紹介し、その治療と予防についても学ぶ。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	変形性関節症の定義					大西 均
第2回	変形性股関節症とその治療					大西 均
第3回	変形性股関節症に対する理学療法					大西 均
第4回	変形性膝関節症とその治療					大西 均
第5回	変形性膝関節症に対する理学療法1					大西 均
第6回	変形性膝関節症に対する理学療法2					大西 均
第7回	高齢者の骨折とは					大西 均
第8回	大腿骨頸部骨折の治療					大西 均
第9回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法1					大西 均
第10回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法2					大西 均
第11回	橈骨遠位端骨折に対する治療					大西 均
第12回	橈骨遠位端骨折に対する理学療法					大西 均
第13回	上腕骨近位端骨折に対する治療					大西 均
第14回	上腕骨近位端骨折に対する理学療法					大西 均
第15回	脊椎圧迫骨折に対する治療と理学療法					大西 均
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ骨折の知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとから本授業に臨んでください。また、解剖学と運動学の知識が重要となりますので、これらの復習もしてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢：メジカルビュー社：整形外科リハビリテーション学会編					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法 学実習Ⅱ	必	安田 孝志・前川 昭次・ 大西 均	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、 脊髄損傷などの理学療法について講義を交え多くの実技をする。これらの運動器障害の障害把握のた めに、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患 に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、評価法や理学療法についての知識、技術を習得するこ とを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/5回) 末梢神経損傷、脊髄損傷などの術後の理学療法について講義を交え、基本的な評価法や理学療法を実 践する。 (前川 昭次/5回) 前十字靭帯損傷・腱板断裂・THA・TKAに関する各術後の理学療法を学び、実際の手技を実践する。 (大西 均/5回) 末梢神経障害では上肢と下肢の末梢神経絞扼部位の詳細を学び、実際にそれを開放する手技について 実践する。</p>					
学位授与方針 との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することが できる。					
	内容					担当教員
第1回	脊髄損傷（不全損傷も含め）とは（発生原因、症状、診断と治療）、障害像					安田 孝志
第2回	Bed Soarの予防と管理、評価					安田 孝志
第3回	理学療法評価、到達可能なADL、ゴールに影響する因子					安田 孝志
第4回	(急性期) ポジショニング、呼吸理学療法、他動運動、残存筋の筋力強化および 再学習					安田 孝志
第5回	マット上訓練、座位バランス訓練、立位訓練（離床期）、車いす駆動訓練、ADL 訓練、屋外訓練、社会資源、スポーツ、レクリエーション、趣味					安田 孝志
第6回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法（BTBを中心に）					前川 昭次
第7回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法（STGを中心に）					前川 昭次
第8回	腱板損傷術後の理学療法					前川 昭次
第9回	腱板損傷術後の理学療法					前川 昭次
第10回	THA・TKA術後の理学療法					前川 昭次
第11回	神経の解剖と絞扼部位					大西 均
第12回	神経モビライゼーション					大西 均
第13回	絞扼部開放手技の基礎					大西 均
第14回	絞扼部開放手技の実際					大西 均
第15回	神経障害とそれ以外の鑑別方法					大西 均
備考						
授業時間以外 の学習につい て	整形外科で学んだ疾患の知識を基に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりしてから 本授業に臨んでください。また講義後は教科書の復習を行うこと。					
課題・評価方 法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	脊髄損傷のリハビリテーション：二瓶隆一 協同医書出版 ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書	なし					
オフィスア ワー	大西 前期：水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動器障害系理学療法学演習Ⅱ	必	安田孝志 前川昭次 大西均	1	30	3年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	運動器障害の中でも、THA、TKA、ACL再建術などの術後の理学療法、関節リウマチ、末梢神経損傷、脊髄損傷などの理学療法について講義を交えながら実技も実施していく。これらの運動器障害の障害把握のために、各運動器の働き、疾患の特長、手術方法、リスク管理などについて学び、これらの運動器疾患に対する基本的な理学療法プロセスを理解し、基本的な評価法や理学療法についての知識、技術を習得することを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	脊髄損傷（不全損傷も含め）とは（発生原因、症状、診断と治療）、障害像				安田孝志	
第2回	Bed Soarの予防と管理、評価				安田孝志	
第3回	理学療法評価、到達可能なADL、ゴールに影響する因子				安田孝志	
第4回	（急性期）ポジショニング、呼吸理学療法、他動運動、残存筋の筋力強化および再学習				安田孝志	
第5回	マット上訓練、座位バランス訓練、立位訓練（離床期）、車いす駆動訓練、ADL訓練、屋外訓練、社会資源、スポーツ、レクリエーション、趣味				安田孝志	
第6回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法				前川昭次	
第7回	靭帯損傷（ACLを中心に）術後の理学療法				前川昭次	
第8回	腱板損傷術後の理学療法				前川昭次	
第9回	腱板損傷術後の理学療法				前川昭次	
第10回	THA・TKA術後の理学療法				前川昭次	
第11回	神経の解剖と絞扼部位				大西均	
第12回	神経モビライゼーション				大西均	
第13回	絞扼部開放手技の基礎				大西均	
第14回	絞扼部開放手技の実際				大西均	
第15回	神経障害とそれ以外の鑑別方法				大西均	
備考						
授業時間以外の学習について	整形外科で学んだ知識を基本に授業が進みます。整形外科の教科書の復習をしっかりとってから本授業に臨んでください。また、解剖学と運動学の知識が重要となりますので、これらの復習もしてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	脊髄損傷のリハビリテーション：二瓶隆一 協同医書出版 ここがポイント 整形外科疾患の理学療法：富士武史監修 金原出版					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法実習 I	必	弘部 重信・平岩 康之	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (弘部 重信/11回)</p> <p>内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。 (平岩 康之/4回)</p> <p>内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	呼吸器系の理学療法に必要な解剖生理					弘部 重信
第2回	循環器系の理学療法に必要な解剖生理					弘部 重信
第3回	呼吸不全の病態					弘部 重信
第4回	呼吸器系疾患の病態					弘部 重信
第5回	呼吸器系疾患の理学療法評価 (COPD等)					弘部 重信
第6回	呼吸器系疾患の理学療法評価 (肺炎等)					弘部 重信
第7回	呼吸器系疾患の治療概念					弘部 重信
第8回	呼吸器系疾患の理学療法技術 (COPD等)					弘部 重信
第9回	呼吸器系疾患の理学療法技術 (肺炎等)					弘部 重信
第10回	呼吸循環器系疾患のADL指導					弘部 重信
第11回	COPDの理学療法					弘部 重信
第12回	循環器系疾患の病態					平岩 康之
第13回	循環器系疾患の理学療法評価技術					平岩 康之
第14回	循環器系疾患の理学療法技術					平岩 康之
第15回	吸引の理論とリスク管理と吸引実習					平岩 康之
備考						
授業時間以外の学習について	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：10点 定期試験：70点 授業態度・実習時間内に出される課題の提出：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学. 医学書院					
参考書	細田多徳監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）. 南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
内部障害系理学療法学 演習 I	必	分木 ひとみ・平岩 康之	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>内部障害の呼吸循環器系疾患に対する、理学療法評価および理学療法治療について学習する。疾患の症状とその関連性などの基礎知識の理解、ならびに必要とされる理学療法評価方法と評価手技やデータ分析と解釈、理学療法法の考え方と実技を習得する。呼吸循環機能の評価と治療手技は、学生同士のペアにより実習を取り入れ学習を進める。喀痰等の吸引について理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (分木ひとみ/11回) 内部障害の呼吸循環器系疾患の、臨床症状について学習する。呼吸器疾患の理学療法評価と治療について学習し、その評価と治療について学生同士で実習を行い技術を習得する。 (平岩康之/4回) 内部障害の循環器系疾患の、臨床症状と理学療法評価・技術について学習する。喀痰吸引について、理論と方法およびリスク管理を学び、疑似モデルを対象に吸引の実習を行い技術を習得する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	呼吸器系の理学療法に必要な解剖生理					分木 ひとみ
第2回	循環器系の理学療法に必要な解剖生理					分木 ひとみ
第3回	呼吸不全の病態					分木 ひとみ
第4回	呼吸器系疾患の病態					分木 ひとみ
第5回	呼吸器系疾患の理学療法評価					分木 ひとみ
第6回	呼吸器系疾患の理学療法評価					分木 ひとみ
第7回	呼吸器系疾患の治療概念					分木 ひとみ
第8回	呼吸器系疾患の理学療法技術					分木 ひとみ
第9回	呼吸器系疾患の理学療法技術					分木 ひとみ
第10回	呼吸循環器系疾患のADL指導					分木 ひとみ
第11回	COPDの理学療法					分木 ひとみ
第12回	循環器系疾患の病態					平岩 康之
第13回	循環器系疾患の理学療法評価技術					平岩 康之
第14回	循環器系疾患の理学療法技術					平岩 康之
第15回	吸引の理論とリスク管理と吸引実習					平岩 康之
備考						
授業時間以外の学習について	解剖・生理学を基礎に、内科学を踏まえた授業になります。復習を中心に自己学習を進めてください。実技も、学生同士で実習の練習を復習することを推奨します。					
課題・評価方法	授業時間内のレポート：10点 定期試験：70点 授業態度・実習時間内に出される課題の提出：20点					
教科書	吉尾雅春・高橋哲也編：標準理学療法学 内部障害理学療法学。医学書院					
参考書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト（改訂第2版）。南江堂 柳澤健編：理学療法学ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害系理学療法実習	必	治郎丸 卓三	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、スポーツ場面で発生しやすい 鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鷲足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	スポーツ障害の基本的な考え方					治郎丸 卓三
第2回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法（関節唇損傷とインピンジメント）					治郎丸 卓三
第3回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法（鼠径部痛症候群）					治郎丸 卓三
第4回	膝のスポーツ障害の理学療法（半月板損傷）					治郎丸 卓三
第5回	膝のスポーツ障害の理学療法（靭帯損傷）					治郎丸 卓三
第6回	膝のスポーツ障害の理学療法（腸脛靭帯炎）					治郎丸 卓三
第7回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法（シンスプリント）					治郎丸 卓三
第8回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法（足底腱膜炎）					治郎丸 卓三
第9回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法（靭帯損傷）					治郎丸 卓三
第10回	腰のスポーツ障害の理学療法（腰椎分離症）					治郎丸 卓三
第11回	腰のスポーツ障害の理学療法（筋筋膜性腰痛症）					治郎丸 卓三
第12回	腰のスポーツ障害の理学療法（仙腸関節障害）					治郎丸 卓三
第13回	肩のスポーツ障害の理学療法（肩関節周囲炎）					治郎丸 卓三
第14回	肩のスポーツ障害の理学療法（腱板損傷）					治郎丸 卓三
第15回	肩のスポーツ障害の理学療法（反復性肩関節脱臼）					治郎丸 卓三
備考						
授業時間以外の学習について	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版					
参考書	スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
スポーツ障害系理学療法学演習	必	治郎丸卓三	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	本授業では、スポーツ場面で発生しやすい鼠径部痛症候群、半月板損傷、腸脛靭帯炎、鷲足炎、シンスプリント、足底腱膜炎、腰椎分離症などの理学療法について講義と実技を交えながら教授していく。股関節・鼠径部、膝、下腿・足部、腰、肩のスポーツ障害の障害把握のために、病態の捉え方、発生機転、発生メカニズムなどを理解し、各身体部位におけるスポーツ障害の基本的な評価法や理学療法の知識と技術を習得することを目標とする。また、その疾患のリスクについても理解し、日常生活指導やスポーツ動作指導を行えるようになることもこの授業の目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	スポーツ障害の基本的な考え方					治郎丸卓三
第2回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第3回	股関節・鼠径部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第4回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第5回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第6回	膝のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第7回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第8回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第9回	下腿・足部のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第10回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第11回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第12回	腰のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第13回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第14回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
第15回	肩のスポーツ障害の理学療法					治郎丸卓三
備考						
授業時間以外の学習について	本授業においては、運動学、整形外科学、運動療法学などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見返し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版					
参考書	スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社 積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法学	必	植田 昌治・川崎 浩子	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>生活環境とADLとQOLは密接な関係にあり、障がい者が社会復帰を目指すためには、環境が生活に及ぼす影響を理解する必要がある。本講では、環境について、地域環境と住環境の2つの視点から学ぶ。地域環境では、社会制度、地域環境と公共交通を通して人にやさしい街づくりについて理解する。その上で、生活環境の実態調査を行い、現状を理解する。生活環境（住環境）整備では、個人の生活環境の整備の在り方について取り上げ、社会モデルで障害を捉え、問題解決できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)                      (植田 昌治/4回) 地域環境では、街づくりの在り方、社会資源について学び、その上で、障がい者や高齢者が外出する際に生じている課題を正しく理解し、在宅復帰支援を行うために支援の在り方を学ぶ。                      (川崎 浩子/4回) 生活（住環境）整備では、自宅の評価のポイント、間取り図の書き方、住宅改修、福祉機器の導入を通して、身体機能面だけでなく、環境面も含めた評価を行い、障害や疾病を有する人が、健やかに円滑な生活ができるように、生活環境から生じる要因を多角的に捉え、当事者が最善の選択ができるように考え方の基礎を学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	生活環境の概念				植田 昌治	
第2回	生活環境と社会制度				植田 昌治	
第3回	地域環境と公共交通				植田 昌治	
第4回	生活圏での生活環境の実態調査				植田 昌治	
第5回	生活環境（住環境）の評価 総論				川崎 浩子	
第6回	住環境の訪問調査の実際				川崎 浩子	
第7回	住環境改善計画の実際				川崎 浩子	
第8回	住環境事例検討				川崎 浩子	
備考						
授業時間以外の学習について	バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておく。また講義後は教科書の復習を行うこと。そして、自分が住んでいる町の環境について興味をもち、未来に向けて「もっと住みやすい街」にするためには？を考えてみてください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）60% 課題40%					
教科書	鶴見隆正（編）：標準理学療法学『日常生活活動学・生活環境学』第5版、医学書院。					
参考書	木村哲彦（監）：生活環境論 第4版、医歯薬出版。 財団法人テクノエイド協会：福祉用具アセスメントマニュアル。					
オフィスアワー	植田 後期：水 16：10～17：15 川崎 後期：月 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法学Ⅰ	必	川崎 浩子	1	15	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>生活環境とADLとQOLは密接な関係にあり、障がい者が社会復帰を目指すためには、環境が生活に及ぼす影響を理解する必要がある。本講では、環境について、地域環境と住環境の2つの視点から学ぶ。地域環境では、人にやさしい街づくりについて、住環境整備では、個人の生活環境の整備の在り方について取り上げ、社会モデルで障害を捉え、問題解決できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>地域環境では、街づくりの在り方、社会資源について学び、その上で、障がい者や高齢者が外出する際に生じている課題を正しく理解し、在宅復帰支援を行うために支援の在り方を学ぶ。また、住環境整備では、自宅の評価のポイント、間取り図の書き方、住宅改修、福祉機器の導入を通して、身体機能面だけでなく、環境面も含めた評価を行い、障害や疾病を有する人が、健やかに円滑な生活ができるように、生活環境から生じる要因を多角的に捉え、当事者が最善の選択ができるように考え方の基礎を学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	生活環境の概念					川崎 浩子
第2回	地域環境					川崎 浩子
第3回	生活圏での生活環境の実態調査①					川崎 浩子
第4回	生活圏での生活環境の実態調査②					川崎 浩子
第5回	生活環境（住環境）の評価					川崎 浩子
第6回	生活環境改善計画の実際					川崎 浩子
第7回	施設環境整備・事例検討（グループワーク）					川崎 浩子
第8回	事例検討会					川崎 浩子
備考						
授業時間以外の学習について	<p>バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解しておく。 自分が住んでいる町の環境について興味をもち、未来に向けて「もっと住みやすい街」にするためには？を考えてみてください。</p>					
課題・評価方法	期末試験（筆記）50% 課題40% 授業態度10%					
教科書	鶴見隆正（編）：標準理学療法学『日常生活活動学・生活環境学』第5版、医学書院。					
参考書	木村哲彦（監）：生活環境論 第4版、医歯薬出版。 財団法人テクノエイド協会：福祉用具アセスメントマニュアル。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法実習	必	弘部 重信・鈴木 美香	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、トピックスとして、多職種が連携して対応する褥瘡・嚥下障害・シーティングの3つを取り上げ、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる内容を理解し、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かした、協働した取り組みができるようになることを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （鈴木 美香／3回）</p> <p>サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。 （弘部 重信・5 鈴木 美香 共同／5回）</p> <p>バリアフリー展見学実習および実習報告会 （弘部 重信／7回）</p> <p>福祉用具の選定と使い方、褥瘡の予防と管理、誤嚥予防と嚥下障害に対する対応、シーティング座位姿勢の評価と適合技術について教授する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 理学療法士の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。</p> <p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	サービスを提供する場面ごとの理学療法（介護老人保健施設 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション）				鈴木 美香	
第2回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木 美香	
第3回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木 美香	
第4回	バリアフリー展見学実習				弘部 重信・鈴木 美香	
第5回	バリアフリー展見学実習				弘部 重信・鈴木 美香	
第6回	バリアフリー展見学実習				弘部 重信・鈴木 美香	
第7回	バリアフリー展見学実習				弘部 重信・鈴木 美香	
第8回	見学実習報告				弘部 重信・鈴木 美香	
第9回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習（トイレ）				弘部 重信	
第10回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習（入浴）				弘部 重信	
第11回	褥瘡の予防 ガイドラインに基づいた対処方法				弘部 重信	
第12回	褥瘡の管理 ガイドラインに基づいた対処方法				弘部 重信	
第13回	誤嚥予防と嚥下障害に対する対応				弘部 重信	
第14回	シーティング 座位姿勢の評価				弘部 重信	
第15回	シーティング 座位姿勢の適合技術				弘部 重信	
備考						
授業時間以外の学習について	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。また講義後は教科書の復習を行うようにしてください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）60% 課題40%					
教科書	細田多徳（監）：シンプル理学療法シリーズ『地域リハビリテーション学テキスト』改訂第3版. 南江堂.					
参考書	なし					
オフィスアワー	弘部 前期：水 16：10～17：15 鈴木 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域理学療法学Ⅱ	必	川崎浩子・鈴木美香	1	30	3年次 前期	講義・演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>地域で生活する人々の生活上障害になる問題を解決し、生活機能向上に貢献する為に、「リハビリテーションの専門職として、地域医療を担う一員としての理学療法士の役割」について学び、理解を深めることを目標とする。サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務を学び、役割の理解を深める。バリアフリー展や福祉用具センターにて福祉用具の選定と使い方を学び、最新の機器を体験するなど報告会を行う。また、トピックスとして、多職種が連携して対応する褥瘡・嚥下障害・シーティングの3つを取り上げ、理学療法士が専門性を発揮して主として関わる内容を理解し、評価・介入できる内容を理解する。これらのテーマを通して、課題解決に向け理学療法士の専門性を活かし、協働した取り組みができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)            (鈴木美香/3回) サービスの場面ごとにリハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議など、理学療法士の実務について教授する。            (川崎浩子・5 鈴木美香 共同/5回) バリアフリー展見学実習および実習報告会            (川崎浩子/7回) 福祉用具の選定と使い方、褥瘡の予防と管理、誤嚥予防と嚥下障害に対する対応、シーティング座位姿勢の評価と適合技術について教授する。</p>					
学位授与方針との関連	DP3 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	サービスを提供する場面ごとの理学療法（介護老人保健施設 訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション）				鈴木美香	
第2回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木美香	
第3回	リハビリテーション実施計画書（医療機関・老健・通所リハなど）の作成、説明と同意、地域連携バス、カンファレンス、サービス担当者会議などの実務				鈴木美香	
第4回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第5回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第6回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第7回	バリアフリー展見学実習				川崎浩子・鈴木美香	
第8回	見学実習報告				川崎浩子・鈴木美香	
第9回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習				川崎浩子	
第10回	福祉用具の選定と使い方 福祉用具センター実習				川崎浩子	
第11回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法				川崎浩子	
第12回	褥瘡の予防と管理 ガイドラインに基づいた対処方法				川崎浩子	
第13回	誤嚥予防と嚥下障害に対する対応				川崎浩子	
第14回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術				川崎浩子	
第15回	シーティング 座位姿勢の評価と適合技術				川崎浩子	
備考						
授業時間以外の学習について	褥瘡・嚥下障害について予習して授業に臨んでください。					
課題・評価方法	期末試験（筆記）50% 課題40% 授業態度10%					
教科書	細田多穂（監）：シンプル理学療法学シリーズ『地域リハビリテーション学テキスト』改訂第3版. 南江堂.					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論	必	安田 孝志	1	15	3年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	障がい者のスポーツ活動に関する、歴史的な背景や文化を含め、障がいの理解、障がい者の理解を深めるために、歴史・思想、社会的・制度的観点、指導方法について体系的に講義を行う。そして、全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育んでいくためのスポーツと社会の在り方について理論を学ぶ。また、実際に障がい者の競技スポーツを紹介し、その道具やルールの工夫、配慮事項について講義を行う。そして、地域の障がい者スポーツ指導者として活動できる知識を得る。					
学位授与方針との関連	DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。 DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。					
	内容					担当教員
第1回	障がい者のスポーツ指導における留意点（競技特性の説明）					安田 孝志
第2回	障がい者のスポーツ指導における留意点（リスク管理）					安田 孝志
第3回	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的					安田 孝志
第4回	全国障害者スポーツ大会の意義					安田 孝志
第5回	(公財) 日本障がい者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者制度					安田 孝志
第6回	全国障害者スポーツ大会の概要					安田 孝志
第7回	障がいに応じたスポーツの工夫（実技）					安田 孝志
第8回	障がいに応じたスポーツの実施（実技）					安田 孝志
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>、配布資料（日本障がい者スポーツ協会 HP内 資料室内資料）					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）、（公財）日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー	後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論	選	安田 孝志	1	15	4年次 通年	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	障がい者のスポーツ活動に関する、歴史的な背景や文化を含め、障がいの理解、障がい者の理解を深めるために、歴史・思想、社会的・制度的観点、指導方法について体系的に講義を行う。そして、全ての人間がスポーツという文化に親しみ、健康な心身を育てていくためのスポーツと社会の在り方について理論を学ぶ。また、実際に障がい者の競技スポーツを紹介し、その道具やルール工夫、配慮事項について講義を行う。そして、地域の障がい者スポーツ指導者として活動できる知識を得る。					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	障がい者のスポーツ指導における留意点					安田 孝志
第2回	障がい者のスポーツ指導における留意点					安田 孝志
第3回	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義					安田 孝志
第4回	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義					安田 孝志
第5回	(公財)日本障がい者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者制度					安田 孝志
第6回	全国障害者スポーツ大会の概要					安田 孝志
第7回	障がいに応じたスポーツの工夫・実施(実技)					安田 孝志
第8回	障がいに応じたスポーツの工夫・実施(実技)					安田 孝志
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論実習	必	安田 孝志・大西 満・池谷 雅江	1	30	4年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (安田 孝志/7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。 (池谷 雅江/7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。 (大西 満/1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技の紹介					池谷 雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技の詳細					池谷 雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷 雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西 満
第5回	障がい者との交流					安田 孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田 孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 陸上					安田 孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 陸上					安田 孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 水泳					池谷 雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 水泳					池谷 雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 車いすバスケットボール					安田 孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田 孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法 シンクロ 卓球					池谷 雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の競技規則 シンクロ					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	確認テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>、ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー	大西 前期：月、水 16：10～17：15 安田 前期：水 16：10～17：15 池谷 前期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
障がい者スポーツ論演習	選	安田孝志 大西満 池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>障がい者のスポーツの振興を図り、その健康の維持増進に寄与するために障がい者のスポーツ指導について専門的な知識と技能を身につけることを目的とする。また障がい者にとってのスポーツの重要性を再確認するとともに、具体的なスポーツ実習を通して理学療法士とスポーツの接点や関わりについて学ぶ。障がい者スポーツは、障がいがあるヒトだけに限られたスポーツではなく、誰でも参加できるように適応されたスポーツであることを学び、可能性を追求する場とする。そして、学生自らが障がい者と健常者が交流できるスポーツ大会を企画し、運営することで、応用力を養い、より高度な想像力、実践力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(安田孝志／7回) 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(池谷雅江／7回) 全国障害者スポーツ大会の実施競技、障害区分を講義形式で解説。 また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を障がい者との交流を交えて、実技形式の演習を行う。</p> <p>(大西 満／1回) 全国障害者スポーツ大会の理念を講義形式で解説。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷雅江
第2回	全国障害者スポーツ大会の実施競技					池谷雅江
第3回	全国障害者スポーツ大会の障害区分					池谷雅江
第4回	障がい者スポーツの意義と理念					大西満
第5回	障がい者との交流					安田孝志
第6回	障がい者との交流 最重度障がい者のスポーツの実際					安田孝志
第7回	最重度障がい者のスポーツの実際					安田孝志
第8回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田孝志
第9回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 陸上					安田孝志
第10回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷雅江
第11回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 水泳					池谷雅江
第12回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール					安田孝志
第13回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 車いすバスケットボール 卓球					安田孝志
第14回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ 卓球					池谷雅江
第15回	全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 シンクロ					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。 その内容を基に、障がい者スポーツの現場にできるだけ足を運ぶこと。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	日本障がい者スポーツ協会 編：障害者スポーツ指導教本 初級・中級<改訂版>。ぎょうせい 配布資料(日本障害者スポーツ協会 HP内 資料室内資料)					
参考書	日本障がい者スポーツ協会：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)。(公財)日本障がい者スポーツ協会					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習	選	分木 ひとみ・鈴木 美香・池谷 雅江	1	30	3年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定から、ストレッチやラダー、二重課題、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。これらを踏まえて、健康増進に関する正しい知識を習得し、健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (分木 ひとみ/6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通じた健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。 (鈴木 美香/5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。 (池谷 雅江/4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	健康の概論				分木 ひとみ	
第2回	健康維持の取り組み				分木 ひとみ	
第3回	健康と生活習慣				分木 ひとみ	
第4回	日常生活活動量、運動量の算出				分木 ひとみ	
第5回	日常生活活動量、運動量の算出の実際				分木 ひとみ	
第6回	健康づくりのための身体活動基準				分木 ひとみ	
第7回	健康維持のための運動プログラム立案				鈴木 美香	
第8回	健康維持のための運動プログラムのための評価				鈴木 美香	
第9回	健康維持のための運動プログラム計画				鈴木 美香	
第10回	健康維持のための運動プログラム作成				鈴木 美香	
第11回	健康維持のための運動プログラム実践				鈴木 美香	
第12回	高齢者を対象とした健康維持プログラム立案及び評価				池谷 雅江	
第13回	高齢者を対象とした健康維持プログラム計画				池谷 雅江	
第14回	高齢者を対象とした健康維持プログラム作成				池谷 雅江	
第15回	高齢者を対象とした健康維持プログラム実践				池谷 雅江	
備考						
授業時間以外の学習について	講義後は配布資料を中心に要点をまとめるなど、復習を中心に学習してください。					
課題・評価方法	授業内課題 70%、小テスト 30%					
教科書	資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 鈴木 後期：木 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習Ⅰ	選	分木ひとみ・鈴木美香・池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>「健康」とは何か、「健康」の概念を学び、生涯を通じて豊かで活力ある生活を送るための理解を深める。健康な生活を維持するための運動、食事、睡眠、禁煙、飲酒等の個人の生活習慣の改善について理解を深め、日常生活での運動量の算出と体力測定から、ストレッチやラダー、二重課題、ゲーム活動等を体験し、体を動かし健康を維持する方法を学ぶ。これらを踏まえて、健康増進に関する正しい知識を習得し、健康教育の方法から運動プログラムの立案までの一連の過程が行えるように知識技術を修得することを目的とする。</p> <p>オムニバス方式 15回                      (分木ひとみ /6回) 小児から高齢者まで広く生涯を通した健康維持の概論について教授し、健康な生活習慣や、運動量の算出方法、さらに生活習慣病予防などへのつながりについて学習する。                      (鈴木美香 /5回) 健康維持のための運動プログラムの立案について学び、個別の運動実践内容を学習するとともに体験し方法について学習する。                      (池谷雅江 /4回) 二重課題やゲームなど、複合的な課題を用いたプログラムについて学習し、体験し方法について学習する。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容				担当教員	
第1回	健康の概論				分木ひとみ	
第2回	健康維持の取り組み				分木ひとみ	
第3回	健康と生活習慣				分木ひとみ	
第4回	日常生活活動量、運動量の算出				分木ひとみ	
第5回	日常生活活動量、運動量の算出の実際				分木ひとみ	
第6回	健康づくりのための身体活動基準				分木ひとみ	
第7回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第8回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第9回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第10回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第11回	健康維持のための運動プログラム				鈴木美香	
第12回	高齢者を対象とした健康維持プログラム				池谷雅江	
第13回	高齢者を対象とした健康維持プログラム				池谷雅江	
第14回	高齢者を対象とした健康維持プログラム				池谷雅江	
第15回	高齢者を対象とした健康維持プログラム				池谷雅江	
備考						
授業時間以外の学習について	復習を中心に学習してください。					
課題・評価方法	授業内課題 70%、小テスト 30%					
教科書	資料配布					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践実習	選	分木 ひとみ・ 鈴木 美香・池谷 雅江	1	30	3年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習Ⅰで学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、その評価結果を用いて個々の活力ある健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学び、地域住民に健康増進に関する取り組みを選元できるような知識を深める。そして、地域住民の方にプログラムを実践できるよう企画し、運営することで実践力を養うことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (分木 ひとみ/5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。 小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。 (鈴木 美香/4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。 (池谷 雅江/6回) 地域住民を対象に健康増進を目的としたプログラムを企画し、実践したことをまとめて報告する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP4 地域住民の健康で質の高い生活の維持・向上のために、理学療法士の特性を活かし地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を導くことができる。</p> <p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域住民を対象とした健康推進事業の概要					分木 ひとみ
第2回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木 ひとみ
第3回	健康維持活動プログラムの紹介					分木 ひとみ
第4回	健康維持活動プログラムの体験					分木 ひとみ
第5回	健康維持活動プログラムの計画					分木 ひとみ
第6回	健康維持活動介入プログラム企画 (成人期)					鈴木 美香
第7回	健康維持活動介入プログラム模擬体験 (成人期)					鈴木 美香
第8回	健康維持活動介入プログラム企画 (高齢期)					鈴木 美香
第9回	健康維持活動介入プログラム模擬体験 (高齢期)					鈴木 美香
第10回	地域住民を対象にした介入プログラム企画 (一般高齢者)					池谷 雅江
第11回	地域住民を対象にした介入プログラム体験 (一般高齢者)					池谷 雅江
第12回	地域住民を対象にした介入プログラム企画 (虚弱高齢者)					池谷 雅江
第13回	地域住民を対象にした介入プログラム体験 (虚弱高齢者)					池谷 雅江
第14回	地域住民を対象にした介入プログラム企画 (介護予防)					池谷 雅江
第15回	地域住民を対象にした介入プログラム体験 (介護予防)					池谷 雅江
備考						
授業時間以外の学習について	次の講義の準備のためグループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。					
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート50%					
教科書	資料配布					
参考書	なし					
オフィスアワー	池谷 後期：水 16：10～17：15 鈴木 後期：木 16：10～17：15 分木 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
健康増進実践演習Ⅱ	選	分木ひとみ・鈴木美香・池谷雅江	1	30	4年次 通年	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>体力測定論で学んだ体力測定方法、ならびに健康増進実践演習Ⅰで学んだ健康増進に関する知識を用い、若年者から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる健康増進手法を実践できるよう、ケースを通してその介入方法等について知識を深める。また、実技、グループワークを通して、実際に体力測定を行い、その評価結果を用いて個々の活力ある健康生活習慣が維持できるようなプログラムの展開方法を学び、地域住民に健康増進に関する取り組みを還元できるような知識を深める。</p> <p>そして、地域住民の方にプログラムを実践できるように企画し、運営することで実践力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (分木ひとみ/5回) 東近江市よりゲストスピーカーを招聘し、東近江市の現状を紹介いただき、今後必要とされる取り組みについて学習する。                      小児から高齢者まで、健康維持活動について紹介し体験することで実践内容について学習する。                      (鈴木美香/4回) 仮想ケースを提示し、必要な体力測定と介入プログラムを計画し、グループワークにより模擬体験を実施する。                      (池谷雅江/6回) 地域住民を対象に健康増進を目的としたプログラムを企画し、実践したことをまとめて報告する。</p>					
学位授与方針との関連	DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木ひとみ
第2回	地域住民を対象とした健康推進事業の実際					分木ひとみ
第3回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第4回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第5回	健康維持活動プログラムの紹介と体験					分木ひとみ
第6回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第7回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第8回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第9回	健康維持活動介入プログラム企画と模擬体験					鈴木美香
第10回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第11回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第12回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第13回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第14回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
第15回	地域住民を対象にした介入プログラム企画と体験					池谷雅江
備考						
授業時間以外の学習について	グループディスカッションを活発に、授業時間外でも行ってください。					
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート50%					
教科書	資料配布					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
ランニングトレーニング論	選	治郎丸 卓三	2	30	3年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>アスリートがランニングパフォーマンスレベルを向上させるためや、子供から高齢者までの幅広い世代の人たちがランニングを楽しむためには、怪我をしにくいランニングフォームで走る必要がある。この授業での目標は、怪我をしにくいランニングフォームをバイオメカニクスの観点から理解し、どのようなトレーニングをすれば、そのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することを目標とする。また、短距離走、長距離走いずれにおいても、どのようなランニングフォームで走れば、速く走れるようになるのかについて学び、どのようなトレーニングを行えばそのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することもこの授業の目標とする。さらに、この授業では、ランニングパフォーマンス向上のためのトレーニングメニューの組み立て方についても学ぶ。講義だけではなく、実技も行い、走りの違いを実感してもらいながら進める。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	ランニングについて					治郎丸 卓三
第2回	正常なランニングフォーム（短距離走）					治郎丸 卓三
第3回	正常なランニングフォーム（長距離走）					治郎丸 卓三
第4回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（体幹、股関節）					治郎丸 卓三
第5回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（大腿、膝）					治郎丸 卓三
第6回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（下腿、足部）					治郎丸 卓三
第7回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（体幹、股関節）					治郎丸 卓三
第8回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（大腿、膝）					治郎丸 卓三
第9回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（下腿、足部）					治郎丸 卓三
第10回	短距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニング					治郎丸 卓三
第11回	短距離走におけるパフォーマンス向上のためのフォーム指導					治郎丸 卓三
第12回	長距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニング					治郎丸 卓三
第13回	長距離走におけるパフォーマンス向上のためのフォーム指導					治郎丸 卓三
第14回	短距離走におけるトレーニングメニューの組み立て					治郎丸 卓三
第15回	長距離走におけるトレーニングメニューの組み立て					治郎丸 卓三
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、スポーツ障害系理学療法学演習、スポーツ障害応用論、スポーツ障害応用論実習などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見直し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	配布資料					
参考書	<p>スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社                  スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版                  積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂                  ダニエルズのランニング・フォーミュラ：ジャック・ダニエルズ（著）、前河洋一（監修）、篠原美徳（翻訳）第3版、ベースボール・マガジン社                  ランニングパフォーマンスを高めるスポーツ動作の創造（スポーツ認知動作学の挑戦）：小林寛道、杏林書院</p>					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
ランニングトレーニング論	選	治郎丸 卓三	2	15	4年次 通年	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>アスリートがランニングパフォーマンスレベルを向上させるためや、子供から高齢者までの幅広い世代の人たちがランニングを楽しむためには、怪我をしにくいランニングフォームで走る必要がある。この授業での目標は、怪我をしにくいランニングフォームをバイオメカニクスの観点から理解し、どのようなトレーニングをすれば、そのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することを目標とする。また、短距離走、長距離走いずれにおいても、どのようなランニングフォームで走れば、速く走れるようになるのかについて学び、どのようなトレーニングを行えばそのようなランニングフォームで走れるようになるかを理解することもこの授業の目標とする。さらに、この授業では、ランニングパフォーマンス向上のためのトレーニングメニューの組み立て方についても学ぶ。講義だけではなく、実技も行い、走りの違いを実感してもらいながら進める。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	ランニングについて					治郎丸卓三
第2回	正常なランニングフォーム（短距離走）					治郎丸卓三
第3回	正常なランニングフォーム（長距離走）					治郎丸卓三
第4回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（体幹、股関節）					治郎丸卓三
第5回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（大腿、膝）					治郎丸卓三
第6回	ランニング障害の原因となる異常なランニングフォーム（下腿、足部）					治郎丸卓三
第7回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（体幹、股関節）					治郎丸卓三
第8回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（大腿、膝）					治郎丸卓三
第9回	ランニング障害に対するトレーニングとフォーム指導（下腿、足部）					治郎丸卓三
第10回	短距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニングとフォーム指導					治郎丸卓三
第11回	短距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニングとフォーム指導					治郎丸卓三
第12回	長距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニングとフォーム指導					治郎丸卓三
第13回	長距離走におけるパフォーマンス向上のためのトレーニングとフォーム指導					治郎丸卓三
第14回	短距離走におけるトレーニングメニューの組み立て					治郎丸卓三
第15回	長距離走におけるトレーニングメニューの組み立て					治郎丸卓三
備考						
授業時間以外の学習について	<p>本授業においては、スポーツ障害系理学療法学演習、スポーツ障害応用論、スポーツ障害応用論実習などの分野の理解が必要となります。その分野を復習してから授業に臨んでください。また、授業後は、教科書、参考資料の見直し、要点をまとめることで復習になるように進めてください。</p>					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	配布資料					
参考書	<p>スポーツ理学療法学（競技動作と治療アプローチ）：赤坂清和（編集）、時田 幸之輔（編集）、メジカルビュー社          スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版：山下敏彦（編集）、武藤芳照（編集）、金原出版          積極的保存療法—スポーツ障害の評価と治療：村上成道、青木啓成、児玉 雄二、文光堂          ダニエルズのランニング・フォーミュラ：ジャック・ダニエルズ（著）、前河洋一（監修）、篠原美穂（翻訳）第3版、ベースボール・マガジン社          ランニングパフォーマンスを高めるスポーツ動作の創造（スポーツ認知動作学の挑戦）：小林寛道、杏林書院</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
ゴルフトレーニング論	選	宇於崎 孝・安田 孝志・ 奥村 竜也	2	30	3年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>ゴルフは数あるスポーツの中でも高齢になっても行うことができる数少ないスポーツだが、ゴルフスイングで怪我をすることも少なくない。ゴルフスイングをバイオメカニクス的に分析し、障害の予防ができるスイング指導ができるようになることが目標である。講義では、ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。そして、実際に自らゴルフスイングを行い、正しいスイングを身につけ、さらに、トレーニングも行う。 (オムニバス方式/全15回) (宇於崎 孝/5回)</p> <p>ゴルフスイングの歴史的变化から、なぜ障害が発生するのかを解説する。さらに、バイオメカニクスの、機能解剖学的に効率の良いゴルフスイングとはどのようなスイングなのかを動画や演習にて理解させる。 (安田 孝志/5回)</p> <p>ゴルフスイングをバイオメカニクス的に分析するための、ゴルフスイング理論を解説。また頸部、腰部、上肢、下肢に発生しやすい疾患を紹介し、ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。 (奥村 竜也/5回)</p> <p>ゴルフスイングを含むゴルフに関する基本を学習する。また、最新のスイング理論に基づき、ビデオ分析から修正方法を理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域住民の身体活動に関する自助、共助を支援するため、多職種と連携し、理学療法を創造的に応用することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	効率の良いスイングとは（基本コンセプトの説明）				宇於崎 孝	
第2回	各種スイング分析紹介 効率の良いスイング解説（アドレス テイクバック）				宇於崎 孝	
第3回	各種スイング分析紹介 効率の良いスイング解説（トップオブスイング ダウンスイング）				宇於崎 孝	
第4回	代表的なエラーと原因				宇於崎 孝	
第5回	頸部と上肢疾患				安田 孝志	
第6回	腰部と下肢疾患				安田 孝志	
第7回	身体機能評価				宇於崎 孝	
第8回	ゴルフの基本（道具について）				奥村 竜也	
第9回	ゴルフの基本（構え方、飛球について）				奥村 竜也	
第10回	ゴルフスイング動作分析（レッスン前）				奥村 竜也	
第11回	ゴルフスイング動作分析（レッスン後）				奥村 竜也	
第12回	ゴルフスイング動作分析（エクササイズ後）				奥村 竜也	
第13回	エクササイズ（アドレス）				安田 孝志	
第14回	エクササイズ（テイクバック）				安田 孝志	
第15回	エクササイズ（ダウンスイング）				安田 孝志	
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。また授業後は教科書の要点をまとめるなど復習をすること。					
課題・評価方法	小テスト(10%)、定期試験(90%)					
教科書	宇於崎孝：GPT-Japan教本					
参考書						
オフィスアワー	宇於崎 後期：月 16：10～17：15 安田 後期：水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
ゴルフトレーニング論	選	宇於崎孝 安田孝志 奥村竜也	2	30	4年次 通年	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>ゴルフは数あるスポーツの中でも高齢になっても行うことができる数少ないスポーツだが、ゴルフスイングで怪我をすることも少なくない。ゴルフスイングをバイオメカニクス的に分析し、障害の予防ができるスイング指導ができるようになることが目標である。講義では、ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。そして、実際に自らゴルフスイングを行い、正しいスイングを身につけ、さらに、トレーニングも行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (宇於崎孝/5回) ゴルフスイングの歴史的变化から、なぜ障害が発生するのかを解説する。さらに、バイオメカニクスの、機能解剖学的に効率の良いゴルフスイングとはどのようなスイングなのかを動画や演習にて理解させる。 (安田孝志/5回) ゴルフスイングをバイオメカニクス的に分析するための、ゴルフスイング理論を解説。また頸部、腰部、上肢、下肢に発生しやすい疾患を紹介し、ゴルフスイングの分析から障害の発生機序を推測しトレーニングの組み立て方法を解説する。 (奥村竜也/5回) ゴルフスイングを含むゴルフに関する基本を学習する。また、最新のスイング理論に基づき、ビデオ分析から修正方法を理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP5 理学療法に関連する他の分野の学びを深め、新たな展開に向けて創造力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	効率の良いスイングとは（基本コンセプトの説明）					宇於崎孝
第2回	各種スイング分析紹介 効率の良いスイング解説					宇於崎孝
第3回	各種スイング分析紹介 効率の良いスイング解説					宇於崎孝
第4回	代表的なエラーと原因					宇於崎孝
第5回	頸部と上肢疾患					安田孝志
第6回	腰部と下肢疾患					安田孝志
第7回	身体機能評価					宇於崎孝
第8回	ゴルフの基本1					奥村竜也
第9回	ゴルフの基本2					奥村竜也
第10回	ゴルフスイング動作分析					奥村竜也
第11回	ゴルフスイング動作分析					奥村竜也
第12回	ゴルフスイング動作分析					奥村竜也
第13回	エクササイズ1					安田孝志
第14回	エクササイズ2					安田孝志
第15回	エクササイズ3					安田孝志
備考						
授業時間以外の学習について	講義内容に関して復習し、興味があるテーマに関する情報を検索し通読すること。					
課題・評価方法	授業態度(10%)、定期試験(90%)					
教科書	宇於崎孝：GPT-Japan教本					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
学びの基盤	必	安部 征哉	1	15	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>専門職大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得することを目的とする。各学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことの大切さ、その方法を学ぶ中で、4年間の学習過程に見通しを見つけ、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」を踏まえ、どのように予習復習していくのかを学習する。到達目標としては、①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学ぶ道筋を立てることができる。②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。③情報や文献を読解して内容を要約することができる。④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にする豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	大学での学びとは					安部 征哉
第2回	大学で学ぶために必要なスキルとは					安部 征哉
第3回	情報リテラシー					安部 征哉
第4回	ポスタープレゼンテーション					安部 征哉
第5回	学習スタイル ー学習スキル・学習感・学習動機ー					安部 征哉
第6回	記憶のスキル・箇条書きトレーニング					安部 征哉
第7回	課題発表・まとめ(発表者を2つに分けた前半の学生の発表)					安部 征哉
第8回	課題発表・まとめ(後半の学生の発表)					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲について事前に調べ・考えをまとめておくこと  復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと</p>					
課題・評価方法	発表(50%)、提出物(50%)					
教科書	特に指定しない。(必要な資料、教材は授業の進行にあわせて配布する)					
参考書	特に指定しない。					
オフィスアワー	<p>前期：火 16:10～17:15  金 16:10～17:15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
学びの基盤	必	安部 征哉	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>専門職大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得することを目的とする。各学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことの大切さ、その方法を学ぶ中で、4年間の学習過程に見通しをつけ、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」を踏まえ、どのように予習復習していくのかを学習する。到達目標としては、①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学ぶ道筋を立てることができる。②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。③情報や文献を読解して内容を要約することができる。④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	大学での学びとは					安部 征哉
第2回	大学で学ぶために必要なスキルとは					安部 征哉
第3回	情報リテラシー					安部 征哉
第4回	ポスタープレゼンテーション					安部 征哉
第5回	学習スタイル ー学習スキル・学習感・学習動機ー					安部 征哉
第6回	記憶のスキル・箇条書きトレーニング					安部 征哉
第7回	課題発表・まとめ1					安部 征哉
第8回	課題発表・まとめ2					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲について事前に調べ・考えをまとめておくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	発表（50%）、提出物（50%）					
教科書	特に指定しない。（必要な資料、教材は授業の進行にあわせて配布する）					
参考書	特に指定しない。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日本の伝統文化	選	木村 裕樹	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p><b>【授業概要】</b> 日本の職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをともなう存在です。「職人」という言葉には熟練や生き方といった意味も込められています。本授業では日本の職人の歴史を通して、現代日本の職人文化について学びます。その際、具体的な職人の事例として、とくに近江（滋賀県）とゆかりの深い、木地屋（木地師）と鋳物師を取りあげます。なお、授業では、職人を題材とした絵画資料や映像作品の視聴をとおして、できるだけビジュアルに進めます。</p> <p><b>【到達目標】</b> (1) 日本の職人の特質について理解する。 (2) 日本の職人のイメージと実態について理解する。 (3) 日本の職人をめぐる同時代的な社会背景について理解する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にする豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「職人」とは何か：ガイダンス、現代の暮らしと「職人」					木村 裕樹
第2回	「職人」の歴史：「職人」概念、職人集団、居職と出職、名産、手仕事と量産					木村 裕樹
第3回	現代の職人をめぐる制度：伝統的工芸品産業の振興、文化財保護行政					木村 裕樹
第4回	近江の木地屋（1）：職祖伝承と発祥地、轆轤					木村 裕樹
第5回	近江の木地屋（2）：漆器産地と木地屋					木村 裕樹
第6回	近江の鋳物師					木村 裕樹
第7回	職人という生き方と教育（1）：料理と職人					木村 裕樹
第8回	職人という生き方と教育（2）：スポーツと職人					木村 裕樹
備考						
授業時間以外の学習について	日本の職人はマスメディアで取りあげられる機会の多い存在です。本や雑誌、新聞、インターネット記事、映画などをこまめにチェックし、情報収集につとめてください。博物館や美術館の展示、あるいは百貨店の見学も役立ちます。					
課題・評価方法	授業時に指示する課題（30%）やレポート（70%）への積極的な取りくみを、評価の基準とします。					
教科書	使用しない。					
参考書	遠藤元男『ヴィジュアル史料日本職人史』（1～4）雄山閣。大高洋司・大久保純一・小島道裕編『鋳形蕙斎画 近世職人尺絵詞—江戸の職人と風俗を読み解く』勉誠出版。白洲正子『かくれ里』新潮社。その他、講義時に適宜、紹介する。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日本の伝統文化	選	稲葉隆道・砂川勇・分木ひとみ	1	15	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>医療従事者は、生命にかかわる重大な場面に直面することがある。どのような状況においても、常に冷静で個人の感情には左右されない強い精神力が求められている。この冷静な精神力の育成に、生命の大切さを根底にした冷静な精神統一をはかるために、僧侶の講話・茶道の経験・尺八の吹奏により精神統一をする手段を習得する。</p> <p>オムニバス方式 8回 (稲葉隆道/2回) 一つの相にこだわらない無相。一処にとどまらない無住。一つの思いにかたよらない無念の心境を禅定と呼び、仏の心のことであり、医療人として最も必要な仏の心を生命の大切さを通して学ぶ。 (砂川勇/4回) 医療人として大切なことは、いかなる場面においても現状を直視し、冷静に判断することで、この冷静さを体得するために、尺八の音色を感じ心を静め、精神統一を図ることを学ぶ。 (分木ひとみ/2回) 茶道を通し季節を感じながら気持ちを切り替え、精神的なストレス解消法の一つとなるよう学ぶ。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP1 生命を尊び、人との関わりを大切にす豊かな人間性と幅広い教養を有し、医療専門職としての自覚と責任をもって行動することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	命の大切さを再度考えてみよう				稲葉隆道	
第2回	「生苦」より学ぶ人生と職業倫理				稲葉隆道	
第3回	茶道の成り立ち				分木ひとみ	
第4回	喫茶の所作と経験				分木ひとみ	
第5回	理学療法士となって半世紀				砂川勇	
第6回	尺八の製作（塩ビ管による尺八の製作）				砂川勇	
第7回	精神統一と音色				砂川勇	
第8回	求められるセラピストを目指して				砂川勇	
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	授業内課題 50%、レポート課題 50%					
教科書	配布資料					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学 I	必	野田 亨	2	60	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学 I では、人体を構成する細胞、組織、器官が階層性を持っていることを理解した上で、骨学、関節学、筋学についての基礎的な知識を習得する。そしてそれらの知識を統合し、身体の運動を説明できることが目標となる。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨学各論、関節学総論から各関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位・起始・停止・支配神経・作用について学習する。さらに応用として、日常生活の基本的動作を解剖用語で説明できることが望ましい。また人体解剖実習を通して実習の倫理的側面を理解する。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第 1 回	解剖学概論 (様々な人体解剖学)、細胞学総論 (人体を構成する最小単位の構造と機能)					野田 亨
第 2 回	細胞学総論 (人体を構成する最小単位の構造と機能、小テスト)					野田 亨
第 3 回	組織学総論 (受精卵から分化した細胞の社会としての組織、器官、そして個体)					野田 亨
第 4 回	組織学総論 (受精卵から分化した細胞の社会としての組織、器官、そして個体、小テスト)					野田 亨
第 5 回	骨学総論 (ヒトが二本足で立ち、動くためには健康な骨が必要)					野田 亨
第 6 回	骨学総論 (ヒトが二本足で立ち、動くためには健康な骨が必要、小テスト)					野田 亨
第 7 回	骨学各論 (頭蓋骨、脊柱)					野田 亨
第 8 回	骨学各論 (頭蓋骨、脊柱、小テスト)					野田 亨
第 9 回	骨学各論 (胸郭、上肢)					野田 亨
第 1 0 回	骨学各論 (胸郭、上肢、小テスト)					野田 亨
第 1 1 回	骨学各論 (下肢)					野田 亨
第 1 2 回	骨学各論 (下肢、小テスト)					野田 亨
第 1 3 回	関節学総論 (複数の骨のつながりから様々な運動が生じる)					野田 亨
第 1 4 回	関節学総論 (複数の骨のつながりから様々な運動が生じる、小テスト)					野田 亨
第 1 5 回	関節学各論 (頭蓋、脊柱、胸郭の関節)					野田 亨
第 1 6 回	関節学各論 (頭蓋、脊柱、胸郭の関節、小テスト)					野田 亨
第 1 7 回	関節学各論 (上肢の関節)					野田 亨
第 1 8 回	関節学各論 (上肢の関節、小テスト)					野田 亨
第 1 9 回	関節学各論 (下肢の関節)					野田 亨
第 2 0 回	関節学各論 (下肢の関節、小テスト)					野田 亨
第 2 1 回	筋学総論 (筋の種類と筋収縮のメカニズム)					野田 亨
第 2 2 回	筋学総論 (筋の種類と筋収縮のメカニズム、小テスト)					野田 亨
第 2 3 回	筋学各論 (頭頸部の筋)					野田 亨
第 2 4 回	筋学各論 (頭頸部の筋、小テスト)					野田 亨
第 2 5 回	筋学各論 (脊柱、胸郭の筋)					野田 亨
第 2 6 回	筋学各論 (脊柱、胸郭の筋、小テスト)					野田 亨
第 2 7 回	筋学各論 (上肢の筋)					野田 亨
第 2 8 回	筋学各論 (上肢の筋、小テスト)					野田 亨
第 2 9 回	筋学各論 (下肢の筋)					野田 亨
第 3 0 回	筋学各論 (下肢の筋、小テスト)					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。 小テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学 I	必	野田 亨	2	60	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学 I では、人体を構成する細胞、組織、器官が階層性を持っていることを理解した上で、骨学、関節学、筋学についての基礎的な知識を習得する。そしてそれらの知識を統合し、身体の運動を説明できることが目標となる。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の骨学各論、関節学総論から各関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位・起始・停止・支配神経・作用について学習する。さらに応用として、日常生活の基本的動作を解剖用語で説明できることが望ましい。また人体解剖実習を通して実習の倫理的側面を理解する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第 1 回	解剖学概論 (様々な人体解剖学)、細胞学総論 (人体を構成する最小単位の構造と機能)					野田 亨
第 2 回	細胞学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 3 回	組織学総論 (受精卵から分化した細胞の社会としての組織、器官、そして個体)					野田 亨
第 4 回	組織学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 5 回	骨学総論 (ヒトが二本足で立ち、動くためには健康な骨が必要)					野田 亨
第 6 回	骨学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 7 回	骨学各論 I (頭蓋骨、脊柱)					野田 亨
第 8 回	骨学各論 I (演習・小テスト)					野田 亨
第 9 回	骨学各論 II (胸郭、上肢)					野田 亨
第 10 回	骨学各論 II (演習・小テスト)					野田 亨
第 11 回	骨学各論 III (下肢)					野田 亨
第 12 回	骨学各論 III (演習・小テスト)					野田 亨
第 13 回	関節学総論 (複数の骨のつながりから様々な運動が生じる)					野田 亨
第 14 回	関節学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 15 回	関節学各論 I (頭蓋、脊柱、胸郭の関節)					野田 亨
第 16 回	関節学各論 I (演習・小テスト)					野田 亨
第 17 回	関節学各論 II (上肢の関節)					野田 亨
第 18 回	関節学各論 II (演習・小テスト)					野田 亨
第 19 回	関節学各論 III (下肢の関節)					野田 亨
第 20 回	関節学各論 III (演習・小テスト)					野田 亨
第 21 回	筋学総論 (筋の種類と筋収縮のメカニズム)					野田 亨
第 22 回	筋学総論 (演習・小テスト)					野田 亨
第 23 回	筋学各論 I (頭頸部の筋)					野田 亨
第 24 回	筋学各論 I (演習・小テスト)					野田 亨
第 25 回	筋学各論 II (脊柱、胸郭の筋)					野田 亨
第 26 回	筋学各論 II (演習・小テスト)					野田 亨
第 27 回	筋学各論 III (上肢の筋)					野田 亨
第 28 回	筋学各論 III (演習・小テスト)					野田 亨
第 29 回	筋学各論 IV (下肢の筋)					野田 亨
第 30 回	筋学各論 IV (演習・小テスト)					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について	京都大学での解剖学実習見学を 1 回希望する。					
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。確認テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	前期：月、火、水曜日、16:10~17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅱ	必	井出 千東	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。					
学位授与方針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を实践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	神経学総論（ニューロン、グリア、シナプス）					井出 千東
第2回	神経学総論（ニューロン、グリア、シナプス、小テスト）					井出 千東
第3回	神経学各論（髄膜、脳室、脳脊髄液の循環）					井出 千東
第4回	神経学各論（髄膜、脳室、脳脊髄液の循環、小テスト）					井出 千東
第5回	神経学各論（末梢神経系 頸神経 頸神経叢）					井出 千東
第6回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第7回	神経学各論（末梢神経系 腕神経叢 胸神経）					井出 千東
第8回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第9回	神経学各論（末梢神経系 腰神経 要神経叢）					井出 千東
第10回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第11回	神経学各論（末梢神経系 仙骨神経 仙骨神経層 尾骨神経層）					井出 千東
第12回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第13回	神経学各論（末梢神経系 副交感神経）					井出 千東
第14回	神経学各論（末梢神経系、小テスト）					井出 千東
第15回	神経学各論（脳神経 脳神経1～6）					井出 千東
第16回	神経学各論（脳神経、小テスト）					井出 千東
第17回	神経学各論（脳神経 脳神経7～12）					井出 千東
第18回	神経学各論（脳神経、小テスト）					井出 千東
第19回	神経学各論（自律神経）					井出 千東
第20回	神経学各論（脳神経、小テスト）					井出 千東
第21回	神経学各論（中枢神経系 脊髄）					井出 千東
第22回	神経学各論（中枢神経系、小テスト）					井出 千東
第23回	神経学各論（中枢神経系 脳幹）					井出 千東
第24回	神経学各論（中枢神経系、小テスト）					井出 千東
第25回	神経学各論（中枢神経系 小脳）					井出 千東
第26回	神経学各論（中枢神経系、小テスト）					井出 千東
第27回	神経学各論（中枢神経系 大脳）					井出 千東
第28回	神経学各論（中枢神経系、小テスト）					井出 千東
第29回	神経学各論（伝導路）					井出 千東
第30回	神経学各論（伝導路、小テスト）					井出 千東
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。 小テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅱ	必	野田 亨	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	解剖学Ⅱの授業目標は中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。神経系が中枢神経と末梢神経で構成されていることを理解し、運動を、中枢神経からの指令が末梢神経に伝わり、筋の収縮、関節の動きまでの一連の流れとして説明できる。また知覚を、感覚受容器で捉えられた刺激が、末梢神経を通して中枢神経へ伝えられ、認識されるまでの一連の流れとして説明できる。さらに脳や脊髄の障害が運動や感覚の異常とどのようにつながるかを説明できるようになること。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	神経学総論（ニューロン、グリア、シナプス）					野田 亨
第2回	神経学総論（演習・確認小テスト）					野田 亨
第3回	神経学各論Ⅰ（髄膜、脳室、脳脊髄液の循環）					野田 亨
第4回	神経学各論Ⅰ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第5回	神経学各論Ⅱ（末梢神経系Ⅰ）					野田 亨
第6回	神経学各論Ⅱ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第7回	神経学各論Ⅲ（末梢神経系Ⅱ）					野田 亨
第8回	神経学各論Ⅲ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第9回	神経学各論Ⅳ（末梢神経系Ⅲ）					野田 亨
第10回	神経学各論Ⅳ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第11回	神経学各論Ⅴ（末梢神経系Ⅳ）					野田 亨
第12回	神経学各論Ⅴ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第13回	神経学各論Ⅵ（末梢神経系Ⅴ）					野田 亨
第14回	神経学各論Ⅵ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第15回	神経学各論Ⅶ（脳神経Ⅰ）					野田 亨
第16回	神経学各論Ⅶ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第17回	神経学各論Ⅷ（脳神経Ⅱ）					野田 亨
第18回	神経学各論Ⅷ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第19回	神経学各論Ⅸ（自律神経）					野田 亨
第20回	神経学各論Ⅸ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第21回	神経学各論Ⅹ（中枢神経系Ⅰ）					野田 亨
第22回	神経学各論Ⅹ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第23回	神経学各論Ⅺ（中枢神経系Ⅱ）					野田 亨
第24回	神経学各論Ⅺ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第25回	神経学各論Ⅻ（中枢神経系Ⅲ）					野田 亨
第26回	神経学各論Ⅻ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第27回	神経学各論ⅫⅢ（中枢神経系Ⅳ）					野田 亨
第28回	神経学各論ⅫⅢ（演習・確認小テスト）					野田 亨
第29回	神経学各論ⅫⅣ（伝導路）					野田 亨
第30回	神経学各論ⅫⅣ（演習・確認小テスト）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	講義、演習それぞれ10回以上の出席、演習課題提出が期末試験の受験資格となる。確認テスト30点、期末試験70点を合計し、60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月、水、木曜日、16:10～17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅲ	必	野田 亨	1	30	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脈管学総論					野田 亨
第2回	脈管学各論（心臓）					野田 亨
第3回	脈管学各論（上肢、下肢）					野田 亨
第4回	脈管学各論（内臓、脳循環、胎児循環）					野田 亨
第5回	血液学					野田 亨
第6回	内臓学（呼吸器系）					野田 亨
第7回	内臓学（消化器系 口腔 咽頭 食道 胃）					野田 亨
第8回	内臓学（消化器系 小腸 大腸 肝臓 胆嚢 膵臓 腹膜）					野田 亨
第9回	内臓学（泌尿器系）					野田 亨
第10回	内臓学（生殖器系）					野田 亨
第11回	内臓学（内分泌系）					野田 亨
第12回	内臓学（血液免疫系）					野田 亨
第13回	感覚器（皮膚）					野田 亨
第14回	感覚器（視覚器）					野田 亨
第15回	感覚器（聴覚器、前庭器）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	講義10回以上の出席が期末試験の受験資格となる。 期末試験60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
解剖学Ⅲ	必	野田 亨	1	30	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	解剖学Ⅲでは、各内臓、および感覚器についての基本的な知識を習得することが目標となる。内容は消化器（胃、膵臓、肝臓、腎臓、脾臓、膀胱、小腸、大腸など）、呼吸器（気道、気管支、肺、胸郭、横隔膜など）、循環器（動脈、静脈、心臓、脳循環、門脈系など内臓、胎児循環）、免疫系（リンパ系）、内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、副腎など）、感覚器（皮膚、視覚器、聴覚器など）、生殖器の各構造と基本的機能を説明できることが目標となる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脈管学総論					野田 亨
第2回	脈管学各論（心臓）					野田 亨
第3回	脈管学各論（上肢、下肢）					野田 亨
第4回	脈管学各論（内臓、脳循環、胎児循環）					野田 亨
第5回	血液学					野田 亨
第6回	内臓学（呼吸器系）					野田 亨
第7回	内臓学（消化器系Ⅰ）					野田 亨
第8回	内臓学（消化器系Ⅱ）					野田 亨
第9回	内臓学（泌尿器系）					野田 亨
第10回	内臓学（生殖器系）					野田 亨
第11回	内臓学（内分泌系）					野田 亨
第12回	内臓学（血液免疫系）					野田 亨
第13回	感覚器（皮膚）					野田 亨
第14回	感覚器（視覚器）					野田 亨
第15回	感覚器（聴覚器、前庭器）					野田 亨
備考						
授業時間以外の学習について						
課題・評価方法	講義10回以上の出席が期末試験の受験資格となる。 期末試験60点以上で合格とする。					
教科書	野村編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・解剖学」第4版 医学書院 坂井ら訳「プロメテウス解剖学コア アトラス」第2版医学書院 ネッター解剖学カラーリングテキスト南江堂					
参考書						
オフィスアワー	後期：月、水、木曜日、午後16:10～17:00					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生理学 I	必	三谷 章	2	60	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、血液、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎などの生理機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	血液(組成)					三谷 章
第2回	血液(各成分の機能)					三谷 章
第3回	血液(止血機構)					三谷 章
第4回	血液(血液型)					三谷 章
第5回	循環(心臓の構造と電気活動)					三谷 章
第6回	循環(心臓のポンプとしての働き)					三谷 章
第7回	循環(血管の構造)					三谷 章
第8回	循環(血圧、血流、リンパ)					三谷 章
第9回	循環(内因性および外因性調節機構)					三谷 章
第10回	循環(循環調節機構・反射)					三谷 章
第11回	呼吸(肺の構造、気道、肺胞)					三谷 章
第12回	呼吸(肺気量分画、呼吸運動)					三谷 章
第13回	呼吸(肺機能検査)					三谷 章
第14回	呼吸(調節)					三谷 章
第15回	第1回から第14回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
第16回	内分泌(定義、制御機構)					三谷 章
第17回	内分泌(視床下部、下垂体、副腎)					三谷 章
第18回	内分泌(甲状腺、膵臓、上皮小体)					三谷 章
第19回	生殖(性分化、男性生殖)					三谷 章
第20回	生殖(女性生殖)					三谷 章
第21回	生殖(女性生殖)					三谷 章
第22回	消化・吸収(構造、口腔)					三谷 章
第23回	消化・吸収(咽頭、食道)					三谷 章
第24回	消化・吸収(胃、膵臓、小腸)					三谷 章
第25回	消化・吸収(胆嚢、大腸、肝臓、排便)					三谷 章
第26回	腎機能(構造、濾過)					三谷 章
第27回	腎機能(再吸収、分泌、クリアランス)					三谷 章
第28回	腎機能(尿濃縮、排尿)					三谷 章
第29回	腎機能(酸塩基平衡)					三谷 章
第30回	第15回から第29回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
備考						
授業時間以外の学習について	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。					
課題・評価方法	毎回の授業開始時に実施する前回の講義内容習得の確認を行う小テスト、第14回授業終了後に実施する中間試験、第30回授業終了後に行う期末試験などの成績により総合的に学習到達度を評価する。					
教科書	奈良 勲/鎌倉矩子 監修 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」(医学書院) ISBN978-4-260-01652-0					
参考書	小澤濤司/福田康一郎 監修『標準生理学』(医学書院) ISBN:978-4-260-01781-7					
オフィスアワー	前期:月 16:10~17:15 水 16:10~17:15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生理学Ⅰ	必	三谷 章	2	60	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、血液、循環、呼吸、内分泌、生殖、消化・吸収、腎などの生理機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	血液Ⅰ（組成）					三谷 章
第2回	血液Ⅱ（各成分の機能）					三谷 章
第3回	血液Ⅲ（止血機構）					三谷 章
第4回	血液Ⅳ（血液型）					三谷 章
第5回	循環Ⅰ（心臓の構造と電気活動）					三谷 章
第6回	循環Ⅱ（心臓のポンプとしての働き）					三谷 章
第7回	循環Ⅲ（血管の構造）					三谷 章
第8回	循環Ⅳ（血圧、血流、リンパ）					三谷 章
第9回	循環Ⅴ（内因性および外因性調節機構）					三谷 章
第10回	循環Ⅵ（循環調節機構・反射）					三谷 章
第11回	呼吸Ⅰ（肺の構造、気道、肺胞）					三谷 章
第12回	呼吸Ⅱ（肺気量分画、呼吸運動）					三谷 章
第13回	呼吸Ⅲ（肺機能検査）					三谷 章
第14回	呼吸Ⅳ（調節）					三谷 章
第15回	第1回から第14回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
第16回	内分泌Ⅰ（定義、制御機構）					三谷 章
第17回	内分泌Ⅱ（視床下部、下垂体、副腎）					三谷 章
第18回	内分泌Ⅲ（甲状腺、膵臓、上皮小体）					三谷 章
第19回	生殖Ⅰ（性分化、男性生殖）					三谷 章
第20回	生殖Ⅱ（女性生殖）					三谷 章
第21回	生殖Ⅲ（女性生殖）					三谷 章
第22回	消化・吸収Ⅰ（構造、口腔）					三谷 章
第23回	消化・吸収Ⅱ（咽頭、食道）					三谷 章
第24回	消化・吸収Ⅲ（胃、膵臓、小腸）					三谷 章
第25回	消化・吸収Ⅳ（胆嚢、大腸、肝臓、排便）					三谷 章
第26回	腎機能Ⅰ（構造、濾過）					三谷 章
第27回	腎機能Ⅱ（再吸収、分泌、クリアランス）					三谷 章
第28回	腎機能Ⅲ（尿濃縮、排尿）					三谷 章
第29回	腎機能Ⅳ（酸塩基平衡）					三谷 章
第30回	第15回から第29回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
備考						
授業時間以外の学習について	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。					
課題・評価方法	毎回の授業開始時に実施する前回の講義内容習得の確認を行う小テスト、第14回授業終了後に実施する中間試験、第30回授業終了後に行う期末試験などの成績により総合的に学習到達度を評価する。					
教科書	奈良 勲/鎌倉矩子 監修 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」（医学書院）ISBN978-4-260-01652-0					
参考書	小澤滯司/福田康一郎 監修『標準生理学』（医学書院）ISBN:978-4-260-01781-7					
オフィスアワー	講義中に情報提供する。					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生理学Ⅱ	必	三谷 章	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、ニューロン機能、感覚機能（平衡感覚、聴覚、体性感覚、視覚、味覚、嗅覚）、運動機能（筋収縮、脊髄、大脳皮質運動野、伝導路、脳幹、大脳基底核、小脳）、自律神経機能、高次脳機能などの生理学的仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	ニューロンの機能（静止電位の形成）					三谷 章
第2回	ニューロンの機能（活動電位の発生）					三谷 章
第3回	ニューロンの機能（活動電位の伝導）					三谷 章
第4回	ニューロンの機能（シナプス伝達）					三谷 章
第5回	平衡感覚（受容機構）					三谷 章
第6回	平衡感覚（伝導路と機能）					三谷 章
第7回	聴覚（受容機構）					三谷 章
第8回	聴覚（中枢情報処理機構）					三谷 章
第9回	体性感覚（受容機構）					三谷 章
第10回	体性感覚（中枢伝導路）					三谷 章
第11回	視覚（構造）					三谷 章
第12回	視覚（網膜）					三谷 章
第13回	視覚（伝導路、大脳皮質視覚野）					三谷 章
第14回	味覚・嗅覚					三谷 章
第15回	第1回から第14回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
第16回	筋収縮（骨格筋の構造と興奮収縮連関）					三谷 章
第17回	筋収縮（単収縮、強縮）					三谷 章
第18回	脊髄（運動ニューロン）					三谷 章
第19回	脊髄（反射）					三谷 章
第20回	大脳皮質運動野（構成、伝導路）					三谷 章
第21回	脳幹の運動機能					三谷 章
第22回	大脳基底核の構造と機能					三谷 章
第23回	小脳の構造と機能					三谷 章
第24回	自律神経機能（構成、交感神経系、副交感神経系）					三谷 章
第25回	自律神経機能（調節機能）					三谷 章
第26回	高次脳機能（大脳皮質の構造）					三谷 章
第27回	高次脳機能（睡眠、覚醒、脳波）					三谷 章
第28回	高次脳機能（大脳皮質連合野）					三谷 章
第29回	高次脳機能（中枢機能回復）					三谷 章
第30回	第15回から第29回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
備考						
授業時間以外の学習について	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。					
課題・評価方法	毎回の授業開始時に実施する前回の講義内容習得の確認を行う小テスト、第14回授業終了後に実施する中間試験、第30回授業終了後に行う期末試験などの成績により総合的に学習到達度を評価する。					
教科書	奈良 勲/鎌倉矩子 監修 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」（医学書院） ISBN978-4-260-01652-0					
参考書	小澤壽司/福田康一郎 監修『標準生理学』（医学書院） ISBN:978-4-260-01781-7					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
生理学Ⅱ	必	三谷 章	2	60	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断をするための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。本講義では、ニューロン機能、感覚機能（平衡感覚、聴覚、体性感覚、視覚、味覚、嗅覚）、運動機能（筋収縮、脊髄、大脳皮質運動野、伝導路、脳幹、大脳基底核、小脳）、自律神経機能、高次脳機能などの生理学的仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業で提示される課題について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目標とする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	ニューロンの機能Ⅰ（静止電位の形成）					三谷 章
第2回	ニューロンの機能Ⅱ（活動電位の発生）					三谷 章
第3回	ニューロンの機能Ⅲ（活動電位の伝導）					三谷 章
第4回	ニューロンの機能Ⅳ（シナプス伝達）					三谷 章
第5回	平衡感覚Ⅰ（受容機構）					三谷 章
第6回	平衡感覚Ⅱ（伝導路と機能）					三谷 章
第7回	聴覚Ⅰ（受容機構）					三谷 章
第8回	聴覚Ⅱ（中枢情報処理機構）					三谷 章
第9回	体性感覚Ⅰ（受容機構）					三谷 章
第10回	体性感覚Ⅱ（中枢伝導路）					三谷 章
第11回	視覚Ⅰ（構造）					三谷 章
第12回	視覚Ⅱ（網膜）					三谷 章
第13回	視覚Ⅲ（伝導路、大脳皮質視覚野）					三谷 章
第14回	味覚・嗅覚					三谷 章
第15回	第1回から第14回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
第16回	筋収縮Ⅰ（骨格筋の構造と興奮収縮連関）					三谷 章
第17回	筋収縮Ⅱ（単収縮、強縮）					三谷 章
第18回	脊髄Ⅰ（運動ニューロン）					三谷 章
第19回	脊髄Ⅱ（反射）					三谷 章
第20回	大脳皮質運動野（構成、伝導路）					三谷 章
第21回	脳幹の運動機能					三谷 章
第22回	大脳基底核の構造と機能					三谷 章
第23回	小脳の構造と機能					三谷 章
第24回	自律神経機能Ⅰ（構成、交感神経系、副交感神経系）					三谷 章
第25回	自律神経機能Ⅱ（調節機能）					三谷 章
第26回	高次脳機能Ⅰ（大脳皮質の構造）					三谷 章
第27回	高次脳機能Ⅱ（睡眠、覚醒、脳波）					三谷 章
第28回	高次脳機能Ⅲ（大脳皮質連合野）					三谷 章
第29回	高次脳機能Ⅳ（中枢機能回復）					三谷 章
第30回	第15回から第29回までの授業内容についてのフィードバック					三谷 章
備考						
授業時間以外の学習について	講義で配布されるプリントに示されているチェックリストの各項目について復習し、理解できているかどうか確認する。本講義では、予習・復習が必要である。					
課題・評価方法	毎回の授業開始時に実施する前回の講義内容習得の確認を行う小テスト、第14回授業終了後に実施する中間試験、第30回授業終了後に行う期末試験などの成績により総合的に学習到達度を評価する。					
教科書	奈良 勲/鎌倉矩子 監修 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学」（医学書院）ISBN978-4-260-01652-0					
参考書	小澤瀨司/福田康一郎 監修『標準生理学』（医学書院）ISBN:978-4-260-01781-7					
オフィスアワー	講義中に情報提供する。					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学 I	必	安部 征哉	1	30	1年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が生活行為遂行の困難さをその運動のしくみから把握することは重要なことである。本科目は、正常人の動きについて各関節や体の動きから理解することを目的として、主に上肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学習する。第1～7回で身体各部の名称や面と軸、運動方向、重心、関節の形状分類や筋収縮について学び、第8回以降は、上肢を構成する肩複合体や肘、前腕、手関節、手指について構造と運動について学習し上肢の運動の理解を深めることを目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動力学の基礎・身体運動の面と軸					安部 征哉
第2回	運動の表し方・運動の法則・重心と重心線					安部 征哉
第3回	骨の構造と機能					安部 征哉
第4回	関節構造と機能					安部 征哉
第5回	関節の形状分類と運動軸					安部 征哉
第6回	骨格筋の構造と機能					安部 征哉
第7回	筋の収縮・運動単位					安部 征哉
第8回	上肢の解剖学・運動学（骨格）					安部 征哉
第9回	上肢の解剖学・運動学（神経）					安部 征哉
第10回	上肢帯の運動学					安部 征哉
第11回	肩関節の運動学					安部 征哉
第12回	肘関節の運動学					安部 征哉
第13回	手の運動学（関節と内部構造）					安部 征哉
第14回	手の運動学（運動と筋）					安部 征哉
第15回	手の運動学（手の肢位と変形）					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと</p>					
課題・評価方法	定期テスト 60%、小テスト40%					
教科書	エッセンシャル・キネシオロジー原書第2版、南江堂					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー	<p>前期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学 I	必	安部 征哉	1	30	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>作業療法士が生活行為遂行の困難さをその運動のしくみから把握することは重要なことである。本科目は、正常な人の動きについて各関節や体の動きから理解することを目的として、主に上肢の主動作筋と関節運動の関係を整理しながら運動の特徴を学習する。第1～7回で身体各部の名称や面と軸、運動方向、重心、関節の形状分類や筋収縮について学び、第8回以降は、上肢を構成する肩複合体や肘、前腕、手関節、手指について構造と運動について学習し上肢の運動の理解を深めることを目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	運動力学の基礎・身体運動の面と軸					安部 征哉
第2回	運動の表し方・運動の法則・重心と重心線					安部 征哉
第3回	骨の構造と機能					安部 征哉
第4回	関節構造と機能					安部 征哉
第5回	関節の形状分類と運動軸					安部 征哉
第6回	骨格筋の構造と機能					安部 征哉
第7回	筋の収縮・運動単位					安部 征哉
第8回	上肢の解剖学・運動学（1）骨格					安部 征哉
第9回	上肢の解剖学・運動学（2）神経					安部 征哉
第10回	上肢帯の運動学					安部 征哉
第11回	肩関節の運動学					安部 征哉
第12回	肘関節の運動学					安部 征哉
第13回	手の運動学（1）関節と内部構造					安部 征哉
第14回	手の運動学（2）運動と筋					安部 征哉
第15回	手の運動学（3）手の肢位と変形					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	定期テスト 60%、小テスト40%					
教科書	エッセンシャル・キネシオロジー原書第2版、南江堂					
参考書	随時紹介					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学実習	必	有田 智氏	1	30	2年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動の観察を行い、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲骨・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション バイオメカニクスとは					有田 智氏
第2回	バイオメカニクスの基礎知識（滑車、ベクトル、時間、速度、加速度）					有田 智氏
第3回	バイオメカニクスの基礎知識（重心、仕事、運動連鎖）					有田 智氏
第4回	姿勢、動作分析（運動分析と動作分析、姿勢制御）					有田 智氏
第5回	姿勢観察 臥位 座位 立位					有田 智氏
第6回	運動観察 寝返り					有田 智氏
第7回	運動分析 寝返り					有田 智氏
第8回	立ち上がり動作におけるモーメント					有田 智氏
第9回	運動観察 立ち上がり					有田 智氏
第10回	運動分析 立ち上がり					有田 智氏
第11回	正常歩行（歩行の基礎知識、歩行周期）					有田 智氏
第12回	正常歩行（床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、エネルギー消費）					有田 智氏
第13回	運動観察 歩行					有田 智氏
第14回	運動分析 歩行					有田 智氏
第15回	運動分析 歩行（第14回の続き）					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること					
課題・評価方法	小テスト（30%）、筆記試験（70%）					
教科書	伊藤元・他（編）：運動学. 医学書院 畑中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析、羊土社					
参考書	竹井仁・他：運動機能障害症候群のマネジメント、医歯薬出版 石井慎一郎著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、メジカルビュー社					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
運動学演習	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標は、人の身体運動と力などバイオメカニクスに関する知識を学び、正常な姿勢や運動の観察を行い、運動学的視点から運動分析を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲帯・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。小グループに分かれて、実際の動作を体験しながら、分析を進めさせる。学生同士の意見交換をさせることで、多様な分析視点を学ばせる。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション バイオメカニクスとは					有田 智氏
第2回	バイオメカニクスの基礎知識（滑車、ベクトル、時間、速度、加速度）					有田 智氏
第3回	バイオメカニクスの基礎知識（重心、仕事、運動連鎖）					有田 智氏
第4回	姿勢、動作分析（運動分析と動作分析、姿勢制御）					有田 智氏
第5回	姿勢観察 臥位 座位 立位					有田 智氏
第6回	運動観察 寝返り					有田 智氏
第7回	運動分析 寝返り					有田 智氏
第8回	立ち上がり動作におけるモーメント					有田 智氏
第9回	運動観察 立ち上がり					有田 智氏
第10回	運動分析 立ち上がり					有田 智氏
第11回	正常歩行（歩行の基礎知識、歩行周期）					有田 智氏
第12回	正常歩行（床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動、エネルギー消費）					有田 智氏
第13回	運動観察 歩行					有田 智氏
第14回	運動分析 歩行①					有田 智氏
第15回	運動分析 歩行②					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	各回に必要な基礎知識は事前に予習しておくこと。また各回の知識の整理をすること					
課題・評価方法	小テスト（30%）、筆記試験（70%）					
教科書	伊藤元・他（編）：運動学.医学書院 畑中泰彦（編）：姿勢・動作・歩行分析、羊土社					
参考書	竹井仁・他：運動機能障害症候群のマネジメント、医歯薬出版 石井慎一郎著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、メジカルビュー社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
薬理学概論	必	田中 弘一郎	1	15	1年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	薬理学は、医療の現場で益々重要性が増している薬物療法における薬剤の作用メカニズム、薬理作用及び動態について生化学や生理学などの知見に基づいて理解しようとする学問領域である。本講義では、医学・医療における基礎科学の重要な分野の一つとして、医療従事者に必須な薬理学的知識及び創薬について修得し、薬物療法に関する科学的な基盤作りを目標とする。更に、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。					
学位授与方 針との関連	DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	総論－薬理学の概要と創薬の実際					田中 弘一郎
第2回	総論－薬力学					田中 弘一郎
第3回	総論－薬物動態学					田中 弘一郎
第4回	末梢神経系作用薬					田中 弘一郎
第5回	中枢神経系作用薬					田中 弘一郎
第6回	循環器系作用薬					田中 弘一郎
第7回	内分泌・代謝系作用薬					田中 弘一郎
第8回	抗炎症薬, その他					田中 弘一郎
備考						
授業時間以 外の学習に ついて	毎回配布する講義資料、教科書および参考書などを用いて予習・復習すると共に、各学生からの質問に対する回答や討議を通して授業内容の理解を深めること。					
課題・評価 方法	定期試験（筆記試験）（90%）、小テスト（10%）					
教科書	野村隆英・石川直久 編集 「シンプル薬理学」, 南江堂					
参考書	1. 吉岡充弘他著「系統看護学講座 専門基礎講座 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学」医学書院 2. 医療情報科学研究所編 「薬が見える」vol.1, 2 & 3, メディックメディア					
オフィスア ワー	後期：月 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

**講義要目**

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
薬理学概論	必	田中 弘一郎	1	15	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	薬理学は、医療の現場で益々重要性が増している薬物療法における薬剤の作用メカニズム、薬理作用及び動態について生化学や生理学などの知見に基づいて理解しようとする学問領域である。本講義では、医学・医療における基礎科学の重要な分野の一つとして、医療従事者に必須な薬理学的知識及び創薬について修得し、薬物療法に関する科学的な基盤作りを目標とする。更に、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	総論Ⅰ－薬理学の概要と創薬の実際					田中 弘一郎
第2回	総論Ⅱ－薬力学					田中 弘一郎
第3回	総論Ⅲ－薬物動態学					田中 弘一郎
第4回	末梢神経系作用薬					田中 弘一郎
第5回	中枢神経系作用薬					田中 弘一郎
第6回	循環器系作用薬					田中 弘一郎
第7回	内分泌・代謝系作用薬					田中 弘一郎
第8回	抗炎症薬, その他					田中 弘一郎
備考						
授業時間以外の学習について	毎回配布する講義資料、教科書および参考書などを用いて予習・復習すると共に、各学生からの質問に対する回答や討議を通して授業内容の理解を深めること。					
課題・評価方法	定期試験（筆記試験）（90%）、小テスト（10%）					
教科書	野村隆英・石川直久 編集 「シンプル薬理学」, 南江堂					
参考書	1. 吉岡充弘他著「系統看護学講座 専門基礎講座 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学」医学書院 2. 医療情報科学研究所編 「薬が見える」vol.1, 2 & 3, メディックメディア					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域包括ケア論	必	下西 徳	1	30	2年次 後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>現在、日本は人口の減少と小児高齢化が進むなかで、住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め実践のあり方について理解することを授業目標とする。内容としては、現在の日本や地域社会の現状、地域包括ケアシステム概念と制度、地域包括ケアシステムを支える専門職と地域住民の役割、地域包括支援センターの機能と役割、各地の地域包括ケアシステムの現状と課題を講義する。そして、症例検討により地域包括ケアシステムの構築に向け、今後の地域の在り方や作業療法士の役割を検討する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p> <p>DP 4 変化する地域社会における課題の発見に努め、課題解決に向けて、作業療法士の専門性を活かした創造的な解決方法を導くことができる。</p> <p>DP 5 作業療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域生活課題の新たな支援展開にむけて作業療法を活用することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	日本の医療・福祉・保健・介護の現状				下西 徳	
第2回	各地域の医療・福祉・保健・介護の現状				下西 徳	
第3回	地域包括ケアシステム提唱とその背景				下西 徳	
第4回	地域包括ケアシステムの概要（自助・互助・共助・公助等）				下西 徳	
第5回	地域包括ケアシステムの必要性				下西 徳	
第6回	在宅介護支援センター創設から地域包括ケアセンターへ				下西 徳	
第7回	地域包括支援センターの機能と役割				下西 徳	
第8回	地域包括ケアシステムに関わる専門職と地域住民の役割				下西 徳	
第9回	地域包括ケアシステムにおける在宅医療の役割				下西 徳	
第10回	認知症ケアで必要とされる地域包括ケアシステム				下西 徳	
第11回	地域包括ケアシステムの国際的な研究動向				下西 徳	
第12回	地域包括ケアシステム確立を目指した介護保険事業計画を考える				下西 徳	
第13回	地域包括ケアシステムを支えるリハビリテーションの役割				下西 徳	
第14回	事例検討 ー認知症の方への地域支援ー				下西 徳	
第15回	事例検討 ー新しい生活支援サービスの構築ー				下西 徳	
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回行う部分に目を通してこるこ</p> <p>復習：講義した内容について整理すること</p>					
課題・評価方法	発表（20％）、レポート（20％）、筆記試験（50％）、小テスト（10％）					
教科書	高橋 紘士（2012）『地域包括ケアシステム』 Ohmsha					
参考書	大橋 謙策・白澤政和（2014）『地域包括ケアの実践と展望—先進的地域の取り組みから学ぶ—』中央法規出版株式会社					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域包括ケア論	必	杉本 久美子	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>現在、日本は人口の減少と小児高齢化が進むなかで、住み慣れた地域で医療や福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築が課題となっている。地域包括ケア論は、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め実践のあり方について理解することを授業目標とする。内容としては、現在の日本や地域社会の現状、地域包括ケアシステムの概念と制度、地域包括ケアシステムを支える専門職と地域住民の役割、地域包括支援センターの機能と役割、各地の地域包括ケアシステムの現状と課題を講義する。そして、症例検討により地域包括ケアシステムの構築に向け、今後の地域の在り方や作業療法士の役割を検討する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p> <p>DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	日本の医療・福祉・保健・介護の現状					杉本 久美子
第2回	各地域の医療・福祉・保健・介護の現状					杉本 久美子
第3回	地域包括ケアシステム提唱とその背景					杉本 久美子
第4回	地域包括ケアシステムの概要（自助・互助・共助・公助等）					杉本 久美子
第5回	地域包括ケアシステムの必要性					杉本 久美子
第6回	在宅介護支援センター創設から地域包括ケアセンターへ					杉本 久美子
第7回	地域包括支援センターの機能と役割					杉本 久美子
第8回	地域包括ケアシステムに関わる専門職と地域住民の役割					杉本 久美子
第9回	地域包括ケアシステムにおける在宅医療の役割					杉本 久美子
第10回	認知症ケアで必要とされる地域包括ケアシステム					杉本 久美子
第11回	地域包括ケアシステムの国際的な研究動向					杉本 久美子
第12回	地域包括ケアシステム確立を目指した介護保険事業計画を考える					杉本 久美子
第13回	地域包括ケアシステムを支えるリハビリテーションの役割					杉本 久美子
第14回	症例検討①					杉本 久美子
第15回	症例検討②					杉本 久美子
備考						
授業時間以外の学習について	自分の住んでいる「地域」のシステムに興味を持ってください。					
課題・評価方法	発表（20%）、レポート（20%） 筆記試験（50%）、授業態度（10%）					
教科書	高橋 紘士（2012）『地域包括ケアシステム』 Ohmsha					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
リハビリテーション概論	必	大西 満	1	30	1年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標として、リハビリテーション概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種への役割の理解とする。授業内容はリハビリテーションの概念を基に健康と障害について教示し、特にICIDHやICFといった障害モデルについての理解を深める。また医療チームとしての関連職種について知ることによりリハビリテーションの全体像を把握していく内容とする。小グループで「障害」や「社会復帰」といったテーマの話し合いの機会を設け、自身の今までの体験からの理解と作業療法士として必要になるリハビリテーションの概念との相違点、繋がりを持てるようにしていく。					
学位授与方針との関連	DP 1 作業療法士として生命を尊び、地域住民との関わりを大切にす豊かな人間性と倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。 DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	リハビリテーションの理論と定義、リハビリテーションの歴史と思想の背景					大西 満
第2回	リハビリテーションとは何か（事例検討・グループワーク）					大西 満
第3回	病気と障害					大西 満
第4回	障害体験（高齢者・片麻痺体験スーツの説明）					大西 満
第5回	障害体験（実際にスーツを着用しての外体験）					大西 満
第6回	障害受容					大西 満
第7回	リハビリテーションとノーマライゼーション					大西 満
第8回	リハビリテーションの諸領域（医療、障害者支援と教育）					大西 満
第9回	リハビリテーションの諸領域（職業）					大西 満
第10回	リハビリテーションの諸領域（社会的・地域・高齢者）					大西 満
第11回	リハビリテーション関連職種の役割とリハビリテーションチーム					大西 満
第12回	疾患理解と生活障害					大西 満
第13回	疾患理解と生活障害（事例）					大西 満
第14回	国際障害分類ICIDHと国際生活機能分類ICF					大西 満
第15回	国際障害分類ICIDHと国際生活機能分類ICF（グループディスカッション）					大西 満
備考						
授業時間以外の学習について	予習として授業前には事前に配布された資料に目を通しておくこと。復習は授業の内容を整理し、理解に努めること。					
課題・評価方法	レポート課題（30%）、小テスト（10%）、筆記試験（60%）					
教科書	中村隆一編：入門リハビリテーション概論 第7版. 医歯薬出版株式会社					
参考書	随時、紹介していく。					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
リハビリテーション概論	必	木岡 和実	1	30	1年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	授業目標として、リハビリテーション概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種役割の理解とする。授業内容はリハビリテーションの概念を基に健康と障害について教示し、特にICIDHやICFといった障害モデルについての理解を深める。また医療チームとしての関連職種について知ることによりリハビリテーションの全体像を把握していく内容とする。小グループで「障害」や「社会復帰」といったテーマの話し合いの機会を設け、自身の今までの体験からの理解と作業療法士として必要になるリハビリテーションの概念との相違点、繋がりを捉えるようにしていく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。 DP4 リハビリテーションチームの一員として、他の職種を理解し、協調・連携して職務を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	リハビリテーションの理論と定義、リハビリテーションの歴史と思想の背景					木岡 和実
第2回	リハビリテーションとは何か（事例検討・グループワーク）（演習）					木岡 和実
第3回	病気と障害					木岡 和実
第4回	障害体験①（高齢者、片麻痺など）（演習）					木岡 和実
第5回	障害体験②（高齢者、片麻痺など）（演習）					木岡 和実
第6回	障害受容					木岡 和実
第7回	リハビリテーションとノーマライゼーション					木岡 和実
第8回	リハビリテーションの諸領域①（医療、障害者支援と教育）					木岡 和実
第9回	リハビリテーションの諸領域②（職業）					木岡 和実
第10回	リハビリテーションの諸領域③（社会的・地域・高齢者）					木岡 和実
第11回	リハビリテーション関連職種の役割とリハビリテーションチーム					木岡 和実
第12回	疾患理解と生活障害					木岡 和実
第13回	疾患理解と生活障害（事例）（演習）					木岡 和実
第14回	国際障害分類ICIDHと国際生活機能分類ICF					木岡 和実
第15回	国際障害分類ICIDHと国際生活機能分類ICF（グループディスカッション、演習）					木岡 和実
備考						
授業時間以外の学習について	予習として授業前には事前に配布された資料に目を通しておくこと。復習は授業の内容を整理し、理解に努めること					
課題・評価方法	レポート課題（30%） 授業態度（10%） 筆記試験（60%）					
教科書	中村隆一編：入門リハビリテーション概論 第7版. 医歯薬出版株式会社					
参考書	随時、紹介していく。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学実習 I	必	澤 賢一郎	1	30	1年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法の手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。到達目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	作業の視点について					澤 賢一郎
第2回	作業の主観的意味					澤 賢一郎
第3回	作業の主観的意味についてのグループワーク					澤 賢一郎
第4回	作業を通じた自分らしさ、環境とのつながり					澤 賢一郎
第5回	生活の構造化・健康との関連性					澤 賢一郎
第6回	社会的意味・作業の分類化					澤 賢一郎
第7回	作業活動についてのオリエンテーション					澤 賢一郎
第8回	ボッチャの実施（ゲームの概要の説明）					澤 賢一郎
第9回	ボッチャの実施（教員のデモンストレーションを見せながらの説明）					澤 賢一郎
第10回	ボッチャについてのグループワーク（実際に学生同士で試合を行う）					澤 賢一郎
第11回	ボッチャについての発表					澤 賢一郎
第12回	IADL（料理）の実施（料理の工程分析の仕方についての説明）					澤 賢一郎
第13回	IADL（料理）の実施（実際に各グループで決めた料理を調理する）					澤 賢一郎
第14回	IADL（料理）についてのグループワーク（調理した料理を各工程でまとめる）					澤 賢一郎
第15回	IADL（料理）についての発表					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	予習：次回の授業範囲について事前に調べておくこと 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノート・考えを整理しておくこと					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、発表（20%）、レポート（20%）、筆記試験（30%）、小テスト（10%）					
教科書	吉川ひろみ（2017）『「作業」って何だろう』 作業科学入門第2版。 医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学演習Ⅱ	必	杉本 久美子	1	30	1年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	生活を構成する作業の視点を知り、実際に作業活動を実施する。それらを通して作業療法士の扱う「作業」の意味について考え、作業療法的手段としての「作業」の学びを促進する。また、対象者が行う作業の意味や特徴を理解・分析し、個人因子・環境因子との関連性や、身体機能面、精神機能面、認知機能面などを講義形式やグループディスカッションにて理解・表出を行う。到達目標は①日常生活は意味ある作業の連続であることを理解する、②その人らしい作業が行えることの意味について自分なりの考え方を説明できるようになる事である。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	作業の視点について					杉本 久美子
第2回	作業の主観的意味					杉本 久美子
第3回	作業の主観的意味についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第4回	作業を通じた自分らしさ、環境とのつながり					杉本 久美子
第5回	生活の構造化・健康との関連性					杉本 久美子
第6回	社会的意味・作業の分類化					杉本 久美子
第7回	作業活動についてのオリエンテーション					杉本 久美子
第8回	作業活動①の実施（演習）					杉本 久美子
第9回	作業活動①の実施（演習）					杉本 久美子
第10回	作業活動①についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第11回	作業活動①についての発表（演習）					杉本 久美子
第12回	作業活動②の実施（演習）					杉本 久美子
第13回	作業活動②の実施（演習）					杉本 久美子
第14回	作業活動②についてのグループワーク（演習）					杉本 久美子
第15回	作業活動②についての発表（演習）					杉本 久美子
備考						
授業時間以外の学習について	常に作業の意味とは何か、それが生活におよぼしている影響を考えて下さい。					
課題・評価方法	グループ課題（20%）、発表（20%）、レポート（20%） 筆記試験（30%）、授業態度（10%）					
教科書	吉川ひろみ（2017） 『「作業」って何だろう』 作業科学入門第2版. 医歯薬出版社					
参考書						
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法研究法	必	辛島 千恵子	1	15	3年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士は専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していく事が重要となる。そのために、作業療法研究が出来る為の研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことを目標とする。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の作成の手続きを講義で学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行う。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行い、学生間のディスカッションを促しながら講義を進めていく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	研究とは、研究と倫理					辛島 千恵子
第2回	研究の種類、文献レビューと文献研究					辛島 千恵子
第3回	文献検索と参考・引用文献					辛島 千恵子
第4回	調査・実験・事例研究					辛島 千恵子
第5回	研究計画の立案					辛島 千恵子
第6回	データ分析について					辛島 千恵子
第7回	まとめ(発表者を2つに分けた前半の学生の発表)					辛島 千恵子
第8回	まとめ(後半の学生の発表)					辛島 千恵子
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	定期試験（筆記）（70%）、小テスト（30%）					
教科書	山田孝他編「標準作業療法学専門分野 作業療法研究（第2版）」医学書院					
参考書	適時、紹介する。					
オフィスアワー	<p>前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業療法研究法	必	安部 征哉	1	15	4年次前期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>作業療法士は専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していく事が重要となる。そのために、作業療法研究が出来る為の研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことを目標とする。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の作成の手続きを講義で学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行う。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行い、学生間のディスカッションを促しながら講義を進めていく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	研究とは、研究と倫理					安部 征哉
第2回	研究の種類、文献レビューと文献研究					安部 征哉
第3回	文献検索と参考・引用文献					安部 征哉
第4回	調査・実験・事例研究					安部 征哉
第5回	研究計画の立案					安部 征哉
第6回	データ分析について					安部 征哉
第7回	まとめ1（学生発表）					安部 征哉
第8回	まとめ2（学生発表）					安部 征哉
備考						
授業時間以外の学習について	<p>予習：次回の授業範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業を振り返り、資料やノートを整理しておくこと。</p>					
課題・評価方法	定期試験（筆記）（70%）、小テスト（30%）					
教科書	山田孝他編「標準作業療法学専門分野 作業療法研究（第2版）」医学書院					
参考書	適時、紹介する。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまずは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 簡易上肢機能テスト (STEF) とは					有田 智氏
第2回	簡易上肢機能テスト (STEF) 検査目的					有田 智氏
第3回	簡易上肢機能テスト (STEF) 検査方法					有田 智氏
第4回	簡易上肢機能テスト (STEF) 結果の解釈 グループディスカッション					有田 智氏
第5回	徒手筋力テスト (MMT) とは 検査目的と方法					有田 智氏
第6回	徒手筋力テスト (MMT) 肩甲帯					有田 智氏
第7回	徒手筋力テスト (MMT) 肩関節					有田 智氏
第8回	徒手筋力テスト (MMT) 前腕					有田 智氏
第9回	徒手筋力テスト (MMT) 手関節周囲 手					有田 智氏
第10回	徒手筋力テスト (MMT) 股関節周囲					有田 智氏
第11回	徒手筋力テスト (MMT) 膝関節周囲から足関節周囲					有田 智氏
第12回	徒手筋力テスト (MMT) 頸部、体幹					有田 智氏
第13回	徒手筋力テスト (MMT) 実技試験前のまとめ					有田 智氏
第14回	徒手筋力テスト (MMT) 実技試験					有田 智氏
第15回	実技試験のフィードバックと全体のまとめ					有田 智氏
備考	お互いの身体を使って評価技法の実技を行います。動きやすい服装で授業にのぞんでください					
授業時間以外の学習について	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技に関しては体を使って練習すること					
課題・評価方法	実技テスト (30%) 小テスト (20%) 筆記試験 (50%) で総合判定を行う。					
教科書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院, 2010. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery 著：新・徒手筋力検査法 原著第9版. 協同医書出版社					
参考書	生田宗博：作業療法学全書 (改訂第3版) 第3巻 作業療法評価学. 協同医書出版社, 2010.					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 火 16：10～17：15					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	身体障害領域における検査・測定として、徒手筋力テスト(MMT)と簡易上肢機能テスト(STEF)について、その目的や意義を理解し対象者に説明ができること、およびその技術を習得しまずは学生同士で正しく評価を行えることを目標として講義・演習をすすめる。形式としてはグループ単位、またはペアでの実践形式が主となり、能力評価は実技試験と定期試験を併用して行う。筋力検査は上肢・下肢・体幹の順に行い、上肢機能検査については検査項目ごとに学習を進める。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 簡易上肢機能テスト(STEF)とは、検査目的と方法					有田 智氏
第2回	簡易上肢機能テスト(STEF) (演習)					有田 智氏
第3回	簡易上肢機能テスト(STEF) (演習)					有田 智氏
第4回	簡易上肢機能テスト(STEF) 結果の解釈 グループディスカッション(演習)					有田 智氏
第5回	徒手筋力テスト(MMT)とは 検査目的と方法					有田 智氏
第6回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲 (演習)					有田 智氏
第7回	徒手筋力テスト(MMT) 肩周囲 (演習)					有田 智氏
第8回	徒手筋力テスト(MMT) 前腕 (演習)					有田 智氏
第9回	徒手筋力テスト(MMT) 手関節周囲 手 (演習)					有田 智氏
第10回	徒手筋力テスト(MMT) 股関節周囲 (演習)					有田 智氏
第11回	徒手筋力テスト(MMT) 膝関節周囲から足関節周囲 (演習)					有田 智氏
第12回	徒手筋力テスト(MMT) 頸部、体幹(演習)					有田 智氏
第13回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第14回	徒手筋力テスト(MMT) 実技試験					有田 智氏
第15回	実技試験のフィードバックと全体のまとめ					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また実技に関しては体を使って練習すること					
課題・評価方法	実技テスト(30%)小テスト(10%) 筆記試験(50%)、授業態度(10%)で総合判定を行う。					
教科書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院,2010. Helen J.Hislop.Jacqueline Montgomery 著：新・徒手筋力検査法 原著第9版.協同医書出版社					
参考書	生田宗博：作業療法学全書(改訂第3版)第3巻 作業療法評価学.協同医書出版社,2010.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法評価学実習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例（映像）とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物（レポート）をもって評価する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、総論					嶋川 昌典
第2回	精神科作業療法における評価の流れ					嶋川 昌典
第3回	質問紙法（質問紙法について）					嶋川 昌典
第4回	質問紙法（ISDA、SMSFの説明とデモンストレーション）					嶋川 昌典
第5回	質問司法（OSA IIの説明とデモンストレーション）					嶋川 昌典
第6回	構成的作業検査（箱づくり法の概要と説明）					嶋川 昌典
第7回	箱づくり法 データ収集（2人一組で、被験者一検査者役でデータをとる）					嶋川 昌典
第8回	箱づくり法 データ収集（被験者一検査者役を交代し、データをとる）					嶋川 昌典
第9回	箱づくり法 データ解釈					嶋川 昌典
第10回	集団の評価 概要と方法					嶋川 昌典
第11回	集団の評価（討論場面を設定し、各学生が参加しながら観察する）					嶋川 昌典
第12回	集団の評価 解釈					嶋川 昌典
第13回	知的検査					嶋川 昌典
第14回	作業療法で用いられる検査（一般職業適性検査、TEG、LASMI、BACS-J）					嶋川 昌典
第15回	作業療法で用いられる評価（GAF、Rehab、精神障害ケアアセスメントなど）					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	実習でのレポート課題（実際に学生同士で評価を行いまとめる）が60%、残りの40%を定期テスト					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	香山明美、小林正義ら「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」、医歯薬出版株式会社					
オフィスアワー	前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法評価学演習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科作業療法の基本的な評価の流れ、対象者との関わりの基本姿勢を理解することである。精神科作業療法では観察評価が多くなる為、教員による作業面接の具体例（映像）とその解説、同じように「箱づくり法」を用いた作業療法評価の演習を行う事で作業療法士の評価の視点を伝える。他にも一般職業適性検査、質問紙法などを教材として用いる。評定は、実際に学生同士で講義で理解した評価技法を用いて検査測定を行い、それをまとめた成果物（レポート）をもって評価する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、総論					嶋川 昌典
第2回	作業療法の流れ					嶋川 昌典
第3回	質問紙法①（質問紙法について）					嶋川 昌典
第4回	質問紙法②（ISDA、SMSFの演習）					嶋川 昌典
第5回	質問司法③（OSA IIの演習）					嶋川 昌典
第6回	構成的作業検査（箱づくり法について）					嶋川 昌典
第7回	箱づくり法（演習①）					嶋川 昌典
第8回	箱づくり法（演習②）					嶋川 昌典
第9回	箱づくり法（演習③）					嶋川 昌典
第10回	集団の評価					嶋川 昌典
第11回	集団の評価（演習①）					嶋川 昌典
第12回	集団の評価（演習②）					嶋川 昌典
第13回	知的検査（演習）					嶋川 昌典
第14回	作業療法で用いられる検査①（演習：一般職業適性検査、TEG、LASMI、BACS-J）					嶋川 昌典
第15回	作業療法で用いられる評価②（演習：GAF、Rehab、精神障害ケアアセスメントなど）					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習でのレポート課題（実際に学生同士で評価を行いまとめる）が60%、残りの40%を定期テストとする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	香山明美、小林正義ら「生活を支援する精神障害作業療法 第2版」、医歯薬出版株式会社					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
中枢神経疾患作業療法学実習	必	下西 徳	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳血管障害における全般的症状					下西 徳
第2回	運動麻痺・筋緊張の異常とその見方、片麻痺機能検査の評価					下西 徳
第3回	姿勢反射障害、バランスの評価、協調性障害と評価方法					下西 徳
第4回	作業療法プロセスについて (トップダウン)					下西 徳
第5回	評価の解釈と個人の全体像					下西 徳
第6回	目標設定から治療計画立案					下西 徳
第7回	脳血管障害の作業療法アプローチについて					下西 徳
第8回	社会適応プログラム・応用プログラム					下西 徳
第9回	心身機能面へのプログラム					下西 徳
第10回	脊髄損傷の全般的症状					下西 徳
第11回	脊髄損傷の評価について (情報収集の手法)					下西 徳
第12回	脊髄損傷の評価 (損傷レベルからの評価)					下西 徳
第13回	脊髄損傷の治療 社会適応プログラム					下西 徳
第14回	脊髄損傷の治療 応用的プログラム					下西 徳
第15回	脊髄損傷の治療 心身機能面へのプログラム					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとおしておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	グループレポート課題 (30%)、筆記試験 (60%)、小テスト (10%)					
教科書	菅原洋子：日本作業療法士協会 (監修：作業療法学全書4 作業治療学1 身体障害・協同医書出版社)					
参考書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院. 2017					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
中枢神経疾患作業療法学演習	必	有田 智氏	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	作業療法士が対象とする身体障害の原因となる疾患は多岐に渡る。この授業では、作業療法の対象疾患の中でも中枢神経疾患に焦点を当てて、脳血管障害と脊髄損傷による生活障害を呈した人への作業療法を説明できることと、上記の疾患を理解し、評価と治療の構造を説明できることを目標とする。授業では各種疾患の理解を復習し、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、どういった思考によって治療が選択されるのかを知ることを中心として展開する。また治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、また最新知見に基づいた方法論を説明していく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	脳血管障害における全般的症状					有田 智氏
第2回	運動麻痺・筋緊張の異常とその見方、片麻痺機能検査の評価 (演習)					有田 智氏
第3回	姿勢反射障害、バランスの評価、協調性障害と評価方法 (演習)					有田 智氏
第4回	作業療法プロセスについて (トップダウン)					有田 智氏
第5回	評価の解釈と個人の全体像 (演習)					有田 智氏
第6回	目標設定から治療計画立案					有田 智氏
第7回	脳血管障害の作業療法アプローチについて					有田 智氏
第8回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム① (演習)					有田 智氏
第9回	社会適応プログラム・応用プログラム・基本プログラム② (演習)					有田 智氏
第10回	脊髄損傷の全般的症状					有田 智氏
第11回	脊髄損傷の評価について (情報収集・観察：演習)					有田 智氏
第12回	脊髄損傷の評価 (心身機能：演習)					有田 智氏
第13回	脊髄損傷の治療 社会適応プログラム (演習)					有田 智氏
第14回	脊髄損傷の治療 応用的プログラム (活動・参加について：演習)					有田 智氏
第15回	脊髄損傷の治療 基本的プログラム (心身機能面について：演習)					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	予習：事前に教科書や配布資料に目をとっておくこと 復習：各回の授業内容をまとめて知識の整理をすること					
課題・評価方法	グループレポート課題 (30%) 筆記試験 (60%)、授業態度・出席 (10%)					
教科書	菅原洋子：日本作業療法士協会 (監修：作業療法学全書4 作業治療学1 身体障害・協同医書出版社)					
参考書	岩崎テル子：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第2版. 医学書院. 2017					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法学	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科の作業療法を行う上での基礎概念を理解することである。具体的には、精神科領域の治療は対象者との人間関係の構築が必要不可欠である。その意味を理解する為には、作業療法の文献だけでなく、教育学、心理学、社会学、看護学、当事者の手記などの資料を用いて作業療法を批判的に捉え直す必要がある。また、精神疾患がどのように人々に認識されていったか、その歴史の変遷を講義を通して学ぶ。学生の理解度は、精神科における支援を具体的に文章化（論述）させることで確認する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 作業療法について					嶋川 昌典
第2回	べてるの家の活動紹介、当事者の手記の紹介					嶋川 昌典
第3回	医療福祉の専門職の対人支援の特徴					嶋川 昌典
第4回	精神科作業療法についてのディスコース分析（精神科OTを検討する）					嶋川 昌典
第5回	現在の若者の徳とケアについて					嶋川 昌典
第6回	精神医療の歴史（精神病について考える。諸外国の精神医療について）					嶋川 昌典
第7回	日本の精神医療の歴史					嶋川 昌典
第8回	精神障害の障害特性					嶋川 昌典
第9回	作業療法の治療・援助構造と治療機序					嶋川 昌典
第10回	治療構造論（総論）					嶋川 昌典
第11回	治療構造論（学生が経験した事例を通し、自己の治療的利用を理解する）					嶋川 昌典
第12回	作業療法の関わり（病院やデイケア）					嶋川 昌典
第13回	作業療法の関わり（訪問看護、ACT）					嶋川 昌典
第14回	作業療法の関わり（就労支援、医療観察法）					嶋川 昌典
第15回	まとめ					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	定期テストを90%とし、小テストを10%とする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	斉藤道雄「治りませんように」みすず書房、山野克明「作業療法士の自律性と独自性」樺歌書房、適宜、論文を紹介する					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
精神障害作業療法	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、精神科の作業療法を行う上での基礎概念を理解することである。具体的には、精神科領域の治療は対象者との人間関係の構築が必要不可欠である。その意味を理解する為には、作業療法の文献だけでなく、教育学、心理学、社会学、看護学、当事者の手記などの資料を用いて作業療法を批判的に捉え直す必要がある。また、精神疾患がどのように人々に認識されていったか、その歴史の変遷を講義を通して学ぶ。学生の理解度は、精神科における支援を具体的に文章化（論述）させることで確認する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 作業療法について					嶋川 昌典
第2回	べてるの家の活動紹介、当事者の手記の紹介					嶋川 昌典
第3回	医療福祉の専門職の対人支援の特徴					嶋川 昌典
第4回	精神科作業療法についてのディスコース分析（精神科OTを検討する）					嶋川 昌典
第5回	現在の若者の徳とケアについて					嶋川 昌典
第6回	精神医療の歴史（精神病について考える。諸外国の精神医療について）					嶋川 昌典
第7回	日本の精神医療の歴史					嶋川 昌典
第8回	精神障害の障害特性					嶋川 昌典
第9回	作業療法の治療・援助構造と治療機序					嶋川 昌典
第10回	治療構造論①（総論）					嶋川 昌典
第11回	治療構造論②（学生が経験した事例を通し、自己の治療的利用を理解する）					嶋川 昌典
第12回	作業療法の関わり①（病院やデイケア）					嶋川 昌典
第13回	作業療法の関わり②（訪問看護、ACT）					嶋川 昌典
第14回	作業療法の関わり③（就労支援、医療観察法）					嶋川 昌典
第15回	まとめ					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	定期テストを9割とし、授業態度を1割とする。					
教科書	山根寛「精神障害と作業療法（新版）」三輪書店					
参考書	齊藤道雄「治りませんように」みすず書房、山野克明「作業療法士の自律性と独自性」権歌書房、適宜、論文を紹介する					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日常生活活動論実習	必	有田 智氏	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作の特徴などに分類し学生自らの生活を土台として実習を進め分析を進めていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	日常生活活動の概念と範囲					有田 智氏
第2回	日常生活活動の成り立ちと作業療法					有田 智氏
第3回	日常生活活動別の特徴					有田 智氏
第4回	セルフケア ―グループワークにて各セルフケアを検討するー					有田 智氏
第5回	セルフケア ―発表 グループ1ー					有田 智氏
第6回	セルフケア ―発表 グループ2ー					有田 智氏
第7回	セルフケア ―発表 グループ3ー					有田 智氏
第8回	家庭生活・社会活動・コミュニケーション					有田 智氏
第9回	日常生活活動への援助の視点					有田 智氏
第10回	日常生活活動の評価					有田 智氏
第11回	日常生活活動の標準化された評価 (バーセルインデックス)					有田 智氏
第12回	日常生活活動の標準化された評価 (FIM)					有田 智氏
第13回	日常生活活動の評価					有田 智氏
第14回	日常生活の観察評価					有田 智氏
第15回	日常生活の観察評価と事例					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。					
課題・評価方法	グループレポート課題 (20%)、発表 (20%)、小テスト (30%) 筆記試験 (30%)					
教科書	日本作業療法士協会 (監修) : 作業療法学全書11 日常生活活動. 協同医書出版社.					
参考書	吉川ひろみ : 作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
オフィスアワー	前期 : 月 16 : 10~17 : 15 火 16 : 10~17 : 15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
日常生活活動論演習	必	鈴木 耕平	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになる事を目標とする。構成要素の理解では食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し学生自らの生活を土台として演習を進め分析を進めていく。その分析内容は発表会をもって全体へと理解を深めていく。また作業療法評価ではバーセルインデックスやFunctional Independence Measureを中心として臨床で頻回に用いられる評価方法を学んでいく。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	日常生活活動の概念と範囲					鈴木 耕平
第2回	日常生活活動の成り立ちと作業療法					鈴木 耕平
第3回	日常生活活動別の特徴					鈴木 耕平
第4回	セルフケア演習 –グループワークにて各セルフケアを検討する– (演習)					鈴木 耕平
第5回	セルフケア演習① –発表– (演習)					鈴木 耕平
第6回	セルフケア演習② –発表– (演習)					鈴木 耕平
第7回	セルフケア演習③ –発表– (演習)					鈴木 耕平
第8回	家庭生活・社会活動・コミュニケーションと演習 (演習)					鈴木 耕平
第9回	日常生活活動への援助の視点					鈴木 耕平
第10回	日常生活活動の評価					鈴木 耕平
第11回	日常生活活動の標準化された評価 (バーサルインデックス)					鈴木 耕平
第12回	日常生活活動の標準化された評価 (FIM)					鈴木 耕平
第13回	日常生活活動の評価演習 (演習)					鈴木 耕平
第14回	日常生活の観察評価と演習 (演習)					鈴木 耕平
第15回	日常生活の観察評価と事例演習 (グループ演習) (演習)					鈴木 耕平
備考	講義を7コマ、演習を8コマとして実施する。					
授業時間以外の学習について	人が当たり前に過ごす日常生活を題材にしていきますので、特徴を捉える範囲では自分の生活周囲を注意深く観察してください。					
課題・評価方法	グループレポート課題 (20%)、発表 (20%)、小テスト (20%) 筆記試験 (30%)、授業態度 (10%)					
教科書	日本作業療法士協会 (監修) : 作業療法学全書11 日常生活活動. 協同医書出版社.					
参考書	1) 吉川ひろみ : 作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド. 医学書院					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会生活行為論実習	必	澤 賢一郎	1	30	2年次前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	総論					澤 賢一郎
第2回	日常生活関連活動支援 洗濯/掃除					澤 賢一郎
第3回	日常生活関連活動支援 調理/買い物・外出					澤 賢一郎
第4回	社会生活行為の支援 教育					澤 賢一郎
第5回	社会生活行為の支援 就労					澤 賢一郎
第6回	社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び					澤 賢一郎
第7回	自身の社会生活行為についてまとめ 教育・就労					澤 賢一郎
第8回	自身の社会生活行為についてまとめ コミュニティ・遊び					澤 賢一郎
第9回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション 教育・就労					澤 賢一郎
第10回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション コミュニティ・遊び					澤 賢一郎
第11回	まとめ、自助具作成について					澤 賢一郎
第12回	自助具作成における計画					澤 賢一郎
第13回	自助具作成					澤 賢一郎
第14回	作成した自助具のプレゼンテーション・症例紹介					澤 賢一郎
第15回	総復習					澤 賢一郎
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしておく。 作成自助具の選定や準備物について文献、インターネットを使用し事前に準備をしていくことが望ましい。</p>					
課題・評価方法	<p>定期試験（70%）、2回のレポート（15%×2）により評価する。</p>					
教科書	<p>濱口 豊太編：日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院.</p>					
参考書	<p>生田宗博編：IADL・作業療法の戦略と戦術・技術. 三輪書店. (社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第11巻 日常生活活動. 協同医書出版社.</p>					
オフィスアワー	<p>前期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
社会生活行為論演習	必	寺井 淳	1	30	2年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>目標は、日常生活関連活動について理解できること、またその評価方法と支援方法を理解できることとする。内容は、自身の社会生活についての実践を通して検討・分析し、他者へと発表することで日常生活関連活動について理解を深める。また評価方法ではQuality of Lifeや健康度に関わる評価も行っていく。障害を抱えながらも生活を過ごす対象者を想定し、活動を物的に補うための自助具の作成も行い、実際にプレゼンテーション実施していく。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	総論					寺井 淳
第2回	日常生活関連活動支援 洗濯/掃除					寺井 淳
第3回	日常生活関連活動支援 調理/買い物・外出					寺井 淳
第4回	社会生活行為の支援 教育					寺井 淳
第5回	社会生活行為の支援 就労					寺井 淳
第6回	社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び					寺井 淳
第7回	自身の社会生活行為についてまとめ(演習)					寺井 淳
第8回	自身の社会生活行為についてまとめ(演習)					寺井 淳
第9回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション(演習)					寺井 淳
第10回	自身の社会生活行為についてプレゼンテーション(演習)					寺井 淳
第11回	まとめ、自助具作成(演習)					寺井 淳
第12回	自助具作成(演習)					寺井 淳
第13回	自助具作成(演習)					寺井 淳
第14回	作成した自助具のプレゼンテーション・症例紹介(演習)					寺井 淳
第15回	総復習					寺井 淳
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自分にとって社会生活行為について日頃から分析し、講義を通して作業療法の分野と関連できるようにしてください。 作成自助具の選定や準備について事前に調べ、準備をしておいて下さい。</p>					
課題・評価方法	定期試験(70%)、レポート(30%)					
教科書	濱口 豊太編：日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院.					
参考書	<p>生田宗博編：IADL・作業療法の戦略と戦術・技術. 三輪書店. (社)日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第11巻 日常生活活動. 協同医書出版社.</p>					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論	必	澤 賢一郎	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法において「作業」は治療手段の1つである。「作業」のもつ治療的な意味と対象者の個人的な意味を統合して、治療効果が上がるように工夫して適応する必要がある。まず、いくつかの作業活動を実施し、作業療法独自の作業分析を行う。また、食事、整容、更衣、排泄、入浴などの動作を運動学視点から分析を行い、その作業がどのような特性をもっているかを捉え、その特性がどのような治療的意味を持ちうるかを明らかにする。さらに、治療的活用として、事例の治療目標と作業を適用させ、治療効果が期待できるかをグループワークで検討していく。作業分析の視点を知り、治療へ活用していくうえでの注意点を学ぶことを本講義の目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP 3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容				担当教員	
第1回	動作分析・基本動作の基礎知識				澤 賢一郎	
第2回	寝返り動作分析				澤 賢一郎	
第3回	起き上がり動作分析				澤 賢一郎	
第4回	立ち上がり動作分析				澤 賢一郎	
第5回	脳血管障害患者の起居動作について対象者の動作分析				澤 賢一郎	
第6回	作業活動の動作分析の視点				澤 賢一郎	
第7回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、輪投げの例）				澤 賢一郎	
第8回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、ワイピングの例）				澤 賢一郎	
第9回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、木工の例）				澤 賢一郎	
第10回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、食事の例）				澤 賢一郎	
第11回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、更衣の例）				澤 賢一郎	
第12回	作業活動の動作分析（脳血管障害患者の作業活動の特性、排泄の例）				澤 賢一郎	
第13回	日常生活活動の動作分析のプレゼン（学生を2つに分け、前半の発表）				澤 賢一郎	
第14回	日常生活活動の動作分析プレゼン（後半の発表）				澤 賢一郎	
第15回	脳血管障害患者の作業活動の全体のまとめとフィードバック				澤 賢一郎	
備考						
授業時間以外の学習について	<p>自身の日常生活動作と脳血管障害を呈した対象者の日常生活動作を比較しながら分析してください。また、様々な作業活動をグループワークで分析しプレゼンテーションしあうことによって様々な分析視点を理解してください。</p>					
課題・評価方法	<p>レポート90%（対象者の動作分析40%、作業分析15%、日常生活活動の分析15%、プレゼンテーション20%）、小テスト10%</p>					
教科書	<p>山岸茂則：臨床実践 動きのとらえかた、文光堂 吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド、医学書院、2012</p>					
参考書	なし					
オフィスアワー	<p>後期：水 16：10～17：15 金 16：10～17：15</p>					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論 I	必	寺井 淳	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要到達目標	<p>作業療法において「作業」は治療手段の1つである。「作業」のもつ治療的な意味と対象者の個人的な意味を統合して、治療効果が高まるように工夫して適応する必要がある。まず、いくつかの作業活動を実施し、作業療法独自の作業分析を行う。また、食事、整容、更衣、排泄、入浴などの動作を運動学視点から分析を行い、その作業がどのような特性をもっているかを捉え、その特性がどのような治療的意味を持ちうるかを明らかにする。さらに、治療的活用として、事例の治療目標と作業を適用させ、治療効果が期待できるかをグループワークで検討していく。作業分析の視点を知り、治療へ活用していくうえでの注意点を学ぶことを本講義の目標とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	動作分析・基本動作の基礎知識					寺井 淳
第2回	寝返り動作分析					寺井 淳
第3回	起き上り動作分析					寺井 淳
第4回	立ち上がり動作分析					寺井 淳
第5回	脳血管障害患者の起居動作について対象者の動作分析（演習）					寺井 淳
第6回	作業活動の動作分析の視点					寺井 淳
第7回	作業活動の動作分析					寺井 淳
第8回	作業活動の動作分析					寺井 淳
第9回	作業活動の動作分析プレゼンテーション（演習）					寺井 淳
第10回	食事、整容、更衣の動作分析、評価方法					寺井 淳
第11回	排泄、入浴の動作分析、評価方法					寺井 淳
第12回	日常生活活動の動作分析					寺井 淳
第13回	日常生活活動の動作分析					寺井 淳
第14回	日常生活活動の動作分析プレゼンテーション（演習）					寺井 淳
第15回	脳血管障害患者の作業活動の動作分析（演習）					寺井 淳
備考						
授業時間以外の学習について	自身の日常生活動作と脳血管障害を呈した対象者の日常生活動作を比較しながら分析してください。また、様々な作業活動をグループワークで分析しプレゼンテーションしあうことによって様々な分析視点を理解してください。					
課題・評価方法	レポート90%（対象者の動作分析40%、作業分析15%、日常生活活動の分析15%、プレゼンテーション20%）、授業態度10%					
教科書	山岸茂則：臨床実践 動きのとらえかた。文光堂 吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド。医学書院、2012					
参考書	なし					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論実習	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	人と作業					嶋川 昌典
第2回	作業分析チェックシートの記載の仕方					嶋川 昌典
第3回	作業の一般的特性のシートの記載 見本提示					嶋川 昌典
第4回	作業の一般的特性のシートの記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第5回	振り返り。学生が記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第6回	精神障害領域で必要な要素の記載 見本提示					嶋川 昌典
第7回	精神障害領域で必要な要素の記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第8回	振り返り。学生が記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第9回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた1グループ目の発表）					嶋川 昌典
第10回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた2グループ目の発表）					嶋川 昌典
第11回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた3グループ目の発表）					嶋川 昌典
第12回	前半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
第13回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた4グループ目の発表）					嶋川 昌典
第14回	学生の課題の発表（学生を5グループに分けた5グループ目の発表）					嶋川 昌典
第15回	後半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	小テスト（30%）と成果物（70%）とする。					
教科書	山根寛「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店					
参考書	特になし					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
作業分析活用論Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>作業療法士が治療をしていく上で必要不可欠な「作業」に焦点を置いた分析を学ぶことを目標とする。具体的には、「作業分析チェックシート」の理解と記入ができることである。学生自身が生き生きできる作業活動の一つ以上選択し、その分析をシートに沿って記入していく。授業の後半に報告する時間を設け、用いたシートの項目が必要となる理由、作業療法士が「作業」を用いることの意味づけを学生自身の言葉で表現できるかを到達目標の評価視点とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	人と作業					嶋川 昌典
第2回	作業分析チェックシートの記載の仕方					嶋川 昌典
第3回	作業の一般的特性のシートの記載 見本提示					嶋川 昌典
第4回	作業の一般的特性のシートの記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第5回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第6回	精神障害領域で必要な要素の記載 見本提示					嶋川 昌典
第7回	精神障害領域で必要な要素の記載 実際に記入を行う					嶋川 昌典
第8回	振り返り。記入後に気づいた点の質疑応答					嶋川 昌典
第9回	学生の課題の発表①(演習)					嶋川 昌典
第10回	学生の課題の発表②(演習)					嶋川 昌典
第11回	学生の課題の発表③(演習)					嶋川 昌典
第12回	前半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
第13回	学生の課題の発表④(演習)					嶋川 昌典
第14回	学生の課題の発表⑤(演習)					嶋川 昌典
第15回	後半部分の発表者のまとめ、分析のポイントの確認					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	演習時の授業参加態度(30%)と成果物(70%)とする。					
教科書	山根寛「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店					
参考書	特になし					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 総論	必修	辛島 千恵子	1	30	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	対象者の地域での生活を考えて作業療法を展開するためには、人の暮らしを広い視野で捉えることが大切となる。本講義では①何らかの障害があっても住み慣れた環境で、心の通いあった人々とともに自分らしく生活し続けることの意義や困難さを理解する②地域で生活するケースを通し、支援内容や作業療法士の役割を考えることを授業目標とする。授業内容は座学と地域での学外活動体験を通して、地域の理解と地域で暮らす方々の障害像を学び、地域作業療法の理念と目的を学習する。					
学位授与方針との関連	DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域とは					辛島 千恵子
第2回	地域で生活すること 生と死・生活歴と生活様式					辛島 千恵子
第3回	地域で生活すること 環境と生活様式・生活活動					辛島 千恵子
第4回	ライフステージからみた作業療法の対象者					辛島 千恵子
第5回	地域での作業療法士の役割					辛島 千恵子
第6回	社会保障外の作業療法の対象者					辛島 千恵子
第7回	地域作業療法の理念と目的					辛島 千恵子
第8回	疾病・障害をもちながら地域で暮らすこと					辛島 千恵子
第9回	地域で生活する対象者の例 (がんの啓発イベントに参加する対象者)					辛島 千恵子
第10回	地域で生活する対象者の例 (芸術作品を通して地域に参加する対象者)					辛島 千恵子
第11回	地域で生活する対象者の例 (高齢者向けの健康体操に参加する対象者)					辛島 千恵子
第12回	地域で生活する対象者の例 (語り部活動に参加する対象者)					辛島 千恵子
第13回	学外活動で得たこと					辛島 千恵子
第14回	グループ発表					辛島 千恵子
第15回	グループ発表 全体のまとめ					辛島 千恵子
備考						
授業時間以外の学習について	教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また授業内容をもとに自分の暮らしている地域について考えてみてください。					
課題・評価方法	レポート課題 (60%)、小テスト (10%)、定期試験 (30%)					
教科書	太田睦美：作業療法学全書 (改訂第3版) 第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時紹介していきます。					
オフィスアワー	前期：水 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 総論	必修	木岡 和実	1	30	2年次 前期	講義
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>対象者の地域での生活を考えて作業療法を展開するためには、人の暮らしを広い視野で捉えることが大切となる。本講義では①何らかの障害があっても住み慣れた環境で、心の通いあった人々とともに自分らしく生活し続けることの意義や困難さを理解する②地域で生活するケースを通し、支援内容や作業療法士の役割を考えることを授業目標とする。授業内容は座学と地域での学外活動体験を通して、地域の理解と地域で暮らす方々の障害像を学び、地域作業療法の理念と目的を学習する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域とは					木岡 和実
第2回	地域で生活すること1 生と死・生活歴と生活様式					木岡 和実
第3回	地域で生活すること2 環境と生活様式・生活活動					木岡 和実
第4回	ライフステージからみた作業療法の対象者					木岡 和実
第5回	地域での作業療法士の役割					木岡 和実
第6回	社会保障外の作業療法の対象者					木岡 和実
第7回	地域作業療法の理念と目的					木岡 和実
第8回	疾病・障害をもちながら地域で暮らすこと					木岡 和実
第9回	地域での学外活動体験					木岡 和実
第10回	地域での学外活動体験					木岡 和実
第11回	地域での学外活動体験					木岡 和実
第12回	地域での学外活動体験					木岡 和実
第13回	学外活動で得たこと					木岡 和実
第14回	グループ発表					木岡 和実
第15回	グループ発表 全体のまとめ					木岡 和実
備考						
授業時間以外の学習について	<p>教科書および配布資料をみて事前に予習すること 各回の授業内容をまとめ復習すること、また授業内容をもとに自分の暮らしている地域について考えてみてください。</p>					
課題・評価方法	レポート課題（60%）、授業態度（10%）、定期試験（30%）					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時紹介していきます。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習 I	必	下西 徳	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域社会に参加することの意義を理解する。また作業療法士やその他の関連職種が活動・参加の促進にむけて、どのような役割を果たすべきかを考える」とする。授業形態として講義形式・グループワーク・地域で開催されるリハビリテーション実践活動へ参加する。障害を持つ方が地域社会に参加する機会を提供することの意味やそのことによる日常生活の参加や活動への影響について、参加して得られた情報や作業療法士・多職種からの聞き取った情報をグループワークにて検討し発表することとする。また地域で開催される実践活動の企画・運営を経験する機会とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域の施設の役割と暮らし					下西 徳
第2回	障害と地域への社会参加					下西 徳
第3回	社会参加や活動に向けた作業療法士や多職種の役割					下西 徳
第4回	地域リハビリテーション実践活動の概要と目的					下西 徳
第5回	グループワーク（フィールドワーク時のポイントと聞き取り内容の検討）					下西 徳
第6回	フィールドワーク準備					下西 徳
第7回	フィールドワーク（対象者への情報収集）					下西 徳
第8回	フィールドワーク（施設職員への情報収集）					下西 徳
第9回	フィールドワーク（対象者と一緒に活動に参加し、参加を通して観察する）					下西 徳
第10回	フィールドワーク（参加後に改めて対象者の主観的な体験を聴取する）					下西 徳
第11回	参加後のまとめとグループワーク					下西 徳
第12回	地域社会参加の意義、作業療法的な視点のフィードバック					下西 徳
第13回	発表（学生を2つに分け、前半の発表）					下西 徳
第14回	発表（後半の発表）					下西 徳
第15回	まとめ					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。					
課題・評価方法	レポート試験60%、グループ発表40%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習 I	必	前田 浩二	1	30	2年次 後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関りを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容	担当教員				
第1回	地域参加と目的的活動について	前田 浩二				
第2回	風船バレーボール大会に向けて	前田 浩二				
第3回	風船バレーボール大会参加(演習)	前田 浩二				
第4回	風船バレーボール大会参加(演習)	前田 浩二				
第5回	風船バレーボール大会参加(演習)	前田 浩二				
第6回	グループワーク(風船バレー参加者と企画・運営側について)	前田 浩二				
第7回	グループワーク後の発表	前田 浩二				
第8回	介護保険など、関連制度について	前田 浩二				
第9回	社会資源サービスと多職種について	前田 浩二				
第10回	事例検討の概要と事例の提示(グループワーク)	前田 浩二				
第11回	事例検討(グループワーク)	前田 浩二				
第12回	事例検討(グループワーク)	前田 浩二				
第13回	発表会	前田 浩二				
第14回	発表会	前田 浩二				
第15回	まとめ	前田 浩二				
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。					
課題・評価方法	レポート試験(グループ発表を含む：80%)、授業態度20%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書(改訂第3版)第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義（ビデオ教材含む）と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。</p> <p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、ピアカウンセラーの活動紹介（ビデオ教材）					嶋川 昌典
第2回	ピアカウンセラーの講演 自身の障害（統合失調症）の回復過程の話					嶋川 昌典
第3回	ピアカウンセラーの方へのインタビュー（統合失調症の方）					嶋川 昌典
第4回	ピアカウンセラーの講演 自身の障害（うつ病）の回復過程の話					嶋川 昌典
第5回	ピアカウンセラーの方へのインタビュー（うつ病の方）					嶋川 昌典
第6回	ピアカウンセラーの講演 自身の障害（発達障害）の回復過程の話					嶋川 昌典
第7回	ピアカウンセラーの方へのインタビュー（発達障害の方）					嶋川 昌典
第8回	ピアカウンセラーの講演とインタビュー情報の整理					嶋川 昌典
第9回	学生が整理された情報の質疑応答と教員からの作業療法的視点の説明					嶋川 昌典
第10回	フィードバックを受けた情報を入れての課題の再修正					嶋川 昌典
第11回	情報を得た対象者へのフィードバック、学生発表（統合失調症の方）					嶋川 昌典
第12回	情報を得た対象者へのフィードバック、学生発表（うつ病の方）					嶋川 昌典
第13回	情報を得た対象者へのフィードバック、学生発表（発達障害の方）					嶋川 昌典
第14回	ピアカウンセラーの活動の社会的意味と作業療法士との協業					嶋川 昌典
第15回	全体のまとめ					嶋川 昌典
備考						
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	講演について、学生各自が学べたこと、気づいたことの発表（50%）と成果物（50%）にて評価をする。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：火 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

## 講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学演習Ⅱ	必	嶋川 昌典	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	目標は、実際に地域生活を行っている精神障害の方の生活を知り、理解することである。授業は、講義（ビデオ教材含む）と実際に地域生活をしている当事者の方に来校してもらい、インタビューを通じた演習の2本柱で行う。講義で知ったことと実際の話との相違点、また地域での支援と病院施設での支援の相違点を明確化することがねらいである。学生が学んだことは当事者の方の前でプレゼンを行い、そこで具体的なフィードバックを貰い、理解を深める。授業では当事者参加となるため、週で2コマ以上の編成も含め実施していくこととする。					
学位授与方針との関連	DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション、ピアカウンセラーの活動紹介（ビデオ教材）					嶋川 昌典
第2回	ピアカウンセラーの講演①（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第3回	ピアカウンセラーの講演①（活動紹介と自身の障害回復過程）					嶋川 昌典
第4回	ピアカウンセラーの講演②（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第5回	ピアカウンセラーの講演②（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第6回	講演①と②についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第7回	講演①と②についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第8回	ピアカウンセラーの講演③（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第9回	ピアカウンセラーの講演③（グループインタビュー：障害の回復過程）					嶋川 昌典
第10回	講演③についての講義（作業療法的視点について）とまとめ作業					嶋川 昌典
第11回	講演③についての講義とまとめ作業（学生からの質疑応答含む）					嶋川 昌典
第12回	課題の発表①					嶋川 昌典
第13回	課題の発表②					嶋川 昌典
第14回	課題の発表③					嶋川 昌典
第15回	課題の発表④					嶋川 昌典
備考	講演①、②、③はピアカウンセラーに来校してもらう。①は講演、②、③は小グループに分かれてのインタビュー。全て演習であり、課題の発表①～④も演習である。					
授業時間以外の学習について	授業の事前学習、事後学習をすることを推奨する。					
課題・評価方法	講演②と③について、学生各自が学べたこと、気づいたことの発表（50%）と成果物（50%）にて評価をする。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 実習Ⅲ	必	下西 徳	1	30	3年次 前期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域作業療法の実践過程					下西 徳
第2回	地域での作業療法における評価の視点と目標設定					下西 徳
第3回	介護老人保健施設の役割と作業療法					下西 徳
第4回	通所介護施設の役割と作業療法					下西 徳
第5回	訪問支援事業の役割と作業療法					下西 徳
第6回	事例検討（介護老人保健施設の対象者の例）					下西 徳
第7回	事例検討（訪問リハを受ける対象者の例）					下西 徳
第8回	プレ面接と評価					下西 徳
第9回	地域在住対象者（対象者の情報収集）					下西 徳
第10回	地域在住対象者（対象者の日常生活面の評価）					下西 徳
第11回	地域在住対象者（対象者への作業を用いた評価）					下西 徳
第12回	情報のまとめ、統合と解釈					下西 徳
第13回	作業療法介入の検討					下西 徳
第14回	グループ発表（学生を半分に分け、前半の発表）					下西 徳
第15回	グループ発表（後半の発表）					下西 徳
備考	第9回から第11回は準備・作業療法の説明・面接・評価・後片付けをおこなう。					
授業時間以外の学習について	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。地域の方との関わりの前には、グループ単位での準備・予習が必要になります。					
課題・評価方法	レポート課題（80%）、小テスト（20%）					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時、紹介する。					
オフィスアワー	前期：火 16：10～17：15 木 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学 演習Ⅲ	必	前田 浩二	1	30	3年次 前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、①各通所系サービスや訪問リハビリテーションについての目的について理解し、説明することができる②行政が求める今後の作業療法士の活躍について理解する③通所リハ利用者との関りを通して、障害を持ちながら地域で暮らす方への支援方法について考えることとする。授業形態として、主に障害を持ちながら地域で暮らす方を学校に招き、対象者からの語りと一部面接や評価から、情報のまとめとどのようなアプローチが考えられるかを検討していく。そのため、授業進行は週に2コマ以上の編成も含めて実施していくこととする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	オリエンテーション 地域作業療法の実践過程					前田 浩二
第2回	地域での作業療法における評価の視点と目標設定					前田 浩二
第3回	介護老人保健施設の役割と作業療法					前田 浩二
第4回	通所介護施設の役割と作業療法					前田 浩二
第5回	訪問支援事業の役割と作業療法					前田 浩二
第6回	事例検討					前田 浩二
第7回	事例検討					前田 浩二
第8回	ブレ面接と評価					前田 浩二
第9回	地域在住対象者① (演習)					前田 浩二
第10回	地域在住対象者② (演習)					前田 浩二
第11回	地域在住対象者③ (演習)					前田 浩二
第12回	情報のまとめと事例検討					前田 浩二
第13回	事例検討					前田 浩二
第14回	グループ発表					前田 浩二
第15回	グループ発表 全体のまとめ					前田 浩二
備考	第9回から第11回は準備・作業療法の説明・面接・評価・後片付けをおこなう。					
授業時間以外の学習について	授業にむけて配布資料や教科書をみて予習しておくこと。授業内容の振り返りを行うこと。					
課題・評価方法	レポート課題 (80%)、授業態度 (20%)					
教科書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
参考書	随時、紹介する。					
オフィスアワー						

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学実習Ⅱ	必	有田 智氏	1	30	1年次 後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ることが目標とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。</p> <p>到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「作業」の意味					有田 智氏
第2回	作業実習（ネット手芸・導入、工程の説明）					有田 智氏
第3回	作業実習（ネット手芸・デザインを決め、パーツ毎に柄を作っていく）					有田 智氏
第4回	作業実習（ネット手芸・各パーツの繋ぎ合わせと仕上げ）					有田 智氏
第5回	作業実習（籐細工・導入、工程の説明）					有田 智氏
第6回	作業実習（籐細工・籐の用意と井桁編み）					有田 智氏
第7回	作業実習（籐細工・基本的な編み方の練習）					有田 智氏
第8回	作業実習（籐細工・立ち上げの仕方とかがりの始末）					有田 智氏
第9回	作業実習（革細工・導入、工程の説明）					有田 智氏
第10回	作業実習（革細工・革の裁断と基本的なスタンピングの練習）					有田 智氏
第11回	作業実習（革細工・カービングの技法）					有田 智氏
第12回	作業実習（革細工・色付けの仕方、穴あけ、裏革を貼り付ける）					有田 智氏
第13回	作業実習（革細工・レーシングと始末）					有田 智氏
第14回	作業実習（絵本に込められた発達心理の考えの説明）					有田 智氏
第15回	作業実習（各年齢の発達課題の意味が込められた作品を通じた検討会）					有田 智氏
備考						
授業時間以外の学習について	特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。					
課題・評価方法	筆記試験（60%）、小テスト（10%）、レポート（15%）、作品等（15%）					
教科書	なし					
参考書	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 (社)日本作業療法士協会編著：作業療法学全書第2巻 基礎作業学. 協同医書出版社					
オフィスアワー	後期：月 16：10～17：15 水 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
基礎作業学演習Ⅰ	必	前田 浩二	1	30	1年次前期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業のもつ意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる事、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ることが目標とする。作業活動の工程、特徴、工夫点、教授方法などの講義するとともに、様々な作業活動を実際に経験し、レポートにて考察をすることで理解を深める。</p> <p>到達目標は①「作業」意味を理解し、様々な作業活動の工程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになる②様々な作業活動を通して、作業療法での活用の視点の一部を知るとする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を修得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	「作業」の意味					前田 浩二
第2回	作業演習（ネット手芸・導入）					前田 浩二
第3回	作業演習（ネット手芸・演習）					前田 浩二
第4回	作業演習（ネット手芸・演習）					前田 浩二
第5回	作業演習（籐細工・導入）					前田 浩二
第6回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第7回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第8回	作業演習（籐細工・演習）					前田 浩二
第9回	作業演習（革細工・導入）					前田 浩二
第10回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第11回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第12回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第13回	作業演習（革細工・演習）					前田 浩二
第14回	作業演習（絵本分析導入）					前田 浩二
第15回	作業演習（絵本分析）					前田 浩二
備考						
授業時間以外の学習について	<p>特に予習・復習は求めませんが、単に各作業で作品をきれいに作ることを目的とした科目ではありません。各作業にどのような工程があり、どのような対象の方に用いることができるのか、またその目的は何か、どのような段階付けや工夫ができるのかを考えながら、授業に臨んでください。</p>					
課題・評価方法	筆記試験（60%）、授業態度（10%）、レポート（15%）、作品等（15%）					
教科書	なし					
参考書	<p>標準作業療法学 専門分野 基礎作業学                      （社）日本作業療法士協会編者：作業療法学全書第2巻 基礎作業学 協同医書出版社</p>					
オフィスアワー						

## 水準と臨床実習の教育目標との関係

理学療法評価技術		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ
問診・視診・触診・聴診、形態測定、感覚検査、反射検査、筋緊張検査、関節可動域検査、筋力検査、協調運動機能検査、高次神経機能検査、脳神経検査、姿勢観察・基本動作能力・移動動作能力・作業工程分析、バランス検査、日常生活活動評価、手段的日常生活活動評価、疼痛、整形外科的テスト、脳卒中運動機能検査(Brunnstrom stageなど)、脊髄損傷の評価(ASIAなど)、神経・筋疾患の評価、活動性(歩数計など)、運動耐容能検査(6分間歩行テストなど)、各種発達評価	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目生理・運動機能検査の援助:心肺運動負荷検査、12誘導心電図、スパイロメーター、超音波、表面筋電図を用いた検査、動作解析装置、重心動揺計	障害像・プログラム・予後の対象者・家族への説明 精神・心理検査

理学療法治療技術(運動療法)		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ
関節可動域運動、筋力増強運動、全身持久力トレーニング、運動学習、バランス練習、基本動作練習(起き上がり動作、移乗動作、起立・着座動作、床上動作、発達を促す練習を含む)、移動動作練習(歩行動作、応用歩行動作、階段昇降、プール練習を含む)、日常生活活動練習、手段的日常生活活動練習	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目治療体操、離床練習、発達を促通する手技、排痰法	吸引法、人口呼吸器の操作、生活指導、患者教育

理学療法治療技術(物理療法)		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ
ホットパック療法、パラフィン療法、アイスパック療法、渦流浴療法(褥瘡・創傷治療を除く)、低出力レーザー光線療法、EMGバイオフィードバック療法	超音波療法、電気刺激療法(褥瘡・創傷治療、がん治療を除く)、近赤外線療法、紫外線療法、脊椎牽引療法、CPM:持続的他動運動、マッサージ療法、極超短波療法・超短波療法(電磁両立性に留意)、骨髄抑制中の電気刺激療法(TENSなど)	褥瘡・創傷治療に用いて感染のリスクがある場合の治療:水治療法(渦流浴)、電気刺激療法(直流微弱電流、高電圧パルス電気刺激)、近赤外線療法、パルス超音波療法、非温熱パルス電磁波療法、がん治療:がん性疼痛・がん治療有害事象等に対する電気刺激療法(TENS:経皮的電気刺激)

リスク管理技術		
水準Ⅰ	水準Ⅱ	水準Ⅲ
スタンダードプリコーション、症状(顔色、表情など)・病態の観察、バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧)の測定、意識レベルの評価、症状・病態の観察、各種モニターの使用(心電図、パルスオキシメーター、筋電図)、褥瘡の予防、転倒予防、酸素吸入療法中の患者の管理	創部管理、廃用性症候群予防、酸素ボンベの操作、ドレーン・カテーテル留置中の患者の管理、生命維持装置(人工呼吸器、人工心肺装置、人工透析など)装着中の患者の管理、点滴静脈内注射・中心静脈栄養中・経管栄養中の患者	

水準Ⅰ: 指導者の直接監視下で学生により実施される

水準Ⅱ: 指導者の補助として実施されるべき項目および状態

水準Ⅲ: 見学にとどめておくべき項目および状態







理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																	✓				
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																	✓				
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																			✓	✓	
医療福祉センターきずな	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																		✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																		✓			
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																		✓			
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																				✓	✓
医療福祉センターきずな	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																✓					
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																✓					
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																		✓			
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																			✓		
医療法人 堤整形外科	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																			✓		
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																				✓	
医療法人 堤整形外科	近施設	1																				✓	
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																			✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓	✓				
加賀市医療センター	遠施設	1																✓	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																			✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓	✓				
加賀市医療センター	遠施設	1																✓	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
枚方総合発達医療センター	中施設	1																			✓		
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓	
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																		✓			
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																		✓			
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1														✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																			✓		
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																			✓		
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																			✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																			✓		
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																			✓		
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																			✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
公立甲賀病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																			✓	✓	
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
公立甲賀病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																				✓	✓
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																✓					
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																✓					
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日





理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2023年1月9日(月)~2月19日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	2											✓																✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	2											✓																✓			
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	2											✓																✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週													
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
市立長浜病院	近施設	2												✓																					✓		
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	2												✓																					✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	2											✓																				✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	2												✓																✓		
公立甲賀病院	近施設	2									✓																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人 マキノ病院	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	2								✓														✓						
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	2									✓														✓					
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	2									✓														✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週													
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	近施設	2											✓																					✓			
医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	近施設	2												✓																					✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
公益財団法人 豊郷病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	2									✓																✓					
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	2								✓															✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	2											✓														✓			
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週													
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日							
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	2											✓																				✓				
京都大学医学部附属病院	中施設	2											✓																				✓				
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	2										✓																						✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	2									✓															✓				
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	2										✓															✓			
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	2										✓															✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	2											✓														✓			
社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデン伏見	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	2										✓														✓				
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここちの郷	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	2										✓															✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	2										✓															✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	2										✓														✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	2										✓														✓				
社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設ハートフル	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1												✓															✓	
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓															✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表((2022年6月20日(月)~7月17日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日







理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																✓					
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1																✓					
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																✓					
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1																✓					
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																			✓		
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
京都大学医学部附属病院	中施設	1																✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																		✓			
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																			✓		
医療法人 堤整形外科	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																			✓		
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																				✓	
医療法人 堤整形外科	近施設	1																				✓	
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																				✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																					✓	
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																					✓	
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓	✓					
加賀市医療センター	遠施設	1																✓	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																					✓	
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																						✓
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																						✓
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																✓	✓					
加賀市医療センター	遠施設	1																✓	✓					

※ 2つ目の✓は、予備日



理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																			✓		
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																			✓		
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																			✓		
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																				✓	
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																				✓	
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																				✓	
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																					✓
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																					✓
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																✓	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
公立甲賀病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																	✓				
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																			✓	✓	
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
公立甲賀病院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																		✓			
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																				✓	✓
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字志賀病院	近施設	1																✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																		✓			
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																	✓				
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																	✓				
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																✓					
こばやし整形外科	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																✓					
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																✓					
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																✓					
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																✓					
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																	✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																	✓				
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																			✓		
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																			✓	✓	
市立敦賀病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1																				✓	
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																				✓	✓
市立敦賀病院	遠施設	1																				✓	✓

※ 2つ目の✓は、予備日



理学療法総合臨床実習 I (6週間) 巡回指導計画表(2024年1月8日(月)~2月18日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																	✓				
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																			✓	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 池谷雅江(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1															✓						
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1															✓						
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1															✓						
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
一般社団法人愛生会山科病院	近施設	1															✓						
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1															✓						
医療法人幸生会 琵琶湖中央病院	近施設	1															✓						
医療法人祥風会 山本整形外科医院	遠施設	1																	✓	✓			
医療福祉センターきずな	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																		✓			
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																		✓			
医療法人 恭昭会 彦根中央リハビリテーションクリニック	近施設	1																		✓			
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																			✓		
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																			✓		
医療法人瑞晴會 水谷整形外科医院	近施設	1																			✓		
医療法人 恭昭会 彦根中央リハビリテーションクリニック	近施設	1																			✓		
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	1																				✓	
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
はたスポーツ整形クリニック	近施設	1																✓					
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓					
こまいざわ整形外科クリニック	近施設	1																			✓		
社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																	✓				
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																	✓				
医療法人 堤整形外科	近施設	1																	✓				
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																				✓	
長浜市立湖北病院	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	1																				✓	
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	1																		✓			
医療法人良善会 ひかり病院	近施設	1																		✓			
医療法人 堤整形外科	近施設	1																		✓			
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																					✓
長浜市立湖北病院	中施設	1																					✓

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																					✓		
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																						✓	
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																						✓	
加賀市医療センター	遠施設	1																					✓	✓	
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																					✓	✓	
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																				✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	1																						✓	
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	1																							✓
医療法人 おした整形外科医院	近施設	1																							✓
加賀市医療センター	遠施設	1																						✓	✓
医療法人社団慈豊会 加賀温泉リハビリクリニック	遠施設	1																						✓	✓
医療法人社団緑水会 緑水会病院	中施設	1																					✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																	✓				
宇治徳洲会病院	中施設	1																			✓		
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会医療法人協和会 加納総合病院	中施設	1																	✓				
宇治徳洲会病院	中施設	1																			✓		
公益財団法人 丹後中央病院	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1															✓						
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1															✓						
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																✓					
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1															✓						
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1															✓						
医療法人 天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
独立行政法人 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	中施設	1																✓					
医療法人 仁勇会 三津整形外科	遠施設	1																		✓	✓		
医療法人社団 順心会 順心淡路病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																✓					
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																	✓				
こばやし整形外科	近施設	1																	✓				
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
白石クリニック	中施設	1																			✓		
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	1																✓					
滋賀県立障害者総合診療所	近施設	1																	✓				
こばやし整形外科	近施設	1																	✓				
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
白石クリニック	中施設	1																			✓		
枚方総合発達医療センター	中施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1															✓						
公立甲賀病院	近施設	1															✓						
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1															✓						
京都大学医学部附属病院	中施設	1																			✓		
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1															✓						
公立甲賀病院	近施設	1															✓						
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1															✓						
京都大学医学部附属病院	中施設	1																			✓		
社会医療法人 慈薫会 河崎病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人スミヤ 角谷整形外科病院	遠施設	1																✓	✓				
医療法人啓信会 京都きづ川病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	近施設	1																✓					
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学 園	近施設	1																✓					
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																	✓				
医療法人湖青会 青木医院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 SEISEN 清泉クリニック整形外科 静岡	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																	✓				
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1																	✓				
医療法人湖青会 青木医院	近施設	1																		✓			
医療法人社団 SEISEN 清泉クリニック整形外科 静岡	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1																	✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																	✓				
いえだ整形外科リハビリクリニック	中施設	1																		✓			
医療法人 天翔会 第二上田リハビリテーション診療所	中施設	1																✓					
医療法人 真生会 向日回生病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 さいき整形外科	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																			✓		
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1															✓						
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																✓					
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																			✓		
般財団法人競馬共助会 栗東診療所	近施設	1															✓						
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	1																✓					
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																	✓	✓			
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																	✓	✓			
日本赤十字社 舞鶴赤十字病院	遠施設	1																	✓	✓			
市立敦賀病院	遠施設	1																	✓	✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
JA徳島厚生連 阿南共栄病院	遠施設	1																		✓	✓		
公益社団法人 地域医療振興協会 越前町国民健康保険織田病院	遠施設	1																		✓	✓		
日本赤十字社 舞鶴赤十字病院	遠施設	1																		✓	✓		
市立敦賀病院	遠施設	1																		✓	✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1															✓						
医療法人 マキノ病院	中施設	1															✓						
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																				✓	
公立甲賀病院	近施設	1																				✓	
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	1															✓						
医療法人 マキノ病院	中施設	1															✓						
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	1																				✓	
公立甲賀病院	近施設	1																				✓	
医療法人社団 村上整形外科クリニック	近施設	1																				✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法総合臨床実習Ⅱ(6週間) 巡回指導計画表(2023年4月10日(月)~5月21日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週									
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1															✓									
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																			✓					
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																			✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																	✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1														✓									
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓					
社会福祉法人照昭会 伏見桃山総合病院	中施設	1																		✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓							

※ 2つ目の✓は、予備日



理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 宇於崎孝(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	2											✓															✓		
日本赤十字社 長浜赤十字病院	近施設	2											✓															✓		
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 大西 均(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人社団昂会 日野記念病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人友仁会 友仁山崎病院	近施設	2												✓																		✓		
公立甲賀病院	近施設	2									✓																		✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 川崎浩子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人社団誠広会 平野総合病院	中施設	2											✓														✓			
医療法人 マキノ病院	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 佐々木絵美(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 吉川整形外科クリニック	近施設	2								✓														✓						
医療法人清仁会 シミズ病院	中施設	2									✓														✓					
医療法人東和会 第一東和会病院	中施設	2									✓														✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 里中綾子(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
医療法人友仁会 介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	近施設	2											✓																			✓			
医療法人湖青会 介護老人保健施設 ケアセンター志賀	近施設	2												✓																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 治郎丸卓三(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人 豊郷病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	2									✓																		✓					
医療法人徳洲会 近江草津徳洲会病院	近施設	2								✓																	✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 鈴木美香(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人 恩賜財団 済生会守山市民病院	近施設	2											✓														✓			
社会医療法人弘仁会 大島病院	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)～7月16日(日))

担当教員名 野口真一(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック	近施設	2										✓													✓					
京都大学医学部附属病院	中施設	2										✓													✓					
公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 弘部重信(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	2									✓																			✓					
滋賀県立小児保健医療センター	近施設	2										✓																			✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	2										✓																			✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 藤谷 亮(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	2											✓														✓			
社会福祉法人 浩照会 介護老人保健施設 あじさいガーデ ン伏見	中施設	2												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 分木ひとみ(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	2										✓																		✓				
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設 ここの郷	近施設	2										✓																		✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 安田 孝志(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週									
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	2											✓																				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	2											✓																				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 山内正雄(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	2										✓														✓				
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	2										✓														✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 和智道生(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	2										✓														✓				
社会医療法人協和会 淀川介護老人保健施設ハートフル	中施設	2											✓														✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 堀 寛史(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院	近施設	1												✓															✓	
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓															✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

理学療法評価実習(4週間) 巡回指導計画表(2023年6月19日(月)~7月16日(日))

担当教員名 植田昌治(理学療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1											✓																✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

	実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	担当教員	第1週							第2週							第3週							第4週																										
					月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日																				
1	高島市民病院	中施設	1	木岡和実								✓																					✓																			
2	社会福祉法人よつば会 特別養護老人ホーム 風流里	近施設	1	木岡和実										✓																																						
3	医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1	澤賢一郎									✓																																							
4	医療法人 金沢整形外科クリニック テイケアしおん	近施設	1	杉本久美子										✓																																						
5	社会福祉法人真寿会老人保健施設 リハビリセンターあゆみ	近施設	1	大西 満										✓																																						
6	米原市地域包括医療福祉センター 「ふくしあ」	近施設	1	有田智氏																																																
7	社会福祉法人六心会 介護老人保健施設ここの郷	近施設	1	大西 満											✓																																					
8	医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1	杉本久美子											✓																																					
9	医療法人森昭会 彦根中央病院	近施設	1	有田智氏											✓																																					
10	滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1	嶋川昌典																																																
11	市立長浜病院	近施設	1	有田智氏																																																
12	社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1	嶋川昌典																																																
13	医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1	木岡和実																																																
14	公益社団法人 地域医療振興協会 地域包括ケアセンターいぶき	近施設	1	有田智氏																																																
15	医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1	澤賢一郎																																																
16	公益財団法人 豊郷病院	近施設	1	嶋川昌典											✓																																					
17	滋賀県立総合病院	近施設	1	杉本久美子																																																
18	一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1	杉本久美子																																																
19	公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1	安部征哉																																																
20	日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1	木岡和実																																																
21	医療法人 マキノ病院	中施設	1	木岡和実																																																
22	公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1	安部征哉																																																
23	長浜市立湖北病院	中施設	1	安部征哉																																																
24	一般社団法人 水口病院	近施設	1	澤賢一郎																																																
25	和邇いきいきリハビリセンター	近施設	1	木岡和実																																																
26	医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1	大西 満																																																
27	彦根市立病院	近施設	1	辛島千恵子																																																
28	社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1	嶋川昌典																																																
29	公益財団法人近江兄弟社 介護老人保健施設ヴォーリス老健センター	近施設	1	安部征哉																																																
30	特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1	下西 徳																																																
31	介護老人保健施設 ケアポート栗東	近施設	1	下西 徳																																																
32	社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1	下西 徳																																																
33	地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1	木岡和実																																																
34	医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1	杉本久美子																																																
35	医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1	大西 満																																																
36	医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1	下西 徳																																																
37	近江八幡市立総合医療センター	近施設	1	辛島千恵子																																																
38	公立甲賀病院	近施設	1	杉本久美子																																																
39	医療法人 滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	近施設	1	杉本久美子																																																
40	医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1	辛島千恵子																																																

※ 2つ目の✓は、予備日



作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1																✓					
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																✓					
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1																✓					
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																✓					
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓						
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓						
公立甲賀病院	近施設	1																					✓	

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓						
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓				
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓						
公立甲賀病院	近施設	1																					✓	

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																	✓				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																				✓	
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																				✓	
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																			✓		
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																	✓				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																				✓	
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																				✓	
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																			✓		
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)~2/19(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓					
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓					
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																	✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓					
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓					
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2023年 1/9(月)～2/19(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
社会福祉法人真寿会老人保健施設 リハビリセンターあゆみ	近施設	1								✓																		✓						
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設ここの郷	近施設	1										✓																		✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1												✓																		✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1												✓																		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1											✓																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1									✓																		✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1								✓																	✓							
公益財団法人近江兄弟社 介護老人保健施設 ヴォーリス老健センター	近施設	1									✓																	✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
彦根市立病院	近施設	1									✓																			✓					
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1										✓																			✓				
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1												✓																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓																			✓		
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1												✓																			✓		
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1									✓																	✓							
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1									✓																	✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1								✓														✓						
介護老人保健施設 ケアポート栗東	近施設	1											✓														✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1								✓														✓						
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリ	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」	近施設	1											✓														✓			
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1								✓													✓							
市立長浜病院	近施設	1									✓													✓						
公益社団法人 地域医療振興協会 地域包括ケアセンターいぶき	近施設	1											✓													✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1											✓																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1								✓																		✓						
一般社団法人 水口病院	近施設	1												✓																		✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
高島市民病院	中施設	1								✓															✓						
社会福祉法人 よつば会 特別養護老人ホーム 風流里	近施設	1											✓															✓			
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1												✓															✓		
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1										✓															✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1								✓															✓						
和邇いきいきリハビリセンター	近施設	1											✓															✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1										✓															✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2022年 7/4(月)~7/31(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人 金沢整形外科クリニック デイケアしおん	近施設	1										✓														✓				
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1								✓													✓							
滋賀県立総合病院	近施設	1												✓													✓			
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1									✓													✓						
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1										✓													✓					
公立甲賀病院	近施設	1												✓													✓			
医療法人滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	近施設	1								✓													✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

	実習施設名	カテゴリー	学生数(人)	担当教員	第1週							第2週							第3週							第4週												
					月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日						
1	高島市民病院	中施設	1	木岡和実							✓													✓														
2	社会福祉法人よつば会 特別養護老人ホーム 風流里	近施設	1	木岡和実									✓														✓											
3	医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1	澤賢一郎									✓														✓											
4	医療法人 金沢整形外科クリニック テイケアしおん	近施設	1	杉本久美子									✓														✓											
5	社会福祉法人真寿会老人保健施設 リハビリセンターあゆみ	近施設	1	大西 満							✓														✓													
6	米原市地域包括医療福祉センター 「ふくしあ」	近施設	1	有田智氏											✓																					✓		
7	社会福祉法人六心会 介護老人保健施設ここの郷	近施設	1	大西 満										✓													✓											
8	医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1	杉本久美子							✓														✓													
9	医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1	有田智氏									✓													✓												
10	滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1	嶋川昌典														✓																			✓	
11	市立長浜病院	近施設	1	有田智氏											✓												✓											
12	社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1	嶋川昌典																																	✓	
13	医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1	木岡和実																																	✓	
14	公益社団法人 地域医療振興協会 地域包括ケアセンターいふき	近施設	1	有田智氏																																	✓	
15	医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1	澤賢一郎									✓													✓												
16	公益財団法人 豊郷病院	近施設	1	嶋川昌典									✓													✓												
17	滋賀県立総合病院	近施設	1	杉本久美子																																	✓	
18	一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1	杉本久美子											✓											✓												
19	公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1	安部征哉																																	✓	
20	日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1	木岡和実																																		
21	医療法人 マキノ病院	中施設	1	木岡和実									✓													✓												
22	公益財団法人近江兄弟社 ヴァーリス記念病院	近施設	1	安部征哉											✓												✓											
23	長浜市立湖北病院	中施設	1	安部征哉											✓											✓												
24	一般社団法人 水口病院	近施設	1	澤賢一郎																																	✓	
25	和邇いきいきリハビリセンター	近施設	1	木岡和実																																	✓	
26	医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1	大西 満																																	✓	
27	彦根市立病院	近施設	1	辛島千恵子																																		✓
28	社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1	嶋川昌典																																	✓	
29	公益財団法人近江兄弟社 介護老人保健施設ヴァーリス老健センター	近施設	1	安部征哉																																		✓
30	特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1	下西 徳																																	✓	
31	介護老人保健施設 ケアポート栗東	近施設	1	下西 徳																																	✓	
32	社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1	下西 徳																																	✓	
33	地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1	木岡和実																																	✓	
34	医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1	杉本久美子																																	✓	
35	医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1	大西 満																																	✓	
36	医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1	下西 徳																																	✓	
37	近江八幡市立総合医療センター	近施設	1	辛島千恵子																																	✓	
38	公立甲賀病院	近施設	1	杉本久美子																																	✓	
39	医療法人 滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	近施設	1	杉本久美子																																	✓	
40	医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1	辛島千恵子																																	✓	

※ 2つ目の✓は、予備日





作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																		✓			
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1															✓						
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1															✓						
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																	✓				
一般社団法人 水口病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓			
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																✓					
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1																		✓			
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																✓					
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1																			✓		
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																	✓				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																		✓			

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀県立総合病院	近施設	1																			✓		
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																	✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																	✓				
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1																		✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)~2/18(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1																	✓				
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																	✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1																	✓				
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅰ 巡回指導計画表(2024年 1/8(月)～2/18(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
市立長浜病院	近施設	1																	✓				
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																	✓				
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																			✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)~5/21(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																			✓		
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1															✓						
医療法人桜花会 醍醐病院	中施設	1																			✓		
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1																	✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1															✓						
市立長浜病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
高島市民病院	中施設	1															✓						
市立長浜病院	近施設	1																✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1																		✓			
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人一仁会 脳神経リハビリ北大路病院	中施設	1																✓					
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1																			✓		
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院	中施設	1																✓					
公立甲賀病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)~5/21(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1																✓					
彦根市立病院	近施設	1																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1																	✓				

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1															✓						
滋賀県立総合病院	近施設	1																		✓			
一般社団法人 水口病院	近施設	1															✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人三幸会 第二北山病院	中施設	1																			✓		
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1															✓						
滋賀県立総合病院	近施設	1																		✓			
一般社団法人 水口病院	近施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 有田智氏(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																			✓		
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1																	✓				
医療法人恒昭会 藍野病院	中施設	1																			✓		
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1																✓					
社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	中施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1															✓						
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																			✓		

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1															✓						
医療法人恭昭会 彦根中央病院	近施設	1																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院	近施設	1																			✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1															✓						
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																			✓		
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1															✓						

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1																✓					
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1																			✓		
医療法人 梁山会診療所	中施設	1															✓						
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1																✓					
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1																		✓			
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1																			✓		
医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	中施設	1																		✓			
医療法人社団 行陵会 京都大原記念病院	中施設	1															✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療総合臨床実習Ⅱ 巡回指導計画表(2023年 4/10(月)～5/21(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																				✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓						
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																✓						
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																				✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓						
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓						
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1															✓							

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第4週							第5週							第6週							
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
医療法人清仁会 洛西シミズ病院	中施設	1																				✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1																✓						
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1																✓						
医療法人天翔会 上田リハビリテーション診療所	中施設	1																				✓		
医療法人 マキノ病院	中施設	1																✓						
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1																✓						
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1															✓							

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 大西 満(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週								
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
社会福祉法人真寿会老人保健施設 リハビリセンターあゆみ	近施設	1								✓																✓						
社会福祉法人六心会 介護老人保健施設ここの郷	近施設	1										✓																✓				
医療法人医誠会 神崎中央病院	近施設	1												✓																✓		
医療法人芙蓉会 南草津病院	近施設	1												✓																✓		

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)～7/30(日))

担当教員名 安部征哉(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院	近施設	1											✓																		✓			
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院	近施設	1									✓																		✓					
長浜市立湖北病院	中施設	1								✓																	✓							
公益財団法人近江兄弟社 介護老人保健施設 ヴォーリス老健センター	近施設	1									✓																				✓			

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 辛島千恵子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
彦根市立病院	近施設	1									✓																			✓					
近江八幡市立総合医療センター	近施設	1												✓																			✓		
医療法人恒仁会 近江温泉病院	近施設	1										✓																		✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 嶋川昌典(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
滋賀医科大学医学部附属病院	近施設	1												✓															✓	
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津	近施設	1												✓															✓	
公益財団法人 豊郷病院	近施設	1									✓														✓					
社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	近施設	1									✓														✓					

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)～7/30(日))

担当教員名 下西 徳(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
特定医療法人社団御上会 野洲病院	近施設	1								✓														✓						
介護老人保健施設 ケアポート栗東	近施設	1											✓														✓			
社会福祉法人びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	近施設	1								✓														✓						
医療法人社団 弓削メディカルクリニック	近施設	1												✓														✓		

※ 2つ目の✓は、予備日



作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 澤賢一郎(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週						
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院	近施設	1										✓														✓				
医療法人社団仁生会 甲南病院	近施設	1							✓													✓								
一般社団法人 水口病院	近施設	1											✓													✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 木岡和実(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週											
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
高島市民病院	中施設	1								✓																			✓						
社会福祉法人 よつば会 特別養護老人ホーム 風流里	近施設	1											✓																			✓			
医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	近施設	1												✓																			✓		
日本赤十字社 大津赤十字病院	近施設	1										✓																			✓				
医療法人 マキノ病院	中施設	1								✓																			✓						
和邇いきいきリハビリセンター	近施設	1											✓																			✓			
地方独立行政法人 市立大津市民病院	近施設	1										✓																			✓				

※ 2つ目の✓は、予備日

作業療法学科 作業療法評価実習 巡回指導計画表(2023年 7/3(月)~7/30(日))

担当教員名 杉本久美子(作業療法学科)

実習施設名	カテゴリー	学生数 (人)	第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
医療法人 金沢整形外科クリニック デイケアしおん	近施設	1										✓																		✓				
医療法人明和会 琵琶湖病院	近施設	1								✓																		✓						
滋賀県立総合病院	近施設	1												✓																		✓		
一般財団法人近江愛隣園 今津病院	中施設	1									✓																		✓					
医療法人 華頂会 琵琶湖養育院病院	近施設	1										✓																		✓				
公立甲賀病院	近施設	1												✓																		✓		
医療法人滋賀勤労者保健会 介護老人保健施設 日和の里	近施設	1								✓																		✓						

※ 2つ目の✓は、予備日

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 藤谷 亮  
 3. 職位・区分 講師（実研）  
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

運動学Ⅱ（2年前期 1単位 30時間）×2（里中、藤谷、安田）  
 神経障害系理学療法実習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）  
 理学療法評価学演習（3年前期 1単位 30時間）  
 運動学実習（2年後期 1単位 30時間）（藤谷、安田）  
 神経障害系理学療法実習Ⅰ（2年後期 1単位 30時間）  
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）  
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	藤谷（3年 神経障害系理学療法実習Ⅱ）A	研究日	藤谷（2年 運動学Ⅱ）A	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	藤谷（3年 神経障害系理学療法実習Ⅱ）B	研究日	藤谷（2年 運動学Ⅱ）B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	藤谷（3年 理学療法評価学演習）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	藤谷（3年 理学療法評価学演習）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	藤谷（2年 運動学実習）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	藤谷（2年 運動学実習）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	藤谷（3年 神経障害系理学療法実習Ⅱ）A	藤谷（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	藤谷（3年 神経障害系理学療法実習Ⅱ）B	学内業務	藤谷（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	学内業務

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 大西 均  
 3. 職位・区分 准教授（実研）  
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

義肢装具学Ⅰ（2年前期 1単位 30時間）×2（安田、大西均）  
 理学療法評価学実習（2年前期 2単位 60時間）×2（宇於崎、大西均）  
 運動器障害系理学療法実習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）×2（安田、大西均、前川（兼任））  
 義肢装具学Ⅱ（2年後期 1単位 30時間）×2（安田、大西均）  
 運動器障害系理学療法実習Ⅰ（2年後期 1単位 30時間）×2  
 フィットネス論（3年後期 2単位 30時間）（大西均、治郎丸、佐藤）  
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）  
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	大西均（2年 理学療法評価学実習）A	学内業務	学内業務	研究日	大西均（3年 運動器障害系理学療法実習）
2限目（10：40～12：10）	大西均（2年 理学療法評価学実習）B	学内業務	学内業務	研究日	大西均（3年 運動器障害系理学療法実習）
3限目（13：00～14：30）	大西均（2年 義肢装具学Ⅰ）A	学内業務	大西均（2年 理学療法評価学実習）A	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	大西均（2年 義肢装具学Ⅰ）B	学内業務	大西均（2年 理学療法評価学実習）B	研究日	学内業務
16：10～17：15	学内業務	学内業務	オフィスアワー	研究日	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	大西均（2年 運動器障害系理学療法実習Ⅰ）A	研究日	学内業務	大西均（2年 義肢装具学Ⅱ）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	大西均（3年 フィットネス論）	研究日	学内業務	大西均（2年 義肢装具学Ⅱ）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	大西均（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	大西均（2年 運動器障害系理学療法実習Ⅰ）B	研究日	学内業務	大西均（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前 神経筋骨格障害応用論実習（4年前期 2単位 90時間）  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 安田 孝志  
 3. 職位・区分 准教授（実研）  
 4. 担当科目

前期 15週 後期 15週

運動学Ⅱ（2年前期 1単位 30時間）（里中、藤谷、安田）  
 義肢装具学Ⅰ（2年前期 1単位 30時間）×2（安田、大西均）  
 運動器障害系理学療法学演習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）×2（安田、大西均、前川（兼任））  
 障がい者スポーツ論実習（4年前期 1単位 30時間）（安田、池谷）  
 障がい者スポーツ論実習（4年前期 1単位 30時間）兼任  
 運動学実習（2年後期 1単位 30時間）（安田、藤谷）×2  
 義肢装具学Ⅱ（2年後期 1単位 30時間）×2（安田、大西均）  
 障がい者スポーツ論（3年後期 1単位 15時間）×2  
 ゴルフトレーニング論（3年後期 2単位 30時間）（宇於崎、安田、奥村（兼任））  
 ロボット工学地域活用論基礎（3年後期 1単位 15時間）  
 ロボット工学地域活用論応用（3年後期 2単位 30時間）  
 リハビリテーション総合  
 演習（3年後期 1単位  
 30時間）  
 理学療法総合演習（4年  
 後期 1単位 30時間）  
 障がい者スポーツ論（3  
 年後期 1単位 15時  
 間）兼任

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	安田（2年 運動学Ⅱ）A	学内業務	安田（3年 運動器障害系理学療法学実習Ⅱ）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	安田（2年 運動学Ⅱ）B	学内業務	安田（3年 運動器障害系理学療法学実習Ⅱ）B
3限目（13：00～14：30）	安田（2年 義肢装具学Ⅰ）A	研究日	安田（4年 障がい者スポーツ論実習）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	安田（2年 義肢装具学Ⅰ）B	研究日	安田（4年 障がい者スポーツ論実習）B	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	安田（2年 運動学実習）A	研究日	安田（3年ロボット工学地域活用論基礎・応用）	学内業務	安田（2年 義肢装具学Ⅱ）A
2限目（10：40～12：10）	安田（2年 運動学実習）B	研究日	安田（3年 ゴルフトレーニング論）	安田（3年 障がい者スポーツ論）兼任	安田（2年 義肢装具学Ⅱ）B
3限目（13：00～14：30）	安田（3年 障がい者スポーツ論）A	研究日	学内業務	安田（3年 リハビリテーション総合演習）	安田（3年ロボット工学地域活用論基礎・応用）
4限目（14：40～16：10）	安田（3年 障がい者スポーツ論）B	研究日	学内業務	学内業務	安田（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 治郎丸 卓三  
 3. 職位・区分 准教授（実研）  
 4. 担当科目 運動療法学（2年前期 1単位 30時間）× 2

前期 15週

後期 15週

スポーツ障害系理学療法実習（2年後期 1単位 30時間）× 2  
 パフォーマンス向上論（3年後期 1単位 15時間）  
 フィットネス論（3年後期 2単位 30時間）（佐藤、治郎丸、大西均）  
 ランニングトレーニング論（3年後期 2単位 30時間）  
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）  
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	治郎丸（2年 運動療法学）A	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	治郎丸（2年 運動療法学）B	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	学内業務	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	治郎丸（3年 パフォーマンス向上論）	治郎丸（3年 ランニングトレーニング論）	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	治郎丸（3年 フィットネス論）	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	治郎丸（2年 スポーツ障害系理学療法実習）A	学内業務	研究日	治郎丸（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	治郎丸（2年 スポーツ障害系理学療法実習）B	学内業務	研究日	学内業務	治郎丸（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	学内業務	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

スポーツ障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）（宇於崎、治郎丸）

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 山内 正雄

3. 職位・区分 教授（実研）

4. 担当科目 理学療法評価学演習（3年前期 1単位 30時間）×2（山内、分木、藤谷）

徒手理学療法学（3年前期 1単位 15時間）×2

運動学Ⅰ（1年後期 1単位 30時間）×2

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

理学療法管理学（4年後期 1単位 15時間）×2

理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	山内（3年 徒手理学療法学）A	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	山内（3年 徒手理学療法学）B	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	山内（3年 理学療法評価学演習）A	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	山内（3年 理学療法評価学演習）B	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	学内業務	学内業務	オフィスアワー	研究日	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	山内（1年 運動学Ⅰ）A	山内（4年 理学療法管理学）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	山内（1年 運動学Ⅰ）B	山内（4年 理学療法管理学）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	山内（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	山内（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前

神経筋骨格障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）

理学療法見学実習Ⅱ 1後

（山内、池谷、宇於崎、大西均）

理学療法見学実習Ⅲ 2前

理学療法評価実習 3前

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 野口 真一  
 3. 職位・区分 講師（実専）  
 4. 担当科目 救急援助論（2年後期 1単位 15時間）× 2  
 救急援助論（2年後期 1単位 15時間） 兼担

前期 15週

後期 15週

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）  
 理学療法総合演習（4年後期後半 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	野口（2年 救急援助論）A	野口（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	野口（2年 救急援助論）兼担	研究日	野口（2年 救急援助論）B	学内業務	野口（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 池谷 雅江

3. 職位・区分 講師（実専）

4. 担当科目 障がい者スポーツ論実習（4年前期 1単位 30時間）（安田、池谷、大西満(兼担)）

運動療法学実習（2年後期 1単位 30時間）

体力測定論（3年後期 0.4単位 16時間）（分木、鈴木美、池谷）

健康増進実践演習（3年後期 0.3単位 10時間）（分木、鈴木美、池谷）

健康増進実践実習（3年後期 0.3単位 8時間）（分木、鈴木美、池谷）

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間）

理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	池谷（4年 障がい者スポーツ論実習）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	池谷（4年 障がい者スポーツ論実習）B	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	池谷（3年 健康増進実践演習、実習）	池谷（3年 健康増進実践演習、実習）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	池谷（3年 体力測定論）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	池谷（2年 運動療法学実習）A	研究日	池谷（4年 協働連携論総合実習）	池谷（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	池谷（2年 運動療法学実習）B	研究日	池谷（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	池谷（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	学内業務

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前

理学療法見学実習Ⅱ 1後

理学療法見学実習Ⅲ 2前

理学療法評価実習 3前

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

神経筋骨格障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）

（山内、宇於崎、大西均、池谷）

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 弘部 重信

3. 職位・区分 講師（実専）

4. 担当科目 地域包括ケア論（3年前期 1単位 30時間）×2（鈴木、弘部）

理学療法評価学演習（3年前期 1単位 30時間）×2（藤谷、山内、弘部）

内部障害理学療法実習Ⅰ（3年前期 1単位 30時間）×2

内部障害理学療法実習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）×2

地域理学療法実習（3年前期 1単位 30時間）×2（鈴木、弘部）

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

理学療法総合演習（4年後期後半 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	弘部（3年 地域理学療法実習）A	弘部（3年 地域包括ケア論）A	弘部（3年 内部障害理学療法実習Ⅰ、Ⅱ）A	弘部（3年 内部障害理学療法実習Ⅰ、Ⅱ）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	弘部（3年 地域理学療法実習）B	弘部（3年 地域包括ケア論）B	弘部（3年 内部障害理学療法実習Ⅰ、Ⅱ）B	弘部（3年 内部障害理学療法実習Ⅰ、Ⅱ）B
3限目（13：00～14：30）	弘部（3年 理学療法評価学演習）A	学内業務	学内業務	研究日	研究日
4限目（14：40～16：10）	弘部（3年 理学療法評価学演習）B	学内業務	学内業務	研究日	研究日
16：10～17：15	学内業務	学内業務	オフィスアワー	研究日	研究日

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	弘部（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	弘部（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスアワー	学内業務	学内業務

5. 臨地実務実習

理学療法評価実習 3前

内部障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 鈴木 美香  
 3. 職位・区分 講師（実専）  
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

予防医学（3年前期 1単位 15時間）×2（山川、鈴木、分木）  
 地域包括ケア論（3年前期 1単位 30時間）×2（鈴木、弘部）  
 地域理学療法実習（3年前期 1単位 30時間）×2（鈴木美・弘部）  
 体力測定論（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）  
 健康増進実践演習（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）  
 健康増進実践実習（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	鈴木美（3年 地域理学療法実習）A	鈴木美（3年 地域包括ケア論）A	鈴木美（3年 予防医学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	鈴木美（3年 地域理学療法実習）B	鈴木美（3年 地域包括ケア論）B	鈴木美（3年 予防医学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	鈴木美（3年前半 予防医学）兼任
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	鈴木美（3年 健康増進実践演習、実習）	鈴木美（3年 健康増進実践演習、実習）
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	鈴木美（3年 体力測定論）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	学内業務	オフィスアワー	学内業務

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 川崎 浩子

3. 職位・区分 講師（実専）

4. 担当科目 日常生活活動学（2年前期 1単位 30時間）× 2

臨床技能論実習（3年前期 1単位 15時間）× 2

理学療法評価学（1年後期 1単位 30時間）× 2

地域理学療法学（2年後期 1単位 15時間）× 2

理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	川崎（3年 臨床技能論実習）A	学内業務	研究日	学内業務	川崎（2年 日常生活活動学）A
2限目（10：40～12：10）	川崎（3年 臨床技能論実習）B	学内業務	研究日	学内業務	川崎（2年 日常生活活動学）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	研究日	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	地域理学療法学Ⅱ （専門学校での授業）	研究日	川崎（2年 地域理学療法学）A	川崎（1年 理学療法評価学）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	川崎（2年前 地域理学療法学）B	川崎（1年 理学療法評価学）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	川崎（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	研究日	学内業務	学内業務

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前

理学療法見学実習Ⅱ 1後

理学療法見学実習Ⅲ 2前

理学療法評価実習 3前

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 宇於崎 孝

3. 職位・区分 准教授（実専）

4. 担当科目 理学療法評価学実習（2年前期 2単位 60時間）× 2（宇於崎、大西均）

基礎理学療法実習Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）× 2

徒手理学療法実習（3年後期 1単位 30時間）× 2

ゴルフトレーニング論（3年後期 2単位 30時間）

理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	宇於崎（2年 理学療法評価学実習）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	宇於崎（2年 理学療法評価学実習）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	宇於崎（2年 理学療法評価学実習）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	宇於崎（2年 理学療法評価学実習）B	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	宇於崎（1年 基礎理学療法実習Ⅱ）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	宇於崎（1年 基礎理学療法実習Ⅱ）B	研究日	宇於崎（3年 ゴルフトレーニング論）	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	宇於崎（3年 徒手理学療法実習）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	宇於崎（3年 徒手理学療法実習）B	学内業務	宇於崎（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	オフィスアワー	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

臨地実務実習以外の学外実習

神経筋骨格障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）  
 スポーツ障害応用論実習（4年後期 2単位 90時間）

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 佐々木 絵美  
 3. 職位・区分 助教（専）  
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 和智 道夫  
 3. 職位・区分 講師（専）  
 4. 担当科目 画像評価学（2年後期 1単位 15時間）×2  
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）  
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

前期 15週 後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	和智（2年 画像評価学）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	和智（2年 画像評価学）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	和智（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	和智（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

スポーツ障害応用論実習  
 （4年後期 2単位 90時間）

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 佐藤 隆彦

3. 職位・区分 准教授（専）

4. 担当科目 体育（1年後期 1単位 30時間）×2 選択 ※体育は3、4限続きで行う場合がある。

生涯スポーツ論（1年前期 1単位 15時間）×2

運動生理学演習（2年後期 1単位 30時間）

フィットネス論（3年後期 2単位 30時間）（大西均、治郎丸、佐藤）

体育（1年後期 1単位 30時間） 選択 兼任

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	佐藤（1年 生涯スポーツ論）A
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	佐藤（1年 生涯スポーツ論）B
16：10～17：15	オフィシアワー	学内業務	学内業務	研究日	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	佐藤（2年 運動生理学演習）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	佐藤（3年 フィットネス論）	学内業務	研究日	佐藤（2年 運動生理学演習）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	佐藤（1年 体育）A、B	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	佐藤（1年 体育）兼任	佐藤（1年 体育）A、B	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィシアワー	学内業務	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 兼清 健志  
 3. 職位・区分 准教授（専）  
 4. 担当科目 栄養学（1年前期 1単位 15時間）× 2  
 栄養学（1年前期 1単位 15時間）兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	兼清（1年前半 栄養学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	兼清（1年前半 栄養学）兼任	兼清（1年前半 栄養学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 分木 ひとみ  
 3. 職位・区分 准教授（専）  
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

学びの基盤（1年前期 1単位 15時間）× 2  
 リハビリテーション概論（1年前期 1単位 30時間）× 2  
 予防医学（3年前期 1単位 15時間）× 2（山川、鈴木、分木）  
 体力測定論（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）  
 健康増進実践演習（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）  
 健康増進実践実習（3年後期 1単位 30時間）（分木、鈴木美、池谷）  
 遊びとレクリエーション（3年後期 1単位 15時間）  
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）  
 協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間）  
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	分木（1年前半 学びの基盤）A	研究日	学内業務	分木（3年 予防医学）A	分木（1年 リハビリテーション概論）A
2限目（10：40～12：10）	分木（1年前半 学びの基盤）B	研究日	学内業務	分木（3年 予防医学）B	分木（1年 リハビリテーション概論）B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	分木（3年前半 予防医学）兼任
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスパワー	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	分木（3年 健康増進実践演習、実習）	分木（3年 健康増進実践演習、実習）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	分木（3年 体力測定論）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	分木（4年 協働連携論総合実習）	分木（3年 リハビリテーション総合演習）	分木（3年 遊びとレクリエーション）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	分木（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	分木（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 里中 綾子  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

基礎理学療法Ⅱ（1年前期 1単位 15時間）× 2  
 運動学Ⅱ（2年前期 1単位 30時間）× 2（里中、藤谷、安田）  
 基礎理学療法研究法（3年前期 1単位 15時間）× 2  
 基礎理学療法実習Ⅰ（1年後期 1単位 30時間）× 2  
 小児期理学療法演習（2年後期 1単位 30時間）× 2

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	里中（2年 運動学Ⅱ）A	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	里中（2年 運動学Ⅱ）B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	里中（1年 基礎理学療法Ⅱ）A	研究日	里中（3年前半 基礎理学療法研究法）A	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	里中（1年 基礎理学療法Ⅱ）B	研究日	里中（3年前半 基礎理学療法研究法）B	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	里中（2年 小児期理学療法演習）A	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	里中（2年 小児期理学療法演習）B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	里中（1年 基礎理学療法実習Ⅰ）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	里中（1年 基礎理学療法実習Ⅰ）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 堀 寛史  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目

前期 15週

後期 15週

哲学入門（1年前期 1単位 15時間）× 2  
 画像評価学（2年後期 1単位 15時間）× 2（堀、和智）  
 物理療法学（2年前期 1単位 15時間）× 2  
 理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）  
 リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	堀（1年 哲学入門）A	堀（2年 物理療法学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	堀（1年 哲学入門）B	堀（2年 物理療法学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	オフィスパワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	堀（2年前半 画像評価学）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	堀（2年前半 画像評価学）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	堀（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	堀（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	オフィスパワー	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

- 理学療法見学実習Ⅰ 1前  
 理学療法見学実習Ⅱ 1後  
 理学療法見学実習Ⅲ 2前  
 理学療法評価実習 3前  
 理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 植田 昌治

3. 職位・区分 教授（専）

4. 担当科目 基礎理学療法Ⅰ（1年前期 1単位 15時間）×2

日常生活活動学（2年前期 1単位 30時間）×2

地域理学療法学（2年後期 1単位 15時間）×2

リハビリテーション総合演習（3年後期 1単位 30時間）

理学療法総合演習（4年後期 1単位 30時間）

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	植田（2年 日常生活活動学）A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	植田（2年 日常生活活動学）B
3限目（13：00～14：30）	植田（1年 基礎理学療法Ⅰ）A	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	植田（1年 基礎理学療法Ⅰ）B	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	植田（2年前半 地域理学療法学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	植田（2年前半 地域理学療法学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	植田（3年 リハビリテーション総合演習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	植田（4年 理学療法総合演習）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

理学療法見学実習Ⅰ 1前

理学療法見学実習Ⅱ 1後

理学療法見学実習Ⅲ 2前

理学療法評価実習 3前

理学療法総合臨床実習Ⅰ 3後

理学療法総合臨床実習Ⅱ 4前

理学療法地域実習 4前

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 中野 法彦  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目 生物学（1年前期 1単位 15時間）× 2  
 生物学（1年前期 1単位 15時間）兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	中野（1年前半 生物学）A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	中野（1年前半 生物学）兼任	中野（1年前半 生物学）B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 篠田 恵一  
 3. 職位・区分 教授(専)  
 4. 担当科目 内科学Ⅰ(2年前期 1単位 30時間)×2  
 内科学Ⅰ(2年前期 1単位 30時間)兼任  
 内科学Ⅱ(2年後期 1単位 30時間)×2  
 内科学Ⅱ(2年後期 1単位 30時間)兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	研究日	学内業務	研究日	篠田(2年 内科学Ⅰ)兼任	学内業務
2限目(10:40~12:10)	研究日	篠田(2年 内科学Ⅰ)A	研究日	学内業務	学内業務
3限目(13:00~14:30)	研究日	篠田(2年 内科学Ⅰ)B	研究日	学内業務	学内業務
4限目(14:40~16:10)	研究日	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16:10~17:15	研究日	オフィスアワー	研究日	オフィスアワー	教授会(月1回)

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	研究日	学内業務	研究日	篠田(2年 内科学Ⅱ)兼任	学内業務
2限目(10:40~12:10)	研究日	篠田(2年 内科学Ⅱ)A	研究日	学内業務	学内業務
3限目(13:00~14:30)	研究日	篠田(2年 内科学Ⅱ)B	研究日	学内業務	学内業務
4限目(14:40~16:10)	研究日	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16:10~17:15	研究日	オフィスアワー	研究日	オフィスアワー	教授会(月1回)

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 金沢 伸彦  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目 整形外科学Ⅰ（1年前期 1単位 30時間）× 2  
 整形外科学Ⅰ（1年前期 1単位 30時間）兼任  
 整形外科学Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）× 2  
 整形外科学Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅰ）兼任	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅰ）A	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅰ）B	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	研究日	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅱ）兼任	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅱ）A	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	金沢（2年 整形外科学Ⅱ）B	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	研究日	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 山田 久夫  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目 解剖学Ⅰ（1年前期 2単位 60時間）× 2

前期 15週

後期 15週

- 解剖学Ⅱ（1年後期 2単位 60時間）× 2  
 解剖学Ⅲ（1年後期 1単位 30時間）× 2

解剖学Ⅱ終了後、  
 解剖学Ⅲ

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	山田（1年 解剖学Ⅰ） A	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	山田（1年 解剖学Ⅰ） B	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	山田（1年 解剖学Ⅰ） A	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	山田（1年 解剖学Ⅰ） B	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）A	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）A	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）B	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）A	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	山田（1年 解剖学Ⅱ、Ⅲ）B	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科 理学療法学科  
 2. 氏名 山川 正信  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目 予防医学（3年前期 1単位 15時間）×2クラス  
 予防医学（3年前期 1単位 15時間）兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	山川（3年 予防医学） A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	山川（3年 予防医学） B	山川（3年前半 予防医学） 兼任
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	学内業務	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科	作業療法学科	前期 15週	後期 15週
2. 氏名	下西 徳		
3. 職位・区分	講師（実専）		
4. 担当科目	住環境支援論（3年前期 1単位 30時間） 生活行為向上マネジメント論実習（3年前期 1単位 30時間） 地域生活作業療法学実習Ⅲ（3年前期 1単位 30時間）	前期 3コマ/週	
	地域包括ケア論（2年後期 1単位 30時間） 中枢神経疾患作業療法学実習（2年後期 1単位 30時間） 身体障害作業療法基礎技術論（2年後期 1単位30） 地域生活作業療法学実習Ⅰ（2年後期 1単位 30時間） 作業療法総合実習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間）		後期 5コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	下西（3年 住環境支援論）	学内業務	研究日	学内業務	下西（3年 地域生活作業療法学実習Ⅲ）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	下西（3年 生活行為向上マネジメント論実習）	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	オフィスパワー	研究日	オフィスパワー	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	下西（2年 中枢神経疾患作業療法学実習）	学内業務	研究日	学内業務	下西（2年 身体障害作業療法基礎技術論）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	下西（2年 地域生活作業療法学実習Ⅰ）	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	下西（2年 地域包括ケア論）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	下西（4年 作業療法総合実習Ⅱ）
16：10～17：15	学内業務	学内業務	研究日	オフィスパワー	オフィスパワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ	1後
作業療法見学実習Ⅱ	2前
作業療法評価実習	3前
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前
作業療法地域実習	4前

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週  
 2. 氏名 澤 賢一郎  
 3. 職位・区分 講師（専）  
 4. 担当科目

社会生活行為論実習（2年前期 1単位 30時間）  
 高次脳機能障害作業療法実習（3年前期 1単位 30時間）  
 老年期障害作業療法実習（3年前期 1単位 30時間）  
 基礎作業学実習Ⅰ（1年前期 1単位 30時間） 前期 4コマ/週  
 作業療法評価学総論（1年後期 1単位 30時間）  
 作業分析活用論（2年後期 1単位 30時間）  
 作業療法総合実習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間） 後期 3コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	澤（1年 基礎作業学実習Ⅰ）	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	澤（3年 老年期障害作業療法実習）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	澤（2年 社会生活行為論実習）	研究日	学内業務	学内業務	澤（3年 高次脳機能障害作業療法実習）
16：10～17：15	オフィスパワー	研究日	オフィスパワー	学内業務	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	澤（2年 作業分析活用論）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	澤（1年 作業療法評価学総論）	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	澤（4年 作業療法総合実習Ⅱ）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後  
 作業療法見学実習Ⅱ 2前  
 作業療法評価実習 3前  
 作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週

2. 氏名 有田 智氏

3. 職位・区分 助教（実専）

4. 担当科目 運動学実習（2年前期 1単位 30時間）  
 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ（2年前期 1単位 30時間）  
 日常生活活動論実習（2年前期 1単位 30時間） 前期 3コマ/週

基礎作業学実習Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）  
 協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間） 後期 3コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	有田（2年 運動学実習）	有田（2年 身体障害作業療法評価学実習Ⅱ）	有田（2年 日常生活活動論実習）	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	オフィスアワー	学内業務	研究日	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	有田（1年後期 基礎作業学実習Ⅱ）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	有田（4年 協働連携論総合実習）	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	有田（5年 協働連携論総合実習）	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後  
 作業療法見学実習Ⅱ 2前  
 作業療法評価実習 3前  
 作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 杉本 久美子

3. 職位・区分 助教（実専）

4. 担当科目 作業療法総合実習Ⅰ（4年後期 1単位 30時間）

作業療法総合実習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間）

後期 2コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	杉本（4年 作業療法総合実習Ⅰ）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	杉本（4年 作業療法総合実習Ⅱ）
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	学内業務	研究日	オフィスアワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後

作業療法見学実習Ⅱ 2前

作業療法評価実習 3前

作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後

作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前

作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 木岡 和実

3. 職位・区分 助教（実専）

4. 担当科目 作業療法総合演習Ⅰ（4年後期 1単位 30時間）

作業療法総合演習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間）

後期 2コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	木岡（4年 作業療法総合演習Ⅰ）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	木岡（4年 作業療法総合演習Ⅱ）
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後

作業療法見学実習Ⅱ 2前

作業療法評価実習 3前

作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後

作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前

作業療法地域実習 4前

1. 学科	作業療法学科	前期 15週	後期 15週
2. 氏名	嶋川 昌典		
3. 職位・区分	助教(実研)		
4. 担当科目	基礎作業学(1年前期 1単位 15時間)		
	精神障害作業療法評価学実習(2年前期 1単位 30時間)		
	精神障害作業療法実習(3年前期 1単位 30時間)	前期 3コマ/週	
	精神障害作業療法(2年後期 1単位 30時間)		
	作業分析活用論実習(2年後期 1単位 30時間)		
	地域生活作業療法実習Ⅱ(2年後期 1単位 30時間)		
	作業療法総合実習Ⅰ(4年後期 1単位 30時間)		後期 4コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	嶋川(2年 精神障害作業療法評価学実習)
2限目(10:40~12:10)	学内業務	学内業務	嶋川(3年前期 精神障害作業療法実習)	研究日	学内業務
3限目(13:00~14:30)	嶋川(1年前半 基礎作業学)	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
4限目(14:40~16:10)	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
16:10~17:15	オフィスアワー	学内業務	オフィスアワー	研究日	学内業務

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	学内業務
2限目(10:40~12:10)	嶋川(2年 精神障害作業療法)	学内業務	嶋川(2年 作業分析活用論実習)	研究日	学内業務
3限目(13:00~14:30)	学内業務	学内業務	学内業務	研究日	嶋川(4年 作業療法総合実Ⅰ)
4限目(14:40~16:10)	学内業務	嶋川(2年 地域生活作業療法実習Ⅱ)	学内業務	研究日	学内業務
16:10~17:15	学内業務	オフィスアワー	学内業務	研究日	オフィスアワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ	1後
作業療法見学実習Ⅱ	2前
作業療法評価実習	3前
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前
作業療法地域実習	4前

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週

2. 氏名 安部 征哉

3. 職位・区分 講師（実研）

4. 担当科目 学びの基盤（1年前期 1単位 15時間）

運動学Ⅰ（1年前期 1単位 30時間）

身体障害作業療法評価学実習Ⅰ（2年前期 1単位 30時間） 前期 3コマ/週

運動学Ⅱ（1年後期 1単位 30時間）

運動器疾患作業療法学実習（2年後期 1単位 30時間）

作業療法義肢装具実習（2年後期 1単位 30時間）

作業療法総合実習Ⅰ（4年後期 1単位 30時間） 後期 4コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	安部（1年前半 学びの基盤）	学内業務	研究日	学内業務	安部（1年 運動学Ⅰ）
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	安部（2年 身体障害作業療法評価学実習Ⅰ）	学内業務
16：10～17：15	学内業務	オフィスパワー	研究日	学内業務	オフィスパワー

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	安部（2年後期 運動器疾患作業療法学実習）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	安部（2年後期 作業療法義肢装具実習）	研究日	学内業務	安部（4年 作業療法総合実Ⅰ）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	安部（1年後期 運動学Ⅱ）
16：10～17：15	学内業務	オフィスパワー	研究日	学内業務	オフィスパワー

5. 臨地実務実習

作業療法見学実習Ⅰ 1後

作業療法見学実習Ⅱ 2前

作業療法評価実習 3前

作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後

作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前

作業療法地域実習 4前

1. 学科	作業療法学科	前期 15週	後期 15週
2. 氏名	大西 満		
3. 職位・区分	准教授（実研）		
4. 担当科目	リハビリテーション概論（1年前期 1単位 30時間） 作業療法学総論（1年前期 1単位 30時間） 子育て支援論（2年前期 1単位 15時間） 子育て支援論（2年前期 1単位 15時間） ※PT兼任 障がい者スポーツ論実習（4年前期 0.2単位 2時間） 発達障害作業療法評価学実習（2年前期 1単位 30時間）	前期 5.2コマ/週	
	作業療法と倫理（1年後期 1単位 15時間） 作業療法管理・制度論（1年後期 1単位 15時間） 協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間） 作業療法総合実習Ⅰ（4年後期 1単位 30時間） 作業療法総合実習Ⅱ（4年後期 1単位 30時間）		後期 6コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	大西満（4年 障がい者スポーツ論実習 1コマ）	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	大西満（2年前半 子育て支援論）	研究日	大西満（2年 リハビリテーション概論）	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	大西満（2年前半 子育て支援論PT） 兼任	研究日	学内業務	作業療法学総論（1年 作業療法学総論）	大西満（2年 発達障害作業療法評価学実習）
16：10～17：15	オフィシアワー	研究日	オフィシアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	大西満（1年 作業療法と倫理）	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	大西満（1年 作業療法管理・制度論）	研究日	大西満（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	大西満（4年 作業療法総合実Ⅰ）
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	大西満（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	大西満（4年 作業療法総合実Ⅱ）
16：10～17：15	オフィシアワー	研究日	オフィシアワー	学内業務	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

作業療法評価実習	3前
作業療法総合臨床実習Ⅰ	3後
作業療法総合臨床実習Ⅱ	4前
作業療法地域実習	4前

1. 学科 作業療法学科  
 2. 氏名 鈴木 規己洋  
 3. 職位・区分 准教授（専）  
 4. 担当科目 英語Ⅰ（1年前期 1単位 15時間）  
 英語Ⅰ（1年前期 1単位 15時間）兼任  
 英語Ⅱ（1年後期 1単位 15時間）選択  
 英語Ⅱ（1年後期 1単位 15時間）兼任 選択

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	鈴木規（1年前半 英語Ⅰ）	学内業務	鈴木規（1年前半 英語Ⅰ）兼任A
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	鈴木規（1年前半 英語Ⅰ）兼任B
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	鈴木規（1年前半 英語Ⅱ）選択	学内業務	鈴木規（1年前半 英語Ⅱ）兼任A 選択
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	鈴木規（1年前半 英語Ⅱ）兼任B 選択
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスアワー	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科  
 2. 氏名 埜田 和史  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目 身体障がい者就労環境論（3年後期 2単位 30時間）  
 労働衛生論（1年後期 1単位 15時間）× 2 兼任  
 身体障がい者就労環境論（3年後期 2単位 30時間）選択 兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	学内業務	研究日	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	埜田（3年 労働衛生論）兼任A	学内業務	埜田（3年 身体障がい者就労環境論）
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	埜田（3年 労働衛生論）兼任B	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	埜田（3年 身体障がい者就労環境論）兼任	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスパワー	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科  
 2. 氏名 井出 千束  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目 解剖学Ⅱ（1年後期 2単位 60時間）

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	研究日	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	研究日	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	井出（1年 解剖学Ⅱ）	井出（1年 解剖学Ⅱ）	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスアワー	学内業務	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科 前期 15週 後期 15週  
 2. 氏名 辛島 千恵子  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目

地域生活作業療法学総論（2年前期 1単位 30時間）  
 発達障害作業療法学実習Ⅱ（3年前期 1単位 30時間）  
 作業療法研究法（3年前期 1単位 15時間）  
 家族援助論（3年前期 1単位 15時間） 前期 4コマ/週  
 発達障害作業療法学実習Ⅰ（2年後期 1単位 30時間）  
 協働連携論総合実習（4年後期 2単位 60時間） 後期 2コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	辛島（3年 発達障害作業療法学実習Ⅱ）	学内業務	辛島（3年 家族援助論）	辛島（2年 地域生活作業療法学総論）
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	辛島（3年 作業療法研究法）	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスパワー	オフィスパワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	辛島（4年 協働連携論総合実習）	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	辛島（5年 協働連携論総合実習）	辛島（2年 発達障害作業療法学実習Ⅰ）	学内業務
16：10～17：15	研究日	学内業務	オフィスパワー	オフィスパワー	教授会（月1回）

5. 臨地実務実習

作業療法評価実習 3前  
 作業療法総合臨床実習Ⅰ 3後  
 作業療法総合臨床実習Ⅱ 4前  
 作業療法地域実習 4前

1. 学科 作業療法学科  
 2. 氏名 田中 弘一郎  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目 薬理学概論（1年後期 1単位 15時間）  
 薬理学概論（1年後期 1単位 15時間）× 2 兼任

前期 15週

後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	学内業務	学内業務	研究日	田中（1年前半 薬理学概論）兼任A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	学内業務	学内業務	研究日	田中（1年前半 薬理学概論）兼任B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	学内業務	学内業務	研究日	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	学内業務	田中（1年前半 薬理学概論）	研究日	学内業務	学内業務
16：10～17：15	オフィスアワー	学内業務	研究日	オフィスアワー	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科  
 2. 氏名 外池 光雄  
 3. 職位・区分 教授（専）  
 4. 担当科目

前期 15週 後期 15週

物理学Ⅰ（1年前期 1単位 15時間）

数学（1年前期 1単位 15時間）

物理学Ⅰ（1年前期 1単位 15時間） 兼任

数学（1年前期 1単位 15時間） 兼任

物理学Ⅱ（1年後期 1単位 15時間）※選択

統計学（2年後期 1単位 15時間）

物理学Ⅱ（1年後期 1単位 15時間）※選択 兼任

統計学（2年後期 1単位 15時間） 兼任

福祉工学地域活用論（3年後期 1単位 15時間） 兼任

前期 3コマ/週  
※PT2クラス

後期 4コマ/週  
※PT2クラス

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	外池（1年前半 数学Ⅰ）	学内業務	外池（1年前半 物理学Ⅰ） 兼任A	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	外池（1年前半 物理学Ⅰ） 兼任B	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	外池（1年前半 数学） 兼任A	学内業務	外池（1年前半 物理学Ⅰ）	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	外池（1年前半 数学） 兼任B	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	外池（1年前半 統計学） 兼任A	学内業務	外池（1年前半 統計学）	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	外池（1年前半 統計学） 兼任B	学内業務	学内業務	外池（3年 福祉工学地域活用論） 兼任 選択
3限目（13：00～14：30）	研究日	外池（1年前半 物理学Ⅱ） 兼任A 選択	学内業務	外池（1年前半 物理学Ⅱ） 選択	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	外池（1年前半 物理学Ⅱ） 兼任B 選択	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー	教授会（月1回）

1. 学科 作業療法学科  
 2. 氏名 三谷 章  
 3. 職位・区分 教授(専)  
 4. 担当科目 生理学Ⅰ(1年前期 2単位 60時間)  
 生理学Ⅰ(1年前期 2単位 60時間) 兼任×2  
 生理学Ⅱ(1年後期 2単位 60時間)  
 生理学Ⅱ(1年後期 2単位 60時間) × 2

前期 15週 後期 15週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目(10:40~12:10)	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
3限目(13:00~14:30)	研究日	三谷(1年 生理学Ⅰ) 兼任A	学内業務	三谷(1年 生理学Ⅰ) 兼任A	三谷(1年 生理学Ⅰ)
4限目(14:40~16:10)	研究日	三谷(1年 生理学Ⅰ) 兼任B	三谷(1年 生理学Ⅰ)	三谷(1年 生理学Ⅰ) 兼任B	学内業務
16:10~17:15	研究日	学内業務	オフィスアワー	学内業務	教授会(月1回)

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目(9:00~10:30)	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目(10:40~12:10)	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
3限目(13:00~14:30)	研究日	三谷(1年 生理学Ⅱ) 兼任A	学内業務	三谷(1年 生理学Ⅱ) 兼任A	三谷(1年 生理学Ⅱ)
4限目(14:40~16:10)	研究日	三谷(1年 生理学Ⅱ) 兼任B	三谷(1年 生理学Ⅱ)	三谷(1年 生理学Ⅱ) 兼任B	学内業務
16:10~17:15	研究日	学内業務	オフィスアワー	学内業務	教授会(月1回)

1. 学科 作業療法学科

前期 15週

後期 15週

2. 氏名 野田 亨

3. 職位・区分 教授（専）

4. 担当科目 解剖学Ⅰ（1年前期 2単位 60時間） 前期 2コマ/週

解剖学Ⅲ（1年後期 1単位 30時間） 後期 1コマ/週

【前期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	野田（1年 解剖学Ⅰ）	学内業務	野田（1年 解剖学Ⅰ）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー	教授会（月1回）

【後期】

時間	月	火	水	木	金
1限目（9：00～10：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
2限目（10：40～12：10）	研究日	学内業務	学内業務	野田（1年 解剖学Ⅲ）	学内業務
3限目（13：00～14：30）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
4限目（14：40～16：10）	研究日	学内業務	学内業務	学内業務	学内業務
16：10～17：15	研究日	オフィスパワー	学内業務	オフィスパワー	教授会（月1回）

# びわこリハビリテーション専門職大学

## 非常勤講師及び非常勤実験実習助手の任用等に関する規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、びわこリハビリテーション専門職大学から委嘱を受け講義又は演習等で教育指導を行う者（以下「非常勤講師」という。）、また講義、演習又は実習等で教育指導の補助をする者（以下「非常勤実験実習助手」という。）の任用等について、必要な事項を定めるものとする。

### (書類)

第2条 非常勤講師及び非常勤実験実習助手（以下「非常勤講師等」という。）を選考するときは、学科長は、あらかじめ次の必要書類を事務部に提出しなければならない。

- 一 履歴書
- 二 資格証明書等の写し
- 三 その他必要と認める書類

### (委嘱及び任用)

第3条 非常勤講師は、教授会の議を経て、学長が委嘱する。

2 非常勤実験実習助手は、学科会議で選考し、学長が委嘱する。

3 学長は、前2項の結果を理事長に報告し、理事長が非常勤講師及び非常勤実験実習助手を任用する。

### (任用期間)

第4条 非常勤講師等の任用期間は、原則として1年以内とする。

### (講師料)

第5条 非常勤講師等の講師料は、別表1の時間単価に基づき支給する。ただし、90分授業は2時間として算出する。

2 前項の規定にかかわらず、職歴、取得資格等で特別な事情がある場合は、学長の承認のもと、非常勤講師等の講師料を定めることができる。

### (交通費等)

第6条 非常勤講師等の交通費及び宿泊費は、本学の教育指導に要した分の実費を支給する。

### (職務専念義務)

第7条 非常勤講師等は、本学の理念と目的を理解し、その職務に専念しなければならない。

### (守秘義務)

第8条 非常勤講師等は、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

2 前項の規定は、任用期間が終了した後にも、これを適用する。

### (規程の改廃)

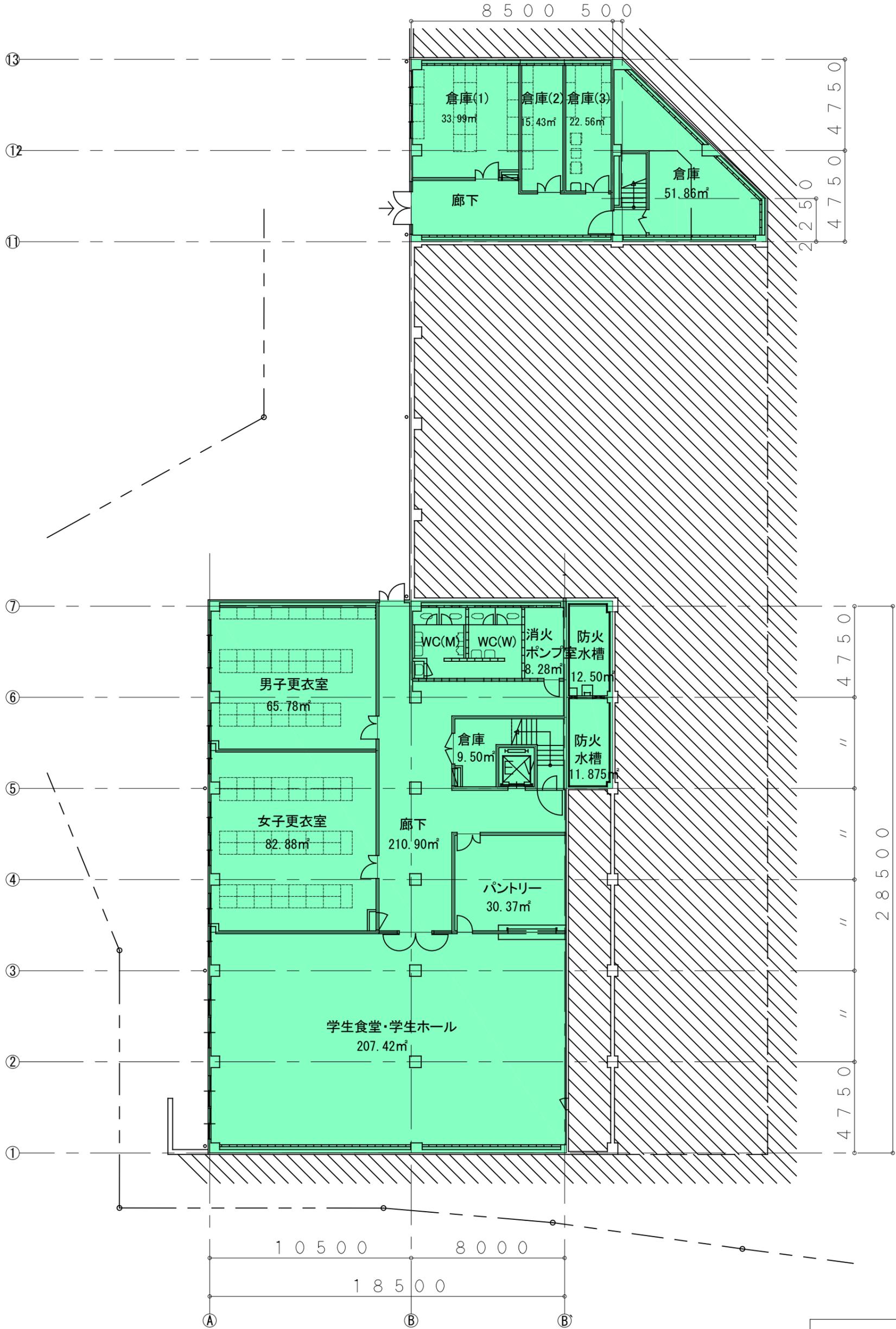
第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が裁定する。

附 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

別表 1

任 用 資 格 等	単価（1時間当たり）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学の教授として発令された者、および大学の名誉教授の称号を有する者</li> <li>○ 専門分野において特に優れた知識及び経験を有する者</li> <li>○ 医師その他特殊な国家資格等を有している者</li> </ul>	12,000円
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学・短期大学の助教、講師、准教授及び教授、または専門学校の教員として発令された者</li> <li>○ 専門分野において優れた知識及び経験を有する者</li> <li>○ 特殊な国家資格等を有している者</li> <li>○ 専門分野において、相当の実務又は臨床経験及び技能を有し、教育指導できる者</li> </ul>	8,000円
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 非常勤実験実習助手（非常勤講師以外で授業を補助する者）のうち、以下の資格を持つ者 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 助産師（臨床経験3年以上）</li> </ul> </li> </ul>	2,500円
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 非常勤実験実習助手（非常勤講師以外で授業を補助する者）</li> <li>○ 学士もしくは同等の経歴を有し、当該講義・実験・実習の補助業務ができる能力がある者</li> </ul>	2,000円
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校法人藍野大学の別設置校に本務を置く者</li> </ul>	1,250円



B1 F 平面図

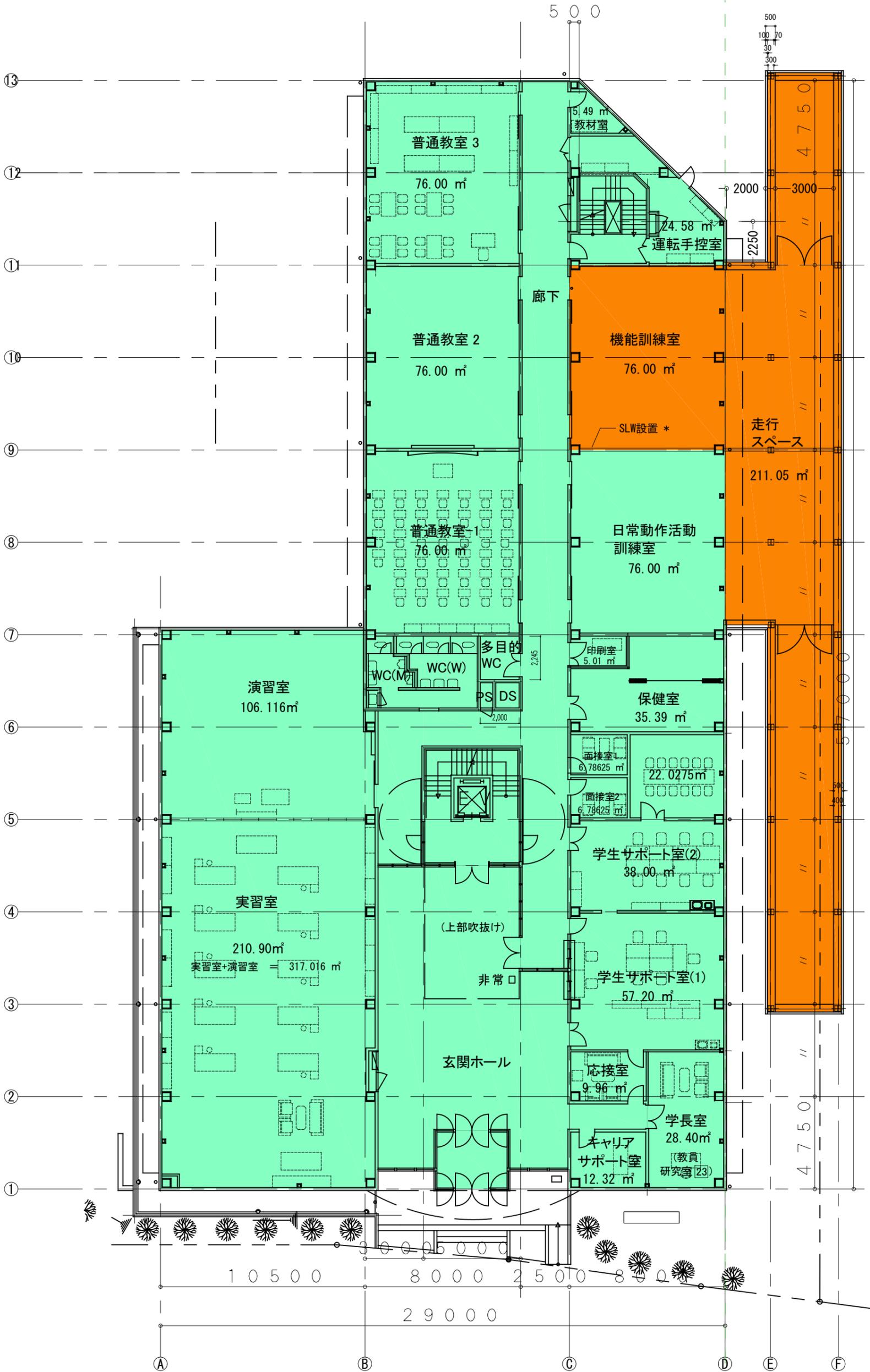
■ 専門職大学・専門学校 共用  
705.44 ㎡

■ 専門職大学理学療法学科・専門学校 理学療法学科 共用  
0 ㎡

■ 専門職大学作業療法学科・専門学校 作業療法学科 共用  
0 ㎡

◆ 確認申請上 延べ 床面積  
5854.28 ㎡

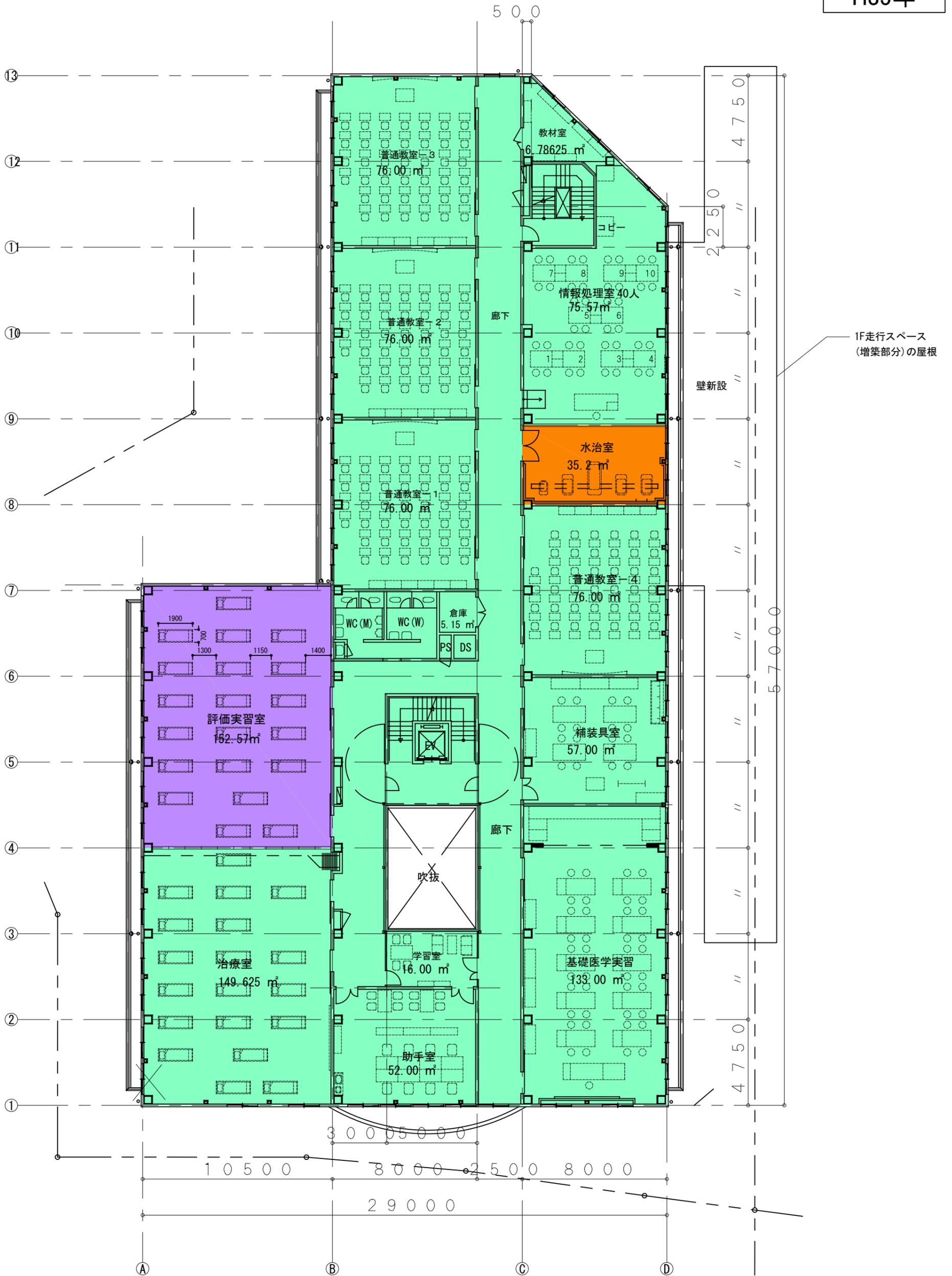
◆ 確認申請上 BF 床面積  
705.44 ㎡



1F 平面図

- 専門職大学・専門学校 共用  
1036.2025 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科・専門学校 理学療法学科 共用  
287.0475 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専門学校 作業療法学科 共用  
0 m<sup>2</sup>

- ◆ 確認申請上 延べ 床面積  
5854.28 m<sup>2</sup>
- ◆ 確認申請上 BF 床面積  
1323.25 m<sup>2</sup>



■ 専門職大学・専門学校 共用  
1260.71 m<sup>2</sup>

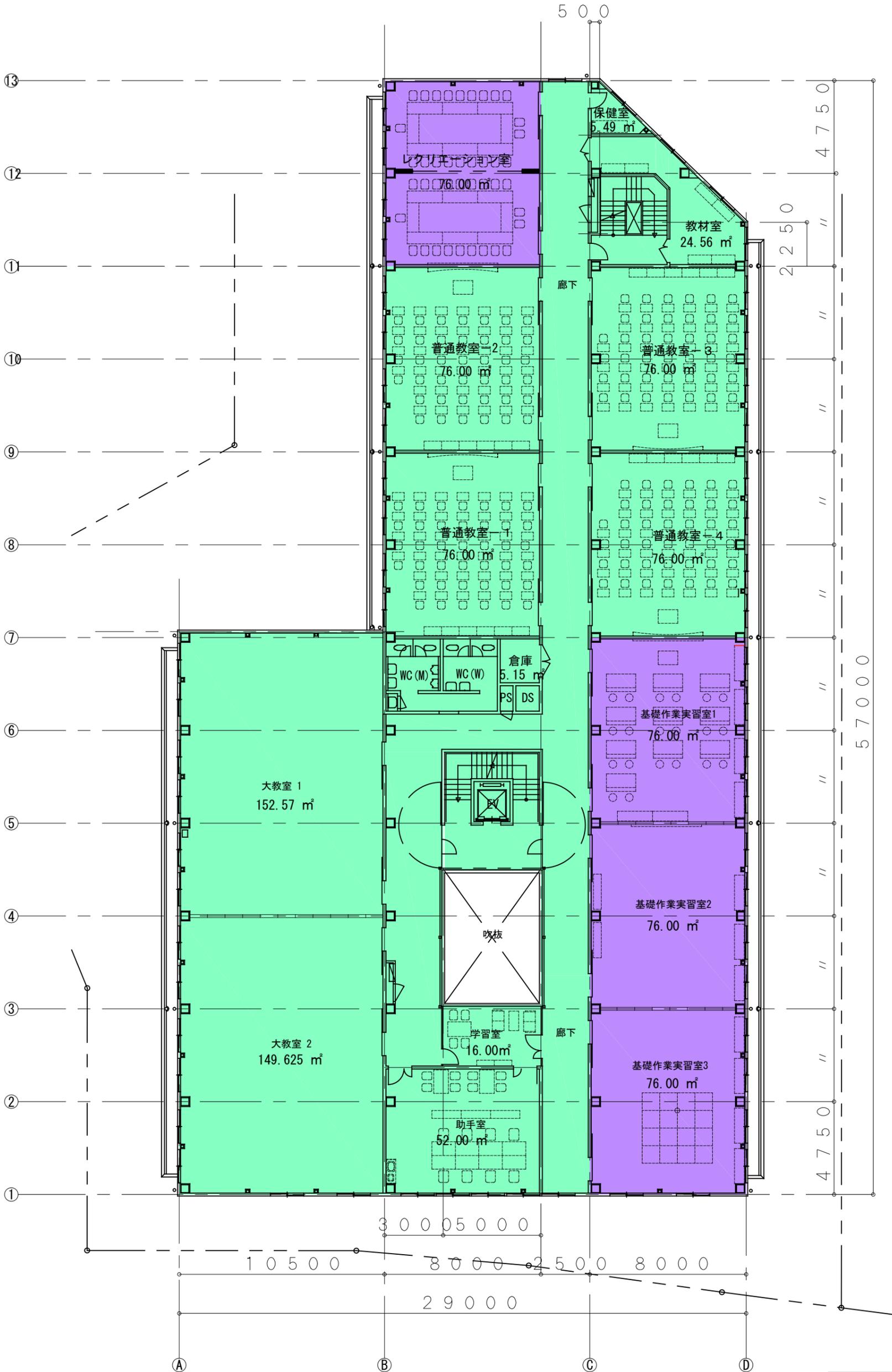
■ 専門職大学理学療法学科・専門学校 理学療法学科 共用  
35.20 m<sup>2</sup>

■ 専門職大学作業療法学科 専門学校 作業療法学科 共用  
0 m<sup>2</sup>

2F 平面図

◆ 確認申請上 延べ 床面積  
5854.28 m<sup>2</sup>

◆ 確認申請上 BF 床面積  
1295.31 m<sup>2</sup>



- 専門職大学・専門学校 共用  
804.14 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科・専門学校理学療法学科 共用  
0 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専門学校作業療法学科 共用  
456.57 m<sup>2</sup>

3F 平面図

◆ 確認申請上 延べ床面積  
5854.28 m<sup>2</sup>

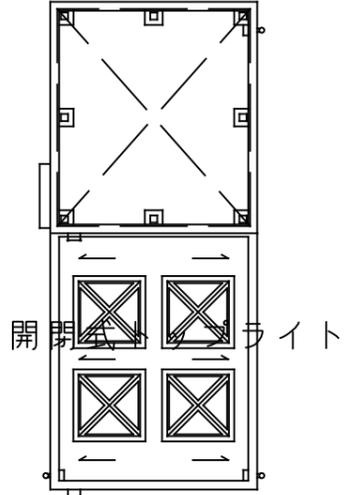
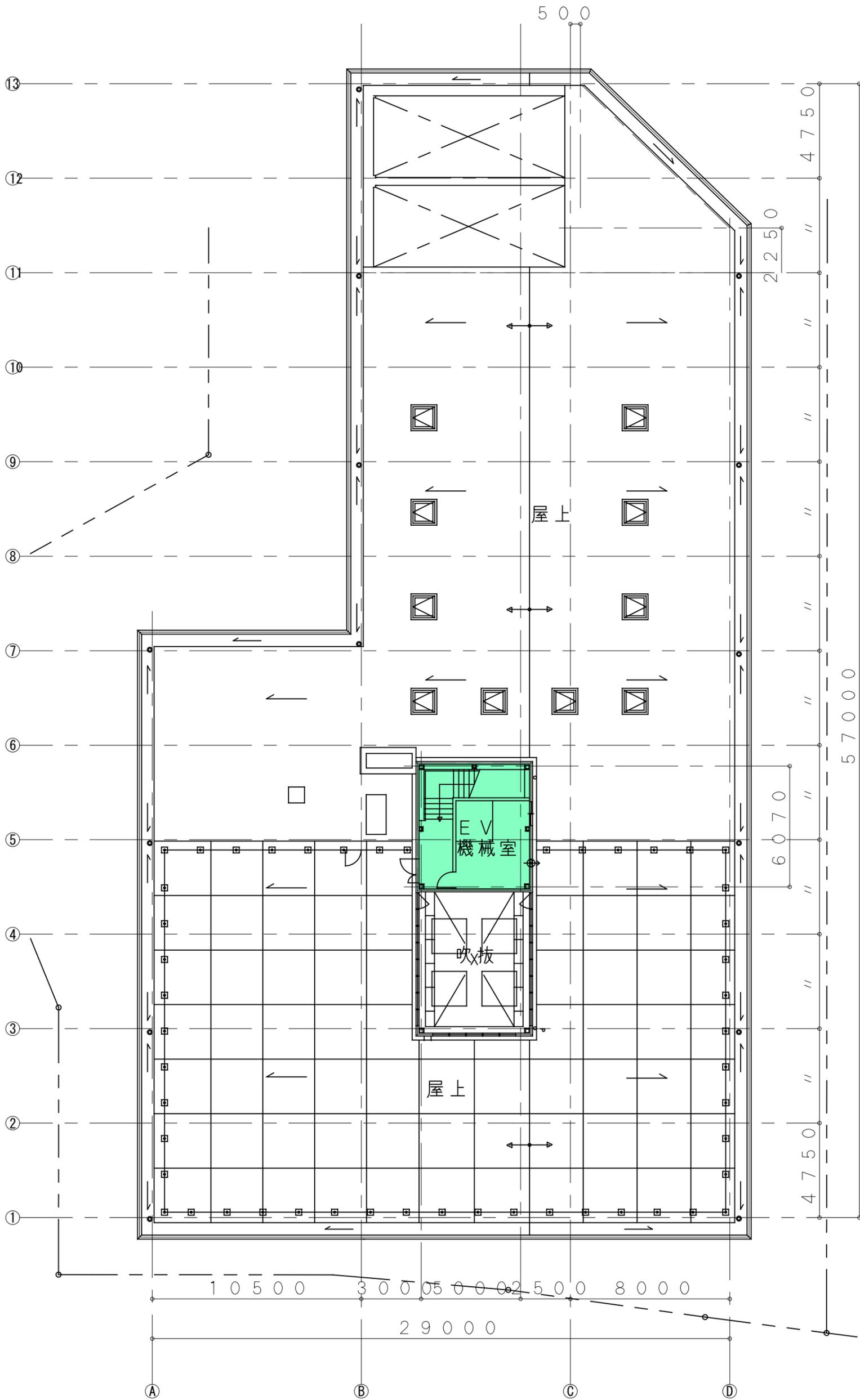
◆ 確認申請上 BF床面積  
1295.31 m<sup>2</sup>



4 F 平面図

- 専門職大学・専門学校 共用  
674.015 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科 専用  
276.125 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専用  
213.75 m<sup>2</sup>

- ◆ 確認申請上 延べ 床面積  
5854.28 m<sup>2</sup>
- ◆ 確認申請上 BF 床面積  
1198.49 m<sup>2</sup>



- 専門職大学・専門学校 共用  
36.48 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科 専用  
0 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専用  
0 m<sup>2</sup>

RF 平面図

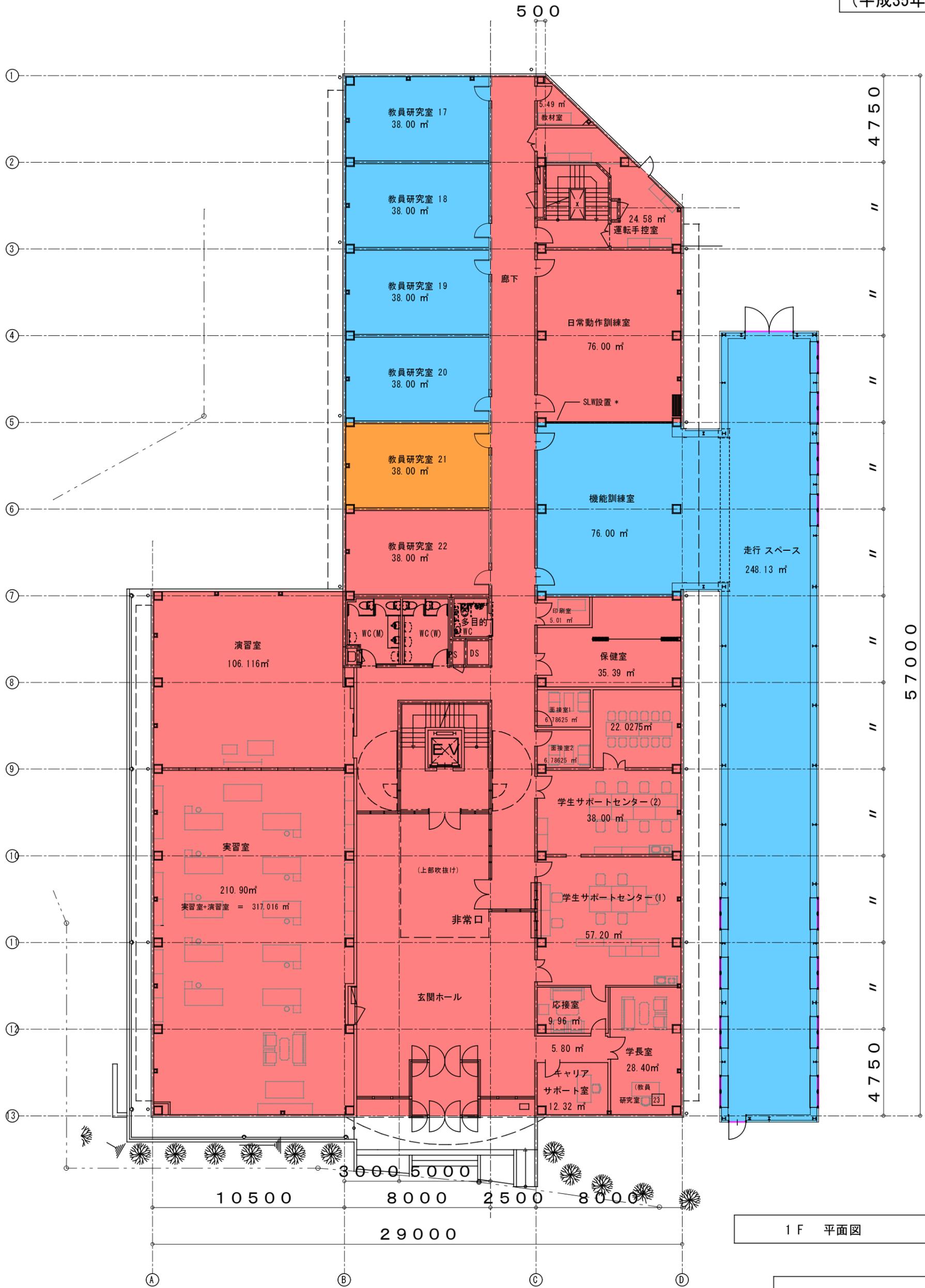
- ◆ 確認申請上 延べ 床面積  
5854.28 m<sup>2</sup>
- ◆ 確認申請上 BF 床面積  
36.48 m<sup>2</sup>



B1 F 平面図

- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用  
705.44 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科 専用  
0 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専用  
0 m<sup>2</sup>

- ◆ 確認申請上 延べ床面積  
6102.41 m<sup>2</sup>
- ◆ 確認申請上 B1F 床面積  
705.44 m<sup>2</sup>



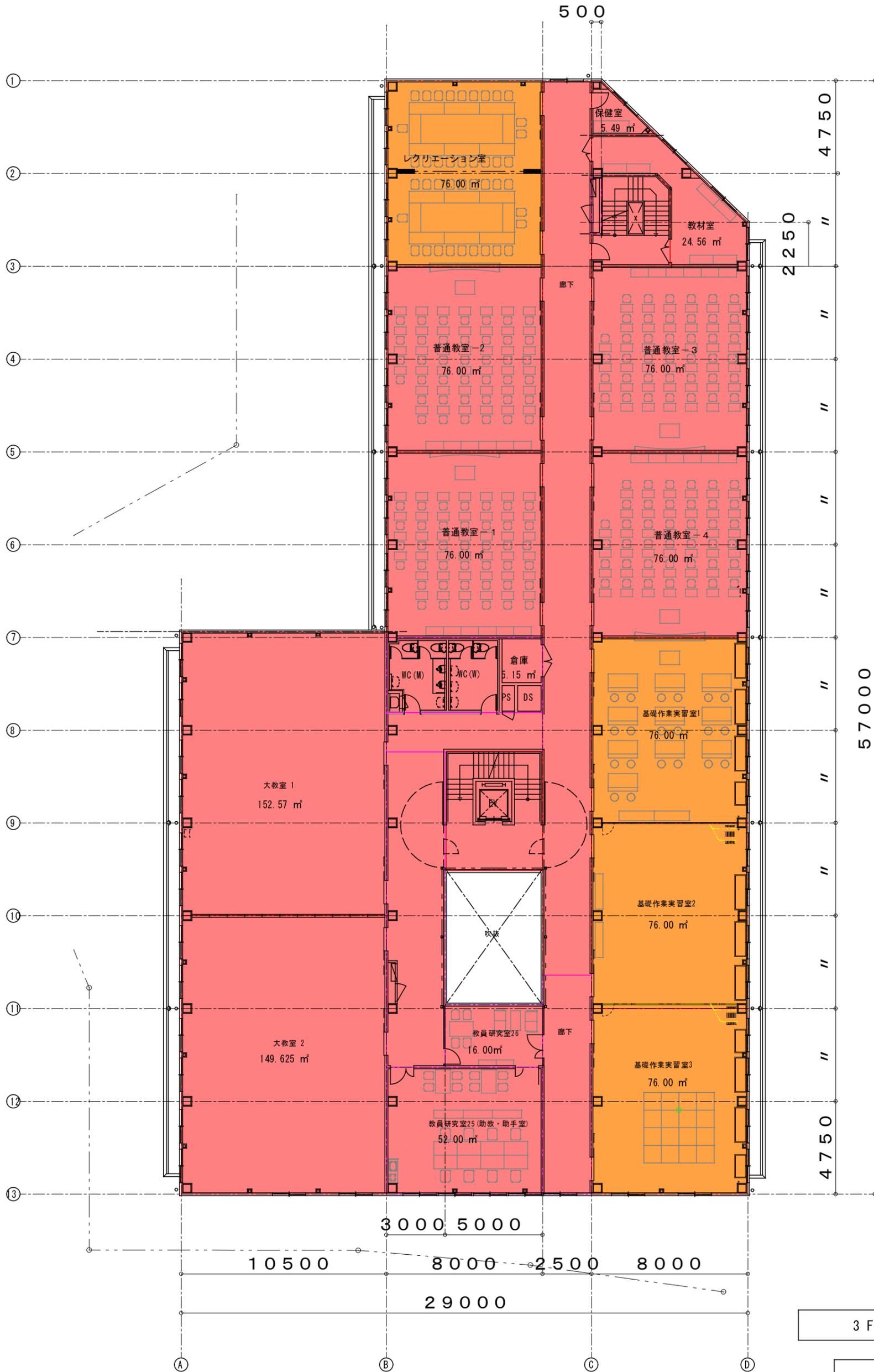
- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用  
1057.25 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科 専用  
476.13 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専用  
38.00 m<sup>2</sup>



2 F 平面図

- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用  
1091.54 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科 専用  
51.20 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専用  
152.57 m<sup>2</sup>

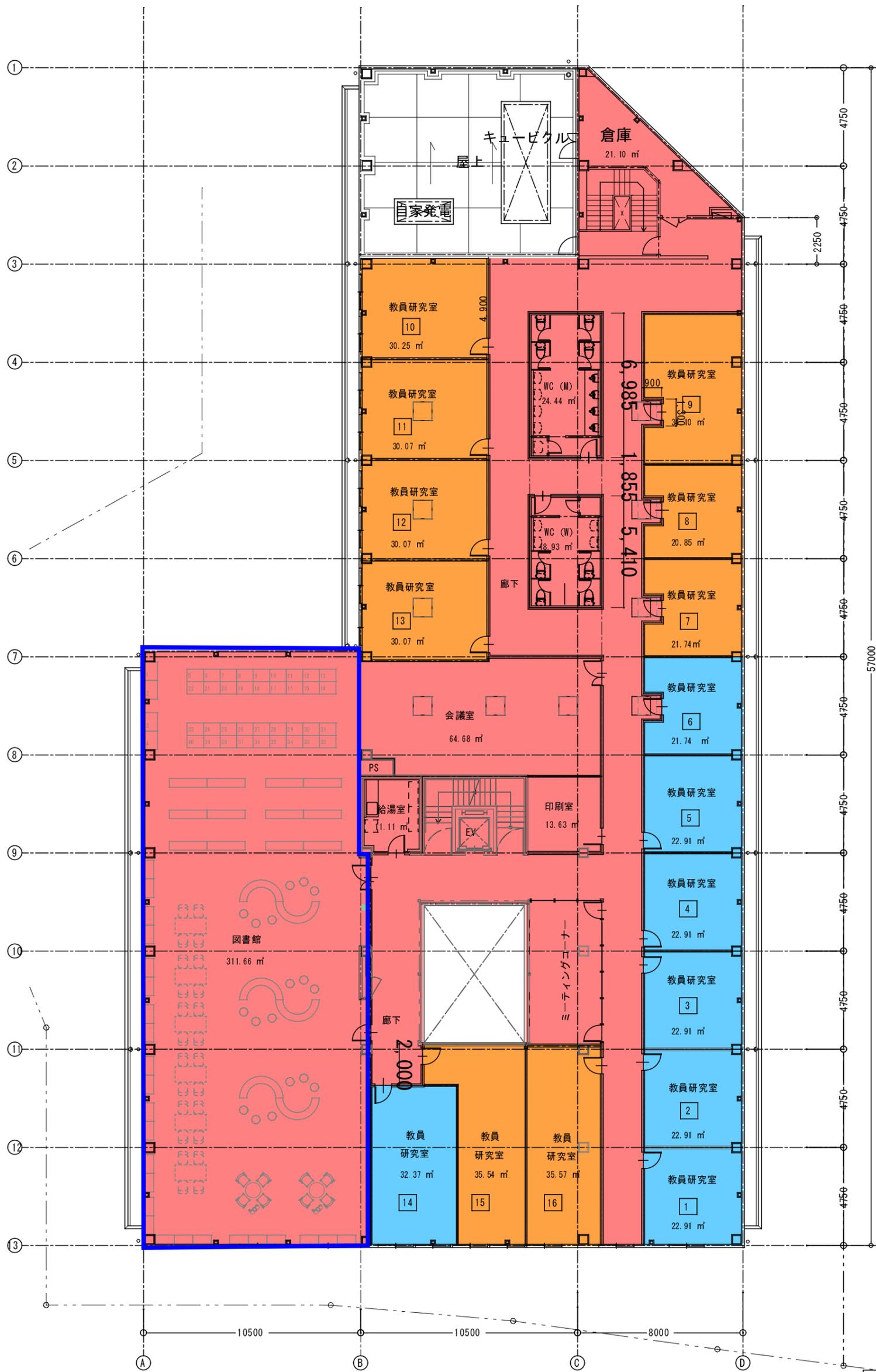
◆ 確認申請上 延べ床面積	6102.41 m <sup>2</sup>
◆ 確認申請上 2F 床面積	1295.31 m <sup>2</sup>



3 F 平面図

◆ 確認申請上 延べ床面積	6102.41 m <sup>2</sup>
◆ 確認申請上 3F 床面積	1295.31 m <sup>2</sup>

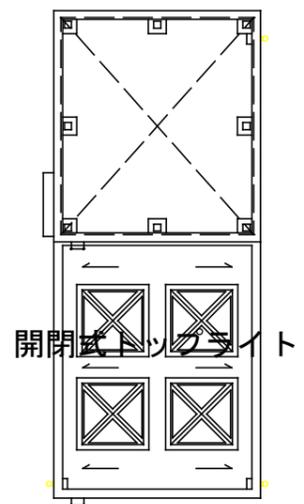
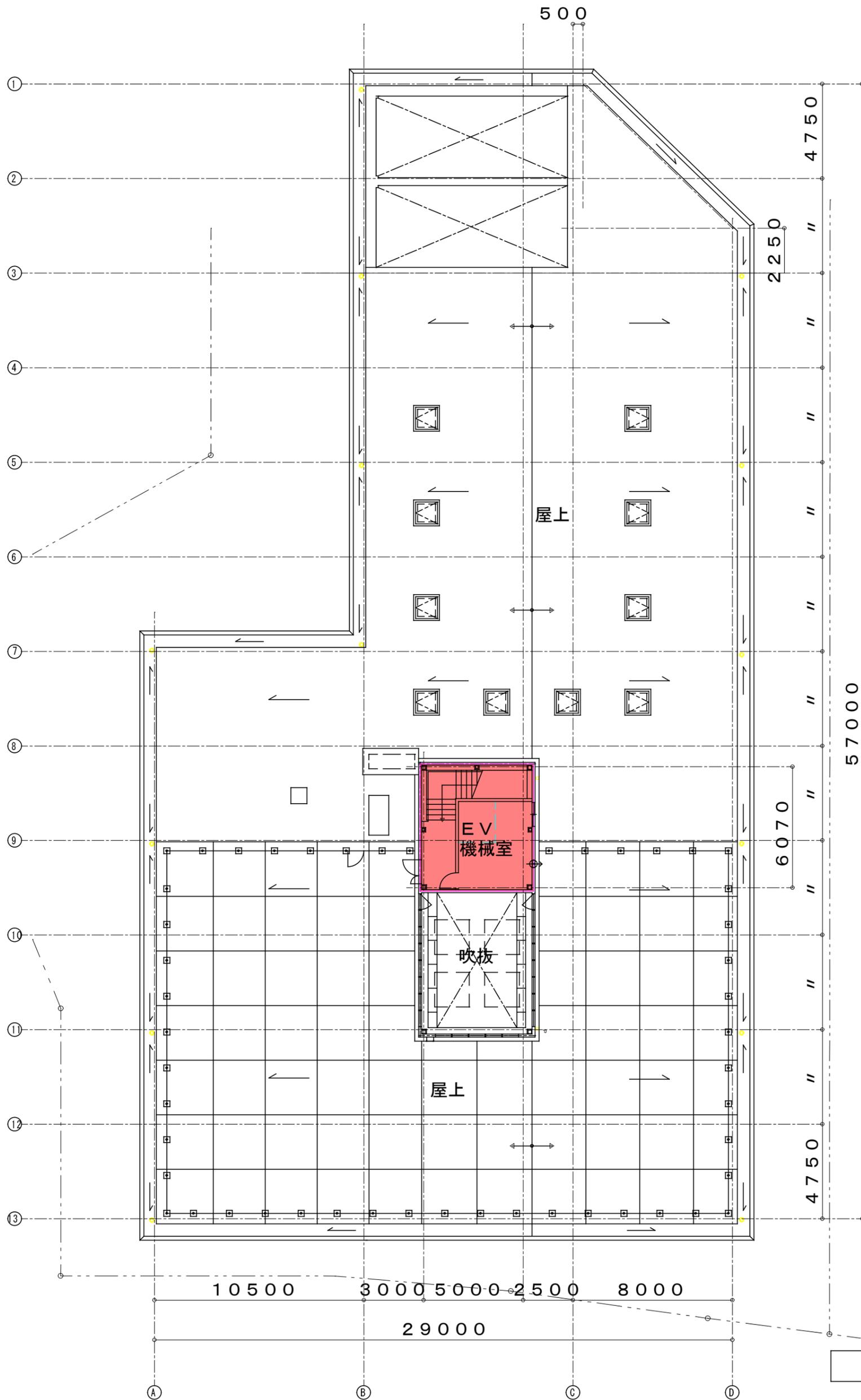
- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用  
991.31 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科 専用  
0 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専用  
304.00 m<sup>2</sup>



4 F 平面図

- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用  
761.57 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科 専用  
168.66 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専用  
268.26 m<sup>2</sup>

- ◆ 確認申請上 延べ床面積  
6102.41 m<sup>2</sup>
- ◆ 確認申請上 4F 床面積  
1198.49 m<sup>2</sup>



- 専門職大学理学療法学科・作業療法学科 共用  
36.48 m<sup>2</sup>
- 専門職大学理学療法学科 専用  
0 m<sup>2</sup>
- 専門職大学作業療法学科 専用  
0 m<sup>2</sup>

R F 平面図

◆ 確認申請上 延べ床面積	6102.41 m <sup>2</sup>
◆ 確認申請上 PHF 床面積	36.48 m <sup>2</sup>

附番	分野	書名他
1	理学療法学科	クリニカルリーズニングで神経系の理学療法に強くなる 羊土社 ¥17,463
2	理学療法学科	リニカルリーズニングで内部障害の理学療法に強くなる！ 羊土社 ¥18,352
3	理学療法学科	クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる！羊土社 ¥17,463
4	理学療法学科	ベードサイド理学療法の基本技術・技能（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥11,404
5	理学療法学科	新人若手理学療法士のための最近知見の臨床応用ガイダンスー筋・骨格系理学療法-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥11,880
6	理学療法学科	極める変形性股関節症の理学療法-病期別評価とそのアプローチ-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥12,355
7	理学療法学科	極める変形性膝関節症の理学療法-保存的および術後理学療法の評価とそのアプローチ-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥12,355
8	理学療法学科	筋緊張に挑む-筋緊張を深く治療技術をアップする！-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥12,355
9	理学療法学科	極める大腿骨骨折の理学療法-医師と理学療法士の協働による術式別アプローチ-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥13,068
10	理学療法学科	感覚入力で挑む-感覚・運動機能回復のための理学療法アプローチ-（臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス） 文光堂 ¥12,355
11	理学療法学科	病態からみた理学療法内科編-臨床の「なぜ？どうして？」がわかる- 中山書店 ¥11,761
12	理学療法学科	病態からみた理学療法外科編-臨床の「なぜ？どうして？」がわかる- 中山書店 ¥11,761
13	理学療法学科	理学療法の本質を問う 医学書院 ¥4,514
14	理学療法学科	理学療法技術の再検証科学的技術の確立に向けて-（理学療法MOOK17） 三輪書店 ¥9,504
15	理学療法学科	理学療法評価学-障害別・関節別評価のポイントと実際- 文光堂 ¥16,632
16	理学療法学科	図解理学療法検査・測定ガイド第2版 文光堂 ¥22,572
17	理学療法学科	PT-OTのための画像診断マニュアル（manavi） 医学教育出版社 ¥6,415
18	理学療法学科	理学療法のための臨床問題解決法-ブレイクスルーと理学療法診断に向けて- 協同医書出版社 ¥4,276
19	理学療法学科	これで解決！PT-OT-ST臨床実習まるごとガイド 金芳堂 ¥6,177
20	理学療法学科	PTお助けポケットガイド48 中山書店 ¥5,821
21	理学療法学科	理学療法ハンドブック-ケーススタディ- 協同医書出版社 ¥35,640
22	理学療法学科	ケースで学ぶ徒手理学療法クリニカルリーズニング 文光堂 ¥13,780
23	理学療法学科	PT-OT学生の文章力を育てる！レポートの書き方-正しく学ぼう「書く基本」f文章の組み立て」- 金芳堂 ¥4,752
24	理学療法学科	卒前・卒後教育に役立つ理学療法士育成OUTテキスト 文光堂 ¥14,256
25	理学療法学科	新人理学療法士のための研修ハンドブック 協同医書出版社 ¥8,316
26	理学療法学科	私もこれで理解できました（誰でもわかる動作分析[1]） 南江堂 ¥5,940
27	理学療法学科	これでますます理解できました（誰でもわかる動作分析2） 南江堂 ¥6,831
28	理学療法学科	実習形式バイオメカニクスのおモシロ授業（誰でもわかる動作分析3） 南江堂 ¥6,831
29	理学療法学科	運動の成り立ちとは何か-理学療法作業療法のためのBiNI Approach- 文光堂 ¥14,968
30	理学療法学科	理学療法、作業療法のための実践編BiNI Approach-運動の成り立ちから導く治療をシンプルにする法則性- 文光堂 ¥16,632
31	理学療法学科	ブラッシュアップ理学療法-88の知が生み出す臨床技術- 三輪書店 ¥13,780

附番	分野	書名他
32	理学療法学科	PT臨床ハンドブック-ポケット版-第2 三輪書店 ¥11,404
33	理学療法学科	臨床動作分析-PT-OTの実践に役立つ理論と技術- 三輪書店 ¥14,256
34	理学療法学科	図解理学療法技術ガイド-理学療法臨床の場で必ず役立つ実践のすべて-第4版 文光堂 ¥20,196
35	理学療法学科	内部障害の症例検討-解いて納得!身につける理学療法:エキスパートPTが会った20症例の問題点と効果 的なりハプログラム- 羊土社 ¥15,325
36	理学療法学科	姿勢制御と理学療法の実際 文光堂 ¥20,433
37	理学療法学科	症候障害学序説-理学療法の臨床思考過程モデル- 文光堂 ¥4,276
38	理学療法学科	アスリートケア-理学療法士によるスポーツ選手への健康支援- 三輪書店 ¥9,028
39	理学療法学科	機能評価診断とその技法(スポーツ理学療法プラクティス) 文光堂 ¥11,880
40	理学療法学科	理学療法のための筋力トレーニングと運動学習-動作分析から始める根拠にもとづく運動療法- 羊土社 ¥16,038
41	理学療法学科	図解運動療法ガイド 文光堂 ¥23,760
42	理学療法学科	入門編-運動器疾患の徒手機能診断と治療-(標準徒手医学1) 医学映像教育センター ¥13,365
43	理学療法学科	運動のつながりから導く肩の理学療法 文光堂 ¥9,504
44	理学療法学科	上肢の理学療法-局所機能全身運動を結びつけるインタラクティブ・アプローチ- 三輪書店 ¥13,305
45	理学療法学科	非特異的腰痛のリハビリテーション(痛みの理学療法シリーズ) 羊土社 ¥18,532
46	理学療法学科	山田英司-変形性膝関節症に対する保存的治療戦略-(理学療法士列伝:EBMの確立に向けて) 三輪書店 ¥6,652
47	理学療法学科	臨床実践変形性膝関節症の理学療法(教科書にはない敏腕PTのテクニック) 文光堂 ¥10,692
48	理学療法学科	臨床実践足部・足関節の理学療法(教科書にはない敏腕PTのテクニック) 文光堂 ¥10,692
49	理学療法学科	看護師・理学療法士のためのリンパ浮腫の手技とケア 学研メディカル秀潤社 ¥9,979
50	理学療法学科	リハビリナース、PT、OT、STのため患者さんの行動から理解する高次脳機能障害-なぜ、患者さんはこんな 行動をとるの?どう対応するの?-改訂2版(リハビリナース=Rehabilitation nurse別冊) メディカ出版 ¥12,117
51	理学療法学科	高次脳機能障害に対する理学療法 文光堂 ¥14,256
52	理学療法学科	PT-OT-STの脳損傷の回復期リハビリテーション-運動、認知、行動からのアプローチ- 三輪書店 ¥8553
53	理学療法学科	脳卒中に対する標準的理学療法介入-何を考え、どう進めるか?-第2版 文光堂 ¥15,444
54	理学療法学科	脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル第2版 文光堂 ¥13,068
55	理学療法学科	ニューロリハと理学療法(理学療法MOOK 19) 三輪書店 ¥8,553
56	理学療法学科	神経症候障害学-病態とエビデンスに基づく治療と理学療法- 文光堂 ¥17,820
57	理学療法学科	理学療法活かす褥瘡ケア-評価治療・予防- 文光堂 ¥8,553
58	理学療法学科	ICUの理学療法(理学療法MOOK 18) 三輪書店 ¥11,404
59	理学療法学科	ウィメンズヘルスと理学療法(理学療法MOOK 20) 三輪書店 ¥9,504
60	理学療法学科	がんの理学療法(理学療法MOOK 21) 三輪書店 ¥9,979
61	作業療法学科	身体領域の作業療法-プログラム立案のポイント-第2版(クリニカル作業療法シリーズ) 中央法規出版 ¥11,880

附番	分野	書名他
63	作業療法学科	作業療法のクリニカル・クラークシップ「CCS」ガイド -今こそ変えよう臨床実習！- 三輪書店 ¥9,504
64	作業療法学科	作業療法実践の仕組み 事例編 協同医書出版社 ¥12,355
65	作業療法学科	事例でわかる人間作業モデル 協同医書出版社 ¥8,791
66	作業療法学科	ひとと集団・場-治療や援助支援における場と集団のもちい方-新版 三輪書店 ¥8,316
67	作業療法学科	臨床OTROM治療-運動、解剖学の基本的理解から介入ポイント・実技・症例への展開- 三輪書店 ¥9,979
68	作業療法学科	OT臨床ハンドブック-ポケット版-増補版 三輪書店 ¥11,167
69	作業療法学科	ひとと作業・作業活動-作業の知をとき技を育む-新版 三輪書店 ¥8,316
70	作業療法学科	だから、作業療法が大好きです！ 三輪書店 ¥4,752
71	作業療法学科	患者力を引き出す作業療法-認知行動療法の応用による身体領域作業療法- 三輪書店 ¥8,553
72	作業療法学科	アクティビティと作業療法-活用したい45のクラフトと段階づけ 三輪書店 ¥8,078
73	作業療法学科	組みひも・作業療法への適用法-治療・援助・評価の手引き- 協同医書出版社 ¥8,316
74	作業療法学科	精神障害作業療法入門 協同医書出版社 ¥4,752
75	作業療法学科	精神障害と作業療法-病いを生きる、病いと生きる精神認知系作業療法の理論と実践-新版 三輪書店 ¥9,504
76	作業療法学科	統合失調症・うつ病の作業療法の進め方(※) 中山書店 ¥9,504
77	作業療法学科	四本足のあしながおじさん-難病患者に対する支持的作業療法の経験- 協同医書出版社 ¥3,801
78	作業療法学科	結核作業療法とその時代-甦る作業療法の原点- 協同医書出版社 ¥5,940
79	作業療法学科	高次脳機能障害の作業療法 三輪書店 ¥11,404
80	作業療法学科	高次脳機能障害領域の作業療法-プログラム立案のポイント-(クリニカル作業療法シリーズ) 中央法規出版 ¥8,553
81	作業療法学科	片麻痺の作業療法-QOLの新しい次元へ- 協同医書出版社 ¥6,177
82	作業療法学科	高齢期領域の作業療法-プログラム立案のポイント-第2版(クリニカル作業療法シリーズ) 中央法規出版 ¥9,028
83	作業療法学科	高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 三輪書店 ¥7,840
84	作業療法学科	発達障害の作業療法 基礎編 第2版 三輪書店 ¥8,553
85	作業療法学科	発達障害の作業療法 実践編 第2版 三輪書店 ¥9,028
86	作業療法学科	作業療法における上肢機能アプローチ-疾患別- 三輪書店 ¥8,553
87	作業療法学科	rTMSと集中的作業療法による手指機能回復へのアプローチ-脳卒中上肢麻痺の最新リハビリテーション 三輪書店 ¥6,652
88	作業療法学科	地域包括ケアにおけるPT-OTの役割-個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ- 文光堂 ¥11,404
89	作業療法学科	OT・PT・ケアマネにおける建築知識なんかなくても住宅改修を成功させる本 三輪書店 ¥7,603
90	リハビリテーション基礎	脳卒中急性期)のリハビリテーション【動画】(リハビリテーション医学vol.1)(※) 医学映像教育センター ¥38,016
91	リハビリテーション基礎	摂食嚥下障害【動画】(リハビリテーション医学vol.2)(※) 医学映像教育センター ¥38,016
92	リハビリテーション基礎	排尿障害【動画】(リハビリテーション医学vol.3)(※) 医学映像教育センター ¥38,016
93	リハビリテーション基礎	切断と義肢【動画】(リハビリテーション医学vol.4)(※) 医学映像教育センター ¥38,016

附番	分野	書名他
95	リハビリテーション基礎	脊髄損傷【動画】（リハビリテーション医学vol.6）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
96	リハビリテーション基礎	神経・筋疾患【動画】（リハビリテーション医学vol.7）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
97	リハビリテーション基礎	小児の発達障害【動画】（リハビリテーション医学vol.8）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
98	リハビリテーション基礎	認知症【動画】（リハビリテーション医学vol.9）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
99	リハビリテーション基礎	失語症【動画】（リハビリテーション医学vol.10）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
100	リハビリテーション基礎	脳卒中の回復期動画【動画】（リハビリテーション医学vol.11）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
101	リハビリテーション基礎	疼痛【動画】（リハビリテーション医学vol.12）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
102	リハビリテーション基礎	動画 関節リウマチ【動画】（リハビリテーション医学vol.13）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
103	リハビリテーション基礎	高次脳機能障害【動画】（リハビリテーション医学vol.14）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
104	リハビリテーション基礎	心臓のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.15）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
105	リハビリテーション基礎	小児疾患のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.16）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
106	リハビリテーション基礎	内部障害のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.17）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
107	リハビリテーション基礎	骨粗鬆症のリハビリテーション【動画】（リハビリテーション医学vol.18）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
108	リハビリテーション基礎	運動器のリハビリテーション動画【動画】（リハビリテーション医学vol.19）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
109	リハビリテーション基礎	運動器のリハビリテーション2【動画】（リハビリテーション医学vol.20）（※） 医学映像教育センター ¥38,016
110	リハビリテーション基礎	リハビリテーション医学大辞典 医歯薬出版 ¥29,581
111	リハビリテーション基礎	リハビリナビカード 学研メディカル秀潤社 ¥5,431
112	リハビリテーション基礎	わかりやすいリハビリテーション 中山書店 ¥10,216
113	リハビリテーション基礎	今日からなれる！評価の達人-リハビリテーション・ポケットナビ- 中山書店 ¥8,363
114	リハビリテーション基礎	データに基づく臨床動作分析 文光堂 ¥6,177
115	リハビリテーション基礎	リアルフィジカルアセスメントーリハ臨床のためのケーススタディー 文光堂 ¥9,504
116	リハビリテーション基礎	イメージの科学リハビリテーションへの応用に向けて 三輪書店 ¥8,553



東スポ第861号

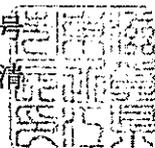
平成31年2月19日

学校法人 藍野大学

理事長 小山 英夫 様

東近江市八日市緑町10番5号

東近江市長 小 椋 正 清



東近江市おくのの運動公園利用に関する早期利用申請について（承諾）

学校法人藍野大学の専門職大学設置に伴う教育研究活動及びクラブ・サークル活動に資する東近江市おくのの運動公園の早期利用申請につきまして、下記のとおり承諾します。

記

施設名	東近江市おくのの運動公園（東近江市青山町70番地）
管理者	東近江市
管理担当部署	教育委員会スポーツ課
早期利用申請 可能時期	毎年12月中旬（管理者が指定する日） 備考：一般利用申請は3箇月前
開始時期	平成32年（2020年）4月利用分から
特記事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・早期利用申請を可能とする利用期間は、一年度分とし、毎年の申請を要するものとする。</li><li>・早期利用申請に係る利用日については、管理者と調整のうえ、確定するものとする。</li><li>・利用に伴う事項（使用料等）は管理者が定める利用規定に従うものとする。</li></ul>

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学実習Ⅰ	必	下西 徳	1	30	2年次後期	実習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域社会に参加することの意義を理解する。また作業療法士やその他の関連職種が活動・参加の促進にむけて、どのような役割を果たすべきかを考える」とする。授業形態として講義形式・グループワーク・地域で開催されるリハビリテーション実践活動へ参加する。障害を持つ方が地域社会に参加する機会を提供することの意味やそのことによる日常生活の参加や活動への影響について、参加して得られた情報や作業療法士・多職種からの聞き取った情報をグループワークにて検討し発表することとする。また地域で開催される実践活動の企画・運営を経験する機会とする。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP2 多職種と協調・連携して課題を共有し、且つ解決に向けて支援を実践するためのコミュニケーション能力を有し、信頼関係を構築することができる。 DP3 作業療法に関する専門的知識と技術に基づき、生活課題の解決に向けて作業療法を実践することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域の施設の役割と暮らし					下西 徳
第2回	障害と地域への社会参加					下西 徳
第3回	社会参加や活動に向けた作業療法士や多職種の役割					下西 徳
第4回	地域リハビリテーション実践活動の概要と目的					下西 徳
第5回	グループワーク（フィールドワーク時のポイントと聞き取り内容の検討）					下西 徳
第6回	フィールドワーク準備					下西 徳
第7回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第8回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第9回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第10回	地域リハビリテーション実践活動に参加 フィールドワーク					下西 徳
第11回	参加後のまとめとグループワーク					下西 徳
第12回	地域社会参加の意義についてグループワーク					下西 徳
第13回	発表					下西 徳
第14回	発表					下西 徳
第15回	まとめ					下西 徳
備考						
授業時間以外の学習について	<p>「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。授業の前後には次の内容に向けての予習、復習を必ず行ってください。</p>					
課題・評価方法	レポート試験60%、グループ発表40%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書（改訂第3版）第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー	後期：木 16：10～17：15 金 16：10～17：15					

講義要目

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目名	必・選	担当教員	単位数	時間数	履修年次	授業形態
地域生活作業療法学演習1	必	前田 浩二	1	30	2年次後期	演習
履修要件	なし					
授業概要 到達目標	<p>目標は、「地域に住まう利用者との関りを通して、障害を持つ方が地域の中でどのように生活し、我々作業療法士やその他の関連職種がどのような役割を果たすべきかを考える」とする。上記の目標に向かい、形態として講義形式・グループワーク・他施設が主催する風船バレーボール大会への参加という形をとり、通所サービスを利用する方やそこで働く作業療法士・多職種との関りを通して、目標の達成を目指す内容となる。またイベントの企画・運営についても経験する。</p>					
学位授与方針との関連	<p>DP3 作業療法学の専門的知識及び技術を習得し、課題解決に向けて高度な専門性に基づく実践力・応用力を発揮することができる。</p>					
	内容					担当教員
第1回	地域参加と目的的活動について					前田 浩二
第2回	風船バレーボール大会に向けて					前田 浩二
第3回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第4回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第5回	風船バレーボール大会参加(演習)					前田 浩二
第6回	グループワーク(風船バレー参加者と企画・運営側について)					前田 浩二
第7回	グループワーク後の発表					前田 浩二
第8回	介護保険など、関連制度について					前田 浩二
第9回	社会資源サービスと多職種について					前田 浩二
第10回	事例検討の概要と事例の提示(グループワーク)					前田 浩二
第11回	事例検討(グループワーク)					前田 浩二
第12回	事例検討(グループワーク)					前田 浩二
第13回	発表会					前田 浩二
第14回	発表会					前田 浩二
第15回	まとめ					前田 浩二
備考						
授業時間以外の学習について	「地域」におけるリハビリテーションの必要性を実感するため、積極的な参加を求める。					
課題・評価方法	レポート試験(グループ発表を含む：80%)、授業態度20%					
教科書	適宜、資料を配布します					
参考書	太田睦美：作業療法学全書(改訂第3版)第13巻 地域作業療法学. 協同医書出版社, 2014.					
オフィスアワー						